天理圖書館叢書第二十五輯

天理圖書館

稀書目錄

和漢書之部　第三

天理圖書館

序文

天理圖書館落成三十周年を迎え、ここに稀書目録和漢書の部第三冊の発刊を見るにいたつた。

私が書籍に關心を持つにいたつたのは、小學校へ通つていた頃であつた。父が子供達の勉學の為とて、あつめておいてくれた漢籍和書の虫干を手傳つて、紙魚くさい本箱を土蔵から持出して、廣間にならべた頃は、こんな讀みもしない本はあつてよし悪しだと、むしろ反感こそおこれ、蒐集に關心を持つようになるとは、少しも思わなかつた。ところが、ミイラ取りがミイラになる例の如く、何時の間にか書籍の蒐集に興味をおぼえ、自らは讀めもせぬ書物を蒐めたり、定期刊行物を揃えたりしだし、父の遺した〝子供の為〟との言葉を、今日ではそのまま私の口から語るような始末となつた。

〝お前のお父様は子供の為にとて、讀みもせぬ書物をあつめたが、お前も亦横文字の書物を蒐めるのやろうな――〟

と伯母に言われた言葉が、そのまま今日の私を豫言した言葉となつてしまつた。

由來、私の方針として、天理外國語學校の参考となる書物をと、志したのである。したがつて、外國語と日本語との關係やら、外國人の東洋研究に關する書物を、主

目的として蒐集しだしたのである。それが自らキリスト教布教者の他民族布教に關する苦心の文献に興味を持つようになり、所謂、きりしたん版や其他布教者の書簡集の蒐集となり、西洋人の東洋研究の業蹟研究となり、いつのまにやら、聞き覺えた書名を半可通に口にするようになり、實用書以外には手を出すまいと念願しながら、結果はその反對の稀籍いじりに陷つて了つた。因縁というか、遺傳というか、父の癖さえ繼承して了つたなアと感ずるようになつた時には、幾多の書籍を收藏する結果となつていた。

〝この圖書館には、稀らしい書物と、通俗なものはあるが、肝腎の中間物が手薄である〟

と富永館長から批評されるようになつたのも、当初からの目論みではなくて、いつのまにかの結果であり、無責任な話だが、私の不明を詫びる次第なのである。

落成三十周年記念として、この稀書目録が出版されるに及び、今更ながら、その堆積した數に目をみひらく。獨り〝横文字〟の圖書にとどまらず、父の分野であつた筈の和漢書にまで及んでいるのに氣付く時、伯母が存命ならば、何といつて批評するであろうかと、空おそろしくもある。

かえりみれば、過去三十年間には、あの恐ろしい世界戰争の時代もあつた。願うと否とにかかわらず、海外からの書籍は入手出来ず、自ずと國内の書籍蒐集に食指が向くようになつた。しかし戰災により、不慮の焼失を招いた書籍も多かつたろう

に、又、舊蔵家の手をはなれる典籍も少くはない非常時態も影響して、天理圖書館の收蔵は、質量共に次第に重きを加えるにいたつた。

三十年の歳月は決して長い時間とはいえない。しかし又、一瞬ともいえない。その間に、初め豫定した二十萬冊容蔵の書庫に七十萬冊を越す冊子を納めることとなつた。これは數字の上からはたしかに無理な話であり、新に書庫増築の運びとなつたのも、おそき憾さえある。

ここに、記念目録の編纂出版にあたり、その過去をかえりみるとき、何となく、面映ゆの感を禁じ得ない。しかも、幾多の諸君がその整理編纂に協力、努力を傾倒してくれたことを思うと、何と挨拶してよいやら、その言葉に窮する思いがする。

しかし、他面これらの典籍により、新しい文化の進展に貢献してくれる學徒があるに違いないことを考えるとき、敢えて自ら慰さめられるところも多いのである。

希くは、收蔵の書籍たちよ、かかる餘徳のあるを思い、敢えて死蔵と酷評されるのを意に解せず、存在の意義にほほえまれん事を。

昭和三十五年六月三十日

渡歐のせまる日に

中山正善

稀書目錄第三輯刊行にあたり

本館は、昭和五年十月、新館が開かれてから、今年滿三十年にあたる。そのあいだ、種々藏書目錄を出版して斯界の便に供したが、稀書目錄（和漢書之部）の刊行は、これが三度目である。さきの二回は、それぞれ開館十周年二十周年のふしであつたところ、このたび第三輯は三十周年の大ふしにあたつた。それだけに、所收書のかずは、前二輯ぶんの倍をこえ、三千二百餘部を登錄することになつた。

ここに本目錄を刊行する機會に、本館印刷目錄事業の一般につき一言しておきたい。

由來、本館は藏書利用のために、二種の目錄を作成してきた。カード目錄と印刷目錄とであり、全藏書はこの兩目錄のそれぞれに收錄される立前である。このカード目錄の方は日々の整理業務として、三十年の整理書一切につき館内に完備されている。一方印刷目錄は、これもカード目錄と平行して、刊行をつづけてきたが、これは天理圖書館叢書という圖書形式をもつて、これを行つた。この叢書は、現在まで二十五輯を出し、うち第一―十二輯は主として藏書中の一般本を採錄したが、その後、貴重特殊本が急激に增加し、本館はこの方面でも特殊性をもち、一般本に劣らぬ、貴重本の閲覽需要をよび起すこととなり、ために、印刷目錄の業は一時これら貴重特殊本にむけられ、一般本の方は、姑く館内備付けのカード目錄に、利用が委ねられた。

このようにして、昭和十二年以降、叢書第十三―二十五輯は、もつぱら特殊本の目録に宛てられることになつた。それらの中には、綿屋文庫連歌俳諧書、古義堂文庫蔵書、きりしたん傳道書、天理教文献などの獨立文庫から、中文地誌、逐次刊行書、アフリカ文献など一般書の集成にまで亙るものがあるが、更に、稀書目録（和漢書之部一―三輯、洋書之部一―三輯）の一群は、全般的貴重書として、もつとも重要な位置を占める。その稀書目録中、和漢書之部第三にあたるものが、本輯である。

今日、ここに本目録の發行を了することによつて、二十三年にわたる本館貴重特殊本目録印行の業は、一段落をつげた、と稱してもよい。少くとも貴重本中、典籍の形態を存するものにあつては、印刷を完了した。殘すところは纔かに古文書、地圖類、その他、現在整理繼續中の特殊資料ばかりとなつたからである。尤も、目録印刷の業は、上述の叢書ばかりには限らない。善本寫真集、館報「ビブリア」などにおいても、適時これを行つてきたが、これらはむしろ、臨機應需の試みであつて、その目的は別箇にぞくする。

なおこの機會に、本輯に収めた稀書というものの性質と範圍についても言及しておきたい。いつたいに稀書と稱するもの、普通には貴重本、稀覯書、またレア・ブックなどと呼ばれるものと大同小異で、言葉のあやによつて、多少内容にずれができる程度かと考えられる。その際、これらの言葉で代表される典籍は、なんらかの意味で、内容的に高い價値がなくてならぬことは勿論だが、そのほかに、古いこと、入手困難なこと、などの性格が約束されているようである。この目録でいう稀書も亦、その範圍を遠く出るものではないが、更につけ加

えるならば、圖書館資料として、しかも特別措置下におかれるもの、という性格もあつてよいと思われる。圖書館資料という意味は、ここで詳述することができないが、例えば、今のべた幾許の條件をそなえない書籍があつたとしても、それが全體的なまとまりにおいて、或は、實際の閲覧需要において、又は、その館獨自の運用上の便宜において、他の稀書と同様に見做すことを好都合とする場合には、これを稀書として約束するようなことはあるのである。この目録にも、じつはそのような處置が全くないとは云えない。要するに、先に云う貴重特殊本としかく内容的に變りはない。しかし又、見方をかえて時代的に通觀すれば、ここに収めたものは、版本、寫本の何れをとわず、近世以前のものはすべて採集し、近世初期のものは、選別により、それ以降は抽出して、という態度で、又、日記、書翰、草稿等の自筆類はほとんど時代を問わず収録した、といえる。勿論、内容價値を前提にしていることは云うまでもないが、やはりその館の特殊な見方によるものである。

さて、本目録は、これまで本館の諸刊行物にくらべても、かなり大きなものとなつた。この書冊、この包蔵をまえにし、こしかたを顧れば感なきをえない。じつに、山高く、海深く、お道のかぎりなきひろがりに、今更、心うたれるものがある。このとき、是れにもつとも心をよせられた真柱さまには、本目録作成の道途、ご序文を遽誌下さつたまま渡歐の旅にお立ちになつた。おそらく、今頃はかの地にあつて、或はフランスの國民圖書館に、或はソ聯の中央圖書館に、機あるごとに、この目録とその本体に想いを馳せられていることであろう。われわれは、この目録がひどく見劣りするものでなければよいが、とひたすら懼れている。

このたび、三十周年の佳歳にあたつて、この集蔵に加うるに、新館増築の計劃をもつて、この目録をかざつていただいたことについては、全教の方々にたいし、お慶びと感謝の辭を、のべつくすことができない。また、これらの蒐収にあたり、陽に陰にご協力、ご援助をたまわつた各界にたいしても、この機に最大の謝意を表するところである。

本目録の刊行には、満二年の歳月を要した。内容に見るように、著録の方式は、おおく一、二輯を踏襲したが、これら二輯に較べて、記録は最低限の書誌的照射の中に絞られ、印刷の體裁もいちじるしく面倒なものに變更せられた。幸い、木村、島居両司書研究員、西村、金子二司書を中心とする編輯陣は、終始一貫して、多數館員の協力の下に本目録を完成した。喜びを、記して佳晨の記念とする。

昭和三十五年盛夏

天理圖書館長　富永牧太

凡例

一、所収書は日本十進分類法に準じて分類排列し、分類綱目は適宜省略、小分類は改まる毎に○印を挿入す。尚索引に便じて書名の下に追番號を附す。

一、説明は書名・巻數・冊數・人的關係・裝訂體裁・書名參考・蔵書印記・刊記・奥書・識語・備考の順を追ひ、蔵書印記は句點を、刊記以下は改行を以て區別す。但し該當する項を闕きたる場合、及び不要と認めたる場合は之を記せず。

一、書名は内題による。それを闕く場合は、目次・題簽等により彼此參照して定め、悉くこれを闕く場合は、〔 〕印をほどこして書名を與ふ。叢書の細目書名上には＊印をほどこし、單行の書と區別す。尚、表紙を二重或は三重に覆ひたる場合、その原表紙に附せられたる題簽（又は外題）は、原題簽（原外題）と記せり。

一、巻數・冊數は書名の下に記す。巻數は二巻以上のものを記す。殘闕本は殘存の巻數を表して、冊數の下に「闕」の文字を記し、存又は闕の巻は、注に於て記す。

一、人的關係の項には、著者・筆者・畫者・題辭者・序者・跋者等を含む。之を各、著・筆・序・跋・畫等と略し、著者自ら他の目に關する時は、自の文字を加ふるに止む。尚、著・編者名は原則として姓名を採るが、場合によつては當該書に表はれたるものを標目とし、名・號・字等必要と認めるものは（ ）印をほどこして記す。

一、裝訂體裁の項には、裝訂表紙・見返・用紙・寸法（小數點以下の寸法は、すべて四捨五入す）・行字數・丁（折）數・畫數を含む。丁（折）數は二冊以上にわたるものは之を省略す。

一、書名參考の項には題簽・外題・内題・柱刻（心）を含む。題簽は所在・體裁・原替の別・外題の順に述ぶ。外題は寫本・替題簽にありては墨朱等の料を注し、寫本にして墨書の場合は之を略す。内題は書名と相違ある場合のみ之を掲ぐ。題簽・外題・柱刻（心）の無きものは全くこの目を闕除し、特に無しと斷らず。

一、人的關係・裝訂・體裁・書名・參考の各項の各目はその間に一格空白を置きて區分す。

一、蔵書印記は代表的一、二に止めて他は掲げざる事あり。

一、刊記・奥書・識語及びそれに類せしものにして、書誌的關係のものは努めて之を掲ぐ。文字は原則として現在通行のものに改め、誤字等すべてもとのままにし、改行は／印を以て示す。墨書の場合、寫本にありては他に朱青を交へるなど特に必要ある場合の外注せず。

一、以上各項説明の要約又は補足を備考とし、當該書の系統・成立様式及び本館に於ける請求番號を加えて（ ）印に括結、末に附し、國寶、重要文化財等は別に（ ）印をほどこし備考の次に示す。尚、成立様式は勅版・古活字版・五山版・奈良繪本（巻）・丹緑本・宋版・元版・朝鮮活字版等に細別す。但し一般整版本にはその旨を表記せず。

一、索引は書名・著者名・筆者を主に、他は適宜採擇、表音式假名遣五十音順に排列し、書名の下の追番號を以て索捜にあつ。尚參考の爲め、第一輯第二輯の書名をも本索引に加へ、ⅠⅡの數字を附して區別す。標目とせし書名の下に括弧に入れしは請求番號なり。

一、本目録の編纂は本館和漢書部において行ひ、主として木村三四吾、島居清、西村喜世和、金子和正これに從へり。

目次

序
序
凡例
目次
圖版

總記……一

圖書及圖書館……一
百科事彙・類書……三
叢書・全集……九
隨筆・雜書……三七

精神科學……四三

日本哲學・國學……四三
中國哲學……四五
西洋哲學……五七
心理學……五七
倫理學……六八
宗教……六九
神道……六一
佛教……六六
キリスト教……一〇三

歷史科學……一〇七

日本……一〇七
奈良時代以前……一二九
奈良時代……一三六
平安時代……一三八
鎌倉・南北朝時代……一四六
室町・安土桃山時代……一四九
江戸時代……一五三
明治時代……一五四
地方史……一五四
アジヤ洲……一五五
朝鮮……一五五
中國……一五六
東南アジヤ……一五九
ヨーロッパ洲……一五九
傳記・叢傳……一五九
日本人叢傳……一五九
中國人叢傳……一六三
皇室——日本各傳……一六三
地誌及紀行……一七三
萬國地誌……一七三
日本地誌……一七三
朝鮮地誌……一八六

中國地誌……一八六
ヨーロッパ地誌……一八七

社會科學……一八八
外交……一八八
刑法……一八八
古代法制……一八八
人口論……一九七
教育……一九七
風俗及習慣……一九七
軍事武藝……二〇四

自然科學……二一一
蘭學……二一一
和算……二一一
天文學……二一三
地質學……二一三
生物學……二一三
人類學……二一四
考古學……二一四
植物學……二一八
動物學……二一八
醫學……二一九

工藝學……二二六

産業……二二八

美術……二四九
美術品目録及圖録……二四九
彫刻……二四九
繪畫……二五一
書道……二五四
文房具……二五五
版畫・印刷……二五五
工藝美術……二五七
音樂……二五八
演劇……二五九
技藝・娯樂……二六四
競遊……二六五

語學……二六六
日本語……二六六
朝鮮語……二七一
中國語……二七一
梵語……二七六
英語……二七六
ドイツ語……二七六
オランダ語……二七六
ロシヤ語……二七七

文學……二七七
日本文學……二七七
文學者傳記……二七七
叢書・合集……二七八
和歌……二七九
上古及奈良時代和歌……二八三
平安時代和歌……二八四
鎌倉時代和歌……二八八
室町時代和歌……二八九
江戸時代和歌……二九一
現代和歌……二九三
合……二九三
舞曲・謠曲……二九五
淨瑠璃……三一二
俗曲・俚謠……三三四
戲曲……三三六
平安朝物語……三三六
鎌倉時代物語……三八一
室町時代物語……三八三
江戸時代小說……三九九
現代小說……四五五
隨筆・紀行・日記……四五九
書翰文……四六六
狂詩・狂歌……四六九
笑話・謎……四七一
雜文學……四七三
中國文學……四七五
ドイツ文學……五〇三
ギリシヤ文學……五〇三

圖版目次

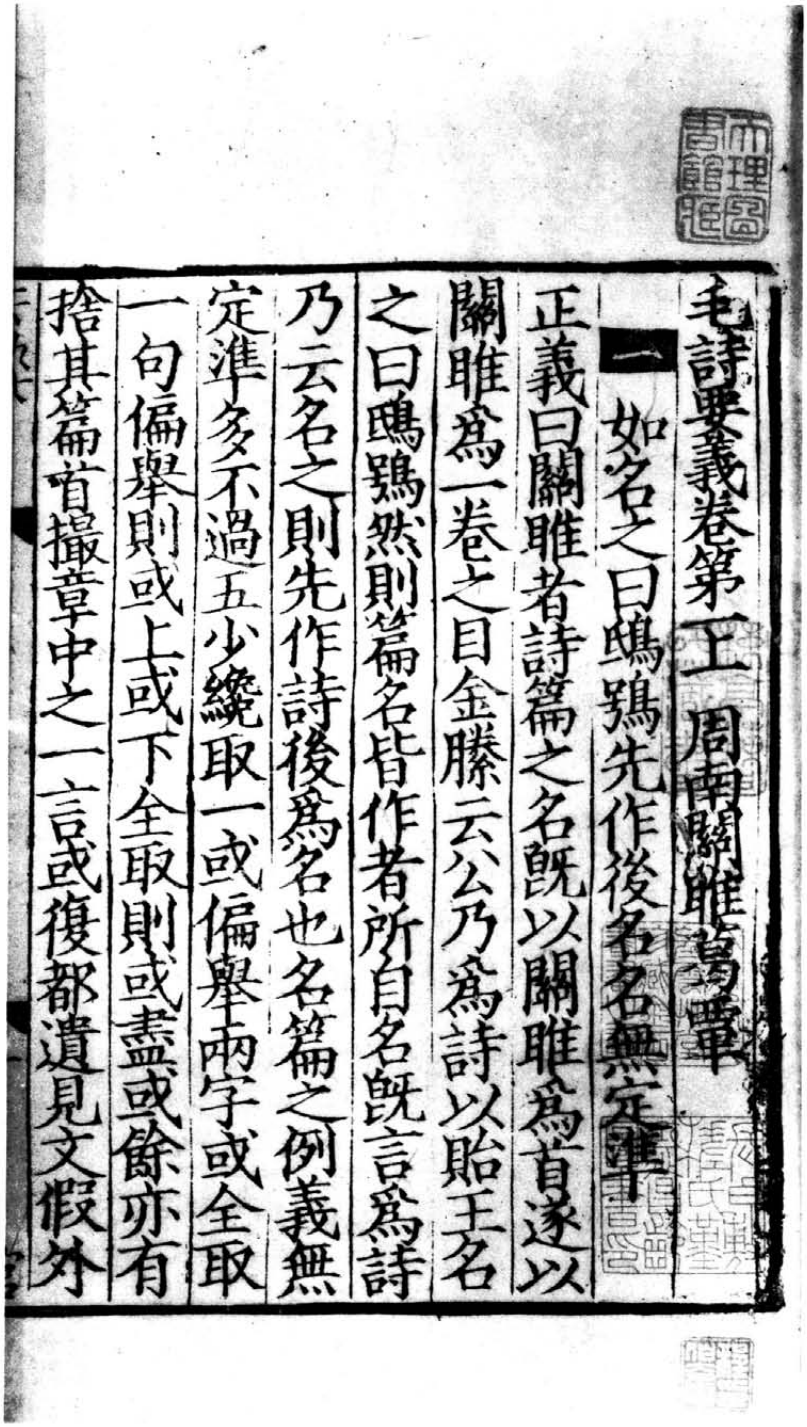
配列番號

第一頁 毛詩要義 宋版……四四四
第二頁 和名類聚抄 高山寺本……四三
論語義疏……四六〇
白氏六帖事類集 宋版……五一
第三頁 古文孝經……四五一
莊子音義 宋版……四九三
五行大義……五〇〇
第四頁 南海寄歸内法傳……六六五
傳法正宗記 五山版……七五〇
〔ばうちずもの授けやう〕きりしたん版……七七三
第五頁 寶龜三年太政官符……八四七
後白河法皇勅報……八三四
第六頁 古事記 道果本……八七四
日本書紀 嘉暦本……九一七
第七頁 先代舊事本紀 兼永本……八八八
大鏡 千葉本……九四七
第八頁 播磨國風土記 三條西家本……一一七三
延喜式神名帳卜部本……一三一九
第九頁 通典 宋版……一三五七
明律國字解……一三五九
御成敗式目 大永版……一三三九
第十頁 維摩詰經 敦煌文書……六五九
景龍三年張君義告身 敦煌文書……一三六一

第十一頁 三寶類字集 高山寺本……一七八七
〔平安韻字集〕……一七九一
梵字形音義……一八四九
第十二頁 古今和歌集 片假名本……一九一三
聞書集……一九四四
爲信集……一九二七
第十三頁 永緣奈良房歌合 二十卷本……一九六九
三百六十番哥合……一九七六
第十四頁 謠本 集 車屋本……一九八九
狂言六義……一九九四
せつきやうかるかや 丹緑本……二〇六九
第十五頁 曆……二〇五六
福壽海……二一六五
第十六頁 竹取物語……二一八四
伊勢物語惟清抄……二二二三
源氏物語 津守國冬本……二三二〇
第十七頁 あさぢか露……二四四一
日本永代藏 西澤版……二七五三
第十八頁 春雨物かたり 西莊文庫本……二八〇九
朝夷巡嶋記全傳……二七九五
第十九頁 新生……二四七
三四郎……二四四
杜子春……二九五九
第二十頁 文選集註 金澤文庫本……三一八八
本朝文粹……三一七九

圖

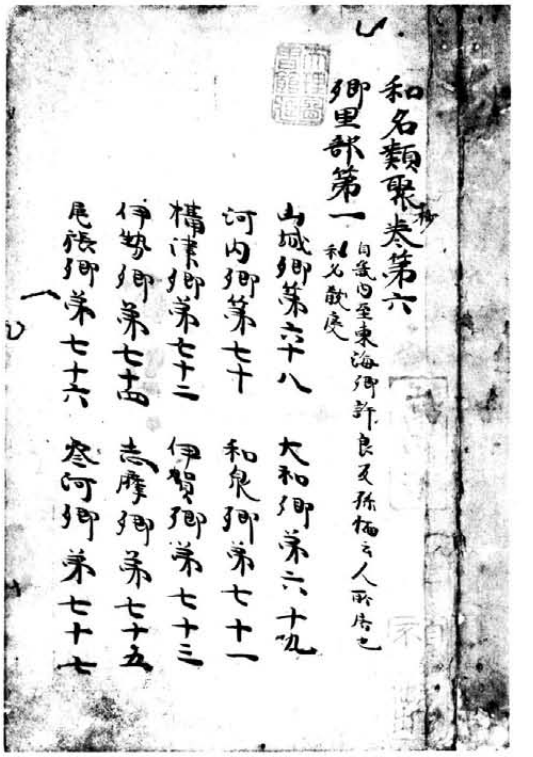
版



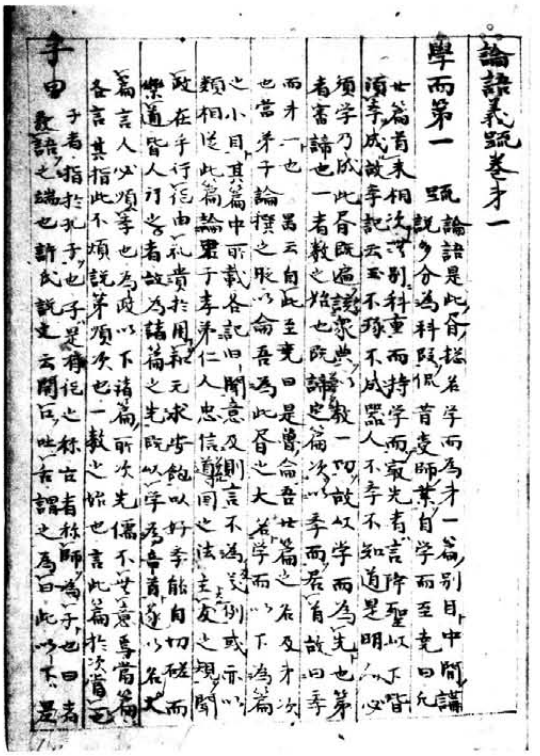
毛詩要義卷第一　周南關雎葛覃

一　如名之曰鴟鴞先作後名名無定準

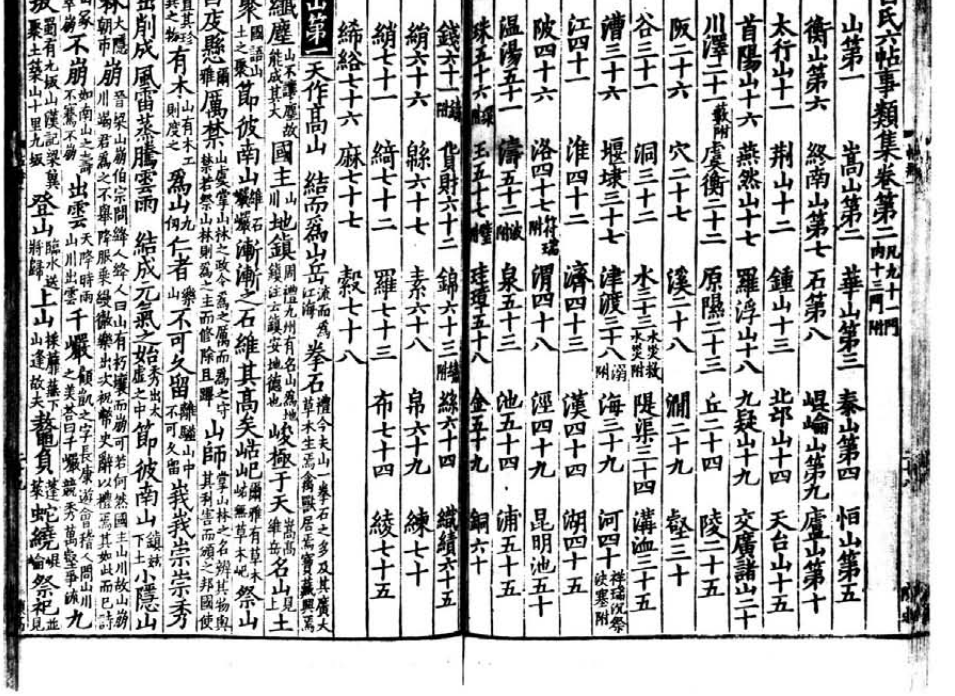
正義曰關雎者詩篇之名既以關雎爲首遂以關雎爲一卷之目金縢云公乃爲詩以貽王名之曰鴟鴞然則篇名皆作者所自名既言爲詩乃云名之則先作詩後爲名也名篇之例義無定準多不過五少纔取一或偏舉兩字或全取一句偏舉則或上或下全取則或盡或餘亦有捨其篇首撮章中之一言或復都遺見文假外



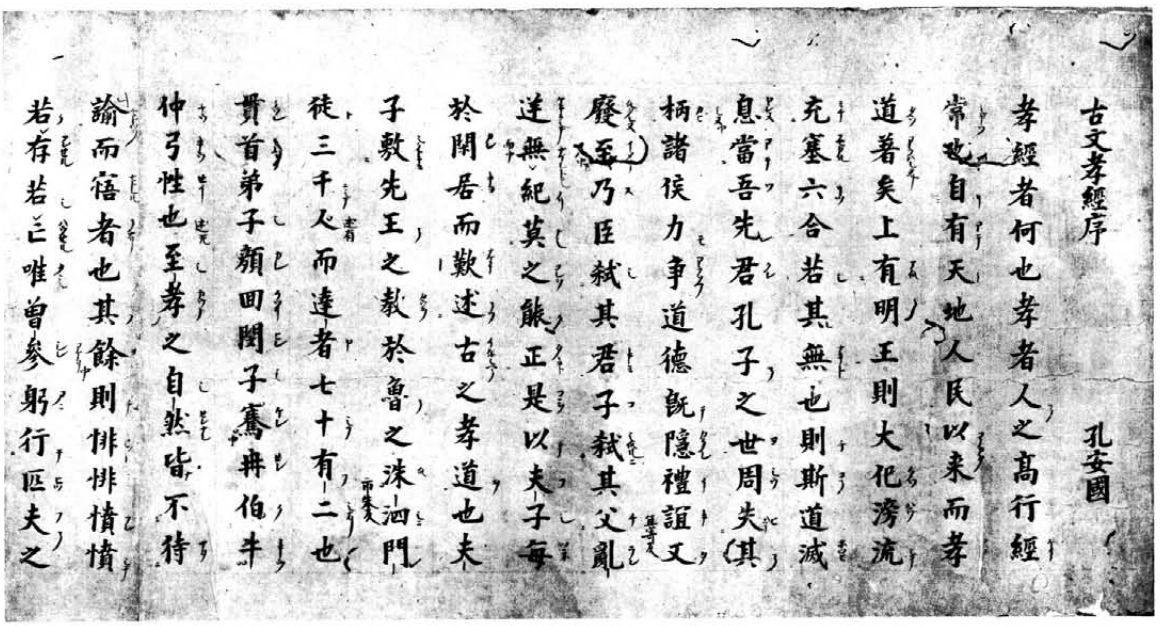
和名類聚抄 (高山寺本) 三四



論語義疏 四六〇



白氏六帖事類集 (宋版) 一五



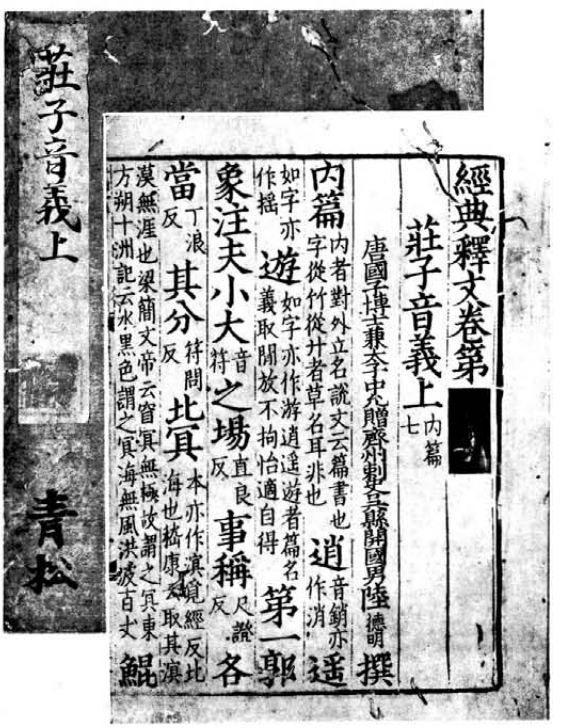
古文孝經序　　孔安國

孝經者何也孝者人之高行經常也自有天地人民以來而孝道著矣上有明王則大化滂流充塞六合若其無也則斯道滅息當吾先君孔子之世周失其柄諸侯力爭道德既隱禮誼又廢至乃臣弒其君子弒其父亂逆無紀莫之能正是以夫子每於閑居而歎述古之孝道也夫子敷先王之教於魯之洙泗門徒三千人而達者七十有二也貫首弟子顏回閔子騫冉伯牛仲弓性也至孝之自然皆不待諭而寤者也其餘則悱悱憤憤若存若亡唯曾參躬行匹夫之

古文孝經　四五一



五行大義卷第一



上儀同三司城陽郡開國公蕭吉撰

夫五行者蓋造化之根源人倫之資始萬品稟其變易百靈因其感通本乎陰陽散乎精像周竟天地布極幽明子午卯酉為經緯八風六律為綱紀故天有五度以垂象地有五材以資用人有五常以表德万有森粒以五為度遇其五

五行大義　五〇〇

莊子音義上　青松

經典釋文卷第

莊子音義上　內篇七

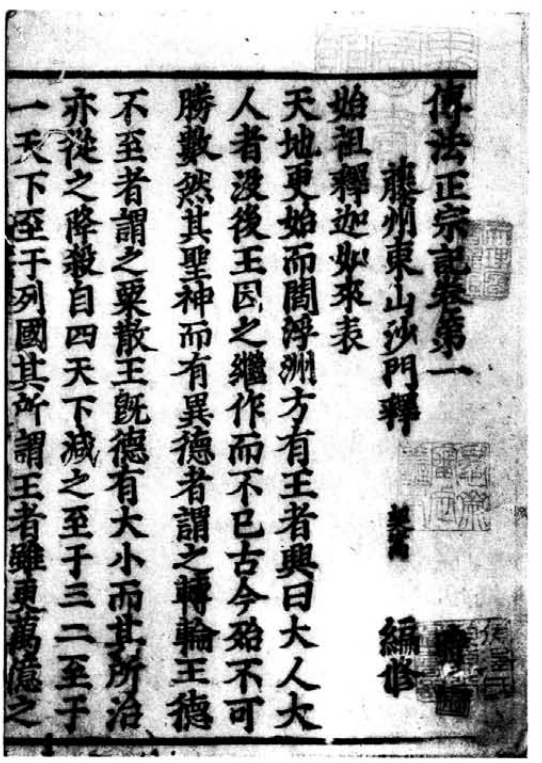
唐國子博士兼太子中允贈齊州刺史吳縣開國男陸德明撰

內篇　內者對外立名說文云篇書也字從竹從廾者草名耳非也　逍　音銷亦作消　遙　如字亦作搖　遊　如字亦作游逍遙遊者篇名義取閒放不拘怡適自得　第一　郭象注夫小大　音符　之場　直良反　事稱　尺證反　各當　丁浪反　其分　符問反　北冥　本亦作溟覓經反北海也嵇康云取其溟漠無涯也梁簡文帝云窅冥無極故謂之冥東方朔十洲記云水黑色謂之冥海無風洪波百丈　鯤

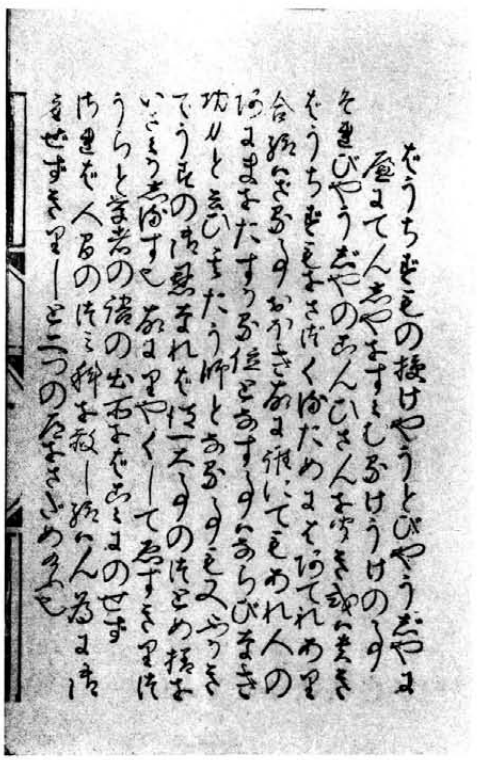
莊子音義（宋版）　四九三



五八六　南海寄歸内法傳



〇五七　傳法正宗記（版山五）

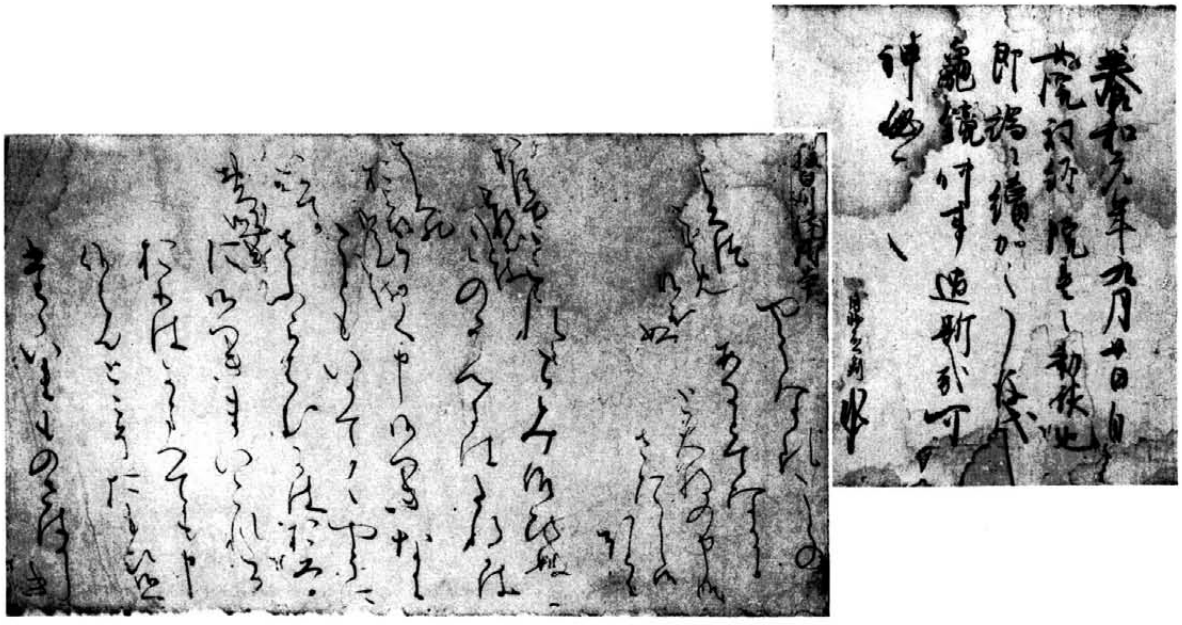


二七七　（版んたしりき）〔うやけ授のもずちうば〕



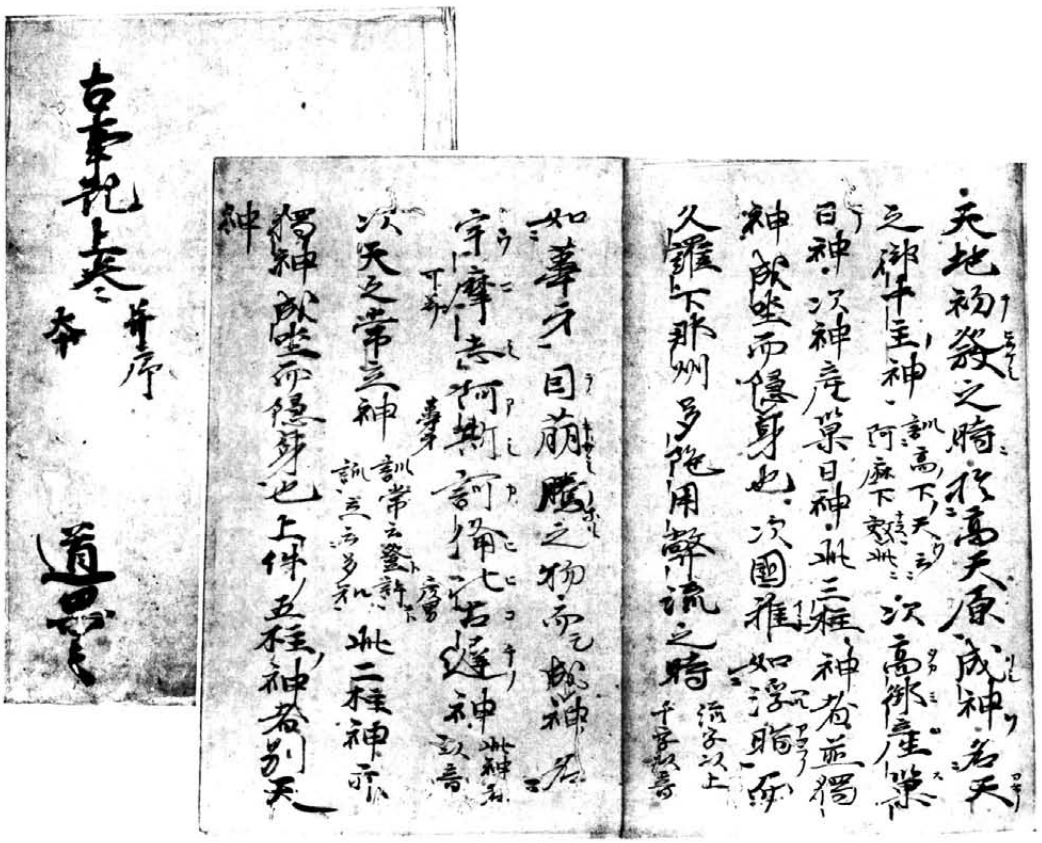
太政官符　寶龜三年

七四八



後白河法皇勅報

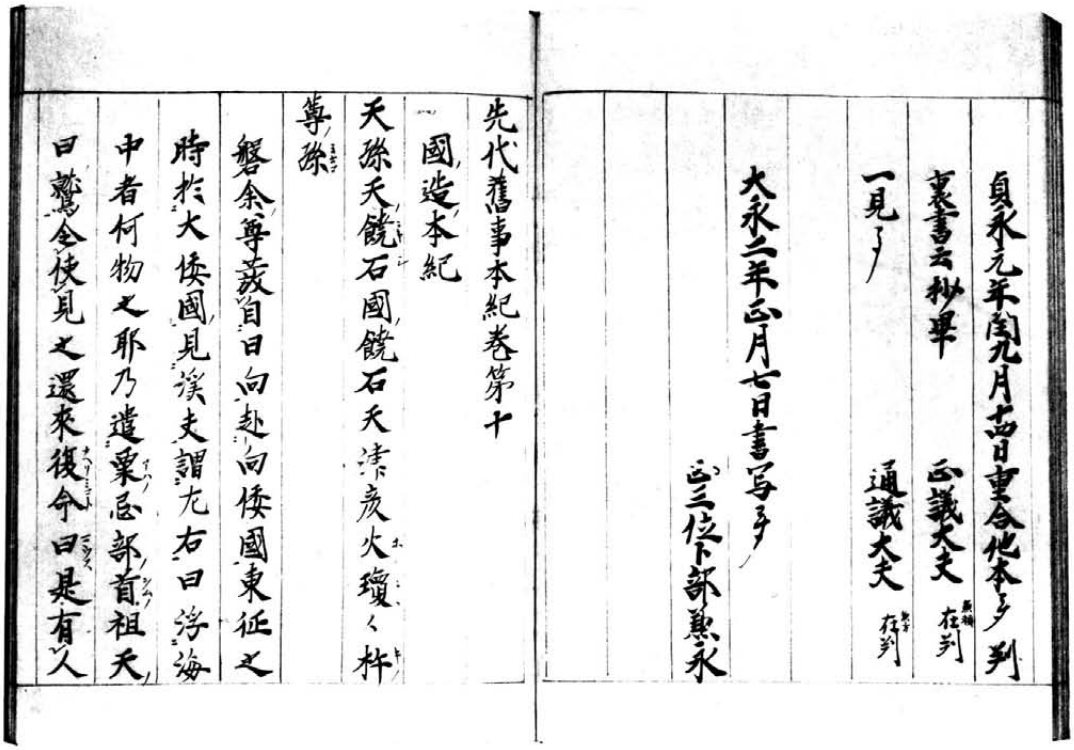
四三八



古事記 (道果本) 八七四



日本書紀 (嘉暦本) 七一九



貞永元年閏九月十四日重合他本多判

裏書云秘畢　正議大夫　在判

一見了　通議大夫　在判

大永二年正月七日書写了

正三位卜部兼永

先代舊事本紀卷第十

一國造本紀

天孫天饒石國饒石天津彦火瓊々杵

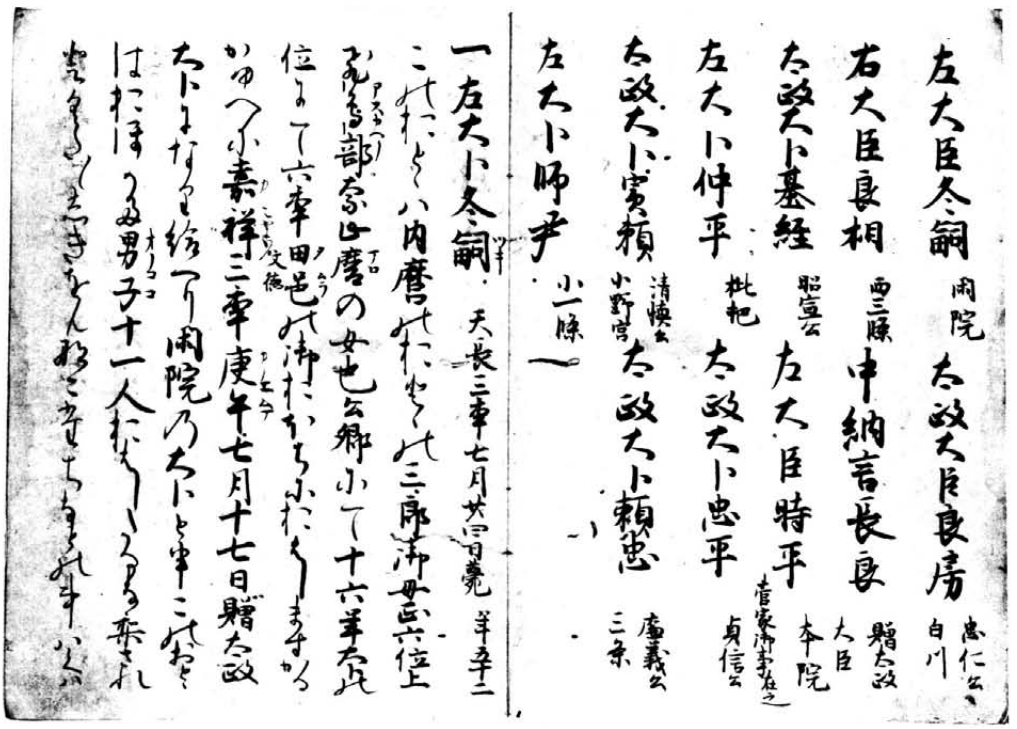
尊孫

磐余尊茲自日向赴向倭國東征之

時於大倭國見溪支謂左右曰浮海

中者何物之耶乃遣粟忌部首祖天

曰鷲令使見之還來復命曰是有人



左大臣冬嗣　閑院　太政大臣良房　忠仁公　白川

右大臣良相　西三條　中納言長良　贈太政大臣　本院

太政大卜基経　昭宣公　左大臣時平　菅家御事在之　貞信公

左大卜仲平　枇杷　太政大卜忠平

太政大卜實頼　清慎公　小野宮　太政大卜頼忠　廬義公　三条

左大卜師尹　小一條

一左大卜冬嗣　天長三年七月廿日薨　年五十二

これおとゝハ内麿のおとゝの三郎御母正六位上

[illegible]部家正麿の女也公卿小て十六年左の

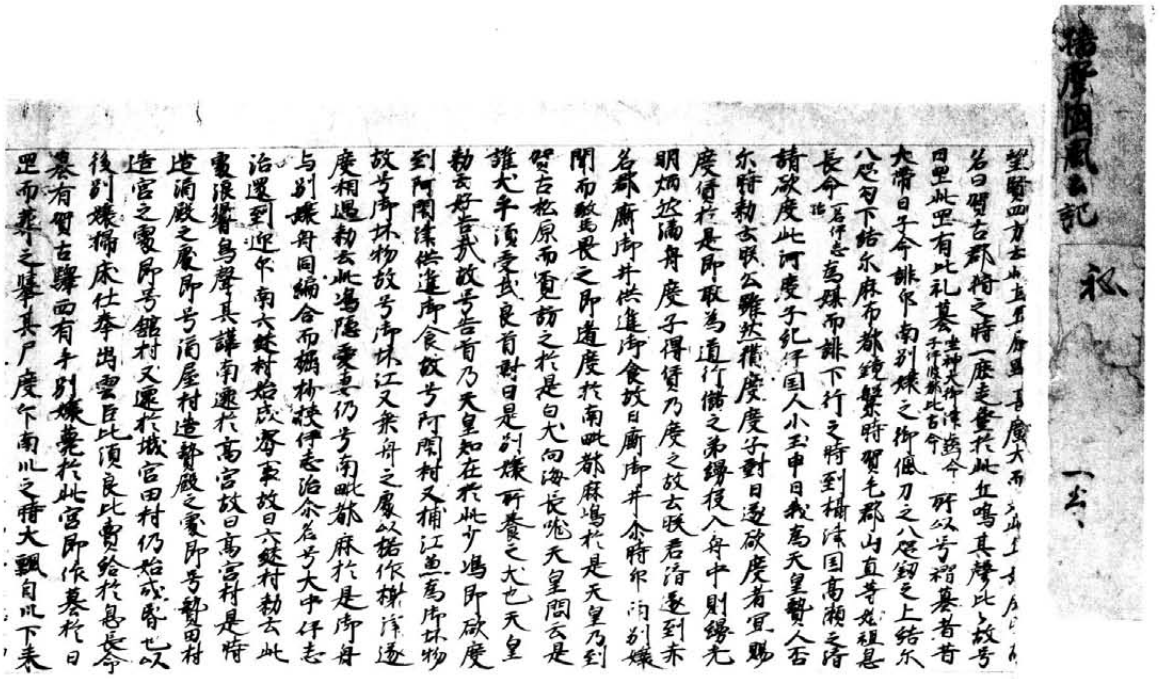
位よて六年田邑の御おかちにおたしまかる

かゆへ小素祥三年庚午七月十七日贈太政

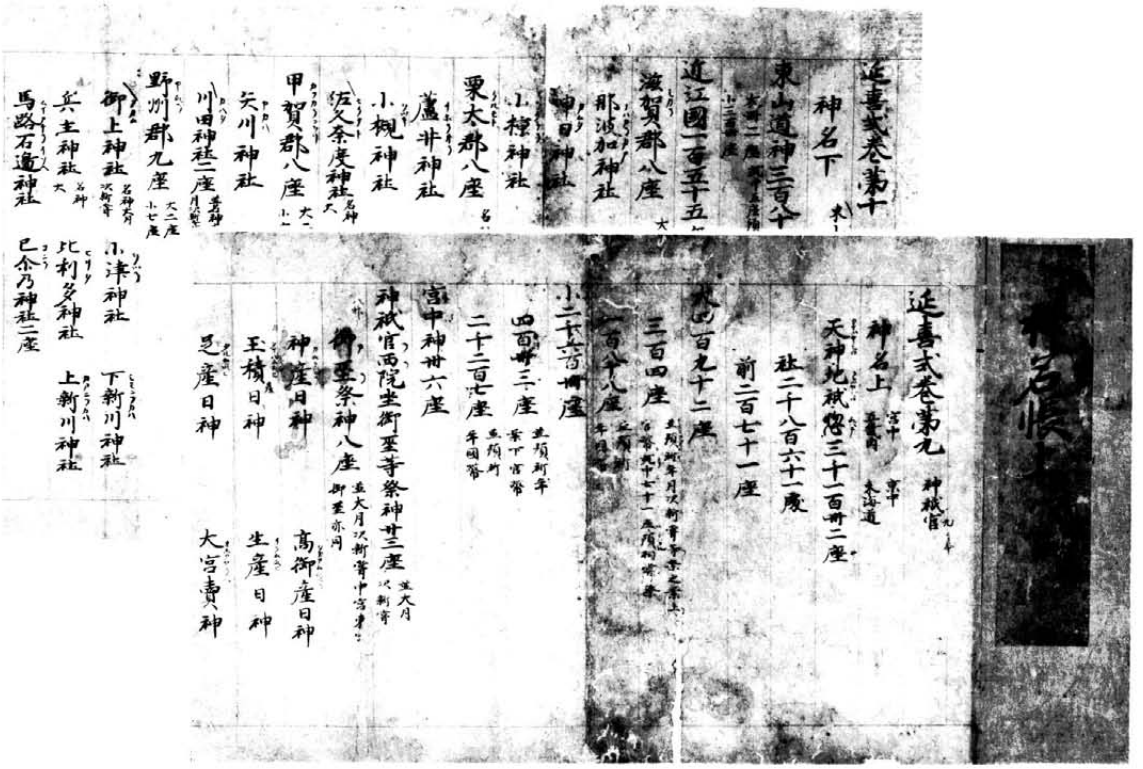
大卜となる給つり閑院乃大卜と申これおと

はおほ[illegible]男子十一人おたしくなる奈され

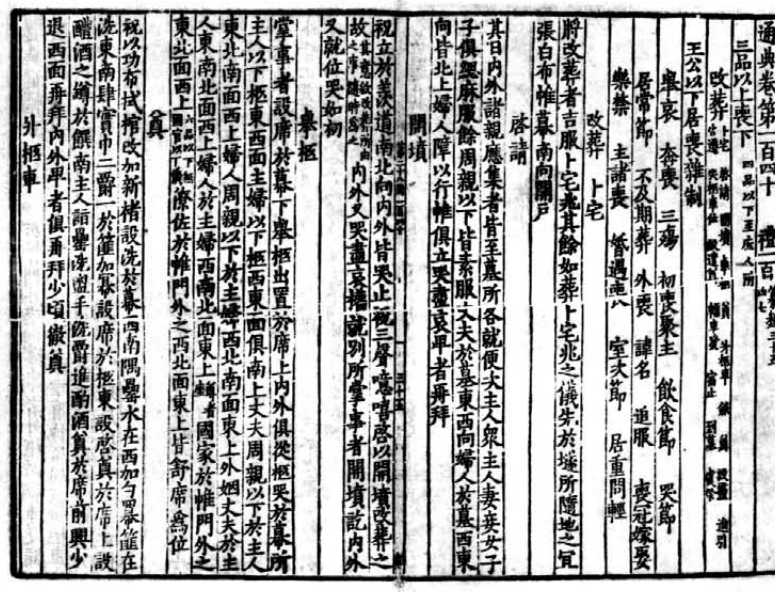
[illegible]



播磨國風土記 (三條西家本) 三七一一



延喜式神名帳 (卜部本) 九一二一



通典卷第一百四十　禮一百

三品以上喪下　四品以下至庶人附

改葬　卜宅　改葬　卜宅

王公以下居喪雜制

舉哀　舉哀　舉哀　三殤　初喪長主　飲食節　哭節

居常節　不及期葬　外喪　諱名　追服　喪中嫁娶

樂禁　主諸喪　遇喪　二　室夫節　居重問輕

改葬　卜宅

將改葬者吉服卜宅兆其餘如葬卜宅兆之儀告於墳所隨地之宜

張白布帷幕南向關戶

啓請

其日內外諸親應集者皆至墓所各就便次主人衆主人妻妾女子子婦緦麻廝餘周親以下皆素服丈夫於墓東西向婦人於墓西東向皆北上婦人障以行帷俱立哭盡哀舉者舁拜

開墳

視立於羨道南北向內外皆哭止視三層塼槨開墳改葬之故之事雖新舊必之內外又哭盡哀擡號別所掌事者開墳訖內外又就位哭如初

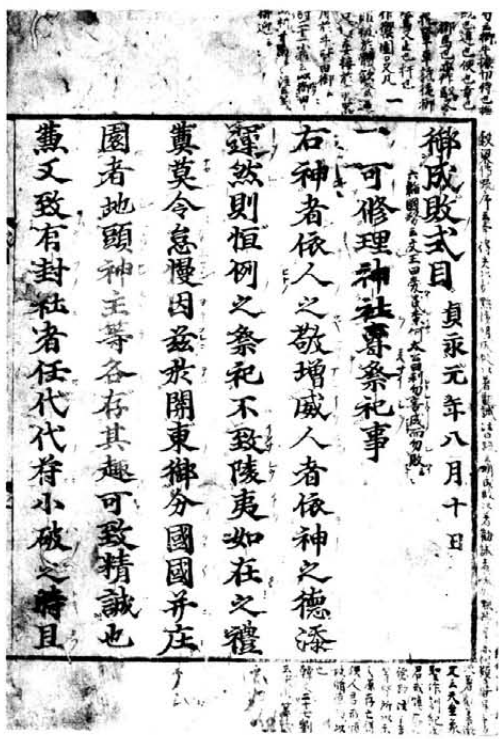
舉柩

掌事者設席於幕下舉柩出置於席上內外俱從柩哭於幕所主人以下柩東西面主婦以下柩西東面俱南上丈夫周親以下於主人東北南面西上婦人周親以下於主婦西北南面東上外姻丈夫於主人東南北面西上婦人於主婦西南北面東上輔者國家於帷門外之東北面西上國官以下職掌佐於帷門外之西北面東上皆卻席爲位

真

祝以功布拭棺改加新楮設洗於幕下西南隅罍水在西加勺承霤在洗東南肆實巾二爵一於灌加幂設席於柩東設啓奠於席上設醴酒之奠於饌南主人師晉酒祭酒千阼爵進酹酒奠於席前興少退西面再拜內外畢者俱再拜少頃徹奠

升柩車



御成敗式目　貞永元年八月十日

可修理神社佛寺祭祀事

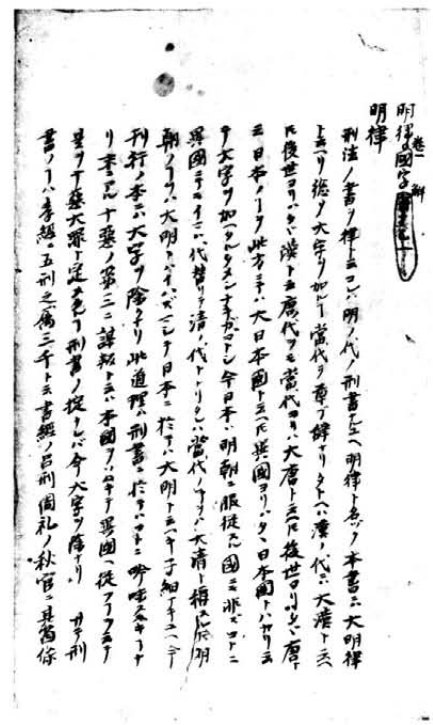
右神者依人之敬增威人者依神之德添

寖然則恒例之祭祀不致陵夷如在之禮

冀莫令怠慢因茲於關東御分國國并庄

園者地頭神主等各存其趣可致精誠也

兼又致有封社者任代代旨小破之時且



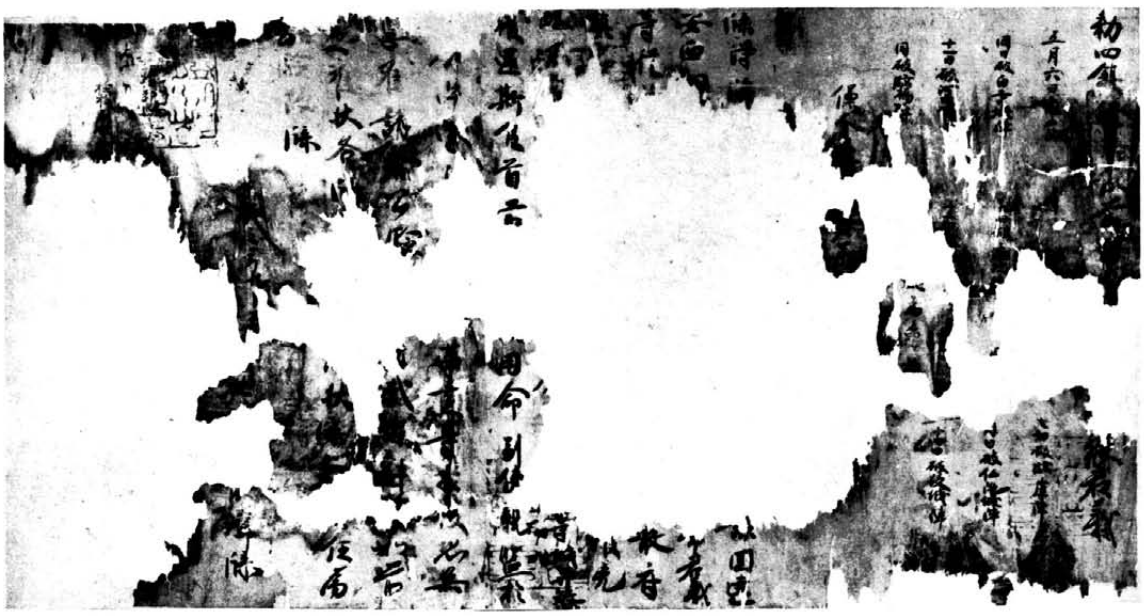
明律國字解　卷一

明律

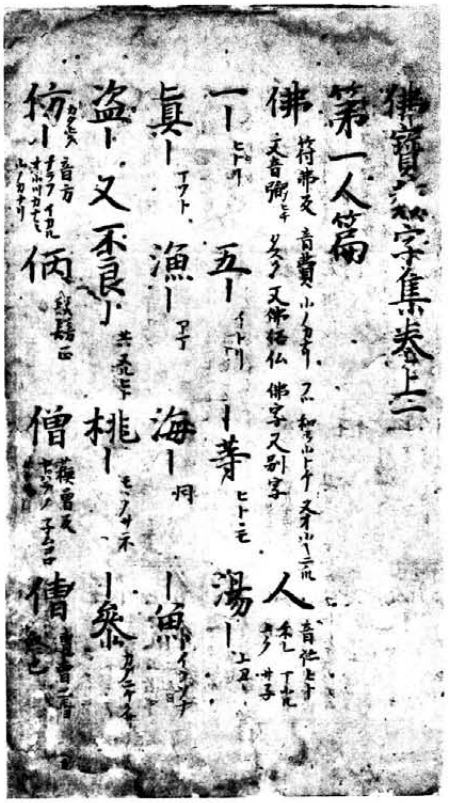
刑法之書以律爲首而明代之刑書亦以大明律爲一代之律大率因乎唐宋而有所增減焉蓋唐宋以來歷世用之而唐宋之律今不可得見故世之言律者必以大明律爲首焉大明律凡三十卷其篇目則一名例二吏律三戶律四禮律五兵律六刑律七工律而其篇數則名例四十六條吏律二條戶律十四條禮律二十條兵律二十條刑律四十二條工律六條合共一百四十六條其篇目雖與唐宋律同而其篇數則唐律十二篇五百條宋律十二篇五百三條大明律十二篇四百六十條而已其篇數減於唐宋者蓋以唐宋律之文繁而大明律之文簡也大明律之文簡而唐宋律之文繁者何也蓋唐宋律之文有一事而分爲數條者有一事而分爲數節者有一事而分爲數款者有一事而分爲數項者有一事而分爲數目者有一事而分爲數件者有一事而分爲數端者有一事而分爲數類者有一事而分爲數種者有一事而分爲數等者有一事而分爲數級者有一事而分爲數層者有一事而分爲數重者有一事而分爲數疊者有一事而分爲數折者有一事而分爲數段者有一事而分爲數截者有一事而分爲數斷者有一事而分爲數片者有一事而分爲數塊者有一事而分爲數團者有一事而分爲數簇者有一事而分爲數叢者有一事而分爲數林者有一事而分爲數藪者有一事而分爲數澤者有一事而分爲數川者有一事而分爲數谷者有一事而分爲數丘者有一事而分爲數陵者有一事而分爲數山者有一事而分爲數嶽者有一事而分爲數洲者有一事而分爲數島者有一事而分爲數嶼者有一事而分爲數礁者有一事而分爲數灘者有一事而分爲數浦者有一事而分爲數港者有一事而分爲數灣者有一事而分爲數湖者有一事而分爲數池者有一事而分爲數沼者有一事而分爲數井者有一事而分爲數泉者有一事而分爲數源者有一事而分爲數流者有一事而分爲數派者有一事而分爲數支者有一事而分爲數脈者有一事而分爲數絡者有一事而分爲數經者有一事而分爲數緯者有一事而分爲數維者有一事而分爲數綱者有一事而分爲數紀者有一事而分爲數統者有一事而分爲數系者有一事而分爲數譜者有一事而分爲數錄者有一事而分爲數志者有一事而分爲數傳者有一事而分爲數記者有一事而分爲數述者有一事而分爲數論者有一事而分爲數贊者有一事而分爲數頌者有一事而分爲數銘者有一事而分爲數箴者有一事而分爲數誡者有一事而分爲數訓者有一事而分爲數誥者有一事而分爲數命者有一事而分爲數令者有一事而分爲數教者有一事而分爲數旨者有一事而分爲數意者有一事而分爲數義者有一事而分爲數理者有一事而分爲數道者有一事而分爲數德者有一事而分爲數仁者有一事而分爲數義者有一事而分爲數禮者有一事而分爲數智者有一事而分爲數信者有一事而分爲數忠者有一事而分爲數孝者有一事而分爲數悌



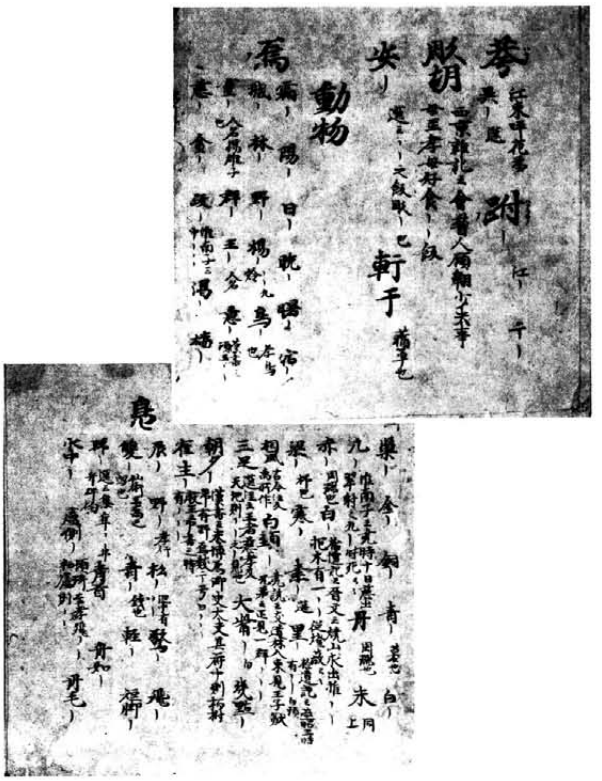
維摩詰經　（敦煌文書）　六五九



景龍三年張君義告身　（敦煌文書）　一六二一



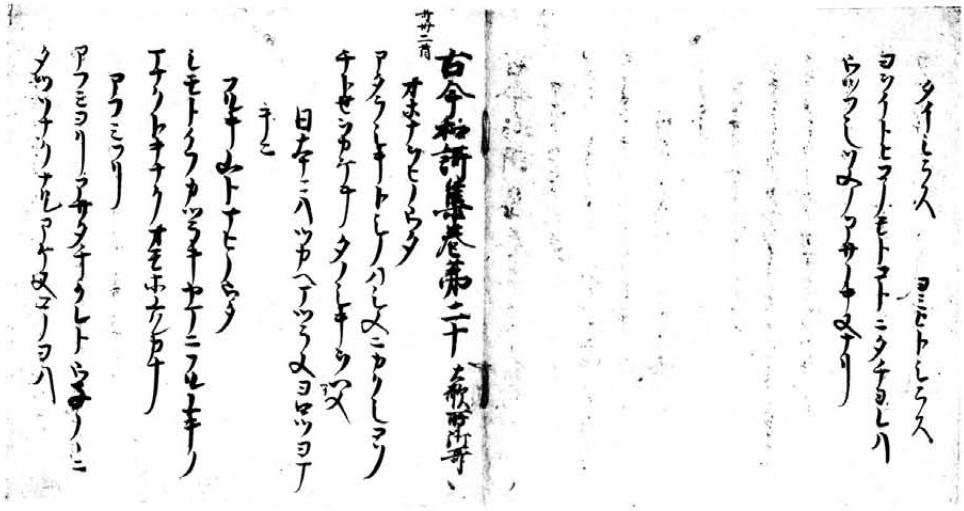
七八七一　（本寺山高）集字類實三



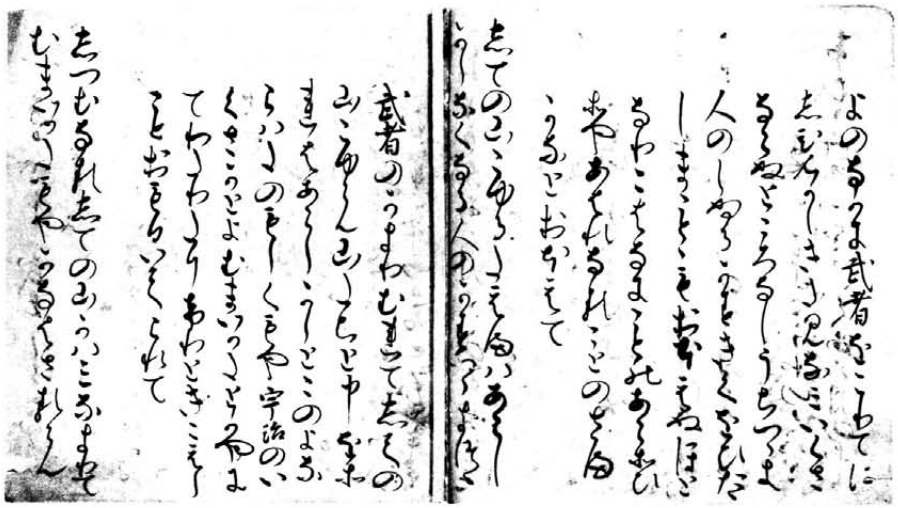
一九七一〔集字韻安平〕



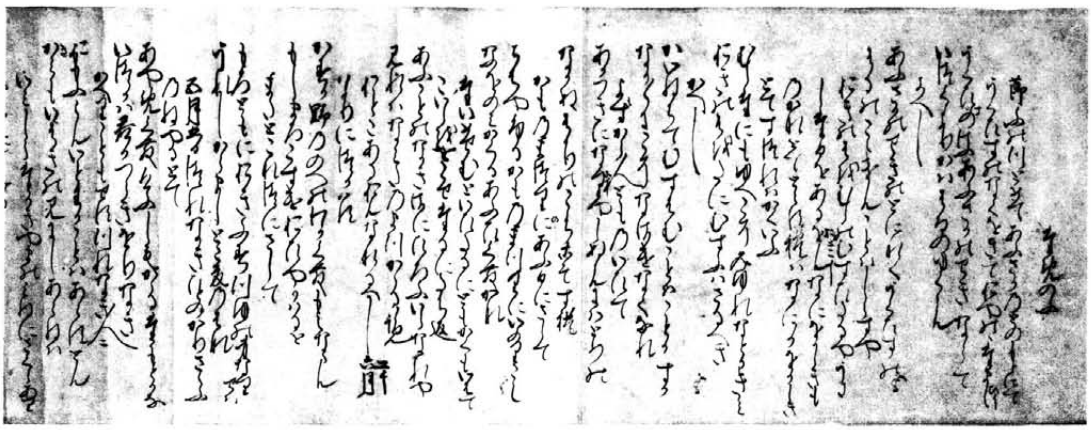
九四八一　　梵字形音義集第四



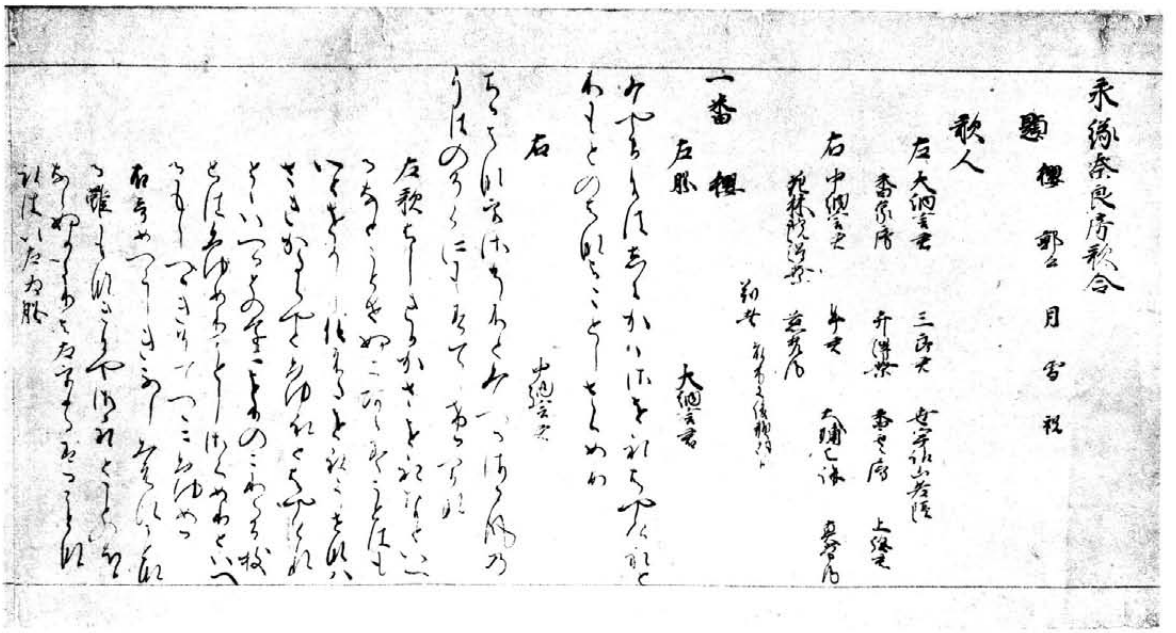
古今和歌集　(本名假片)　一九一二



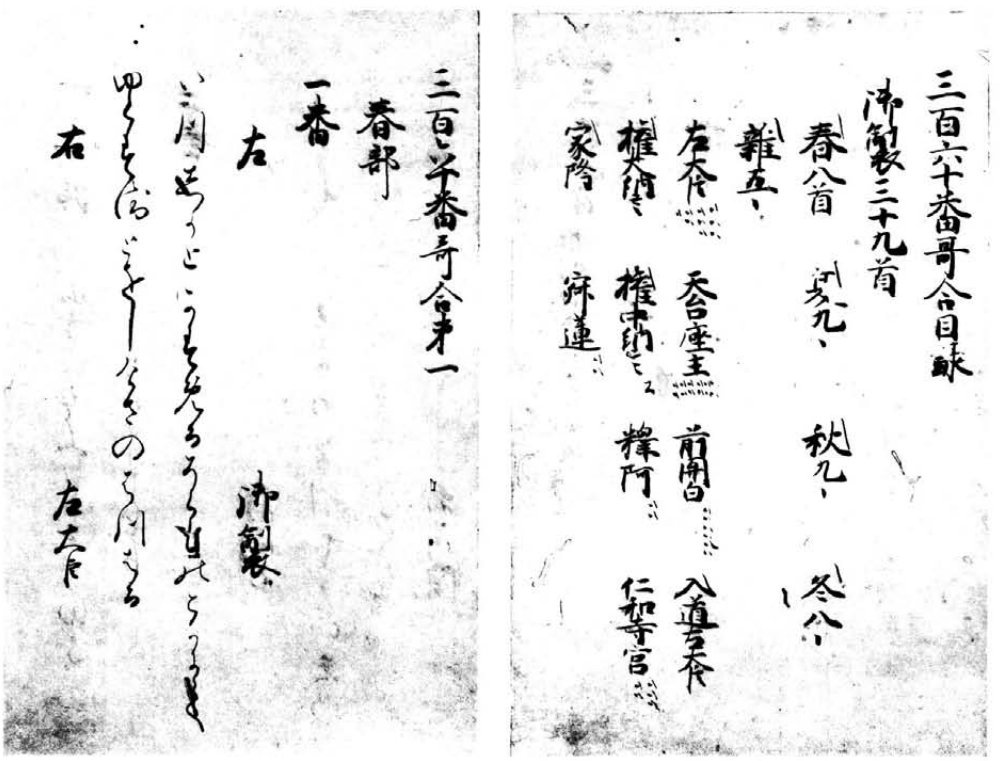
聞書集　一九〇四



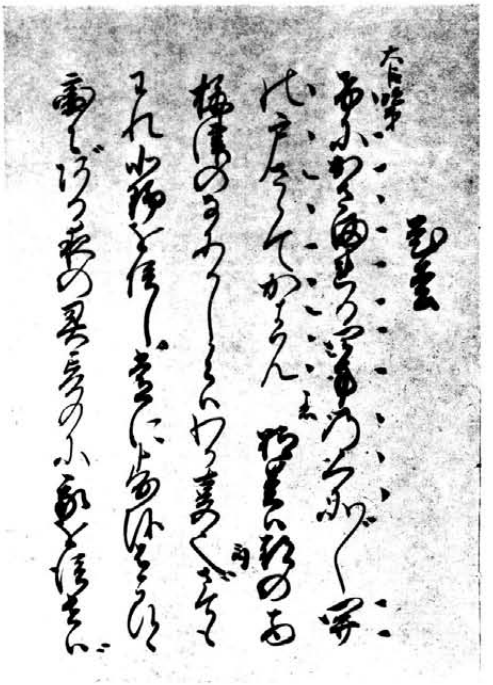
爲信集　一九二七



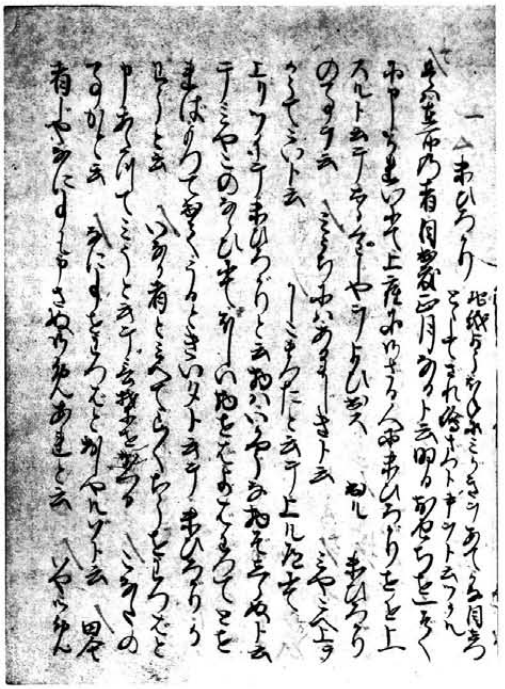
永緣奈良房歌合（二十番本）　一九六九



三百六十番哥合

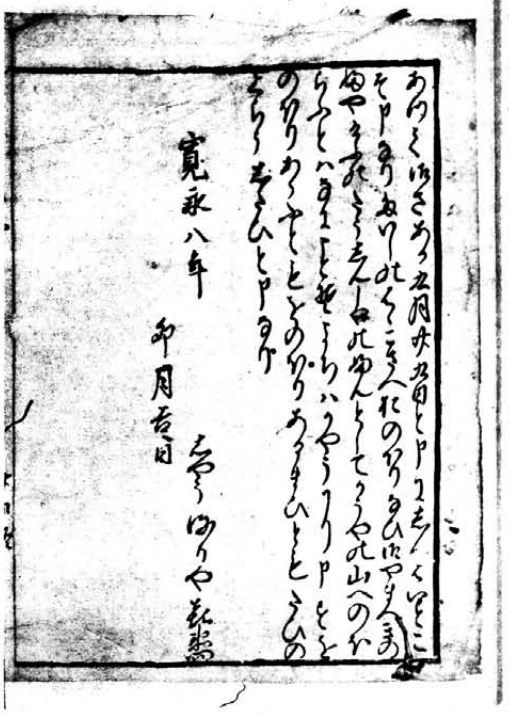


九八九一　（本屋車）　集　本　謡

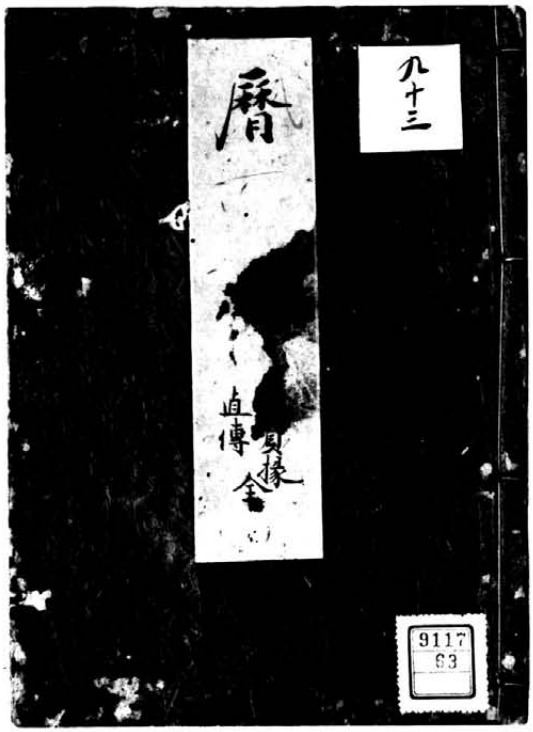


四九九一　　義　六　言　狂

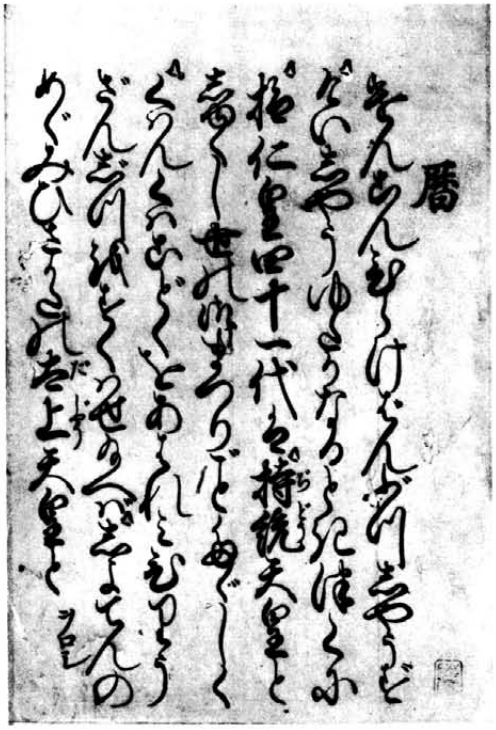


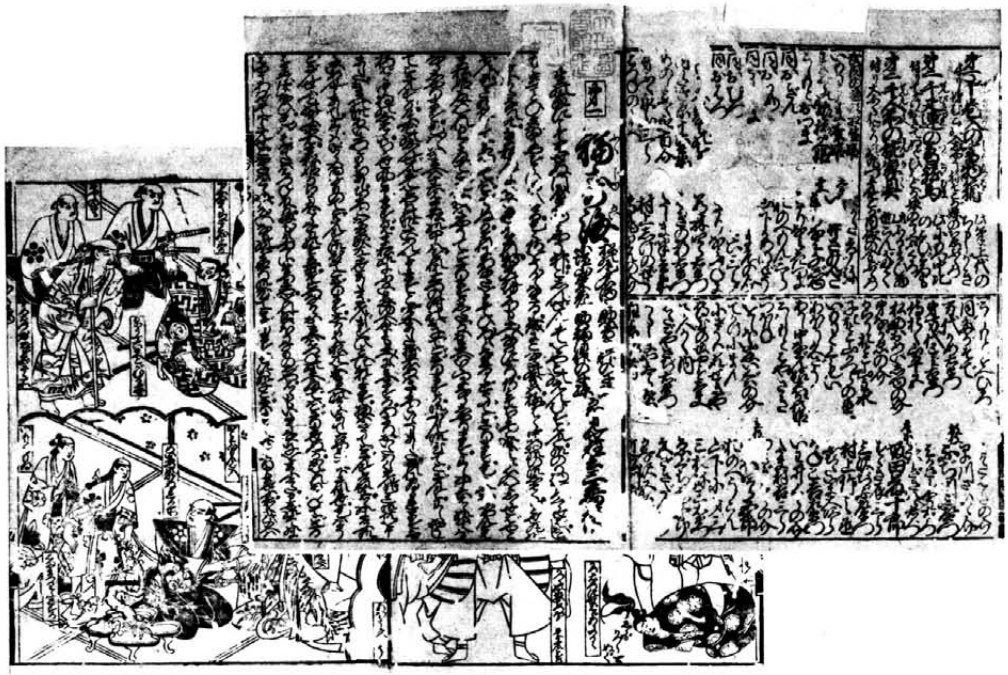


九六〇二　（本綠丹）　やかるかうやきつせ

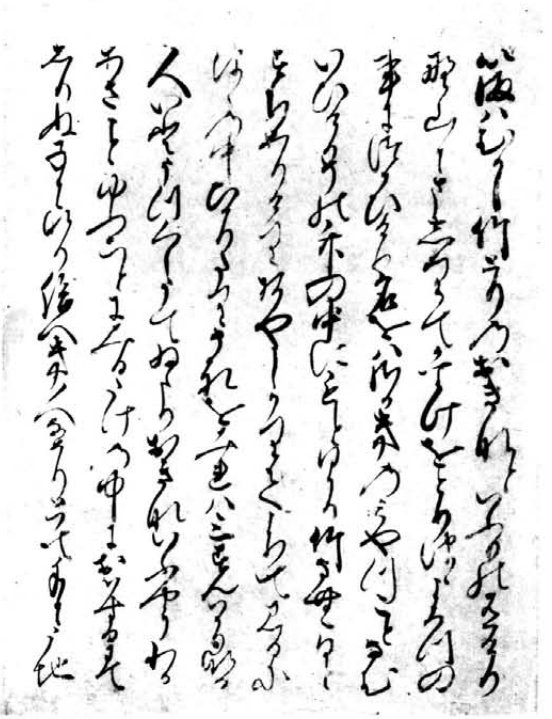


六五〇二　曆

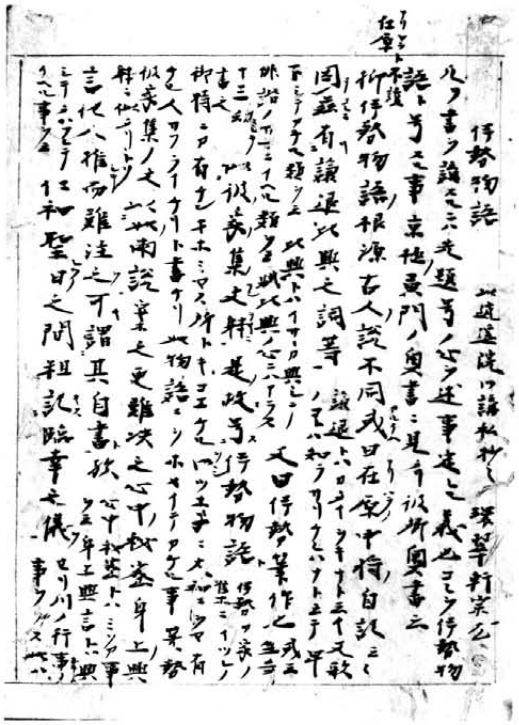




五六一二　海　壽　福



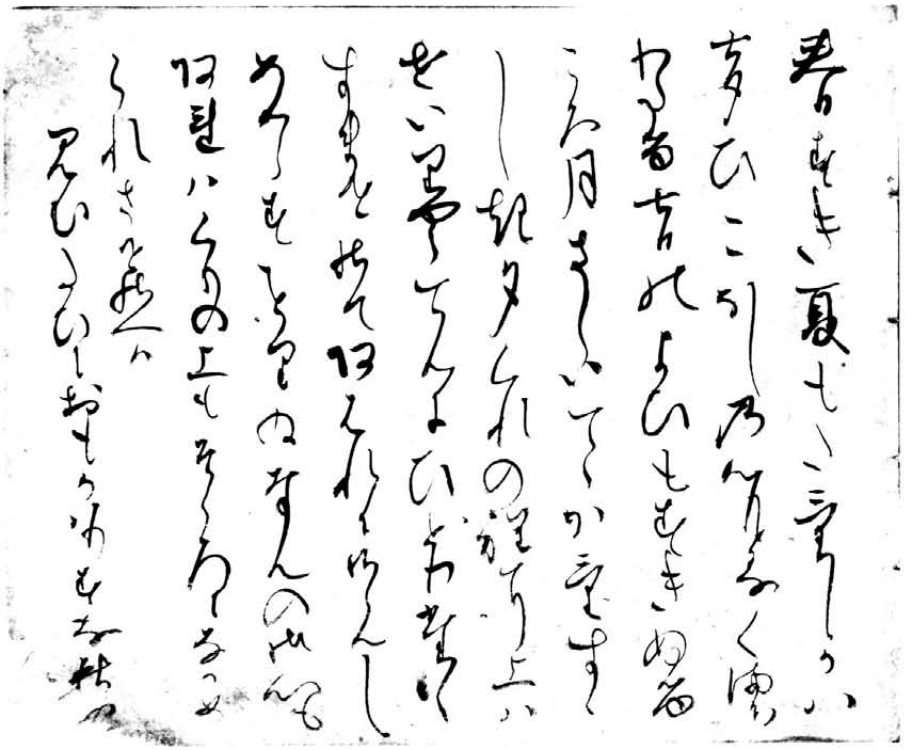
四八一二　竹取物語



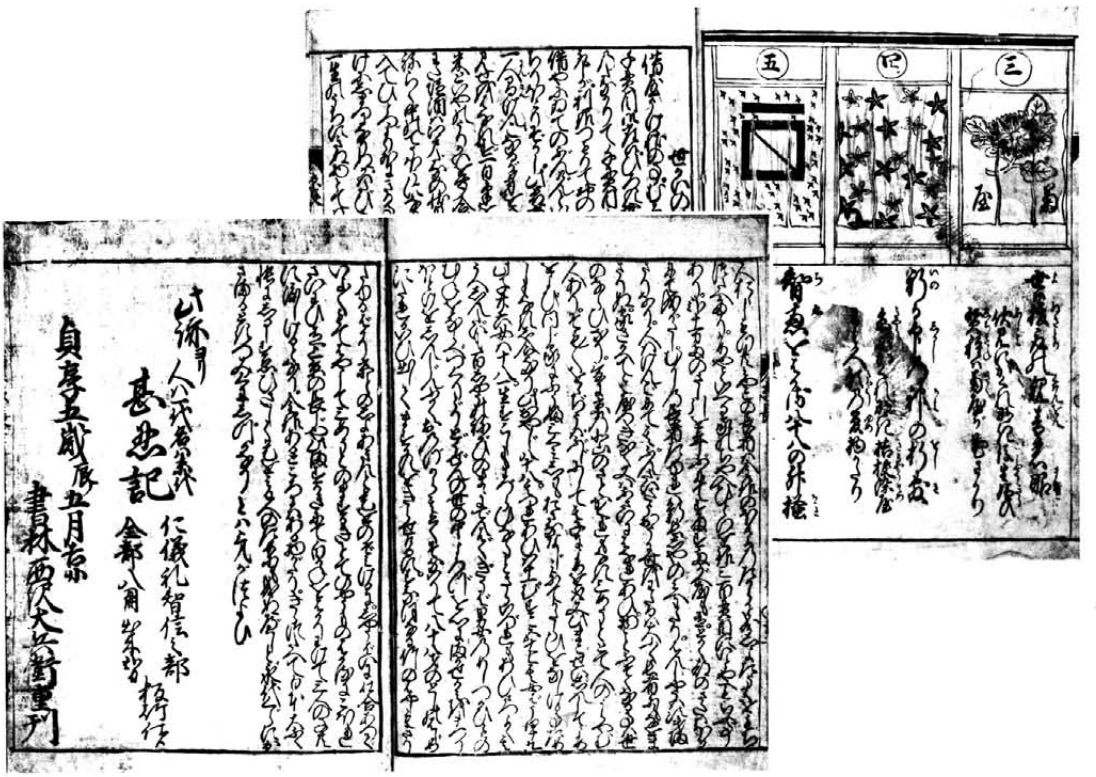
二一二二　伊勢物語惟清抄



〇二三二　源氏物語（本冬國守津）



あさちか露　二四四一



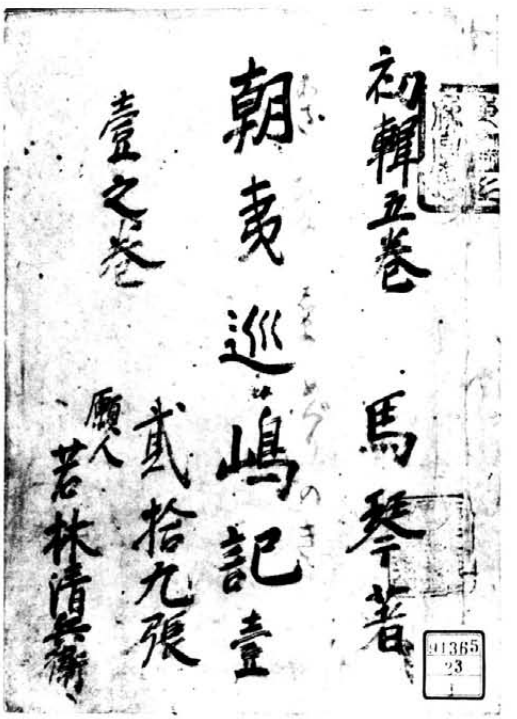
日本永代蔵（西澤版）　二七五二



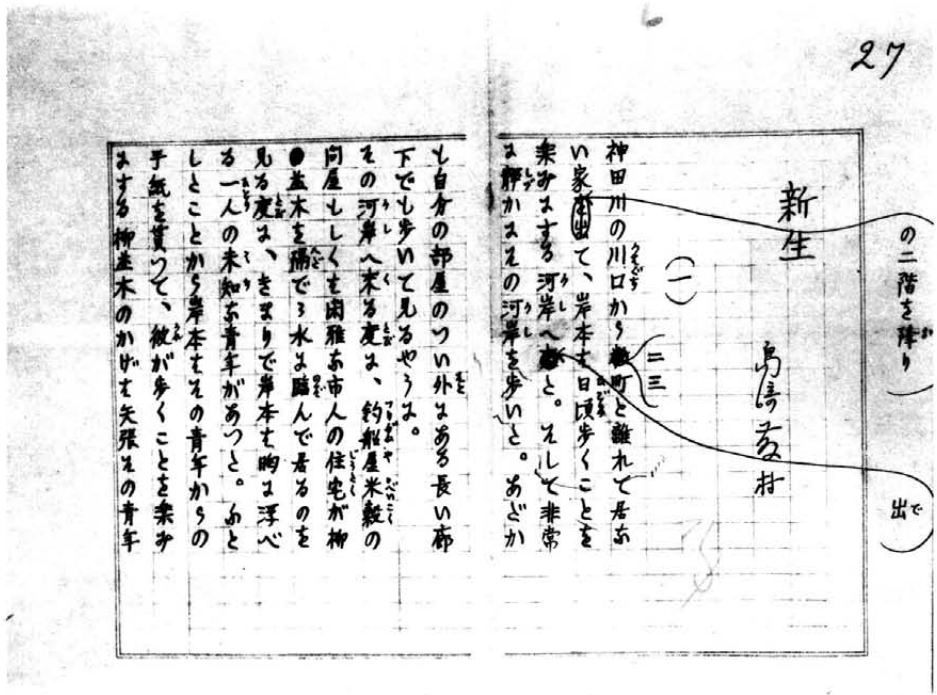
九〇八二　（本庫文荘西）　りたか物雨春



五九七二　



朝夷巡嶋記全傳

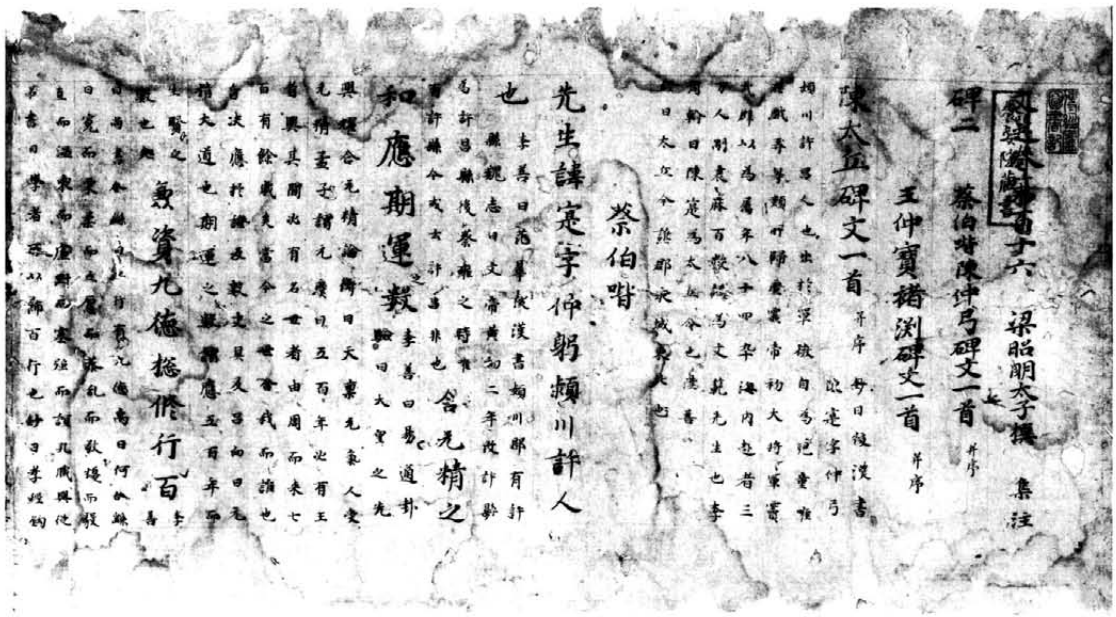

27
新生
島崎藤村
（一）
二三
神田川の川口から数町と離れて居ない家を出て、岸本は日頃歩くことを楽みにする河岸へ出た。そして非常に静かなその河岸を歩いた。あざかの二階を降り
で出
七白分の部屋のつい外にある長い廊下でも歩いて見るやうな。
その河岸へ来る度に、釣船屋米穀の問屋らしくも商売ある市人の住宅が柳●並木を隔てゝ水を臨んで居るのを見る度に、きまりで岸本を胸は浮べる一人の未知の青年があつた。あとしたことから岸本はその青年からの手紙を貰つて、彼が歩くことを楽みにする柳並木のかげを矢張その青年

七四九二　　生　　新


467
杜子春
芥川龍之介
三五枚
一（三行目）ただ同じ
或春の日暮です。
唐の都洛陽の西の門の下に、ぼんやり空を仰いでゐる、一人の若者がありました。
若者は名は杜子春と云つて、元は金持ちの息子でしたが、今は財産を費い盡して、その

九五九二　　春　子　杜


一の一（四）
うとうとしてゐるうちに、又もや夢を見ました。夢の中には、やはり前の通りの廣い往來があつて、その往來の眞ん中に、三叉の路に出ました。
夢さんは、道に迷つた事を思ひ出しました。
夢さんは、道に迷つた事を思ひ出しました。
夢さんは、道に迷つた事を思ひ出し



梁昭明太子撰　集注

碑二　蔡伯喈陳仲弓碑文一首　并序

王仲寶褚淵碑文一首　并序

陳太丘碑文一首　并序　郭泰後漢書

蔡伯喈

先生諱定字仲弓潁川許人

也　李善曰范曄後漢書曰潁川郡有許

縣說志曰文帝黃初二年改許縣

舍光精之

和應期運數　李善曰易通卦

驗曰大聖之先

興握合元精瀚御曰天稟元象人受

元情孟子謂元應曰五百年必有王

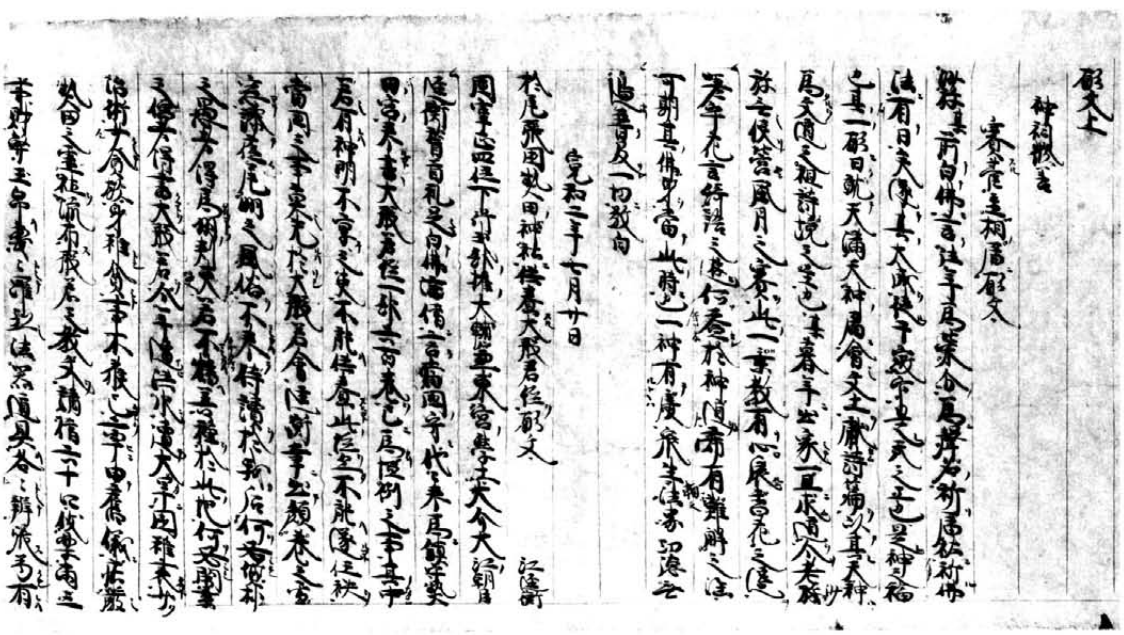
者興其間必有名世者由周而來七

百有餘載矣當今之世舍我而誰也

乃決應於機及數之見矣鄭玄曰和

猶大道也期運之數謂應五百年而

興握合元精之氣資九德撝謙行百　李善



神祇部

春霞立秋扇居解文

江淹詩

於尾張國愛知郡熱田神社供奉大般若轉讀解文

周室之四仁王講般若大會皆依大般若經

經前首禮之白佛言諸國守護大乘尼

四天王及大般若經一部十六會是名

名有神明不守之史不能供養此經空不能受持

當國之事災及於人民若令讀誦大乘之音

天諸善神悉皆歡喜擁護此人守護其國

之事如護己眼之瞳仍不待請於我所行威神

之力加護尾州之內安穩快樂五穀豐熟

天理圖書館

稀書目録

第三

總記

圖書及圖書館

古刻留眞　一帖　一

田中慶太郎編　板表紙　四〇・五糎二六・五糎の折本に宋元版零片五十二葉を貼附　六十五折　題簽左肩書名同　帙題簽左肩内藤湖南筆「（書名同）寶詩齋藏（印）」（別紙十二行青罫紙に文求堂田中慶太郎筆所収目錄あり　卽ち「古刻留眞目錄　宋版儀禮鄭氏註　元版詩集傳　又論語集註大成　宋版史記　又漢書　又晉書　又魏書　又隋書　又南史三葉　又通典二葉　又五代史　宋版陸狀元通鑑　又中興通鑑　又通鑑紀事本末　又通鑑摠類　又古史　又東漢精華　又晉書詳節　又讀史管見　又諸臣奏議　又金陀粹編　又琬琰集　元板通志　元版古今紀要　會通館本諸臣奏議　宋板荀子二葉　又列子　元板序一頁　宋版仕學規範　又雞峯普濟方　又事文類聚　又翰墨大全　又空谷集　又錦繡萬花谷　元版困學紀聞　元版神仙通鑑　又自警編　又本艸圖經　又素問　又古今源流至論　又天源發徵　又地理風水書　宋板王臨川集　又劉後邨集　元版朱子大全集　又金華黃學士集　又國朝文類　元版蘇東坡詩集　又唐策　又文選　又張伯顏文選　宋版萬寶詩山」　〇二―イ七）

宋元零葉　舊刊書影　四十九枚　二

田中慶太郎編　四二糎五六・五糎の各臺紙に宋元明版零片四十九葉を貼附　（〇二―イ五）

宋槧拾葉　一冊　三

唐蝴蝶裝　紺表紙　用紙裏打　三一・五糎二三・五糎　（南宋版九行十六字大字本前漢書杜周傳卷三十殘葉八丁以下宋版八種八葉を收む　〇二―イ九）

○

儀顧堂續跋　寫　十六卷　八冊　四

陸心源（淸）著　自筆　唐袋假綴　共表紙　二六・五糎一六・五糎　四周雙邊一七・五糎一一・五糎　十行約二十字綠色罫紙、「島田翰讀書記」識語　（第一冊末）儀顧堂續跋四冊卷悉係／先大夫存齋公親筆／手稿／光緒三十一年十二月初七日　歸安陸樹藩純伯敬誌（印）　（第一冊後補表紙）島田彦楨東瀛好古／嗜學之士來游禹域聞／吾湖陸存齋先生家／藏書最富親至其／家飽讀其書并就／其子純伯觀察乞得／先生儀顧堂續跋手／稿四卷冊十六卷奉／持歸國嗟君真可謂／好學矣　曲園俞樾（印）　（各卷內題の次行に「歸安陸心源伯剛父」とあり　卷十五・十六の始に「每逢口不要粗細以此一式第一頁行欵照前式」の附箋あり　光緒中刊本の原稿本　なほ別に表紙に「島田翰奉贈卑著　皕宋樓源流攷／桃華先生　四十二年正月」と自署せる光緒丁未六月刊島田翰著「皕宋樓藏書源流攷」一冊を附す　長澤規矩也著「支那書籍解題　書目書誌之部」―參照　〇二七―イ三）

岸本由豆流藏書目錄　寫　一冊　五

袋綴　砥粉色表紙　二二糎一四・五糎　四周雙邊一七・五糎一二糎　十行朱罫紙　四十丁　題簽左肩「由豆流藏書目錄」　扉題中央書名同　識語　（裏遊紙）仲山　（每半葉一行明きに五點を著錄　書名卷數を記すのみにて間々活字異本寫本等の注記を頭書す　〇二七―イ二）

莓苔園藏書記　寫　四冊　六

下鄕寬編　袋假綴　共表紙　二四・五糎一七糎　六行　外題（第一至三冊）左肩書名同　（第四冊）「知足齋藏書目錄通計六冊」とあるも內表紙左肩には書名同　副題簽（第一至三冊）中央「（所收件名）」、「知足齋藏（紙票）」　（一行に一點、書名冊數のみ著錄　第三冊表紙に寬政紀年ある故紙を使用　各書目頭に「己巳」等の改め印を捺す　〇二七―イ七）

和漢書籍目錄　寫　一冊　七

袋綴　共表紙　八糎一七糎　十七至二十行　三十四丁（表紙共）　外題中央（伴信友）筆「御文庫書目案」

識語　（見返紙箋）若州小浜酒井家ノモノ

（裏表紙）（外題と同筆）從鶴田氏傳領／伴

（〇一七—イ九）

○

「蒹葭堂献本始末」　寫　一冊　八

袋綴　薄茶色表紙　二三糎一五・五糎　四周單邊一七・五糎一二・五糎　九行罫紙　三十二丁　内題なし　柱刻「書影　巻之　因樹屋」、「蒹葭堂藏書印」

識語　（鹿田静七筆）蒹葭堂献本始末／巻首三葉翁自筆／餘は後繼者筆記／此書同家手扣原本／尤珍とすべし下略（印）

（〇一九—イ九）

齋來書目　寫　二冊　九

唐袋綴　共表紙　（第一冊）二五糎一九・五糎　（第二冊）二三糎一八糎　題簽左肩

（第一冊）「（書名同）正德」（第二冊）「廣東船名冊清人自書／同齋來書目　同」　扉題

（第一冊）「正德四年甲午／書目唐人奥判」（第二冊）「第二十五番廣東船年貌冊」、「鹿田文庫」等

奥書　（第一冊）以上所報是實若帶來天主教書蔵匿發覺通船甘／願坐罪／正德四年九月丁日第一番南京船主費元齡（花押）

（右同文）正德五年二月　日第四十九番寧波船主游汝羲（花押）

（第二冊）（第二十番廣東船主黃瑞周楊叔祖）今將通船年貌名冊の條末）享保二十年十一月　日第二十五番廣東船主黃瑞周楊叔祖／財副翁肇穀

識語　（第一冊見返附箋）書林之本の内／目録ノ分ハ皆ミ／此方所蔵の寫し／にて不残にてハ無之候／四五冊無據方よりたのまれ／寫し遣候本にて御座候／何時にても／御用立可申候／よほと冊数／御座候／此内／聖堂藏書目録／五六匁斗に候へハ／御求可被遊候（同頭記に）長崎ゟ／公儀へ書上候目録也

（〇一九—イ二）

佐伯獻書總目　寫　一冊　一〇

篠崎小竹筆　袋綴　改裝後補澁刷毛目布目表紙　原裝共表紙　二八糎一九糎　十行　八十八丁　題簽左肩「（書名同）篠崎小竹手書」　原外題左肩書名同　内題なし、「小竹齋」「鹿田文庫」

奥書　右豊後佐伯侯蔵書文政丁亥歳献諸／江府ゝ朝賜馬鞍一事以報之云侯臣中島増太示余／以是書目語其事意似甚惜之余曰侯家豈保／累世産好讀書之人其或不好必有蠹蝕散亂／之患矣今蔵　官庫則監護職具検目借覧亦／猶外府乃侯之獻而不蔵非所以深蔵之乎若余則／既先由借観手寫書目展玩自娯如饗客視食／次冊而流涎耳／　己丑四月　小竹散人識

（〇一九—イ三五）

四部書目　寫　一冊　一一

松岡玄達筆　袋綴　牡丹花麻葉模様押出濃茶色表紙　二三・五糎一六・五糎　四周雙邊一九・五糎一三・五糎　九行黒罫紙　九十四丁　題簽左肩「（書名同）第一卷」　内題なし、「怡顔齋圖書」「松岡氏圖書」等

（巻中「古今逸史」の條に朱書「正德四甲午新渡本六帙五十八部題／增定古今逸史有雍録等書」の書入あり　〇一九—イ七）

新板增補書籍目錄　作者付大意　一冊　一二

袋綴　改裝後補縹色表紙　一〇・五糎二二・五糎　四周單邊八・五糎一八糎　有界　十五行　百七十一丁　第一丁表陰刻横書書名同　柱刻「（丁數）」

刊記　寛文十一辛亥季夏吉辰／寺町通二條上ル町／山田市郎兵衛開板

（〇一九—イ九）

續古書價の研究　寫　三冊　一三

水谷不倒著　自筆ペン書　昭和十四年八月自序　袋綴　水色表紙　二五糎一七糎　十行二十字詰（又は八行二十五字詰）相馬屋製原稿用紙　題簽左肩「（書名同）上

（一下）」、「水谷文庫」
（〇二九―イ一五）

辰壹番
唐船持渡 **商賣書物目錄**并大意書　寫　一冊　一四

向井元仲著　袋綴　共表紙　二七糎二〇糎　六十一丁　外題中央書名同
奥書（表紙）（朱）是ハ長崎江唐船書籍持渡候節書物目利被申地下役人江奉行ゟ
申渡書籍吟味爲ノ致始而持渡候書本ハ其書之大意を如此認爲出候而長崎奉行ゟ
御老中方江進達ノ有之邪法教化之文句無之段申上右書籍大意書之通ニ而若御用
も可有之哉中略自分午年長崎在勤翌未年此書備後守殿ゟノ進達有之候積則向井
元仲書物目利長崎儒者也　大意を差出ニ付寫取候但此内ノ欽定古今圖書集成九千九
百九拾六冊有之初而持渡候右大意書有之ニ付ノ書寫早
（表紙左に「午九月　向井元仲」とあり　〇二九―イ二七）

日本國見在書目錄　寫　一冊　一五

藤原佐世著　袋綴　菱花摺出模様縹色表紙　用紙薄様　間紙を挟む　二七糎一九
糎　六行　四十四丁　尾題「本朝見在書目録」、「戸澤文庫」「紅梅文庫」等
（江戸時代末期寫　室生寺本系統本の影寫　虫害の迹をも寫示す　原書の表紙裏
表紙にあたるもの二葉を缺く　〇二九―イ二一）

梅花屋藏書目　寫　一冊　一六

篠崎小竹編　袋綴　改裝後補濫刷毛目布目表紙　原裝共表紙　二六糎一八糎　九
行　八十八丁　題簽左肩「（書名同）篠崎家書小竹先生加筆」原外題左肩書名同、「鹿田文庫」
（小竹自筆による増補書入多し　原外題右に「嘉永三年庚戌十月ノ拜村徳藏校」
とあり　〇二九―イ三三）

百科事彙・類書

懷中節用集　寫　一冊　一七

袋綴　毘沙門格子押出模様栗梅色表紙　用紙薄様　一三・五糎二一糎　十五行
百三十四丁　題簽左肩金紙「増補節用集　全」、「西荘文庫（小津桂窓筆「乃全二」
と墨書せる紙箋に捺印）」
（江戸時代初期寫　伊部乾坤乾より始まる　巻頭に「部分之名」として乾坤・官位
・神祇・人倫・名字・支躰・衣食・氣形・草木・器財・數量・言語の項目を擧ぐ
本文「京師」の條末の裏左下に本文同筆「紙數目錄共ニ百十三枚」とありて、次に
立春・名乘字・國盡・氏姓記・名字の各篇計二十一丁及び以下白紙四丁あり
〇三一―イ三九）

下學集　二巻　一冊　一八

文安元稔閼逢困敦閏朱明林鐘下澣東麓破衲序　袋綴　改裝後補老竹色表紙　二七
糎一九糎　四周單邊二三・五糎一七・五糎　七行小雙行　八十丁　題簽左肩墨「元
和三年古板下學集　全」　柱刻黒口「下學之上（下）（丁數）」、「村岡典嗣藏書」
刊記　元和三年丁巳孟夏吉旦梓焉
（〇三一―イ三七）

下學集　寫　二巻　一冊　一九

袋綴　改裝後補栗皮色表紙　二五糎一八糎　七行小雙行　四十一丁　内題なし
（室町時代末期寫　官位門第五の部に本文に別筆「最後日事　玉櫛殿（タマクシ）説云此日不
出陰陽家ニ（ヨリ）略永正三卯九或本ヨリ見出テ載之了」の紙箋を貼る　本文「名越之秡」
至「疊字門第十八屈」を存して前後闕　神祇門第三末及び人倫門第四初闕か　本
文に近き筆にて間々異本校合あり　項目末に本文同筆「私書入」と朱書して若干
語を墨書補遺せる條所々にあり　〇三一―イ四三）

下學集　寫　二巻　一冊　二〇

文安元稔閼逢困敦閏朱明林鐘下澣東麓破衲序　袋綴　改裝後補紺表紙　二六糎一
九・五糎　八行小雙行　七十丁、「只木所藏」等
奥書　旹天文龍集甲辰年臘月六日ノ於如意西窓下書之
識語　右天文十三辰ヨリ今慶應三卯迄ノ三百貳拾有三念ニ也
（朱點書入あり　下巻末「疊字門第十八」の次に「點畫少異字」所收　〇三一―イ五七）

下學集　寫二卷一冊　二三

文安元稔閼逢困敦閏朱明林鐘下澣東麓破衲序　袋綴　改裝後補縹色表紙　二八・五糎一九糎　四周單邊二二糎一五糎　有界九行小雙行　五十二丁　外題左肩後筆書名同、「毛呂氏家藏本」等

（室町時代中期寫　下卷末「疊字門第十八」の次に「點畫少異字」所收、更に消息用語等を記せる本文に別筆無界の四丁あり　〇三一―イ五九）

下學集　寫二卷二冊　二三

文安元稔閼逢困敦閏朱明林鐘下澣東麓破衲序　袋綴　表紙闕　用紙裏打　二六・五糎一九・五糎　原寸二五・五糎一六・五糎　六行小雙行

（室町時代末期寫　序文初丁闕　朱點を施す　下卷末「疊字門第十八」の次に「點畫少異字」所收　〇三一―イ六一）

下學集　寫二卷一冊　二三

文安元稔閼逢困敦閏朱明林鐘下澣東麓破衲序　袋綴　改裝後補丹表紙　原裝共表紙　二八・五糎二一糎　四周單邊二七糎一七糎　有界八行小雙行　四十三丁　外題左肩川瀨一馬筆「（書名同）室町鈔本」原外題左肩別筆書名同

識語　（原表紙右下外題同筆）鶴雄

（室町時代中期寫「疊字門第十八」で終る　〇三一―六三）

下學集　寫二卷一冊　二四

文安元捻（ママ）閼逢困敦閏朱明林鐘下澣東麓破衲序　袋綴　紺表紙　用紙厚手楮紙　二九糎二二・五糎　四周單邊二三糎一八糎　有界八行小雙行　六十一丁

（江戸時代初期寫　下卷末「疊字門第十八」の次に「諸國名」所收　〇三一―六五）

下學集　寫二卷一冊　二五

（文安元年東麓破衲）序　袋綴　改裝後補丹表紙　二七糎二〇・五糎　七行小雙行　七十四丁　外題左肩川瀨一馬筆「（書名同）室町鈔本」

（室町時代末期寫　下卷末「疊字門第十八」の次に「分毫字辨圖疊字門」所收　〇三一―イ六七）

下學集　寫二卷一冊　二六

文安元年閼逢困敦閏朱明林鐘下澣東麓破衲序　袋綴　栗皮色表紙　用紙裏打　二五・五糎一八・五糎　四周單邊二一糎一五糎　有界七行小雙行　六十丁

（室町時代末期寫　下卷末「疊字門第十八」の次に「諸國名・點畫少異字」所收　〇三一―イ六九）

下學集卷上　寫一冊　二七

文安元稔閼逢困敦閏朱明林鐘下澣東麓破衲序　袋綴　栗皮色表紙　二三・五糎一八糎　六行小雙行　三十三丁

奥書　旹永正十四丁丑季南呂上旬書之

（〇三一―イ四七）

故事雜說鈔　寫二十二冊　二八

藤川貞編　自筆　袋綴　毘沙門格子押出模様縹色表紙　二七糎一九・五糎　十一行　彩色插畫入　題簽左肩雙邊（刊）書名同、「藤川文庫」「清野文庫（紙票）」

奥書（第二十一冊）文政三とせ丙の辰夏の頃此書を／つゞる折から腰折の一首を／あだなりとあだに／見なくは／中〳〵に／むかしを今に／みるとおもへは

（第二十二冊）夢ならて見ぬ世の／ことをみつる／かな／むかし書おく／筆のすさみを／于時安政三年丙辰七月朔旦／整齋貞（花押）六十六歳

（第二冊内題の次行に「藤川弥次郎右衛門貞草稿」とあり　〇三一―イ七二）

所作入由來入

人倫訓蒙圖彙　五卷五冊　闕　二九

蒔繪師源三郎畫　袋綴　紺表紙　用紙裏打　二三糎一六糎　四周單邊二〇糎一四・五糎　上文十一至十三行　下圖（一二糎）題簽左肩雙邊「（書名同）一（―六）」

内題なし　柱刻「人倫一（—三・五・六）（丁數）」、「西莊文庫（小津桂窓筆「花五十□零本五補二合全七」と墨書せる紙箋に捺印）」

刊記　（第一冊見返四周單邊）（中央）人倫訓蒙圖彙／（右欄）元祿三庚午歳／（左欄は汚損により文字不見）

（巻四・七闕　巻三末「蒔繪師源三郎筆」の刻文あるものの同版後刷にして本書此七字なし　〇三一—イ二七）

〔節用殘簡〕　寫　一冊　三〇

袋綴　改裝後補栗皮色表紙　用紙裏打　二五糎一七糎　四周單邊二一糎一五糎　有界六行小雙行　六十四丁　内題なし

（室町時代末期寫　帙題簽左肩「古字書殘巻　室町末期寫」〔五〕覆盆子に始まり、六　樹之類、七　獸類、八　鳥之類、九　魚類、十　虫之類等至卅二　百首之題夏十首を存し前後闕　片假名附訓のみにて注なし「第七　獸類部山雀（ヤマカラ）鵠（コカラ）鷦（シヾウカラ）此三ツハ異本ニ有之」、「第十五食類」とある下に「付點心以下加之」、「第十九碁（ママ）之字碁經内ニ有之」とありてその條末に「由來古支多ク在之少々記之早」等の注記あり　〇三一—イ四五）

節用集　一冊　三一

袋綴　改裝後補黒表紙　一四糎二〇糎　用紙裏打　四周單邊一〇・五糎一六・五糎　九行約十字小雙行　九十一丁　題簽左肩雙邊（刊）村岡典嗣筆「節用集　全」　柱刻「（丁數）」、「村岡典嗣藏書」

（饅頭屋本　見返に村岡典嗣筆「饅頭屋本別本／東京文理科大學本を以て／寫す（昭和十二年六月）」の紙箋あり　即ち第九十一丁裏に「布施　賢縁（花押）」とある本により本書に缺けたる第一・三・九十・九十一丁計四丁影寫後補　〇三一—イ三三）

節用集　二巻　二冊　三二

袋綴　改裝後補黒表紙　二九糎二〇・五糎　用紙裏打　原寸二七糎　四周單邊二三糎一八・五糎　七行小雙行　題簽前遊紙左肩雙邊江戸時代初期筆「慶長年中節用集　全」　内題陰刻　柱刻「（書名同）上（下）（丁數）」、「村岡典嗣藏書」

（易林本　上巻第一丁、下巻第七十二終丁計二丁分を「慶長二丁酉易林誌」と刊語あるものによりて影寫後補　伊路波等の見出し、分類項目すべて陰刻　〇三一—イ三五）

節用集　二巻　二冊　三三

袋綴　改裝後補紺表紙　二七・五糎二〇糎　四周單邊二三・五糎　七行　外題左肩墨「活板節用集伊呂波韻字引」　柱刻「（書名同）上（下）」、「不忍文庫」「阿波國文庫」

刊語　有レ客携ニ鉅巻一曰此節用集十一字九皆贋也正ニ諸／於韻會禮部韻一諾則命レ工ニ刻レ梓焉如ニ愚夫一弄麞／何辨ニ字一畫之誤一哉惟取ニ定家卿假名遣一分一書伊／爲越於江惠之六隔一段一以返レ之云旹慶長二丁酉易林誌

刊記　（陰刻）洛陽七條寺内平井／勝左衛門休與開板

（易林本　表紙を包みし白紙左肩に屋代弘賢筆「慶長板　節用集　乾（坤）」とあり　〇三一—イ五三）

節用集　寫　二巻　二冊　三四

袋綴　改裝後補白表紙　二八糎二一糎　九行四段配字　外題後筆「（書名同）古抄本」、「艸山瑞光藏書之印（墨印）」「不忍文庫」「阿波國文庫」

（室町時代末期寫　上冊伊部天地門「伊勢」至久部天地門「月氏國」、下冊也部天地門「野馬臺」至「七十二候」を所收　〇三一—イ五五）

節用集　二巻　二冊　三五

袋綴　改裝後補碁盤目押出模様紺表紙　用紙厚手楮紙　二六・五糎二一糎　四周單邊二三・五糎一八糎　七行小雙行　題簽中央金紙後筆「往古節用　乾（坤）」　柱刻「（書名同）上（下）（丁數）」

刊語　有レ客携ニ鉅巻一曰此節用集十一字九皆贋也正ニ諸／於韻會禮部韻一諾則命レ工ニ刻レ梓焉如ニ愚夫一弄麞／何辨ニ字一畫之誤一哉惟取ニ定家卿假名遣一分ニ書伊／爲越於江惠之六隔一段一以返レ之云旹慶長二丁酉易林誌

識語　（上冊）春知房之

（下冊）文化拾迄貳百十七年成

（易林原刻本　伊路波等の見出し陽刻、分類項目もまた陽刻にして朱印枠を以て圏む　ビブリア第十一號所収島居清「易林本節用集について」—参照　〇三—イ七五）

節用集　寫　二巻　一冊　三六

綴葉裝　金襴表紙　一七・五糎一三・五糎　四周單邊一四・五糎一二・五糎　有界八行小雙行　百六十九丁（巻首に別紙補丁後筆書入四丁）　題簽中央後補「（書名同）上下全」、「森氏開萬冊府之記」「文彦」等

識語　此書往歲於西備福山市上ノ骨董舗購之節用集有數ノ本世以饅頭屋本爲最古而ノ此本則迨出其右如鶯宿梅ノ馬醉木毒掠之類他書所ノ未言者往ゝ而有益成于釈ノ氏之手者也凡以伊呂波爲之ノ部分者以此爲蒿矢ノ　末尾載京都地名前有目ノ錄自伊呂波至世須京今俗間ノ幼童筆學先授以伊呂波至ノ世須京者蓋循用此目錄也ノ明治丙子秋日書於玉池之ノ凝翠軒古稀老人枳園（印）

（見返附箋朱書）此書中百四十葉の表ノ末行ニノ右建仁前住月舟和尚所誌也ノとあり月舟和尚ハ數度建仁寺住持となりしがノ其初住ハ永正七年なり此書の時代知るべしノ大正三年十月　大槻文彦記（印）

（同墨書）枳園ハ福山藩醫森養竹立之ナリ

（枳園本　室町時代末期寫　橋本進吉著「古本節用集の研究」—参照　〇三—イ七九）

節用集巻下　寫　一冊　三七

袋綴　改裝後補紺表紙　二六糎二〇・五糎　四周單邊二一・五糎一七・五糎　有界十行小雙行　四十九丁　外題中央「節用集」（裏表紙）中央「節要集下巻」

識語　（表紙右下外題同筆）江左　空念寺藏

（裏表紙見返本文同筆）紙數四十九枚ノ江州　空念寺

（裏表紙）淡海堅弧閑ノ藏本ノ江左空念寺藏

（室町時代末期寫　計部天地契丹國より始まり九ゝ數に終る　小口書「節用下」上欄に天地・時節・草木・人倫等の目を朱書す　國語學第五輯所収山田忠雄「橋本博士以後の節用集研究」—参照　〇三—イ四一）

増刊下學集　寫　一冊　三八

綴葉裝　改裝後補老竹色絹表紙　見返金銀切箔散茶色紙　用紙鳥の子　一七糎一三・五糎　七行小雙行　墨附百二丁（巻初遊紙三丁後補）　題簽中央後補絹無記遊紙第三丁中央「下學□」、「斑山文庫」

識語　（遊紙第一丁に紙筴）下學集文安元年編輯今文政十一年迄三百八十五年ノ飛鳥井權大納言雅親卿ノ法名榮雅ノ寛正應仁文明年間也今文政ヨリノ凡三百五六十年ニアリ

（室町時代末期寫　包紙中央題簽に「飛鳥井家御筆下學集」とあり「飛鳥井殿榮雅増刊下學集」の古筆極札を貼附す　部門名は朱丸印にて圏む　伊部「伊勢」に始まり京部「京師九陌名」に終る　國語學第五輯所収山田忠雄「橋本博士以後の節用集研究」—参照　〇三—イ四二）

林園月令　寫　十六冊　闕　三九

館柳灣著　自筆　伊澤信厚校　袋假綴　共表紙　二四・五糎一七・五糎各冊不同　左右雙邊一六・五糎一二糎　十行約二十一字罫紙　外題「（書名同）（巻數）」、「五峯秘料」

識語　（巻二表紙右肩）附錄書板ス

（巻四）同上

（巻六）再按畢ノ附錄板下濟

（巻八）附錄書板スム　（同裏）六冊揃　亥七寫□

箱書　明治乙酉猶清和月ノ後學五峰坂口恭拜題（印）ノ林園月令藥本歌（歌詞略）

（内題の次行に「新潟館機樞卿　纂輯ノ編山伊澤信厚朴父　參校」とあり　十二ケ月分八巻八冊、外に附錄巻二蕪、附錄巻二蝶、附錄巻二蜂、附錄巻四螢、附錄巻四杜鵑、附錄巻四蟬、附錄巻六蟋蟀、附錄巻六雁、附錄巻八鴛鴦の八冊を附す　〇三—イ七七）

倭名類聚鈔　二十巻　五冊　四〇

源順著　那波道圓校刊　元和三年丁巳冬十一月日羅浮散人序　凡例　自序　袋綴改裝後補毘沙門格子地牡丹唐草模様丹行成表紙　二七糎一八・五糎　四周雙邊二三・五糎一六糎　九行十六字和訓小雙行　序題「倭名鈔」　凡例題「新刻倭名類聚鈔」　柱刻黒口「和名巻一（—巻二十）（丁數）」、「性應寺（墨印）」「西荘文庫（小津桂窓筆「花三十四全五」と墨書せる紙筴に捺印）」

識語　（第五冊裏表紙見返）本居春庵所藏和名抄　書林大坂心齋橋筋順慶町　澁川清右衛門ノ板也　其挍合本巻尾云／安永二年癸巳十二月以活板本挍合之附呉是也／同八年己亥十二月十日以古寫本再挍合早　本居宣長（花押）／附説ハ別抄之云
和名類聚鈔本居宣長當註□□□也
（古活字版　所々イ本古本を以て朱墨の校合書入あり　〇三一―イ二九）

倭名類聚鈔　二十巻　十冊　四

源順著　那波道圓校刊　元和三年丁巳冬十一月日羅浮散人序　凡例　自序　袋綴　改裝後補代赭色包表紙　二七・五糎二〇糎　題簽左肩後補墨「和名鈔（目録）（巻數）」、「靜觀亭圖書記」「紀」等
識語　以丙申年仲冬隅東日下部氏所傳寫之本一挍畢
（古活字版　第一冊表紙右肩紙簽墨書「已十冊」各巻初に目次を補記　全巻朱書校合を施す　巻二十末補紙五丁に識語同筆にて「引用書目録」「天文中傳寫本跋尾云／第一　誂全宗書之　天文丙午天／第二　誂全宗書之　天文丙午天／第三　誂和仲東靖書之　天文丙午天／第四　誂奔俊書之　天文丙午天／第五　誂伊舜上人書之　天文丙午天」を移寫　〇三一―イ三一）

倭名類聚鈔　二十巻　十冊　三

源順著　那波道圓校刊　元和三年丁巳冬十一月日羅浮散人序　凡例　自序　袋假綴　改裝後補毘沙門格子地唐草模様桝皮色行成表紙　間紙を挟む　三〇糎二〇・五糎　外題左肩墨「和名鈔一之二（一十九之二十）」
識語　（狩谷棭齋筆朱書）以温古堂所藏鈔本比讎畢文政癸未八月三日　棭齋望之
（同）以伊勢祠官中西信慶所遺古鈔本校了乙酉六月晦
（古活字版　本文上欄外に伊勢本を以て棭齋筆朱書校合多し　〇三一―イ三一）

和名類聚抄　寫　一冊　闕　三

源順著　蝴蝶裝　茶色表紙　二五糎一五糎　四周單邊二〇糎一二・五糎　押界七行
五段配字小雙行　百十七丁　外題左肩後筆「和名類□」　内題「和名類聚抄（此一字後筆）　巻第六」、「高山寺」「自愛珍書不許他出」
識語　（表紙）地藏院
（高山寺本　平安時代末期寫　巻六郷里部至巻十居處部を存す　昭和七年東京帝國大學に於て複製　ビブリア第十七號所収秋本吉郎「和名類聚抄二十巻本の問題点と高山寺本」―參照　〇三一―イ八）（重文）

○

永樂大典　寫　八巻　四冊　闕　四

解縉（明）等奉勅撰　唐袋綴　茶黄色綾表紙　用紙白棉紙　五〇・五糎三〇糎　四周雙邊三五糎二二糎　八行大十五字小雙行三十字朱罫紙　題簽左肩青布臺に表紙同綾を貼附雙邊「（書名同）　（巻九百八之九百九）（巻五千四百五十五・巻一萬三千四百五十一之一萬三千四百五十六）・（巻一萬四千之一萬四千一百二十四）（巻一萬四千之一萬四千一百二十五）」　副題簽右肩青絹臺に表紙同綾を貼附正方形「二支九十五（十四爻十七・二寘一百三・四齊五十）」　柱心「永樂大典（巻數）（丁數）」
（巻九百八・九百九、五千四百五十五・五千四百五十六、一萬三千四百五十一・一萬三千四百五十二、一萬四千一百二十四・一萬四千一百二十五計八巻四冊を存す　各冊末補紙に纂修列銜名を記す「二支九十五」に「重録總校官侍郎　臣高拱／學士　臣瞿景淳／分校官編修　臣陶大臨／書寫儒士　臣杜美／圈點監生　臣叢仲楫／臣徐璜」、「十四爻十七」に「重録總校官侍郎　臣高拱／學士　臣瞿景淳／分校官論德　臣張居正／書寫監生　臣章仲京／圈點監生　臣蔣洲／臣蘇泰」、「二寘一百三」に「重録總校官侍郎　臣秦鳴雷／學士　臣胡正蒙／分校官修撰　臣諸大綬／書寫儒士　臣胡邦寧／圈點監生　臣林汝松／臣董仲帥」、「四齊五十」に「重録總校官侍郎　臣秦鳴雷／學士　臣王大任／分校官編修　臣張四維／書寫儒士　臣章必進／圈點監生　臣傅道立／臣許汝孝」とあり　巻五千四百五十五・六に乾隆三十八年謄録簽二葉を附す　引用書名及圈點は朱書す　〇三一―イ三三）

纂圖增新羣書類要事林廣記　六冊　四五

陳元靚（宋）著　唐袋綴　改裝後補水色表紙　用紙裏打　二五糎一六糎　四周雙邊　二一糎一三糎　有界十六行三十八字　題簽左肩室町時代筆「事林廣記前集（後・續・別・新・外集）」　目録題同上　柱刻黒口「事林前集（一外集）（丁數）」
刊記　（前集總目の條末木記）　弘治辛亥季秋／雲衢菊莊新刊
（明版　〇三一―イ三五）

重編詳備碎金　二卷　二冊

張雲翼增編　嘉熙戊戌中秋日雙桂書院序　唐袋綴　改裝後補鶯色表紙　間紙を挟む　二四・五糎一七糎　左右雙邊一九・五糎一三・五糎　有界十行十八字　題簽左肩後補和字墨「宋槧重編詳備碎金　乾(坤)」(乾坤の文字は題簽の上に更に別紅紙を貼附して記す)」　柱刻白口「碎金上(下)　(丁數)」　刊記　(上卷末)　臨安府清河坊北街西面／東雙桂趙宅書籍鋪刻梓　(宋)版　闕畫—貞　徵　癥　墩等　序題下に「增入正音其元本注字／今作大字甚便於句讀」とあり　上卷第二十七・二十八丁計二丁闕　〇三二—イ一七)　四七

初學記　三十卷　十二冊

徐堅(唐)等奉勅撰　安國(明)重校刊　嘉靖辛卯歲夏六月吉旦秦金重刊序　紹興四年歲次甲寅正月上元日劉本序　俞泰後記　唐袋綴　砥粉色表紙　三〇糎二〇糎　左右雙邊二〇・五糎一五糎　有界九行十八字小雙行二十四字　題簽左肩雙邊「(書名同)(卷一之卷二(一—卷二十九之卷三十)(卷數後筆)」(第四・六冊題簽闕)　柱刻「安桂坡館　初學記卷一(一—三十)　(丁數)　(刻工名)」、「常山人」「一清字山澄仲」等　刊記　(目録條末)　大明嘉靖辛卯錫山安國重校刊　(各卷内題下)　錫山安國校刊　(明版　刻工名—方　可　其　范　球　章景華等　〇三三—イ九)　四八

初學記　三十卷　十二冊

徐堅(唐)等奉勅撰　紹興四年歲次甲寅正月上元日劉本序　唐袋假綴　砥粉色表紙　二八糎一八糎　左右雙邊二一糎一五・五糎　有界九行十八字小雙行二十四字　外題左肩墨「(書名同)　(卷數)」　右方外題同筆「天部上下」「歲時部」等所収篇名を墨書　柱刻「九洲書屋　初學記卷一(一—三十)　(丁數)　(刻工名)」、「炳卿珍藏舊槧古鈔之記」　刊記　(目録條末)　大明嘉靖辛卯晉陵楊鑑重刊　(各卷頭)　晉陵楊鑑重刊　(明版　刻工名—王　如　唐　昂　瑞　何鳳等　別紙墨書謄寫「嘉靖甲午歲夏六月吉旦重刊初學記序」三丁、「嘉靖十三年歲甲午冬十月吉日晉藩重刊初學記引」一丁計四丁を附す　小口書「初學記(冊數)」　〇三二—イ三)　四九

太平廣記　五百卷　四十冊

李昉(宋)等奉勅撰　太平興國三年八月十三日李昉等上表　嘉靖丙寅正月上元日談愷序　唐袋綴　卵色表紙　二五糎一八糎　四周單邊二〇・五糎一五糎　有界十一行二十二字　外題(第一冊のみ)左肩墨「(書名同)　目錄」　柱刻白口「太平廣記　(卷數)　(丁數)」　刊語　(目録卷一初)　明資善大夫都察院右都御史談愷校刊／姚安府知府奉汴德州知州強仕石東山人唐詩同校　(明木活字版　〇三二—イ二)　五〇

白氏六帖事類集　六卷　一冊　闕

白居易(唐)著　唐袋綴　改裝後補紺表紙　二九・五糎二〇糎　左右雙邊二二糎一五糎　有界十三行二十六至二十九字小雙行三十四五字　五十八丁　外題左肩朱「白氏六帖廿二之廿六」　柱刻白口「帖十(十一)　(大小字數)　(丁數)　(刻工名)」、「金澤文庫(墨印)」「船橋藏書」「子々孫々其永寶用」　箱書　宋板　白氏六帖事類集　零本六卷　一冊　崇蘭館藏　(宋版　卷二十二至二十七を存す　卷二十七は第一丁のみ存して以下闕　刻工名—和　徐　益　文立　余才　余全　陳通　魏正　詹元　何中　鄭林　宋琳　林□　□邦　朱□　袁□等　闕畫—敬　殷　弘　玄　恒等　〇三二—イ九)(重美)　五一

白氏六帖事類集　三十卷　十八冊

白居易(唐)著　唐袋綴　改裝後補金切箔散黄表紙　間紙を挟む　二八糎一八・五糎　左右雙邊二二・五糎一五糎　有界十三行二十六七字小雙行三十至三十五字　柱刻白口「帖冊一(一—六)　(丁數)　(刻工名)」、「趙氏家塾藏書」「古吳王氏」「中南山人」「竹塢」「玉蘭堂」「季振宜藏書(墨印)」「滄葦」「乾學」「徐健菴」「翼之珍藏」「雙鑑樓所藏宋本」「藏園秘笈」「龍龕精舍」等　識語　(第一冊表補紙)　藏園主人南游吳會頃自天平看紅葉還出視新収宋槧白帖事類集余／衰年感逝對此古懽亦不覺目眵之開明也昔陸氏酛宋樓所藏北宋本題曰／

類聚行欵頗似疑是書當時詞賦取資故代有編刻名異而實則同然提要據／漁隱叢話謂白氏之書南渡初尚無傳本則此本在當時流傳即鮮今日安得不／稱希世之寶哉癸亥十月莫棠讀記（印）

余陳県陝西時得宋刻白帖寄獻　張督部師〻得書／喜甚親筆致謝閱廿餘年此書爲／沅齋尚書所得頃間出眎感喟交并太傅碎金曾過／門生之眼　故人得寶何傷楚客之弓聊綴短言歸諸／鄴架　甲子莫春增祥跋　紙有餘幅更坿一詩

三月二十一日沅叔招同春餘少朴鐵梅味雲南孫鑑秋子安芝飯即席賦贈／軟紅塵裏獨蕭閒藏篋欣窺豹一斑自有艸堂超秀野人言風格似樊／山（子培初見君即曰君甚似樊〻山）學宗从漢先□上身老千元百宋間口眼今宵同一飽魚／蔬風味出鄉關　沅齋仁兄正和　館愚弟樊增祥

（第一冊裏補紙）癸亥十二月初十日觀于京師洹上袁克文

癸亥歲莫重來都下楊味雲丈与陳仲騫閔葆之陸彤士／三子邀集雲在山房座上藏園主人出示此冊歡熹讚歎／莫能自己茲五年來旡此樂也吾簪藏北宋刊周禮及北／山録行格畧似厥槧刊工尤相類近覩今思往亦樂亦感而／雲烟過眼世事都如是耶主人癖宋槧若性命所藏精／本不忍或失今得此重寶當益珍持愛護矣　克文又記

同觀者仁和呉用威呉縣孫潤宇無錫侯毅侯贛縣陳任中江都閔爾昌太倉／陸增姨無錫楊壽枏

（宋版　刻工名—陳忠　陳珍　陳高　施俊　施薀　蔣暉　朱因　方成　劉正　劉仲　劉擧　胡正　王時　王珍　丁珪　毛諒　余坦　余正　梁濟　徐侃　徐定　徐顔　李施　李德　洪先　洪新　洪茂　方師顔等　闕畫—構等　紙背計二十六丁分に嘉定六至八年の鄞江鹽税酒税公牘文あり　民國二十二年影印本及びビブリア第八號所収金子和正「白氏六帖事類集紙背の宋代公牘斷簡」—參照　〇三一—イ二）

（重文）

叢書・全集

聞まゝの記　同續　寫　五十九冊　五二

木村默老著　袋綴　澁引卵色表紙　二七糎一九・四糎　約十行　挿畫入　題簽左肩（刊）單（雙）邊（第一至第十四下冊瀧澤馬琴筆・第十五冊以下小津桂窓筆）「（書名同）秘錄（卷數）」等　扉題（同上筆）「（書名同）秘錄（卷數）」　内題なし、「瀧澤文庫」「西莊文庫（小津桂窓筆「花貳百三十九全三十四」及び「續聞儘記」第一冊（通冊第三十五冊）左肩に同筆「花貳百四十全廿五」と墨書せる紙箋に捺印）」

識語　（第三冊末紙箋）（瀧澤馬琴朱筆）此書一友人所輯録也嚮得看三卷速謄寫是已／後又寫得三卷餘卷尚有漸次可大成云篇中渉禁／忌者間有之因藏於秘篋以爲秋夕冬夜之友耳

（第五上冊）（瀧澤馬琴朱筆）原本此下ニ編者の増補七十餘頁を添える甲午の夏月／その増補を借謄したれとこの巻製本の後年にて楮數も／いたく多くなるをもてそハ別巻にしたり此下第十三の巻即是なり

（第五下冊）（瀧澤馬琴筆）是書大保壬辰夏月借謄一友輯録之寫本／半閒道人

（同末）（瀧澤馬琴筆）この書天保三年冬十月一知己の所藏を借謄す／追加の書画二十二頁は四年癸巳の秋七月下浣／再同人に借りて予みつから寫しとりたる也

（第九冊）（瀧澤馬琴筆）小島蕉園墓碑一編あり傭書山科生嘗写し得て藏弆／すとて予か爲に又謄寫して贈れりよりて篇左に剿入してもて／本集の闕を補ふ蕉園の考唐衣橘洲翁天明寛政の間狂／歌をもて世に知られたり和漢を兼學して且よく源語を講しにき／著すところ狂歌初心抄世に行はる予は橘洲と一面の舊識あり（下略）癸巳秋九月既望　神田老逸識

（第十三上冊）（瀧澤馬琴筆）原本この八十一頁を第五の巻に増補せられ／たりしかれとも余か所藏は第五之巻を嚮に製／本したれは別に一巻にして第十三巻とす／この下に附け増しぬる三十三頁も編者の／追て他巻へ増入せしを併してこゝに剿／入す巻の數の原本と同しからさる事あるは／かゝる故なり／甲午肇秋下澣製本のをりに／しるす

（第三十冊末）（小津桂窓筆）此聞まゝの記は讃岐國高松家の老臣／木村亘（號默老）の筆記なりいまた全備せさる時／瀧澤篁民（号馬琴）かうつし置たるをハやくゆつり／うけたりその後黙老伊勢參／宮の時松坂に一宿せる時知人となりぬそのをり此／書のことを聞しかハその後書集たることゝもあま／たのよしいへるによりてその時約して其後全／備の目録をこひて所藏本と挍してもれたる／条のうつしを風のたよりにこひやう／＼全備の／書となりぬかるかゆゑに元本とハ目録もたかへれハ／あらたに目録一冊をそへ全部三十四冊となし／そのよし巻末にかきつくることしかり／弘化四年十月　雜學菴主人（印）

（正篇三十四冊内目録一冊、續編二十五冊内目録一冊　正篇第一至第十四下瀧澤馬琴手入本　巻中馬琴自筆校正増補記事多し　〇八一—イ三）

國籍類書　寫　二百六十八冊　（五二―一八九）

綴葉裝　各種色替模様入表紙　一七糎九・五糎　用紙鳥の子　約六行　題簽（又は外題）左肩筆者交筆、「松平家藏書印」
（元和・寛永期寫　竹柏園藏書志―參考　〇八一―イ三）　所收細目次の如し

*寶物集　三卷（通卷第一至三冊　以下同）　五三

平康頼著
奥書（第一・二冊）寛永三／刁五月四日　信樂寺
（第三冊）寛永三年／寅壬四月廿一日　常榮寺
（片假名交り）

*承久記　二卷（第四・五冊）　五四

奥書　右兵乱之記行于世年尚矣故本／有廣略條有脱落今也集於多／本以一挍畢于時元和四戊午曆孟夏中十日
（片假名交り）

*伊曾保物語　三卷（第六至八冊）　五五

*雜草集（第九冊）　五六

*女郎花物語　二卷（第十・十一冊）　五七

*年代記（第十二冊）　五八

（記事寛永七庚午年まであり　元和丁巳三年迄と以降と筆致を異にす）

*新撰菟玖波集（第十三冊）　五九

宗祇等編　序

*棠陰比事　三卷（第十四冊）　六〇

桂萬榮（元）著　田澤（元）校正　至大元年孟冬吉日田澤序　歳在重光協洽閏月望日自序
（句讀訓點を施す）

*古織傳（第十五冊）　六一

〔古田織部〕傳

*清少納言枕双紙（第十六至十九冊）　六二

清少納言著

*つれ〴〵の抄（第二十・二十一冊）　六三

壽命院立安著
（原に「此抄者壽命院立安法／印凌醫家救療之暇廣／見遠聞而漸終篇予披／覧最奇之餘揮短毫／聊録支狀耳／慶長第六辛丑孟冬九日　也足叟素然」と奥書あるものの寫　片假名交り）

*下學集（第二十二・二十三冊）　六四

文安元稔閼逢困敦閏朱明林鐘下澣東麓破衲序
奥書（押紙）下學集下卷／校合早　瑞應寺
（下卷末に「點畫少異字」の一項を加ふ）

*嬰兒抄（第二十四・二十五冊）　六五

*保暦間記（第二十六冊）　六六

（漢字に訓或は濁點を施す　片假名交り）

＊六家集抄　（第二十七・二十八冊）　六七

題簽「月清抄一（二）」
奥書　元九曆癸亥／六月十二　曾我孝興
（原に「本云右兩冊愚老令抄／出也加挍合早　牡丹花在判」と奥書あるものの寫
「月清」・「拾玉」・「長秋」・「山家」・「拾遺」・「壬二集」抄を所収）

＊文字鑰　二卷　（第二十九・三十冊）　六八

＊竹齋東下　（第三十一冊）　六九

＊辨慶物語　（第三十二・三十三冊）　七〇

＊さゝめごと　（第三十四冊）　七一

心敬著
（原に「寛正第四曆蘆資上（ママ）句紀州／田井庄（ママ）想社參籠中或仁連／歌竹馬用心之一篇
頻憤望／之間依難去此両帖頓任短筆／一覽之後則可被投爐中也殊／此二帖悉以雖
可有用捨先草／案被奉所望者也」と奥書あるものの寫　木藤才藏著「校本さゝめ
言」—參照）

＊向上鉾　（第三十五冊）　七二

＊倭漢朗詠集　二卷　（第三十六・三十七冊）　七三

藤原公任編

＊伊勢物語聞書　（第三十八冊）　七四

＊うつほ　（第三十九至五十八冊）　七五

（本文同筆にて　異本校合あり）

＊平家物語　十二卷　（第五十九至七十冊）　七六

奥書　（第五十九至六十三冊）　寛永三年／寅五月二日　瑞應寺
（第六十四至六十八冊）　寛永三年寅壬四月廿二日　忠光寺
（第六十九・七十冊）　寛永三年寅五月朔日　梅天
（流布本　片假名交り）

＊保元物語　三卷　（第七十一至七十三冊）　七七

奥書　（第七十一冊）　寛永三年／寅壬四月廿一日　專念寺
（第七十二冊）　寛永三年／寅壬四月九日　明宗寺
（第七十三冊）　寛永三年／寅壬四月廿二日　桐岳寺
（片假名交り）

＊平治物語　三卷　（第七十四至七十五冊）　七八

奥書　（第七十四冊）　寛永三年／寅壬四月六日　常榮寺
（第七十五冊）　寛永三年／寅壬四月廿一日　專念寺
（片假名交り）

＊玄智集作之醫書　七冊　（第七十六至八十二冊）　（七九—八四）

中林六庵玄智著　題簽左肩書名同　所収細目次の如し

＊古今和醫保名歌括　二卷　（第七十六・七十七冊）　七九

（原に「右此一部者河毛備後守重成卿／醫之道不能博學捷徑之術／數歲懇望之間
雖卑學時之／笑草養生衆論ヲ大和歌和／眞字詞童蒙之耳ニ至マテ／入易解安樣　哥
之道文字之／置所首尾雖難弁之卷首／精要之術者當流一溪尊翁（中略）慶長十三歲舍戊
申孟秋／延壽院法印玄朔門下／襲序雲陽之邑茂庵玄智」と奥書あるものの寫）

*庖人集要宜禁本草之歌　（第七十八冊）　八〇

（原に「此食物禁宜温平冷寒熱酸／苦甘辛鹹之功能者諸食物本／草之抜粋中略記録之藥／品三百八十有種之歌二千首腰／折諺任先哲聚類綴之事一／品一切不レ能自作者也門下嘲一／笑ゝゝ／于時慶長十二歳舎林鐘上旬／中林六菴／玄智」と奥書あるものの寫）

*新撰抜粋證類本草和歌　坤　（第七十九冊）　八一

（原に「前略慶長拾四歳舎己酉孟夏之吉／延壽院法印玄朔門下／襲序雲陽之邑茂庵玄智」と後序あるものの寫）

*拾芥延壽要護集　（第八十冊）　八二

*古今拾的診候脉訣和歌　（第八十一冊）　八三

（原に「右此三十一脉之歌七表五十六首／八裏六十四首九道四十六首／七死之歌十四首總而百八十首／以察病指南閣經下文備証／之矩規和眞字卅一字之腰折／諺而已綴之者也雖三一言半句二／不能自作桂堂之聖言之／抜粋也下略」と奥書あるものの寫）

*正紛十二經脉俞穴鍼灸的法之和歌集　（第八十二冊）　八四

序題「正紛俞穴鍼灸的法」

*信長記　十五巻　（第八十三至九十二冊）　八五

太田和泉守牛一著

奥書（押紙）（第八十三冊）第一冊　筑山加兵衛
（第八十四冊）第二冊　坂井清兵衛
（第八十五冊）第三冊　松本平藏
（第八十六冊）第四冊　佐ゝ駒之介
（第八十七冊）第五冊　小倉安左衛門
（第八十八冊）第六冊　山本弥三郎
（第八十九冊）第七冊　伊達作左衛門
（第九十冊）　第八冊　高山作之丞
（第九十一冊）第九冊　礒尸加左衛門
（第九十二冊）第十冊　牧新九郎

*太平記鈔下卷　（第九十三冊）　八六

世雄房自性著　題簽左肩「太平記之抄十九之四十　零本（此二字別筆）」
奥書　寛永三年壬四月廿一日　長壽院
（片假名交り　巻末に「共二」とあり）

*太平記音義　（第九十四冊）　八七

奥書　寛永三年ノ寅壬四月七日　一乘坊

*太平記のおこり　（第九十五冊）　八八

外題「太平記興起（下に）共四」

*日本書紀神代卷抄　二巻　（第九十六至九十八冊）　八九

題簽「日本書紀上（一下）」
（原に「先年雖令抄出爲讓与／神祇少副卜部兼右重／加琢磨書之同文字讀／清濁以朱指聲訖卜氏／秘説不違背一句於纂／疏者私書加之爲子孫／龜鏡輙勿出閫底矣／大永七年正月卅日終下巻功／侍從三位清原宣賢」と奥書あるものの寫　片假名交り）

*太平記　三十二巻　闕　（第九十九至百十五冊）　九〇

奥書　（第九十九冊惣目録劔之巻）　旹寛永三暦／三月十七日佐ゝ駒之助書之
（第百冊巻一・二）寛永三年／寅三月十日　梅天

（第百一冊巻三・四）寛永三年／寅三月十三日　長壽院
（第百二冊巻五・六）寛永三年／寅二月廿九日　栗栖久次郎
（第百三冊巻七・八）寛永三年／寅三月十日　成安寺
（第百四冊巻九・十）寛永三年／寅四月三日　忠光寺
（第百五冊巻十一・十二）寛永三年／寅三月十三日　長壽院
（第百六冊巻十七・十八）寛永三年／寅三月廿四日　窪田角之丞
（第百七冊巻十九・二十）寛永三年／寅四月九日　横田嘉之介
（第百八冊巻廿三・廿四）寛永三年／寅四月三日　忠光寺
（第百十冊巻廿九・三十）寛永三年／寅三月十日　成安寺
（第百十一冊巻三十一・三十二、第百十二冊巻三十三・三十四、第百十三冊巻三十五・三十六）寛永三年／寅四月三日　忠光寺
（第百十四冊巻三十七・三十八）寛永三年／寅三月十六日　瑞應寺
（巻十三至十六・二十一・二十二・二十七・二十八計八巻闕　片假名交り）

＊源平盛衰記　四十八巻　（第百十六至百四十冊）　九

奥書（押紙）（第百十七冊巻一之二）盛衰記巻一ノ二／挍合早　六浦清五郎
（第百十八冊巻三之四）盛衰記巻三ノ四／挍合早　懸下清介
（第百十九冊巻五之六）盛衰記巻五ノ六／挍合早　小嶋傳次
（第百二十冊巻七之八）盛衰記巻七ノ八／挍合早　井川九三郎
（第百二十一冊巻九之十）盛衰記巻九ノ十／挍合早　牧少九郎
（第百二十二冊巻十一之二）盛衰記巻十一ノ十二／挍合早　野ミ村辰之助
（第百二十三冊巻十三之四）盛衰記巻十三ノ十四／挍合早　高屋八藏
（第百二十四冊巻十五之六）盛衰記巻十五ノ六／挍合早　横幕忠三郎
（第百二十五冊巻十七之八）盛衰記巻十七ノ八／挍合早　上田助兵衛
（第百二十六冊巻十九之二十）盛衰記巻十九ノ二十／挍合早　小池勘介
（第百二十七冊巻廿一之二）盛衰記巻二十一ノ二／挍合早　越智嘉左衛門
（第百二十八冊巻廿三之四）盛衰記巻二十三ノ廿四／挍合早　青木作太夫
（第百二十九冊巻廿五之六）盛衰記巻二十五ノ六／挍合早　大迫甚之丞
（第百三十冊巻廿七之八）盛衰記巻二十七ノ八／挍合早　三輪甚平
（第百三十一冊巻廿九之卅）盛衰記巻二十九三十／挍合早　鵜飼角介
（第百三十二冊巻卅一之二）盛衰記巻卅一ノ二／挍合早　鰐淵寺内本覺坊
（第百三十三冊巻卅三之四）盛衰記巻卅三ノ卅四／挍合早　鰐淵寺内侍勝院
（第百三十四冊巻卅五之六）盛衰記巻卅五ノ六／挍合早　鰐淵寺内櫻本坊
（第百三十五冊巻卅七之八）盛衰記巻卅七ノ卅八／挍合早　鰐淵寺内宝壽院
（第百三十六冊巻卅九之四十）盛衰記巻三十九ノ四十／挍合早　鰐淵寺禅宝坊
（第百三十七冊巻四十一之二）盛衰記巻四十一ノ二／挍合早　清水寺
（第百三十八冊巻四十三之四）盛衰記巻四十三ノ四／挍合早　清水寺
（第百三十九冊巻四十五之六）盛衰記巻四十五ノ六／挍合早　書門院内大納言
（第百四十冊巻四十七之八）盛衰記巻四十七ノ八／挍合早　忠光寺
（第百十六冊總目録　片假名交り）

＊新刊吾妻鏡　五十二巻　（第百四十一至百六十五冊）　九

題簽「吾妻鏡（巻數）」
奥書（第百四十一至百四十七冊目録幷序巻一至九）寛永四年／卯正月廿六日　瑞應寺
（第百四十七至百五十二冊巻十至十九之廿一）寛永四年／卯二月十六日　忠光寺
（第百五十三冊巻二十二之四）寛永三年／寅十二月廿七日／窪田角之丞書之
（第百五十四冊巻二十五之六）此ノ一冊ハ執筆佐ヶ布村ノ眞蹤／寛永四年／卯二月六日
（第百五十五冊巻二十七之九）寅十二月廿四日　信樂寺書
（第百五十六冊巻三十之一）寛永三年／寅十二月廿九日／誓願寺書之
（第百五十七冊巻三十二之三）寛永四年／卯二月十七日　六浦清五郎書
（第百五十八冊巻三十四之五）寅ノ十二月書之　片岡勘平
（第百五十九冊巻三十六之七）寛永四年／卯二月五日　高屋八藏／書之
（第百六十冊巻三十八之四十）寛永四年／卯正月廿一日／三輪甚平書之
（第百六十一冊巻四十一之二）寛永三年／寅十二月廿五日／清光院書之
（第百六十二冊巻四十三之六）寛永四年／卯正月七日　桐岳寺書之
（第百六十三冊巻四十七之八）寛永三年／寅十二月廿七日／高屋八藏書之
（第百六十四冊巻四十九之五十）寛永四年／卯二月七日大納言書之
（第百六十五冊巻五十一之二）寛永三年／寅十二月廿日　眞蹤書之
（原に「慶長十稔星集乙巳／春三月日／前龍山見鹿苑承兌序　寛永甲子之春／羅洞

散人／林道春跋」「寛永三年三月日／菅聊卜刊正」とあるものの寫）

*信長記　十五巻（第百六十六至百七十四冊）　九三

太田和泉守牛一著　小瀬甫庵道喜重撰〔甫庵〕序
（片假名交り）

*畧韻・新式部類抄　（第百七十五冊）　九四

*大坂物語　（第百七十六冊）　九五

*愚問賢注　（第百七十七冊）　九六

頓阿著
（原に「貞治第二之暦姑洗強／半之春爲消永日之懶睡／不顧後時之傍観録一通／遣頓公中略故銘愚問賢注而已／五湖釣翁御判」と奥書あるものの寫）

*大和物語　（第百七十八冊）　九七

*山谷演語之詩抄　（第百七十九冊）　九八

自序　題簽「山谷之詩」
（片假名交り）

*あそことはの事　（第百八十冊）　九九

（外題「松前ノ言」　佐佐木信綱編「百代草」—參照）

*明暗對話　（第百八十一冊）　一〇〇

*おとり　（第百八十二冊）　一〇一

（藤田徳太郎著「近代歌謡之研究」—參照）

*黄石公三畧　（第百八十三冊）　一〇二

四周單邊　有界六行小雙行　題簽「三畧之抄」
（片假名交り　巻末に唐年代記歴代を附記）

*鷹の書　（第百八十四冊）　一〇三

*山家記　（第百八十五冊）　一〇四

木下長嘯子著

*聽傳書　（第百八十六冊）　一〇五

（記事年代寛永三年に及ぶ）

*西明寺製作書　（第百八十七冊）　一〇六

*江戸百首　（第百八十八冊）　一〇七

高階忠晴著

*百番謡　（第百八十九冊）　一〇八

*源氏のおこり　（第百九十冊）　一〇九

*遠嶋百首和哥　（第百九十一冊）　一一〇

後鳥羽院御製　題簽「隠岐百首」

*職原抜尽　（第百九十二冊）　一一一

*延喜聖帝（第百九十三冊） 一三

*字書 總目三十六（第百九十四冊） 一三

奥書 寛永三年／寅壬四月廿九日 久成寺

*源平之系圖（第百九十五冊） 一四

*法語（第百九十六冊） 一五

*高野大師行狀圖畫 十卷（第百九十七冊） 一六

題簽「弘法緣起全」

*軍林兵人寶鑑 二卷（第百九十八冊） 一七

施子美（金）著 貞祐壬午上巳江伯虎序 題簽後補「軍林寶鑑上（下）」

*軍政集 二卷（第百九十八冊の内） 一八

題簽後補「（書名同） 上（下）」

*老後女訓集（第百九十九冊） 一九

自序

*住吉物語（第二百冊） 二〇

*東齋隨筆（第二百一冊） 二一

一條兼良著

*東方朔置文 年代記（第二百二冊） 二二

（巻末に文武天皇大寶三年より元和に至る年紀・「名乘字」・「元和九年三月十九日妙心寺蟠桃院一宙和尚辭世」等を附記す）

*紋盡（第二百三冊） 二三

*管蠡抄（第二百四冊） 二四

*聖德太子憲法（第二百四冊の内） 二五

*建武式目（第二百四冊の内） 二六

*ときはのうは（第二百五冊） 二七

*白砂人（第二百六冊） 二八

*三略（第二百七冊） 二九

奥書 寛永四年／卯正月十九日／眞養書之

*攝州有間溫湯記（第二百八冊） 三〇

林道春著 元和七年辛酉仲夏日自跋 題簽「有馬温湯記」

（跋に云「此一篇林氏道春所記也／池坊三興老人示之余而曰／雖有此文人困難其讀庶／幾添句讀加和訓何幸／加之恫欵至再三余不克／辭使肥塚道達生臨寫／別紙而浪點篇撿之中略番易／菅玄同木年木月後／道春二臘日見此一／篇感而書之」）

*塵滴問答（第二百九冊） 三一

*もしほ（第二百十冊）　一三二
題簽後筆「太公尚書」

*百人一首之抄（第二百十一冊）　一三三

*一休宗純水鏡（第二百十二冊）　一三四
（「坐禪紀一名尺八之賦」・「金剛經四句偈」を附記）

*忠教百首（第二百十三冊）　一三五
平忠教著

*夢物語（第二百十四冊）　一三六

*女訓集（第二百十五冊）　一三七

*出雲國三十三所之觀音之哥（第二百十六冊）　一三八
題簽「出雲國順禮札所」
（「野馬臺之起」を附記）

*鞠哥（第二百十七冊）　一三九

*源氏供養双紙（第二百十八冊）　一四〇

*下學集之拔書（第二百十九冊）　一四一
内題「點畫少異字」

*法然上人之文（第二百二十冊）　一四二

*謎の本（第二百二十一冊）　一四三
後奈良院御撰

*長恨哥（第二百二十二冊）　一四四
（譜節を附記）

*寛永三行幸之次第（第二百二十三冊）　一四五

*書札礼事（第二百二十四冊）　一四六
（原に「弘安八年十二月廿二日評定之／趣大藏卿經業卿書上之／前石見守定成清書之」と奥書あるものの寫）

*名乘字（第二百二十五冊）　一四七

*導歌辭世龍集（第二百二十六冊）　一四八

*源氏系圖（第二百二十七冊）　一四九

*延喜式神名帳　二巻（第二百二十八至二百二十九冊）　一五〇
藤原忠平等奉勅撰　題簽「神名帳上（下）」
（原に上巻「此上下兩巻蒙　勅命仰嫡孫兼／滿終書寫之功致挍合畢／文亀三年十二月廿六日／神道長上從二位行神祇大副／兼侍從下部（ママ）朝臣兼倶」、下巻「文亀三年十二月廿六日／神道長上從二位行神祇大副／兼侍從卜部朝臣兼倶」と奥書あるものの寫）

*長松院殿眞諦紹聖大姉之御辭世（第二百三十冊） 一五一
堀尾忠晴編　題簽「長松院御辭世」

*隆信之哥（第二百三十一冊） 一五二
（巻初に「隆信朝臣」とあり）

*詠百首狂哥（第二百三十二冊） 一五三
松永貞徳著
（點評を附す）

*細川幽齋道行（第二百三十三冊） 一五四
細川玄旨著
（天正十五年三月の記）

*木曾通道行（第二百三十四冊） 一五五
（慶長十九年長月の記）

*若狹前宰相息女離別三物（第二百三十五冊） 一五六
木下長嘯子著
（原に「寛永四年ノ卯月日　長嘯」と奥記あるものの寫）

*西園寺家鷹百首・西明寺殿百首（第二百三十六冊） 一五七
（原に「哥ニ不審多候へと本之儘書寫之」と奥書あるものの寫）

*愚癡中將（第二百三十七冊） 一五八

*莞尔草（第二百三十八冊） 一五九
松永貞徳著

*王代記（第二百三十九冊） 一六〇
（記事後陽成院及び寛永に及ぶ）

*西明寺殿百首（第二百四十冊） 一六一

*三躰絕句詩（第二百四十一冊） 一六三

*長恨哥（第二百四十二冊） 一六三
（平假名訓解を附す）

*自讃哥（第二百四十三冊） 一六四

*尺八之名物（第二百四十四冊） 一六五
題簽「筒簫書」

*行幸和歌寛永三（第二百四十五冊） 一六六

*御前張　三卷（第二百四十六冊） 一六七

*秋夜長物語（第二百四十七冊） 一六八

*鐵炮之聞書（第二百四十八冊） 一六九

*いぬまくら　（第二百四十九冊）　一七四
〔秦宗巴〕著
（國語と國文學第三十三巻第八號所収野間光辰「假名草子の作者に關する一考察」―參照）

*後鑑　（第二百五十冊）　一七五

*愚塵集　（第二百五十一冊）　一七三

*近將法　（第二百五十二冊）　一七三

*義氏將軍繼圖　（第二百五十三冊）　一七四

*ゆつりは　（第二百五十四冊）　一七五
（譜節を附記）

*哥覺書　（第二百五十五冊）　一七六
（巻初に「いまの世の人たちよみ侍るをかきつく」とあり）

*堀川院艷書合　（第二百五十六冊）　一七七
（巻末に「代ミ集巻頭哥」・「源氏供養表白」・「源氏名前」を附記）

*伊達家系圖　（第二百五十七冊）　一七八

*病藥論　（第二百五十八冊）　一七九

*廿一代集巻頭　（第二百五十九冊）　一八〇
（内題「代ミ集巻頭」とあり）

*數奇之書　（第二百六十冊）　一八一
（原に「此一巻達而御執心候ノまゝ乍迷惑爲御稽ノ古利休相傳の通愚ノ意筆染候一笑ゝゝノ月日　重勝在判ノ當所」と奥書あるものの寫）

*扇流　（第二百六十一冊）　一八二

*浦嶋太郎　（第二百六十二冊）　一八三

*豐國大明神法樂御歌　（第二百六十三冊）　一八四
（原に「慶長四年七月十二日」と奥書あるものの寫）

*西園寺鷹百首・西明寺鷹首百　（第二百六十四冊）　一八五

*おちくぼ物語抄　（第二百六十五冊）　一八六
（表紙に本文同筆にて「よひの雨一ノたちきゝ二ノたんか五ノあふつのふミ三ノふくろふのさうし四ノおちくぼのさうし六」とありこれ等の抄記　原に「此さうしはをちくぼの物語とて四帖侍るを大ノかた書ぬきていさゝかしノるしつけ侍り」と奥書あるものの寫）

*東照宮參詣記　（第二百六十六冊）　一八七
鳥丸光廣著　外題佐佐木信綱筆書名同

*小鼓之大事　（第二百六十七冊）　一八八
（原に「永正十年十月十一日　宮增弥六ノ親次（花押）ノ左衛門三郎殿旦」「越前さる

かく所への弥左衛門／書物にて候を親に見せ被申候／うへにハ宮増弥十郎と有」と奥書あるものの寫　巻初に「小鼓心持之事」とあり）

*國籍類書目錄　（第二百六十八冊）　一八九

假帳綴

奥書　惣計百三十二種　黒塗　二箱／合本貳百九十二冊／御旅行御書物／鶯の里石川家珍藏（印）

外ニ墨塗箱ニ有之候分（中略）右は／明治二十年四月廿四日購求

（表紙に「手鳴の里松平家珍藏（印）」とあり）

聳翠文集　寫　四十一冊　闕　一九〇

佐久間義方著　佐久間義和編　編者自筆　寶永四年丁亥秋八月二十八日丁未老爺容軒子源義和自筆序　袋綴　菊文雲母刷水色布目表紙　二七・五糎一七・五糎　九行約十八字　題簽左肩薄緑（又は薄紅）地金砂子「聳翠遺文本集　序目錄（一―七問思類元祿十四年辛丑）」「聳翠遺文外集一倭字問目雜著（一―二）」「聳翠遺文末集一言志類（自元祿二年己巳至同六年癸酉）（一―五）」「聳翠遺文別集二前商議説考（一―廿二）」「聳翠遺文集二拾遺文藁（一―四）」序題「聳翠子源義方遺文全集」

識語（第一冊表紙に紙簽）　洞巖佐久間先生手書聳翠／遺稿四十一冊明治甲辰四月／十日獲諸仙臺豪富佐藤／助五郎舊藏／（印）（瀧川）全部四十二冊一冊缺本（題簽闕佚するも第三十五冊「殘裘式」と第三十六冊「義方詠草」は別集にあたる　巻初「聳翠文集目録全部」に「本集七冊　外集二冊　末集五冊　別集廿二冊　序目録一冊　行實操守記紀年録一冊　拾遺文藁三冊　總計四十五冊」とあり　〇八一―イ二五）

竹清叢書　寫　三百六十四冊　（一九一―三八一）

三村清三郎著并編　自筆

（他編著或は他筆に係るものはその旨各條下に注す　〇八一―イ一九）

所収細目次の如し

*仕入帳　（通巻第一至九十一冊　以下同）　一九一

（第一冊は巻一至二十索引）

*大穌室叢書　（第九十二至百二十冊）　（一九二―二五六）

所収細目次の如し

*望月老人隨筆　（第九十二冊）　一九三

奥書　昭和十八年癸未一月十七日寫了數日之勞也是望月三／英随筆歟　竹清三村斎（時年六十八）（印）

（原に「慶應戊辰年五月十五日未刻一讀過加朱了此日／官軍入東叡山砲聲自卯至未絶火煙如雲在東北間報云／七堂伽藍本坊已灰燼矣谷中七面坂下至天王寺兩傍人家／亦被兵火焚云可怖可驚　枳翁森立之」と奥書あるものの寫）

*野翁物語抄　（第九十三冊）　一九三

奥書　右以山中共古先生舊藏本寫／昭和十八年癸未一月二十四日灯下　三村清三郎（花押）

（原に「文化十年癸酉秋九月中浣野翁物語といへる書中の一二を書ぬき置／ぬ雄谷浅井貞牛」と奥書あるものの寫）

*滿舞〻前集　（第九十三冊の内）　一九四

奥書　昭和十八年一月廿七日以安田氏藏本　竹清寫（印）

（書名の下に「齋藤雀志山中共古舊藏寫本」とあり）

*まさきのかつら　（第九十三冊の内）　一九五

青葱堂冬圃著

（原に「此書零本なれと俳人冬圃なる者の見聞せし事を記せし書ニて参考となる

へ〳〵きことあれは文行堂よりゆつり受ぬ　大正五年六月十五日　山中笑」と奥書あるものの寫　未刊隨筆百種巻十六所収本—参照）

*羽澤稿　（第九十三冊の内）　一九六

岡田衛士助方著

奥書　此書澁打之手製表紙かけし寫本ニてたゝ外題ニ羽沢稿とのミあ〳〵り羽沢とハハネサハとて澁谷と笄町との間の地名なり中略昭和十八年癸未二月五日立春下略　青山ニて　竹清（花押）

（原に「此書ハ高木主人正様御留主居岡田衛士助方之昔咄也衛士助〳〵方俳名を羽澤といふ于時天保九戌年七十六歳ニ而勤被居候中略于時天保十己亥年二月寫之」と奥書あるものの寫　日本藝林叢書巻十—参照）

*特種好色本目錄並ニ解題　（第九十四冊）　一九七

竹雪道人著　大正十二年六月自序

奥書　昭和十八年二月二十三日夜うつしはしめ廿四日午卒業

（「原本悪寫本ニて誤字當字多くよミかねし所ハ其まゝに寫し置きぬ〳〵昭和十八年癸未三月宵節句之燈下ニて竹清老人筆（印）」と奥書ある「狩野亨吉博士藏春書目」を附記す）

*栖雲洞雜話抄　（第九十五冊）　一九八

増子淑明著

奥書　右栖雲洞雜話筆記常陸宍戸増子淑明の雜記にて反故之裏ニ〳〵記したる美濃紙四ツ折形仮綴横本十一冊あり中ニ抄録も見ゆれと論あ〳〵り説あり考証あり見聞ありいと興あるもの也下略　昭和十八年癸未五月十三日　竹清記（印）〳〵原本ハ安田文庫ニて兵火にかゝりしなるへし

*內宮外宮辨畧解　（第九十六冊）　一九九

荒木田末爵著　寛政六年冬霜降月自奥

奥書　昭和十七年壬子十二月三十日三村清三郎寫（花押）

*柳村筆記　（第九十六冊の内）　二〇〇

西田直養著

奥書　右以共古翁抄録美濃判薄葉本寫、原本あしかりしか誤字假名遣多〳〵く改めし所もあり本ノマゝニしたる所もあり且重複とおほしき二三条を〳〵省畧したり　昭和十八年癸未一月二十二日　三村清三郎（印）

（原に「柳村筆記原本五巻加藤直種君藏書明治庚子歳一月同氏より借〳〵覧中略圖書館ニハ輪池叢書中ニ加へラレテ〳〵在リトゾ　明治三十三年一月二十二日　山中共古記」と奥書あるものの寫）

*筆情進　抄録　（第九十六冊の内）　二〇一

橋本直香著

奥書　右筆情進半紙本三冊橋本直香自筆稿本情進は精進のあて字か此人〳〵の稿本安田文庫ニ五十本立本箱黒塗二本あり此筆精進も其中のもの也中略昭和十八年五月十六日〳〵雨窓の下ニかきぬきつ　六十八老人三村清三郎記（印）

*客參錄　（第九十七冊）　二〇二

渡邊登著

奥書　右渡邊華山田原客寓中之日記也哦松塩田重弦之手寫せる本〳〵を以て寫す其本ハ茶表紙小形藍罫九行也重弦原本より直ニ寫〳〵せる如く思はるゝ故改竄塗沫一ニ本ノマゝに寫し置けり下略昭和十八年癸未四月二十六日竹清寫於青山南麓破沙盆室（印）

*京傳種彦遺妛　（第九十七冊の内）　二〇三

關根只誠著

奥書　右ハ関根氏藏とある十行藍罫紙へ認めたるものにて只誠翁の〳〵筆也水谷不倒氏列傳体小説史編む折ニ教を乞し返事〳〵と見ゆ　昭和十八年二月二十六日　竹清老人寫（印）

*浪花仁和歌考 （第九十七冊の内） 二四

鹿田松雲堂（古井翁）著

奥書　右ハ柱ニ松雲堂とある朱欄十二行紙二枚ニ認めしものにて大阪／の書肆今の鹿田の祖父なる古井翁之筆也略下　昭和十八年癸未二月二十六日燈下　六十八翁竹清寫（印）

（原に「右ハ水谷先生の應需一花堂山水の作三十八年三月五日於病／蓐筆を執り自分の記憶する次第書留るニなん　文好略下」と奥書あるものの寫）

*根岸志 （第九十七冊の内） 二五

大槻文彦著

奥書　右ハ大槻文彦博士の記せるものなるよし略下　昭和十八年六月二十三日　竹清老人（花押）（印）

*尾州昔咄第三卷 （第九十七冊の内） 二六

奥書　昭和十八年癸未七月十六日寫了原本悪寫本ニて誤字もあるらしく／またよミかたき所もあり今大かたに寫し置く　竹清六十八老人（印）

（原に「安政五戊午歳七月吉日　楠田氏（印）」と奥書あるものの寫）

*麓之塵抄 二卷 （第九十八・九十九冊） 二七

大田覃著

奥書　（上卷目次の條）　昭和十九年甲申二月十日春雨蕭日此日送青崖翁之葬逢宵曲子／歸來浄書此目次　六十九老人竹清（花押）

（下卷）昭和十九年甲申二月廿八日二十一時灯下寫（印）

蜀山人手抄原本安田文庫ニて焼亡之よし會田富康來て語る略下　竹清追記

（卷初に「麓之塵　合十九冊半紙本茶表紙蜀山自筆勝鹿文庫之印あれハ松／本月池ミか合本ニしたるものか　三・十・十一・十五・十六・十七・二十六・四十六卷闕けたり略下」と筆者の考文あり）

*香爐口傳事 （第九十九冊の内） 二八

奥書　以森養竹舊藏狩谷棭齋女阿孝所書之本寫文中有難／讀處皆從本之儘云　昭和十八年癸未十月朔竹清老叟（印）

*默老手簡抄 （第百冊） 二九

木村默老著　三村清三郎編

奥書　昭和十八年十月十七日雨窓　竹清六十八衰翁抄（印）

（卷初に「讃州高松藩老木村默老より伊勢松坂なる殿村篠齋ニ寄せたる手簡／數十通襄に松坂堀内快堂君得之裝して四卷となせるものより考となるへき／ものを抄出せる也幸篠齋必卷首ニ其手簡の到着年月を記し置かれ／しを以て今それによりて年代順ニ記すことを得たり」と編者の考文あり）

*棠陽病隱 （第百冊の内） 三〇

奥書　昭和十八年十月廿六日以安田文庫蔦蹊手寫本　竹清老迂寫（印）

（原に「因記或云柴邦彦乘権貴之寵遇凌轢林祭酒祭酒／忿怨之餘得病而卒某侯之弟以　臺命爲林家嗣速奪柴岡二氏／之権勢云盖看此上書切齒先灵之讐者乎」と伴蔦蹊附記あるものの寫）

*安田文庫噺本解題 （第百冊の内） 三一

奥書　昭和十八年秋十月廿七日神嘗祭雨窓　竹清（印）／以上噺本疎開すへく話置きしニ其儘ニして焼きたるよし略下

*山城大和見聞隨筆 （第百一冊） 三二

梶野良材著

奥書　昭和十九年六月十三日　竹清老人寫

（奥に「梶野土佐守良材廣瀬日記二　天保十三年七月ハ築地ニ住ス御勘定奉行廣瀬日記廿四　奈／良奉行後京都奉行嘉永六年癸丑年六月十四日歿葬鮫ケ橋千日寺林若吉君抄出」の筆者に

よる傳記を記す）

*參宮記（第百一冊の内）　二一三

磯部武者五郎著　明治二十八年九月自跋

奥書　右磯口武者五郎氏自筆稿校本もて寫早／昭和十九年甲申五月二十五日朝　六十九叟三村清三郎

*鳩谷手牘（第百二冊）　二一四

鳩谷孔平著　津戸編

奥書　（巻初に）古く文行堂より買ひたる貼こミ帖中ニあるもの也此帖二帖あり外題ニ古人の手／鏡とありて一帖ハ革入唐紙表皮智一帖ハ丁子引表皮ニて禮とあれハ此外ニ仁義／信之三帖ありしものと推せらる八王子の津戸氏の蒐めしもの也下略　昭和十九年甲卯十一月初六灯下　三村清三郎識

*出版の舊例（第百二冊の内）　二一五

小宮山綏介著

奥書　昭和十九年甲申九月二十二日燈下以共古翁手寫本寫了／病後　三村清三郎

*篆論語（第百二冊の内）　二一六

*森枳園傳（第百二冊の内）　二一七

金風長井著

*松舍來書（第百二冊の内）　二一八

安田善次郎宛書翰集

*越後國魚沼郡浦佐組浦佐村年中行事（第百二冊の内）　二一九

大山藤右衛門・江坂孫三郎書上

奥書　昭和十九年甲申六月二十二日朝寫　六十九叟竹清

（原に「右ハ年中浦佐村ニ而取斗候儀及承候趣書面之通ニ御座候以上／戌二月大山藤右衛門／江坂孫三郎」と奥書あるものの寫）

*日暮しの草帋（第百三冊）　二二〇

丁野南洋著

奥書　右丁野南洋日暮之草帋以自筆本謄七十叟竹清（花押）／丁野粲字ハ君美、通稱ハ彦十郎、南洋と號す、土佐高知の人、寶暦三癸酉の年ニ生る下略　昭和二十年乙酉十月十二日

*今日歌卽考隨筆（第百三冊の内）　二二一

談洲樓焉馬著

奥書　昭和廿年乙酉四月二十日寫し初め二十三日朝終る　相州湯河原大和館寓蘇楷老人

（巻初に「右はたて四寸九分横三寸三分之板目紙表帋の小冊子にして板心に青柳館藏／とある八行墨刷界紙七十二葉綴りへ焉馬自筆にて認めし稿本也渡邊霞／亭氏之舊藏にて首ニ霞亭文庫之條印あり同氏藏書入札之時文行堂よ／りもとむ竹清七十翁記」と筆者の考文あり、書名の下に「文化九年壬申春同十酉年草稿」とあり）

*拙耕子尺牘（第百三冊の内）　二二二

*明治以前刊行古泉書目（第百四冊）　二二三

貫井銀滋園述　市川圓應記

奥書　昭和二十年十月十二日　竹清寫湯河原客寓

*異年號萃（第百四冊の内）　二二四

田中萬宗著

奥書　昭和二十年乙酉八月十日　七十翁竹清病間抄

*有利物安壽嘉賀和（第百四冊の内）二三五

布施正世著

奥書　昭和二十年乙酉九月六日夜寫了湯河原にて　竹清

（巻初に）本書中原本十九丁目ニ予か高祖父布施出雲守云々として出雲守の事及／其子遊樂之事を記せり中略此書ハ布施正世の記せるもの歟　昭和十九年甲申十月廿一日　竹清老人記

*浮世の旅六十路之記（第百四冊の内）二三六

猿牛舍蘭蹊述

奥書　昭和三年の秋押小路家より反故の如きものあまた市中へ出てしうち／の一ツ也蘭蹊といふハ公亮といへる人にて見もてゆくに堂上方の風／俗慣例及ひ其生活のさまよく筆まめに記され略下昭和二十年九月四日　七十老人竹清鈔於湯河原寓／居

（巻初に「明治二十八年乙未秋」とあり）

*求艾錄（第百五冊）二三七

細井廣澤著

奥書　昭和二十年乙酉九月十七日寫　湯河原客寓北牕下　壽軒竹翁（印）

（巻初に「細井廣澤自筆本」とあり）

*堂前隱宅記文政元寅年記（第百五冊の内）二三八

松澤老泉著

奥書　右松沢老泉日記一冊文行堂傳持　原本細川の古帳簿／を裏かへしニして四ツ折としたる帳面へ認む中略此書巽に癸亥之／震災ニ井上和雄ニ借して火を免かれ今又空爆をも免／かれしことめでたけれ今借寫して大和室叢書中ニ加ふ／昭和二十一年景戌一月十五日小豆粥も祝へす病床上に／ありて湯河原上寓客下略

（巻末に諸家の老泉傳を引きし筆者の考文あり）

*夜船閑話（第百六冊）二三九

白隱著

奥書　夜船閑話一卷白隱禪師所述也流布本以國字此本以漢文人多／不知未相比較不詳其異同也美濃判竪八寸七分横六寸五分十／行十八字無界筆寫紙數十張表皮薄墨色題夜船閑話全不署姓／字往年求之文行堂今幸免兵燹乃欲獻之　神宮文庫下略

*直情集（第百六冊の内）二四〇

豬飼彦博著

奥書　昭和廿年乙酉九月九日白露後一日鈔以自筆本　竹清

*伊勢雜志（第百六冊の内）二四一

津坂孝綽（東陽）著　文化乙亥九月自序

奥書前略昭和二十年十月老の永夜をあかし兼て朝ニ床上ニて寫し七日の朝四時と／いふに寫し終ぬ略下七十翁竹清（花押）

（原に「右津阪東陽翁伊勢稧志一本明治二十年三月三重郡大強原／村藤枝福備所藏之本ヲ以寫之　三重郡宿野村小林令德」「予ハ小林令德之藏書ヲ借て中島盛昌ニ筆耕を依囑シ再之／ヲ謄し得タリ于時明治二十三年三月二十四日　圖書府樓主人略下」と奥書あるものの寫）

*八十年經歷の覺書二巻（第百七冊）二四二

市嶋謙吉（春城）述

奥書　昭和二十年乙酉十一月盡日以山田清作君藏春城翁自筆本／相州足柄刀比湯河原上寓客　竹清寫／時年七十歳（印）

（見返に「春城八十年の覺書　全」、前巻本文末に「昭和十五年九月上浣起筆」、本文奥に「昭和十六年四月十八日記」とあり）

*裝束方聞書（第百八冊）二四三

多田南嶺著

奥書　昭和二十年乙酉八月十五日寫相州湯河原客寓　竹清（花押）
（原に「右裝束方聞書一巻南嶺子所述也請源／直樹之本令工謄寫畢／寶暦壬午冬十月　大江資衡誌」と奥書あるものの寫）

*お千代舟　三巻（第百八至百九冊）　二三四

岡田村男（紫阿彌・紫男）著
奥書　（上巻）阿千代舟不分巻三冊之中第一冊以岡田紫男自筆稿／本昭和二十一年六月寫於瑜迦波羅竹蔭精舎　竹阿弥
（中巻）前略昭和廿一年丙戌六月廿六日寫了湯河原上寓　竹清
（下巻）阿千代舟不分巻三冊之中第二冊以岡田村雄君自筆／稿本昭和廿一年丙戌七月初四寫了瑜迦波羅　竹阿弥
（書名の下に「庚戌秋彼岸　紫阿彌稿」とあり）

*印談（第百十冊）　二三五

沈從先（明）著　王之義校　辛丑三月敬所序
奥書　昭和二十一年十月廿三日灯下寫了　竹清
荃樓氏云此印談ハ沈從先何とか以前之本ニて支那ニて現今／行はるゝものよりよろしく中略敬所翁の配り本ハ紅の金牋表紙末に翁自刻人生七十稀我年幸過之とふ印を捺せり下略

*竹田集（第百十冊の内）　二三六

田能村竹田著
奥書　康福二年景戌十一月十一日己丑　竹清寫於瑜伽波羅寓舎
（巻末に筆者著「竹田先生略年譜」を附す）

*江戸の菓子屋（第百十冊の内）　二三七

吉佐老人談
奥書　此話ハ明治二十七八年頃新聞日本ニ掲けられしものにて恐らくそれ以前の／おもひ出話なるへし下略昭和二十一年九月六日　七十一翁竹清追記（印）

*不秋草堂日暦　四十年丁未十二月起東上日乘（第百十冊の内）　二三八

三村清三郎著

*壽阿彌手翰（第百十一冊）　二三九

奥書　此書曽抄之亡之兵燹今再抄之昭和廿二年六月十二日　竹清（花押）
（原に「右壽阿彌曇斎手翰九通笹野葵園氏収藏昭和二丁卯年／二月下旬裝幀を囑せられ留観すること數十日即ち閑を偸ミて／之を寫す　仙秀記」と奥書あるものの寫）

*東山流挿花歌の巻（第百十一冊の内）　二四〇

奥書　右東山流挿花傳書二巻畳軸金襴裝下略昭和廿二年六月十三日湯河原上寓客此君齋主記
（本文巻末に「稽蘇堂志雪／加藤帆舟雅丈」とあるものの寫）

*辛丑日錄（第百十一冊の内）　二四一

平澤元愷（旭山）著
奥書　右平澤旭山辛丑日録一冊半紙本四十二張行數字數一定せす中略今文行子の厚意によりて此副本を作る丁亥一月廿四日寫了　竹清老痴（印）

*琴臺手簡（第百十二冊）　二四二

東條琴臺著　大井茂作宛
奥書　以上副簡共三十八通以文行堂藏簡寫早併定序次／昭和二十二年丁亥一月念八於湯河原寓舎　八九翁竹清記

*記瑞異事（第百十三冊）　二四三

河北景楨著
（原に「安永五年六月」と奥書あるものの寫）

*篁墩消息 （第百十三冊の内） 二四四

吉田坦藏（篁墩）著 立原甚五郎宛

*喪書記 （第百十三冊の内） 二四五

中島健藏著

奥書 昭和廿二年一月三十日寫（花押）

*碩果室印談 （第百十四冊） 二四六

河西弘（笛州）著 自序

奥書 昭和二十二年丁亥十月辛亥三十日寫於湯河原 竹清（花押）

*紀州蜜柑組由來 （第百十四冊の内） 二四七

奥書 昭和二十二年十二月冬至早ミ一揮／七十二翁竹清

*一雨餘稿 （第百十五・百十六冊） 二四八

元明悟心著 德旛寶幢輯 寶曆壬午五日既望元皓序 安永紀元至日龍公美序 明和辛卯之冬宮奇跋

奥書 （上巻）戊子八月八日立秋 竹清寫（印）

（下巻）右一雨餘稿嘗聞其名未見其書也昭和廿三年／偶見之伊賀沖森書店之書目而購得爲沖森亦／云初見也中略今謄一本加大／和室叢書中下略竹清主人（印）

悟心和尚別有一雨文艸一冊前年謄而藏不知／刊未刊也此本已遭燹 竹清又記（印）

（原に「安永二年癸巳秋七月穀旦／書林／京都 菱屋孫兵衛／江戸 須原屋茂兵衛／大坂 柏原屋庄兵衛／松坂 蔀屋勘兵衛」と刊記あるものの寫）

*鶯谷集 （第百十七冊） 二四九

大田覃（子耜）著 乙丑羊日自序

奥書 右南畝詩集之一南畝集草稿皆歸安田文庫而缺／二巻一巻不知所在一巻即是也舊藏若樹文庫若／樹歿後歸於余此本与安田本皆幸免兵火今作副／本以加大和室叢書中云 戊子八月 竹清翁記（印）

（表遊紙裏に「南畝集十四／鶯谷集文化甲子自春至季秋／巖原集同年自季秋至歲暮／文化十卯秋後詩稿附」とあり）

*「傳法灌頂作法」 （第百十八冊） 二五〇

奥書 舊有朱點今畧之 昭和二十四年己丑三月二十三日燈下 竹清寫

（原に「自天王寺松居坊寂譽律師申請令書寫處也當寺法隆寺經藏仁雖／或多此本委悉聞書留者也／延德三年辛亥七月廿一日金剛佛子興基」と奥書あるのの寫）

*金剛界傳法灌頂作法 （第百十八冊の内） 二五一

奥書 昭和二十四年己丑二月十九日灯下 壽譽竹清居士寫

（原に「德治三年正月廿六日於東寺奉授太上法皇次第／也 法務前大僧正禪助」「正和二年正月廿三日以此本授無品性圓親王訖／以後宇多院御本書寫之早／前大僧正道意」「正平十年十一月十八日以御自筆御本書寫早／權僧正敎賢」「明德四年九月廿一日以別儀授深圓比丘訖／僧正光賢判」「自天王寺松居坊寂譽律師（ママ）申請令書寫處也當寺法隆寺／經藏仁雖或多此本委悉聞書留者也／延德三年□七月十九日／金剛佛子興基」と奥書あるものの寫）

*陶齋隨筆 （第百十八冊の内） 二五二

趙陶齋著 文化七年庚午秋村上恒菴跋

*狂風大人墨叢 （第百十八冊の内） 二五三

馬蘭亭編 山東京傳序

奥書 右之一巻はもと林若樹子の藏なりし由文字樓主人報し來りし故とりよせ／しに昔文行堂文字樓先代ニ在りて中略己丑八月二十五日

*石川鴻齋評山中人饒舌 （第百十九冊） 二五四

田能村竹田著　石川鴻齋・篠崎小竹評
（原に「嘉永七年甲寅四月發閲田能村氏藏梓大坂石津善兵衞／文虎堂製本」とあるものの寫）

*閲庫餘錄 （第百十九冊の内） 二五五

齋藤正謙（拙堂）著　天保十一年五月自序
奥書　昭和二十五年九月二十日湯河原寓三村清三郎寫（印）

*史林拾葉抄 （第百二十冊） 二五六

沼田頼輔著　三村清三郎抄録
奥書　此原本十二冊安田文庫ニて焼亡可惜ニゝ　竹清追記

*日本の年中行事 （第百二十一至百二十三冊） 二五七

三村清三郎著
（雑誌「日本語」原稿）

*藏書印譜 前後 刊 （第百二十四・百二十五冊） 二五八

横尾卯之助（文行堂）輯　横尾勇之助・三村清三郎補　大正甲寅孟春蘇峰學人序
大正三年甲寅七月五日文行堂二世横尾勇之助跋
刊記　大正三年八月廿五日發行　發行者横尾勇之助　印刷所公木社
識語　（三村清三郎筆）大正三年甲寅念一日一閲　竹清
（跋文行末に三村清三郎筆「竹清代作若樹君閲」とあり　書中竹清筆訂正書入多し）

*續藏書印譜 刊 （第百二十六冊） 二五九

三村清三郎著　横尾勇之助校　昭和七年七月狩野亨吉序　昭和七年壬申六月自序
刊記　昭和七年九月一日出版　發行者横尾勇之助　發行所　文行堂書店
識語　（三村清三郎筆）昭和七年壬申八月二十九日夜文行堂主持贈

*藏書印譜第三集稿本 （第百二十七冊） 二六〇

三村清三郎著
奥書　以上二十六丁丑十二月一日成

*藏書印譜第四集稿本 （第百二十八冊） 二六一

三村清三郎著
（内題の下に「湯河原　竹清老人稿」とあり）

*漢土藏書印譜 （第百二十九冊） 二六三

三村清三郎著

*書家傳稾 四巻 （第百三十至百三十三冊） 二六三

三村清三郎著
奥書　（第一冊見返）これは予カ舊鈔なり篋底にありて遂に／故帝藏にならむことを惜しミて綴り／置くものなり　竹清

*江戸字集覽 （第百三十四冊） 二六四

三村清三郎著　昭和四年己巳七月十六日自跋
（同名書刊本の袋綴半紙本形特製本　欄外に自筆補訂書込多し）

*曲亭翁家系稿本 （第百三十五冊） 二六五

三村清三郎著　自序

*諸家字號 （第百三十六冊） 二六六

三村清三郎著　自序

*尾張人物小傳稿 （第百三十七冊） 二六七

三村清三郎著

奥書（巻初）大正七年十月起　竹清／昭和四年六月八日／浄寫スミ／竹清主人

*中京人物志 二巻（第百三十八・百三十九冊） 二六八

三村清三郎著　己巳六月初八自序

奥書（序末）昭和八年二月七日以加賀翠溪藏張城人物志校正増補（花押）　安永七年刊

*伊勢人物いろは分 （第百四十冊） 二六九

三村清三郎著

奥書（巻初）明治四十五年二月二日起

*伊勢人物志志餘 （第百四十一冊） 二七〇

三村清三郎著　自序

*一兵卒從軍記 刊（第百四十二冊） 二七一

三村清三郎著

（「老計手―日露戰役思ひ出ばなし」・「一兵卒從軍記日露戰役思出はなし」等十六回に及ぶ「日本及日本人」連載記事切抜集　巻末に同じく所載の著者自畫挿畫原稿及び閑々子「若樹文庫本の覺書」を合綴）

*圓山四條岸画系 （第百四十三冊） 二七二

三村清三郎著

*狂歌しるへ石 （第百四十四至百四十六冊） 二七三

三村清三郎著

*天明狂歌作者 （第百四十七冊） 二七四

三村清三郎著

*狂歌阿春香美楚 （第百四十八冊） 二七五

三村清三郎著　自序

*詠江都詩 （第百四十九冊） 二七六

三村清三郎編

*補傳詩 （第百五十冊） 二七七

三村清三郎著

*孝經樓詩 （第百五十一冊） 二七八

山本北山著　三村清三郎編

*北山先生詩文集 二巻（第百五十二・百五十三冊） 二七九

山本北山著　三村清三郎編　外題（第一冊）「孝經樓集一」　題簽（第二冊）「孝經樓集二」

*竹隄莊遺文 二巻（第百五十四・百五十五冊） 二八〇

山本北山著　三村清三郎編　昭和二十年乙酉五月編者跋

*黑甜鄉話 二巻（第百五十六・百五十七冊） 二八一

永阪潛（或齋）著　自筆　明治二十六年仲春上浣序

識語　右永阪先生自筆浄寫本（別有稿本二冊）上下二冊所附門人／山田勤也往年予得之山田

氏今幸免兵燹珍重ニニ／昭和二十一年九月初四湯河原上寓客　三村翁識（印）

*故藝叢語　二巻（第百五十八冊）　二八二

永阪潜（或齋）著　自筆　明治廿九年三月中澣自序

識語　或齋先生故藝叢語二巻明治二十九年三月成予借謄之／未半被徴兵於佐倉携行卒業後先生以此書附於同門野／間某（予不知其人也）某不甚愛護已佚下巻其上巻遂歸于予今又／幸免褒於此以舊所謄補下巻及予所拾遺合冊及完本云／昭和二十一年九月初三寫於湯河原　壽軒灯下（印）

（下巻は三村清三郎筆）

*故藝叢語　二巻（第百五十九・百六十冊）　二八三

永阪潜（或齋）著　明治廿九年三月中澣自序

奥書（上巻序末）癸卯三月十六日夜淨書畢／受業弟子三村翁（印）明治三十六年二月初六日　受業弟子翁謹書（印）

（下巻）明治癸卯五月念二日了　翁（印）

*永阪先生論語講義覺書　二巻（第百六十一・百六十二冊）　二八四

永阪潜（或齋）講　三村清三郎筆記

奥書　右は先師或齋先生の講義を予か筆記したるもの也（下略）大正四年乙卯八月初二　受業弟子　三村翁

*或齋先生詩經講義筆記　（第百六十三冊）　二八五

永阪潜（或齋）講　三村清三郎筆記

奥書　右永阪或齋先生詩講義予か手帳に鉛筆もて記しとゝめし／ものを浄書せしも也　明治三十四年三月先生已に論語を講了／してこれに及ふ（下略）大正五年丙辰一月廿六日　三村清三郎

*竹清吟藁　（第百六十四至百六十九冊）　二八六

三村清三郎著

（第百六十四冊）題簽「竹清唫藁癸後殘餘二」　内題「竹清唫藁昭和十九年甲申」（第百六十五冊）題簽「竹清唫稿昭和廿一廿二年二」（第百六十六冊）題簽「竹清唫藁廿四年己丑三」（第百六十七冊）題簽「竹清唫藁昭和二十五年庚寅四」（第百六十八冊）題簽「竹清唫藁昭和二十六年辛卯同二十七年壬辰五」（第百六十九冊）内題「竹清唫稿昭和廿八年」

*竹清雜稿　（第百七十・百七十一冊）　二八七

三村清三郎著

*竹清雜錄　（第百七十二冊）　二八八

三村清三郎著

*客中狂詩　（第百七十三冊）　二八九

王猛祿（南都）著　汪資寶（金來）校

*繁竹集　（第百七十四冊）　二九〇

竹屋黒大將奏受好（三村清三郎）著　自筆　昭和四年己巳四月十一日自序

*隨筆雛小判・拉扱抄　（第百七十五冊）　二九一

三村清三郎著

奥書（雛小判）丙戌仲冬　竹隠居稿（印）

（拉扱抄）昭和廿一年戌十一月十六日浄寫（印）

*花鳥暦　（第百七十六冊）　二九二

三村清三郎著

（序に「村田了阿之花鳥日記の面白さにわれもまねひて／んと年比おひしかと思ひたつ日もあらてすくし／ぬけふとしの初より先つ筆とりそめぬいかは／かりつゝくらむとをかしく　竹清（印）」とあり　昭和十四年より同廿八年に至る）

*生花打出乃小槌　（第百七十七冊）　二九三
三村清三郎著　庚福四年戊子五月自序

*竹清饒舌・同續　（第百七十八冊）　二九四
三村清三郎著

*竹清饒舌別錄　三巻　（第百七十九至百八十一冊）　二九五
三村清三郎著

*印章雜記　三巻　（第百八十二至百八十四冊）　二九六
三村清三郎著

*雅俗半古談　（第百八十五冊）　二九七
三村清三郎著

*集古印存　二巻　（第百八十六・百八十七冊）　二九八
三村清三郎著

*本之覺　三巻　（第百八十八至百九十冊）　二九九
三村清三郎著
奥書　（第百八十八冊）昭和十八年九月十六日中秋後二日　竹清
（同目次末）此一冊子は米山堂主人贈られしもの也元來藍之界紙俗ニ／て嫌なれと此頃物不足なれはとて已むなく用ひたる也

*本道樂拔刷集　刊　（第百九十一冊）　三〇〇
三村清三郎著　題簽「本之覺」

識語　右静岡の本道樂へのせしもの本道樂廢してつゝかす　竹清
昭和十九年四月十五日目次をかき十六日製本（印）

*竹清藏書目錄　四巻　（第百九十二至百九十五冊）　三〇一
三村清三郎著

*收得書物　（第百九十六・百九十七冊）　三〇二
三村清三郎著　ノートベン書
（第百九十六冊表紙に「昭和十年八月ヨリ／十二年大盡マデ」、第百九十七冊同「自昭和十三年戊寅一月　至十七年壬午三月末日」とあり）

*收得書目　（第百九十八冊）　三〇三
三村清三郎著
（巻初に「大正十四年乙丑一月新収書目」とあり）

*竹清藏牘目　（第百九十九至二百冊）　三〇四
三村清三郎著
（第百九十九冊は「古人之部」、第二百冊は「今人之部」）

*竹清書畫家什目　（第二百一冊）　三〇五
三村清三郎著
識語　（見返）昭和十七年七月補　竹清（花押）

*竹清居金石册　（第二百二冊）　三〇六
三村清三郎著　自拓

*追夢圖錄 （第二百三冊） 二〇七

三村清三郎著　自序　目録題「竹清藏幅縮圖之一 五十音順」
（序に「小山林堂圖録に仿ひて藏幅を寫し置かむと志し折ゝニ寫して／未た十の一ニも足らさりしニ此度の大變にあひて亡ひぬ即名つ／けて追夢といふ東波之詩句によれる也」とあり）

*新選古鋳百印稿本 （第二百四・二百五冊） 二〇八

三村清三郎著　昭和九年七月自跋

*平ゝ凡ゝ四十印 （第二百六至二百八冊） 二〇九

三村清三郎著（第二百六冊）題簽「平凡印譜底本」

*雁來魚往 十卷 （第二百九至二百十八冊） 二一〇

奥書　（第二百十一冊卷初）昭和八年二月起
（第二百十二冊）昭和十四年己卯二月二十四日寫
（第二百十三冊）昭和十六年十月二十八日燈下　竹清
（第二百十四冊表紙）昭和十六年十月廿八日起廿四年八月成
（第二百十六・七冊）（題簽書名の下）魯庵來贈上下

*三字經・同略解 （第二百十九冊） 二一一

（王應麟（宋））撰　三村清三郎略解
奥書　昭和二十一年七月三十一日夜九時四十分記

*參聞錄 （第二百二十・二百二十一冊） 二一二

三村清三郎筆記　扉題「匡旭両師參聞录」

*淨運參聞錄 （第二百二十冊の内） 二一三

節堂口述　三村清三郎筆記
奥書　大正十一年壬戌十一月十三日終講同十二年癸亥七月二十／四日淨書

*三緣隨聞記 （第二百二十冊の内） 二一四

節堂等口述　三村清三郎筆記

*曼陀羅講傳耳底記 （第二百二十一冊の内） 二一五

雷斧僧正口述　三村清三郎筆記
奥書　昭和二十年乙酉六月九日討英米戰中於相州湯河原對翠／竹窓　七十翁竹清居士淨書了

*法光參聞錄 （第二百二十一冊の内） 二一六

椎尾辨匡講　三村清三郎筆記
奥書　昭和二十年乙酉六月五日淨寫於相州河原客寓／七十翁壽叟竹清（印）

*阿彌陀經講演 （第二百二十一冊の内） 二一七

渡邊海旭講　三村清三郎筆記

*四叉錄稿 （第二百二十二冊） 二一八

三村清三郎著

*流俗年表 （第二百二十三・二百二十四冊） 二一九

三村清三郎著
奥書　（第一冊見返）年々記し置し年表紛失せし故この一冊を作る／昭和二十一年七月二十日　竹清老人（印）

＊明治流俗年表稿　（第二百二十五冊）　三一〇

三村清三郎著

奥書　昭和二十六年辛卯五月三十日浄寫了（印）

＊大正年表　（第二百二十六冊）　三一一

三村清三郎著

奥書　大正十二年七月記　竹清

＊大正名家忌辰錄　（第二百二十七至二百二十九冊）　三一二

三村清三郎著　外題（第二百二十七冊）「大正忌辰錄自元年八月至五年七月」（第二百二十八冊）「大正忌辰錄自五年八月至八年三月」（第二百二十九冊）「大正忌辰錄自八年三月」

＊昭和忌辰錄　（第二百三十至二百三十三冊）　三一三

三村清三郎著　外題（第二百三十冊）「（書名同）自大正十五年九月至七年十二月」（第二百三十一冊）「（書名同）自八年一月至十二年十二月」（第三百三十二冊）「（書名同）自十三年至十八年」題簽（第二百三十三冊）「昭和名人忌辰自十九年至廿三年」　内題（第三百三十二・三冊）「道之霜」

奥書　（第二百三十冊昭和三年項末）昭和四年己巳一月七日夜　竹清寫

（同昭和四年項末）昭和五年庚午一月二十七日竹清浄寫

（同巻末）昭和八年一月十一日浄寫竹清（印）

（第二百三十一冊昭和八年項末）昭和九年甲戌二月二日病間浄寫／竹清

（同昭和九年項末）昭和十年乙亥八月十七日寫

（同昭和十年項末）丙子四月三日夜寫

（同昭和十一年項末）昭和十二年六月十七日寫　竹清

（第二百三十二冊昭和十三年項末）昭和十四年己卯七月十八日寫

（同昭和十六年項末）昭和十七年二月十五日雪窓下浄書　竹清

（記事昭和二十四年まであり巻末に「昭和廿四年七月廿四日　竹清」とあり）

＊雅俗明治年表・再補　五巻　（第二百三十四至二百三十八冊）　三一四

四世繪馬屋額輔著　蓬園常信增補　三村清三郎訂正

奥書　（第二百三十七冊）大正二年大盡店頭守歳集餘抄之　竹清（印）

（朱書）大正三年一月二十三日本ノマヽニ朱圈點ヲ加フ　竹清

△　同三月七日以國學家傳記集成一校以備忘録補遺（印）

大正六年八月以浪花及平安墓所一覽一校了

（第二百三十八冊再補）大正三年五月二十日

㊉　大正六年八月廿一日以浪花名家墓所記補

（第二百三十七冊奥に「本篇ハ繪馬屋額輔子ノ輯録セルモノニシテ見ぬ世の友／ノ附録トシテ掲載セルモ同誌廢刊后余ノ淺見寡／聞ヲ顧ミス增補収録シテ一冊子トナス猶脱漏誤／謬蓋シ少小ナラサルヘキモ得ルニ随ヒ訂正加記スヘキノミ云尓三十八年五月念六日　蓬園常信」とあり）

＊安房觀世音巡拜記　二巻　（第二百三十九・二百四十冊）　三一五

三村清三郎著　題簽「安房國三十四番觀世音巡禮日記乾（坤）」

識語　大正四乙卯年八月十日　扇松堂

大正七年五月二十八日房州鴨川より歸來此書をよみ／感興殊にふかし　靈岸嶋木村仙秀

丑の歩行もはや一廻りの丑年となりて大正／十四年乙丑一月廿一日　七十六翁山中笑

大正二丑年十二月二十日夜面白く拜見し了る／いせ津川喜田久太夫（印）

（水落露石筆朱書）前略大正三七月十日朝／泉州はまてらにてろせき

＊年越の旅　（第二百四十一・二百四十二冊）　三一六

三村清三郎著　山中共古自筆序　大正七年中院（ママ）林若樹自筆序　自序　題簽「蛇尾馬頭（第二百四十一冊仙秀筆　第二百四十二冊若樹筆）」

奥書　また旅に在るこゝちして旅の日記あらためうつす春雨の宵／大正七年戊午二月十四日　竹清（印）

識語　蛇尾馬頭をよみて／表題はぬえの樣だが本體をげんざんミればどうもおもしろ　春野山兵へ（印）

（山中共古頭書）

*松樓私語・東作狂歌集　（第二百四十三冊）　三一七

*青山瑣語　（第二百四十四冊）　三一八

三村清三郎著　ノートペン書

*青山浪語附有所樂志異　（第二百四十五冊）　三一九

三村清三郎著

奥書　（青山浪語）右は昭和九年頃にかきて日本及日本人阿迦雲其他の雜誌へ／カツト代りとして寄せしものゝ草稿らしく雜記帳に埒もなく／かきつけたりしをこの里に假居して痾を養ふ徒然の軒ニ背／をあふりて春の永日を閑にまかせてかきうつし侍る／和浦玉崎ニて　七十叟竹清記

（有所樂志異）昭和二十年乙酉四月六日浦和假寓ニて　竹清

*催嚏錄　（第二百四十六冊）　三二〇

三村清三郎著

奥書　昭和五年庚午淨寫　歪頭山人（印）

*略字譜・同補　（第二百四十七・二百四十八冊）　三二一

三村清三郎著　康福四年戊子臘月自序

奥書（補篇）昭和二十四年八月七日淨書

*刀ひの湯けふり　（第二百四十九冊）　三二二

三村清三郎補　内題「新編相模風土記卷三十二」

*佛說延命地藏菩薩經私解　（第二百五十冊）　三二三

三村清三郎著

奥書　昭和廿四年五月十八日黄昏終業蓋費數日也同夜一讀／删補了（印）

*千字文爲童解　（第二百五十一冊）　三二四

三村清三郎著　昭和廿一年景戌五月廿一日自序

奥書　昭和二十一年三月二十八日脫稿　同　五月二十一日淨寫卒業

*風塵隨筆　（第二百五十二冊）　三二五

餘延年千秋著

奥書　（風塵隨筆）昭和六年九月六日甲子以桂所藏本自朝至夜寫（印）

（卷末に三村清三郎著「風塵續筆」を附す）

*陶齋漫筆　三卷　（第二百五十三冊）　三二六

趙陶齋著　癸卯季春三村清三郎序

奥書　（卷一）昭和二十七年七月六日　朝寫了　竹清

（卷二）壬辰七月七日寫　七十七竹清翁

（卷三）昭和二十七年七月七夕五ツ半　七十七翁竹清寫／八日一交了

陶齋漫筆三冊西莊文庫本小津桂窓舊藏伊賀沖森書店より來る悪寫本ニ／てよミかねしを辛うして讀む原本を訂すもうるさければ寫し了る中略昭和二十七年壬辰七月八日五ツ半　七十七老人竹清（印）

*含苞錄　九卷　（第二百五十四至二百六十二冊）　三二七

三村清三郎著

（第二百五十四冊題簽下に「昭和十六年六月始　竹清老夫」、第二百五十五冊内題下に「昭和十八年四月起」、第二百五十六冊卷初に「昭和十九年甲申十一月五日稿」、第二百五十七冊内題下に「湯河原寓　竹清七十二翁」、第二百五十九冊卷初に「昭和二十五年一月二日起」、第二百六十冊内題「三島まの記　辛卯二月六日始　竹老人」、第二百六十一冊内題下に「昭和二十六年辛卯六月」とあり）

*巣鶴茂翁志　二巻（第二百六十三・二百六十四冊）　三二六

奥書（第二百六十四冊）（竹清藏古人尺牘の一部）右は予か所藏古人尺牘の一部也曽て之を謄寫し置むと志して〳〵未た業を卒へさる中ニ兵燹ニかゝりて皆亡ひぬこれは其中書家と印人〳〵との一部也　昭和二十年七月二十七日　湯河原にて竹清

*魚腹鴈足（第二百六十五至二百八十六冊）　三二七

（三村清三郎宛諸家自筆來翰集　題簽書名の下に第二百六十五冊「昭和二十年乙酉」、第二百六十六冊「康福三年丁亥」、第二百六十七冊「康福三年丁亥七月」、第二百六十八冊「丁亥九月」、第二百六十九冊「自昭和廿二年丁亥十月至十一月盡」、第二百七十冊「自昭和二十二年十二月朔至大盡」、第二百七十一冊「戊子一月」、第二百七十二冊「昭和廿三年二三月」、第二百七十四冊「戊子六月より至八月初」、第二百七十五冊「戊子秋末八九十月初まで」、第二百七十六冊「二十三年戊子十月―二十四年一月上旬」、第二百七十七冊「廿四年己丑一月―三月」、第二百七十八冊「昭和廿四年三月至七月」、第二百七十九冊「昭和廿四年八月より十月初まで」、第二百八十冊「自昭和廿四年十月至十二月至十二月大盡」、第二百八十一冊「昭和廿五年寅一二月」、第二百八十二冊「昭和二十五庚辰三月四月」、第二百八十三冊「昭和二十五年自五月至七月」、第二百八十四冊「廿五年寅七月八月」、第二百八十五冊「廿五年庚寅九月」、第二百八十六冊「昭和二十五年庚寅自十月至歲除」とあり）

*あひるなへ　十九巻（第二百八十七至三百五冊）　三二八

（三村清三郎宛諸家自筆來翰集　題簽書名の下に第二百八十七冊「辛卯一月」、第二百八十八冊「昭和二十六年辛卯二月三月」、第二百八十九冊「自昭和廿六年四月至六月中旬」、第二百九十冊「昭和廿六年辛卯七月」、第二百九十一冊「自廿六年八月至十月初」、第二百九十二冊「廿六年十一月十二月」、第二百九十三冊「廿六年十一月十二月」、第二百九十四冊「昭和廿七年一月二月」、第二百九十五冊「廿七年三四月」、第二百九十六冊「廿七年五月」、第二百九十七冊「廿七年壬辰六月七月半まで」、第二百九十八冊「廿七年壬辰七月半ヨリ八月末日マデ」、第二百九十九冊「昭和二十七年九月より十月二」、第三百冊「昭和二十七年十月末より十一月一杯」、第三百一冊「昭和廿七年壬辰十二月」、第三百二冊「昭和二十八年癸巳一月」、第三百三冊「昭和二十八年癸巳二三月」、第三百四冊「昭和二十八年癸巳三四月」、第三百五冊「昭和二十八年五月病中」とあり）

*湯碵雁影　四巻（第三百六至三百九冊）　三二一

（三村清三郎宛諸家自筆來翰集）

*記猫（第三百十冊）　三二三

三村清三郎著

*收得泉目（第三百十一冊）　三二三

三村清三郎著　自拓

*雙鯉隨流（第三百十二冊）　三二四

（三村清三郎宛諸家自筆來翰集）

*越前報書・越前芳書（第三百十三・三百十四冊）　三二五

（三村清三郎宛黒田道宅書翰集）

*轉蓬通報（第三百十五冊）　三二六

（三村清三郎宛貫井銀次郎書翰集）

*雁森柴文（第三百十六冊）　三二七

魚

（三村清三郎宛諸家自筆來翰集）

*伊勢たより（第三百十七冊）　三二八

（三村清三郎宛年老敏郎書翰集）

*五瀬東（第三百十八冊）　三二九

（三村清三郎宛年老敏郎書翰集）

*芳陽華箋（第三百十九冊）　二五〇
（三村清三郎宛梶山升二郎芳陽書翰集）

*桂翁芳信（第三百二十冊）　二五一
（三村清三郎宛分部盛之書翰集）

*香翁華翰（第三百二十一冊）　二五二
（三村清三郎宛香取秀眞書翰集）

*蘭芳蕙香（第三百二十二冊）　二五三
（三村清三郎宛諸家自筆書翰集）

*憂玉韻（第三百二十三冊）　二五四
（三村清三郎宛三村儁書翰集）

*刀水雙鯉（第三百二十四・三百二十五冊）　二五五
（三村清三郎宛渡邊刀水書翰集）

*自受法樂（第三百二十六冊）　二五六
三村清三郎著　自序

*道之霜（第三百二十七冊）　二五七
三村清三郎著
（昭和廿四年至廿八年諸家忌辰録）

*病窓囈語　刊（第三百二十八冊）　二五八
三村清三郎著
識語（巻初）静岡市發行本道樂所載　三村清三郎
（本道樂所載抜刷集）

*北地一見記（第三百二十九冊）　二五九
三村儁著　昭和二十四年己丑秋ノ九月二十二日三村清三郎跋

*價錢帳（第三百三十冊）　二六〇
三村清三郎著
奥書（表紙に）大正二年□丑十二月起　竹清

*凉仙詩草・凹巷詩其他（第三百三十一冊）　二六一
三村清三郎編
奥書（麓谷初集末）昭和二十八年癸巳三月十一月灯下抄了　竹老人
（山東京山著自序「凉仙詩草」・山東京傳著「京傳文鈔」・谷麓谷著寛政甲寅秋七月文晁序「麓谷初集」・韓珏著「凹巷詩」を所収）

*咕唧咕唧話（第三百三十二冊）　二六二
七篠長平（三村清三郎）著
奥書　廿五年七月十二日清書了

*不秋艸稿（第三百三十三冊）　二六三
三村清三郎著　ノートペン書

*親朋字號（第三百三十四冊）　二六四
浅野親朋（梅堂）著　三村儁筆

識語（巻初三村清三郎筆ペン書）この一編は間々寒檠瑣綴所載と重複する所あれど文に異同あり編に／出入あり且つ梅堂の自筆なれば併せ録することとはなしぬ
（巻末同）右僧兒學生の頃半分手傳はせたる也

*朱果漫筆（第三百三十五冊） 三六五
三村清三郎著

*奠香師爻錄（第三百三十六冊） 三六六
三村清三郎者 題簽「奠香録」

*續書画時代一覽索引（第三百三十七冊） 三六七
三村清三郎著
奥書 昭和二十五年六月九日成 竹清（印）

*銖積寸累 八巻（第三百三十八至三百四十五冊） 三六八
三村清三郎著
（昭和二十六年辛卯三月一日至二十八年六月一日）

*松煙餘香（第三百四十六冊） 三六九
三村清三郎著 自拓

*〔書翰索引〕（第三百四十七冊） 三七〇
三村清三郎著
（昭和六年三井銀行手帳にペン書）

*竹清唫藁（第三百四十八至三百五十冊） 三七一
三村清三郎著
（第三百四十八冊「昭和十九年十月記」、第三百四十九冊「昭和廿四己丑年より」、第三百五十冊「廿四年己丑五月始」とあり）

*〔忌辰手帳〕（第三百五十一冊） 三七二
三村清三郎著 ノートペン書

*〔竹清日記昭和十一年〕（第三百五十二冊） 三七三
三村清三郎著 ノートペン書

*竹清饒舌（第三百五十三・三百五十四冊） 三七四
三村清三郎著 ノートペン書

*竹清雜錄（第三百五十五冊） 三七五
三村清三郎著 ノートペン書

*〔佛教講話聞書〕（第三百五十六冊） 三七六
三村清三郎筆記 ノートペン書

*竹清叢書目錄（第三百五十七冊） 三七七

*界紙樣 三巻（第三百五十八至三百六十冊） 三七八
三村清三郎著
奥書（第三冊目次末）以上昭和二十年乙酉十一月十七日七十翁竹清手裝於湯河

原寓／居壽軒北窗下

*藁　箋　譜　（第三百六十一冊）　三七九

三村清三郎著

*近世華押譜　二巻　（第三百六十二・三百六十三冊）　三八〇

三村清三郎著

*新選古鑄百印　（第三百六十四冊）　三八一

三村清三郎著

奥書　右一百絲印新選續二日坊／之舊譜但二日坊混雜印予／除之猶有二三韓印有道正／之

伴林光平雜集　寫　十冊　（三八二―三九一）

伴林光平著　自筆　袋綴　改裝後補澁引表紙　原裝共表紙　間紙を挾む、「南天莊」「K・S（墨）」

（〇八一―イ二九）　所収細目次の如し

*於茂秘傳草　上巻　（通巻第一冊　以下同）　三八二

二八糎二〇・五糎　十行　二十四丁　原外題左肩自筆書名同

奥書　文久二年四月　日／園陵隊士伴林光平誌

識語　（別筆附箋）下巻恐未成

昭和丙子如月再檢KS／浪速玉造名越岡佐佐木所藏

*安政四　五　六詠草　（第二冊）　三八三

二四・五糎一七糎　十行　百五丁　原外題左肩自筆「巳午未安政四五六詠草（右下に）神樂聲舍所藏」

奥書　文久元年七月清書

識語　浪速玉造名越岡／KS佐佐木氏所藏　昭和壬午極月

*月　瀨　紀　行　（第三冊）　三八四

二四・五糎一六・五糎　十行　二十四丁　原外題左肩書名同

奥書　安政六年二月つこもりかた八尾の神樂聲舍に記す／伴林光平

識語　浪速玉造名越岡／佐佐木所藏

*須美禮草卷之五　（第四冊）　三八五

二四・五糎一六・五糎　約十行　三十丁　原外題左肩自筆「嘉永三年同四年　須美禮草　巻之五」

識語　浪速玉造名越岡／佐佐木氏所藏

（巻中嘉永五年にかかる詠草をも含む）

*信　太　之　森　（第五冊）　三八六

二五・五糎一六・五糎　九行　六丁　原外題左肩自筆「（書名同）（右下に）光平」

内題「法名廉瑞尼俗称千枝遠行之記」

*陵墓再撿圖說　（第六冊）　三八七

二五・五糎一七・五糎　八行　十三丁　原外題左肩自筆「（書名同）（右肩に）安政四年正月」

*小　田　の　中　道　（第七冊）　三八八

二五糎一七糎　十一丁　約九行　原外題左肩自筆「（書名同）歌三十一首カラ歌二首（右肩に）嘉永安政四年ノ詠草也」

*癸亥年三月京師道場落書　（第八冊）　三八九

原表紙闕　二八糎二一糎　十二行　三丁

（巻末に「天下清義之士」と署す）

*謠曲要石（第九冊）　三九〇

徳川齊昭著　二五・五糎一七・五糎　八行　七丁　原外題左肩自筆「（書名同）（右肩に同筆）水戸前中納言齊昭公作」

奥書　嘉永六年丑二月今春八郎太夫蒙辱命而作（施ヽ）音節／制舞曲云〻／伴林光平寫

（第六丁半葉分闕）

*直毘靈（第十冊）　三九一

本居宣長著　二七糎三六糎　十一丁　外題書名同

奥書　嘉永四年二月廿七日寫了　伴林光平

（紙背に光平著自筆「吉野紀行」あり）

伴信友稿　寫　一軸　三九二

伴信友著　自筆　巻子本　改装後補紺絹表紙　見返金砂子散　二六糎二米二八糎　題簽後筆書名同

（「享和二年並木主へ託シ大平主へ遣信友」とあるものの草稿・「古事記問目」・雅文稿・自畫讃・「セイスイキ七（十八丁オ）」の條・歌稿・手習稿・文化十一年東海道旅中備忘等の諸文稿を巻子本臺紙に貼附　〇八一―イ一七）

○

山草堂集　一百四十四巻　百冊　三九三

郝敬（明）撰　洪範（明）編　田必大（明）・彭大翮（明）校　天啓四年甲子二月清明自總叙　李維楨跋　各篇巻首自題辭（天啓甲子歳端午日より崇禎三年に至る）　唐袋綴　茶色表紙　間紙を挾む　二六糎一六糎　四周單邊二〇・五糎一四糎　有界九行十八字小雙行　柱刻「山草堂集（但し第一至四冊の談經の條この文字なし）總序・談經（易領等所収書名）（巻數）（丁數）周易（尚書等内容見出）」

（明版　郝敬自叙の第七・八計二丁影補寫、談經九巻四冊は「明和五戊子九月／平安亀龍院藏版（印）／平安書林　錢屋善兵衛」と刊記ある唐紙刷和刻本を以て補冊　〇八二―イ五）

所収次の如し

内編		外編	
談經	九巻	批點左氏新語	二巻
易領	四巻	批點史記瑣瑣	二巻
問易補	七巻	批點前漢書瑣瑣	四巻
學易枝言	四巻	批點後漢書瑣瑣	六巻
春秋非左	二巻	批點三國志瑣瑣	四巻
四書攝提	十巻附録一巻	批點晉書瑣瑣	六巻
時習新知	六巻	批點南史瑣瑣	四巻
閑邪記	二巻	批點北史瑣瑣	四巻
諫草	二巻	批點舊唐書瑣瑣	四巻
小山草	十巻	批選杜工部詩	四巻
嘯歌	二巻	批選唐詩	二巻
藝圃傖談	四巻	蜡談	六巻
史漢愚按	六巻		
四書制義	六巻		
讀書通	二十巻		

随筆・雑書

乙淵謾言　寫　一冊　三九四

岩瀬乙淵著　自筆　自畫　袋綴　改装後補青表紙　原装共表紙　間紙を挾む　二五糎一六・五糎　十二行　三十九丁　挿畫十一頁分　原外題左肩書名同　右肩又同筆「岩瀬乙淵漫言」、「若樹文庫」「清野文庫（紙票）」

（賣卜者・畫先生・賣淫等諸項目にわたる明治初期東京の風俗書留　〇九一―イ五三）

以文會筆記　寫　三十三冊　闕　三九五

袋綴　澁刷毛目表紙　二二・五糎一六糎　各種罫紙　題簽左肩（第一至三冊無邊

第五冊以下雙邊）書名同、「常光禪院」「青谿書屋」「清野文庫（紙票）」

識語　（第三冊巻一見返）（本文同筆）每會筆記繕録爲冊如此乃破郤原書冀／後巻紹續無怠廢／以文社友中永護保藏要莫令散逸

（清野謙次筆朱書）三宅米吉編以文會筆記抄（昭和四年／雄山閣刊行）に抄出せられたる項目は／抄に出づと欄外に朱筆した／昭和廿三年秋　霞ケ浦畔にて／清野謙次

（巻十六見返）（右同朱書）第十五冊は惜むらくは缺本なり／三宅米吉氏以文會筆記抄の／原本（東京文理科大學圖書／室藏本）を寫して補足するを要す

（文化八年より萬延元年に至る筆記にして、第一至十八冊は同筆、第十九冊以下は會員各自筆にて提出せるものの綴　第一冊は會の「定」及び「同盟諸子姓名簿」、第二冊は「以文社交名」、本文は巻一至三十三、第七・八・十五計三冊闕　三宅米吉校訂「以文會筆記抄」—參照　〇九一—イ六九）

假寢梦　六巻　六冊　三九六

小崎觀海著　午三編　元祿壬申首夏自若老臥佛序　元祿癸酉冬十一月自序　自跋　袋綴　砥粉色表紙　二七・五糎一九糎　四周單邊二〇・五糎一四・五糎　十行　題簽中央雙邊「（書名同）一（—六）」　柱刻「假寢梦一（—六）（丁數）」、「渡邊家山淵書倉印」「慶雲常住」「素隆」「西莊文庫（小津桂窓筆「花百十七全六」と墨書せる紙箋に捺印）」

（〇九一—イ三七）

過眼錄　寫　一冊　三九七

喜多村信節著　自筆　袋綴　黄表紙　用紙薄様　二三・五糎一五・五糎　十行　四十三丁　題簽左肩「（書名同）完」、「清野文庫（紙票）」

（巻末に「筠庭主人撰　北峯逸人附考」と記せる平・片假名両書の「花街漫録正誤」問答五丁を附す　〇九一—イ四一）

神久壽加護　寫　七冊　三九八

東雲亭照千賀著　自筆　弘化五とせといふとしのきさらぎ落栗庵もとの木網序　六朶園二葉序　自序　（第二冊）安政七ツ目人眞似する申のとし秋葉の落る頃八十二翁長壽老人自序　安政六年冬ものゝ本かき柳亭種秀跋　袋綴　網代模様押出紅殻色卍字入手畫扇面崩黄色表紙　二六糎一九糎　八至十一行　題簽左肩「（書名同）一（—七大尾）」、「川崎千虎圖書之記」

識語　右かみくす籠といふ隨筆は新よし原角町の／妓樓のあるし万字屋茂吉か自著自筆の／原本なり茂吉雅号を東雲亭照千賀と／称す頗おもしろをかしき草子ニそあり／ける／明治三十四年三月　日くらしの里人／茶六かしるす（印）

（〇九一—イ三三）

晩進魯筆閑窓瑣談前篇　寫　二巻　二冊　三九九

佐々木貞高（為永春水）著　自筆　櫟齋主人阿部喜徳序　教訓老人自序　袋綴　縹色表紙　二五・五糎一七・五糎　十行　挿畫（第一冊）六頁分　（第二冊）五頁分　題簽左肩「（書名同）上（下）」、「清野文庫（紙票）」

（出版願出本　内表紙中央「（書名同）一」として右に「二巻墨附六十丁」と傍書して右肩に「教訓老人貞高著」、左下に「丁子屋平兵衛」、第二冊同左下に「丁子屋平兵衛」とあり　自他交筆切張り等頗る訂正多し　帙裏に昭和廿四年二月清野謙次筆の考證を附す　〇九一—イ三七）

閑樂筆記　寫　四十冊　四〇〇

本多忠憲著　自筆　袋綴　茶色表紙　二三糎一六糎　四周雙邊一八・五糎一二・五糎　九行罫紙　題簽左肩雙邊（刊）書名同　副題簽色紙形「（所収分類項目を記す）」

柱刻「閑樂藏」、「回芳文庫」「清野文庫（紙票）」

識語　（帙裏）（清野謙次筆）忠憲著書目ハ和學者目録ニアリ／回芳文庫ハ忠憲ノ藏書印ナリ

（各冊小口書に「人倫」「工商」「家屋」等の見出しを記す　〇九一—イ四七）

曉蘭抄　寫　二十三巻追加一巻　十三冊　四〇一

序　袋綴　深緑色表紙　二七糎一九糎　十行　題簽左肩「曉園抄（巻数）」

追加冊内題「曉蘭抄追加（是より日本記註の抜書）」、「露沾」「贋庫」

（江戸時代初期寫　〇九一—イ三九）

見聞雜記　寫　一冊　四〇一

重久篤通著　自筆　文政九年丙戌晩秋日重久篤桓序　袋綴　改装後補草花模様縹色千代紙表紙　原装共表紙　二四・五糎一七糎　墨附百八十一丁（巻初の文政九年篤桓序三丁分は後補）　題簽左肩書名同　原外題左肩「昼留日乗一　序題「先考見聞雜記」　内題なし、「貫」「清野文庫（紙票）」

（〇九一―イ六七）

鹽尻拔萃編　寫　四冊　四〇二

天野信景著　瀧澤馬琴筆校合　袋綴　澁引布目表紙　二六・五糎一八糎　十行　題簽左肩雙邊（刊）瀧澤馬琴筆「（書名同）春（夏・秋・冬）」　内題「鹽尻（又は志保之里とあり）」　次いで馬琴筆「拔萃第一（―四）」　尾題馬琴筆同上、「瀧澤文庫」「西莊文庫（小津桂窓筆「花四十全四」と墨書せる紙箋に捺印）」

識語　（第一冊）（瀧澤馬琴朱筆）　此草冊二十八頁有用の事多けれハ筆工に謄抄せしめ早借抄の原本ハ／書賈の仕入本とかいふものにて傭工の爲に誤脱せらるゝこと甚しきもの也き／時に天保甲午八月十三日校閲施雌黄而藏于書箱著作堂

（第二冊同上）　此巻有益之叓説得而多有因令抄謄畢／著作堂主人

（第四冊同上）　文化年間予繙閲是書四十巻頃者又借覧木村／黙老所藏二十巻内中抜萃編四巻有之即便／令謄寫畢／天保五年甲午冬十二月　著作堂

（馬琴筆朱書校合多し　〇九一―三）

不忍遺稿　寫　合一冊　四〇三

屋代弘賢輯　自筆　袋綴　黄表紙　二一糎一三・五糎　八行　百二十六丁　題簽左肩雙邊（刊）弘賢筆書名同　内題なし、「清野文庫（紙票）」　左記の書を合綴

老のたのしひ　省錄

市川白猿著

奥書　（屋代弘賢筆）右老のたのしミ抄書　全壹冊山東／主人よりかりもとめて文化改元の／とし中夏公務の閑ヲぬすみ／よふ／＼抄書せしものなり

（原に「享和二年壬戌秋七月十七日抄書／於燈下畢山東菴主人」と奥書あるものの寫）

戀歌集

（原に「寛文十二年／子七月晦日（花押）」と奥書あるもの）

積古齋鐘鼎彝器款識

古印譜

和歌會式

奥書　右一冊借鈴木縫藏本書寫以納不忍文庫／享和二年十月　源弘賢

御殿の記

奥書　文政庚寅／孟春日　源貞通識

陜山手簡　限石ノ事

奥書　霜月卅日／文晁先生玉机下　八王子　横山陜山

（〇九一―イ五二）

震齋學目　寫　二巻　二冊　四〇五

清水震齋著　自筆　天保四癸巳歳秋八月自序　袋綴　砥粉色表紙　二六・五糎一八糎　四周雙邊（刊）一九・五糎一三・五糎　插畫入　題簽左肩雙邊（刊）「震齋随筆上（下）」　序題「清水震齋學目」　柱刻「清震齋學目」「伊藤藏書」「松岡氏藏書印」「春渓愛藏」「掃葉山房藏書」「清野文庫（紙票）」

（〇九一―イ五五）

隨筆　寫　三巻　三冊　四〇六

六樹園自筆序　袋假綴　共表紙　二四・五糎一七糎　外題左肩「（書名同）上（―下）」　内題なし、「若樹文庫」「清野文庫（紙票）」

識語　（第一冊表紙右肩）畠山梅軒所藏

（各種古物器の精寫拓摺を収む　〇九一―イ七三）

隨聞積草　寫　一冊　四〇七

南方徑方著　自筆　袋綴　薄茶色表紙　二三糎一六糎　四周單邊一七糎一二・五糎　十行罫紙　四十九丁　外題左肩「（書名同）完」　綴目「金華堂」「徑方所藏」「沼野文庫」「雅樂堂」「洒竹文庫」「若樹文庫」「清野文庫（紙票）」等

（巻中「今年天保十一年子三月」の記事あり　〇九一―イ四九）

睡餘謾錄　寫　七冊　四〇八

多賀谷醉雪著　自筆　袋綴　澁刷毛目表紙　二四糎一七糎（第一冊のみ二一糎一三・五糎）　外題（第一至三冊）左肩書名同　（第四冊）「從丙子至庚辰／世説睡餘謾錄」（第五冊）「淵静居隨筆」（第六冊）「庚辰雜抄」（第七冊）「丙集政午雜抄」　内題なし、「鳶魚」「清野文庫（紙票）」

識語　（第一冊見返）（朱書）　此書七冊は三田村鳶魚氏旧愛藏ナリシニ／ヨリテ其印記アリ、又東京市史編纂ノ／爲メニ貸セシ時ニ傳記ヲ調ベテ記シテ／モラツタノヲ貼紙ニ附ス　清野謙次／昭和十九年十二月

（附箋）御預りの隨筆は多賀谷醉雪と申す火附盗賊改与力／にて、大西醉月に画を學びたる旗本の一人、兄は多賀谷向陵と／稱して、同じく与力、父は腹診に長じたる医者なりしも、醫／者を嫌つて、幕府の旗本となり、矢張り与力を勤めし人にて／その墓は牛込／（ママ）の鳳林寺にありしも、只今は、杉並區　高圓寺に／移轉したるを尋ね、その子孫にも面會種々の話を承り申候

（第三冊表紙）（朱書）鳶魚珍藏

（外題下に「靜學斎主」「淵静居」等と自署　〇九一―イ六一）

村醪夢談　寫　一冊　四〇九

齋藤黙仙著　自筆　明治三歳次庚午仲夏自跋　袋綴　改装後補藤色表紙　原装共表紙　二四糎一七糎　九行　四十七丁　原外題中央「（書名同）草稿」、「清野文庫（紙票）」等

識語　（朱）　文堂百拝（印）／呈奉池田大人雅君／此ノ四冊ハ故齋藤覺兵衛（号黙仙）七十五歳ニメ没ス下略　〇九一―イ七一）

退私錄　寫　三巻　一冊　四一〇

新井君美著　鹿都部眞顔筆　袋綴　改装後補格子縞鶯色縮緬表紙　二六・五糎一九糎　十五行　四十八丁、「狂歌堂文庫」「清野文庫（紙票）」等

識語　（見返に貼紙）　白石先生隨筆　眞顔大人藏本并自筆

（清野謙次筆ペン書）　この鑑定書きはだるまや／五七の書なり　〇九一―イ三九）

代紳錄　寫　一冊　四一一

蒲生君平著　自筆　袋假綴　改装後補紺表紙　原装茶色表紙　間紙を挟む　用紙裏打　二二糎一二糎　原寸一三・五糎　左右雙邊一二糎七・五糎　八行柱刻「青黎閣」罫紙　四十九丁　外題左肩書名同　内題なし

識語　（表紙）　此本蒲君藏遺本也書跡亦名殘之書也／與此書中君藏平生所懷也里仁亭（以下抹消）（此の二行亦見せ消ち）

（奥）蒲生君藏秀實遺書也里仁亭誌

（裏表紙）此巻蒲生君平平生之所懷／予先人與君平爲水魚之交／中略天保五年初春辛□（此四行見せ消ち）　〇九一―イ四三）（重美）

煙草記　一冊　四一二

寶暦六丙子年仲春自序　袋綴　水色表紙　二三・五糎一五・五糎　四周單邊一八・五糎一三糎　十二行　十九丁　外題左肩墨「（書名同）單」見返書名同　目録題「煙艸記」柱刻「（書名同）（丁數）」、「小汀氏藏書」　〇九一―イ三）

陶齋先生日記　寫　二巻　二冊　四一三

趙陶齋著　自筆　自跋　袋綴　黄茶色表紙　一三・五糎二二・五糎　十至十二行

内題なし　外箱（小津桂窓筆紙箋に）書名同

奥書　（上巻末）八月十二日四つとき／燈下すみつきぬ／めかねなし

（下巻文中の章段に）亥十二月十日燈下息心痿

（以下同）安永八年歳次己亥十一月／朔燈下息心時年六十七歳／病痿不得正座憑几横臥／左手撑之右手腕空揮不得／自在憾ミ

十二月初五日初更燈下

亥十二月初七日二更灯下火燼邊ノ…(ママ)六十八歳痩叟
十二月八日灯下今日抱主人ノ來訪甚慰病懐抄李文正ノ事略眼力不衰自看自喜
己亥臘月初九日夜二更灯下ノ六十七歳痩叟試目
亥十二月十一日夜二更 痩翁（花押）
（〇九一―イ三五）

なか〳〵の友

寫 二巻 二冊 闕 四四

志賀理齋著 自筆 袋綴 薄茶色表紙 用紙裏打 二四・五糎一六・五糎 四周單邊一九・五糎一二・五糎 十行 挿畫入 題簽左肩「（書名同）中ニ(下三)」、「焯戯廬」「清野文庫（紙票）」
奥書 文政六年のはる三月十日辰の貝より／筆をとり初めて同し月の下五日／の午の貝に録し畢りぬ
（巻二・三を存す 〇九一―イ六五）

梅園雑話

寫 三冊 四五

毛利梅園著 自筆 天保甲辰十五年吉祥日自序 袋綴 薄茶色布目表紙 二三・五糎一七糎 題簽左肩「（書名同）一（一―三）」とありて「本草家毛利梅園自筆本共三」と朱書傍記 第一冊序題「見聞集附録（朋書號大江私記 梅園雑話）」 同内題「大江私記巻一之部」、「毛利家記」「伊藤篤太郎記」「深谷」「清野文庫（紙票）」
識語 毛利梅園ハ博物家ニシテ名ハ元壽、梅園／其號、又攢花園ト號ス。頗ル寫生ニ巧ナリ。／梅園花譜十八冊・梅園菌譜一冊・梅園／鳥譜一冊・梅園魚譜三冊・梅園蟲譜／一冊・山茶花帖・梅園採藥紀行圖繪／等アレドモ皆稿本ニシテ梓行ノモノアルヲ／聞カズ又家藏ニ寫眞齋實譜壹冊アリ／圖画精巧ニメ着色鮮美ナリ最モ參考ニ／裨益アリ。今コノ梅園雑話ヲ閲スルニ素ヨリ／博物專門ノ書ニハ非ズト雖ドモ『淡州ノ筜(シホ)／竹(チク)』『阿州ノ虎斑竹』『長州ニテ白魚ヲ養フ／話』『金銀之話』『禁中草木』ヲ始メ斯學ノ／考證ニ資スベキ記事尠カラズ／明治四十八(ママ)年八月四日／東京小石川林町／植物研究所ニ於而／理學博士 伊藤篤太郎誌す（印）
（〇九一―イ五九）

枇杷園漫筆

寫 一冊 四六

小野幽軒著 自筆 袋綴 青表紙 二三・五糎一七糎 約九行 七十七丁 外題左肩書名同 内題なし、「伊藤篤太郎記」「清野文庫（紙票）」
識語 明治三十八年三月十二日購之／東武ノ人小野高泉ハ幽軒ト號ス幕府ノ士ナリ草樹纂説／拾巻合六冊（稿本）芳園巡遊録貳冊（稿本）ノ（上巻ハ草部ニメ二百五十七種ヲ收載ス／著アリ余兩書ヲ閲覧ス／書肆云高泉ハ神官小野高潔ノ男ナリト／（東京小石川區白山御殿町ノ假寓ニ於テ伊藤篤太郎記（印）
（右同筆朱書）再按ニ小野幽軒ハ馬場大助、毛利梅園、田丸槐園／諸氏ト同時代人本草家ナリ
（同墨書）本書福壽草ノ条ニ／文化ノ未歳睦月ノ季旬（江城栗西隈隴士 枇杷園幽軒述／トアレバ其頃）
（巻首に「枇杷園幽軒小野平高泉纂（印）」とあり 〇九一―イ六三）

北窓瑣談

寫 三巻 三冊 四七

橘南谿著 自筆 文甫畫 桃花山人序 袋綴 改裝後補刷毛目表紙 原裝共表紙 二六糎一八・五糎 十行 挿畫（第一冊）十四頁分（第二冊）十二頁分（第三冊）十五頁分 原外題左肩「（書名同）上(一―下)」、「山田氏藏書記」「清野文庫（紙票）」
（出版願出本 第一冊原表紙右下に「橘南谿著／全部三冊」、第二冊遊紙中央書名下に「（紙員三十九墨附 繪六番）」とあり 第一冊原表紙右に「文政七年閏七月六日願上／同八月五日西御免／願人三木太郎左衛門」とありてその上に白紙を貼りてこれを覆ひかくす 内題の次行に「梅華仙史著」とありてその上に「橘南谿著」と記せる紙片を貼る 巻中貼紙訂正多し 帙裏に昭和廿四年二月清野謙次の考證一葉を附す 〇九一―イ三五）

窓雪

寫 四十八冊 四八

足立正聲著 自筆（他筆を交ふ） 袋綴 澁刷毛目表紙（茶・青等色替表紙を混ず） 二三糎一六・五糎 十一行（左右雙邊十一行柱刻「朝白園」罫紙を交ふ） 題簽左肩雲母紙「（書名同） 一（一―五二）」 外題第一冊内表紙中央「（文化丁卯窓の雪」、「克己齋足立氏圖書之記」「建部文庫」「清野文庫（紙票）」

（〇九一―イ四五）

銘肝腑集鈔　寫　一冊　四九

袋綴　改裝後補雲紙表紙　原裝共表紙　二八糎二三・五糎　九乃至十一行　四十二丁　題簽中央金砂子高野辰之筆書名同　原外題中央「（書名同）和漢撰勘并古詞等」、「斑山文庫」

識語　永正四年丁卯初冬上幹之比得之本來是者／慈父兼守法師之持者也次第之相得末代重／寶也輒外見不可仕者歟秘藏ヒ　重祐（花押）

（見返貼紙）此ノ書銘肝腑集鈔一巻モト九條家ノ藏也何人ノ抄録カ明ノナラズ名所尽源氏付合飛梅申詞皆有用珎奇ノ文字ナリトイ／ヘドモ巻首太平記抄ノ數紙最モ尊ムベシ題下ニ上之上トアリコレ／九巻又ハソレヨリ少キ巻ヨリ成レル太平記ノアリシヲ告グルモノ也而／シテ太平記ノ最古ノ寫ト稱セラル、神田本ハ流布本ト同ジク四十／巻ヨリ成レルヲ思ヘバ此ノ書ノ更ニ古様ヲ存スルヲ知ルベシ記事／マタ之ヲ証ス序ニアリテ高時ノ乱逆ヨリ數ヘテ今ニ至ルマデ四／十餘年トナスモノハ流布本也三十餘年トナスモノハ神田本也而シテ／此ノ書ハ實ニ廿餘年トナセリコレ其ノ最モ古キ一証也此他序ノ／分段ヨリ見ルモ此ノ書最モ當ヲ得タリ行文訓讀用字等ノ古体／ナルハ更ニモイハズ　／奥書ニヨレバ此ノ書ハモト兼守法師ノ藏ナリシヲ永正四年子ノ重／祐ガ獲得シテ秘藏シタルモノナリ兼守重祐ノ傳未ダ詳ナラザレド／永正ヨリ四五十年ヲ遡リタル頃ノ寫トナスベク少クトモ應仁文／明ヲ下ラザル書ナリトイフベシ／昭和四年十二月十二日斑山文庫主人高野辰之識

（室町時代中期寫　原外題下に本文別筆「重祐之」とあり　〇九一―イ五）

名士自筆稿　寫　一軸　五〇

巻子本　卵色揉紙表紙　二七・五糎一五米七〇糎　各自筆原稿を貼附

（昭和初年より十年頃に至るサンデー毎日・大阪毎日新聞等への寄稿斷片集　〇九一―イ三）

所収次の如し

伊勢物語（井上通泰）四枚
魯魚机枕（佐佐木茂索）一枚
淺春浴泉記（松崎天民）一枚
田園新居（荻原井泉水）一枚
竜溪先生を憶ふ（巌谷小波）一枚
栗の花（瀧井孝作）一枚
早川三代治を紹介す（島崎藤村）一枚
「まと魚」の話（南方熊楠）一枚
春の夜（宇野千代）一枚
夏の朝飯（志賀直哉）一枚
近詠より（河東碧梧桐）一枚
洛北の春（柳原燁子）一枚
雜録早慶戰（久米正雄）一枚
よるとひる（東郷正兒）一枚
クラリオの牧さん（下村千秋）一枚
アンテナ（長與善郎）一枚
舞踏靴（川端康成）一枚
朝（水野葉舟）一枚
身邊雜記（田山花袋）五枚
競馬隨筆（佐藤紅緑）一枚
大原村途上（松村英一）一枚
アルバム（吉屋信子）一枚
渥美半島（尾山篤二郎）一枚
身邊雜詠（若山牧水）一枚
紹介狀（北村小松）一枚
採藥去（青木月斗）一枚
親と子（武田麟太郎）一枚
みちのく抄（橋田東聲）一枚
横川惠心僧都墓（土屋文明）一枚
春宵讀本（十一谷義三郎）一枚
渾大防君について（里見弴）一枚
短歌三首（與謝野晶子）一枚
手工藝（柳宗悦）一枚
晩夏（今井邦子）一枚
いたづらがき（久保田万太郎）一枚
男の悲哀？（窪川いね子）一枚
赤間宮懐古（川田順）一枚
昭和大典奉祝倭歌（川田順）一枚
夜警（宇都野研）一枚
竹林（齋藤茂吉）六枚
西太后（丸木砂土）一枚
旅に愁ふ（吉井勇）一枚
九州の旅にて（若山喜志子）一枚
山は笑ふ（杉浦翠子）一枚
日本の夏（吉江喬松）一枚
推薦の辞（成瀬無極）一枚
超過激主義（茅原華山）一枚

擁書城花月社會　寫　一軸　五一

大田覃（南畝）編　自筆　巻子本　薄青色表紙　二三糎六米二〇糎　一紙三四糎、

「大田氏藏書」「南畝文庫」

（巻首に繼紙して南畝筆書名同下に「文化十三年丙子四月廿五日」とあり「肥後熊本細川越中守臣志賀太郎介所藏古文書三巻二百七十通之内」等古物古文書の寫「覃按宣房ハ藤房卿ノ父也」、「覃按十三合の舛　御年貢御納ノ御升　久我升／升ノ名可考」等各項目に南畝の考文あり　〇九一―イ三）

精神科學

日本哲學・國學

〔國學者書翰集〕　寫　二帖

坂本秋郷序　折本　（第一帖）板表紙　（第二帖）牡丹唐草模様茶鼠色絹表紙　臺貼

（第一帖）四二糎二三糎　（第二帖）四二糎五七糎　内題なし

識語　（第一帖）これやこの／かすの玉すさ／ともにみな／道をてらしゝ／寶なりけり／美静

（三一―九）所収次の如し

第一帖

後十一月廿七日　橋本肥後守宛　持豊

後十一月廿九日　（同右）（押紙「この二ひらは芝山殿より肥後守經亮へ給へるふみなり」）

正月十五日　龍厂呂宛　眞淵（押紙「こは縣居大人の内山眞龍かもとへおくられ／たるふみなり龍まろといふはまたつかはし／めの名なり　細田の邑の石塚龍麿かことには／あらす思ひまかふへからす」）

四月廿九日夕　大平宛　中衛

三月八日　大平宛　土萬呂

文化九申六月廿三日　大平宛　眞たつ

十二月十六日　本居中衛宛　加藤千蔭

七月九日　本居宛　一柳春門

七月十四日　本居庵宛春　千秋

二月十四日　藤垣内宛　稲彦

四月十一日　大平宛　經雅

閏正月廿三日　本居三四右衛門宛　眞幸

三月十六日　三四右衛門宛　篤胤

六月七日　本居三四右衛門宛　内山彌兵衛

正月七日　本居三四右衛門宛　平田半兵衛篤胤

十二月十六日　本居縣著人ゝ御中宛　村田傳藏

春庭歌稿

午二月廿四日　本居三四右衛門宛　内山弥兵衛眞龍

五月廿一日　本居三四右衛門宛　栗田壹岐守

五月廿一日　本居宛　加藤千蔭

六月廿五日　稲掛宛　村田平四郎春海

十一月廿三日　稲掛大平宛　村田平四郎

十月二日　本居宛　和泉眞國

十八日　本居宛　和麿

五月十二日　本居三四右衛門宛　稲彦

正月十四日　本居三四右衛門宛　橋本稲彦

二月廿五日　本居三四右衛門宛　長瀬七郎平眞幸

三月十一日　本居三四右衛門宛　藤井長門守

正月七日　本居三四右衛門宛　村田次九兵衛

七月朔日　本居三四右衛門宛　平田篤胤

七月廿九日　藤垣内宛　中山弥助美石

三月二日　藤垣内宛　中山弥助美石

三月廿日　稲懸大平宛　萩原元克

十月九日　藤垣内宛　三冬

十二月念四日　本居三四右衛門宛　野上九一郎

復月旬九　本居宛　茅五隆

十一月九日　大平宛　大倉好齋

七月廿九日　大平宛　眞幸

本居大平　稲懸宛　大矢重以歌稿

文政八年乙酉四月五日記大平文稿

廿六日　大平宛　宣長

第二帖

「あかたぬし」署記書翰斷簡

十二月八日　十介宛　春庵

文興藤君宛　舜庵宣長

六月十六日　稲垣大平宛　内山眞龍

六月十六日　本居中衛宛　加藤千蔭

十二月十八日　本居宛　加藤千蔭

八月廿三日　稲掛大平宛　村田平四郎

閏月十五日　稲掛大平宛　村田平四郎

十七日　藤垣内宛　和麿

三月九日　本居三四右衛門宛　橋本中臺稲彦

四月十二日　本居宛　稲彦

閏七月五日　本居中衛宛　長瀬七郎平眞幸

七月十九日　本居宛　青柳勝次

九月廿三日　本居三四右衛門宛　藤井高尚

むつ月十日あまりこゝのかの日　稲掛宛　藤井高尚

四月十九日　藤垣内宛　みかまろ

文化八年正月廿日　本居三四右衛門宛　鈴木常介朗

正月廿一日　藤垣内宛　道足

八月晦日　宛名闕　高蔭

四月三日　清島宛　濱臣

如月廿五日　藤垣内宛　三冬

十月八日　田中七三郎宛　祇園與一

十二月十七日　藤垣内宛　茅五隆

三月廿七日　本居大平宛　季鷹

三月前七　本居宛　藤岱

十月三日　鈴屋宛　村田春海

十一月廿五日　宇治の大人宛　まほき

廿日　十介宛　のり長

鈴屋餘韻　寫　四軸

巻子本　鐵色採紙表紙　見返茶色地花模様紙　一五・五至二九・五糎　内題なし　四三

（三一―イセ）所収次の如し

第一巻

本居宣長筆　山邊五十師原之考
本居宣長筆　漢文書狀案草稿斷簡（無宛名）
本居宣長筆「ゑり哥三」歌稿
本居宣長筆「天明三年六月十三日の夜鈴の屋にて月を見る哥」稿
麗女筆　文稿
[う]月二日（中川のぬし宛）蒼生子書翰
久老筆「擬山上大夫之體」長歌稿
悟心筆「春庵詞宗をとふらひ侍りて」歌一首稿
五月廿六日（本居春庵宛）悟心書翰
六月十五日（本居舜庵宛）蓬萊雅樂翰

第二巻

十二月十六日（本居舜庵宛）岡部衛士眞淵書翰
霜月五日（本居のぬし宛）谷川ことすか書翰
四月二日（本居春庵宛）加藤千蔭書翰
六月六日（本居舜庵宛）栗田求馬土滿書翰

第三巻

八月廿九日（當地社中宛）鈴屋翁狀
十九日（總十郎宛）宣長口狀
八月廿五日（柏屋宛）中衛覺狀
本居宣長筆　神樂由來稿
「出土石器問答」

第四巻

本居宣長筆　歌稿
本居宣長加點　歌稿
本居宣長筆　歌稿

本居宣長筆　七夕歌稿
春庭歌宣長評
宣長筆削添歌稿
枝直筆　歌一首
八十九叟枝直筆　九月十三夜十三首

○

三月十八日（本居春庵宛）村田治兵衛春海書翰
四月廿一日（舜庵宛）魚彦書翰
十月廿一日（本居三右衛門宛）加藤千蔭書翰

四月十日（菊屋兵部宛）宣長書翰
五月十日（總十郎宛）宣長狀
本居宣長筆　續日本紀疑目稿
本居宣長筆「上代諸考」稿
田中道万呂筆　山邊御井舊地考

茂子筆　歌稿
本居宣長筆　歌稿
本居宣長筆　古歌註稿

本居宣長筆　横井千麿作歌三首
太平筆　歌稿
經亮筆　歌一首

くさくさのとひごと　寫　一冊　四四

田中道麿問　本居宣長答　各自筆　袋假綴　共表紙　一五・五糎二一・五糎　十三丁　外題中央田中道麿筆「万葉／枕詞／緒鑑／雜疑問」
（外題左肩に道麿筆「庚子二月下旬」とあり　一三・四―イ二）

雜疑問　寫　一冊　四五

田中道麿問　本居宣長答　各自筆　袋假綴　共包表紙　一六糎二一・五糎　十六丁　外題中央田中道麿筆書名同　内題なし
（外題左に道麿筆「天明元丑六月下旬」とあり　一三・四―イ三）

臣道　寫　一冊　四六

本居宣長著　袋假綴　共表紙　間紙を挟む　二八糎二〇・五糎　八行　八丁　外題左肩書名同　内題なし
（江戸時代末期寫　一三・四―イセ）

鈴屋翁抜書　寫　九巻　十冊　四七

袋假綴　共包表紙　二七・五糎一九・五糎　十一行　外題左肩「鈴屋翁ぬき書一」「鈴屋抜書二（四・五）」「鈴屋抄出書三」「鈴屋抄書六上（六下―八）」「鈴屋翁抜書九」　内題なし
識語　（第二冊内表紙左肩貼紙）第二巻校合濟
（第四冊同）第四巻乙亥二月十三日校合畢

（第五冊同）第五巻文化十二年三月十日校合濟
（第七冊同）第七巻校合乙亥二月五日畢
（第九冊）（表紙右端に）校合濟
（第四冊内題に「群書摘抄 丙子冬 舜庵本居宣長識」とあり　内表紙見返に抄書目録を記す　一三・四―一九）

なけきの下露　寫　一冊　四二八

青木茂房等著　袋綴　縹色表紙　二七糎一九糎　十行　百九十四丁　題簽左肩書名同　内題なし
（江戸時代末期寫　十月廿五日青木茂房作「なけきの下露」・植松有信作「山室日記」以下田中大秀作「文化元年九月御靈祭にさゝけ奉れる道壽詞」に至るを所収　一三・四―一五）

本居翁日記　寫　五冊　四二九

本居宣長著　袋綴　薄縹色布目表紙　二四糎一六糎　十一二行　題簽左肩單邊（刊）小津桂窓筆「（書名同）一（―五終）」、「西莊文庫（小津桂窓筆「花百四全五」と墨書せる紙箋に捺印）」
（寶曆十二年至享和元年日記を収む　一三・四―七）

○

下學邇言卷三　寫　一冊　四三〇

會澤正志齋著　自筆　袋綴　澁引表紙　二八糎一九糎　十行二十字　三十五丁（第三十至三十三丁別筆）　外題左肩後筆「下學邇言原稿」、「正志齋」
（朱墨塗抹訂正書入多し　一三・六―一五）

中國哲學

管蠡鈔　寫　十巻　一冊　四三一

袋綴　薄茶色表紙　二六・五糎二〇・五糎　十行　四十八丁　題簽左肩「（書名同）全」
識語　去年到尼崎下向之砌令借用篠原右京進橘長房之本／誂平等坊書寫之加点了
永祿十　三　十七（花押）
（一三―三）

管蠡抄卷下　寫　一冊　四三二

綴葉裝　共表紙　二四・五糎一七糎　十行　二十七丁（内遊紙二丁）　外題左肩「（書名同）自六至十」、「俊雄」
奥書　元亀三季壬申林鐘上澣日誌于碧天窓下
（巻末別筆にて「白樂天勸學文」・「朱文公勸學文」あり　一三―一一）

○

周易義傳合訂　十五巻　八冊　四三三

程頤（宋）傳　朱熹（宋）本義　張道紹（明）音釋　來知德（明）注　自序　來知德序
唐袋綴　薄茶色表紙　二四糎一五糎　四周單邊一八・五糎一二・五糎　八行二十二字小雙行低一格　題簽左肩雙邊（刊）墨書名同　柱刻「（書名同）　巻一序（―十五雜卦傳）　（丁數）　人境軒藏板」、「富岡百錬」等
見返　（四周雙邊）（中央）（書名同）／（右欄）嘉慶辛未年鐫／（左欄）人境軒藏板
識語　（第一冊表紙）（富岡鐵齋筆）鐵硯齋藏
（見返刊記の所に朱書）此書中之朱藍係／春日潛庵翁之手筆也　鐵崖證之
（第七冊表紙に富岡鐵齋筆「春日潛庵先生旧藏」、帙外題同上筆「周易義傳合訂潛庵翁故物」　春日潛庵筆朱藍墨書入多し　一三・一―一一）

周易抄　寫　九巻　九冊　四三四

清原宣賢著　自筆　袋綴　薄茶色表紙　二七・五糎二一・五糎　四周單邊二四糎二九糎　有界（第一冊のみ無邊無界）七行小雙行　題簽左肩「止啼易一　不出」「周易秘抄二（―八）不出」「周易秘抄九并略例抄　不出」右に所収篇名を記す　内表紙外題左肩「止啼易一」「周易抄二（―六）不出　清三位入道宗尤抄之」内題「周易上經乾（泰・噬嗑）　傳第一（―三）」「周易下經咸（夬・豊）　傳第四（―六）」「周易

繫辭上(下) 第七(八)」「周易説卦第九」 尾題「周易卷第一(—九)」、「船橋藏書」
奥書 (第一冊内題下) 享祿二年六月晦日始七月廿六日終
(第二冊同) 享祿四 七 廿七始
識語 (毎卷末) 宣賢卿眞筆也加證明訖／弘化四年十一月十日／從三位侍從卜部良芳
(第九冊末に魏王弼著「周易略例」の抄を記す 第三冊以下内題下に「清三位入道宗尤抄之」と自署 片假名交り ビブリア第十六號所收阿部隆一「天理圖書館藏」室町時代邦人撰述漢籍注釈書類について」—参照 一三・一—イ一三)

周易抄　寫 二卷 一冊　四三五

鬼村是齋著 實乘坊筆 袋綴 改裝後補縹色表紙 二七・五糎一七糎 十行 八十丁 目録題「周易上經乾傳抄卷之上」「周易下經咸傳鈔卷之下」 尾題「周易之抄」、「讀易堂圖書記」「三井家」等
奥書 于時寛永十八辛巳曆雪月下旬 台領末勤息祐海／實乘房書之
(原に「予數季号和論集虽作諸抄人以／不知之然者是抄爲暁童蒙之愚意／節用人支計而已慚愧多ミ云尓／鬼村是齋作之」と奥書あるものの寫 ビブリア第十六號所收 阿部隆一「天理圖書館藏」室町時代邦人撰述漢籍注釈書類について」—参照 一三・一—イ一五)

周易抄・周易命期略秘傳　寫 三冊　四三六

周易抄 四卷 二冊 闕(第一・二冊)
柏舟宗趙講 小補軒横川抄 清原宣賢筆 袋綴 改裝後補丹表紙 原裝茶色表紙 用紙裏打 二七・五糎二一糎 十八行 外題左肩「宣賢卿真筆周易抄一之二(第三)」 原題簽左肩「(書名同)一之二(第二闕)」 内題「周易上經乾(泰)傳第一(二)」「周易抄卷第三」「周易下經卷之四」 尾題「易抄卷第一之終(—二)」「周易抄下經卷之三(上欠、此二字別筆)」「易抄四之終」
識語 (周易抄卷一末) 右宣賢卿真筆也／加證明訖／弘化四年十一月九日卜部良芳
(第一冊周易抄末) 加修補畢／弘化四丁未歳／從三位侍從卜部良芳
(第二冊末同右) 宣賢卿真筆也／加修補畢／弘化四丁未歳十一月十日／從三位侍從卜良芳
周易命期略秘傳 一冊 (第三冊)
「卜部兼右」筆 袋綴 改裝後補丹表紙 原裝茶色表紙 用紙裏打 二七・五糎二一・五糎 有(又は無)界八行小雙行 外題左肩「周易圖略」 原題簽同上
識語 加修補畢／弘化四丁未歳十一月十日／從三位侍從卜良芳
(周易抄卷五・六闕 第一・二冊原表紙に宣賢筆「宗趙柏舟講 小補軒横川抄」、第三冊「周易命期略秘伝」書中に「自天元甲子至弘治三年丁巳積年二百七十六万一千九百／八十四年也求」、「大歳之次法」と題せる附箋に「大永八年戊子中□□二月初勘之輔頼三十歳」、又日唐年號表紀年は天文五年丙申までありて續いて書式をかへて永祿八年乙丑までを記す 朱句讀點を施す 書入あり ビブリア第十六號所收 阿部隆一「天理圖書館藏」室町時代邦人撰述漢籍注釈書類について」—参照 一三・一—イ一七)

周易注　十卷 三冊　四三七

王弼(魏)・韓康伯(晉)注 (略例)王弼著 邢璹(唐)注 袋綴 改裝後補薄茶色表紙 二五・五糎一七・五糎 四周雙邊二一糎一四糎 有界七行十七字小雙行 題簽左肩單邊墨「周易古註」 内題「周易上經乾(泰・噬嗑)傳第一(二・三)」「周易下經咸(夬・豊)傳第四(五・六)」「周易繫辭上(下・説卦)第七(八・九)」「周易略例卷第十」 柱刻黒口「周易卷一(—十) (丁數)」、「尾崎圖書之印」
(古活字版 慶長期刊 一三・一—イ五)

程朱二先生周易傳義　十卷 六冊　四三八

程頤(宋)傳 朱熹(宋)本義 (易圖)朱子集録 元符二年己卯正月庚申程頤序 唐袋綴 改裝後補紺絹表紙 間紙を挟む 二六糎一六糎 原寸二三・五糎 四周雙邊二〇糎一二・五糎 有界十一行二十一字小雙行二十五字 内題「程朱二先生周易上經傳義卷之一(—四)」「程朱二先生周易下經傳義卷之五(—八)」「程朱二先生周易繫辭傳義卷之九」「(書名同)卷之十」 柱刻小黒口「周易傳義(又は易傳・周易等)(卷數)(丁數)」、「結弍盧藏書印」「翰墨奇縁」「寶宋閣」「王定安印」氷鐫 等
識語 (第一冊表補紙) 光緒丙午歳夏自金陵書肆／購得寶宋閣善本之一 王大炘

記

（元版　全巻にわたり計二十丁分補寫あり　一三・一―イ一九）

○

尚書考卷十　寫　一冊　四九

龜井昭陽著　袋綴　改裝後補茶色表紙　原裝共表紙　二三・五糎一五・五糎　左右雙邊一八・五糎一二糎　七十丁　九行罫紙　題簽左肩雙邊（刊）村岡典嗣筆「（書名同）龜井昭陽稿本」原外題左肩書名同、「村岡典嗣藏書（紙票）」

識語　（村岡典嗣筆附箋）昭和十年十一月博多滯在中得之／亀井昭陽が尚書考の著は享和三年卅一才に初まり／天保二年五十九才に十二巻全備のよし也

（表紙右下に「龜井書」とあり　一三・二―イ五）

尚書抄　寫　七卷　五冊　闕　四五〇

袋假綴　墨色包表紙　二六・五糎二〇・五糎　十四行　外題左肩「（書名同）六（―十終）」内題「尚書卷第七（―十三）」各冊表紙右上に所収篇名を記す、「伏原」「宗密」「大通」

識語　（第一冊附箋）此尚書抄全十冊伏原家傳來秘藏／之書也内五冊拂本之由前新菅黄／門被示于余嗚呼一族先代秘藏之／物今散乱歎入之間以金二方求得之／于時文化十一年霜月朔／主水正在賢誌

（江戸時代初期寫　巻七至十三を存す　各冊表紙右下に「共十冊」とあり　一三・二―イ三）

尚書注疏　二卷　二冊　闕　四四一

孔安國（漢）傳　孔穎達（唐）等疏　唐蝴蝶裝　改裝後補金砂散白表紙（巻二十は袋綴　改裝後補紺表紙）　用紙裏打　三七・五糎二三糎　左右雙邊二二糎一四・五糎　有界十三行約二十七字小雙行三十五至七字　柱刻白口「（上象鼻に字數）尚充十八（二十）（丁數）（刻工名ある葉あり）」、「平岡藏書之記」

識語　（巻十八見返）　平岡武夫君久治尚書嘗就余問業自慙頼考癈學／無以益之因取舊校金本書疏屬其移録一通余適／藏有殘本一巻君更欲假觀愛翫至不忍去手余以／嗜之篤也遂輟以贈焉世變方殷未知所届双鑑樓／中所儲古刻名鈔殆數萬巻安知此後終爲吾有／此麦ヒ殘巻使得流傳海外且付諸少年好學之人／爲我愛護而永存之又寧非幸歟授書之日爰誌／數語於此庶異時知是書流轉之緒云／戊寅正月十八日　傳増湘書於長春室（印）

（金版　巻十八・巻二十初五丁を存　一三・二―イ七）（重美）

○

毛詩　二十卷　十冊　四四三

毛亨（漢）傳　鄭玄（漢）箋　袋綴　栗皮色表紙　二九糎二〇・五糎　四周雙邊二二・五糎一六・五糎　有界八行十七字小雙行　柱刻黒口「毛詩一（―二十）（丁數）」

（古活字版　慶長期刊　一三・二―イ三）

毛詩正義殘簡　寫　一軸　四四三

孔穎達（唐）等奉勅撰　掛軸　三三糎　原寸二七糎二四・五糎　天地單邊二二糎有界殘十三行　一行二十三字　内題なし

（奈良時代寫　巻十一「秦譜變風小戎」正義「皮之蝟其馬則有金鏤之膺其用之時備其折壞交暢」以下を存す　紙背に同時代筆寫經斷簡あり　一三・二―イ七）

毛詩要義　二十卷　三十二冊　四四四

魏了翁（宋）著　毛詩譜序　唐袋綴　改裝後補金砂子散紺表紙　二八糎一七・五糎左右雙邊二〇糎一四糎　有界九行十八字　柱刻白口「（上象鼻に字數）毛詩要義一上（―廿下）（丁數）（刻工名）」　欄上に頭注、「棟亭曹氏藏書」「長白敷槎氏菫齋昌齡圖書印」「桐郷沈炳垣手讀書記」等

識語　（第一冊表補紙）　宋魏鶴山先生於理宗嘉熙元年丁酉／以權工部侍郎忤時相謫靖州取九經／注疏刪繁去蕪爲要義百六十三巻宋／史藝文志分載其書當時陳晁両家著／録頗稱浩博亦不及載則知此書已不可／多見矣欽定四庫全書只載周易儀／禮尚是全帙尚書春秋皆非完本近揚／州阮氏復得尚書三巻即四庫所缺之／巻又禮記卅一巻首缺曲禮上下兩巻其／餘四經竟無從咨訪矣壬辰仲春遂／江営不惜重値購得宋槧毛詩要義／首尾完整觸手如新爲曹棟亭舊藏本／首列目録次譜序又次

詩要義二十卷其一／二五六十二至十七等卷分上下子目四卷及十八／十九卷分上中下子目其餘均作一卷總子目并／序計三十八卷展讀之下古香可掬眞希世／之秘笈也其體裁與周易等相同有與／疏本連文而要義取一二則者列其次目／于眉上不復分裂原文隸標目之尤爲／簡當傳箋遺辭博奧孔氏因劉炫等／書爲正義於地理名物靡不旁搜曲引／以資攷核故其疏較他經爲密鶴山復／摭其要領以經及傳箋爲綱以正義爲目有／條不紊易於記誦洵治經者不可少之書／鶴山所輯尚是當時善本必與今通行／之本大有不同異日再爲細校一過始無遺／憾郡城金氏藏有宋槧禮記首兩卷即／阮氏所缺之帙當訪求之從此易書詩二／禮五經皆成完書眞大快事也遂江席／豐履厚而不以他好縈心惟古人秘笈搜訪／不遺餘力是可尚已今擬將付梨棗公諸／同好使數百年古籍晦而復顯其有功於／藝林豈淺鮮哉因爲識此　錢天樹（印）

魏鶴山先生毛詩要義三十八卷爲／文淵閣著録所未及道光間儀徵相國採進遺／書亦未之見上海郁泰峰氏乃蒐獲曹棟／亭舊奉宋槧于嘉興士家海内更無第／二本遂卓爲宜稼堂數十宋槧之冠　友芝／同治乙丑五月來滬上珍重假讀心神開曠／百慮盡消斷推此游第一快事　友芝　夙有／詳校毛詩疏于乾嘉諸老所舉中外舊／本異同一ヽ甄録唯未及要義本他日再／必爲滬游必挾以來更乞假細校一通乃／不虛此眼福也　獨山莫友芝（印）

（宋版　刻工名—宇　成　王　匕　熊　余　全　君　游　京　杞　張　官　晟　老　仁　應　陳　正　万　度　明　礼　才　鍾　元　共　祐　翁　祥　劉　唐　葉　戊　宣　呉　佐　早　奐　二　范　仲　方　志　悌　德　云　安　桂　宜　文　輝　亨　辛　智　孫　順　永　奇　丁　朱　子　文　子　全　子　仁　伯　才　成　有　仁　甫　葉　正　王　カ　葉　朋　葉　友　季　升　丁　輝　張　才　張　中　蔡　智　士　心　江　才　江　元　劉　文　汝　匕　思　中　安　茂　游　成　游　京　文　茂　文　民　元　吉　德　茂　范　伯　才　范　子　仁　劉　子　文　等　闕　畫—慎　等　莫友芝著「宋元舊本書經眼録」—參照　一三・二—ィ五）

○

儀禮注疏　十七卷　十六冊　四四五

鄭玄（漢）注　賈公彥（唐）疏　聞人詮（明）校　賈公彥序　唐袋綴　改裝後補紺表紙　間紙を挟む　三〇糎一九・五糎　原寸二七糎　四周雙邊二一糎一五糎　有界九行　十八字小雙行　柱刻白口「儀禮卷一（—十七）（丁數）」　刊記　直隸常州府知府遂昌應檟刊行　識語（第一帙題簽）　明聞人詮刊初印／癸亥十月重裝書衣　（第三帙同）　此書紙精墨好可謂絶品惜缺三卷／越二載復配得之印工尤勝居然完璧書此／以誌幸也　（明版　一三・四—ィ）

朱申禮記句解輯本　寫　不分卷　十冊　四四六

朱申（元）著　唐袋綴　薄茶色包表紙　二六・五糎二四糎　約十三行二十字小雙行　扉題左肩「朱申礼記句解二（—十全）」　内題「朱申句解」　（四庫館本　句解各項目毎に「纂修官載」とあり　傅増湘著「藏園群書題記續集」—參照　一三・四—ィ三）

彭氏禮記纂圖註義輯本　寫　十三卷　十四冊　四四七

唐袋綴　改裝薄茶色包表紙　二七糎二四糎　約十五行二十字小雙行　扉題左肩「（書名同）二（—十三全）」　内題「彭氏纂圖註義一（—十三）」　（四庫館本　第十四冊は「朱申句解」・「彭氏纂圖註義」・「項安世家説」等に關する乾隆三十八年九月（八月—十一月等）發寫・謄録目録を合綴　句解各項目毎に「纂修官載」とあり　傅増湘著「藏園群書題記續集」—參照　一三・四—ィ五）

禮記　二十卷　十冊　四四八

鄭玄（漢）注　袋綴　澁表紙　二八・五糎二〇・五糎　四周雙邊二二・五糎一七糎　有界八行十八字小雙行　外題左肩墨「（書名同）一之二（—十九之廿）」　柱刻黑口「禮記卷一（—二十）（丁數）」　（古活字版　慶長期刊　第一種本　第一冊末「本云右本者以家本加點之累葉秘説無脱漏後來指南在掌中」、第二冊末「仁安四年三月廿八日雨中加假字反音等了大外史清原判」「養和二年五月三日覆勘了其次粗合正義并他本了又授良業／也　大外史判」「建治二年二月五日授新貫首了　直學士良枝」「弘安十年三月廿日以家秘説授申家君宰相中將殿了／清原頼季」、第三冊末「壽永二年六月六日以秘授良業才子了　御判」「建治二年閏三月廿六日以秘説授申五條外史了　直講良枝」とある奥書本を以て書入を施す　一三・四—七）

○

春秋經傳集解　二十八卷　十四冊　闕　四四九

杜預(晉)著　後序　袋綴　改裝後補唐草模様摺出澁茶色表紙　二八糎一九糎　左右雙邊二二糎一四・五糎　有界八行十七字小雙行　外題左肩「春秋左傳三之四(一二十九之三十終)」　柱刻白口「左氏三(左四—左三十)　(丁數)」、「豊臣行長」「有不爲齋」

(五山版　覆宋興國軍學刊本　卷一・二所収分第一冊闕　朱墨書入多し　一三・五—イ)

○

孝經首解　寫　一冊　四五〇

袋綴　雲龍小紋金襴表紙　見返金紙　用紙薄様　二六・五糎二〇糎　上段解註七行小雙行　下段本文八行四字　四十二丁　題簽中央金紙臺貼「孝經首解全」

奥書　元祿二年己巳歲八月初十日　書之(印)

(箱裏書に「孝經ノ新井白石先生眞筆」とあり　又別筆にて「孝經首解一冊ノ新井白石正筆」との古筆極書を貼附　奥書「書之」とある之の上に「輝」の一印あり　一三・九—ニ三)

古文孝經　寫　一軸　四五一

孔安國(漢)傳　孔安國序　卷子本　改裝菱目織文山吹色表紙　見返金紙　用紙鳥の子　二八・五糎一九米　一紙四八糎　天地單邊二二・五糎　有界十四行十二字小雙行

奥書　正安四年八月五日以家説ノ授申了ノ直學士清原(花押)ノ奉受説了　政秀

(花押)

識語　(附箋)　正安四壬寅年八月五日トアリ是ハ人王九十三代後二条院ノ御代ナリ乾元元年ナリ永祿乙丑八年マテ貳百六十四年也

(略々本文同時代の朱墨諸點あり　但し「喪親章第二十二」は無點　一三・九—イ五)

古文孝經　寫　一冊　四五二

弘安國(漢)傳　梵舜筆　弘安國序　袋綴　改裝後補黄表紙　原裝薄茶色表紙　用紙裏打　二七糎二〇・五糎　四周單邊二二・五糎一七糎　有界八行十八字小雙行　二十九丁　外題左肩「舜玄御筆孝經」　原題簽左肩「孝經」、「幽顯」

奥書　天正十二甲申年仲秋五日書之　卅二才梵舜(花押)

(梵舜筆)　重而加朱墨両點了ノ天正十四年卯月廿日

識語　梵舜御筆也加修補訖ノ弘化四丁未歲十一月廿七日ノ從三位侍從卜部良芳

(原に「本奥云(此三字朱書)」建長五年七月一日授愚息直隆了ノ前參河守在判」「本奥云(此三字朱書)」延文元年十月廿三日授于愚息豊隆了ノ直講清原教氏」「天文六年二月十五日書之畢雖有前參河守(正五位下行)奥書ノ略之尤可秘ニニ　助教在判」「累代以秘本加朱墨兩点深秘匿中莫出閫外ノ矣此書者予五歲之時讀始而同歲終畢訖ノ從五位上行大炊頭兼大外記主水正助教清原朝臣枝賢ノ清原在判」と奥書あるものの寫

一三・九—イ七)

古文孝經　寫　一冊　四五三

孔安國(漢)傳　安曇篠之進筆　孔安國序　袋綴　砥粉色表紙　用紙鳥の子　二七・五糎二〇・五糎　八行十五字小雙行　三十四丁　外題左肩「(書名同)孔安國傳」

奥書　安曇篠之進ノ十六歲ノ三月廿八日

(江戸時代初期寫　一三・九—イ九)

古文孝經　寫　一冊　四五四

孔安國(漢)傳　清原宗賢筆　清原宣賢筆訓點　孔安國序　袋綴　茶色表紙　二七糎二一糎　四周單邊二一糎一七・五糎　四十三丁　有界七行十四字小雙行　題簽左肩「孝經」、「東」「船橋藏書」

識語　(宣賢筆)　宣賢二一

天文六年二月廿五日講始三月廿九日講畢六ケ度　環翠軒宗尤(花押)

天文十四年八月　於越州一乘谷遊樂寺講之

同十五年四月十七日　於越州一乘私宅講之

（枝賢筆）枝賢 ― 元保曦主發起 於私宅講之 ― 松永彈正忠久秀發起 於攝州多喜山城講之 ― 久我大納言入道殿御發起 於彼御亭講之

（別筆押紙）宗賢卿御筆

（別筆押紙）古文孝經　全部／右返納候也　家久

（全巻朱墨諸點を施す　一三三・九―イ一一）

古文孝經　寫　一冊　四五五

孔安國（漢）傳　清原枝賢筆　孔安國序　袋綴　改裝後補紺表紙　原裝共表紙　二七糎二〇・五糎　八行十四字小雙行　三十八丁　原外題「孝經全」

奥書　天文六年二月十五日書之畢雖有正五位下行前參河守奥書／略之尤可秘〻〻助教（花押）

累代以秘本加朱墨兩点深秘匱中莫出閫外／矣此書者予五歳之時讀始而同歳終畢訖／從五位上行大炊頭兼大外記主水正助教清原朝臣枝賢／清原（花押）

識語　此本清外史与奪之間以彼相承之秘本加朱墨兩点了但所〻／被加点者也／天文十七年十一月十五日　左兵衛佐卜部兼右

（貼紙）從五位行大炊頭兼大外記主水正助教清原／朝臣枝賢／枝賢ハ船橋伏原兩家之祖船橋／秀賢之祖父也　天文ハ後奈良院年号／自天文六年至于享保十六年百九十六年

（朱墨諸點を施す　原に「本奥云（此三字朱書）建長五年七月一日授愚息直隆了／前參河守在判」「本奥云（此三字朱書）延文元年十月廿三日授于愚息豊隆了／直講清原教氏」と奥書あるものの寫　一三三・九―イ一三）

古文孝經　一冊　四五六

孔安國（漢）傳　孔安國序　袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様丹行成表紙　用紙裏打　二八・五糎二〇糎　左右雙邊二五糎一六糎　有界八行十七字　十三丁　題簽左肩墨「孝經」　柱刻黒口「孝經（丁數）」

刊記（扉裏雙邊木記）孝經慶長／己亥刊行

識語　侍從／兼連

（勅版　一三三・九―イ一五）

古文孝經斷簡　寫　一軸　四五七

孔安國（漢）傳　掛軸　五七糎　原寸一紙二五糎二六・五糎　天地單邊二四・五糎　有界殘十一行一行十八字小雙行　内題なし

（奈良時代末期寫　孝冶章「治國者弗教侮於鰥鰥寡」至「故明王之呂孝治天下也如此」を存す　一三三・九―イ一七）

○

四書章句集註鈔說　十一冊　闕　四五八

中村惕齋著　元祿庚午六月之望自序　袋綴　茶色表紙　二六・五糎一九糎　四周單邊二一・五糎一七糎　十一行二十字小雙行　題簽左肩後筆「四書鈔說」　内題「大學（中庸・論語・孟子）章句鈔說」　柱刻「大學（中庸・論語・孟子）鈔說（丁數）」、「深井氏圖書記」「不忍文庫」「阿波國文庫」等

（木活字版　中庸鈔說上巻闕　一三三―イ七）

○

中庸章句　寫　一冊　四五九

朱熹（宋）著　淳熙己酉春三月戊申自序　袋綴　改裝後補砥粉色表紙　原裝茶色表紙　用紙薄様　裏打　二七・五糎二一糎　七行十四字小雙行　五十四丁　外題左肩卜部良芳筆「宣賢卿御筆中庸」

識語　宣賢卿御眞筆也／加修補畢／弘化四丁未歳十一月十六日／從三位侍從卜部良芳

（江戸時代初期寫　原に「永正八年六月廿日以唐本遂書寫之功同加朱墨訖／少納言清原朝臣（花押）」「加点以證本校合了」「宣賢　一大内被官飯田將監發起　一南禪寺林首座發起　一大永五　一享祿三於能州畠山左衛門佐義總亭／一於禁中講九ヶ度天文十四十一十三始廿九終　一於親王御方講天文十四十一始廿八終　一於越前國一乘谷天文十五正廿七始之二月八日終九ヶ度／一於越州一乘谷安養寺天文十七三十一始之五月十五日終九ヶ度」「枝賢　一弘治二二月於攝州芥川城松永彈正忠久秀發起」と奥書あるものの寫　一三三・二―イ一）

○

論語義疏　寫　十巻　五冊　四六〇

皇侃（梁）著　自序　何晏論語集解序　袋綴　利久鼠色表紙　二三糎一七・五糎

四周單邊二〇・五糎一五・五糎　有界九行二十四字小雙行　題簽左肩後筆「皇侃疏一之二(—九之十)」　尾題「論語卷一(—十)」、「清熙園圖書印」

(室町時代初期寫　朱筆訓點を施す　「拜啓御家藏舊鈔本論語皇侃疏ハ先ノ年友人之許ニテ一タヒ寓目ヲ得候事有之此次ノハ態ミ御持參被下委細拜見難有存候御ノ承知之通皇侃疏ハ漢土ニテハ宋之中頃ヨリ已ニノ佚シ我國ニノミ保存致され候ものニ有之寬延中ノ根本伯修トイヘル儒者ノ下野足利學校ニテ一本ヲノ寫シ付梓致候處後海舶ニヨリテ彼土ニ傳はりノ其學界ニ非常之影響ヲ与候論語研究ニ莫大之寄与ヲ致候但根本之刻妄リニ原書之體ノ裁ヲ改メ而足利之書必スシモ皇疏中ノ尤善キノモノニ無之候間先年懷德堂ニ於イテ定木ヲノ作ルノ議アリ友人武内博士其事ニ當タリ古鈔本ノヲ蒐メ候節御家藏此書アルヲ知リテ御承諾ヲ得ノ他本ト校勘シテ大ニ益ヲ受ケ且御家藏即ち清熙園本カ他本ニ比シ殊ニ精善ナルコトハ夙ニ同博士より承及ひ候次第ニ有之今ノ此書に對し首尾完好筆墨整正なるをノ見武内之言吾ヲ欺カズト存候御厚意ノ難ミ有ミ茲ニ返璧ニ當タリ一言ヲ相添其尤ノ貴重スベキ故ヲ志シ候匆ミ拜具ノ昭和八年六月十八日狩野直喜(印)ノ阪本勝殿」の書簡一封を附す　一三三・三—一七)(重美)

論語集解　寫　十卷　五冊　四六一

何晏(魏)集解　自序　袋綴　薄茶色表紙　二七糎二三糎　四周單邊二二糎一九糎　有界七行十四字小雙行　題簽左肩「論語三之四(—九之十)」(第一冊闕)　内題「論語(篇名)」

(室町時代末期寫　原に卷一末「家本雖有數部本經之異同置字之增減共以不一揆其中有ノ琢磨之秘本以之爲準的假手新寫之卒予加朱墨累葉ノ家點也孫ミ子ミ深秘勿出函底矣ノ侍從三位清原朝臣宣賢御判」と奥書あるものの寫　朱墨諸點を施す　摺本・古本・家本等を以て校合せる記事多し　箱裏附箋沖森直三郎筆「論語集解　五冊ノ清原宣賢卿御點本ノ吉田兼右卿御自筆ノ卜部吉田家傳來」とあり　一三三・三—一三)

論語集解　寫　十卷　二冊　四六二

何晏(魏)集解〔卜部兼右〕筆　自序　袋綴　濃茶色表紙　二七・五糎二〇・五糎　四周單邊二二・五糎一七糎　有界七行十六字　題簽左肩紅紙「論語上(下)」　内題「論語(篇名)」　尾題「論語(篇名)」

(室町時代末期寫　墨書諸點を施す　一三三・三—一五)

論語鈔　寫　六冊附一軸　四六三

袋綴　改裝後補濃茶色表紙　用紙裏打　二六・五糎一九・五糎　十行　題簽左肩「魚日津梁　風(—賦)」　副題簽中央紺紙「(所收篇目)」、「惺窩之印」「冷泉府圖書」「豐」等

箱書　(表)(德富蘇峰筆)論語古鈔ノ藤原惺窩先生水野忠邦手澤ノ積翠軒秘襲　(裏)昭和二年二月念七ノ蘇峯老人(印)

(室町時代末期寫　第二冊文中「略前法華經來于本朝從推古九年至今本朝永正八年辛未九百十三ノ年也」の語あり　別に「予搜討近世日本國民ノ史料訪水野子爵家普ノ檢閱幕府閣老越前守ノ忠邦文書舊記之歎偶ノ架上有古鈔數冊掃積塵ノ而觀之乃論語古鈔本也ノ披閱之卷首有冷泉府圖書ノ又惺窩之印之二印及知ノ北肉山人手澤本也山人豐臣ノ德川間之儒宗而爲近世日本ノ程朱學者之泰斗也水野氏ノ亦德川三百年間屈指之宰臣ノ也今夫愛人者及其屋ノ上烏況此書室町氏時代舊ノ鈔且以邦語作注疏者乃ノ其書與其舊儲者兩爲ノ稀覯其所寶重也明矣子□家ノ知其珍藏也欲得善價沽之ノ而遂歸積翠軒主ミミ徵予ノ一言予與軒主同好書癖ノ略下昭和二稔二月念於大森山王艸堂梅花ノ深處　蘗峰正敬(印)」の德富蘇峰筆一卷を附す　ビブリア第十六號所收阿部隆一「天理圖書館藏室町時代邦人撰述漢籍注釋書類について」—參照　一三三・三—一九)

○

孟子抄　寫　十四卷　七冊　四六四

清原宣賢著　袋綴　澁表紙　二九糎二二糎　十七行　外題中央白墨「(書名同)共七」　尾題「孟子卷第一(—十三)」

(江戸時代初期寫　朱點を施し書入あり　後半異筆を交ふ　原に第一卷「以摺本書寫之加朱墨訖　少納言清原御判」「永正十三年十月十七日於親王御方講尺申了宣賢—」「同廿一日同廿七日三ケ度申了」「享祿三年於登州畠山左衛門佐義總亭講之」「享祿五年七月十一日十二日十三日於若州小濱栖雲寺玉音座竹田舍弟講之」「宣賢—二二二」、第二卷「以摺本書寫之加朱墨了少納言清原御判」「永正十三年十一月七日

於親王御方講説申了　宣賢」「同十三日申終了」「享祿五年七月十六日於若州栖雲寺竹田舍弟朝暮兩度講之「宣賢二二二」、第三卷「永正十三年十一月十九日於　親王御方講申了宣—」「同廿五日十二月五日三ケ度申了」「享祿五年七月十七日旦夕兩度講之」「宣賢二二二」、第四卷「永正十三年十二月十五日於親王御方講申了宣—」「同十七日講申兩度相終」「享祿五年七月十八日十九日於若州小濱栖雲寺竹田舍弟兩度講之」、第五卷「永正十四年三月七日於　親王御方講申了　宣—」「同十四日申終之」「享祿五年七月十九日廿日於若州栖雲寺講之」「宣賢二二二」、第六卷「永正十四年三月廿日於　親王御方講尺申了宣—」「五月十七日申終之　兩度」「享祿五年七月廿二日廿三日於若州小濱栖雲寺竹田舍弟講之」「宣賢二二二」、第七卷「永正十四年五月廿三日於　親王御方講説申訖　宣—」「六月二日申終了」「享祿五年七月廿四日廿五日於若州小濱於栖雲寺竹田弟講之」、第八卷「永正十四年七月一日於親王御方講尺申了　宣—」「同廿一日申終之兩度」「享祿五年七月廿六日廿七日於若州小濱栖雲寺竹田弟講之」「宣賢二二三」、第十卷「永正十四年八月十四日於親御講尺（ママ）申了　宣—」「同十七日申終之」「享祿五年七月卅日八月朔於若州小濱栖雲寺竹田舍弟玉首座講之」「後日聞之七月廿九日改元天文」、第十三卷「永正十四年九月十六日於親王御方講尺申了　宣—」「同廿日申終之」「天文元年八月六日七日於若州栖雲寺竹田弟講之」、第十四卷「永正十四年十月二日於　親王御方講尺申了　宣—」「同十月廿一日申終者也」「天文元年八月九日於若州小濱栖雲寺竹田舍弟講之了」「宣賢二三」と奥書あるものの寫　第七冊末「孟子篇叙」末に「孟子篇叙（御奥書如此）人ミ本無之仍先達等未加點又不讀之余至德三歲ノ講談之次以辭案加點本（注）點多以違義理之間又以改正之而已ノ藏氷軒文翁良（賢）—」「嘉吉元年八月廿五日以曽祖父之御説授嫡男主水正兼直講宗（賢）—ノ此本御奥書如斯可爲證本矣　環卒軒言翁　業（忠）—」「右侍講席卒書之分不改言辭不飾文章抄之私又加正義ノ大全等　師家庭訓頗雖無毫釐之差蒙昧不敏定可致ノ千里之隔後葉索隠芟煩不亦宜乎ノ少納言清原宣賢—判」と奥書あるものの寫　一三・四—六三）

○

孔子家語　十卷　五冊　四六五

王肅（魏）注　自序　袋綴　改装後補青色表紙　二七・五糎一九・五糎　四周雙邊二二糎一六・五糎　有界九行十八字小雙行　外題左肩後筆朱「（書名同）一之二（—九之十）」　柱刻「家語卷一（—十）」、「雪岑」「清源禪寺（墨印）」「三井家鑒藏」等　識語　（各冊内題の下）雲典　（古活字版　元和寛永期刊　一三四・一—六三）

○

心經附註　四卷　二冊　四六六

眞德秀（宋）著　程篁墩（明）注　弘治五年壬子七月望程敏政序　端平改元十月既望顔若愚序　弘治五年壬子八月朔旦程敏政跋　弘治壬子十二月望日汪祚跋　朝鮮袋綴　改装後補紺表紙　三〇糎二一・五糎　四周雙邊二四・五糎一七糎　有界十行十六字小雙行　題簽左肩墨「（書名同）一之二（三之四終ノ後論附）」　柱刻黒口「心經卷一（—四）（丁數）」、「宣賜之記」　（朝鮮版　巻末に嘉靖四十五年歳丙寅孟秋日奥の李滉「心經後論」六丁を附刻第二冊裏表紙見返墨書紙箋「萬曆元年五月日ノ内賜礪城君宋寅心經附註一件ノ命除謝ノ恩」を貼附す　一三四・七—六三）

○

聖堂之繪圖　一舖　四六七

菱川師宣畫　折畳　銀泥下畫朽葉色表紙　二四糎一五糎　全寸九四糎八七糎　題簽中央雙邊書名同　本紙上部に横題「聖堂之畫圖」、「神田家藏」等　刊語（略）元祿四年閏八月二十一日　（筆彩本　一三五—一）

聖堂之繪圖　一舖　四六八

菱川師宣畫　折畳　銀泥下畫紺表紙　二四糎一五糎　全寸九四糎八七糎　題簽中央雙邊書名同　本紙上部に横題「聖堂之畫圖」、「醫學館章」　（一三五—三）

○

寸鐵錄　寫一冊　四六九

藤原惺窩著　袋綴　墨流砥粉色表紙　七十一丁　一四糎一四・五糎　六行約九字
外題左肩「寸鉄录」、「冷泉府書」等
（江戸時代初期寫　藤原惺窩集卷上—參照　一三五・三—イ）

○

〔芙蓉館帖〕　寫　七軸　四七〇

各自筆　卷子本　鶯色金襴表紙　見返金砂子散　二八・五至三二糎、「芙蓉館（卷六・七）」、「元喬（卷七）」
（卷一より卷五に就て「諸子遺墨卷軸目録」一冊を附し、卷六包紙に「王侯帖」、卷七同「徂徠先生帖」とあり　一三五・七—イ）　所收次の如し

第一卷
正月五日　子遷宛　本多忠統書翰
三月十九日　子遷宛　本多忠統書翰
服南郭宛　山縣孝孺書翰
有南郭宛　安藤東野書翰
荻生徂徠筆　萬庵詩二首（紙頭押紙「下二詩是萬公詩而徂徠先生筆也略下」）
萬庵筆　服部南郭詩三首（紙頭押紙「宮詞三首萬公所書南郭先生詩也略下」）
萬庵原資　寄南郭詩稿
岡井孝先　寄南郭詩稿
子遷宛　宇野之鑑書翰
成島鳳卿　寄南郭詩稿
成島鳳卿　哭南郭先生五首

第二卷
高野惟馨詩稿
南郭宛　岡田宜況書翰
五月十三日　服部小右衛門宛　細井次郎太夫書翰
玉川老人（細井廣澤）伏龍肝慰斗文稿　左久間義和　寄南郭詩稿
同上
田中桐江詩稿
八月初五　服子遷宛　水足安方書翰
米大夫詩稿　岡維良　寄南郭詩稿
南凱　寄南郭詩稿
芥川煥　寄南郭詩稿
有南郭宛　山脇尚德書翰

第三卷
五月十三日　有南郭宛　石島正猗書翰
有南郭宛　尾見正敷書翰
大內承祐詩稿
新井義質　秋日遙奉哭南郭先生二首
九月二十九日　有南郭宛　湯淺元禎書翰并哭愿卿詩
九月下澣　南郭宛　莊田允益書翰
香川太冲詩稿
南郭宛　滕敬中書翰
益忠通詩稿
十左宛　加川元厚書翰

第四卷
服南郭宛　瀧長愷書翰
大江廣氏（良暢）　寄南郭詩一首稿
田阪子恭　新春奉憶南郭先生詩四首稿
南郭　津田泰之書翰
縣景齋　寄南郭詩稿
南郭　首藤子高書翰
源稷卿詩一首稿
高翼之傷逝二首稿
片山世璠　奉呈南郭等詩二首

第五卷
三月十八日　南郭宛　雲香書翰
菊庵清泰　享保辛亥仲春寄南郭詩一首稿
季秋二十八日　南郭宛　獨雄書翰
墨江昭猷　寄南郭詩稿
水足博泉　寄南郭詩三首稿
秋山玉山　哭服子遷詩稿
井政賀　寄南郭詩稿
清田君錦詩稿
宇佐美士廸詩稿

五月　南郭宛　尾見正敷書翰
南郭宛　鵜孟一書翰
同　祭南郭服先生文

瀧長愷擬策問
南郭宛　大江廣漢書翰
有南郭宛　山根子濯書翰
南郭宛　仲子由基書翰
首藤子高詩二首稿
虛舟詩三首稿
尾藤士魏　哭安田翁詩稿
南郭宛　菅道伯書翰
葛辰　奉哭南郭詩一首稿

服南郭宛　了願書翰
大淳　庚戌之冬寄南郭詩一首稿
冲默　寄南郭詩三首稿并副啓

雲洞亮徹　服先生登增上寺閣見寄賦此奉答二首詩
天年詩稿　甲寅三月既望（南郭宛）陽舜祖秀書翰
騰鵠將赴遠州留別南郭先生及社中諸君詩一首
大川義浚詩一首稿　元喬　寄南郭詩一首稿
華谷元閑　追悼南郭先生喪北堂詩一首稿　金山讀雪　寄南郭詩歌稿各一首
華谷元方　寄南郭詩一首稿　海雲　南郭追悼歌文
天壽　寄南郭詩稿　恵仁　寄南郭詩稿
西光了澄　寄南郭詩稿　誓山　寄南郭詩稿

第六卷
東叡隨自意院　寄南郭詩稿（紙頭押紙「東叡隨自意院大王盛製／豊前守矢田倍好銳書朱字則南郭先生／所加即所奉／教謹正也」、紙尾押紙「親王名公遵字子義／中御門帝第二王子」）
細川源重賢（押紙「肥後侯」）寄贈服子遷詩稿
正月七日（南郭宛）本多忠統（押紙「狩蘭侯」）書翰
（服子遷宛）滕康桓書翰
滕康桓（押紙「膳所侯」）詩稿
源定賢（押紙「高田侯（後改封白河）」）和南郭詩稿
豊俊泰（押紙「日出侯」）寄南郭詩
（子遷宛）源忠躬（押紙「松山世子」）書翰
源忠躬　寄南郭詩
正月二十九日（仲英宛）源頼順（押紙「榮山公子」）書翰
天明戊申夏仲呂天臺（押紙「宇和島侯」）讀白河侯求龍說因述所志文
源乘佑（押紙「金井侯」）奉哭南郭先生　同傷逝詞　弔南郭文
（南郭宛）源乘富（押紙「豹隱公子」）書翰
源乘富稿
王珪・正山（押紙「雲夢公」）詩稿

第七卷
物茂卿題字「芙蓉館」
荻生徂徠詩稿
荻生徂徠　永慶先侯輓詞三首稿
十二月二日（子遷宛）荻生徂徠書翰
荻生徂徠詩稿
（子遷宛）荻生徂徠書翰
荻生徂徠詩三首稿
（若水宛）荻生徂徠書翰
十一月九日（子遷宛）荻生徂徠書翰

論堯舜既沒邪說暴行又作　寫　一帖　四七二

伊藤仁齋著　自筆　折本　唐草模様紫地金襴表紙　二七糎一八糎　原寸二〇・五糎一四糎　四周雙邊一九糎一三糎　十一行二十字罫紙　六丁十二頁分　題簽左肩金紙後筆「仁齋先生真蹟」
奥書　戊辰仲秋十五日伊藤維楨謹識
識語　右古學先生戊辰仲秋十五日論／堯舜既沒邪說暴行又作草稿／五丁並己巳閏正月之後跋一幀合／六丁眞蹟也頃日需審定因謹録／云天保庚子初夏旬／伊藤弘濟（印）
（己巳閏正月齋藝前一日奥「跋論堯舜既沒邪說暴行又作後」一丁二頁を附す　金箔を置きたる臺紙に貼附　二五・七―三）

○

〔山本北山雜稿集〕　寫　十七冊　（四七三―四八七）

山本北山著　自筆
（二五・八―一）（重美）
所収細目次の如し

*文事記珠　五卷（第一冊）　四七三

九行罫紙　四十八丁　題簽左肩雙邊（刊）「（書名同）完」

*淸和隨筆（第二冊）　四七三

九行罫紙　四十八丁　題簽左肩單邊（刊）書名同
（「梅天漫筆」と合記）

*書畫叢（第三冊）　四七四

九行罫紙　四十八丁（内墨附十七丁）　題簽左肩雙邊（刊）書名同　内題なし

*瓚　錄（第四冊）　四七五

九行罫紙　三十八丁　外題左肩書名同

*詩　虛　字（第五冊）　四七六

八行罫紙　四十丁　原外題左肩「（書名同）（内容目次）」（「佛家詩語」と合記）

*程　朱　異　同（第六冊）　四七七

唐紙八行柱刻「文刻堂」罫紙　四十七丁　原外題左肩書名同

*孝經樓紺珠記（第七冊）　四七八

用紙薄樣　九行　四十九丁

*冠　服　徵（第八冊）　四七九

十行代赭色罫紙　墨付十九丁　外題左肩書名同

*冠　服　抄（第九冊）　四八〇

九行罫紙　八丁（内墨付六丁）　外題左肩「冠服抄官職考附」（内題次行に「學半主人抄」とあり）

*文　事　証（第十冊）　四八一

十行代赭色罫紙　二十七丁　外題左肩書名同（内題次行に「北山　山本信有著」とあり）

*文　事　正　誤（第十一冊）　四八二

九行柱刻「青黎閣」罫紙　三十四丁　外題左肩書名同

*文　事　探　源　二巻（第十二・十三冊）　四八三

十行罫紙

*正　學　經　詁（第十四冊）　四八四

十二行罫紙　四十七丁

*三　百　篇　私　解（第十五冊）　四八五

十一行柱刻「卷」罫紙　四十丁

*〔支那官職名考證〕（第十六冊）　四八六

十二行柱刻「奚疑塾藏」罫紙　三十二丁

*〔文　事　隨　筆〕（第十七冊）　四八七

九行薄藤色罫紙　三十九丁

○

九天應元雷聲普化天尊說玉樞寶經　寫　一帖　四八八

白玉蟾（宋）編　唐折本　緞子黃表紙　四五・五糎一六糎　天地朱雙邊三三糎　五行十四至八字小雙行二十八至三十字　百三十七折　挿畫彩色密畫四十三頁分　題簽中央茶色絹地文字織出「九天應（以下剝脫）」　奥書（牌記中に金字）大明嘉靖六年六月二十四日製（二六―イ三）

玄風慶會錄　一帖　四八九

耶律楚材（元）奉勅撰　壬辰長至日序　唐折本　黃綾表紙　三七糎一二・五糎　天

地雙邊二七糎　九行十七字　十九折　挿畫一頁分　題簽中央雙邊「(書名同)致十一(此三字陰刻)」　柱刻「致十一　(板數)」
(明版　内題次行に「元侍臣昭武大將軍尚書禮部侍郎移剌楚才奉勅編録」とあり　二六—イ五)

純陽呂眞人文集　七卷　四冊　闕　四九〇

呂嵓(唐)著　唐袋綴　改裝後補紺表紙　間紙を挾む　二五糎一五糎　原寸二一糎　四周雙邊一六・五糎一〇・五糎　有界九行十八字　挿畫(第一冊卷初)四頁分　柱刻黑口「呂集一(—七)　(丁數)」、「明善堂覽書画之記」等
刊語　(第三冊卷五末)　嗣宗派玄□顯素子丹霞道人徐道安同盟印施／嗣派□虛朴素子愚沌道人宋德禪重刊施
(明版　卷八闕　全卷を通じて虫害甚し　二六—イ九)

太上說北斗元靈本命延生妙經　寫　一冊　四九一

徐道齡(元)注　徐道玄(元)校　二五・五糎二一糎　十行大十五字小十八至二十字
七十九丁　題簽左肩下畫「太上說北斗延生眞經」
識語　(卜部兼右筆)　天文九年正月廿四日加修補／訖　神道長上卜部(花押)
(室町時代末期寫　二六—七)

○

老子翼　二卷　四冊　四九二

焦竑(明)著　王元貞(明)校　萬曆丁亥冬仲自序　萬曆戊子清明日王元貞序　唐袋綴　改裝後補深縹色表紙　間紙を挾む　二八・五糎一七・五糎　左右雙邊二〇糎一三糎　有界十行二十字小雙行　柱刻白口「老子翼卷之二(二)　(丁數)」、「王士禎印(陰刻)」
刊記　(王元貞序末條)　金陵徐智刻
(明版　二六・一—イ三)

○

莊子音義　三卷　三冊　四九三

陸德明(唐)著　彊圉大荒獻中和節壽春魏峴跋　唐袋綴　改裝後補茶色表紙　用紙裏打　天地裁斷　二六・五糎二〇・五糎　左右雙邊二三・五糎一六糎　有界八行大十五字小雙行二十字　題簽左肩清原國賢筆「(書名同)上(—下)」　内題「經典釋文卷第(墨釘)」　次行に「莊子音義上(—下)」　尾題「經典釋文卷第二十六(二十七)」　柱刻白口「(上象鼻に字數)莊釋上(—下)　(丁數)　(刻工名)」　耳格あり、「國賢(陰刻)」「船橋藏書」
(宋版　刻工名—丙　其　友　万　生　藍　奇　元　札奇　李信　吳元　吳毛)
葛文　劉総　藍文等　闕畫—慎等　題簽下に清原國賢自署「青松」とあり　跋に云「漆園吏書環偉譎詭河南／氏呂爲知本獨訓注增衍／虛譚余少時嘗得元英師／疏其觧釋明白不穿鑿不／艱深讀之易曉長落宦海／書失之久楚游復得於士／友開卷瞭然如見故人函／鋟諸梓以廣其傳云」　二六・四—イ一)

莊子齋齋口義　五卷　五冊　闕　四九四

林希逸(宋)著　袋綴　改裝後補濃茶色表紙　二四・五糎一七糎　左右雙邊一九糎一二・五糎　有界八行十六字注低一格　題簽左肩室町時代筆「莊子三内篇」　外題左肩墨「南華眞經外篇四(—雜篇八)」　柱刻黑口「莊子(篇名)　(丁數)」
(五山版　卷一・二・七・九・十闕　表紙右下に「共十」と墨書す　二六・四—イ七)

南華眞經　九卷　九冊　四九五

郭象(晉)注　陸德明(唐)音義　林希逸(宋)口義　郭象序　景定辛酉季夏望日林同序　鬳齋林希逸發題　朝鮮袋綴　毘沙門格子地唐草摺出模樣茶色表紙　三一・五糎二二糎　四周單邊二三糎一六・五糎　有界十行十九字小雙行　外題左肩墨「莊子卷一(—九)」　柱刻黑口「南華眞經卷第一(—九)　(丁數)　(刻工名)」、「壺中洞天」「金節家藏圖書」「西莊文庫(小津桂窓筆「月二十七宛九」と墨書せる紙箋に捺印)」
(朝鮮版　刻工名—梁應龍　井太　則天　竹同　云　聰　方等　二六・四—イ五)

西洋哲學

理學沿革史　寫　十四冊　四九六

Fouillée, A. J. E. 著　中江篤介譯　自筆　袋綴　改裝後補赤茶色表紙　二四糎一六・五糎　約十行　題簽左肩雙邊(刊)別筆「(書名同)中江篤介譯」　奥書　(第二冊)明治十七年十二月十日起業　(第二冊内題の次行に「法朗西アルフレット・フーイエー著／日本中江篤介譯」と署す　一三一―イ)

心理學

新編校正大易數流演占訣　寫　四卷　二冊　四九七

杜園成(宋)著　(上冊)周超筆　(下冊)卜部兼有等筆　袋綴　茶褐色表紙　二七・五糎二一糎　四周單邊二三糎一八糎　有界十一行二十字小雙行　題簽左肩「大易流演乾(坤)」　尾題「流演占訣卷之一(―四)」　識語　(第一冊)(卜部兼右筆)永祿八年十月廿八日仰僧周超書寫之予加朱点挍合了(花押)　(第二冊)(卜部兼右筆)仰藏人兼有書寫之処自去十九日不憚禁忌出來仍書續奥四枚并加朱墨點／挍合了　永祿八十廿七　武衛卜(花押)　(原に巻一末「本云／淳祐己酉歳秋八月廿二日於灵隠山亭雨夜燈／下寫題此本借下天竺住山書記明本比丘本寫／之文字紛滅或欠失爲一校雖求它(ママ)木未レ得(タ、スト)レ訂本／適會知州南陽杜尹政夢短所畜處藏印本請謁／乞索則加一校以借紛滅而已甲寅歳十月四日／一校已訖　桑門圓照　在判」、巻三末「奥書同前」、巻四末「本云淳祐九年／己酉歳中秋廿五日以灵隠僧明本比丘本黄昏／之時光燭而馳亳了　孤山落魄圓照／寶祐二年十月五日以杜夢短家藏塾本挍合之了／桑門釋圓照在判／此書一部四巻也此外圀成所撰流演圖讖一巻／以夢短藏本寫加之明本比丘本所欠也此圖讖之／巻者行在府秘本也杜氏壯年之時爲直學士七／夕曝書之時窮所寫得也」と奥書あるものの寫　(一四七―イ三)

簠簋內傳金烏玉兎集　寫　二卷　二冊　四九八

更順房筆　綴葉裝　共表紙　二五・五糎一六糎　押界四周單邊一九・五糎一四・五糎　八行二十字　外題左肩「〻安部懷中傳曜宿(下)」　内題「(書名同)文殊曜宿經(宣明曆經下)」　奥書　(第一冊)于時天正六年戊寅伍月十六日書之誠難載毫上雖爲悪筆／無餘儀承候間如斯候九劦肥前國高來郡温泉山更順房／書寫早　(第二冊)于時天正六年戊刁五月廿一日　肥前劦更順書之　(表紙右下に「宥傳」とあり　一四七―イ一)

曆林問答集　寫　二卷　一冊　四九九

賀茂在方著　應永甲午春自序　袋綴　澁茶色表紙　用紙裏打　二四・五糎二〇・五糎十二行約二十一字　五十三丁　外題左肩「(卜部兼右)筆」「曆林問答」、「清原□定」奥書　文明八丙申六月中旬點挍了　識語　斯兩巻者祖父在方所撰擇也曆家眼目天道／樞要披之如鏡覧之似仰日故神秘等金／賞翫過玉深納箱中全無他見而今清公／送予示之予忽生驚異疑此爲誰所与乎／宜依數奇感得也敢忽輕慢以傳後胤尤多／幸乎　從二位在盛(花押)　文明十年五月朔日所望此奥書早　右曆林問答者爲在方卿之撰／作有在盛卿之奥書云〻凡此本者／雖有世上于數本於有朱墨之兩點者／希有也深納函底敢莫出窓外矣／天文甲午季夏下四日／昌殿正五位下行侍從卜部朝臣兼右　加修補畢／弘化四丁未歳十一月十六日／從三位侍從卜部良芳　(清原宣賢筆書入あり　略々同時代筆「右大概如此／文明十二年六月日／神祇長上正三位卜部朝臣兼倶／此令以吉田三品兼倶卿自筆令／書寫早」と奥書ある「神祇服忌令」三葉を附記合綴　一四七―イ五)

○

五行大義　寫　五卷　五冊　五〇〇

蕭吉(隋)著　卜部兼右筆　袋綴　茶色表紙　二七糎二一糎　四周單邊二一・五

糎一八糎　有界八行十五字小雙行　題簽左肩「(書名同)　一(—五)」　別に中央「(書名同)　一(—五)」

奥書　(第一冊)　天文十年六月廿二日書寫了自二至五巻書之其後終ノ此巻了卜部朝臣兼右

(第二冊)　天文九年十二月三日遂書功了(花押)

(第三冊)　天文九年十二月廿一日書寫了

(第四冊)　天文十年三月二日終書功了　卜部朝臣兼右ノ同十七年十月九日以證本加点了

(第五冊)　天文十年五月晦日遂書功了依病者數日解怠ノ卜部兼右

先年書寫之砌一二巻環翠先生令加點之賜ノ自三至五先點而空經年序故雖加朱墨之ノ兩點件舊本魚魯之過烏焉之誤甚多以證ノ本再可校正之已矣ノ天文廿四年七月廿七日　右兵衛督　卜部(花押)

(原に第一冊「正嘉二年歳次戊午八月中旬之比書寫了ノ又令或本丹注了　判」「文永七年八月十六日以或證本重比ゝ相違字等直付之了ノ丹与墨ノ和令書之爲分別此説也　又比ゝ了　時貞」「本奥書云」又云以家本見合了ノ内大臣藤原朝臣御判頼長云ゝ」「天養元年三月十九日書寫了　三善朝臣判ノ以安家正説一點了」「久壽二年七月五日以秘本校了誠可謂正本也又以或人重ノ所見合也然則此一部尤可爲證本歟若有相違者可知ノ他本例ゝ也又依吾道云ゝ殊致五節手自比校了ノ更不可外見又安家秘本也」「又云建保二年正月於松殿左大臣殿御所以攝津守藤原朝臣ノ尹範本令校合之處殊兎ゝ點然則尤可爲證本歟尹範ノ朝臣者正三位永範卿嫡孫也」、第四冊「本云保元元年仲夏深更以御家本書寫了　泰弘年十七」「永曆二年正月十三日一見了」「建久二年正月廿日兩度見訖殊依有天文事也于時紅霞ノ龍樹黄鳥歌花而已　城門安倍泰忠」、第五冊「元久三年二月廿八日以陰陽權助廣基朝臣本(前陰陽ノ權守兼守直書寫了」「同廿二日比校了　神祇權少副卜部兼—」と奥書あるものの寫　ビブリア第七號所収中村璋八「五行大義について」—参照　一四七・一—一)

倫理學

西洋節用論　寫　一冊　五〇一

Smiles, Samuel著　中村敬宇抄譯　自筆　袋綴　改裝後補薄卵色表紙　原裝共表紙　二四・五糎一六・五糎　十行二十字　百十八丁　後補外題「(書名同)」(中村敬宇稿本)　原外題「抄譯西洋倹約論」(節用(此二字朱書))、「笹野文庫」

識語　(原表紙)　(狩野亨吉筆)　此書ハ Samuel Smiles' Thrift ヲ中村敬宇ノ抄譯セルモノ也第五十七八ノ兩節及ヒ全巻ニ亘ルノ朱書ハ敬宇自書スル所表題モ亦然リ巻ノ末三節ヲ欠ク　大正十五年七月　亨記

(巻末十五丁分は四周雙邊一九糎一四糎有界二十字詰柱刻「敬宇藏」朱原稿用紙を用ふ　一五〇・四—一)

○

西洋品行論　十二編　十二冊　五〇二

斯邁爾斯(Smiles, Samuel)著　中村敬宇譯　明治十一年六月二十二日中郵正直(敬宇)序　袋綴　毘沙門格子摺出黄表紙　二三・五糎一五・五糎　四周單邊一七・五糎一三・五糎　十行二十字　題簽左肩雙邊「(書名同)　中村正直譯　第一(—十二)尾)冊」　柱刻「品行論　第一(—十二)編　(丁數)」、「中村敬宇藏書之記」

刊記　明治十一年三月廿九日　板權免許ノ飜譯并出板人　東京小石川江戸川町十八番地　中村正直

ノ東京芝三島町　和泉屋市兵衛(外九軒の賣弘書肆名を連記)

(譯者手入本　第一・三・五・七・九・十一冊表見返朱紙　見返中央に書名、右に「英國斯邁爾斯原撰」、左に「敬宇中郎正直譯述」、また「神田鍛冶町珊瑚閣發兌」—但し第一冊にはこの條なし—とありて、更に出版年號を記し、第一冊—明治十一年六月出板、第三冊—第三・四編明治十一年十一月出板、第五冊—第五・六編明治十二年九月出板、第七冊—第七・八編明治十二年十一月出板、第九冊—第九・十編明治十三年二月出板、第十一冊—第十一・十二編明治十三年二月出板所々敬宇自筆朱墨校正書入あり　第一冊表紙「室外禁出　中村(印)」とあり　一五四—七)

長者教　一冊　五〇三

袋綴　澁表紙　一三・五糎一九・五糎　十四行　十一丁　柱刻「(丁數)」

刊記　右しやほんのことく開板ノ寛永五年卯月廿一日

(寛永期刊　一五四—一)

野加伊之牛　寫　一冊　五〇四

袋綴　松葉散濃緑色表紙　二六・五糎一八・五糎　十一行　四十六丁　外題左肩書名同　内題なし、「不忍文庫」「阿波國文庫」「松林(墨印)」「渡邊千秋藏書」「清野文庫(紙票)」

奥書　惟時慶安二暦弥生日　正行／くにきち旨

(一五四―イ九)

○

金句集　寫　一冊　五〇五

袋綴　茶褐色表紙　二八糎一八糎　七行　十六丁　外題左肩書名同、「村岡氏記」

識語　松河傳次

(江戸時代初期寫　吉田澄夫著「近世語と近世文学」―参照　一五四・一―イ一)

○

牢人狀　一冊　五〇六

袋綴　改裝後補黒表紙　二七糎一八・五糎　四周單邊二二・五糎一六・五糎　五行約八字　八丁　内題なし　柱刻「牢人狀　(丁數)」

刊記　通油町／本問屋

(江戸時代初期刊　往來物　一五四・三―イ一)

六波羅殿御家訓　寫　一軸　五〇七

北條重時著　巻子本　改裝後補菊花葉文金襴黄表紙　見返金紙　二八・五糎四米

内題「六波羅相模守教子息□□狀」

奥書　貞和三年丁亥九月六日於西西智春坊書寫了／外題云奥州禅門儀教抄云々　予或所ニテ／一見セシカハ夜鶴聽訓抄ト題セリ／□　(予云々以下見せ消ち)

(もと袋綴半葉二四・五糎一六糎十一枚を現巻子本に臺貼改裝　片假名交り　桃裕行著「北條重時家訓」―参照　一五四・三―イ三)

○

新板女諸禮集　七巻　六冊　五〇八

袋綴　毘沙門格子地巻龍文茶色表紙　二六・五糎一八糎　四周單邊二〇・五糎一五・五糎　十二行　挿畫(第一冊)十六頁分　(第二冊)一頁分　(第三冊)十四頁分　(第四冊)二十頁分　(第五冊)十頁分　(第六冊)五頁分　題簽中央雙邊「(書名同)一(しつけがた 四きこそて ひながた)(二(正月 かゝみ のつ)・三(しうけん たのみ)・四(けしやう 水しくろだな)・五(さんやたんじやう げんぶく)・六(しうげん しやくの次第))」

綴目「一(―七)　(丁數)」、「西莊文庫(小津桂窓筆「花百六十一全六」と墨書せる紙箋に捺印)」「兎角菴」

刊語　右女之躾方于世雖在數多／今當加増補名女諸礼／集正改令板行者也

刊記　天和三年亥閏五月吉日／大坂呉服町真齋橋筋八丁目角／池田屋三郎右衛門板行

(一五八―イ一)

宗教

三教指歸　三巻　一冊　五〇九

空海著　延暦十六年臘月之一日亀毛先生自序　袋綴　黒茶色表紙　二七・五糎二〇糎　四周單邊二二糎一五糎　八行十三字　四十五丁　柱刻白口「三教指歸巻上(中・下)　(丁數)」、「平出氏書室記」「春翠文庫」

(〔高野版〕　慶長期刊　表紙紙箋平出亀壽筆「金四全一冊」「蒙」　一六〇・四―イ九)

三教指歸　寫　三巻　一冊　五一〇

空海著　證円筆　延暦十六年臘月一日亀毛先生自序　蝴蝶裝　改裝後補金銀切箔野毛散代赭色表紙　原裝共表紙　一七・五糎一五・五糎　天地單邊一三糎一一糎　押界七行十一字　六十丁　題簽左肩金紙「(書名同)全」　原外題「(書名同)上(中・下)」

奥書　末代真言宗實耀之本也／仁平四年十月十七日於上醍醐理趣房西面／書寫

畢執筆證円
久壽二年二月七日一挍了／同十一月十七日點了□
識語　（帙裏附箋）證圓者右少將定秋之四子仁和寺阿闍梨也略下
（本文に略々同時代筆諸點を施す　一六〇・四―イ二）

三教指歸　寫　三巻　三冊　五二

空海著　賴嚴房宥勝筆　延曆十六年臘月之一日亀毛先生自序　袋綴　波模様薄墨色表紙　二八糎一七・五糎　六行十三字　題簽左肩「（書名同）上」（中・下闕）
奥書　（第一冊）天文二十年辛亥（ママ）十月十八日書之後見方ヘ五字明廻向可有候
此本者山東坂本寺密藏院隱居菩提院宥与／法印御本申下書寫早　筆者賴嚴房宥勝
（第二冊）天文二十年辛亥十月十四日書之　賴嚴房廿九才
（第三冊）天文二十年辛亥十一月廿日書之後見方者（以下五字梵字あり今略之）／一遍廻向可有者也　右筆賴嚴房廿九才
識語　（各冊見返）三之内／地藏院藏書（生玉）
（第一冊）持主圓音房宥雅判
（第二・三冊）持主圓音房宥雅判
（第三冊）山城海印寺什物判
（表紙右下に「圓音房」、左下に「傳　長遍房／來恭」とあり　本文に略々同時代の注文書入、諸點を朱書　一六〇・四―イ三）

三教指歸卷下　寫　一軸　五三

空海著　卷子本　改裝後補紺染表紙　用紙裏打　二九糎二米一〇糎　一紙四五糎
天地單邊二五・五糎　有界十九行十七字　題簽後補「（書名同）零卷下首尾闕」
奥書　于時元弘四年甲戌正月下旬日　櫟本治道宮住人／僧觀意之
（本文に略々同時代の朱墨諸點あり　卷首闕「食吸波則離欲之船橦摧帆匿吐霧則慈悲」より存す　一六〇・四―イ五）

三教指歸注　三巻　六冊　五三

空海著　覺明注　袋綴　深緑色表紙　二七・五糎一八糎　四周單邊二一・五糎一五・五糎　七行十六字小雙行　題簽左肩無邊小林一茶筆「（書名同）卷一（―六）」
柱刻「三教注　一（―七）（丁數）」、「上原」「信州中城池田大和正（ママ）（黒印）」
刊語　右寫本者嵯峨法輪寺金光院上醍醐／寶幢院以兩本令挍合之板行之了／于時寛永十一甲戌（ママ）年極月良日
識語　（各冊巻首）一茶讀之（印）
（第一・四冊）寛政十三酉中春二日／信甘柏原一茶求之
（第三冊）寛政十三酉中春二日／一茶求之
（第四・五冊）（朱）武州足立新舍／圓深房／實名亮鍛之
（第五冊）一茶園　木兆
（一六〇・四―イ一五）

三教指歸注　寫　二巻　一冊　闕　五四

空海著　覺明注　忠尊筆　綴葉装　共表紙　二七・五糎一六糎　九行十九至二十一字小雙行　三十六丁　外題中央「三教指歸中（ママ）下」
奥書　建保六年戊寅（歲次）中冬第四居生年卅七書了／心不染名利偏爲後背也　取意忠尊願云／願以書寫功德力　臨終正念生極樂
（別筆）僧忠尊教林房替文了
識語　（表紙右下）忠尊
（中央下）標陀兀譽
（左下）相傳智鑒
（上巻闕　蝕害稍々激し　一六〇・四―イ三）（重美）

三教指歸注卷下　寫　一冊　五五

空海著　覺明注　蝴蝶装　共表紙　用紙斐紙　二六糎一六糎　四周單邊二〇・五糎一三糎　押界七行　八十五丁　外題左肩印玄筆「三教指歸註卷下本」
識語　正中二年五月廿日於高野山悉地院一挍了／同六月一日重一挍／金剛佛子印玄（生年廿八）
（表紙右下）印玄

（見返）寶輪院
（鎌倉時代末期寫　一六〇・四―七）

○

本朝寺社物語　九卷　九冊　五一六

袋綴　毘沙門格子牡丹唐草模様摺出縹色行成表紙　二六・五糎一八・五糎　四周單邊二一糎一五・五糎　十一行　插畫（第一冊）九頁分　（第二冊）十二頁分　（第三冊）十二頁分　（第四冊）十七頁分　（第五冊）十三頁分　（第六冊）十四頁分　（第七冊）十八頁分　（第八冊）十五頁分　（第九冊）二十一頁分　題簽左肩雙邊「（書名同）一（―九）」第一冊目録題及び内題「本朝宮すゝめ（ミや雀）」柱刻（第一冊）「卷一　（丁數）」（第二冊以下）「寺社卷二（―九）　（丁數）」、「水谷文庫」「高木家藏」

刊記　寛文七丁未曆孟春中旬／洛下書堂田中文内梓行／新町通丸太丁上ル春日町

識語　（第一冊見返附箋）（水谷不倒筆）本朝寺社物語九冊ノ内七ノ巻欠く　八冊／寛文七丁未曆孟春仲旬洛下書堂田中文内梓行新町通丸太丁上ル春日町／予かねて此書の一と七の巻二冊欠けたるを藏したるが今年『本朝／宮雀』と改題したる端本を得其一の巻だけの缺を補へり／『宮雀』と改題したるは何年なるか、巻末を見れば知り難／きも元祿五年の書目には『宮雀』六とあるを見れば、それより／以前既に六巻に削られ改題したること知るべし本書の七の巻／缺け詳しきを得されども『宮雀』の六巻なるより七八九の／三巻が寺院に属し之を再版の節除きたるなるべし／大正十二年記

（高木利太筆）（朱）第七巻京都細川書店ニテ獲之完本トナル高木生
（一六五―ィ三）

神道

元元集　寫　七卷　七冊　五一七

北畠親房著　袋綴　鳥獸草木模様雲紙表紙　二七糎二〇・五糎　九行約二十二字
表遊紙左肩「（書名同）第一（―七）」、「加茂神道（墨印）」

奥書　（卷二・六）寛永甲子元年初秋吉辰加茂縣主神祇講衆中秘本也（但し卷六末には以上の次に「□經書之」とあり）

（卷四）右之神書倭州三輪於大智院懇望之令寫者也／寛元甲子（ママ）初秋佳辰上加茂縣主神祇講衆中之秘本

（卷七）右件神書和州三輪令大智院懇望雖爲秘本以入魂上畢寫／寛永甲子元年初秋吉辰賀茂縣主神祇講衆中之秘本也／□經書之

（平田俊春著「元々集の研究」―參照　一七―ィ二）

○

天地麗氣記　寫　一軸　闕　五一八

卷子本　共表紙　用紙斐紙　三一糎九米一〇糎　一紙四二糎　天地單邊二五糎　有界十四行　朱彩插畫入　外題「神形注麗氣記」　外題の右横に別筆題簽「佛法神道麗氣記」

（鎌倉時代末期寫　「神形注麗氣記」第十一至「佛法神道麗氣記」第十四を存す本文同筆を以て假名附訓　一七・二―ィ二）

○

伊勢講并參宮儀式　五卷　合一冊　五一九

〔吉田半兵衞〕畫　著者序　袋綴　紺表紙　二三糎一六糎　四周單邊一八・五糎一二・五糎　十行　插畫（卷一）七頁分　（卷二）六頁分　（卷三）六頁分　（卷四）六頁分　（卷五）六頁分　題簽左肩雙邊「伊勢講儀式（以下剝脱）」　柱刻「いせかう一（―五）／（丁數）」

刊記　洛陽書林／小嶋彌三右衞門／山岡市兵衞／貞享三丙寅年仲春上旬　版行
（一七二・二―ィ五）

伊勢太神宮參詣記　寫　一冊　五二〇

坂十佛著　袋綴　雲紙表紙　用紙裏打　二七・五糎二二糎　八行　四十三丁　外題中央「伊勢參詣記」、「九條」

識語　依或御方樣之御許可以／公方樣之御本謏或人令書／写訖
（室町時代中期寫　一七・二―イ三）

○

神道問答抄　寫　一冊　五三

卜部兼右著　自筆　袋綴　改裝後補紺表紙　原裝共表紙　二四・五糎二〇・五糎　約十三行　十五丁　外題朱「（書名同）兼右卿御筆」後補内表紙外題中央別筆「神道問答抄秘」原外題左肩書名同
識語　（朱）此本兼右卿御眞筆也莫出間外矣　侍從卜（花押）
（後補裏表紙）元文三年四月三日加修補訖／神道長上卜部兼雄（花押）
（料紙消息等の故紙を飜す　一七・三―イ一）

○

三十番神緣起注　寫　一冊　五三

梵舜筆　袋綴　改裝後補謏引表紙　原裝茶色表紙　用紙裏打　二六糎二一糎　十行小雙行　三十丁　外題「梵舜眞筆（書名同）」原題簽左肩「卅番神緣起注」内題なし　尾題「卅番神本緣抄」
奥書　右一冊予一覽之次而書写了／元和六庚申歲六三　神龍院梵舜（花押）六十八歲重而見合了
識語　神龍院梵舜眞筆也／加修補畢／弘化四年十一月七日／從三位侍從卜良芳
（原に「以佛眼院法印快尊之本書寫也此人躰者／爲神竜院殿之弟子數年令住當所畢」「此本内以來懸占之分者先君爲御筆／天文八七八　一日書畢　兼右　御判」「（朱書）卅番神尊形写繪像自頂妙寺住持日珖尋來之予／依爲門弟相違分注遣之了其分以朱注與／永祿三　十一　五」と奥書あるものの寫　各神體繪像の個所に朱注のみ記して畫を省けることを注す　一七二―イ三）

神體考　寫　一冊　五三

井上淑蔭著　自筆　袋綴　改裝後補謏布目表紙　用紙薄樣　間紙を挾む　二六・五糎一七・五糎　四周單邊一九糎一四・五糎　九行約二十二字小雙行　十六丁　題簽左肩後補「（書名同）井上淑蔭稿本」
（内題書名の下に「藤原淑蔭謹撰」とあり　欄上に首書す　一七二―イ二）

○

延喜式卷第八　寫　一冊　五二四

藤原忠平等奉勅撰　梵舜筆　袋綴　茶色表紙　二八糎二〇・五糎　四周單邊二三糎一五・五糎　有界七行十七字　五十一丁　題簽左肩「延喜式祝詞」内題「（書名同）神祇八」
奥書　天文十一年二月廿日以両本見合之書写了
（本文同筆朱墨諸點あり　一七三―イ五）

中臣祓抄　寫　一軸　五二五

卜部兼倶著　自筆　卷子本　改裝後補唐草模樣金襴緣色表紙　見返金紙　用紙裏打　二八糎五米一五糎　一紙三九糎　天地單邊二四糎　内題「中臣祓」
識語　（卷末別紙繼紙）天文三年七月十二日一／見之次加修補之已／侍從卜部朝臣兼右　龍倶
此一卷神龍院兼―御筆也／莫外見卜家之重寶末代龜鏡已／矣／享保十九年四月中九　神道長卜部兼雄
（朱點書入の外後筆の書入多し　紙背に「麗氣記」・「地鎭祭法次第」等を引ける裏書あり　一七三―イ三）

中臣祓正義直授　寫　一冊　五二六

卜部兼見筆　袋綴　改裝後補丹表紙　原裝青表紙　用紙裏打　二六・五糎二〇・五糎　四周單邊二三・五糎一八糎　十一行　三十七丁　外題良芳筆「兼見卿眞筆　正義直授」原題簽左肩「正義直授」内題「中臣祓」
奥書　文祿五年三月十二日於　禁裏講了今日第三マテ／講之　四月七日講之二度終了　兼見
祓口決雖爲子孫聊尓不可相傳矣
識語　右一冊者我七代之祖／御真筆也莫出間外矣／元文四年三月九日／右兵衛督

侍従卜部（花押）
加修補記／弘化四年十一月九日／神祇管領長上従三位侍従卜芳（花押）
（一七三―イ七）

○

〔伊勢内宮修造勧進帳〕 寫 一軸 五三七

巻子本　菊花模様綾薄茶色表紙　見返金銀泥下畫　三一・五糎二米二五糎　一紙
五四糎　天地單邊二七・五糎　金銀等裝飾　緑界一行十一字　内題なし、「永休」
（室町時代中期寫　巻初に「勧進沙門　敬白／請奉伊勢國渡會郡内宮／修造法樂
舎而天下安全／國土豊饒祈狀」とあり　識語汚損して不見　一七四―イ七）

御蔭參四日之旅 寫 一冊 五三八

種瀬作右衛門長房（鈍句齋藥の菊道）著　自筆　文政十三稔虎の八月下旬自序　文
政十あまり三の年后の月見の夜樂之齋松圃跋　袋綴　共包表紙　用紙裏打　二四
・五糎一七・五糎　四周單邊二二糎一四糎　十二至十四行　二十八丁　外題左肩
「（書名同）完」
識語　（表紙附箋）種瀬作右エ衛門長房之筆
（一七四―イ五）

建久皇太神宮年中行事 寫 四冊 五三九

荒木田忠仲著　荒木田盛直筆　袋綴　紺表紙　二六糎二〇・五糎　八行十七字小
雙行　題簽中央銀泥下畫「（書名同）春（―冬）」　扉題「建久内宮年中行事　全四
巻下略」、「服部氏文庫」「波伯部百樹藏（黒印）」「清野文庫（紙票）」
奥書　右件本者依爲故書轉傳書寫之誤有之歟／雖然如舊書不改一字令書寫遂正校
畢／寶永二乙酉年仲夏望後日／皇太神宮權禰宜從四位上荒木田神主盛直（印）
識語　（伴信友筆）右建久内宮年中行事四冊全／文化九年十月波伯部百樹藏本／
伴信友傳領（印）　／（以下同上朱筆）他日異本挍合又考證加筆
（原に「本云建久三年六月三日注之（此二字朱書）／太神宮權禰宜兼宮掌大内人正四
位下荒木田神主忠仲云云」「正應四年七月日書寫早／大神宮權禰宜荒木田神主常通
在判」とある奥書を始め、追加の「寛正五年甲申三月日皇太神宮一禰宜氏經」「明
應第三甲寅十二月十三日／孝孫太神宮禰宜守晨在判」「于時明應八年七月廿六日皇太
神宮禰宜守保」「于時正保四年七月廿八日以宮後朝貞本／書写之　度會延良判」
「前略于時應三年中冬日／宮掌大内人從五位下泰末清」「寛文十年夏月日太神宮司
目代正六位荒木田」「天和三年三月廿九日寫之畢　度會神主幸弘」と奥書あるも
のの寫　明和元年荒木田經雅本を以て伴信友の朱書校合書入あり　一七四―イ三六）

皇太神宮年中行事 寫 四冊 五四〇

荒木田忠仲著　荒木田定時筆　袋綴　毘沙門格子地唐草模様摺出濃納戸色行成表
紙　二七・五糎一九糎　八行十七字小雙行　題簽中央「内宮年中行事　春（―冬）」、
「定時」「清野文庫（紙票）」
奥書　（第一冊）承應二年六月書了　十九歳從五位上權禰宜荒木田神主玉串定時
（印）（花押）
挍合了
（第二冊）明暦元年八月十二日之夜是書治　十九歳權禰宜從五位上荒木田玉串神主定
時（花押）（印）
（第三冊）于時明暦元年九月吉日寫了　十九歳從五位上荒木田權禰宜玉串定時（花押）
（印）
（第四冊）于時明暦元年季冬日書寫并挍合畢／玉串職之内人十九歳權禰宜從五位上
荒木田神主定時（花押）（印）
（原に「右件年内行事爲後代不審粗所注置如件／本云建久三年六月三日／注
之太神宮權禰宜兼宮掌大内人正四位下荒木田神主忠仲云云」「正應四年七月日
書寫畢／太神宮權禰宜荒木田神主　常通之在判」「前略寛正五年甲申三月日　皇太神
宮一禰宜氏經」「右件年中行事者宮掌大内人忠仲注置之者也然後權禰宜常通
匡興等令相傳／焉爰亦一禰宜從三位氏經卿於上代之／説者不改之記當時／
議式中略然之間去文明八九暦之／比以及三八十老筆令書寫與之於予中略明應第
三甲寅十二月十三日／孝孫太神宮禰宜守晨在判」「右本者以守晨自筆令書寫一畢
／于時明應八年七月廿六日　皇太神宮禰宜守保」「右者以業師度會延良公之正
本書寫并挍合畢／于時承應三年中冬日　宮掌大内人從五位下泰末清　在判」と奥
書あるものの寫　一七四―イ三）

倭姫命世記　寫　一軸　三三一

巻子本　表紙闕　用紙鳥の子　三四・五糎一〇米二一糎　一紙四八糎　二十二行　小雙行、「觀生盧」

（江戸時代初期寫　原に「本云大治四年十二月廿七日書寫之草／外權禰宜度會神主維晴（ママ）判」「又云丁卯歳五月書寫之／豊受太神宮禰宜正四位上度會神主章尚判」「于時應永廿五年戊戌仲夏端午後一日書寫畢　校點了」と奥書あるものの寫　朱書校合書入及び後筆頭注多し　もと袋綴を現巻子本に改裝　一七四―イ九）

○

宇佐八幡緣起　寫　一軸　三三二

巻子本　改裝後補金泥下畫紺表紙　見返金箔　用紙裏打　二八糎四米四五糎　一紙四〇糎　天地單邊二四糎　十六行七字　内題なし

奥書　皆應長元祀大歳辛亥仲冬初九　書寫畢當宮大祭日也／件緣起舊本爲諸虫被食損之間當社／社務兼本宮權少宮司宇佐重繼宿禰可改／摸之由被誂示之間奉爲　神道無憚鳥跡／不慥秋毫之微姿令横白麻之真面而已／宇佐八幡太神宮宮寺僧　神容（花押）

（朱墨訓點を附す　破損甚し　裏書あり　一七五―イ三）

宇佐八幡遷宮記　寫　一冊　三三三

綴葉裝　改裝後補金銀泥下畫紙粉色表紙　一八・五糎一五糎　十行　八丁　内題「八幡宇佐宮／注進當宮遷御假宮遷御正宮儀式次第事」

（鎌倉時代寫　長元三年・治暦元年に於ける宇佐八幡遷宮次第の寫　一七五―イ二五）

春日權現講式　寫　一軸　三三四

巻子本　小紋繪表紙　見返銀切箔散　用紙裏打　三〇糎二米九〇糎　一紙五〇糎　天地單邊二五・五糎　有界十九行、「春日社安居屋」

奥書　保延四歳次戊午三月十五日　解義了

（用紙各繼目「春日社安居屋」の印あり　内題下に「覺融傳之」とあり　巻末別紙繼紙に江戸時代初期筆「大徳鳥羽覺融僧正法／義之春日權現講式爲誦／讀之百日參籠於而安居屋／休浴（ママ）齋戒而感得法身之／義　仁治元庚子年十月十七日／恵日坊成忍」と書し、本紙に同印一顆を捺す　一七五―イ三）

〔春日社延享造營記〕　寫　一冊　三三五

尊賞親王著　自筆　袋假綴　共表紙　三〇糎二一・五糎　十行　四丁　外題中央「延享造営記」　内題なし

（一七五―イ一九）

代々申狀案　寫　一軸　三三六

巻子本　改裝後補白紙表紙　用紙裏打　往來軸　二八糎五米一五糎　外題後筆「代□申狀案」

（室町時代初期寫　全巻一筆にて「仁平二年十二月中臣祐房申狀」・「建久三年四月中臣祐明申狀」・「嘉祿二年七月中臣祐明申狀」・「康元二年中臣祐賢申狀」・「弘安五年九月中臣祐賢申狀」・「正和二年八月中臣祐春申文」を収む　各狀宛書「長者殿下政所裁事」　紙背は消息文　往來軸頭刻文「大中□」とあり　一七五―イ二九）

東大寺八幡宮祭禮棟別人別錢裏　寫　一冊　三三七

袋假綴　共表紙　二七糎二二糎　十行　三十五丁　外題中央書名同

（外題右に「長享元年丁未八月三日」左に「年預五師秀範」とありて自筆　一七五―一五）

八幡宇佐宮御託宣集　寫　十六巻　五冊　三三八

神吽編　正應庚寅二月十日自序　正和二年癸丑八月日自跋　袋綴　薄茶色表紙　二七糎二一糎　九行　題簽左肩「八幡本緣」

（室町時代中期寫　原に「前略乃遣／使取薦社緣起將錄一本致諸龜山／廟以廣流通薦社大宮司宇佐宿禰／其名重得齋持入洛呈進府君府君／敬就私第嚴飾道場仍俾合教徒／法印信譽齋居繕寫起筆于丁酉季／秋至今玆戊戌孟夏畢功且裝潢盡／美可謂

國朝至寶矣（中略）皇歷應永第二十又五年／青龍著雍閹茂覺皇結制令辰前／蔣山萬壽毘丘信源叟周諶受府君／嚴命謹記」「本願主大宮司盛國子息忠國神宮寺別當實尊（ママ）／于時寶德三年（辛未）十二月六日於當社一切經一藏／自屋形樣修補事彼仰出之次此御緣起表／紙之勸進之藏經修補順宗僧仁誂之仕立／申畢」と奥書あるものの寫

一七五―イ二七）

八幡御劔袋更替使 并 一社奉幣記　寫　一軸　五三九

巻子本　改裝後補檀紙表紙　二六・五糎二米四五糎　一紙四四糎　約三十二行十七字小雙行　外題「（書名同）（正應三年 嘉元二年）」　内題「八幡御劔袋使／正應三年十月十五日（下略）」「奉幣石清水社使／嘉元二年十月五日」

（鎌倉時代末期寫　紙背に前半闕七月大至十二月大十二日假名暦あり　一七五―イ三一）

八幡宮寺年中讃記　寫　三巻　三冊　五四〇

唯心著　〔自〕序　實朝筆　袋綴　改裝後補白表紙　原裝共表紙　用紙裏打　二六・五糎二一・五糎　九行約十九字　原外題中央「八讃　上（―下）（右下に）實朝」、「金澤文庫」「石清水神宮寺大乘律院常住」

奥書　（第一冊）應仁貳（戊子）五月十一日於大乘院厨舍寫之早／小比丘實朝（第二冊同上十三日、第三冊同上十五日）

（原に第一冊「本云蓮忍上人自筆志水唯心上人草尤可貴重歟」、第二冊「唯心上人御草尤可秘藏〻〻」、第三冊「本云嘉暦二年三月日誂人所書留也／中志水唯心上人草爲其門葉尤可／崇重〻〻　蓮忍」と奥書あるものの寫　一七五―イ三五）

八幡愚童訓　寫　二巻　二冊　五四一

良以筆　袋綴　薄青色包表紙　三一糎二一・五糎　十二行　題簽左肩「（書名同）上（下）」

奥書　右此愚童訓記御縁起都合五冊者／以内陣御本書写大祢宜座中令寄／進〻〻悪筆尤其憚不少者也／良以

（室町時代末期寫　一七五―イ一七）

備前國神名帳　寫　一冊　五四二

平賀元義筆　袋綴　薄茶色表紙　二五糎一七糎　二十七丁　題簽左肩「（書名同）（總社古本 一宮樂頭本 西大寺本）全」、「高木家藏」

奥書　慶安本文政十三年庚寅二月二日校合／寶永本文政五年壬午六月十八日写

（見返に「平賀」と自署す　「元義按」として所々書入あり　一七五―イ二一）

○

祭事記　寫　八十二巻　三十冊　五四三

鴨祐之著　袋綴　澁引表紙　二七糎一九・五糎　四周單邊二一糎一六・五糎　十一行二十二字小雙行　外題中央書名同、「淵亭藏書」

（江戸時代中期寫　表紙左下に第一冊「凡例」、第二冊以下所収祭事月次神社名を記す　一七六―イ七）

神筮大叓書　寫　一冊　五四四

袋綴　縹色表紙　二三糎一五糎　四周單邊二〇糎一二・五糎　有界六行（初九丁卦圖四行四段）　十九丁　題簽左肩書名同　内題なし

奥書　于時天正十九年（辛卯）正月廿八日書早／三極院

識語　（裏表紙）大光院

（見返）奥劦石川郡東山村／中井薩摩守／藤原重常（花押）

（一七六―イ五）

宗源行叓秘抄　寫　一冊　五四五

清原宣賢筆　袋綴　改裝後補紺表紙　原裝共表紙　二四・五糎二〇・五糎　十六行（界線にて上下段に分つ）　二十八丁　題簽左肩書名同　原外題左肩「行事秘」内題なし

識語　右神道秘要ナリ／莫許外見仍加證明了／元文二年二月八日／神道長卜部（花押）

（別筆）右環翠軒筆
（題簽下に後筆にて「不出」とあり　一七六―イ二）

〔二條良基春日社願文草案〕　寫　一軸　五四六

二條良基著　自筆　巻子本　改裝後補萬字繼文深納戸色表紙　見返金銀砂子散黃絹地臺貼　三四糎二米五一糎　原寸三一糎八七糎　題簽後補「藤陋社間愛」内題なし
奥書　貞治二年六月七日從一位　藤原良基敬白
（巻首別紙繼紙「藤陋榮／明治四十年十月／正二位公爵二條基弘（印）」の題字あり　巻末別紙繼紙「明治三十八年三月下旬／春日大社中臣植栗連大東延慶」の識語あり　箱裏紙箋「梅田治部」　一七六―イ九）

○

三種神器傳　寫　一軸　五四七

卜部兼敦筆　巻子本　改裝後補漣波模様表紙　用紙裏打　三〇・五糎四米四五糎　一紙四七糎二八糎　天地單邊二三・五糎　外題「（書名同）秘」　内題なし
奥書　此記　殿下上覽被加御筆當時之眉目／後代之亀鏡也／卜部兼敦
識語　（一條經嗣筆）一見了珎重也（花押）
（巻頭見返）（朱）此一巻者當家累代之亀鏡／神道極秘之大事也堅可禁／外見雖爲唯受正統一子輒／不許拜見能思慮深敬哉莫／怠矣仍而加前書者也　于時享保十八年初秋日／銀青光録大夫拾遺卜部兼雄（花押）
（同右）（墨）右秘巻襲祖兼敦朝臣御筆也可爲秘藏／端書加筆一条殿下藤經嗣公成恩寺関白御筆也
（巻末別紙繼紙）此一巻者神秘極秘之御旧記也／仍則爲一巻一子之外他／見有間敷者也十時元祿／十六年十二月五日慎書之／能思暗深思暗慎而莫怠矣／　神祇道管領勾當長上正三位侍從卜部朝臣兼敬
右謹而拜見之當家之亀鏡末代之／重寶也可秘云々／享保十八年七月二日　神祇道管領長上從三位侍從卜部朝臣兼雄
（一七九―イ一）

佛教

夾註輔教編原教要義　六巻　三冊　五四八

契嵩（宋）著　李之仝（宋）序　壬寅秋七月晦日子柔後序　袋綴　改裝後補毘沙門格子地小菊文薄茶色表紙　用紙裏打　二三糎一五・五糎　左右雙邊一七・五糎一一・五糎　有界十行二十字　柱刻白口「輔教序（輔一―六）等（丁數）」、「積翠軒文庫」等
（五山版）　刊語に「前住南禪寺無隱晦和尚施所藏夾註輔教編／以充刊板用是則唐天目山幻住菴流通本也／明教大師五書要義日本未有板行之者江湖英／衲欲之恰如渴而思飲余爲結般若緣遂命工以／鏤梓庶使慧日重輝遺音載振開人天之眼目輔／聖化之流行恩有均資寃親等報歲次辛卯觀應／二年休夏日沙門妙葩拜手」とあるものによる寛永期覆刻本を以て序四丁・巻六第二十九丁以下及び後序一丁を補ふ
（一八〇―イ三）

集神州三寶感通錄　寫　三巻　三軸　五四九

道宣（唐）著　麟徳元年夏六月廿日自歎　巻子本　改裝後補濃茶褐色表紙　用紙斐紙　裏打　二六・五糎　一紙四九・五糎　天地單邊二〇糎　有界二十七行二十字小雙行、「石山寺一切經（墨印）」「石山寺印（紙背）」
（平安時代末期寫　數筆を交ふ　一八〇―イ九）

敦煌遺片　八枚　五五〇

張大千編　四五糎六六糎の臺紙に敦煌出土文書を貼附
（一八〇―ニ）
所収次の如し
西夏文刊經　斷簡二紙（第一葉）
　識語　西夏殘經癸未歲得於敦煌石室　壬辰秋日裝成蜀郡張大千（印）
西夏文刊經　斷簡四紙（第二葉）
　識語　莫高窟發見西夏文有手印者此爲創見至可貴也　壬辰秋日裝成題記　蜀人

張大千（印）
六道輪廻圖　寫　一紙　（第三葉）
識語　六道輪廻圖面部企財大似唐人其晩唐五代間人筆歟（印）
此叙利亜文墨迹及殘画皆莫高窟發見斯坦因携去數片外他無所見　大千居士記（印）
地獄變圖　寫　一紙（第四葉）
識語　此亦地獄變也令人想像吳生粉本漠高發見廻鶻經典甚勘況此墨迹書画耶
壬辰之秋大千居士題（印）
帶圖回鶻文刊經　斷簡二紙（第五葉）
識語　此叙利亜文木刻著色画漠高窟發見宋初物也　大千居士題記（印）
帶圖回鶻文刊經　二紙（第六葉）
識語　叙利亜文蒙古文所泛出也此画當是秘密教之西藏所画大有於此處壬辰秋日蜀郡張大千題記（印）
回鶻文刊經　斷簡二紙（第七葉）
西夏文書斷簡　寫　十一片（第八葉）
識語　此西夏人借據漢蕃對照兼有□寫人花押尤可翫也／大千居士（印）

冥樞會要　三卷　三冊　五五一

祖心晦堂（宋）編　潘興嗣序　紹聖三年二月二十五日惟清跋　朱彦跋　大徳壬寅制
前五日時中跋　袋綴　改裝後補朽葉色表紙　二五・五糎一九糎　左右雙邊二〇糎
一五・五糎　有界十行二十字　題簽左肩雙邊「（書名同）　巻上（一下）」　柱刻白口「會要上（一下）（丁數）」、「靈松院（墨印）」
刊語　三州實相禪寺前住持比丘是一比丘尼妙明如雲等施長／財命工重刊　冥樞會要三帙置於　東福常樂菴永遠流通所集殊勲上報／四恩下資三有法界衆生同圓種智仍將斯功徳報薦／　先考老覺先妣如觀冀超眞如之寶域直至菩提三覺場／嘉慶元年重陽日比丘是一題
（五山版　江戸時代後印か　原に「平江路承天能仁禪寺前住持比丘時中回施長財命工重刊／冨樞會要三帙所集殊勲上報四恩下資三有法／界衆生同圓種智仍將功徳報薦／先考十六承事朱公先妣太君顧氏超陞淨域者／大徳七年八月初一日比丘時中題／提調錢梓萬壽耆舊比丘慧朗／伏承／平江路前僧録司知事嵓山州普明院比丘本荃回施／長財命工刊冥樞會要於内一帙所集功徳上答／四恩下資三有法界群迷懺滌罪瑕同圓種智／大徳七年八月初八日前住持承天禪寺比丘時中題」とあるものによる覆刻　題簽は後版のものを流用　一八〇―イ七）

隆興釋教編年通論　二十八卷　十冊　五五二

祖琇（宋）著　袋綴　改裝後補縹色表紙　二五・五糎一八糎　左右雙邊二二糎一四・五糎　有界十一行二十一字　柱刻白口「編巻一（一二十八）（丁數）」
識語　（第一・三・四・七至九冊）太蒲正睦置之（印）
于時文祿貳癸丑年八朔日／白洲嚴龍置之
（第二・五・六冊）太蒲正睦置之（印）
于時文祿二癸巳年八朔日白洲嚴龍令還附也
（第二至十冊巻初）大洞禪院方丈
（第二至十冊第一丁欄上）橘谷山
（五山版　目録第一至四丁、聖宋御製附第七丁以下、巻三第一至四丁、巻八第五至八丁、巻十第三・四・九至十二丁、巻十二第六・七丁、巻十四第二至五・十至十三丁、巻廿二第十二至十五丁、巻二十七第一至四・十三至十六丁、巻二十八第十六至十九丁、以上闕丁を本文に同字配にて室町時代筆を以て補寫　版面の磨滅甚しき所々を補寫同筆にて入墨せる所多し　一八〇―イ五）

○

大唐西域求法高僧傳　寫　二卷　二軸　五五三

義淨（唐）著　巻子本　改裝後補柿色表紙　二四・五糎　一紙五四糎　天地單邊二〇・五糎　有界約二十五行十七八字小雙行　題簽見返に貼附後筆書名同　内題「（書名同）巻上（下　并重歸南海傳）」、「石山寺一切經（墨印）」
奥書　長寛二季九月四日辰時書寫了
一交了
（もと巻子本を幅八糎の折本に改裝し今又現巻子本に復元　現表紙及び題簽は折本分のもの　本文交筆　一八〇・六―イ）

法顯傳　寫　一軸　五五四

法顯（晉）著　信賀筆　巻子本　茶色表紙　二四糎一五米八〇糎　一紙五六糎　天

地雙邊一九・五糎　有界十八九行十九字　題簽見返に貼附後筆書名同、「石山寺一切經（墨印）」
奥書　長寛二季十一月十四日於勸修寺東院書寫了／奉爲先師聖靈殊致丹心染紫毫　信實
識語　（朱）一交了
（内題下別筆にて「自記」とあり　もと巻子本を幅八糎の折本に改装し今又現巻子本に復元　現表紙及び題簽は折本分のもの　一八〇・二六―三）

法顯傳殘卷　寫　一軸　五五五

法顯（晉）著　巻子本　改装後補栗皮色表紙　用紙染紙　二五糎九米五〇糎　一紙
五三糎　天地單邊二〇糎　有界約三十二行十七字　内題なし　尾題「法顯傳一巻」、「上野藏記」
識語　一交了　願主院暁
（鎌倉時代初期寫　巻首及巻中一部闕　一八〇・二六―五五）（重美）

○

釋氏要覽　三卷　三冊　五五六

道誠（宋）著　天禧四載李秋（ママ）既望崔育材序　天聖甲子歲季春月辛亥隨後序　袋綴
改装後補濃茶色表紙　二八・五糎一九糎　四周單邊二二・五糎一四糎　有界五行十二字小雙行二十字　題簽左肩後筆「（書名同）上（―下）」、柱刻「要覽上（―下）（丁數）」、「三井家」
識語　從慈光寄附
（古活字版　元和寛永期刊　上冊表紙に「丘〇（朱印）共三」と墨書せる紙箋貼附　内題下に「建康天禧講下聚公講主助緣／錢塘月輪山居講經論賜紫沙門釋　道誠集」とあり　一八〇・三―三）

釋氏要覽　三卷　三冊　五五七

道誠（宋）著　天禧四載季秋既望崔育材序　天聖甲子歲季春月辛亥隨後序　袋綴
改装後補栗皮色表紙　二五糎一七糎　（上巻）左右雙邊一九・五糎一四糎　有界十四行二十三字　（中・下巻）四周單邊二一糎一四糎　有界五行小雙行二十字　題簽左肩緑紙後筆「（書名同）中（下）」　柱刻小黒口（中・下巻白口）「要覽上（―下）（丁數）」、「香山常住（墨印）」　「常栄寺」
（五山版　「寛永癸酉三月吉旦／豊雪齋中野道伴刊」と木記刊記ある中・下巻を取合す　第一冊表紙右肩に「共三冊」と墨書　第二・三冊表紙上部に附箋して「宇」とあり　一八〇・三―七）

諸偈類要　二卷　一冊　闕　五五八

希果東嶼著　康安辛丑八月十五日古源邵元序　袋綴　改装後補縹色表紙　二五糎
一六・五糎　左右雙邊一九糎一二・五糎　有界十一行二十一字　八十二丁　柱刻白口「偈一（―二）（丁數）」、「天寧寺（墨印）」　「杉浦丘園（紙票）」
識語　貞治四年小春八日／禪英置之
（巻初）丹波州金山天寧寺常住
（五山版　巻第一・二を存す　一八〇・三―五）

○

釋教正謬　三卷　一冊　五五九

艾約瑟廸謹氏（Edkins, Joseph）著　袋綴　縹色表紙　一九糎一三糎　左右雙邊
一五・五糎一〇糎　九行十八字　六十二丁　柱刻「巻之上（下）（丁數）」
見返（四周雙邊）（中央）（書名同）（左欄）活字板／限百部／禁賣買
（木活字版　一八〇・四―一）

釋教正謬初破　二卷　一冊　五六〇

杞憂道人（鶏飼徹定）著　明治紀元戊辰春三月忘筌子序　明治紀元著雍閹茂蘸月下浣自序　戊辰首夏憲齋居士跋　袋綴　紗綾文青表紙　二二・五糎一六糎　左右雙邊一八・五糎一三糎　有界十二行二十二字　三十五丁　題簽左肩雙邊「（書名同）上下　全」　柱刻「初破（丁數）」、「即往寺主（墨印）」
刊記　爲護法活版印刷　有志中
（木活字版　一八〇・四―三）

○

釋氏源流　二卷　二冊　五六一

成化二十二年八月十五日御製序　崇禎後戊子五月日河浩然序　朝鮮袋綴　黄表紙　三六・五糎二三・五糎　四周雙邊二八・五糎一八糎　上圖（一三糎）下文有界十行小雙行十六字　題簽左肩後補墨「（書名同）春（秋）」　柱刻白口「釋氏源流（卷數）（丁數）」　耳格あり、「溪仙菴」等刊記　（内題下）大興隆寺　發心刊施流通　箱書（富田溪仙筆）　釈氏源流春秋卷弐卷　（朝鮮版　巻末「音釋」一丁を附す　巻中「刻手信室／施手鄭氏」「書寫全州居士崔瑞龍法名自覺」等刻文あり　耳格、寛黙比丘　智祥　嘉善朴垂直破回　明學等　一八二―五）

續高僧傳卷第十一　寫　一帖　五六二

道宣（唐）著　折本　改装後補朱雲龍文黄表紙　二四・五糎八・五糎　天地單邊二〇・五糎　有界四行十七八字　題簽中央後筆書名同　見返に紙簽を貼附　鎌倉時代筆書名同、「石山寺一切經（墨印）」　識語　一交了　（平安時代末期寫　一八二―一）

大唐大慈恩寺三藏法師傳　寫　一軸　五六三

慧立（唐）著　彦悰（唐）箋　垂拱四年二月十五日彦悰序　巻子本　改装後補中國繡表紙　見返水色緞子　玉軸　臺貼　二九・五糎八米　一紙五六糎　天地單邊二七・五糎　有界二十九行十九字、「高山寺」「讀杜艸堂」等　（平安時代初期寫　用紙下部破損多し　「進城後入阿耆尼國（舊云鄔耆訛也）」以下闕　序文の條のみ鎌倉時代筆朱假名附訓等を多く施す　一八二―七）

日本往生極樂記　寫　一冊　五六四

慶滋保胤著　自序　蝴蝶裝　砥粉色表紙　一八・五糎一五・五糎　押界七行十一至十三字　五十四丁　題簽左肩後筆「日本往生（ママ）記」　（鎌倉時代寫　朱書訓點を施す　原に「應德三年八月九日於南勝房書之　仁豪／尋往生極樂之行業欲勵念佛往生　淨土□志而已」、應德云々の右傍に朱書「同廿九日點了後可見直者也／以良本交才又可比交」と奥書あるものの寫　一八二―三）

○

阿毗達磨俱舍論卷第廿　寫　一軸　五六五

世親造　玄奘（唐）譯　巻子本　共表紙　用紙黄楮紙　二六糎七米　一紙五四糎　天地單邊二〇糎　有界十七行十七字　外題「俱舍論卷第廿」　尾題「説一切有部俱舍論卷第廿」、「元興寺印（紙背）」　（奈良時代寫　朱白両點を施す　一八三―一二三）

阿毗達磨順正理論卷第四十二　寫　一軸　五六六

衆賢造　玄奘（唐）譯　巻子本　金銀泥寶相華文紺表紙　見返金銀泥佛扉畫　用紙紺紙　撥形毛彫金軸　二六糎九米四〇糎　一紙五二糎　天地單邊一九・五糎　有界二十八九行金泥十七字　外題金泥書名同　内題「阿毗達磨順理論卷第卅二」、「神護寺」　（神護寺經　平安時代末期寫　一八三―一〇一）

阿毘達磨大毘婆沙論卷第七十六　寫　一帖　五六七

五百大阿羅漢等造　玄奘（唐）譯　信慶筆　折本　雲母引薄茶色包表紙　二七・五糎一一・五糎　天地單邊二一・五糎　有界六行十七字　三十六折　外題「（書名同）廉」　奥書　應　大檀那鈎命所終書校也／興福寺末寺成身院少僧信慶敬書／信慶校合　（足利尊氏願經　巻末別紙（刻）發願文「願書藏經功德力　世々生々聞正法／頓悟無上菩提心　登佛果位酬聖德／後醍醐院證真常　考妣二親成正覺／元弘以後戰亡魂一切怨親悉超度／四生六道盡　沾恩　天下太平民樂業／文和三年甲午歲正月廿三日／征夷大將軍正二位源朝臣尊氏（此二字自署）謹誌」　一八三―二三五）

阿毗達磨發智論卷第九　一軸　五六八

尊者迦多衍尼子造　玄奘(唐)譯　唐卷子本　黄表紙　三〇糎一一米四七糎　一紙四八・五糎　天地單邊二二・五糎　二十三行十四字　卷首に「趙城縣廣勝寺」とありて扉畫一紙あり　題簽雙邊(刊)墨「□智論卷第九」　尾題「説一切有部發智論卷第九」　柱刻「阿毗達磨發智論卷第九　第二(—二十三)張　孔字号」

刊語　解州夏縣郭下女弟子馬氏於大藏經所／施金三十兩伏爲報答先宗婆父祖／父母見存家眷及法界衆生惣願早／生天界者　正隆二年三月十五日

(金版　一八三—イ二七五)

一切經音義卷第九　寫　一帖　五六九

玄應(唐)著　折本　改裝後補朱雲龍文表紙　二四糎八・五糎　天地單邊一九・五糎　一紙有界四行　四十八丁　題簽中央書名同　見返原題簽貼附「(書名同)大智度論」

内題次行に「大智度論卷一卷」(第歟(此二字後筆))、「石山寺一切經(墨印)」

識語　一交了(二(宋))(「一」字の上に後筆にて「二」と書入)

(平安時代中期寫　全卷朱書校合多し　もと卷子本を現裝に改む　一八三—イ一四一)

一切經音義卷第十八　寫　一軸　五七〇

玄應(唐)著　卷子本　改裝後補鶯色表紙　用紙薄黄染紙　裏打　二六糎八米二〇糎　一紙四三糎二〇・五糎　二十二行小雙行　外題書名同

識語　一交了

(鎌倉時代末期寫　虫害甚し　一八三—イ一四七)

一切如來心秘密全身舍利寶篋印陀羅尼經　一軸　五七一

不空(唐)譯　唐卷子本　改裝後補中國裂地表紙　一〇糎四米五〇糎　原寸七・二糎二米九糎　一紙四九・五糎　天地單邊六糎　七十三行十字　本紙卷頭に佛畫あり

題簽後補墨「呉越西關磚塔藏經(陳曾壽題籤(印))」　尾題「寶篋印陀羅尼經」

刊語　(卷頭)天下兵馬大元師呉越國王錢俶／造此經八万四千卷捨入西関／塼塔永充供養乙亥八月日紀

識語　(卷首別紙繼紙)吾杭西湖南屏雷峯塔爲呉越錢氏王妃／所建載於志乘故名王妃塔因築於雷峯／峯上以雷峰得名建築年月渺不可攷／相傳是塔飛桶丹楹金鈴寶蓋備極莊／嚴屢燬於火僅留塔之中心磚木所砌之／基礎約畧可辨五層前人詩有云雷峯／如老衲者是也清聖祖題西湖十景其一即／雷峯夕照蓋塔基既經火灼統體赭色／毎當夕陽返照宛似赤城霞起誠仰觀／也自耒四方鄉人之進香天竺者輙取土／以歸作祈年之擧塔基遂日斲月削／清光緒間地方人士築圍廡於塔外禁／止挖磚以防傾倒然數十年來墻潮坍塌／取磚如故而無人加察焉今歲甲子八月二十／七日時加未天氣晴朗有人見是處雲／陵起轟然一聲塔遂下陷而傾圮矣士女／聞之傾城往觀拾塼撮土謂可袪疫辟／火其磚或有孔者孔不甚深藏經一卷／外仍封以土名寶篋印經以魯尺度之／高二寸五分長七尺六寸係棉紙印字計二／百七十一行都二千七百餘字經前有佛圖／一方圖前有字三行文曰天下兵馬大元／帥(ママ)呉越國王錢俶造此經八萬四千卷／捨入西關磚塔永充供養乙亥八月紀等／字外裹以黄絹束以錦帯惟年代久遠／霉爛者多完整者少攷呉越王錢／俶爲武肅王之孫後納土於宋封忠懿／王乙亥爲北宋藝祖開寶八年歴宋元／明清四朝至今歲甲子寔九百五十年矣／至是始知建築年月旦以八月造以八月／坍其成其燬殆亦偶然遇合耶其時／江浙戰禍發生變化和平希望行將／寔現東北風雲日益緊漲而此塔忽／然崩倒屺即佛説衆生業果因縁／以示隱現耶吉凶禍福故所不計但／從此西子湖邊少一巋然之影像成／一千年之土阜矣騒人墨客之躑躅／其間者覧古興懷能無感歎吁可／慨已／泉唐朱景彝譔山陰王雲書(印)

(宋版　卷首に「西關磚塔藏經(甲子冬月曉汀居士(印))」の題辭、又別紙に雷峯塔遠望の彩畫ありて「雷峯夕照(甲子九月山陰王雲竹人甫畫于西泠)」と題す　一八三—イ一八一)

盂蘭盆經疏新記　四卷　二冊　五七二

宗密(唐)疏　元照(宋)新記　自序　袋綴　紺表紙　三〇糎二一・五糎　十行十四字小雙行　柱刻「(丁數)」、「三井家雙鹿閣」等

刊記　永正乙丑之歳比丘守懌命工鏤版置恵日不二庵

(江戸時代初期後刷本　頭注傍注等書入あり　朱にて句讀訓點を施す　一八三—イ一三七)

開元釋教錄卷第十九　寫　一軸　闕　五七三

智昇(唐)著　卷子本　改裝後補澁表紙　用紙薄茶色染紙　裏打　二六・五糎三米

八〇糎　一紙五五・五糎　天地單邊二二・五糎　有界二十七行小雙行　題簽後補「開元釋教録第十九」
（奈良時代末期寫　卷首闕「菩薩内習六波羅蜜經一卷」以下を存す　尾題書名同下に「入藏録卷上」とあり　一八三―イ二四一）

假名法華經卷第三　寫　一冊　五七四

綴葉裝　金泥横雲黒紺包表紙　用紙黄紙　二六糎一六糎　押界八行　七十五丁
内題「妙法蓮華經藥草喩品第五」
（鎌倉時代中期寫　平假名讀み下し　もと蝴蝶裝を現裝に改む　一八三―イ二〇七）

華嚴經殘卷　寫　一軸　五七五

卷子本　表紙闕　用紙紺紙　藍紙を以て裏打　二三糎二米九〇糎　銀界一紙二十八行銀泥字　尾題「華嚴經卷□」
（二月堂燒經　各行上半概ね七、八字を殘して下半は焦爛　一八三―イ一四九）

古經臺玉　一帖　五七六

禿氏祐祥編　折本　墨流表紙　二九・五糎一八糎　十七折　古摺經斷簡三十點の貼交　題簽左肩津村雅量筆書名同
（奥附に「昭和二十二年三月　三十部の内第一三号」とあり　一八三―イ九五）

〔古寫經集〕　寫　一帖　五七七

折本　改裝隅取銀金具花文緞子表紙　見返金切箔散　用紙黄檗染紙　三五・五糎六一・五糎　原寸二六・五糎五五糎　有界二十四行　二十五折
（奈良時代末期寫　筆致所謂藥師寺魚養經風なり　原經卷を一紙毎に切斷して臺貼　一八三―イ三三）

古佛經跋尾・唐横目錄　寫　一冊　五七八

狩谷棭齋著　自筆　森約之加筆　袋綴　黄表紙　二三・五糎一五・五糎　四周單邊　一九糎一三糎　九行罫紙　二十七丁　題簽左肩雙邊（刊）書名同、「森氏」「うちだ」等
（内題「古佛經跋尾」の下に「森約之加筆題」と朱書　一八三―イ九七）

金剛頂一切如來眞實攝大乘現證大教王經卷第三　寫　一軸　五七九

不空（唐）譯　卷子本　改裝後補綾表紙　用紙斐紙　裏打　二九糎一〇米三〇糎　一紙五五糎　原寸二六・五糎　天地單邊二二糎　有界二十四行十七字　題簽黄紙〔楊守敬〕筆「大教王經第三」　尾題「金剛頂經卷第三」、「高山寺」「楊守敬印」等　識語　承久二年正月十一日／奉供養　山城前司廣綱
（奈良時代末期寫　一八三―イ一〇五）

金剛峯樓閣一切瑜伽瑜祇經　寫　一軸　五八〇

金剛智（唐）譯　卷子本　唐草織文紫色綾表紙　見返紺紙金切箔散　用紙斐紙　二八・五糎二一米五〇糎　一紙四七糎　天地單邊二二糎　有界二十二行十七字
奥書　曆應四年辛巳十二月第三日於無量壽院書寫早　去十月廿一日／於唐招提寺湯屋坊奉受十二品灌頂印明迄于同廿六日傳受早／同十二月十七日移注并委細交點早彼注本者悉雖爲朱字／蒙師許可上下穴行等以墨移之行内少〻如本以朱書之早／佛子尋阿二十八通七夏
（原に「書寫本云賜醍醐僧正寶―御自筆之本書了云〻／于時弘安四年辛巳三月日　誂或人書寫了　金剛末資賴空」「點本云寬元〻年癸亥九月自廿三日始之迄于廿八日奉傳受了／於醍醐金剛王院御壇所奉對僧正御坊傳受了　覺智」「先師空阿上人御持經奉相傳之（下略）」「點本云以理教房御本書寫則小野阿闍梨（ママ）御本也以書本比挍了」「又點本云天養二年仲春白月之比以成身院本移點了（下略）金剛末学實範」「記守此厳旨乍恐移點又再三比挍文多以相違矣彼以朱砂取付イ／本者即此點本也以松煙所注或本者又朱大點者書寫本所談／也後見知之勿勞字點矣　金剛乘末學乘寬記之」「已上本記如此　又右墨點以他本點之」「弘安五年壬正月廿六日賜安養院光明臺御相傳之本移點了／又賜校本其奥云仁治二年五月十九日　傳領理海云〻／始自弘安五年正月卅日至于同二月五日於光明臺奉傳受了／賴空卅四」「正中二年二月八日於法園寺奉受十二品灌頂之印明兼日三七日加行之／間賜卷本誂能筆令書寫早（下略）金剛佛子

尋惠四十歲」と奥書あるものの寫　朱墨點注書入裏書等多し　一八三—一二〇五）

十誦律第四誦卷第八　寫　一軸　五八一

弗若多羅・羅什（後秦）譯　表紙闕　用紙黃麻紙　二七糎一〇米四〇糎　一紙四五糎　天地單邊二〇糎　有界二十四行十七字、「東大寺印」

奥書　皇后藤原氏光明子奉為／尊考贈正一位太政太臣府君尊妣從一位／橘氏太夫人敬寫一切經論及律莊嚴既／了伏願憑斯勝因奉資冥助永庇菩提／之樹長遊般若之津又願上奉／聖朝恒迎福壽下及寮采共盡忠節又光／明子自發誓言弘濟沈淪勤除煩障妙窮諸／法早契菩提乃至傳燈無窮流布天下聞／名持卷獲福消災一切迷方會歸覺路／天平十二年五月一日記

（光明皇后御願經　内題書名「第八」の傍に後筆にて「廿」と朱書し、又尾題「七法衣法第八卷　四誦十誦律」とあるを「十誦律第四誦卷第廿八」と後筆朱抹訂正す　一八三—一八三）

四分律藏卷第十八　一帖　五八二

佛陀耶舍（後秦）譯　唐折本　改裝後補紫色絹表紙　用紙黃紙　二七・五糎一一・五糎　天地單邊二四糎　六行十七字　五十一折　題簽中央墨書名同　柱刻（軸折目）「陸　八卷（板數）」、「三聖寺」

刊語　（卷初）福州東禪等覺院住持傳法沙門智賢謹募衆緣恭爲／今上皇帝祝延聖壽闔郡官僚同資祿位雖造／大藏經印板計五百餘函　時元符元年十月日謹題

（宋版　尾題下に「鄭寧印造（墨印）」とあり　一八三—一八三）

四分律藏卷第四十六　寫　一軸　五八三

佛陀耶舍（後秦）譯　卷子本　改裝後補澁引表紙　用紙黃紙　二五・五糎一〇米二〇糎　一紙四五・五糎　天地單邊一九・五糎　有界十五行十七字　卷首稍々破損ありて「第四分調部　五十六」と記す　尾題「第四分卷第六」

奥書　皇后藤原氏光明子奉爲／　尊考贈正一位太政太臣府君尊／妣贈從一位橘氏太夫人敬寫一切經／論及律莊嚴既了伏願憑斯勝因／奉資冥助永庇菩提之樹長遊般／若之津又願上奉　聖朝恒迎福／壽下及寮采共盡忠節又光明子／自發誓言弘濟沈淪勤除煩障妙／窮諸法早契菩提乃至傳燈無窮／流布天下聞名持卷獲福消災一／切迷方會歸覺路／天平十二年五月一日記

識語　（卷首別紙）此經者光明皇后御筆也子細在終／可疑之乎又朱書者鑒眞和尚所爲／□古來相傳也抑彼和尚者來朝之時／風波雖損眼精讀經之筵直訛方以／鼻根誠是一切經暗誦所致六情根／五用勝能也彼此大權所作自他中／心可記而已　英海書之

（光明皇后御願經　卷首「第四分調部　五十六」の「五十六」を「卷第卅六」と後筆朱抹訂正す　尾題「第四分卷第六」とある「第」字を朱にて抹消し、「四分」の傍に「律藏卅」と朱書す　本文中所々別筆朱書訂正あり　一八三—一七九）

衆經目錄　五卷　五帖　五八四

仁壽年（隋）翻經　沙門及學士等編　序　唐折本　後補縹色表紙　三〇糎一一・五糎　天地單邊二五糎　六行十七字小雙行　柱刻「席　衆經目録卷一（—五）（丁數）（刻工名）」、「唐招提寺」

（宋版　刻工名—史　丁　信　董　丁寧　天□　付先　力褌　何毛　王政　吳由　米集　徐珍　徐見　徐是　徐華　陳山　楊寔　馮辛　馮[或]　高起　賴安　顏安　趙昌　趙冒　[將字]　董暘　[嚴信]　□憲第　闕畫—屬等　紙背に刻文不明の朱印多し　一八三—二〇一）（重美）

集沙門不應拜俗等事卷第一　一軸　五八五

彥悰（唐）纂録　太原王隱客字少微序　唐卷子本　黃表紙　二九糎一三米八五糎　一紙四九糎　天地單邊二一・五糎　二十三行十四字　卷首に「趙城縣廣勝寺」とありて扉畫一紙あり　題簽雙邊（刊）墨「集沙門不應拜俗等事序」　柱刻「沙門不拜俗事卷第一　第二（—二十六）張　右字号」

刊記　印藏經會[尊]僧祖美（石塔形印）

（金版　一八三—一七七）

成唯識論　十帖　五八六

護法等造　玄奘（唐）譯　折本　改裝黃表紙　二四・五糎八糎　四行十七字　外題

左肩墨「（書名同）　巻第一（―十）」
識語　（巻三）本云／模取明詮僧都之導本　安和元年十月七日人定時點此巻了興福寺沙門眞興
元仁二年五月一日於笠置般若院移點了　能寂
（巻四）本云模寫明詮僧都之導本導略抄唐本後可開也／安和元年十月十日朝點此巻了　興福寺沙門眞興
元仁二年五月二日移點了　沙門能寂　自先師上人相傳之／随分秘藏物也云々
建長六年七月廿三日寫了　沙門頼空
自左判官方相傳仕了　継尊（花押）
（巻十）（朱）元久二年五月廿九日移點了／兜率行者有愛／慈阿弥陀佛本也
（春日版　平安時代末期刊　巻九巻初に墨書「春日御社」、巻末に「奉施入／春日御寶前」と墨書あり　毎巻右下「澄忻」と墨書　朱點及び書入あり　一八三―イ八九）

成唯識論殘闕　二紙　五八七

護法等造　玄奘（唐）譯　二八糎五〇糎（二六糎四九糎）　殘二十六行（殘二十一行）
（春日版　平安時代末期刊　もと折本を巻子本に改装せるものの殘闕　朱點を施す　一八三―イ二九）

成唯識論巻第四　一帖　五八八

護法等造　玄奘（唐）譯　折本　澁表紙　二四糎八糎　四行十七字　六十三折　外題左肩墨書名同
（春日版　鎌倉時代刊　外題の下に墨書「英助」・「快春」とあり　朱墨の諸點を施す　一八三―イ二五）

成唯識論巻第九　一軸　五八九

護法等造　玄奘（唐）譯　巻子本　改装澁表紙　用紙斐紙　二三・五糎九米六五糎　十七字　外題墨書名同
（春日版　平安時代末期刊　外題下に墨書「快春」とあり　朱墨の諸點を施すもと八糎四行の折本を巻子本に改装、再び折本に改め又現装に改む　一八三―イ一五五）

成唯識論了義燈巻第二　一軸　五九〇

恵沼（唐）述　巻子本　改装後補澁表紙　二八・五糎一一米七五糎　一紙五六糎　二十八行二十一字小雙行
（春日版　平安時代末期刊　もと一五糎八行の折本を現装に改む　朱點を施す　一八三―イ二四三）

諸經要集巻第三　寫　一軸　五九一

道宣（唐）著　巻子本　改装後補小菱形織文表紙　見返絹地金泥蓮花畫　用紙黄紙　二四糎一五米　一紙五七糎　天地單邊二一糎　有界二十六行十七字小雙行　折本　時の題簽を現表紙に貼附書名同、「石山寺一切經（墨印）（後補別紙に捺す）」「松翁」等
識語　（見返附箋）此經天慶頃書寫本世稀珍典籍也／萬延二年辛酉初秋佛眼山笠徹定
（平安時代初期寫　もと巻子本を八糎四行の折本に改め今又現装に改む　一八三―イ一五五）

諸經要集巻第六　寫　一軸　五九二

道宣（唐）著　巻子本　改装後補薄紫色綾表紙　見返金砂子野毛散　用紙黄楮紙　二五糎一五米二〇糎　一紙五五糎　天地單邊二二・五糎　有界二十七行十九字小雙行　題簽書名同、「石山寺一切經（墨印）」
（平安時代初期寫　もと巻子本を折本に改め今又現装に改む　箱書に「元慶四年寫」とあり　一八三―イ一五五）

諸經要集巻第七　寫　一帖　五九三

道宣（唐）著　折本　改装後補朱雲龍文黄表紙　用紙黄紙　二四・五糎八・五糎　天地單邊二三糎　有界一折四行十九字　前装時の題簽を見返に貼附書名同
（平安時代初期寫　もと一紙五四糎二十九行の巻子本を現装に改む　一八三―二六一）

〔西夏文經斷簡〕　一冊　五九四

張大千編　唐袋假綴　淺緑色表紙　佛典の諸斷片を臺貼　四一糎二七・五糎　四十五丁

識語　（第七丁）（張大千筆）　此四頁是廻鶻人書用楊木削爲筆／如今日之鋼筆也（印）

（第十丁）（右同）此西夏文墨跡至不易得草書傳世尤尠／伯希和斯坦因俱未得見者（印）

（敦煌出土經「聖摩利天總持」・「金光明最勝王經卷第二（三）」等の斷簡あり　ビブリア第九・十一號所収西田龍雄「天理圖書館藏　西夏語文書について」—參照　一八三—イ二七九）

說妙法決定業障經　寫　一卷　一軸　五九五

智嚴（唐）譯　卷子本　改裝後補白表紙　見返模樣入金砂子散　用紙黃麻紙　裏打　二六・五糎二米　一紙四五・五糎　天地單邊一九・五糎　有界二十五行十七字

奥書　皇后藤原氏光明子奉爲／尊考贈正一位太政太臣府君尊妣／贈從一位橘氏太夫人敬寫一切經論／及律莊嚴既了伏願憑斯勝因奉／資冥助永庇菩提之樹長遊般若／之津又願上奉　聖朝恒延福壽／下及寮采共盡忠節又光明子自／發誓言弘濟沈淪勤除煩障妙窮／諸法早契菩提乃至傳燈無窮流／布天下聞名持卷獲福消灾一切／迷方會歸覺路／天平二年五月一日記

（光明皇后御願經　卷初四行闕損後筆補寫　一八三—イ二〇九）

大薩遮尼乾子所說經卷第三　寫　一軸　五九六

留支（元魏）譯　卷子本　改裝後補白表紙　用紙斐紙　二七・五糎九米五糎　一紙五三糎　天地單邊二一糎　有界二十八行十七字　內題「大薩遮尼乾子所說經諸嚴王品第四卷三」、「法隆寺一切經（墨印）（紙背）」

奥書　永久三年歲次乙未九月十二日書寫畢法隆寺一切經內勸進僧／勝賢　結緣衆高祿行里爲過去四／恩往生極樂爲現當二世所願成弁法／界衆生平等利益也　敬白

（內願下に「井留支々」とあり　一八三—イ二四五）

大集經月藏分卷第七　寫　一軸　五九七

那連提耶舍（高齊）譯　卷子本　改裝後補藍納戸色表紙　用紙斐宿紙　二五・五糎一二米二〇糎　一紙四七糎　天地單邊二〇糎　有界二十五行二十字　題簽「大集月藏經卷第七」　內題「大集經月藏分第十二□品第十卷七」　尾題「大集月藏經卷第七」

（平安時代末期寫　一八三—イ一五九）

大乘大方等日藏經卷第十　寫　一軸　五九八

那連提耶舍（高齊）譯　卷子本　金銀泥寶相華文表紙　見返扉畫金泥佛畫　用紙紺紙　撥形毛彫金軸　二六糎一二米　一紙五三糎　天地單邊一九・五糎　有銀界十八行金泥十七字　外題銀雙邊「大集日藏經卷第十」　內題「大乘大方等日藏經三歸潛龍品下　卷之十」、「神護寺」

（神護寺經　平安時代末期寫　一八三—イ二三七）

大乘本生心地觀經　寫　二卷　二軸　闕　五九九

般若（唐）譯　卷子本　黃表紙　用紙黃楮紙　二八糎　一紙五四糎　天地單邊二一・五糎　有界二十六行十七字　外題後筆書名同　內題「大乘本生心地觀經無垢性品第四卷五」「大乘本生心地觀經波羅蜜多品第八卷七」

（平安時代初期寫　卷第五・七を存す　一八三—イ二三三）

大乘理趣六波羅蜜多經卷第十　寫　一軸　六〇〇

般若（唐）譯　卷子本　金銀泥寶相華文表紙　見返扉畫金泥佛畫　撥形毛彫金軸　用紙紺紙　二六糎一〇米五糎　一紙五四糎　天地單邊一九・五糎　有銀界二十八行金泥十七字　外題銀雙邊「大乘理趣六波羅蜜經卷第十」、「神護寺」

（神護寺經　平安時代末期寫　一八三—イ二三五）

大智度論卷第五十三　寫　一帖　六〇一

龍樹造　鳩摩羅什（後秦）譯　折本　改裝後補朱雲龍文黃表紙　用紙黃紙　裏打　二四・五糎八・五糎　天地單邊一九・五糎　有界五行十七字　四十五折　內題「大智度論釋第廿二品　合受品　五十三紙十三」　尾題「大智論卷第五十三」

奥書　（朱書）比交了
　天平六年歳次甲戌十一月廿三日寫幡磨國賀茂郡既多寺／播磨直丹波賣
（もと一紙五六糎三十四行の巻子本を現装に改む　白點あり　一八三—イ二六三）

大智度論卷第五十五殘簡　寫　一軸　六〇三

龍樹造　鳩摩羅什(後秦)譯　唐巻子本　表紙闕　二八糎四米三五糎　一紙三八糎
天地單邊一八・五糎　有界二十三行十七字
（隋時代寫　巻初闕　初行「色中求般若波羅蜜多不應雖色□般若波」以下を存す
一八三—イ二七）

大智度論卷第六十九　寫　一軸　六〇三

龍樹造　鳩摩羅什(後秦)譯　唐巻子本　改裝後補菊花繡表紙　用紙黄楮紙　裏打
原寸二五糎一一米二〇糎　一紙五二糎　天地單邊一九・五糎　有界二十八行十七字　題簽書名同　尾題「大智度論巻第六十九（釋第卅六品下　記第卅七品下）」
奥書　大業三年三月十五日佛弟子禡七寶爲／亡父母敬寫大智度論經一部供養
識語　此大智度論書法遒勁隋人法度爲可見筆／者禡七寶余亦藏此人寫經／不折記
（印）
（巻首少破　初行「蜜乃至正憶念當知是爲魔事聽法者於六」以下を存す
一八三—イ一〇九）

大智度論卷第九十六　寫　一帖　六〇四

龍樹造　鳩摩羅什(後秦)譯　折本　改裝後補朱雲龍文黄表紙　用紙黄紙　二四糎
八・五糎　天地單邊二〇糎　有界五行十七字　六十一折　題簽中央後筆書名同
内題「大智度經品第八十五　平等品　九十六」右下に「涅槃不如化品　紙十八」
奥書　天平六年歳次甲戌十一月廿三日寫幡磨國賀茂郡既多寺／針間國造廣麻呂
（もと一紙五五糎の巻子本を現装に改む　白點あり　一八三—イ三）

大智度論卷第九十七　寫　一軸　六〇五

龍樹造　鳩摩羅什(後秦)譯　巻子本　原共表紙に改装後補代赭色表紙を繼ぐ　用紙黄紙　二四糎九米九五糎　一紙五七糎　天地單邊二〇糎　有界三十四行十七字
題簽後補書名同　内題「大智度經品第八十七　薩陁波崙品　巻九十七　紙十八」
尾題「大智度巻第九十七」、「元興寺印(紙背)」「徹定」等
奥書　天平六年歳次甲戌十一月廿三日寫播磨國賀茂郡既多寺／民直次甲
識語　（見返附箋）此論歎文寫圣生書寫正（シク）天平之古典也／文久二年壬戌仲夏佛眼山竺徹定敬題
（第一紙右下本文同筆「紙十八」とあり　もと巻子本を八糎五行の折本に改め今又現装に改む　白點あり　一八三—イ三九）

大般若經音義　寫　二巻　三冊　六〇六

堯尊筆　蝴蝶装　栗皮色表紙　用紙斐紙　二七糎一六・五糎　押界六行六段配字小雙(又は三)行、「堀田治郎」
奥書　（上冊）弘安九年十月廿四日於丹州筒河庄福田書了／執筆　堯尊三十七歳
（下冊）弘安九年十月廿九日依勸進書寫畢／執筆堯尊
同卅日交合了
識語　（各冊）自非大般若經轉讀之時者／不可被出御讀經所之旨／被定早
（第一・二冊巻初）浦嶋子社
（上冊附箋）このうらうちハ余ガ誤テシタルモノナリ原ハ／他ノ二ツト同ジクうらうちなし／此書ハ三帖ノモノニテ各帖ノ末ニ此文ノアリシ／モノナリ（自非云々ノ紙ノ）
（同附箋藍書）大般若經音義三帖巻末云弘安九年十月廿四日於丹州筒河／庄福田書了執筆堯尊按續浦島子傳記跋云永仁二年甲午八／月廿四日於丹州筒河庄福田村寶蓮寺如法道場依難背芳命／不顧筆跡狼籍馳紫毫了則知堯尊者寶蓮寺僧
（一八三—イ六一）

大般若波羅蜜多經　寫　十三巻　十三軸　闕　六〇七

玄奘(唐)譯　巻子本　金銀切箔散紺表紙　見返銀切箔散茶色紙　用紙黄紙　二六・五糎　一紙五一・五糎　天地單邊二〇糎　有界二十六行十七字　外題銀雙邊金字「大般若經（巻數）」、「東大寺八幡宮(墨印)(紙背)」
奥書　（巻八）東大寺八幡宮御經書寫了／嘉祿二年六月十七日　大法師秀恵春秋八十七

（巻九）東大寺八幡宮御經書寫了／嘉祿二年六月廿二日大法師秀恵 春秋八十七
識語　（巻八）一交了
信貴山阿闍梨堯求錢百
（巻九）一交了
奉加錢百文比丘尼平氏
此御經之口虫喰書補／春秋六十七 元周普寛／乘阿弥陀佛／享保二酉年霜月十四日
（巻四十）一交了
南無八幡大菩薩／願然五百人勸進内座入畢願以一果之施入／切欲遂西刹往生望
于時貞□元季十月二八日
（巻五十二）一交了
奉加之米伍斗　寛喜二季四月十五日　比丘尼妙阿弥陁佛／奉加錢百文　寛喜三
年二月廿日過去爲父母成佛比丘尼信阿彌陀佛
五百人内僧定聖貞永元年十月廿七日　新木
（巻七十八）奉加錢百文　平氏女字月性局／奉加錢百文　右衛門少尉原章方
（巻一百三十三）一交了
（巻一百六十二）一交了
寛喜元季六月十四日／奉加ノミ一比丘尼念阿弥陀佛
奉施入東大寺八幡宮大般若一部内／十帙書寫畢僧定雄
（巻一百七十）以寫本一挍了／寛喜元年六月十四日／奉施入東大寺八幡宮大般
若一部内／十帙書寫畢僧定雄／南无生ミ値遇
（巻二百九十七）一交了　常照
（巻三百二）一挍了
（巻三百七十三）一交了
奉加鏡壹面吉野中子龍王／寛喜弐季七月廿四日
奉加花瓶二口天台山／貞永元季壬辰十月廿三日／於秦藥寺住人僧蓮禎
（巻三百八十四）一交了
（東大寺八幡經　巻八・九・四十・五十二・七十八・一百三十三・一百六十二・
一百七十・二百九十七・三百二・三百一十六・三百七十三・三百八十四を存す
軸身に梵字を墨書　一八三―イ三二）

大般若波羅蜜多經卷第三　寫　一軸　六〇八

玄奘（唐）譯　卷子本　改裝後補澁表紙　用紙黃紙　二四糎九米七五糎　一紙四九
糎　天地單邊一九・五糎　有界二十五行十七字、「藥師寺印」
（平安時代初期寫　もと卷子本を八糎四行の折本に改め今又現裝に改む　白點あ
り　一八三―イ一五七）

大般若波羅蜜多經卷第二百二十九　一帖　六〇九

玄奘（唐）譯　折本　金銀切箔散薄茶包帙表紙　二六糎九・五糎　用紙黃紙　天地
單邊二一糎　有銀界五行十七字　五十二折　扉畫（卷首）五頁分　原帙外題墨書名
同　柱刻「三百内　三帙　九卷　（丁數）」、「春翠文庫」
識語　眚永德癸亥夏六月念八日也　沙弥道全
（卷首）池奥常住
（原帙裏に）但州美含郡　大乘寺
（鎌倉時代末期刊　表紙中央に「三百内三帙九」とあり　一八三―イ三五九）

大般若波羅蜜多經卷第二百五十五　寫　一軸　六一〇

玄奘（唐）譯　卷子本　共表紙　撥形木軸　用紙黃紙　二九・五糎一一米一〇糎
一紙五七糎　天地單邊二八糎　有界四行十七字、「藥師寺印」「藥師寺金堂（墨印）
（紙背）」
箱書　（表）藥師寺傳來　大般若波羅蜜多經魚養筆
（裏）大般若波羅蜜多經卷第二百五十五初分難信解品第卅四之七十四／大正戊午
仲冬　藤田江雪（花押）
（奈良時代末期寫　一八三―イ一八九）（重美）

大般若波羅蜜多經卷第三百七十二　寫　一軸　六一一

玄奘（唐）譯　卷子本　改裝後補砥粉色表紙　用紙茶色染紙　撥形軸　二七糎一一
米一〇糎　一紙五六・五糎　天地單邊二三糎　有界二十四行十七字　外題後筆
「大般若經卷第三百七十二」、「藥師寺」「藥師寺金堂（墨印）（紙背）」等
（奈良時代末期寫　一八三―イ二五一）

大般若波羅蜜多經卷第四百八十三　寫　一軸　六一二

玄奘(唐)譯　卷子本　改裝後補茶色表紙　見返金銀切箔散茶色紙　用紙黃紙　裏打　二六・五糎一〇米三五糎　一紙五六糎　天地單邊二〇糎　有界二十八行十七字　題簽別筆「大般若經卷四百八十三　五百內九帙第三」

(奈良時代寫　一八三—イ一〇三)

大般若波羅蜜多經卷第五百二十八　寫　一軸　六一三

玄奘(唐)譯　卷子本　改裝後補澁表紙　用紙黃檗染斐紙　二六糎六米二五糎　一紙五三糎　天地單邊二一・五糎　朱界二十七至二十九行十七字　外題金字「大般若經卷第五百二十八」

奥書　承安伍年七月十八日書寫畢／執筆定善房

(卷首裏)　願主從五位散位大中臣朝臣安長民氏

識語　法勝寺金字經伏見本梵釋寺本三本校了　長昭

(刊)　奉預　勸請守護權現／伊勢內外梵尊立所牟山／白山妙理熊野三所山王三聖／鎮守三所多度津嶋南宮千代／大行事／熱田大明神　八釼大明神

(一八三—イ一九一)(重美)

大般若波羅蜜多經卷第五百四十九　寫　一帖　六一四

玄奘(唐)譯　折本　改裝後補薄茶色表紙　二六・五糎九糎　天地單邊二〇糎　有界五行十七字　二十二折　題簽後補富岡鐵齋筆「金澤文庫藏佛經　鐵齋(印)」

內題「第四分不退相品第十七」、「金澤文庫」「鐵齋之印」

(鎌倉時代寫　一八三—イ一三一)

大般若波羅蜜多經卷第五百九十三　寫　一軸　闕　六一五

玄奘(唐)譯　卷子本　改裝後補茶色染表紙　用紙裏打　二四糎一米一〇糎　天地單邊二〇・五糎　有界十七字　尾題書名同

奥書　無灾殃而不消無福樂／而不成者般若之金言眞／空之妙典被稱諸佛之父／母聖賢之師範也所以至／誠奉寫大般若經一部六百／卷三世大覺十方賢聖咸／共證明我現當之勝願／必定成熟貞觀十三年歲次辛卯／三月三日檀主前上野國權／大目從六位下安倍朝臣小水／麻呂

(卷首闕　初行「計所執有情一切有情皆是虛妄所緣有情」以下二十三行を存す　一八三—イ二四九)

大般涅槃經卷第三十九　一帖　六一六

曇無讖(北涼)譯　折本　茶色表紙　二九糎一〇糎　天地單邊二二糎　六行十七字　三十六折　內題「(書名同)　𡚁」　柱刻(軸折目)「𡚁　大般涅槃經卷卅九(丁數)」、「元山文庫」

(天海版　一八三—イ九一)

大毗盧遮那經卷第七　寫　一軸　六一七

善無畏(唐)・一行(唐)共譯　卷子本　改裝後補濃茶色表紙　用紙黃紙　裏打　二六糎一六米一〇糎　一紙五六・五糎　天地單邊二三糎　有界二十一行十七字　外題後筆書名同　內題「大毗盧遮那經供養次第法卷第七」

(奈良時代末期寫　鎌倉時代假名朱點あり　卷子本を每半葉五行一一・五糎の折本に改め更に現裝に改む　奥に「右大唐中天竺國三藏輸波迦羅唐言善無畏譯沙門一行筆」とあり　一八三—イ二三七)

大毗盧遮那經供養次第法疏　二卷　二帖　六一八

不可思議(新羅)著　蝴蝶裝　改裝茜色表紙　二六糎一五・五糎　七行十七字　外題左肩墨「大毗盧遮那經供養次第法上(下)」　尾題「大毗盧遮那經供養次第義疏卷上(下)」　綴目「供充上(下)　(丁數)」

(高野版　上卷奥に「弘安三年三月廿一日於金剛峯寺信藝書」との刻文を存す　表紙右下に外題同筆「寶龜院末資／阿闍梨政與」とあり　一八三—イ九九)

大毗盧遮那成佛經疏卷第一　一冊　六一九

一行(唐)著　蝴蝶裝　改裝後補布目淺茜色表紙　二四・五糎一六糎　七行十七字　綴目「大充一　(丁數)」

刊語　斯疏舊版既刓文字殘缺仍今新加／彫刻大功云成講肆學場慧燈長照／一天四海法寶廣施捧此洪勳奉祈／聖朝敷厥利濟令度群類敬白／貞和第五曆己丑結制日／幹緣比丘阿吽／捨財玉峯正琳／彫工法眼和尚位宗應
（高野版　奥に「建治三年丁丑五月四日於金剛峯寺信藝書」との刻文を存す　一八三—イ九七）

大毗盧遮那成佛經疏卷第十八　寫　一帖　六二〇

一行（唐）著　折本　縹色表紙　二九糎一四・五糎　用紙黃紙　裏打　天地單邊二四糎　有界五行十八字小雙行　八十一丁　題簽中央紺紙金泥「大毘盧遮那經疏卷第十八」
奥書　承安三年七月廿八日書寫畢／二校了
（一八三—イ三九）

大方廣佛華嚴經　九卷　三帖　闕　六二一

實叉難陀（唐）譯　折本　改裝後補縹色表紙　用紙裏打　三〇・五糎一一・五糎　天地單邊二五・五糎　十行二十三字　題簽左肩墨書名同　柱刻「第二（十二・十四）冊（板數）（刻工名）」
識語　（第二冊末）此宋國開版八十卷華嚴經ハ吾カ鎌倉時代ノ始メ渡／來セシ大藏經中ノ一部分ナリ傳テ高雄山神護寺ニ藏ス／今缺卷ノ破蝕セルモノヲ得タルヲ以テ聊カ修補シ其緣由ノヲ記ス／明治三十八年三月　後學　碓井益惟志（印）
（宋版　刻工名—道賢　嚴志　蔡通　李恂等　卷七至十・五十七・五十八・六十六至六十八を存す　一八三—イ九三）（重美）

大方廣佛花嚴經卷第七　寫　一軸　六二二

實叉難陀（唐）譯　卷子本　改裝後補金泥下畫丹表紙　見返金泥下畫金銀切箔散二三・五糎二米八五糎　一紙五三糎　天地單邊二〇・五糎　銀界三十行二十字
尾題書名同
識語　交了／承元三年十二月四日以戸御本校之了　□□
（平安時代末期寫　卷首闕　初行「佛子住於一念悉能了一切三世中國土之成壞」
以下を存す　全卷に墨素描源氏下畫あり　紙背銀切箔散　一八三—イ三五三）

大方廣佛華嚴經卷第十三　寫　一軸　六二三

佛陀跋陀羅（東晉）譯　卷子本　改裝後補黃表紙　二四糎七米　一紙三一・五糎　天地單邊一九・五糎　有界二十行十七字　內題「大方廣佛華嚴經功德華聚菩薩十行品下　十三」　尾題「華嚴經卷第十三」
識語　（朱書）貞觀十九年閏二月廿九日得唐一校正了　儀遠
（朱書）元慶三年正月十九日勘着科文一法已了八月十一日二交早
承元二年四月十日午時許於高雄山之內／都賀尾房加一見了且爲弘衰徵之／且爲依當年仙洞冷匠宛所令様／加一見云〻　大法師道澄／同年同日道付早
（平安時代初期寫　白朱両點を施し書入あり　もと卷子本なりしを折本に改め今又現裝に改む　一八三—イ三一）（重美）

大方廣佛華嚴經卷第十八　寫　一軸　六二四

佛陀跋陀羅（東晉）譯　卷子本　改裝黃表紙　用紙裏打　二四糎八米五〇糎　一紙五四糎　天地單邊一九・五糎　有界約三十一行十七字　內題「大方廣佛華嚴經廻向品之三　十八」　尾題「華嚴經卷第十八」
識語　（朱書）貞觀十九年三月一日交了　沙門儀遠
元慶三年二月六日指科點了八月十二日二校々了
（平安時代初期寫　朱白両點を施す　一八三—イ二二）（重美）

大方廣佛華嚴經疏卷第一百一十五　一帖　六二五

澄觀（唐）著　淨源（宋）注疏　唐折本　改裝後補茶色絹紬表紙　用紙黃紙　二九・五糎一一糎　天地單邊二三糎　有界四行十五字小雙行二十字　五十一折　外題中央墨「宋槧　華嚴經」　柱刻「浙西運司開　注花嚴（花嚴）一百一十五　二（—二十一）」、「十無盡院」
識語　（裏表紙）養素齋珍藏（印）
（宋版　闕畫—慎等　一八三—イ九五）（重美）

大方等大集經卷第六　一帖　六二六

曇無讖（北涼）譯　唐折本　表紙闕　三〇・五糎一一・五糎　天地單邊二四・五糎

六行十七字　四十九折　柱刻「位　大集經六卷　二(一—二十)（刻工名）」
（宋版　刻工名—王　王祖　黃元　李翊　徐[立]　□宜　陳寧　[馬]宗　鄉昌　周冨等　一八三—一七二）

大方等大集經卷第十九　寫　一軸　六二七

曇無讖(北涼)譯　卷子本　改裝後補茶色表紙　用紙斐宿紙　二六糎八米六五糎　一紙四八・五糎　天地單邊二〇糎　有界二十五行十七字　外題書名同　内題「大方等大集經不可説菩薩品之二　十九」
（平安時代末期寫　一八三—一三九）

大方等大集經賢護菩薩所問經卷第二　寫　一軸　六二八

闍那崛多(隋)譯　卷子本　改裝青色綾表紙　見返白緞子地　用紙黃紙　二四・五糎五米七〇糎　一紙四三・五糎　天地單邊一九・五糎　有界二十七行十七字　題簽黃綾後筆「唐人寫賢護菩薩所問經卷第二全敦煌千佛洞出土／素文珍藏(印)／礼葉二十六号」　内題「大方等大集經賢護分思惟品餘　二」「大集經賢護分三昧行品第二」「同分見佛品第三」「同分正信品第四」「同分受持品第五」　尾題「賢護菩薩所問經卷第二」
（敦煌出土經　唐時代寫　卷末一紙別黃紙　一八三—一三）

中阿含經卷第二十三　一帖　六二九

僧伽提婆(東晉)譯　唐折本　表紙闕　三〇・五糎一一・五糎　天地單邊二四・五糎　六行十七字　五十折　柱刻「興　中阿含經二十三　一(—十八)（刻工名）」
（宋版　刻工名—何忠　何全　嚴昌　周育　李仲　朱富　章珍　章祥　公禾　許亮　楊亮等　一八三—一七三）

註妙法蓮華經卷第七　寫　一帖　六三〇

守倫著　折本　改裝後補朱雲龍文黃表紙　二四・五糎八・五糎　天地單邊二三糎　有界三行十七字小雙行　百四十一折　内題「註妙法蓮華經提婆達多品第十二」　尾題書名同
（奈良時代末期寫　白點を施す　もと一紙五六・五糎二十三行の巻子本を現裝に改む　一八三—一三七）

播磨國極樂寺瓦經拓　五軸　六三一

巻子本　橘花等模様表紙　見返銀切箔散　二九糎　題簽清野謙次筆「播磨國極樂寺出土瓦經享和元年原拓五巻の一(—五)」、「清野文庫(紙票)」
識語　（第三巻見返貼附）（清野謙次筆）　寛政十一年發掘セラレタル播州極樂寺願經ハ享和元年姫ノ路侯酒井忠道ガ拓本ヲ作レリ此五巻ハ其ノ時ノ作ニテ稀ナルモノナリ瓦經ノ現品ハ明治維新ノ時姫路城濠中ニ棄去ラレテ今日ナシ此始末ハ考古界第一巻一号二号考古学雜誌ノ第二十五巻二二六頁ニ記サレタリ下略
（「梵網經」・「金光明經」・「金剛般若波羅蜜經」等瓦經拓　巻二「梵網經」巻下原經奥に「天養元年歳次甲子六月廿三日於播州ノ極樂寺依大法主禪慧之勸進ノ奉書寫之畢金剛佛子仁勝ノ願以此功徳普及於一切我等與衆生皆共成佛道」　巻一初「康治二年歳次癸乡八月廿七日于時ノ願主金剛佛子禪慧」とあり　一八三—一九）

般若波羅蜜多心經注　寫　一軸　六三二

玄奘(唐)譯　唐巻子本　改裝後補亀甲織文黃表紙　見返薄水色緞子　用紙麻紙　裏打　二七糎一〇米一四糎　原寸二六糎四米六四糎　一紙四三糎　天地單邊四三糎　十八行十字小雙行　題簽後補茶色紙「唐人書心經墨蹟樓霞僊館珍藏」　尾題後筆「般若波羅蜜多心經巻一」、「林氏朗菴祕笈之印」「堪喜齋書畫印」「朗庵過眼」「寶宋室」「朗庵平生眞賞」「貞錫」等
識語　右唐人書心經并註不下四千字開首微ノ有缺失聞此巻乃某君遺戍伊江時得ノ於敦煌塔中後携至武昌以贈素孟蟾ノ方伯今歸ノ雲心同年紙品墨色殆千餘年物昔松雪ノ手補唐人臨十七帖不完處數行陸友仁ノ謂其沈著不逮此其所以爲唐人歟ノ道光丁亥孟夏臨川李宗瀚觀并識（印）
僕於内典尤所未聞惟心經註尚見數種未若此注之ノ得眞實義非僅書法圓勁秀厚非北宋以後所能追ノ歩也己酉秋以五十金得之自幸緣法不淺ノ道光庚戌元日記於臥室南窗下時感冒小愈不可ノ以風　貞錫居士（印）（以下咸豊元至同治九年間九名の識語を添ふ）
（敦煌出土經　唐時代末期寫　巻首闕　朱句讀點を施す　ビブリア第五號所収　神田喜一郎「新らたに發見せられた般若心經の注本」—參照　一八三—一三三）

毗尼摩得勒伽卷第四　寫　一軸　六三三

伽跋摩(劉宋)譯　卷子本　金銀泥寶相華文紺表紙　見返扉畫金泥佛畫　撥形毛彫金軸　用紙紺紙　二六糎一〇米五五糎　一紙五三糎　天地單邊一九・五糎　銀界二十八行金泥十七字　外題銀雙邊書名同、「神護寺」

(神護寺經　平安時代末期寫　一八三—イ三三)

不退轉法輪經品第三卷之二　寫　一軸　六三四

智嚴(唐)譯　卷子本　金銀泥寶相華文紺表紙　見返扉畫金泥佛畫　撥形毛彫金軸　用紙紺紙　二六糎九米八五糎　一紙五三糎　天地單邊一九糎　銀界二十八行金泥十七字　外題銀雙邊「不退轉法輪經卷第二」、「神護寺」

(神護寺經　平安時代末期寫　一八三—イ三二)

佛說灌頂三歸五戒帶佩護身呪經第三　寫　一帖　六三五

帛尸梨蜜多羅(東晉)譯　折本　表紙闕　見返金箔　用紙黃染紙　裏打　二五糎一一糎　有界六行十七字　二十折　尾題「灌頂經卷第三」

(奈良時代末期寫　もと一紙四六糎天地單邊一九糎有界二十六行を現折本に改裝　白點を施せる跡あり　一八三—イ三七)

佛說觀普賢菩薩行法經　寫　一軸　六三六

曇無蜜多(劉宋)譯　卷子本　金泥寶相華文紺表紙　見返扉畫金泥佛畫　用紙紺紙　二五・五糎六米七五糎　一紙四五糎　天地單邊二〇糎　銀界二十九行金泥十七字　外題左肩銀雙邊金字「觀普賢經」

(中尊寺經　平安時代末期寫　一八三—イ二九)

佛說天皇梵摩經卷第七　寫　一軸　六三七

唐卷子本　共表紙　用紙唐厚手麻紙　見返畫彩色佛像　三〇糎六米六〇糎　天地單邊二五・五糎　有界十四行十七字　挿畫彩色佛畫十一面(扉畫共)　外題書名同　奧書　夫妙像莊嚴佛法叵量叵盡若比丘比丘／尼優婆塞優婆夷皆悉礼拜讃歎不敢／輕慢恭敬供養一切生老疾苦死皆得解／脫灾障不起長夜安隱諸怖遠離／長慶三年七月佛弟子令狐慈減割家／財敬造佛說天皇梵摩經一部供養

(敦煌出土經　一八三—イ一〇七)

佛本行集經卷第四十六　寫　一軸　六三八

闍那崛多(隋)譯　卷子本　原折本茶色表紙に改裝藍納戸色表紙を繼ぐ　用紙裏打二四糎七米五糎　一紙四六・五糎　天地單邊一九糎　有界二十四行十七字　題簽後補書名同　內題「佛本行集經大迦葉因緣品中卅六」、「石山寺一切經(墨印)」

(平安時代末期寫　もと卷子本を八糎約四行の折本に改め今又現裝に改む　一八三—イ六一)

平安朝摺經帖　一帖　六三九

川瀨一馬編　折本　紫紺表紙　二九・五糎四二・糎　外題中央金字書名同

奧書　今度機緣ありて唐招提寺に傳承せられたる多數の平安朝摺經を／發見し、之を精査せしに凡て異板八十三種に及べり中略新たに知られたる貴重なる遺品の永世に傳へられんことを冀ひ、之か修補施／主阪本猷大人の助緣によりて裝成りて納め奉る所、卷子本十六軸／(異板種二十)、其の餘の六十三種を一帖に収む。而して時に其の遺品の餘材を／以て五帖を作成し関係者に頒てり中略裝匠東都小倉潔／皇紀二千六百年十一月十日川瀨一馬謹識(印)

(「無量義經」八種、「妙法蓮華經」四十八種、「觀世音經」三種、「觀普賢經」四種、「佛說阿彌陀經」二種、「金光明最勝王經」二種、「仁王護國般若波羅蜜經」六種、「金剛壽命陀羅尼經」三種、「藥師琉璃光如來本願功德經」一種、「成唯識論」一種、以上計七十七種を収む　川瀨一馬著「平安朝摺經の研究」—參照　一八三—イ六七)

法門名義集殘經　寫　一軸　六四〇

李師政(唐)著　唐卷子本　表紙闕　用紙裏打　二一糎五米二〇糎　一紙四三糎　約二十二行約二十三字小雙行

(敦煌出土經　唐時代末期寫　「法門名義集卷一」・「世界品法門名義第七」・「因果品法門名義第六」・「理教品法門名義第四」の各殘闕を存す　所々の裏打にも同

出土古寫經斷簡を用ふ　一八三—イ二七）

法華經音義　寫　一冊　六四一

道宣（唐）著　良春筆　袋綴　改裝後補黃表紙　二六・五糎一七・五糎　七行十字二十三丁　外題左肩「法華音義」

奥書　武州入東郡古尾谷學頭御本ニテ書寫早／良春之／寬正五年甲□五月晦日」

識語　（見返）書林／市郎兵衛／改閉シ申候

（表紙）來廿

（各漢字に假名訓四聲點等を施す　内題の下に「釋道宣之」とあり　一八三—イ二九）

法華經音義　寫　一冊　六四二

袋綴　薄茶色表紙　二五・五糎一八・五糎　六行六字　二十八丁　外題左肩「（書名同）全」

（室町時代末期寫　片假名にて漢字右に音を下に訓を記す　一八三—イ一八五）

法華經音訓　一冊　六四三

心空著　至德丙寅佛成道日自跋　袋假綴　改裝後補水色包表紙　二七糎一九・五糎　四周單邊二二糎一七・五糎　有界六行四段配字　四十八丁　外題左肩墨書名同、「下總崎房秋葉孫兵衛藏書」

刊記　左京兆通儀大夫約齋道儉化淨財命工刊行／幹緣　行西

識語　（卷首）比丘心源

（貴重圖書影本刊行會本解說—參照　一八三—イ八三）

法華經音訓　寫　一冊　六四四

心空著　傳登筆　袋假綴　改裝後補紺包表紙　原裝共表紙　天地裁斷　用紙裏打二四・五糎二一・五糎　十二行四段配字　二十三丁（表紙共）　原外題中央書名同、「殘花書屋」等

奥書　于時永祿六癸亥天八月廿六日書之　傳登

識語　知光山金剛寺如意坊常住也

（一八三—イ八九）

法華經傳　寫　十卷　十冊　六四五

慧祥（唐）著　蝴蝶裝　共表紙　二五・五糎一四・五糎　押界七行約十九字　外題左肩「法華傳卷第一（—卷第十）」

奥書　（各冊）一交已竟（又は「一交了」「交了」）

（第三冊）天永三年正月七日於東大寺眞言院書寫畢

（第四冊）天永三年正月六日午尅許於東大寺書了

識語　（第一冊）（朱）延宝三年宥栄歩朱讀之

當寺先師聖譽和尚眞跡／共十卷アヤマリ第十卷（細注二行別筆）／萬德寺宝庫不出什物也

（第一冊）前略尾州万德寺住侶文宗云ク万德寺第九世聖譽上人ノ御／事也　天文十九庚戌年三月四日迁化／九十四歳　四十四世堯譽識

（第三冊）天永三壬辰年ヨリ今年文化十二亥年マテ／七百四年ニナル近代板行ノ本有トイヘ𪜈／古筆秘卡守護スヘキモノナリ

（第十冊）右拾卷聖教者雖爲俊識若僧所持依異他／知音所得讓法花傳也誠ニ難遇朋友難／得聖教不可疎略尤可仰信者也矣／永正弐乙丑天初秋比於根來寺得之早／尾刕万德寺住呂文宗

（別筆右注）名聖譽万德寺第九代之／祖師也　四十四世　堯譽識

（各表紙）聖譽／万德寺

（一八三—イ八五）

法華義疏卷第八　寫　一軸　六四六

吉藏（隋）著　卷子本　後補白表紙　用紙黃紙　二七糎九米八〇糎　一紙五一糎

天地單邊二三・五糎　有界三十行約二十二字　外題「法華義疏第八」、「東大寺印」

（外題の下に「尊勝院」とあり　後半墨界を用ひず押界を用ふ　奥に「大唐咸通五年六月十五日大興善寺沙門勝叡表進／靈應臺檢校道場沙門道鎭初校」とあり白點あり　一八三—イ三三）

梵網經菩薩心地品戒本　一軸　六四七

鳩摩羅什（後秦）譯　智顗（隋）序　卷子本　改裝後補青色絹表紙　見返金泥　用紙

斐紙　裏打　二八糎一六米　天地單邊二四糎　有界十五字　柱刻「(板數)」
(春日版　平安時代末期刊　もと二八糎一二・五糎有界六行の折帖を現裝に改む
朱點書入あり　一八三—イ二九)

摩訶般若波羅蜜初品小品經卷第一　寫　一軸　六四八

鳩摩羅什(後秦)譯　共表紙　二六糎一九糎　竹籤　用紙黃麻紙　二六糎五米
一紙四四糎　天地單邊二〇糎　有界二十四行十七字　外題「小品般若經卷第一」
尾題同上、「東大寺印」
奥書　皇后藤原氏光明子奉爲／尊考贈正一位太政大臣府君尊妣贈／從一位橘
氏太夫人敬寫一切經論及／律莊嚴既了伏願憑斯勝因奉資／冥助永庇菩提之樹長
遊般若之律／又願上奉　聖朝恒延福壽下及／寮采共盡忠節又光明子自發誓／言
弘濟沈淪勤除煩障妙窮諸法早／契菩提乃至傳燈無窮流布天下／聞名持卷獲福消
災一切迷方會／歸覺路／天平十二年五月一日記
(光明皇后御願經　一八三—イ一八七)(重美)

密教稟承三國抄　寫　一軸　六四九

卷子本　改裝後補白表紙　二七糎八米三〇糎　一紙三八糎　約二十三行　外題後
補書名同
奥書　延慶二年十一月七日勘之了　慶陰
以賴德律師本書写也彼仁被故僧正御房賴／後御重上候時以大聖院御所藏本／書
写之御教亦他本而已
本奥書云治承四年庚子三月日依大僧正房命撰之云々
(本文同筆による補注裏書多し　一八三—イ三四七)(重美)

無垢淨光經六度陀羅尼　一枚　六五〇

六糎二七糎　十五行五字
(百萬塔經　奈良時代刊　一八三—イ二〇三)

無量義經德行品第一　寫　一軸　六五一

曇摩伽陀耶舍(蕭齊)譯　卷子本　金泥寶相華文紺表紙　毛彫金軸　見返扉畫金泥
佛畫　用紙紺紙　二五・五糎七米五〇糎　一紙四六・五糎　天地單邊二〇糎　銀界
二十九行金泥十七字　尾題「無量義經」
(中尊寺經　平安時代末期寫　一八三—イ三一)

妙法蓮華經　寫　八軸　六五三

鳩摩羅什(後秦)譯　卷子本　金泥寶相華文紺表紙　見返扉畫金泥佛畫　用紙紺紙
毛彫金軸　二五・五糎　一紙四〇・五糎　天地單邊一九・五糎　銀界二十九行　金
泥十七字　外題「(書名同)　卷第一(—八)」
(中尊寺經　平安時代末期寫　一八三—イ三三)

妙法蓮華經釋文　寫　三卷　三冊　六五三

中算著　景子季建酉月朔五日自序　蝴蝶裝　表紙闕　二六・五糎一六糎　四周單
邊二一・五糎一三糎　押界七行十六字小雙行　外題左肩「法華釋文上(—下)卷」、
「平等心王院」
識語　一交了
文治三年　月　日誂同法等令書寫之／但此本文字極悪也以他本可校合也／行宴
記之
(表紙)(朱)　來
(略々本文に近き朱書校合あり　一八三—イ三七)

妙法蓮華經卷第四　寫　一軸　六五四

鳩摩羅什(後秦)譯　卷子本　改裝後補茶色金襴表紙　用紙薄水色染紙　裏打　二
六糎九米　一紙五一糎　天地單邊二〇糎　有界二十八行十七字
識語　(白字)點本經云寬治元年五月十六日以赤穗均／照聖人點爲其本移點了處
〻付音讀是／定慶聖人之讀而已　末學沙門經朝
(朱)點本經云同二年正月之比以元興寺明詮僧都點導／本爲其本以朱大都移點
了若与赤穗同處者／不別點之以朱續甬處モアリ朱甬得其意可讀之僧經朝點了
(墨)墨ノ點訓并聲等興福寺壽慶聖人訓聲而已

（平安時代初期寫　全卷識語に示す如き白朱墨點片假名附訓を施す　中田祝夫著「古點本の國語學的研究總論篇」—參照　一八三—イ二六九）（重美）

妙法蓮華經卷第四　一軸　六五五

鳩摩羅什(後秦)譯　卷子本　厚手鳥の子表紙　見返銀切箔散　用紙斐紙　二六・五糎一〇米二五糎　一紙四八糎　二十行十七字

（春日版　鎌倉時代刊　朱墨訓點傍注等書入あり　一八三—イ一四三）

妙法蓮華經卷第五　寫　一帖　六五六

鳩摩羅什(後秦)譯　朝鮮折本　改裝後補薄茶色表紙　用紙縹色染紙　三九・五糎一四・五糎　天地銀單邊二一糎　六行銀泥二十三字

（高麗寫經　一八三—イ一五一）

妙法蓮華經卷第六　一帖　六五七

鳩摩羅什(後秦)譯　唐折本　後補薄茶色表紙　三一・五糎一三糎　用紙黃麻紙　四周單邊二六糎一二・五糎　五行十七字　七十三折　柱刻「六（丁數）」

（宋版　一八三—イ二五五）

妙法蓮華經卷第八　一軸　六五八

鳩摩羅什(後秦)譯　卷子本　改裝後補澁表紙　用紙斐紙　裏打　二二糎七米三〇糎　一紙五三・五糎　約二十行十七字　内題「妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五」

（春日版　鎌倉時代初期刊　一八三—イ二三）

維摩詰經卷下　寫　一軸　六五九

鳩摩羅什(後秦)譯　唐卷子本　改裝後補茶色表紙　用紙黃麻紙　二七・五糎九米六〇糎　一紙四六・五糎　天地單邊二一糎　有界二十二行十七字　尾題書名同　奥書　經生令狐善歡寫／曹法師法慧校／法筆齋主大僧平事沙門法煥定／延壽十四年歲次丁酉五月三日清信女　稽首歸命常住三寶蓋聞剝／皮折骨記大士之半言忘體損軀求般若之妙旨是知金文玉牒聖教眞風／難見難聞既尊且貴弟子託生宗胤長自深宮賴王父之仁慈蒙妃母之／訓誨重需法潤爲寫斯經典以日近歸依朝夕誦念以斯微福持奉父王願／聖體休和所求如意先亡父遠同氣連披見佛聞法往生淨土增太妃之餘卒／益王妃之光筆世子諸公推延壽寂賊退散疫厲消亡百姓被煦育之／慈蒼生蒙榮潤之樂含靈抱識有氣之倫等出苦源同昇妙果

（敦煌出土經　卷首闕　初行「坐食汝往到彼如我辭日維摩詰稽首」以下を存す　所々朱筆にて句讀を施す　一八三—イ一七七）（重美）

瑜伽師地論卷第三　寫　一軸　六六〇

玄奘(唐)譯　卷子本　改裝後補朱雲龍文黃表紙　用紙黃紙　裏打　二四糎七米四〇糎　一紙五四糎　天地單邊二一糎　有界二十九行十七字　題簽後筆書名同、「石山寺一切經(墨印)」

識語　寶龜拾年歲次己未三月廿五日願主穴太乙麻呂

（もと卷子本を八糎四行の折本に改め今又現裝に改む　一八三—イ二五）

瑜伽師地論卷第七　寫　一軸　六六一

玄奘(唐)譯　卷子本　茶色折本原表紙に改裝後補代赭色表紙を繼ぐ　用紙黃紙二三・五糎六米七〇糎　一紙五四糎　天地單邊二一糎　有界二十七行十七字　題簽後補書名同、「石山寺一切經(墨印)」「元興寺印(紙背)」「松翁」等

奥書　寶龜拾年歲次己未三月廿五日願主穴太乙麻呂

（もと卷子本を八糎四行の折本に改め今又現裝に改む　白點を施す　一八三—イ一六五）

瑜伽師地論卷第八　寫　一帖　六六二

玄奘(唐)譯　折本　改裝後補朱雲龍文黃表紙　用紙黃紙　二四・五糎八・五糎　天地單邊二一糎　有界四行十七字　四十六折

奥書　寶龜拾年歲次己未三月廿五願主穴太乙麻呂

（もと一紙五三糎二十九行の卷子本を現裝に改む　白點を施す　一八三—イ二五五）

瑜伽師地論巻第二十二　寫　一軸　六六三

玄奘(唐)譯　巻子本　茶色折本原表紙に改装後補澁表紙を繼ぐ　用紙黄楮紙　二四糎七米二〇糎　一紙五六糎　天地單邊一九糎　有界二十七行十七字　題簽後補書名同、「石山寺一切經(墨印)」
(奈良時代末期寫　もと巻子本を八糎四行の折本に改め今又現裝に改む　白點を施す　一八三—イ一六七)

瑜伽師地論巻第二十九　寫　一軸　六六四

玄奘(唐)譯　巻子本　茶色折本原表紙に改装後補澁表紙を繼ぐ　用紙黄麻紙　二四糎九米八〇糎　一紙五一糎　天地單邊二〇糎　有界二十七行十七字　題簽後補書名同、「石山寺一切經(墨印)」
(平安時代中期寫　もと巻子本を八糎四行の折本に改め今又現裝に改む　白點を施す　一八三—イ一六九)

瑜伽師地論巻第三十七　寫　一軸　六六五

玄奘(唐)譯　巻子本　茶色折本原表紙に改裝後補代赭色表紙を繼ぐ　用紙黄楮紙　二三・五糎一一米七〇糎　一紙五六糎　天地單邊二〇糎　有界二十七行十七字　題簽後補書名同、「石山寺一切經(墨印)」「松翁」等
奥書　一交了
久壽元年十二月五日依蓮元房之令奉書寫之／散位高橋業盛
(もと八糎四行の折本を現裝に改む　一八三—イ一七一)

瑜伽師地論巻第三十八　寫　一軸　六六六

玄奘(唐)譯　巻子本　金銀泥寶相華文紺表紙　見返扉畫金泥佛畫　撥形毛彫金軸　用紙紺紙　二五糎九米六〇糎　一紙四九糎　天地單邊一九糎　銀界約二十七行金泥十七字　外題銀雙邊書名同
(平安時代末期寫　一八三—イ三五)

瑜伽師地論巻第四十二　寫　一軸　六六七

玄奘(唐)譯　巻子本　茶色折本原表紙に改裝後補代赭色表紙を繼ぐ　用紙黄楮紙　二三糎八米七〇糎　一紙四七糎　天地單邊一九・五糎　有界二十六行十七字　題簽後補書名同、「元興寺印(紙背)」「石山寺一切經(墨印)」「松翁」等
奥書　天平十六年歲次甲申三月十五日／讃岐國山田郡舍人國足
(もと巻子本を八糎四行の折本に改め今又現裝に改む　白點を施す　一八三—イ一七三)

瑜伽師地論巻第八十五　寫　一帖　六六八

玄奘(唐)譯　折本　改裝後補朱雲龍文黄表紙　用紙黄斐紙　二四糎八・五糎　天地單邊二〇糎　有界四行十七字　五十八折　題簽中央後筆書名同、「石山寺一切經(墨印)」
奥書　天平十六年歲次甲申三月十五日／讃岐國山田郡舍人國足
(朱白両點を施す　一八三—イ一五)

○

廣弘明集　三十巻　三十冊　六六九

道宣(唐)著　序　袋綴　布目卵色表紙　二八・五糎二一糎　天地單邊二二・五糎　十二行十七字小雙行　題簽左肩後補「(書名同)一(巻二以下無記)」　柱刻「典(亦・聚)　廣弘明集巻一(—三十)(丁數)」、「守道藏書」等
刊語　奉再興　佛説一切經藏／今上皇帝　玉體安穩／東照權現　倍增威光／征夷大將軍左大臣源家光公武運長久／四海泰平　國家豊饒／佛法紹隆　利益無窮／日本武州江戸東叡山／山門三院執行探題前毘沙門堂門跡／大僧正天海願主／寛永十四丁丑曆十二月十七日／林氏幸宿花溪居士　栞行
(天海版　巻三は「徑山寂照庵自刻／廣弘明集第三巻／武林釋大能對長洲徐晉書眞州劉文元刻／萬曆庚戌(ママ)歲仲夏識」と刊語あるものによる補寫　一八四—イ三)

古尊宿語錄・續開古尊宿語要　十八冊　六七〇

唐袋綴　改裝後補茶色表紙　用紙裏打　二二糎一五・五糎　左右雙邊一七・五糎一

一・五糎　有界十二行二十至二字、「本成寺」「灌雪堂圖書記」等

古尊宿語録　（第一至八冊）

渭嶺（宋）著　淳熙戊戌臘月望日序　題簽左肩紅紙墨「正古尊宿録　（所収篇名）」

柱刻白口「（南泉等）（丁数）（刻工名）」

刊語　（總目録條末）已上四策共二十家係贐藏主刊在藏司印行／天字共一十四家地字共一十六家／日字共一十一家内重岐家重出／月字共一十五家／星字共一十五家辰字共一十家／已上六策總八十家係嘉熙戊戌歲續刊在／蒙堂印行逐策各有目録具載／尊宿名字伏幸／衆悉

續開古尊宿語要　（第九至十八冊）

師明（宋）編　戊戌佛成道日自序　嘉熙戊戌臘月佛成道日宗源跋　題簽左肩紅紙墨「續古尊宿語録（所収篇名）」　柱刻白口「古天（—古月）等（丁数）（刻工名）」　耳格（篇名見出）

（宋版　刻工名—才　言　卯　任　貴　祐　丞　槐　詔　付任　付祐　付詔　林文等　闕畫—（第一冊）講（闕かざるもあり）等

古尊宿語録　第一冊　圜悟克勤後題池州南泉普願和尚語要・鄭山野叟居素編投子和尚語録・睦州和尚語録、第二冊　澄諟編趙州眞際禪師語録（巻末に「福州鼓山重刊印行」）、第三冊　汝州南院顒和尚語要・汝州首山念和尚語録（巻末に「新興院比丘尼興覺捨財一十五貫文足敬刊／首山念和尚語録一秩普願見聞發明心地同／證菩提紹興九年端午日題」）・智親重録汝州葉縣廣教省禪師語録、第四冊　潭州神鼎山第一代諱禪師語録（巻末に「福州城居女弟子韓八娘捨錢一十貫刊刻／神鼎禪師語録一編報答恩友同圓種智」）・并州承天嵩禪師語・石門山慈照禪師鳳巖集、第五冊　舒州法華山擧和尚語要（末尾に「鼓山比丘普如捨長財十千刊刻／法華擧道者語録一小編普爲／恩有結增上緣速證菩提同圓／種智紹興九年八月題」）・筠州大愚芝和尚語録、第六冊　齊暁編無為楊傑序無爲居士黄庭堅後題悦禪師初住翠巖語録・同次住法輪語録・同後住雲峯語録・仁勇編皇祐二年仲春既望日湘中苾芻文政序元祐三年立春日無爲子楊傑序眞州楊岐山普通禪院會和尚語録・守端編後住潭州雲蓋山海會寺語録・潭州道吾眞禪師語要、第七冊　元徳重編崇寧四年閏二月十五日開封郭凝序附行状・大隋開山神照禪師語録・元豊六年癸亥歲五月十有二日第三代住持傳法賜紫慧覺序子湖山第一代神力禪師語録・乾徳三年乙丑角黍後五日紹文序紹興戊午三月晦日士珪跋鼓山先興聖國師和尚法堂玄要廣集、第八冊　襄州洞山第二代初禪師語録（末尾に「僧紹雄奉爲　在堂嚴父爰及自身賽還心／願捨錢刊刻洞山禪師語録一編以廣其傳／普使見聞洞明眞際心願圓滿福慧莊嚴」）・辛未歲薙賓月之五日重顯序智門祚禪師語録

續開古尊宿語要天　第一集　二冊　目録に「臨濟二十九世汾陽昭六世瑯琊覺三世慈明圓一十二世翠巖眞六世黄龍南三世死心新五世晦堂心三世泐潭英二世兜率悦三世草堂清四世湛堂準五世靈源清下三世長靈卓三世」とありて、次に施主尊衒を記し「已上共施財刊此乙集流通報資恩有者」とあり、晦堂心和尚語巻末に「三山傳任刊」の木記あり

地　第二集　二冊　目録に「法眼益一世雪門偃一十一世法昌遇五世雪竇顯四世天衣懷四世曹山寂五世投子青八世芙蓉楷六世眞歇了三世宏智覺九世古巖璧八世天章楚一世眞淨文一十四世隱山瑩四世妙湛慧二世金粟智二世」とありて、次に施主尊衒を記し「已上共施財刊（以下前文同）」、曹山和尚語巻末に「三山付任刊」とあり　日　第三集　二冊　目録に「楊岐會四世白雲端一十八世保寧勇一十三世五祖演一十二世南堂興一世佛眼遠七世圜悟勤一十九世開福寧三世佛性泰四世月庵果三世復庵遇三世」とありて、次に施主尊衒を記し「已上（以下前文同）」とありて「傳詔刊」とあり　月　第四集　二冊　目録に「佛心才六世山堂洵九世別峯珍九世雲蓋本六世虎丘隆二世應菴華十八世密菴傑五世松源岳九世曹源生四世鐵鞭紹四世破菴先六世笑菴悟二世無示謙三世心聞賁四世慈航朴二世」とありて、次に施主尊衒を記し「已上共施財（以下前文同）」とあり　星　第五集　合一冊、辰　第六集　合一冊は　第六集下冊末「宗源跋」の次に「三山傳詔刊」とあるによる寫本　一八四—九）

蒙山和尚六道普説　一冊　六七

朝鮮袋綴　押紋黄表紙　二七・五糎一六糎　四周單邊一九糎一三・五糎　六行約十四至十六字　柱刻「（丁数）」、「積翠軒文庫」

刊語　後發／奉／佛弟子法惠　謹發誠心施財書刊／普説造成印施流通見聞隨喜福長災消受持／宣演壽命延長／四恩普報三有齊資法界有情同圓種智／嘉靖四十四年乙丑秋高達山佛會菴開刊／黄海道免山地板致於鶴鳳山石頭寺留置（中略）（以下結願隨喜施主名を掲ぐ）　刊字學僧化士法惠

（朝鮮版　一八四—一）

旅宿問答　寫　一冊　六七

袋綴　薄茶色表紙　用紙鳥の子　二七・五糎二〇・五糎　十行　七十七丁　外題左肩書名同　内題なし

（榊原侯本　江戸時代初期寫　片假名交り　原に「永正四丁卯年十二月八日覺重問佳童語咲／名曰旅宿問答」と奥書あるものの寫　一八四—イ七）

○

〔興福寺衆中集會引付〕　寫　三冊　六七三

袋綴　共表紙　二五・五糎二二糎　外題中央（第二冊）「官符衆徒集會引付」（第三冊）「集中集會引付」

（第一冊表紙闕　第二冊外題右下に本文同筆「天文廿一年壬子正月十七日」左下に同上とありて「沙汰衆圓祐」、第三冊外題右下に本文同筆「元亀四年癸酉正月十七日」左下に同上とありて「沙汰衆圓存」とあり　第一冊は天文七年戊戌正月十七日新坊集會より起筆　一八五—イ一七）

國分寺考　寫　一冊　六七四

香月春岑著　自筆　袋假綴　共包表紙　二七糎二〇糎　十二丁　十行小雙行　外題左肩「國分寺考草稿」、「清野文庫（紙票）」

（朱書頭注書入あり　一八五—イ一五）

正德五年維摩會探題之記　寫　一冊　六七五

尊昭法親王著　自筆　袋假綴　共表紙　二八・五糎二一・五糎　四十七丁　外題自筆中央「（書名同）（左に）專也被補長官無品尊昭親王（花押）」

（正德五年乙未年十一月十日至十二月十四日　一八五—イ一）

大安寺緣起　寫　一冊　六七六

眞賢筆　袋綴　改裝後補澁刷毛目表紙　二四糎一九糎　七行約十五字　八丁　外題左肩後筆書名同、「鴨林藏書」「三井家」等

奥書　于時永正三季正月十九日於高野山明王院／書寫　小比丘眞賢

（外題右肩に「菅相丞作」表紙右に「永正三年正月高野山明王院眞賢書寫」

原に「于時文保元季七月七日亥尅末相州鎌倉子／秋慈恩之律寺押随分之懇志故如形／之書寫　小比丘朗海」と奥書あるものの寫　一八五—イ九）

大和寺集記　寫　一冊　六七七

袋綴　水色行成表紙　二七・五糎二一糎　八行　百一丁　題簽左肩「（書名同）全」　内題なし、「三井家鑒藏」等

（江戸時代中期寫　多く「建久南都御順禮記」・「東大寺要録」・「扶桑略記」等を引く　但し「御順禮記」巻末奥書を「于時建久三年正月日釋子求阿弥陀佛注」とせり　片假名交り　一八五—イ七）

靈安寺御靈大明神略緣起私記　寫　一冊　六七八

祐成著　自筆　袋綴　菊花文金襴表紙　用紙裏打　二七糎二二糎　十行　二十七丁

奥書　長祿二年戊寅七月廿四日於南都東大寺惣持院爲未來／相續諸人流布以法華讀誦之餘暇拭七十有餘之老眼／令書寫之者也法花讀誦七千餘部三密練行五十／餘年也望請御靈四所明神納受顯密之法味令／成就自利ミ他之求願給矣／阿闍梨祐成（春秋七十三　戒臘五十八）

識語　（表紙裏）　此御緣記古本者天正乙亥三春二月十八日／大和國八木鄉淵邊某珍藏ス予乞／得而今出雲寺御靈社ニ永奉納メ／後世神ノ御耀氏子□者也／時于天正八年庚辰八月十八日小原口安□

（片假名交り　本文末に云「右件靈安寺ノ御靈大明神ノ略緣起書寫之志趣者／昔ハ緣起アリケルト聞ケトモ宇智ノ郡ノ動乱ノ時紛失メ今ハナシト云傳ヘタリ（中略）只偏ヘニ御氏／神ノ御由來ヲ信仰ノ人ニ知シメタキ志シ深キ余リニ此一帖ヲ記録スル者也　房号春道實名祐成十六歳ノ時／野原良峯寺ニテ出家卅七歳ニ成ル應永廿九年壬寅ノ年マテ／ハ良峯寺ニ住セリ其間ニ高野山ノ交衆ヲ兼帯メ卅七ノ年／ヨリ見佛聞法ノタメ東大寺ニ移住シテ今此ノ略緣起ヲ記／録ス長祿二年戊寅ノ年ニ至ルマテ又卅七年東大寺ニ寺住セリ／然間當年七十三歳ナリ」とあり　一八五—五）

○

御八講中御進物帳　寫　一冊　六七九

袋綴　共表紙　三一・五糎二四・五糎　十六丁　外題中央書名同

（書名の左右に「寛文拾弐年／壬子十二月四日」とあり　一八六―イ一五）

授菩薩戒儀　寫　一軸　六八〇

巻子本　改装後補茶色繡表紙　原装共表紙　後補表紙見返金紙　用紙裏打　二七・五糎四米九五糎　一紙五九糎　二十三行十四字　原外題左肩「菩薩戒儀則」

奥書　天暦二年十月三日／戊寅書寫了

識語　西大寺□房書也

（外題の下に増□とあり、或は増賀かといふ　紙背に平安時代寫「無畏三藏受戒懺悔文及禪門要法」一巻あり　全巻朱點を施す　書苑九巻四號所収大口鯛二「増賀上人筆授菩薩戒儀」―参照　一八六―イ二七）（重美）

貞享三年御八講宸記　寫　一冊　六八一

靈元天皇御撰　眞敬親王筆　袋假綴　共表紙　二九・五糎二一・五糎　十行　六十八丁　外題中央書名同　内題なし、「水谷川家圖書記」

奥書　右一冊蒙　勅許蜜(ママ)拝寫之萬世亀鏡門室／光輝者乎／二品眞敬親王

（外題右に「後光明院卅三回御忌於　禁中被修之」、左下に「二品眞敬親王」と自署　一八六―イ七）

震筆御八講之記　寫　一冊　六八二

靈元天皇御撰　眞敬親王筆　袋假綴　共表紙　三〇糎二三糎　七丁白紙六丁（表紙共）　外表紙中央「震筆御八講」内表紙中央書名同、「水谷川家圖書記」

（内表紙書名右に「貞享三丙寅年九月十八日／後光明院三十三年御忌於清涼殿／被行之開闢十八日五ヶ日之御講也」、左に「一座證義二品眞敬親王」と自署　一八六―イ三）

第二相國寺御八講記錄　寫　一冊　六八三

〔眞敬親王〕筆　袋假綴　共表紙　三〇糎二三糎　五十五丁（表紙共）　外題中央書名同

（書名の左右に「改元應永明徳五甲戌　御筆御講應永二乙亥　同三丙子／同四丁丑　同五戊寅　同六己卯不被修之／同七庚辰　同八辛巳　同九壬午／同十癸未　同十一甲申　同十二乙酉（以上右）　同十三丙戌　同十四丁亥　同十五戊子／同十六己丑　同十七庚寅　同十八辛卯／同十九壬辰　同廿癸巳　御筆御講甲同廿一午／大法師光暁（以上左）」とありて「二品（花押）親王」と自署す　一八六―イ三）

等持寺御八講聽聞集附安樂光院公家御願　寫　一冊　六八四

〔眞敬親王〕筆　袋假綴　共表紙　三〇糎二二・五糎　八十三丁　外題中央書名同

（書名の左右に「文安六年己巳　四月廿五日筆持院百年忌被修之　宝徳二庚午　同三辛未／同四壬申　享徳二癸酉　同三甲戌　同四乙亥／庚正二丙子　同三丁丑　長祿二戊寅　同三己卯不參　同四庚辰不參（以上右）寛正二辛巳　同三壬午　同四癸未　／同五甲申　同六乙酉　文正元年丙戌（以上左）」　左下に「東院大法師兼円」とありて「二品（花押）親王」と自署す　原に「寛正三年以來五ヶ年分以東北院之／聽聞集書寫訖／文明十二年三月八日／僧正兼圓　五十四」と奥書あるものの寫　一八六―イ九）

南海寄歸內法傳　寫　二軸　闕　六八五

義淨（唐）著　巻子本　改装後補（巻一）栗皮色表紙　（巻二）牡丹唐草文茶色金襴表紙　見返金銀切箔散　用紙麻染紙　裏打（巻一）二六・五糎二七米二七糎（巻二）二六・五糎二四米二五糎　一紙五五・五糎　天地單邊二二糎　有界二十六行十七字小雙行　（巻一）外題後筆「（書名同）巻第一　首并中闕」　内題なし　（巻二）題簽後補金泥下畫「（書名同）巻第二　奈良朝經而恐是石山寺一切經中一巻」、「知足菴」「滿」

識語　（巻一）僧成禪之本

（巻二）別紙張繼）　明治廿六年夏日江州石山寺法輪院主／之所贈巻首有知足菴印是同寺／中古好古之師也云／随心院門跡智滿誌（印）　／此巻蓋亦同寺一切經中之零巻也已

（奈良時代寫　巻一・二を存す　巻一は巻初及び巻中一部を闕く　巻二巻末闕朱墨諸點あり　もと巻子本を八・五糎四行の折本に改め今又現裝に改む　「大正新修大藏經」第五十四巻、島根大學論集第五號所収大坪併治「南海寄歸內法傳の訓点」、ビブリア第七號所収築島裕・小林芳規「南海寄歸內法傳の訓点」―参照　一八六―三）（國寶）

日光山修善雜記下　寫　一冊　六六六

袋假綴　共表紙　三〇糎二三糎　九行　五十五丁（表紙共）　彩色帯圖　外題中央書名同

識語　右此修善雜記三帖者雖非吾家之／記録　宮中八講之古記書寫之／次以東園黄門之本令他筆書／寫畢／貞享三丙寅年九月日二品（花押）親王

（表紙右肩に「三帖の内」とあり　奥に「此修善雜記三巻者往年於日光山被修勅會之日録也依毘門主懇望各〳〵加管見補遺漏令校訂了尚有魚魯之誤歟／慶安二年秋九月日　左中将藤原朝臣爲景／主水正清原朝臣賢忠」「東照宮大權現祀祭當其期撰碩徳台宗智／行神僧兼備者勤修中略圖之形纂之詞爲三巻名曰修善雜記搢紳／之士加整勘中略毘沙門堂景／仰之餘請使愚謄寫愚本揩法不雄逸雖固／辞誣而不止故　書以巻還焉／慶安屠維赤奮若無射如意珠日／入木末葉天台座主二品親主良尚」とあるものゝ寫　一八六―イ一七）

佛制比丘六物圖　一冊　六六七

元照（宋）著　袋綴　改裝後補栗皮色表紙　用紙裏打　二八糎二一・五糎　七行十七字小雙行　三十一丁　挿畫七頁分　外題左肩金泥「六物圖」　柱刻「（丁數）」、「三井家雙鹿閣」等

刊記　此圖印板稍欲湮没仍爲弘通重命工／壽良梓夫以本覺理性雖昧靈鑑於群／凡嚴制威儀要耀餘光於末運庶受遺／寄永垂無窮　弟子了琢謹誌／板在南禪眞乗院（室町時代刊　内題次行に「大宋元豊三年夏首餘杭沙門元照於天宮院出」とあり　全巻餘白に室町時代末期筆書入あり　又袋綴の柱を割開して紙背にも同筆にて細注を施す　巻末に「大宋靈芝律師力扶毘尼大部之外更有此圖之作文簡義豊免披廣文之勞／矣吾不可弃法師不遠万里入宋服其遺風皈朝豈忘流通常以斯文授人故／呸有如法衣鉢而行者道玄幸稟末派輙思弘宣捨長財募同袍命工開板即／施泉涌律肆永傳永代聊助僧宗少報祖徳耳／旹寛元四年十月初一日　寓泉涌小比丘道玄謹題」とある泉涌寺版の刊記を移寫　一八六―イ九）

分物古帳　寫　一冊　六六八

静祐筆　袋綴　改裝後補厚紙表紙　原裝共表紙　用紙裏打　一七糎一三糎　八行十八丁　外題左肩書名同　原外題「（書名同）一巻」　内題なし、「海龍王寺」

（南北朝時代寫　原外題の左下に「静祐」、右下に「榮任之」、外題右下に「海龍王寺高秀」とあり　本文中に「貞治二年癸卯十月四日以寥源芯蒭之本書寫了」「貞治二年癸卯十一月十五日／一交早」「貞治四年乙巳潤九月四日記之了」等とある西大寺第四當寺長老然公大徳以下遺物分物帳の寫　一八六―イ二九）

兩界讃・鑵中音　寫　二帖　六六九

周興筆　折本　茶色地金銀野毛箔散表紙　見返金銀切箔散　一六糎一三糎　四行十七字（兩面に記す）　外題中央「兩界讃」「鑵中音」内題なし、「大寺（墨壺印）」

奥書　（兩界讃）永正十稔戊酉青陽上旬依圓海上人御／懇望貽菟毛万齡曆得希聲得脱而已／法勝前住三部都法阿闍梨位周興／記之

（鑵中音）永正十載戊酉正月廿八日以上件證本遂書／博士懇勞貽声塵得愚懐而已法勝前住沙門老比丘周興記之

識語　（見返）圓海

（原に兩界讃「本ニ于時延文第四祀己亥沽洗於花洛北邊／以先師自筆秘本付博士早即數返／挍合了　大原山芯蒭無障金剛声淵記之」、鑵中音「本云延文庚子夾鐘上旬於大原山來迎院／南坊及鷄鳴附博士了是偏為弘通仏事／利生方便而已／無障金剛聲淵記之」と奥書あるものの寫　朱墨にて節博士を附す　一八六―イ二五）

○

乃里のしを利　寫　一冊　六七〇

凉仙著　自筆　嘉永七年十月廿五日自序　袋綴　改裝後補澁引布目表紙　原裝共表紙　二二糎一六糎　四周單邊一七・五糎一三糎　十行代赭色罫紙　二十九丁

題簽原表紙左肩雙邊書名同　序題「法の枝折」、「盡志樓藏本」

奥書　嘉永七年寅の霜月三日筆を拭ふ／八十六歳父凉仙／榮壽院尼の御方（一八七―イ三）

○

釋門自鏡錄　二卷　一冊　六九一

懷信(唐)著　自序　袋綴　紺表紙　二七・五糎一九糎　四周單邊二二・五糎一五糎　十行二十字小雙行　七十五丁　題簽左肩雙邊(刊)後補書名同　柱刻白口「自鏡序(上・下)(丁數)」、「隨緣子」等

刊記　于時元和七年辛酉三月日　於江戸梓行

(古活字版　一八一―一二)

聖財集　寫　三卷　三冊　六九二

無住著　永仁七年己亥孟夏下旬自跋　袋綴　茶色表紙　二二・五糎一七・五糎　八行

外題中央後筆「(書名同)上(―下)」

奥書　(中卷)右此抄尾張國奇崎(キサキノ)一圓上人作云々／道号無住房号(ハ)一円房實名道暁云々／八宗兼學明師顯密禪之達者云々／天文十八稔己酉林鐘下旬以他筆／遂寫功／北嶺陰士玄澄

(下卷)天文十八稔己酉夷則上旬求得之／北嶺陰士玄澄

識語　(各卷內題下)尖山玄海藏

(上卷尾題下)主長慶祐

(中卷尾題の次に「雖爲悪筆□墨引候御覽方者／廻向奉憑□／筆者秀海」とありてこれを見せ消ちにす　下卷跋の次に「嘉元三年乙巳後十二月十三日加一見改正ス初心人／手跡雖直文字謬多欤以此本爲清書病中／散ニ點之直早沙門無住八十歲先年閑居／山里詠之」とありて以下和歌三十五首三丁を収め、次に「傳聞彼無住和尚初在三井(ミテ)一窮二顯密源／底次在聖一座下(ニ)傳如來心印(ヲ)後依熱(ニ)田神勅(ニ)住尾(ヲハリ)(マヽ)張(ノ)國廣化(クワ)三万機(ヲ)隨レ機説(キ)レ法如三月浮三万水(ニ)云々彼師一期化導并製／作文書其本意專在宗鏡録云々其中此集／顯密禪教聖道淨土無二偏執一而爲二破邪／顯正最要事理兼備軌範當時相應知／識經卷不可過之雖然依レ被レ載二諸宗深／義于今不流布一秘藏尤可也努々　爰某住(ニ)無／二大井心一密爲レ勸二一向專求無上井人一／以他筆一遂寫不可処(ス)聊爾(ニ)矣一功ニ之処展轉書寫誤多／之間後見頗雖レ有(ト)憚新寫本愚見所／及散ニ點按畢又初ニ依無二物別之題如(キ)予／初心之輩輒(ノリヲ)難得其便一仍聊爲二令(ニ)見／易一物別之題私注レ之者也用否可有人／意ニ而已／大永三年四月八日　山門帝尺寺老比丘存海記之」とあり　一八一―一九)

內典塵露章　寫　一冊　六九三

凝然著　榮善筆　袋綴　改裝後補澁引表紙　原裝共表紙　二六・五糎一八糎　十一行約二十一字　三十五丁　外題左肩「塵露集」　原外題左肩「塵露集(右傍に)又題內典塵露草」、「三井家鑒藏」等

識語　攝州於月峯寺書之早是偏修學增進之志有故／乍悪筆書ニ之早後見之旁者可預五字一反御廻向一者也／二月三日始之同十七日書早也高野山西南院之住侶／榮善法師目／天文八年　貳月十七日

(原表紙)西南院內／求法圓俊／求法榮識

(外表紙見返)嘉永二年八月廿九日從正智院道猷阿闍梨／依重本賜之即日加修補了　亮瑞筆

(外題右下に「東大寺凝然作」、前表紙右下に「亮瑞」と墨書　一八一―五)

維摩會表白　寫　一軸　六九四

良信著　卷子本　改裝後補薄水色表紙　用紙裏打　三一・五糎四米五〇糎　一紙四五糎二十二行　題簽雲紙後筆書名同

識語　後發心院之御本也／在兼卿讀進之

(室町時代末期寫　原に「嘉元ニ年癸卯十月十日維摩會講師權少僧都法眼和尚位良信法相宗專(ママ)寺」と奥書あるものの寫　紙背に聽雪軒宛書狀等あり　一八一―七)

○

行基菩薩御遺骨出現記　寫　一冊　六九五

杲寶著　自筆　綴葉裝　共表紙　一五・五糎一五糎　押界一一糎一三糎　七行十二字　四丁　外題左肩書名同　內題「大和國生馬山有里村行基菩薩御遺骨出現事」

奥書　正平七季潤二月十一日於／生馬山大聖竹林寺彼寺緣／起取要抄書之數日之間／居住當寺是併宿緣之／令然之故敷仰信尤深値／遇不淺菩薩加被速成徽願矣／權少僧都杲寶

識語　延享四丁卯歲七月初八修復了予／先年大和國巡行之砌詣竹林寺／拜古寺切想像古師之消息了／賢賀住世六十四

（表紙右下に「杲寶」と自署　ビブリア第十六號所収堀池春峰「行基菩薩御遺骨出現記について」—参照　一八・一—イ二）

〔正倉院寶物圖〕　寫　一冊　六九八

袋綴　改装後補澁刷毛目表紙　用紙裏打　二八・五糎二〇・五糎　二十九丁、「朝田家藏書」「岸本家藏書」「中山氏藏書之記」

（江戸時代末期寫　黄熟香以下正倉院御物彩色圖　巻末に慶長七年六月十一日以降元祿六年五月十六日に及ぶ「近代御開符年譜」を記す　一八・一—一五）

東大寺御物寫　寫　二軸　六九七

岡不崩筆　巻子本　櫻花模様薄紫色表紙　二六・五糎　一紙三九糎　題簽「（書名同）二巻之内上（下）」、「遠加文庫」「岡氏」「清野文庫（紙票）」

奥書　（上巻）右ハ東大寺正倉院御物之寫壱巻ノ明治庚寅十一月於帝國博物館寫ノ畢亭岡蒼石（花押）

辛卯八月二日仝三日御宝庫拝観するを得ノ御物に依て正誤ノ　九月廿六日不崩（花押）

識語　（朱書）又古典草木考（大岡山書店出版）不崩氏著アリノ萬葉草木考著者故岡不崩氏自画自筆ナリ、岡氏ハ画家トシテノモ著名ナリ、日本考古學人類学史著述材料トシテ購求ス、上下二巻ノナリ昭和十七年八月十七日　清野謙次

（彩色精寫　一八・一—イ七）

東大寺正倉成巻文書　寫　五冊　六八八

穂井田忠友編　荻原嚴雄筆　袋綴　毘沙門格子摺出黄表紙　二七糎一九糎　外題左肩「（書名同）一（—紙背飜用五）」　扉題（第二至四冊）「（書名同）（自第九至第廿六（—自第卅五至第卅五）」

（第五冊）「東大寺正倉成巻之餘（存舊製者五軸紙背飜用雜書）」（第一冊なし）

奥書　この東大寺古文書五まきは小杉氏のもたるをノかりいてゝいとまあるをり〳〵筆をとりてつひにうつしノをへぬときは明治十四年六月十九日ノ荻原嚴雄

識語　（第一冊見返紙裏）　明治十六年十二月一ノ日荻子持參予ニ贈ノ與ス

（原に「右東大寺正倉古文書卅五巻及紙背翻用雜書ノ七十六條都五冊就彰考館本寫了ノ文久紀元辛酉夏五月十八日　栗田寛識」『東大寺古文書五冊就栗田寛藏本謄寫了蓋ノ雖傳寫渉二三度字體位置猶力而存舊者也ノ明治七年九月十日識於教部省中官舍東軒之下ノ小杉榲邨」朱書「同年九月廿五日ハカリ埋麝發香ニ摹出スル所ノ印影若干ヲ附録シヲヘヌ　榲邨又識」と奥書あるものの寫　第一冊内題に「天保七年四月成巻東大寺正倉古文書」とあり　同冊扉見返に朱書「天保四癸巳年十月十八日時辰御開封ノ同七丙申年六月廿日時巳御閉封中略ノ成巻撰者　穂井田標助大江忠友ノ御修復ノ天保七年三月十五日於四聖坊事始ノ同十八日成就ノ件古書四拾五軸爲曝涼自由可被納ノ社頭寶庫之旨ノ別當宮依仰誌焉ノ　右古文書収藏スル所ノ唐櫃蓋裏ニ貼付スル一紙ノ文ナリ」とあり　一八・一—イ三）

法隆寺寶物考證　寫　一冊　六九九

栗原信充著　今泉雄作筆　袋綴　砥粉色表紙　二七糎一九・五糎　八行　九十五丁　外題中央「法隆寺寶物圖繪并考證（合寫壱巻）」、「旡凝菴」「清野文庫（紙票）」

奥書　明治十九年（閏月丙戌）二月以東京圖書館本ノ令寫了　今泉雄作（印）

（朱）二月廿一日　一校了

（巻初に法隆寺編「御寶物圖繪（南都法隆寺）」とある版本十九丁合綴　一八・一—イ九）

○

華嚴一乘教分記　三巻　三帖　七〇〇

法藏（唐）著　折本　砥粉色表紙　二七糎一三・五糎　七行二十字　外題左肩墨「華嚴五教章巻上（—下）」　内題（下巻）「華嚴經中一乘五教分齊義巻下」

刊語　夫法界宏高圓宗玄邈僅預法席剰企弘通ノ仍勧有縁諸人遂開一部模板庶幾遐方終古ノ流演傳布而已ノ弘安六年（癸未）九月八日　沙門禪尓謹誌

識語　与傳良盛

（春日版　表紙右下に外題に同筆「□□院澄恵」とあり　一八・二—イ九）

華嚴十重唯識瑞鑑記巻第七　寫　一軸　七〇一

凝然著　自筆　巻子本　後補白表紙　三〇糎七米七一糎　一紙四九糎　一二十行約十七字小雙行　外題後筆「十重唯識瑞鑑記第七□」

奥書　于時正應五年（壬辰）七月十八日於東大寺ノ戒壇院述之花嚴宗沙門凝然（春秋五十三）ノ予

稟性愚鈍識解不敏謬事述作招／謗賢哲十重唯識粗有所練三作解／釋各顯義理廣記七卷備書旨歸／中容二卷事在精要略章一卷義／招大宗三部並存通成十卷後二蒙／他所命乃備彼之高覽功業不虛／要成十身而已于時將此三部十軸／記章付屬法子沙門禪尒ニ識性敏／貞學解有功華嚴智解從予之中／心而生講敷不倦弘通有功廣管學／侶數生智人宗家教章創開印板淨源／修儀大興行業隨喜深感歎非一／仍與上件十軸書籍奴力力勿忘傳／燈之志正應五年歲次壬辰冬十一月／三日沙門凝然於東大寺戒壇院記之

識語　（見返）十巻之内

（紙背消息文　一八・二―イ二）

大方廣佛花嚴經隨疏演義鈔　二帖　闕　七三

澄觀（唐）著　折本　改裝水色包表紙　裏打　二七糎一四・五糎　天地單邊二三糎　八行二十字　題簽左肩後筆（巻三上）「華嚴隨疏演義鈔第三上」、「聖地」

刊記　（巻二上）右爲令法久住利益衆生所令開板也／正慶元年壬申五月廿日　庸豎法橋理覺

識語　（巻二上表紙）（朱）　元來／正慶元年刊／至文化十年垂四百年餘／古板可貴者也

（各巻末）依破損爲佛法興隆加修還早／元祿六年癸酉六月日　法印英秀

（各表紙）惣持院（別筆）玄雅

（巻二上・三上を存す　行間に「鈔二上一（―十九）」、「花嚴抄三上一（―三十一）」なる原版柱刻を存す　朱點を施す　一八・二―イ七）

○

天台法華宗牛頭法門要纂・修禪寺相傳私注　一冊　七四

最澄著　袋綴　改裝後補辨柄色表紙　二八・五糎一九糎　四周單邊二二・五糎一五糎　十行二十字小雙行　六十二丁　柱刻白口「牛頭決　一（―十三）」「修禪寺一（―四十九）」、「しんまちみつ井け」

刊記　于時元和五己未曆　望冬上旬吉日

識語　洛陽沙門如舜日濬（印）／元和第六天肇夏中五於甲陽延山久遠／蘭若西谷菁學ミ舍得之

（古活字版　一八・三―イ一）

○

高野山勸發信心集　寫　一冊　七四

信堅著　袋綴　改裝後補亀甲龍文水色行成表紙　二七・五糎二〇糎　八行　二十一丁　題簽中央後筆書名同、「神田醇號香巖」「香巖珍藏」

識語　（裏見返附箋）高野山勸發信心集永仁二年大樂院信堅著見諸宗章疏錄／此冊雖無年月審書迹紙質則爲足利時代抄本無疑距／原本不甚遠也今照巻首目録闕佚巻尾高野山御幸事／一條歷年之久或脫失耶誠可惜也　香嵓居士記

（室町時代中期寫　原に「御本云／永仁第二曆孟春三月天於高野山大樂院抄記之自他／同殖善種於發光地之底親疏等結菓實於龍花／樹之梢矣／大樂院住信堅云云」巻末「大師畧頌」とありて次に「或本云仁和寺塔本自證房阿闍□」とあるものの寫　一八・四―イ三）

高野山秘記　寫　一冊　七五

眞惠筆　蝴蝶裝　共表紙　二二糎一五・五糎　四周單邊一九・五糎一二糎　押界八行小雙行　四十丁（表紙共）　外題左肩書名同

奥書　明德四年癸酉卯月一日雲邊寺書寫之／金剛佛子眞惠

（外題下に「眞惠」とあり　原に「寫本云建長五年癸丑二月十五日辰時書畢／金剛佛子乘慶生年五十一」「寫本云于時康永四年乙酉十月十一日於濃州郡戸莊内／今尾福林寺書寫之畢不虛之相傳言詞難／覃者哉／金剛佛子壽惟」「于時貞和五年五月廿七日於尾州中嶋郡大須莊河／東西方鄉眞福寺書寫畢不虛之外相傳□極／□事也穴賢可秘ミヽ」「□延文二年丁酉六月廿六日於尾州眞福寺宝□／□所令書寫早／金剛佛子良信」と奥書あるものの寫　一八・四―イ三）

高野大師行狀圖畫　十巻　十冊　七六

袋綴　紺表紙　二八・五糎二〇糎　天地單邊二三・五糎　十行約二十四字　挿畫

（巻一）二十五頁分　（巻二）二十六頁分　（巻三）二十八頁分　（巻四）十七頁分

（巻五）二十一頁分　（巻六）二十頁分　（巻七）二十五頁分　（巻八）十六頁分
（巻九）十六頁分　（巻十）三十頁分　題簽左肩雙邊「行狀起卷一（―十）」　柱刻「一（―十）巻（丁數）」、「神田家藏」
識語　（表紙右下白墨書）法明院　勢音
（巻一表紙附箋）弘法大師行狀圖繪　十巻／紀刕高野山地藏院什物／画　越前守行光／詞　後深心院關白道嗣公／文祿壬辰季冬沙門興山開版
（巻六見返）沙門覺隆
（江戸時代初期刊　片假名交り　一八八・四―二五）

釋迦如來念誦之次第　寫　一冊　七七

蝴蝶裝　共表紙　用紙斐紙　一六・五糎一四・五糎　十二行　三十三丁　内題「シヤカニヨライネムシユノシタイ」、「方便智院」
（鎌倉時代中期寫　片假名交り　朱墨諸點を施す　表紙中央に墨「東第二」、右上に朱「東第二箱」、中央下に朱「方便智院」、左上に墨「木上」とあり　一八八・四―二九）

轉法輪法次第　寫　一軸　七八

卷子本　表紙闕　用紙烏の子　二六・五糎六米三五糎　一紙五九糎　天地單邊二一・五糎　有界二十三行　約十七字小雙行
奥書　一交了
識語　（卷初裏）秘抄第十二ニ付
（室町時代初期寫　朱墨交筆　一八八・四―三七）

東寺拜堂記　寫　一軸　七九

寬信著　定眞筆　卷子本　改裝後補紫紺表紙　見返青紙　用紙裏打　三〇・五糎二米三〇糎　題簽後筆「權少僧都寬信東寺拜堂記（右肩に）康治元年十一月十五日（左に）承久元年八月廿一日僧定眞所書」内題「權少僧都寬信東寺拜堂記」、「方便智院」
奥書　承久元年八月廿一日以法務御／房御自筆草本書之定眞（定眞ノ事也）
識語　（見返に江戸時代末期筆貼紙）方便智院開基空達上人御筆／康治元年寬信法務記之／東寺拜堂記　比交了
（巻首に別紙〔寬信〕筆「東寺拜堂記」殘卷一紙を貼附　一八八・四―二七）

秘密宗教相鈔　寫　十卷　十冊　七〇

蓮慶筆　蝴蝶裝　共表紙　用紙斐紙　二五・五糎一五糎　四周單邊二三糎一二・五糎　押界七行二十六字小雙行　外題（第一冊）「教相鈔」　内題（第一冊）書名同（第二冊）以下「秘宗教相抄（鈔）」　尾題同上
奥書　（巻一）建仁二年壬戌正月廿四日　書寫了　蓮慶之
（巻二）同正月廿ノ八日
（巻三）建仁二年壬戌二月三日　於永久寺書寫了／蓮慶之
（巻四）同二月八日
（巻五）同正月十六日
（巻六）同正月廿日
（巻七）建仁二年壬戌正月六日　書寫了　爲自他法界也／蓮慶之
（巻八）同正月九日
識語　（第一冊表紙）宝龜院／尊意／宥仟
（巻十末數丁闕　略々同時代筆諸點を施す　一八八・四―三）

秘密漫荼羅教付法傳　二卷　二冊　七一

空海著　蝴蝶裝　赤朽葉色表紙　二五糎一六糎　七行十七字小雙行　外題墨「付法傳卷上（下）」　綴目「付法傳（丁數）」、「北勢石上寺常住（墨印）」
刊記　於高野山　春識開板
（高野版　一八八・四―三）

不空羂索抄　寫　二卷　二軸　七三

卷子本　改裝後補紫紺表紙　原裝共表紙　見返青紙　二九糎　一紙五三糎　天地單邊二五糎　有界三十二行約二十三字小雙行　題簽後補「（書名同）上（下）卷附圖像（紙背帝息）」　原外題「（書名同）上（下）」　挿畫（上卷）圖像一個、「方便智院」
（室町時代初期寫　原外題右に朱書「東十一箱」とあり　下卷紙背文書に「高雄聖人御房宛」等書翰あり　原に「寫本云以法務御坊御自筆草案本書了云ゝ此本者

第四傳之書寫也」「建久十年正月八日於神護寺書了／定真之本」と奥書あるもの
の寫　一八八・四―イ二九）

明惠上人傳　寫　二軸　七三

喜海著　〔北向雲竹〕筆　巻子本　金泥下畫水色表紙　見返金銀切箔散　紙背雲母
引　二八糎　一紙三七糎　外題「栂尾明惠上人傳上(下)」　内題なし、「西莊文庫
（小津桂窓筆「花弐百十一全三」と墨書せる紙箋に捺印）」
箱書　（小津桂窓筆）栂尾明惠上人傳　雲竹書
（一八八・四―イ二五）

臨終之次第　寫　一冊　七四

實相坊筆　袋假綴　共表紙　用紙裏打　二五糎一五・五糎　四行　十四丁（表紙
共）　外題左肩「次第」
奥書　元亀三年七月中旬／主實相坊
（外題下に「實相坊」とあり　一八八・四―イ）

○

永源寂室和尚語錄　二卷　二冊　七五

永源寂室著　性均編　袋綴　改裝後補栗皮色表紙　二三・五糎一六・五糎　左右雙
邊一八糎一一・五糎　有界十行二十字　外題左肩墨「寂室録」　柱刻白口（下象
鼻黒口）「寂上(下)（丁數）」、「日夏千手寺（墨印）」「江風山月莊」「青谿書屋」等
刊語　寂室和尚南遊之後晦跡岩谷與世廢如謝遺人／事絶筆久之晩年因衲子懇請迫
不獲已往ミ一／言半句流落江湖或爭暗誦或私傳寫烏焉之誤／蓋不亦少恐其遺失
據本印行不敢加損望無差／誤皆永和丁巳冬節之前三日釋沙門性均謹白
識語　湖東之千手寺
江州日夏千手寺／什物
（五山版　一八八・七―イ四一）

偃溪廣聞禪師語錄　一冊　七六

偃溪廣聞(宋)語　如珠(宋)等編　開慶改元結夏日尤焴跋　袋綴　改裝後補毘沙門
格子摺出文縹色表紙　用紙裏打　二五糎一八糎　原寸二二糎一五糎　左右雙邊一
八・五糎一一・五糎　有界十一行二十字　五十四丁　題簽左肩墨「偃溪録」　柱刻
白口「香(雪・淨・南等)（丁數）」
（五山版　如珠編住慶元府香山智度禪寺語録、師曇編慶元府應夢名山雪竇資聖禪
寺語録、如珠編佛智禪師初住慶元府顯應山淨慈禪寺語録、元清・淨志編住臨安府
淨慈報恩光孝禪寺語録、光從・道鑑編慶元府萬壽禪寺語録、普暉・元偉編住景德
靈隱禪寺語録、復森編慶元府阿育王山廣利禪寺語録を収む　一八八・七―イ九七）

應庵和尚語錄　四冊　七七

守詮(宋)等編　錢端禮序　乾道丙戌正月吉旦守詮跋　袋綴　改裝後補元祿縞菊花
文摺出文丹表紙　二二・五糎一五糎　四周單邊一七・五糎一一糎　有界十一行二十
字　題簽左肩雙邊(刊)後筆「(書名同)來(一―四)」　序題書名同　柱刻白口「(篇
名)（丁數）」、「元和江氏靈鷲閣所藏書籍記」「愚齋審定善本」等
刊記　應安庚戌佛生日天龍東堂比丘妙葩命工雕之
識語　（第一冊表紙）是書卷末有應安庚戌命雕一行應安當中國明洪武／三年乃日本
明初繙乾道本也光緒五月六日與僧／元刻僧寶傳同得於廠肆建椒手記
（五山版　第一冊　守詮等編初住處州妙嚴禪院應庵和尚語録、衢州桐山明果禪院
語録、蘄州德章安國禪院語録、饒州報恩光孝禪寺語録、壬申六月旦日嚴康朝序守
詮等編饒州東湖薦福禪院語録、守詮等編饒州莞山寶應禪院語録、中詮等編盧山歸
宗禪寺語録、第二冊　守詮等編婺州寶林禪寺語録、同編婺州報恩光孝禪寺語録、
同編再住歸宗禪寺語録、江洲東林太平興龍禪寺語録、建康府府山太平興國禪寺語
録、平江府報恩光孝禪寺語録、中詮等編明州天童山景德禪寺語録、第三冊　守詮
等編應庵和尚小參、頌古、偈頌、第四冊　法語、李侍郎祭文、松源和尚普説を収
む　第四冊第六十六丁補寫　一八八・七―イ三五）

横川行珙禪師語錄　一冊　七八

横川行珙(宋)語　木光(宋)等編　戊子冬無佐道人跋　唐袋綴　改裝後補黒表紙
用紙裏打　二二・五糎一四・五糎　左右雙邊一八糎一二糎　有界十二行二十一字
九十丁　柱刻黒口「川(附川)（丁數）」、「西莊文庫（小津桂窓筆「月八十五全二」

と墨書せる紙箋に捺印)」「桂窗」

刊語　(頌古條末)皇元至正十九年歳在己亥十月十二日辛未守塔／天台比丘祖杲謹焚香拜書一力重新栞板所冀／慧命流通法音廣被者／奉川胡泰之僧景先等刊

(巻末)皇元至正十九年臘月十九日天台比丘祖杲編次鋟／板晋　法界善友法喜禅悦之供者也

(元版　本光等編横川和尚語録、鴈山能仁禅寺語録、明州阿育王山廣利禅寺語録、横川和尚室中擧古三十四則、拈古四十八則、頌古四十四則、讃、頌、圓至讌阿育王山廣利禅寺横川珙禅師行業記、温州鴈蕩山靈峯禅寺東石契和尚語録、浄光禪寺語録、讃偈を収む　行業記巻末に「阿育王山廣利禅寺當代住持比丘　了達助緣／太白山天童景徳禅寺住持遠孫比丘　元良勸緣」、巻末に「太白山天童景徳禅寺住持比丘元良助緣」、跋文末條に「板留玉几噴香堂」とあり　一八八・七―一二七)

横川行珙禪師語錄　二巻　合一冊　七二九

横川行珙(宋)語　木光(宋)等編　戊子冬無佐道人序　袋綴　改装後補茶色表紙　天地裁斷　二二糎一四・五糎　左右雙邊一七・五糎一一・五糎　有界十二行二十字　七十七丁　外題左肩「横川録」　柱刻白口「横川(丁數)(下巻は丁附上に「下」の文字を附す)」、「黄龍窟」「洒竹文庫」「積翠軒文庫」等

(五山版　木光等編横川和尚語録、鴈山能仁禅師語録、明州阿育王山廣利禅師語録、室中擧古三十四則、頌古四十四則、讃、頌を収む　一八八・七―一六九)

嘉泰普燈錄　三十巻　十五冊　七三〇

雷庵正受(宋)著　嘉定辛未歳元日黄汝霖雷庵受禅師行業　正受進聖宋嘉泰普燈録上皇帝書　嘉泰四年三月乙酉陸游跋　袋綴　改装後補代赭色表紙　二七糎一八糎　左右雙邊二〇糎一四糎　有界十行二十字小雙行　題簽左肩縹色紙後筆「普燈録(巻數)」　柱刻白口「普燈録一(―三十)(丁數)」、「積翠軒文庫」等

識語　(巻三十)余曽掛錫於靈松司侍於焼香偶會堂頭東峯和尚之講此録以畧寫其点者也就中差謬不爲少／實是烏焉成馬哉時暦應四年辛未閏四月十五日午尅自得手遜菴僧欽書之(花押)

(五山版　巻廿五・廿六の一冊分は「万休」等筆補寫　後補奥に「万休老此一巻書續也」との識語あり　一八八・七―三九)

鏡堂和尚語錄　三巻　三冊　七三一

鏡堂(宋)語　守端(宋)等編　唐袋綴　改装後補朱色表紙　用紙裏打　二五糎一六糎　左右雙邊一九糎一二糎　有界十行二十字　題簽左肩後筆書名同　柱刻黒口「堂語(又は鏡堂)(丁數)」、「善慧軒(朱墨兩印)」「洒竹文庫」

刊記　(中巻第卅一丁表)長汀胡庭鋟刊

(下巻末)鄞縣寶慶寺住持參學比丘　□心　施財鋟梓流通

識語　(上巻末補紙)(朱書)明應五丙辰三月初六　於怡雲南軒下句点了　守愕　暮齢五十三

(元版　第一冊　守端等編鏡堂和尚初住杭州大覺正等禅寺語録、志度祖華編鏡堂和尚次住台州浮山鴻福禅寺語録、第二冊　元吉福濟編鏡堂和尚次住嘉興天寧禅寺語録、賛、第三冊　戊寅冬良月望日東海葬前妙道題、至正丁未良月既望天童比丘唯一序、玉堂散客剛中陳孚序、次いで本文「擬寒山」、大徳癸卯冬寒巌由海跋、雲外菴浄圭跋、至大戊申秋仲清茂觀跋、至大三年九月初八日南屏山人元熙跋、元統甲戌良月吉辰空明道者趙孟貫跋を収む　一八八・七―二九)

虚堂和尚語錄　三巻續輯一巻　七冊　七三二

虚堂智愚(宋)語　妙源(宋)等編　袋綴　改装後補栗皮色表紙　用紙裏打　二七・五糎一九・五糎　四周裁斷　左右雙邊一八糎一一・五糎　有界十一行二十字　外題左肩「虚堂語録一(―七參)」　柱刻「(所収篇名)(丁數)」、「宗猿」「積翠軒文庫」

(五山版　原物四周を裁斷し匡郭内のみを臺貼す　續輯は室町時代末期寫にして「前略行狀或唐刊系在後緣末今本不見／故付于此／祖翁在世語録二帙刊流天下宋咸淳五年／晋之續緑後集已成三巻而本朝未刊行／之先師常爲言而未果成也爲人之後者／曷無勇爲乎仍搜遺逸新添數紙於後／録之尾鋟梓于龍翔正和癸丑開爐日拙／孫宗卓敬書／沙彌宗哲等施財開版」と刊語あるものの寫　第一冊　妙源編嘉興府興聖禅寺虚堂和尚語録、可宣編嘉興府報恩光孝禅寺語録、無隠編慶元府顯孝禅寺開山語録、梵閲編慶元府瑞嵓開善禅寺語録、徳溢編慶元府萬松山延福禅寺語録、第二冊　惟俊・法雲編婺州雲黄山寶林禅寺語録、第三冊　徳惟似溥・如阜編慶元府阿育王山廣利禅寺語録、似藻編栢巌慧照禅寺語録、至源・文衡編臨安府浄慈報恩光孝禅寺語録、惟份・文愷編臨安府徑山興聖萬壽禅寺語録、第四冊　法語、序

跋、法雲編雙林夏前告香普説、第五冊　無隱編頌古、代別、第六冊　佛祖贊、禮祖塔、頌偈、第七冊　以文・無補・法光編續輯、道準・禧會・紹賢編臨安府淨慈報恩禪寺後録、正一・淨喜・尚賢編臨安府徑山興聖萬壽禪寺後録、偈頌、恵明編佛事、秉炬、法語、真賛、及び宗卓編虚堂和尚新添を収む　一八・七―八五）

虎丘隆和尚語錄　一冊　七三

虎丘紹隆（宋）語　嗣端（宋）編　袋綴　改装後補紺表紙　天地裁斷　二三・五糎一五糎　四周單邊二一・五糎一二・五糎　九行十七字　三十丁　題簽後補左肩墨書名同　柱刻白口「（丁數）」「積翠軒文庫」

刊語　此録旧板已漫滅茲者命工重ノ刊置于亀山金剛禪院伏願ノ佛種不斷世世建光明幢祖印ノ親傳人人開無盡藏ノ貞治戊申孟春天龍住持比丘妙葩題

（五山版）　巻末に「平江府萬壽報恩光孝禪寺住持嗣法小法師　校勘」とあり　和州開聖禪院語録、宣州彰教禪院語録、平江府虎丘雲巖禪寺語録、眞賛、偈頌を収む　一八・七―七三）

景德傳燈錄　二十巻　十冊　闕　七四

道原（宋）著　袋綴　改装後補澁表紙　用紙裏打　二七・五糎一九糎　左右雙邊二一・五糎一五糎　有界十三行約二十四字　題簽後補墨「傳燈（巻數）」　柱刻黒口（又は白口）「傳第三（―廿八）（丁數）」「宗禹」「備前州岡山國清寺藏書」「三井家鑒藏」

刊記　（巻二十）延文戊戌重開ノ雪江崇永刊行

識語　（巻三）安藝州沼田莊御許山佛通禪寺常住　玄貴捨入

（各冊巻末）十五冊之内　達源（印）

（五山版）　巻三至十六・十九・二十・二十五至二十八を存す　表紙中央に白墨「歳」と記しその上に「律」と朱書　概ね各巻末に、例へば、巻二十七に「延祐丙辰重刊于湖ノ州道場山禪幽之菴」、巻二十八に「延祐丙辰小比丘希渭謹依（ママ）ノ本部先天聖松虚和尚所ノ藏虚山積菴善本命工ノ嘯梓于雲山余之禪幽菴」等の原刊記を留む　又巻二十五末に「兼澄ノ宗柱」「天台倚住僧兼遲三巻刊行」、巻十四末に「補刊景德傳燈録施芳銜」とありて「前南禪住持比丘德見」以下「雲居比丘妙葩」に及ぶ七名を刊刻す　巻六第十四丁は「右之一張依破落而今及修補之次命正法主仁甫□□而ノ書續之一」とありてこの丁補寫　一八・七―八七）

景德傳燈錄　三十巻　十冊　七五

道原（宋）著　延文三年丙申十一月吉日妙在疏序（幹緣比丘宗任）　西來年表　謹上表　楊一億序　延祐三年臈月一日希渭重刊景德傳燈録狀（文雅董役・士洵主緣）　紹興四年上元日劉棐後序　紹興壬子初冬十日鄭昂跋　天童宏智疏　貞和戊子八月廿五乾峯士曇跋　袋綴　改装後補黄表紙　二六糎一七・五糎　左右雙邊二一・五糎一五糎　有界十三行約二十四字　題簽左肩雙邊（刊）後筆「傳燈録一（―十）」　柱刻黒口（又は白口）「傳第一（―三十）等　（丁數）」

刊記　（巻一）延文戊戌重開ノ善忠一巻刊行

（巻五）　延文戊戌重刊于ノ城州東山天潤菴

（巻十）　貞和戊子重刊于ノ城州東山天潤菴

（巻十三）　延文戊戌重開ノ正儀一巻刊行

延文戊戌重開ノ正右一巻刊行

（巻十六）　延文戊戌重刊于ノ城州東山天潤菴

（巻十九）　延文戊戌重開ノ雪江崇永刊行

（巻二十）　延文戊戌重開ノ雪江崇永刊行

（巻二十一）　延文戊戌重開ノ雪江崇永刊行

（巻二十五）　兼澄ノ宗柱ノ天台倚住僧兼遲三巻刊行

（巻二十六）　延文戊戌重刊天潤比丘　宗任

（五山版）　表紙右肩に「賓」「皇」と墨書　延文三年の序に云「傳燈録者ノ七佛心肝諸祖骨髓遞代承々各弘教外別傳之ノ道貞和戊子之間　前勢州玉峯大居士痛念ノ本朝無有此板喜捨家財命工刊行永置于建仁ノ禪寺ノ普濟大聖禪師塔所天潤禪菴廣大流通以報ノ佛祖略中適罹文和ノ乙未十二月丙子之變其板大半失之山中大用ノ任首座重□補缺傳諸無窮其志垂千萬世難磨ノ滅輒持小疏編叩ノ大力宰官居士同道大善智識或一力成就或隨ノ量藥施所獲福報豈易量哉下略」　原に「延祐三年歳在丙辰四明芯翁希渭估倡衣鉢一ノ功命王依盧山穏菴舊本翻刊于道場禪幽菴ノ集茲善利上報ノ四恩下資三有法界有情同圓種智者」とあるものの覆刻　巻中に多く「延祐丙辰重刊于ノ道場山禪幽之菴」等の原刊記を移刻せり　巻十四末に「補刊景德傳燈録施主芳銜」とありて「前南禪住持比丘德見」以下「雲居比丘妙葩」に及ぶ七名、巻二十四巻十七末に同「建仁住持比兵妙在」以下「甘露比丘本兆」に及ぶ七名、巻二十四

末に同「宗雲」以下「宗方」に及ぶ十二名、巻二十七末に同「前建長住持比丘士曇」以下「天祥比丘宗興」に及ぶ六名を刊刻す　巻二第九至十三丁室町時代末期補寫　一八・七―ィ五五）

枯崖和尚漫錄　三卷　三冊　七六

枯崖圓悟(宋)著　咸淳八年仲春紹隆序　咸淳壬申夏陳叔震序　袋綴　改裝後補朽葉色行成表紙　二三・五糎一八糎　左右雙邊一八・五糎一一糎　有界十行二十字　柱刻白口「枯崖漫錄　上(―下)等（丁數)」、「三井家鑒藏」等

識語　旹應永丙戌八月十五日瑞雲山開普請後句讀畢／于半隱軒下

（五山版　巻末に「景定四年夏四月林希逸跋」一丁を補影寫　一八・七―ィ三七）

枯崖和尚漫錄　三卷　一冊　七七

枯崖圓悟(宋)著　咸淳八年仲春紹隆序　咸淳壬申夏陳叔震序　袋綴　改裝後補紺表紙　二六・五糎一五糎　左右雙邊一八・五糎一一糎　八十五丁(補紙一丁)　有界十行二十字　柱刻白口「枯崖漫錄　上(―下)等（丁數)」、「興聖寺公用」「澁谷藏書記」

（五山版　巻末に林希逸跋一丁補影寫　一八・七―ィ六）

枯崖和尚漫錄　三卷　一冊　七八

枯崖圓悟(宋)著　咸淳八年仲春紹隆序　咸淳壬申夏陳叔震序　袋綴　改裝後補代赭色表紙　二三・五糎一五糎　左右雙邊一九糎一一糎　有界十行二十字　八十二丁　柱刻白口「枯崖漫錄　上(―下)等（丁數)」

（五山版　下巻は廿四丁まで存して以下闕　下巻柱刻第六丁に「村仁刊」、同八丁に「林仁刊」の原刻工名を移刻　一八・七―ィ六三）

枯崖和尚漫錄　三卷　一冊　七九

枯崖圓悟(宋)著　咸淳八年仲春紹隆序　咸淳壬申夏陳叔震序　景定四年夏四月林希逸跋　袋綴　改裝後補赤縞刷毛目表紙　二四糎一五・五糎　左右雙邊一八・五糎一一糎　有界十行二十字　八十五丁　題簽後補墨「舊刊（書名同）全」　柱刻白口「枯崖漫錄　上(―下)等（丁數)」、「天寧寺(墨印)」等

識語　(巻初)　天寧常住

（裏見返）　延享四丁卯夏再表修／金山／侍者祖鏡

（五山版　一八・七―ィ六五）

山菴雜錄　二卷　一冊　八〇

恕中無慍(明)著　洪武己巳夏六月弘道序　洪武八年臘月望日自序　洪武二十五年冬十月二十四日蘐伯衡序　洪武庚午春二月既望守仁跋　洪武庚午清濬跋　袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様紺表紙　二七・五糎一九糎　四周雙邊一八糎一二・五糎　八行十五字　百二十九丁　外題左肩朱「(書名同)全录五」　柱刻黒口「雜録上(下)(丁數)」、「閻魔庵圖書部」「雙鹿堅藏」「岡本藏書記(墨印)」等

（古活字版　寛永期刊　巻下尾題下に「四明朱　敬中刊」とある原刊記を移刻　一八・七―ィ五）

慈明四家錄　二冊　八一

紹興二十三年癸酉春朔日章倧序　唐袋綴　改裝後補縹色表紙　用紙裏打　二六糎一七糎　左右雙邊一八・五糎一一糎　有界十二行二十七字　題簽左肩雙邊(刊)墨「(書名同)慈明錄、白雲口、楊岐錄」　柱刻白口「慈上(楊)等（丁數)（刻工名)」、「普門」「元照之印(陰刻)」

識語　(第二冊末)　慈明四家録演禪師録闕者當山傳來之／寶典也年代寢遠將至紙蠹墨渝這回／補飾寘焉臨濟正宗正法山下栽松山高巖禪寺第四世嗣祖比丘普門元照合掌敬識（印)／延寶七己未佛歡喜良日

（元版　序題の次に「慈明圓禪師嗣昭禪師　楊岐會禪師嗣圓禪師／白雲端禪師嗣會禪師　五祖演禪師嗣端禪師」とありてこの四師語録を収む　即ち第一冊　慈明禪師五會住持語録、天聖五年丁卯十月一日本延序恵南編師初住袁州南源山廣利禪院語録、師住潭州道吾山語録、師住潭州石霜山崇勝禪院語録、師住南嶽山福嚴禪院語録、師住潭州興化禪院語録、偈頌、皇祐二年仲春既望日文政序潭州雲蓋山會和尚語録、元祐三年立春日無爲子楊傑序題楊岐會禪師語録、仁勇編袁州楊岐山普通禪院會和尚語録、守端編後往潭州雲蓋山海會寺語録、楊岐會和尚後録、第二冊　王孜序白雲禪録、處凝編江州承天禪院語録、海潭編江州圓通崇勝禪院、智本編舒州法華山證道禪院語録、

智華編舒州龍門山乾明禅院語録、白雲語録上、熙寧三年歳次庚戌十月初一日序祖堂綱紀、處凝編舒州興化禅院語録、法演編舒州白雲山海會禅院語録、偈頌、處凝編舒州法華山端和尚頌古一百十則、治平元年甲辰孟夏既望自題を収む　序に「前略嗟乎舊板既廢斯録無傳況今末學但玩／魚目以爲其眞豈識夜光者哉特命工重刊／目之曰慈明四家録下略」とあり　一八八・七―イ一一九）

松源崇岳禪師語録　二巻　二冊　七三二

松源崇岳(宋)語　善開・光睦(宋)等編　嘉泰三年十月譙令憲序　嘉泰癸亥臘月八日孟猷序　嘉泰三年癸亥重九日慶如序　袋綴　改裝後補毘沙門格子文水色行成表紙　二五・五糎一六糎　左右雙邊一八糎一二・五糎　有界十行十九字　外題左肩後筆「松源録口(下)」　序題「松源和尚語録」　柱刻白口「序上(澄照上)等（丁數）」、「決山退藏院」「大狂」「積翠軒文庫」等

識語　（下冊）明治十四辛巳春退藏書類沽却之際求之(印)

（五山版　善開・光睦等編松源和尚初住平江府陽山澄照禅院語録、同編江陰軍君山報恩光孝禅寺語録、普巖等編無爲軍冶父山實際禅院語録、光睦等編饒州薦福禅院語録、善開等編明州香山智度禅院語録、師肇等編平江府虎丘山雲巖禅院語録、道巘等編臨安府景徳靈隱禅寺語録、了能等編開山顯親報慈禅寺語録、秉拂、普説、法語、頌古、賛佛祖、偈頌を収む　一八八・七―イ八一）

松源崇岳禪師語録下巻　一巻　一冊　七三三

松源崇岳(宋)語　善開(宋)等編　袋綴　改裝後補澁表紙　二五・五糎一六糎　左右雙邊一八糎一二糎　五十七丁　外題左肩後筆「松源語録坤」　内題なし　柱刻白口「靈隱下(顯親下　秉佛下)等（丁數）」、「那須雲巖寺藏書」

識語　正法庵之公用

正中二乙丑小春念旦自勵捨之

（五山版　道巘等編臨安府景徳靈隱禅寺語録、了能等編開山顯親報慈禅寺語録、秉拂、普説、法語、頌古、賛佛祖、偈頌を収む　一八八・七―イ五七）

正法眼藏　寫　一冊　七三四

大慧宗杲(宋)著　袋綴　毘沙門格子牡丹唐草模様丹行成表紙　用紙裏打　二五糎一七・五糎　八行　二十九丁　外題左肩後筆「(書名同)古寫」、「三井家藏」

（室町時代中期寫　返點送假名を附す　一八八・七―イ三三）

緇林寶訓　一冊　七三五

擇賢(宋)等編　袋綴　改裝後補澁表紙　天地裁斷　二四糎一八・五糎　左右雙邊二〇・五糎一五糎　有界九行十六字　三十六丁　外題左肩墨書名同　柱刻黒口「目(緇)（丁數）」、「積翠軒文庫」

（五山版　一八八・七―イ九九）

新編佛法大明　二十巻　四冊　七三六

端平乙未仲冬良月李愈康伯序　圭堂後序　圭堂再後序　嘉定甲申中元孤月祖元跋　寶慶丙戌春道琳跋　寶慶丙戌春澄庵眞照跋　袋綴　改裝後補丹赭色表紙　二三・五糎一四・五糎　左右雙邊一八・五糎一二糎　有界十二行二十二字小雙行　題簽左肩後筆「佛法大明一之五(―十六之二十終)」　柱刻黒口「目録(大一―二十)（丁數）」、「即宗院」

刊記　（綱目末）己卯募縁張　智朗　重刊印行／聖壽寺住持比丘　處禮　法顓

（巻二十末）四明　胡公擧刊

識語　（巻二十末）文明十四年八月八日句頭了　藝子

（元版　康伯序末條に「共□板□伯四十二片／信士盛寛恩　陸妙蓮」とあり　各巻末に幹縁の居士信士信女等の姓名を刻す　一八八・七―イ一二）

禪苑瑤林注　寫　三巻　一冊　七三七

志明(金)著　徳諫注　乙卯年二月二日呂伯鯤序　某序　袋綴　薄茶色表紙　二六・五糎二一糎　墨付八十五丁白紙三丁　題簽左肩「禅花瑤林上下」

（室町時代末期寫　帙に「吉田兼右手寫」とあり　一八八・七―イ二五）

禪門寶藏録　三巻　一冊　七三八

天頤(高麗)著　至元卅年癸巳十一月日自序　至元三十一年甲午三月日李混跋　朝

鮮袋綴　黄表紙　二五糎一六糎　四周單邊一七・五糎一一糎　十一行二十字　三十一丁　外題左肩「禪門寶藏集」　柱刻黒口「禪上(一下)（丁數)」、「兎礙菴」「積翠軒文庫」等

刊語　嘉靖十年辛卯日慶尚道晋州地智異山鐵窟開刊以傳／臣興寺／圓悟／正一／刻手　戒心／戒珠／供養主　玄旭／化主　玉修／秀庵

識語　(朱書)明治丁亥白露節前二日／淡山老衲一閲了

(帙)禪門寶藏録攷証／本書ニ二種アリ即チ／其一萬曆三十九年辛夏智異山仁庵刊／其二隆熙二年東萊梵魚寺刊トス／然ルニ本書ハ／嘉靖十年晋州智異山鐵窟庵刊ナリ／蓋シ稀覯本タルベシ秘襲スベシ／積翠誌

(朝鮮版　一八・七―一〇九)

禪林僧寶傳　三十卷　三冊　七九

慧洪覺範(宋)著　宣和六年三月甲子延慶引　永仁乙未孟秋鏡堂覺圓跋　廣聞跋　虚堂智愚跋　袋綴　改裝後補小豆色表紙　用紙裏打　二三・五糎一六・五糎　左右雙邊一八・五糎一二・五糎　有界十一行二十字　題簽左肩墨「(書名同)上(一下)秋」柱刻白口「宝上(一下)（丁數)」、「成就院(墨印)」「士礼居藏」「愚齋審定善本」等

識語　(各冊裏見返)元文二丁巳歳三月修補／焉　知橋識之

(第一冊表紙)是書翻北宋本日本永仁乙未當中國元成宗元貞二年／是猶爲元初刻本也光緒十五年五月六日購於廠肆／毎本後有元文二年修補字迹當中國乾隆二年

(五山版　巻三十末に舟峰庵沙門慶老著「補禪林僧寶傳」、惠洪著「臨濟宗旨」を収む　覺圓跋云「前略義心禪者募緣將唐本僧寶傳抄寫重新／鋟梓昌廣其傳下略」、智愚跋云「前略淨老宿以令師昔所刊僧寶傳板捨歸／靈隱旃檀林使　佛祖慧命流通下略」一八・七―一三)

禪林僧寶傳　三十卷　三冊　八〇

慧洪覺範(宋)著　寶慶丁亥中春上澣張宏序　宣和六年三月甲子延慶引　永仁乙未孟秋鏡堂覺圓跋　廣聞跋　虚堂智愚跋　袋綴　改裝後補茶色表紙　二五糎一六・五糎　左右雙邊一八・五糎一二・五糎　有界十一行二十字　外題左肩後筆「(書名同)上(一下)」　柱刻白口「宝　上(一下)（丁數)」、「両足院」「花園韶陽」「積翠軒文庫」

(五山版　巻三十末に舟峰庵沙門慶老著補禪林僧寶傳、惠洪著臨濟宗旨を収む　覺圓跋云「前略義心禪者募緣將唐本僧寶傳抄寫重新／鋟梓昌廣其傳下略」、智愚跋云「前略淨老宿以令師昔所刊僧寶傳板捨歸／靈隱旃檀林使　佛祖慧命流通下略」一八・七―一八九)

禪林寶訓　二巻　一冊　八一

淨善(宋)著　朝鮮袋綴　改裝後補毘沙門格子牡丹花模様丹行成表紙　二五・五糎一七糎　四周單邊一六糎一二・五糎　十行二十字　八十三丁　題簽左肩後筆「(書名同)朝鮮板全」　柱刻黒口「訓上(下)（丁數)」

刊記　嘉靖廿一年壬寅非冬　金剛山表訓寺開板

刻手智熙／木板信正

識語　付与　玄碩　九易叟(印)／祖海(花押)

(朝鮮版　巻末に化緣供養主等の交名を刻す　訓點書入を施す　一八・七―一三)

禪林類聚　二十卷　二十冊　八二

智境(元)編　袋綴　砥粉色表紙　二四・五糎一五糎　左右雙邊一九・五糎一二・五糎　有界十二行二十二字小雙行　外題左肩「(書名同)巻之一(一巻之廿終)」　柱刻黒口「類聚一(一二十)（募緣名)（丁數)」、「積翠軒文庫」

刊記　(目録末)貞治六丁未解制日幹緣僧希杲重刊于京臨川寺

(五山版　原に目録末「前略禅林類聚編寫既辨善俊遂抽衣資中統寶鈔參／拾錠白米貳拾碩天寧常住助米肆拾碩發揚／鏤板印行以備湖海檢尋之便淮東諸山目擊／是緣各捐已資共成厥事題名巻末大徳十一／年歳次丁未佛誕日楊州路天寧萬壽禪寺住／持嗣祖比丘善俊謹書」とあり　一貫文太虚和尚、一貫文希杲、一貫文永模等の助緣者原刻を巻一・二の版心に、又巻十九・廿巻末に附刻す　表紙右肩に「帝王／宰臣／儒士」等見出を墨書　一八・七―八三)

増集續傳燈錄　寫　六巻　四冊　八三

文琇(明)著　永樂十五年丁酉三月自序　袋綴　茶色表紙　二五糎一八・五糎　十

二行二十四字　題簽左肩「續傳燈録一二(一六)」、「三井家聽氷閣」等
（室町時代末期寫　數人交筆　第一冊卷二奥に「直隸蘇州府崑山縣永懷禪寺前住持慧悦／抽施衣資刊雕此卷所願宗風廣扇慧命長存普／與法界衆生同入大光明藏上答／四恩下資三有均伏勝緣俱成種智／永樂十五年三月　日謹識」とあるものの寫
一八・七―イ三）

大慧普覺禪師書　一冊　七四

大慧宗杲(宋)著　慧然(宋)録　黄文昌重編　文昌跋　洪武二十年丁卯十月日李穡跋　朝鮮袋綴　改裝後補黄表紙　二五糎一五・五糎　四周單邊一七・五糎一二・五糎　十行十八字　百九丁　外題左肩後筆「書　全」　柱刻白口「書(丁數)」、「聽松」「積翠軒文庫」等
識語　（表紙）魯湖藏　聽松先生手澤
（見返）(朱)　切奉請／主上殿下壽萬歲
（朝鮮版　原に「弟子門人諒莫浹戴質楊楷超宗道人普覺／超然道人淨覺各施財刊版／乾道二年歲次丙戌八月／勅賜徑山妙喜庵刊行」と刊語あるものの飜刻
一八・七―イ一〇七）

大慧普覺禪師書　二卷　二冊　七五

大慧宗杲(宋)著　慧然(宋)録　黄文昌重編　文昌跋　用紙裏打　袋綴　改裝後補毘沙門格子地牡丹唐草模様砥紛色行成表紙　二五糎一八糎　左右雙邊二〇糎一四・五糎　有界十一行二十字　題簽左肩後補「大慧書上(下)」　柱刻白口「書(書上)(丁數)」、「三井家鑒藏」等
識語　龍井蕃常住／自東捨入
（五山版　一八・七―イ一五）

大慧普覺禪師普説卷第二　一冊　七六

大慧宗杲(宋)著　道先(宋)編　袋綴　改裝後補水色表紙　二二・五糎一五・五糎　四周單邊一七・五糎一一・五糎　十一行二十字　九十六丁　題簽後補左肩「大慧禪師普説　全」　柱刻白口「普卷二　(丁數)」、「石井氏藏書記」「積翠軒文庫」
識語　奉寄進　主膳
（五山版　一八・七―イ九三）

重修人天眼目　三卷　三冊　七七

晦巖智昭(宋)編　淳熙戊申季冬自序　寶祐歲次戊午休夏後五日物初大觀重修後序　乾元癸卯正月人日桂堂瓊琳跋　袋綴　改裝後補紺表紙　用紙裏打　二三糎一五・五糎　左右雙邊一七・五糎一一・五糎　有界十一行二十字　序題「人天眼目」　柱刻白口「眼目（丁數）」、「積翠軒文庫」
識語　（第一冊）主文甫芒
（第三冊）主道昌
（五山版　瓊琳跋云「是書之所由作者備見於晦／岩物初両翁序跋矣雖然趙／宋全盛之時南詢衲子傳寫／而非無烏焉成馬之誤爰有／了部禪人鋭意克正始自傳／燈以下至於五家宗派尊宿／別録莫不傍罪曲探點對校／讎遂成眞本所謂孟氏之功／不在禹下者乎淨智道人希／顔慕蘭命工鏤板以壽其傳／其用心亦可謂勤矣下略」
一八・七―イ三五）

重修人天眼目上　一冊　七八

晦巖智昭(宋)編　淳熙戊申季冬自序　袋綴　改裝後補栗皮色表紙　二二糎一五・五糎　四周單邊（又は左右雙邊）一七・五糎一一・五糎　有界十一行二十字　四十六丁　題簽左肩黄紙後筆「重修人天眼目集綱領五山版上」　序題「人天眼目」　柱刻白口「眼目（丁數）」
識語　宗慶
（五山版　綱領第一丁補寫　一八・七―イ〇二）

鎮州臨濟慧照禪師語錄　一冊　七九

臨濟慧照(唐)著　慧然(宋)編　存獘校勘　宣和庚子中秋日馬防序　袋綴　改裝後補代赭色表紙　用紙裏打　二九糎二一・五糎　原寸二八糎　左右雙邊二〇糎一五糎　有界十行二十字　三十六丁（補紙前三丁後二丁）　外題左肩「斷際全機継後蹤」　柱刻黒口「臨　(丁數)」、「宗成」「青谿書屋」
刊記　永享九年八月十五日板在法性寺東經所

識語　（朱書）長祿第二歲次戊寅仲夏日南禪瑞廷麟新摺玆本見恵焉便借ノ成蹟翁与穆ミ之両本謹寫　大用和尚講時之点了朱一者蹟約朱圈者穆用ノ季夏初五日靈山松園精舍佛堂東櫓畢之　釈宗裔　満四十歲
此本自先師傳之今也与碩公矣付ノ宗清（花押）
（附箋）宗清字以天相州早雲寺開山ノ宗碩字大室宗清法嗣早雲寺二世天文三正月寂
（五山版）満紙書入あり　補紙第一葉に本紙書入と同筆にて「臨濟者唐懿宗咸通八年丁亥正月十日示寂當本朝陽成天皇元慶三ノ年也陽成者清和天皇之嗣也師寂至今本朝文安六年己巳得五百八十ノ六載」等の記事あり　一八八・七―一四三）

傳法正宗記　十二卷　三冊　十三

契嵩（宋）編　袋綴　改裝後補毘沙門格子地牡丹唐草模様丹行成表紙　二五糎一八・五糎　天地單邊二二糎　九行十七字　柱刻白口一時　正宗（卷數）（丁數）ニ、「新宮城書藏」「伊澤氏酌源堂書記」「養源」等
刊語　福建道興化路莆田縣仁德里住人俞良甫於ノ日本嵯峨寓居憑自己財物置板流行ノ歲次甲子孟夏四月日　謹題
識語（各冊）養源
（五山版　卷十嵩禪師傳法正宗定祖之圖卷初に「日本國相州靈山寺續先師宴海未終願勸進沙門寶積沙称寂慧等謹題ノ今上皇帝　大皇大后　皇大后祝延聖壽關東大將軍家息災延命ノ國泰民安開鏤大藏印板副納内弘安十年丁亥九月日謹題ノ傳法正宗定祖圖卷第十并叙ノ鐔津東山沙門臣僧契嵩撰」とあり　卷中僧圖多し　卷十二の次に「上　皇帝書傳法正宗論ノ奏劄子中書劄子勅牒ノ輔教編跋」を収む　原に「教忠崇報禪寺住持嗣祖比丘道印校正ノ西禪長慶禪寺住持嗣祖比丘恵舜勸緣ノ開元禪寺住持嗣祖解空大師慧明都勸緣ノ嵩明教之在釋氏扶持正宗排斥ノ異説辭而闢之咸有援据所謂障ノ百川而東之廻狂瀾於既倒者也諸ノ老出力廣此書皆籍湜輩用心ノ也隨喜之緣有大於此者乎隆興ノ甲申十一月既望左奉議郎前提擧ノ福建路市舶晋安林之奇書」とあるものによる　毎半葉九行なれど第三行第六行の間一行餘白あり、所據原本の六行折本なりしことによるか　一八八・七―一三七）

天目中峯和尚廣錄　十一卷　五冊　闕　十四

中峯明本（元）著　慈寂（元）編　元統二年正月善達密的理上表　元統二年五月印日降賜天目中峯和尚廣錄入藏院劄　元統二年揭傒斯序　元統三年六月明瑞題語　袋綴　改裝後補丹表紙　天地裁斷　用紙裏打　二七糎一九糎　天地單邊二四糎　九行十七字　題簽左肩後筆「（書名同）　一卷（―五卷）」
識語　（明瑞題中）佛智大通禪師月松老ノ形見書之　文祿二ノ行年八十三ノミつのと巳
（五山版　原六行本を翻刻したる故に本版紙面三行目六行目毎に行間に餘白ありて原本の柱刻「韓一　（丁數）」等を移刻　卷一之上・二・三・四上・八・九・十・十一上中下・十三・十四・十五を存す　一八八・七―一九二）

天龍開山夢牕正覺心宗普濟國師年譜　一冊　十五

春屋妙葩編　袋綴　改裝後補縹色包表紙（後表紙新補）　二六・五糎一九糎　左右雙邊一九・五糎一四・五糎　有界十一行二十字　六十二丁　題簽左肩後補室町時代筆「□龍開山年譜」　柱刻白口「譜（話・訓・塔銘）　（丁數）」、「善慧軒（墨印）」「杉浦丘園（紙票）」等
識語　（見返）意足公用
（裏見返）瓢菴守仙和尚手澤本也
（裏表紙）夢牕國師年譜全壹冊ノ明治四拾有一年歲葬□
（五山版　年譜・西山夜話・臨川家訓略出・文和三年甲午歲十一月日守塔小師比丘妙葩立之とある永興撰天龍開山特賜夢窓正覺心宗國師塔銘并序を収む　全紙に「舊本」との校合その他室町時代筆書入あり　一八八・七―一七九）

天龍開山夢窓正覺心宗普濟國師年譜　一冊　十五

春屋妙葩編　袋綴　改裝後補淡紅色表紙　二三・五糎一六糎　左右雙邊一九・五糎一三・五糎　有界十行二十字　六十八丁　外題左肩墨「天龍國師年譜　全」　柱刻黒口「譜（話・訓・塔銘）　（丁數）」、「景寧寺（墨印）」「積翠菴珍藏」
（五山版　年譜・西山夜話・臨川家訓略出・文和三年甲午歲十一月日守塔小師比丘妙葩立之とある永興撰天龍開山特賜夢窓正覺心宗國師塔銘并序を収む　第一至三丁補寫　一八八・七―一七九）

四下有餘　寫　一冊　七三四

袋綴　改裝後補紺表紙　原裝共表紙　二六・五糎一九・五糎　九行二十字　八十二丁（原表紙共）　外題左肩金泥書名同　原外題左肩後筆書名同、「三井家雙鹿閣」等識語　大泉院常住

（室町時代末期寫　原外題下に「靈涼山住（ママ）ヿ常」とあり　享徳・寛正頃の禅院祭文等を収む　一八八・七―一三）

佛果圜悟禪師碧巖錄　十卷　五冊　七三五

雪竇重顯（宋）頌古　圜悟克勤（宋）評唱　建炎戊申暮春晦日普照序　大德四年庚子四月初八日癸丑方回萬里序　大德九年歲乙巳三月吉日玉岑休ヿ居士序　大德甲辰四月望三教老人序　宣和乙巳春暮上休關友無黨跋　重刊圜悟禪師碧巖集疏　大德壬寅中秋淨日跋　延祐丁巳迎佛會日斉陵跋　延祐丁巳中元日馮子振跋　袋綴　改裝後補栗皮色表紙　二八・五糎二〇・五糎　左右（又は四周）雙邊（又は單邊）一八糎一一糎　有界十一行二十一字　扉題（木記）「宗門第一書（此五字横書）圜悟碧巖集」　柱刻黒口「碧巖一（―十）（丁數）」、「桂窗」「西荘文庫（小津桂窓筆）」月八十五ゟ五」と墨書せる紙箋に捺印）」

刊記　（扉）　山城州西京妙心禪寺内正眼菴新刊

（五山版　杭州北橋街東隅中張氏書隱印行本の覆刻　三教老人序末行下「古杭朱子成刊」とあり　各巻末「嵎中張氏書隱刻梓」等の原刻文字をも移刻す　一八八・七―一三）

佛國禪師語錄　一冊　七三六

高峰顯日語　妙環等編　泰定三襍丙寅歲端月既日靈石如芝跋　泰定三年三月初五日清茂跋　袋綴　改裝後補茶色表紙　用紙裏打　天地裁斷　二三糎一八糎　左右雙邊一九・五糎一五糎　有界十一行二十字　七十八丁　外題左肩後筆「（書名同）全」　柱刻白口「雲（淨妙・淨智等）（丁數）」

識語　這書　當寺開山　ノ佛國禪師語錄也昔日當山炎ノ上已往紛失年久矣如今何幸ノ吾先師　大蟲和尚的孫了因ノ老禪贈而賜予ヿ焼香拜納ノ即加修補謹奉寄進ノ三佛之塔下者也祝ヿ不盡ノ惟時元和四季戊午仲冬念日ノ花園末枝現住雲巖要室玄三野納謹ノ誌旃（印）

（五山版　妙環編佛國禪師初住下野州東山雲巖禪寺語錄、玄仁編住相州淨妙禪寺語錄、妙康編金寶山淨智禪寺語錄、普説、玄挺・妙環編住相州巨福山建長禪寺語錄、妙準・妙環編再住淨智禪寺語錄、泰定三年丙寅春二月三日清拙正澄序慧廣編住下野州東山雲巖禪寺高峯和尚勅謚佛國禪師問答、法語、頌古、佛祖賛、自賛を収む　一八八・七―一三）

佛國禪師文殊指南圖讃殘卷　一帖　七三七

惟白（宋）著　唐折本　茶色表紙　用紙裏打　二八糎一一・五糎　天地單邊二四・五糎　有界十行字數不定　九折　挿畫各折に計十六圖　内題なし

識語　（裏見返）面山所持

（宋版　闕葉あり　一八八・七―二九）

佛祖正法直傳　一冊　七三八

峰翁祖一著　袋綴　改裝後補薄黄表紙　用紙裏打　天地裁斷　二四・五糎一七・五糎　左右雙邊二〇・五糎一三・五糎　有界十行二十三字　四十三丁　外題左肩墨「（書名同）全」　柱刻白口「正法　（丁數）」

刊記　康曆歲次辛酉仲春上澣　比丘宗光命工刊行

應永十一年甲申三月日　重雕印行ノ幹緣比丘從遠ノ助緣沙彌常熙ノ助緣通泰

識語　（見返）臨濟山大山寺常住本ノ全一冊

（五山版　第一丁闕　外題下に「往」と墨書　一八八・七―八五）

平石如砥禪師語錄　一冊　七三九

平石如砥（元）語　文栖（元）等編　行中至仁序　至元二年丙子春松月正印跋　袋綴　改裝後補縹色表紙　二二・五糎一五糎　左右雙邊一八糎一一・五糎　有界十行二十字　四十九丁　題簽左肩後補墨「平石砥和尚語錄　全」　序題「天章平石和尚語錄」　柱刻黒口「佛海語序（佛海賛等）（丁數）（丁數の上に保・定の文字を附す丁あり）」、「艮岳院」「積翠軒文庫」

刊記　（眞讃條末）蘆山禪寺住持比丘ノ甬東比丘仁濟書ノ孟榮刊行

（五山版　文柄等編平石和尚初住慶元路保聖禪寺語錄、子昶・了因等編平石和尚定水禪寺語錄、彌安・元勗等編平石和尚天童禪寺語錄、師偕・文斌・汝均等編眞讃、處林・雲岑等編偈頌を収む　巻末に天童平石禪寺初見あり　一八・七―一七）

法集別行錄節要并入私記　一冊　七二〇

普照智訥（朝鮮）著　大安元年己巳夏月日牧牛子智訥自跋　朝鮮袋綴　改裝後補薄茶色表紙　二四糎一六・五糎　四周單邊一八・五糎一三・五糎　十行二十一字　五十四丁　柱刻白口「私記（丁數）」、「聽松」「古佛」「積翠軒文庫」

識語　（表紙）魯湖藏

（見返）（朱）切奉請／主上殿下壽萬歲

（朝鮮版「成守琛字ハ仲玉聽松ト号ス昌寧ノ人ニシテ思肅／公世宗ノ子ナリ成宗癸丑ニ生ル中略明宗甲子ニ歿ス下略」と記せる紙片を附す　一八・七―一〇五）

菩提達摩四行論　一冊　七二一

朝鮮袋綴　改裝後補紺表紙　間紙を挾む　二九糎一六・五糎　原寸二五糎　四周（又は左右）雙邊一七・五糎一〇・五糎　有界十行二十一字　三十二丁　柱刻白口「四行論（丁數）」、「積翠軒文庫」

刊語　天順八年甲申歲朝鮮國刊經都監奉／教於全羅道南原府重修／宣務郎前典牲署令臣韓叔倫書

（朝鮮版　一八・七―一二）

密菴禪師語錄　一冊　七二二

密菴咸傑（宋）語　崇岳（宋）等編　淳熙十五年冬仲月九日張鎡序　袋綴　改裝後補縹色表紙　天地裁斷　二三糎一五糎　左右雙邊一八糎一一・五糎　有界十一行二十字　題簽左肩後補墨「密菴傑和尚語錄　全」　柱刻白口「密庵録（密庵語）（丁數）」、「積翠軒文庫」

（五山版　崇岳・了悟等編密庵和尚住衢州西烏巨山乾明禪院語錄、衢州大中祥府禪寺語錄、建康府將山太平興國禪寺語錄、常州褒忠顯報華藏禪寺語錄、臨安府徑山興聖萬壽禪寺語錄、臨安府景德靈隱禪寺語錄、明州太白名山天童景德禪寺語錄、密庵和尚小參、普説、頌賛、偈頌、法語、葛郯撰塔銘を収む　第八十八丁法語條末餘白に「參學約齋居士助錢壹伯貫開板」の原刊語、「天台周浩刊」「浩」の原刻工名あり　一八・七―一五）

无準師範禪師語錄　三冊　七二三

無準師範（宋）語　宗會（宋）等編　淳祐歲辛亥月建丑日壬子程公許序　袋綴　改裝後補紺表紙　天地裁斷　二三・五糎一五糎　左右雙邊一七・五糎一一・五糎　有界十一行二十字　題簽左肩後補墨「无準範和尚語錄一（一三終）」　柱刻白口「無準語錄序（上堂・小參・法語等）（丁數）」　耳格「（通巻丁數）」、「積翠軒文庫」

刊語　此録舊板已漫滅茲者命工重刊置／于亀山金剛禪院伏願　／佛種不斷世世建光　明幢祖印親傳／人人開無盡藏／應安庚戌季夏天龍東堂比丘妙範題

識語　（巻初）安枕

箱書　（朱）五山版應安本／佛鑑無準禪師語録／芳郷光隣手沢

（五山版　宗會・智昕編佛鑑禪師初住慶元府清涼禪寺語録、覺圓編佛鑑禪寺住鎮江府焦山普濟禪寺語録、如海・妙倫等編住慶元府雪竇山資聖禪寺語録、惟一・了禪・了心等編住慶元府阿育王山廣利禪寺語録、普明・了南・紐墨等編住臨安府徑山興聖萬壽禪寺語録、佛鑑禪師五會録、佛鑑禪師法語、普説、拈古、頌古、偈頌、讃佛祖、自讃、小佛事、序跋、祭文、了南・了哿編徑山無準和尚入内引對陞座語録、粲無文撰徑山無準禪師行狀を収む　一八・七―一八）

夢中問答跋　一軸　七二四

康永改元歲在壬午重陽後十日梵僊跋　巻子本　改裝後補牡丹花文金襴紺表紙　見返金砂子散　用紙裏打　二四糎二米八五糎　一紙三八糎　天地裁斷　四周單邊八行　柱刻白口「問答跋（丁數）」

箱書　梵竺仙書夢中問答跋原刻

（裏）妙心寺無著和尚與舊巻頭題簽及／維記却和尚手迹也　大正三年物庵記

（五山版　巻初別紙續紙に「不動明王」墨書、更に一紙を繼ぎて「隨聞記」抄録及び「夢窓國師夢中問答跋梵竺僊」あり　もと袋綴の刊本五丁分を巻子本に改裝せしもの　一八・七―一六）

物初大觀禪師語錄　一冊　七五

物初大觀(宋)語　德溥(宋)等編　袋綴　改裝後補栗皮色表紙　用紙裏打　二三・五糎一五糎　左右雙邊一九・五糎一二糎　有界十一行二十字　五十丁　柱刻白口「物初　(丁數)」

刊語　法孫比丘圓月施財／命工鏤板以垂後學／功德報答四恩三有

識語　(扉見返)　觀物初語録全九冊／此壹策分摠五十帳／黙忤書院(花押)

(裏見返)　此觀物初語録壹策分摠五十帳也此文集秘書之／黙忤懶齋私乘(花押)

(五山版　德溥等編物初和尚住臨安府法相禪院語録、安吉州顯慈禪寺語録、紹興府象田興教禪院語録、慶元府智門禪寺語録、慶元府大慈名山教忠報國禪寺語録、慶元府阿育王山廣利禪寺語録、小參、法語、頌古、佛祖贊、偈頌を収む

一八・七―一五九)

聯燈會要　十卷　五冊　七六

晦翁悟明(宋)編　淳熙己酉三月初吉淡齋李泳序　至元辛卯佛成道日思忠序　袋綴　改装後補毘沙門格子地雲龍文繧色行成表紙　用紙裏打　二四・五糎一七糎　左右雙邊一八糎一一・五糎　有界十一行二十字　題簽左肩後補墨「(書名同)」(一五)

柱刻白口「(巻數)　(丁數)　(間々刻工名あり)」、「臨風文庫」

(五山版　刻工名―孟榮　榮　陳　陳所　丁昇等　思忠序に云「聯灯録乃晦翁和尚居江心潜光室時金提機屢開鑿人天編集聯／類而成此書始唱道子泉之崇福／耆衲檀信力請刊行逮遷鄮峰／遂以板寘旃檀林歳壬申思忠在／寂窻老叔侍下多挙録中機緣激／勵乃曰此録去取簡而不繁未幾／板為灰燼深為嘆惜僕ゝ旋閩越／二十年復来湖上搜尋故本就大／報國鋟梓工費二千餘緡下略」一八・七―一〇三)

キリスト教

爲斷泥禹須宗書三教傳　一冊　七七

神戸良政著　袋綴　改装後補澁表紙　二七糎一八・五糎　四周單邊二一・五糎一六糎　九行　二十三丁　柱刻「三教傳(丁數)」

刊記　四条坊門通敦賀屋久兵衛梓刊

(江戸時代初期刊　一九〇・四―一一)

○

きやとへかとる上巻　一冊　七八

袋綴　雲母五七桐花模様表紙(裏表紙闕)　二六糎一九・五糎　四周單邊二二・五糎一五・五糎　十七行二十九至三十三字　百二十九丁　柱刻黒口「上巻(丁數)」

扉　(表)　GVIA DO PE\CADOR\IN COLLEGIO IAPONI\CO SOCIETA TIS\IESV.\Cum facultate Ordinarij, & Superiorum.\ANNO M. D. XCIX

(裏)　きやとへかとる罪人を善に導くの儀也／(右に)　御出生以來千五百九十九年／(左に)　慶長四年正月下旬鏤梓也

(きりしたん版　漢字平假名交り歐字歐文入り　第九十丁闕　一九一―一九)(重文)

聖教初學要理　四卷　一冊　七九

プチジャン(Petitjean, Bernard-Thadée)著　袋綴　改装後補鼠色表紙　原装雲龍文押出薄青色表紙　用紙裏打　天地裁斷　二四糎一八糎　四周單邊二〇糎一六糎　十二行　六十六丁　柱刻「聖教初學要理巻之一(―四)(丁數)」　欄上に頭注

刊記　(見返四周雙邊)　天主耶蘇降生後一千八百六十八季　日本慶應四年歳次戊辰八月　刊布免許／聖教初學要理／日本司教　伯爾納鐸

(一九一―一三)

聖教初學要理　四卷　一冊　八〇

プチジャン(Petitjean, Bernard-Thadée)著　袋綴　水色地押紋表紙　二四・五糎一八糎　四周單邊一九糎一五・五糎　十二行　柱刻「聖教初學要理　巻之一(―四)(丁數)」　欄上に頭注、「元山文庫(陰刻)」

刊記　(見返四周雙邊)　天主聖誕降生後一千八百六十八季　日本慶應四年歳次戊辰八月　刊布免許／聖教初學要理／日本司教　伯爾納鐸

(一九一―一五)

聖教要理問答　一冊　七一

ムニクー・ピエール(Mounicou, Pierre)譯　袋假綴　改裝後補白表紙　二六・五糎一八・五糎　四周單邊二二糎一四・五糎　九行　五十三丁　柱刻「聖教要理　初造世(—婚姻)　(丁數)」
刊記　(見返雙邊)　聖教要理問答／耶蘇降生後一千八百六拾五年
(一九一—イ一七)

〔ばうちずもの授けやう〕　一冊　七二

洋袋綴　改裝後補羊皮紙表紙　二六糎一七糎　十二行十八至二十一字　二十五丁(補紙)四丁　背文字ペン書「Docirina□」　内題なし　柱刻黒口「(丁數)」
刊語　右の一さつあミあつめて後たたしあき／らめられすへりようれすの御赦しを／以てはんにひらく者也／以上
(きりしたん版　巻初和紙にスペイン語文にてエボラ大僧正 Don Theotonio de Bragansa 宛日本巡察使よりの贈呈の辞及び大僧正よりカルツウシヤ堂舎に寄贈する旨自筆文を記載せる一葉を附す　漢字平假名交り　一九一—イ三)(重文)

○

使徒行傳　一冊　七三

ベツテルハイム(Bettelheim B. J.)譯　袋綴　表紙闕　一七・五糎一二糎　四周單邊一三・五糎一〇糎　八十三丁　扉(丹紙)一丁　十一行　柱刻「もつはらつかひどものでん　第一章(—二十八章)　(丁數)」
刊記　(扉)　(四周單邊)　明治七年甲戌新著／使徒行傳／東國宇院城阿度留布保流都方前版　摺屋藏活字／(欄外右下に)　Acts Japan. 1874.
(一九三・六—イ五)

聖差言行傳　一冊　七四

ベツテルハイム(Bettelheim B. J.)譯　唐袋綴　改裝後補薄黄表紙　原裝茶色表紙　二九糎一五・五糎　四周雙邊二二・五糎一二糎　九十丁扉(黄茶色)一丁　内題「(書名同)　シイノツカイノコトバンヲコナインツタイタス」　柱刻「新約全書　聖差言行傳　第一(—二十八)章　(丁數)」
刊記　(扉)　(四周雙邊)　乙卯年鐫／聖差言行傳／往普天下傳福音與萬民
(片假名交り　第二十四丁重丁、第二十七丁闕　一九三・六—イ七)

約翰傳福音書　一冊　七五

ベツテルハイム(Bettelheim B. J.)譯　唐袋綴　改裝後補薄黄表紙　原裝茶色表紙　二九糎一五糎　四周雙邊二二・五糎一二糎　六行　六十六丁扉(黄茶色)一丁　内題「(書名同)　ヨハンヨロコビタヨリツタイタルショモツ」　柱刻「新約全書　約翰傳福音　第一(—二十一)章　(丁數)」
刊記　(扉)　(四周雙邊)　乙卯年鐫／約翰傳福音書／往普天下傳福音與萬民
(片假名交り　一九三・六—イ九)

路加傳福音書　一冊　七六

ベツテルハイム(Bettelheim B. J.)譯　唐袋綴　改裝後補薄黄表紙　原裝茶色表紙　二九糎一五・五糎　四周雙邊二三糎一二糎　六行　九十三丁扉(黄茶色)一丁　内題「(書名同)　ロカノヨロコビタヨリツタイノショモツ」　柱刻「新約全書　路加傳福音　第一(—二十四)章　(丁數)」
刊記　(扉)　(四周雙邊)　乙卯年鐫／路加傳福音書／往普天下傳福音與萬民
(片假名交り　一九三・六—イ一)

路加傳福音書　一冊　七七

ベツテルハイム(Bettelheim B. J.)譯　袋綴　雲龍文押出薄青色表紙　用紙唐紙　二九糎二〇・五糎　四周雙邊二一・五糎一七糎　十行二十二字片假名雙行　九十九丁　内題「(書名同)　ロカヨロコビツタヨリヲ／ツタフノショモツ」　柱刻「新約全書　路加傳福音書　第一(—二十三)章　(丁數)」
(片假名交り　前後闕丁　一九三・六—イ三)

路加傳福音書　一冊　七七

袋綴　薄茶色表紙　一七・五糎一二糎　四周單邊一四糎一〇糎　十一行　八十六丁扉(丹紙)一丁　内題「ろかのよろこびおとづれをつたふのしよもつ」　柱刻「ろかのよろこびおとづれ第一(一―二十三)章(丁數)」

刊記　(扉)(四周單邊)明治六年癸酉新著／路加傳福音書／東國宇院城阿度留布保流都方前版　摺屋藏活字／(欄外右下に)Japan. S. Luke. 1873.

(片假名交り　一九三・六―イ一五)

○

保羅寄羅馬人書　一冊　七八

ベッテルハイム(Bettelheim B. J.)譯　唐袋綴　改裝後補薄黄色表紙　原裝茶色表紙　二九糎一五糎　四周雙邊二二・五糎一二糎　六行　三十八丁扉(黄紙)一丁　内題「聖差保羅寄羅馬人書　シイノツカイ　パヲロノロマヒトニツカタイルボン」「新約全書　保羅寄羅馬人書　第一(一―二十四)章(丁數)」

刊記　(扉)(四周雙邊)乙卯年鐫／保羅寄羅馬人書／往普天下傳福音與萬民

(片假名交り　第二丁闕、第三丁重丁　一九三・七―イ)

○

こんてむつすむん地　四卷　一冊　七九

袋綴　栗皮色表紙　二六・五糎一九・五糎　四周單邊二二・五糎一五・五糎　十七行　二十九至三十三字　八十二丁(扉)一丁白紙二丁　題簽左肩雙邊書名同　柱刻黑口「(丁數)」

扉　(表)(中央に耶蘇會の署章を記し)CONTEMPTVS MVNDI\MIACI EX OFFICINA FARADA\ ANTONII\Cum facultate ordinarij, et Superiorum\Anno 1610／

(裏)こんてむつすむん地　世をいとひ誤をまなび卷るの經／(右に)御出世以來千六百十年／(左に)慶長十五年四月中旬

(きりしたん版　漢字平假名交り歐字歐文入り　「でうす」等四語のローマ字合體の洋語略符號を交ふ　一九四―イ一)(重文)

○

教理問答　二卷　一冊　八一

固穌乙編　〔自〕序　洋假綴　共表紙　二二・五糎一七糎　十行二十二字　百十九頁　扉一丁

刊記　(扉)(四周單邊)天主降生一千八百七十七年／教理問答／日本明治十年末秋　再鐫(扉裏)(同)掌院修士固穌乙　纂輯／長白隆源雲溪參訂／神子瑪穌亞／尼俄他／摩伊些乙／校對

(一九六・二―イ七)

天學初函　二十二冊　(八二―八八)

涼菴題辭　唐袋綴　改裝後補白表紙　間紙を挾む　二六・五糎一六・五糎　柱刻「(篇名)(卷數)(丁數)」

(明版　一九八・二―イ五)

所收細目次の如し

*理編　(八二―八〇)

*西學凡　(第一冊)　八二

艾儒略(Aleni, Giulio)著　天啓癸亥季夏之吉楊廷筠序　許胥臣引　熊士旂跋　左右雙邊二二糎一四糎　有界九行十九字

*景教流行中國碑頌并序　(第一冊の内)　八三

景浄(Adam)著　天啓五年歲在旃蒙赤奮若日涼菴居士書後　四周單邊二一糎一三・五糎　有界七行十七字

(景教流行中國碑頌の條に「習是齋藏版」とあり)

＊重刻 **畸人十篇** 二卷（第二・三冊）　七八四

利瑪竇(Ricci, Matteo)著　汪汝淳(明)較梓　萬曆戊申歲李之藻序　周炳謨引　王家植小引　凉庵居士跋　冷石生演畸人十規　四周單邊二一糎一三・五糎　有界十行二十字

＊**交友論**（第四冊）　七八五

利瑪竇(Ricci, Matteo)著　萬曆辛丑春正月人日馮應京序　萬曆己亥正月穀旦瞿汝夔序　四周單邊二〇・五糎一三糎　有界九行二十字

＊重刻 **二十五言**（第四冊の内）　七八六

利瑪竇(Ricci, Matteo)著　汪汝淳(明)較梓　萬曆甲辰歲夏五月穀旦馮應京序　萬曆甲辰長至日徐光啓跋　四周單邊二〇・五糎一三糎　有界十行二十字

＊**天主實義** 二卷（第五至七冊）　七八七

利瑪竇(Ricci, Matteo)著　燕貽堂較梓　萬曆疆圉叶洽之歲李之藻序　萬曆二十九年孟春穀旦馮應京序　萬曆三十一年歲次癸卯七月既望自引　四周單邊二一・五糎一三糎　有界九行二十字

（第五冊李之藻序に「燕貽堂」と柱刻あり　巻初に「北京市市立第二女子中學校試巻」の柱刻ある綠罫紙に李之藻・馮應京・利瑪竇の經歷を墨書合綴）

＊**辯學遺牘**（第八冊）　七八八

習是齋續梓　凉菴居士跋　四周雙邊二一・五糎一四糎　十行二十二字

＊**靈言蠡勺** 二卷（第九・十冊）　七八九

畢方濟(Sambiaso, Francesco)著　徐光啓(明)筆録　慎修堂重刻　天啓甲子七月自引　四周雙邊一九・五糎一三・五糎　有界九行十八字小雙行低一格十七字

＊**職方外紀** 五卷（第十一・十二冊）　七九〇

艾儒略(Aleni, Giulio)增譯　楊廷筠(明)彙記　天啓癸亥李之藻序　楊廷筠序　瞿式穀小言　許胥臣小言　天啓三年歲在癸亥八月望日自序　左右雙邊二一糎一四糎　有界九行十九字

＊**器編**（七九一―七九八）

＊**泰西水法** 六卷（第十三・十四冊）　七九一

熊三拔(Ursis, Sabbathino de)著　徐光啓(明)筆記　李之藻(明)訂正　萬曆壬子春月徐光啓序　萬曆壬子歲夏五月望日曹于汴序　鄭以偉序　萬曆壬子初夏水法本論　左右雙邊二一糎一三糎　有界十行二十二字

（第十三冊巻初に「萬曆壬子孟夏日彭惟成序」一葉を合綴し「此序佚去。予於丁亥歲四月廿六日遊肆。適有從日本購書來都者。内泰西水法一巻。首有此序。因借鈔於此／冊之首。惜無全冊。相與檢對也。樵嚴氏識於六君子室」とあり　柱心に「李刻」等の刻工名あり）

＊**渾蓋通憲圖説** 二卷首一卷（第十五・十六冊）　七九二

李之藻(明)著　鄭懷魁(明)訂　萬曆彊圉叶洽之歲自序　萬曆彊圉協洽之歲樞致虚跋　四周雙邊二二糎一四糎　有界九行十八字小雙行　挿畫入

＊**幾何原本**（第十七冊）　七九三

利瑪竇(Ricci, Matteo)口譯　徐光啓(明)筆受　徐光啓序　萬曆丁未自引　考訂校閲姓氏　徐光啓雜議及題　左右雙邊二一糎一三糎　有界十行二十二字　挿畫入

（巻一之首を存す）

＊**表度説**（第十八冊）　七九四

熊三拔(Ursis, Sabbathino de)口授　周子愚・卓爾康(明)筆記　萬曆之曆李之藻

序　左右雙邊　二一糎一三糎　有界十行二十二字小雙行　挿畫入

*天問畧（第十九冊）　七九五

陽瑪諾(Diaz, Emmanuel Jeune)條答　周希令・孔貞時・王應熊(明)同閲　周希令序　萬曆乙卯季春望後王應熊題詞　萬曆乙卯仲秋月自序　四周雙邊二二糎一四糎　有界十行二十二字小雙行　挿畫入

（柱心に「旌徳劉光賜刊」と刻工名あり）

*簡平儀説（第二十冊）　七九六

熊三拔(Ursis, Sabbathino de)著　徐光啓(明)劄記　萬曆辛亥秋月徐光啓序　左右雙邊二一・五糎一三糎　有界十行二十二字

（柱心に「李再禎刻」と刻工名あり）

*同文算指前編　二巻（第二十一冊）　七九七

利瑪竇(Ricci, Matteo)著　李之藻(明)演　王嗣虞・汪汝淳・葉一元(明)較梓　萬曆甲寅春月徐光啓序　萬曆癸丑李之藻序　四周雙邊二二糎一四糎　有界十行二十二字小雙行

*同文算指通編　二巻　闕（第二十二冊）　七九八

利瑪竇(Ricci, Matteo)著　李之藻(明)演　王嗣虞・汪汝淳・葉一元(明)較梓　楊廷筠序　四周雙邊二二糎一四糎　有界十行二十二字小雙行

（巻一・二を存す）

歴史科學

日本

愚管鈔　寫　七巻　七冊　七九九

慈圓著　光榮筆　袋綴　澁刷毛目薄卵色表紙　二七糎一九・五糎　用紙裏打　九行　外題中央後筆「（書名同）　一（一六・附錄）」　扉題左肩同上、「談峯諱命院印」「青蓮王府」「村岡典嗣藏書」

奥書　（扉裏）愚管鈔七巻慈鎮和尚作也　五百年忌ノ弔享保九甲□□於二青御門主一執行　元祿年中ノ光國公寫シ青蓮院尊證親王江被レ進ヲ享保第十一年丙午秋奉レ請ニ粟田口ノ御本一ヲ一謄寫了ヌ　談峰蓮光院光榮　水戸黄門

（村岡典嗣著「増訂日本思想史研究」所収「愚管抄の著作年代編成及び寫本」―参照　三〇―三七）

神皇正統記　寫　一冊　八〇〇

北畠親房著　清原賢好筆　自序　袋綴　改裝後補丹表紙　原裝茶色表紙　二五・五糎一九・五糎　十三行　八十八丁　題簽左肩雙邊(刊)後筆書名同　原外題左肩「（書名同）全」、「村岡典嗣藏書（紙票）」

奥書　右一冊者以青松軒（青松軒ノ三字後筆補記）月日　少内記賢好（花押）（墨消）　國賢朝臣　之御本於神護寺令書寫早／慶長二年十

（片假名交り「自天祖至地神五代爲甲帖、自神武至淳和爲乙帖、自仁明至安徳爲丙帖、自後鳥羽至當一爲丁帖」とせる四帖本　原外題右肩に朱書「慶長二年十月寫」巻末に「押啓ニ云親房卿制作伊勢國司先祖也神風和氣同作」との文を移寫

史學雜誌四十三編九號所収平泉澄「神皇正統記諸本の研究」―参照　三〇―三三）

神皇正統記　寫　三巻　三冊　八〇一

北畠親房著　袋假綴　共表紙　二六糎一七・五糎　九行　外題左肩後筆「（書名同）

上中下合」
奥書　享祿貳己丑仲春十五日書写早　洛之閣梨慶德尊丈至云／御秘藏色ヽ令懇望申設雖膠染之故舊不可傳写之間以誓詞／申受之者也無限之芳恩有限之以露命報之何時應盡之哉／天長地久／〳〵
識語　（第一冊見返）神宮寺密尊
（原に「本云明德五年甲戌三月十二日於東阪本田中宿所書寫之點挍了／輒不可流布之敢不可處聊示者也／法橋春全四八萬判」「明應刁年全部書寫之関東雖下向重帰山之尅文亀二五月／一日書功上西西寂輝院房閑席終功　俊尊房」「山門圓明房本借用交合功入了」と奥書あるものの寫　原著奥書に「此記者去延元四年秋爲示我童蒙所馳老筆也下略」とあり　第一冊表紙左肩後筆「呉」と墨書あり　三〇―イ元（重美）

重修神皇正統記　寫　三卷　三冊　八〇三

北畠親房著　飯田武郷・栗田寬・丸山作樂校訂　袋綴　改裝後補薄茶色表紙　原裝共表紙　二七・五糎一九・五糎　十行　題簽左肩雙邊（刊）「（書名同）上（―下）」
原外題左肩「（書名同）上（―下）卷」
奥書　（上卷）明治廿三年七月十四日與皇典講究所重修本校勘了／明治廿三年七月廿九日與白山本校合了／九月卅日原本ト校鑑了／十月廿日寫シ終ハル
（中卷）明治廿三年七月十五日與皇典講究所／重修本校鑑了／同年十一月廿日寫シ終ル
（下卷）明治廿三年七月十六日與皇典講究所／重修本校鑑了／仝九月十二日與白山本校鑑了／同十月七日與原本讀合了
（「重修神皇正統記三冊／飯田武郷、栗田寬、丸山作樂／三氏校合書入本なり」「重修神皇正統記上巻本文は丸山正彦筆、朱字／訂正は丸山作樂なり―丸山季夫氏鑒定」との森銑三筆附箋あり　三〇―イ三）

神皇正統記　寫　六卷　六冊　八〇三

北畠親房著　藤原滕撰筆　袋綴　松葉櫻梅花模様薄黄色表紙　二六・五糎一九糎
八行　題簽（第一冊のみ）左肩「（書名同）一」、「青谿書屋」
奥書　山門西塔兼金臺院當住法住院祐榮文庫／于時享保十六辛亥十月吉日／藤原滕撰書之
（原に「長享貳戊申十月吉日書之／勝宣」「于時延寶元癸丑歷應鐘十八日」と奥書あるものの寫　三〇―イ三）

神皇正統記　寫　一冊　八〇四

北畠親房著　清原國賢筆　自序　袋綴　茶色表紙　二六・五糎二〇・五糎　十三行　小雙行　八十三丁　題簽左肩「（書名同）仝」、「船橋藏書」「幽顯」「神陽臺」等
識語　（表紙左下）（清原國賢筆）青松
（片假名交り　巻初に「此記者延元四年秋」云々の序の次に「自天祖至地神五代爲甲帖／自神武至淳和爲乙帖／自仁明至安德爲丙帖／自後鳥羽至當―爲丁帖」とある四帖本　三〇―三七）

神皇正統記　寫　一冊　八〇五

北畠親房著　自跋　袋綴　改裝後補澁刷毛目表紙　原裝紙粉色表紙　二六・五糎二〇糎　十二行　百四十五丁　原外題左肩後筆書名同　内題なし、「九條」「藤」
（江戸時代初期寫　原に「本云應永四年丁丑十二月上旬書之此本少／年之時書写僻字落字等可在／之此記者北畠大納言親房卿於南方／書進　後村上云ヽ深秘于函内勿／出圍外／四旬老士實位」「押捺ニ云親房卿制作伊勢國司先祖也神風和氣同作」と奥書あるものの寫　巻末に「當帖寫目條ヽ事」とありて次に「此記者去延元四年秋」云々の跋あり　三〇―イ元）

神皇正統記　寫　三卷　三冊　八〇六

北畠親房著　自序　梵舜筆　袋綴　茶色表紙　二六糎二〇・五糎　九行小雙行　題簽左肩「（書名同）上（―下）」、「神陽臺」「幽顯」「隱顯藏」
奥書　（上卷）天正十六年九月廿三日書之畢／梵舜（花押）卅六才
（中卷）天正十六戊子年九月廿四日夜書始　十月二日書終／　梵舜（花押）
（下卷）右三冊秘中神抄皇統之／明鏡也深勿出函底／天正十六戊子十月十六日　梵舜（花押）
上卷九月八日立筆　中卷同月廿四日立筆　下卷同月五日立筆
同月廿三日終　同月十六日終
（「自天祖至地神五代爲甲帖／自神武至淳和爲乙帖／自仁明至安德爲丙帖／自後鳥羽至當―爲丁帖」とある四帖本　原に「親房卿制作伊勢國司先祖也祖神風和記

同作」「此記者北畠大納言親房卿於南方書進／後村上院云々深秘于函内勿出閫外」と奥書あるものの寫　三〇―イ四二）

神皇正統記　寫　四冊　八〇

北畠親房著　袋綴　澁引表紙　二七糎一九・五糎　十行小雙行　外題「（書名同）甲帖（一丁帖）」、「鴨林藏書（陰刻）」（江戸時代末期寫　原に卷一甲帖尾題の次に「文安五年十二月廿日」、丙帖同「文安六年七月六日」、丁帖同「文安六年七月十一日」、丁帖卷末に「文安六年七月十一日於比叡山西塔東谷現光院令／書寫早」と奥書あるものの寫　第一冊卷末に「諸神秘抄之事」三丁、第四冊卷末に「聞書」等四丁を附記　三〇―イ四五）

神皇正統記　寫　五冊　八一

北畠親房著　自序　袋綴　澁刷毛目表紙　用紙雲母引　二八・五糎二一糎　十行小雙行　題簽左肩金泥下畫「正統記　一（一五終）（後筆にて上に「神皇」の二字を朱書補記）」、「新田家藏圖書」「阿波國文庫」奥書　（第三冊）任本書寫之早（江戸時代初期寫　第一冊表紙右肩紙票墨「國史十一」「正史」　三〇―イ四七）

神皇正統記　六卷　六冊　八二

北畠親房著　袋綴　縹色表紙　二六糎一八・五糎　四周單邊二一・五糎一六糎　十行小雙行　題簽左肩雙邊「神皇正統紀　卷之一（一六）（丁數）」、「西莊文庫（小津桂窓筆「花百一全六」と黒書せる紙箋に捺印）」刊記　慶安弐歴仲春／風月宗知刊行（ママ）識語　（沖森直三郎筆）前略羅月庵尾崎雅嘉大人書入（書入あり　三〇―イ四九）

神皇正統記　寫　三冊　八三

北畠親房著　袋綴　藤色表紙　二七糎二二糎　十一行　題簽左肩「神皇正統記自神武（自光仁・自後鳥羽）至桓徳（至安徳・至後村上）上（一下）」、「青蓮王府」「青谿書屋」等奥書　（上冊）（朱）寛永第七年臘十有七挍了（中冊）（朱）寛永第七年臘十有七挍了（下冊）寛永七年臘月十有一挍了（原に「本云應永四年丁丑十二月上旬書之此本少年／之時書寫僻字落字等可在之此／記者北畠大納言親房卿於南方書／進　後村上院云々深秘于函内勿出閫外（ママ）／四旬老士實位」「押帋云親房卿制作伊勢國司先祖也神風和氣同作」、朱書「本云清外記以或本イ（此二字朱書）本朱點挍合等早後伏見院以後不見又神代之儀今度写之加之也／慶長十二年七月九甲帖日」と奥書あるものの寫　第三冊末に「當帖篇目條々事」とありて次に「此記者去延元四年」云々の跋あり　第一冊末に「（イ本）として「神皇實録」「神皇系圖」「天口事書」を引く　帙に「青蓮院尊純法親王奥書」と識す　史學雜誌四十三編九號所收平泉澄「神皇正統記諸本の研究」―参照　三〇―イ五一）

神皇正統記　寫　一冊　闕　八二

北畠親房著　綴葉裝　表紙闕　用紙鳥の子　二八・五糎一九糎　七行小雙行　二十四丁（諏訪本　室町時代初期寫　片假名交り　所々室町時代中期の朱筆にて漢字に訓讀を施し行間に注文を書き入れたり　本紙に缺損多し　宮地直一著「諏訪史」―参照　三〇―イ五三）（重美）

續神皇正統記　寫　一冊　八三

小槻晴富著　袋綴　改裝後補薄樺色表紙　原裝共表紙　二七糎二一・五糎　十一行　十三丁　題簽左肩金紙後筆「神皇正統記追加（文明寫本全）」　原外題左肩書名同上内題なし、「吉田家藏書印」奥書　文明壬寅夏五庚午之日（二日（此二字別筆））書写早（原に「奥書云神皇正統記至／後醍醐院全部也／光嚴院以来継嗣大概加載之爲備老後之／忽忘也敢不及外見矣／散位小槻判」と奥書あるものの寫　卷末に「壬寅四廿五　正／統記近代分為老後覺悟／書續候間外見甚不可然憚存候／雖然就無令等閑随令發進／覽申候朝期申展候　式日大夫殿　凡下／□」とある書簡寫を合記す

三〇―イ三五）

神皇正統錄　寫　四巻　四冊　八一三

袋綴　青色表紙　二三・五糎一七糎　十二行十四字小雙行　見出を上記す　題簽左肩「（書名同）一（―四）」　尾題「正統録」、「阿波國文庫」「不忍文庫」

（江戸時代中期寫　表紙右肩紙票墨「國史七」とあり　三〇―イ四三）

讀史餘論　寫　三巻　三冊　八一四

新井君美著　袋綴　縹色表紙　二七糎一八糎　十行小雙行　題簽左肩「（書名同）天（地人）」、「村岡典嗣藏書」等

（江戸時代中期寫　巻末に「右三冊正徳壬辰春夏之間坐を賜りて古今を／論し申せし時の講章の草本也　源君美」とあり　朱書校異あり　三〇―イ七）

讀史餘論草稿殘簡　寫　一帖　八一五

新井君美著　自筆　折本　古裂表紙　二七糎三三糎　二三・五糎一五糎の臺紙に十六行の袋綴紙十一丁を見開きにして貼附　六折

識語　往年友人狩野君亨吉爲京都帝國文科／大學長而來于洛一日采訪其寓居矣白石先生／讀史餘論草藁二三十葉示于余〻賞鑑／半日臨園乞本在一帋君脱惣分十餘葉見贈／此帖是也其言曰此本在先生遠裔某家采／訪披獲之惜桑雪本而損甚矣乃改裝以／爲一帖而所得其外皮秘藏十餘年近者得古／錦轉佳者因命工裝之顧先生著書之多／實爲道春以來之一人而至其精爲則三百／餘種之書公躬執策観此可以推其巻墨／且先生國字之輕妙空々韻筆〻飛動力／徹寔未船以非成於人力春世人之獲斷翰／零墨以比拱璧如何受□今得其零本／以頒同好狩野君之志可謂慶其裝成因／一言識之以告于後昆云大正壬戌冬十一月仲／二書於朝鮮總督府學中乍晴□南牕下　□□稼堂散人（印）

（建武元弘の條十一丁分を存するも破損多し　三〇―イ二五）

日本外史稿本　寫　二十巻　二十冊　闕　八一六

頼襄著　關藤藤陰等筆　大和綴　改裝後補小紋代赭色包表紙　原裝共表紙　用紙裏打　二五糎一七糎　九行十八字　題簽左肩「外史一（―二十）」　原外題「日本外史一（―二十）」　内題なし

箱書（表）外史　自筆稿本廿冊

（裏）此書有故余珍藏焉／今茲弘化二年乙巳正月／吉日贈生長子審君以／壽其四十初度云／鳧翁拜具

（朱白青墨にて縦横の自筆補訂書入同附箋多し　別に草稿斷簡七葉及び「詠史詩」一軸を添附す　森田思軒著十二文豪本「頼山陽及其時代」―參照　三〇―イ五五）

○

五事略　寫　一冊　八一七

新井君美著　本居宣長書入　袋綴　紺表紙　二六・五糎一八・五糎　十行小雙行　六十八丁　題簽左肩「五事略　完」　目録題「事略」　内題なし、「鈴屋之印」「西莊文庫」

奥書　安永四年乙未八月十日書写挍合畢　本居宣長（花押）

（原に「外國通信事略」末「尚賢按采覧異言者記番國之事琉球國／事略者録中山之事皆白石子所著也嘗／謄寫之而藏乎琢齋頃又得中山傳信録之／刊本盖不在事略之下焉今至前件寫畢／之時附之云」、次に「中華並外國」「外國西洋」を附載し巻末に「尚賢按十五省並外圀之事也者求林齋／西川氏嘗著四十二國人物圖説及華夷／通商考大氐詳之有刊本在焉可就看已」、「明和六年己丑夏五月以谷川翁所藏之／本謄寫之／琢齋　洞尚賢藏書」と奥書あるものの寫　三〇・〇一―イ一）

○

新撰三國運數符合圖　寫　一冊　八一八

卜部兼倶著　自筆　袋綴　茶色表紙　二七糎二二・五糎　天地單邊二五糎　有界八行四段配字　二十六丁　外題後筆「兼倶卿撰（書名同）全」

識語　元亀二年六月四日修補之撰者之御自筆尤可／爲證明矣　右兵衛督兼右（花押）五十六才

（内題の下に「亦名三光雙覧抄」とあり　紙背消息文　三〇・〇三―イ五）

年代記　寫　一軸　八九

巻子本　改装後補紺表紙　二八糎一米六〇糎　一紙三九糎　天地單邊二五・五糎（天界より低一・二格に横一界を引）押界二十七行　外題（別紙後補）「（書名同）」　識語（見返）年代記　自村上帝天暦元年至後冷泉帝寛徳二年／自寛徳三改元永承元年一巻并裏書考證　自後冷泉帝永承元年至崇徳帝永治元年（此八字）零巻（朱書）　以扶桑略記百練抄一代要記歷代編年集成或云帝王編年記所校不同也（此二行）（朱書）　東京片野四郎氏藏再寫本　本谷森真男氏透寫アリ

（鎌倉時代中期寫　紙背に承久元年云々の記事ある丹波國大目保訴訟文書等あり　首尾斷闕　記事後冷泉院永承七年より永治元年に至る　三〇・〇三―一三）

重撰倭漢皇統編年合運圖　二冊　八〇

圓知著　袋綴　菱目繋丹行成表紙　三〇糎二〇・五糎　四周單邊二五・五糎一七糎有界十一行低一格二十五字小雙行　題簽後補左肩墨「和漢合運　上（下）」　柱刻黒口「帝系略（年代紀上　同下）（丁數）」

（古活字版　元和期刊　末尾紀年號は慶長辛亥十六年に終り、更に追加して元和に及ぶ　三〇・〇三―一一）

○

錦所雜記　寫　一冊　八一

太田錦所著　自筆　袋綴　改装後補青色表紙　原装共表紙　二五・五糎一五・五糎二十丁　原外題左肩書名同、「大田氏圖書」「木郁」「清野文庫（紙票）」等

識語　（原表紙見返）この冊子大正九年六月十五日朝東京帝國／大學工學部建築學教室にて友人木村／貞吉氏より贈らるゝものなり／大正九年六月十五日　整三しるす

贈清野先生／昭和十九年二月　整三

（三〇・〇七―一三）

古瓦譜　寫　二冊　八二

藤原貞幹著　自筆　自拓　安永丙申立秋日自序　袋綴　薄鶯色表紙　二七・五糎一九糎　外題左肩「（書名同）　乾（坤）」　内題（乾巻）書名同　（坤巻）「佛刹古瓦譜」、「無佛齋」「千財」「清野文庫（紙票）」

（乾巻内題下に「左京藤原貞幹輯」、同坤巻に「平安福千財輯」とあり　三〇・〇七―一二）

七種圖考　寫　七巻　三冊　八三

藤原貞幹著　自筆　安永戊戌冬至日自序　袋綴　澁刷毛目表紙　用紙薄樣　二七・五糎一九糎　題簽左肩「（書名同）　天（一―人）」、「無佛齋」「柳川藩邸圖書府印」「椎木文庫」「清野文庫（紙票）」

（内表紙題下に「壱弐（参肆伍下・陸柒附録）」とあり　七種とは一輿地、二都城官制、三飲饌、四禮服、五錢幣度量、六璽章、七碑誌古瓦をいふ　三〇・〇七―一五）

田嶋石經記　寫　一冊　八四

阿部龍平・梶原善太夫著　袋綴　代赭色布目表紙　二六・五糎一八・五糎　十二行小雙行　二十九丁　題簽左肩「（書名同）」　文化十二年九月以藩命梶原善太夫阿部繼平調査而記之　全」、「畫禪齋」「江藤文庫」「清野文庫（紙票）」等

奥書　明治十六年七月以長野和平所藏本／托相川錠吉令謄寫焉／隨神舍主　正澄識（印）

識語　江藤正澄嘗任大和神社大宮司矣／任石上神宮小宮司故屢相會集／正澄氏没後遺書散佚入予手／者有數冊此書即其一也／鐵齋外史記（印）（三〇・〇七―一九）

徵古類要第四輯　寫　一冊　八五

根岸武香著　自筆　明治十三庚辰六月自跋　袋綴　薄赤縞目表紙　二四糎一七糎七十丁（四周雙邊有界十行朱罫紙を交ふ）　題簽左肩雙邊（刊）「（書名同）　金石之部、雜公文、第四輯　完」

識語　（帙紙箋）根岸武香ハ埼玉縣の百穴附近に住した／考古家で人類學會長であつた事あり。／逝去した時に人類學雜誌で記念号を／刊行したからその傳記は記念号に記／してある。此本ハ武香自筆の雜記帳／である。昭和廿四年二月　清野謙次記

（目録題の下に「静軒根岸松雄纂輯」とあり　三〇・〇七―イ七）

○

近江國愛智郡司解　寫　一軸　八六

巻子本　改装後補茶色地雲龍文金襴表紙　見返金紙　用紙裏打　二九・五糎一米二八糎

端書　愛智郡司解　申百姓賣買墾田立券文事

賣買兩人署　墾田主大藏秦公廣吉女（以下天長二年十月三日擬主帳外少初位上平繁益長）

證人署　承和八年八月十一日清江宿弥夏有／證人依知秦前公秋麿（以下略）

（全紙朱方印を捺すも印文不明　竹内理三編「平安遺文」第一巻、「近江愛智郡志」巻一―參照　三〇・〇八―イ五三）

鹿島文書　寫　二軸　八七

巻子本　改装後補濃茶色絹表紙　見返金切箔散　三七・五糎

箱書「茨城縣新治郡土浦町色川藏書」

（三〇・〇八―イ九）所収次の如し

第一巻

春日神幸之古記

奥書　神護慶雲年中春日神幸之古記天明六午年從五位下則房／上京之節南都春日ニ而求之誠ニ其本紙古記與相見候ニ付寫之早

（原に「寶亀十一年八月三日中臣駄栗連時風記之」「神護慶雲神幸記寫」とあるものの寫）

正月廿五日　大宮司宛　利（花押）書翰

三月三日　鹿嶋大宮司宛　嶋田次兵衛利正書翰

三月十二日　大宮司宛　本傳三郎書翰

五月廿一日　鹿嶋大宮宛　正木彌九郎内緒方加賀書翰

五月廿六日　大宮司宛　細修理亮康見書翰

七月五日　鹿嶋神主宛　鹿嶋大宮司宛　養政書翰

七月十七日　鹿嶋大宮司宛　仝阿彌書翰

八月八日　鹿嶋大宮司宛　北河原半也書翰

八月十三日　鹿嶋大宮司宛　嶋兵四郎書翰

八月十五日　鹿嶋大宮司宛　嶋彈正利政書翰

八月十九日　鹿嶋神主宛　小野伯書翰

九月二日　鹿嶋大宮司宛　嶋田彈正利正書翰

九月五日　大宮司宛　以柏重書翰

九月十九日　神主宛　則安書翰

十月六日　鹿嶋中務宛　廣庭中務少輔書翰

十月十三日　大宮司宛　細修理亮康重書翰

神無月廿一日（宛名闕）南条帯刀則勝書翰

十一月十日　鹿嶋神主宛　他阿彌陀佛書翰

十月十七日（宛名闕）鶴見彌介書翰

霜月十四日　大宮司宛　細修理亮康重書翰

十一月廿七日　大宮司宛　富彦兵衛正茂書翰

極月十三日　大宮司宛　與一郎朝□書翰

極月廿日　鹿嶋大宮司宛　嶋田彈正書翰

第二巻

正月七日幣馬幣牛之事

正月十一日　鹿嶋大宮司宛　皆川志摩守書翰

大祝申上書狀案

廿五日　大宮司宛　彦□書翰

正月廿八日　鹿嶋大宮司宛　鶴見□□書翰

三月十八日　鹿嶋大宮司宛　千葉權介安胤書翰

鳥居寸法書（端書別筆「古キ鳥居之書付」）

三月晦日　大宮司宛　勝茂書翰

寛永十九年初月十七日　大宮司宛　寛啓寺申上書

五月八日　ちそくゐん宛　北の丸銀子寄進狀

元和五己未五月十日　鈴木近江守宛　山科三位内雜掌狀書狀寫

五月十四日（宛名闕）仝阿彌書翰

五月廿四日　鈴木近江守宛　ぬし又五郎在判書狀寫

八月日　鹿嶋大宮司宛　飛鳥井雅教書翰

八月廿二日　神主宛　真壁道俊書翰

九月三日　鹿嶋大宮司宛　嶋弾正利正書翰
七月六日　大宮司宛　蘆伊賀書翰
九月八日　鹿嶋大宮司宛　加々民部書翰
九月十一日　鹿嶋大宮司宛　伴鵬齋長珊書翰
九月廿二日　大宮司宛　中雅樂佐信吉書翰
十月廿七日　大宮司宛　三長門守書翰
十一月九日　鹿嶋大宮司宛　中御門家本城金□書翰
慶長拾九甲寅年霜月廿七日　大宮司宛　惣近秀定書翰
極月廿一日　鹿嶋神主宛　藤原重通書翰
社例傳記祕説（後闕）

河内國大税負死亡人帳　寫　一通　八六

二六・五糎　一三・五糎　天地單邊二〇・五糎　有界九行三段　題簽後補「天平記年河内國戸籍」

（「河内國印」六顆を印す　各戸主天平九年死の月日を記す　紙背文書「美努船長寫大菩薩經疏第十巻／用紙廿九張／天平廿年四月十日式部省位子美努船長」とあり「聆濤閣帖」「大日本古文書二十四（補遺一）」―参照　三〇・〇八―一五五）

〔寄進狀田券等〕法隆寺關係文書〕　寫　十二通　一軸　八九

巻子本　改裝後補鶯色地唐草模様金襴表紙　三一・五糎四米八〇糎　用紙裏打（三〇・〇八―一七九）

所収次の如し

法隆寺幸前沽却水田新立券文事
永祿三年庚申八月廿九日　幸前楢千代（花押）／同覺弘／口入三郎五郎／同孫四郎（花押）

播摩田沽却水田事
正嘉元年丁巳十二月日　藤井（花押）／嫡男僧定舜（花押）

奉寄進護摩堂御影供方料田事
應仁三年己丑卯月二日　大法師舜清（花押）

沽却麥大豆造之事
文正元年丙戌六月十八日　賣主印誓（花押）／證人覺弘（花押）／幸前覺（花押）

櫻池浦預申下作分職事
明德三年壬申卯月廿八日　河西介次郎（花押）

うりわたす一つきうまいの事
おうあん二二ねん壬三月八日かのとのい　しやミゆうあ（花押）

沽却竹原田一段作主券事
正和五年丙辰十二月廿日　僧眞慶（花押）

播摩田沽却水田新立券文事
建治元年二月廿日　賣人（花押）

播摩田沽却田地新立券文事
建長三年辛亥十二月廿六日　賣人（花押）買人

平群郡坂門郷沽却田地新券文事
安貞三年己丑二月十六　賣人（花押）弟子（花押）

嚴融謹解申私領畠地紛失狀立新券文事
養和元年辛丑十二月四日　僧嚴融　權都維那師大法師（花押）都維那師大法師（花押）權寺主大法師（花押）寺主大法師（花押）權上座大法師（花押）上座大法師（花押）所司　五師　傳燈大法師（花押）（以下傳燈大法師四名花押連署）

平群郡謹解申賣買家地立券文事
寛仁貳年三月廿一日　賣人丹治比□／買人法隆寺僧（花押）

謹解申進所寫疏用紙事　寫　一通　九〇

二八糎九・五糎　四行

端書　謹解申進所寫疏用紙事
署記　天平十九年六月廿六日　柏原大嶋
（三〇・〇八―一七）

九條家文書　（八三―八五）

（三〇・〇八―一七七）

所収細目次の如し

*貞信公御記抄　寫　十軸（一）　公三

藤原忠平著　巻子本　改装後補納戸色表紙（第八巻紺表紙）　用紙裏打　天地單邊二五糎（低一格に今一界を引）　一紙五六糎　約二十五行　外題（第八巻）後筆「貞信公御記第十八　天慶八年」

奥書　（第九巻）一交了

（第十巻）一挍了

識語　（第一巻）取目録了（花押）

（第四巻）（朱書）建保四年九月十六日首書了（花押）

（鎌倉時代初期寫　數筆を交ふ。巻四に朱首書、巻九に墨首書、巻七初に内容要目を記す　東京大學史料編纂所編「大日本古記録」「貞信公記」—參照）（重文）

*九條殿御記　寫　三軸（二）　公三

藤原師輔著　巻子本　改装後補白表紙　用紙裏打　二七糎　一紙五〇糎　二十五行小雙行　外題後筆「（書名同）年中行事（部類年中行事　二）」　内題「年中行事（同二）」（第三巻内題なし）

奥書　（第一巻）校了

（第二巻）目挍了

（第三巻）挍了

識語　（第一巻）此記者前右丞相師輔公御記乎秘藏ミ／從一位藤原朝臣兼孝

（同内題の次に右同筆）此外題者九條殿別記ト有之　是師輔公乎

（巻二・三は寛弘元年・永長二年等の紀年ある文書等の紙背を用ふ）（重文）

*九條道家奏狀　寫　一軸（三）　公三

九條道家著　九條基家筆　改装後補深納戸色綾表紙　見返金銀切箔散　用紙裏打　二八糎　一紙四四糎　十七行

端書　一　任官敍位事

署記　天福元年五月廿一日從一位藤原朝臣道家

（巻首裏書「龜殿御筆任官敍位事傳領兼孝」）（重文）

*皇嘉門院御處分狀並後白河法皇勅報　寫　一軸（四）　公三

巻子本　改装後補白表紙　三二・五糎　外題「御惣處分狀」次に外題に「□御惣處分狀□」とありてその見返に九條兼實筆「養和元年九月廿日自／女院被經院□之勅報也／即端于續加之了後代／龜鏡何事過斯哉可／神秘ミミ／（花押）（花押に押紙して「月輪殿御判」）」とある別一紙を繼ぐ

（本紙第一）後白川院宸筆假名狀

（押紙「後白川院御本」）

（同第二）皇嘉門院筆假名所領狀

（押紙「皇嘉門院御本」）（文末押紙「至于此所者皇嘉門院御筆也」）

（同第三）皇嘉門院御莊園目録

（文首押紙「此御庄之目録季長奉仰書之」）

（同第四）九條兼實讓狀

端書　入道殿御筆被奉女院三ヶ□

（押紙「此端書ハ故入道殿御手也」）

（本文押紙「故法性寺殿御筆也」）

（同第五）皇嘉門院假名狀

（文初押紙「此假名ハ皇嘉門院御本也」）

（同第六）顯朝卿記

（押紙「如顯朝卿記録者後鳥羽院宸筆／可在之轉ミ之失錯欤無念ミミ／仍彼記爲後誂加左了永正丙子（花押）」）

（奥に「弘安七年六月十日　小僧行—／御判」とあるものの寫）

識語　（巻末別紙繼紙）以此記云者圓明寺攝政爲嫡家之由心／躰之云云ミ者當家□彼家禪閤子与一／家也于時右府者廿余歳也前攝政卅歳矣／中略永正十三年十月十一日藤（花押）

右被注子細一帋者／後慈眼院殿下御筆也／誠於家門可相傳者乎／于時寛永十八年二月廿二日記之／右大臣（花押）（九條兼孝）

（「古文書時代鑑」—參照）（重文）

*九條兼實惣處分狀　寫　一軸（五）　八三五

九條兼實自筆　巻子本　改装後補白表紙　原装共表紙　用紙裏打　三一糎　一紙
五二糎　外題後筆「月輪殿自筆御處分狀」
端書　宜秡門院
奥書　元久元年四月廿三日／攝政／沙弥（花押）／攝政
識語　（別紙繼紙）光明院領被入故殿御分之中件所者禅／閤御母儀領也而両殿御
没後山井尼公横以件／寺被吉水僧正是爲議其子良快僧正也甚以可謗／弁暴然而
不云一言黙止了有所思也／嘉祿三年十一月十六日記之（押紙ニ塞殿）（花押）（重文）

慶信田地處分狀　寫　一通　八三六

二九糎四一糎　十二行
端書　處分　田地事　（次に）奉寄進上宮王院早／合壹段者字細井本／在条里坪付
本券面
署記　嘉禎四年戊戌十二月三日　僧慶信（花押）
（三〇・〇八―イ六三）

興福寺僧印教處分狀　寫　一通　八三七

二九糎四七糎
端書　處分与　田地事　（次に）合壹段者田中宮寺御領也在四至本券之面
署記　壽永弐年癸卯五月廿日　僧印教
連署　収家（花押）（以下同）一弟子僧／二弟子僧
（三〇・〇八―イ三五）

沽却水田作主新立券文事　寫　一通　八三八

三〇糎四六糎
端書　沽却水田作主新立券文事／在大和國平群郡三井庄内字池内鹿田池之北之上夏目ノ三角田也
署記　永和二年丙辰十一月廿三日　字鶴女（花押）／左近太郎（花押）／證人　慶
宗（花押）
裏書　御影供料田券文
（三〇・〇八―イ三一）

沽却水田新券文事　寫　一通　八三九

三〇糎四〇・五糎　十行、「聆濤閣鑑藏記（陰刻）」
端書　沽却水田新券文事／合壹段者字細井本奉寄進上宮王院早／四至条里坪付等本
券面在之
署記　正應二年己丑卯月　日　乙允（花押　以下同）／嫡男
裏端書　ホソヰカモトノフミ
（三〇・〇八―イ六五）

沽却水田新券文事　寫　一通　八四〇

三一・五糎五一糎
端書　沽却　水田新券文事（次に）合弐段者字鹿皮（下に別筆にて）此内於一段平
□子／賣渡了
署記　承久參年歳次辛巳潤十月廿三日／賣人中臣（花押　以下同）／嫡男同
裏書　奉施入上生院状如件
上宮王院御行ヘ不參之衆僧ゟ神文□進
（木紙右下に「大勧進僧慈榮／僧聖西」とあり、大和王寺放光寺上生院宛の状
三〇・〇八―イ三九）

西念米寄進狀　寫　一軸　八四一

掛軸　四六・五糎　原寸三〇・五糎四四糎　十二行
端書　先右馬允入道西念渡進米事
署記　仁安四年己酉三月廿六日先右馬允入道（花押）
（上宮王院修二月會莊嚴餅花料米壹斛寄進狀　三〇・〇八―イ五一）

三昧田御領百姓鷲松丸謹重弁申狀寫　寫　一通　八四三

二九・五糎八五・五糎、「蒹葭堂」
端書　三昧田御領百姓鷲松丸謹重弁申／欲早被行不實寄沙汰咎得鷲松丸舍弟證筭淨顯／真致盜訴田地壹段間事
（記年「應長元年十二月　日」とあり、略々同時代寫　三〇・〇八―イ三）

四條家記錄　寫　二十四冊　八四二

袋綴　改裝後補遺引布目表紙　原裝共表紙　用紙裏打　二五糎一七糎　五行（第十八冊より十行青罫紙を用ふ）　題簽左肩後筆「四條隆謌四條家記錄　一（―廿四）」（第二冊以下書名同）　原外題（第一冊）「明治四辛未歲正月元日以降／御記錄／執事」（第三冊）「明治五壬申年正月ヨリ／五月卅日迄之分／日誌」（第六冊）「明治九丙子年／役場日誌／名古屋出張」（第十一冊）「明治八乙亥年第一月／日記／那護屋出張」（第十三冊）「明治十一戊寅年／役場日誌／名古屋出張」（第十五冊）「明治十二年／日誌／存名古屋」（第十七冊）「明治十四年自一月至十二月／日誌／仙台出張」（第十八冊）「明治十六年／日誌／四條家役場（印）」（第十九冊）「明治十七年／日誌／一月」（第二十冊）「明治十八年／日誌／一月發且」（第二十二冊）「明治十九年／日誌／一月發且」（第二十三冊）「明治二十年／日誌／一月發且」　内題なし
（三〇・〇八―イ六）

四條隆謌日記　寫　三十二冊　八四四

四條隆謌著　自筆　袋綴　改裝後補薄茶色綾表紙　原裝澁表紙　用紙裏打　一一・五糎至一三・五糎一七糎至一九・五糎　十五行至二十六行　題簽左肩書名同　原外題（嘉永三年至文久二年―第一至十三冊）「日記雜々」（慶應四年―第十四・十五冊）「仙臺追討總督府日記甲・乙」（第十六・十七冊）「奥羽追討總督府留丙・丁」（慶應四年―第十八・十九冊）「海陸軍務御沙汰書甲・乙」（第二十冊）「廻章留」（第二十一冊）「諸藩御警衛人数届書控」（第二十二冊）「伏見練兵場」（明治二至四年―第二十三冊至二十八冊）「陸軍將留公私共甲（―丁）・一（―二）」（第二十九冊）「名古屋鎭臺日誌」（第三十冊）「公家便覽」（第三十一冊）「文久二年補任歷名」（第三十二冊）「諸家傳四條家山科家」
（三〇・〇八―イセ）

寫經所食口帳斷簡　寫　一通　八四五

四周裁斷　二九糎一八・五糎
（寶龜三年七月九日同十日記年文書「經師廿七人　裝潢四人已上卅一人二升　校生五人四人一升六合　一人八合」以下七行を存す　三〇・〇八―イ三）

大法師覺祐請狀　寫　一通　八四六

二九糎四一糎
端書　法隆寺上宮王院彼岸四十八巻阿弥陀經料田事
署記　寬應元年庚卯月二日日　大法師覺祐（花押）
裏書　□□幸前ヲサリフミ彼岸四十八巻文
（三〇・〇八―三七）

太政官符　寶龜三年　神祇官宛　寫　一通　八四七

四周裁斷　二九糎五二糎
端書　太政官符神祇官／應奉幣帛神社事
署記　參議正四位下行右大辨兼右兵衛督越前守藤原朝臣百川（百川の二字自署）／左大史正六位上會賀臣眞綱（眞綱の二字自署）／寶龜三年十二月十九日
（太政官印十數顆を捺す　日本上古史研究第一巻第十三號所収田中卓「新たに世に出た『寶龜三年太政官符』」、ビブリア第十七號所収大内田貞郎「本館収藏寶龜三年大政官符について」―參照　三〇・〇八―三）

天正六年以來關白詔勅書　寫　一冊　八四八

袋假綴　白紙表紙　用紙斐紙　二九・五糎二一・五糎　八行　二十三丁　外題中央書名同
奥書　寬永十二年九月十二爰以爲經卿自筆／写畢
（三〇・〇八―イ三）

天平十五年大和國弘福寺田數帳　寫　一通　八四九

冷泉爲恭筆　用紙裏打　四〇糎八四糎　天地單邊二五・五糎　有界三十七行約二十八字小雙行　外題後筆「冷泉爲恭所摹天平十五年田券」（ママ）

（原に端書「弘福寺川原寺□四年　歳次壬午」（ママ）　署記「長官從四位下守右大辨勲十二等紀朝臣飯□」（ママ）「天平十五年四月廿二日主典正八位上行主計大屬海首揖賀下略」裏書「山背國久世郡天平十四年寺田口主典正八位上海主伊布賀」印記「山背國印」とある文書の影寫　巻末「三綱上坐神照師知事緣善師□維那恵興師等時受取」（ママ）とあるに「為恭按此一行廿二字大師御筆欤字々／光明照十方墨色／清淨如金瑠理」と頭書す　三一〇・〇八―イ七五）

天平餘光　寫　一帖　八五〇

折本　蒲色花葉織文表紙　雲母引臺紙に貼込　三五糎一七・五糎　七折　題簽中央後補書名同　前後見返に天平佛像を拓摺、「上野私印」

（三一〇・〇八―イ一九）

所收次の如し

古文孝經序斷簡

孔安國(漢)傳　用紙黄楮紙　天地單邊二三糎　有界十七字

（奈良時代寫　題一行以下本文三行計四行を存す　紙背に經師給祿文書あり）

古寫經斷簡

用紙黄楮紙　二八糎一〇・五糎　十三字

署記　長谷部寛萬侶

（奈良時代寫　三行を存す　紙背に經師給祿文書あり）

古寫經斷簡

用紙穀紙　天地單邊二一・五糎　有界十六行

署記　音太部乙嶋

（奈良時代寫　三行を存す）

古寫經斷簡

用紙黄楮紙　二七糎八糎　十七字

署記　忍坂和麿

（奈良時代寫　三行を存す　紙背に經師給祿文書あり）

古寫經斷簡

用紙穀紙　天地單邊二一糎　十四字

署記　香山連久須麻呂

（奈良時代寫　六行を存す　紙背に經師給祿文書あり）

既母白麻呂受奉寫經文書

用紙白麻紙　二八・五糎一一・五糎

題記　既母白麻呂受奉寫　雜經六巻　現用紙百九枚

奥記　天平廿年五月廿四日

（六行を存す）

東大寺大佛殿御常燈料所田畠等記錄　寫　一軸　八五一

巻子本　表紙闕　原裝包布　檜材往來軸　三三糎一九米　一紙五三糎　天地單邊三〇・五糎　三段十八行　包布外題書名同、「谷森藏書」

奥書　右大概記録如件／永仁貳年三月日御燈聖信性（花押）

（往來軸頭に本文同筆「大佛殿／御燈田／永仁二／二月日」とあり　各用紙の繼目裏に奥書に同花押を署す　横廓三段の中、概ね上段に田地段別、中段に地子、下段に作人を記す　三一〇・〇八―イ一五）

東大寺八幡新造屋古文書　寫　三冊　八五二

森田良見筆　袋綴　朽葉色表紙　三二・五糎二一糎　題簽右肩「（書名同）上（―下）」（第一冊内表紙）「東大寺八幡宮新造屋藏天保五年甲午四月十七日開扉内見之中／。雜々文書。両部分為別冊（此六字朱書）／。元興寺三論供家近江國愛智庄文書」（第二冊同上）「東大寺新造屋藏軸文書寫」（第三冊同上）「東大寺八幡宮新造屋藏天保五年甲午四月十七日開扉内見之中／奴婢籍帳附屬文書或柾杉之文匣或桐之長箱／或青漆沈金辛櫃彼比散在／不易一集（此二十六字朱書）」、「森田藏書」「自愛珎書不許他出」

奥書　右古文書三巻奈良東大寺鎮守八幡宮新造舎／所藏之寫也當社八幡宮者所謂奈良朝／　高野天皇天平勝寶元年宇佐八幡大神依託宣／迎于東大寺見國史是也今此古文書寫三巻山城／國乙訓郡向神社神主六人部是香宿祢之所藏／而其原本者京師穗井田靱負忠友嘗所摸／寫也今友人淺野茂幹共借六人部氏之藏本／而摸

寫之且參考之于國史等聊以朱加／考証早／嘉永七甲寅年二月柿園舍森田良見（花押）（墨印）

（「良見按」の朱書入多し　三〇・〇八―イ七）

東蓮光院坊舍寄進狀　寫　一通　八五三

三〇糎三九・五糎　十一行、「聆濤閣鑑藏記（陰刻）」

端書　奉寄進　東蓮光院坊舍間事（次に）合貳宇者」一宇客殿　一宇雜舍

署記　應永十三年丙戌十月八日／于時／堂司實秀大法師／一臈繼乘大法師

裏書　東蓮光坊舍寄進狀

識語　（右肩押紙）應永文政七年迄四百六十四年

（三〇・〇八―ハ二）

年中例宣命　寫　一冊　八五四

袋綴　砥粉色表紙　二七・五糎二〇糎　六行約十六字　十三丁　外題左肩靈元院筆「宣命集」

（江戸時代初期寫　帙題簽「靈元院宸筆外題　宣命集　水谷川家舊藏上寫本」　三〇・〇八―イ二）

保安二年官物返抄案　寫　一軸　八五五

卷子本　花鳥織文深納戸色表紙　見返金砂子散　四〇糎一米七五糎の臺紙に貼附（各紙繼目裏に朱花押あり　三〇・〇八―イ三）

所収次の如し

保安二年私吉名官物返抄案　爲國名保安二年返抄案

保安二年末貞名返抄案　重元名保安二年返抄案

黒田莊忠作重元名官物返抄案　保安二年黒田庄忠作重元名官物同

保安二年□□名官物返抄案　保安二年官物返抄案

保安二年延貞名返抄案　成元名保安二年返抄案

豊太閤高麗陣之軍令狀　寫　一軸　八五六

掛軸　七〇糎一米三〇糎　原寸四四・五糎六八・五糎

宛書　羽柴岐阜宰相とのへ／羽柴丹後少將とのへ

日付　三月十三日（糸印）

（紙筆書　極書に「豊太閤高麗陣／軍令書／明治三十二年六月小杉榲邨鑒（印）」とあり　三〇・〇八―四七）

法隆寺政所充行狀　寫　一通　八五七

三〇糎一米一八糎

端書　法隆寺政所／充行住房敷地壹處事（次に）在寺内南倉町内丑寅角

署記　永久二年十二月廿五日／別當權少僧都慈慶（花押）／件房敷地政所御斷文明白也／

仍所司等加署名之／　權都那法師（花押　以下十名花押連署）

加判　政所御證判之上所司等／加判行明白也仍五師等与判如件／大法師（花押　以下五名花押連署）

（用紙繼目裏に花押あり　法隆寺印十顆を捺す　三〇・〇八―イ二九）

松永久秀書狀　寫　一通　八五八

松永久秀自筆　一六・五糎五一・五糎

宛書　五月十八日久秀（花押）／修南院

表書　松永彈正少弼／修南院參御返報　久秀

（三〇・〇八―四五）

松若丸料田寄進狀　寫　一通　八五九

三一糎四二・五糎　十三行

端書　奉寄進上宮王院僧方忌日料田事（次に）合壹段者法隆寺岡本領内九口支配可有之／四至坪付等本券面在之

署記　文明十二年庚子十二月廿二日孝子幸前松若丸（花押）

（三〇・〇八―五七）

山城玉井御庄水論解　寫　一通　八五〇

二九糎六四糎

端書　玉井御庄住人田堵等解　申重請本寺政所裁事／請被殊蒙　恩裁任前例沙汰給作田分水為井手寺別當被打止愁状

署記　永久三年五月七日　職事（花押）（以下御庄下司安積に至る十人花押連署）

（三一〇・〇八―イ四一）

大和國河原寺牒　寫　一通　八五一

二九糎五四糎

端書　□（波損）原寺牒　尾張國衙頭／請正判田裁事（次に）合伍町伍段参佰貳拾歩在中嶋郡

署記　別當少僧都傳燈大法師勤操／弘仁十一年十月十七日　都維那入位僧願忠／上座傳燈住位僧明俊／寺主傳燈住位僧安連／申大目佐太國人

（「四條石門里卅一坪二段百十歩」とありてその下に「延暦五年圖川原寺同十九年」と朱注す　以下坪書九件共に延暦の記年朱注あり　七歳同十四年同　三一〇・〇八―イ二七）

大和國城上郡東田地沽券　寫　一通　八五二

三〇糎四六糎

端書　沽却　田地事（次に）合壹段者字南間神田／在大和國城上郡路東廿一条六里卅六坪内西畔本

署記　弘安二年己卯三月五日　賣人（花押）

（三一〇・〇八―イ四九）

大和國平群郡東郷寄進状　寫　一通　八五三

三三糎五一糎

端書　奉寄進　正法寺不斷經燈油田事（次に）合壹段者／在大和國群（ママ）郡東郷一反字富河西田地子一石一斗

署記　文保元年八月／僧玄昭（花押）（以下同）／藤原氏女／小法師丸／御房丸／加賀丸

裏書　一段分河西へクリ　了観房□□□

（三一〇・〇八―イ四三）

大和國平群郡東郷水田賣渡状　寫　一通　八五四

二九・五糎四三・五糎

端書　うりわたすすひてんの事　春日女

署記　こうあん八年五月日／たいらのうちの女（花押）（以下同）／ちは日王丸

裏書　そかわの西田一段券文へくりの春日御方へ參

（三一〇・〇八―イ三五）

賴覺田地沽却状　寫　一通　八五五

三〇糎四一糎、「聆濤閣鑑藏記（陰刻）」

端書　沽却田地事（次に）合壹段者字間神田／在大和國城上郡路東廿一条六里卅六坪内西畔本／四至在本券面

署記　永仁五年丁酉四月十日　賣人賴覺（花押）

（三一〇・〇八―イ五九）

奈良時代以前

疑齋・疑齋辨　寫　一冊　八五六

袋假綴　共表紙　間紙を挟む　二八・五糎三〇・五糎　外題左肩「疑齋　辨」、「本居藏書」

疑齋

日下部勝美著　安永癸巳正月癸卯奥　十行二十字　二十七丁

疑齋辨

本居宣長著「自筆」　十二行　四丁

（三一〇・一―イ一五三）

古語拾遺　寫　一軸　八六七

齋部廣成著　卷子本　改裝後補花唐草織文薄茶色布表紙　見込金紙　用紙裏打金銀切箔散　二九糎七米一〇糎　一紙四五糎　天地單邊二五糎　有界十八行十八字小雙行　題簽後筆「（書名同）明治十五年購求栗原必顯曆仁古寫本眞跡」

奥書（別紙無界）曆仁元年八月十一日於光壽院書寫了　寬□之

書本云借取或哥仙之秘本所寫也穴賢〳〵不及〳〵他見者也

（曆仁本　卷首闕「伸手歌舞相與」云々より始まる　本文同筆にて片假名附訓

三〇・一―一五）

古語拾遺　寫　一軸　八六八

齋部廣成著　卜部兼直筆　卷子本　改裝後補薄茶色表紙　用紙斐紙　二〇糎一〇米三〇糎　一紙五一・五糎　天地單邊二三糎　有界十八行約十八字小雙行　題簽後筆「（書名同）壁中納言兼直卿眞筆」

奥書　嘉祿元年二月廿三日以左京權大夫長倫朝臣本書寫了／奥記云保安五年閏二月四日丙申見合主計頭師遠朝臣本了猶有訛謬尋訪證本可決眞偽　吏部侍郎菅判／與菅眞士讀合了

翌日挍點了　祠部員外郎（花押）（兼直）

比挍證本了同二廿六

累祖相傳本聊示靈異輒難披閱仍細々／為了見以他本所書寫也　卜兼直

識語（本文末）一見了

卜（花押）

（本紙卷末裏）嘉元四年八月廿一日取目録訖凡此書朝夕／所練習也　祠部員外郎卜兼夏

延文元年申歲四月十七日修補之雖片時／不可出他處仍餘本一両所令用意／者也／正四位上行神祇大副卜部兼豊

應安第六之曆仲春十一之夕重讀合／從四位上行左京權大夫卜部宿禰兼熙

（繼目背）（花押）（兼熙）

（別紙繼紙）至德二年十月三日重讀合了／内仙籍正四位上行神祇大副兼彈正大弼卜部朝臣（花押）（兼熙）

同三年六月二日一見了／從三位卜部朝臣兼熙／秡本緣（ママ）

明德元年後三月廿三日抄出了／侍從卜部朝臣（花押）（兼熙）／拾遺之官者一卷之名也有興事也

為兼熙卿之兼敦子也／兼直世々事兼敦朝臣／　德開家吉也／明德二年／同年二月十三日

應永三年六月二日以累家之秘説授／兼敦了　侍從卜部朝臣（花押）（兼熙）

應安六年兼熙授申　二条故殿下御名良了

應永二年十二月十四日授大内左京大夫／入道義弘了　卜兼熙

應永四年四月十五日千度御（ママ）勤修之中此卷／讀合之畢／神祇大副兼治部卿右馬頭卜部朝臣兼敦

應永五年十月十七日為御祈始千度御枝吉田社實前修／中此一卷讀進之了　卜部兼敦

康正三年二月十三日一見之訖／正三位行兼侍從神祇權大副臣卜部朝臣兼名

文明元年六月廿七日一見畢／正四位上行神祇權大副兼侍從卜部朝臣兼倶

文明九年正月十二日一見之訖／藏人神祇權少副卜部朝臣兼致

永正十一年三月十九日一見之畢／神祇少副兼侍從卜部朝臣兼滿

享保十八年六月十一日一見訖／從三位行侍從卜部朝臣兼雄

嘉永元年九月十三日拜見訖／從三位神祇權大副兼侍從卜部朝臣良芳

（嘉祿本　卷初右下に「兼直」と自署　本文同筆にて欄外及裏書に見出し注文等あり　朱墨同筆諸點あり　昭和十六年鈴鹿三七複製本解説―參照　三〇・一―一九五）

（重文）

古事記　寫　三卷　三冊　八六九

太安麻呂等撰録　和銅五年正月廿八日自序　袋綴　毘沙門格子地唐草文丹行成表紙　二八・五糎二三糎　六行十二字小雙行　題簽左肩黄紙「古事記上（―下）」、「神樂岡庫（上卷）」「村岡典嗣藏書（中・下卷）」

識語（帙）本書中下ノ二卷ハ村岡博士舊藏／上卷ハ吉田家旧藏／右二所ニ分藏ノモノヲ於本館合卷ス　昭和三十年

（神樂岡本　江戸時代初期寫　訓讀點を施す　帝國學士院紀事第四卷第二號所収

澤瀉久孝・濱田敦「古事記諸本概説（上）」―參照　三〇・一―一四五）

古事記　寫　三巻　三冊　八七〇

太安麻呂等撰録　和銅五年正月廿八日自序　袋綴　檜皮色表紙　用紙裏打　二九・五糎二一糎　四周單邊二一・五糎一七・五糎　有界八行十字小雙行　題簽左肩紅紙「(書名同)上(―下)」

(兼從本　江戸時代初期寫　朱點附訓頭注を施す　下巻尾題下の花押を卜部兼從と推定する旨岡田眞の記文一紙を附す　三〇・一―イ六三)

古事記　寫　三巻　三冊　八七一

太安麻呂等撰録　和銅五年正月廿八日自序　袋綴　澁表紙　二九糎二〇・五糎八行十五字　外題左肩「(書名同)上(―下)」

箱書　(蓋)古事記三巻

(身表)奉納／城南離宮文庫／安政三歳次丙辰四月／洛下　赤松祐以

(江戸時代初期寫　原に下巻末「大常卿卜部朝臣兼永」と奥書あるものの寫　朱點附訓を施し頭注に朱墨にて事書の見出しを記す　三〇・一―イ一五五)

古事記　寫　三巻　三冊　八七二

太安麻呂等撰録　和銅五年正月廿八日自序　袋綴　白表紙　二九・五糎二一・五糎八行十五字小雙行　題簽中央「(書名同)上(―下)自天御中主至鵜草葺不合尊(―自仁德至推古)」

(江戸時代初期寫　原に「大常卿卜部朝神兼永」と奥書あるものの寫　箱書に「九條家本」とあり　三〇・一―イ一八五)

古事記上巻　寫　一冊　八七三

太安麻呂等撰録　神谷永平筆　和銅五年正月廿八日自序　袋綴　改裝後補朽葉色表紙　原裝共表紙　用紙薄様　間紙を挾む　二七・五糎一八・五糎　五十九丁　外題左肩原本影寫「古事紀(ママ)十六全」　原外題書名同、「神谷圖書」

奥書　古事記上　墨付六十一　原本庚冬十一月廿八日借用　辛亥七月中旬成　絢齋摸写／一挍了　(此三字朱書)

(原に「于時應永卅年癸卯四月十七日於志州答志郡花表亭／為末世神道興行拭老眼書写畢／沙弥道祥生年七十六歳也／右薗田三位守諸卿家藏古写本日本書紀の奥書なり／應永卅年沙弥道祥七十六歳とあり此古事記ハ右の／翌同卅一年年七十七歳にて書写也」、「御巫清直所藏古事記奥書／本云以伊州渡會郡宇治縣尾崎遍照院祐編法印秘本寫之早／於裏書者到奥反古之裏寫也敢少々者面書也少々者用押紙委細／金剛資恵歡云々／于時應永卅一年甲辰六月廿八日以興光寺之本書寫了爰同以尾崎遍照／院之本々挍了　沙弥道祥生年七七才云々／同應永廿三年丙午八月九日於志州答志郡伊雜神申依梨原／福□坊書寫了　金剛佛子春瑜生年廿六才」とあるものの影寫　三〇・一―イ九九)

古事記上巻　寫　一冊　八七四

太安麻呂等撰録　和銅五年正月廿五日自序　袋假綴　共表紙　二五糎一六・五糎五行十五字小雙行　四十三丁　外題左肩「古事記上巻并序本」　序題「古事記上巻序并」

奥書　私云余以大巻成私調巻為二巻云々本者為／一巻云々／永徳元年五月廿六日書之了　道(花押)

(朱書)交合了

識語　南無阿弥陀仏

(道果本　外題下に「道果之」と自署　初九丁朱點　全文片假名附訓訓點を施し本文同筆の書入押紙多し　昭和二十六年貴重圖書複製會本―参照　三〇・一―イ一五九)

古事記上巻抄　寫　一軸　八七五

巻子本　改裝後補黄表紙　二五・五糎一米七〇糎　一紙四五・五糎　天地單邊二〇糎　有界約十八行十七字　頭簽左肩後筆書名同

(鎌倉時代末期寫　片假名附訓朱點を施す　三〇・一―イ二〇一)

古事記姓名索引　寫　三冊　八七六

藤原輝實著　自序　袋綴　縹色布目表紙　二三糎一六糎　十行　外題「古事記姓名索　上(―下)」　目録題書名同　内題なし

(「古訓古事記」を底本とす　三〇・一―イ三九)

古事記傳卷之六　寫　一冊　八七

本居宣長著　袋綴　薄青絹表紙　二七糎一九糎　五行十二字小雙行　九十五丁
題簽左肩「（書名同）六」、「寧樂園」「栗田氏珍藏記」
識語　（見返附箋）古事記傳六卷一冊故鈴屋／本居先生筆跡ニ相違なし／實ニ珍重スヘキものなり／かきつめしふることのはを／すゝかねの／さやかにのこす／水莖のあと／明治四十五年三月／飯田武郷謹誌（印）
（原に「明和九年壬辰九月八日本居宣長（花押）」と奥書あるものの寫
三〇・一―ィ九七）

古事記燈意富牟泥　寫　一冊　八八

冨士谷御杖著　自筆　袋綴　薄青絹表紙　二七・五糎一九糎　十一行小雙行　五十八丁　題簽中央短冊形「神典意富牟泥」、「白河」「桑名」「樂亭文庫」
奥書　文化四年丁卯仲冬
（表紙右肩に朱書「第三神」とあり　三〇・一―ィ一八七）

纂和抄　寫　三冊　八九

〔卜部兼倶〕著　卜部兼倶筆　袋綴　改裝後補毘沙門格子唐草模樣丹行成表紙原裝共表紙　二八・五糎二一糎（第二冊）二六・五糎二〇・五糎（第三冊）二六糎二一糎　題簽左肩「纂和抄神代上之二」「神代聞書纂和抄二」「纂和抄神代上之三」　原外題左肩（第一冊）「纂和抄神代上之一」「神書和字抄纂和抄上卷之二」　内題「神書秘註抄上」
識語　（各冊）右依破損加修補畢　正保丙戌年八月仲旬／神道長上卜部兼里（花押）（印）
（第三冊紙背消息中「文亀二」と紀年ある一通あり　全巻塗抹訂正多し
三〇・一―ィ三七）

釋日本紀　寫　二十八卷　十五冊　八〇

卜部懷賢著　梵舜筆　袋綴　茶色表紙　二八・五糎二〇・五糎　四周單邊二一糎一六・五糎　八行十五字小雙行　題簽左肩梵舜筆「（書名同）目録一（―廿七之廿八終）」、「神陽臺」「幽顯」「隱顯藏」
奥書　（第三冊卷五）予挍了　墨付廿一丁
（第六冊卷九）挍了（此二字朱書）墨付廿六丁
（第十一冊卷十八）慶長廿二三　挍了（此二字朱書）龍玄書之
（第十三冊卷廿三）慶長廿年二月五日　龍玄書之／墨付廿一丁　挍了（此二字朱書）
（第十五冊卷廿八）挍了（此二字朱書）龍玄書之
（原に卷一「一交了」「正安三年十一月廿五日以家秘本書／寫之同廿七日終夜點挍訖」「一部一見畢」、卷三「正安三年十一月廿一日以家秘本／書寫之　同廿三日點挍訖」「一覽畢」、卷五「正安三年大呂十三日書寫　點挍了」「於雨窓下加一見訖」、卷六「點挍了」「於燈下一覽畢」、卷七「於雨窓下加一見訖」、卷八「點挍了」「再見早元德元年無射上旬　大常卿」「加一見畢」、卷九「正安四年正月六日書寫同十九日於燈下／點挍訖」「加一見畢」、卷十「正安四年正月十九日點挍了」「於燈下一覽畢」、卷十一「加一見畢」、卷十二「正安四年二月六日點挍了」「加一見畢」、卷十三「正安四年二月七日書寫點挍訖」「於雨窓下加一見訖」、卷十四「正安四年二月七日書寫點校了」「加一見畢」、卷十五「點挍了」「一覽畢」、卷十七「點挍了」「加一見畢」、卷十八「正安四年四月廿三日　點挍了」「於燈下一覽訖」、卷十九「點挍了」「於雨窓下加一見訖」、卷廿「點挍了」「加一見畢」、卷廿一「點挍」「一覽畢」、卷廿二「點挍了」「於燈下加一見訖」、卷廿三「正安四年夾鐘下旬之比點挍了」「於雪窓下一覽畢」、卷廿四「點挍了」「於雪窓下加一見訖」、卷廿五「點挍了」「於雪窓下一覽畢」、卷廿六「一交了」「於燈下加一見訖」、卷廿七「一挍了」「加一見畢」、卷廿八「一部加一見畢」と奥書あるものの寫　間々他筆を混ず　三〇・一―ィ二九）

釋日本紀　寫　十卷　二冊　闕　八一

卜部懷賢著　袋綴　共表紙（第二冊）白表紙　用紙裏打　二七糎二〇・五糎（第二冊）二九・五糎二一・五糎　八行十九字小雙行　題簽中央（第二冊）「（書名同）廿三之廿八終」
（江戸時代初期寫　第一冊は卷一至四、第二冊は卷廿三至廿八を所収　両冊共に別筆　原に卷一「寫本云一挍了／正安三年十一月廿五日以家秘本書寫／之　同廿七日終夜點挍訖」「一部一見畢　大常卿卜部朝臣兼永」、卷二「正安三年十一月廿三日以家秘本書寫／之同廿六日　點挍訖」「加一見畢／大常卿卜部朝臣兼永」、卷三「寫本云正安三年十一月二十一日以家本書寫／之／同二十三日點挍訖」「一覽畢／

大常卿卜部朝臣兼永」、巻四「寫本云正安三年十一月廿三日以家秘本書寫之／同廿一見訖／四日亥刻許於燭下點校訖／正安三年十二月十二日於燈下手自點／校訖」「於燈下加大常卿卜部朝臣兼永」、巻二十三「寫本云正安四年夾鐘下旬乙比點校了」「於雪窓下一覧畢」、巻二十四「寫本云點校了」「於雪窓下一覧訖／大常卿卜部朝臣兼永」、巻二十五「點校了」「於雪窓下一覧畢／大常卿卜部朝臣兼永」、巻二十六「於灯下加一見訖／大常卿卜部朝臣兼永」、巻二十七「加一見畢／大常卿卜部朝臣兼永」、巻二十八「一部加一見畢／大常卿卜部朝臣兼永」と奥書あるものの寫　朱墨諸點を施す　三〇・一―イ三二）

神書聞塵　寫　二巻　一冊　八三

卜部兼倶講　清原宣賢筆　袋綴　改装後補毘沙門格子地牡丹唐草模様黒行成表紙　用紙裏打　二七・五糎二一・五糎　二十二行三十數字　四十五丁　題簽左肩後補「（書名同）上下」　内表紙外題中央宣賢筆「神書聞塵上」「神書聞塵下」、「幽顯」「隱顯藏」「神陽臺」

識語　右破損仍加修補畢／正保三丙戌年八月仲旬／神道長上卜部兼里（花押）（印）

右宣賢卿真筆也／加證明訖／弘化四丁未歳十一月九日／從三位侍從卜良芳

（内表紙外題下に「後講上巻了／二位宜竹」「後講下巻了／二位宜竹」とあり　上巻初に「文明十三年辛丑五月廿七日吉田二位殿講之」同巻末に「神書上巻講了　文明十三年辛丑六月十九日至此講者八度」、下巻初に「六月廿一日」同巻末に「文明十三年辛丑六月廿三日講了矣吉田二位講之」と識し、巻中にも講義日を注記す　片假名交り　三〇・一―イ一〇三）

神代聞書　寫　一冊　八四

卜部兼致著　自筆　袋綴　朽葉色表紙　用紙裏打　二六糎一八糎　題簽左肩書名同　内題なし　約十二三行　三十八丁

奥書　此紀抄令新作之間以一見之／次落字僻字等改之加朱点了／不可外見矣／明應七年七月五日／左兵衛佐卜部兼致

識語　右依破損加修補訖／正保三丙戌年八月仲旬／神道長卜部兼里（花押）（印）

（神代巻上巻頭に「同十六日午天晴午時始之」とあり　以下廿三日晴午に至るまでの日次を注記す　三〇・一―イ三七）

神代巻付紙之分　寫　一冊　八四

清原宣賢著　梵舜筆　袋綴　紺表紙　二六糎二〇・五糎　十二行　四十三丁　題簽左肩後補「（書名同）」　龍玄翁筆」

識語　右神代上下抄付紙首書之分也／豊神院殿舎弟龍玄梵舜之事也眞筆秘中之／極位之一冊拝見之次而加奥書畢／莫許他見矣／元文三戊午歳四月初四／神祇管領右兵衛督侍從卜兼雄（花押）／墨付四十三枚

（別筆）右兼見卿舎弟龍玄翁筆

（原に「家本奥書云先年雖令抄出爲讓与竹鶴丸吉出社預愚息也重加琢磨書之同／文字讀清濁以朱指聲訖卜氏秘説不違背一／句於纂疏私書加之爲子孫亀鏡輒勿出函底／矣／大永六年四月二日終上巻功侍從三位清原宣賢」「天文四年二月九日遂功訖　侍從卜部朝臣兼右御判」、「右抄者樞取諸家聞書環翠軒宗尤谷名宣賢始／新作書加之但當家文讀等無抜群者也／追而加挍合可書加之於此抄有不思義之／奇瑞因茲爲後鑒令書寫之訖／天文四年二月十一日　侍從卜部朝臣兼右」「天文八年九月九日於妙心院講尺之刻少々書／加家説了」「天文十六年　於禁裏講申了」「同廿四　七　廿七　妙傳寺住侍依發起講了」「私云右此分ハ上巻奥書ナリ」次に「兼益記上巻奥ニアリ」とありて「下巻奥書云天文三年六月十九日終一見之功了卜氏秘／説不遂背一句誠万代之亀鏡也但少々／家説抜落之了以所見即可加注之者也／卜兼右御判」と奥書あるものの寫　三〇・一―イ三九）

神典古事記燈　寫　一冊　八五

富士谷御杖著　自筆　袋綴　朽葉色表紙　二二・五糎一六糎　左右雙邊一八・五糎一三糎　十行罫紙小雙行　二十五丁（内白紙二丁）　外題左肩「神典」　内題同上（記事「淤能碁呂島之件第二」至「黄泉之件」を存す　三〇・一―イ二二）

先代舊事本紀　寫　十巻　五冊　八六

卜部兼右筆　袋綴　菱目形毘沙門格子地丹行成表紙　二七・五糎二一・五糎　八行十九字　題簽左肩「（書名同）一之二（一九之十）」（第四冊闕）

識語　（第一冊題簽右肩紅紙）兼右卿御筆

（第一冊遊紙裏左肩に附箋）兼右卿御筆

（鎌田純一著「先代舊事本紀の研究」―参照　三〇・一―イ五九）

先代舊事本紀　寫　十卷　五冊　八八七

袋綴　茶色表紙　用紙裏打　三〇糎二二・五糎　四周單邊二四糎一八・五糎　有界八行十九字　題簽左肩「（書名同）一之二（一―九之十終）」（第二冊闕）

識語（第一・二・三・五冊）加修補訖／嘉永六癸丑歳八月二日／正三位侍從卜良熙（第四冊のみ八月四日とあり）

（室町時代末期寫　數筆を交ふ「前略巻五・六を清原宣賢の若年の筆と思はれるところより明應末より永正初年にかけて書寫せられたものと推察する後略」と書したる村口用箋を帙に附す　鎌田純一著「先代舊事本紀の研究」―參照　三〇・一―ィ（二六）

先代舊事本紀　寫　十卷　五冊　八八八

卜部兼永筆　袋綴　黒表紙　二七糎二一糎　四周單邊二二糎一八糎　有界八行十五字小雙行　題簽左肩青紙「（書名同）一之二（一―九之十）」

奥書（巻三）大永元年九月十五日書寫了　正三位兼永

（巻九）大永二年正月七日書写早／正三位卜部兼永

識語（第二冊）平野三位兼永筆加修補并／證明了／嘉永六癸丑歳八月九日／正三位侍從卜（花押）

（第三冊）平野三位兼永筆也加修補訖／嘉永六癸丑歳八月十日／正三位侍從卜良熙

（第四冊）平野三位兼永筆加證明了／令修補／嘉永六癸丑歳八月八日／正三位侍從卜（花押）

（原に巻三「書写畢　兼頼／貞永元後九月十三日合他本判（ママ）」「抄早　兼文」「一見早　兼方」「文永七年六月十一日雨中天照太神御事抄出早　兼文／石上神事抄早同十二日高皇産霊神皇産霊御事抄出早／大已貴神御事抄出早　事代主神御事抄出早　建御名方神御事抄出早（諏方社）　同十三日天稚彦并味耜高産／槌神事抄出早　天穂日命事抄出早　鹿嶋香取事抄出早／同十四日天児屋根命事抄出早　天太玉命事抄出早／天鈿賣命事抄出早　同十八日天思兼命事抄出早／羽明玉神事抄出早　兼文」「貞治二年二月廿日點之不可出困者也　兼前」、巻九「安貞二年二月十九日夜及暁更於燈下書／寫畢（ヒ）即比校畢　兼頼」「貞永元年閏九月十四日重合他本早　判」「裏書云抄畢　正議大夫（兼頼之）在判」「一見早　通議大夫　兼方在判」と奥書あるものの寫第五冊表紙右肩に巻九の所収天皇名を本文同筆にて記したる紙箋貼附　三〇・一―ィ（一三）

先代舊事本紀　寫　十卷　五冊　八八九

袋綴　毘沙門格子地菊蓮唐草模様紺行成表紙　二七糎二一糎　四周單邊二二・五糎一七糎　有界九行十七字　題簽左肩「舊事本紀　一二（―九十終）」

（江戸時代初期寫　原に巻九「安貞二年二月十九日夜及暁更／於燈下書寫之即比校畢　兼頼」「貞永元年閏九月十四日重合佗本畢　判」「裏書云抄畢　正議大夫（兼頼在判」「一見畢　通議大夫兼方在判」「大永二年正月七日書寫畢　正三位卜部兼永」と奥書あるものの寫　三〇・一―ィ（一九九）

先代舊事本紀　三十卷　三十二冊　八九〇

大潮著　袋綴　紺表紙　二五・五糎一六・五糎　四周雙邊二〇糎一三・五糎　八行十六字　題簽左肩雙邊（刊）墨「大成經鶴鶉傳　序傳（一―三十一止）」　序題「神代皇代大成經」　柱刻「舊事紀序（一―三十一）（丁數）」、「高日神府儲藏書」「三井家鑒藏」等

（木活字版　三〇・一―ィ（一五）

先代舊事本紀　三十卷　十六冊　八九一

大潮著　袋綴　砥粉色表紙　二六糎一七糎　四周雙邊二〇糎一三・五糎　八行十六字　題簽左肩雙邊「大成經鶴鶉傳　序（一―三十一）」　序題「神代皇代大成經」　柱刻「舊事紀序（一―三十一）（丁數）」

（木活字版　「寛文庚戌季夏上浣／八雲軒住央命源朝臣能門」の序文を新しく模寫したる三葉を補綴　三〇・一―ィ（一九）

東家秘傳　寫　一冊　八九二

北畠親房著　卜部兼右筆　袋綴　改装後補薄卵色表紙　原装共表紙　二七・五糎二一糎　十行小雙行　十四丁（原表紙共）　題簽後補書名同　原外題書名同

奥書　天文十一十二四以長州二宮竹中兵庫頭興國之本書寫之了此／人体予門弟子

也神道行事以下相傳之齋服烏帽子色／組懸等裁許了（花押）（兼右）
識語　此一冊者唯神院（兼右卿）御眞筆也／拜見之次而加修補了／元文三年卯月十六日／卜卩兼雄
（原に「北畠准后述作也云々／永享六年（甲子）二月廿四日」と奥書あるものの寫
三〇・一―イ三五）

豊葦原神風和記　寫　三巻　一冊　八九三

卜部慈遍著　卜部兼右筆　自跋　袋綴　改裝後補薄茶色表紙　用紙裏打　二六・五糎二〇・五糎　十五行　三十九丁　外題左肩後筆「神風和記」
識語　右唯神院御真筆也加證明畢　卜兼雄
（三〇・一―イ三二）

豊葦原神風和記　寫　三巻　一冊　八九四

卜部慈遍著　梵舜筆　袋綴　茶色表紙　二七糎二一糎　十一行　五十三丁　題簽左肩「神風記」
奥書　右神風記者兼好法師舍兄慈遍僧正／作見尤可謂亀鏡者也／于時慶長（乙卯）廿歳卯月初九（神龍院）梵舜（花押）
（三〇・一―イ三九）

日本紀聞書　寫　三巻　三軸　八九五

〔卜部兼致〕著　自筆　巻子本　改裝後補紺地唐草文金襴表紙　見返金紙　二五糎　一紙三三糎　題簽左肩「日本紀聞書（神代上）」（中・下巻闕）　内題なし
識語　（第三巻）右依破損加修補訖／正保三（丙戌）年八月仲旬／神道長上卜部兼里（花押）（印）
（室町時代中期寫　もと袋綴本を現巻子本に改裝す　上巻六月六日、中巻十六日、下巻〔廿一日〕より始る　巻中塗抹訂正多し　三〇・一―イ一五七）

日本紀聞書抜書并神宮社家神事　寫　一冊　八九六

卜部兼倶講　圓滿寺聞書　清原宣賢筆　袋綴　改裝後補栗皮色表紙に更に澁刷毛目表紙を覆ふ　原裝共表紙　用紙裏打　二六・五糎一九・五糎　約十八行三十字二十四丁（内神宮社家神事五丁）　外題第一外表紙左肩良芳筆「日本紀聞書抜書」（宣賢卿眞筆）
同第二外表紙書名同上　原外題左肩「日本紀聞書秡書（上巻猶不足（ママ））并神宮社家神事□□」、「隠顯藏（陰刻）」「幽顯」「神陽臺」
奥書　（聞書内題の下）吉田二品兼倶卿講　歳阿弥弟圓滿寺聞書
（抜書條末）歳阿弥弟□（講尺四度半聞之云々）圓滿寺聞書也借用以異別□写之了／但秡書（ママ）之了
（神宮社家神事巻初）神宮社官方注之者欤一見之次写之了
（同末）大神宮神官記之物欤一見之次馳筆了
識語　右宣賢卿眞筆也／加修補訖／弘化四（丁未）十一月六日／從三位侍從卜良芳
（三〇・一―イ一四一）

日本紀纂疏補遺　寫　一冊　八九七

一條兼良著　卜部兼右筆　袋綴　改裝後補鼠色表紙　原裝雲紙表紙　用紙裏打　二七・五糎二二・五糎　十行十九字　三十二丁　原外題「神書纂疏補遺」内題同上
識語　兼右卿眞筆也／加修補畢／弘化四（丁未）年十一月十八日／銀青光録大夫拾遺卜良芳
（ビブリア第十号所収近藤喜博「日本紀纂疏補遺について」―参照
三〇・一―イ一七一）

日本紀神系圖　寫　一冊　八九八

袋綴　改裝後補黄表紙　原裝共表紙　用紙宿紙　裏打　二九・五糎二二・五糎　約七行　二十九丁　外題左肩「日本書紀（神系圖）」　原外題書名同　内題「日本紀神代上・下巻内神系圖」
識語　此本以家本加挍合早／神道長上卜部兼右
（内題下に本文同筆「常盛」とあり、本文巻末に「以上日本紀神代上下神系圖大概如斯但此兩巻内／神之祖考有不載書紀者就他書聊雖勘加之猶不分明／神闕而不注之」「此本者一條権大副兼（ママ）宿祢令下向播磨國守護人／赤松妙禅律師（實名則祐）宿舘相授日本紀神代上下巻／又上洛之後日所被載本紀之諸神諸叓之御系圖并／日本紀釋廿巻令書渡云々兼豊借請御系圖條令書写／者也」「倩案事情此注文珎事之至極

一切不可例又曽以此本／不可外見雖子孫不可免庶子之拜見也不審之篇目／臨于時被尋問之時猶以聊残奥義者古今之故實也／何況於神之盥觸乎眞慮叵測縫殿大副兼久宿祢者／依注進神事之秘事令早世之由祖父兼益先考被口傳早／殊可恐悔矣／正四位上神祇大副卜部宿祢兼豊判」、別に「借用或方本令書寫之早不可出闕外者也／但云老眼云持病文字定而狼戻後看削改之者／多幸ニ〻矣／明應第八南呂十有二桑門隠徒（花押）」との奥書を有する「亀兆傳第一裏書」、又、天神末の系圖を合記す　巻末に兼右筆「應永三年五月八日以家本書寫之御校也／毎度讀合之故也／神祇副兼治卩卿右馬頭卜部朝臣兼（敦）」「以數本挍合之早莫外見矣　卜（御判）」「（本奥書云）明徳六年十一月十一日修補之連〻令一見早／正三位行侍從卜部朝臣（御判）」、「明應四年五月五日　加一見畢／從二位卜部兼倶」と奥書あるものを寫し、それ等を以て本文に校合を加ふ　三〇・一―ィ二九）

日本紀和注　寫　一冊　八九

卜部兼致筆　袋綴　改裝後補黄表紙　原裝茶色表紙　用紙裏打　二六・五糎二一・五糎　九行　二十九丁　外題卜部良芳筆「（兼致朝臣御筆（書名同））」　原外題左肩別筆書名同　内題なし

識語　右卜部兼致公筆

右一冊者神代抄物／重寶之秘要也尤／可為亀鏡堅莫外見／仍加奥書畢／享保十八年六月廿四日／神道長卜部（花押）

兼致朝臣御真筆也／加修補訖／弘化四丁未歳十一月廿七日／從三位侍從卜部良芳（三〇・一―ィ三三）

日本書紀　三十巻　十五冊　九〇

舎人親王等奉勅撰　袋綴　改裝後補縹色表紙　二七・五糎二〇糎　四周雙邊二二・五糎一六・五糎　八行十八字小雙行　柱刻黒口「日本紀（巻數）（丁數）（第一巻のみ柱刻に巻數なし）」、「三井家鑒藏」「三井高堅印信」等

刊語　此寫本者當初安貞二年兼頼挍讎諸本／正應之□神祇権大副卜部兼方筆之収／于石室以來永仁正四位下行神祇権大／副兼山城守卜部仲季嘉元甲辰沙彌蓮／惠康永壬午神祇権大副兼員轉書之云／云至永正之頃内大臣實隆公以件本親／瞻書訂朱墨點今據内相公本鏤梓廣傳／于世恐活版之徒多誤刁刀陶陰矣庶幾／莫貽誚於余焉／慶長十五庚戌仲夏念八／洛汭野子三白誌

識語　（巻二）（朱書）親挍点了

（古活字版　「霞閣文庫」「青蓮王府」等印記ある八行十八字附訓整版本を以て第二冊を補本　三〇・一―ィ三）

日本書紀　寫　二十八巻　二十八冊　闕　九〇一

舎人親王等奉勅撰　卜部兼右筆　袋綴　紺表紙　二七・五糎二一糎　四周單邊二二糎一八糎　有界八行十五字小雙行　題簽左肩「（書名同）三（一卅）」、「隠顯藏（陰刻）」「幽顯」「神陽臺」

奥書　（巻三十）當家之本大永五暦沽洗十有八日先君御没落／之刻令紛失訖然三条内府（實隆公）以累代之秘／本令書寫之仍享祿第二以件本遂書功了／文字朱墨兩点等謬説非一事是爲烏焉之誤／欲愛一条家門有此書紀令一覧之處後成／恩寺大閤御奥書炳焉也至卅巻神光院（後奈良院）／以眞筆令加證明賜故以兩本見合之終一／部之書功但猶非無不審仍以日本紀決釋／再字訓抄等正改之了尤可謂第一之證本／矣／天文九暦十一月吉曜日　侍從卜部朝臣（花押）（兼右）

此書天地之開闢神代之元由王臣之系譜披之如向鏡覧之似／仰日輪不流布天下爰阿波賀社神主神祇大祐卜部定澄依度〻之／懇望授与一部早深凝信心厚致崇敬莫令／外見矣／天文第九暦仲夏中旬　神道長上卜部朝臣兼右／享祿度書寫之本加件奥書遣之了

（巻三）永正十一年五月六日書寫了

天文八壬六六書寫了

以累家之本書寫之畢　于時明應八年四月廿五日／從四位下行神祇權大副兼左兵衛佐卜部朝臣兼致

以件奥書之本加挍合早（花押）（兼右）

天文九正廿一以一条殿之御本加挍合之処朱点等有落字書加之早

同九十廿一申出禁裏之御本加一挍了件御本逍遙院眞筆也

（巻四）建武五年五月九日交点了

永正十一端午自午刻始至酉剋書寫了

天文八壬六十書寫了（花押）（兼右）

天文九正廿一以一条殿御本加一挍之処無一字相違（禁御本云）

弘長元年九月一日書寫了　移点同了

天文九十廿一申出禁裏御本加挍合了件御本古本云々
（卷五）建武五年五月十日書写点挍了
永正十一年端午日書之
天文八壬六十八書写了（花押）（兼右）
禁御本云 弘長元年九月三日書写了　移点同了
天文九十廿二以件御本加挍合了
（卷六）建武五年五月十三日交点了
永正十一四月廿六日書写了
天文八壬六廿八書写了（花押）（兼右）
天文九十卅申出　禁裏之御本加挍合了此卷件御本／蓮致御筆也
（卷七）本云建武五年五月十四日交点畢
天文八七廿三書写了（花押）（兼右）
弘長元年九月廿日書写了　同廿五日移点了
天文九十一一以件御本挍合了
（卷八）貞和四年五月十三日七八両巻讀進之　神祇權大副兼員
天文八九廿一書写了（花押）（兼右）
天文九正十九以他本一挍了
弘長元年九月廿七日書写了　同日移点了
天文九十一二以件御本挍合了　兼右
（卷九）本貞和五年正月十八日讀進畢／神祇權大副卜部兼員
天文八十二廿四遂書之功了（花押）（兼右）
弘長元年十月廿六日書写了／弘長元年壬十一月六日移点了
天文九十一二以禁中御本加挍合了
（卷十）本貞和五年九月廿日讀進畢　卜部兼員
天文九正八書写了（花押）（兼右）
同九正十九以一条殿御本令一挍之処無一字相違者也
禁云 弘長二年正月一日書写了／同三日移点了
天文九年十一月三日以　禁裏御本加挍合了
（卷十一）本建武五年八月八日於淨土寺移点畢／同十日交之早
借卜部氏累家本託或人加書写了則亦挍合耳／文明第六曆蓮賓中澣日　老比丘御判

天文九正廿三以家本遂書写之功以一条殿御本重令／挍合早（花押）（兼右）
（卷十二）本交点畢　建武五年七月十八日
此一巻應禅閤之嚴命染禿筆不審之文字等先如本／書之則遂一挍訖／旹文明第六孟夏上旬候　藤原朝臣御判
以卜部相傳之本加朱点重挍合訖／老比丘御判
天文九三二遂書功加朱点重以件御奥書之本一挍早（花押）（兼右）
（卷十三）本建武五年八月十三日　交点畢
以卜部家本加書寫則又挍合了　老比丘御判
天文九三十七終書功了即以一条殿御本見合家／本加挍合之已（花押）（兼右）
（卷十四）文明六年夏四月上旬命或人加書写訖　老比丘御判／同中旬挍合直朱墨点了
天文九四八書写了以後成恩寺殿御奥書之御本加／挍合了（花押）（兼右）
（卷十五）本云建武五年八月十三日交点畢　御判兼豐御判也
以卜部相傳本加書写則又令挍合了／老比丘御判
以當家本与件御奥書御本加撿知令書写了／天文九四廿三（花押）（兼右）
（卷十六）文明六年五月以卜部氏家本加書写了／老比丘御判
天文九四廿六累本与件御本令見合書写了
（卷十七）文明六年季春廿一日於南都客舍以卜部三品／兼倶卿本挍合了／老比丘御判
天文九五二遂書写了以件御奥書本与累家本／見合者也　一条殿御本此巻外題神光院殿兼熙御筆也／卜部朝臣兼右
（卷十八）本云曆應元年十月十二日點畢
文明六年三月下澣以卜部兼倶卿本挍合了／老比丘御判
天文九五六以累家本与御奥書本見合令書写了／卜部兼右
一条殿御本此巻外題蓮熙御筆也（此一行同筆朱書）
（卷十九）文明六年五月上旬以卜部氏秘本加書写但文字誤等處々／改直所書也
桃華老禅御判
同中旬加点早
天文九五十九申請一条殿之御本見合家本書写之／早
（卷二十）本云曆應二年五月廿二日一交早
文明六年五月借用卜部家本命或入加書写了則又挍之／御判

天文九年六月二日以件御奥書御本与家本見合之令／書寫之了（花押）（兼右）
（卷二十一）以卜部家本粗挍合之但彼本有不安者以舊本從之／文明六年五月下旬　御判
以家本与件御本見合之加書写了／天文九年六月七日（花押）（兼右）
（卷二十二）以卜部家本挍之　御判
天文九六十七以両部之本見合之書写了（花押）（兼右）
（卷二十三）以卜氏本挍合不善者不從之　御判
天文九年六月廿五日以累本見合一条殿之御／本加書写了　卜部朝臣兼右
（卷二十四）宝徳三二廿一点挍早
文明六五晦重以卜氏本挍之早　御判
天文九六廿九以一条殿御本与累家本加書写了／卜部兼右
（卷二十五）永正十年四月廿八日　書了
文明六年閏五月上旬以卜氏家本挍合了　御判
天文九年七月十八日以一条殿御本与累家本見／合之加書写了　兼右
（卷二十六）文明六年閏五月上旬挍合卜部本訖／御判
天文九年九月自二月至四日遂書写之功早／（花押）（兼右）
（卷二十七）本云移点了　兼頼
覆勘了見合了　兼有
挍合了　建武二十二廿五
暦應四年夏比書写移点了秋九月廿日挍合了書本家秘密之／本也　御判兼顯也
永正十年五月十八日書了　逍遙院殿御判
一条殿御本御奥書
文明六年閏五月上澣以卜部本挍之／御判
天文九九十三以累家本与一条殿之御本見合之書／写了
（卷二十八）安貞二年八月三日点了　神祇權少副卜部兼頼
即覆勘了
永仁五年四月一日見合了　雍州刺史卜兼方
挍合了　建武二十二廿六
暦應四年十二月十七日交合訖
永正十年六月三日書写了　逍遙院殿散槐御判
一條殿御本御奥書云
文明六年閏五月上旬以卜部家本挍合有不安者則從善而已／老比丘御判
天文九年九月廿二日以両本見合之書写了（花押）（兼右）
（卷二十九）文明六年閏五月上旬以卜氏本挍合了　御判
天文九十八以家本見合件御奥書書写了（花押）（兼右）
（卷三十）本云康永元年八月廿九日終一部之書功加朱墨之点挍了書本神祇權／大副兼員本也
本奥書云
安貞二年九月十三日移点早已終一部功者也　兼頼
即日覆勘了凡下帙十巻訛謬甚多用意而可見之
挍合了彼本此巻注付云／下帙已上挍合終功了末巻一本朱畧无点也悉注移畫定有漏錯矣／延元六年三月四日　兼彦記之
正應第六之暦仲春第九之日於雨中文席抄日本書紀而已／神祇權大副卜兼方
同年三月一日重抄了
同年同月廿二日一部加首書訖
永仁二年八月廿三日重終一部抄出之功訖／正四位下行神祇權大副兼山城守卜部仲季判
同五年四月三日見合清助教之本畢自第十九迄両巻雖見合之彼本猶／荒蕪之間未散不審重可合證本也　城北半隱兼方
正安四年二月十三日一部取目録了　兼方
嘉元二年正月十九日一部重略抄早雖爲出家之身未弃此道之業誠／是宿趣之至也
沙弥蓮恵
三条西御奥書云
永正第十林鐘十有三日凌炎暑終書功了／老槐散木御判　隆實公
一条殿御本云
應永四年四月廿八日此書一部卅巻以家之秘説奉授　關白殿下訖／正三位行侍從卜部朝臣兼熙
應永二十五年三月七日傳　殿下御説訖／權大納言御判（花押凡如此）
文明六年閏五月中旬於南京客舍借卜氏家本令挍合了／老比丘御判（花押凡如此）
（三〇・一—イ二七）

日本書紀　寫　十巻　三冊　闕　九〇二

舍人親王等奉勅撰　中山繁樹筆　袋綴　澁刷毛目表紙　二六糎一九糎　八行十七字小雙行　外題左肩「玉屋本日本書紀　一二（—七八九十終）」　内表紙外題同上
識語　（巻十末附箋）右吉原玉屋本以鈴木重胤所写之本／令同學中山繁樹書写之了たか（花押）

（同上）（清野謙次筆）本書ノ筆者山中繁樹ハ塙保己一及ビ保己一ノ子忠韶ノ門人ニシテ／有名ナル国學者ナリ

（原に巻一「神代上に始广永廿三年云　良海（花押）」、巻三「於河内國磐田八幡宮東一院東局屋寫之／石穂山今佛頭山太子勝鬘經講之時ヨリ橘寺ニアリ／定円」、巻四「永享五年三月／於江州犬上郡武林峯辰巳邊湖岸書之　良海（花押）」、同巻五末中臣祓祭文末「永享五年五月書之／於若狹國遠敷下宮　玄猷」、巻六「自广永廿三年至于永享五年書了／於若狹國遠敷下宮　良海（花押）」「定円／智積院」、巻七「永享五年／於江州犬上郡武林峯辰巳邊湖岸書之　良海（花押）」、巻八「永享五年／於江州犬上郡武林峯辰巳邊湖岸書之　良海（花押）」、巻九「永享三年三月／於河州長野山磐田八幡宮東一院書之　良海（花押）」、巻十「永享三年卯月／於河州長野山磐田八幡宮東一院書之　良海（花押）」と奥書あるものの寫

三〇・一―イ三五）

日本書紀神代巻　二巻　二冊　九〇三

舎人親王等奉勅撰　袋綴　茶色表紙　二六・五糎一八糎　四周單邊二一・五糎一六糎　八行約二十五六字　題簽左肩雙邊「神代巻上（下）」　内題「やまとふみまきの第一　ついでひとつ（ついでふたつ）」　柱刻「假名神代上（下）（丁數）　日本書紀巻　江戸石町拾軒店　辻氏版（陰刻）」

刊記　享保四己亥年夏五月吉旦　京都辻勘重郎／同野田彌兵衛／同太兵衛

（平假名讀み下しを本文として漢字文を右傍に細書し、假名には濁點句讀を施す

三〇・一―イ四一）

日本書紀神代巻　寫　二巻　二冊　九〇四

舎人親王等奉勅撰　袋綴　改裝後補毘沙門格子地牡丹唐草文行成表紙　二六・五糎二〇・五糎　八行十六字　外題左肩「（日本書紀）一（二）」、「村岡典嗣藏書」

（室町時代末期寫　墨書假名附訓、校異返點を朱書　第一冊巻初三葉に史記等より三皇の記事を引く　三〇・一―イ四三）

日本書紀神代巻　寫　二巻　二冊　九〇五

舎人親王等奉勅撰　「清原業賢」筆　袋綴　菱目模様丹行成表紙　用紙裏打　二七・五糎二〇・五糎　九行十八字　題簽左肩「日本書紀 神代上（下）」　扉題左肩「神代上下」、「隱顯藏（陰刻）」「幽顯」「神陽臺」

識語　（上冊）右一見之序加修補訖　卜部兼雄

（下冊）右両冊者大外記清原業賢／真筆也仍加修補之已矣／敢莫出窓外矣／正四位下行左衛門佐兼侍從卜部朝臣兼雄

（室町時代末期寫　本文同筆假名附訓朱點を施す　三〇・一―イ〇二）

日本書紀神代巻　寫　二巻　二冊　九〇六

舎人親王等奉勅撰　卜部兼致筆　袋綴　改裝後補菊花文赤地錦表紙　原裝紺表紙見返金切箔散　用紙裏打　二六・五糎二一糎　五行十二字小雙行　題簽左肩金紙　卜部良芳筆「日本書紀 兼致朝臣御筆 神代上（下）」　原題簽左肩「日本書紀 神代上（下）」　尾題「日本書紀巻第一（第二神代下）」

識語（上冊）天文癸巳仲秋中二／加修補之已矣／　天兒屋根尊四十八世孫 當家兼右卿舍兄也 神祇管領勾當長上侍從卜部朝臣兼右（印）

兼致朝臣御筆也／加修補畢／弘化四丁未歳十一月十四日／　兼致朝臣十四世孫 從三位侍從卜部良芳

（下冊）右両冊者神龜院真／筆也不可出窓外矣／天文癸巳季秋仲二／侍從卜部兼右

兼致朝臣御筆也加／修補訖／弘化四丁未歳十一月十四日／　神龜藏神十四世孫 從三位侍從卜部良芳 三十八歳

（假名附訓朱點を施す　三〇・一―イ〇七）

日本書紀神代巻　寫　二巻　二冊　九〇七

舎人親王等奉勅撰　田中慶太郎筆　袋綴　黄唐紙表紙　二七糎一八糎　八行十七字（一書曰は低二格）　内題「日本書紀巻第一（二）」

奥書　庚寅仲秋武歳國住人田中慶親寫／日本書紀神代巻一部奉納／大和國／天理圖書館（印）

（三〇・一―イ六三）

日本書紀神代巻　寫　二巻　二冊　九八

舎人親王等奉勅撰　卜部兼見筆　袋綴　紺表紙　用紙裏打　二九糎二三糎　四周単邊二一・五糎一九糎　七行十二字（一書曰は低一格）　題簽後補左肩紅紙「日本書紀神代上(下)」　内題「日本書紀巻第一(二)」　天兒屋根尊五十七世孫

識語（第一冊）　享保乙卯初冬初五加一見之／已矣／神祇管領勾當長上從三位行侍從卜部朝臣兼雄

（第二冊）　右兩冊者豊神院殿兼見卿／御真筆也不可出窓外矣／享保二十年十月五日　從二位侍從卜部兼雄

（假名附訓朱點を施す　三〇・一―一六五）

日本書紀神代巻　寫　二巻　二冊　九九

舎人親王等奉勅撰　袋綴　薄茶色表紙　用紙鳥の子　三〇・五糎二二・五糎　八行十四字　外題「日本紀神代上(下)」秘點」、「李部大卿忠次・文庫」「渡邊千秋藏書」

（榊原侯本　江戸時代初期寫　原に上冊「神代上下奏被　綸命仰息男卜／部兼致遂書寫之功畢仍以累家／之祕説加朱墨之両點謹奉献上／焉／文明第十三歴禍月上旬日曜日／神祇管領勾當長上從二位行侍從臣卜部朝臣兼倶上」「右奥書御本申出之書寫之訖深藏函底敢勿許外見矣／永正九年五月十日　少納言清原朝臣判」應永十二年十二月廿六日爲參宮進發於路次讀進之早（ママ）／神祇大副卜部兼敦」「正二位行神祇權大副兼侍從卜部朝臣兼名」「永正十一年十一月廿八日書写了判」「以右奥書本挍正了以朱付假名是也スクニ切点ハ前ノ本也ヲキニ切点ハ今挍正ノ朱点也宣賢」「永正十五年六月廿三日講始同廿八日講終了宣賢」「宣賢一万里小路一發起　一三福寺一發起　一二條本覺寺一發起　一叡山下十坊一發起大永三」「此上下巻爲什公首座講畢矣因見寫／予家點也／享祿二年孟夏十七日於前越旅店書之／環翠軒宗尤自判朱印」、下冊「神代上下秦被　綸命卿息男卜／部兼致遂書寫之功畢仍以累家／之秘説加朱墨之両點謹奉献上／焉／文明第十三歴禍月上旬日曜日／神祇管領勾當長上從二位行侍從臣卜部朝臣兼倶上」「右奥書御本申出之書写之訖深藏函底敢勿許外見／矣永正九年五月十日　少納言清原朝臣判」「乾元二年閏四月廿一日以累家之本書写訖大常少卿兼夏」「嘉元二年林鐘十日合私記了判」「同月廿五日拭珠汗抄出神名訖兼夏」「元應第二歴仲呂廿九日授兼豊訖　正四位上神祇大副卜部兼―判」「神代上下借請兼滿朝臣相傳本書写之可秘之／永正甲戌臘月十五日　槐陰逃虚子判」「以右奥書本重挍正之以朱付假名了以朱スクニ切ハ前ノ本ノ点也以朱脇ニ切ハ今挍正ノ本ノ点也宣賢」「永正十五年七月十七日講始同廿一日講畢三福寺發起宣賢」「此上下巻爲什公首座講畢矣因見寫／予家點也／享祿二年孟夏十七日於前越旅店書之／環翠軒宗尤自判朱印」と奥書あるものの寫　三〇・一―一八〇）

日本書紀神代巻　寫　二巻　二冊　九〇

舎人親王等奉勅撰　「卜部兼敦」筆　袋綴　澁包表紙　二六糎一七糎　八行小雙行　外題左肩後筆「(日本紀神代巻)上(下)」、「隱顯藏(陰刻)」「幽顯」「神陽臺」

奥書（上冊）永徳元年十月廿一日以累家秘本書／寫之訖　正五位下行中務少輔卜部　朝臣兼敦／同年黄鐘第三日加點挍合而已／正五位上行神祇權大副卜部朝臣兼熙

（表紙右下に「長仰」と墨書　朱墨訓點を施す「發端寛文十二子ノ四月廿二日含牙迄聽聞」「惟講」等の附箋多し　惟は吉川惟足か　三〇・一―一八三）

日本書紀神代巻　寫　二巻　二軸　九一

舎人親王等奉勅撰　卜部兼夏筆　巻子本　改装後補菊花文赤地錦表紙　見返麻布用紙裏打　(上巻)二九糎二七米　(下巻)二七糎二四米二五糎　天地單邊(低一格に今一界を引く)二二・五糎　一紙四二糎　有界十四行十三字小雙行　題簽卜部兼雄筆「兼夏朝臣御筆　日本書紀　上(下)」　内題「日本書紀巻第一(第二)　神代上(下)」

奥書　(上巻別紙繼紙)　乾元二年大族廿七日以累家之祕本／書寫了神代上下注多之間輒爲／披閲如此書訖／神祇權少副卜部兼夏

嘉元二年沽洗一日於閑窓之雨中／加抄出訖／兼夏

見合私記等合點了

元應二年二月十一日授兼豊訖／太常大卿(花押)(兼夏)

元徳初歴大呂十九日授兼貫了／正議大夫(花押)(兼夏)(此二行十七字上に「延文元年」云々の兼豊筆議語を記す)　後筆押紙兼見十代之祖

（下巻）乾元二年閏四月廿一日以累家之本／書寫訖／大常少卿兼夏　五月四日點了七日交了

嘉元二年林鐘十日合私記了／卜(花押)(兼夏)　後筆押紙兼見十一代之祖

同月廿五日拭珠汗抄出神名訖／兼夏

元應第二歴仲呂廿九日授兼豊訖／正四位上行神祇權大副卜部兼(花押)(兼夏)

識語 （上巻）延文元年中歳四月十九日修補畢／正四位上行神祇大副卜部兼豊（花押）
（此二行「元徳初暦」云々の奥書の上に記す）／於此本者不可持參諸方不可出
困矣
（別紙無界繼紙）永徳元年十一月卅日以家之／秘説授嫡男兼敦訖／正四位上行
神祇権大副卜部朝臣（花押）（兼熙）
日本書紀者一品舎人親王之所著也蓋闡發鬼神之幽／秘通貫帝王之經綸煥乎大哉
昭如日星初拾故遺三品卜氏以此書授吾先君是以余趨庭日亦嘗與有聞焉大常／少卿
卜兼富乃拾遺之孫一日來語余曰日本紀先父之職／也敢有二事然吾不幸過時而未
有及乎此若徒歸咎於／既往不以補於後則終絶滅吾家之業噫吾雖已老其旦／願學焉
余應之曰學而不厭誨人不倦聖人其猶不曰能之／矧余之不敏何以利汝乎哉然測汝
言之懇不獲辭耳抑亦／昔先君傳其説則於汝家得之矣今又以此歸於汝家蓋／天
理之當然也豈不許汝之請而自取逆理哉則以授第一／巻既畢請跋之應永癸卯孟夏
下澣謹識／右僕射藤氏（花押）（一條兼良）
神代上下巻被　綸命仰息男卜部兼致遂書寫之／功畢仍以累家之秘説加朱墨之両
點謹奉／獻上焉／文明第十三歴禘月上旬日曜日／神祇管領勾當長上從二位行侍
從卜部朝臣兼倶上
（又別紙同上）此両巻者我十七代之祖／兼夏御真筆也尤秘本／累代龜鏡也拜見
之次／加證明敢莫出閫外矣／享保十八年六月十一日／銀青光祿大夫拾遺卜部朝
臣（花押）（兼雄）
享保二十年十月廿日加表紙并外題ヲ書加了／卜兼雄
（下巻別紙繼紙）右兼夏御筆也尤卜家之／重寶也輒可禁他見者也／享保癸丑歳
季夏中一／從三位侍從卜部朝臣兼雄　當年迄四百三十一年歟（此十字別筆）
享保乙卯年初冬。丙戌日拜見之砌／加表紙　外題畢卜（花押）（兼雄）　丁卯朔
（乾元本　全文に兼夏・兼倶筆頭書裏書多し　朱墨諸點を加ふ　上巻別紙繼目裏
に「兼熙」と自署、丸山二郎著「日本書紀の研究」、ビブリア第五號所収石崎正雄
「乾元本日本書紀について」―参照　三〇・一―イ三七）（重文）

日本書紀神代巻上　寫　一軸　九二

舎人親王等奉勅撰　卜部兼熙筆　巻子本　改裝後補堅縞赤地錦表紙　見返雲紙
用紙裏打　二八・五糎二六米二五糎　一紙三九・五糎　天地單邊（低一格に今一界
を引く）二四糎　有界十四行十四字小雙行　題簽後補金紙「寂照院御筆　日本書紀神代上」内
題「日本書紀巻第一神代上」、「幽顯」「隱顯藏（陰刻）」
識語　應永十二年十二月廿六日爲參宮進發於路次／讀進之畢／神祇大副卜部兼敦
／正三位行神祇權大副兼侍從臣卜部朝臣兼名
（本文同筆朱墨訓點あり　巻初に「兼熙」と自署す　三〇・一―イ九七）

日本書紀神代巻殘闕　寫　一冊　闕　九三

舎人親王等奉勅撰　綴葉裝　共表紙　用紙鳥の子　二三・五糎一六糎　五行十三
四字小雙行　十八丁（表紙共）
識語　（見返）谷森善臣自筆識語（と押紙して更に別紙附箋）日本紀八葉ノ零巻
是又珍重殊ニ伊奘冉尊ノ冉字諸／本ノ繆寫ヲ訂正スベシ下略
（南北朝時代寫　巻首神代巻上巻「國常立尊　至貴曰尊自餘曰命並訓美舉筆也下皆效此」より末尾「既辱之
將何以結親睦之情乎乃以」までを存す　本文同筆朱書訓點を施す
三〇・一―イ九三）

日本書紀巻第二　一冊　九四

舎人親王等奉勅撰　袋綴　改裝後補茶色表紙　二九糎二〇・五糎　四周雙邊二二
・五糎一五・五糎　八行十八字小雙行　四十丁　柱刻黒口「日本紀二（丁數）」外
題左肩後筆「日本紀巻第二」
刊語　洵略陛下寛恵叡智之餘後世惜其流布之不廣遂／命鳩工於是始壽諸梓矣舊本頗
純駁不一／求數本考正之去其駁而録其純用之國而／及之天下則以成熙皡之治以
紹神尊之統／保瑞穂之地千五百秋將必有賴於斯焉／慶長己亥姑洗吉辰　正四位
下行少納言兼侍從臣清原朝臣國賢敬識／以　勅本板行
識語　於洛陽求得之
元文三午夏修治
（古活字版　三〇・一―イ九三）

日本書紀巻第十一　寫　一軸　九五

舎人親王等奉勅撰　巻子本　改裝後補澁表紙　二九糎一一米九〇糎　天地單邊二

四・五糎　一紙四五糎　有界十六行約十六七字小雙行（上邊低一格して更に横一界を引）　外題後筆書名同
識語　一校了
（鎌倉時代末期寫　略々本文同筆にて朱墨諸點を附す　紙背消息　三〇・一―一二〇三）

日本書紀卷第廿一　寫　一冊　九六

舍人親王等奉勅撰　懷紙折紙帳綴　共表紙　一三糎一七糎　十二三行　十三丁
（表紙共）
（鎌倉時代末期寫　内題下に「表書に日本記第廿一（ママ）（用明天皇崇峻天皇）」とあり、又内題の下に「十四枚許書之」とあり　表紙裏第一行より記事に入る　本文同筆假名附訓及び朱墨諸點を施す　三〇・一―一九五）

日本書紀卷第廿四　寫　一軸　九七

舍人親王等奉勅撰　卷子本　改裝後補澁表紙　用紙裏打　二八・五糎九米二〇糎
一紙四〇糎　天地單邊二三・五糎　有界十五行約十六字　外題後筆書名同
奥書　于時嘉暦元年七月十六日任本書寫了
一挍了
（嘉暦本　原に「本云兼頼書之點之」「覆勘了」「永仁五年三月十六日見合清家本了在判」と奥書あるものの寫　本文同筆朱墨の諸點を施す　欄外に内容の見出事書を頭書　數ケ所に裏書あり　三〇・一―一二三）

日本書紀聞書　寫　二卷　一冊　九八

卜部兼右講　袋綴　紺表紙　二七糎二一・五糎　十四行　墨付八十四丁　内題「日本書紀上（下）卷聞書」
奥書　神道頂上　吉田神主／天兒屋根命後胤／從二位卜部朝臣兼右　講談　竹之内象珍付属　象祐　氏澄
（江戸時代初期寫　上卷内題下に「永録（ママ）十卯丁十一月十三日始之」とあり　三〇・一―一八九）

日本書紀聞書　寫　二卷　二冊　九九

卜部兼致筆　袋綴　改裝後補丹表紙　原裝紺表紙　二六糎二二糎　約十七字　外題左肩卜部良芳筆「神書聞書　神代上（下）」　原外題左肩朱書名同上
奥書　（上卷）此抄一見之次以度ニ聞書等并／代ニ口傳之奥旨等令新作之間／落字僻字等改之加朱点了／不可外見而已于時明應七年／七月上旬　左兵衛佐卜部兼致
識語　（上卷）享保甲寅季春初六／加奥書之已矣／天兒屋根尊五十五世孫／神祇官領勾當長上從三位行侍從卜部朝臣（花押）
兼致朝臣御真筆也／加修補訖／弘化四丁未歳十一月二十日／從三位行神祇權大副兼侍從卜部良芳
（下卷）右兩冊者兼致真筆也／不可出窓外矣／享保甲寅季春初六／侍從三位卜部兼雄
兼致朝臣御真筆也／加修補畢／弘化四丁未歳十一月十八日／從三位侍從卜部良芳
（紙背消息　宗祇等消息あり　三〇・一―一二〇五）

日本書紀見聞第三　寫　一冊　一〇〇

卜部兼右筆　袋綴　茶色表紙　二八糎二一・五糎　十行　十八丁　題簽後補金切箔散「日本書紀見聞」
奥書　天文十二年正月廿二日防州下國之砌以長州豊明郡二宮大宮司／兵庫頭内藏（ウチノクラ）興國本書寫了説ニ雖不足信用先馳筆／了
天文十二　二　十以竹中兵庫頭（長州二宮）興國本書寫了
（三〇・一―一三七）

日本書紀纂疏　寫　六卷　三冊　一〇一

一條兼良著　梵舜筆　袋綴　改裝後補澁刷毛目表紙　原裝栗皮色表紙　用紙裏打
二七糎二一糎　四周單邊二一・五糎一七糎　有界十行二十字小雙行　外題左肩卜部良芳筆「（梵舜翁真筆）（書名同）上（一―下）」　原題簽左肩丹紙「（書名同）上（一―下）」、「隱顯藏」「幽顯」「神陽臺」

奥書（第二冊）此中巻以他本書写之處相違繁多也然間／累家以秘本小書脇付并挍合畢／文祿五丙申年十月廿六日　梵舜（花押）

（同筆朱書）又云慶長二正廿七重而少〻書直雖然可有相違乎／乍去挍合及數度者也

（第三冊）纂疏三冊上巻者以家本書之中下／之両冊者自文祿四十二月比以他本書写之／處以外之相違繁多也然間累代以秘本／小書脇付并挍合畢／慶長元丙申霜月三日　梵舜（花押）

上巻文祿五九十六筆立　中巻文祿第四十二月廿二筆立　下巻文祿五正七筆立
同年十月十四日書終　同五年正七夜書終　同月十九日書畢

識語（第一冊）神龍院梵舜翁真筆也／加修補畢／弘化四丁未歳十一月六日／從三位侍從卜部良芳

（第二冊）神龍院梵舜御真筆也／加修補畢／弘化四年十一月七日／從三位侍從卜部良芳

（第三冊）梵舜御筆也加修補訖／弘化四丁未十一月八日／從三位侍從卜良芳

（原に第三冊末「写本云永正九壬申年七月十二日以一條殿後成恩寺殿御自筆御本／於燈下令書写加挍合訖／治部卿卜部兼永」と奥書あるものの寫　朱點訓を施す　三〇・二―イ一〇九）

日本書紀纂疏　寫　六巻　合一冊　九三

一條兼良著　清原宣賢筆　袋綴　改装後補茶色表紙　用紙裏打　二七・五糎二〇・五糎　十七行約二十五字　七十二丁　外題左肩後筆「纂書」　巻四巻五間の中扉に本文別筆題簽「神代抄下」を貼附、「東」

奥書（巻二）永正七年三月廿六日以一條殿御本御自筆遂書写之功訖／給事中清原朝臣（花押）（宣賢）

（巻四）永正七年九月十一日以後成恩寺殿一條殿御自筆本於灯下遂書写之功訖／少納言清原朝臣（花押）（宣賢）

（巻六）以一條殿御本後成恩寺殿御自筆書写之訖／于時永正八年十二月十四日　少納言清原朝臣（花押）（宣賢）

識語　宣賢卿御筆也／加修補畢／弘化四年十一月十九日／從三位侍從卜部良芳

（もとは巻一・二、巻三・四、巻五・六の六巻三冊本　各巻内題下に「藤兼良述」とありてその右下に「宣賢（印）」と自署　三〇・二―イ一七七）

日本書紀抄　寫　三巻　三冊　九三

清原宣賢著　自筆　袋綴　改装後補花葉文赤地錦表紙　見返金箔散　原装漉表紙用紙裏打　三二糎二六・五糎　天地單邊二九・五糎　有界十行約二十數字本文小雙行　題簽左肩金紙「宣賢卿真筆（書名同）上（一下）」　原題簽左肩後筆「（書名同）上（一下）　宣賢筆」、「東」「隱顯藏」「幽顯」「神陽臺」

奥書　（第一冊）天文二年二月十一日於青蓮院門主講申三月一日此巻申終了／環翠軒宗尤（印）

同年十一月三日於私宅講了　天文五年正月廿九日講始之栖雲寺玉西堂發起竹田舍弟也

天文十二年五月　於越州一乘谷講之

天文十五年五月廿七日於越州一乘谷講之

（第二冊）先年雖令抄出爲讓与竹幅丸吉田社預愚息也重加琢磨書之同文字讀清濁以朱／指聲訖卜氏秘説不違背一句於纂疏私書加之爲子孫亀鏡／輒勿出函底矣／大永六年四月二日終上巻功　侍從三位清原宣賢（印）

天文二年三月六日十一日十七日此一巻三ヶ度講申了　環翠軒宗尤於青蓮院

同五月　依或人補闕所望重講此巻了

天文十一年六月六日於越前國一乘谷慶隆院日蓮末弟講之每朝講之十三日上／巻講畢八ヶ度　同九月八日講始十五日終八ヶ度日蓮末葉金剛院發起愚息也少名竹幅丸去年五月六日元服

（第三冊）先年雖令抄出爲讓与神祇／少副卜部兼右重加琢磨書之同文字讀／清濁以朱指聲訖卜氏秘説不違背一句於纂疏者私書加之爲／子孫亀鏡輒勿出函底矣／大永七年正月卅日終下巻功　侍從三位清原宣賢（印）

天文二年三月廿一日於青蓮院講始同五月六日講終已上此巻五ヶ度環翠軒宗尤

同年十一月廿二日此巻又講了五ヶ度

天文五年三月十八日於私亭講之妙典寺發起五ヶ度

天文十一年六月十七日於越前國一乘谷慶隆院講畢

同年九月廿一日於越州金剛院發起

天文十五年六月於越州一乘谷講之十寶坊發起

識語（第一冊）宣賢卿真筆元巻物也／祖父／良連卿御修覆爲本今度／加表紙／弘化四年十一月一日／從三位侍從卜部良芳（各冊略々同文あり）

（片假名交り　もと巻子本を切斷して現装袋綴本に臺貼す　第三冊末に「兼益記」「神系圖」等を附す　内題の下に「宣賢」と自署　三〇・一―イ一五一）

日本書紀小汀鈔　寫　十卷　別二卷　十二冊　九二四

山本廣滿著　延享三丙寅年秋七月四日自跋　袋綴　紺表紙　用紙裏打　三〇糎二〇・五糎　十行　題簽左肩「神代卷小汀鈔　六」（他冊闕）　外題左肩「日本紀小汀鈔」第一冊内題「日本書紀卷之一神代卷之上講述劄記／小汀鈔第一」

（江戸時代中期寫　別に同裝同筆「日本書紀神代上卷神号傳」一冊、「日本書紀神代下神号荷田家古傳」一冊を合せて全十二冊なり　卷初内題の次に「講師　羽倉齋荷田宿禰春滿（信盛）之門人／越後國府高田城主松平氏定賢儒士／黑田正足櫟齋雲洲／聞者　同城内同食之士／山本平太夫藤原幸在（廣滿）／并加今按」とあり　卷十跋末に「於出羽國／由理郡赤尾津庄亀田郷官舍竹栖軒／山本氏藤原幸在廣滿自跋」とあり　なほ「荷田家古傳」の奥に「延享三丙寅年八月九日羽州寓所於于竹栖／之屋東窓下藤原幸在書」とあり　三〇・一―一三九）

日本書紀神代聞書　寫　一冊　九二五

卜部兼倶講　宜竹閭書　清原宣賢筆　袋綴　改裝後補朽葉色表紙　二七・五糎二一糎　約二十行三十字　四十丁　外題左肩後筆「神代聞書」　内題なし、「隱顯藏（陰刻）」「幽顯」「神陽臺」

識語　宣賢卿御筆也加證明畢／弘化四丁未歳十一月三日／從三位侍從卜部良芳

（卷初に「日本書紀　文明九年丁酉（吉田二位兼倶卿講）四月廿八日（宜竹閭書也）」とあり　上卷は五月廿三日に及び神代下は五月廿四日より始まり「文明九年丁酉九月十七日續前講」等の日附を經て「文明丁酉九月廿三日昨日畠山衞門没落」とある日附に及ぶ　三〇・一―一六九）

日本書紀神代卷科解　寫　七冊　九二六

尚舍散人龍氏自序　袋綴　縹色表紙　二七・五糎二〇糎　十行　題簽左肩後筆（第二冊）「日本紀神代科解上之二」（他冊闕）　柱心「神代科解　上一（―下ノ下）（丁數）」、「尊勝院（墨印）」

（江戸時代初期寫　片假名交り　朱點　三〇・一―一三）

〔日本書紀神代卷抄〕　寫　二卷　二冊　九二七

卜部兼倶筆　袋綴　改裝後補縹色表紙　二七・五糎二一糎　十三行約二十數字　題簽左肩後筆「日本書紀卷第一神代上（卷第二神代下）」　内題同上、「隱顯藏（陰刻）」

奥書　（上冊）此聞書富流之師説一言一句無／違却尤可謂後代之亀鏡乎／神道長上從二位卜兼倶

（下冊）神道長上從二位卜兼倶

識語　元文三年四月十六日加修補畢／正三位侍從卜部兼雄

（片假名交り　本文同筆にて纂書等諸書を引きたる頭注多し　三〇・一―一四三）

日本書紀神代卷抄　寫　二卷　合一冊　九二八

清原宣賢著　袋綴　改裝後補丹表紙　原裝澁表紙　用紙裏打　二七糎一九・五糎　十二行　百三十四丁　外題「神代記　全」　原外題左肩後筆同上

識語　右一冊者秘抄也敢／他見之莫許矣／享保十八癸秋初五／銀青光録大夫拾遺

（花押）

（室町時代末期寫　原に卷一「以卜氏秘説不違背一句抄之但所々雖非無不審暫任（ママ）／師講（兼倶卿）命短毫至纂疏者以愚慮（ママ）私加之者也／少納言清原宣賢」、卷二「以下氏秘説不違背一句抄之但所々雖非無不審暫任（ママ）／師講（兼倶卿）命經毫至纂疏者以愚慮（ママ）私加之者也／少納言清原宣賢」と奥書あるものの寫　卷末に「神系圖」「神道大意」「河圖之圖」を附記　卷中所々に宣賢自筆札記を貼附す　三〇・一―一四五）

日本書紀神代卷抄　寫　二卷　合一冊　九二九

清原宣賢著　自筆　袋假綴　茶色表紙　用紙裏打　二七・五糎二一糎　原寸二七糎　天地單邊二五・五糎　十八行　九十二丁　内題なし、「隱顯藏（陰刻）」

奥書　（上卷）以卜氏秘説不違背一句抄之但所々雖非無不審暫任／師講（兼倶卿）命短毫至纂疏者以愚慮私加之者也／少納言清原宣賢

（下卷同上）

識語　宣賢卿御筆也／加修補畢／弘化四丁未歳十一月十五日／從三位侍從卜部良芳

（卷末に本文同筆「神代系圖」「河圖之圖」「神道大意」を附記　表紙左下に「宣賢

抄之」と自署　三〇・一―イ一四七）

日本書紀神代巻抄　寫　二巻　三冊　九三〇

卜部兼永筆　袋綴　紺表紙　三〇糎二三糎　四周單邊二五糎一九・五糎　有界七行十四至六字小雙行　題簽左肩後補金紙「日本書紀抄　中兼永筆（同下）」（上冊闕）、「隱顯藏（陰刻）」「幽顯」「神陽臺」

識語（第一冊）右兼永卿真筆也加證明畢／卜部（花押）

（第二冊）（同右）

（第三冊）右三冊者平野三位兼永卿／真筆也加證明敢莫出間外矣／享保十八年九月十五日／銀青光録大夫拾遺兼雄

（片假名交り　附訓　本文注文「日本書紀宣賢抄」に略々共通　三〇・一―イ一六七）

〔日本書紀神代巻抄〕　寫　二巻　二冊　九三一

卜部兼倶著　梵舜筆　袋綴　改裝後補薄茶色表紙　二九・五糎二一・五糎　十三行外題左肩卜部兼雄筆「日本書紀巻第一（二）神代上（下）」、「幽顯」「神陽臺」

奥書　右神代上下巻抄以累家秘本令書写畢／但下巻端十五枚仰他筆書歿奥分予書次者／也尤可謂證本勿外見許而已／寛永乙丑歳七月廿日号最庵龍玄（花押）七十三歳

識語（上冊）右神龍院梵舜筆也當家師説／莫外見矣／侍從卜部兼雄

明和丁亥歳仲夏中五／加表紙畢／從二位六十三才（花押）

（下冊）此兩冊者當流秘本之写梵舜筆跡也／輙莫出間外矣（ママ）／右兵衛督侍從卜部（花押）

明和四年五月十五日／加表紙畢／卜兼雄六十三才

（原に上冊「本云此聞書當流之師説一言一句無／違却尤可謂後代之亀鏡乎／神道長上從二位卜兼倶」下冊「本云神道長上從二位卜兼倶」と奥書あるものの寫　三〇・一―イ一九一）

日本書紀神代巻抜肝抄　寫　一冊　九三二

卜部兼右筆　袋綴　改裝後補青色雲紙表紙　原裝共表紙　二七糎一八・五糎　八行約二十字　二十一丁　原外題中央「□肝抄」内題「日本書紀第一／神代上抜肝要抄」

奥書　右防州祇園太宮司橘時重所持也正説／希而僻説多焉雖然爲知諸社之覺悟書／写了此内以朱消之分不及沙汰其外未／足信用者也　卜兼右

識語　元文三年四月三日加修補畢／正三位右兵衛督侍從卜部（花押）

（後半六葉は「神道抜肝抄」と題せり　三〇・一―イ一三五）

日本書紀神代巻秘抄　寫　二巻　三冊　九三三

清原宣賢著　袋綴　澁表紙　三〇・五糎二二糎　用紙斐紙　七行　二十字小雙行外題左肩「日本紀神代巻秘抄　上（―下）」　内題「日本書紀巻第一（第二）」　尾題「日本書紀神代上（巻第二神代下）」、「李部大卿忠次・文庫」「渡邊千秋藏書」

（榊原侯本　江戸時代初期寫　原に第二冊（上巻）「先年雖令抄出爲讓與竹鶴丸重加琢磨書之同文／字讀清濁以朱指声訖卜氏秘説不違背一句於纂／疏私書加之爲子孫亀鏡輙勿出函底矣／大永六年四月二日終上巻功　侍從三位清原宣賢」「天文二年三月六日十一日十七日於青蓮院此巻三ケ度講之（カ）　環翠軒宗尤」「同五月依或人補闕所望重講此巻了」「天文十一年六月六日於越前國一乗谷慶隆院日蓮末葉講之／毎朝講之十三日上巻講畢八ケ度同九月八日講始十／五日終八箇度日蓮末葉金剛院發起」「天正十一年癸未十月廿九日始講神代巻終講之畢寺中外内宗聽聞之」「于時寒花飛庭自去月廿九日恩息也　於泉堺大寺福聚院　及三十余人　煤花半開至霜月十四日講之畢　雪庵道白俗名枝賢号清三位入道判爲證明」、第三冊（下巻）「先年雖令抄出爲讓與神祇少副卜部兼右重加琢磨書之同文／字讀清濁以朱指聲訖卜氏秘説不違背一句於纂疏／有私書加之爲子孫亀鏡輙勿出函底矣／大永七年正月卅日終下巻功　侍從三位清原宣賢東印」「天文二年三月廿一日於青蓮院講始同五月六日講終已上此巻五ケ度　環翠軒宗尤」「同年十一月廿二日此巻又講了五ケ度」「天文五年三月十八日於私亭講之妙典寺發起五ケ度」「天文十一年六月十七日於越前國一乗谷慶隆院講畢」「同年九月廿一日於越州金剛院發起」「天文十五年六月於越州一乗谷講之　十寶坊發起」と奥書あるものの寫　朱點訓點を施す　「兼益記」「神代系圖」を附記す　九〇九と同箱に収め箱書「日本紀神代巻秘鈔三冊／同秘點二冊」とあり　三〇・一―イ一三一）

日本書紀神代秘抄　寫　二巻　三冊　九三四

清原宣賢著　清原業賢筆　袋綴　栗皮色表紙　二七糎二一糎　四周單邊二四糎一

八・五糎　有界八行約十八字小雙行低一格約三十三字　題簽左肩清原宣賢筆「（書名同）元（―利）」　内表紙外題「（書名同）元（―利）」、「幽顯」「神陽臺」
奥書　（第二冊）此抄家君御自筆本讓与卜部兼右之條爲ノ予令書寫之今日遂上巻功訖ノ享祿庚寅首夏甲子　外史清原朝臣（花押）（業賢）
（第三冊）享祿庚寅林鐘关酉神代上下巻秘抄ノ遂寫功早深納函底聊莫外見矣
大外記清原朝臣業賢（花押）
識語　（第一冊）右加首書訖　神祇権大副卜兼雄
（第二冊）寛延四年後六月廿三日ノ加首書畢ノ正三位神祇権大副侍從卜兼雄　四十七才　爲宝暦元
（第三冊）寛延辛未後林鐘庚申日加首書了ノ銀青光祿大夫拾遺（花押）　四十七才　爲宝暦元
（原に第二冊「本云　先年雖令抄出爲讓与竹竈丸重加琢磨書之同文字ノ讀清濁以朱指聲訖卜氏秘説不違背一句於纂疏ノ私書加之爲子孫亀鏡輒勿出函底矣ノ大永六年四月二日終上巻功　侍從三位清原宣賢」、第三冊「先年雖令抄出爲讓与神祇少副卜部兼右重琢磨書之同文字讀ノ清濁以朱指聲訖卜氏秘説不違背一句於纂疏者私書加之爲子ノ孫亀鏡輒勿出函底矣ノ大永七年正月卅日終下巻功　侍從三位清原宣賢」と奥書あるものの寫　朱墨諸點を施す　書入附箋多し　小口書清原宣賢筆「日秘元（―利）」、「船橋（陰刻）」とあるを墨消したる跡あり　三〇・一―イ一〇五）　吉田社預　吸息也

日本書紀神代巻風俗鈔　寫　八冊　九三五

秦信慶著　袋綴　改裝後補澁刷毛目表紙　原裝赤羊歯葉模様鶯色表紙　用紙鳥の子　二八糎一九・五糎　原題簽左肩「神代巻風俗鈔　一（―八）」、「千種文庫」「同學齋圖書記」
（内題次行に「秦信慶述」とあり　三〇・一―イ一三）

日本書紀所ゝ抜書　寫　一冊　九三六

卜部兼見筆　袋綴　改裝後補澁刷毛目卵色表紙　原裝共表紙　二四・五糎二一糎
十行約二十字　二十七丁　原外題中央「日本書紀所々抜書　懐中之本抜書之」
識語　此一冊者兼見卿御筆也莫出間外矣ノ元文三年三月廿四日　卜（花押）
元文三年四月三日拝見砌ノ加修補畢ノ右兵衛督侍從（花押）
兼見卿御真筆也ノ加修補訖ノ弘化四年十一月十九日ノ從三位侍從卜部良芳

（文中に「天文二ノ治日少補談云神龍院殿姑服不受之給云云然ニ兼將藏人於ノ禁中皆ゝ尋之中ゝ無着服之由申訖予云神龍院殿不受ノ姑服給事者有先例康暦夏歟　伊大兼豊不受姑服ノ給者也依此例如此歟」「文祿四年五月二日向持明院黄門孝基ノ直ニ令相受訖ノ今度自殿下数ケ条之不審之時有右之ノ条依之此向相尋訖」等の記事あり　紙背消息文　三〇・一―イ一三三）

水鏡　寫　三冊　九三七

袋綴　薄黄表紙　二六糎二〇糎　十三行　題簽中央「（書名同）下」（上・中巻闕）
外題中央後筆「（書名同）中」、「林屋藏書」「村岡典嗣藏書」
（室町時代末期寫　三〇・一―一五五）

湯津爪櫛　寫　六冊　九三八

南里有隣著　自筆　袋綴　白紙表紙　二七糎一八・五糎　十一至十三行　題簽左肩「（書名同）一（―六止）」　内題「神代古事記第壹（―十七）」、「南里家印」「殘花書屋」
識語　南里有隣先生遺稿
（塗抹訂正多し　第一冊より第三冊までは毎冊各二巻、第四冊は巻七至九、第五冊は巻十至十三、第六冊は巻十四至十七を収む　各巻の末に白紙二・三枚を置く　村岡典嗣著「増訂日本思想史研究」所収「南里有隣の神道思想」―参照　三〇・一―イ一四九）

奈良時代

續紀宣命辞不審・續紀宣命疑條　寫　一軸　九三九

本居宣長問　賀茂眞淵答　各自筆　巻子本　改裝後補紫地花鳥文金襴用紙　見返金紙　金砂子散紙に臺貼　一七糎六米五五糎
（宣長不審各條餘白に眞淵の答書を書入す　巻初に「本居宣長謹問」と自署もと袋綴を現巻子本に改裝　三〇・二―イ二）（重美）

續日本紀　寫　四十卷　七冊　二四〇

菅野眞道・藤原繼繩等奉勅撰　卜部兼右筆　袋綴　朽葉色表紙（第二冊表紙闕）　用紙裏打　二七・五糎二一糎　十二行二十四字　題簽左肩「（書名同）　一之六（一丗七之四十）」

識語（第一冊左肩題簽右押紙）兼右卿御筆

（第七冊）右七冊者當家之秘本／曩祖兼右卿御眞筆也／莫出戸外矣／享保十九甲寅歲仲秋十一／從三位侍從卜部（花押）

（原に卷一「永正十二年閏二月三日書之」、卷二「本云應永第三之曆仲春初五日取目録了／正三位行侍從卜ㇷ朝臣判」「以兼滿朝臣家本書寫之件本字形不分明不審多之後見可令用捨者乎／永正十二年閏二月四日寫之了　判」、卷三「永正十二年二月廿二日終書功了」、卷四「本云延文元年六月日修補之／正四位上行神祇大副卜兼豊」「抄了／從三位侍從卜ㇷ朝臣兼熙」「永正十二年閏二月九日終書功了」、卷五「永正十二閏二月七日書之」、卷六「本云延文元年丙申六月日修補之　正四位上神祇大副卜兼豊」「永正十二年閏二月八日書寫訖　判」、卷七「永正十二年閏二月十二日書之」、卷八「本云一見之次加抄出之早　駕部郎中卿卜兼敦」「本應永第三之曆仲春初九之夕取目六了　正三位行侍從卜ㇷ朝臣判」「本此第八卷書入他本之間筆跡狼籍可書改欤／永正十二年三月十二日書寫了　老槐判」、卷十「延文元年丙申六月日修補之　正四位上神祇大副卜部兼豊」「永正十二閏二月廿一日終書写功訖」、卷十一「永正十二閏二月朝立筆翌日申刻終功了」、卷十二「本云延文元年六月日修補之正四位上行神祇大副卜兼豊」「永正二年三月五日終功了」、卷十四「本明德三季四月十九日新寫之累家本此二卷欠失之間以他本誂大外記師胤書之即令挍／合両御抄（參大伊大）等訖可爲證本也／正三位行從兼讃岐權守卜ㇷ朝臣判」「永正十二三廿四了」、卷十六「應永第三之曆仲春五六之日取目録了／正三位行侍從卜ㇷ朝臣兼熙」、「永正十二年三月廿五日終書寫了判」、卷十七「四月四日書了」、卷十八「本延文元年丙申六月日修補之／正四位上行神祇大副卜兼豊」「應永第三之曆沽洗初一日之日取目録訖／正三位行侍卜ㇷ朝臣兼熙」「抄了　兼夏」「抄了治了卿卜ㇷ兼敦」「永正十二年四月六日書寫了　老槐判」、卷二十「延文元年六月日修補之　正四位上行神祇卜ㇷ兼豊」「永正十二四十四了」、卷二十二「應永第三之曆沽洗初四之朝取目六了宜仕神慮祖意也　正三位行侍從卜部朝臣判」、「永正十二五月一日了」、卷二十三「永正十二年四月九日書了」、卷二十四「本延文元年丙申六月日修補之　正四位上行神祇大副卜兼豊」「抄了　兼夏」「抄出了　正三位行侍從卜ㇷ朝臣兼熙」「取目録了　卜ㇷ判」「永正十二年四月十日書寫了　判」、卷二十五「永正十二五九書之」、卷二十六「本云抄了　兼夏」「延文元年丙申六月日修補之／正四位上神祇大副卜ㇷ兼豊」「見合抄出重修補了／正三位行侍從卜ㇷ朝臣兼熙」「取目録了　天香院一臈卜判」「永正十二年五月十五日終書功件本爛脱之丁在之前後參差仍所〻切繼之／追而可改者也　老槐判」、卷二十八「本云延文元年丙申六月日修補之　正四位上行神祇大副卜ㇷ兼豊」「永正十二　六　廿六了」、卷三十「抄出了　兼夏」「延文元年丙申六月日修之　正四位上行神祇大副卜ㇷ朝臣兼熙」「一覧了　兼敦」「以右奥書本書寫之了／永正十二年六月二日　判」、卷三十二「延文元年六月日修補之正四位上行神祇大副卜ㇷ兼豊」「永正十二六月八日了」、卷三十四「延文元年丙申六月日修補之／正四位上行神祇大副卜ㇷ兼豊」「應永第三之曆夷則廿二夕取目録了／正三位行侍從卜ㇷ朝臣判」「抄了　判」「永正十二年六月十七日扶病骨書之　判」、卷三十六「延文元年六月日修補之正四位上行神祇大副卜ㇷ兼豊」「永正十二年七月朔了」、卷三十八「一見之次抄出了　侍從卜部朝臣判」「永正十二年初秋十二終功了」、卷三十九「永正十二年七月三日凌病書了」、卷四十「應長第一年蕤賓十八日終一部抄出之功竟／從四位上行神祇權大副卜判」「永正十二年七月十三日以兼滿朝臣相傳本終一部之／書功者也／老槐散木御判六十一歲」と奥書あるものの寫　三〇・二―三）

續日本紀　寫　三十八卷　十九冊　闕　二四一

菅野眞道・藤原繼繩等奉勅撰　梵舜等筆　袋綴　茶色表紙　二七・五糎二〇糎　十行二十四字　題簽左肩梵舜筆「（書名同）　一之三（一丗九之四十）」、「隱顯藏（陰刻）」　奥書　右續日本紀四十冊遂全部／之功者也／慶長十八癸丑歲正月吉日神龍院梵舜（花押）

（卷十三）（朱）　私云挍合了大形也

識語　（卷十四）（朱）私云大形挍合了　享保十九仲秋日一見了　卜（花押）

（卷九・十所収分一冊闕　筆者は梵舜他二三筆を交ふ　原に卷一「永正十二年閏二月三日書之」、卷三「永正十二年二月廿二日終書功了」、卷四「本云延文元年六月日修補之／正四位上行神祇大副卜兼豊」、「抄了／從三位行侍從卜ㇷ朝臣兼熙」

「永正十二年閏二月九日終書功了」、巻七「永正十二年閏二月十二日書之」、巻十四「本明徳三季四月十九日新寫之累家本此二巻欠失之間以他本誂大外記師胤書之／即令挍合兩御抄(參大伊)等訖可爲證本也／正三位行從兼讃岐権守ト部朝臣判」、「永正十二三廿四了」、巻十六「應永第三之暦仲春五六之日取目録了／正三位行侍從ト部朝臣兼(熙)一」、「永正十二年三月廿五日終書写了判」、巻十八「延文元年(丙申)六月日修補之／正四位上行神祇大副ト部兼(豊)一」「應永第三之暦沽洗初一日之日取目録訖／正三位行侍從ト部朝臣兼(熙)一」「抄了　兼夏」、「抄了　治部卿ト部兼(敦熙)一」「永正十二年四月六日書写了　老槐判」、巻二十「延文元年六月日修補之正四位上行神祇大副ト部兼豊」「永正十二四十四了」、巻二十二「應永第三之暦沽洗初四之朝取目六了宜任神慮祖意也／正三位行侍從ト部朝臣判」「永正十二五月一日了」、巻二十三「永正十二年四月九日書了」、巻二十四「本延文元年(丙申)六月日修補之(豊)正四位上行神祇ト部兼(豊夏)一」「抄了　兼(夏)一」「抄出了　正三位行侍從ト部朝臣兼(熙)一」「取目録了　ト部判」「永正十二年四月十四日書写了　判」、巻二十八「本云延文元年(丙申)六月日修補之　正四位上行神祇大副ト部兼豊」「永正十二六廿六了」、巻三十二「寫本云延文元年六月日修補之正四位上行神祇大副ト部兼豊」「永正十二六月八日了」、巻三十四「延文元年(丙申)六月日修補之／正四位上行神祇大副ト部兼豊」「應永第三之暦夷則廿二夕取目録了／正三位行侍從ト部朝臣判」「抄了　判」「永正十二年六月十七日扶痛骨書之　判」、巻三十六「延文元年六月日修補之正四位上行神祇大副ト部兼豊」「永正十二年七月朔了」、巻三十九「永正十六年七月三日凌病書了」、巻四十「應長第一年莚賀十八日終一部抄出之功竟／從四位上行神祇権大副ト(判)」「永正十二年七月十三日以兼滿朝臣相傳本終一部之／書功者也　老槐散木(御判)六十一歳」と奥書あるものの寫　三〇・三―イ五)

榮花物語　寫　四十巻　四十一冊　九四二

平安時代

綴葉装　雲母菊模様薄黄色布目表紙　見返金銀切箔砂子散　用紙鳥の子　二三・五糎一七糎　九行　題簽後補中央「(書名同)第一(―四十)(各篇名)」、「阿波國文庫」「杉園藏」「紅梅文庫」等　(江戸時代初期寫　表紙右肩に「共四十一／イ三／乙」と朱書　第一冊は系圖所収　三〇・三―イ七)

榮花物語　三十八巻　十九冊　闕　九四三

袋綴　栗皮色表紙　二八糎二〇糎　十一行二十數字、「高木家藏」
識語　(第一冊末)(朱)墨御書入者先代之御筆也／朱書入聊賀藤之所見書入之物也初少々也
(第一冊表紙右肩紙箋)(朱)慶長年間／活字珍本
(古活字版　元和寛永期刊　第十七冊巻三十至三十四巻闕　表紙に所収巻數を墨書　三〇・三―イ二)

〔永久元年諸記〕　寫　一軸　九四四

巻子本　濃緑地龍織文表紙　見返金紙　二九糎九米七〇糎　一紙四八糎　天地罫邊二五糎　二十二行
(鎌倉時代初期寫　古筆極札に「慈鎮和尚筆」とあり　「外記」(永久元・閏三・廿、四・十六、廿五、廿七―廿九、「中右記」(永久元・四・朔、三、四、六―八、十二―卅、五・一―七、十九、廿一、廿五、六・一、五、七―十四、十八、「雅兼卿記」(永久元・閏三・廿―廿二、「重隆記」(永久元・閏三・廿―廿二、四・五、十、十四、十六、を所収　三〇・三―イ三)

大鏡　寫　三巻　三冊　九四五

袋綴　茶色表紙　二五・五糎二〇糎　十二行　題簽中央「(書名同)上(―下)」、「桃園文庫(紙票)」等
(室町時代末期寫　江戸時代末期朱筆を以てイ本校合あり　三〇・三―イ六)

大鏡　寫　六巻　六冊　九四六

袋綴　茶色表紙　用紙薄様　裏打　二六糎二〇糎　九行　題簽左肩「大かゝみ一(―六終)」
(江戸時代初期寫　三〇・三―イ八七)

大鏡　寫一帖　闕　九四七

綴葉裝　改裝後補蓮花織文茶色表紙　用紙鳥の子　見返金銀泥扇畫金切箔散二二糎一五・五糎　八行　百三十八丁　題簽中央銀泥下畫書名同　内題なし
（千葉本　鎌倉時代中期寫　もと二帖なりしを合綴す　前半は「左大臣冬嗣」至「左大臣師尹」を存し三巻本の上巻後半、後半は「太政大臣兼家」至「右大臣道兼」を存して中巻後半にあたる　行間同筆後筆書入を交ふ　大正十四年刊複製本、國語國文第十七巻第十號平田俊春「大鏡千葉本系諸本の研究」―參照
三〇・三―一二五）（重文）

大鏡巻中　寫一軸　闕　九四八

巻子本　改裝後補牡丹唐草文緑綴子表紙　見返金銀箔引雲　用紙金銀切箔散　裏打　二五・五糎九米　一紙四二・五糎　天地單邊二二・五糎　有界二十行
奥書　建久三季孟秋上旬染筆了
（建久本　裏書に相當するものを行間欄外に注記す　巻初「右大臣師輔」よりありてその上のみを存す　琴山筆「寂蓮法師眞蹟大鏡中之上」の極札を添ふ　防衛大學校紀要第二輯所収平田俊春「大鏡の原型に関する研究」―參照
三〇・三―一〇九）（重文）

大鏡殘葉　寫十枚　九四九

二八・五糎四〇至四六糎　第一葉目録の前に「大鏡」とあり　消息文の紙背を懐紙折にして用ふ
（鎌倉時代末期寫　第一葉　文徳天皇當代の目録及び萬壽二年乙丑の條、第二・三葉五十六代の條、第四葉　高子裏書の條、第五・六葉　貞觀帝の條、第七葉　六十代の條、第八葉　六十二代の條、第九葉　六十五代の條、第十葉　六十六代の條を存す　片假名交り　三〇・三―一九二）

〔寛治康和日記抄出〕　寫一軸　九五〇

巻子本　改裝後補亀甲華文茶色金襴表紙　見返金砂子散　三〇糎九米三〇糎
（紙背は元亨三年具注暦　本文略々この頃の書寫　三〇・三―一九九）

所収次の如し
寛治七年七月二日至九月廿七日（末に「已上江記」とあり）
嘉保三年十月十五日至十二月十五日　承徳三年正月十四日至五月廿八日
康和三年七月九日至八月十七日　承徳二年正月十四日至三月廿八日
康和四年正月十四日至五月廿七日　康和三年二月十三日至六月廿日
承徳二年四月十八日至六月廿七日（初に「右少弁信範記之」とあり）

將門記畧　寫一冊　九五一

袋綴　水淺黄色表紙　用紙斐紙　二七糎二〇・五糎　十行二十字　十一丁　外題左肩書名同、「李部大卿忠次・文庫」
（榊原侯本　江戸時代初期寫　三〇・三―一五三）

中右記　寫七冊　九五二

中御門宗忠著　袋假綴　厚手白表紙　三二糎二二・五糎　十行　外題中央「寛治八年十一月（天永二年正月・天永二年七月八月九月十月・元永二年三月四月・元永二年八月九月十月十一月十二月・天永二年春）中右記」、「水谷川家藏書」
識語（第一冊表右）万治三五月九日一挍了
（第二冊同）万治三三十四一挍了
（第三冊同）万治三三十九一挍了
（第四冊同）万治三年五月十九日一挍了
（第五冊同）一条殿本之類／万治三四月廿九日一挍了
（第六冊同）万治三五月九日一挍了
（第七冊同）寛文元年九月廿四日／一挍了資熙
（江戸時代初期寫　原に第六冊「安貞二年二月一日書寫畢」と奥書あるものの寫第七冊破損の跡をも忠實に模寫す　三〇・三―一四五）

中右記部類第五　寫一軸　九五三

巻子本　厚手白表紙　用紙裏打　二七・五糎一〇米　一紙四七糎　約二十字小雙行　外題「（書名同）年中行事　巻五」　内題「年中行事五巻五」、「九條」

識語　一挍了
（九條家本　平安時代末期寫　見返に「釋奠　列見／御燈」と目録あり　紙背に略々同時代筆にて左衛門督源師房以下漢詩百十數首あり　三〇・三―イ(一〇三)）

中右記部類第九　寫　一軸　九五四

巻子本　共表紙　用紙裏打　二七・五糎六米二五糎　一紙約四〇糎　約二十字小雙行　外題「(書名同)年中行事九冬」、内題「年中行事九冬」、「九條」
（九條家本　平安時代末期寫　見返に「射場始　御暦奏／荷前 付定　擬侍從 追難」と目録あり　紙背に略々同時代筆にて承暦二年承徳三年等の漢詩約七十首あり　三〇・三―イ(一二三)）

中右記部類第廿　寫　一軸　九五五

巻子本　厚手白表紙　用紙裏打　二八糎八米一五糎　外題「(書名同)臨時神事二」内題「臨時神事二」
（九條家本　平安時代末期寫　見返に「諸社雜事／御祭并御被」と目録あり　紙背に壽永の年紀ある文書を含む　見返左下に「中御門右大臣宗忠公記」とあり　三〇・三―イ(一〇一)）

中右記部類第廿八　寫　一軸　九五六

巻子本　厚手白表紙　用紙裏打　二八糎一二米一〇糎　一紙四七糎　二十三行小雙行　外題「(書名同)臨時神事十」内題「臨時神事十」、「九條」
（九條家本　平安時代末期寫　見返に「公卿勅使／宇佐使」と目録あり　紙背に略々同時代筆にて寛仁元年至長暦元年「公卿補任」あり　三〇・三―イ(二七)）

日本三代實錄　寫　五十卷　七冊　九五七

藤原時平等奉勅撰　延喜元年八月二日藤原時平等序　袋綴　澁引包表紙　二九糎二一糎　十三行約二十五字　外題中央「三代實録一之五(一四十六之五十)」、「水谷川家藏書」

（江戸時代初期寫　原に巻六「永正十二十月十四了」、巻七「至徳三年十月一日抄了從三位行神祇大副卜部朝臣兼熙」「永正十二年十一月一日了」、巻八「正和元年薗資十一日抄了　正四位下神祇才大副(ママ)卜部判」「延文元年六月日修補之正四位下神祇大副卜部兼豊」「永正十二年十一月十九日於燈下終功了」、巻九「延文元年丙申六月日修補之　神祇大副卜部兼豊」「正和三年五月廿一日於細雨閑席抄三代實録而已　神祇權大副兼夏」「至徳三年十月三日一見了　從三位卜部朝臣判」「永正十二年十一月五日於灯下書了」、巻十「本云正和元年五月廿五日抄了／通清大夫卜判」「延文元年丙申六月日修補之／正四位上行神祇大副卜部兼豊」「抄了判」「永正十二年十一月廿日於灯下終書功了／槐陰逃虚子」、巻十一「抄了　判兼文」「本云正和元年仲夏十五日抄了　兼夏」「延文元年六月日修補之　正四位上神祇大詞(ママ)卜部兼豊」「永正十六年三月三日了」、巻十二「永正十六三九了」、巻十三「本云延文元年六月修補之　正四位上行神祇大副卜部兼豊」「永正十六十五了」、巻十四「本延文元年六月日修補之　神祇大副卜部兼豊」「永正十六端午後一日了」、巻十五「正和元年林鐘五日抄了　神祇權大副兼夏」「永正十六六五日了」、巻十六「永正十六年孟秋十三了」、巻十七「永正十六七廿一了」、巻十八「正和元年仲秋八日抄了　太常大卿判」「永正十六七廿三了」、巻二十「大永二十月三日終功了」、巻二十一「大永二十十三日於番衆所灯下書之」、巻二十二「大永二十十五日夜終功了今夜爲待日終夜／書之睡中字躰狼籍奇惟々々」、巻二十三「大永二十十九　當番宿直　禁中／於灯下終一巻功了已及深更者也」、巻二十四「大永二十一三了」、巻二十五「大永二十一廿於灯下終功了　當番宿直也」、巻二十六「大永三正八日於番衆所灯下書之」、巻二十七「大永三正十九早朝終功昨夜庚申書數了」、巻二十八「大永三二了」、巻二十九「大永三二十一日雨中終功了」、巻三十一「大永三四廿八了昨今病起發仍乍臥書之」、巻三十三「本云延文元年六月日修補之　正四位上行神祇大副卜部兼豊」「大永三八十七日了」、巻三十四「本十正和元年十二月四日辰刻抄出了　神祇權大副卜兼夏」「延文元年中歲六月日修補之　正四位上行神祇大副卜部兼豊」「大永三八廿日終功了」、巻三十五「大永三五九　霖雨蒙然乍臥終書功了」、巻三十八「大永四六廿日了」、巻三十九「第三十九了大永四六廿五了」、巻四十「第四十終　大永四六廿九」、巻四十一「第卅(ママ)二了　大永四七五了」、巻四十三「大永四八廿四了」、巻四十四「本云延文元年甲歲六月三日修補了正四位上行神祇大副卜部兼豊」「大永三八廿七於灯下終功了」、巻四十五「本延文元年丙申六月日修補了　正四位上行神祇大副卜部兼豊」「大永三重陽前一日書寫早」、巻四十六「大永四八卅日了今日終一卜之書

功了」、巻四十七「延文元年丙申六月修補之神祇大副卜部兼豊」「大永四二廿九日立筆卅日終功今日詣鞍馬寺未剋帰宅仍／於灯下染筆者也」、巻四十九「延文元年丙申六月修補之　正四位上行神祇大副兼豊」、巻五十「貞治二年八月三日加一見挍合抄出畢當家之秘本／更不可出閫矣　正五位下行縫殿頭卜部朝臣兼凞判」「一部重挍合欠巻七巻書加了／正三位行侍從卜部朝臣判」「加點出畢　神祇大副兼治部卿右馬頭伯耆介卜部朝臣兼敦」と奥書あるものの寫　三〇・三―イ四九）

日本文德天皇實錄　寫　十卷　四冊　九五八

藤原基經等奉勅撰　元慶三年十一月十三日自序　袋綴　澁刷毛目卵色表紙　三〇糎二〇・五糎　十一行二十一字　題簽左肩雙邊（刊）「（書名同）校訂一之二（―九之十）（墨書）」　内題「（書名同）巻第一（―十）」、「羅山」「原宿文庫」「引馬文庫」「南葵文庫」「交埜藏書（紙票）」

識語　（巻一）（朱）安永九年八月二日以諸家之異本三本并諸書校合了　橘枝直

（巻二）（朱）以尾州本水戸本塙本類聚國史其他諸書校合了／天明（安永ヒヒ）九年庚子八月五日　たちはなの枝直

（巻三）（朱）以尾張家本水戸家本塙家藏本類聚國史一代要記姓氏録延喜式和名抄／拾芥抄紹運録等之數本校合了／天明九年庚子八月十日　たちはなの枝直

（巻四）（朱）以尾州本水戸本塙本昌平古抄本其他諸書校合了／天明九年庚子八月十三日　たちはなの枝直

（巻五）（朱）以尾張家水戸家塙家昌平校古抄本等并類聚國史扶桑略記拾芥抄／和名抄延喜式姓氏録一代要記等之諸書校合了／天明九年庚子八月十五日　たちはなの枝直

（巻六）（朱）以尾州家水戸家塙家昌平校古寫等之四本類聚國史日本紀畧／百練抄拾芥抄和名抄延喜式内裏式類聚三代格一代要記等之／諸書校合早／天明九年庚子八月廿日　橘の枝直

（巻七）（朱）以尾州本水戸本波南輪本昌平学校本并諸書を校正了／天明九年八月廿三日　加藤枝直

（巻八）（朱）以尾張家水戸家塙家昌平校古抄本并類聚國史延喜式／拾芥抄日本略紀一代要記倭名抄姓氏録等之数本校正了／天明九年八月廿六日　橘のすくね枝直

（巻九）（朱）天明九年八月廿八日以諸書校合了　多地波奈廼枝直

（巻十）（朱）此文德実録十巻は林家の祖道春翁の庫本なりしに故ありて他家の藏本になりしところ／また其家のあるしかはりてあと續けるもの身もち直ならす文屋に鬻きしときゝて／侍れはいそしくも其家に至りあかなひ獲てわか庫のたからとはせし也／天明九年八月廿九日諸家の異本并諸書を以て校正訖／たちはなの枝直

（墨書）この本のはしめ末にをせる引馬文庫の印は水野越前守とのゝしるし也／かゝる世にかはりけれはかゝるめつらかなるふみもおふけなくも世に出し／ならんか書や持來ニけれはとふきものゝふミニはあれともとめおきぬ／もみちのやあるしるし侍りぬ

（室町時代末期寫　原に巻一「永正十二年七月廿六日以兼滿朝臣本書之病懶之老筆可恥之／前槐判」、巻二「本云抄出了　兼夏」「延文元年丙申六月日修補之／正四位上行神祇大副卜部兼豊」「永正十二年八月五日書寫了　判」、巻三「本云延文元年丙申六月日修補之正四位上行神祇大副卜部兼豊」「本云應長二年三月十九日抄出了正四位下行神祇大副卜部宿祢兼夏」「永正十二年八月七日書之　判」、巻四「本云安貞三正十九日書抜了」「抄之兼夏」「延文元年丙申六月日修補之　正四位上行神祇大副卜部兼豊」「應永十一四之神祇大副兼敦」「永正十二年八月九日書了判」、巻五「本云安貞三年二月二日於灯下書授了　正議大夫下判」「正和元年三月廿一日抄出之　通請大夫卜兼夏判」「一見了　兼敦」「延文元年六月日修補之　正四位上行神祇大副卜部兼豊」、「永正十二年八月十三日書寫了／老槐散木判」、巻六「延文元年丙申六月日修補之　正四位上行神祇大副卜部兼豊」「永正十二年七月廿四日了」、巻七「正和元年三月廿五日抄出了　儀（ママ）大夫判」「正文（ママ）元年六月日修補之　神祇大副卜部兼豊」「永正十二年七月廿七日了」、巻八「延文元年丙申六月日修補之　正四位上行神祇大副卜部兼豊」「永正十二八九了」、巻九「延文元年丙申六月日修補之正四位上行神祇大副卜部兼豊」「永正十二年八月十八日終功了」と奥書あるものの寫　三〇・三―イ七）

日本文德天皇實錄　寫　十卷　二冊　九五九

藤原基經等奉勅撰　元慶三年十一月十三日自序　袋綴　澁包表紙　二七糎二一・五糎　十三行　外題中央「（書名同）一之五（六之十）」　内題「（書名同）　巻第一（―第十）」、「水谷川家藏書」

（江戸時代初期寫　原に巻一「永正十二年七月廿六日以兼滿朝臣本書之病懶之老

筆可恥之／前槐判」、巻二「延文元年丙申六月日修補之　正四位上行神祇大副卜部兼豊」「永正十二年八月五日書寫了判」、巻三「本云延文元年丙申六月修補之正四位上行神祇大副卜部兼豊」「本云應長二年三月十九日抄出了正四位下行神祇權卜部宿祢兼夏」「永正十二年八月七日書寫了判」、巻四「本安貞三正十九書校了」「抄了／兼夏」「延文元年丙申六月日修補之　正四位上行神祇大副卜部／兼豊」「加一見了應永十一四三神祇大副兼敦」「永正十二年八月九日書寫了判」、巻五「本云安貞三年二月二日於灯下書校了／正議大夫卜判」、「正和元年三月廿一日抄出了／通請大夫卜部兼夏判」「一見了　兼敦」、「延文元年六月日修補之／正四位上行神祇大副卜部兼豊」「永正十二年八月十三日書寫了／老槐散木判」、巻六「延文元年丙申六月日修補之正四位上行神祇大副卜部兼豊」、「永正十二年七月廿四日了」、巻七「正和元年三月廿五日抄出了通儀大夫判」、「延文元年六月日修補之神祇大副卜部兼豊」「永正十二年七月廿七日了」、巻八「延文元年丙申六月日修補之　正四位上行神祇大副卜部兼豊」「永正十二八九了」、巻九「延文元年丙申六月日修補之　正四位上行神祇大副卜部兼豊」「永正十二年八月十八日終功了」、巻十「本云校了」「永正十二年八月十八日終書寫功了　槐陰逃虛子判」と奥書あるものの寫　三〇・三―イ四七）

平家高野巻　寫　一冊　九六〇

祐隆筆　袋綴　改裝後補栗皮色表紙　用紙裏打　二三・五糎一五・五糎　七行約十九字　二十一丁

奥書　寫本云／此品者於不信人者不可見之昔嵯峨天皇御／時御宗論之人ミ者皆ミ權者也非薄地之凡夫／輒翫彼実名無恐可有殊高野山之事／宜可始知者也是秘藏重宝也／越前國於一乘谷以愚筆寫之者也／于時明應七年戊午五月三日右筆祐隆生年廿八才

（片假名交り　三〇・三―イ公五）

平家物語　寫　十二巻　十二冊　九六一

袋綴　草花模様紺表紙　二六・五糎二一・五糎　十行　題簽中央緑地金泥麻葉模様「（書名同）壹（―十二）」

（八坂本　江戸時代初期寫　各巻初に一つ書の目録あり　假名交り　漢字には訓を附したる所多し　巻十二目録「本三位中将日野におゐて北の方にたいめんの事」至「六代御前ちうせらるゝ事」十七條あり　三〇・三―イ三）

平家物語　十二巻　十二冊　九六二

袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様丹行成表紙　二八糎二〇糎　十行約十五六字、「綾の屋文庫」「中川氏藏」

刊記　下村時房刊之

（古活字版　慶長期刊　下村本　巻九至十二の目録各一丁を江戸時代初期筆を以て補寫　三〇・三―イ三）

平家物語　寫　十二巻　十二冊　九六三

袋綴　蓮華模様小豆色行成表紙　用紙斐紙　二九糎二一糎　十行　題簽中央金銀泥下畫繧色等色替草花模様具引「平家　第一（―十二）」、「鍋島氏藏書（墨印）」「殘花書屋」

（百二十句本　慶長期寫　用字漢字少なく殆ど平假名文にして多く濁點を附す　各巻十句章　各巻初に目録あり　三〇・三―イ五）

平家物語　十二巻　十二冊　九六四

袋綴　改裝後補澁表紙　二八糎二〇糎　十一行約二十字　綴目「一（―十二）（丁數）」、「殘花書屋」

刊記　此平家物語一方撿挍衆以吟味令開板之者也／河原町仁衛門

識語　遠州池新田村　丸尾孫太郎清忠

（古活字版　元和期刊　十一行平假名本　巻十二第五十三丁闕丁　三〇・三―イ七）

平家物語　寫　十二巻　十二冊　九六五

袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様紺行成表紙　三一・五糎二三糎　八行　題簽左肩金泥下畫具引「（書名同）　巻一（―十二）」、「殘花書屋」

（流布本　慶長期寫　各巻首に目録あり　巻十二「しげひらきられ」より始まり巻外に「平家灌頂巻」あり　三〇・三―イ六）

平家物語　寫　十二卷　十二冊　九六六

袋綴　澁引表紙　二六糎一九糎　八行　題簽左肩闕外題後筆「（書名同）卷一（—十二終）」、「泉南高倉寺藏書不許山内出宝積院寛應改」「殘花書屋」

（流布本　室町時代末期寫　各巻初に「平家　一（—十二）巻次第之事」として一つ書二段にして目録を記す　巻一「義王義女か事」、巻六「小香殿嵯峨之事」、巻十一「宝剣御調之事」「内侍所御調之事」を収め、巻十二は「大地震并三間御堂崩事」より始まり巻末「平家灌頂巻」あり　巻三「小松殿北方御返事」の大臣流罪の中途までありて以下闕　三〇・三—イ三二）

平家物語　八卷　八冊　闕　九六七

袋綴　雲母摺菱花模様具引表紙　二八糎二一・五糎　十行　外題左肩後筆「（書名同）一（—八）」、「桑名文庫」「白河邸讀書所」「立教館圖書印」「樂亭文庫」「藏春閣圖書印（陰刻）」「殘花書屋」等

（古活字版　下村本　巻一至八を存す　三〇・三—イ三三）

平家物語　寫　十二卷　十二冊　九六八

袋綴　紺表紙　二六・五糎二〇・五糎　八行　題簽左肩金泥下畫色替紙「（書名同）卷第三（—十一）」（他巻闕）、「田安府芸堂印」「殘花書屋」

（流布本　慶長期寫　漢字には附訓　巻一目録の次に平氏系圖を附す　巻十二は「大地震事」より始まり巻末に「平家灌頂巻」あり　三〇・三—イ三五）

平家物語　寫　十二卷　十二冊　九六九

綴葉装　毘沙門格子地牡丹唐草模様紺行成表紙　用紙鳥の子　二四糎一八・五糎　十行　題簽左肩「（書名同）一（—十二）」、「殘花書屋」

識語　（第三冊裏表紙）平家物語十二内／筆者前九条殿

（第三冊目録末）（朱）流布本ハ僧都死去ノ章ヲ立テズ

（流布本　慶長期寫　巻十二は「重衡被斬」より始まり巻末に「平家物語灌頂巻」あり　三〇・三—イ三七）

平家物語　寫　十二卷　十二冊　九七〇

綴葉装　澁表紙　用紙鳥の子　二九・五糎二〇・五糎　十行　題簽中央「（書名同）卷第一（—十二）」、「石原文庫」

識語　（巻一）此平家物語八坂本者／近衛関白前久公法名龍山／真跡無疑者也／弘化二年十月上旬　古筆了伴（墨印）

（巻九）此八坂本第九／仁和寺宮院家／覚性院真淳僧正真跡／古筆了伴（墨印）

（八坂本　室町時代末期寫　巻十二は「重衡斬」より始まり「法性寺合戦」に終る　巻二至六・八・十・十一を近衛龍山筆、巻七を烏丸大納言光廣卿・高倉冷泉中納言永宣卿・近衛関白前久公の交筆、巻十二を高倉冷泉中納言永宣卿・近衛関白前久公の交筆とせる古筆了伴の極書あり　三〇・三—イ三九）

平家物語　八卷　四冊　闕　九七一

袋綴　砥粉色表紙　二七糎一九・五糎　四周雙邊二二・五糎一六・五糎　十二行　題簽後補左肩「（書名同）五六（—十一十二）」　尾題「平家物語灌頂巻畢」　柱刻　黒口「平家巻五（—十二）（丁數）」、「殘花書屋」

（古活字版　寛永期刊　十二行片假名本　巻五至十二を存す　片假名交り漢字附訓　文中句點を印刻す　三〇・三—イ四二）

平家物語　寫　十二卷　十二冊　九七二

袋綴　柑子色地舞鶴文臘箋表紙　用紙薄澁色染紙　三一糎二二糎　十行　題簽中央紅紙「（書名同）一（—十二終）」

（流布本　室町時代末期寫　巻一「妓王」、巻十一「鏡」、巻十二末「灌頂巻」等あり　三〇・三—イ五二）

平家物語　十二卷　十二冊　九七三

袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様丹行成表紙　二六糎一九・五糎　四周雙邊二二

糎一七糎　十二行　題簽左肩雙邊「（書名同）巻一（―十二）」　尾題「平家物語灌頂巻畢」　柱刻黒口「平家巻一（―十二）（丁數）」、「並槻郁伊藤氏家藏」

刊語　此平家物語一方検挍衆以數ノ人之吟味改字證加點双句讀ノ元和七孟夏下旬令開板早ノ或人曰庶幾記其姓名云ゝ故ノ今準之而已ノ于時元和九初秋吉旦ノ洛陽三条東洞院誠訪町ノ杉田良庵玄与（刻印）

（片假名交り　句點漢字附訓を施す　三〇・三―イ五九）

平家物語　寫　十二巻　十二冊　九七四

袋綴　金銀泥下畫水淺黄色具引表紙　用紙裏打　二七糎二一・五糎　十行　題簽中央金泥下畫紅紙「平家　巻第一（―十二）」、「青谿書屋」

（百二十句本　慶長期寫　用字漢字少なく且つ所々に本文同筆にて漢字を以て右注する條多し　各巻十句章　各巻初に目録あり　三〇・三―イ六二）

平家物語　寫　二巻　二冊　闕　九七五

袋綴　砥粉色表紙　二九糎二二・五糎　十三行　題簽左肩雲紙「（書名同）巻第一（二）」、「梅園（陰刻）」「青谿書屋」

（流布本　室町時代末期寫　巻一・二を存す　両巻異筆　三〇・三―イ六三）

平家物語　寫　二十巻　二十冊　九七六

袋綴　縹色表紙　用紙斐紙　二七・五糎一九・五糎　十行二十字　題簽左肩金箔散「長門國平家物語　一（―二十終）」、「桂氏藏書」「臞庫」「青谿書屋」等

識語（各巻末）水戸之御本ニ而二挍早

（巻七・十四）水戸之御本ニ而一挍畢

（長門本　江戸時代初期寫　片假名交り　源平盛衰記と對校の朱書入あり　三〇・三―イ六五）

平家物語　寫　二十巻　二十冊　九七七

袋綴　薄水色布目表紙　二五・五糎一七・五糎　十行　題簽左肩雙邊（刊）「平家物語長門本一　子（―十九廿亥）」　柱心（第二冊以下）「（巻數）（丁數）」、「樂曉」

（長門本　江戸時代中期寫　小口書「平長一（―巻數）」　第三冊至九冊及第十二冊は各二巻を収む　第一冊巻初に「平家物語之事ノ平家物語全部二十巻ハ信濃前司行長之ノ作なり行長是を著し自筆の書を以てノ長門國安徳天皇の御廟に奉納す其後希ノに此書を得る人有といへとも皆深き秘書ノなりき中古より板本の平家物語とノ云物十二巻あり是ハ為家といへる人行長ノの正本によりて琵琶法師唱歌のためノに作れるなりうたひ物になすためのノゆへにやことたらさるのミにして故実もノ少くしかもあやまり多し故に倭学ノ故実の家に證據として引用る平家ものノかたりといへる物は皆この行長の正本ノなり板本の書にはあらす後になり板本ノ正本と紛らハしきを以て正本を長門本の平家と云其本長門國より出るをもつてノなり倭学故実の家より賞美していへるノなり板本の平家物語ハ中ゝ用るにたらすノ然共此書世に希にして知人なし悲哉」とありて次に二十巻の總目録を記す　三〇・三―イ六七）

平家物語　寫　十二巻　十二冊　九七八

袋綴　松皮入表紙　二六糎二〇・五糎　巻一（―四・九）片假名交り十一行　巻二（―五・六・七・八・十二）平假名交り九行　巻三平假名交り十一行　巻十一（―十二）片假名交り十二行　題簽左肩後補「（書名同）壹（―十二大尾）」、「島郁氏書画記（陰刻）」「青谿書屋」

奥書　（巻一）永戌小春二十三日挑寒灯於清涼謄之

（巻一・四・九は同筆にして覚一本、巻二・五・六・八・十二は同筆にして八坂本、巻三・七各別筆にして流布本、巻十・十一は同筆にして流布本　原に巻四「本云天正戊寅秋八月廿又日」と奥書あるものの寫　高橋貞一著「平家物語諸本之研究」―参照　三〇・三―イ六九）

平家物語　寫　八巻　八冊　闕　九七九

綴葉装（第四巻袋綴）　雲紙表紙　用紙鳥の子　一七・五糎一九・五糎　十二行　題簽左肩金銀泥下畫丹紙「平家四（平家物語七・九・十一）」（他巻闕）　内題なし、「青谿書屋」

（室町時代末期寫　巻四は別筆　巻三至五・七至十一を存す　三〇・三―イ七一）

平家物語　寫　十二卷　十二冊　九八〇

袋綴　淺縹色表紙　用紙斐紙　二八・五糎×二三糎　十一行　題簽中央「(書名同)一(―十二)」(別に同時代筆「平家物語巻第一(―九)」とある題簽九枚を「題表」と記したる紙包に入れ添附す)、「青谿書屋」
(八坂本　慶長期寫　巻十二は「一　平家生虜男女注奉返入三種神器事付實劔事」より始まり「十二　文覺被申宥六代事付秀衡子共追討事」に終る　別に「平家物語全十二冊／巻第一　近衛殿信尹公／同二　飛鳥井殿雅敦卿／同三　照高院宮道勝親王／同四　青蓮院宮尊朝親王／同五　中山殿慶親卿／同六　春日若宮神主祐範／同七　右同筆／同八　春日若宮神主祐記／同九　同祐範／同十　妙法院宮常胤法親王／同十一　近衛殿信尹公／同十二　南都大東紹九　以上／右之通銘々真筆不異論者也／神田道伴(印)(花押)／享保三年戊戌孟夏日」とある極書目録一通、並びに同文同筆の極札十二枚あり　三〇・三―イ三)

平家物語　寫　十二卷　十二冊　九八一

袋綴　金銀泥下畫水淺黃色表紙　見返銀地金切箔散　用紙薄様　三〇・五糎×二二糎　八行　題簽左肩絹地金銀泥下畫「平家ものかたり一(へいけ物かたり二)」等
(流布本　江戸時代初期寫　目録題條下に所収句數を記せるものあり　巻十二目録下に「凡十句合百五十六句歟」とあり　全巻濁點を朱にて附す　三〇・三―イ五)

平家物語　寫　十二卷　十二冊　九八二

袋綴　花丸畫黃絹表紙　三〇・五糎×二三・五糎　十行、「青谿書屋」
(流布本　室町時代末期寫　全巻殆ど漢字を用ひることなく平假名書き、第十二巻目録「六代のきられ」の次に「一ぶのほか」として「おはらいり・おはら御幸・六たう」の三條を記し、同所本文中の見出には「くわんしやうのまき」とあり　三〇・三―イ七)

兵範記斷簡　仁安二年　寫　一軸　九八三

平信範著　藤原定家筆　巻子本　金銀箔散薄茶色表紙　見返銀切箔散　用紙裏打二八糎×六米　一紙四八・五糎　天地單邊二四・五糎(上邊一糎下に今一界を引)　内題なし
箱書　(内箱蓋表)記録　定家卿筆　(同裏)外題書付宗甫／宗友記之(花押)　(外箱同)　巻物　京極黃門真跡
(仁安二年七月一日二日(本闕)・三日・四日・同月廿七日(前後闕)・閏七月一日至同十九日・廿五日(前闕)・廿六日・廿七日・廿九日・同八月一日(中闕)至十日(本闕)を存す　別に「入記／定家卿筆　一巻／仁和(ママ)二年七月潤七月(ママ)八月／紙數十一枚(墨付)／軸　象牙／紐紙金銀砂子霞／服紗紫縮緬／筥　嶋桐(損有之)／銘書小堀遠州侯筆／裏書有之／極札貳通(古筆了延・神田定武)／外箱　桐／文化三年十二月」とある一通、外古筆極札二通を附す　三〇・三―イ一〇五)

保元物語　寫　三卷　三冊　九八四

綴葉装　紺表紙　用紙鳥の子　二一糎×一七糎　九行　題簽中央「(書名同)上(―下)」
(室町時代末期寫　漢字に上巻は片假名、中・下巻は平假名を以て多く附訓　上巻第二折と第三折と入れかはり錯簡あり　三〇・三―イ八一)

保暦間記　寫　一冊　九八五

袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様薄縹色行成表紙　用紙斐紙　二七・五糎×二〇・五糎　十行約二十七字小雙行　八十六丁　外題左肩書名同、「李部大卿忠次・文庫」
(榊原侯本　江戸時代初期寫　片假名交り　日本學士院紀要第十六巻第三號所収益田宗「保暦間記の文献批判學的研究」―參照　三〇・三―イ五)

保暦間記　寫　五巻　一冊　九八六

袋綴　改裝後補紙粉色表紙　二七糎×二〇・五糎　八行　百十一丁、「臣元寛」「村岡典嗣藏書」等
識語　明和乙酉二月東里閲完
(江戸時代初期寫　表紙裏貼りに慶長古活字版あり、略々同時代筆イ校合等を朱書す　片假名平假名混用　三〇・三―イ八)

本朝世紀殘簡　寫　一軸　九八七

藤原通憲著　巻子本　改装後補菊唐草文薄卵色表紙　見返同紙　用紙裏打　三二糎一米五六糎　原寸三一糎　天地單邊二六糎　二十五行約二十二字　外題「朱雀院天慶五年賀茂行幸古記本朝世紀」、「温故齋藏書」

（鎌倉時代初期寫　「天慶五季□□」「天慶五年四月廿七日」の行幸記事を存す　但し後半闕　佐佐木信綱編「百代草」、「圖書寮典籍解題歴史篇」―参照　三〇・三―イ一〇七）（重美）

陸奥話記　寫　一冊　九八八

袋綴　幹色表紙　用紙斐紙　二七糎二〇糎　十行十九字小雙行　十六丁　外題左肩書名同、「李部大卿忠次・文庫」

（榊原侯本　江戸時代初期寫　文中間々據本に不明の所を空格とし又朱筆にて闕字闕文を補寫したる所あり　本文同筆諸點を施す　三〇・三―イ五七）

類聚日本後記　寫　三冊　九八九

袋假綴　共表紙　二八糎二〇糎　九行十六字　外題中央書名同

（水谷川家本　江戸時代中期寫　朱書校合多し　三〇・三―イ四三）

鎌倉・南北朝時代

吾妻鏡　寫　五十二巻　五十二冊　九九〇

袋綴　澁表紙　三一糎二三・五糎　九行約十八字　題簽左肩雲紙書名同（巻七・十・十一・廿六のみ存）　外題左肩別筆「吾妻鏡（東鑑）（巻數）」、「まにその」「勝安芳」

（慶長期寫　巻一目録の次に「應永十一年甲申八月廿五日以金澤文庫御本書之」とある奥書を移寫　古活字本を以て江戸時代末期朱筆校合せる所多し　各表紙右肩に「東（第）一」と朱書　表紙裏紙に慶長十一年連歌懐紙を使用せるもの多し　三〇・四―イ五三）

大江廣元消息　寫　一軸　九九一

大江廣元自筆　掛軸　二九・五糎五〇・五糎

宛書　十二月七日　廣元／内藏入道殿

（「大江廣元消息遂鑑定候處／正筆ニ付外題極認進入申候右者／實家中原飛弾守方にて中原／因幡守と申候節之文にて御座候／一入珎藏賞翫ニ候御秘藏可被／成候以上／寅　三月　古筆了仲」の極書及び本書の鑑定についての吉田喜市治宛九月十七日付了仲書狀一通を附す　三〇・四―イ五一）

建來記　寫　一軸　九九二

廣橋兼綱著　巻子本　後補白表紙　用紙宿紙　裏打　二六・五糎二米九〇糎　一紙四五糎　外題後筆左肩「建来記瑞雲院殿」　内題「建来記瑞雲院贈左府謚□□」

箱書　藤波家舊藏

（室町時代中期寫　文和五年三月廿八日至嘉慶間の改元記　三〇・四―イ四九）

〔後宇多院院宣〕　寫　一軸　九九三

萬里小路宣房筆　巻子本　改装後補菱繋織文鶯色表紙　見返銀切箔散　用紙鳥の子　金銀切箔散裏打　三二・五糎一米六七糎　一紙五七・五糎

宛書　六月十七日　權中納言（花押）（萬里小路宣房）／左少辨殿

（興福寺法勝寺領呑御薗論争文書　三〇・四―イ三七）

西郊記殘簡　寫　一軸　九九四

三條公氏著　自筆　巻子本　表紙闕　用紙裏打　三二糎三米六五糎　一紙五二糎　天地單邊二七・五糎

（包紙に「西郊亞相殿御記　建保五年正月」とあり　正月一日至二十四日を存す、紙背消息文等あり「大日本史料五編之十一」―参照　三〇・四―イ三五）

承久記　寫　二冊　九九五

袋綴　砥粉色表紙　用紙斐紙　二七糎二〇糎　十一行　外題左肩「（書名同）上（下）」　外題の右肩に別筆にて「異本」と冠す、「李部大卿忠次・文庫」
（榊原侯本　江戸時代初期寫　上下冊別筆　三〇・四―イ三七）

承久記　寫　二巻　二冊　九九六

袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様茶色行成表紙　三〇糎二一・五糎　七行　題簽左肩「（書名同）上（下）」、「幽齋」
識語　（表紙題簽下）（朱）智
（江戸時代初期寫　巻初に皇統及び北條流系圖二葉あり　三〇・四―イ四三）

太平記　四十巻　二十冊　九九七

袋綴　牡丹唐草模様茶色行成表紙　二八・五糎二〇・五糎　四周雙邊二一糎一七糎　十二行約二十二字　題簽左肩雙邊「（書名同）二之二（一卅九之終）」　柱刻黒口「太平記　一（―四十）（丁數）」、「三重縣志摩國志摩郡波切村松井仙右衛門」「高木家藏」
識語　（各冊）三箇所村／喜田榮祐
志州三ケ所村／本主榮助（祐）（以上塗抹）
（巻末）志陽英虞郡甲賀邑／栩原伊兵衛所持
（古活字版　慶長期刊　片假名本　三〇・四―イ三三）

太平記　寫　四十巻　四十冊　九九八

袋綴　澁引表紙　用紙斐紙　二七・五糎二二糎　十行約二十字　題簽左肩「（書名同）一（―四十）」
（室町時代末期寫　片假名交り　第一冊巻一末に「惣メ此太平記ト申ハ四十年ノ合戦ニテ候先ツ日本ノ弓矢ト／云支ハ上代太子ト守屋トノ合戦仏法建立為也其ハサテヲ／キヌ其後承久ノ乱有テ其終テ源平両家ノ合戦有テ其後／此太平記ニ書タル合戦候タルカ太平記一部四十二巻ハ先此／時ノ御所ヲ平氏相模守高時入道殿ト申又帝ヲハ後／醍醐（後宇多院第二子九十五代）天王ト申候カ（中略）又細川ノ相模殿謀叛ヲ起又生涯在テ遂ニ尊氏將／軍ノ御世ニ成テ今當公方ノ御先祖ニテ候」、巻二末に「昔民苦ヲ問使トテ公ヨリ御使ヲ国々へ被レ下テ民ノ苦／ヲ問ハセ給ケリ（中略）此故ニ民ノ憂ヲ問御使ヲ國々へ被レ遣テ吏ノ／不善ヲモ紀シ民ノ憂ヲモ被ニ聞食一ケリ／此一紙一言ハ太平記ノ外ト也」、巻五末に「移木信ト云ハ始テ法ヲ出シ令ヲ行フ処ニ餘人我カ所行ヲ／可レ用（ヤ）否ヲ知ンカ爲ニ大キナル木ヲ門前ニ置テ此木ヲアナ／タノ門前ニ移シタラン人ニ（下略）」、巻十二末に「抑太神宮ノ御祭礼ハ四季ノ奉幣使トテ都ヨリ勅使下向メ神／支ヲ遂給フ（下略）」、巻廿八末に「注曰／電光ノ戦者惠源禅巷南方降參又ハ直冬朝臣／蜂起メ乱戦ニ及スル　支彼此宮方ノ義兵ノ表支歟（下略）」の文章を附す　目録流布本に比して條目多し　巻一目録題の下に「玄惠法印集」とあり　三〇・四―イ二九）

太平記　寫　四十巻　四十冊　九九九

袋綴　縹色表紙　二六糎二〇糎　十一行二十數字　題簽左肩雲紙「（書名同）　巻第一（―四十）」
識語　（巻一）　此物語全部於花洛求之東山大仏在旅之刻／以類本一挍早　正木前左近大夫平長時／文祿五年乙未孟夏日　法名雄峯玄英　（各巻末略々同様の識語を附す　但し巻一以外の巻は「此物語全部□於花洛」の如く「全部」と「於花洛」の間數字分を切り取れり）
（室町時代中期寫　片假名交り　箱に「環齋様御時分カ」の紙片を附す　環齋は紀州三浦氏　新註國文叢書川瀬一馬著「謡曲名作集中」所収「三浦本百番謡本に就いて」―参照　三〇・四―イ三一）

太平記聞書　寫　一冊　一〇〇〇

袋綴　改装後補雲母草花模様澁表紙　二二・五糎一七糎　九行　六十四丁　題簽中央後補書名同　内題「太平記第一聞書」、「斑山文庫」等
識語　昭和三年七月購求シテ架ニ藏ス／斑山文庫主人
（見返に紙簽）　此ノ書一巻太平記四十巻ノ難語ヲ註セリ其ノ語ニヨリテ判ズルニ／流布本トハイタク異ルカ如クコレニヨリテ太平記ノ古體ヲ覗フ一／階梯トモナスベシ作者明カナラズサレド室町末期ノ筆寫タルハ明カ／也第十二ニ宗祇ノ夢想遠里小野云ミトアレバ明應文亀ヨリハ後／大永永正ノ頃ニ成レリトモナ

スベキカ下略／斑山識
（室町時代末期寫　高野辰之著「古文學踏査」―參照　三〇・四―イ五七）

太平記抜書　六巻　六冊　一〇〇一

袋綴　改裝後補澁表紙　用紙裏打　二六糎一九・五糎　四周單邊二二・五糎一六・五糎　十三行二十四至二十九字　題簽左肩後補墨書名同　柱刻黑口「初卷（丁數）§（數字）」
（二巻同上）三卷―六卷（同）§（なし）」
（きりしたん版　第二巻以降の目録等一枚目の最上部に「APROVAÇAM. / Vi este Liuro do Taifeiqui; não tem cousa por que / se não deua imprimir. / Manoel Barreto./Vista esta informaçaõ dou licença per a se poder / imprimir O Bispo de Iappam.」と出版認可文を附刻　平假名交り　三〇・四―イ四七）（重文）

太平記秘傳理盡抄　寫　四十巻　四十冊　一〇〇二

今川心性著　袋綴　紺表紙　用紙鳥の子　二九・五糎二一糎　題簽左肩「（書名同）巻第一（―四十）」
（江戸時代初期寫　原に巻四十「太平記秘傳之聞書令御家代代相傳要道／也ト云云中略予勤求／之志不淺傳受三箇年全部自筆ニ書寫ス下略龍集文明二年八月下旬六日今川駿河守入道心性在判／謹上　名和肥後刑部左衛門殿」、「右此評判者名和伯耆守長俊之遠孫名和／正三傳之矣下略」と原跋あるものの寫　三〇・四―イ四一）

貞即記　寫　一軸　一〇〇三

中原師守著　巻子本　改裝後補鳥の子表紙　原裝共表紙　二六糎六米六五糎　一紙四〇・五糎　約二十行二十二字小雙行　外題後筆書名同　原外題左肩書名同
識語　（原表紙見返）一見了／一見了／一見了　師藤
（紙背は寛正五年具注暦（首闕）、貞和五年七月三日至十二月廿六日即位記にして師守記に同文あり　三〇・四―イ五五）

難太平記　寫　一冊　一〇〇四

今川了俊著　袋綴　澁引表紙　用紙鳥の子　二七・五糎二〇・五糎　十行　三十六丁　外題左肩書名同　内題なし、「李部大卿忠次・文庫」
（榊原侯本　江戸時代初期寫　三〇・四―イ二五）

梅松論　寫　二巻　二冊　一〇〇五

行譽筆　袋綴　淡朱色包表紙　二六・五糎一九糎　九行　題簽左肩「（書名同）上（下）」、「探花文庫」
奥書　（上巻）于時嘉吉二年正月十三日之夜終書功早／沙門行譽
（下巻）于時嘉吉第二暦孟春仲旬之天夜〻於燈下而／令書写早比興〻〻　桑門行譽
（尾題と奥書の間に本文同筆「等持院殿御昇進次第」を記す　片假名交り　上下冊表紙右下に「行譽」と自署　三〇・四―イ三九）

はなさく松　寫　一冊　一〇〇六

塙保己一著　袋綴　水色布目表紙　二四・五糎一六・五糎　九行小雙行　七丁　題簽左肩單邊（刊）小津桂窓筆「花咲松　全」、「西荘文庫（小津桂窓筆「廿□全一」と墨書せる紙箋に捺印）」
（原に「右一帖保己一撿校所勘也其論長／慶院事詳且盡矣尾州天野信景／著南朝紹運圖引度會延經説以／寛成熙成同訓爲一人者亦誤夫南／朝三代皇統所係不亦重乎因写一／帖以秘篋底云尓／天明戊申季冬　大田覃」、「文化丁卯孟春初九得整斉（ママ）藏本写／之　瀧澤解」と奥書あるものの寫　表紙左下小津桂窓筆朱書「十四お」　三〇・四―イ四五）

保光卿記　寫　一軸　一〇〇七

土御門保光著　巻子本　改裝後補薄縹色表紙　用紙裏打　二九糎五米二五糎　一紙四六糎　題簽左肩「應安七年記　端正月今年神木在洛」　原外題書名同
奥書　後成恩寺自筆折帋以師卿本写也明應九九十三
（應安七年一月至三月を収む　巻末一紙「前攝政永享五十卅折帋」とあり　紙背は文明十九年五月至十二月具注暦　三〇・四―イ三三）

○

明月記　寫一軸　一〇〇六

藤原定家著　自筆　巻子本　改装後補茶色表紙　原装金襴茶色表紙　原見返金銀切箔横雲模様　用紙裏打　二九糎八米六〇糎　一紙四八糎　天地単邊低一格横線二六糎　二十八行小雙行　内題なし

識語　右記一巻（後八月一日到九月廿九日）京極黄門之／真蹟無疑依所望加筆／早／元祿二年正月日／羽林藤原爲綱

（安貞元年八月至九月を存す　紙背は消息文等　三〇・四一―イ三）（重文）

明月記　寫一軸　一〇〇七

藤原定家著　自筆　巻子本　金銀砂子地龜甲型模様表紙　見返金銀切箔散　用紙裏打　三一糎四米二〇糎　一紙五一・五糎　内題なし

（建仁二年正月十一日至十五日、但し十三日は「十三日天晴」とある一行のみにて以下闕、年次不明二十一日至二十六日の二紙、正治二年十月三日中闕四日・五日、正治二年閏二月十四日至十八日を所収　紙背は文書　三〇・四一―イ一）

室町・安土桃山時代

足利季世記　寫八巻七冊　一〇一〇

袋綴　鶯茶色表紙　二七糎二〇・五糎　用紙鳥の子　十行約二十七字　外題（第一冊）「（書名同）」一二（自長享元年至永正十六年十月）（第二冊）「（同上）」三（自永正十六年十一月至享祿四年六月）（第三冊）「（同上）」四（自享祿四年八月至天文十九年）（第四冊）「（同上）」五（自天文廿年至永祿四年）（第五冊）「（同上）」六（自永祿五年至同十一年六月）（第六冊）「（同上）」七（自永祿十一年七月至同十二年）（第七冊）「（同上）」八（自元龜元年至同二年）」

（榊原侯本　江戸時代初期寫　巻一目録の下に「号畠山記」、巻二同上「号舟岡記」巻三同上「号高國記」、巻四同上「号三好記」、巻五同上「号勝軍地藏軍記」、巻六同上「号久米田軍記」、巻七同上「号義秋公方記」、巻八同上「号野田福嶋合戦記」とあり　三〇・五―イ二五）

穴太記　寫一冊　一〇一一

袋綴　砥粉色表紙　用紙　用紙鳥の子　二七糎二〇・五糎　三十九丁　外題左肩書名同、「李部大卿忠次・文庫」

（榊原侯本　江戸時代初期寫　三〇・五―イ一三）

應永記　寫一冊　一〇一二

袋綴　砥粉色表紙　用紙鳥の子　二七糎二〇糎　十行約十九字　二十四丁　外題左肩書名同、「李部大卿忠次・文庫」

（榊原侯本　江戸時代初期寫　片假名交り　三〇・五―イ三）

應仁別記　寫一冊　一〇一三

袋綴　砥粉色表紙　用紙鳥の子　二七糎二〇糎　十行約二十五字　五十二丁　外題左肩書名同、「李部大卿忠次・文庫」

（榊原侯本　江戸時代初期寫　片假名交り　三〇・五―イ三）

御湯殿上日記　寫一軸　一〇一四

壬生院筆　巻子本　藤花文繻茶色表紙　見返金箔散雲紙鳳凰畫　用紙裏打　二八糎三米　一紙二七・五糎

箱書　禁裏御湯殿之記（後光明院御母公京極殿）壬生院御筆

（元和八年正月一日・寛永二年正月一日至廿四日分を存す　もと袋綴を現巻子本に改装　國學院雑誌第五十五巻第二號所収是澤恭三「壬生院自筆御湯殿上日記」―參照　三〇・六―イ三五）（重美）

熊野別當堀内家文書　朝鮮古帖　寫三軸　一〇一五

巻子本　改装後補雙鳥巻雲織文藍納戸色表紙　三五・五糎　見返金切箔散　内題なし

（三一〇・五―イ三七）所収次の如し

第一巻

三月十七日忠安書翰
三月八日堀内房州宛淡嶋五兵衛書翰
極月廿日稲兵庫宛書翰
九月廿四日冨柳軒有心書翰
三月六日堀内房州宛龍吉郎次書翰
極月廿三日堀内安房守宛鍋嶋加賀守直茂書翰
三月五日堀安宛古右近書翰断簡
九月廿三日（宛名闕）一書翰
堀安房守宛署名闕書翰
正月十五日（宛名闕）尾關與六書翰
（宛名闕）九鬼長門寺書翰
二月十二日堀房州宛宮部善右衛門書翰
極月廿三日（宛名闕）源永書翰
（宛名闕）宮部善右衛門丞書翰
断翰二葉
拾月十一日堀安房宛渡邊孫左吉久書翰
五月十三日（宛名闕）伊與□書翰
堀内安房守案文二通
二月晦日守信断翰

第二巻

十月廿五日福式部少断翰
房州宛断翰
二月十九日堀房州宛山内三右衛門書翰
安房宛桑小藤太書翰
九月四日安房守宛新宮樂乘書翰
池喜兵宛（署名闕）書翰
十月十五日堀安宛鍋加守直茂書翰
房州宛桑小藤太書翰
（宛名闕）山三右衛門書翰
二月十日堀内安弘宛田佐六案文
堀房州宛桑小藤太書翰
正月八日堀内安房守宛小西攝津守行長書翰
十月八日堀善宛善虎書翰
九月一日政郷・言□書翰
稲兵庫宛書翰
八月廿日羽兵義弘書翰
正月十五日福嶋弥右衛門書翰断簡
拾月吉日安書翰
なち天満宛能満寺至峯書翰
□月四日堀内房州宛萩屋入道善虎書翰
霜月渡邊勝一郎・川面三亟・山本新介宛（署名闕）書翰
九月廿一日（宛名闕）重祐書翰
八月十日堀房州宛杉越入道書翰
（日附宛名署名闕）書翰
正月十五日（宛名闕）坂井與左右衛門書翰
正月十六日鍋加州宛氏善書翰
二月二日（宛名闕）堀安房守書翰
堀安宛断翰
十月廿六日（宛名闕）阿曽豊元□書翰
房州宛桑小藤太書翰
堀州宛宗忠書翰
小土州宛（署名闕）書翰
平岡孫右衛門状
九月十二日堀安宛宗静書翰
熊野新宮庵室行□状
堀房州宛桂勘兵衛書翰
七月廿六日堀内安房守宛淺野彈正長吉書翰
安房宛桑小藤太書翰
十月廿四日堀内安房守宛新宮庵主行□書翰
九月五日堀内安房守宛羽兵義廣書翰
堀安房守宛松浦法印書翰
拾月二日房州宛廿人書翰
極月廿六日堀安房守氏善案文

第三巻

杉傳三断翰
八月廿一日堀房州宛和氣西正家・市介正次書翰
堀房州宛古右近書翰
十月廿二日堀房州宛宮部善右衛門書翰
十二月廿一日（宛名闕）宗氏書翰
堀安宛杉傳三書翰
拾月十六日堀房州宛川三右衛門久□書翰
廿七日堀房州宛桑小藤太書翰
黒甲州・黒如水・毛壱州・伊式部等宛廻状
極月廿八日堀内安房守宛鍋嶋助右衛門茂書翰
正月廿七日小嶋津宛尾關與六書翰
堀房州宛古右近書翰
霜月六日（宛名闕）こうかんし源與書翰
（日附宛名闕）〔小西攝津守行長〕書翰
九月八日黒田甲州宛堀小次良氏書翰
九月廿四日（宛名闕）山本岩之助光信書翰
八月十五日堀内房州宛佐源左衛門書翰
十月廿二日堀安宛小攝守行長書翰
九月六日堀房州宛池田喜兵衛正村書翰
伊主右宛福島弥右衛門書翰
十一月四日堀安房守宛新庵主行□書翰
三月七日堀□州宛鍋嶋助右衛門一□書翰
十五日房州宛石八介書翰
拾月八日宗断翰
極月廿八日（宛名闕）鍋嶋加賀守直茂書翰
極月廿日大藏法印宛（署名闕）書翰
十月九日（宛名闕）福嶋弥右衛門書翰
十二月十日堀安房宛くすし意調書翰
二月七日堀房州宛古右近・桂勘兵衛書翰
十一月一日（宛名闕）福左太正則書翰
八月十六日堀内安房守宛榎並福介書翰
十月晦日（宛名闕）太寄子書翰
二月十四日（宛名闕）行長書翰
小春十五日羽柴兵庫宛堀安房守氏善案文

軍書目錄　寫　一冊

一〇一六

瀧澤馬琴著　自筆　袋綴　黄土色布目表紙　二三・五糎一六・五糎　四周單邊二〇・五糎一三・五糎　十行罫紙　八十八丁　題簽左肩青紙自筆「（書名同）全」　副題簽單邊方形自筆「真書太閤記／關原單記大全／慶元攝戰記／東國太平記／右大閤秀吉軍／記猶別有朝鮮／軍記今不贅」　柱刻「著作堂藏」、「瀧澤文庫」「瀧澤（墨印）」

（巻末他筆を交ふ　表紙左下小津桂窓筆朱書「た」　三一〇・五―イ四一）

信長記　十五巻　十冊　一〇一七

小瀬甫庵著　袋綴　栗皮色表紙　二七・五糎二〇糎　十二行約二十字　題簽左肩後補緑紙「（書名同）一之巻（一十五之終）」、「西荘文庫（小津桂窓筆「花百四十二全十」と墨書せる紙箋に捺印）」
（古活字版　元和寛永期刊　三〇・五―一九）

大佛殿御算用事　寫　二冊　一〇一八

應其著　自筆　袋綴　薄縹色表紙　三一糎一九糎　約五行　外題（第一冊）中央「（書名同）（左右に）天正拾九年／同廿年」（第二冊）左肩「（書名同）（右に）文祿二年」、「殘花書屋」
奥書（第一冊）文祿二年十月十四日　應其（花押）／民部卿法印／増田右衞門尉殿／長束大藏大輔殿／木下大膳大夫殿
（第二冊）文祿二年十二月廿八日　應其（花押）／（宛書第一冊に同文）
（三〇・五―一九）

長祿記　寫　一冊　一〇一九

袋綴　砥粉色表紙　二七糎二〇・五糎　十行約二十字　二十丁　外題書名同、「李部大卿忠次・文庫」
（榊原侯本　江戸時代初期寫　片假名交り　原に「文明十四年仲春下旬之比如本写之早」と奥書あるものの寫　三〇・五―一五）

長錄記新本　寫　一冊　一〇二〇

袋綴　鶯茶色表紙　二七・五糎二〇・五糎　十行約二十三字　十四丁　外題左肩書名同　内題なし
（榊原侯本　江戸時代初期寫　片假名交り　三〇・五―一五）

東寺記　寫　二十一冊　一〇二一

袋綴　朽葉色表紙　二三糎一六・五糎　九行　内題（第二冊）「東記」（第三冊）「東寺記」（第四冊）「私日記第一（自應永十三年丙戌四月廿一日始記之）」（第十一冊）「長祿四年庚辰第七帖」（第十三冊）「文明六年甲午廿一帖」（第十七冊）「明應二癸巳年日記」（第二十一冊）「東大寺御受戒次第（康治元五）鳥羽法皇御時／天台御受戒記同有之」、「西荘文庫（小津桂窓筆「花百廿七全廿一」と墨書せる紙箋に捺印）」
（江戸時代中期寫　數筆を交ふ　第一冊見返に別筆にて二十一冊分所収目録を貼附「第一冊元徳二年、第二冊貞治元・二年、第三冊同三年、第四冊應永十三至十七・廿・廿一年、第五冊永享三至七年、第六冊同八至十年、第七冊同十一至嘉吉二年、第八冊同三至文安三年、第九冊同四至寶徳二年、第十冊同三至享徳三年、第十一冊長祿四・寛正四・應仁三年、第十二冊應仁元至三年、文明二至二十年・長享二年、第十三冊文明五年、第十四冊同六年、第十五冊同十一至十三年、第十六冊同十四・十五年、第十七冊明應二、天文九至十四年、第十八冊同十九至廿四年、第十九冊永祿六至九年、第二十冊同十至十三年、元亀二至四年、第二十一冊東大寺御受戒次第」とあり、第四冊「私日記第一」扉裏に「真俗事見聞之善悪并／一身之行状不謂用捨記録之」、同本文巻初「應永十二年十月廿八日入寺（生十九）」、第十一冊「長祿五年第七帖」日記扉に「榮増花押」、第十三冊「文明六年廿一帖」日記扉に「権大僧都榮増（六十七歳）」、第十五冊「文明十三年廿八帖」日記扉に「法印権大僧都榮増（七十五歳）」、第十六冊「文明十四年」日記扉に「法印権大僧都榮増（七十歳）」、第二十一冊「東大寺御受戒次第」扉に「東寺執行少僧都榮増」とあり原本虫喰の跡をも移寫せり　三〇・五―一七）

蜷川親元記　寫　一軸　一〇二三

蜷川親元著　〔自筆〕　巻子本　綾黄表紙　見返金銀泥下畫　用紙裏打　二七糎七米三五糎　一紙四〇糎　端書「文明九年正月大」　内題なし
（文明九年一月至六月　古筆極札「蜷川新右衛門親元日ゝ記　琴山」とあり　もと袋綴二七糎二一糎十八丁を現巻子本に改装　三〇・五―一三）

持氏滅亡記并成氏沙汰　寫　一冊　一〇二四

袋綴　鶯茶色表紙　二七糎二〇糎　十行約二十二字　四十三丁（成氏沙汰八丁）
外題左肩書名同　内題「持氏滅亡之事」「成氏之御事」

（榊原侯本　江戸時代初期寫　片假名交り　三〇・五―イ一七）

山中山城守文書　寫　六軸

一〇二四

巻子本　茶色絹表紙　見返金切箔散　二〇至四四・五糎　臺貼

（三〇・五―イ七）　所収次の如し

第一巻

十二月廿一日 山橘内宛 服部采女正春書翰

五月七日 山中橘内宛 淺野彈正少弼長吉書翰

卯月廿九日 山ゝ城宛 石田木工頭正澄書翰

十二月廿一日 山橘内宛 太田飛彈守一吉書翰

卯月廿五日 増田殿御陣所宛 隆貞書翰

九月十七日 山ゝ城宛 毛利民部太輔友重書翰

六月廿五日 山中橘内宛 頼淳書翰

十月三日 山ゝ城守宛 増田右衛門尉長盛書翰

十月廿一日 山ゝ城宛 毛利民部太輔友重書翰

十二月六日 山ゝ城宛 毛利民部太輔友重書翰

正月廿三日附山中山城守長俊書上御謡狂言衆交名（各自署花押）

第二巻

十一月十六日 山ゝ城守宛 孝□書翰

二日 山中城州宛 玄仍書翰　三日 山ゝ宛 （未詳）書翰

八月七日 山城宛 色書翰

五月五日 山城州宛 山内土佐守一豊書翰

山橘宛 紹巴書翰

文祿四年五月廿八日 淺野淺野左京太夫宛 状

六日 山ゝ宛 狂歌懐紙状

慶長五年十二月二日 山中山しろ宛 上さま御あつらへ物之事状

廿八日にら山おさへの衆・山中おさへの衆交名

六月二日 安威攝津守宛 羽柴筑前守利家状寫

九月十六日いなり東福寺竹木覺

御朱印之面可請渡分事

慶長三戊戌年七月十五日 神保源右衛門・宗近善右衛門・高尾又兵衛尉宛 山中山城守長俊書翰

十一月廿四日 駿河大納言宛 御書留書状

第三巻

八月廿五日 山ゝ城宛 福原右馬之介長成書翰

三月廿三・八月卅日・八月廿二日・八月廿一日 山中城州宛 策菴昌叱書状四通

九月九日 山橘内宛 榊原式部大輔康政書翰

十月廿七日 山城州宛 有馬中務少輔忠頼書翰

閏八月四日 山中山城守宛 冷泉為満書翰

九日 山ゝ城宛 長束大藏太輔正家書翰

・九月廿九日 山中橘内宛 南部大膳大夫信直書翰

十月十八日 堀次右衛門・山中橘内・佐治地藏坊宛 堀左右衛門督秀政書翰

十七日 山城州宛 石田治部少輔三成書翰

三月二日 淺彈少・山城宛 桑山小藤太一晴書翰

拾月廿一日 山橘宛 里見安房守義康書翰

六月廿七日 山ゝ城守宛 堀雅樂助直知書翰

十月八日 山城州宛 大谷刑部少輔吉隆書翰

七月九日 山ゝ城宛 一柳監物之政書翰

十月十九日 山ゝ城守宛 羽柴紀伊守書翰

五月廿五日 山中城州宛 玄仍書翰

五月三日 山中城州宛 長谷川刑部法印宗仁書翰

正月三日 山ゝ城宛 （未詳）書翰

三日 織田有樂齋書翰

二月十五日 山ゝ城宛 石田木工頭正澄書翰

五月五日 山中山城守宛 施藥院法印全宗書翰

第四巻

正月七日 山中作右衛門宛 松平甲斐守輝勝書翰

正月廿日 木下政右衛門宛 安部治左衛門書翰

山作右衛門宛 丹陽房書翰　十月廿四日 織田彈正忠宛 御判文書

「今度大ミんちよくし相越」文書斷簡

「先月大坂表五月七日之合戰」首状注進文書寫

二月十七日 山宛 有馬中務大輔忠頼書翰

九月廿二日 山ミ城宛 羽柴三左衛門輝政書翰
十一月廿日 山ミ城宛 大佛木食應其書翰
三月三日 山中山城守・淺野彈正少弼宛 福原式部少輔廣俊・杉社總兵衛元緣書翰
七月廿九日 山ミ城州宛 安威攝津守守佐書翰
十二月八日 山城州宛 （未詳）書翰
三十九日 山橘宛 自庵宗是書翰
十月十一日 山中山城宛 上入久徳書翰
五月十六日 城州宛 稻葉藏人道通書翰
八月十日 山中山城守宛 紹巴書翰
三月朔日 淺野彈正少弼山中山城守宛 阿波守年寄中一正書翰
十二月三日 山橘宛 大友侍従義延書翰
後三月朔日 山ミ城宛 板倉右近書翰
十月十三日 山ミ城宛 羽柴左近親成書翰
山ミ城宛 徳山五兵衛入道書翰
正月九日 山城州宛 宗對馬守義成書翰
極月三日 山城州宛 羽柴美作守秀成書翰
山城州宛 福原右馬之介長成書翰
山ミ宛 書狀斷簡
五月十六日 山橘内宛 宮部兵部少輔長熙書翰
七月四日 山中山城守宛 （未詳）書翰
六月十四日 山中城州宛 前田徳善院玄以民部法印書翰
十一月十四日 山ミ城宛 增田右衛門尉長盛書翰
三日十七日 山藤城守宛 脇坂中務少輔安治書翰
六月十三日 山中山城守宛 如齋書翰
八月廿五日 徳春院・山中山城守・長東大藏少輔宛 立花三河入道賢賀・嶋平右衛門尉・高橋山城守鎮次・桂民部入道快友書翰
山ミ城州宛 徳山五兵衛入道書翰

第五巻

知行書立
正月十六日 徳善院僧正・増田右衛門・長東大藏宛 山中山城守長俊書翰
〔知行書立〕
慶長五年十二日 小出播磨守・片桐市正宛 山中山城守書翰
天正拾九年七月廿五日 印地阿毘曾宛 關白南蠻御返禮文寫
西土出世壹千伍百九十二年仲夏朔日托重僧師羨高茂書狀寫
室町時代末期寫軍學秘傳書斷簡

第六卷

天正十七年八月日秀吉朱印御本丸鉄御門番事定書
慶長三正月十七日黒田甲斐守宛書狀案
慶長三年正月十七日寺澤志摩守宛書狀案
慶長三年三月十八日秀吉朱印 山中山城守宛 朝鮮城ニ爲置兵粮被遣八木事
文祿三卯月十六日 山中山城守宛 美濃國武藝郡銀山秀吉朱印狀
十二月 山中山城宛 秀吉朱印狀
十二月五日 山中山城守宛 秀吉朱印狀
五月十六日 山中山城守宛 徳川家康墨印狀

結城戰場物語　寫　一冊　一〇三五

袋綴　砥粉色表紙　用紙鳥の子　二七糎二〇糎　十行約二十字　三十九丁　外題左肩「結城戰場」　内題なし
（榊原侯本　江戸時代初期寫　巻末に「此前巻号姉川合戰記金崎城合戰淺井合戰江刕所ゝ合戰承禎家傳代ゝ軍ノ等注之凡帋數數六十余丁也明曆三年正月十九日江府回祿之時燒失云ゝ略」の紙片を貼附　三〇・五―一九）

江戸時代

小槻孝亮日次記　寫　八冊　一〇三六

小槻孝亮著　袋綴　澁刷毛目表紙　二六・五糎一九・五糎　十行　目録題（第一冊）「小槻孝亮宿祢日次記 無益之事等多之 仍令粉粹」（第二・三冊）「孝亮宿祢日ゝ記　取要」（第四至八冊）「孝亮宿祢日次　取要」
（江戸時代中期寫　各冊表紙に所収記録の年次を記せる紙箋を貼附す　第一冊文祿四・五年、慶長二・三・五・六・十・十二至十四年、第二冊　慶長十五至十

八年、第三冊 慶長十九・廿年、元和二至五年、第四冊 元和六至九年、第五冊 元和十、寛永二至四年、第六冊 寛永五・六年、第七冊 寛永七・八年、第八冊 寛永九至十一年を収む 三〇・六―(三)

慶長見聞集 寫 十巻 五冊 一〇二七

三浦浄心著 自序 慶長拾九刁のとし季冬後の五日自奥 袋綴 茶色表紙 二七・五糎一八・五糎 十行 外題「見聞集 巻一(巻九)巻二(―巻十止)」、「勝安芳」識語 (第一冊見返)(柳亭種彦筆)この書の作者／茂正三浦浄心 俗名五郎左衛門／正保元申年三月十二日卒／稱陽院殿定譽浄心居士／墓所上野普門院／柳亭曰 行年七十九也 (江戸時代中期寫 種彦自筆校合書入あり 見返に海舟書屋の刻ある罫紙を使用す 三〇・六―(七)

月堂見聞集 寫 二十九巻 二十九冊 一〇二八

本嶋知辰著 袋綴 澁刷毛目薄茶色表紙 二三・五糎一七糎 十三行 外題左肩小津桂窓筆「(書名同) 一(―廿終)」 内題「月堂見聞類聚巻上(下)」「見聞類聚補遺」「月堂見聞類集後編」「月堂見聞集巻之五(―巻廿四)」「見聞集巻二十五(―巻二十九)」、「西荘文庫(小津桂窓筆「花四十三 全廿九」と墨書せる紙箋に捺印)」 (江戸時代末期寫 數筆を交ふ 三〇・六―(三五)

訣振筆記 寫 二巻 一冊 一〇二九

袋綴 改装後補濃茶色表紙 二六・五糎一七糎 十二行 六十八丁 外題左肩單邊書名同、「仙藩山崎氏文庫」「清野文庫(紙票)」 (延享二年八月廿三日至閏十二月十二日仙臺藩若夫人(瀧子姫)御懐胎産日記 三〇・六―(元)

内大臣家光公爲將軍宣下拜賀御參内供奉行列之次第 寫 一軸 一〇三〇

巻子本 金砂子野毛散紺表紙 見返金銀砂子野毛散 用紙鳥の子金銀切箔散 二七糎一五米 一紙四九糎 彩色密畫 (江戸時代初期寫 内題端書に「元和九年八月六日」とあり 三〇・六―(二七)

明治時代

〔社説〕海軍省所管軍艦製造費の事〕 寫 一軸 一〇三一

福澤諭吉著 自筆 掛軸 六一糎 原寸二三糎五〇糎 十五行 二十字詰和紙朱罫原稿用紙二丁分を臺貼 (三〇・七―(一)

地方史

相模伊豆武藏秩父根邊常陸一覽地取 寫 一冊 一〇三二

長谷川雪旦著 自畫 袋假綴 共表紙 二三糎一七糎 四十六丁 外題中央書名同 内題なし、「椿山」 (外題右に「天保四年癸巳冬十一月」、左下に「雪旦」と自署す 書中「天保四歳次癸巳十月 淺岡旦浩子一覽圖取雪旦摸」等の文あり 三一―(一)

○

小笠原島紀事 寫 三十一巻 二十八冊 一〇三三

坂田諸遠著 明治七年三月二十五日自序 袋綴 砥粉色表紙 二六糎一八糎 四周雙邊二〇糎一四・五糎 八行約十八字小雙行朱罫紙 題簽左肩後補「小笠原島紀事稿本 首(―三十一)」 (別に小花作之助著「小笠原島風土略記」・「小笠原島紀事稿料」各一冊を附す 三一・一―(二)

○

山形縣史料採訪日記 寫 一冊 一〇二四

袋綴 鼠色表紙 二四・五糎一六糎 四周單邊一九糎一三糎 十一行 柱刻「時習堂」青罫紙 九十六丁 扉題「明治三十五年／山形縣史料採訪日記／付目録及雜録／山形庄内地方之部」、「清野文庫(紙票)」
(明治三十五年七月二十八日至八月九日記事 三二・九―イ)

○

難波津宮并大郡小郡考 寫 一冊 一〇二五

覺峰著 自筆 袋綴 改裝後補朽葉色布目表紙 原裝共表紙 二四・五糎一六・五糎 左右雙邊一九・五糎一三・五糎 九行罫紙 二十一丁 外題左肩「(書名同)」覺峰上人稿本」 原外題左肩書名同、「高木家藏」等
奥書 寛政九丁巳十月／駒谷麥飯仙識(印)
(三四・三―イ)

○

大和日記 寫 一冊 一〇二六

森川竹窓著 自筆 袋綴 澁引表紙 二七・五糎二〇糎 五十四丁 題簽左肩雙邊(刊)後筆「森竹窓大和日記」 内題なし、「聆濤閣鑑藏記(陰刻)」
(文化六年八月十八日至同廿三日記事 三四・七―イ)

○

豫章記 寫 一冊 一〇二七

袋綴 澁引表紙 用紙鳥の子 二九糎二〇・五糎 十一行約二十字 六十丁 外題左肩書名同、「李部大卿忠次・文庫」
(榊原侯本 江戸時代初期寫 片假名交り 三五―イ)

○

使琉球記 六巻 四冊 一〇二八

李鼎元(清)著 嘉慶七年季春楊芳燦序 嘉慶七年仲春法式善序 唐袋綴 改裝後補縹色表紙 間紙を挾む 二七・五糎一七糎 四周雙邊一八・五糎一三糎 有界十行二十一字 柱刻白口「使琉球記 卷一(―卷六)(丁數)」
(三六・九―五)

○

蝦夷沿革考 寫 二巻 二冊 一〇二九

山田儕齋著 自筆 袋綴 桐唐草押文黄表紙 間紙を挾む 二七糎一八・五糎 左右雙邊一九糎一三・五糎 有界十一行二十字小雙行、「中山氏藏書之記」
(内題の次行に「平安 山田連思叔輯校」と署す 三七―三)

朝鮮

朝鮮司贍寺奴婢牒 寫 二十六枚 一〇三〇

五一糎三五糎 有界十七行六段配字 二折五十二丁、「司贍寺(墨印)」
(各葉毎に朱寺印を捺す 奴婢等の歿年月日を記す 三九―イ九)

アジヤ洲

華夷變態 寫 五巻 八冊 一〇三一

林信篤編 延寶二年甲寅六月八日自序 袋綴 薄縹色布目表紙 二六・五糎一九糎 九行 外題「(書名同) 一ノ上(―五ノ下止)」、「西莊文庫(小津桂窓筆「花五十三全八」と墨書せる紙箋に捺印)」

（江戸時代末期寫　三〇—イ）

中國

後漢書卷第三十三　一卷　一冊　一〇四三

范曄（劉宋）著　章懷太子（唐）注　唐蝴蝶裝　改裝後補紺表紙　三五・五糎二五糎　左右雙邊二二糎一七・五糎　有界九行十六字小雙行二十字　二十四丁　内題「列傳卷第二十三　後漢書三十三」　柱刻白口（黑線口の葉あり）「（上象鼻に字數）後漢書傳（又は後漢列傳）二十三　（丁數）（刻工名）」

（宋版　刻工名—王榮　林□　李□　李昇　李棠　趙明　陳彦　張等　闕畫—構等　三三—イ四三）

史記　百三十卷　七十冊　一〇四三

司馬遷（漢）著　裴駰（宋）集解　司馬貞（唐）補史及索隱　張守節（唐）正義　歲次丙子開元二十四年八月張守節序　小司馬氏序　司馬貞序　裴駰序　張守節史正義論例論法解　唐袋綴　改裝後補澁引栗皮色表紙　用紙裏打　二五糎一六糎　左右雙邊一八糎一二糎　有界十行二十一字小雙行二十一字　題簽左肩墨「史記目録并序」「史記本紀　一（—列傳七十）（剝脱のものあり）」　内題「五帝本紀第一　史記一（—太史公自序第七十　史記一百三十）」　柱刻細黑口「（上象鼻に大小字數）史正義　史一（—史百卅）等　（丁數）」　耳格「（篇名見出）」、「中山」等

刊記　（目録末木記）安成郡彭寅翁／栞于崇道精舍　（卷一百三十末木記）至元戊子菖節吉／州安福　彭寅翁／新刊于崇道精舍

箱書　（金泥）堯／（朱書）元板／（金泥）史記七十策／（朱書）至元戊子刊行本／（同上）崇蘭館

（元版　全卷に朱墨諸點を施し、上下欄並に行間に朱墨による室町時代末期書入多し　水野利忠著「史記會注考證校補卷一」—參照　三三—イ四一）

史記抄　寫　十五卷　八冊　闕　一〇四四

瑞仙桃源著　袋綴　水淺黄色表紙　用紙斐紙　二九糎二一糎　十二行二十數字　内題「秦本紀第五（—日者列傳第六十七）　史記五（—一百二十七）等」、「西莊文庫（小津桂窓筆「月百三十全八」と墨書せる紙簽に捺印）」「桂窗」

（江戸時代初期寫　卷三至十七を存す　原に卷四「前略文明丁酉小春廿又三日夜參半就燈下抄此紀了下略」、卷八「前略文明丁酉蜡月十又七日就雪案以抄畢　昨暮慮一勾當來宿彈琵琶演倭史」、卷十一卷初「此卷　大昌天隱翁借以備一覽在余寔衰榮也而童行手／之爲燼火所燒焉親手補書見還千載之後有志於史學者／庶幾知爲我家焦尾也」、卷十三「前略文明八年丙申中冬冬至之後二日書」、卷十七「前略文明丁酉夏五月日仙又書」とあるものの寫　片假名交り　三三—イ三五）

資治通鑑　二卷　二冊　闕　一〇四五

司馬光（宋）奉勅撰　唐蝴蝶裝　改裝後補紺包表紙　間紙を挾む　三四・五糎二二糎　左右雙邊二四糎一八糎　有界十一行十九字小雙行　柱刻白口「（上象鼻に大小字數）監魏七十五（通魏七十六）　（丁數）　（刻工名）」、「金菊子」等

（宋版　卷七十五第十四至二十四葉、卷七十六第一至十六葉を存す　刻工名—元伸　松　佐　胡　清　儀　陳等　闕畫—屬等　三三—イ五七）

資治通鑑卷第三十三　一冊　一〇四六

司馬光（宋）奉勅撰　胡三省（元）音注　唐袋綴　改裝後補紺表紙　間紙を挾む　二七・五糎一七・五糎　原寸二五・五糎一七糎　四周雙邊二一・五糎一四糎　有界十行二十字小雙行二十字　二十九丁　柱刻小黑口「（上象鼻に大小字數）通鑑三十三（丁數）　（刻工名）」

（元版　刻工名—士行　仲美　付賓　付文德　伸績　子美　子明　升高　智文　文福　王仲仁　王伯玉　張和甫　余敬中　余馬兒　虞以德　陵子華　吳可九　李□□等　三三—イ三六）

重刻皇王大紀　八十卷　合八冊　一〇四七

胡宏（宋）著　萬曆辛亥歲季冬陳邦瞻序　紹興重光作噩夏四月朔自序　咸淳甲戌重九日董楷跋　四周雙邊二一・五糎一三・五糎　有界十行二十字　外題左肩後筆「皇

王大紀　一（一八枚）」　柱刻白口「皇王大紀　（巻数）　（丁数）　（刻工名）」、「桑名文庫」「立教館圖書印」「白河文庫」

（明版　刻工名―張照　周期　江甫　李九　李十　山　黄啓　良　章　楊淮　張元　余　余　王穴　張祐　游成等　三三―ィ三）

貞觀政要巻第七　寫　一冊　一〇四八

呉兢（唐）著　綴葉裝　改裝後補雲紙表紙　原裝共表紙　用紙斐紙　二九糎一七糎　四周單邊二二糎一四・五糎　押界七行約十六字　二十二丁（表紙共）　外題卜部良芳筆「貞觀政要第七」

奥書　乾元二年三月十日　□

識語　此一冊頗古本也加表紙訖／弘化四丁未歳十一月十五日／從三位侍從卜部良芳

（原表紙左肩室町時代筆「墨付廿七枚□□」とあり　本文同筆朱墨諸點を施す

かがみ第三號所収原田種成「傳金澤文庫本貞觀政要考」―參照　三三―ィ四五）

昭代典則　二十八巻　三十二冊　一〇四九

黄光昇（明）編　陸翀之（明）校　周日（明）校刊　萬曆庚子歳中秋日祝世祿序唐袋綴　改裝後補紺表紙　二八糎一七糎　四周單邊二一・五糎一三糎　有界十行二十二字　柱刻「昭代典則　（巻數）　（丁數）」、「馮氏辨齋藏書」「柯逢時印」等

（明版　三三―ィ五）

西夏回鶻文書斷簡　寫　十八枚　一〇五〇

張大千編　四五糎三三糎の臺紙に貼附　内題なし、「大千居士」等

識語　（第一葉）此西夏文押據敦煌千佛洞發見／其地初名莫高山因以名莫高窟／俗稱千佛洞莫又作漠荒即沙／漠中之高山也石室所出右軍衛十／將使孔公浮圖功德銘有謹選／得敦煌郡南三十里孟受渠界負／敦良嚮鄜田上ミ憑原施砌撥日／開基樹果百株建浮圖一所漠／高窟圖功德二鋪又大番故敦煌／郡莫高窟陰處士功德記有得然莫高山／爲當今聖主及七代鑿窟云ミ近人於莫高二字／多所曲解以孔陰銘記證之當爲憬然　蜀郡張　□（印）

（第十六葉）漠高窟發見／西夏墨跡傳世極尠楷書已不易覯／此草書千佛經容或有之而此数十片／俱爲民間約據欲知西夏社會状況／及書法用筆此真瓌寶不得以零縑／碎錦視之　大千居士記（印）

（第十八葉）此廻鶻文出自叙利亜是北宋初／或五代時刻本

（敦煌出土文書　三三―ィ六三）

石室遺珠　寫　一帖　一〇五一

唐折本　二九糎二七糎　題簽左肩茶色紙「石室遺珠（藝齋秘笈）」　内題簽金砂散薄紅紙「莫高辟壁（伯舊得唐寫論語等卷爲書此壬申端陽後陶齋）眞天壤法寶笈（祖光北窗識（印））」

（敦煌出土文書　論語・詩經・本草・千字文等斷簡六葉を貼附す　三三―ィ四七）

前漢書巻第九十九下　一冊　一〇五二

班固（漢）著　顔師古（唐）注　唐袋綴　改裝後補紺包表紙　三五・五糎二三・五糎　左右雙邊二一・五糎一七・五糎　有界九行十六字小雙行二十一字　三十九丁　内題なし　尾題「王莽傳第六十九巻下」　柱刻黒口「（上象鼻に大小字數）前漢傳六十九下　（丁數）　（刻工名）」、「上野藏書」

（宋版　第十葉以下を存す　刻工名―山　文　童　費　牧　俞　徐泳　全山　洪茂　高諒　陳一　黄亨　王高　金華　沈壽　士中　□文　徐友山　陳万二等　闕畫―驚（闕かざるあり）等　三三―ィ五三）

増入名儒講義續資治通鑑宋季朝事實　一冊　一〇五三

唐袋綴　改裝後補黄唐紙表紙　間紙を挟む　二六糎一六・五糎　左右（又は四周）雙邊二〇糎一三糎　有界十六至二十行大二十五字小雙行低一格二十四字　三十二丁　尾題書名同（又は季朝の二字を度宗とす）　柱刻黒口「宋監度（宋季朝等）（丁數）」　欄上に頭注　耳格あり、「唐氏嘉彰藏書」「江建霞秘庋印」「愚齋審定善本」等

識語　（裏補紙）季朝事實宋度宗時最詳可補正史／所未備槧本特尠此宋刻也更爲可寶／甲寅小春月謙識

後序有大元云ミ其爲元初刊本／無疑也　癸未六月笏庵閲訖識（印）

壬辰三月三日留庵又閲一過／春寒頗厲（印）
（元版　表紙右肩綴目に「秘笈　桐西書屋珍藏宋本」とあり　三三―イ五九）

大清穆宗毅皇帝實錄　寫　三巻　三冊　闕　一〇五四

唐袋綴　瑞雲鳳凰文紅綾包表紙　三六・五糎二三糎　左右雙邊二三・五糎一五・五糎　十行二十四字朱罫紙　題簽左肩（表紙に同じ綾を縹色絹臺に貼附）雙邊書名同　副題簽雙邊（上記に同裝）「巻之三十九（四十・七十一）」「同治元年閏八月上（―同治元年閏八月中・同治二年六月下）」　内題「大清穆宗繼天開運受中居正保大定功聖智誠孝信敏恭寛／毅皇帝實録巻之三十九（四十・七十一）」　柱心墨書「實録（巻數）（丁數）」
（清内府鈔本　巻三十九・四十・七十一を存す　三三―イ五）

唐書巻第九十五　一冊　一〇五五

宋祁（宋）・歐陽修（宋）奉勅撰　唐袋綴　改裝後補紺表紙　間紙を挾む　二七・五糎一八糎　四周雙邊二二・五糎一五・五糎　有界十行二十二字　十二丁　外題左肩後筆朱「元槧唐書九十五巻」　内題「高竇列傳第二十　唐書九十五」　尾題「高竇列傳第二十」　柱刻白口「（上象鼻に字數）　唐傳二十　（丁數）」
（元版　三三―イ三七）

南村輟耕錄　三十巻　八冊　一〇五六

陶九成（元）著　至正丙午夏六月孫作序　同上傳　邵亨貞疏　唐袋綴　卵色布目表紙　二六糎一七糎　左右雙邊一九糎一二・五糎　有界十行二十一字小雙行　柱刻白口「輟耕録（巻數）（丁數）　玉蘭草堂」、「讀耕齋之家藏」「多紀氏藏書印」「崇蘭館藏」「松島氏印」「實齋家藏」等
（明版　巻二十三初一丁補寫　刻工名―楊子厚　楊淳　子文　甫　子承　馮　陳等　三三―イ四九）

寧夏省黑城發見西夏經并元時代古文書　一帖　一〇五七

清野謙次編　折本　緞子表紙　三〇・五糎六六糎　十二折　題簽中央墨書名同

識語　寧夏省ハ甘肅綏遠兩省ノ間ニ位シ土地高燥ナリ、其首都黒城／ヲ土言カラ、フォト Khara-Photo ト呼ブ、荒墟ノ義ナリ／本書収ムル所ノ古文書及ビ古書ハ黒城附近流沙ノ中ヨリ發掘セ／ラレタルモノナレドモ發掘時ノ状態ヲ審ラカニセズ、蓋黒城ハ往昔／宋元ノ時代ニ於テ西夏ノ首都ナリ、從ガツテ本巻中ニ至元年紀アル／古文書ト共ニ西夏文ノ古書ヲ収藏シ得タルハ怪ムヲ要セズ、余是等／古文書類ヲ一括シテ昭和十二年末北京ニ於テ感得セリ、昭和十三年／初京都ニ帰来セシ後、装潢整理セシメタリ、下略昭和十三年四月二十九日天長節／於京都記之／清野謙次（印）
（巻中寫眞二枚貼附して）　又別ニ一塊ノ紙片アリ、腐朽セル巻子本ノ殘缺ナリ、寫眞ニ示スガ如ク、柚木亦腐朽セリ、／此紙塊ヲ軸木ヨリ遠キ部分、即チ巻首ノ部分ヨリ軸本ニ近キ部分、／即チ巻末ニ向テ順次伸展整理セシモノハ次頁以下ニ示ス、イヅレモ／西夏文ノ寫本ナリ下略清野謙次（印）
寧夏省在于甘肅綏遠兩省之間寧／夏省中央有黒城讀爲伽羅保篤（土人呼稱）／蓋謂廢墟之意云也此經出於黒城附近／土中可謂廢墟遺物矣同時所發見（Khara-Photo）／古文書有至元文字元初之年號也故／知此經蓋亦元初之物歟此經入于清／野君之掌時古朽臭腐不辨紙表／裏君毎有清閑細心剝離展開序／列各葉命匠装潢更使貼附諸廣厚／紙以作此帖點檢得便査閲有利／豈唯清野君得便利邪同輩後人亦／將依而大有所穫矣況於西夏經存于世／者甚稀乎　昭和十三年三月三十一日／斬水川上漸誌　于時年五十六
（表裏に西夏文經典及び天暦二年八月・至元二年十一月・至元六年四月初五日・至正四年八月廿七日・至正十年・至正十一年九月二十一日等の年紀ある古文書等を貼交ぜしもの　昭和十一年秋十月より昭和十三年三月三十一日に至る花園晦宗等六名の題辭あり　三三―イ六一）

歴代帝王紹運圖　一冊　一〇五八

諸葛深（宋）著　熙寧九年仲冬月虞云序　袋綴　改裝後補檜皮色表紙　用紙裏打天地裁斷　二三糎一七糎　四周雙邊一八・五糎一二・五糎　有界行數字數不定　三十二丁　外題左肩墨書名同　尾題「紹運圖」　柱刻黒口「紹序（紹）（丁數）」、「槑怜」「宗徳」「松迺屋文庫」「小汀文庫」
（五山版　記事は元順宗至正二十八年に終り各朝廷の條に日本天皇と和年號を併刻　表見返に「歴代國號歌寫秀禪師本（此五字朱書）」を墨記す　三三―イ三三）

歷代帝王編年互見之圖　一冊　一〇五九

馬仲虎(宋)著　自序　乾道三年歲次強圉皇李跋　袋綴　毘沙門格子地花模様砥粉色行成表紙　三一・五糎二一・五糎　左右雙邊二四・五糎一九糎　有界八行細字二・三行　五十丁　外題後筆「歷代帝王之圖剏全」　柱刻黒口「互見圖　(丁數)」(江戸時代初期刊　原に巻末「後圓融院御宇　永和第二季丙辰冬初弦重刊于洛之大用菴」とあるものの改刻本　三三―イ三)

東南アジヤ

印度之阿蘭陀商館屬官名簿　寫　三冊　一〇六〇

袋綴　共表紙　二五糎一七・五糎　九行　外題中央「(書名同)　第一(―第三)」(江戸時代末期寫　序文末に「咬嚼吧におゐて官商舘附の鍍版師ノピイトルハンゲーマン惣都督の命によりて/是を開板す」とあり　各冊書名右肩「西洋歷元千八百六年日本文化三寅年ニ當ル」とあり　三三―イ一)

ヨーロッパ洲

魯西亞志略　寫　五巻附記三巻　六冊　一〇六一

服部大方(宜)著　自筆　天保十一年庚子春自序　天保十年己亥夏六月自叙　天保己亥仲秋日服部厚跋　袋綴　黄表紙　二六糎一八糎　九行小雙行　題簽左肩「(書名同)中(下)」「魯西亞志略附記上之上(上之下)」(片假名交り　三六―イ)

傳記・叢傳

日本人叢傳

伊藤仁齋・新井白石・人見竹洞書翰　寫　一軸　一〇六二

各自筆　巻子本　水色繪表紙　二三糎四米一〇糎　題簽後補「仁齋・白石・竹洞書簡」　臺貼(三六一―イ二)　所収次の如し

正月七日　長澤純平宛　伊藤源佐維楨
八月十九日　宛名缺　白石(文中に「某事もはや五十四歳ニ及び」云々とあり)
五月廿七日　闕渊叟宛　竹洞

近世諸家書翰集　寫　十軸　一〇六三

各自筆　巻子本　草花模様黄綾表紙　四八糎　内題なし　臺貼(三六一―イ三)　所収次の如し

第一巻

宗恕宛　活所　那波
十一月七日　伊藤齋宛　伊藤宣　伊藤元藏
五月廿六日　松主馬宛　伊藤宜齋
九月十五日　香月牛山宛　荻生惣右衛門物茂卿
端月十七日　梅所宛　南海(祇園)

第二巻

九月十九日　小寺武兵衛宛　室新助
五月十六日(宛名闕)　五井藤九郎
臘月廿日　莊逸口宛　細合半齋
五月九日　淺野道有宛　皆川文藏
尾藤夫婦宛　賴春水
二月十日　蘆田金五郎宛　賴又次郎

正月廿八日　岡部養竹宛　伊藤源佐維楨
二月十四日　小武友梅宛　伊藤宗恕
十二月廿五日　小武友梅宛　北村伊兵衛篤所
七月廿日　須原屋新兵衛宛　太宰弥右衛門
七月廿日　日向三哲宛　服部小右衛門

卯月廿一日　文四郎宛　迂齋(稻葉)
二月朔日　子瑛宛　枸杞園(趙陶齋)
五月十五日　淺野道有宛　中井善太積善
十二月十一日　田邊與兵衛宛　尾藤了佐
十一月廿五日　安井衡門作宛　賴久太郎
香川春鄰宛　賴三木三郎

八月廿二日 伊藤忠治宛 堀禎助
□館□宛 亀田興

第三巻
八月九日 上野雄治郎・美濃部吉右衛門・名倉又次郎宛 松崎慊堂
三月十四日 足代權太夫宛 猪飼敬所彦博
三月十二日 駒宮宛 梧堂
十月廿六日 永井三左衛門宛 菊池左太夫
九月十八日 榮宛 垣（立原）
八月十九日 村田已三郎宛 山田安五郎

第四巻
五月三日 島村宛 方谷（山田）
十二月廿六日 島村宛 方谷（山田）
九月廿九日 依田六七郎武居拙藏宛・鹽谷甲藏
五月十八日 立軒宛 正直
五月十三日 蘆田寛宛 川田甕江
六日 井上剛介宛 吉野三藏

第五巻
二月二日 渡邊長藏宛 細井廣澤
四月十六日 齋元宛 深川親和
十七日 □宛 鶯邨（酒井）
夏月廿九日 東峰宛 文晁（谷）
七夕前一日 華陵宛 椿山（椿）
重陽 谷口宛 鴨□
山下〔貫名海屋〕
九月十六日 松平宛 修
三月卅日 斯波宛 孫七郎

第六巻
九月二日 （宛名）（闕） 大高源吾
十月初六日 岡部元忠宛 伊藤元藏長胤
江村傳左衛門宛 伊藤五藏
八月廿三日 小寺武兵衛宛 宝新助

十月七日 土屋七郎宛 古賀弥助
七月廿九日 （闕）齋宛 立原任

二月十四日 今井昌吉宛 猪飼敬所
正月九日 清鳳淡宛 邨（篠崎）
二月十二日 栩貞宛 誠之進
七日 雲鳳宛 隆古
本多修理宛 佐久間修理

井上甚助宛 藤森天山
十二月二日 雪爪宛 廣瀬旭荘
十月十一日 花老先生 謙（廣瀬）
六月三日 山田宛 福澤
六月二十五日 蓮田正實宛 安島帯刀

晩夏廿四日 綺屋新兵衛宛 謝寅（無村）
九月十二日 鯉隣宛 文一（谷）
十二月十日 蘆山宛 春琴
仲冬初五日 春翠宛 選
臘月七日 晴翠樓謙ミ園宛 茂林
六月九日 雪爪宛 細香（江馬）
（宛名未詳） 耕石
十月廿四日 松平宛 谷鎮臣

八月十六日 中江平八宛 伊藤源佐
十一月十一日 本多佐五左衛等門宛 伊藤才藏
九月十三日 今立彌三郎宛 伊藤宜齋元熙
十月六日 自游宛 士朗（井上）

七月廿二日 （宛名）（闕） 中井竹山
玄陳發句稿
三月朔日 奥野清順宛 三宅世一郎
十八日 懶堂宛 恪

第七巻
十二月五日 （宛名）（闕） 池田光政
春吾宛 九十九保外史（山内容堂）
十一月十六日 岳宛 宗城（伊達）
二月二十二日 春嶽宛 護久（細川）
二月十五日 松平正二位宛 章政

第八巻
正月廿八日 （宛名）（闕） 桃青（松尾）
八月廿六日 大島治部左衛門宛 梁田蛻翁
十四日 □宛 千蔭（加藤）
五月十日 尾池左膳宛 菅太中

南津宛 朝川鼎
七夕後三日 雲鳳宛 星巌（梁川）
四月廿一日 謙ミ舍宛 笛浦

第九巻
廿四日 雪江宛 左内（橋本）
六月尽 依田宛 衡
八月廿九日 谷佐兵衛門宛 武田彦九郎正生
三月十一日 歸峰宛 藏六
雪爪宛 □心
霜月三日 小笠原宛 木戸（孝允）
正月十三日 □宛 利秋（桐野）
三月十九日 川路宛 利通（大久保）

第十巻
六月廿三日午後六時 川路將宛 山縣有朋
十二月廿七日 （宛名）（闕） 毅（井上）
正月三日 小四郎宛 〔勝海舟〕

閏十一月十一日 （宛名）（闕） 寂照寺月仙
五月廿五日 藤井竝之助宛 三宅世一郎
廿六日 山寺老先生宛 恪

正月九日 越州宛 齊昭（徳川）
明治十四年八月十日 鵜客老宛 春嶽（松平）
明治十五年一月九日 慶永宛 確堂
二月廿七日 松平慶永宛 壬生基修
三月廿三日 本田男爵宛 茂韶（蜂須賀）

七日 坂外記宛 内藏介良雄（大石）
五月廿二日 雨森太郎兵衛宛 龍草廬
六月十日 福原左近□宛 大田直二郎
三月晦 永井喜太郎宛 太窪天民
馨助 棕隱（中島）
十七日 雪亭宛 春樵（梅辻）
重陽前一日 香西成宛 淺野梅堂

二月十八日 山川龍之介宛 齋藤監物
三月十一日 （宛名）（闕） 香坡（橋本）
三月四日 松平備後宛 横井平四郎
二月六日 寛之助宛 兵助
二月十二日 中根毅貞宛 長岡監物
閏五月十四日 村田已三郎宛 西郷吉兵衛
君山 津田正道

十二月十四日 酒井十之丞宛 後藤象二郎
五月九日 從先生宛 山岡鉄太郎
十月四日 宮地助三郎宛 榎本武揚

一月一日　本田宛　大山巌　　九月十三日　本田宛　正義（松方）
二月十二日　結麻月宛　祐亨（伊東）　　五月十四日　本田宛　川村純義
四月十二日　本田宛　靖（野村）
三十三年十二月十二日　本田親雄宛　海江田信義
本田親雄宛　稅所篤

熊澤蕃山書翰　寫　一軸　一〇六四

熊澤蕃山自筆　稻葉彦兵衞宛　巻子本　華文鶯色絹表紙　見返金砂子散　臺貼　二七・五糎二米三五糎　題簽後補「熊澤蕃山書翰」
宛書　八月朔日／息游軒（花押）／稻葉彦兵衞殿參
端書　（別紙後筆）息游軒／熊澤伯繼手翰
（奥に「八月廿八日（花押）／蕃山左内宛」と宛書せる中院内府通茂公賜蕃山繼只御書一通を附す　井上通泰著「南天荘墨寶」―參照　二八一―イ一九）

篠崎小竹・篠崎竹陰・新宮瓶城書翰　寫　一軸　一〇六五

各自筆　巻子本　改裝後補牡丹模様深緑緞子表紙　臺貼　二〇・五糎四米六〇糎
所収次の如し
十月九日・七月既望・十月廿八日・九月七日　守井攀宛　篠崎長左衞門（四通）
十二月廿一日・十二月十五日　守井攀宛　篠崎長平（二通）
五月十七日　忍頂寺彌太郎宛　篠崎長平
卯年首夏　忍頂寺仁三郎宛　新宮瓶城
（二八一―イ一五）

諸家傳近代次第　寫　三冊　一〇六六

綴葉裝　砥粉色表紙　用紙鳥の子　二四・五糎一九糎　外題左肩「諸家傳　雪（月・花）」
（榊原侯本　江戸時代初期寫　記事概ね寛永期前後までに及ぶ　二八一―イ一五）

太平京鑑　一冊　一〇六七

袋綴　砥粉色布目表紙　八糎一八糎　四周單邊七糎一六・五糎　三十丁　題簽左肩後補墨「天和三年（書名同）」　柱刻「家（丁數）」、「西莊文庫（小津桂窓筆「乃全一」と墨書せる紙簽に捺印）」
（目録の條に「延宝九酉ノ年迄」とあり　二八一―イ七）

傳簡集　寫　一冊　一〇六八

袋綴　改裝後補白厚表紙　原裝共表紙　用紙裏打　二九糎二一・五糎　十六行約二十七字　二十四丁　内題なし
（江戸時代初期寫　原表紙に本文に別筆にて「續新文寶」「書簡」「傳簡集」「新章集」「傳章集」等と記す　惺窩の「與道春書外」二十數項、林道春を中心として慮白・杏菴・周坦等の相互往來消息を集む　句讀訓點を施す　二八一―イ九）

日本儒林談　寫　三冊　一〇六九

原念齋著　自筆　袋綴　改裝後補黒表紙　原裝共表紙　用紙裏打　二五・五糎一七・五糎　十行約二十一字小雙行　題簽左肩單邊三村清三郎筆「（書名同）一（―三）」　原外題書名同　内題なし、「十文字文庫」等
識語　是先哲叢談即原念祖齋稿本也／獲之始二十有餘年前矣今裱背改／裝藏之架中　竹清主人（印）
（朱青墨を以て訂正増補附箋等多し　二八一―イ七）

○

无礙菴叢書　寫　一冊　一〇七〇

今泉雄作輯　袋綴　薄茶色表紙　二六・五糎一九糎　四十二丁　外題左肩書名同、「无礙菴」「清野文庫（紙票）」等
識語　右一冊山田有年所藏蓋し本文梅齋手書スル／所ナリ一日借閲ノ間蒼黄之ヲ謄縮了／明治十二年六月　小杉園主人
无礙菴叢書一巻文峯先生恩賜之書也／明治三十八季八月拾三日　鐸嶺記
（蒹葭堂藏小納言正五位下威奈卿墓誌銘并序・寛政三年正月十七日源弘賢寫明和庚寅秋八月木孔恭考「威奈大村墓誌銅器來由私記」・天保二年穂井田忠友録「文

氏墓誌考質」・藤原以文考「石川年足卿墓誌考証」・狩谷棭齋考「年足卿墓誌」等を収む　巻初に文會堂藏版日下部宿禰勝皋譔「藥師寺擦銘釋」十二丁を合綴　朱書入あり　二六一・〇二―イ一）

中國人叢傳

君臣圖像　二巻　二冊　一〇三一

成化二十三年歲舍丁未夏四月吉旦周進隆續刊聖賢圖序　正統三年夏六月張洪力題　嘉靖四年閏十二月李荐序　袋綴　毘沙門格子地蓮華唐草模様押文丹表紙　三四糎　二四・五糎　左右雙邊二六・五糎二〇糎　十行十八字　挿畫（上巻）四十頁分　（下巻）六十八頁分　題簽中央雙邊「（書名同）上（下）」　柱刻黒口「君臣圖像　上（下）（丁數）」、「河本氏藏書」　（古活字版　慶長期刊　上巻第二丁、下巻第十丁　神農の條一枚は整版を以て補刻　二六二・二―イ二）

新編排韻増廣事類氏族大全　十巻　五冊　一〇三二

唐袋綴　改裝後補茶色表紙　用紙裏打　二三糎一五・三糎　四周單邊一八・五糎一三糎　有界十七行二十八字小雙行　柱刻黒口「氏目（甲―癸）（丁數）」、「棐齋」「西莊文庫（小津桂窓筆「月四全五」と墨書せる紙箋に捺印）」「桂窗」　刊記（目録末木記）永樂己亥孟春／日新書堂新栞　（明版　表紙に室町時代中期筆見出文字を記し更にその上に別筆見出文字を記したる一葉を各冊に貼附す　朱點書入あり　二六二・二―イ七）

新編排韻増廣事類氏族大全　二巻　二冊　闕　一〇三三

袋綴　改裝後補（丙集）鶯茶（丁集）縹色表紙　二二・五糎一五糎　四周單邊一八・五糎一二糎　有界十六行二十八字小雙行　柱刻黒口「丙（又は三、丁又は四）（丁數）」、「財堂（壺形）」「濃州南泉藏書之記（墨印）」　（五山版　巻三・四を存す　二六二・二―イ九）

新編排韻増廣事類氏族大全　十巻　合四冊　一〇三四

袋綴　改裝後補紙粉色表紙　二六糎一五・五糎　四周單邊一八・五糎一二糎　有界十六行二十八字　題簽左肩雙邊（刊）墨「氏族排韻　上卒一（―去聲入聲四）」　柱刻黒口「族目、氏甲、甲（又は一　乙、又は二　丙、又は三　丁、又は四　五・六・七、又は庚七・又は庚、八辛又は八、癸又は九・十）（丁數）」、「乘附文庫」「修道館」等　（五山版　二六二・二―イ三）

附音増廣古註蒙求　寫　三巻　一冊　一〇三五

李翰（唐）著　天寶五年八月一日李良上表　李華序　袋綴　茶色表紙　二三糎一五糎　四周單邊一八・五糎一二・五糎　有界九行二十三字小雙行　五十四丁　外題左肩後筆「蒙求」　尾題「附音詳増古註蒙求巻下」　柱心「蒙求　上（―下）巻　（丁數）」、「兎礙菴」　識語　延徳二庚戌秋九月稔四日加校　大中臣能方謁早　集花　（室町時代中期寫　朱墨諸點を施す　二六二・二―イ五）

標題徐狀元補注蒙求巻上　寫　一冊　一〇三六

李翰（唐）著　徐子光（宋）注　卜部兼右筆　天寶五年八月一日李良上表　己酉仲冬之月辛卯吉日徐子光序　袋綴　栗皮色表紙　二八糎二二糎　四周單邊一七糎一六・五糎　十三行十五字小雙行　八十二丁　外題左肩「蒙求上」　尾題「新刊徐狀元補注蒙求巻上」、「隱顯藏」　奥書　右兵衛督卜部（花押）（兼右）　識語　右一冊者唯神院御真筆也／輒莫出間外矣　兼雄（印）　（原に「史記前後漢書已下以本書挍正之同又加首書訖／侍從三位清原宣賢―」「依三福寺長老格翁發起每日講之此巻自十月二日始至同十八日／終此内四ケ日闕／皆大永四年　侍從三位清原宣―」「享祿二年於能州畠山左衛佐義綱亭講之（始六月廿七日終七月十八日／三ケ度）」と奥書あるものの寫　欄外に本文同筆注文書入多し　朱墨諸點を施す　二六二・二―イ六）

皇室—日本

禁中行事記聞　寫　十冊　一〇七七

高階經徳・三善茂淳・青木行方共編　青木行方筆　袋假綴　共表紙　二八糎二〇糎　四周雙邊二〇・五糎一四・五糎　有界十行柱刻「宮内省」朱罫紙　外題(第一冊)「(書名同)上巻」(第二冊)「表恒例年中行事」(第三冊)「知行所附」(第四冊)「(書名同)上巻附録公事下行附」(第五冊)「(書名同)　下巻」(第六冊)「奥恒例年中行事」(第七冊)「行事下行附」(第八冊)「口向之部」(第九冊)「御用度之部」(第十冊)「(書名同)別録」

(例言に明治二十四年九月とあり　表紙右肩朱書「原稿十冊ノ内壱五拾壱枚㊞(青木)」等の記事各冊にあり　第一冊見返に「前略拜啓陳者兼而／御内話被下候禁中／行事取調書下案／右貴臺へ下賜不苦／候ニ付即御廻し申上候／御査収被下度候敬具／一月十二日櫻井能□／青木行方殿」の書状を貼附　片假名交り　二八八・一—イ三五)

上宮聖徳法王帝説　寫　一軸　一〇七八

巻子本　茶色表紙　四五・五糎三米四〇糎　題簽「(書名同)原本影寫」、「杉園藏」「村岡典嗣藏書」

識語　(小杉榲邨筆)(朱書)　榲邨云コノ帝説古寫本原書ハ法隆寺勸学院文庫中ノモノ／ナリシヲ後代世間ニ出テタヾヨヒシ時松翁徹定師所有ニ歸シテ／秘藏ノ帖本ナルヲ新居政毅師ニ懇請シカクミヅカラ影寫シテ／秘藏セシガ故アリテ今ハ余ガ書架ニ置クモノトナリヌ又蓋シ其原／書ハ知恩院ニ今猶存ス又コノ帝説證注(狩谷望之)ハ別ニ藏ム

(二八八・一—イ三二)

聖徳太子傳　寫　十二巻　三冊　闕　一〇七九

慶尊筆　綴葉裝　共表紙　二六糎一六・七糎　八行　外題中央(第一冊)「太子傳(ママ)目祿序第二」(第二・三冊)「太子傳第三第四第五・第六第七・第八第九第十第十二」　内題なし

奥書　(第一)于時明應三年甲刁後春十四日於播州鶴林寺令書写訖／雖爲惡筆至極仰當來救世觀音引攝計也

(巻七)于時明應第三甲刁後春十日書写了

(第三冊)于時明應第三甲寅後春十八日令書写訖／雖爲惡筆至極當來仰救世觀音引攝斗也右筆慶尊

識語　(第一・三冊末)播州鶴林寺常住也／中藏坊長秀之

(第一冊に合綴したる巻二表紙中央に同筆にて「太子傳第二」、第二冊に合綴したる各巻内表紙中央に「太子傳第三(—第七)」その下に所収内容目録を記す　第三冊内表紙中央に「太子傳第八」その下に所収内容目録を記す　各冊表紙右下本文同筆にて「鶴林寺」とあり　第三冊錯簡及び闕丁あり　二八八・一—イ三三)

聖徳太子傳　寫　二巻　二冊　一〇八〇

平氏撰　蝴蝶裝　薄茶色表紙　用紙鳥の子　二四糎一五・五糎　四周單邊二一・五糎一四糎　押界六行約十五字小雙行　外題左肩「(書名同)上(下)」内題(巻上)「(書名同)一巻分成上下」(巻下)「聖徳太子傳暦巻下」、「聆濤閣鑑藏記(陰刻)」

奥書　(上冊)(朱書)　一挍了

識語　(下冊)右太子傳古寫本者東寺観智院／之舊藏院主海寶僧正以附屬余／特可珎重但下巻第三十五紙以下／至終断簡紛失想是奥記筆録者／及年月亦不可知深爲遺憾仍令侍／者三河了教以坊間刻本寫補／之／天保四年癸巳夏安居／雲華院大舎(印)

箱書　此本観智院之舊藏以／附屬雲華院上人／天保三年壬辰冬／現住毎(花押)

(鎌倉時代末期寫　下冊第三十五丁以下墨附二十四枚前引識語本によつて補寫諸墨點を施す　二八八・一—イ三二)

聖徳太子傳記　寫　五冊　一〇八一

綴葉裝　雲紙表紙　用紙鳥の子　二三糎一八糎　十行　題簽紅紙中央「(書名同)第一(—五)」

(室町時代末期寫　巻初序文の次「第一太子先生御事」の前に「遍照金剛遺弟覺斤」とあり　見返に江戸時代末期筆「皇太子御一代記／青蓮院尊應准后御筆」と記せる紙片を貼附　二八八・一—イ三五)

聖徳太子傳略抄　寫　十八巻　十八冊　一〇八三

袋綴　共包表紙　二五糎一七・五糎　六行　外題左肩「太子傳　一巻(―十八巻)」内題(第一冊)「聖徳太子傳暦一巻上分成上下」

(江戸時代初期寫　第一冊内題下に「平氏選」とあり　平氏撰聖徳太子傳略の釋義　片假名交り　二六八・一―イ三七)

太子傳　寫　一冊　一〇八三

綴葉裝　共表紙　二六糎一七糎　八行　七十三丁(表紙共)　外題中央「(書名同)一巻」内題なし

奥書　于時明應六年丁巳六月九日令書写訖

(表紙右下に本文同筆にて「鶴林寺」とあり　文中同筆にてイ本校合あり　多く訓點を施す　二六八・一―イ三七)

帝諡考校刷本　一冊　一〇八四

森林太郎著　大正八年己未十月十三日自奥　後補白厚紙表紙　二七糎一九糎　十三行三十一字　二三四頁　外題左肩墨「(帝諡考)全」、「青窓書屋」等

(「紙型取」の紫印を押す　巻初「直し二ケ所アリ10 21／已ニ印刷セシナラバ正誤表ニ入ル」との朱書あり　奥に「大正辛酉圖書寮／付工印止一百本／是爲第　本」二六八・一―イ三三)

靈元天皇御記　寫　一冊　一〇八五

靈元天皇宸筆　袋假綴　水色表紙(裏表紙闕)　用紙斐紙　二八・五糎二〇・五糎　十行　十三丁　外題中央「享保八年日記」

(水谷川家本　享保八年癸卯正月一日至同年二月十二日の記事を含む　二六八・一―イ二九)

○

春日行幸記　寫　一軸　一〇八六

中臣祐春著　自筆　巻子本　改裝後補白表紙　用紙裏打　二九・五糎六米一五糎一紙四五・五糎　外題別筆「行幸記弘安九年／墨付十四丁」、「祐倉」「祐頼」

奥書　弘安九年三月廿七日　行幸記大概注／記之差圖在別紙／若宮神主正五位下中臣祐春(花押)

箱書　(表)春日社司祐春行幸記　崇蘭館

(裏)弘安九年三月／後宇多帝春日行幸之記也略下

(各繼目に墨印あり　二六八・一三―イ一)

諒闇部類　寫　一軸　一〇八七

三條西實隆著　自筆　巻子本　改裝後補鶯茶色綾表紙　見返銀切箔散　二五糎六米八五糎　一紙四〇糎　初行「諒闇終條之事」

(紙背菅原和長等消息　もと袋綴を巻子本に改裝す　貞治四年光嚴院以下文明三年後花園院に至る關係記事の抄録　次に「諒闇終吉御裝束次第」と端書して關係諸記を抄録　二六八・一三―イ三)

○

御在洛中日記　寫　二冊　一〇八八

袋假綴　共表紙　三一・五糎二四糎　約十行　第一冊表紙左肩に「天保六乙未年十二月」中央に「御在洛中日記」右下に「家司詰所」第二冊同「天保十二丑年正月／伏見一品宮薨去ニ付／御在洛日記／御里坊／御用部屋」、「水谷川家藏書印」

(興福寺一乘院文書　第一冊　天保六年十二月廿九日至七年三月十五日、第二冊天保十二年正月至閏正月　二六八・一五―イ五)

〔御在洛中日記〕　寫　二冊　一〇八九

尊常法親王筆　自筆　袋假綴　共表紙　三〇・五糎二二糎　第一冊表紙中央に「天保五甲午年正月元日」左下に「一乘院主(花押)」第二冊同「天保六乙未年正月元旦」

左下に「一乗院主（花押）親王」、「水谷川家藏書印」
（二六八・一五―イ七）

〔眞敬法親王日記〕 寫 一冊 一〇九〇

眞敬法親王著　自筆　袋假綴　共表紙　二九・五糎二一糎　十二行　五十一丁（表紙共）　表紙右に「貞享元甲子年」中央に「天和三癸亥年寺務職争論之日記」左下に「一乗院主二品（花押）親王」、「水谷川家藏書印」
（天和三癸亥九月十日至十二月晦・天和四甲子年正月十日至七月三日の記事を含む　二六八・一五―ニ三）

〔尊映法親王日記〕 寫 十四冊 一〇九一

尊映法親王著　自筆　袋假綴　共表紙　三〇・五糎一八糎　第一冊表紙「宝暦十庚辰年／正月吉日　行年十五歳　表向十三歳／御用御日記／良宮」、「水谷川家藏書印」
（寶暦十年以下安永八至十、天明三・六至八、寛政二至五年外一冊　二六八・一五―イ九）

〔尊應法親王日記〕 寫 二冊 一〇九二

尊應法親王著　自筆　袋假綴　共表紙　二八糎二〇糎　第一冊表紙右に「天保十三壬寅年四月朔日」中央に「日記」左下に「長宮尊應」第二冊同「天保十四／霜月朔日」右下に「尊應」、「水谷川家藏書印」
（二六八・一五―イ一）

各傳

新井白石書翰 寫 一軸 一〇九三

新井君美自筆　掛軸　五五糎一米　三二糎　原寸一五・五糎四二糎　四枚の原翰を四分して四段に臺貼　題簽後筆「新井白石先生之書翰　櫻田所藏」
日附　十一月廿四日

（宛名署名共に闕　村岡典嗣著「増訂日本思想史研究」所收「新井白石の一書簡とその解説」―参照　二六九―イ二）

〔安藤爲實爲章一家書翰帖〕 寫 三帖 一〇九四

折本　黄表紙　二三糎二五糎　題簽中央後筆書名同
（正徳三年閏五月以下爲實日記、爲實・爲章等安藤一家宛來翰或は詩歌文稿贈答歌文等を順序なく貼附す　二六一―イ三五）

內山隆佐日記・同意見書・同文書 寫 六冊 一〇九五

內山隆佐著　岡不崩筆　袋綴　澁引布目表紙　二四糎一六・五糎　外題左肩「內山隆佐日記　乾（坤）」「內山隆佐意見書」「內山文書　一（二）」「外交文書安政三辰年」、「遠加文庫」「不崩」「清野文庫（紙票）」
奥書　（日記坤）大正十三年四月卅日書寫畢／小石川久堅町閑居於樂只園　外孫不崩岡吉壽（印）
（外交文書）右一綴ハ祖父內山隆佐翁之手記也／原本無題／昭和三年戊辰八月三日寫畢／不崩生
（明治四十三年石川三吾編刊「內山隆佐翁略傳附詩文抄」一冊を附す　二六九―イ三三）

懷往事談 寫 一軸 一〇九六

福池源一郎著　自筆　巻子本　菊花織文表紙　三〇糎二米九四糎　原寸二一・五糎二一糎　二十行二十字詰和紙朱罫柱刻「櫻痴居士草稿用紙」とある原稿用紙五丁を臺貼
（内題の下に「（第十九回）櫻痴居士」とあり　明治二十七年民友社發行同書名單行本―参照　二六九―イ三）

晦休錄 寫 四冊 一〇九七

山梨稻川著　自筆　袋假綴　共表紙　二・六五糎一八糎　十四行　題簽左肩紅紙書名同（第二・四冊は同名外題）　内題なし、「笹野氏圖書記」「中村藏書」

（第一冊　癸亥八月十五日至五月二十九日、第二冊　戊辰正月元日至同十二月三日・辛未三月一日至廿三日、第三冊「昏定録」と外題せる上に紅紙題簽を貼りて「晦休録丁卯」と書して　丁卯六月朔日至同十二月晦、第四冊　外題「晦休録己巳越」と書して己巳正月十七日至同十二月二十七日及び庚午正月元日以下斷續せる記事を收む　二六九―イ八三）

賀茂眞淵消息　寫　一軸　一〇九八

賀茂眞淵自筆　本居宣長宛　巻子本　改裝鶯茶色綾織表紙　見返金砂子散　臺貼二二・五糎二米　原寸一四・五糎一米二三糎

宛書　十七日／眞淵／宣長兄

（明和五年六月十七日附　本居宣長稿本全集第二輯―參照　二六九―イ一〇五）（重美）

黑田清綱日記　寫　六冊　一〇九九

黒田清綱著　自筆　横帳綴　共表紙　一三・五糎二〇・五糎（第五冊のみ一二糎三三・五糎）第一冊表紙「萬延二年辛酉正月より／日記／源清綱」第二冊同「文久二年壬戌正月ヨリ／日記／源清綱」第三冊同「子九月朔日より／丑四月迄／日記／清綱」第四冊同「亥九月より／上京日記／黒田清綱」第五冊同「日史／源朝臣黒田清綱」第六冊同「聞見私摘／黒田了□」

（第五冊は慶應元年五月廿六日至同年末の記事を含む　二六九―イ七五）

小堀遠州書翰集　寫　二軸　一一〇〇

小堀政一著　朽木民部植綱宛　巻子本　波貝模様薄緑表紙　見返金砂子散　用紙奉書紙　一六糎　一紙四六糎

（江戸時代初期影寫　二六九―イ一〇九）

所收次の如し

第一巻　正月五日　十月十五日　二月五日　九月十七日　正月十日　七月三日　八月廿九日　九月廿六日　十一月六日、以上九通

第二巻　正月三日　九月二日　六月十二日　臘月十五日　六月廿二日　極月廿五日　十二月七日　正月十五日　正月卅日　正月九日、以上十通

在京中記事　寫　五冊　一一〇一

長乘著　自筆　袋假綴　共表紙　二五糎一七糎　十・十一行　外題中央（第一冊）「（書名同）／嘉永壬子歳次／十二月宰相法印長乘」（第三冊）「勧學院御席一件／在京中假記／嘉永七寅年九月法印長乘」（第四冊）「嘉永五年九月己來／大乘院殿ゟ　若宮御神事ニ付東西／御假屋を始御席改御内談有之／次第」（第五冊）「嘉永五年十一月／御座席一条ニ付／在京中仮記／内侍原法印」内題なし

（興福寺大乘院文書　二六九―イ九二）

志道軒像　一軸　一一〇二

深井志道軒賛　掛軸　原寸九四・五糎九・五糎

（木版「志道軒講釋圖」ありて「八十五志道軒（印）」と自署　上部に自筆「若水や今年のふくの這入口」の發句を賛す　二六九―イ七二）

消息　山科顯言卿以下　寫　一軸　一一〇三

各自筆　巻子本　改裝後補白表紙　用紙裏打　二八・五糎一四米　題簽左肩後補「（書名同）目録在中」

（巻初別紙繼に「消息目録」あり　二六一―イ二二）所收次の如し

七月三日　中山卿宛　山科顯言

（押紙）（朱書）山科顯言卿　元成任　權中納言正三位　寛正三五八薨卅五

應永十三年十二月十三日　宛名闕　賀茂在弘

（押紙）（朱書）賀茂在弘卿　公卿補任　應永十三正六從三位／同十九二九刑部卿／同廿一閏七八止卿／同卅六四廿八正三位／同年五朔薨

應永十九年九月三日　宰相入道宛　高倉常永

（押紙）（朱書）高倉永行卿　法名常永／參議正三位　應永六六十八出家

應永十九年七月六日　水本僧正宛　性光

（押紙）（朱書）日野東洞院資教卿　儀同三司　權大納言從一位／出家法名性光／應永卅五年五一薨七十三

永享二年後十一月十五日・三月十三日　宛名闕　高倉常永

端書　元三御服事　藤相公様返事

（押紙）（朱書）高倉永行卿　參議正三位　應永六六十八出家／法名筩永
後五月一日　後五月十日　宛名　關　高倉永藤
（押紙）（朱書）高倉永藤卿　參議正三位　正長元年三月出家四十四
後五月十日　兵部卿宛　高倉永藤・同紙返書　高倉宛　山科教興
（押紙）（朱書）高倉永藤卿返書／山科教興卿文／元教清權中納言從二位　應永廿五七十九薨
應永三十八年八月二十九日　山科宛　勸修寺經成
端書　兩社行幸御服用脚事　應永卅八八廿九
（押紙）（朱書）勸修寺經成卿　元經興　權中納言從二位　永享九三廿四薨四十二
應永二十九年十二月九日　宛名　關　烏丸豊光
端書　執權狀他詞元三御服事　應永廿九十二九
（押紙）（朱書）烏丸豊光卿　權中納言正三位／贈内大臣從一位　正長二二十八薨五十二
正長元年十二月二日　山科宛　甘露寺房長
端書　頭左大弁狀　正長元　十二二御総角事
（押紙）（朱書）甘露寺房長朝臣　右大弁從四位上　永享四六廿三卒
正長二年八月十一日　山科宛　万里小路時房
端書　万狀　御服御半臂事　正長二八十一
（押紙）（朱書）万里小路時房公　内大臣從一位　長祿元十一廿薨六十四
寛正六年十二月十二日　大澤左衞門尉宛　万里小路
端書　万里小路殿之御狀　寛正六　十二十二
（押紙）（朱書）未詳
九月七日　宛名　關　中山定親
端書　尹大納言　造宮行事弁等事
（押紙）（朱書）中山定親卿　權大納言正二位　長祿三九十七／薨五十九
十二月三日　宮内少輔宛　勸修寺政顯
（押紙）（朱書）勸修寺政顯　權中納言從二位　大永二七廿八於加州薨／六十九贈准大臣
九月十一日　勸修寺宛　中院通秀
端書　前内大臣
（押紙）（朱書）中院通秀公　元通時　内大臣從一位／明應三六廿二薨六十七
八月二日　勸修寺教秀宛　中院通秀・同紙返書教秀（首闕）
（押紙）（朱書）中院通秀公消息／勸修寺教秀公　准大臣從一位　明應五七十一薨七十一　返書
□月九日　勸修寺宛　中院通秀
（押紙）（朱書）中院通秀公
二月三日　宛名　關　中院通勝
端書　一　月水之事
（押紙）（朱書）中院通勝卿
十月廿五日　下白川宛　中院通勝
（押紙）（朱書）中院通勝卿　權中納言正三位　法名素然又也足／慶長十五三廿五薨五十三
十二月十八日　山科宛　□□
（押紙）（朱書）未詳
五月廿五日　宛名　關　師世
端書　師世朝臣
（押紙）（朱書）大外記師世朝臣

辛丑日錄　寫　一冊　二〇四

平澤元愷（旭山）著　自筆　袋綴　改裝後補水色表紙　原裝共表紙　二三・五糎一七糎　約十三行　四十二丁　題簽左肩雙邊（刊）「天明元（此三字朱書）平澤旭山　辛丑日録」　原外題中央書名同、「中川氏藏」「洒竹文庫」「若樹文庫」
奥書　此冊置所しれす／候ゆへ別に記す
（天明元年一月至十月の記事を含む　二八九―イ七九）

須美麗草　寫　一冊　二〇五

伴林光平著　自筆　袋綴　改裝後補縹色布目表紙　原裝共表紙　用紙裏打　三五糎一七糎　三十四丁　題簽左肩「（書名同）　伴林光平大人　稿本」　原外題中央「弘化五戊申正　須美麗草」、「松云堂」「鹿田文庫」
（弘化戊申正月朔日以降諸書の抄録或は日記記事を斷續す　原表紙右下に「橿本藏書」とあり　二八九―イ九五）

尺牘偉觀　寫　一冊　二〇六

各自筆　大和綴　改裝後補揉紙表紙　臺貼　三六・五糎五二糎　三十丁　題簽左肩後補書名同

（二六一―イ二三）所收次の如し

霜月廿六日 宛名闕 林道春
十月廿日 占文宛 林春齋
壽閑宛 石川丈山
七月十二日 前田見了宛 伊藤源佐
正月十九日 宛名闕 新井君美
正月廿六日 渡邊友節宛 太宰弥五右衛門
六月十二日 七之介宛 貝原篤信
九月四日 府内源左衛門宛 竹田春庵
三月十二日 桑本正固宛 佐藤直方（和田英松自記解説を附す）
七日 □七宛 淺見絅齋
二月廿二日 竹村九兵衛宛 並河五一郎（嘉永己酉仲夏并河尚教別紙識語を附す）
臘月十三日 藤井宗右衛門宛 若林新七
丙戌五月十九日 谷丹三郎宛 澁川春海
彌生廿三日 牛八宛 谷垣守
七月十五日 垣守宛 伴部安崇
北小路俊光詠草
六月八日 北石見宛 村上友之丞
五月廿一日 真繼右京宛 林永喜
孟夏廿六日 宰相宛 林信篤
六月廿九日 中江右宛 熊澤蕃山
十一月廿日 渡部長藏宛 細井二郎太夫
五月廿五日 宛名不詳 物茂卿
廿八日 淡典春宛 湯淺新兵衛
二月十五日 竹田春庵宛 貝原東軒代益軒
閏月十七日 上田正元宛 松岡玄達
十二月十二日 二兵衛宛 谷秦山
八月廿五日 箕浦右源次宛 谷真潮
二月四日 谷甚右衛門宛 玉木葦齋
朔日 北石州宛 磯山玄文

瀧本房書翰 寫 一軸 二〇七

瀧本房自筆 壽閑宛 掛軸 九二糎 原寸一七糎八九糎 題簽後筆「瀧本房書狀」宛書 十一月六日／瀧本房（花押）／壽閑樣貴下
（二六九―イ二七）

橘千蔭書翰集 寫 二軸 二〇八

橘千蔭自筆 浦野宛 巻子本 桐花織文茶色表紙 見返金切箔散 臺貼 一九糎 二六糎 題簽金切箔散後筆「千蔭大人之文」
（巻一に二十二通、巻二に二十六通を收む 二六九―イ一〇一）

馬琴等書翰集 寫 九十四軸 二〇九

瀧澤馬琴自筆（又はお路代筆） 巻子本
（二六九―イ九九）所收次の如し

第一巻 〔天保四年〕三月十一日 桂窓宛
〔天保三年〕四月二十六日 桂窓宛
第二巻 〔天保四年〕一月二十一日 桂窓宛
〔天保三年〕五月二十一日 桂窓宛
〔天保三年〕八月十一日 桂窓宛
第三巻 〔天保三年〕七月一日 桂窓宛
〔弘化三年十月六日〕（お路代筆）桂窓宛
第四巻 〔天保三年〕九月十六日 桂窓宛
第五巻 〔天保三年〕十一月二十六日 桂窓宛
第六巻 〔天保三年〕十二月八日 桂窓宛
第七巻 〔天保四年〕一月十四日 桂窓宛
第八巻 〔天保四年〕三月九日 桂窓宛
第九巻 〔天保四年〕五月十六日 桂窓宛
第十巻 天保四年七月十七日 〔桂窓〕宛
〔天保三年〕七月二十一日 桂窓宛
〔天保五年〕十一月六日追啓 桂窓宛
第十一巻 〔天保四年〕七月十四日 桂窓宛
第十二巻 〔天保四年〕十月十八日 桂窓宛
第十三巻 〔天保五年〕一月六日 桂窓宛
〔天保八年〕二月二十六日 桂窓宛
桂窓筆「近世物之本江戸作者部類」正誤稿
第十四巻 〔天保五年〕二月八日 桂窓宛
第十五巻 〔天保五年〕八月十六日 桂窓宛
第十六巻 〔天保六年〕一月十一日 桂窓宛
〔天保六年〕二月二十一日 桂窓宛
第十七巻 〔天保六年〕三月十九日 桂窓宛

第十八巻
〔天保五年〕三月十一日 宛桂窓
〔天保六年〕三月二十一日 宛桂窓
第十九巻
〔天保六年〕六月六日 宛桂窓
〔天保六年〕七月一日 宛桂窓
第二十巻
〔天保六年〕七月一日別翰御答 宛桂窓
〔天保六年〕七月風聞書 宛〔桂窓〕
第二十一巻
〔天保六年〕九月十六日 宛桂窓
第二十二巻
〔天保六年〕十月十一日 宛桂窓
第二十三巻
〔天保七年〕五月六日 宛桂窓
〔天保七年〕八月四日 宛桂窓
第二十四巻
〔天保七年〕十月四日 宛桂窓
〔天保七年〕十一月三日 宛桂窓
第二十五巻
〔天保七年〕六月六日 宛桂窓
〔天保七年〕十二月四日 宛桂窓
第二十六巻
〔天保八年〕一月二十六日 宛桂窓
〔天保八年〕二月十一日 宛桂窓
〔天保八年〕八月十一日 宛桂窓
第二十七巻
〔天保八年〕二月一日 宛桂窓
〔天保八年〕二月二日 宛桂窓
〔天保八年〕三月二十八日 宛桂窓
第二十八巻
〔天保九年〕二月六日 宛桂窓
〔天保九年〕二月二十一日 宛桂窓
第二十九巻
〔天保九年〕七月一日 宛桂窓
第三十巻
〔天保九年〕九月一日 宛桂窓
第三十一巻
〔天保九年〕一月二十九日（お路代筆） 宛桂窓
〔天保九年〕十二月二十六日 宛桂窓
第三十二巻
〔天保十年〕八月二十一日（お路代筆） 宛桂窓
〔天保九年〕十二月一日 宛桂窓
第三十三巻
〔天保十年〕一月三日 宛桂窓
〔天保十年〕一月二十一日 宛桂窓
第三十四巻
〔天保十年〕六月九日 宛桂窓
〔天保十年〕三月十二日 宛桂窓
第三十五巻
〔天保十一年〕六月六日（お路代筆） 宛桂窓
第三十六巻
〔天保十年〕八月八日 宛桂窓
第三十七巻
〔天保十一年〕八月十六日 宛桂窓
〔天保十一年〕十二月一日 宛桂窓
〔天保十一年〕 宛〔桂窓〕
第三十八巻
〔天保十一年〕九月二十四日 宛桂窓
第三十九巻
〔天保十二年〕一月八日 宛桂窓
第四十巻
〔天保十二年〕一月二十八日（お路代筆） 宛桂窓
第四十一巻
〔天保十二年〕三月三日（お路代筆） 宛桂窓
第四十二巻
〔天保十二年〕四月九日（お路代筆） 宛桂窓
〔天保十二年〕十月一日（お路代筆） 宛桂窓
第四十三巻
〔天保十二年〕十月二十一日（お路代筆） 宛桂窓
第四十四巻
〔弘化元年〕六月六日（お路代筆） 宛桂窓
〔天保十二年〕八月二十一日（お路代筆） 宛桂窓
〔天保十二年〕十二月十四日（お路代筆） 宛桂窓
第四十五巻
〔天保十二年〕 宛〔桂窓〕
〔弘化元年〕一月十五日（お路代筆） 宛桂窓
〔弘化元年〕三月二十六日（お路代筆） 桂窓
第四十六巻
〔天保十四年〕六月一日（お路代筆） 宛桂窓
〔天保十四年〕九月二日（お路代筆） 宛桂窓
第四十七巻
〔天保十四年〕十一月十三日（お路代筆） 宛桂窓
〔弘化二年〕一月六日（お路代筆） 宛桂窓
第四十八巻
〔弘化二年〕九月十三日（お路代筆） 宛桂窓
第四十九巻
五月二日 宛桂窓
八月 宛桂窓 書目覺
十月十二日 宛桂窓
第五十巻
正月八日 宛桂窓
覺 宛〔桂窓〕
三月二十六日（お路代筆） 宛桂窓

四月三日 宛〔桂窓〕
〔弘化三年〕（お路代筆） 忠三郎宛
六月二十一日別啓 宛桂窓
十月四日 宛〔桂窓〕
十月十一日覺 宛〔桂窓〕
斷翰 宛〔篠齋〕

第五十一卷
八月一日（お路代筆） 宛桂窓

第五十二卷
一月十七日 宛桂窓
六月六日 宛桂窓
七月十四日 篠齋 桂窓宛
十月十三日 宛桂窓
十二月十一日 宛桂窓

第五十三卷
十月七日 宛桂窓

第五十四卷
文政五年閏一月一日 篠齋 窓

第五十五卷
文政六年八月八日 宛篠齋

第五十六卷
文政七年一月九日 宛篠齋

第五十七卷
文政十年三月二日 宛篠齋

第五十八卷
文政十一年三月二十日 宛篠齋

第五十九卷
天保二年八月二十六日 宛篠齋

第六十卷
天保三年十月十八日 宛篠齋
天保四年一月十五日 宛篠齋

第六十一卷
天保三年七月一日 宛篠齋

第六十二卷
天保四年一月二十一日 宛篠齋
天保四年五月一日 宛篠齋

第六十三卷
天保四年三月八日 宛篠齋

第六十四卷
天保四年七月十三日 宛篠齋

第六十五卷
天保七年六月二十二日 宛篠齋

第六十六卷
天保七年八月六日 宛篠齋

第六十七卷
天保八年八月十一日 宛篠齋

第六十八卷
天保八年十二月一日 宛篠齋
天保八年十二月二十六日 宛篠齋

第六十九卷
天保八年一月六日 宛篠齋

第七十卷
天保十年一月三日 宛篠齋

第七十一卷
天保十年一月二十二日 宛篠齋
天保十年三月十二日 宛篠齋

第七十二卷
天保十年十二月一日 宛篠齋
天保十年六月九日 宛篠齋

第七十三卷
天保十年八月八日 宛篠齋

第七十四卷
天保十年九月二十六日 宛篠齋

第七十五卷
一月六日（お路代筆） 宛篠齋

第七十六卷
弘化四年一月二十九日（お路代筆） 宛篠齋
天保十二年四月十九日（お路代筆） 宛篠齋

第七十七卷
天保十三年六月（お路代筆） 宛篠齋
天保十二年十月一日（お路代筆） 宛篠齋
天保十三年二月十一日（お路代筆） 宛篠齋
天保十三年八月六日（お路代筆） 宛篠齋
天保十三年九月二十七日（お路代筆） 宛篠齋

第七十八卷
年賀集一 宛桂窓

第七十九卷
年賀集二 宛桂窓

第八十卷
年賀集三 宛桂窓

第八十一卷
〔天保十二年〕斷翰

第八十二卷
〔天保十三年〕風聞書（お路代筆） 宛〔桂窓〕

第八十三卷
五月十日風聞秘書（お路代筆） 宛〔桂窓〕

第八十四卷
桂窓 篠齋宛 馬琴書翰封筒集 〔宛桂窓〕

第八十五卷
一月二十日 宛桂窓 黙老書翰
申五月二十一日 宛桂窓 黙老書翰
八月十七日 宛桂窓 黙老書翰

第八十六卷
嘉永三年五月二十九日 宛桂窓 黙老書翰
弘化四年六月二日 宛桂窓 黙老書翰
天保三年十二月七日 宛桂窓
〔天保四年〕五月一日 宛桂窓

第八十七卷
八月十一日覺 篠齋 宛

第八十八卷

第八十九巻　天保四年五月十六日　桂窓宛

第九十巻　天保四年十一月六日　桂窓宛

第九十一巻　〔天保五年〕三月廿八日　桂窓宛

第九十二巻　天保六年閏七月十二日　桂窓宛

第九十三巻　〔天保六年〕七月二十一日　桂窓宛

第九十四巻　天保七年六月二十一日　桂窓宛

細川忠興書翰　寫　一通　二一〇

細川忠興自筆　牧善太夫宛　折紙　三一・五糎四六糎

宛書　九月九日　宗立（ローマ字藍印）／牧善太郎殿

（二六九―イ八九）

細川忠興書翰　寫　一軸　二一一

細川忠興自筆　牧善太夫宛　掛軸　六八・五糎　原寸三四糎五三糎　用紙奉書紙二折　題簽後筆「細川三齋書狀」

宛書　四月廿日／三齋宗立（ローマ字藍印）／牧左馬亮殿

（二六九―イ二五）

三浦安定書翰　寫　一軸　二一二

三浦安定自筆　年野周平宛　掛軸　六二糎　原寸一五糎五五・五糎　題簽後筆「三浦安定書狀」

宛書　十一月十五日／三浦安定／年野周平様

（二六九―イ二九）

無佛齋手簡集　寫　二帖　二一三

藤原貞幹自筆　立原甚五郎宛　折本　薄卵色表紙　臺貼　一九・五糎二五糎

（寛政元年十月廿一日以下五十通「日本藝林叢書」第九巻―参照　二六九―イ六九）

所収次の如し

第一帖

十月廿一日（朱書、寛政元年己酉）・十一月三日・十一月廿一日　立原甚五郎宛　藤叔藏貞幹

十二月十日　立原甚五郎宛　貞幹

庚戌正月二日　小池源太郎宛　同

正月十六日　立原甚五郎宛　藤叔藏

三月十三日・四月廿九日・六月九日夜（立原甚五郎宛）　藤叔藏貞幹

六月廿日　立原先生宛　貞幹

七月廿日朝・八月廿二日・八月廿一日・一月廿日　立原甚五郎宛　藤叔藏貞幹

十月廿日夜同　貞幹

十二月八日同　淺尾文太夫　嶋村源太郎

二月六日・二月十日同　藤叔藏貞幹

三月廿日同　藤叔藏貞幹

第二帖

後二月廿九日（朱書、寛政四年壬子）　立原甚五郎宛　藤叔藏貞幹

三月十日同　貞幹

三月十九日夜・四月九日・四月廿日同　藤叔藏貞幹

四月十八日（朱書、六月達）　同　藤叔藏

五月十八日同　藤叔藏

六月朔日　立原甚五郎宛　藤叔藏貞幹

七月八日同　藤叔藏貞幹

八月十九日同　藤叔藏貞幹

八月廿五日同　善多川頼母

九月八日同　藤叔藏

十一月十八日同　貞幹

十一月八日・十二月十三日夜同　藤叔藏貞幹

正月二日（朱書、寛政五年癸丑）　同　同

十二月十日　立原甚五郎宛　貞幹

十二月廿七日　小池宛　藤叔藏

正月二日（朱書、寛政二年庚戌）　立原先生宛　貞幹

二月廿五日同　貞幹

五月十日同　貞幹

五月廿日　甚五郎宛　貞幹

六月九日・六月廿八日同　貞幹

七月十日同　藤叔藏

八月廿日同　貞幹

八月廿八日同　藤叔藏貞幹

九月十六日同　藤叔藏貞幹

本居宣長書翰　寫　一軸　二一四

本居宣長自筆　荒木田久老宛　掛軸　七四・五糎　原寸一四・五糎六二・五糎　題簽後筆「本居宣長書狀　久老あて」

宛書　十月廿四日／本居宣長／宇治五十槻様

（二六九―イ二三）

吉田篁墩書翰集　寫　一帖　二一五

吉田篁墩自筆　立原甚五郎宛　折本　表紙闕　一九糎二二糎　三十二折
（二八九—イ六七）　所収次の如し

三月盡（甚五郎宛）坦藏　四月朔同
四月廿七日同　日附宛名闕
五月十八日（甚五郎宛）坦藏　八月朔日同
六月十四日（立原甚五郎宛）松前遠國　七月十六日（甚五郎宛）右仲□
九月重九（甚五郎宛）坦藏　九月廿四日同
十月五日同　十一月四日同
十二月五日同　三月三日同
三月十六日同　四月三日同
四月廿三日同　六月二日（立原甚五郎宛）吉田坦藏
七月十七日（原新介宛）吉田坦藏　七月廿一日（甚五郎宛）坦藏
廿二日同　十一月二日同
十一月八日同　十二月十八日同
八月十九日（此君堂先醒宛）漢官五郎門　十月二日（宛名署名闕）
十月初二日（此君宛）晩春生吉漢官　八月二日（此君堂宛）漢官□門
十月十一日（甚五郎宛）坦藏　十一月六日（立原甚五郎宛）吉田坦藏
十一月十二日同　十一月廿一日同
正月十二日（甚五郎宛）坦藏　三月十六日同
七月六日同　斷翰三枚
六月廿八日（立原甚五郎宛）鈴木松之助　斷翰一枚
八月廿九日（宛名署名闕）
（別に十一月六日附（鳥居丹波守樣江御屆）松前勇次郎一通を含む）

頼家歴代書翰　寫　一軸　二一六

各自筆　巻子本　花唐草織文薄白茶色表紙　二四糎七米五〇糎　臺貼　題簽書名同
（二八九—イ九七）　所収次の如し

三月十九日（新齋宛）春水　四月廿八日（日新齋宛）春水
十八日（春耕宛）春水　彼岸の前二日（双林寺長喜庵月峰宛）山陽
十六日（鳩居宛）〔山陽〕　上巳後二日（若上人宛）裏和南
十四日（大舍上人宛）裏　二月十四日（靜逸宛）三樹三郎

地誌及紀行

萬國地誌

西説纂成 輿地指掌　寫　五巻附録一巻　三冊　二一七

今井廉著　自筆　袋綴　共表紙　二五糎一七・五糎　四周雙邊一八糎一二・五糎
九行罫紙　外題中央「輿地指掌　一二三（—四五）」　第一冊尾題「輿地略説巻上」、
「孺山艸堂」
（第一冊内題の次行に「紀藩　叙大醫令班　侍醫　今井廉輯述」とあり　第一冊
表紙右肩に「淨書了」とあり　第三冊表紙中央「（輿地指掌附録）萬國地名便覧」、同右「△号
ハ未タ本書ニシルサヽル符ナリ」、同左下「文化十一甲戌年正月隨意菴纂」と同
筆墨書　同内題「萬國地名便覧（輿地指掌附録）」　二九〇・九—イ一）

○

和蘭考成萬國地理全圖照寫　寫　一舗　二一八

〔司馬江漢〕筆　一米六八糎二米九三糎　四周單邊一米六〇糎二米九一糎、
「NK'MA（ローマ字藍印）」「田山記」
（細密筆彩　北天衆星圖・南天衆星圖・南極中居圖・北極中居圖・七曜循環圖・
九天圖・地球壓編圖・七曜轉輪圖を附載　裏に「乙ノ二十（墨書）江漢筆世界着色
大繪圖／長崎中山氏旧藏（朱書）」と記せる紙片を貼附　地理学史研究第一集古
地圖特集所収中村拓「本邦に伝わるブラウ世界圖について」—参照　二九〇・九一—イ七）

坤輿全圖　八軸　二一九

南懐仁（Verbiest, Ferdinand）著　掛軸　五三・五糎　原寸（一軸分）五一糎一米六
九糎
刊記　（第一軸）康熙甲寅歳日躔娵訾之次
（原物を裁斷して八軸分に仕立てたるもの　朝鮮學會々報第十八號所収山口正之
「南懐仁作坤輿全圖を語る」—参照　二九〇・九一—イ九）

○

安貝那漂流人物器械之圖　寫　一帖　二二〇

蔀關牛自筆　自畫　折本　白表紙　一七糎一二糎　外題中央書名同　内題なし、「濱和助所藏」
奥書　文化九年壬申秋菊月十日　蔀関牛摸之（ローマ字花押）
（彩色　巻末に「癸亥之春　磐水子録」と識せる漂船所帶磁盆の記圖を併せ寫す　二九〇・九―イ五）

日本地誌

風土記概論　寫　一冊　二二三

西野宣明著　自筆　袋綴　改裝後補黑表紙　原裝共表紙　用紙薄樣　間紙を挾む
二九糎一九糎　四周單邊二二糎一四・五糎　八行小雙行　十一丁　原外題左肩「風土記概論草稿」柱刻「常陸國風土記（又は聽松軒藏）」「聽松軒多宮氏」「福田氏印」「高木家藏」
（草稿本と清書本を合綴す　二九一―イ一）

ゆめのたゝち　寫　十二冊　二二三

藤原眞琇編　自筆　万延といふ年のはしめのとし冬の日自序　袋綴　濃紺表紙　用紙薄樣　間紙を挾む　二九糎二〇糎　原寸二六糎一七・五糎　十行二十三字
奥書　名所を見つゝ／むすひし草枕／この五巻に／告かねしかな
（二九一―イ九）

○

新板日本國大繪圖　一鋪　二二四

折疊　紺表紙　二三・五糎一五糎　全寸七〇糎一米六六・五糎　題簽中央雙邊書名
同
（筆彩版　本圖を元祿五・六年の刊とせる横山重の考證記を帙裏に附す　二九一・〇二―イ一九）

日本山海圖道大全　一鋪　二二四

石川流宣畫　折疊　縹色表紙　二五・五糎一七・五糎　全寸一米七二糎一米二糎　四周單邊一米六〇糎八二・五糎　題簽中央書名同　内題なし、「藤浪氏藏」
刊記　圖工　石川流宣／元祿十六癸未歲／東都江府本町四丁目／圖林　相模屋太兵衛
（筆彩版　二九一・〇二―イ二）

〔日本全圖〕　寫　一鋪　二二五

改裝　用紙裏打　五〇糎一米六〇糎　原寸四四糎　内題なし
（室町時代末期寫　陸地を金泥、海を藍に塗り、國分けをし、街道を記す　剝落甚し　二九一・〇二―イ三）

日本分域指掌圖　寫　二冊　二二六

關祖衡著　元祿十一年歲次戊寅秋九月勿軒清原希賢序　元祿九年歲在柔兆困敦黃鐘月小引　袋綴　水淺黃色表紙　二七糎一九糎　十行二十字小雙行（地圖の部分は朱書にて四周單邊）　題簽左肩雙邊（刊）「日本分域指掌完圖　乾（坤）」、「小川成之藏」「荻野」
識語　（坤冊裏表紙）川曲郡玉垣邑東茶／荻埜弥一郎持主
（江戸時代末期寫　内題の次行に「木齋平祖衡　叔甫誌」と識す　明朝活字體を用ひて精寫　二九一・〇二―イ二）

○

〔江戸長崎道中繪巻〕　寫　一軸　二二七

巻子本　金襴表紙　見返金切箔散　用紙具引紙　裏雲母引　三六・五糎一〇米四五糎　一紙九〇糎

（元祿末期寫　江戸より長崎五島に至る海陸鳥瞰圖　海に青、山に緑青等を以て彩色、里程・地名・山名等を記入、江戸の個所に傳通院・護國寺名の記入あり　二九一・〇六―イ三）

懐中京江戸大坂名所案内　一冊　二三八

自序　袋綴　縹色表紙　八・五糎一九糎　四周單邊六・五糎一六・五糎　二十二行百四十七丁　挿畫三十八頁分　題簽左肩雙邊書名同　柱刻「（丁數）」、「高木家藏」

刊語　右此諸職人商人ノの名物ともあらまし／思ひよるにまかせ書付／侍る也此外ニもれたる／商物名物のたくひ／あとゟ書出すべし／延宝六年午八月吉旦／四条大和橋上ル大黒町／東かわ／堺屋庄兵衛在之

（「京洛外之名所并寺社山河野村里付」の條末にも同文刊語あり　二九一・〇六―イ二）

行嚢抄　寫　六十冊　二三九

江間氏親著　元祿九年ひのえ子のとし八月下旬自序　袋綴　朽葉色布目（或は縹又は紺）表紙　二七糎一九糎　十二行　題簽左肩（第一至十七冊）「西遊行嚢抄」（第十八至二十五冊）「陸西遊行嚢抄」（第二十六至三十冊）「海上行嚢抄」（第三十一至三十三冊）「紫遊行嚢抄」（第三十四至四十七冊）「東遊行嚢抄」（第四十九至五十二冊）「南遊行嚢抄」（第五十二至五十七冊）「越遊行嚢抄」（第五十八至六十冊）「神風行嚢抄」

（江戸時代末期寫　片假名交り　二九一・〇六―イ三）

行嚢抄　寫　二十五冊　二四〇

江間氏親著　元祿九年ひのへ子のとし八月下旬自序　袋綴　薄茶色表紙　用紙薄様　二七糎一九糎　十二行　内題「西遊行嚢抄」「陸西遊行嚢抄」「海上行嚢抄」「紫遊行嚢抄」「東遊行嚢抄」「南遊行嚢抄」「越遊行嚢抄」「神風行嚢抄」、「西荘文庫（小津桂窓筆「花八十五全十九」と墨書せる紙箋に捺印）」

奥書　行嚢抄惣終　全部百拾一冊

（江戸時代中期寫　二九一・〇六―イ七）

増補江戸道中記　三巻　一冊　二四一

自序　袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草紺行成表紙　八糎一八・五糎　四周單邊六・五糎一六・五糎　二十一行　八十六丁　挿畫十一頁分　目録題書名同　内題なし　柱刻「上（―下）（丁數）」

刊語　道中名所鑑世に／多流布するといへども、其誤甚多／し、或ハ其所の名所／を他の所にしるし、／或ハ前にある古事／を奥にあらはし、／又ハ行程のちがひ、／來歴のたがひ、前後／の相違これ有に依／て今新たに改正、／諸書を考へて名／所旧跡を増補し、／古事來歴引哥／等のあやまりを正し、／落たるを増、殘たる／を入、其上に今度／御改の増駄賃を／加て開板せしむる者也

（傍訓略）

刊記　延寶四丙辰年／二月吉祥日／新橋壹町め横町／板木屋又右衛門（刻印）

（二九一・〇六―イ九）

大和名所鑑　三巻　一冊　二四二

菱川師宣畫　自序　袋綴　黒表紙　二七・五糎一八・五糎　上文雙邊角取六糎一六糎　十六行　下圖單邊一五糎一六・五糎　四十三丁　題簽左肩雙邊（刊）後補墨「菱川大和名所　全」　序題書名同　柱刻「上（―下）（丁數）（三巻通巻数字）」、「兎角菴」等

刊語　右此名所繪かゝみ三冊は繪師の筆作ある圖／にしてかなたこなたと書集たれは嬰兒のも／てあそびものにもならんかと令板行者也／菱河師宣（繪師）

刊記　元祿九年子正月吉日／万屋清四郎板

（中巻扉は竹鶴等繪模様枠内に「和國名所鑑」と雙鉤書、下巻同様の意匠にて瀧牡丹唐獅子圖に雙鉤書して「倭國名所鑑」とあり　二九一・〇六―イ五）

○

西遊之記　寫　一冊　二四三

古矢兵四郎著　自筆　自畫　中井豊亭序　戊子之歳七月天倪迂叟信夫跋　袋綴　梔子色絹表紙　用紙薄様　一三糎一八・五糎　十五行　百九十四丁　彩色挿畫入

題簽左肩「西遊紀行　全」、「清野文庫（紙票）」
奥書　安政二年歳次卯七月五日／下總國猿嶋郡馬立村／古矢兵四郎／行年三十七才
（内題の次行に「愿齋古矢繼志記」とあり　二九一・〇八―イ二）

東遊草　寫　一冊　二三四

谷重遠著　袋綴　朽葉色表紙　二七・五糎二〇・五糎　八行　百二十三丁　題簽左肩闕「高木家藏」
識語　（見返）（高木利太筆朱書）本書土佐ノ國學者秦山谷重遠ノ紀行ナリ／文字体當時ノ風アレ𪜈果シテ稿本ナルヤ否ヤヲ／究メス　昭和三年十二月十六日／甲麓莊主人識
（同紙箋墨書）東游草は土佐の鴻學谷重遠四十二歳の記述なり／本書は筆癖重遠の自書に酷似し、ある部分の如きは一見その手稿本なるべ／きの感あるも中略恐らくは其當時に在て重遠自筆本より直寫せしものと認むべく下略昭和己巳春日　小竹園主人
（二九一・〇八―イ一九）

○

江戸大繪圖（ゑ入）　一鋪　二三五

折畳　紺表紙　二八・五糎一八糎　全寸一米四二糎一米四二糎　四周單邊一米四〇糎一米四〇糎　題簽中央雙邊書名同、「西莊文庫（小津桂窓筆「花貳百八全二」と墨書せる紙箋に捺印）」
刊記　貞享三丙寅歳／八月吉日　淺草瓦町／表紙屋市郎兵衛
刊語　御江戸のゑつ前かとより方／＼／にて板行するといへ共御やしき／かハりたるをしらす或ハ御名之／相違有之今其あやまりを／改東西南北之江外迄ことく／＼く／書入板行仕候中略右之ゑつ方角少も相違無／御座候若相違之儀御座候ハ、御しらせ可被下候承次第に吟味仕候
識語　（裏面）元祿七甲戌正月吉日　櫻井淨誓（印）
（題簽上に）淺野入
（筆彩版　圖の周圍に各大名の知行高を記入す　二九一・一―イ四一）

増補江戸大繪圖　一鋪　二三六

林吉永圖　折畳　銀泥下畫紺表紙　二五・五糎一九糎　全寸一米二五糎一米五二糎　四周單邊一米二四糎一米四九糎　題簽中央雙邊「（書名同）申三月改／御紋ゑ入」、「西莊文庫（小津桂窓筆「花貳百八全二」と墨書せる紙箋に捺印）」
刊語　御江戸之繪圖前廉方ニにて仕出し候へ共方角相違有之其上御屋敷替り或ハ方ニの／道筋之替リ有之ニ付今度悉吟仕又ハ東西南北之御江之外ニ有之御屋敷寺地／百性地町ニ堀川筋迄悉改書くわへ申候拾万石以上之御上屋敷江御定紋を書入其外／宮社佛閣へ繪を入海上にも繪を入申候■ケ樣ニ道筋に仕置候ハ辻番所㒵ケ樣ニ仕候ハ／道筋之坂ニ而御座候右之圖方角毛頭相違無御座候若相違之儀御座候ハ、御知せ可被下候今随分吟味仕候／延寶八年申庚三月上旬　御繪圖所林氏吉永（刻印）
（筆彩版　二九一・一―イ四五）

江戸鹿の子　六卷　六冊　二三七

藤田理兵衛著　〔自序〕　貞享四年仲冬日閑々子跋　袋綴　紺表紙　一一糎一六・五糎　四周單邊八・五糎一四糎　題簽左肩「江戸鹿の子一（ゑとかのこ二・江戸可之古三・江戸賀濃子四・ゑど嘉野古五・江戸かのこ六）」　柱刻「鹿子巻序　巻一（―六）（丁數）」、「染井文庫圖書記」
刊記　江戸京橋南新兩替町／書林　小林太郎兵衛
（二九一・一―イ五五）

江都近郊名勝志　寫　一冊　二三八

袋綴　改裝後補厚手洋包表紙　一三・五糎一七糎　二十至二十六行　六十五丁
外題左肩書名同、「門外不出松本道別藏書」「高木家藏」
（外題右肩に「北齋画」とあり　別紙画稿をそれぞれの個所に貼り入れたる稿本
二九一・一―イ三二）

江戸雀　十二巻　十二冊　二三九

菱川師宣畫　自序　自跋　袋綴　紺表紙　二七・五糎一九糎　四周單邊二三・五糎一七・五糎　十七行　題簽左肩雙邊「江戸すゝめ（御城の始り同大手口屋敷付）一（江戸須ゝ女（糀駿町番町筋河臺の分）二・江戸雀（町中案内者）三・江戸壽ゝめ（日本橋より金杉迄の分）四・江戸すゝ免（大芝の分）五・江戸須ゝめ（赤坂四谷市谷の分）六・江戸雀（牛込の分）七・江戸すゝ女（小石川の分）八・江戸須ゝ免（神田）九・江戸春ゝめ（淺草の分）十・江戸すゝ免（本庄の分）十一・江戸雀（本庄の分）十二）」　柱刻「江戸すゝめ（第二冊以下「すゝめ」）一（―十二巻）（丁數）」、「高木家藏」

刊記　延寶五年丁巳仲日　武刕江戸之住／繪師　菱川吉兵衛／江戸大傳馬三丁目（鍬屋）喜右衛門板

（二九一・一―イ五一）

江戸圖正大全　一鋪　二四〇

温清軒圖　折畳　銀泥下畫紺表紙　二六糎一八糎　全寸一米四一糎一米五五糎　題簽中央雙邊書名同、「西莊文庫（小津桂窓筆「花貳百八全一」と墨書せる紙箋に捺印）」

刊語　去ル酉の春圖正／方鑑と云圖書を／編作す此度亦／所ゝの新地御屋鋪／替等つまびらかに／改諸色を益して／圖正大全ととなふる

刊記　温清軒圖之／通油町佐藤四郎右衛門

（筆彩版　二九一・一―イ三五）

江戸名所記　七巻　七冊　二四一

淺井了意著　自序　袋綴　毘沙門格子地縹色行成表紙　二六糎一八糎　四周單邊二一糎一六・五糎　十一行　挿畫（巻一）十五頁分　（巻二）十五頁分　（巻三）十四頁分　（巻四）八頁分　（巻五）十頁分　（巻六）十頁分　（巻七）八頁分　柱刻「江戸名所記　巻一（―七）（丁數）」、「小澤文庫」「霞亭文庫」

刊記　寛文二暦壬寅五月日／板本五條寺町／河野道清

（二九一・一―イ五七）

増補江戸名所はなし　六巻　八冊　二四二

自序　袋綴　縹色表紙　二七糎一八・五糎　四周單邊二二糎一七・五糎　十二行　挿畫（巻一）六頁分　（巻二）十二頁分　（巻三）十頁分　（巻四）八頁分　（巻五上）五頁分　（巻五下）三頁分　（巻六上）六頁分　（巻六下）五頁分　題簽左肩雙邊「（書名同）一（―四・五上下・六上下）」　柱刻「江戸咄　一（―六）（丁數）」、「養間齋藏書記」「唐子文庫」「待賈堂」「水谷文庫」「高木文庫」等

識語　（巻一見返）此書原來古郷歸江戸咄と題せる者にて／貞享三年の印本なり後に元祿七年知足院元祿寺聖堂の事等を増補し表題を直して／増補江戸名所咄とせし者なるへし夫より後元祿の／年号をも删り去りし者と見ゆ

（巻六下本文巻末）原來貞享三年刻本也

（原刻本刊記のありし所に「元祿七年／甲戌初春／鍛冶橋五郎兵衛町山下彦兵衛／日本橋佐内町簾屋又右衛門」と水谷不倒筆朱書補記あり　二九一・一―イ四九）

大江戸圖　一鋪　二四三

折畳　後補菊花押紋模様丹表紙　用紙裏打　二〇糎一七・五糎　全寸一米二五糎一米四〇糎　四周單邊一米二三糎一米三八糎　題簽中央小津桂窓筆「（書名同）延寶版」、「西莊文庫（小津桂窓筆「花百十八全一」と墨書せる紙箋に捺印）」

刊語　前略右東西南北限之社寺悉ク繪ヲ入／令開板者也猶御屋敷替道ノ付替リ／承次第可相改者也　以上

刊記　延寶四丙辰天十一月吉日／表紙屋市郎兵衛板行

（筆彩版　二九一・一―イ四七）

三飡一覽　寫　四巻　二冊　二四四

松平冠山著　袋綴　澁刷毛目布目表紙　二三・五糎一六・五糎　十行小雙行　題簽左肩雙邊（刊）瀧澤馬琴筆「（書名同）一二（三四）上（下）」　扉裏中央馬琴筆「三飡一覧」同右「冠山老侯稿本謄寫再録本」同左「共二本　著作堂架藏」　内題なし、「瀧澤文庫」「西莊文庫（小津桂窓筆「花五十全二」と墨書せる紙箋に捺印）」

識語　（第二冊末）三飡一覧二巻以一友人之本令謄寫訖／今日筆工告竣未及校閲先還原本時／天保五年甲午春正月念四　著作堂主人識

（朱書）同年八月秋朔校訂尚恐有遺漏異日得閑復／當施雌黄焉
（第一冊）（朱書）天保五年六月迨于今旱天五六十日殘暑尚／猛烈殆叵堪日者曝書間校閲（是書）。以爲避暑之／料時七月小二十九日　著作堂老禿識
（第二冊）（朱書）この書貝原益軒の京都めくりと伯仲す他郷の客ハ／さら也逍遙を好ミて折々郊外に遊ふものこれを悩にせは／郷導（ママ）を得すといふとも到らさる隈なかるへしかるに編中本／所深川なる神社佛閣（ママ）及内神田三河町鎌倉町なとこの餘も／なほ遺漏多かりおもふにいまた全書ならさるに似たり冠山老侯ハ／吾廬へも來訪し給ふこと稀にあり異日拜見の折を得ば／これらのうつをとかまくそほしかる　著作堂解校閲の／をりに識しつ
（馬琴筆朱書校訂書入多し　原に「冠山老侯精志篤學最研究地理其所／著武藏風土記箋注地志解題之屬幾／數千百巻頃取近郊之地可往來于三／食之間者考勘其山川道里古祠名刹／之概畧名曰三食一覧凡四巻雖消閑／之餘筆足以爲郊遊之一助得松焉崎氏／所藏之書而使備書寫之惟此書新脱／藁未爲全成是以刻落塗抹紙之相望／加之俗工拙悪魯魚亦不鮮蓋期他／日之校爾云／御技之記松尾藏版」と奥書あるものの寫　二九一・一―イ六三）

總常日記　寫　一冊　二四五

清水濱臣著　袋綴　改裝後補澁刷毛目表紙　原裝共表紙　二三・五糎一七糎　九行　五十三丁（原表紙共）　外題左肩「清水濱臣／總常日記」　原外題中央書名同、「阿羅爲氏」「高木家藏」
（内扉に「清水濱臣大人（朱書）／總常日記文化十二年三月廿二日至四月十三日」、本文巻末朱書「文化十二年　濱臣」とあり　次に源至誠・清水光房の歌文跋を附記す　略々原本に近き頃の寫　二九一・一―イ三二）

大成御江戸之圖　一鋪　二四六

折畳　紺表紙　二七・五糎一九・五糎　全寸一米三一糎一米五七糎　四周單邊一米二五糎一米五五糎　題簽中央後補墨「江戸之圖　全」　内題なし、「西荘文庫（小津桂窓筆「花武百八全一」と墨書せる紙箋に捺印）」
刊語　そのかミ遠近道印といへる人御江戸の圖壹分拾間／につもり大紙五枚に全部して初而世の重寶となしぬ／今又かのあとを追て是を作るといへとも（中略）其ほとの太概をつもり／壹分拾貳間としるす者也依之少毛の過不及御免／可有もの欤尤神社佛閣あるひハ實道川ミ橋ミ廣／小路等には間數を略し見安き樣に畫色／を加へ諸大名御紋同所ミの御火消まとい丞く是を／しるし又ハ大寺社あいもんを以て諸宗をしらせ御屋敷之／入替り新地新町等明細ニ改正して大成御江戸の圖と／題するものならし
刊記　江戸日本橋南一町目／須原茂兵衛刊行
（筆彩版　二九一・一―イ三九）

東都古跡集　寫　一冊　二四七

松波茂興著　自筆　袋綴　亀甲押紋水淺黄色表紙　二三・五糎一六・五糎　約七行　四十五丁　題簽左肩後筆書名同　内題なし、「山中共古藏書」「清野文庫（紙票）」等
奥書　此書者予好古之余リ江府ノ中之旧古事跡／遺謂古ヲ捜リ需亦大久保西山翁松岡辰方其／余諸家ノ故書ヲ乞得而摸シ合會而一冊ノ書トス是／實ニ尋常之浮話不成云ミ／于時文政五壬午天三月初旬松波茂興誌（印）
識語　天保四巳十二月芝土器街求之　□文庫
（見返）（朱）此書ノ著者松波茂興ナル人ヲ詳ニセズ江都ニ存セル名所古碑墳／墓ヲ記セル書ナリ表題失セテ書名ヲ知ルヿ能ハズ東都古跡／集ト題セルハ書肆文行堂主人ノ仮ニ題セシニテ旧名ニアラズ／書中集古一滴ヨリ写セシ板碑アリ著者實見セシモノヽミ／ニアラズト雖モ此類希ナル故ニ文庫中ニ加フ／明治卅二年十一月十七日山中共古（印）
（二九一・一―イ五九）

南嶼行記　寫　二冊　闕　二四八

阿部櫟齋著　林若樹筆　袋綴　丹表紙　二六糎一九糎　十一行　外題左肩（上冊）「阿部櫟齋稿南嶼行記　上」（中冊）「阿部櫟齋稿南嶼行記附南嶼産物志畧目　中」　扉題左肩「（書名同）上中　三十五丁」、「若樹文庫」「清野文庫（紙票）」
識語　若樹影抄
（文久二年小笠原島行記　上中二巻を存す　内題の下に（上冊）「櫟齋阿部喜任纂述／男□圳爲任挍」（下冊）「櫟齋阿部喜任編／男碧海爲任挍字」とあり

（三九一・一―イ六一）

筥根七湯圖繪　寫　十帖　二四九

弄花山人著　自畫　文窓主人序　自序　折本　巴紋菊花模樣紅柿色表紙　用紙裏打　二八糎一五糎　題簽中央黃紙「（書名同）　一之巻（―十之巻）」、「高木家藏」

（江戸時代末期寫　彩色精畫　三九一・一―イ二九）

分間江戸大繪圖　一鋪　二五〇

温清軒圖　自序　折畳　紺表紙　二八糎一八糎　全寸一米四〇糎一米七八糎　四周單邊一米三二糎一米七八糎　題簽中央雙邊「（書名同）全」

刊記　江戸日本橋南一丁目／須原茂兵衛版

識語　（表紙に貼紙）御江戸繪圖此後絶判ニ相成り申由／此繪圖大切ニ致置可申事／延享貳年丑三月十四日書之　長濱屋吉右□門

此圖延享以前發行ノモノ也／表題ニ所藏者ノ書入アリ／本庄林町三丁目　吉良屋敷アレバ元録（ママ）以前ノ板也

（筆彩版　三九一・一―イ三七）

分間江戸圖　一鋪　二五一

遠近道印圖　元祿十一戊歳初夏中旬自奥　折畳　紺表紙　二四糎一六・五糎　題簽中央雙邊「（書名同）遠近道印作」、「西荘文庫（小津桂窓筆「花百十八全二」と墨書せる紙箋に捺印）」

刊語　爰に武陽江城の下久遠近道印と云人若歳より自然と／圖法を好ミ昼夜工夫して後或ハ山海の高廣或ハ道法順／路等の曲直の遠道をも纔の紙中に顕し分間のつもり／て是を圖するに方角順道法等毛頭無相違樣に工／事明細にして此道の圖翁となれり然るに道印先歳／寛文の頃初而江府の圖壹分五間の積ニして出之其後／壹分拾間またハ壹分四十間の惣中繪圖編作して世上の調／法とせり然るを重判のやから大既ハ道印の先圖をかり取初／心の圖力を以て或ハ大き成圖を小繪圖となし或ハ品を替て／類板するといへとも元來壹分何間何十何町と云積りなく畫し／たるニより方角順路悉ク相違せり頃日また江戸圖鑑綱／目と下題し作者石河氏とあり彼圖をミるに先歳重判の／如クにして方角順路相違せり彼圖に一冊の添本あり序／旨をミれハ壹分拾間等の間地を知る事益なしと書たり凡／分間の積りなきハ前後左右の違ひ方角をミんニも所ニに／おいて明らか成んや今爰に新改せし圖ハ以前惣中江戸繪／圖の奥書ニせし壹分拾五間の圖也方角順路新地替地不殘／遂吟味江戸大繪圖となん云自今以後新地替地於有之ハ／重而改板せしむへく候此圖御覧の御方ハ磁石次第ニ此圖／をなをし方角にあて御覧可被下候毛頭相違無御座候（傍訓略）

元祿十一戊歳初夏中旬　圖翁遠近道印作（刻花押）

刊記　堺町通新和泉町　板木屋七郎兵衛開板

（筆彩版　東海道分間繪圖近刊豫告あり　三九一・一―イ四三）

武藏三芳野名勝圖會　寫　三冊　二五二

中島孝昌（櫻齋）著　自筆　春曙堂松月・文樵等畫　享和改元辛酉冬十一月海保青陵序（文政三年青柳子和書）　享和辛酉年季秋日自跋　享和二年壬戌臘月五日菅清成跋（文政三庚辰年夏五月北野衆齋書）　享和紀元之冬松本藻彦跋（文政三歳在庚辰仲夏檀正庸書）　袋綴　砥粉色表紙　二七糎一九糎　四周單邊二一糎一六糎　十二行　挿畫通冊四十頁分　題簽左肩縹色紙「（書名同）上（―下）」、「井邨氏家藏記」「高木家藏」

（三九一・一―イ三）

名勝奇談東海道旅文車巻一　寫　一冊　二五三

小林百枝著　自筆　山崎武陵畫　嘉永歳次第五壬子臘月上旬自序（序文には日下部百枝と署す）　袋假綴　共表紙　二四・五糎一四糎　四周雙邊一四・五糎一〇糎九行　百四十一丁（表紙共）　外題左肩雙邊書名同、「高木家藏」

（見返中央書名同　右に「小林百枝著／山崎武陵畫」左に「書肆尚古堂梓」とあり當巻一は右本中江戸の部にあたる　別紙薄樣挿畫三十六頁分をそれ〴〵の個所に貼附　三九一・一―イ三三）

○

陸奥紀行　寫　一冊　二五四

堤利信著　自筆　袋假綴　共表紙　二四・五糎一六・五糎　八行　八十一丁　挿畫入　外題中央「(書名同)　草稿」、「清野文庫(紙票)」

(文中に明治十七年紀行の記事あり　第一葉を缺く　外題右肩「堤利信氏」とあり　二九一・二―イ一)

○

尾張名所記　寫　二巻　合一冊　二五五

專陸著　自序　寛文十二みつのへねずみ自跋　袋綴　布目青表紙　二三糎一六糎　十一行　四十一丁　題簽左肩雙邊(刊)水谷不倒筆「(書名同)　上下」、「水谷文庫」「高木家藏」

奥書　(朱)　延宝七己未季孟夏上旬　保宣書之

識語　(見返紙箋)(水谷不倒筆)　尾張名所記　一冊／寛文十二年　作者專隆(延宝七年写)／本書一名を「尾張大根」といふ、作者專隆の何人なるかを詳にせず／と雖、其頃刊行の「京雀」、「東海道名所記」等の影響を受けたるも／のにして、尾州における此種風俗地誌としては最も古きものゝ一なるべし

(二九一・三―イ九)

並山日記　寫　八冊　二五六

黒川春村著　安政二年重九朝川麌序　藤原信古序　山内天眞模畫　袋綴　丹表紙　間紙を挾む　二六・五糎一九・五糎　四周單邊二〇・五糎一四・五糎　十行　挿畫

(第二冊)二十六頁分　(第三冊)四十八頁分　(第四冊)四十六頁分　(第五冊)十八頁分　(第六冊)四十頁分　(第七冊)四十頁分　(第八冊)四十二頁分　題簽左肩單邊(刊)「(書名同)　一(―八)」、「清野文庫(紙票)」

識語　(見返)　黒川春村稿本／梅の房敬覺畫交山男／山内天眞摸畫

(影寫本　二九一・三―イ一一)

○

伊勢参宮名所圖會　寫　三巻　三冊　闕　二五七

關月著　自筆　自畫　袋綴　改裝後補澁刷毛目表紙　原裝共表紙　二六糎一九・五糎の袋綴臺帳に各半丁分の稿本を貼附　挿畫(巻一)六十頁分　(巻三)四十九頁分　(巻五)六十四頁分　原外題中央自筆(第一冊)「伊勢名所」(第二冊)「(書名同)三」、「高木家藏」

(江戸時代末期寫　第一冊原外題左肩「關月直筆」とあり　巻一・三・五を存す　京三條より出發　二九一・四―イ六三)

大坂大繪圖　一鋪　二五八

折畳　縹色表紙　一九・五糎一三糎　全寸七七糎九六糎

刊記　元祿十四年八月吉日／大坂本町一丁目　萬屋彦太郎板

(筆彩版　二九一・四―イ五三)

明和新訂 大坂大繪圖　寫　一鋪　二五九

折畳　丹表紙　二八・五糎二二糎　用紙裏打　全寸二米五八糎二米二七糎　題簽中央雙邊(刊)後筆書名同

(彩色　圖中記事に「明和四丁亥年以來追々築立候新地」とあり　二九一・四―イ五一)

新撰増補 京大繪圖　一鋪　二六〇

折畳　紺表紙　二四糎一五・五糎　全寸一米六五糎一米二四糎　四周單邊一米六三糎一米二三糎　題簽中央雙邊「(書名同)　(右に)　禁裏樣攝家方御知行入　堂社佛閣御緣起并寺領社領入　(左に)　諸大名御屋敷御知行入　洛中洛外名所旧跡之方角」　内題なし、「虚山房藏書」

刊記　元祿四歳三月吉辰　御繪圖所　林氏吉永

(筆彩版　二九一・四―イ九五)

新撰増補 京大繪圖　一鋪　二六一

折畳　紺表紙　二四糎一六・五糎　全寸一米六五糎一米二七糎　四周單邊一米

六四糎一米二四糎　題簽中央雙邊「(書名同)(右に)禁裏樣攝家方御知行人堂社佛閣御緣起并寺領社領入(左に)諸大名御屋敷御知行人洛中洛外名所旧跡之方角」内題なし
刊記　御繪圖所　林氏吉永
(筆彩版　二九一・四―イ八一)

新撰増補
京大繪圖　一鋪　二六三

折畳　紺表紙　二四糎一六糎　全寸一米六五糎一米二六糎　四周單邊一米六一糎
一米二三糎　題簽中央雙邊「(書名同)(右に)禁裏樣攝家方御知行人堂社佛閣御緣起并寺領社領入(左に)諸大名御屋敷御知行人洛中洛外名所旧跡方角」内題なし
刊記　今度新地所替不殘ノ令改板者也ノ京寺町通二條上ル町ノ御繪圖所　林氏吉永
(筆彩版　二九一・四―イ八五)

増補再板
京大繪圖　二鋪　二六三

折畳　菊花押紋納戸色表紙　二四・五糎一六・五糎　全寸一米二九糎九一糎　四周單邊一米二二糎八七糎　題簽中央雙邊(乾冊紅紙、坤冊黃紙)「(書名同)北山ヨリ南三条迄乾(―北三条ヨリ南伏見迄坤)」内題なし
刊語　此繪圖貞享三丙寅年開板雖世弘猶又ノ今度洛中洛外寺社名所旧跡町小路ノ八分一町ノ刻ヲ以新地等迄悉相改并ノ諸方道法方角之圖相加ヘ令再板者也ノ寛保元年辛酉十一月ノ京寺町通二条上ル町ノ御繪圖所　林吉永
(二九一・四―イ八三)

京雀　合一冊　二六四

袋綴　毘沙門格子押文丹表紙　八糎一八・五糎　百三十六丁　挿畫三十六頁分
題簽左肩後補墨「□町かゞ見　全」柱刻「(丁數)」、「高木家藏」
刊記　(第二十四丁諸職商人いろは引條末)延宝六年午八月吉旦ノ四条大和橋上ル大黒町ノ東かわノ堺屋庄兵衛在之
(第七十一丁京町小路立横通筋の條末)延宝六年戊午八月吉祥日ノ四条大和橋上ル大黒町ノ東かわノ堺屋庄兵衛在之
(諸大名御隱居衆の末に「江戸町盡」「大坂町盡」を附す「京町小路立横通筋」の條第二・十七・廿九・卅四・五十四丁、江戸の條第四・六丁・柱刻「太」御しろの條第一丁以上計八丁影補寫「京町小路立横通筋」の條第二十七丁闕丁
二九一・四―イ七一)

京雀跡追上　一冊　二六五

序　袋綴　水色表紙　八・五糎一九糎　四周單邊七糎一六・五糎　十九行　七十三丁　挿畫二十頁分　題簽左肩雙邊書名同(書名の上に角書あるも不明)　柱刻「(丁數)」、「平出氏書室記」「高木家藏」
(二九一・四―イ七三)

京羽二重　六巻　六冊　二六六

水雲堂孤松子著　貞享第二林鐘日自序　袋綴　紺表紙　一一糎一六糎　四周單邊八・五糎一四糎　十八行　題簽中央後補墨「(書名同)巻一(六)」「京はふたへ巻二(―五)」柱刻「巻一(―六)(丁數)」
刊記　貞享二乙丑歳九月吉日ノ白山通三条上ル町小嶋弥三右衛門ノ錦小路室町東へ入町小嶋徳右衛門ノ開板
(二九一・四―イ六七)

勢國見聞集　寫　二十五巻　二十五冊　二六七

荒井勘之丞著　自筆　天保十五年霜月小津久足序　嘉永四年亥十月自序　袋綴　濾引表紙　二六糎一八糎　十一行　題簽左肩單邊(刊)「(書名同)　國郡邑城之部壹(―軍書之部廿五)」、「西荘文庫(小津桂窓筆「花弐百三十六全廿五」と墨書せる紙箋に捺印)」
奥書　右之書廿五巻也ノ一草稿全部　荒井家所持ノ右写本此全部　松阪百足町小津氏ノ需ニ依テ荒井写ヲノ一　全部　同魚町長谷川氏以テ荒井之草稿ヲ佐久間某写之ノ以上ノ于時嘉永六癸丑従二月上旬至同ノ十月上旬寫之
識語　この書は伊勢寺村荒井勘之丞といふ人の作にてわれに序文をこへるゆかりに一部うつして よといひしかは紙と筆とのあたひにたまはらは いとやすきことゝうへなふにいさとてたのみしかハ一とせ たらぬあひたにうつしをへたりとても來たるハ いとすみやかなること也けり中略作者の自筆といふこ

とをふたゝひしるしておく／書となすことしかり／嘉永六年十月　小津久足
（二九一・四―ィ五五）

出來齋京土産　七巻　七冊　二六八

袋綴　縹色表紙　二七糎一九糎　四周單邊二〇・五糎一六・五糎　十二行　挿畫
（巻一）十一頁分　（巻二）九頁分　（巻三）六頁分　（巻四）七頁分　（巻五）七頁分
（巻六）十頁分　（巻七）八頁分　柱刻「巻之一（―七）（丁數）」、「高木家藏」
刊記　延寶伍丁巳年正月吉日／磯田平兵衛板行
識語　（各冊表紙）證譽／直入之
（二九一・四―ィ五七）

難　波　雀　一冊　二六九

水雲子著　延寶七己未陽月下旬自序　袋綴　朽葉色表紙　八・五糎一九糎　四周單邊六・五糎一七糎　十六行　八十八丁　題簽左肩單邊「中壞難波すゝめ　全」　柱刻「（丁數）」
刊記　延寶七己未歳三月吉日／京堀川小嶋屋長右衛門／大坂しんさいはし筋古本屋清左衛門
（二九一・四―ィ四三）

増補難波すゝめ跡追　一冊　二七〇

延寶七歳次己未五月難波隱士序　袋綴　水色表紙　九糎一九糎　四周單邊六・五糎一七糎　九十三丁　題簽左肩雙邊書名同　序題「増補難波雀」　目録題「難波雀」
柱刻「（丁數）」、「高木家藏」
刊記　延寶七己未歳五月吉日／御堂筋本屋／六兵衛開板
識語　延寶七年ヨリ／弘化三丙午年／マテ百六十八年／成ル
（第三十一・九十六丁計二丁影補寫　二九一・四―ィ六九）

奈良名所八重櫻　六巻　五冊　闕　二七一

大久保秀興・木村伊祐著　〔菱川師宣〕畫　自序　袋綴　青表紙　二七糎一八・五糎　四周單邊二二・五糎一六・五糎　挿畫（巻一）八頁分　（巻三）八頁分　（巻五）三頁分　（巻六）二十五頁分　（巻九・十合冊）十一頁分　題簽左肩雙邊「新板八重さくら（巻一のみ　他は闕）」　柱刻「八重櫻一之巻（―十）（丁數）（巻五・六・九の三巻「八重櫻」の文字を削る）」
（巻一・三・五・六・九・十の取合せ本六巻を存す　巻五・六・九は後刷
二九一・四―ィ八七）

播　磨　國　圖　寫　一鋪　二七二

用紙裏打　全寸八米一〇糎一一米四〇糎　表題「播州之圖」
（慶長期寫　彩色を施す　井上通泰著「播磨風土記新考」所収「播磨の古地圖について」―參照　二九一・四―ィ七七）

播磨國風土記　寫　一軸　二七三

巻子本　改裝後補巻龍織文鶯色表紙　見返金紙　用紙裏打　二八糎九米六五糎
一紙五七糎　天地單邊二四糎　三十三行約二十一字小雙行　外題（巻初別紙繼紙）
後筆「（播摩國風土記）一巻」
識語　粗見合了
（巻初繼紙に押紙）秘
（三條西家本　平安時代中期寫　巻首闕　初行賀古郡「望賢四方云此立丘原野長廣大而」以下を存す　古典保存會複製本、日本古典文學大系所収秋本吉郎校注「風土記」―參照　二九一・四―ィ九）（重文）

播磨國風土記　寫　一冊　二七四

野村玄道筆　袋假綴　共表紙　用紙薄樣　二八・五糎二〇糎　十行二十字　三十七丁　外題中央「播磨風土記」　内題なし
奥書　明治廿九年三月三月謄寫了　野村玄道
（原に「右播磨風土記以或家古巻令寫之當時出雲豊後之外諸／國風土記逸於後人擬作者之　最可謂奇珍矣／寛政八年六月廿六日同日一校而所ゝ有不審重以正本可校者也正二位藤紀光」「嘉永五年九月六日書寫了　平種棨」「嘉永六年十一月廿八日書寫挍合了　中臣連胤」「安政三年

十月八日書寫了　源爲彦」「文久三年八月七日書寫了　樽井　守城」「明治十五年三月廿六日書寫了　小田　脩」「明治十九年六月廿二日書寫了　土居精一郎」と奥書あるものの寫、本文同筆「播磨風土記逸文」一葉、文久三年樽井守城跋文を附す　外題右肩に「和銅七年ヨリ明治廿六年マテ／千百八十六年」とあり　朱點書入、頭書細注多し　卷初に「惣國風土記播磨國」一葉あり　二九一・四―イ五五）

新撰都案内者　五卷　合一冊　二五

袋綴　改裝後補朽葉色表紙　二五糎一九糎　四周單邊二二糎一七糎　十五行　插畫（卷一）十四頁分　（卷二）十七頁分　（卷三）十頁分　（卷四）九頁分　（卷五）七頁分　題簽左肩雙邊「新撰案内者（あんないしゃ）　京（きょう）ノ（の）ト（と）ヲヒ（を）ス（す）ゝめ　全」　目録題「都案内者」　柱刻「都（丁數）」、「兎角菴」

刊記　寛文十一辛亥曆腊月中旬　松會開板

（二九一・四―イ四七）

都すゞめ　一冊　二六

袋綴　改裝後補茶色表紙　一一糎一七糎　四周單邊九・五糎一五糎　十八行　三十三丁　插畫九頁分　外題中央「（書名同）／一名京町鑑」　内題なし　柱刻「（丁數）」

刊語　往ゝ以來世にひろまる京之圖町かゝミ等／數多ありといへとも大キニ相違のミ多し／殊更西陣下京なとハかつてつふさならざる／ゆへ今あらたにあらため委細にしるしなをし／子ノ年ゟの新地引地までくハしく繪圖ニ／あらハし新改正增補都すゝめと題号／をあらためあまねくひろむる者也

刊記　延宝六年／戊午八月吉祥日／四条大和橋上ル大黒町／東かわ／堺屋庄兵衛在之

（二九一・四―イ九七）

都すゞめ案内者　二冊　二七

袋綴　朽葉色表紙　一一糎一六・五糎　四周單邊九糎一五糎　插畫（上冊）二頁分（下冊）十頁分　題簽左肩雙邊「都（みやこ）すゞめ案内者（あんないしゃ）」　柱刻「都すゝめ（丁數）」、「平出氏書室記」「高木家藏」

刊記　炭屋勘兵衛板

識語　天保十二辛丑十月晦／一讀了　亀壽

（二九一・四―イ六五）

類聚名所都鳥　六卷　八冊　二六

袋綴　縹色表紙　二二・五糎一六・五糎　四周單邊一七糎一六・五糎　十行　插畫（卷一）七頁分　（卷二）四頁分　（卷三）八頁分　（卷四上）四頁分　（卷四下）三頁分　（卷五上）四頁分　（卷五下）六頁分　（卷六）六頁分　題簽中央雙邊「（書名同）一（―六）」　目録題「名所都鳥」　柱刻「都鳥一（―六）（丁數）」、「西莊文庫（小津桂窓筆「花四十八全八」と墨書せる紙箋に捺印）」「兎角菴」

刊記　元祿第三庚午歲春二月穀旦／洛陽書林／吉田四郎右衛門／丸屋源兵衛／田原嘉兵衛

（二九一・四―イ四五）

山城國地誌　寫　三十一冊　二七

推井小三郎著　自筆　帳假綴　共表紙　一八糎二五糎　外題左肩書名同（右に所収の地名を墨書）、「郁五堂藏本」「椿嵐窟藏」「清野文庫（紙票）」

識語　（第一冊表）明治十七年八月／明治三十一年十二月再訂

（第三冊見返）明治十八年起筆同三十一年修筆／同三十四年十二月修補

（第七冊見返）明治十八年十二月起筆同三十五年一月／修補

（第八冊表）明治十九年八月／明治三十一年十二月再訂

（第十冊表）明治十八年／八月廿六日

（第十一冊見返）明治十七年十二月起筆／明治三十五年八月修筆

（第十二冊表）明治十八年八月／同三十二年七月補

（第十四冊表）明治三十一年十二月

（第十五冊表）明治十八年／六月十七日

（第十六冊見返）明治十六年十一月起筆／明治三十五年八月修筆

（第十七冊見返）明治十六年十一月起筆／同三十五年八月再修

（第十八冊見返）明治十八年十月起筆／同三十四年十二月修補

（第十九冊表）明治十八年／六月十七日
（第二十冊見返）明治十七年十二月起筆／同三十四年六月修筆／大正四年二月再修筆
（第二十一冊見返）明治十七年十二月起筆／同三十四年六月修筆
（第二十三冊見返）明治十八年十一月起筆／明治三十四年壱月修筆
（第二十七冊見返）明治十七年十二月起筆／同三十五年七月修筆
（第二十八冊表）明治十八年七月起稿
（第二十九冊表）明治十七年甲申／十二月廿六日
（第三十冊表）明治十九年十月四日／明治三十三年七月再修
（第一冊表見返）（朱書）故推井小三郎氏ハ郁五堂ト号シ二十年ヲ費シ／テ京都叢書、京都坊目誌ノ編著アリ／此山城國地誌三十一冊モ同氏自筆稿本ニシ／テ未刊行、學界未知ノ書ナリ、同氏ハ繪ヲ／川端玉章氏ニ学ベリ、／昭和十七年十二月　清野謙次記
（二九一・四―イ四一）

大和國中獨案内　一冊　二八〇

自跋　袋綴　黒表紙　二一・五糎一五・五糎　十四行　十三丁　題簽左肩雙邊書名同（平假名附訓）　副題簽中央雙邊色紙「（大和名所名を記す）」　柱刻「（丁數）」
刊記　延寶六年三月廿一日／板本　町　町上ル町加兵衛
識語　持主中ノ條儀兵衛／御覧次第持主方へ御返シ可被下候　以上（墨印）
（二九一・四―イ五九）

洛中洛外御修復所寺社繪圖　寫　三十四鋪　二八一

折畳　約三〇糎約一八糎　全寸不同　箱書書名同
（江戸時代中期寫　彩色を施す　二九一・四―イ八九）　所収次の如し
愛宕山惣繪圖　比叡山惣繪圖　比叡山横川惣繪圖　比叡山東塔惣繪圖　日吉山王惣繪圖　平野惣繪圖　南禅寺東照宮幷御社繪圖　西山善峯寺惣繪圖　仁和寺惣繪圖　連華王院繪圖　藤森社惣繪圖　泉涌寺惣繪圖　大佛殿惣繪圖　西岩倉金藏寺惣繪圖　知恩院御門跡御殿惣繪圖　知恩院惣繪圖　石清水八幡宮總繪圖　上賀茂社惣繪圖　北野神社惣繪圖　貴布禰惣繪圖　鞍馬寺惣繪圖　下鴨河合惣繪圖　嵯峨法輪寺惣繪圖　昭高院御門跡御殿惣繪圖　吉田宗源殿繪圖　東福寺塔頭南明院惣繪圖　東寺惣繪圖　梅宮惣繪圖　大山崎離宮八幡惣繪圖　祇園惣繪圖　教王護國寺惣繪圖　清水寺惣繪圖　今宮惣繪圖　某社惣繪圖

洛陽名所集　十二巻　十一冊　二八二

山本泰順著　万治戊戌八月日自序　袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様縹色行成表紙　二七・五糎一八・五糎　十一行　挿畫（巻一）九頁分　（巻二）十頁分　（巻三）七頁分　（巻四）八頁分　（巻五）一頁分　（巻六）四頁分　（巻七）六頁分　（巻八）十頁分　（巻九）十頁分　（巻十）六頁分　（巻十一）五頁分　（巻十二）六頁分　題簽後補雙邊「（書名同）一（―一一）」　綴目「一（―十二陰刻）（丁數）」、「蘆舟文庫」「高木家藏」
刊記　（木記）万治元歳戊戌仲秋吉辰／板司仁兵衛尉幸之刊
（第十一冊は巻十一・十二を合綴　二九一・四―イ六）

和州吉野郡繪圖　寫　一鋪　二八三

折畳　共表紙　二七糎一六糎　全寸二米五八糎一米六三糎　題簽中央「和州吉野郡中繪圖」
（元祿期寫　山・道・間歩口・岩屋・村・戸津川・水・國を色別に標識せり　二九一・四―イ四九）

○

西海道名所圖會二編　寫　四卷　五冊　二八四

曉鐘成著　松川半山畫　袋假綴　共表紙　二七・五糎二〇糎　四周單邊二一糎一五糎　十三行小雙行　挿畫(第一冊)二十四頁分　(第二冊)三十六頁分　(第三冊)十二頁分　(第四冊)四十五頁分　(第五冊)三十二頁分　外題中央「(書名同)　卷之一(—四下)」、「本山文庫」「高木家藏」等

(版下本　奥に「攝都　鷄鳴舍曉鐘成編輯／仝　松川半山霞居畫圖／西海道名所圖會三編　右同作嗣出／都名所圖會拾遺大成右同作近刻／攝津名所圖會拾遺大成右同作近刻」とあり　第一冊裏見返「但し此摺本御幸便ニ／御返却可被下候」と朱書　三九・五—イ二)

○

唐津名勝詩　寫　一軸　二八五

井子圭詩　元祿辛未之冬臘月二十五日井子圭序　元祿四龍輯重光協洽除月除日奥東尹序　元祿四歲次辛未除日土子俊歎　卷子本　表紙闕　用紙裏打　二九糎二一米四〇糎　一紙一米三一糎

奥書　元祿十一戊寅年涂月二十九日應／幼君利實公之佳需書而獻之且使紀有節／詠和歌附各題之下　東江子奥五窪(印)

(唐津名勝詩歌十二篇を各彩色圖景に題せり　三九・六—イ三)

客豐圖志　寫　七篇　七冊　二八六

河田小龍著　自筆　自畫　武市正輝・吉井新・埜村治・田中嚮・內畠獲校　明紀甲午夏五自跋　明治二十七年平安河小龍附言　袋綴　黃茶色表紙　用紙薄樣　間紙を挾む　二三・五糎一六糎　題簽左肩絹地「(書名同)　日(月・火・水・木・金・土)　雨莊居士署(印)」　附言內題「墨雲洞客豐圖志」

奥書　明治二十七年第五月／幡山七十一叟河小龍寫(印)

(第一冊卷初に本書を天覽に供したる旨の十月卅一日大本營主殿頭山口定正の河田小龍宛書狀を模寫して出す　三九・六—イ九)

出嶋阿蘭陀屋舖景　一鋪　二八七

用紙裏打　四二糎五七糎　四周雙邊四〇・五糎五五・五糎　右上部橫題書名同

刊記　長崎勝山町　豐嶋屋文治右衛門板

(手彩鳥瞰圖　文中「寛永十八辛巳より安永九庚子年迄百四十五年に成る」との文あり　三九・六—イ二)

豐後風土記　寫　一冊　二八八

袋綴　澁刷毛目表紙　二八・五糎二〇・五糎　九行十八字小雙行　十丁遊紙一丁

外題後筆中央書名同　內題「風土記　豐後國」、「松崎保之」等

(江戶時代中期寫　原に「寫本云永仁五年貳月十四日書寫畢／同十九日一校了」「文祿四乙未年臘月三日書寫校合等了／梵」と奥書あるものの寫　ビブリア第七號所收秋本吉郎「豐後國風土記の傳來における天理本」—參照　三九・六—イ三)

琉球國志略　十六卷首一卷圖繪一卷　十冊　二八九

周煌(清)著　唐袋綴　改裝後補藍納戶色表紙　間紙を挾む　三〇糎一八糎　原寸二五糎一六・五糎　四周雙邊一九糎一三・五糎　有界九行二十一字小雙行　挿畫三十四頁分　柱刻「琉球國志略　(卷數)　(篇名見出)　(丁數)」

刊記　(扉)(四周雙邊黃紙)　乾隆己卯年刊／琉球國志略／漱潤堂藏板

(三九・六—イ二)

續琉球國志略　五卷首一卷　六冊　二九〇

齊鯤(清)著　費錫章(清)編　唐袋綴　改裝後補藍納戶色表紙　間紙を挾む　三〇糎一八糎　原寸二五糎一六・五糎　四周雙邊一七・五糎一一・五糎　有界七行二十字小雙行　柱刻「續琉球國志略　(卷數)　(篇名見出)　(丁數)」

(前揭「琉球國志略」と同帙　三九・六—イ二)

○

蝦夷巡歴圖巻　寫　四帖　一九一

折本　薄茶色綾張厚表紙　二六糎一九糎　題簽中央銀紙「（書名同）　元（享・利・貞）」内題なし、「由比」「高木家藏」
奥書　由井演貞藏（印）
識語　（附箋）（ペン書）由比善兵衛演貞／世任佐倉堀田侯演貞爲年寄明治十五／年頃歿
（彩色を施す　三九一・七―イ五）

蝦夷圖説　寫　一帖　一九二

〔田中金銀軒〕著　長谷川雪貢畫　折本　朽葉色絹地厚表紙　雲母引折帖両面に貼附　三〇糎二一糎　本紙見開二七糎二九糎　挿畫八十一個　内題なし、「清野文庫（紙票）」
識語　蝦夷圖説之一巻者蒙／官之彼地奉勤東都金銀軒田中氏之藏書ニ而息伊介／成ル仁ト多年之至信友仍而乞求或日南窓巻開ク折柄／言信ル仁者故備陽雪舟僧ヨリ十四代之孫長谷川雪貢／子ニ侍（中略）文政元年寅九月末九日甲子吉辰　東都本郷／市明堂／山中智宣記之（印）
（三九一・七―イ三）

蝦夷島奇觀　寫　十三帖　一九三

秦檍丸著　寛政十二年秋八月既望自序　折本　朽葉色表紙　二七・五糎一九・五糎
題簽中央「（書名同）古説部一（禮部二・昏禮部三・居家部四・器械部五・熊祭部六・漁獵部　地圖部）七・膃肭部八・□九・雜部十・諸外部十一・唐太部十二・三邑圖／附録」
（江戸時代末期寫　着彩圖多し　三九一・七―イ二）

蝦夷島奇觀　寫　一冊　一九四

秦檍丸著　自序　袋綴　黒表紙　二六・五糎一七・五糎　十三行　三十二丁　殆ど毎葉上部に本文下部に着彩挿畫　題簽左肩雙邊（刊）「（書名同）全」、「小野寺藏書印」「高木家藏」
（鳳谷小野寺謙筆「蝦夷奇觀附録」六十八丁及び折畳二二糎一六糎の安政二年刊仙台鳳谷小野寺謙著「蝦夷海陸路程全圖」一鋪を附す　三九一・七―イ三）

三航蝦夷日誌　寫　七巻　二冊　一九五

松浦竹四郎著　嘉永庚戌三年玄猪前二日自序　袋假綴　共表紙　二八糎一九・五糎　細字二十行　挿畫（上冊）四十頁分　（下冊）五十頁分　外題左肩「（書名同）（自一　但シ原本巻至四　付ケ誤リアレド其順序如此）（自五至七）」、「栗田氏藏」
識語　（巻二末）（朱書）元治二年乙丑四月七日一校　寛
（巻四末）（朱書）元治二年乙丑四月八日校閲　栗草廬
（巻七末）（朱書）慶応紀元乙丑五月五日校了　栗草庐
（表紙右肩「甲九下」とあり　箱に紙箋貼附「松浦武四郎稿本ゟ／直寫本／二冊」とあり　巻一内題の次行「五十瀬　雲津　松浦弘著」とあり　三九一・七―九）

千島異聞　寫　一冊　一九六

烏有山人著　栗田寛筆　甲申冬日自跋　袋綴　青布目表紙　間紙を挟む　二七糎一八・五糎　十行　四十六丁　題簽左肩雙邊（刊）書名同
奥書　嘉永七年甲寅七月廿八日寫了　栗田寛
（三九一・七―イ三）

東遊記　寫　一冊　一九七

平秩東作著　甲辰初夏自序　袋綴　澁引横縞模様表紙　二七・五糎一八・五糎　十二行　四十九丁　題簽左肩「（書名同）完」、「松鳩文庫」
（表紙左下に小津桂窓筆朱書「二百九」「こ」とあり　瀧澤馬琴筆朱書校合あり　後二十丁分東遊記附録　三九一・七―イ七）

東遊記　寫　一冊　一九八

平秩東作著　甲辰初夏自序　袋綴　澁刷毛目表紙　二七・五糎一八・五糎　九行　六十三丁　題簽左肩薄青紙「（書名同）（蝦夷記　平秩東作著）」、「待賈堂」「江戸四日市古今珍

書倫達磨屋五一」「高嶋書屋」「清野文庫（紙票）」
（江戸時代末期寫　後二十六丁東遊記附録　二九一・七―一九）

邊要分界圖考　寫　七卷　七冊　二九九

近藤守重著　文化元年甲子十二月二十二日自序　袋綴　薄鼠色表紙　二六・五糎一九糎　十一行　題簽左肩「（書名同）一（二三・四・五上・五下・六七）」、「本間」「蒼軒文庫」「神田家藏」
（江戸時代末期寫　附圖着彩　二九一・七―一七）

朝鮮地誌

朝鮮八道地輿圖　一冊　三〇〇

袋綴　改裝後補唐紙茶色表紙　八糎三二糎の臺紙に三八糎五八・五糎の地圖十葉を見開きに貼附
刊記　（第一葉天下總圖）浮雲墨客板寫
（二九一・九―三）

中國地誌

貴州苗寨圖　寫　一帖　三〇一

唐折本　板表紙　三八・五糎二四糎　四十折　題簽左肩無記　前表紙見返黄紙附箋貼附「貴州苗寨圖」
識語　（前表紙見返附箋）于時山東之地俗昇民／逸雖預編氓未行聲教／詔公持節爲河北河南／道安撫大使仍賜米五／百石絹五百匹公安輌軒／布政美冠皇華之篇擁／節觀風榮甚繡衣之使／事訖反命授尚書左丞／然并州地處參墟城臨／晉水作固同於西蜀設／險類於東秦寔山河之／要衝信蕃服之襟帶授／公并州摠管府司馬／譙如二兄大人雅正／弟張登灝（印）
（彩色地形圖上に哨寨圖を記し、各署名を小箋に記して貼附　二九二・二―一三）

欽定河源紀畧　寫　二卷　二冊　闕　三〇一

乾隆四十七年勅撰　唐袋綴　雲文黄綾表紙　三二糎一九糎　四周雙邊二一・五糎一四・五糎　八行二十一字小雙行朱罫紙　題簽左肩雙邊「（書名同）紀事二」（第二冊闕）　柱心白口「欽定河源紀畧紀事　（丁數）」
（清内府鈔本　卷二十七・二十八計二卷を存す　二九二・二―一三五）

大清一統志卷第百八十一　寫　一冊　三〇二

乾隆二十九年勅撰　唐袋綴　茶色唐紙表紙　四〇糎二二・五糎　左右雙邊二二糎一四・五糎　十行十九二十字小雙行朱罫紙　柱心「（書名同）（丁數）」
（清内府鈔本　第一葉紙背上部綴代の部分に「卷一百八十一　西安府五十八頁四萬二千九十字」とあり、又各葉下部に書寫字數を記入せり　紙紐にて上下二箇所を綴ぢたる假裝本　卷中校訂の文字を記したる竹紙附箋を貼附す　二九二・二―一五）

大明九邊萬國人跡路程全圖　一鋪　三〇三

折畳　紺表紙　二一・五糎一五・五糎　全寸一米二六糎一米二〇糎　四周單邊八七糎一米一三糎、「西莊文庫（小津桂窓筆）「波」と墨書せる紙箋に捺印」」
刊記　（畫面右下）大明京省九邊外國府州縣路程圖／本朝帝鑒書坊／梅村白彌重梓
（筆彩版　畫面上部に「萬國大全圖説」の記事ありて「皆康熙二年癸卯上元吉旦姑蘇王君甫刊」と原刊記あるものの覆刻本　二九二・二―一九）

〔大明國圖〕　寫　一軸　三〇四

掛軸　淺黄色表紙　一米八〇糎　原物絹面　全寸一米三五・五糎一米七四糎　内題なし
（淡彩色を施す　大阪學藝大學紀要昭和三十二年第六號所収海野一隆「天理圖書館所藏大明國圖について」―參照　二九二・二―二九）

地圖綜要　六冊　二〇六

朱國達・吳學儼・朱紹本・朱國幹(明)共編　李釜源(明)鑒定　朱紹本序　乙酉夏五朱國達序　乙酉孟夏朱國幹序　唐袋綴　改裝朽葉色表紙　用紙竹紙　裏打　二五糎一七糎　四周單邊二一糎一四糎　有界十行二十七字小雙行(又は十四行大字數不定小雙行低二格三十八字)　地圖(第一冊)二十二頁分　(第二冊)二十五頁分(第三冊)二十五頁分　(第四冊)三十四頁分　(第五冊)七十九頁分　(第六冊)六十八頁分　柱刻「(書名同)　(内容見出)　(丁數)　(卷數)」　(明版　二九二・二―イ二)

籌海重編　十二卷　六冊　二〇七

鄭若曾(明)原著　鄧鐘(明)重編　萬曆壬辰秋望費堯年後序　〔鄧鐘〕後序　唐袋綴　改裝後補紺表紙　二七糎一七・五糎　四周雙邊二一糎一五糎　有界十二行二十二字小雙行二十二字　柱刻「(書名同)　卷之一(―十二)　(丁數)」、「程氏家藏」　(明版　ビブリア第十二號所収金子和正「籌海重編の紹介」―参照　二九二・二―イ九)

南河成案　五十四卷上論二卷續編一百六卷　首一卷續篇三十八卷　百三十四冊　二〇八

唐袋綴　茶色表紙　二六糎一六・五糎　左右雙邊二〇・五糎一四・五糎　有界九行二十二字　題簽左肩雙邊「上諭」・「(書名同)　雍正四年至十三年(―乾隆五十六年)　(南河成案續編)」　柱刻白口「南河成案　(卷數)　(丁數)」　(續編)「南河成案續編　(卷數)　(内容見出)　(所収年紀)　(丁數)」　(上諭―乾隆元年至五十七年、成案―雍正四年至乾隆五十六年、續編一百六卷本―乾隆五十七年至嘉慶二十四年、續編三十八卷本―嘉慶二十四年至道光十三年の記事を収む　二九二・二―イ七)

游名山一覽記　十六卷　十六冊　二〇九

何寶崴(明)編　愼蒙(明)增編　萬曆四年歲在丙子秋九月愼蒙序　唐袋綴　茶色表紙　二六・五糎一七糎　左右雙邊一九糎一三糎　外題左肩墨「(書名同)　一(―十六止)」　内題(第一卷)書名同　(第二卷以下)「名山巖洞泉石古蹟」　柱刻「名山記　(卷數)　(丁數)　(字數)　(刻工名)」、「林氏藏書」等　(明版　内題次行に「吳興歸安山泉愼蒙增選／校梓第二卷以下は同「編選／校正鋟校」とあり　刻工名―仇　言　盧奎　許亨　黃惟信　黃惟明等　二九二・二―イ七)

ヨーロッパ地誌

浪の音つれ　寫　一冊　二一〇

高嶋眞著　文久三年癸の亥むつきのはしめ源久序　袋綴　薄茶色表紙　間紙を挾む　二七糎一八・五糎　十行　挿畫十二頁分　題簽中央雲紙書名同　奥書　于時元治元年／甲子初秋中澣寫之　(文久元年遣歐使の一員たりし著書が、その旅中父に宛てたる書翰集　二九三―イ三)

社會科學

外交

外蕃通書　寫　二十七卷　六冊　一三一

近藤守重著　袋綴　澁刷毛目表紙　二六・五糎一八・五糎　九行　題簽左肩單邊(刊)小津桂窓筆「(書名同)　卷一之五(一卷第廿三之廿七)　一(一六止)」、「西莊文庫(小津桂窓筆「花五十四全六」と墨書せる紙箋に捺印)」

(片假名交り　三六一イ)

刑法

祥刑要覽　一冊　一三二

吳訥(明)著　正統壬戌秋八月朔白序　景泰辛未夏大耄翁(自)後序　袋綴　丹行成表紙　二九糎二一糎　四周雙邊二二糎一・六五糎　十行十八字小雙行　三十九丁　外題左肩墨「寛永元年活字版祥刑要覽　完」　柱刻黑口「祥刑(序)(丁數)」、「緑静堂圖書章」「三井家鑒藏」等

識語　(表見返)　率菴藏

刊記　寛永元年甲子三月吉日／玉屋町田中長左衛門刊之

(古活字版　表紙外題下に金泥にて「杉原心齋旧藏」とあり　三三一イ三)

古代法制

公武御触書写　寫　一冊　一三三

袋假綴　澁刷毛目表紙　三〇糎二三糎　約九行　四十九丁　外題中央書名同　内題なし、「水谷川家藏書印」

(表紙左下に外題同筆「家司詰所」とあり　元祿七年十一月至享保六年四月與福寺春日社に関する御觸書書留　三六一イ七)

令集解考　寫　二卷　一冊　一三四

荷田春満著　自筆　袋綴　青表紙　二六・五糎一九糎　十三行　六十四丁　題簽左肩後補紅紙「令解　全」　内題巻初「令集解巻第一考」とありて以下「令集解巻第二」「職員一坤紙官條太政官條」荷田宿禰春満考」「令第二凡八十條」「令義解巻第二　荷田宿禰春満考」「令義解劄記」の諸項目を収む、「椎本文庫」

(三六一イ九)

類聚三代格　寫　六卷　六冊　闕　一三五

袋綴　雲紙包表紙　用紙鳥の子　二八糎二二糎　十行　題簽中央金砂子散「(書名同)　一(一・五・七・八・十二)」、「水谷川家藏書印」

(江戸時代中期寫　卷二・四・六・九至十一闕　原に卷一「文永三年二月廿八日以原武／衛奉政之本書写點挍了／本奥云安貞二年正月七日書写了／圖書少允豊原奉重／同十日委點了」、卷三「文永三年正月十九日以原武衛／奉政之本書写點挍畢／本奥云越州刺史平／安貞二年三月十五日書写畢」、卷五「文永三年十月三日以原／内武衛之本書写挍合／畢／越州刺史平／本奥云安貞二年四月九日書写了／圖書允豊原奉重／同十三日委點了」、卷七「加點畢　音博士清原」、卷八「文永六年六月十七日以原武衛／奉政之本書點挍合了／越州刺史平／本奥云安貞二年十一月十三日書写了／右衛門少尉豊原奉重同十二月／九日委點了」と奥書あるものの寫　朱墨諸點書入あり　三六一五)

○

延喜式　寫　四十八卷　二十四冊　闕　一三六

藤原忠平等奉勅撰　梵舜等筆　藤原忠平序　(各卷末)　延長五年十二月二十六日　阿部宿禰忠行等奥　袋綴　茶色表紙　二八糎二〇・五糎　十行約十六字小雙行　題簽左肩梵舜筆「(書名同)　卷一之二(一四十九之五十終)」、「隱顯藏」等

奥書　（巻一）（梵舜筆）元和二八十四筆立　同卅日書終
（巻五十）右延喜式五十冊遂全部之功此内予／十一冊書畢尤可謂至寶者也／元和二年十一月十一日　神龍院梵舜（花押）
梵舜筆　元和二　十一　七　書寫挍大方了
識語　享保十九年八月日遂一見之畢　卜（花押）
（巻九・十神名帳闕　本文同時代の數筆を交ふ　朱墨諸點訂補書入あり　三八・一―イ一九）

延喜式　四十二巻　四十二冊　闕　三七

藤原忠平等奉勅撰　寛文七年十二月廿六日松下見林跋　慶安元年戊子林道春跋
袋綴　縹色表紙　二七糎一九糎　四周雙邊二一糎一六糎　八行十八字小雙行　題簽左肩雙邊「（書名同）神紙九神名上（一雜式）九（一―五十）」　柱刻「延喜式巻九（一―五十）（丁數）」、「森氏」
識語　（狩谷望之筆朱書　以下同）（巻九）九月廿二日挍
（巻十）九月廿四日讀
（巻十二）十月十七日挍
（巻十三）十月廿日挍了
（巻十四）十月廿二日挍了
（巻十五）十月廿二日讀
（巻十七）十月廿七日挍讀
（巻十八）十一月十二日挍
（巻十九）十一月十七日挍
（巻二十）十一月十七日挍
（巻二十一）十一月廿二日讀
（巻二十二）十一月廿七日挍
（巻二十三）十一月廿七日挍
（巻二十四）十二月二日挍
（巻二十五）十二月二日
（巻二十六）得一本挍合了寛政六年六月十三日　眞末
十二月二日挍
（巻二十七）十二月七日
（巻二十八）十二月七日挍
（巻二十九）十二月七日
（巻三十）十二月七日
（巻三十三）十二月十七日挍
（巻三十四）十二月廿二日
（巻三十五）十二月廿二日挍
（巻三十七）二月十二日讀
（巻三十九・四十・四十一）二月廿七日
（巻四十二）得一本挍合了／寛政甲寅年五月廿六日　真末
（巻四十六）三月二日
（巻五十）以塙保己一京都所得本及出雲松江新刻本挍
文政十二年三月十二日挍讀了　望之
以淀城主藏本挍今挍注云一本者是也
戊丑年十一月十四日狩谷望之
（巻九至五十を存す　慶安元年版後刷本に巻九「写本云此上下両巻蒙　勅命仰嫡孫兼満終書寫之功致挍合早／文亀三年十二月廿六日　神道長上従二位行神祇大副兼侍従卜部朝臣兼倶」「卜家本云文明十三年十二月令修補訖　兼倶」「天文元壬辰年八月廿七日云悪筆云老眼一向雖無正躰兼隆朝臣従／田舎懇望之間令書寫訖／正三位行神祇大副卜部朝臣兼永」、巻十「文明十三年十二月修補訖　兼倶判」「天文二年三月廿六日兼隆朝臣従駿河國所望之由申上候条／書写之挍合今日終／神祇大副卜部朝臣兼永印」、同巻本文奥書文亀三年の右に「二條家本京本同此上下両巻蒙　勅命仰嫡孫兼満終書寫之功致挍合畢」（以上朱書）、巻二十六「写本（此二字朱書）本云　右者顯川氏雅昵甚依懇望數冊／遂書写送之急〻之条粗誤可有／之矣／貞享五辰天仲夏末九　参議左大辨従三位藤原俊方」（以上墨書）とある奥書本を以て校合　本文朱墨校合書入多し　三八・一―イ一九）

延喜式巻十二　寫　一軸　三八

藤原忠平等奉勅撰　巻子本　改装後補鳥の子表紙　用紙裏打　二九糎三米五三糎
一紙四八糎　天地單邊二三糎　二十六行小雙行　題簽後筆「延喜式中務省」
（鎌倉時代中期寫　前後闕　略々本文に同時代筆朱點を施す　三八・一―イ二）

延喜式神名帳　寫　二軸　三九

藤原忠平等奉勅撰　巻子本　（巻九）改装後補華文赤地錦表紙　二九糎二二米四五糎　天地單邊二四糎　題簽後補金紙「延喜式巻第九神名帳」　内題「延喜式巻第九」
見返に（別紙〔兼倶筆〕）「神名帳上」及び所収國名を記せる紙片を貼附　（巻十）改装後補栗皮色表紙　二九糎二六米七〇糎　天地單邊二四糎　題簽「神名帳下（巻九見返に同筆）」　内題「延喜式巻第十神祇宮十」　見返に巻九に同筆にて所収國名を記せる紙片を貼附、「吉田家藏書記」
識語　（巻九）文明十三年季冬仲旬／加修補早／従二位侍従卜部兼　（花押）（兼倶）
（巻十）文明第十三歴季冬十八日／加修補早／従二位侍従卜部朝臣兼（花押）（兼倶）
（鎌倉倉時代初期寫　裏書に本文同筆にて「風土記」『正治二年十月三日南明決遠

宮沙汰記」「建仁元年八月在廳注文」を引用せるものあり　初裝は巻子本、次に文明十三年兼倶により二二・五糎の折本に改裝、更に再び巻子本に改め、次に一九糎の折本に改裝、更に現巻子本に及べり　大正十五年國學院雜誌「延喜式記念展覽會」—參照　三六・一—七（重文）

延喜式神名帳　寫　二冊　一三〇

藤原忠平等奉勅撰　賀茂清爲筆　延長五年十二月二十六日阿部宿禰忠行等奥　袋綴　薄茶色表紙　二六・五糎二〇糎　八行　題簽左肩紅紙「神名帳　乾（坤）」内題「延喜式卷第九（十）　神祇九（十）」

奥書　（乾）天正第十六九月上旬從五位下賀茂縣主清爲（印）

（坤）天正十六年季秋上旬　從五位下賀茂縣主清爲（印）

（原に乾冊「天文元辰年八月廿七日云惡筆云老眼一向雖無正躰兼隆／朝臣從田舍懇望之間令書写訖／正三位行神祇大副卜部朝臣兼永」、坤冊「天文二年三月廿六日兼隆朝臣從駿河國所望之／由申上之条書写之挍合今日終／神祇大副卜部朝臣兼永」と奥書あるものの寫　朱點書入を施す　三六・一—三）

延喜式神名帳　寫　二冊　一三一

藤原忠平等奉勅撰　梵舜筆　袋綴　茶色表紙　二六・五糎二一糎　四周單邊二二糎一七糎　八行　題簽左肩「（書名同）上（下）」内題「延喜式卷第九（十）」、「隱顯藏」「神陽臺」

奥書　（上冊）以秘本一字不違書之畢／天正十七年十一月九日　梵舜（花押）

同十二月廿一日校合了（以上同筆朱書）

（下冊）（梵舜筆）神祇大副卜部朝臣

（下冊末に「兼右」の花押を墨書したる別紙紙片を貼る　三六・一—三）

聖德太子憲法　寫　一冊　一三二

聖德太子著　袋綴　茶色表紙　二八糎二一・五糎　四周單邊二二糎一七・五糎　有界八行十五字　五丁　題簽左肩丹紙「太子憲法」　内題なし

（室町時代中期寫　略々本文に同時代筆訓點を施す　三六・一—一五）

聖德太子憲法抄　寫　一冊　一三三

二條良基著　袋綴　改裝後補雲紙表紙　用紙裏打　二六・五糎二二・五糎　十行十八丁　内題「聖德太子憲法」

識語　此注本云永和元年八月一日自大閤被遣大樹大閤御筆作梁瑛清／書云々／大永八年三月八日如此奥書以證本令挍合以朱墨直付者也

（室町時代中期寫　朱書校合を施し更に抄の語を注せる所多し　三六・一—七）

職原抄　二卷　合一冊　一三四

北畠親房著　袋綴　薄鼠色表紙　三〇糎二一糎　四周單邊二五・五糎一六・五糎　八行十七字小雙行　九十九丁　外題後筆中央書名同　柱刻黒口「職原抄（丁數）」

刊記　（扉見返）（四周雙邊木記）職原鈔慶長／己亥季夏刊

識語　右百官一卷北畠准后公答或問官位拜敍／之次第也世題以職原抄及明職官位抄等／名又加以准大臣篇及後附者皆後人之妄作／矣世間有單題百官二字而無准大臣篇及後／附者然各官下仍注本位及唐名則似非准后／公之舊焉又其間有文不可解及事重復者／余以爲疑久矣友人源孺皮得一摺紳家所傳／之古本而見示其文簡潔不重復而文無不可／解者而又各官下不注本位及唐名是爲准后／公舊無疑因今手繕寫以藏云／安永八年歲次己亥長至日　左京藤原貞幹／源孺皮所藏百官古本詳其紙色三百年外所寫矣／明和二年乙酉夏日挍合實可謂百官舊本／百官舊本中院殿藏本也有故歸孺皮之家此餘諸／書亦同散出爲諸家之藏可嘆ゝゝ　貞幹／右以藤子冬挍本訂之且跋文等書寫訖／錦所　藤以文

件本往年先考被繕写之處去嘉永度／令燒失之間再以藤先生之本令挍訂早／尚後日可遂淨書者也／萬延元年八月十二日　明德博士　中原（花押）

（勅版　第四十五丁末に以上上巻とあり、次丁より丁附を改めて第一より始む　下巻第十五丁影補寫　古本異本を以て朱書校合記事多し　三六・一—七）

○

東の春　寫　一冊　一三五

成島司直著　文政十とせ秋立ける日補記自奥　攝津守紀正敦跋　袋綴　澁刷毛目

布目表紙　二四糎一六・五糎　九行小雙行　三十六丁　題簽左肩雙邊（刊）瀧澤馬琴筆「（書名同）上下」　内題なし、「瀧澤文庫」
（表紙左下に小津桂窓筆朱書「た」　三六・二―イ三）

御目附方年中行事　寫　一冊　二三六

袋綴　長帳假綴　共表紙　一五糎三六・五糎　五十一丁　外題中央「年中行事」右肩に「蓋紙并奥」左下に「御目附方」　内表紙中央書名同上　左右に「文化五年／四月改」左下に「御目附方」、「清野文庫（紙票）」
（内表紙見返に「此行事後年御改／格等相成候節不同無之様／相記可申事」とあり　三六・二―イ三）

關東御成敗式目　寫　一冊　二三七

貞永元年七月十日沙弥淨圓以下至相模守平朝臣時房起請連署　綴葉裝　焦茶色牡丹唐草文緞子表紙　用紙雲母引　二七糎二一・五糎　十八行十八段桝目押界五行五十丁　題簽中央金紙書名同
奥書　右御所望書之／誤多可有之者也／寶永三年戌九月日
（題簽書名右に「幸隆筆」とあり　三六・二―イ九）

御成敗式條　寫　一冊　二三八

貞永元年七月十日沙弥淨圓以下至相模守平朝臣時房起請連署　袋綴　共表紙　二六・五糎二〇・五糎　七行小雙行　三十丁
奥書　文明十七年五月八日　主千代松丸（主以下五字墨にて消す）
（三六・二―イ五）

御成敗式目　一冊　二三九

貞永元年七月十日沙弥淨圓以下至相模守平朝臣時房起請連署　袋綴　改裝後補丹行成表紙　二七糎一九・五糎　四周單邊二〇・五糎一六・五糎　七行十六字　三十丁　内題「御成敗式目貞永元年八月十日」　柱刻「式目（丁數）」
刊語　前略余因以／此書始鏤于板庶幾上下／專祭祀之礼左右抱勸懲／之志至尋偏傍推點畫頗／施於新學而已／大永甲申冬十有二月良辰／正五位上行左大史兼算博士小槻宿祢伊治
（室町時代末期筆朱墨諸點書入多し　三六・二―イ五）

御成敗式目　一冊　二四〇

貞永元年七月十日沙弥淨圓以下至相模守平朝臣時房起請連署　袋綴　紺表紙　二七・五糎二一糎　左右雙邊二一糎一八糎　有界七行十四字　三十三丁　内題「御成敗式目貞永元年八月十日」　柱刻黒口「式目（丁數）」、「殘花書屋」等
刊語　此書迺万代不易之法也故加清家／點以重鋟諸梓矣蓋爲俾夫愚蒙輩／易讀也苟易讀則通理速通理速／則犯法者稍少豈非師道少補乎／抑鄉有先生村有夫子而時習之／学日新予寧爲之哉博雅君子／庶幾諒察焉／享祿己丑秋八月　日／從四位下行左大史兼算博士小槻宿祢伊治（刻印）
（三六・二―イ七）

御成敗式目　寫　一冊　二四一

貞永元年七月十日沙弥淨圓以下至相模守平朝臣時房起請連署　袋綴　茶色表紙　二七糎二三糎　六行　四十丁　題簽左肩「□敗□目」
識語　此一帖先年令書寫之早然而今／根來寺春宗御持來候間乍憚依所望／加奥書者也／天正四年林鐘廿七　法印榮弘（印）
（裏表紙）本主勇助
（三六・二―イ三）

御成敗式目註　寫　一冊　二四二

昌信筆　袋綴　茶色行成表紙　二三糎一八糎　八行十六字小雙行　五十八丁　外題中央「式目註」　内題「御成敗式目貞永元年八月十日」、「西莊文庫（小津桂窓筆「花百九十六全二」と墨書せる紙箋に捺印）」
奥書　雖爲無双之悪筆自本之間寫之畢字之／誤無限殘儀云々／天文廿四季癸卯五月十八日書之　持主昌信
（三六・二―イ二）

貞永式目抄下　一冊　二三三

清原宣賢（環翠軒宗尤）著　天文三年閏正月廿八日自跋　袋綴　改装後補栗皮色表紙　二八・五糎二〇糎　四周單邊二二・五糎一七糎　十三行二十三至二十八字　四十一丁　内題なし　柱刻黒口「式目抄　下（丁數）」、「殘花書屋」

（古活字版　寛永期刊　片假名交り　三八・二―イ九）

貞永式目追加　寫　一冊　二三四

藤本箕山筆　袋綴　薄卵色表紙　間紙を挟む　二七・五糎二〇糎　六行　二十二丁　外題左肩後筆「古書御式目　書本」　内題「追加」

奥書　右此式目追加一冊者以花山院耕雲明魏御俗名長親卿／自筆御本書之朱墨之點真名假名共不違一字／寫之者也殊明魏老人御奥書并有詠哥寔希代／之珍宝後世之明鑑也依貴命凌老眼染禿筆畢／貞享戊辰正月中浣　呑舟軒箕山／（印）

識語　開大傳文庫攬出書之次有一冊記録／即覽之者式目追加也花山明魏法師書／焉而後令詠和哥誠希有之珎物歟故芳借／之誂毘近隱士令寫之且加奥書爾　最秘／深函而已／貞享五年正月／旬從四位上藤（花押）

（原に「此書爲救乱離之餘弊一旦定人心／之覇術也　今依　台命加朱墨之點／之次詠一首和歌以寫感情云／昔こそ見てしのはるれ世のためにさためてをきし／露のことの葉／耕雲山人明魏拜書」と奥書あるものの寫　本文末に貞永元八月八日駿河守殿宛武藏守泰時の書狀一通を并せ寫す　三八・二―イ七）

○

官職便覽　寫　五十五巻　六十六冊　二三五

中原職忠著　自序　袋綴　薄茶色表紙　二九・五糎二二・五糎　八行　十八字小雙行　外題左肩「（書名同）序　巻第一（―巻第五十五）」

（江戸時代初期寫　三八・四―イ七）

官職祕抄　寫　二巻　一冊　二三六

平基親著　袋綴　紺布目表紙　二〇・五糎一六糎　十行　四十八丁　題簽左肩「（書名同）　全」　内題なし、「清野文庫（紙票）」

（室町時代末期寫　原に「本書云官職秘抄／此書両巻自彈正臺以後下巻也去正治二年之比兵部卿／三品基親被撰進御室御方秘抄也努ゝゝ／不可令披露之由本主所誡也可慎ゝゝ／不可外見／藏人頭内藏頭藤原隆盛／建武□年八月廿七日書写了」と奥書あるものの寫　三八・四―三）

勳位考　寫　一冊　二三七

橋本直香著　自筆　袋綴　改装後補薄茶色表紙　用紙裏打　二六糎一八糎　原寸二二・五糎一五・五糎　十行　十五丁（内四丁は四周單邊八行罫紙）　内題「勳位の事」、「晩翠□圖書記」

（頭書細注多し　三八・四―イ）

百官付唐名　寫　一軸　二三八

尊圓法親王筆　巻子本　縞小紋薄緑絹表紙　見返銀切箔散　用紙鳥の子　三二糎五米　一紙五〇糎　十一行　三段乃至四段配字

識語　（別紙繼紙）祖師大乘院贈一品／尊圓親王真跡尤可／寄翫者哉／末弟二品（花押）親王記之

（三八・四―イ五）

○

江家次第　寫　六巻　六冊　闕　二三九

大江匡房著　中御門宣胤筆　袋綴　改装後補青表紙　用紙裏打　二五・五糎一九糎　原寸二三・五糎一八糎　十行小雙行　外題左肩「（書名同）三（―八）」、「船橋藏書」「船橋（陰刻）」「清原」「相賢」等

奥書　（巻三）文明十季南呂上旬之候終書写功／補當座自用者也凡名目已下返讀解／所ゝ以假名點之却雖似□□（墨消ママ）蒙昧／偏可謂愚者之一徳也不可有外見也／黄門侍郎藤（花押）

（巻四）文明十年九月廿日卒終書功了臨講尺期／漸ニ写之間只以早速爲基仍所ニ交助筆者也／毎ニ不及挍合於談義席少ニ直付之其誤／猶不可勝計歟重加清書可改正矣／權中納言藤（花押）

（巻五）文明十年九月卅日以諫(ママ)識右大丞／本卒終書功不及挍合但於講／尺席少ニ直付之　權中納言藤（花押）

（巻三至八を存す　原に巻五「本云長祿二載二月廿五日以准后御本令書写之了／參議藤隆量」、巻八「本云正慶二季沽洗廿日以関白家御本／終書写之功了／藤諫議大夫判」と奥書あるものの寫　巻六末に本文同筆「長承元年十二月十九日」とあり　三八・六―ィ一七）

江次第卷十四　寫　一冊　二四〇

大江匡房著　袋綴　澁引包表紙　二六・五糎二一・五糎　十行小雙行　四十四丁

外題左肩書名同　内題なし、「幽顯」「神陽臺」

奥書　藏人左少辨（花押）

（室町時代末期寫　表紙に踐祚下以下大嘗會・大奉幣・大神寶・八十嶋　一代一度仁王會の項目を記すも所収は増訂故實叢書本巻第十五中の大嘗會に該當する部分のみ　三八・六―ィ一九）

笏　大　意　寫　一冊　二四一

大塚嘉樹著　狩谷棭齋筆　袋綴　改装後補茶色表紙　原装共表紙　用紙裏打　十四行　十七丁　題簽左肩雙邊(刊)後筆「(書名同)狩谷望之手寫」　原外題左肩「笏一冊」、「青裳堂藏書」

奥書　右一冊以網正公藏本密々謄／写不可出筐底可秘ニ者／寛政三年瓜期初旬日　真末　拜

（原に「右笏之事依或人求任時々所見抄出之畢素未練／所為努々不可洩窓外者也穴賢／安永十年正月八日　茅園陳夫嘉樹謹言」と自奥書あるものの寫　三八・六―ィ二一）

書札礼事　寫　一冊　二四二

袋假綴　共表紙　二八・五糎二〇・五糎　約九行小雙行　十二丁　外題中央「官位并書札礼」

奥書　天文六年丁酉九月十三日於廳書寫之／屋形宥筆相良中務祖父沙汰之云々

（外題左下に「蓮栖」右下に「學順得業」とあり　原に「得御意難黙止候間おや子物かたりと哉らんを書付候／不可有他見候／永正三年十一月廿七日／三友齋」と奥書あるものの寫　三八・六―ィ一五）

淺　浮　鈔　寫　一冊　二四三

藤原貞幹筆　袋綴　鼠色表紙　間紙を挟む　二五・五糎一八糎　十行　十四丁

外題左肩「淺浮抄　全」　内表紙左肩に「淺浮抄」の文字を雙鈎に記す、「左京藤原貞幹藏書」「清野文庫(紙票)」

奥書　右淺浮鈔一巻寛政七年乙卯孟春傳寫原本／廣橋前大納言殿眞蹟藏本也　左京　藤原貞幹（印）

十七日一挍了以朱傍書者幹今案也（印）

（片假名交り　外題右下に「梨陰藏」とあり　原に「此抄古人之書也虫之爲損失多而／不連續聊捨聚爲覺悟寫殘者也／永正五年三月日　永康入道常乞欤（此七字朱書）沙弥（花押）」と奥書あるものの寫　續群書類從本に「經亮云。万一記」云々の條は本書に經亮云の三字なし　三八・六―ィ二五）

天　文　密　奏　寫　一軸　二四四

藤原定家筆　巻子本　梅小紋薄茶色古裂表紙　見返金銀引雲形　用紙鳥の子　一五糎二米七三糎　一紙一二糎三〇糎　天地金欄にて縁取

（巻初「天文密奏　定家」とありて次行「廿五日天晴」より始まる　三八・六―ィ三一）

内　外　故　實　寫　一軸　二四五

三條公忠・同實冬著　三條西實隆筆　巻子本　共表紙　三〇糎一〇米六〇糎　一紙四三糎　外題「内外固實(秘)」　別筆貼紙「秘内外故実　内公忠公抄　外実冬公抄」

奥書　（巻中）右後押小路内府公忠公抄也　彼自筆本／一覧之次写之不可他見而已　亞相（花押）（實隆）

（巻末）此抄後三條太相國實冬公草本也／一覧次書寫之此篇目外猶故実／条ミ連ミ加載也可潤色敢不可／外見而已／永正第二仲冬上澣（花押）（實隆）
（見返）一挍了
（紙背文書に文亀・永正乙丑等年紀ある桂陽・令禧・性選・徳歓等五山僧或は菅原章長等の自筆詩文稿二十四篇あり　三六・六―イ二九）

左尊く右卑しの説　寫一冊　二四六

木村正辭著　自筆　袋綴　改裝澁格子縞布目表紙　四周雙邊二二糎一二・五糎　十行二十八字詰　柱刻「大八洲學會用紙」綠罫原稿用紙　七丁　題簽左肩書名同
（三六・六―イ三）

〔萬積方圖記〕　寫一冊　二四七

袋綴　改裝後補茶色表紙　二七・五糎一八・五糎　上圖下文　十九丁　内題なし、「清野文庫（紙票）」
（江戸時代初期寫　「臺ニ小袖積様」より「嫁取之時鳥積様」に及ぶ　前後闕丁か　着彩　三六・六―イ二七）

禮服着用記　寫一軸　二四八

中原師象筆　巻子本　改裝後補卵色表紙　用紙裏打　二七糎一米七五糎　一紙四五糎　外題後筆「（書名同）　師象朝臣自筆」　原外題「礼服□記」
奥書　以後小松院勅筆寫留之／訖　享祿第三夏五中旬／中原師象
識語　（巻末別紙繼紙）此一巻曩祖師象朝臣真跡也／披閲之次令打裏紙了／寛永十九年八月日／大外記中原師定
（三六・六―イ三三）

禮服制　寫一軸　二四九

巻子本　改裝後補卵色表紙　用紙裏打　二八・五糎二米九五糎　一紙四四糎　外題「礼服制延喜（以下剝脱）」　内題「礼服制延喜式第六裁之」
奥書　以廣橋亜相之本写留訖于時永正第十六／十有一月上旬之□／大外記中原（花押）
識語　寛永廿年夏六月一見之次加修補了／權大外記中原師定
（「禮服着用記」と同函　三六・六―イ三五）

○

禁中年中行妛畧　寫一冊　二五〇

足利義榮筆　袋綴　薄茶色表紙　二八糎一九・五糎　八行　二十五丁　題簽左肩金切箔散「禁中行事略」、「清野文庫（紙票）」
奥書　右之少冊以正二位卜部朝臣兼敬卿之／正本大望令書寫畢／于時享保十二丁未暦季春下旬／足利左兵衛佐源朝臣（花押）（印）（義榮）書之／家所七左衛門尉殿
（貼紙朱書入多し　三六・七―イ二）

日中行事　寫一冊　二五一

後醍醐天皇著　三井高蔭筆　袋綴　縹色表紙　二八糎二〇糎　十一行　十三丁
題簽左肩單邊（刊）「（書名同）　全」　内題なし、「清野文庫（紙票）」
奥書　右以林崎文庫本寫之加他本讀合畢／天明五年巳十月廿一日／三井高陰
識語　明治四十三年十月廿六日則甲子ノ日社務所之／西窓下ニおゐて午後第二時頃讀了／㐧翁七十略下
（朱書）春のや藏
（原に「右一冊以或人本橋本前黄門筆書写也　讀合畢／有不審之事可尋決／大永七年丁亥林鐘十一日／從三位藤資直在判」「以或人本元祿十年七月廿二夜／於燈下暫時令書寫之早」「元祿十三庚辰年二月晦日書寫早／加首書及傍字者意安覺也」「元祿十六癸未年八月廿一日写留之」と奥書あるものの寫　三六・七―イ九）

年中行事　寫一冊　二五二

卜部兼永筆　袋綴　改裝後補黒表紙　二八・五糎二一糎　八行小儭行　二十丁
外題左肩朱書名同
奥書　永正九年三月廿一日書写挍合早／治部卿卜部朝臣兼永

識語　右一冊兼倶卿息平野神主兼永卿ノ筆跡也一見之次而加證明了ノ元文二年五月十九日ノ銀青光祿大夫拾遺卜（花押）

（原に「永暦元年十一月小十六日辰刻爐下炙龜手書早ノ嚴親入道御往年永久二年六月廿五日晡時以大外記中原師遠本御ノ書寫本今所書寫也式晡大夫敦經而仁安三年四月廿日申刻ノ令書写早雖被秘藏拄所令書寫也以同本挍點早ノ大法師良嚴」「以或人本近注入之朱注是也　仁安三年五月十二日於泉殿所注加之」（此項朱書）、「永正六六十四三条本也墨點事以後押小路内府手跡本大概加之早點無之処数多有之」と奥書あるものの寫　墨書諸點あり　原奥書にいふ如く朱墨注多し　三六・七一ウ―五）

年中行事　寫　一冊　二三三

後醍醐天皇御撰　袋綴　澁引檀紙表紙　二七・五糎一九糎　十行　八十一丁　題簽左肩書名同　内題なし、「平出氏書室記」「藤浪氏藏」「清野文庫（紙票）」等

（江戸時代初期寫　原に「正平七年冬仰入道准后令書寫之訖」同八年正月十八日挍合之參議左近中ノ将藤原朝臣公冬候之」「イ此一巻本上中下三巻也日野中納言廣光卿密ニ令恩借間寫留最可ノ為有職之極秘者哉ノ旨文明第十七閏三月十六日後法興院判」「此秘抄以太閤本書寫之所進イ禁裏也近代ノ中絶公事等大概注付之畢ノ寛正第五曆。無イ○イナシ勅判」「中山本奥書之間寫之イニナシ／イナシ中山以本又挍合彼本奥書如射中句候　此但ソコ子字ミエス」「イナシ右少故北畠一品准后□ノ後醍醐天皇制作也本袮□ノ量書入□抑覩應三年暫歸正平七年ノ□被行一統之政務時分被清書上件四巻ノ可嗟　也如一夢又為覩應三年改為文和ノ元年覩應正平文和年中有三号歳也ノ筆之次記之凡秘抄也輒不可出幽窓之ノ外矣ノ文明十七年辛巳卯月十一日書之前内大臣源判ノ中山本ノ奥書寫之」「此一冊如右奥書鳥子料紙小巻物南朝後村上御自筆奥書北畠一品入道筆三巻云ゝ不慮日野中納言廣光所持之間如件ノ本所令挍合也相違之所少ゝ注付早弥可為ノ秘本者也ノ于時文明十三年九月上旬候勅判」「此年中行事者後醍醐院製作也此外日中行事指圖并臨時ノカ在イナシ筆正本鳥子料紙小巻物無銘只被号御秘抄了然而暫所加ノ外題也予元來所持本挍合申出大覺寺殿御本正文加ノ清書了ノ應永十三年季夏上旬　判」「此秘鈔者申出　禁裏御本後柏原院震筆令書寫訖寛正ノ御奥書御判者　後土御門院于時親王御方文明御奥書御ノ判等無類柏原院于時親王御方御草名則是震翰之抄也ノ所謂無類無雙之證本也ノ于時天正十八暦十月十一日ノ右大臣藤原晴季」「以愚本挍合朱引小字訓者拙老愚筆附之畢ノ天正廿年六月廿一日　右大臣」の諸奥書あるものの寫　三六・七一ウ七）

年中行事秘抄　寫　一冊　二三四

万里小路惟房筆　袋綴　茶色表紙　二七・五糎二一・五糎　十行小雙行　三十丁

題簽左肩「（書名同）大外記傳來」

奥書　右一冊以或人秘本先年書写之奥之方聊書殘之其後不終ノ書功今求他本令全部者也首書注尺等同加之ノ洞院本与勘物之趣分明也不及一挍之間重可ノ令修治而已ノ天文廿暦八月十四日ノ権大納言藤原（花押）（印）（惟房）

（原に「本奥書曰ノ本云元久三年二月六日借請秀儒師行本書寫了ノ年來所持之本不慮紛失之故也重可合證本而已　判ノ即校合早」「建暦三年八月廿九日合前相州之本重加勘物等了ノ件本以故羽州之御本予書写之而先日不慮紛失了ノ今此本羽州御本之由記奥尤弥重也其奥書云ノ本云長寛二年四月五日以大外記師元之本書写之ノ散位藤原在判」「治承五年五月七日挍合或人本ゝ次加朱點近代事少ゝ勘入了ノ件本云保安元年七月十一日於直广休閑之隙書之ノ大外記師遠所進本也」「延應元年八月廿九日以前大監物師世之本祖父傳士師尚自筆師世又近代事多勘入了ノ書寫之可秘之即挍合早」「此年中行事先年貞和五年之比忠俊朝臣送之云或人ノ秘本也可加一見ゝ仍所書留也而謬字多之歟後ノ年披閲之次見咎事等注付之以墨合點是也ノ年來所在之本建治之比以内相故本雖為委細書写之不載後ノ之事等少ゝ有之可秘藏也抑如奥書者中家之ノ外記所注出歟舊本又同前下略」と奥書あるものの寫　文中惟房筆にて増補記事頗る多し　三六・七一ウ三）

○

〔靈元天皇御記〕　寫　一冊　二三五

靈元天皇宸筆　袋假綴　共表紙　用紙斐紙　三〇・五糎二二糎　十二行　六丁

外題「東宮元服ノ譲位受禅ノ即位大祀等間之事ノ貞享三年」

（巻初「貞享三年六月ノ卅日　今日依爲吉日召関白令相談東宮元服ノ譲位即位等間之事」　三六・八一ウ七）

○

大清通禮卷之三十四　寫　一冊　二三五

唐袋綴　雲龍文黃綾表紙　三五・五糎二一・五糎　四周雙邊二二・五糎一五・五糎　九行二十字小雙行朱罫紙　十八丁　題簽左肩雙邊表紙同綾「大清通禮」、「禮部官書(紫印)」

(清内府鈔本　表紙中央に副題簽剝脱の跡あり　三九・二―イ三)

通　典　百七十三卷　三十五冊　闕　二三六

杜佑(唐)撰　貞元十年月日進通典表　李翰序　唐蝴蝶裝　改裝後補紺表紙(内七冊袋綴改裝後補金箔散濃緑表紙)　三二・五糎二〇・五糎　左右雙邊二三・五糎一五・五糎　有界十五行二十六至二十九字小雙行約三十五字　題簽左肩後補墨「杜氏通典共四十冊一之五(一百七十六之一百八十)」　柱刻白口「第一(―三十七)冊(卷數)(丁數)(刻工名)(上象鼻に字數を刻せる葉あり)」、「晉府書畫之印」「雙鑑樓所藏宋本」等

(宋版　卷三十六至四十、百三十一至百三十五、百四十七至百五十、百八十四至二百闕

刻工名―益　毛　易　政　章　顧　奇　定　張　圭　王　新　永　水　壽　先　弓　阮　米　俞　胡　勝　仲　占　用　金　芦　明　趙宗　李懋　雍　下　徐仝　洪坦　施寔　潘亨　顧誼　朱言　李恂　李正　趙亨　郭奇　嚴忠　陳仁　周忠　徐仁　張明　吳益　吳春　麥宗　楊顯　劉仁　李益　李元　李通　趙實　嚴志　方信　木易　趙旦　陶震　宋通　洪源　李憲　葉俊　葉允　孫付　李政　徐高　陳新　夏義　王成　李圭　越志　弓□　王宝　徐三　翼集　何立　余敏　呂塡　周明　陶忠　李牧　陳晃　夾宗　集成　崔成　陳□　監□　李才　胡杏　土受　徐昊　包正　李時　時明　□良　顧永　何澄　朱允　朱通　丁之才　詹世榮等

闕畫―貞　屬等　三九・二―イ三)(重文)

杜　氏　通　典　二百卷　八十冊　二三七

杜佑(唐)撰　李翰(唐)序　李陽仁(明)校刊　唐袋綴　金砂散薄紫表紙　二九糎一七糎　四周単邊一八・五糎一三糎　有界十行十八字小雙行　柱刻「(所収篇名)　杜氏通典(通典)(卷數)(丁數)(刻工名)」、「□陵錢屋倉校藏書籍」等

(明版　内題の下に「增入宋儒議論」とある冊あり　三九・二―イ九)

明律國字解　寫　三十卷　十一冊　二三八

荻生徂徠著　自筆　袋綴　改裝後補巴小紋薄紫色絹表紙　原裝共表紙　二九・五糎一八・五糎　十二行　原外題左肩「名例律抄一」「吏律抄二」「戶律抄三」「礼律抄四」「明律國字解五兵」「刑律抄工律抄六」「名例條例抄七」「吏律條例抄八」「戶律條例抄九」「礼兵ノ條例抄十」「刑工律條例抄十一完」　内題(第一至六冊)「明律卷一(―卷二十九)國字解」(第七至十一冊)「問刑條例名例律(問刑條例吏律・問刑條例戶律・問刑條例礼律・問刑條例刑律)國字解」、「元喬」「服氏元喬」「芙渠館」

(片假名交り　朱書訂正書入多し　別に「此一本小丘先生借芙蕖館所藏ノ物先生手沢　明律國字解而模寫焉ノ先生姓秋元修爲菅俗稱辰字習ノ之有小丘園集習之手澤也」と識語ある秋元小丘筆「明律國字解卷一」寫一冊、四文樓刊「明律國字解自卷一至卷十六」木活字版合一冊、大正九年萩野由之・欽堂學人筆「徂徠先生明律國字解藁本跋」一帖を附せり　三九・二―イ二)

禮　部　則　例　寫　十二卷　二冊　闕　二三九

唐袋綴　雲龍文綾黃表紙　三四糎二〇糎　四周雙邊二二糎一五・五糎　有界九行二十字小雙行朱罫紙　題簽左肩雙邊表紙同綾書名同　副題簽雙邊同「(所収内容を記す)」(第二冊闕)、「禮部官書(紫印)」

(清内府鈔本　第一冊卷三十至三十四、第二冊卷九十五至一百一を所収　三九・二―イ五)

景龍三年張君義告身　寫　一軸　二四〇

唐卷子本　鳶色緞子表紙　見返水色菊水模様絹布　三二糎　張君義告身三通を臺貼　題簽「初唐景龍三年張君義告身三通　渓高山發見　駒郡張大千(花押)(印)」

第一紙　二七・五糎七三・五糎

端書　勅四□義

奥　檢挍副使□縣開國男譯　思楚

第二紙　二八・五糎七六・五糎

端書　勅持□君義

（次行に）安西□□使張君義
奥　大使眞定郡公張（花押）
第三紙　三一・五糎六九・五糎
端書　勅四鎮□□使前軍□□張君義
奥　景龍三年九月丑□
　　撿挍副使雲□□
識語　辛巳之夏予与門人早姪坐石室積沙間／食哈蜜瓜食罷以無從得水盥洗／以手掬沙而擦忽覺沙中有麻布／袋因扒出之中有人頭一左手至腕／一右手大拇指一兩手雖然而指／紋猶清晰可辨其頭無頂骨如刀／削去者遂疑爲喇嘛之頭盍番／僧於命終前往〻許頭骨爲供佛／水盂也既而於後腦下發現紙卷／一彷彿若有字迹惟血漬模糊／不易揭出乃携遠寺中浸水中／二日始得展布案上細繹而句讀／之知爲景龍初敦煌白丁張君義／以傔人而奮勇殺敵而陞爲驍／騎尉者則此頭与手當爲敵人／所戕其從者以布囊盛之附以戰／功狀而藏之窟中積沙下猶冀／他時改葬不□轉戰万里永埋／窟中也初唐文書轉世者僅此／而已況有官印尤可寶貴其頭／与手今存上寺敦煌藝術研究所／大千張（花押）記於敦煌漢高／窟上寺（印）
（敦煌出土本　各紙腐爛甚し　三二九・二―イ一五）

人口論

大日本國古來人口考　寫　一冊　一二六一ノ二

井上瑞枝著　自筆　明治三十七年五月自序　袋綴　改裝後補茶色表紙　原裝共表紙　二七・五糎二〇糎　左右雙邊（刊）二四糎一六・五糎　十六行小雙行　二十五丁
外題左肩後筆「（書名同）井上瑞枝稿本」　原外題書名同、「清野文庫（紙票）」
識語　（表見返附箋）井上瑞枝の日本人口史研究上に／於ける功績は高橋凡仙氏著／書で分るが拙著「古代人／骨の研究に基づく日本人／種論」第四七五頁に記し／たが此古來人口考は／瑞枝の最終自筆稿本／として未刊行の貴重／書である／清野謙次記
（片假名交り　三三三―イ一）

教育

足利學校遺蹟考餘録　鷄肋集　寫　二冊　一二六二

須永廬山著　自筆　大正元壬子歳仲秋自序　袋綴　白厚紙表紙　二四・五糎一六・五糎　四周單邊一九・五糎一三糎　十一行柱刻「足利學校遺蹟圖書館」青罫紙
外題「（書名同）上巻（下巻）」
（第一冊表紙に「青嶂禪室居士廬山未定稿」　扉に「元號記念著述五十巻之内足利之部／大正改元當日起稿／明治天皇御葬儀前日脱稿／足利學校遺蹟考大正元年十月五日刊行／同餘録鷄肋集以下未定稿不附鉛槧／上杉憲實足利學校再興年代考／足利學校庠主世代考／畫仙興以考／足利地名考／足利城址考附小松内府分骨墓石考」とあり
三七〇・二―イ一）

○

めのとのふみ　一冊　一二六三

阿佛尼著　袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様黒表紙　二八・五糎二〇・五糎　十一行　約十九字　十一丁　内題なし
（古活字版　元和期刊　三七六―イ一）

風俗及習慣

武家裝束着用圖　實　一冊　一二六四

松岡辰方著　自筆　松波茂芳畫　自序　袋綴　横雲模様朱色表紙　用紙薄様　裏打　十八丁　題簽中央「（書名同）完　松岡辰方増補」、「清野文庫（紙票）」
（挿畫着彩　巻初「松岡辰方誌」と自署して「裝束着用と云一帖を此頃大久保酉山翁より拜借して／うつしぬ其書束帯衣冠直衣小直衣直垂狩衣布衣青襖等の／しなにて故伊勢貞丈先生の書入あり又大塚嘉樹の朱書ありと／いへとも公家の故實にして武家の古風にあらすよて直垂以下／武家方の故實をたゝし家傳并伊勢殿万助貞春

之説をましへ旧記を〳〵参考して其書にもれたるを拾門人松波茂芳をして摸せしめ〳〵武家装束着用圖となつく」とあり　三六一―イ七）

有文錦考　寫　一冊　二六五

栗原信充（柳庵）著　自筆　万延元年五月自序　袋綴　澁刷毛目表紙　一三・五糎　一八・五糎　十行　四十五丁　彩色挿畫貼附　外題左肩後筆「（栗原柳菴自筆）（書名同）」　内題なし、「武田」「清野文庫（紙票）」（見返に錦裂一枚貼附す　三六一―イ五）

○

〔庚申畫像〕　寫　一軸　二六六

掛軸　三四糎一米八糎　原寸四九糎二五糎（江戸時代初期寫　圖中鶏二羽は版刻　單彩を施す　三六二―イ一）

庚申畫像　一軸　二六七

掛軸　三三・五糎一米二七糎　原寸四九糎二三糎　用紙和唐紙（江戸時代中期刊　丹緑黄筆彩畫　三六二―イ三）

〔庚申畫像〕　寫　一軸　二六八

掛軸　六〇糎一米四〇糎　原寸九一糎四〇糎（江戸時代初期寫　彩色畫　三六二―イ五）

○

歳眨記　寫　一冊　二六九

袋綴　改装後補茶色表紙　原装紺表紙　二八・五糎二〇・五糎　十二行二十三字六十五丁　原題簽左肩「（書名同）全」、「有不爲齋」（室町時代末期寫　漢文を主とし間々片假名交り文を混ず　三六四―イ二）

歳事志　寫　一冊　二七〇

茅原茅窓著　自筆　袋綴　改装後補毘沙門格子地桐唐草模様紺表紙　間紙を挟む　二四・五糎一七糎　五行小雙行　十二丁　題簽左肩後補「（茅原茅窓稿本）（書名同）」　内題なし、「藤浪氏蔵」「清野文庫（紙票）」（巻初に「農圃」とありて農事語彙を集む　三六四―イ三）

七夕考　寫　二巻　一冊　二七一

魚澄葆光著　袋綴　澁刷毛目表紙　二四糎一六・五糎　十二行小雙行　三十五丁　題簽左肩雙邊（刊）瀧澤馬琴筆書名同、「瀧澤文庫」（内題の次行に「秩父　荊山魚澄瑛葆光輯」とあり　題簽の下に小津桂窓筆朱書「の」、見返に馬琴の書入あり　三六四―イ七）

年中行事　寫　一冊　二七二

正親町公明筆　袋假綴　代赭色表紙　二八糎二〇糎　八行二十六丁　外題左肩「（書名同）　三条家　全」、「正親町藏」「公明之印」「尾陽雲林菴文庫刻早（藍印）」「清野文庫（紙票）」

奥書　右年中行事借請于公麗朝臣以傭筆令遂書寫侍早〳〵難從來所持之依不審命令所寫之畢〳〵于旹寛延二年七月上旬　右中将　藤（花押）（緑印）（原に「永正六年春之比以左衛門督基春卿本書写之早」と奥書あるものの寫　書中朱書せる條多し　三六四―イ七）

年中行事　寫　一軸　二七三

巻子本　改装後補萬字等小紋納戸色絹表紙　見返金切箔野毛散　用紙裏打　二八糎二米一〇糎　一紙一九糎　十行

識語　神〻祭此ニ知盡ス也（鎌倉時代末期寫　もと冊子本を現巻子本に改装　三六四―イ九）

年中行事抄　寫　十二巻紀事追加三巻　十二冊追加一冊　二三四

蘆橘堂庸春著　自筆　袋綴　漉刷毛目表紙　二八・五糎一九・五糎　六行小雙行
題簽中央「正月行事（―極月行事）（行事附録　全）」、「蘆橘堂」「庸春」「清野文庫（紙票）」
（三六四―二）

山城四季物語　六巻　六冊　二三五

坂内山雲子（直頼）著　延寶二とせ衣更着のはしめ自序　延寶二とせ弥生中の十日
風鈴軒友松跋　袋綴　紺表紙　二六・五糎一八・五糎　四周單邊二一・五糎一五・五糎　十一行　挿畫（巻一）十一頁分　（巻二）八頁分　（巻三）九頁分　（巻四）七頁分　（巻五）五頁分　（巻六）三頁分　題簽左肩雙邊「（書名同）一（―五）」（巻六闕）
柱刻「四季一（―六）（丁數）」、「高木家藏」
刊記　延寶甲寅九月吉日／書林／本間長兵衛／大角八郎兵衛／板開
（三六四―一九）

○

〔吾妻里〕　一鋪　二三六

自序　折畳　灰色表紙　二一・五糎一六糎　全寸六一糎八四糎　四周單邊五九糎　八二糎　内題なし、「紫香藏」
刊記　江戸淺草圖本　ミよしや板
識語　元禄年限之頃板行
三輪杉成所藏（印）
（寶永正徳期刊　序に「昔日吉原細見の圖ト一切鏡／不殘記等を筆にあらハし／世上にときわの春をつけ／中略今日／あらためて吾妻里と題／しあらハす物ならし／作者それかし／千竹萬松」とあり　書名はこれに從ふ　三六七―一五九）

江戸男色細見　寫　一冊　二三七

水虎散人著　きのえ申葉月の頃自序　袋綴　改裝後補雲龍押文水色表紙　間紙を挟む　一四糎二〇糎　四周單邊一〇糎一六糎　十五丁　挿畫二頁分　題簽左肩單邊「（書名同）全」
（原に「明和元年甲申秋八月／分桃軒藏板」と刊記あるものの影寫　三六七―一三九）

繪入大畫圖　一鋪　二三八

石川流船畫　折畳　薄縹色表紙　一九・五糎一二・五糎　全寸七八糎八七糎　題簽
中央單邊書名同　内題なし
刊語　毎月改申候間／相違御存之御／方板本迄御／知セ可被下候／畫工　流船／元禄二年／巳ノ五月日
刊記　板本／江戸通り油町／さかみや太兵衛
（本紙新吉原細見圖の左側に別紙刊筆彩角田川東浴岸江戸圖斷片を粘附す　三六七―一四三）

花街漫錄正誤　寫　一冊　二三九

喜多村節信著　自筆　袋綴　改裝後補薄卵色表紙　原裝共表紙　用紙裏打　二四・五糎一七糎　十一行　十二丁　外題左肩書名同　原外題左肩書名同、「中川氏藏」「永田文庫」「北田紫水藏圖書記」
奥書　（原見返）（朱）コノクサ〴〵ヲ集メタルヤウハ文化三年ノコロ京ノ人睡餘小録ヲ著スコレハ寸錦雜綴ニ類シタルモノニテソノ附録ハ專ラ彼地ノ花／街ノヿヲ載タリコレニ倣ヒテ此草子ハ作リタリト見ユ只ソノ物ヲ図シテイサヽカ其由ヲ記シヽマデニテ考ヘタル説ナドモナケレバ何／モ誤アルヘキヿモナキ筈ナルニ事ノワキマヘナキ者ノスルヿハ一言半句ノ内ニモ誤アリ此草紙ノ書ハ抱一上人ノ風ナリシカレハ画ノ縮図モ抱一ノ／弟子ナドナルベシ作者ハモトヨリ画ヲ書シモノモ序ヲカヽレタル抱一上人モ画ノ時代マタ近世ノ画カキノヿヲモ知ラズ笑フヘキヿ甚シニ〻其／処ニ云ヲ見ヘシ　筠庭主人戯誌
（文政乙酉雨華庵抱一序花街漫録の本文に對して、文中欄外に滿紙朱筆を以て正誤を記す　外題下に「喜多村節信自筆」とあり　巻末に「花街漫録正誤附考」一丁を附す　三六七―一三）

家計夢物語　三巻　三冊　闕　二六〇

袋綴　改装後補縹色表紙　二三糎一六糎　四周單邊二〇糎一四糎　十一行　挿畫（巻一）十頁分　（巻二）十二頁分　（巻四）十四頁分　内題なし　柱刻「か一（二・四）（丁數）」「齋藤文庫」

（巻一・二・四を存す、巻一第一至三丁なく第一丁の丁附「一ノ二三四」より始まり、章題尾題等を削板するところ多し　巻二第四丁闕　三六七―イ九二）

家計夢物語巻一　一冊　二六一

袋綴　改装後補黒表紙　用紙裏打　二三糎一六糎　四周單邊二〇糎一四糎　十一行　二十七丁　挿畫八頁分　内題なし　目録題「家計夢」　尾題「夢物語」　柱刻「か目録（一）（丁數）」

（延寶初期刊　第一・二丁闕　第十七裏・十八丁表闕丁　三六七―イ八九）

伽羅包下巻　一冊　二六二

自跋　袋綴　改装後補布目青表紙　用紙裏打　一九糎一四糎　原寸一七・五糎一四糎　四周單邊一五・五糎一二・五糎　十一行　九丁　挿畫二頁分　題簽左肩單邊（刊）後補書名同　柱刻「（丁數）」「山東」

刊記　于時／延寶九辛酉年正月吉祥辰　本屋開板之

識語　（表紙附箋）伽羅包　一冊／上巻未刊行

（三六七―イ七七）

〔こそぐり草下巻〕　一冊　二六三

袋綴　表紙闕　一三・五糎一九・五糎　四周單邊一二糎一七糎　十一行　内題なし　柱刻「下（丁數）」

（第六丁及び第八至三十六丁を存して他闕　三六七―イ五五）

五太力菩薩手鏡　一冊　闕　二六四

元禄十あまりふたとし古文眞宝序　袋綴　薄緑表紙　用紙裏打　二六糎一三・五糎　四周單邊二三糎一七糎　二十三行　二十一丁　題簽左肩後補墨「三都□」　目録題書名同　綴目「序（目録京）（丁數）」「忍頂寺藏書章」

（下段の本文は遊女書翰手鑑にして上欄はその注評　巻初目録に「京之部」「江戸之部」「大坂之部」とあるも本書京・江戸両部分のみを存す　書物往來第十二冊所収忍頂寺務「花街本に就て」―參照　三六七―イ八七）

座敷の粧ひ　二巻　合一冊　二六五

自序　袋綴　黒表紙　一〇・五糎一六糎　十三行　四十二丁　題簽中央後補墨「座敷の粧」　内題なし　柱刻「上（下）（丁數）」

（江戸時代末期刊　目録上巻第三丁ウ及び下巻第十七丁以下闕　三六七―イ九）

諸國色里案内巻中　一冊　二六六

〔空色軒一夢〕著　袋綴　砥粉色表紙　一五・五糎一一糎　四周單邊一二・五糎九糎　十行　二十二丁　題簽左肩雙邊「諸國色里案内（并因緣揚屋しばらい付）中」　柱刻「色中（丁數）」「濱和助（紙票）」「紫景文庫」

刊記　貞享五戊辰正月吉日／京八まん町寺町西へ入町吉田六兵衛板／いせ屋市良兵衛

（別に上巻の影寫本一冊を附す　上巻に空色軒一夢自序あり　三六七―イ五三）

〔新吉原細見圖〕　一鋪　二六七

いそうら著　自序　折畳　改装後補縹色表紙　用紙裏打　二二糎一二糎　全寸六五・五糎九三糎　四周單邊六二・五糎九二糎　内題なし、「嶌魚」

刊記　元禄（ママ）　作者　いそうら改之／板本　通油町四郎右衛門

（三六七―四一）

〔新吉原細見圖〕　一鋪　二六八

折畳　黄表紙　一六糎一〇糎　全寸六一・五糎一米一八糎　内題なし

（貞享元禄期刊　三六七―イ六一）

翠箔志　寫　一冊　二八九

袋綴　改装後補緑表紙　原装共表紙　二七・五糎一九・五糎　九十五丁　原外題中央書名同、「忍頂寺藏書章」

（江戸時代末期寫　巻初「元文改正」の下に「至今文化未年七十六年之むかし（ママ）」とあり「翠箔志其續」を附し、巻末に天保弘化頃の「建仁寺領薮地借請家別撿地帳祇園町」の寫しを合綴す　三八七―イ八三）

たきつけくさ　寫　一冊　二九〇

袋綴　栗皮色澁引表紙　見返金紙　用紙鳥の子　二四糎一八糎　十一行　十八丁、「金城西東得窗庵藏」

（江戸時代初期寫　三八七―イ二五）

種くばり　寫　一冊　二九一

辰のはるすへ三雄序　猪場毅筆　袋綴　澁引表紙　二七糎一九・五糎　用紙薄様間紙を挟む　二十八丁　題簽左肩永井荷風筆「（書名同）全」、「葛飾隱士」

奥書　右天保中全盛外場所全壱冊と奥書／ある寫本なり　いかなる閑人のすさひにや／昭和己卯歳晩真間山下に可慶菴／主人摸之

識語（扉）この書題して種くはりと云ふ何人の著なるを／知らず豊芥子が岡場所考に似たるものなり友人／猪場毅君筆寫してその識語を余にもとめらる／依てこゝにこれをしるす／昭和十五年辰の立春／永井荷風（印）

（淡彩挿畫　三八七―イ二三）

桃源集　一冊　二九二

磐田鈍太郎末孫白面書生著　小藤原定家序　承未之春自後序　袋綴　改装後補紺表紙一九・五糎一五糎　十行　三十六丁　柱刻「（丁數）（第三丁と第四丁との間に「四三」とあり）」、「津那志末」「雲岳生」「北倍外史」

刊記　（後序題下）政開板

識語　（見返）寛文三五月九日　網島氏（印）

（三八七―イ九七）

ぬれほとけ　三巻　合一冊　二九三

平金著　自序　寛文十一年亥ノ四月自跋　袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様縹色行成表紙　二七糎一八・五糎　四周單邊二一・五糎一六・五糎　十一行　七十七丁

挿畫（中巻）三十六頁分　（下巻）一頁分　題簽左肩後補墨「濕佛」　内題なし　柱刻「上（―下）（丁數）」、「兎角菴」

（上巻末にも下巻末に同じく「寛文十一年／亥ノ四月」と刻す　下巻第十九至廿一丁闕　三八七―イ二七）

秘傳書　一冊　二九四

袋綴　改装後補栗皮色表紙　二〇・五糎一四糎　八行　四十三丁　柱刻「（丁數）」

識語　（帙裏附箋）秘傳書中本一冊／此書名ハ早ク色道大鏡ニ見エタレド茲來／傳來不明ナリシニ昭和十三年春京都河／原町街頭古書即賣會ニテ入手ス／推定寛文年間刊京島原遊女評判／記ノ一ナレド内容ヤヽ相異シテカノ浪花鉦ノ／先蹤ヲナスモノヽ如シ／昭和廿年歳暮　菜色子識

（三八七―イ三）

一目千本　二巻　二冊　二九五

紅塵陌人（里雀）著　北尾重政畫　（第一冊）序　（紅塵陌人）自序　（第二冊）（里雀）自序　袋綴　（第一冊）緑色表紙　（第二冊）改装後補紫鼠色表紙　一四・五糎一九・五糎（第二冊三邊裁斷）　四周單邊一二糎一七・五糎　題簽（第一冊）中央雙邊「（書名同）東」　（第二冊）左肩後補雙邊墨「華すまひ北尾重政画」　序題（第一冊）「華すまひ」（第二冊）「華すまひ中入」　内題なし　尾題（第一冊）「一目千本春夏終」　綴目「上（下）（丁數）」

刊記　（第二冊）安永三甲午歳七月吉日／画工　北尾重政／雕工　元岩井町古澤藤兵衛／新吉原五十軒／書肆　蔦屋重三郎

（三八七―イ二）

武江新吉原町圖　一鋪　二九六

石川流宣畫　寶永四丁亥春自序　折畳　朽葉色表紙　一九糎一〇・五糎　全寸六三糎七六糎　四周單邊五九糎七四糎　題簽中央闕

刊記　江戸日本橋南詰／書林　本屋一兵衛板

（序の後に「圖工　石河流宣」とあり　三六七―イ四七）

〔北里五街圖〕　一鋪　二九七

折畳　澁赤茶色表紙　用紙裏打　二二・五糎一六糎　全寸八八糎九三糎　題簽中央雙邊「手折のを　夜ル見定つ　艸の花」、「青山居士千巻文庫」「青山堂」

（三六七―イ七九）

吉原買もの調　寫　一冊　二九八

四万六千人著　柳亭種彦筆　袋綴　毘沙門格子地花鞠散薄茶色表紙　用紙薄様間紙を挟む　二二糎一五糎　四周單邊一七糎一二糎　十二行　二十一丁　挿畫六頁分　題簽檀紙左肩別筆「（書名同）柳亭種彦珍翫完」　扉題左肩雙邊「吉原買もの調完」　内題なし

奥書　去年の夏よりいたくわつらひしその病の／いとま〳〵みつからうつしたる労をあはれミ後人／反古とし給ふことなかれ／天保壬寅正月／耳順翁／柳亭種彦（印）

（本文十五丁　巻末に「柳翁標注」として種彦自筆本文注六丁を添ふ　天和二年刊本の影寫　三六七―イ五五）

〔吉原細見圖享保四年〕　一鋪　二九九

折畳　亀甲小紋地鳳凰浮出文朱色表紙　用紙四周裁斷　裏打　二二糎一六糎　全寸六二糎九三糎　題簽中央後補臘箋墨「享保四乙年吉原大細見」　内題なし、「三田村氏藏書記」

刊記　享保四年己月日／淺草森田町／岡山伊八郎

識語　天保三辰迄／百十四年成

（三六七―イ三二）

〔吉原細見圖享保四年〕　一鋪　三〇〇

折畳　澁引表紙　用紙裏打　一七糎一六糎　全寸三三糎六二糎　内題なし、「林泉文庫」

刊記　享保四年己亥四月十八日□

識語　吉原圖／若狹入

（三六七―イ三三）

芳原細見圖　一鋪　三〇一

折畳　改装後補薄茶色表紙　用紙裏打　二二糎一四・五糎　全寸五八糎九〇糎　題簽中央後補青紙墨「舊刻新吉原圖」　目録題書名同

刊記　板本／するがや市兵衛／本や三郎兵衛

（圖中に「江戸吉原萬治元年戊戌此新好原移ス方四丁也」とあり、題簽書名右に「出好古堂壁中」左に「大我老圃珍玩」とあり　三六七―イ三七）

芳原細見圖　一鋪　三〇二

折畳　毘沙門格子地桐唐草浮出文紺表紙　用紙裏打　一九糎一〇・五糎　全寸六〇・五糎九四糎　目録題書名同

（帙題簽に「新刻新吉原細見之圖萬治版復刻文化頃刊」とあり　原に「板本／するがや市兵衛／本や三郎兵衛」と刊記あるものの覆刻　三六七―イ三五）

〔吉原細見圖享保十年〕　一鋪　三〇三

折畳　改装後補朱色表紙　用紙裏打　一九・五糎一四糎　全寸六四糎八八糎　内題なし

刊語　吉原細見之圖ハ／世上に數多これあれ共／今度巨細に改め／板行仕尤月々に／あらため直し候居／ながら此里を化遊／せハ月の夕の樂／これにしかんや

刊記　はん元　元濱町いがや勘右衛門／はん元　湯島天神女坂下小松や傳四良

（遊女等合印の條に「享保十年／乙巳」とあり　三六七―イ四五）

新改 **吉原細見花車** 一鋪 二三〇四

折畳　縹色表紙　一九糎一四糎　全寸六七糎九六糎　四周單邊六六糎九三糎　題簽中央雙邊書名同　内題なし
（延寶貞享期刊　別紙（刊）「ゑもん坂五十間通兩側商店圖」を貼附　三六七―イ三九）

吉原三茶三幅一對 寫 一冊 二三〇五

玉門寺隱居著　延寶九年辛酉孟春日自序　自跋　袋綴　青表紙　二四・五糎一七・五糎　四周單邊一六・五糎一二・五糎　三十六丁　挿畫八頁分　題簽左肩墨流紙「延寶九年吉原三茶三幅一對」、「觸山摹捐之記」「洒竹文庫」「紫景文庫」
（江戸時代末期寫　原に「延寶九年孟春日　舛屋開板」と刊記あるものの影寫　三六七―イ四九）

吉原大豆俵評判 寫 一冊 二三〇六

不申共御推著　自序　袋綴　青表紙　一九・五糎一四糎　三十二丁　挿畫六頁分
序題「（書名同）全」、「平出氏書室記」「紫景文庫」
識語　吉原評判大豆俵　一本／龍屋大人所藏／杉崎某ぬし予かためにこれを／うつしたひぬ／天保四年巳十月十日一校了／泥江亀寿（花押）
（原に「天和三年初夏」と刊奥記あるものの影寫　三六七―イ五二）

吉原水鏡 寫 一冊 二三〇七

鈴木武平著　自序　袋綴　改裝後補毘沙門格子地卷龍浮出薄茶色表紙　原裝共表紙　用紙薄様　間紙を挟む　二五糎一八糎　挿畫十五頁分　四周單邊一八・五糎（ママ）一一・五糎　二十七丁　題簽左肩「吉原水鏡喜多武清本」　原外題左肩「吉原□□□物上郎水かゝミ」　内題なし、「五清堂記」「英國薩道藏書」「英王堂藏書」「白石所藏」
奥書　文政五年壬子秋九月朔／正治撰
（元禄七年刊「吉原草摺引」六冊中江戸甚九郎の卷一の影寫　三六七―イ七）

世の畫狐下卷 一冊 二三〇八

洛下三野人著　袋綴　砥粉色表紙　一六糎一二・五糎　四周單邊一二糎九・五糎　九行　二十五丁　挿畫十二頁分　題簽左肩雙邊後補書名同　柱刻「（丁數）」、「なかた」
刊記　大坂　深江屋太郎兵衛板
識語　元禄四年刊／世の畫狐　下卷／此書「好色訓蒙圖彙」「好色貝合」／ともに著画とも吉田半兵衛と／稱するものなり／又傳本稀れなる珍本なり
（古典文庫所収野間光辰校「世の畫狐」―参照　三六七―イ八）

○

捜神祕覧 三卷 一冊 二三〇九

章炳文（宋）著　政和癸巳自序　唐袋綴　改裝後補代赭色表紙　二五糎一七・五糎　左右雙邊一八・五糎一二・五糎　有界九行十八字　七十九丁　外題左肩後筆「（書名同）全」　柱刻白口「（上象鼻に字數）　祕覧　上（一下）　（丁數）　（刻工名）」、「普門院」
刊記　（目録末）臨安府　太廟前尹家書籍鋪刊行
箱書　宋板捜神秘覧　（右下に）全一冊　（左下に）崇蘭館
（宋版　刻工名―浩　允　李　呉　陞　闕畫―慎　敦等　三六八―イ三）（重文）

平兒代答 寫 一冊 二三一〇

白石平馬述　山崎美成手記　同上筆　庚辰冬日山崎美成序　文政三年かのえ辰の冬十月こゝのかの日同上跋　袋綴　澁刷毛目表紙　用紙裏打　二八・五糎一九糎　十行　二十八丁　題簽左肩單邊「（書名同）白石平馬口傳　山崎美成記　全」、「江戸四日市古今珍書偬達摩屋五一」「陽春盧記」「清野文庫（紙票）」
（「平兒代答」の次に「十月十五日の夜しるす／すみれ園のあるし」と自署せる「平兒代答補遺」あり、卷末に「文政三年庚辰首冬念三把亳千芯川之傍我ゝ堂小窓之下」の漢文跋あり　三六八―イ二）

○

諺の通　寫　一冊　一三一

柳亭種彦著　自筆　袋綴　改裝後補丹表紙　原裝共表紙　間紙を挾む　二一糎一三糎　十行　七丁　原外題中央書名同　内題なし
（三八九―イ五）

軍事武藝

施氏尉繚子解義卷第二十六　寫　一軸　一三二

卷子本　改裝後補飛雲文薄青地絹表紙　見返銀切箔散　用紙裏打　二九糎一〇米一紙四七糎　天地單邊二二糎　有界十五行十五字　題簽左肩後補書名同　内題なし　尾題書名同、「金澤文庫（墨印）」
（鎌倉時代末期寫　室町時代末期筆諸點を施す　卷末に模筆「建治二年五月六日以ノ政連撰本令顯時書ノ寫了ノ越州刺史（花押）」と記す　見返に本書の奥書を記し「越州刺史者北條越後守實時也顯時者金澤文庫ノ建立ス泰時之弟實泰之孫ニシテ金澤氏ノ祖修理大夫ノ貞顯之父也」と記せる紙箋貼附　別に「小杉椹郎藏ノ徵古雜抄五下ノ平政連諫草一冊ノ（中略）尉僚（ママ）子ノ跋ニ載スル所ノ政連云ミハ定テ此ノ人ノナランノ明治三十七年二月五日ノ田中光顯誌」と記せる一紙あり　關靖著「金澤文庫之研究」―參照　三九二―イ）

○

江戸城古寫圖　寫　十鋪　一三三

和泉嘉右衛門筆　表紙闕　用紙裏打　二七・五糎二三糎
（三九九―イ二）　所收次の如し

一　小石川御門御構惣地指圖　二　市ヶ谷御門惣繪圖
三　赤坂御門惣御構地指圖　四　日比谷御門御構繪圖
五　雉子橋御門惣繪圖　六　幸橋御門御構繪圖
七　矢來御門拾分一建地割　八　田安御門惣繪圖
九　山下御門構繪圖　十　呉服橋御門構繪圖

奥書　文化四卯年十一月　和泉嘉右衛門

○

必心琢磨流繪之卷　寫　一軸　一三四

端田長右衛門著　自畫　卷子本　金泥下畫紺表紙　見返金銀切箔散　題簽金紙「繪之卷」　插畫着彩二十七面
奥書　寛文四年（甲辰）正月日ノ端田長右衛門ノ利（花押）（印）ノ町田億右衛門殿參
（三九九・一―イ）

○

〔鍛冶系圖〕　寫　一帖　一三五

石齋著　自筆　折本　青表紙　用紙鳥の子　一七・五糎六・五糎　十三折　題簽左肩文字剝脫
奥書　慶長十五年八月日　石齋（花押）
（三九九・二―イ二）

鍛冶圖之本　寫　一帖　一三六

折本　紺表紙　三一糎一八糎　押界七段八行　四十一折　題簽左肩書名同　内題なし、「森田文庫」「森玲」
奥書　于時元和三曆（丁巳）五月吉日（代々）長谷川忠右衛門尉（印）ノ藤原直次（花押）（印）ノ中村弥左右衛門殿
（本文巻末「右何も年から□長十七年迄くりつめなり」とあり　三九九・二―イ三）

鍛冶名字考　寫　一冊　一三七

袋綴　改裝後補薄茶色表紙　用紙裏打　二七・五糎二二・五糎　三十八丁　外題中央書名同　内題なし、「三井家鑒藏」等

奥書　享徳（ママ）元年十月二日　渓主
（紙背消息文等　ビブリア第七號所収辻本直男「鍛冶名字考について」―参照
三九九・二―イ二五）

〔刀鍛冶之書〕　寫　一冊　一三八

綴葉装　表紙表被闕　用紙鳥の子　二五糎一七・五糎　押界八行　四十二丁
奥書　右一流之書物并押形雖秘種々／依爲御懇望相傳之聊不可有／他見他言者也／慶安弐年丑／六月吉日　吉永覺右門尉秀之（花押）（印）／小林源左衛門尉殿
（三九九・二―イ三三）

古今鍛冶代目錄　寫　一冊　一三九

袋綴　共表紙　二八糎二〇・五糎　十行　九十七丁　題簽左肩「本阿弥位附」
扉題「古銘極位書」
識語（巻初）明和五子年ヨリ文化十二亥年迄／四十八年ヲ加ヘ年數ヲ可答
（三九九・二―イ二七）

古今刀脇差銘心數寫　寫　一帖　一四〇

折本　毘沙門格子地青行成表紙　二八糎八・五糎　題簽左肩書名同　内題なし
（江戸時代中期寫　書中延寶年紀の刀銘あり　三九九・二―イ九）

〔諸國鍛冶銘秘傳〕　寫　一軸　一四一

竹屋源七郎著　自筆　巻子本　唐草文薄茶色金襴表紙　見返金紙　用紙金泥下畫鳥の子　三二糎三米五五糎　一紙五〇糎　内題なし
奥書　此寫物銘中身共ニ数合六拾家傳／之極意雖爲秘書連々御執心誠以不淺／存候諸國同銘書寫進上候実子自一人／外ニ聊以他言有之間敷者也仍如件／慶長拾年五月五日／竹屋源七郎　如安（花押）／鍋島主水様參
（紙繼目裏に筆者割印自署あり　三九九・二―イ三五）

諸國刀哥目錄　寫　一冊　一四二

綴葉装　共表紙　用紙鳥の子　二三・五糎一八糎　押界八行　十四丁　外題左肩「諸國刀哥書目録」、「平出氏書室記」
奥書　寛永參年五月　日
（三九九・二―イ三一）

〔諸國腰物銘之事〕　寫　一冊　一四三

綴葉装　毘沙門格子地牡丹唐草模様黒行成表紙　用紙鳥の子　二三・五糎一八糎　九行　二十三丁　内題なし
奥書　元和六年／五月吉日／長谷川忠右衛門（印）／藤原直次（花押）（印）／高田彦作殿
（三九九・二―イ一五）

〔諸國刀劔銘集〕　寫　一冊　一四四

綴葉装　共表紙　用紙鳥の子　一七・五糎一三糎　四十四丁　内題なし
奥書　元和六年十一月吉日／堀田又右衛門之親（花押）／武光平大夫殿
（三九九・二―イ七）

大目錄下巻　寫　一冊　一四五

綴葉装　共表紙　用紙鳥の子　三六糎二六糎　三十二丁　外題中央書名同　内題なし
奥書　家傳大支之雖爲目録連々種々御執心依中作／之抜感鍛冶之數百人太刀數百四拾七人記相／傳申処実正也鐍之口傳之処御子息并／弟子一人ヨリ外不可御宥有之中略口傳一言ニテモ他見他／言不可有之見外穴賢々々條々口傳云ヘシ仍如件／寛永六年霜月吉日／代々長谷川忠右衛門尉藤原直次／柳澤傳内／高次／半花老旨
（三九九・二―イ三三）

秘傳　寫一冊　一三二六

綴葉裝　共表紙　用紙鳥の子　二二・五糎一七・五糎　九行　七十二行　外題左肩「秘傳一全部」内題なし
奥書　元和七曆辛酉孟夏上澣／北川久兵衛尉正次（花押）（印）／森岡五郎助殿
（三九九・二―イ一七）

秘傳抄　寫一冊　一三二七

綴葉裝　縹色表紙　用紙鳥の子　二三糎一八・五糎　九行　四十五丁　題簽左肩「（書名同）全」内題なし
奥書　慶長十七年三月吉辰／深尾四郎右衛門尉／真繼（花押）（印）／授与斛庵公
（片假名交り　三九九・二―イ二）

紛寄論　寫一冊　一三二八

自跋　綴葉裝　共表紙　用紙鳥の子　一八糎一五・五糎　九行　五十六丁、「柳澤真次郎藏書」
（江戸時代初期寫　三九九・二―イ五）

銘盡　寫一冊　一三二九

袋綴　栗皮色表紙　用紙鳥の子　二六・五糎一八・五糎　七行　十八丁　外題左肩書名同　内題なし、「竹裏館文庫」
奥書　元和九年／八月吉日　木屋庄左衛門（花押）／竹中左京殿參
（片假名交り　三九九・二―イ九）

和朝古今鍛冶之次第同名乘之妄　寫一冊　一三三〇

袋綴　改裝後補焦茶色布目表紙　三二糎二三糎　十行小雙行　二十二丁
奥書　此目録雖爲家傳不出連々依不淺御懇望令傳／受候早聊以他言他見御座有間敷者也仍如件／元和弐年辰三月吉日　守昌（墨印）
（三九九・二―イ二）

○

犬追物日記　寫一軸　一三三一

巻子本　薄茶色表紙　見返水色紙　用紙鳥の子　三六糎六米二五糎　一紙五〇糎
（江戸時代初期寫　原に「如此雖註並矢ことに可有口傳又外／見憚可有者也／小笠原前備後入道在判／新開前佐渡入道在伴／七条四郎入道基長在判／應永卅參年八月日澁野道秀入道より林入道／相傳／嘉吉元年八月廿日基長より行元相傳」と奥書あるものの寫　三九九・四―イ五）

簸書　寫一冊　一三三二

伊勢貞丈著　自筆　袋綴　改裝後補薄茶色表紙　原裝共表紙　用紙裏打　二八・五糎二〇・五糎　十行　二十丁　挿畫約二十頁分　題簽左肩金紙「簸圖考」原題簽左肩「（書名同）全」、「清野文庫（紙票）」
奥書　明和二年乙酉十月廿四日　伊勢平藏貞丈記（花押）
（三九九・四―イ九）

銀臺犬追物之記　寫一軸　一三三三

松平定信著　自筆　巻子本　茶色絹表紙　用紙鳥の子　裏打　三六糎一二米四〇糎　一紙六五糎　題簽臘箋「銀臺犬追物」内題なし、「樂亭文庫」
奥書　（本文末）左少將定信
（本文の次に極彩畫巻あり　寛政八年四月六日の記　三九九・四―イ七）

射方目錄　寫一軸　一三三四

平重繼著　自筆　巻子本　銀繍鶯色古裂表紙　見返金紙　用紙雲母引鳥の子　一八糎五米五七糎　一紙九二糎　天地銀切箔飾單邊一五糎
奥書　慶長拾七／九月吉日　平重繼（花押）（印）／岡田一学助殿
（紙背繼目に墨印あり　三九九・四―イ二）

鞆考・鳴弦蓁目考　寫　一冊　二三五

伊勢貞丈著　長瀬眞幸筆　袋綴　薄茶色布目表紙　二六・五糎一八糎　十行　二十一丁　題簽左肩雲紙「鞆考／鳴弦蓁目考」、「清野文庫（紙票）」

奥書　右蓁目鳴弦考貞丈先生之説實得蓁目鳴弦之／正意其弁論卓然御可信之　長瀬真幸

識語（裏表紙）此外一冊（外二冊）者故長瀬真幸翁之本也今也長瀬氏／零落至于賣鬻家材以爲粮稻之資矣時世／衰頽誠以可不歎息哉故予求置秘于之柊園／書函之中者也

（表紙右下）（朱書）玄道舘所藏

（「鞆考」は原に「天明三年癸卯三月廿四日／伊勢平藏貞丈録」と奥記あるものの寫　三九九・四―イ三）

美人草　寫　三軸　二三六

蒔田廣定筆　慶長六辛丑龍集孟夏望日宗佐序　巻子本　金泥下畫紺表紙　見返金紙　用紙金銀切箔散金泥下畫　一八糎　天地單邊一五糎　題簽左肩金泥下畫丹紙「書名同）一（―三）」

奥書（巻一）斯書美人草之内撰出用有／處之物五十ケ條以作一巻乎／大形此分御指南之呎者先／一通相證申候乾猶以深御執心／之旁在之重而以其次之巻可／有御相傳候但一旦之志雖在之／成之人希有也宜察其志／給者也／寛永三丙寅季／仲夏吉辰／蒔田左衛門權佐廣定（印）（花押）／堀又七郎殿參

（巻二）抑學射人及多年雖励之／不受師訓中略寛永三丙寅季／仲夏吉辰下略（以下署記宛名巻一に同）

（巻三）日置流弓之奥儀相極斯／一巻候得者重位相傳之事／不及申麁抹書進事茂／無之候共貴殿之儀超過于他／御執心不淺故書之傳授之／候訖惣而一天下悉餘流癈／當流一派雖相究未知其源／而世間説ゝ多之見蓋從日置／傳吉田道寶以來彼家為至宝／然處老師壽徳菴宗佐吉田／助左衛門尉江被尽粉骨故則／以血判還誓紙在之矣拙子茂亦／宗佐老江右同前之仕合仁付還誓／紙在之支仁候然處仁貴殿亦其分／之事ニ候得者抛是非書之進之／敢妄傳被成間敷者也仍印可狀／如件下略（以下署記宛名巻一に同）

（三九九・四―イ一五）

的聞書　寫　一軸　二三七

長谷場慶純聞書　自筆　巻子本　雲紙表紙　二七・五糎一一米六〇糎　一紙三五糎　外題「弓馬之聞書」

奥書　此条ゝ／嶋津十郎（在名河上養久法名道安）左衛門尉殿ニ請御意聞書也不可有他見／可秘ゝ／明應三年甲辰三月十三日　長谷場兵ㇷ少輔藤原慶純（花押）

（内題の下に「長谷場兵部少輔慶純」、外題下に「主孝純」とあり　三九九・四―イ一三）

矢可沙汰之次第　寫　一軸　二三八

巻子本　金泥下畫雲紙表紙　見返金泥下畫　用紙鳥の子　三二糎四米六〇糎　一紙四九糎　天地金泥單邊二六・五糎　題簽臙脂「矢沙汰之次第」

奥書　此一巻爲臼杵親宣書之訖堅／戒外見者也／大永五年四月日（花押）

（三九九・四―イ九）

矢鏃銘鑑　寫　三冊　二三九

佐枝種重著　近松茂矩増補　山縣正矩筆　元文庚申年十月十八日近松茂矩自筆序　寶暦六丙子仲秋望後二日山縣正矩跋　袋綴　紺表紙　二七・五糎二〇・五糎　十一行　題簽左肩「（書名同）乾（坤・附尾）」、「尾張國名護屋城坤廣井縣錬兵堂藏本（墨印）」「尾張津嶋井澤左助（墨印）」「藤浪氏藏」「清野文庫（紙票）」等

奥書　前略于時寶暦六丙子秋僕遊学／於尾府則使僕淨謄此書因謂書其楮尾爾／仲秋望後二日　濃　山縣橘正矩（印）

（内題の下に乾坤兩冊「東武佐枝種重再撰／尾府近松茂矩増補」、附尾冊「尾府近松茂矩輯録」「嚮ニ乾坤二巻ヲ増補セシ後間々見來ル／鏃ノ内古作及ヒ異形ノ類前集ノ趣／ニ隨フテ撰ス于時延享二年乙丑三月廿八日／書于錬兵堂」とあり　三九九・四―イ一七）

○

三十二相人形筒堅書　寫　二帖　二三四〇

稲富一夢著　自筆　折本　金泥下畫紺表紙　見返金泥紙　用紙雲母引鳥の子　二五糎一〇・五糎　天地單邊二二・五糎　挿畫着彩　題簽左肩金泥下畫丹紙「三十二相筒堅書」「三十二相人形書」

奥書　右此書者天文廿三年十一月廿四日ニ佐ミ木少輔ノ荷次郎より祖父相模守請取置一大事之ノ依秘書一字一點誰ミニモ相傳不申候といへとも／其方数年之御懇望無據ニ付而極意不殘相ノ傳仕候親子兄弟たりといふとも他見被成間敷ノ候者也仍如件ノ稲富一夢ノ理齋ノ五月吉日

（三九九・五―一五）

鉄炮焦玉拵之口傳　寫　一冊　二三四一

袋綴　茶色表紙　一四糎一七糎　十八行　十二丁　題簽左肩青紙「鉄放玉事」

奥書　十月六日　丁数拾弐丁

（室町時代末期寫　三九九・五―一二）

〔鉄炮傳書〕　寫　五帖　闕　二三四二

酒井右衛門尉政忠著　自筆　折本　紺表紙　見返金泥下畫藍紙　用紙鳥の子　二二・五糎一〇糎　天地銀界單邊二〇糎　五行　題簽左肩金泥下畫丹紙「鉄炮本來（ママ）書第二」「鉄炮真未來書第五」「鉄炮草藥之書第八」「鉄炮露葉之書第九」「××玉火抜砕」

奥書（第二）　右條ミ之趣能ミノ鍛練して其位ノ不忘事肝ノ要也莵角ノ心を鉄炮に成ノて稽古第ノ一也秘書其數ノ多有之事ニ候間ノ執心次第に相ノ傳可申也ノ寛永四年丁卯二月九日ノ酒井右衛門尉（花押）（印）ノ市川彦太夫殿旨

（第五）　此一冊鉄炮高ノ上之秘書後代之ノ形見与存知心ノ底之趣大形ノ書付申候歟ミ不ノ可有他言ノ候莵角極ノ意と申て心をノ鉄炮に成ノ候事第ノ一也ノ寛永四年ノ丁卯六月廿日ノ酒井右衛門尉（花押）（印）ノ市川彦太夫殿旨

（第八）　右薬之三百余方雖有ノ之無類良薬迄所ノ能書也猶於所望ノ儀者書述可進上候ノ全可除外見ミノ寛永四年ノ丁卯霜月十三日ノ酒井右衛門尉（花押）（印）ノ市川彦太夫殿旨

（第九）　右之一巻雖爲秘ノ書後代形見与存ノ記置候努ミ不可ノ有他見者也ノ寛永五年ノ辰七月拾二日ノ酒井右衛門尉（花押）（印）ノ市川彦太夫殿旨

（終冊）　右玉籠有ノ色ミ口傳秘書多ノ候得共先大形ノ書付置候条ノ口上ニて可ノ申渡候我等ノ數ケ年鍛ノ練仕候得共ノ跡ミ迄之形ノ見与存書付早ノ夢ミ他見ノ他言有之ノ間敷者也ノ寛永五年ノ辰九月五日ノ酒井門入ノ政忠（花押）（印）ノ市川彦太夫殿旨

（第二、五、八、九、終冊を存す　三九九・五―一七）

鉄炮之空　寫　一冊　二三四三

奥野弥兵衛著　自筆　袋假綴　共表紙　一六・五糎二一・五糎　十一行　十丁（遊紙七丁）　内題「鉄炮之空（ママ）」

奥書　慶長拾年二月吉日ノ奥野弥兵衛ノ山河長太夫殿參

（三九九・五―一三）

〔鉄炮之事〕　寫　一軸　二三四四

林次郎兵衛尉總重著　自筆　巻子本　牡丹花繍淺黄色表紙　見返金紙　用紙鳥の子　裏打　一七・五糎一米四四糎

奥書　鈴木愛之助道次ノ深屋次左衛門好忠ノ林次郎兵衛尉總重（花押）（印）ノ慶安三年卯月吉日ノ徳重吉左衛門尉殿

（三九九・五―一七）

〔鋲炮秘書〕　寫　十五冊　二三四五

伊藤清左衛門尉政忠著　自筆　袋假綴　共表紙　二五糎一七・五糎　外題左肩「白本十五之内　未来之書（鋲炮現在書・歌之巻・鉄炮山谷之書・小巻之書・惣まくり鋲炮右顕尺寸・伊達天・三尺がね・後山谷・町打薬込・鋲炮當り之次第・渡天矢倉之書・秘極集）」　題簽左肩丹紙（第十四冊）「求中集第五」　内題（第十五冊）「秘極集第一」

奥書　（第一至五・七・九至十二冊）慶長十七子九月吉日ノ田布瀬ノ酒井一之尉ノ小林九良兵衛尉ノ伊藤清左衛門尉政忠（花押）（印）ノ倉橋木工大夫殿　（但し第三冊「吉日」の條「十二日」、第十二冊同「九月廿八日」とあり）

（第六冊）慶長十九年五月吉日（以下宛書前に同）
（第八冊）慶長十七ヶ九月吉日／伊藤清左衛門政忠（花押）（印）／倉橋木工大夫殿旨
（第十三冊）慶長八年六月吉日／田付兵庫助／在判
（第十四・五冊）慶長四年六月吉日／田付兵庫助／在判
（第八・十三・十四冊は別筆にて用紙鳥の子綴葉装　三九九・五―イ一五）

〔鉄炮秘傳書〕　寫　八巻目録共　十一冊　闕　一三四六

柘植清左衛門尉宗勝著　自筆　折本　紺表紙　見返銀紙　用紙雲母引鳥の子　一八糎九・五糎　天地銀界單邊九・五糎　六行　題簽左肩金泥下畫丹紙「陰之巻第二」「玉薬之書第三」「陽之巻第四」「殺生之巻第五」「町用集第六」「玉行之書第七」「威風之巻第八」「極意集第九」「町極集第十」「石火矢之巻」
奥書（各冊）右書無免以前／他見他言不可有／者也
（第九）右此書秘傳之極意／候条縦雖爲親子兄／弟印可之上ニ而可相／傳者也
（石火矢之巻）右石火矢之町薬矢倉之／鑄私工夫を以仕出シ候条相傳／申者也
然間十巻之外也能／ミ鍛練候而可有御打者也／秘ミ
（各冊）慶安二年九月十二日（又は吉日）／柘植清左衛門尉／宗勝（花押）（印）／市川安兵衛殿
（巻二至十及び「石火矢之巻目録」を存す　三九九・五―イ九）

辨正萬川集海　寫　七巻　七帖　闕　一三四七

青木四郎兵衛重澄著　自筆　折本　毘沙門格子紺行成表紙　用紙雲母具引紙　一七・五糎九糎　天地單邊一四・五糎　有界六行
奥書　皆寛永龍集己卯暦／晩秋良辰／青木四郎兵衛／重澄（印）
（巻二至巻六・九・十を存す　内題下に「巻二求身巻」「巻之三薬珠巻」「巻之四回直巻」「巻之五雑教巻」「巻之六戰科巻」「巻之九宇宙巻」「巻之拾町科巻」とあり　三九九・五―イ一）

○

鞍裝古實　寫　七冊　一三四八

栗原信充著　自筆　袋綴　縹色表紙　間紙を挟む　二四・五糎一七糎　四周單邊　八・五糎一三・五糎　九行　挿畫着彩　内題「（書名同）　巻第二（―五）」（第一・六・七冊内題なし）、「清野文庫（紙票）」
（三九九・六―イ七）

馬書　寫　一冊　一三四九

重岡保宴筆　袋綴　栗皮色表紙　二三・五糎一五・五糎　六行　三十五丁　外題中央書名同　扉題左肩書名同
奥書　元和八年三月廿七日　重岡保宴書之
（三九九・六―イ三）

〔鞍鐙考證雜集〕　寫　六冊　（一三五〇―一三五五）

袋綴　改裝後補青表紙　原裝共表紙　間紙を挟む　二七糎一九・五糎、「清野文庫（紙票）」
（三九九・六―イ九）　所収細目次の如し

＊畠山作鞍考（第一冊）　一三五〇

栗原信充著　自筆　三丁　折込三枚　原外題左肩書名同、「栗原家藏」

＊大坪鞍私考（第二冊）　一三五一

栗原信充著　自筆　九丁　折込三枚　原外題左肩書名同、「栗原家藏」
奥書　文政九年秋九月四日夜草之畢私案／狼藉猥不可出書窗之外者也／栗原孫之丞源信充（花押）

*舌長鐙（第三冊）　二三五三

栗原信充著　自筆　四丁　折込一枚　原外題左肩書名同

奥書　天保十一年九月廿七日甲寅　栗原信充記

*鞍鐙圖（第四冊）　二三五三

本多忠憲著　自筆　五丁　原外題左肩書名同、（本田家紋印）

奥書　此踏鐙者享和癸亥之／秋予偶於路傍之雜貨／店觀之以為奇珎故買／之藏于篋底焉來日欲／具于鑒識之徵而已／文化元甲子二月／本多甲馬忠憲（花押）

*和名抄考證鞍馬具（第五冊）　二三五四

〔栗原信充〕著〔自筆〕　二十丁（原表紙共）　原外題左肩書名同

*鏡鞍鐙圖（第六冊）　二三五五

伊勢貞丈著　五丁　原外題左肩書名同

（原に「右嘗得視古物摸之了／天明二年壬寅正月十九日／伊勢平藏貞丈圖」とあるものの寫）

人見流拔覺上卷　寫一冊　闕　二三五六

人見宗次著　自筆　綴葉裝　菊唐草金襴鶯色表紙　見返金布目紙　用紙鳥の子二四糎一八糎　六行　七丁　扉題「人見流拔覺集上卷第五」　内題なし

奥書　慶長十八年癸丑／八月吉日／人見卜齋／宗次（花押）（ローマ字印）／村越久四郎殿參／同年八月十七日書之（印）

（巻末に「右五巻者／本國常陸大田住人見熊介藤原宗次／選之（印）」とあり　三九九・六―イ五）

○

古鎧彩説　寫一冊　二三五七

齋藤豊啓著　本多信利筆　山田直路畫　自序　天保四年三月路老人彦麻呂跋

袋綴　紺表紙　二六・五糎一九糎　三十八丁　挿畫彩色　題簽左肩金銀砂子散「（書名同）全」、「豊啓」「蘆全亭」「原家藏本之印」「彦麻呂」「清野文庫（紙票）」等

奥書　天保四癸巳年三月朔日／齋藤莊之介豊啓著（印）／本多吉兵衛信利書（印）／山田文十郎直路画（印）

（凡例に「天保四癸巳年三月一日／石見濱田家中／齋藤豊啓」と自署　三九九・セ―イ一）

自然科學

蘭學

許多虛妄言語帖　寫　一帖　一三六八

高野長英著　自筆　折本　改裝後補更紗表紙　二八糎一六・五糎　十行約十八字
十一折　題簽左肩絹地呉秀三筆「高野長英／（書名同）」　内題なし、「呉氏文庫」
奥書　高野長英稿（印）
（用文漢文　四〇九―イ七）

芝蘭堂新元會圖　一鋪　一三六九

大槻磐渓編　折畳　改裝後補茶色表紙　用紙和唐紙　四二糎二八・五糎　全寸一
米一九糎一米一四糎
（石版刷　右上部に「芝蘭堂新元會圖／寛政六年甲寅閏十一月／十一日即西洋一
千七百九／十四年一月一日距今茲明治／六年癸酉正當八十年矣／不肖男清崇追題」
とあり　下段に圖、上段に圖中諸家の筆蹟を模刻　四〇九―イ一二）

鑄人書　寫　一帖　一三七〇

小關三英譯　自筆　折本　改裝後補更紗表紙　二二糎一五糎　四周雙邊一七・五
糎一二・五糎　十行罫紙　三十四折　題簽左肩絹地呉秀三筆「小關三英鑄人書」、
「全樂堂」「呉氏文庫」
識語　（紙箋）之爲三英小關先生遺稿／余初聞先生之事于考妣感／慨具至鳴呼先
生于蘭學／酷禁時與高野長英等議國／事論政教遂罹言禍豈不可／惜哉余每□此
稿未嘗不掩卷／而痛歎也
（序文平假名・本文片假名交り　巻初「百科略説緒言（ママ）」として無界十行十七頁分
あり　四〇九―イ五）

蘭學事始　二巻　二冊　一三七一

杉田玄白著　杉田廉卿校刊　明治二己巳年正月望杉田玄端序　明治二己巳年孟春
杉田廉卿序　袋綴　薄卵色表紙　二二・五糎一五糎　四周單邊一五・五糎一・五
糎　十行二十一字　題簽左肩雙邊「（書名同）上（下）」　柱刻「（書名同）（丁數）
天眞樓藏」
刊記　（見返）明治二年己巳新刻／蘭學事始／天眞樓藏版（印）
（巻初に大浪畫「鵞齋杉田先生肖像」あり　四〇九―イ三）

蘭東事始　寫　二巻　一冊　一三七二

杉田玄白著　横山由清筆　弓槻茂質序　袋綴　澁刷毛目表紙　二三・五糎一六・五
糎　十行　四十六丁　外題左肩「（書名同）完」、「月の屋」「村岡典嗣藏書」
（表遊紙裏に茂質謹題の籠字あり　文學第十五巻十七號所収緒方富雄「蘭學事始
研究の進歩」―参照　四〇九―イ九）

和算

三尺求圖數求路程求山高遠法　寫　一帖　一三七三

吉田如見考　吉田邨恂校　自筆　折本　改裝後補更紗表紙　三一糎二〇・五糎
十三折　題簽左肩呉秀三筆「吉田宗恂校／吉田如見考（書名同）」　内題なし、「稱意館之寶」「稱
意館藏書記」
奥書　（三尺求圖數）一考了　恕軒意（花押）
（求路程之覺）一考了　清江亭　如見（花押）
（以圖求路程覺）一考　歸陽窩　皓（花押）
（三尺求圖數・求路程之覺・以圖求路程覺・求山高遠法の四項を所収　「三尺求
圖數」の下に「法眼意菴邨恂校」、「五尺求圖覺」の下に「法眼意菴邨恂校」とあ
りもと一五糎二一・五糎袋綴を上下二段に改裝臺貼す　四一九―イ三）

天文學

新製靈臺儀象志　寫　十四巻圖二巻　二十二冊　一三六四

南懷仁(Verbiest, Ferdinand)奉勅撰　劉蘊徳(清)等筆受　孫有本・徐瑚(清)詳受　康熙甲寅歳日躔娵訾之次自序　袋綴　小倉茶色表紙　二七糎一八・五糎　(圖)焦茶色絹表紙　三四糎一九・五糎　九行十八字小雙行(四周單邊又は左右雙邊の丁あり)　(圖)四周雙邊(又は單邊)三一糎三一糎　題簽(本文)左肩「靈臺儀象志(巻数)(冊数)」　(圖)中央「靈臺儀象志 圖 乾上(一坤下)(冊数)」　扉題中央「儀象志 (巻数)」　(江戸時代末期寫　朱書校合を施す　四五〇―イ二)

新編評註通玄先生張果星宗大全　十巻　五冊　一三六五

陸位崇(明)著　陸繼美(明)參閲　唐謙(明)鋟梓　萬曆閼逢姑洗之吉自序　唐袋綴　改裝後補薄緑臘箋表紙　用紙裏打　二六糎一六糎　四周雙邊二二糎一三・五糎　有界十二行二十四字小雙行(二段に分ち上段二・五糎に頭注　下段本文)(巻十は二十七字)　挿畫入　題簽後補左肩墨「張果星宗一之二(一九之十)(畢)」　柱刻「張果星宗(又は鄭氏星案)(巻數)(丁數)」　刊記　(巻末雙邊木記)萬曆甲午金陵／益軒唐氏新梓　(明版　巻十に「鄭希誠星案」を収む　四五〇―イ一九)

崇禎類書　寫　百十五冊　(一三六六―四二)

多々良保佑編　天明二年壬寅二月春分日自序　袋綴　小倉茶色表紙　二七糎一八・五糎　題簽左肩「(書名同)(所収篇名)(巻數)(冊數)」　扉題中央篆字「(書名同)　(冊數)」　(江戸時代末期寫　表紙右下に各冊數を朱書　序云「前略山路先生父子稽／校十餘年漸通二於其意一以推二里差一算二／交食一知二其密一倍二於他曆一也而後欲下歸二之古法一以二百分一立中諸數上惜哉羅レ病父／子不レ竟二其功一而没焉如下其平日所二考／訂一之曆術解異域文字飜譯之類万／國地理之書等上無レ不二亦盡傳レ之不レ佞／聚二其諸傳一以爲二參考之佐一又作二西洋／推歩曆考一之書一較二之五十年來交食／實測志一欲レ使二後天學士知二曆算疎密一／矣編集凡一百一十五巻號レ之曰二崇／禎類書一以備二於後世改曆之／公事一云爾」　四五〇―イ一一)　所収細目次の如し

*崇禎儀象目次考　(第一冊)　一三六六

*天經示蒙　八巻　(第二至九冊)　一三六七

談天氏著

*萬國地理圖説　五巻　(第十至十四冊)　一三六八

山路之徽口受　稻正禮・崎明筆受

*南嶋志　二巻　(第十五・十六冊)　一三六九

源(新井)君美著　享保己亥十一月戊午自序　内題「南嶋志巻上(琉球志巻下)」

*蘭學緒言　(第十七冊)　一三七〇

山路之徽著　自序

*和蘭譯文畧艸稿　(第十八冊)　一三七一

前野良澤著

*和蘭國語考　(第十九冊)　一三七二

*〔和蘭雜考〕　(第二十冊)　一三七三

青木敦書著　壺井長員筆　左記の書を合綴

和蘭貨幣考

奥書　延享二乙丑年四月廿一日／壺井長員呂峰書

和蘭櫻木一角説
奥書　右和蘭櫻木一角説一巻青木氏所撰也今／寫焉／延享三丙寅年四月廿日／壺井長員呂峰寫焉
和蘭字記
延享四歳次丁卯春三月十五日自序
奥書　延享四丁卯年三月十八日　壺井長員呂峯寫焉

*阿蘭陀地球説（第二十一冊）　一三四

本木良永譯　松村元綱校　扉題「阿蘭陀地球説譯」
（扉裏に「書名アトラスハンゼーハールト阿蘭陀暦數一千七百／四十五年開板ノ書也」「阿蘭陀人撰者レヲナルトヨシユアーヲッテンス（片假名の横に蘭綴を書す）」とあり　原に「明和辛卯之冬十二月本木良永譯松村元綱校」と奥書あるものの寫　朱書書入あり）　一三五

*和蘭文字萬國地名考（第二十二冊）　一三六

*地圖畧説（第二十三冊）　一三七

扉題「地圖略説／ゼヲガラーピ／GEOGRAPHIE」

*和蘭暦解　二巻（第二十四・二十五冊）　一三八

*小自鳴鐘時刻考（第二十六冊）　一三九

扉題左肩「紅毛時刻考」

*紅毛緯度日暦（第二十七冊）　一四〇

*泰西水法　五巻（第二十八至三十三冊）　一四一

熊三拔（Ursis, Sabbathino de）著　徐光啓（明）筆記　李之藻（明）訂　萬暦壬子歳夏五月望日曹于汴序　鄭以偉序　萬暦壬子孟夏日彭惟成序　萬暦壬子春月徐光啓序　萬暦壬子初夏自序
識語　（巻五末）（朱）安永五春丙申正月多植茂蕃句點
（原に「内膳正板倉君有泰西水法寫本／屬予加和訓余嘉其志蘄盡力乎／溝洫之義乃下筆以塞厚望／寛文四季秋七月　松下見林題」とあるものの寫）

*遠西奇器圖説　三巻（第三十四至四十冊）　一四二

鄧玉函（Terrenz, Jean）口授　王徵（明）譯繪　吳懷古（明）校　天啓六年孟春人日
王徵序　天啓七年丁卯孟春王徵序　汪應魁序

*新製諸器圖説（第四十一冊）　一四三

王徵（明）著　吳懷古（明）校
（原に「辛未秋日吳氏西爽堂重刻」とあるものの寫）

*理編十種序（第四十二冊）　一四四

*職方外紀　六巻首一巻（第四十三至四十八冊）　一四五

艾儒略（Aleni, Giulio）著　楊廷筠（明）編　葉向高序　天啓癸亥日躔天廚李之藻序
楊廷筠序　瞿式穀序　許胥臣序　天啓三年歳在癸亥八月望日自序　龐迪我・熊三拔等奏疏　熊士旂跋

*渾蓋通憲圖説　二巻首一巻（第四十九至五十一冊）　一四六

李之藻（明）著　鄭懐魁（明）訂　萬暦疆圉叶洽之歳日躔在軫仁和自序　萬暦丁未中秋日車大任序　萬暦丁未八月既望鄭懐魁序　萬暦疆圉協洽之歳日樊良樞跋
（原に巻末「督工主簿泰寧葉良鳳」とあるものの寫）

*暦法西傳（第五十二冊）　一四七

湯若望（Schall von Bell, J. Adam）著

*測量法義（第五十三冊） 一三八七

利瑪竇(Ricci, Mattheo)口譯　徐光啓(明)筆受

*割圜八線互求法 二卷（第五十四・五十五冊） 一三八八

徐光啓(明)校
（内題次行に「此所八八線表之通」とあり）

*八線表箅法解義（第五十六冊） 一三八九

平璋著

*圜容較義（第五十七冊） 一三九〇

利瑪竇(Ricci, Mattheo)口授　李之藻(明)筆受　萬曆甲寅三月既望李之藻序

*新曆曉或（第五十八冊） 一三九一

湯若望(Schall von Bell, J. Adam)著

*修明曆法（第五十九冊） 一三九二

谷應泰(清)著
（明史紀事本末卷第七十三より抄記）

*三才發祕抄（第六十冊） 一三九三

陳雯(清)著　陳昌賢(清)編　陳晉錫・陳宗泗・温琮(清)參閲

*新法表異 二卷（第六十一・六十二冊） 一三九四

湯若望(Schall von Bell, J. Adam)著

*交食表抄（第六十三至六十七冊） 一三九五

湯若望(Schall von Bell, J. Adam)著　羅雅谷(Jacobus, Rho)訂
（西洋新法曆書本よりの抄寫）

*恒星經緯表抄（第六十八冊） 一三九六

湯若望(Schall von Bell, J. Adam)著　羅雅谷(Jacobus, Rho)訂
（西洋新法曆書本よりの抄寫）

*五緯表抄（第六十九・七十冊） 一三九七

羅雅谷(Jacobus, Rho)著　湯若望(Schall von Bell, J. Adam)訂
（西洋新法曆書本よりの抄寫）

*黄道恒星經緯表 二卷（第七十一・七十二冊） 一三九八

識語（上卷前遊紙裏）此書以二關東連年測量一作レ之尤依二一西洋曆儀象志一所レ以符二今古歲差加一減宿度一而山路先生天球皆用レ此一表一云爾

*恒星出沒表 二卷（第七十三・七十四冊） 一三九九

湯若望(Schall von Bell, J. Adam)著　羅雅谷(Jacobus, Rho)訂
（西洋新法曆書本よりの寫）

*太陰二三均數總數加減表 二卷（第七十五・七十六冊） 一四〇〇

*增補月離表（第七十七冊） 一四〇一

山路主住著　山路之徽校

*交食筭法拾遺（第七十八冊） 一四〇三

山路垣中著

*交食國字解 二卷（第七十九・八十冊） 一四〇三

*月食國字解（第八十一冊） 一四〇四

*江戸推艸（第八十二冊） 一四〇五

*土星立成 三卷（第八十三至八十五冊） 一四〇六

*〔明史藁抄〕（第八十六至九十七冊） 一四〇七

王鴻緒（清）奉勅撰

（明史藁より志第一天文志第七至第十七暦の部分の抄記）

*江府日景（第九十八冊） 一四〇八

（扉中央に「享保十七壬子正月十六日ヨリ／毎日表影記」とあり）

*仙臺實測志 二卷（第九十九・百冊） 一四〇九

多植茂蕃著

奥書 右仙臺二十四氣及測量諸數自享／保十有六年辛亥到于今年丁酉／取數十年實測諸數以折中攷定／而所得也／安永六年丁酉秋八月朔日／多々良保佑測驗 青田依定 藤厳則 仝校正

*西暦麤考 十四卷（第百一至百十四冊） 一四一〇

多植茂蕃著

*崇禎類書目錄（第百十五冊） 一四一一

崇禎暦書 寫 百二十五冊 （一四一二―一四二七）

徐光啓・李天經（明）等編 崇禎四年正月自序 袋綴 薄茶色表紙 二七糎一八・五糎 約九行二十二字小雙行 題簽左肩「（書名同）（所収篇名）（冊數）（卷數）」 扉題中央篆字「（書名同）（冊數）」

（江戸時代末期寫 表紙右下に各冊數を朱書 一四一二―一九） 所収細目次の如し

*明題疏 十四卷（第一至十四冊） 一四一二

*清奏疏 六卷（第十五至二十一冊） 一四一三

*崇禎暦書暦引（第二十二冊） 一四一四

羅雅谷（Jacobus, Rho）著 龍華民（Longobardi, Nicolo）・湯若望（Schall von Bell, J. Adam）訂 李次彪・陳士蘭・朱廷樞（明）校

（内題下に「此書舊号西暦入門於京都／山路先生之所傳也」とあり）

*幾何要法 四卷（第二十三至二十六冊） 一四一五

艾儒略（Aleni Giulio.）口述 瞿式穀（明）筆受 葉益蕃（明）校 陳于階・鄭洪猷・陳應登（明）較梓 崇禎辛未仲春鄭洪猷序

*學暦小辯（第二十七冊） 一四一六

*籌　算（第二十八冊）　一四一七
羅雅谷(Jacobus, Rho)著　朱睿(明)校

*比例規解（第二十九冊）　一四一八
羅雅谷(Jacobus, Rho)著　崇禎庚午仲秋自序

*開方簡法（第三十冊）　一四一九
朱睿(明)補遺

*通率表（第三十一冊）　一四二〇
朱睿(明)補遺

*西曆目錄（第三十二冊）　一四二一

*簡平儀論（第三十三冊）　一四二二
鄧玉函(Terrenz, Jean)著　朱睿(明)校

*日晷圖法 四卷（第三十四至三十七冊）　一四二三
湯若望(Schall von Bell, J. Adam)校　朱睿(明)補　序

*曆指（月離曆指） 四卷（第三十八至四十一冊）　一四二四
羅雅谷(Jacobus, Rho)著　湯若望(Schall von Bell, J. Adam)訂
（第一卷に句讀訓點及び朱圈點を施す）

*曆指（交食曆指） 七卷（第四十二至四十八冊）　一四二五
湯若望(Schall von Bell, J. Adam)著　龍華民(Longobardi, Nicolo)・羅雅谷(Jacobus, Rho)訂　薄珏・朱睿(明)校
（第一・二卷初に朱圈點を施す）

*古今交食考（第四十九冊）　一四二六
湯若望(Schall von Bell, J. Adam)著　龍華民(Longobardi, Nicolo)・羅雅谷(Jacobus, Rho)訂　王應遴・鄒明著・朱廷樞(明)校

*交食蒙求 二卷（第五十・五十一冊）　一四二七
天啓五年歲次乙丑季夏吉旦汪喬年序

*遠鏡說（第五十二冊）　一四二八
湯若望(Schall von Bell, J. Adam)著　天啓六年歲次丙寅仲秋月自序

*交食表 十卷（第五十三至六十二冊）　一四二九
湯若望(Schall von Bell, J. Adam)著　羅雅谷(Jacobus, Rho)訂

*諸方晝夜晨昏論及其分表 一卷（第六十三冊）　一四三〇

*七政蒙求（第六十四冊）　一四三一

*日躔晷指（第六十五冊）　一四三二
羅雅谷(Jacobus, Rho)著　湯若望(Schall von Bell, J. Adam)訂

*日躔表 二卷（第六十六・六十七冊）　一四三三
羅雅谷(Jacobus, Rho)著　湯若望(Schall von Bell, J. Adam)訂
（頭注校合朱圈點を施す）

*月離表 六卷 (第六十八至七十三冊) 一四四

羅雅谷(Jacobus, Rho)著 湯若望(Schall von Bell, J. Adam)訂

*黃赤道距度表 (第七十四冊) 一四五

鄧玉函(Terrenz, Jean)著 龍華民(Longobardi, Nicolo)訂

*恒星曆指 三卷 恒星經緯圖說一卷 恒星經緯表二卷 (第七十五至八十冊) 一四六

湯若望(Schall von Bell, J. Adam)著

*恒星出沒表 二卷 (第八十一・八十二冊) 一四七

湯若望(Schall von Bell, J. Adam)著 龍華民(Longobardi, Nicolo)・羅雅谷(Jacobus, Rho)訂 楊之華・陳士蘭・朱廷樞(明)校

*天漢經緯表 (第八十三冊) 一四八

陳藎謨(明)著 朱睟(明)校 自序

*夜測時法 (第八十四冊) 一四九

羅雅谷(Jacobus, Rho)著 龍華民(Longobardi, Nicolo) 湯若望(Schall von Bell, J. Adam)訂 程廷瑞 李次彰・朱廷樞(明)校

*五緯曆指 九卷 (第八十五至九十三冊) 一五〇

羅雅谷(Jacobus, Rho)著 龍華民(Longobardi, Nicolo) 湯若望(Schall von Bell, J. Adam)訂 程廷瑞・李次彰(明)校 朱睟(明)重校

*五緯表說 (第九十四冊) 一五一

薄珏(明)著 劉獻廷(明)校

*五緯表 十卷 (第九十五至百四冊) 一五二

羅雅谷(Jacobus, Rho)著 龍華民(Longobardi, Nicolo) 湯若望(Schall von Bell, J. Adam)訂 黃宏憲・宋發・朱廷樞(明)校

*測天約說 二卷 (第百五・百六冊) 一五三

鄧玉函(Terrenz, Jean)著 龍華民(Longobardi, Nicolo) 湯若望(Schall von Bell, J. Adam)訂 朱睟(明)校

*大測 二卷 (第百七・百八冊) 一五四

鄧玉函(Terrenz, Jean)著 龍華民(Longobardi, Nicolo) 羅雅谷(Jacobus Rho)訂 朱睟(明)校

*八線表 二卷 (第百九・百十冊) 一五五

鄧玉函(Terrenz, Jean)著 龍華民(Longobardi, Nicolo)等訂 內題「割圓八線之表」

*渾天儀說 五卷 (第百十一至百十五冊) 一五六

湯若望(Schall von Bell, J. Adam)著 龍華民(Longobardi, Nicolo) 羅雅谷(Jacobus, Rho)訂 朱睟(明)圖 鄒明著(明)等校 崇禎九年日躔壽星之次李天經序

*測量全義 十卷 (第百十六至百二十五冊) 一五七

羅雅谷(Jacobus, Rho)著

天元玉曆祥異賦 寫 十二冊 一五八

唐袋綴 薄茶色表紙 二六・五糎一七糎 四周雙邊二一糎一三・五糎 十一行

上圖下文　畫彩色（第十二冊「風角總占」は十一行朱罫紙　畫なし）　外題左肩「天元玉曆　子（—亥）」目録題書名同　内題なし、「愚齋圖書館藏」「愚齋審定善本」「武進盛氏所藏」等
（明時代寫　四四〇—イ一）

天地理談　寫　一冊　一四四九

司馬江漢著　文化丙子初夏自序　袋綴　改裝後補薄青表紙　原裝共表紙　二三・五糎一七糎　用紙裏打　十行　六十九丁　原外題中央「司馬江漢著／天地理譚」
（江戸時代末期寫　片假名交り　内題の次行に「東都桃言司馬峻著」とあり　奥に日附宛名闕司馬江漢自筆書翰一通を貼附す「九大本」を以て朱書校合あり　四四〇—イ三）

天地理談　寫　二冊　一四五〇

司馬江漢著　自筆　袋綴　砥粉色表紙　二二・五糎一六糎　四周雙邊一八・五糎一三糎　九行罫紙　題簽左肩單邊「（書名同）乾（坤）」　内題「無言道人筆記」、「村岡典嗣藏書」
（文中「文化癸酉秋七月／七十六翁　司馬無言」等の記事あり　村岡典嗣校「天地理談」—参照　四四〇—イ五）

天文雜書　寫　百二十一冊　（一四五一—一四五八）

多々良保佑編　天明二年壬寅三月朔日自序　袋綴　小倉茶色表紙　二七糎一八・五糎　題簽左肩「（書名同）（所収篇名）（卷數）（冊數）」　扉題中央籠字「（書名同）（冊數）」
（江戸時代末期寫　表紙右下に各冊數を朱書　序云「前略今此篇／山路家所傳之書纔其一二而已號／之曰天文雜書後天學士拔萃古今／之書以加補此欠編爲攷監比挍之／羽翼則是臣所冀也仍暫綴之假爲／卷数六十二冊以徯後年編書云爾」　四四〇—イ一五）　所収細目次の如し

*六經天文編　二巻（第一至四冊）　一四五一

王應麟（宋）著

*浮山此藏軒物理小識　十二巻總論一巻（第五至九冊）　一四五二

方以智（明）著　余颺虞序　郭林序　康熙甲辰于藻序

*通雅　十二巻　闕（第十至二十一冊）　一四五三

方以智（明）著　姚文燮（清）校　康熙丙午夏日姚文燮序
（巻一至十二を存す）

*玉海　十三巻　闕（第二十二至三十四冊）　一四五四

王應麟（宋）著
（巻一至十三天文・律曆部を存す）

*文獻通考　二十七巻　闕（第三十五至六十一冊）　一四五五

馬端臨（元）著
（巻二百八十七至二百九十四象緯考・巻第三百十五至三百二十三輿地考・巻第三百二十四至三百三十三四裔考を存す）

*格致艸　八十巻　闕（第六十二至九十八冊）　一四五六

識語（第六十二冊扉裏）（朱書）　此格致艸巻数ノ次第尽ク誤リ且綴違目録脱字後年可改正之／此書以巻三之一爲始似一與二無之與目録比校之則不然也故以三之一／當爲巻第一也次々可盡改之／又十之二有皇王部次十之三四同而目録不載之見本書而可正之／又四之二之始紙二枚脱落可本書寫入之／又綴謬之冊三巻合冊者四之一六之一六之二七之二七之四八之一八之二十之一／十之二等也只一巻者四之三耳餘各二巻爲合冊當改而綴之
（天部十五巻・時序部二十巻・地部四十巻・皇王部五巻を存す　天文雜書目録に「格致艸三十七冊　但是端本也故書寫全備之後當／容之雜書也」とあり）

*天文集要　九巻　闕（第九十九至百二十冊）　一四五七

杜佑（唐）著

（通典二百巻中、巻一至五・一百四十三・一百四十四・一百七十一至一百七十四・一百七十九至一百九十六の部分を存す　原に「明御史後學李元陽仁甫校刊」とあるものより抄寫　天文雜書目録に「天文集要廿二冊ノ此書亦端本爲ニ之後年編書一也」とあり）

＊天文雜書目錄（第百二十一冊）　一四五八

天文秘書　寫　百二十一冊　（一四五九―一五〇六）

多々良保佑編　天明二年壬寅二月十五日自序　袋綴　小倉茶色表紙　二七糎一八・五糎　題簽左肩「（書名同）（巻數）（冊數）」　扉題中央籠字「（書名同）（冊數）」

（江戸時代末期寫　表紙右下に各冊數を朱書　序云「前略中根氏關氏山路氏其餘ノ人著ニ／天文曆法之書一者不ニ亦鮮一矣雖レ然非ニ／測量ニ不レ能レ得ニ實數一非ニ筭術一則不レ能／レ改ニ曆數一是以交食之筭未レ密　五星之／行未レ明　固天道幽遠所ニ以人力之難レ及也故先師之傳籍陰陽之家書古／今珍書之類及雖ニ諸弟子之發明異／術一今盡編ニ集之一以欲レ備下後天學士志ニ／於改曆一者之要用上也此書凡一百二／十一巻號ニ之天文秘書一者也」　四〇―イ三）　所収細目次の如し

＊天文瓊統　八巻　（第一至八冊）　一四五九

澁川春海編

＊貞享曆法通書　四巻　（第九至十四冊）　一四六〇

澁川春海編　元禄壬申二月辛巳朔自序

（巻三具注曆の項朱書入多し）

＊曆林問答集　二巻　（第十五・十六冊）　一四六一

賀茂在方著　應永甲午孟春日自序

＊賀家假名曆吉凶附　（第十七冊）　一四六三

奥書　此書寶曆改曆時於京師寫之

（内題下に「假名曆農業世俗ノ事ヲ專トス」とあり）

＊星經　二巻　（第十八・十九冊）　一四六三

甘公石申（漢）著

＊星名考　一巻　附録一巻　（第二十冊）　一四六四

山本格安著　寛保甲子春正月布施維安序

＊步天書　（第二十一冊）　一四六五

＊三墳書　二巻　（第二十二・二十三冊）　一四六六

陶宗儀（明）訂

＊周髀算經　二巻　音義一巻　（第二十四・二十五冊）　一四六七

趙君卿（漢）注　甄鸞（周）重述　李淳風（唐）釋　李籍（宋）音義　毛晉（明）校　嘉定六年癸酉十一月一日丁卯冬至鮑澣之序　序　胡震亨題辭

＊堯典曆數法　（第二十六冊）　一四六八

序

＊帝典考　（第二十七冊）　一四六九

（「日中星鳥考」・「四神考」・「重黎考」・「四岳考」を収む）

*時　令　記（第二十八冊）　一四七〇

鄧元錫(明)著

*星　學　綱　目（第二十九冊）　一四七一

楊慎(明)著　楊有仁(明)編

*太史升菴文集卷第七十四（第三十冊）　一四七二

胡獻忠(明)著　太白山人周應治序　大明洪武甲寅季春吉旦劉基先序　萬曆乙卯仲秋吉旦自序
（萬曆乙卯刊本の寫）

*曆　數　考（第三十二冊）　一四七四

鄧元錫(明)著

*重刻天文秘畧（第三十一冊）　一四七三

源良弼著
（奥に「享保二十年乙卯正月下弦日」とあり　朱書入あり）

*體道極曜俗解（天經或問要論）（第三十三冊）　一四七五

關孝和著

*天文大成三條圖解（第三十四冊）　一四七六

關孝和著

*天文數學雜著（第三十五冊）　一四七七

黃玉耳(清)著　范憲斗(清)訂　扉題「天文大成輯要」
奥書　貞享三丙寅正月廿五日書之
（原に「天文大成浩瀚難覽故撮曆數最要於其中且加／訓點間有關誤者管窺蠡測以補正之也別有俚／語圖解號天文大成諺解覽者詳焉／關孝和識之」と奥書あるものの寫　天文大成管窺輯要八十卷中卷第三・四・七・八・十・十二よりの抜萃　朱書校合あり）

*關　訂　書　二卷（第三十六・三十七冊）　一四七八

*元史四十八正方案考（第三十八冊）　一四七九

東岡著

*四　餘　算　法（第三十九冊）　一四八〇

關孝和著　元禄歲次丁丑孟夏望後三日自序
（「宿曜算法」二丁を合綴す）

*授時曆秘決（第四十冊）　一四八一

大野正辰著
（朱書入あり）

*律　呂　通　考（第四十一冊）　一四八二

太宰紀著

*天文要錄目錄序第一（第四十二冊）　一四八三

李鳳(唐)著

*春　海　實　記（第四十三冊）　一四八四

春水子著　安永九年庚子春三月多植序

*天文運氣論　二巻（第四十四・四十五冊）　一四八五

識語（下冊末）此書今改号天文運氣論（原に「南蛮運氣論以松平甲州之写本書之　旹寛文十年十／月十二日　杉氏貞菴識」と奥書あるものの寫）

*一葉儀測術（第四十六冊）　一四八六

*天文殘考集　二巻（第四十七・四十八冊）　一四八七

寶暦八年歳次戊寅春序

*暦考雜集　三巻（第四十九至五十一冊）　一四八八

*律暦融通　三巻附録一巻（第五十二冊）　一四八九

朱載堉（明）著（巻一・二・四を存す）

*積年考（第五十三冊）　一四九〇

*歳周考（第五十四冊）　一四九一

不休著

*歴法差訣（第五十五冊）　一四九二

蜂屋定章著（「定朔用行差術解」・「授時暦一秒減譯」を収む）

*測算艸（第五十六冊）　一四九三

扉題「（中央に）黄赤道率　黄道出入　赤道内外度（左肩に）（書名同）」半晝夜分

*諸子天文　十二巻（第五十七至六十八冊）　一四九四

（中根元圭著「火星負減考」・「黄道宿度推變年限辨」・「天文圖解發揮解意」・「改暦加減集引」・中根元圭著「推演算法」・「授時正交日辰論」その他諸書より天文關係記事抜萃）

*授時暦經解抜萃（第六十九冊）　一四九五

*天文圖儀解註　五巻（第七十冊）　一四九六

多々良保佑著　明和五年戊子天正朔日自序

*天文三説（第七十一冊）　一四九七

（安永九年庚子十一月冬至多植茂蕃著「日食説」、安永十年辛丑正月立春日多植茂蕃著「星占説」、安永十年辛丑二月春分戸板善太郎・多々良保佑著「月食説」を収む）

*天文三説附考（第七十二冊）　一四九八

多々良保佑著　天明元年辛丑四月念五日自序

*三才發秘　八巻（第七十三至七十八冊）　一四九九

陳夔（清）著　陳昌賢（清）編　陳晉錫　陳宗泗・温琮（清）參閲　康熙三十四年乙亥歳冬月陳晉錫序　康熙三十六年歳次丁丑日自序　康熙三十四年歳次乙亥長至後十日朱文顯弁言（見返「徳星堂寶翰樓藏板」とある清康熙刊本）

*私淑暦（第七十九冊）　一五〇〇

（「享保十八年癸丑私淑暦艸」十一丁を合綴）

*天文眞術　七巻（第八十至八十六冊）　一五〇一

*白山暦解　七巻（第八十七至九十三冊）　一五〇二

*應編暦　三巻（第九十四至九十六冊）　一五〇三

*密暦　三巻（第九十七至九十九冊）　一五〇四

*活法暦　二十巻首一巻　二十一冊（第百至百二十冊）　一五〇五

千葉歳胤著　明和丙戌十一月丁卯小倉無隣序　明和丙戌年十一月丁卯澁川光洪序　明和三年歳次丙戌冬十一月丁卯日藤盈子親修序　明和三年歳次丙戌十一月丁卯自引

*天文秘書目録（第百二十一冊）　一五〇六

歴史類聚　五十八冊　（一五〇七―一五三九）

（刊本は明版　寫本は江戸時代末期寫　天文雑書目録終に「後年編書之目／采覧異言　一冊／東西洋考　六冊／按針術　二冊／右三書崇禎類書之類也／測圓海鏡　二冊／右関篆後傳之類也／右端本之類爲後年編書暫存レ之」「崇禎書餘巻之目／暦引　一冊／測食上巻　一冊／交食蒙求下巻　一冊／月離暦指巻二　一冊／同書巻四　一冊／測量全義巻四　一冊／五緯暦指巻二　一冊／同書巻六　一冊／五緯表二二合巻　一冊／同書巻七　一冊／右餘巻十冊爲後年崇禎書全部／別本書寫暫存之／右後年編書二十一冊入歴史／類聚之箱」「歴史類聚／端本目録／宋書七冊／元史五冊／宋史十一冊／晋書二冊／史記一冊／隋書二冊／唐書二冊／南齊書一冊／遼史一冊／金史二冊／五代史一冊／魏書二冊／右端書三十七冊／右二十一史之内天文暦志五行／志之類自山路家所傳レ之端本　而今存レ之者將來學士欲下輯其殘編一／以作歴史類聚之全書上矣又云今／所著十書之外遺書珍書端本之／類與関氏授時暦抄解一必後年自／江府一又傳來　之有若來　則當下補其／欠篇而造十書附録上也於レ是端書／餘巻亦不レ廢レ之者其此之爲也」とあり　一四〇―イ七）所収細目次の如し）

*采覧異言　寫　二巻　闕（第一冊）　一五〇七

新井白石著　正徳癸巳春三月自序

（巻一・二を存す）

*東西洋考　寫　六巻　闕（第二至七冊）　一五〇八

張燮（明）著

（巻一・三・五至八を存す）

*按針之術　寫　二巻（第八・九冊）　一五〇九

（扉左肩に「ヒロート」とあり）

*測圓海鏡細草　寫　二巻　闕（第十・十一冊）　一五一〇

李冶（元）著　戊申秋九月晦日自序

（巻一・八を存す）

*暦引　寫（第十二冊）　一五一一

羅雅谷（Jacobus, Rho）著　龍華民（Longobardi, Nicolo）・湯若望（Schall von Bell, J. Adam）訂　李次彪・陳士蘭・陳延楅（明）校　崇禎柔兆困敦之歳日躔在鶉尾之次李天經序

*暦指（月離暦指）　寫　二巻　闕（第十三・十四冊）　一五一二

羅雅谷（Jacobus, Rho）著

（巻二・四を存す）

*測食上卷(西洋測畧) 寫 (第十五冊) 一五二三

湯若望(Schall von Bell, J. Adam)著 周子愚・卓爾康(明)訂 天啓五年歲次乙丑季夏吉旦汪喬年序

*交食蒙求下卷 寫 (第十六冊) 一五二四

*五緯曆指 寫 二卷 闕 (第十七・十八冊) 一五二五

羅雅谷(Jacobus, Rho)著 龍華民(Longobardi, Nicolo)・湯若望(Schall von Bell, J. Adam)訂 朱睟(明)等校

(卷二・六を存す)

*五緯表 寫 四卷 闕 (第十九・二十冊) 一五二六

羅雅谷(Jacobus, Rho)著 龍華民(Longobardi, Nicolo)・湯若望(Schall von Bell, J. Adam)訂 朱廷樞(明)校

(卷第一・二・七・八を存す)

*測量全義 寫 闕 (第二十一冊) 一五二七

羅雅谷(Jacobus, Rho)著

(卷四を存す)

*史記 二卷 闕 (第二十二冊) 一五二八

司馬遷(漢)著 裴駰(劉宋)集解 司馬貞(唐)索隱 張守節(唐)正義

(明版 嘉靖九年刊 卷二十六曆書第四・卷二十七天官書第五を存す)

*晉書 四卷 附録一卷 闕 (第二十三・二十四冊) 一五二九

唐太宗文皇帝撰

(明版 嘉靖三十七年南京國子監刊萬曆三年刊 同十年補刊 卷十八至二十一を存す 別に原に「右正誤凡百一 内六十八使金子清鄰推歩考究得之 ／荻生茂卿言識」とある「日東 荻生宗右衛門茂卿句讀晉書卷第十八志第八律曆下」の寫本一冊を附す)

*宋書 二十四卷 闕 (第二十五至三十一冊) 一五三〇

沈約(梁)著

(明版 萬曆二十二南京國子監刊 卷七至十四・二十一至三十六を存す)

*南齊書 五卷 闕 (第三十二冊) 一五三一

蕭子顯(梁)著

(明版 萬曆十六至十七年刊 卷九至十三を存す)

*魏書 三卷 闕 (第三十三・三十四冊) 一五三二

魏収(北齊)奉勅撰

(明版 萬曆二十四年刊 卷一百五・一百七・一百八を存す)

*隋書 六卷 闕 (第三十五・三十六冊) 一五三三

魏徵長・孫無忌(唐)等奉勅撰

(明版 萬曆二十三年刊 卷十七至二十二を存す)

*唐書 八卷 闕 (第三十七・三十八冊) 一五三四

歐陽脩・宋祁(宋)等奉勅撰

(明版 嘉靖萬曆間南京國子監補刊 卷二十七至三十四を存す)

*五代史記 七卷 闕 (第三十九冊) 一五三五

歐陽脩(宋)・徐無黨(宋)注

（明版　萬曆四年刊　卷五十五至六十一を存す）

*宋　史　五十三卷　闕（第四十至五十冊）　一五二六

脱脱(元)等奉勅撰
（明版　卷十六至二十三・四十三至八十七を存す）

*遼　史　七卷　闕（第五十一冊）　一五二七

脱脱(元)等奉勅撰
（明版　嘉靖八年刊　卷四十二至四十八を存す）

*金　史　八卷　闕（第五十二・五十三冊）　一五二八

脱脱(元)等奉勅撰
（明版　嘉靖八年南京國子監刊　卷二十至二十七を存す）

*元　史　十一卷　闕（第五十四至五十八冊）　一五二九

宋濂・王禕(明)等奉勅撰
（明版　嘉靖十年補刊　卷四十八至五十八を存す）

○

伊勢暦　合一軸　一五三〇

巻子本　改装後補金泥下畫紺表紙　用紙裏打　二四・五糎五米六五糎　天地單邊二一糎　題簽後補墨「萬治二・三・四年伊勢暦」（萬治二年）初行「伊勢度會郡山田千貫屋市大夫」（萬治三・四年同上）
刊記（萬治二年）萬治元年十一月一日　政吉謹勘之（陰刻）
（萬治三年）萬治二年十一月一日　勝良謹勘之（陰刻）
（萬治四年）萬治三年十一月一日　勝良謹勘之（陰刻）
（萬治二至四年暦を一軸に改裝　四五五―イ三七）

假名暦　文永九年　寫　一軸　一五三一

巻子本　改裝後補鳳凰織文黃表紙　見返金砂子散　用紙裏打　二九・五糎三米四〇糎　一紙四四糎　天地單邊二三糎　端書後筆(見返)「貞應之頃殘暦」
（三月六日至七月廿五日を存す　紙背に密教經文あり　四五五―イ四一）

假名暦　元弘三年　寫　一軸　一五三二

巻子本　改裝後補薄青色唐草文緞子表紙　見返金紙　用紙下部裁斷　裏打　一四・五糎七米七五糎　一紙四四糎　題簽後補「元弘三年假名暦殘卷」
（正月一日至十一月十三日を存す　紙背に略々同時代寫「大方廣佛華嚴經寶王如來性起品」「大般若經略　入唐沙門空海上表」「大樂金剛不空真實三摩耶經」等寫經殘卷ありて上下文字裁斷なし　四五五―イ二）

假名暦　永正十八年　寫　一軸　一五三三

巻子本　改裝後補卷龍織文茶色表紙　二五・五糎五米　用紙裏打　天地單邊二〇糎　一紙四〇糎　三十二行　題簽後補書名同　内題「永正十八年暦」
奥書　永正十七年十一月一日
（卷末に別に一紙を後補して紙背文書の表紙とし「曼陀羅供雜記　庭儀　大阿三實院義　嘉吉三六十五　賢前大僧正」と題書、同文書奥書に「大永二年八月二日書写之　金剛佛子嚴助」とありて原に「嘉吉三年八月十八日率尔記之重而尋申子細可再治者也／金剛佛子重賀」「享徳二年十二月廿四日為自□覺書写之畢／金剛佛子宗深廿八」とあるものの寫　後筆朱書押紙「醍醐山下理性院嚴助僧正自筆」　四五五―イ三）

假名暦　天正十七年　一軸　一五三四

巻子本　改裝後補網目瑞鳥文青綾表紙　見返金切箔野毛散　用紙裏打　二一糎一米六四糎　天地單邊一九・五糎　扉二一糎一五糎　扉題中央「天正十七年暦（右に）つちのとの（左に）うしの年」　内題「天正十七年暦つちのとのうしの年」
刊記　天正十六年十一月一日（陰刻）
（卷末に「うけむけの事」の一條ありて「天下大平國土安穩　諸願成就皆全滿

足」に終る　四四五―イ四五）

假名暦　慶長十七年　寫　一軸　一五二五

巻子本　改装後補朽葉色綾表紙　見返金銀泥横雲　用紙鳥の子　二六・五糎三米六五糎　一紙三九糎　天地単邊二〇糎　題簽後補「慶長十七年假名暦」（六月二十三日到十二月卅日を存す　紙背に略々同時代筆源氏物語注「廿五まほろし」至「たけかは」あり　四四五―イ五）

假名暦　寛永五年六年　合一軸　一五二六

巻子本　改装後補朽葉色綾表紙　見返金切箔散　用紙裏打　二一糎三米四五糎　一紙四八糎　天地単邊一八糎　題簽後補「寛永五六年假名版暦」　内題（寛永五年）「寛永五年暦つちのえたつのとし」（寛永六年）「寛永六年暦つちのとのみのとし」
刊記　（寛永五年）寛永四年十一月一日出（陰刻）
（同巻初）大きやうし（陰刻）
（寛永六年）寛永五年十一月一日出（陰刻）
（寛永五・六年暦を一軸に改装　四四五―イ七）

假名暦　慶安二年・承應二年　合一軸　一五二七

巻子本　改装後補花文錦織表紙　用紙裏打　二三糎六米三〇糎　十五行　題簽後補「慶安二年假名版暦」　内題（慶安二年）「慶安二年暦つちのとうしのとし」（承應二年）「承應二年暦歳次みつのとのみ納音水」　柱刻「暦（月數）」
刊記　（慶安二年）慶安元年十一月一日出（陰刻）
（承應二年）慶安壬辰天黄鐘吉日　陳良謹考焉
（もと冊子袋綴四周裁斷二三糎一五糎を現装に改装　慶安二年暦巻首「金神方むまひつしさるとり　大きやうし」との陰刻一行あり　四四五―イ三）

假名暦　延寶六年　寫　一冊　一五二八

袋假綴　雲母引波文薄茶色表紙　二九糎二一・五糎　天地単邊二一・五糎　十九行　四段　十一丁　外題中央「（書名同）歳次戊午」　内題「延寶六年暦」
奥書　春夏秋冬富貴御息災延命所　延寶五年／十一月一日
（四四五―イ五三）

具注暦斷簡　應徳二年　寫　一枚　一五二九

二九・五糎九糎　天地単邊二四・五糎　有界四行四段
（十七日庚辰日一日分を存す　本文「十七日」肩に日記記事「後一條院御國忌」とあり　押紙に「日次暦斷簡（穂井田忠友考應徳二年四月十七日之暦當後一條院帝五十回忌）」　四四五―イ九）

具注暦　承安三年　寫　一軸　一五四〇

巻子本　改装後補澁茶色表紙　二九糎四米四〇糎　一紙五四糎　天地単邊二五糎
押紙「承安年中」
奥書　承安二年十二月十一日
（六月廿三日至十二月卅日を存す　題簽に「歓喜母講式」とありて具注暦を紙背とす　講式内題の下に「石山寺經藏」の印記あり　四四五―イ三九）

具注暦　承久三年　寫　一軸　一五四一

巻子本　緑地織文表紙　見返金紙　用紙斐紙　裏打　二九・五糎九米五〇糎　一紙五二糎　天地単邊二四糎　題簽後補「承久三年具注暦」　内題「承久三年具注暦日」
識語　（巻末別繊紙）承久三年暦此年七月北條義時大逆枉／關奉選幸　天皇上皇佐渡隱岐土佐是義／時使　至尊如流罪人者観此暦記某ゝ院／流罪不識何者所書而當時枉名義者流罪／而不悔只如識有義時不識有　至尊者下略遂跋爲森川氏／明治十一年四月書於對嵐山房／信天翁山中獻（印）
（年初至十月廿六日を存す　土御門陰陽道にわたる日記記事等書入多し　紙背に移徙・植樹に關する忌日數十ケ條を記す　四四五―イ四七）

具注暦　寛元四年　寫　一軸　一五四三

巻子本　亀甲桐花文紫地金襴表紙　見返金銀泥横雲紙　二九・五糎一米八〇糎

一紙四七・五糎　天地單邊二四糎
（五月十八日至七月十二日を存す　六月大建の條に「寛元四年曆也」とあり　巻末に「嚴真律師灌頂記 先師延命院御自筆也」と題記して紙背に「寶治二年戊申四月十六日略入壇記／大阿闍梨権少僧都法眼和尚位覺俊 歳四十三／受者阿闍梨大法師嚴真 歳卅五」とある灌頂記を記す　四四五―イ三三）

具注曆 建治元年　寫　一軸　一五四三

巻子本　改裝後補壽字小松文茶色金襴表紙　見返金切箔散　三〇・五糎一〇米四〇糎　一紙四五糎　天地單邊二四糎　題簽後補「建治元年具注曆」
（四月一日至六月十八日を存す　各日附の間五行分空欄をあく　紙背に「行成抄」・「匡房抄」・「資房抄」等を引ける除目任官記録あり　四四五―イ四三）

具注曆 正安二年　寫　一軸　一五四四

巻子本　改裝後補菊花模様墨綾表紙　二九・五糎四米一〇糎　一紙四二糎　天地單邊二三・五糎　題簽後補「正安二年具注曆」
奥書　正安三年十一月三日　散位從五位上加茂朝臣在嵩（以下加茂在香・存材・存夏・定清・在文・在藤・在冬連記在名）
（十一月十八日至年末を存す　各日附の間三行分空欄をあく　紙背に「匡房抄」・「資房抄」・「行成抄」等を引ける除目任官記録あり　四四五―イ三一）

具注曆 元亨三年　寫　一軸　一五四五

巻子本　改裝後補白紙表紙　用紙斐紙　裏打　三〇・五糎二米三五糎　一紙四九糎　天地單邊二四・五糎　外題「年月未詳巻首脱欠具注曆中之記推考元亨三年正三月／裏書五大虚空藏御修法雜問答定秀阿闍梨所記」
（正月十四日至同廿一日・二月三日至同廿四日・三月一日至同十日を存す　各日附の間一行分空欄あく　數ケ所に日記記事書入あり　紙背文書の外題「五大虚空藏御修法雜問答　定秀」　四四五―イ四九）

具注曆 貞和三年　寫　一軸　一五四六

巻子本　改裝後補茶色表紙　三〇・五糎一米一三糎　一紙四七糎　天地單邊二四糎　内題「貞和三年具注曆」
（年初至廿三日を存す　表紙押紙に「貞和三年具注曆　紙背保元三年日記録」とあり　紙背に「信範記」保元三年八月十一日至十七日の抄記あり　四四五―イ三）

具注曆 康安二年　寫　一軸　一五四七

巻子本　改裝後補亀甲花文錦表紙　見返金切箔散　二八糎二米九〇糎　一紙三九糎　天地單邊二四糎　有界約二十二行三段配字、「法隆學問寺〈紙背〉」「觀學館經藏印」「聆濤閣鑑藏記」
（年初至五月卅日を存す　紙背に「上宮王院繪殿事」「御舍利殿太子御影事」等法隆寺文書あり　四四五―イ五七）

具注曆 應永三年　寫　一軸　一五四八

巻子本　改裝後補白紙表紙　用紙裏打　二九糎七米　一紙三九糎　外題後筆「應永三年殘曆」　内題「應永三年具注曆日」
（年初至十一月九日を存す（但十月は六日以下闕）　日記記事書入あり　紙背各章末に「南無金剛甘露一乘教王生ニ世ニ値遇頂戴」等とある真言經典注文あり　四四五―イ六）

具注曆 應永十年　寫　一軸　一五四九

巻子本　改裝後補麻地茶色表紙　見返銀切箔散　二八・五糎七米二〇糎　一紙四一糎　天地單邊二二・五糎　題簽「應永十年具注□／□濟和尚灌頂資□」　内題「應永十年具注曆日」
（年初至十一月四日を存す　巻末紙背に別一紙を補ひて紙背文書の表紙とし「定濟僧正灌頂資日記」と題書し、文永元五・七・八・十一年及び建治三年・弘安二年にわたる灌頂記事あり　四四五―イ三七）

具注曆 應永十三年　寫　一軸　一五五〇

巻子本　改裝後補白表紙　用紙裏打　三〇・五糎一米六三糎　天地單邊二三糎

一紙四二糎　外題後筆「應永十三年殘暦（十月 十一月）」
奥書　應永十二年十一月一日
（十月十二日至十二月二十九日を存す　欄外に日記記事少々あり　紙背に「先三礼如來唄」あり　四四五―イ三）

具注暦 文明十九年　寫　一軸　一五五一

巻子本　改装後補栗皮色表紙　二六・五糎五米二〇糎　天地單邊二一糎　一紙四〇・五糎　有界二十四行四段配字小雙行　内題「文明十九年具注暦日」
（年初至九月卅日を存す　紙背に前文闕「金剛山内院略縁起」あり　同書奥書に「挍合訖／于時長享元年八月三日於金剛山宿房写訖」とありて原に「本云于時文明六年甲午七月下旬候書寫早／於葛上郡伏見寺金剛院住法印照譽生才六十八」とあるものの寫　四四五―イ五五）

具注暦 永禄五年　寫　一軸　一五五二

巻子本　改装後補薄茶色表紙　用紙裏打　二三糎五米四七糎　一紙五〇糎　天地單邊一九糎　題簽「永禄四年具注暦裏書金光明最勝王經」　内題「永禄五年具注暦日」
奥書　永禄三年十一月一日
（紙背に「金光明最勝王經」あり　四四五―イ三五）

具注暦 文禄元年　寫　一軸　一五五三

巻子本　亀甲花文錦織表紙　見返金砂子散　用紙裏打　二九糎五米一〇糎　天地單邊二三糎　一紙四〇糎　有界三二行四段　内題なし
（二月十三日至十一月十六日を存す　紙背に長承・保延・天治・大治・天養・久安年度にわたる寛信の愛染・北斗等御修法記あり　四四五―五二）

古今繪暦集　五冊　一五五四

袋大和綴　横縞絹色替表紙　三〇糎四五糎　各紙臺貼　題簽中央「（書名同）第一自安永八年至享和三年　第二自文化元年至文政十二年　第三自天保元年至嘉永六年　第四自安政元年至明治五年　第五自明治六年至大正十一年」
（一枚摺繪大小暦を略々各年次別に貼交す　四四五―イ七）

暦集　百九十九冊　一五五五

（四四五―イ六五）　所収次の如し
寛文二年壬寅　一冊
外題左肩「すわ新こよみ歳次ミつのえとら」、「すわはふり〈陰刻〉」
版行所　奥州會津若松　諏方宮祝神方儀勘之
寛文八年戊申至十年庚戌　二冊
外題左肩「以諏訪寫新暦歳つちのえさる」、「新暦家七日町庄左衛門富春征命」
版行所　奥州會津若松　菊地庄左衛門清茂
寛文十三年癸丑　一冊
外題左肩「諏訪新暦歳次ミつのとうし」
版行所　奥州會津若松諏訪社佐久祝山城守神方義
延寶三年乙卯　一冊
外題左肩「諏訪新暦歳次きのとう」
版行所　奥州會津郡若松　諏訪神社佐久祝部
延寶九年辛酉・天和二年壬戌・天和三年癸亥・貞享二年乙丑　四冊
外題左肩「諏訪新暦歳次かのとのとり」等
版行所　奥州會津若松諏訪社佐久祝山城守神方義
貞享三年ひのえとら　一冊
外題左肩雙邊「貞享三丙寅暦」
版行所　貞享元年止舊暦用新暦十月二十九日／詔賜名曰貞享暦／奥州會津諏訪社　佐久祝山城守
貞享二年ひのとのう・五年つちのえたつ・元禄二年つちのとのミ・三年かのえむま　四冊
外題左肩雙邊「貞享四丁卯暦」
版行所　奥州會津諏訪社　佐久祝山城守
元禄四年かのとのひつし・五年みつのえさる・六年みつのとのとり　三冊
外題左肩雙邊「元禄四辛未暦」
版行所　奥州會津諏訪社　佐久祝内記
元禄七年きのえいぬ至十七年きのえのさる　十一冊
外題「元禄七甲戌暦」等

版行所　奥州會津諏訪社佐久刑部少輔

寶永二年きのとのとり　一冊

外題左肩雙邊「寶永二乙酉暦」

版行所　奥州會津諏方宮佐久祝部

寶永三年ひのえのいぬ　一冊

外題左肩雙邊「寶永三丙戌暦」

版行所　奥州會津諏方宮笠原出雲寺

寶永四年ひのとのい　一冊

外題「寶永四丁亥暦」

版行所　奥州會津大鎮守／正一位諏方宮從五位佐久祝刑部少輔

寶永五年つちのえね　一冊

外題左肩「寶永五戊子暦」

版行所　奥州會津諏方宮佐久祝刑部少輔

寶永六年つちのとのうし至寶永八年かのとう　三冊

外題左肩「寶永六己丑暦」等

版行所　奥州會津諏方宮笠原出雲守

正徳二年ミつのえたつ・四年きのえむま至六年ひのえのさる　四冊

外題左肩雙邊「正徳二壬辰暦」等

版行所　奥州會津諏方宮佐久祝刊部少輔

享保二ひのとのとり　一冊

外題左肩雙邊「享保二丁酉暦」

版行所　奥州會津　屬諏方板行　菊地庄左衛門

享保三年つちのえいぬ・四年つちのとのい　二冊

外題左肩雙邊「享保三戊戌暦」等

版行所　奥州會津諏方宮佐久祝刑部少輔

享保五年かのえのね　一冊

外題左肩雙邊「享保五庚子暦」

版行所　奥州會津　屬諏方板行　菊地庄左衛門

享保六年かのとのうし・七年ミつのえのとら　二冊

外題左肩雙邊「享保六辛丑暦」

版行所　奥州會津諏方宮佐久祝主水

享保八年ミつのとのう　一冊

外題左肩雙邊「享保八年癸卯暦」

版行所　奥州會津諏方宮笠原出雲守

享保九年きのえたつ至十四年つちのとのとり　六冊

外題左肩雙邊「享保九甲辰暦」等

版行所　奥州會津　屬諏方板行　菊地庄左衛門

（享保十四年巻末「澁川六藏　源則休　猪飼關次郎　源久一謹推數考定」の日出日入時間記入の一文あり）

享保十五年かのえのいぬ　一冊

外題左肩雙邊「享保十五庚戌暦」

版行所　奥州會津諏方宮佐久祝刑部少輔

享保十六年かのとのい　一冊

外題左肩雙邊「享保十六辛亥暦」

版行所　奥州會津　屬諏方板行　菊地庄左衛門

享保十七年ミつのえね　一冊

外題左肩雙邊「享保十七壬子暦」

版行所　奥州會津諏方宮佐久祝刑部少輔

享保十八年ミつのとのうし・十九年きのえのとら　二冊

外題左肩雙邊「享保十八癸丑暦」

版行所　奥州會津　屬諏方板行　菊地庄左衛門

享保二十年きのとのう　一冊

外題左肩雙邊「享保二十乙卯暦」

版行所　奥州會津諏方宮笠原祝紀伊守

享保廿一年ひのえたつ　一冊

外題左肩雙邊「享保廿一丙辰暦」

版行所　奥州會津諏方宮諏方宮内少輔

元文二年ひのとのミ　一冊

外題左肩雙邊「元文二己丁暦」

版行所　奥州會津諏方宮諏方宮内少輔

元文三年つちのえむま・四年つちのとのひつし　二冊

外題左肩雙邊「元文三戊午暦」等

版行所　奥州會津　屬諏方板行　菊地庄左衛門
元文五年かのえさる　一冊
外題左肩雙邊「元文五庚申暦」
版行所　奥州會津諏方宮笠原祝紀伊守
（巻初に「澁川六蟻　源則休　猪飼豐次郎源久一謹誌」の一文を附す）
元文六年かのとのとり・寛保二年ミつのえいぬ　二冊
外題左肩雙邊「元文六辛酉暦」等
版行所　奥州會津諏方宮諏方宮内少輔
寛保三年ミつのとのい・四年きのえね　二冊
外題左肩雙邊「寛保三癸亥暦」等
版行所　奥州會津諏方宮笠原祝紀伊守
延享二年きのとのうし至五年つちのえたつ・寛延二年つちのとのミ至四年かのとのひつし　七冊
外題左肩雙邊「延享二乙丑暦」等
版行所　奥州會津諏方宮諏方宮内少輔
寛延五年みつのえのさる・寶暦三ミつのとのとり　二冊
外題左肩雙邊「寛延五壬申暦」
版行所　奥州會津　屬諏方板行　菊地庄左衛門
寶暦四年きのえいぬ至九年つちのとのう　六冊
外題左肩雙邊「寶暦四甲戌暦」等
版行所　奥州會津諏方宮諏方宮内少輔
（寶暦五年巻初「土御門　從三位陰陽頭安倍泰邦／門人澁川圖書　天文生源光洪」の新暦頒布の一文あり）
寶暦十年かのえたつ至十二年ミつのえむま　三冊
外題左肩雙邊「寶暦十庚辰暦」等
版行所　奥州會津諏方宮諏方攝津守
寶暦十三年ミつのとのひつし　一冊
外題左肩雙邊「寶暦十三癸未暦」
版行所　奥州會津諏方宮諏方大祝攝津守
寶暦十四年きのえさる　一冊
外題左肩「寶暦十四甲申暦」

版行所　奥州會津諏方宮諏方大祝阿波守
明和二年きのとのとり　一冊
外題左肩雙邊「明和二乙酉暦」
版行所　奥州會津諏方宮諏方大祝　阿波守從五位下神方春
明和三年ひのえいぬ　一冊
外題左肩雙邊「明和三丙戌暦」
版行所　奥州會津　屬諏方板行　菊地庄左衛門
明和四年ひのとのい至七年かのえとら　四冊
外題左肩雙邊「明和四丁亥暦」等
版行所　奥州會津諏方宮諏方大祝阿波守從五位下神方春
明和八年かのとのう・九年ミつのえたつ　二冊
外題左肩雙邊「明和八辛卯暦」等
版行所　奥州會津諏方宮笠原祝相模守從五位下神勝延
明和十年ミつのとのミ　一冊
外題左肩雙邊「明和十癸巳暦」
版行所　奥州會津諏方宮諏方大祝阿波守從五位下神方春
安永三年きのえむま至五年ひのえさる　三冊
外題左肩雙邊「安永三甲午暦」等
版行所　奥州會津　屬諏方板行　菊地庄左衛門
安永六年□　一冊
外題左肩雙邊「安永六丁酉暦」
版行所　奥州會津諏方宮祝佐久兵庫神方廣
安永七年つちのえいぬ至九年かのえね　三冊
外題左肩「安永七戊戌暦」等
版行所　奥州會津　屬諏方板行　菊地庄左衛門
安永十年かのとのうし　一冊
外題左肩「安永十辛丑暦」
版行所　奥州會津諏方宮祝佐久因幡神方廣
天明二年ミつのえとら至四年きのえたつ　三冊
外題左肩雙邊「天明二壬寅暦」

版行所　奥州会津　麗諏方板行　菊地庄左衛門
天明五年きのとのミ　一冊
外題左肩雙邊「天明五乙巳暦」
版行所　奥州會津諏方宮笠原祝相模守從五位下神勝郁
天明六年ひのえむま　一冊
外題左肩雙邊「天明六丙午暦」
版行所　奥州会津　麗諏方板行　菊地庄左衛門
天明七年ひのとのひつし・八年つちのえさる　二冊
外題左肩雙邊「天明七丁未暦」等
版行所　奥州會津諏方宮笠原祝相模守從五位下神勝郁
天明九年つちのとのとり　一冊
外題左肩雙邊「天明九乙酉暦」
版行所　奥州會津　麗諏方板行　菊地庄左衛門
寛政二年かのえいぬ　一冊
外題中央雙邊「寛政二庚戌暦」
版行所　奥州會津諏方宮笠原祝相模守從五位下神勝郁
寛政三年かのとのい　一冊
外題中央雙邊「寛政三辛亥暦」
版行所　奥州會津　麗諏方板行　菊地庄左衛門
寛政四年ミつのえね　一冊
外題中央雙邊「寛政四壬子暦」
版行所　奥州會津正一位諏方宮大祝從五位上阿波守神人方春
寛政五年ミつのとのうし　一冊
外題中央雙邊「寛政五癸丑暦」
版行所　奥州會津諏方宮笠原祝相模守從五位下神勝郁
寛政六年きのえとら至八年ひのえたつ　三冊
外題中央雙邊「寛政六甲寅暦」等
版行所　奥州會津正一位諏方宮大祝從五位上阿波守神人方春
寛政九年ひのとのミ・十年つちのえむま　二冊
外題中央雙邊「寛政九丁巳暦」等
版行所　奥州會津諏方宮祝笠原幸之丞神勝滿
寛政十一年つちのとのひつし・十二年かのえさる　二冊
外題中央雙邊「寛政十一己未暦」等
版行所　奥州會津　麗諏方板行　菊地庄左衛門
寛政十三年かのとのとり・享和二年ミつのえいぬ　二冊
外題中央雙邊「寛政十三辛酉暦」等
版行所　奥州會津諏方宮祝笠原幸之丞神勝滿
享和三年ミのとのい　一冊
外題中央雙邊「享和三癸亥暦」
版行所　奥州會津　麗諏方板行　菊地庄左衛門
享和四年きのえね・文化二年きのとのうし至五年つちのえのたつ　五冊
外題中央雙邊「享和四甲子暦」
版行所　奥州會津諏方宮祝笠原幸之丞神勝滿
文化六年つちのとのミ至十一年きのえいぬ　六冊
外題中央雙邊「文化六己巳暦」等
版行所　奥州會津　麗諏方板行　菊地庄左衛門
文化十二年きのとのい・十三年ひのえね　二冊
外題中央雙邊「文化十二乙亥暦」
版行所　奥州會津諏方宮笠原祝出羽守從五位下神勝滿
文化十四年ひのとのうし・十五年つちのえとら・文政二年つちのとのう　三冊
外題中央雙邊「文化十四丁丑暦」等
版行所　奥州會津　麗諏方板行　菊地庄左衛門
文政三年かのえたつ至七年きのえさる　五冊
外題中央雙邊「文政三庚辰暦」等
版行所　奥州會津諏方宮笠原祝出羽守從五位下神勝滿
文政八年きのとのとり至十年ひのとのい　三冊
外題中央雙邊「文政八乙酉暦」等
版行所　奥州會津　麗諏方板行　菊地庄左衛門
文政十一年つちのえね　一冊
外題中央雙邊「文政十一戊子暦」

版行所　奥州會津諏方宮笠原祝出羽守從五位下神勝滿
文政十二年つちのとのうし　一冊
外題中央雙邊「文政十二己丑曆」
版行所　奥州會津　諏方板行　菊地庄左衛門
文政十三年かのえとら・十四年かのとのう　二冊
外題中央雙邊「文政十三庚寅曆」
版行所　奥州會津諏方宮笠原祝出羽守從五位下神勝滿
天保三年ミつのえたつ　一冊
外題中央雙邊「天保三壬辰曆」
版行所　奥州會津　諏方板行　菊地庄左衛門
天保四年ミのとのミ　一冊
外題中央雙邊「天保四癸巳曆」
版行所　奥州會津諏方宮笠原祝出羽守從五位下神勝滿
天保五年きのえむま　一冊
外題中央雙邊「天保五甲午曆」
版行所　奥州會津諏方宮佐久祝岩城神方近
天保六年きのとのひつし　一冊
外題中央雙邊「天保六乙未曆」
版行所　奥州會津　諏方板行　菊地庄左衛門
天保七年ひのえさる　一冊
外題中央雙邊「天保七丙申曆」
版行所　奥州會津諏方宮笠原祝出羽守從五位下神勝滿
天保八年ひのとのとり至十一年かのえね　四冊
外題中央雙邊「天保八丁酉曆」等
版行所　奥州會津　諏方板行　菊地庄左衛門
天保十二年かのとのうし　一冊
外題中央雙邊「天保十二辛丑曆」
版行所　陸奥國會津諏方宮佐久祝岩城神方近
天保十三年ミつのえとら　一冊
外題中央雙邊「天保十三壬寅曆」
版行所　奥州會津　諏方板行　菊地庄左衛門
天保十四年ミつのとのう　一冊
外題中央雙邊「天保十四癸卯曆」
版行所　陸奥國會津諏方宮笠原祝縫殿神勝道
天保十五きのえたつ　一冊
外題中央雙邊「天保十五甲辰曆」
版行所　陸奥國會津諏方神社笠原縫殿神勝道
天保十六年きのとのミ・弘化三年ひのえむま　二冊
外題中央雙邊「天保十六乙巳曆」
版行所　奥州會津　諏方板行　菊地庄左衛門
弘化四年ひのとのひつし　一冊
外題中央雙邊「弘化四丁未曆」
版行所　陸奥國會津諏方宮笠原祝縫殿神勝道
弘化五年つちのえさる至嘉永三年かのとのい　三冊
外題中央雙邊「弘化五戊申曆」等
版行所　奥州會津　諏方板行　菊地庄左衛門
嘉永四年かのとのい・五年ミつのえね　二冊
外題中央雙邊「嘉永四辛亥曆」
版行所　陸奥國會津諏方宮笠原祝縫殿神勝道
嘉永六年ミつのとのうし　一冊
外題中央雙邊「嘉永六癸丑曆」
版行所　奥州會津　諏方板行　菊地庄左衛門
嘉永七年きのえとら・八年きのとのう　二冊
外題中央雙邊「嘉永七甲寅曆」等
版行所　陸奥國會津諏方宮笠原祝縫殿神勝道
安政三年ひのえたつ　一冊
外題中央雙邊「安政三丙辰曆」
版行所　奥州會津　諏方板行　菊地庄左衛門
安政四年ひのとのミ　一冊
外題中央雙邊「安政四丁巳曆」

版行所　陸奥國會津諏方宮笠原祝縫殿神勝道
安政五年つちのえむま・六年つちのとひつし　二冊
外題中央雙邊「安政五戊午曆」等
版行所　陸奥國會津諏方宮笠原祝縫殿神勝道
安政七年かのえさる　一冊
外題中央雙邊「安政七庚申曆」
版行所　奥州會津（諏方板行）菊地庄左衛門
萬延二年かのとのとり・文久二年ミつのえいぬ　二冊
外題中央雙邊「萬延二辛酉曆」等
版行所　陸奥國會津諏方宮笠原祝縫殿神勝道
文久三年ミつのとのい・四年きのえね・元治二年きのとのうし　三冊
外題中央雙邊「文久三癸亥曆」等
版行所　奥州會津（諏方板行）菊地庄左衛門
慶應二年ひのえとら至四年つちのえたつ　二冊
外題中央雙邊「慶應二丙寅曆」等
版行所　陸奥國會津諏方宮笠原祝出羽守從五位下神勝都
明治二年つちのとのミ　一冊
外題中央雙邊「明治二己巳曆」
版行所　陸奥國會津大鎮守鶴城郭内鎮座正一位諏方宮佐久祝岩城神方紹
明治三年かのえむま　一冊
外題中央雙邊「明治三庚午曆」
版行所　磐代國會津（諏方板行）菊地庄左衛門茂樹
明治四年かのとひつし　一冊
外題中央雙邊「明治四辛未頒曆」
版行所　大學曆局　弘曆者（當代會津）諏方大神祝神勝世　等原
明治五年ミつのえさる　一冊
外題中央雙邊「明治五年壬申頒曆」
版行所　大學星學局　弘曆者（當代國會津）諏方神美國
明治七年太陽略曆　一冊
外題中央雙邊「明治七年甲戌太陽略曆」　巻初「神武天皇即位紀元二千五百三十四年（司治七年甲戌太陽略曆」
版行所　東京頒曆商社中弘曆者（當代國會津）佐久方紹
明治九年太陽略曆　一冊
外題中央雙邊書名同
明治十年太陽略曆　一冊
外題中央雙邊書名同
版行所　東京頒曆商社（弘曆者當代國若松）諏訪美國
明治十一年太陽略本曆・十二年太陽略本曆　二冊
外題中央雙邊書名同
版行所　東京頒曆商社（東京大阪）社長林立守（當代國若松）菊地庄左衛門

宣命曆　七巻　合一冊　一五五六

袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様丹行成表紙　二三・五糎一四糎　四周雙邊一六・五糎一二糎　有界八行十八字（巻二・五至七は四段配字）小雙行　七十六丁　挿畫（巻一）四頁分　（巻五）三頁分　題簽右肩雙邊書名同　柱刻「宣明一（―七）（丁數）」
刊記　寛永廿一年甲申正月吉日開板
（丹緑版彩本　表紙紙袋に「第五號曆算全部一冊　安倍氏藏」とあり　四四五―イ五九）

奈良曆　合一軸　一五五七

巻子本　改装後補寶珠龍文金襴表紙　見返緑色地金切箔散　用紙裏打　二四・五糎三米二〇糎　天地單邊二〇・五糎　題簽後補「慶安五年（明曆二年）假名版曆」　内題（慶安五年）初行「南都　藤井やすまさ」次行　「慶安五年のこよミみつのへたつのとし」（明曆二年）初行「南都　藤村甚太夫安政誌之」　次行「明曆二年のこよミひのへさるのとし」
刊記（慶安五年）慶安四年十一月一日出　藤井安政（陰刻）
（明曆二年）明曆（以下破損）
（慶安五年・明曆二年曆袋綴二冊を一軸に改装　四四五―イ一九）

○

天象列次分野之圖　一鋪　一五五八

折畳　改裝後補濃紺表紙　洪武二十八年十二月日僎慶壽序　三四糎二二糎　全寸一米二九糎八二糎　題簽中央無記　内題圖上部横書書名同（陰刻）
（明版　筆彩本　四四六―イ三）

方星圖解　一冊　一五五九

唐洋綴　背皮黄厚紙表紙　二九糎三五・五糎　四周單邊二四・五糎二五糎　十一丁
内題書名同
刊記　康熙辛卯歲仲春治理曆法極西閔明我製
（四四六―イ五）

○

地毬全圖畧説　三冊　一五六〇

司馬江漢著　（春波樓漁夫）自序　袋綴　唐草押文薄茶色表紙　間紙を挟む　二六糎一八糎　四周單邊一八糎一二糎　十行　挿畫（上冊）十四頁分　（中冊）三頁分　（下冊）三頁分　題簽左肩雙邊（刊）後補墨「地球全圖略説、上（一下）」　柱刻「地毬（地球下）（丁數）」
刊語　（上冊見返中央）書名同（右）此書ハ寛政年中の頃春波樓主人の著す所にして始めに五大洲の全圖ノを擧粗その解を附して童蒙に示す既に星霜を經てその鐫板磨滅ノせり因て今これを摸刻し且殘篇一巻を加へ再び梓に上す事とハなりぬ（下略）（此條附）（左）東都　書肆合刻（訓略）
（内題の下に「東都　江漢司馬峻著」とあり　四四七―イ三）

地質學

沙石愚考　寫　一冊　一五六一

内藤甫尺著　自筆　寛政七年ノ卯十二月自序　袋綴　毘沙門格子地雲龍模様青表紙　二四糎一六・五糎　十行罫紙　四十九丁　序題書名同　内題なし、「探花文庫」「清野文庫（紙票）」
（四五六―イ一）

生物學

怡顔齋東遊日件記　寫　一冊　一五六二

松岡玄達著　熊谷玄隨筆　袋綴　淺黄色表紙　一四・五糎二一糎　十六行　三十八丁　題簽左肩書名同　内題書名同の上に貼紙して「恕庵先生東遊日件記」　尾題「東遊日件記一之巻」、「熊谷」「清野文庫（紙票）」等
識語　（帙裏）（清野謙次筆）熊谷玄隨は晦齋と号す、怡顔齋松岡玄達の高弟である／此日記は玄達が幕府に召し出されて京都から江戸へ下つた／時の隨行である。表題は「怡顔齋東遊日件記」であつたのを／はり紙して「恕庵先生東遊日件記」と変へてある、此書三好學／氏旧藏なり帙の文字は同氏の筆
（四六〇―イ三）

山海異形　寫　四冊　一五六三

袋綴　金泥下畫薄茶色表紙　見返金布目紙　用紙鳥の子　一七糎二四・五糎　挿畫（第一冊）十四頁分（第二冊）七十二頁分（第三冊）十八頁分（第四冊）九頁分
題簽中央金泥下畫紅紙　「（書名同）神類（獸類・魚類・虫類）」　内題なし、「田安府芸堂印」「清野文庫（紙票）」等
（奈良繪本　江戸時代初期寫　四六〇―イ一）

○

生機論　寫　一冊　一五六四

岡研介著　自筆　文政庚寅夏月自序　袋綴　改裝後補薄茶色綴子表紙　原裝共表紙　用紙裏打　二四・五糎一六・五糎　九行小雙行　二十六丁　題簽左肩後筆「岡研海生機論」　原外題左肩「生機論未定稿不許示無忠信之人」、「菊池大麓圖書之記」「呉

氏文庫」
（内題の次行に「研海愚者岡研子究著」とあり　特殊術語に歐文原語を朱書注記せり　隆譚特集復刊第十四號「江戸後期京阪に於ける近代実証医學史料展觀解説目録」—参照　四六二—イ）

人類學

〔異國人物圖説〕　寫　一帖　闕　一五六五

折本　改裝後補澁引表紙　用紙鳥の子　三八・五糎二五・五糎　四折　内題なし、「清野文庫（紙票）」
（奈良繪本　江戸時代初期寫　四枚の斷片を折本に臺貼　あんとろぽす第二巻第一號所収清野謙次「奈良繪本萬國人種圖譜の發見」—参照　四六八—イ三）

〔異國人物圖説〕　寫　一冊　一五六六

袋綴　改裝後補黄表紙　用紙鳥の子　三七糎二七糎　三十丁　内題なし、「清野文庫（紙票）」
（奈良繪本　江戸時代初期寫　あんとろぽす第二巻第一號所収清野謙次「奈良繪本萬國人種圖譜の發見」—参照　四六八—イ五）

人類學史摘要　寫　一冊　一五六七

坪井正五郎著　自筆　袋綴　澁刷毛目表紙　二四・五糎一七糎　十六行　九十六丁　題簽左肩雙邊「坪井博士華族人類學會講演草稿」扉題「坪井理學博士著　人類學史摘要　全」「陽架書屋藏」「清野研究室（墨印）」
（彩色插畫を貼附す　四六八—イ）

武田典厩公御首骨之考　寫　一冊　一五六八

堤俊詮著　自筆　袋綴　改裝後補青表紙　原裝共表紙　二五糎一六糎　二十三丁
原題簽左肩黄紙「髑髏考」、「静聲齋」「清野文庫（紙票）」

考古學

觀古雜帖　寫　一帖　一五六九

木原楯臣著　自筆　折本　麻表紙　三〇糎二四・五糎　外題中央書名同、「清野文庫（紙票）」
識語　（見返）（清野謙次筆朱書）　熊本ノ考古家　木原楯臣自筆備忘録
（原摺拓等貼交　四六九—イ二）

觀古圖錄　寫　四冊　一五七〇

荻原嚴雄著　自筆　袋綴　黄布目表紙　用紙薄樣礬水引　間紙を挟む　二七・五糎一九・五糎　外題左肩「（書名同）一（—四）」　内題なし、「清野文庫（紙票）」
識語　前略　此書は大体に於て明治初年頃から同十二年迄の間に好古家ノ荻原嚴雄が知り得たる考古資料を自筆で筆寫し／たり、又寫生したものである。／昭和二十一年十一月下旬　筑波山麓ニテ　清野謙次
（彩色畫入　第四冊巻末に「以前三張ハ明治十二年二月十一日群馬縣令ヨリ宮内省古器物保存懸ヘ現物／送納セシ時同懸堀博ノ図畫セシモノナリ同年同月廿四日堀博ヨリ借受寫了／荻原嚴雄識」の朱書及び「前略　明治十二年三月二十七嚴雄」の青書あり　四六九—三）

瓦圖竝瓦經瓦硯等　寫　一冊　一五七一

清水屋好古著　袋綴　改裝後補茶色表紙　原裝共表紙　用紙薄樣　間紙を挟む　三〇・五糎二二糎　二十四丁　題簽左肩書名同　原外題左肩書名同、「清野文庫（紙票）」
奥書　右者佐久郡大久保村なる柳澤を始布引山釋尊寺／其外小縣中□藤村の清水氏等に尋見聞せし所の／書籍傳説に基て杜撰を恥す聊愚考を記而已／嘉永二年己酉五月　俊詮
（巻末に桐山陳人艸「髑髏行」一丁を附す　巻中朱書「龍按」の書入多し　四六八—イ九）

識語（見返）清水や本（江戸柳原珍本屋主人）／号好古　岡田屋嘉七番頭 神田豊島町住
（書中「加州能美郡三ノ度山ヨリ出／文化十五年五月／十九日大島忠藏／席上ニ写ス」等の記事あり 四六九―イ六三）

貴志文庫集古圖錄　寫　二軸　一五七二

貴志孫太夫著　自筆　巻子本　薄茶色布表紙　見返金切箔散　用紙裏打　題簽別筆「（書名同）乾（坤）」　内題なし、「貴志文庫」「清野文庫（紙票）」
奥書（乾）　天保九戊戌年十月中旬内藤忠一ヨリ借寫／筒井南齋／同寫中川勘三郎／再寫之　貴志忠美
（坤巻文中に）天保十夏於營中寫　貴志忠美
（同）天保十年己亥八月十二日　貴志安倍忠美
（乾巻々初清野謙次筆朱書押紙「貴志孫太夫自筆本、他家ノ自筆ヲモ交フ」とあり 四六九―イ三七）

今古沿革參考圖集　寫　一冊　一五七三

蜷川式胤著　自筆　自畫　大和綴　色摺菊花文表紙　三一・五糎四三糎　十八丁　題簽左肩書名同　内題なし、「道式胤」「蜷川氏圖書印」「清野文庫（紙票）」
奥書　明治六年三月集之早／日本國東京　蜷川式胤（印）
（見返）明治九年十一月十二日獨乙人社中持ノ博物場／ノ爲メニ之ヲ贈リ納早蜷川式胤（印）
（彩色精寫圖を貼交 四六九―イ三三）

黑坂命墳墓考　寫　四冊　一五七四

色川三中著　自筆　次の四種稿本を所収、「色川參中藏書」「清野文庫（紙票）」
第一種本　袋綴　縹色表紙　二二・五糎一五・五糎　四周雙邊一六・五糎一一・五糎　十行罫紙　五十一丁　外題左肩書名同　右肩に「蝦夷／日高見」　内題なし
第二種本　袋假綴　共表紙　二八・五糎一九・五糎　十行　十一丁　外題左肩「黒坂命墳墓攷」　内題の下に「東海　平三中著」と自署
第三種本　袋綴　茶色表紙　二八糎一九糎　四周單邊二二・五糎一六・五糎　十行罫紙　十二丁　題簽左肩「（書名同）完」
（巻末に銅鏡一面の拓圖あり）
第四種本　袋假綴　共表紙　二六・五糎一九糎　挿畫六丁　内題なし
（別に清野謙次著自筆「色川三中と其著『黒坂命墳墓考』附三中の隨筆『野中の清水』」一冊を附す 四六九―イ二九）

考古畫帖　寫　二帖　一五七五

大野雲外著　自筆　大正十五稔十月二十四日自序　昭和二年六月五日自序　折本　茶紫絹表紙　二四・五糎一八・五糎　題簽左肩「（書名同）一（二）」　扉題書名同、「清野文庫（紙票）」
（彩色挿畫　扉題の左下に「大正十五稔十月雲外（印）」とあり 四六九―イ二）

考古圖集　寫　二冊　一五七六

碓井小三郎著　自筆　袋綴　薄茶色絹表紙　二七糎四〇・五糎、「清野文庫（紙票）」
識語（見返）（清野謙次朱書）故椎（ママ）井小三郎氏ハ郁五堂ト号ス京都叢書、京都坊目誌ノ／著者ナリ此古器物影譜二冊ハ同氏ノ自筆ナリ同氏ハ繪ヲ／川端玉章氏ニ学ベリ
（四六九―三五）

古瓦古土器拓本帖　寫　一帖　一五七七

折本　菊花織文鶯色綾表紙　二七糎二一糎　原拓貼附　十六面　題簽左肩朱書名同、「萬水珍藏」「清野文庫（紙票）」
識語（見返）（朱）前略徳川時代古瓦譜ノ大部分ハ／畿内出土古瓦ヲ主要トシテ居ル、少数鎌倉古瓦ヲ中軸ト／シタ古瓦譜モアル、然シ此古瓦譜ニ見ル如ク多数ノ東北／地方古瓦ヲ蒐集シタノハ他ニ類ヲ見ナイ、恐ラク此古瓦譜製作者ハ東北ノ人士ラシイ中略昭和十七年七月七日夜／東京目黒ニテ　清野謙次記
（原摺拓本　江戸時代末期寫 四六九―九）

古瓦集　寫一帖　一五七

折本　澁茶色表紙　二七糎一八・五糎　三十二折　題簽中央墨「（書名同）畫圖」
内題なし、「游戲盧」「蝶々子甘屋」「清野文庫（紙票）」等
（江戸時代末期寫　原摺拓貼交　都府樓敷瓦の條に「宰府當安秀院曽祖父ノ時代ヨリ傳來之所享和壬戌ノ夏古市氏江譲タルヲ同年再予ニ傳之」とあり　四六九―イ五三）

古瓦收爐　寫一冊　一五九

高井蘭山著　自筆　天保八酉丁　水なし月土曜に入日自序　袋綴　改裝白紙表紙　用紙裏打　二五・五糎一八糎　三十四丁　題簽左肩雙邊（刊）「（書名同）　完」、「洒竹文庫」「てんきんもちほん」「清野文庫（紙票）」等
（原摺拓本　四六九―イ七七）

古瓦譜附録　寫一軸　一六〇

藤原貞幹著　自筆　自序　濱田青陵題字　巻子本　改裝後補鶯色繡表紙　見返金砂子散　用紙裏打　二六糎一〇米六〇糎　題簽金砂子散後筆「藤井貞幹自筆古瓦譜」　内題「古瓦譜附録」、「無佛齋記」「清野文庫（紙票）」
識語　（巻末別紙に安永五年歳次丙申立秋日貞幹序を補寫してその後に）昭和十年十二月十一日夜於平安京據小ノ山源治氏所藏本書寫畢ノ京都帝國大學教授　清野謙次（印）下略
（原摺拓本　別に清野謙次著自筆「藤井貞幹古瓦譜探求記」折本一帖を附す　四六九―イ七七）

〔古器物圖〕　寫一軸　一六一

巻子本　改裝後補桔梗小文鶯色絹表紙　用紙裏打　二七糎四米七〇糎　一紙四〇糎　内題なし、「大田藏書」「野村藏」「清野文庫（紙票）」
（巻初一枚大田南畝筆　四六九―イ九）

古鏡圖會　寫一冊　一六二

野中完一著　自筆　袋綴　澁刷毛目表紙　原裝共表紙　用紙薄樣　二六・五糎一九糎　二十一丁　題簽左肩銀砂子散書名同　原外題左肩「集古十種古鏡　抜萃」、「野中氏圖書」「福原藏書」「清野文庫（紙票）」
（四六九―イ五五）

古代遺什　寫一軸　一六三

栗本丹洲著　自筆　巻子本　改裝後補縹色唐草織文表紙　用紙裏打　二九・五糎一二米六糎　題簽朱書「栗氏所傳（書名同）」　内題なし、「栗本文庫」「清野文庫（紙票）」
（四六九―イ三五）

古代土中土器圖　寫一軸　一六四

雲水堂編　花橋堂畫　公羽老人序　巻子本　菊花繡表紙　見返金銀砂子散絹紙和唐紙　裏打　二七糎二米七二糎　彩色畫入　内題なし　箱書「古代土中土器圖」、「巻物藤波」、「清野文庫（紙票）」
（四六九―イ三）

古物寫生帖　寫四冊　一六五

野中完一著　自筆　大和綴　澁刷毛目表紙　二七糎三八糎　題簽左肩清野謙次筆「野中完一寫生画帖」、「清野文庫（紙票）」
識語　（第一冊扉）野中完一は明治の考古學者ノなり埴輪舍、瓶廼舍尚古ノと号す、人類學雜誌、考ノ古學雜誌等に論文を／寄稿せり、曽て二條公爵の／古物陳列所舘長たりしこと／ありき　昭和廿四年二月／清野謙次（印）
（四六九―イ三）

古鉢圖　寫一軸　一六六

巻子本　改裝後補茶色絹表紙　用紙裏打　二八糎七米九〇糎　一紙四〇糎　題簽「（書名同）杏花園舊藏」、「大田氏藏書」「南畝文庫」「清野文庫（紙票）」
識語　文化甲戌初冬廿六　鎌孫所寫　杏花園（印）

（見返）これは南畝の孫が寫して祖父に上げた珍本下略／昭和二十八年　清野謙次
（四六九—イ四三）

古鈴圖　寫一軸　一五八七

大田南畝著　自筆　巻子本　改装後補唐草織文薄茶色表紙　見返金切箔散　用紙裏打　二六・五糎七米二五糎　一紙二二・五糎　題簽銀紙書名無記　目録題書名同内題なし、「大田氏藏書」「南畝文庫」「清野文庫（紙票）」
識語　（巻首）（朱）太田覃（ママ）自寫元稿本
（巻中に「右古鈴圖并書付以池田正樹本／写之卯秋日　大田覃」、「右信州善光寺古鈴以下圖澁江氏／隨觀鈴圖中ヨリ抄出ス丁卯臘十七日」、「庚午五月廿七日於慎齋席上觀」、「參政青山大膳亮所藏／延長三乙酉至文化四丁卯／年凡八百八十四年／右延長古鈴圖澁江確齋長伯隨觀鈴圖中／ヨリ抄矣」等の記事あり　四六九—イ三三）

古鈴圖巻　寫一軸　一五八八

狩谷棭齋著　自筆　巻子本　改装後補茶褐色絹表紙　見返金砂子散　用紙裏打　二六・五糎六米八一糎　一紙三九糎　題簽後補清野謙次筆「（書名同）狩谷棭齋自筆　清野謙次藏」、「清野文庫（紙票）」
識語　此巻物も亦津輕伯爵家旧藏で狩谷棭齋の書寫／木である。巻中に墨書と朱書とで眞末と記して居るが、眞／末は棭齋の若い時の名であつて中略画も書も棭齋が／寫して朱筆を以て校合して居る。校正には一々實物／に当つて棭齋自身が寸法を測つて寸法を記入／したものが多い。下略清野謙次記
（學海第四巻第一號所収清野謙次「狩谷棭齋の考古學」—參照　四六九—イ七七）

集古圖巻三　寫一軸　一五八九

藤原貞幹著　狩谷棭齋筆　巻子本　表紙闕　往來軸　二七・五糎九米七五糎　一紙四〇・五糎、「清野文庫（紙票）」
（軸に棭齋筆「奉寫一切經料／紙墨納帳」、同裏に「神護景雲／四年五月」とあり　包紙に清野謙次筆「前略別巻古鈴圖には墨と朱で眞末と自署がある／眞末は棭齋の幼名なり、両巻は筆蹟同一なり、棭齋／自筆なること明かなり、／両巻共に津輕伯爵家旧藏なり」とあり　別に「賢意作琵琶甲裏書模」「集古圖目録」を附す　四六九—イ三六）

神代石類古物圖巻　寫一軸　一五九〇

巻子本　青絹表紙　見返金砂子散　用紙裏打　二七・五糎八米三五糎　一紙四〇糎　題簽「（書名同）寛政十二年寫完」、「中山藏書」「尾張伊藤圭介之記」「伊藤篤太郎記」「清野文庫（紙票）」等
奥書　寛政十二年／庚申六月廿九日　齋田善吾寫之
識語　（巻初朱押紙）此家藏ノ神代石類雷斧雪礎石／劒類ノ諸國ニテ堀出或ハ諸□ニ納マル／モノ又諸家ノ珎藏ノ諸品摸圖ヲ集ムル／ノ巻ハ摸圖精□ナラズシテ遺憾無ニ非□／ト雖モ頗ル參考ニ共スベキモノトス
（四六九—イ四一）

石鏃錄　寫三冊　一五九一

大徳潛堂著　自筆　昭和三年歳次戊辰古暦正月十八日己卯自序　袋綴　白紙表紙　二四・五糎一六糎　外題左肩雙邊「（書名同）弐」「石斧録　一（二）」内題なし、「大徳氏藏書印」「清野文庫（紙票）」
（石鏃石斧類調査記録用特別刷の罫紙を使用す　石鏃録巻末記事昭和十二年に及ぶ　四六九—イ六七）

徵古雜抄　寫一冊闕　一五九二

小杉榲村著　自筆　袋綴　澁格子目薄卵色表紙　用紙教部省十行罫紙他各種　二六・五糎一九・五糎　外題左肩「（書名同）圖畫一上」とありて下に朱書押紙「共廿四」内題なし、「杉園藏」「清野文庫（紙票）」
（彩色挿畫　貼紙書入多し　表紙に「可愛山陵　吾平山上陵　高屋山上陵　文忌寸祢麻呂銅牌外二品　久留米縣墳墓石人石馬」等の目録を記す　四六九—イ七五）

轉々雜集　寫一冊　一五九三

山崎美成著　自筆　袋綴　改装後補薄茶色表紙　原装共表紙　三一・五糎二一・五

糎　三十一丁　題簽左肩書名同　原題簽左肩「（書名同）古鈴鑑瓦」、「久田氏」「洒竹文庫」「清野文庫（紙票）」
奥書　文政三年春三月／好問堂藏
（原摺拓貼交　書中美成筆「文政壬午夏」「丁亥四月八日／於輪池翁席／上覧」、「乙酉六月朔東陽携輪池云水戸小判ニヤト」等の記事あり　四六九―イ五一）

文禰麻呂忌寸骨龕圖説　寫　一冊　一五九四

瀧澤馬琴著　自筆　袋綴　縹色表紙　用紙裏打　二四糎一六・五糎　六丁　題簽左肩單邊（刊）小津桂窓筆「（書名同）全」　扉題中央自筆書名同、「西荘文庫」
奥書　（朱書）天保二年辛卯十二月／代官木村宗左衛門就／此義而伺書の写シ一通／今玆六月八日画工重信／の写本を借謄して／別本とす合せ見る／へし／天保三年六月／著作堂主人追記
（扉）（朱書）此紀事一篇兎園小説中へ記載いたし置候間此度本文ハ／別ニうつしとり圖も同書へはり入置候を引はなし此末江付／申候但し圖ハ縮圖一本有之候間是にて此まゝ致進上候／御返しニ不及候平生筆硯たすけ候もの無之候間かやうの物／まていそかしき中にて写し候て御めにかけ候われなから薄情／にて候一向ニ出来ぬ身ニ御座候御遠察可被下候／癸巳正月十四日寫早　著作堂
這二圖天保二年の冬松前家臣大［野］幸二郎□り贈らる爾後又御代官木村氏この義に／就て伺書の寫しを見ることを得たりそハ本輯第十四巻に追録したり合せ見るへし　著作堂追識
（朱書）本書に穿掘の歳月［を］記さす是天保二年／辛卯冬十一月朔日の事也　著作堂追書
（表紙左肩桂窓筆朱書「ハ四百三十三」　六丁の内二丁は折込附圖　四六九―イ一）

美濃有孔石器拓本帖　寫　一冊　一五九五

小川榮一拓　袋假綴　白紙表紙　二四・五糎一七糎　二十五丁　題簽中央書名同、「清野文庫（紙票）」
識語　（巻初）岐阜市外五里の地揖斐郡鶯村に居住せる／小川榮一氏は幼少より古物好きで中略昭和二十四年九／月四日に私は之を訪うて半日閑談した。／此冊子は同氏が岐阜縣下を旅行して／各地採集家の所藏品を拓したもので／ある下略　昭和廿四年九月八日霞浦畔に／帰つて後に記す／清野謙次（印）
（四六九―イ七）

山中共古摺本集　寫　一冊　一五九六

山中共古著　自筆　袋綴　小松文布目表紙　二八・五糎一九・五糎　十七丁　見返別筆「山中笑氏集摺本集」、「清野文庫（紙票）」
（原摺拓貼交　四六九―イ五九）

植物學

植物圖　寫　一冊　一五九七

宇田川榕菴著　自筆　自畫　シーボルト題字　洋綴　改裝後補濃緑クロース表紙　原裝共紙濕表紙　用紙西洋コットン紙　二二・五糎一五糎　十二丁
奥書　（原見返）文政六年五月開業／江戸宇田川榕菴
識語　（裏見返）（押紙）（呉秀三ペン書）呉／三十五番／全十二葉（表紙共）／但しレンゲジャウマ切取リナシ
（各葉に彩色畫ありて和漢名及洋名を蘭文字にて記す　裏表紙にシーボルト筆 Kruid-Boek / door / W. Jooan. / Ite Deel. Dere ontledkunde markt Vlis veeleue / Dr. von Siebolt. のペン書あり　四七〇―イ一）

動物學

國牛十圖　寫　一帖　一五九八

折本　濾刷毛目表紙　二七・五糎一九・五糎　十五折　題簽中央書名同　内題なし、「阿波國文庫」「渡邊千秋藏書」
（原に「延慶三年庚戌五月十日あまり雨の中の／ひまにしるしをはりぬ／河東牧童寧直麿記之」、「安永七年歳次戊戌五月二日摹／左京藤貞幹」、巻初に「國牛十圖叙
文ノ首闕惜ヘシ又牛図十アル／ヘクノ今所存九ツ若一圖逸スルカ他日全本ヲ／得

ルヲ俟／安永七年歳次戊戌五月　藤貞幹」とあるものの寫　巻初に別に清野謙次筆「牛の参考書―國牛十圖と野飼の牛」と題せるもの六頁を附す　四八―イ七）

十牛圖　寫一軸　一五九九

松岡辰方筆　巻子本　濃灰色紋入表紙　用紙裏打　二六・五糎三米二糎　一紙四〇糎　外題「國牛十圖」、「中根氏藏書印」「清野文庫（紙票）」

奥書　十牛之圖其名十ありて其形九ツあり其四ツを／抄出しうつし置ぬ元本伊勢氏にあり追而寫／たして全本とすへし中略　寛政六年十一月廿七日　松岡平次郎辰方（花押）

（原に「延慶三年庚戌五月十日あまり雨の中の／ひまにしるしをはりぬ　河東牧童寧直暦記之」「安永七年歳次戊戌五月二日摹／左京藤貞幹」「天明五乙巳年十二月寫　源爲叙」「乞玄甫齋所藏之本寫／天明丁未之夏　勝（花押）」の奥書及び巻初に「十圖序首闕文アリ可惜圖九ツ／若一圖逸スル欤ハシメヨリ九圖欤他／日全本ヲ得ヲ俟　無佛幹」とあるものの寫　四八―イ九）

醫學

醫事雜記　寫一冊　一六〇〇

丹波元簡著　自筆　袋綴　砥粉色表紙　二二・五糎一六・五糎　左右雙邊一九・五糎一三糎　九行柱刻「巻之」罫紙　三十丁　外題左肩書名同

（表紙右肩に「天明改元」裏表紙中央に「東都侍御宦劉簡藏」とあり　外に種々落書あり　巻初欄外後筆「醫經大義　東都　丹波元簡撰」とあり　四九〇―イ一七）

宇田川榛齋同榕庵醫書譯稿集　寫　三十七冊　（一六〇一―一六一九）

宇田川榛齋・同榕庵譯　各自筆、「伊藤篤太郎記（紙票）」

（四九〇―イ四一）　所収細目次の如し

*私布歛傑兒治法總説　闕（第一冊）　一六〇一

Sprengel, Kurt P. J. 著　袋綴　改裝後補薄縹色表紙　用紙裏打　二五糎一七糎　十一行　四十丁　後補内表紙外題伊藤篤太郎筆（以下冊同）「宇田川榛齋（玄真）譯　自筆原稿／（書名同）乾ノ一」　内題なし

（巻初に「玄真」と自署）

*私布歛傑兒治法總説　（第二至四冊）　一六〇二

Sprengel, Kurt P. J. 著　袋綴　改裝後補澁刷毛目布目表紙　原裝共表紙　用紙裏打　二五・五糎一七糎　十一行　題簽左肩後筆「（書名同）宇田川榛齋譯自筆原稿乾（坤）」　後補内表紙外題同上　原外題左肩「斯布廉傑爾　巻一」

（第三冊巻初に「玄真」と自署）

*蒲朗加兒都内科書　（第五・六冊）　一六〇三

袋綴　改裝後補澁刷毛目布目表紙　原裝共表紙　用紙裏打　（乾冊）二四・五糎一七糎　四周單邊　代赭色十一行罫紙及別種十行罫紙を雜したるもの等　（坤冊）二九・五糎二〇糎　十二行　題簽左肩後筆「（書名同）宇田川榛齋譯自筆原稿乾（坤）」　後補内表紙外題同上　原外題「蒲朗加兒都巻一」

奥書　寛政十午冬終

*新譯帝田内外治療書　（第七至十一冊）　一六〇四

袋綴　改裝後補花菱文浮出納戸色表紙　原表紙闕　用紙裏打　二四・五糎一六・五糎　四周單邊柱刻「風雲堂」十一行罫紙　題簽左肩後筆「（書名同）宇田川榛齋譯自筆原稿一（―五止）」　後補内表紙外題同上

（第五冊巻初に「玄真」と自署）

*伊期忽爾陣傴氏昆斯蒲律苦氏内外科學窮理説　（第十二冊）　一六〇五

袋綴　改裝後補澁刷毛目布目表紙　原裝共表紙　二六糎一七糎　九行　百丁　題簽左肩後筆「（書名同）宇田川榛齋自筆原稿全」　後補内表紙外題同上　原外題「伊斯忽爾陣傴／昆斯蒲律苦」　内題「伊斯忽爾陣屈名教示内外科學徒究理説」

（内題の次行に「アルムアルダルノ外科産科ヱペン獨乙都ヲ翻譯ス／和蘭紀元一千八百二十六年開版」とあり）

*マルシカルル氏婦人小兒・ニウウェンホイス氏幾那説・チッソット氏肺焮衡（第十三冊）　一六〇六

袋綴　改裝後補花菱文浮出薄鼠色表紙　二四・五糎一七・五糎　九行　三十七丁　題簽左肩後筆「（書名同）宇田川榛齋譯自筆原稿」　後補内表紙外題書名同上

*歇斯的爾内科書（第十四冊）　一六〇七

袋綴　改裝後補花菱文浮出納戸色表紙　二四・五糎一七糎　四周單邊十一行柱刻「風雲堂」罫紙　十三丁　題簽なし　後補内表紙外題「（書名同）宇田川榛齋（玄眞）先生譯自筆原稿」

（内表紙に「伊藤篤太郎珍藏」、内題の次行に「東都　榛齋譯述」とあり）

*〔和蘭醫方譯篇〕（第十五至十九冊）　一六〇八

袋綴　改裝後補納戸色表紙　二四・五糎一六・五糎　各種用紙混用　行數不定　内題なし

奥書　（第一冊十三丁裏）寛政八丙辰仲夏

（第二冊）寛政八初冬第七日

*内科選要・名物考・藥鏡之基礎（第二十冊）　一六〇九

袋綴　改裝後補渦紋紫表紙　二三・五糎一六・五糎　四周單邊九行罫紙　百四十丁　見返貼紙後筆「榛齋宇田川玄眞　榕菴宇田川榕　両先生自筆原稿／（書名同）完」　内題なし

（巻中別紙挿畫に「伊藤篤太郎按ニコノ抹香鯨ノ圖ハ／曽尚啓ノ筆ニシテ『臥兒蘭度ノ地志』ヨリ／複写セルモノナリ盍シ前ノ『サルモン人名物産志』所載ノ抹香鯨圖ト共ニ宇田／川榛齋ヘ所贈也」等伊藤篤太郎筆の押紙多し　巻末に曽尚啓「中風考」原稿一枚を合綴）

*宇氏雜組（第二十一冊）　一六一〇

袋綴　薄卵色表紙　二二糎一六糎　四周單邊十行柱刻「風雲堂」薄納戸色罫紙　六十丁　外題左肩榛齋筆書名同

（内題上欄外に「文政九／仲冬」とあり）

*印度備要經驗方（第二十二冊）　一六一一

文化乙丑初春念七日榛齋序　袋綴　改裝後補網目小豆色表紙　原裝共表紙　用紙裏打　二四・五糎一七糎　四周單邊十一行柱刻「風雲堂家書」代赭色罫紙　三十七丁　題簽左肩後補「印度備要考宇田川榛齋譯　安岡文龍筆録稿本　全」　原外題左肩「印度備要万　完」

（内題の次行に「榛齋先生譯定／東都　安岡文龍筆録」とあり）

*痛風篇・佝僂篇・走注痛篇（第二十三冊）　一六一二

袋綴　改裝後補花菱文浮出納戸色表紙　原表紙闕　二四・五糎一七糎　四周單邊十一行柱刻「中井所藏」薄鼠色罫紙及び「風雲堂家書」代赭色罫紙　十三丁　題簽左肩黄紙後筆「宇田川榛齋自筆原稿（書名同）」　内表紙外題後筆同上

*第五試生石灰之解凝力（第二十四冊）　一六一三

袋綴　改裝後補網目小豆色表紙　原裝白紙表紙　二五糎一七糎　四周單邊九行柱刻「宇田川文庫」薄緑色罫紙　四十丁　題簽左肩後筆「文政七年宇田川榕菴譯自筆原稿　生石灰之解凝力　全」　後補内表紙外題後筆「文政七年四月作　宇田川榕庵自筆原稿　生石灰之解凝力　全」　原外題「第五試　生石灰ノ解凝力」　原扉題左肩「第五試　石灰之解凝性」

識語　（裏表紙附箋）文政七年、宇田川榕菴翁譯原稿／舎密（セイミ）（化學）稿本生石灰之解凝力寫本壹冊／本邦ニ化学アルハ宇田川榕菴ノ『舎密開宗』ヲ權輿／トス。『舎密開宗』ハ天保八年(1837)ノ刊行ニ係ル。／此稿本ハ文政七年(1824)ノ作ナレバ『舎密開宗』ノ／出版ニ先ダツコト十三年ナリ。／伊藤篤太郎識

（原表紙右下に「榕」と自署）

*方藥錄・藥劑編（第二十五冊）　一六一四

袋綴　改裝後補網目小豆色表紙　原表紙闕　二五糎一七糎　四周單邊十一行柱刻「風雲堂」罫紙　五十五丁　題簽左肩後筆「（書名同）宇田川榛齋譯自筆原稿全」　内表紙外題後筆同上　尾題「薬剤篇巻之七終（方剤録巻之七大尾共八冊）」

＊〔リス氏病理説〕（第二十六至三十冊） 一六一五

袋綴　改装後補渦文浮出紺表紙（第一・二・四冊闕）　二四・五糎一七糎　四周雙邊九行薄鼠色罫紙　扉題左肩後筆「リス氏一（—五）（第五冊「宇田川槐園譯自筆原稿」とあり）」　原外題「リス譯昼（右肩に）巻三（五）共五」

＊宓篤爾藥性論標目（第三十一冊） 一六一六

袋綴　改装後補澁刷毛目布目表紙　原装共表紙　二四・五糎一七糎　用紙裏打　四周單邊十行柱刻「風雲堂」薄緑色罫紙　五十三丁　内表紙外題左肩後筆「宇田川榛齋（玄眞）自筆原稿　宓篤兒藥性論標目　完」

＊開物全書・悪癖並椹梓篇（第三十二冊） 一六一七

袋綴　改装後補澁刷毛目布目表紙　用紙裏打　二四・五糎一七糎　四周單邊十行柱刻「開物全書」薄青色罫紙　十七丁　内表紙外題後筆「宇田川榛菴自筆原稿（書名同）／天保七年丙午十月稿成」　内題なし

奥書　奉　旨飜譯院學士／奉　旨洋書飜譯院都講／天保七年丙申十月　奉　旨飜譯洋書生員　津山／侍醫宇田川榕菴識

識語　（内表紙右下）伊藤篤太郎珍藏

＊ウエイマン抄書（第三十三至三十六冊） 一六一八

袋綴　改装後補砥粉色布目表紙　原装共表紙　二四・五糎一七糎　四周單邊十行柱刻「風雲堂」罫紙　題簽左肩後補「榛齋宇田川玄眞先生自筆原本（ママ）物印満本草和解　乾（坤）」　原外題左肩（第一冊）「（書名同）圖ノ二」（第三冊）「ウエイマン巻之三。四」（第二・四冊なし）

識語　（第一冊見返紙筆）榛齋先生自筆ヴアインマン　本草圖譜之／和解乾坤二冊ハ未刊ノ稿ニシテ斯學ニ／於ケル貴重ノ文献ナリ余曽テ東京下谷／一書肆ニ於テ之ヲ購ヒ得テ珍玩スル所也／昭和六年一月人日假リニ製本ス／　伊藤篤太郎（印）

（第四冊本文中紙筆）伊藤篤太郎按／朱字「ユキボク實青天色ナリ」トアルハ／岩崎灌園先生ノ自筆ナリ（印）

（第三冊原外題右下に「榛齋」と自署）

＊醫範纂正滲胞編（第三十七冊） 一六一九

袋綴　改装後補澁刷毛目布目表紙　原装白紙表紙　二九糎二〇・五糎　四周雙邊九行十六字小雙行柱刻「救荒草木圖　巻」用紙（柱刻「風雲堂家書」代赭色罫紙二丁を補す）十七丁　原外題書名同　内題「滲胞篇」

識語　（裏表紙青書）文化十癸酉十一月念二日　挍一了　養菴

格致餘論　一冊 一六二〇

朱震亨（元）著　自序　袋綴　栗皮色表紙　二七糎二〇糎　四周雙邊一八糎一七糎　十二行二十字　五十二丁　柱刻黒口「格致（丁數）」

（古活字版　寛永期刊　内題の次行に「金華　朱彦脩　撰」とあり 四九〇—イ七）

家傳通外方上巻　寫　一冊 一六二一

度會常辰著　永禄龍集小春日自序　袋綴　深縹色表紙　二五・五糎二〇・五糎　十二行二十一字　四十六丁　題簽左肩雙邊後筆「家傳通外集上」　柱心「通上（丁數）」

識語　（見返）二百三十年余ニ成豊臣天下を治めさる以前　寛政戊午十月改之

（室町時代末期寫 四九〇—イ三七）

遐齢方　寫　一冊 一六二二

曲直瀬道三著　永清筆　袋綴　改装後補澁刷毛目表紙　用紙裏打　二五・五糎一九糎　九行　一七丁　題簽左肩「（書名同）芳溪題」　内題「遐齢小児方通治之剤」

目録題書名同

奥書　于時慶長十六辛亥二月吉日写之　永清

（片假名交り　原に本文巻末第二十一條「小兒雜藥」末に「于時天正十次庚戌二月上旬書之右筆窓平写」と奥書あるものの寫　次に「千金集之内」を合寫す 四九〇—イ二）

金瘡壹部抄　寫　一帖　一六二三

吉益休安著　自筆　折本　紺表紙　見返菊花文金紙　用紙鳥の子　一八・五糎一二糎　四周單邊一五・五糎一〇・五糎　有界五行　三十七折（墨附表裏共）　題簽　紅紙金泥下畫書名同　内題「金瘡一部之事」、「呉氏文庫」

奥書　此金瘡七氣血縛條〻事／醫術一言不殘候古木数〻／注有之拙身自筆一部書／立之畢老眼之故落字可有之候／且者後之可為形見可有秘藏聊以／他人不可有外見然共貴下実子江ハ／可被傳者也於伏見加藤肥後守御／屋形書之生命六拾七ニ而是／書者也仍相傳之所如件／以上／慶長拾三戊申年／五月八日／吉益彈正人休安（花押）（印）／吉益小傳次殿旨

吉益掃部大浦／半笑（花押）（印）／慶長十五年正月三日　吉益左近助殿

（四九〇―イ二七）

金瘡醫方　寫　一冊　一六二四

伊藤源七著　自筆　袋假綴　共表紙　一六糎二三糎　十二行　四十五丁

奥書　天正四丙子五月上旬／伊藤源七／佐倉理清軒旨

（四九〇―イ三九）

黄帝内經素問註證發微　九卷補遺一卷　十二冊　一六二五

馬蒔（明）註　馬蘿（明）校　萬曆丙戌秋日馮行可序　萬曆十四年冬十月吉旦王元敬序　袋綴　茶色表紙　二八糎二〇糎　四周雙邊二二糎一六糎　有界十行二十二字小雙行　題簽左肩雙邊「（書名同）三卷（六卷・七卷・八中・八下・九卷・補遺）」（一卷・二卷・四卷・五卷・八上闕）　柱刻黒口「素問卷一（―九・補遺）（丁數）」

刊記　（卷九末）慶長十三戊申十二月日　梅壽刊

（古活字版　見返封面に中央「刻馬玄臺先生内／經素問註證發微」右より「闕五千年神聖之秘旨／萬曆丙戌仲春寶命堂記／開億萬載醫學之群疑」とあり

（四九〇―イ二九）

雜錄　寫　一帖　一六二六

後藤椿庵著　自筆　折本　改装後補茶色絹表紙　原装共表紙　用紙裏打　二二糎一四糎　九行　八折　題簽左肩後補「後藤椿庵文稿」　原外題第一折裏「雜録」

識語　（押紙）椿菴先生自筆／宝暦七年仲夏渉／猟　二十八

（もと綴本を現折本に改装　四九〇―イ三）

傷寒論直格　一冊　一六二七

壬戌八月望日嚴器之序　開禧改元五月甲子張孝忠序　戊寅菊節鎏洪後序　唐袋綴表紙闕　間紙を挟む　二六糎一五・五糎　原寸二四糎　四周雙邊二一糎一三・五糎　有界十六行二十九字（序十三行二十字續集十四行二十四字）　序題「傷寒明理論」　目録題「新刊劉河間傷寒直格」　内題（上・下巻）「新刊河間劉守眞傷寒論方巻上（下）」（中巻）「新刊河間劉守眞傷寒直格巻中」（續集）「新刊劉河間傷寒直格續集」（後集）「（書名同上）後集」（別集）「新刊張子和心鏡巻之三　直格別集（此四字陰刻）」　柱刻黒口「序　直格上（中・下續・后）（丁數）」、「愚齋審定鑑本」「文楽堂藏書印」等

刊記　（目録題條首木記）傷寒方論自漢長沙張仲景之後惟前金河／間刘守眞深究厥旨著為傷寒直格一書誠／有益于世今求到江北善本廼臨川葛仲穆／編校敬刻梓行嘉與天下衛生君子共之／歳次戊辰仲冬建安翠巖精舍刊行

（元版　葛仲穆編「傷寒論方」、馬宗素著葛仲穆校「傷寒直格續集」、鎏洪編葛仲穆校「直格後集」、常仲明編「直格別集」を収む　四九〇―イ九）

新編名方類證醫書大全　二十四卷　五冊　一六二八

熊宗立（明）著　天順二年歳在戊寅六月初吉呉尚志（明）序　正統十一年歳在丙寅暮春之初自序　景泰新元庚午歳自跋（以上二序跋「醫學源流」に附す）　袋綴　砥粉色表紙　二八糎一八糎　左右雙邊二一糎一四・五糎　有界十三行二十四字小雙行（見出陰刻）　外題右肩後筆「醫書大全　自一至八（―自十七至廿四）」　目録題「新刊名方類證醫書大全」　尾題「名方類證醫書大全一」　柱刻黒口「醫書全目録（卷一―二十四）　大全序　源流（丁數）」、「柳澤真次郎藏書」

刊語　（「醫學源流」末）　吾邦以儒釋書鏤板者往〻有焉然未曽及醫方恵／民之澤人皆□鮮近世醫書大全自大明來固醫家／至寶也所憾其本稍少欲見而未見者多矣泉南阿／佐井野宗瑞捨財刊行彼明本有三寫之謬令就諸／家考本方以正斤両雖一毫髪私不増損益宗瑞之／志不為利而在救濟天下人偉哉陰徳之報永及子／孫矣／

大永八年戊子七月吉日　幻雲壽桂誌（刻印）
（目録末に「成化三年丁亥／熊氏種德堂刊」の原本記を移刻し、新に「辯誤」一丁を補刻す　その末に「今所刊之書與大明板有斤両分銖之異彼板有薬種之下不／戴斤両者又有薬種同者竊考諸方改之若有善本自大明來／則復當用彼也」とあり　第五冊に序並びに「醫學源流」を附録　四九〇―イ五）

千金方巻第一　一冊　一六二九

孫思邈（唐）著　丹波元堅校　自序　天保三年歳次壬辰天醫節丹波元堅序　天保壬辰秋九月松本幸彦跋　袋綴　代赭色表紙　三〇・五糎二一・五糎　八行十六字小雙行　五十四丁　題簽左肩「真本（以下剝脱）」、「山下家藏書印」
（「正和四年四月十九日以家秘本於室町宿所寫之畢／正五位下行典薬權助和氣朝臣嗣成」以下奥書本による覆刻　四九〇―イ二）

續添鴻寶秘要抄巻第一　寫　一冊　一六三〇

淨運著　永正五年戊辰五月日自序　袋綴　澁茶色表紙　二七糎一八・五糎　十行六十二丁
（室町時代末期寫　四九〇―イ三三）

素問識巻一　寫　一冊　一六三一

丹波元簡著　自筆　多紀元堅校　文化三年丙寅歳秋九月十有一日自序　袋綴　朽葉色表紙　用紙薄様　間紙を挟む　二三・五糎一六・五糎　十一行二十三字小雙行七十丁　題簽左肩雙邊（刊）「（書名同）　全」
識語　（朱書）文化庚午七月讀於柳原醫學　堅（この一行墨にて抹消）
（墨書）文政癸未十一月與横井元琬對校　堅
（朱書）甲申歳杪廿三日覆訂　元胤
（朱書）乙酉正月十七日再勘　堅
（巻初に「素問解題」「素問彙攷」「素問諸家註解書目」を附す　四九〇―イ一九）

通用古方詩括　寫　一冊　一六三二

袋綴　澁茶色表紙　一八糎一九糎　四周雙邊一四糎一七糎　有界十行小雙行低一格十五字　八十八丁
（江戸時代初期寫　扉裏に「醫必順師三折肱／多聞益聞益者是爲明／先諳大字次窺註／而後執方善惡徵」とあり　四九〇―イ三五）

蕃國治方類聚　寫　二冊　一六三三

嵐山甫庵著　自筆　自序　袋綴　縹色表紙　一九・五糎一五糎　約五行　外題左肩別筆書名同、「呉氏文庫」「呉氏藏書之印」
奥書　（上巻）天和三癸亥五月雨中愚五十一老眼ニテ書也／法橋甫安春育（印）／嵐山氏愚息ヘツカハス也
（下巻初に「此書二冊治方上巻ニ弐拾症／下巻ニ四拾弐症都六拾弐症／阿蘭陀外科メストル正傳也下略」、巻末に「貞享四卯八月五日京都ニテ／年十八九ノ男ヲ療治スル下略」等の記事あり　四九〇―イ三五）

楓窓隨抄　寫　一帖　一六三四

多紀元胤著　自筆　折本　改装後補更紗模様布表紙　原装共表紙　二二・五糎一六糎十行　二十一折　題簽左肩金單邊絹呉秀三筆「劉元胤楓牕隨抄」　原題簽「楓牕隨鈔」
（内題の下に「自甲子季夏至」とありて次行に「劉元胤」と自署　四九〇―イ一五）

鋪練吉瘍醫方　寫　二巻　一冊　一六三五

野呂天然著　自筆　文化十三丙子十一月二十五日自序　大和綴　改装後補薄茶色刷毛目表紙　原装共表紙　用紙裏打　二七糎一八・五糎　左右雙邊二〇糎一四・五糎　有界十行約二十字詰紙　二十六丁　題簽左肩絹「野呂天然。（書名同）芳渓」
原外題左肩雙邊「兎量居士正義鋪練吉瘍醫方第一」　原表紙見返中央「兎量居士正義／鋪練吉瘍醫方」　右に「撻妄譯誣校之狂夫」左に「杖夷學蒙昧之心眼」　序題「誤譯紅夷鋪練吉瘍醫方書正義」　内題「（書名同）　上冊第一（二）」　柱刻「生象止観　如如巷藏」、「呉氏藏書之印」
（四九〇―イ三三）

由頤文稿　寫一帖　一六三六

吉田宗怡著　自筆　折本　改裝後補更紗模様布表紙　二三・五糎一六糎　十一行約二十字　十四折　題簽左肩後筆「吉田宗怡由頤文稿」(巻初別紙に「由頤先生遺稿全」の題簽貼附)、「稱意館藏書記」「吉家氏藏」「由頤子」等
(第一折に押紙「吉田由頤宗怡自筆文稿／宗怡ハ宗恂ノ後正徳享保間ノ醫家」とあり　四九〇―一三)

○

解屍編　一冊　一六三七

河口信任著　青木夙夜畫　明和辛卯仲冬自序　林鼎跋　袋綴　茶色表紙　二七糎一九糎　四周單邊二一・五糎一四・五糎　有界九行二十字　二十九丁　挿畫筆彩二十三頁分　柱刻「(書名同)(丁數)　(第一丁のみ　宏齋藏板)」、「成仁堂文庫」
「橘氏矢野」等
刊記　明和九壬辰三月／平安書林／二條通柳馬場西江入町　博文堂田中市兵衛／寺田押小路下ル町　廣文堂高橋清兵衛／問之町御池上ル町　文泉堂林権兵衛／二條通東洞院東江入町　文錦堂林伊兵衛
(帙に河口信任に關する西村貞の考文あり　四九一―一三)

○

察病指南　三巻　合一冊　一六三八

施政郷(宋)著　淳祐丙午正月中澣趙崇賀(宋)序　淳祐改元九月立冬後四日自序　袋綴　澁茶色表紙　二七糎一九・五糎　四周單邊一八糎一六糎　十一行十六字小雙行　外題左肩墨書名同　柱刻「察病指序(目)　察病上(一―下)(丁數)」
(古活字版　慶長期刊　施政郷自序末文淳祐年紀の條に「此書日本ニ渡ル三百七十五ノ年ニて但慶長廿年迄ノ一也」の書入あり　四九二―一三)

○

究理諸毒考　寫一冊　一六三九

伊句麻結萬(和蘭)著　高良齋譯　同上筆　袋綴　亀甲文浮出丹表紙　間紙を挟む二五・五糎一八糎　九行　十九丁　外題左肩「高良齋書　和蘭究理諸毒考」、「呉氏文庫」
(片假名交り　内題の次行に「和蘭　伊句麻結萬　著／阿波　高　淡良齋　譯」とあり　四九四―一七)

○

熊志　一冊　一六四〇

難波大幹著　文化柔兆攝提格蕤賓之月松島一雲序　袋綴　紙粉色表紙　二六・五糎一八糎　四周單邊一九糎一四・五糎　九行二十字　十七丁　挿畫八頁分　外題左肩墨書名同　柱刻「熊志(丁數)」、「康章珠藏」「若林藏書」等
刊記　門人松島瑞境藏
文化五年／辰十一月／書林大阪心齋橋通南本町　河内屋儀助
(内題の次行に「因幡醫官　難波義材大幹著」とあり　四九四―一九)

○

重刊經史證類大全本草　三十一巻　十二冊　一六四一

唐慎微(宋)著　王秋(明)捐貲　王大猷・王大成(明)校　萬曆丁丑歲春中月梅守德序　大觀二年十月艾晟序　政和六年十二月二十八日寇宗奭劄　萬曆丁丑歲春中月王大猷後序　唐袋綴　薄茶色表紙　三一糎一九・五糎　四周單邊(又は雙邊)二五糎一六・五糎　有界十二行二十三字小雙行　挿畫入　外題左肩墨「大觀本草　一明萬曆丁丑翻刻元大德壬寅宗文書院本」　柱刻白口「〇本草　一(―三十一)　(丁數)　宣城尤本科刻(又は尤本科刊)」、「巴陵方氏傳經堂藏書印」「方坊恵藏書印」等
刊記　(蓮牌木記)　萬曆丁丑春月／重刊于尚義堂
(明版　晟序末に原刊記「大德壬寅孟春／宗文書院刊行(雙邊木記)」とあり内題次行に「春谿　王秋　捐貲命／男　大猷　大成全校録」とあり　四九四―一九)

重修政和經史證類備用本草　三十巻　二十冊　一六四二

唐慎微(明)著　曹孝忠(明)校　己酉孟秋望日麻革信序　政和六年九月一日曹孝忠

序　唐袋綴　改装後補薄茶色包表紙　三〇種一九・五糎　四周單邊二五糎一六・五糎　十二行二十三字小雙行　柱刻「序　方書　記　目録　本草一（一三十）（丁數）（刻工名）」

刊記　嘉靖三十一年歳次壬子春正月重刊／山東濟南府儒學教授胡大慶／訓導冀為珩同校督

（明版　刻工―程俊等　四九四―一五）

本草衍義　二十卷　三冊　一六四三

寇宗奭（宋）著　政和六年十二月二十八日劄付　唐袋綴　改装後補空色緞子表紙　間紙を挟む　二六・五糎一八糎　四周雙邊二〇・五糎一四糎　有界十二行二十一字　柱刻黒口「本草衍義一（一二十）（丁數）」、「怡府世寶」「明善堂覧書画印記」「安樂堂藏書記」等

（元版　原に「宣和元年　月本宅鏤板印造／姪宜教郎知解州解縣丞寇約校勘」とあるものによる元初刊　四九四―一五）

藥種抄上　寫　一軸　一六四四

亮阿闍梨兼意著　巻子本　改装後補黄地金切箔散表紙　用紙黄檗染紙　裏打　二七・五糎一六米一四糎　天地單邊二四糎　一紙四七・五糎　有界二十四行　題簽墨書名同　畫（無邊無界紙幅不同）八面、「石山寺法輪寺」

識語　（鎌倉時代筆）以他本比校之才本付是也

（石山寺本　平安時代中期寫　内題書名の下に小字「上」とあり　交筆　巻初に目録あり「人參　茯苓臣／黄精君　甘草國老又君／遠恩君　枸杞／天門冬君」を掲ぐ　巻中に識語同筆を以てイ本校合多し「大正新修大藏經圖像第十一巻」、ビブリア第十七號所収森鹿三「藥種抄について」―参照　四九四―一七）（重文）

湧鐘小品　寫　一冊　一六四五

朱國禎（明）著　小野蘭山筆　袋綴　紺表紙　二二糎一五・五糎　用紙裏打　十行十九字　十三丁　題簽左肩補後　「箋卉　小野惠畝自筆　湧鐘小品　小野蘭山自筆」、「衆芳軒藏書記」「清野文庫（紙票）」

（巻初に「天保十三壬寅三月廿三日寫之」とある小野惠畝筆の張潮（清）輯「昭代叢書丙集巻五十三　箋卉」四丁分を合綴　四九四―一三）

蘭山問目留簿　寫　二冊　一六四六

永山道修編　溝口直候問　小野蘭山答　袋假綴　共表紙　一九・五糎一三糎　外題中央書名同（上冊右に）「壱（此一字朱書）江戸／寛政十二申年／同十三年改元享和元酉年」（左に）「初面談留書／申七月七日ヨリ酉二月十八日迄雜誌」（下冊右に）「二（此一字朱書）江戸／享和元酉年」（左に）「二月　雜誌」、「清野文庫（紙票）」

識語　（帙裏）（清野謙次筆）越後國新發田藩主／溝口直候公が小野蘭山に質問せし始末の自筆覺書

（福井久蔵著「諸大名の學術と文藝」―参照　四九四―一二）

○

眼醫秘笈　寫　一冊　一六四七

越智高崧著　自筆　袋假綴　表紙表被闕　二二・五糎一六糎　十一行　四十丁

外題左肩「眼科秘笈越智高崧」

識語　（裏表紙）是書伊豫荷蘭眼科醫越智某所著／丁巳春　高　於莵三

（片假名交り　四九七―三）

シーボルト直傳方治療方寫取同治療日誌　寫　二冊　一六四八

宮原良碩筆　袋綴　巻龍唐草模様摺出鳳色表紙　間紙を挟む　（第一冊）二七糎一九糎　（第二冊）二四糎一六・五糎　（第一冊）左右雙邊十行柱刻「錦翹堂藏」鶯色野紙　内題なし

奥書　（第一冊扉）（朱）　文政十亥中夏十有三日ヨリ崎陽青嚢堂（ママ）熟ニテ／メインストンシイーポルド直傳方治療方写取／外療ヲ／醫按扣／信陽月都／宮山堂主人（同巻末）文政丁亥歳中夏從於崎山客館／信陽月都醫宮山堂主人／宮原良碩寫卒／施葯院外科處／吉雄幸載先生塾

（第二冊扉）吉雄塾書／文政丁亥夏五月廿七日／肥後家中野口津兵衛／シーポルト治療日記

（同巻末）文政丁亥夏五月廿七日ゟ六月／一日迄日記病人死扣之／信陽月都醫司於／崎陽客館扣之
（四九七—イ一）

○

乳巖治驗錄　寫　一冊　一六四九

華岡隨賢著　自筆　袋綴　改裝後補灰色絹表紙　原裝共表紙　用紙裏打　二四糎一七・五糎　七行約十六字　八丁　題簽左肩絹呉秀三筆「華岡青洲先生乳巖治驗録」原外題書名同、「呉氏文庫」
（巻末に「南紀　華岡隨賢震誌」と署す　四九八—イ一）

○

黄素妙論　一冊　一六五〇

曲直瀬道三著　袋綴　改裝後補紺表紙　一四・五糎一〇・五糎　四周單邊一三糎八・五糎　七行　三十丁　題簽左肩雙邊（刊）墨書名同
刊語　前略文化成辰五月吉旦奥村慎猷識
（内題の下に「雖知苦齋道三著」とあり　原に「洛下雖知苦齋盍靜翁道三（花押）／于時天文廿一年正月人日／奉授与松永禅正忠殿　畢可秘」とあるものによる飜刻
四九九—イ三）

養生問對上　寫　一冊　一六五一

袋綴　薄茶色布目表紙　二七糎二〇糎　十二行　九十丁　外題左肩朱後筆書名同
（江戸時代初期寫　四九九—イ五）

工藝學

朝堂院圖　寫　一鋪　一六五二

藤原貞幹著　自筆　二米七糎六〇糎　外題左肩「毫釐不欺朝堂豊樂両院圖以曲尺五分爲一丈／盈科堂藏」とある上に貼紙して「朝堂院圖丁未仲夏再校／以曲尺五分爲一丈」と改む、「左京藤貞幹梡正秘本」「龜石堂藏」「清野文庫（紙票）」
（五三一—イ一）

木道圖解　寫　一冊　一六五三

宗俊著　自筆　天和元辛酉年冬十一月日自序　綴葉裝　紺表紙　見返金紙　用紙鳥の子　二五糎一八・五糎　九行　百五十丁　題簽左肩金砂子散書名同　内題なし
（自序に「司匠官領將監宗俊謹識焉（印）」と自署す　五三一—イ三）

○

吹塵餘錄銀山銅山之圖　寫　十帖　一六五四

勝海舟編　折本　澁表紙　三六糎二七糎
（着彩　各冊左肩附箋を貼附「吹塵餘録第一圖（—十圖）」と記す　五五〇—イ一）
所収次の如し
一　院内銀山岡繪圖　二　院内銀山鋪岡畧繪圖
三　阿仁銅山六箇山岡繪圖纒　四　阿仁銅山六箇山鋪内繪圖
五　市之又銅山砒通凡圖　六　二之又銅山砒通凡圖
七　三枚銅山砒通凡圖　八　萱草銅山砒通凡圖
九　真木澤銅山砒通凡圖　十　小澤銅山砒通凡圖

○

砂糖製作記　一冊　一六五五

木村喜之著　寛政九年丁巳八月自序　寛政九のとし秋九月松本保固跋　袋綴　改装薄代赭色布目表紙　間紙を挟む　二六糎一八・五糎　四周單邊二一糎一六糎　有界八行　二十三丁　題簽左肩雙邊「（書名同）全」　柱刻「（書名同）（丁數）」、「津和野文庫」「高木家藏」

刊記　（見返）（四周單邊三行）（中央）砂糖製作記　全　（左に）東都御書房通　本町二町目　出雲寺和泉掾藏

（内題の下に「砂糖の作りかたをしるす」とありて次行に「東都　木村又助喜之撰」とあり　五七四―イ）

○

皮革手鑑　寫　一帖　一六五六

木村蒹葭堂著　折本　白紙表紙　二六糎二二・五糎　八折　内題なし、「蒹葭珍藏」「清野文庫（紙票）」

箱書　（清野謙次筆）此蒹葭堂皮革手鑑／の文化史上に於ける／重要なる著作なること／を拙著「太平洋に於ける／民族文化交流」（昭和十九／年創元社刊行）第一／三二頁に述べたり（印）

（五八四―イ）

○

文明の庫紙の巻　寫　一冊　一六五七

幸田露伴著　自筆　袋綴　改装後補鐵色表紙　二五糎一七糎　十行　二十五丁

題簽左肩後補書名同　内題「文明の庫／第二紙の巻」

（少年世界明治三十一年五・六月號掲載原稿　内題の下に「幸田露伴」と自署　五五五―イ）

○

女用訓蒙圖彙　五巻　五冊　一六五八

奥田松柏軒著　「吉田半兵衛」畫　自序　袋綴　銀泥下畫紺表紙　二二・五糎一六糎　四周單邊一九・五糎一四糎　題簽左肩雙邊「（書名同）一（―五）」　序題同上　内題「當流女用鑑巻二（―五）」　柱刻「女用一（―五）　（丁數）」、「西荘文庫（小津桂窓筆「花百六十二全五」と墨書せる紙箋に捺印）」「兎角菴」

刊記　貞享四卯歳／歳頭初日／京二條通片山三右衛門／大坂高麗橋一丁目山本清三郎／江戸日本橋万町本屋清兵衛

（巻三第十三・十四丁闕　五九〇―イ）

産業

製品圖彙　寫　一冊　一六五九

丹波修治著　自筆　袋綴　卵色表紙　二三・五糎一六糎　四周單邊一八糎一三糎　三十五丁（柱刻「伊勢國丹波氏之記」）三十行横罫紙三丁を添ふ）　題簽左肩雙邊（刊）「（書名同）　初編」　内題なし、「清野文庫（紙票）」

（表紙右下に「丹波修治編纂」と記す　文中「明治十年四月六日寫」の記事あり　六〇三―イ）

○

丹劦加佐郡岡田ノ内西方寺村御檢地帳　寫　一冊　一六六〇

袋綴　共表紙　二三・五糎二〇糎　六行　五十四丁　外題中央「丹劦加佐郡岡田西方寺村御檢地帳」（左に）「慶長七年八月日」（右下に）「分部六左衛門／畔田久左衛門」　扉題に年紀「慶長七年八月七日」とある以外表紙外題に同、「尾陽雲林菴文庫（緑印）」「綾町（緑印）」

（六二―イ）

○

燈籠圖繪　寫　二冊　一六六一

袋綴　薄縹水色表紙　二七糎一八糎　題簽左肩雲紙「名物燈籠圖繪香巖珎藏」　内題なし、「千束文庫」「久永章舉藏」「神田家藏」等

（江戸時代末期寫　六二九―イ）

名勝園亭圖説　三帖　一六六二

唐折本　薄崩黄色緞子表紙　見返銀砂子散　二三・五糎一五糎　題簽中央茶色唐紙「（書名同）　第一冊（―第三冊）」　挿畫（各冊見開）十面

（六三九―イ三）

行宮圖説　一帖　一六六三

唐折本　薄崩黄色緞子表紙　見返銀砂子散　二三・五糎一五糎　題簽中央茶色唐紙「（書名同）（右側に天寧寺・萬壽重寧寺・高旻寺・錦春圖・金山・焦山）」　挿畫（見開）七面

（六三九―イ五）

○

懸汐手引草　寫　三巻　三冊　一六六四

吉崎織著　〔自筆〕　袋綴　薄縹色表紙　二七・五糎一九・五糎　九行　挿畫入　題簽左肩「（書名同）上（―下）」

奥書　于時文政十一年冬十月　吉崎織纂

（六六九―イ）

○

驛路鈴考　寫　一冊　一六六五

伊勢貞丈著　〔本多忠憲〕筆　袋假綴　澁引表紙　二七・五糎二〇糎　十四行　八丁　外題左肩書名同、「清野文庫（紙票）」

（「常陸國鹿嶋郡正等寺所藏驛路鈴圖」の條に朱書「忠憲案鈴一説ニ經三寸五分厚一寸三分／中ノ穴一寸下略」の書入あり　原に「音にのミ傳へきくなるはゆまちの／すゝのふること猶たつねはや／天明四年甲辰二月八日　伊勢平藏貞丈書」と奥書あるものの寫　六七七―イ）

美　術

美術品目録及圖録

正倉院御物目録 明治十五年改　寫　九冊

黒川真頼著　自筆　袋綴　改装後補濾引表紙　原装白紙表紙　二四・五糎一七・五糎　四周單邊一八糎一二・五糎　九行青罫紙等　原外題左肩（第一至五冊）「明治十五季十月改　正倉院御物目録　壹（一五）」（第六冊）「正倉院御物番外目録　六」（第七冊）「明治十五季十月改　正倉院辛櫃合併目録」（第八冊）「明治十五季十月改　正倉院御物陳列目録」（第九冊）中央「正倉院宝庫御物目録」

（第一至八冊表紙右下に「御用掛黒川真頼」と自署　第一冊至第六冊外題右に所収櫃番號を記す　第一冊「壹」字の右に「共六冊」、第八冊右下「共九冊外二冊」と朱筆あるも現存九冊のみ、第九冊外題右肩朱書「原稿」とあり　左に「但部類概ネ改メ□ノミニテ一器一ノ物ノ品名等誤解スルモノハ尚正ノ定ヲ希望ス／岸」とあり　七九―三）　一六六六

續流觀百圖卷之五　寫　一冊

大田南畝著　自筆　袋綴　改装後補丹表紙　用紙裏打　二六・五糎一九・五糎　原寸二五糎一六・五糎　十一丁「南畝文庫」「若樹文庫」「高嶋藏書」「清野文庫（紙票）」

（内題の下に「南畝子輯」とあり「雲州日御崎什寶鎮西八郎矢鏃　享和壬戌□月廿六日於大澤侍從亭一見」等所々一覽の古物圖を集む　七九―七）　一六六七

彫　刻

家之無類作集　寫　二冊

大嶋以貞傳　自筆　綴葉装　毘沙門格子地金泥下畫紺行成表紙　用紙鳥の子　二〇・五糎一六・五糎　九行　題簽左肩金泥下畫無記

奥書　（第一冊）右一巻後藤家爲一流之秘／事然後藤光信早被爲傳授／早今貴殿依御執心懇令／相傳加奥書進之候努ゝ／不可外見者也／大嶋無庵／以貞（花押）（印）／寛永八年霜月吉日／桑原角右衛門尉殿　（第二冊）右秘哥任御執心懇記進之候／聊外見有間鋪者也／寛永九／五月吉日／大嶋無庵／以貞（花押）（印）／桑原角右衛門尉殿　（七五―イ）　一六六八

家之無類作集　寫　一冊

伊藤権左門尉重信傳　自筆　綴葉装　共表紙　一八・五糎二三・五糎　用紙鳥の子　十四行　九丁

奥書　右一巻一流之秘／傳別而雖爲秘書／仍被抽精根不殘／書記令相傳早／聊他見他言有間／敷者也／元和八年／九月吉日／後藤吉右門尉／松村市左衛門尉／伊藤権左門尉重信（花押）（印）／西田七兵衛尉殿　（表紙左肩に「坤巻」とあり　七五―五）　一六六九

後藤家彫物代ゝ見分之妛　寫　一冊

後藤喜右衛門尉光信傳　自筆　自序　綴葉装　紺表紙　用紙鳥の子　一八・五糎二五糎　十二行　二十五丁　題簽左肩丹紙「彫刻秘傳書」

奥書　右之一冊後後藤家代ゝ／的ゝ雖不漏他種ゝ／依御懇望令相傳／早相守法度之旨／少も不可有他見／他言者也弥可信可／仰可秘可慎ゝゝ／元和六年／正月吉辰／後藤喜右衛門尉光信（花押）（印）／工藤勝九郎殿／參　（七五―ニ）　一六七〇

○

公私古印譜初集　寫　一帖

藤原貞幹著　自筆　安永二年歳在癸巳八月端午自序　折本　薄茶色布表紙　二六糎一四・五糎　二十三折　各頁朱印一顆を捺す　題簽中央書名同、「宇米曽乃」「清野文庫（紙票）」　一六七一

（七二七—イ九）

皇朝古印譜　寫　一冊　一六七三

穂井田忠友著　自筆　袋綴　薄茶色表紙　二五・五糎一七・五糎　四周雙邊二一・五糎一四・五糎　青罫上下二段　十丁　外題左肩「（書名同）單」　内題なし、「三多」「聽濤館藏書畫金石記」「清野文庫（紙票）」

奥書　（表見返）東大寺正倉院古文書所踏印章ノ寫得五十五枚之中

識語　（帙裏貼紙ペン書）（清野謙次筆）前略有名な埋麝發香と比べるに及んで皇朝古印ノ譜は發香の著者穂井田忠友の自筆本ノであるのが分つた。両者の用紙体裁同じく書ノ跡書体も同じ。下略昭和廿八年夏

（七二七—イ七）

高芙蓉篆印譜　寫　二冊　一六七三

高芙蓉作　袋綴　網代文代赭色臘箋表紙　二三糎一三・五糎　題簽左肩書名同

（上冊は捺印せる紙片を貼交、下冊は直に捺印　七二七—イ一七）

集古印譜　寫　二冊　一六七四

袋綴　緑雲引檀紙表紙　用紙薄樣　間紙を挟む　二三糎一七糎　外題左肩「（書名同）　上（下）」内題なし、「阿波國文庫」「清野文庫（紙票）」

（各頁日本古印一顆を朱字模寫して略注を附す　七二七—イ三）

集古印譜　寫　二冊　一六七五

袋綴　緑雲引檀紙表紙　用紙薄樣　間紙を挟む　二六糎一八糎　外題左肩「（書名同）　乾（坤）」、「阿波國文庫」「清野文庫（紙票）」

（各頁毎に中國朝鮮等外國古印一顆を朱字模寫して略注を附す　七二七—イ一五）

中川德基來翰集　寫　七冊　一六七六

各自筆　袋綴　改裝後補茶色表紙　二四糎一七糎　用紙各種書翰箋

（第一至五冊三村清三郎筆、第六冊山中笑筆、第七冊山口福太郎筆　七二七—イ一）

判鑒　寫　三帖　一六七七

折本　砥粉色表紙　二九・五糎二〇・五糎　紺厚手臺紙裏表に一頁約九個の花押原物切抜を貼交　各花押右邊に押紙して略注す　題簽中央（第一帖）「元祿九年四月一日判鑑萬石以上」（第二帖）「元祿九年四月一日判鑑壹萬石以下御役人中壹萬俵以上前鑑押餘」（第三帖）「判鑒　自元祿十年仲夏　至千秋万歳」

（戰國時代末期至江戸時代元祿期の家別武家花押集　七二七—イ三）

歷代外印鑄造私考　寫　一冊　一六七八

藤原貞幹著　自筆　袋綴　澁刷毛目表紙　用紙薄樣　二六・五糎一九糎　十一行七丁　外題左肩書名同、「清野文庫（紙票）」

奥書　寛政六年歳次甲寅六月　左京藤原貞幹

（七二七—イ五）

○

群礦一塊　寫　二冊　一六七九

我樂多堂主人（成島柳北）編　袋綴　古裂表紙　八・五糎一九糎　題簽左肩絹地「（書名同）乾（坤）」、「華外」「清野文庫（紙票）」

識語　（巻末附箋）三村清三郎著「本の話」に記ノしてある如く群礦一塊は極めて稀書である／成島柳北の遺著で表紙の／題簽の書名四字は當時古ノ錢家として、又能書家とし／て名高かつた寶丹の自筆／揮毫である　昭和十九年十月／十六日　清野謙次

（各葉表に西洋古錢拓二個を貼附　七八—イ一）

古泉摹狀　寫　一冊　一六八〇

袋綴　改裝後補薄絹表紙　原裝共表紙　三三糎二四糎　二十四丁　原外題左肩「（書名同）起文政己丑」、「清野文庫（紙票）」

識語　横山由清先生旧蔵
（古銭拓摺貼交　所々「求古樓カ」「愛鷁君カ」等原銭所在を注記す　七八―イ三）

新撰銭譜　寫　四巻　三冊　一六八一

朽木昌綱（龍橋）著　天明元辛丑年春三月中元日北村繼元長理序　天明元年辛丑春三月自跋　袋綴　改装後補薄縹色表紙　用紙裏打　二七・五糎一九・五糎　題簽左肩「（書名同）一（二・三四）」、「清野文庫（紙票）」
（原拓貼込　七八―イ五）

繪　畫

岩木繪つくし　二巻　合一冊　一六八二

菱川師宣畫　序　袋綴　改装後補薄茶色檀紙表紙　用紙裏打　二六糎一八糎　四周單邊二二・五糎一六糎　上文（四糎）下圖（一八糎）　二十一丁　題簽左肩後補「菱川筆　天和三癸亥年梓」　柱刻「岩木盡（岩木下）」、「美織屋文庫（緑印）」「家三緑山東書會待賈堂（緑印）」「花岡」「兎角菴」
刊語　此一通序に顯露せし畫師□つくし／おかれたるによつて眠覺のなくさミにと首書／をして出すのミ／天和三癸年七月吉日／武州江城之下久大和繪師／菱川吉兵衛師宣
刊記　大傳馬參町目／鱗形屋開板
（七二―イ三五）

奥村政信遊女の像　一帖　一六八三

奥村政信畫　旋風葉装　改装後補薄卵色雲母引表紙　用紙裏打　二七・五糎一九糎　十折　題簽後補中央馬琴筆「（書名同）　文化丙寅季秋表装修覆」、「曲亭文庫」「著作堂圖書記」「兎角菴」
刊記　和畫工奥村源八／政信圖（刻印）／正徳元歳／辛卯八月吉辰／横山同朋町　竹田長右衛門板
識語　辰七月十九日買申候

（馬琴筆朱書）著作堂云この書／一本ニ元禄十四歳／辛巳云ことあり再刷／のとき書肆その年号／支干をあらかえたる也
（裏表紙）（馬琴筆墨書）此書は元禄十四年の開板なるを正徳／元年の春再刷するの日もとの年号を削／りて云云とほりあらためたる也予が妹夫／田口氏のもてりしには元禄十四年春／三月吉日とありこれそのあかしなり／かゝれは画中なる高尾薄雲等は是／元禄中の妓なり尤珍重すべし／飯岱子書
（表紙右肩小津桂窓筆朱書「ヌ」　七二―イ三）

花鳥争奇　寫　一帖　一六八四

山本渓山畫　亡羊序　山本錫夫（榕室）跋　折本　鶯色織文表紙　三一糎四三糎本紙二八糎四〇糎　金砂子地に各畫臺貼　五十面　外題中央書名同
奥書　右花鳥圖五十張／嘉永甲寅八月装／渓山山本章夫（印）
（別に小津宛錫夫書翰二通・同須山三益　他五名　連記宛一通・小津与右衛門宛山本況三郎書翰五通、計八通を添附す　七二―イ三七）

きおひさくら　一帖　一六八五

奥村政信畫　旋風葉装　改装後補薄青表紙　用紙裏打　二六糎一八・五糎　九折　題簽中央瀧澤馬琴筆「（書名同）　全」　内題なし、「曲亭文庫」「馬琴」「著作堂圖書記」「兎角菴」
刊記　東武大和畫工　奥村政信圖（印）
（表紙右肩小津桂窓筆朱書「ヌ」　七二―イ三五）

小袖のすがたみ　一冊　一六八六

［菱川師宣］畫　自序　袋綴　毘沙門格子地巻龍模様薄青表紙　二二・五糎一六糎　四周單邊一七・五糎一二糎　十三丁　序題書名同　内題なし　柱刻「小袖姿（丁數）」、「兎角菴」
（表紙右肩小津桂窓筆朱書「ヌ」　七二―イ三）

團扇畫様集　一冊　一六八七

菱川師宣畫　序　袋綴　改装後補紙紛色表紙　二七糎一八・五糎　四周單邊二二

糎一六・五糎　上文(四糎)下圖(一七・五糎)　二十一丁　題簽中央雙邊「新板團扇畫様集(さうしう)　全」　序題「團扇繪づくし」　内題なし　柱刻「扇繪(丁數)」、「兎角菴」
刊語　右此團扇繪本つくしは世間に無類繪にして／殊ニ工夫をはけまし給へハ此繪に首書して一冊／にし令板行者也／天和二二年子正月吉日／大和繪師菱川師宣筆／
刊記　大傳馬三町目鱗形屋開板
(表紙右肩小津桂窓筆朱書「ヌ」　七三―イ七)

月次のあそび　一冊　一六八

菱川師宣畫　序　袋綴　改裝後補青表紙　用紙裏打　二六糎一八糎　四周單邊二二糎一六・五糎　上文(五糎)下圖(一六・五糎)　二十丁　内題なし　柱刻「月(丁數)」、「兎角菴」
刊記　元禄四年未五月吉日／日本繪師菱河吉兵衛師宣／大傳馬町三町目　鱗形屋開板
(七三―イ四一)

當風花のおもかけ　二卷　合一冊　一六九

菱川師宣畫　序　袋綴　砥粉色表紙　用紙裏打　二七糎一八糎　四周單邊二二・五糎一六糎　上文(四糎)下圖(一八糎)　題簽中央雙邊「(書名同)　上」　内題なし　柱刻「上(下)(丁數)」、「兎角菴」
刊記　松會開刊
(下卷第三丁裏畫中「萬水上帳」に「延宝九年／正月吉日」と刻す　表紙右肩小津桂窓筆朱書「ヌ」　七三―イ一九)

女歌仙新抄　一冊　一七〇

菱川師宣畫　袋綴　薄茶色表紙　二七糎一九糎　四周雙邊二二糎一五・五糎　上圖(八・五糎)　下圖(一三糎)(下圖右に注文)　十七丁　題簽中央雙邊「(書名同)全」　柱刻「(丁數)」、「兎角菴」
(裏見返に「天和二壬戌歳正月吉日　山形屋」とある刊記斷片を貼る　七三―イ四三)

人間不礼考　一冊　一七一

菱川師宣畫　序　袋綴　濃紺表紙　二六糎一八・五糎　四周單邊二一・五糎一六・五糎　上文(四・五糎)下圖(一七糎)　二十一丁　題簽左肩後補墨「菱川不礼かう」　序題書名同　柱刻「(丁數)」、「花岡」「兎角菴」
刊語　此繪圖いやしきかたちを所ゝに風流／なる筆を書加へ一冊の草紙となし／ぬあり予か家業なれハ是をもとめて／令板行者也／大和繪師／菱川吉兵衛畫之／延寶八年／庚申孟春吉辰日
刊記　笹屋与市開板
(七三―イ二七)

美人繪盡　一冊　一七二

菱川師宣畫　序　袋綴　改裝後補丹表紙　用紙裏打　二四・五糎一八糎　四周單邊二二・五糎一六・五糎　上圖(五糎)下文(一七糎)　四十丁　題簽後補左肩墨「美人繪盡　全」　原題簽雙邊「新板美人繪つ□□」を見返に貼附　序題「美人繪づくし」　柱刻「美人盡(丁數)(十四丁表まで柱刻なし)」、「黒川眞道藏書」
刊語　右此美人繪本つくし菱川氏之繪師書れ／たるを取集三冊にして比は弥生中旬／さくらの木にちりはめ令板行者也／大繪師菱川吉兵衛筆／天和三年癸亥五月吉日／
刊記　江戸大傳馬三丁目鱗形屋板行
識語　これの美人繪盡は淺草廣小路淺倉屋にて落丁本を／購求せしか後に他よりまた欠本を得て是彼あはせて／全本となしぬこのうれしさハ知る人そ知らんかし／大正三年五月　黒川真道識
(十四丁以上、同裏以下の取合せ本　七三―イ二九)

文珠像　寫　一軸　一六九三

掛軸　金襴表裝　三〇糎七四・五糎　墨畫
箱書　文珠繪兆殿司筆
(七三―イ四九)

大和繪つくし　一冊　一六九四

菱川師宣畫　津の國それすいたの住闇斗序　袋綴　改裝後補草花模様揉紙表紙　二七糎一九糎　四周單邊二三・五糎一六・五糎　上文(五糎)下圖(一八・五糎)　二

十一丁　題簽左肩後補書名同　序題書名同　内題なし　柱刻「(丁數)」、「兎角菴」判語　此大和繪木つくし房州菱川吉兵衛尉筆跡也／心のまゝにさま〴〵とりあつめられたるもとめて／それに所〴〵ことハりを首書して嬰兒の御な／くさみにもと令板行者也／大和繪師菱川吉兵衛尉／延宝八庚申年五月上旬／板本所／大傳馬三町目鱗形屋三左衛門

（三二―一三三）

雪見婦女群遊圖卷　寫　一軸　一六九五

細田榮之畫　卷子本　唐草模様黄綾表紙　見返金砂子散　三四糎二米一〇糎　原物絹本三一・五糎一米五一糎　題簽左肩後補「榮之雪見婦女群遊圖卷」、「西莊文庫」

奥書　文化八未年初秋／鳥文齋榮之筆（印）

（着彩　三二―一四七）

浴恩園画記　寫　十八軸　一冊　（一六九六―一七〇八）

松平定信編　卷子本

（三二―一五二）　所収細目次の如し

*浴恩園圖記（第一軸）　1　一六九六

廣瀬蒙齋著　谷文晁畫　關克明筆　一橋齋敦題　寛政六年二月柴野邦彦跋　薄黄色級子表紙　見返黄紙　四四・五糎八米四〇糎　原畫一六・五糎三二糎　絹本着彩

十七圖を上下二段に臺貼

*浴恩園眞景（第二・三軸）　2　一六九七

星野文良畫　鶯茶色地菊花文絹表紙　見返銀切箔散　四二糎　絹本臺貼　着彩

（上卷）九圖（下卷）十圖　題簽松平定信筆「(書名同)上(下)」　同畫中書入

*浴恩園假名之記（第四軸）　3　一六九八

松平定信著　自筆　櫻花模様茶色絹表紙　見返丹紙銀切箔散　用紙色替　裏打三〇・五糎八米八一糎　題簽書名同

*浴恩園亭榭之御題詠（第五軸）　4　一六九九

松平定信詠　自筆　碁盤目文茶色絹表紙　見返金銀切箔散　用紙色替　裏打　三一糎一〇米八二糎　題簽書名同　巻初「浴恩園の亭榭の／名によつてよめる和哥／風月」

奥書　文政癸未の春／風月老人書

*浴恩園序並詩歌（第六軸）　5　一七〇〇

堀田正敦序　茶色絹表紙　見返金砂子散　四〇糎一〇米八二糎　題簽松平定信筆書名同

（松浦静山和歌短冊四十枚、鍋島直與和歌短冊五十枚、尾藤肇「寄題／浴恩園小詩一紙十二首」を所収）

*浴恩園扁額帖（第七軸）　6　一七〇一

松竹梅金襴繻表紙　四四・五糎一〇米五〇糎　題簽臘箋松平定信筆書名同

（拓本十六點を臺貼）

*浴恩園中詩歌碑（第八・九軸）　7(1)　2)　一七〇二

田内親輔跋　濃納戸色絹表紙　見返金銀切箔散　四八糎　題簽「園中詩哥碑　乾（坤）」　碑名松平定信筆

（北村季文和歌短冊五十一枚、古賀精里以下五十三家題詩短冊を臺貼す）

*梅津のなみ（第十・十一軸）　8　一七〇三

茶色絹表紙　見返銀切箔散　用紙裏打　三〇・五糎　題簽松平定信筆「(書名同)一(二)」

（着彩梅花圖譜）

＊三千とせ（第十二軸）　一七四

茶色絹表紙　見返銀切箔散　用紙裏打　三〇・五糎　題簽松平定信筆書名同

（着彩桃花圖譜）

＊はなのかゝみ（第十三・十四軸）　一七五

文政五のとしやよひ廿九日自跋　茶色絹表紙　見返銀切箔散　用紙裏打　三〇・六糎　題簽松平定信筆書名同

（着彩櫻花圖譜）

＊清香畫譜（第十五軸）　一七六

卷龍文茶色絹表紙　用紙裏打　三〇・五糎一六米八糎　題簽松平定信筆「衆芳園草木画譜」

＊衆芳園草木畫譜（第十六至十八軸）　一七七

卷龍文茶色絹表紙　見返銀切箔散等　用紙裏打　三〇・五糎

（着彩草木圖譜）

＊浴恩園勝地名題詩歌　一冊　一七八

袋假綴　共表紙　二八糎二〇糎　四周單邊十行柱刻「集古堂」罫紙　十六丁、外題左肩書名同「桑名文庫」「順正舘」

和國諸職ゑほんかゝみ　三冊　一七九

菱川師宣畫　序　袋綴　砥粉色表紙　用紙裏打　二六・五糎一八・五糎　四周單邊二二糎一六糎　上文雙邊（四・五糎）下圖（一七・五糎）　題簽左肩雙邊「菱川諸織ゑほんかゝみ　中（下）」（上冊後補墨）　序題「和國諸職繪つくし并哥合」　柱刻「しよく人上（一下）（丁數）」、「臙庫」「花岡」「兎角菴」

刊語　右此諸職繪つくしハ菱河氏師宣といへる／やまと繪師之取集書たりしを三帖にし／令板行者也／二月吉日／繪師菱河師宣（印）

（七三―一三九）

○

古今文様類集　寫　二冊　一八〇

碓井小三郎著　自筆　綴葉裝　共表紙　三三・五糎二三・五糎　題簽絹中央「古今摸様類集　一（二）」内題なし、「清野文庫（紙票）」

奥書　（第一冊表見返）自明治二十年十月／至明治二十七年八月　蒐集

（七三七―一一）

書　道

古文後集諸體附唐詩選　寫　六冊　一八一

亀田窮樂齋筆　自跋　袋綴　茶色表紙（第六冊「唐詩選」鼠色表紙）　二九・五糎二一糎　三（又は四）行　題簽中央臙脂「古文後集諸體」内題なし

奥書　右古文後集／諸體今般因／南都村田氏／正信之需而／不獲辭漫書／實可貽後來／誚焉維岩／寶歷三癸酉／年九月吉辰／無悶子曳尾／七十四翁採／毫於雒西／近野窮樂齋／（印）

（七八―一二）

入木筆家相傳　寫　一冊　一八二

藤原定成著　三條西公條筆　綴葉裝　共表紙　用紙斐紙　一六・五糎一七糎　十行小雙行　十丁　外題中央「陸拾余箇法」

奥書　右奥書自筆本宗牧持來之卒馳筆了本卷本也／天文元年十月十六日　都督（花押）

（原に「正應二年十二月日／正四位行藤原朝臣定成／自養祖大納言家至亡父三品累／葉入木之源底最要至極之／篇目也一ミ口傳態不記之」と奥書あるものの寫

内題の次行に「正四位行前左馬頭定成」とあり　七三八―ィ三）

文房具

程氏墨苑　十二卷附録九卷　二十四冊　一七三

程太約（明）編　丁雲鵬（明）等畫　黃鐫（明）等刻　葉向高序　萬曆申辰菊月自序　萬曆甲午午日自序　唐袋綴　白茶色表紙　二七糎一七糎　四周單邊二四糎一四糎　柱刻「墨苑玄工（―輿圖　人官等）（卷數）（丁數）滋蘭堂」

（明版　各卷初目録には十四卷に分けれど、柱刻は六卷を上下に分つ　卷十三・十四は各門の補遺なり　附録九卷は序・題詞等なり　七三九―ィ五）

程氏墨苑　十二卷　十六冊　一七四

程太約（明）編　丁雲鵬（明）等畫　黃鐫（明）等刻　唐袋綴　白茶色表紙　用紙白綿紙　間紙を挾む　三〇糎一六・五糎　四周單邊二四糎一四糎　柱刻「墨苑玄工（―輿圖　人官等）（卷數）（丁數）滋蘭堂」「梁志之印」「愚齋圖書館藏」等

（明版　各卷初目録には十四卷に分けれど、柱刻は六卷を各上下に分つ　卷十三・十四は各門の補遺なり　七三九―ィ七）

〔文房集寶〕　寫一冊　一七五

冷泉爲恭著　自筆　袋假綴　共表紙　三一・五糎二二・五糎の臺紙に筆硯等の見取圖を貼交　二十丁　題簽左肩「文房之部」　中央金紙富岡鐵齋筆「冷泉爲恭遺墨」、「菅」「富岡氏藏書記」「鉄齋（紙票）」

識語　（表見返）（富岡鐵齋筆）此一卷冷泉爲恭／所臨摹也（印）

（帙外題鐵齋筆「冷泉爲恭摹寫古物類」とあり　七二九―ィ三）

版畫・印刷

諸國板行帖　寫一帖　一七六

折本　縹色表紙　二八・五糎一九・五糎　三十八折　題簽中央書名同　左肩に貼紙して「蒹葭堂所藏」、「蒹葭堂印」「清野文庫（紙票）」

識語　（見返）（伊藤圭介筆）諸國板行帖　浪華蒹葭堂／木村氏ノ輯メタルモノ／ニシテ諸國ノ食物／藥品等ノ張紙／能書其他雜紙／一切ヲ貼シタル一奇帳下略

箱書　（裏）安政三年辰三月／西游之時浪華書／林ニ而所購／錦窠

（七三―ィ一）

○

〔乾隆帝征苗戰圖〕　一軸　一七七

唐卷子本　改裝後補網模様緑綾表紙　見返薄水色絹地　用紙裏打　五一糎二一米一五糎　題簽金紙「□征苗詩畫圖□」各圖上端に乾隆帝御製詩を題す

（銅版畫　七三一―ィ七）所収次の如し

一　貴州松桃廳逆苗石柳鄧勾結湖南永綏廳逆苗石三保聚衆焚掠客民延及四川秀山縣界命福康安等統兵進剿詩以詩事　乾隆乙卯仲春御筆（刻印）

二　和琳奏報剿捕秀山苗匪至湖南界分設卡隘肅清後路剋期會福康安進討詩以誌事二十韻　乾隆乙卯仲春上澣御筆（刻印）

三　福康安和琳奏大剿土空寨苗匪解永綏城圍詩以誌事　乾隆乙卯季春下澣御筆（刻印）

四　福康安奏大剿逆苗攻解松桃之圍詩成二十韻誌喜　乾隆乙卯閏春月御筆（刻印）

五　福康安和琳奏執攻克闌草坪滾牛坡勦戮苗衆將近賊巢穴詩以詩事　乾隆乙卯孟夏御筆（刻印）

六　福康安和琳奏攻克黃瓜寨賊巢詩以誌事　乾隆乙卯孟夏御筆（刻印）

七　福康安和琳奏攻克蘇麻寨一帶賊巢詩以詩事　乾隆乙卯仲夏上澣御筆（刻印）

八　福康安和琳等奏攻得茶它柳夯等處賊巢降苗愈衆進圍鴉保廓家隴平賊穴生擒賊首吳半生等大功近成得詩二律一韻　乾隆乙卯九秋月御筆（刻印）

九　福康安和琳奏攻克高多寨生擒逆首吳半生大功告成詩以誌喜　乾隆乙卯孟冬上澣御筆（刻印）

十　署將軍明亮等奏官兵攻克平隴賊巢詩以誌慰　乾隆丙辰孟冬下澣御筆（刻印）

十一　捷來　乾隆丙辰仲冬御筆（刻印）

3段番号入れ替えているらしい。要注意

十二　明亮等奏報攻克石隆苗寨陣斬石柳鄧大功告成詩以誌喜　乾隆丙辰嘉平月之中澣御筆（刻印）

十三　雲貴總督勒保奏報剿補狆苗南籠圖解詩以誌事三十六韻　乾隆丁巳閏夏御筆（刻印）

十四　雲貴總督勒保奏報攻克北鄉巴林賊巢擒獲首逆王抱羊苗疆底定詩以誌喜　乾隆丁巳季秋御筆（刻印）

十五　雲貴總督勒保奏報攻克洞洒當丈賊巢首逆七綷鬚王簑仙就擒詩以誌喜　乾隆丁巳九秋御筆（刻印）

十六　雲貴總督鄂輝奏報剿淨狆苗餘黨全黔底定詩以誌慰　乾隆戊午新正御筆（刻印）

十七　攻克廖家冲生擒首逆石三保　乾隆戊午孟秋御筆（刻印）

十八　攻克強虎哨　乾隆戊午孟秋月御筆（刻印）

十九　攻克擦木山　乾隆戊午孟秋之月御筆（刻印）

二十　収復乾州　乾隆戊午孟秋御筆（刻印）

準回兩部平定得勝圖　一帖　一七八

Cochin, C. N. 監修　乾隆丙戌孟春月御題　唐折本　改裝後補板表紙　五一糎四四糎　原畫四周裁斷　十五折　内題なし　各圖上端に乾隆帝御製詩を題す、「乾隆御覽之寶」

（銅版畫　七三―ィ五）　所収次の如し

一　平定伊犁受降　乙亥仲夏月作御筆　Sickelparth. I. 一七六五年畫　Prévost, B. L. 一七□□年刻

二　格登鄂拉斫營　乙亥季夏月上澣作御筆　Castiglione, G. 一七六五年畫　Le Bas. J. P. □刻

三　和落賓噺之捷　戊寅新秋月作御筆　Attiret, J. D. 一七六六年畫　Le Bas, J.P. 一七七四年刻

四　鄂壘札拉圖之戰　丙戌新春補詠御筆　Le Bas, J. P. 一□□年刻

五　庫隴癸之戰　丙戌孟春上澣補詠御筆　Damascenus, J. 畫　Aliamet, J. 刻

六　烏什酋長獻城降　戊寅九秋月作御筆　Damascenus, J. 畫　Choffard P. P. 刻

七　黑水圍解　己卯孟夏作御筆　Castiglione, G. 一七六五年畫　Le Bas, J. P. 刻

八　呼爾滿大捷　己卯仲春日作御筆　Damascenus, J. 一七六五年畫　Saint-Aubin, A. de 刻

九　通古思魯克之戰　丙戌孟春補詠御筆　〔Saint-Aubin, A. de〕畫

十　霍斯庫魯克之戰　丙戌新正補詠御筆　Prévost, B. L. 一七七四年刻

十一　阿爾楚爾之戰　丙戌孟春上澣補詠御筆　□畫

十二　拔達山汗納款　己卯長至作御筆　Damascenus, J. 畫

十三　平定回部獻俘　庚辰孟春上澣作御筆　〔Attiret, J. D.〕畫　〔Masquelier, L. J.〕刻

十四　伊西洱庫爾淖爾之戰　丙戌孟春上澣補詠御筆　Damascenus, J. 畫　Launay, N. de 刻

東海道五十三次　十四枚　一七九

安田雷州畫　本紙約一八糎一六糎　後補臺貼三三糎一九糎　一紙四景　十四枚

（銅版畫　鳴海の條に「東海道五十三次江戸らゐしうせいす／天保十五甲辰七月廿八日」とあり　小虫メガネ及び別に司馬江漢畫九・五糎六糎筆彩刷銅版畫一枚を附す　七三―ィ五）

熱河十六景全圖　一帖　一八〇

唐折本　板表紙　三二・五糎三五糎　四周單邊二七糎三〇糎　十三圖　十八折見開に一頁分一圖を収む　題簽中央内藤湖南筆「（書名同）甲申重裝／煥卿所題」、「畫禪室（燒印）」

識語（表紙貼附）（富岡鐵齋筆）清國乾隆年／始創製銅板／今不多傳是可／爲參考／鐵道人記

（銅版畫　各圖右肩に黄紙押紙して「長虹飲練」以下畫題を墨書す　七三―ィ九）

〔平定回疆得勝圖〕　七枚　一八一

雲龍文黄綾地臺紙　五六糎九三糎　各圖上端に道光帝御製詩（各々「己丑新正御筆（印）」とあり）を題す

（銅版畫　七三―ィ一）　所収次の如し

一　渾巴什河之戰

二　渾巴什河之戰
三　洋阿爾巴特之戰
四　沙布都爾莊之戰
五　阿瓦巴特莊之戰
六　揚威將軍長齡參贊大臣楊遇春武隆阿奏報大兵克復喀什噶爾搜捕逆酋詩以誌事
七　揚威將軍長齡參贊大臣楊遇春武隆阿奏報分遣提臣楊芳等帶兵収復和闐生捡賊目噶爾勒詩以誌事

〔平定回疆得勝圖〕　一軸　一七三

唐卷子本　雲龍文黃綾表紙　見返同上　六三糎一七米六〇糎　各圖原寸五七糎九四糎　題字後筆「平定回疆銅版戰圖」　各圖上端に道光帝御製詩(各々「己丑新正御筆(印)」とあり)を題す
(銅版畫　各圖後に別紙を附し「按圖節録事實以備攷證」として恩特亨額による戰況の説明文あり　七三―一三)
所収次の如し
一　渾巴什河之戰
二　柯爾坪之戰
三　洋阿爾巴特之戰
四　沙布都爾莊之戰
五　阿瓦巴特莊之戰
六　揚威將軍長齡參贊大臣楊遇春武隆阿奏報大兵克復喀什噶爾搜捕逆酋詩以誌事
七　揚威將軍長齡參贊大臣楊遇春武隆阿奏報分遣提臣楊芳等帶兵収復和闐生捡賊目噶爾勒詩以誌事
八　正月二十二日酉刻揚威將軍長齡參贊大臣楊芳由八百里加緊馳奏紅旗報捷於卡外喀爾鐵蓋山督率大兵生捡首逆張格爾邊徼肅清大功告蔵用成七言六韻以誌欣慶
九　揚威將軍大學士威勇公長齡參贊大臣果勇侯楊芳遣派將士等檻送首逆張格爾生致闕下于五月十二日御午門受俘禮成用誌七言十二韻
十　八月初七日凱宴成功諸將士于正大光明殿即席喜成

工藝美術

為井童草　二冊　二巻　一七三

井上茶全堂新七著　自序　寶永貳年乙酉正月吉日自跋　袋綴　改裝後補黒表紙　一糎一六糎　四周單邊九糎一四糎　十七行　挿畫入　目録題「雛形為井登草」　柱刻「ひいなかた上(下)(丁數)」
刊記　寺町通丸太町角萬や次良右衛門／寺町二条上ル丁万木治兵衛
(七五二―イ)

○

銀箔方秘書　寫　四冊　(一七四―一七六)

箱書　(表)銀箔方／秘書　(蓋裏)嘉永元申歳十月調之／銀箔方差配人／山田源兵衛房明、「清野文庫(紙票)」
(七五六―イ)　所収細目次の如し

*〔金銀箔由來〕　(第一冊)　一七四

文化五辰年四月序　袋綴　亀甲浮出文青表紙　二八糎一九・五糎　七行　内題なし

*〔金銀箔細工方〕　(第二・三冊)　一七五

折本　薄鼠色布目表紙　三〇糎二二・五糎　題簽中央「銀上澄　銀箔」「金箔／直シ箔／真鍮箔／泥類／錫かながい」
(處々に實箔貼附)

*〔金銀箔御觸寫〕　(第四冊)　一七六

折畳　用紙裏打　四五糎二米二三糎　端書「御觸寫」末に「末十一月廿六日」とあり

音樂

裔琴圖式　寫　一冊　一七七

澁江長伯著　自筆　文化丁卯花朝東岳司直後序　袋綴　雲紙表紙　二五・五糎一八糎　四周單邊二〇糎一三・五糎　八行十六字小雙行　十六丁　挿畫十一頁分外題中央單邊圓廓内に書名同　見返書名同「宗戸昌藏書記」等（内題の次行に「西園　喬江虬潛夫」とあり　七六一ノ五）

音樂根源鈔　寫　一軸　一七八

明忍房鈗阿筆　卷子本　改裝後補扇丸織文茶色表紙　見返金泥下畫　用紙鳥の子裏打　二九・五糎八米八四糎　天地單邊二六糎　一紙四四糎　有界十六行小雙行題簽後補書名同（金澤文庫本　末行中曲「採桑老・感秋樂・承秋樂・鷄鳴樂・桃李花」までを存して以下闕　七六一ノ四二）（重美）

樂所系圖　寫　一軸　一七九

三條西實隆筆　卷子本　改裝後補麻葉模様茶褐色表紙　二九糎一〇米二七糎　一紙四三糎　題簽後補雲紙書名同（紙背に壽鑒端拱・正安和南・周觀・聖諺・景霖・令偉・德久・堅諄詩稿及永正二年一月至十一月假名具注曆あり　箱に「實隆公筆」と附箋す　七六一ノ四九）

神樂歌　寫　一軸　一八〇

八俣部重種著　卷子本　改裝後補澁刷毛目表紙　用紙裏打　二八・五糎六米七五糎　一紙四八・五糎　天地單邊二二・五糎　十九行　外題安倍季良筆「極秘神樂歌重種注進」　卷首別紙別筆「重種神樂口御門大納言」　内題「神樂」　識語（見返）此神樂左近衛將曹八俣部重種注進云云／爲古物之間加修理了可爲當家之／重寶努々可禁他見于時天保八年／林鐘下旬　雅樂助季良（右同筆朱書）新撰姓氏録云八俣部百濟國人多地多祁郷之後也／體源抄十上神樂道名人從五位下伯耆權助多宿祢公用能長此道／二品式部卿貞保親王作倭琴譜／右近衛權少將良峯朝臣宗貞撰左笛譜／左衛門尉大石宿祢富門撰嘉藥譜／左近衛將曹八俣部宿祢重種能訂已下略之（同右）私云此本元中御門大納言家／所傳欤箱書　重種が注進せる傳本にし而平安朝以前のもの／梁塵抄に引かれたる從來知られざりし／秘本也（鎌倉時代末期寫　昭和五年佐佐木信綱複製本解説—參照　七六一ノ四五）（重美）

管絃音義　寫　一軸　一八一

明忍房鈗阿筆　序　卷子本　改裝後補扇丸織文茶色表紙　見返金泥下畫　用紙鳥の子　前八紙分裏打　二九・五糎一三米三〇糎　天地單邊二六糎　一紙四四糎　十八行小雙行　題簽後補書名同　原紙卷初外題「音義抄　明忍」（金澤文庫本　原に「寫本云　文永三年二月中旬之比於四天王寺書／寫畢穴賢不出箱於底必非于其器／不可相傳矣」と奥書あるものの寫　關靖著「金澤文庫之研究」—參照　七六一ノ四三）（重美）

新撰樂道類集大全　寫　三十卷目録一卷　二十一冊　一八二

太秦昌名著　太秦昌但筆　袋綴　茶色表紙　二六・五糎一八・五糎　十三行　挿畫入　外題左肩「新撰樂道類集　首（一—三十）」、「東儀藏書」奥書　（卷三）　文化五戊辰年五月下旬／正五位下行佐渡守太秦昌但寫之（卷四同上）（原に卷二「享保三季夏輯録早／岡玄蕃助太秦昌名」、卷六「享保三歲次戊戌冬十一月朔旦太秦昌名」、卷七下「享保十九甲寅年十一月八日」、卷十一「享保十四己酉歲仲秋日／太秦宿祢昌名」、卷十四「于時享保三戊戌仲春改記之／正五位下玄蕃助太秦宿祢昌名」、卷十八「享保三戊戌年孟冬日編集畢／太秦昌名」、卷二十二「享保六辛丑葬資上旬太秦昌名」、卷二十三「享保六辛丑年五月日編集終／正五位下岡玄蕃助太秦昌名」、卷二十六「時享保十三戊申歲中夏中旬／從四位下遠江守太秦昌名」、卷二十八「享保十二丁未年夏四月日／岡遠江守太秦昌名記之」と奥書あるものの寫　七六一ノ四七）

體源抄　寫　十三卷　二十一冊　一七三

豊原統秋著　自序　袋綴　毘沙門格子地雲龍文空摺紺表紙　用紙薄樣　二三・五糎一七・五糎　約七行　題簽左肩雲紙「（書名同）目録（巻數）」内題なし、「西莊文庫（小津桂窓筆「花百三十九全廿二」と墨書せる紙箋に捺印）」

（江戸時代末期寫　目録末「永正九年七月四日　豊原朝臣統秋判」、巻九末に「永正八年林鐘三日」、巻十二本の末に「永正第九歴二月廿一日於閑窓書終之可憐之〳〵」、各冊末に「南無妙法蓮華經　豊原朝臣統秋判」とあり　七六一―イ三五）

注大家龍笛要録譜　寫　五帖　一七四

大神景光著　〔自筆〕　折本　金銀雲形文表紙　用紙鳥の子　二〇糎一二糎　有界五行　外題中央後筆（表紙裏）「龍笛譜　盤（高・夏・太・黄・五・壹・沙）」左下に「定盛」　内題書名同又は「注大家龍笛要略譜」

（内題の次行に「大神嫡流景光撰」、或は「從五位上行左近衛將監大神嫡流景光撰」などとあり　「横笛名人太神景光筆／大平（ママ）記時代之人云々」の紙箋を附す　七六一―イ三五）

〔篳篥古樂譜〕　寫　一帖　一七五

折本　金銀箔散表紙　見返同上　用紙鳥の子　一五糎一三糎　五行　六十七折

外題（包紙）「古樂譜」

識語　公運之（花押）

（右に別筆）外木秘藏

（室町時代初期寫　七六一―イ三三）

平家物語章節　前田流　寫　十八卷　三十八冊　一七六

袋綴　薄緑等色替表紙　二三・五糎一七糎　五行　題簽中央色紙「前田流平家間之物（一巻上下―十八巻上下）（各曲名）」　内題巻數のみ、「羽澤文庫」（江戸時代末期寫　内、「平家目録」一冊、「間の物」一冊あり　七六一―イ二七）

夜鶴庭訓抄　寫　一冊　一七七

世尊寺伊行著　綴葉装　色替碁盤目切紙貼附表紙　見返金紙　用紙鳥の子雲紙　一六・五糎一六・五糎　十行　十丁　題簽中央同用紙書名同　内題なし

（室町時代中期寫「後円融院音樂（夜鶴抄おほよそ）外題共」との古筆極札を附す　七六一―イ二九）

乱舞藻志保艸　寫　一冊　一七八

袋綴　薄茶色表紙　間紙を挟む　二七・五糎二〇糎　八十一丁　外題左肩「（書名同）完」、「明時館圖書印」「南畝文庫」「三井家」等

（江戸時代中期寫　七六一―イ三）

律呂集義　寫　八冊　一七九

栗原信充著　自筆　袋假綴　後補共包表紙　用紙各種取交　裏打　二四糎一七糎　四周單邊一八・五糎一四糎（或は無界）　十行二十四字　外題中央書名同（一・三・五闕）　柱刻「律呂集義」「度量衡考補正」等、「木原家藏」「清野文庫（紙票）」

（第一冊「巻第一俗樂考」、第二冊「唐樂」、第三冊「候氣」、第四冊「樂器一」、第五冊「樂器二」、第六冊「樂器三四止」、第七冊「三管相承譜」、第八冊「相承系譜／樂人家格／江戸管絃目録」　第二・六・八冊表紙左肩「栗原信充編纂草稿」とあり　第三冊左下「四」、第五冊同「十七」とあり　貼紙補訂多し　七六一―イ三九）

演劇

西洋定芝居の始　寫　一冊　一八〇

森鷗外著　自筆　袋綴　改装後補茶色表紙　用紙裏打　二七糎一九糎　原寸二五糎一六・五糎　六行　題簽左肩金砂散「（書名同）森鷗外草稿」

（末尾闕　明治三十五年五月「新作文庫」第一號掲載原稿　内題の下に「鷗外漁史談話」と自署　七七〇―イ三）

千歳座劇評　寫　一冊　一七四一

依田學海著　自筆　關根正直加朱筆　袋綴　改裝後補薄茶色表紙　二四糎一六・五糎　十二行　六丁　題簽左肩「（書名同）依田学海草稿」

奥書　（朱）此評は脚本の上に止まりて俳優が伎藝の細ノ評に及ばず誠に惜むべしされは余も生意氣ノなから脚本の範圍を越えさるまでに附箋しノされり願はくは先生今後御觀劇之節はノ伎藝の細評をも添へ給はんことを／關根正直再拜（七七〇―イ一）

○

〔江戸四座役者評判記〕　一冊　闕　一七四二

袋綴　改裝後補紺表紙　一一糎一七・五糎　四周單邊九糎一四・五糎　十四行　五十九丁　挿畫九頁分　題簽左肩後補墨書名同　内題なし　柱刻「江　御（丁數）」、「石井國之」等

識語　巻首二巻尾五丁計七丁闕

（山村座「賊男山八幡太郎初狂言」・森田座「天地人筒守初狂言」・市村座「頼政蓬萊山初狂言」・中村座「女鉢木三鱗初狂言」等の評判記所収　七三―イ三七）

戯場年表　寫　九冊　一七四三

關根只誠著　高野弘子筆　袋綴　丹表紙　二七・五糎一九・五糎　題簽左肩雙邊（刊）墨「（書名同）壹（―九）」　扉題中央高野辰之筆「（書名同）（巻數）」同右肩「關根只誠著」同左下「斑山文庫藏本」、「斑山文庫」

識語　（第一冊扉裏）昭和四年六月東京音樂學校藏本ニヨリテ／女弘子ヲシテ謄寫セシム學校ノ藏ハ關根只／誠筆ノ原本ニ就キテ寫シタルモノナリ惜シイ／カナ其ノ自筆原本大正十二年ノ震災ニ／安田氏ノ許ニ於テ烏有ニ歸セリ上野東／京圖書館ニ藏スルモノハ原本ノ抄録ニ過／ギスシテ他ニハ謄寫シタルモノナシ此ノ全寫亦／以テ貴重ノ冊子トナスベキナリ／斑山文庫主人高野辰之識（朱）六月廿日一校了（七三―イ二）

元禄版役者評判記九種　寫　十五冊　（一七四四―一七五三）

高野辰之筆　袋綴　縹色表紙　用紙薄楮、「斑山文庫」（影寫本　七三―イ七）

所収細目次の如し

*三國舞臺鏡　（第一冊）　一七四四

元禄十一年十一月序　一三糎一九・五糎　四周單邊九・五糎一四・五糎　四十六丁

題簽左肩書名同　柱刻「（丁數）」

識語　（朱）本書は元禄五年板役者大鑑ノ合彩より剽竊せる箇處多し（小寺玉晁在印本による寫　假名附訓は省略　以下同）

*役者口三味線　三巻　（第二至四冊）　一七四五

一三糎一九・五糎　四周單邊九・五糎一四・五糎　題簽左肩「（書名同）京之巻（江戸之巻・大坂之巻）」　扉に原題簽を影寫して「都ハ花の下しぐ見京にいなかあり（わる口云の評判）（武藏野は月のかほ見せあづまにやさ男あり・難波入江のあしぞろへ大坂にしばるすきあり）」柱刻「口三味線（江戸部のみ「江」）（丁數）」

（原に各冊「元禄十二己卯年三月吉日／ふ屋町通せいぐハんじ下ル町八文字屋八左衛門板」と刊記あるものの寫）

*芝居一代男役者万年暦　三巻　（第五至七冊）　一七四六

一三糎一九・五糎　四周單邊一〇糎一五糎　題簽左肩（京の巻）「京の水いさぎよい芝居一代男しつぽりとした女郎事ぬれのさく當世役者」（江戸・大坂巻）「（書名同）江戸巻（大坂巻）」　扉に原題簽を影寫（江戸之巻）「吾妻の旅硯狂言のすき寫はりのつよい女郎事ふり出した丹前男」（大坂之巻）「大坂万年筆評判の心覚いきのよい女郎事誠ある実事仕」　柱刻「京（江戸・大坂）（丁數）」

識語　（京之巻巻首）　これ元禄十三年八文字や板／芝居一代男役者萬年暦三冊／の一京之部也巻首に全國十一／座の役者の總数を示し座分に／して出し物と役人替名を示したる／こと最もうれし（下略）　昭和二年十月廿四日／斑山文庫主人／高野辰之識

（原に京・江戸巻「元禄十三庚辰年三月吉日／ふ屋町通せいぐハんじ下ル町八文字屋八左衛門板（但し江戸巻は同上「新版」）と刊記あるものの寫　京の巻は小寺玉晁在印本による寫）

*武藏野役者談合衢　（第八冊）　一七四七

一九糎一三・五糎　四周單邊一三糎九・五糎　題簽左肩書名同　内題「江戸芝居の風聞（高野のながれハ三國へ通り物仕合ハ一睡の夢助がたのしミ）」　柱刻「江談合（丁數）」

（原に「元禄十三庚辰年三月吉日／二條通寺町西へ入町正本屋九兵衛板」と刊記ある小寺玉晁在印本による寫）

*新板役者三鉄輪　（第九冊）　一七四八

一九糎一三・五糎　四周單邊一三・五糎九・五糎　題簽左肩「役者三鉄輪（元祿十四年板）」　扉に原題簽を影寫して「役者三鉄輪（京都に花をさかす武藏の丶靈の立役者）」　内題「新板役者三鉄輪（元方にむかふてもくろくの筆始ふたゝび春にあふさくらの版木）」　柱刻「京談合（丁數）」

*役者二挺三味線　三巻（第十至十二冊）　一七四九

一三糎一九・五糎　四周單邊九・五糎一五糎　題簽左肩「都ハ花の（移り氣な大臣）（武藏野の月（丸額の衆道好・難波の梅（盛つて出る）孕氣男））」　目録題書名同　柱刻「京二挺（二挺　江・二挺　大）（丁數）」

（原に「元禄十五年午三月吉日／ふ屋町通せいぐハんじ下ル町八文字屋八左衛門板」と刊記あるものの寫）

*〔役者一挺皷〕　闕（第十三冊）　一七五〇

一三糎一九・五糎　四周單邊九・五糎一七糎　題簽左肩「役者一挺皷（京之巻）」　柱刻「京　つゝミ（丁數）」

識語　元禄十五年三月刊／「役者二挺三味線」京之巻／所見の役者目録及び外題と／比勘するに本書は／元禄十五年の刊行／なるべし　祐田誌す

（原に巻初「この書逸名、且つ奥付を缺けとも／序説の終りに一挺皷のどうとも／いはれぬとあれば　役者一挺皷と／推定す　石割松太郎識」と朱書あるものの寫）

*京大坂役者評判色三味線　（第十四冊）　一七五一

一三糎一九・五糎　四周單邊九・五糎一五糎　題簽左肩書名同　柱刻「役者（丁數）」

（原に序文末「元禄十六年／ひつじ／正月吉祥日／寺町通松原上ル町／菊屋七郎兵衛」とある小寺玉晁在印本による寫　第六十丁以下闕）

*〔役者評判記〕　闕（第十五冊）　一七五二

一三糎一九・五糎　四周單邊九糎一四・五糎　題簽左肩「役者評判記（元祿十六年三月刊）」　柱刻「江　御（丁數）」

（原に巻初「文化十年石町書林曦書堂／より求得て仝年夏六月上／浣紙にうらうちといふことして／表裝を更め式亭の文庫に／をさむ」「江戸歌舞妓大芝居／四座ありし時の評判記／元祖市川團十郎才牛の／評あり二代目栢延いまだ九／藏と呼て子役の頃なり（立役）／生島新五郎上上の位付なることを／おもへは此書元禄十四五年の／頃開板なりしものとおぼゆ（式亭印）」、（朱書）「この書元禄十六年三月刊本也／それハ青木平七氏所藏の同じく零本／ながら奥付のあるのを照合して判（ママ）／明せり、逸題、版元ハ／三通通（ママ）町正本□□□（ママ）衛新版／とある、缺字ハ屋太兵（ママ）か／石割識ス」、巻末（朱書）「文化十年夏六月式亭この書／を改訂せしといふが蝕甚しかり／ければ昭和五年十月下浣再／び改訂す　石割松太郎識」と識語あるものの寫）

芝居番付集　一帖　一七五三

折本　櫻模様焦茶色表紙　三四・五糎二二・五糎　四十六折　寛文八年「鳥羽繼塚物語」以下明和年中に至る番附八十餘枚貼交　題簽左肩「□□帖　二十三」

（七二―イ九）

諸藝評判　金の揮（きん）　一冊　一七五四

近藤清春畫　序　袋綴　改裝後補黄表紙　二二・五糎一五・五糎　四周單邊一五・

五糎一二糎　上圖(六糎)　下文(九・五糎)　十四行　十五丁　題簽左肩雙邊中央「新板ばしいのはじまり　全」(右に)「さかい町」(左に)「役者ねんだいき」柱刻「市川(丁數)」
刊記　享保十三戊申歳正月吉日／通鞘丁奥村源六板元／筆工近藤清春
(元禄十丁丑「兵根元曽我」より享保十二年「八棟太平記」に及ぶ　七二―一三)

大盡三ツ盃　二巻　二冊　一七五五

袋綴　改裝後補黒表紙　用紙裏打　一三・五糎一八・五糎　四周單邊一一糎一七糎　十五行　挿畫(第一冊)十頁分　(第二冊)八頁分　題簽左肩墨「(書名同)宝永元年評判記」　柱刻「一之巻(二之巻)三つ盃　(丁數)」、「斑山文庫」
識語　(扉附箋)(水谷不倒筆)　上(京の巻)　下(江戸大坂の巻)／此の評判記前後缺け且刊記なき爲／何年のものなるか詳ならぬが、開口に／「あけて暦の似たる文字は甲(きのえ)さる程／に」とあり、又役者中に故人となりし／ものを白字にて現はしをり、元祖市川團十郎／荻野沢之丞大和屋甚兵衛等いづれも／元禄十七年即ち宝永元年に物故／した人々にして同年の干支は甲申なれば、即ち宝永元年の評判にして／板行は翌宝永二年の春なるべし／猶此の評判記はいづれの評判記目／録にも見えず　(印)
(見返)昭和八年二月購求／斑山文庫主人
(七二―一五)

尾陽戯場事始　寫　正篇三巻續集一巻　四冊　一七五六

伊勢屋忠兵衛著　小寺玉晁筆　同畫　東海懶叟序　天明弐壬寅長月西邑海邊自序　天明壬寅孟冬日熟柿苦齋黄昏坊跋　(續集)小寺玉晁著　自筆　天保七申のやよひ　續學舎自序　袋綴　澁引表紙　二四糎一七糎　十行　挿畫入　題簽左肩雙邊「(書名同)上(尾陽芝居事始中・尾陽勾欄支始下・續尾張勾欄始□)」、「小寺姓玉晁文庫(墨印)」「こく晁」「石田文庫」等
奥書　(第一冊巻首)高力氏藏本を以て再すきうつしになしぬ／元本表紙のうらに高力氏自筆を以て／左之如くしるされしまゝ又爰ニうつす／元本者指峯堂伊勢屋忠兵衛秘藏之／指峯堂著作の書にして序文は／東海懶叟の作なり同しく假名文の／序ハ自序にして西村海邊としる／せしハ指峯堂伊セ屋忠兵衛か別号也／巻の末に讀戯場事始後とある／文ハ堀田氏紀六林翁也此本の／画圖ハ不殘予か筆なり云々／天保六乙未年やよひなかは　連城亭玉晁　(印)
(七二―一三)

役者三津物　三冊　一七五七

江島其磧著　八文字自笑跋　袋綴　黒表紙　一一糎一六糎　四周單邊九・五糎一四・五糎　十五行　題簽左肩雙邊「都の花(開く木戸口月の影子ハ梅の枠の)」(武蔵野(春めけり出世して)・難波の(すく藝の))」　内題「役者三津物　京之巻(江戸之巻・大坂之巻)」　柱刻「京三(三江・三大)(丁數)」
刊記　(江戸・大坂巻)　享保十九年寅ノ正月吉日／ふ屋町通せいぐハんじ下ル町　八文字屋八左衛門板(江戸之巻「(同上)新板」)　(京巻刊記には所記なし)
(大坂之巻々末「八文字自笑／作者／江島其磧」とあり　七二―一五)

役者美男盡　三冊　一七五八

江島其磧著　享保十五年戌正月吉旦自序　袋綴　黒表紙　一〇・五糎一六糎　四周單邊九・五糎一四糎　十五行　題簽左肩雙邊(第二冊江戸之巻)「男女の好立役ハ□(給金の光増菊の枠な梅の雛波の武蔵野)」　(第三冊大坂之巻)「尽たる印の紙子姿ハ」　序題(第一冊)「役者美男盡」(第二冊)「役者美男盡江戸」(第三冊)「役者美男盡大坂」　柱刻「京(江戸・大坂)(丁數)」、「福」
刊記　(第一冊京之巻)享保十五年戌正月吉日　(第三冊大坂之巻)享保十五年／戌正月吉日／京二條通寺町南側角菊屋喜右衛門板／京二條通寺町西へ入北側正本屋九兵衛板
(七二―一三)

○

〔謡はやし小鼓附〕　寫　二冊　一七五九

袋綴　壽字文茶色地錦表紙　見返下畫　三〇・五糎二一・五糎　六行　朱譜書入　題簽左肩金箔「はやし小鼓附」　内題なし
(江戸時代中期寫　七四―一三)

花傳書　二冊　一七〇

觀世元清著　袋綴　改裝後補薄茶色表紙　用紙斐紙薄樣　二七・五糎二〇糎　十二行　挿畫十六頁分　題簽左肩墨流下畫墨「謠花傳書」　内題なし　（古活字版　元和寛永期刊　第二種本　第一冊表紙右肩小津桂窓筆朱書「シ　二百七十一」　七四—イ一）

假面寫　寫　一軸　一七一

英一埃畫　巻子本　唐草織文紺表紙　見返金砂子散　用紙裏打雲母引　三六糎一一米六五糎　題簽書名同　内題なし　奥書　英一埃（印）　箱書　（表）假面寫　壹巻　（裏）少將樣ヨリ頂戴　（「翁兒玉近江滿昌打」以下着彩能面圖　七四—七）

勸進能興行式哀繪卷　寫　二軸　一七二

巻子本　改裝後補唐草織文薄樺色表紙　見返金箔　用紙鳥の子　裏打　三〇糎　題簽金紙「勸進能興行式事　壹（貳）」　内題なし　識語　（第一巻見返）秋田縣本庄町佐藤平吉／大正七年壹月改裝ス　（着彩圖　畫中「來申二月於／筋違橋内外明地／寶生太夫勸進能／有之候間望之ものハ／可致見物者也／未九月」と書したる立札、「寶生藏板　渓齋英泉筆　弘化五戊申歳中春勸進能興行場所之圖」等の記文あり　七四—九）

觀世金剛寶生今春　近代四座能役者目録　寫　三冊　一七三

觀世小次郎信光・似我与左衛門國廣著　觀世勝右衛門元信補説　小寺玉晁筆　袋綴　茶色表紙　二七糎一九・五糎　十四行　第三冊見返貼紙筆「（書名同）共三」　内題なし　（原に第二冊「承應二癸巳正月十七日書之　元信在判／觀世長吉殿參」、第三冊「這一冊者似我与左衛門國廣自筆ニテ四座役者往古ヨリ／ノ目録書置觀世太夫重成ニ以有之寫シ置ク中略／正保參丙戌稔極月十三日　自小次郎權守信光五代　觀世勝右衛門印判／秦ノ元信在判／觀世長吉殿參」、「承應二癸巳載正月十七日／觀世勝右衛門印判／秦元信在判／勝右衛門入道シ後ニ休齋／宗与印判／觀世長吉殿參」と奥書あるものの寫　七四—一五）

能鑑　寫　二軸　一七四

巻子本　紺地亀甲織文表紙　見返金砂子散　用紙裏打　二八・五糎　一紙四〇糎　題簽金泥短冊切「（書名同）上（下）」　内題なし　（江戸時代中期寫　極彩色畫　七四—一五）

能狂言書上　寫　一冊　一七五

小寺玉晁編　自筆　袋綴　澁引碁盤目表紙　一三・五糎一八糎　七十七丁　題簽左肩雙邊書名同、「小寺姓玉晁文庫（墨印）」「元」　（「諸流番数」、奥に「天保八年酉十月觀世太夫」とある「觀世流名寄」、酉十月金春太夫書上「金春流目録」、酉十月寶生太夫書上「寶生流名寄」、十月金剛太夫書上「金剛流名寄」、酉十月喜多六平太書上「喜多流名寄」、鷺仁右衛門書上「鷺流狂言名寄」、大藏弥右衛門書上「大藏流名寄」、大藏八左衛門書上「八左衛門流狂言名寄」を所収　七四—一三）

〔能作法條々〕　寫　五冊　一七六

袋綴　薄縹色表紙　見返銀切箔散　用紙薄樣　一六・五糎一八糎　十行　題簽中央金泥下畫色紙形（第一冊）「白樂　呉服　弓八　賀茂　金札　角田　鷗鷺　白鬚　杜若　八嶋　真盛　清經　葵上　忠度　黒塚」（第二冊）「二人静　當麻　海士　卒都婆　關寺　通小町　玉葛　三井　柏崎　冨士太　籠太　融　道成寺　鵜三輪」（第三冊）「通盛　朝長　相生　老松　百萬　松風　江口　野宮　芭蕉　源氏供　定家　貴妃　井筒　千壽　采女」（第四冊）「立田　女郎　田村　頼政　兼平　自然　邯鄲　善知　藤戸　山姥　天鼓　殺生　舟弁　鵜飼　猩々」（第五冊）「湯谷　大會　船橋　鞍馬　是界　葵上　葛木　項羽　放下　西行　櫻川」　内題なし、「渡邊千秋藏書」

（江戸時代中期寫　原に各冊末「下間少進法印在判」と奥書あるものの寫　片假名交り　七七四―イ一二）

競技

〔飛鳥井蹴鞠道別家願書〕　寫　一軸　一七七

飛鳥井雅章著　自筆　巻子本　龍文紺地金襴表紙　見返金切箔散　用紙奉書　裏打　一八糎三米九二糎　一紙五二糎

奥書　右之條〻於虚言有之者／可蒙　日本國中大小神祇／殊氏神歌鞠之両神御／罰者也／酉十二月十四日飛鳥井宰相　雅章（花押）

（七八三―イ一三）

蹴鞠之条〻大概　寫　一軸　一七八

飛鳥井雅康著　自筆　巻子本　納戸色織文表紙　見返金銀切箔散　用紙鳥の子　裏打　三二・五糎五米四〇糎　一紙四九糎　用紙繼目裏墨印あり

奥書　右一巻者爲授寺町三郎／左衛門尉道隆染紫毫早／随猶執心連〻可有口傳者也／長享二季三月八日／　宋世

（七八三―九）

蹴鞠條〻大概　寫　一冊　一七九

飛鳥井雅康著　自筆　袋假綴　共表紙　用紙斐紙　三三・五糎二五糎　七行　十四丁

奥書　右之一巻者所奉授細河右京／大夫殿也代〻異于他御師範之／上且任當代之貴命所染紫毫／也努不可有外見漏脱之儀者也／文亀三年二月十二日　宋世

（七八三―イ一二）

○

鷹聞書少〻　寫　一冊　一八〇

袋綴　表紙闕　二二・五糎一九糎　十一行　二十三丁

奥書　明應五年丙辰壬二月吉日　前信濃守神貞通／戸次安藝守宣員　法名鐵叟道牛（花押）／同藤吉良統綱（花押）

（七八七―イ七）

鷹　書　寫　一軸　一八一

巻子本　改装後補縹色表紙　用紙鳥の子　裏打　二七糎一〇米九〇糎　一紙三六糎　外題書名同　内題なし　用紙繼目裏花押捺印あり

奥書　右条〻此於巻物天下無双之秘書也／則令傳關東　鎌倉殿御内武藏國／長井之庄吉田鴻城之住源朝臣兒玉／遠江守次男兒玉玄番助經平／　愛岩（ママ）山致參詣下向之砌越前國至／西谷令對談不慮申承候處鷹道／望之由依蒙仰某爲殘末代名兒鷹／巻物不殘一然書渡進候若於殘少者／關東鶴岡八幡殿可蒙御罰也仍／誓紙之段如件／永祿五卯月五日／兒玉玄番助經平（花押）（印）／外山余次郎殿

（原に「此於巻物源朝臣兒玉代〻傳家秘書也／從義高直之寫儘書付申事實也／巻物裏口傳在之」と奥書あるものの寫　七八七―イ三）

鷹百首註　寫　一冊　一八二

袋綴　栗皮色表紙　二六・五糎二〇糎　十行　二十丁　内題「鷹百首」

（室町時代末期寫　原に「此百首西園寺の公衡公の詠哥歟或云竹林院／又ハ菩提寺の中將とも又ハ山陰の中將とも申山かけ／いりなと〻申料理在之百首なから實家にして述／懐の哥也又以後とりあつめたる哥とも也されハ次第／不同也小鷹ハ秋也大鷹ハ冬也其外子細在之」「右百首者文明五年三月十日公方樣（以飛鳥井／二樂軒御事次（ママ））左兵衛督雅康卿御尋之時諏方信濃守忠郷／（法名信功）あひともに事書をくはへて備　上覧者也仍／此一巻令藏寺殿依御懇望以板倉与次景恒／令進上早其後方〻より雖去望に付て遣之但／如此註はまれなるへし是を正本に守るへき者／也若於子孫器用のあらハ可被相續之猶／以口傳爲肝用可秘〻〻／于時明應七年十一月廿六日　藤原有宗（在判）」「承元の比春宮大夫公衡と有ハ後徳大寺實定卿／男とあり三条内大臣（西殿實隆公説也」と奥書あるものの寫　七八七―イ五）

〔根津流犬之傳書〕　寫　一軸　一八三

大地助七郎傳　自筆　巻子本　改装後補薄茶色絹表紙　見返金切箔散　用紙間似

合紙　裏打　一八・五糎二米二九糎　天地押界一六糎　題簽後補書名同　巻初「一ねつ流之一巻」
奥書　大地助七郎／壽之（花押）／元録（ママ）元年正月吉日
（犬畫四圖あり　七六七―イ一）

○

〔相撲行司繪巻〕　寫　一軸　一七四

岩井清次傳　巻子本　唐扇織文紺色錦表紙　見返金砂子散　用紙鳥の子金泥下畫
三二糎一七米九七糎　一紙八七糎　本文天地金界二八糎　有界十九行二行書　挿畫着彩相撲型五十八圖及土俵圖二面　内題なし
奥書　右書此行司之雖爲秘事就御執心／寫遣之訖疎早不可有御他見者也／寛永八辛未年閏拾月吉日／木瀬太郎太夫重正／岩井播摩掾久次／岩井播摩守清次（花押）
（印）□旨
（宛名削り取りて文字見えず　七六九―イ二）

遊藝・娯樂

鑒賞秘寶　寫　一冊　一七五

袋綴　改裝後補青表紙　原裝共表紙　一四糎二〇糎　四十二丁　題簽左肩無記
外題書名同、「宮島文庫」「清野文庫（紙票）」
識語　（原見返）此書は日本橋区中橋實母／散本店の主人にして天保年／代に茶を好みしものが自ら記／述せしものなり其宮島文／庫の印は蓋し同人の藏書／印の一なりと云ふ／明治四十二年　八木子直
此本反古にいたし候事無用の事
（七九一―イ三）

○

五月雨日記　寫　一軸　一七六

巻子本　菊花織文紺表紙　見返金銀砂子散雲模様　用紙鳥の子　二八・五糎一三米九九糎　一紙四九・五糎　二十三行　内題なし
箱書　五月雨日記　中院通村公芳跡一巻
（江戸時代初期寫「文明十一年五月十二日於東山泉殿執行之」と奥記ある「香合六番判衆儀判詞後日淮后書之」、「六種薫物合文明十年十一月十六日判衆儀詞書山賤後日書之」、「去年の御たきもの合の事おくりまいらせ候也／正二位通村（花押）」と奥記ある「薫物之方」等を所収
七九二―イ一）

○

〔池坊専好立花譜〕　寫　一冊　一七七

袋綴　茶色地織文表紙　見返銀切箔野毛散　用紙鳥の子　三五・五糎三一・五糎五十五丁　挿畫着彩各頁一圖
（江戸時代初期寫「寛永五（ママ）蠟月廿二日於關白殿　池坊専好立之」以下「寛永十二姑洗十九日於　梨門　池坊専好立之」に及ぶ　専好以外に門弟峯立等數個を交ふ　七九三―イ一）

○

〔元和棊譜〕　寫　一冊　一七八

袋假綴　共表紙　三〇・五糎二三糎　十行　十七丁　内題なし
（巻首に「一番　元和五年八月十三日伏見於御城ニ／將棊事　本因坊　宗古」とあり　對局は宗古を墨書、本因坊は朱書を以て記す　略々同時代寫　七九五―イ五）

碁經　一冊　一七九

本因坊算砂著　袋綴　澁引表紙　二六糎一九・五糎　盤面一六糎一五糎　三十丁
内題なし　柱刻「碁經」
（古活字版　慶長期刊　「衆妙ニ出タリ　根本ハ玄ニ碁經ナリ」等の書入多し
七九五―イ三）

語學

日本語

假名源流考 寫一冊 一七〇

大矢透著　自筆　袋綴　改裝後補鐵色表紙　二八糎二〇糎　四周雙邊二二糎一五糎　十二行「冨嘉山製」藍罫紙　十一丁　題簽左肩後筆「（書名同）草稿殘簡」

（明治四十四年刊「假名源流考」巻初至十八頁第五行原稿　八二―ィ九）

假名の研究 寫一冊 一七一

大矢透著　自筆　袋綴　改裝後補鐵色表紙　二八糎一九・五糎　四周雙邊二一糎　一五糎　十二行「榛原製」藍罫紙　三十三丁　題簽左肩後筆「（書名同）草稿全」

（第二十九丁闕「啓明會紀要」五號所収原稿　八二―ィ七）

○

東雅 寫二十巻五冊 一七二

新井白石著　享保十年二月穀旦濟泊齋安積覺序　享保己亥夏四月初八日室直清序　袋綴　卵色摺出花文表紙　二七糎一九・五糎　十行小雙行　題簽左肩雙邊（刊）「（書名同）一之三（―十七之廿終）」、「瀧澤文庫」

識語　（朱）是書坊間傳寫之本予屢見之蓋每本誤脫／煩多可得而讀者幾稀矣寧得善本捜索二／十有餘年于茲今茲漸獲這一本非是坊賈／所云仕入本即便校訂以套於架上／文政壬午己秋月之吉　瀧澤解

（「弘賢按」の頭注あるものの寫　馬琴の書入多し　八二―ィ三）

○

玉篇上巻 寫一冊 一七三

袋假綴　表紙闕　二八・五糎二〇・五糎　七行七段配字　四十五丁　目録題書名同　尾題同上　内題なし

（江戸時代初期寫　目録の第一第二は部首を掲げず、第三人部至第卅魚部を擧ぐ　本文前闕、人部「俱（ク）トモニ」至魚第卅一を存す　八二―ィ五二）

玉篇上巻 寫一冊 一七四

袋綴　改裝後補薄茶色表紙　用紙裏打　二五・五糎一九・五糎　七行六段配字　四十七丁　内題なし

（室町時代末期寫　日部第一巻初の二丁闕　羊部第卅一部以下闕　八二―ィ五三）

玉篇略 寫三巻一冊 一七五

袋綴　改裝後補栗皮色表紙　用紙裏打　二三・五糎一九糎　四周單邊二〇・五糎一六糎　有界八行六段配字　百二十六丁　目録題書名同　内題なし

（室町時代末期寫　首尾闕　上巻目第一至魚第三十三・中巻虫第三十四至艸第九十五・下巻革第九十五至鼈第二百九十を存し、以下目録所見の酋三百九迄闕く　八二―ィ三）

玉篇略 寫二冊 闕 一七六

圓音房筆　綴葉装　共表紙　二五糎一六・五糎　押界二二・五糎一五糎　九行五段配字　外題左肩「〆玉篇略　巻中（下）目録」

奥書　（巻中）于時天正十四年丙戌四月上旬五日書之早／主圓音房

（巻下）□天正十四年丙戌四月中旬書之早／主圓音房

（上巻闕　中巻虫卅三至艸九十四・下巻革九十五至酉三百九を存す　但し目録は酉三百九に終るも本文は益三百十三に及ぶ　表紙右下に「圓音／堯文房」とあり　八二―ィ六）

三寶類字集巻上 寫一冊 闕 一七七

綴葉装　表紙闕　二五・五糎一四・五糎　押界二〇・五糎一四糎　七行四段配字

百五丁、「高山寺」

（高山寺本　平安時代末期寫　朱墨諸點を附す　巻初に「法佛人篇第一」「報佛女篇第二」「應佛内篇第三」「化佛木篇第四」及び「佛寶類字書畧頌」の目録あり　五部首八組計四十部首のうち「佛寶類字集」巻上一（一二）」の二十部首を存す　ビブリア第十七號所収渡邊實「三寶類字集」―参照　八三―イ七三）（重文）

三寶類聚名義抄　寫　三冊　一七八

屋代弘賢筆　袋綴　丹表紙　二七糎一九糎　七行四段配字　題簽左肩「（書名同）法上（僧上・中）川本一（一三ウ）」　扉題（第一冊）左肩「（書名同）　中一（右下に）蓮成院」「不忍文庫」「阿波國文庫」

（蓮成院本　影寫本　據本の破損をも忠實に寫す　各表紙右に所収部首を記し第一冊表紙右肩に「和字書一」と墨書せる紙箋を貼附す　第一冊巻初に「為頌曰　法上」として水至衣二十部首を記すも第一冊は水部「水」至言部「譶」、第二冊艸部至殳部、第三冊車部至雜部を存す　岡田希雄著「類聚名義抄の研究」、「島田教授古稀記念國文学論集」所収渡邊實「西念寺本蓮成院本類聚名義抄について」―参照　八三―イ六二）

新編訓點畧玉篇巻第二　寫　一冊　一七九

袋綴　改裝後補黑表紙　用紙裏打　二五糎一八・五糎　八行六段配字　二十七丁

尾題書名同　内題なし

（室町時代末期寫　巻首闕　木部百五十二橘字至明部二百九十六盟字を存す　八三―イ五五）

童蒙訓　寫　二冊　一八〇

袋綴　縹色小文朽葉色表紙　一三・五糎一〇・五糎　八行四段配字小雙行　外題左肩「（書名同）乾（坤）」　内題なし

（江戸時代初期寫　三字の熟語例を示したる音韻引辭書　八三―イ三二）

〔平安韻字集〕　寫　七冊　闕　一八一

綴葉裝　改裝後補藍表紙　用紙斐紙　一六・五糎一七糎　四周單邊一三・五糎一三・五糎　押界六行　内題なし

（鎌倉時代初期寫　東韻・支韻・脂之韻・虞模韻・先仙韻・陽唐韻・庚耕清韻・尤侯幽韻の一部を存　東韻の部は朱聲點を施す　片假名附訓　ビブリア第十七號所収吉田金彦「『平安韻字集』の一古鈔本について」―参照　八三―イ六七）

落葉集斷簡　一帖　一八二

折本　改裝後補緑色綾表紙　三〇糎二一糎　四周裁斷　原寸二四糎三一糎　四周單邊　有界八行約十五字　十二枚　漢字の左右に平假名附訓　題簽左肩單邊墨「（優長年刊）吉利支丹版落葉集零冊」　柱刻「か十四（よた十七・た十八・く二十五・く二十六・け三十・ふ三十二・こ三十四・て三十七・あさ三十八・き三十九・せ五十七）」

（識語　（前略）時昭和四年歳次己巳臘月廿又三日／滄如居士滑川達（印）／改裱偶尓摘出其十二張可獲雖抱殘守缺瞥視其面目是真／神物護持至得留厥隻影於我／邦皎亭其能寶之勿輕借人／恐一失不可復得也

（きりしたん版　漢字平假名交り　別に「英國博物館収藏慶長板落葉集景片」として寫眞三枚を附す　八三―イ六九）（重文）

類聚名義抄　寫　一冊　一八三

屋代弘賢筆　袋綴　丹表紙　二七・五糎一八・五糎　六行　五十八丁　外題左肩「（書名同）（觀察本一）」　扉題中央「（書名同）一（右に）明和四亥極月廿三日」、「不忍文庫」「阿波國文庫」

（西念寺本　表紙右肩に「和字書一」と墨書せる紙箋を貼附す　原に扉見返「此書全部十一冊者菅原是善鄉（ママ）相歌之父／作而我朝之古書也最大切應／所持全篇松之文爵少年之寫本／予／。傳寫之為因西念寺宝藏之常／住物者也」、奥「右十一冊之内七八九十之四冊歓喜菴／御老師富田家中某ニ令写之／者也／右十一冊之内一二三四五六十一之七冊／西念寺現住慧察諸方之／學友之乞受力傳写之／者也　校合　慧察」とあるものの影寫　岡田希雄著「類聚名義抄の研究」、「島田教授古稀記念國文学論集」所収渡邊實「西念寺本蓮成院本類聚名義抄について」―参照　八三―イ五九）

和漢音釋書言字考　寫　九冊　一七九四

槇島昭武著　自筆　袋綴　澁刷毛目表紙　二七・五糎二〇糎　十一行小雙行　外題左肩「（書名同）壹（―玖大尾）」、「まにその」

識語　（帙裏）流布ノ木版本ト分類ヲ異ニセル異本ニシテ／古本節用集ト組織ヲ同フス／從來未知ノモノニ屬ス

（見出「乾坤」『時候』等は陰刻文捺印　第一冊扉紙裏附箋朱書「・此朱ノ丸ハ除申分也此丸無候ても／句切聞え候所ハ如此付置申候間御除可有之候／・▲如此の分ハ其所へ入可申書落候故／あいもんニいたし置候御見合御書入可有候」とあり　附箋朱書入等あり　（八三―イ六）

和玉篇　二冊　一七九五

袋綴　改裝後補砥粉色表紙　二七糎二〇糎　四周單邊二三糎一七・五糎　七行六段配字　外題左肩墨後筆「慶長版玉篇　智（福）」　柱刻「玉篇卷下（目録）（丁數）」、「聽松菴（下冊のみ）」、「木村正辭圖書」等

刊語　（下冊）斯玉篇者以韻會禮部韻龍龕手鑑等校合／旃書寫者也皆慶長旃蒙大荒落皐月日　夢梅謹誌

識語（上冊）（朱）右此一本借得或人所藏之零本刻本訂寫誤訖于時嘉永二年二月中旬日（花押）

（上冊は寫本　第六十四丁王第十八まで存して以下闕　（八三―イ五）

和玉篇　寫　一冊　一七九六

袋綴　澁表紙　天部裁斷　二三・五糎一八糎　九行　八十丁　内題なし

奥書　（第一丁）和玉篇上中下共有但丸之有一通宛次第不同書所也／但此本三冊ほと候へ共一冊ニ詰候間□

和玉篇但上中下三卷ヲ一冊ニ書置也

（卷中）慶長廿年十月廿六日書寫之／上紙除墨付紙員七拾九枚在之和玉篇本（ワキヨウヘン）三條候へ共是一冊ニ相極候但／次第不同口柄奥迄丸之有分一通宛下略

識語　（扉）近江國伊ヶ香之郡□□庄／中之鄉村之住／東野半九郎

（卷末）東野左京進令書者也　（八三―イ三）

倭玉篇　三卷　三冊　一七九七

袋綴　濃茶色表紙　二八糎二〇糎　四周單邊二一・五糎一七・五糎　有界七行四段配字　外題左肩墨「上（―下）」　柱刻「和玉篇　卷上目録（卷上―下）（丁數）」、「備前國學文庫」「野田實家藏記」等

刊記　慶長庚戌仲春日（陽刻）／於洛陽二條通二王門町開板所与（陰刻）

識語　（各冊表紙）宥傳（同見返）堀氏（黑印）

（第二冊裏見返）備前之國兒嶋都日比浦主膳／右三卷内　（八三―イ三）

倭玉篇　三卷　三冊　一七九八

袋綴　黑茶色表紙　一三・五糎二一糎　四週單邊一二糎一九・五糎　有界十行四段配字　題簽左肩後補墨「（書名同）上（―下）」　柱刻「玉上（―下）（丁數）」

刊語　此玉篇參冊者蓋改／古爲新而益鳥跡以／補不足号而今幾乎／正假字乃壽梓者也

刊記　寛永五歷戊辰建丑月／吉祥日刊摺之畢　（八三―イ七）

和玉篇　寫　二冊　闕　一七九九

袋假綴　共表紙　二五糎二〇糎　八行六段配字　目録題「（書名同）卷中（下）」　内題なし

（室町時代末期寫　上卷闕　中卷虫第卅四至食第百七、下卷禾第百六至酉第三百七を存す　（八三―イ五）

倭玉篇　寫　三卷　三冊　一八〇〇

袋綴　改裝後補毘沙門格子牡丹唐草模樣縹色行成表紙　用紙裏打　二七・五糎一九糎　四周單邊二四糎一四・五糎　有界七行七段配字　内題「玉篇卷二（玉三）」

（第一冊なし）　尾題「和玉　巻上（和玉篇巻之中）」
奥書（第二冊）春作書之（印）
（室町時代末期寫　巻一「月二」より存して前闕　巻三「卜二百四十五」までを存して後闕　上巻日一至魚卅一・中巻虫三十二至食百五・下巻禾百六至西三百九を存す　八三—イ三七）

倭玉篇　二冊　闕　一八〇二

袋綴　改裝後補黑茶色表紙　三一糎二〇・五糎　四周單邊二五・五糎一六・五糎　有界六行五段配字　内題なし　柱刻「和玉中（下）（丁數）」
（古活字版　慶長期刊　上巻闕、中巻二十九至四十六丁表・下巻二十四至八十七丁を存す　八三—イ三九）

倭玉篇　三卷　三冊　一八〇三

袋綴　栗皮色表紙　二七・五糎二〇糎　四周雙邊二一・五糎一八糎　有界七行四段配字　外題左肩後筆「倭玉（和玉中—下）」　柱刻「和玉篇　巻上目録（巻上—下）（丁數）」、「和玉篇　巻上目録（巻上—下）」
刊記　慶長庚戌仲春日（陽刻）／於洛陽二條通二王門町開板所也（陰刻）
（八三—イ四一）

倭玉篇　三卷　三冊　一八〇三

袋假綴　表紙闕　二八糎二〇・五糎　四周雙邊二一・五糎一七・五糎　有界七行四段配字　柱刻「和玉篇　巻上目録（巻上—下）（丁數）」
（慶長庚戌仲春刊所与本の覆刻異種本　上巻第二・七・八・十六至廿六・廿八・卅五・五十至六十三・六十六至六十八丁及び第八十三丁以下闕丁、下巻第一・六至七・九・十・十二・卅七至五十三・五十七至五十九・及び第六十九丁以下闕丁　八三—イ四三）

倭玉篇　二卷　二冊　闕　一八〇四

袋綴　栗皮色表紙　二八糎二〇・五糎　四周雙邊二〇糎一七・五糎　有界七行四段配字　柱刻「和玉篇　巻中（下）（丁數）」
刊記　慶長庚戌仲春日
（慶長庚戌仲春刊所与本の覆刻　上巻闕　八三—イ四五）

倭玉篇　三卷　合一冊　一八〇五

袋綴　改裝後補栗皮色表紙　二七・五糎二〇糎　四周雙邊二一・五糎一七・五糎　有界七行四段配字　柱刻「和玉篇　巻上（—下）（丁數）」
（慶長庚戌仲春日刊所与本　上巻目録部三丁補寫、下巻第六十八丁以下闕丁　八三—イ四七）

和玉篇　寫　三卷　三冊　一八〇六

日柔筆　袋綴　改裝後補黑茶色表紙　二七・五糎二〇・五糎　四周單邊二四・五糎　一七糎　有界七行六段配字、「圓乘」「日柔」
奥書（巻末紙筆）慶長二丁酉年九月十三日／落（ママ）陽／妙覚寺之住侶圓乘坊日柔書之（落陽の二字別筆）
（上巻「日二至中卅二」・中巻「人卅四至食六十七」・下巻「虫六十八至韋百」を存す　上巻末卅二・卅三部首分闕　各表紙に「慶」と朱書す　八三—イ六三）

和玉篇　寫　三卷　三冊　一八〇七

袋綴　紺表紙　用紙鳥の子　二六・五糎一七・五糎　四周單邊二二・五糎一四・五糎　有界八行八段配字　題簽左肩栗皮色紙「玉篇　一（—三）」　外題中央後筆朱「玉篇」目録題同上　内題なし
識語（第一冊扉裏）字引早心巻之一　高田氏
（江戸時代初期寫　八三—七二）

和玉篇巻下　一冊　一八〇八

袋綴　改裝後補茶色表紙　原裝亀甲文行成茶色表紙　二七糎二〇糎　四周雙邊二一・五糎一六・五糎　有界六行四段配字　百八丁　外題左肩後筆「木活字版和玉篇巻下」　原外題左肩墨書名同　柱刻書名同、「春翠文庫」

（古活字版　慶長期刊　八二三―イ三五）

倭玉篇巻上　一冊　一八〇九

袋綴　栗皮色表紙　二七糎二〇糎　四周單邊二二糎一七・五糎　有界七行四段配字　八十四丁　柱刻「和玉篇　巻上目録（巻上）（丁數）」

（慶長庚戌仲春刊所与本　八二三―イ四九）

和玉篇巻下　一冊　一八一〇

袋綴　改裝後補黒茶色表紙　二六・五糎一九糎　四周單邊二一・五糎一六・五糎　有界六行四段配字　百九丁　柱刻書名同、「文澤（墨印）」

（古活字版　慶長期刊　第五十四・五十五丁一丁分重丁　八二三―イ五七）

○

枕辞畧注巻中　寫　一冊　一八一一

惠岳著　自筆　袋綴　鐵色表紙　二六・五糎一九・五糎　四周單邊（刊）二一糎一五糎　十一行小雙行　五十九丁　題簽左肩後補「僧惠岳稿本枕詞畧註」　内題なし

柱心本文同筆「枕辞畧註中（丁數）」、「生田圖書」等

識語（裏見返附箋）僧惠岳　新義眞言宗ノ僧常陸慕法寺二十代ノ字俊道ト云俗姓鈴木江戸妙義坂ニ生ル／寛政元年正月十六日歿ス寿七十一才／著書　萬葉集選要抄九冊同撰要一冊傍註二十冊／刊行　枕辞略註三冊ハ未刊本ナリ

（八二五―イ）

○

まことぐさ　三巻　合一冊　一八一二

袋綴　紺布目表紙　一九糎一三糎　四周單邊一三・五糎九・五糎　八行　挿畫（各巻）四頁分　柱刻「當世上（―下）（丁數）」

刊記　元禄五壬歳正月吉日／日本橋万町角萬屋清四郎板

（八一八―イ一）

○

官話　寫　一冊　一八一三

袋假綴　茶色表紙　二四糎一四糎　七行四段配字　十一丁　外題左肩「（書名同）三字口（右下に）三男多嘉良松金（左下に）金光華」　内題なし

識語　此書者父母（親ヒ）ヨリ三男松金ニ相當候者也

（裏見返）同治拾壱年壬申四月朔日仕立／多嘉良記

（三文字の熟語をあげ四聲を朱注し下に片假名にて訓を施す　八一九・六―イ三）

八重山語彙　寫　十冊　一八一四

宮良當壯著　自筆　洋綴　改裝厚紙表紙　用紙各種原稿用紙　二四・五糎至三四・五糎一六・五糎至二四糎

（八一九・六―イ七）所収次の如し

第一至三冊　八重山語彙原稿　甲篇　第四至六冊　八重山語彙原稿　乙篇

第七冊　八重山語彙　初校刷　第八冊　八重山語彙　再校刷

第九冊　八重山語彙　校了刷　第十冊　採訪南島語彙稿第一篇原稿

琉球官話五種　寫　五冊　（一八一五―一八一九）

唐袋綴　栗皮色表紙　二三糎一三糎（第五冊二四・五糎一二・五糎）　八行

（第一冊内表紙に「人中畫（唐李龍綸有書）巻四　共五本」裏表紙に「人中畫（司馬玄風流配）巻一　共五本」「人中畫（柳春蔭寒微骨）巻五　共五本」、第二・三冊裏表紙に「人中畫　共五本」とあるものを使用す　八一九・六―イ一）

所収細目次の如し

*廣應官話　（第一冊）　一八一五

外題左肩「（書名同）全」（右下に）「阮應選」　内表紙外題左肩書名同上　目録

題「（書名同）目録巻一（巻二）」（下に）「阮應選」内題同上　内題次行に「唐榮梁兌治永安氏彙定　同學蔡銓玉臺氏帮彙」

識語　（背）小渡記

咸豊五年卯貳月吉旦／四男嫡子小渡里之子親雲上

寄呈／鄭老先生台下／業儒業　門生應選謹呈

咸豊元年辛亥六月七日

*白姓官話　（第二冊）　一八六

外題左肩「白姓　全」　内表紙外題中央「白姓（左右下に）官話」

*學官話　（第三冊）　一八七

外題左肩「尊駕　全」

*官話問答便語　（第四冊）　一八八

外題左肩朱書「官話問答」（中央下に同）「阮應選」

*尊駕白文　（第五冊）　一八九

外題左肩「（書名同）全」　扉題左肩「尊駕　全」　内題なし

（表紙に「瀬名波」と墨書せる紙票貼附）

朝鮮語

俚文借字考　寫　一冊　一九〇

鮎貝房之進著　自筆　袋綴　改装後補辨柄色表紙　原装共表紙　二八糎×二〇糎

有界十行藍罫紙　百五十七丁　題簽左肩後補「借字考」　原外題左肩書名同上

（ビブリア第三號所収高橋亨「鮎貝房之進氏借字考草稿」―参照　八一九・八―一）

中國語

韻鏡　一冊　一八二

張麟之(宋)著　紹興辛巳七月朔自序　嘉泰三年二月朔自序　袋綴　改装後補茶色表紙　二九・五糎×二〇・五糎　四周雙邊二二・五糎×一五・五糎　有界十三行五段小雙行　序八丁本文四十四丁　外題左肩墨「韻鏡　（右下に）朝印」　尾題「指微韻鑑」

柱刻黒口「韻鏡序（韻鏡）（丁數）」

刊語　韻鏡之書行於本邦久而未有刊者故轉寫／之訛烏而焉烏而焉覽者多困彼此不一泉／南宗仲論師偶訂諸本善不善者且從且改／因命工鏤板期其歸一以便於覽者且曰非／敢擴之天下聊備家訓而已於戲今日家書／乃天下書也學者思旃／享禄戊子孟冬初一日／正三位行侍從臣清原朝臣宣賢

刊記（陰刻）頃間求得宋慶元丁巳張氏所刊之的本而／重挍正焉永禄第七歳舎甲子王春壬子

（紹興辛巳自序末に「慶元丁／巳重刊」の原刊本記を存す　八二―一三）

韻鏡　寫　一冊　一八三

張麟之(宋)著　紹興辛巳七月朔自序　嘉泰三年二月朔自序　袋綴　黒茶色表紙　二六・五糎×一九糎　四周單邊二一・五糎×一六・五糎　有界十三行五段　五十三丁

外題左肩墨書名同　尾題「指微韻鑑」

（室町時代末期寫　紹興辛巳自序に續いて「慶元丁巳重刊」の原刊記を移寫す

巻末に「習對發蒙格式」「辯十四聲例法」あり　八三―一五）

韵鏡　寫　一冊　一八四

張麟之(宋)著　紹興辛巳七月朔自序　嘉泰三年二月朔自序　袋綴　紺表紙　二六糎×二一糎　四周單邊二三糎×一七糎　有界五段十四行序九行小雙行　外題左肩墨「書名同（右下に同筆）快舜」

奥書　于時文亀二年八月廿八日　書早

識語　自現師良意法印相傳高野山惣持院當住阿闍梨快盛

（紹興辛巳自序に續いて「慶元丁巳重刊」の原刊記を移寫す　序文に諸點を施し本文中漢字に和訓等を朱書す　異本校合あり　八三—イ七）

韻府羣玉　二十卷　十冊　一八四

陰時夫(元)著　陰中夫(元)注　縢玉霄序　至大庚戌臞翁江村序　趙子昂題　大德丁未春陰竹埜序　延祐改元甲寅秋陰復春自序　陰勁弦自序　袋綴　改裝後補薄青色表紙　用紙裏打　二六・五糎一六・五糎　原寸二五・五糎　四周雙邊二〇糎一二・五糎　有界十行十六字小雙行　外題左肩墨書名同(第一冊のみ)　柱刻黑口「勻玉序(凡例・目)　一(—二十)　(丁數)」、「茂松(墨印)」「西莊文庫(小津桂窓筆「月百八全十」と墨書せる紙簽に捺印)」「桂窓」等

（五山版　第一冊目録末雙邊木記「元統甲戌春／梅溪書院刊」とある原刊記を移刻す　内題次行に「晩學　陰時夫　勁弦編輯／新呉　陰中夫　復春編註」とあり　八三—イ三）

韻府羣玉卷之十一　一冊　一八五

袋綴　改裝後補紺表紙　用紙裏打　二六糎一七糎　左右雙邊二〇糎一二・五糎　有界十行小雙行二十九字　四十八丁　柱刻黑口「勻玉十一　(丁數)」、「澁谷藏書記」

（五山版　八三—イ四五）

廣韻　五卷　三冊　一八六

陳彭年(宋)等奉勅撰　天寶十載孫愐唐韻序　唐袋綴　改裝後補茶色唐紙表紙　用紙裏打　二四糎一五糎　四周雙邊二一糎一三糎　有界十二行小雙行　外題左肩墨書後補「(書名同)一(—三)」　柱刻黑口「韻(勻)　一(—五)　(丁數)」、「河東公世圖書之記」「中氏書画之記」「中萬圖書」「公世」等

刊記　(序末雙邊木記)龍集乙卯菊節／圓沙書院刊行

（元版　八三—イ二）

廣韻　五卷　五冊　一八七

陳彭年(宋)等奉勅撰　天寶十載孫愐唐韻序　唐袋綴　改裝後補茶色表紙　用紙裏打　二六糎一六糎　四周雙邊二一糎一二・五糎　有界十二行小雙行　題簽左肩後補墨「廣韻　上(下)　平聲　卷一(二)」「廣韻　上(去・入)聲　卷三(—四・五)」

柱刻黑口「序韻　一(—五)(第一冊第二丁のみ「廣韻卷一」)　(丁數)」、「瀨育常住」

刊記　(序末雙邊木記)至正丙午菊節／南山書院刊行

（元版　各表紙に韻字見出を書せる紙簽を貼附　第一冊扉裏に青紙墨「廣韻去聲共五卷」の題簽を貼附　八三—イ九）

古今韻會舉要首卷　一冊　一八八

黃公紹(元)著　熊忠(元)舉要　壬辰十月望日劉辰翁序　歲丁酉日長至熊忠自序

袋綴　改裝後補毘沙門格子唐草文茶色行成表紙　二六糎一六・五糎　左右雙邊一九・五糎一二・五糎　有界十一行二十字小雙行　外題左肩後筆「□今韻會目録」

柱刻黑口「韻序(序・韻例・韻・韻母)　(丁數)」、「德」

（五山版　序末に「案昨承　先師架閣黃公在軒先生委／刊古今韻會舉要凡三十卷古今字畫／音義瞭然在目誠千百年間未睹之秘／也今繡諸梓三復讎校並無譌誤愿與／天下士大夫共之但是編係私著之文／與書肆所刊見成文籍不同竊恐嗜利／之徒改換名目節畧雜刊纖毫爭差致／誤學者已經　所屬陳告乞行禁約外／收書君子伏幸／藻鑑　後學　陳案　謹白」の原雙邊木記を移刻　柱刻下部黑口中に「幹緣了孝」、同本文終丁下部同上に「幹緣正忻」とある陰刻を移刻す　内題次行に「昭武　黃公紹直翁編輯／昭武　熊忠子中舉要」とあり　表紙右下に外題同筆「共十三冊」とあり　八三—イ三）

纂圖附音增廣古注千字文　三卷　合一冊　一八九

周興嗣(梁)著　李暹(梁)序　袋綴　改裝後補藍表紙　二八・五糎一九・五糎　四周雙邊二三糎一七糎　十四行本文二行取二十字　六十三丁　外題左肩金泥「纂圖附音注集千字文　完」　序題「註千字文」　尾題「纂圖附音集註千字文」　柱刻黑口「注千字文上(—下)　(丁數)」、「竹添氏書庫」「三井家」「聽冰鑒藏」等

（古活字版　寬永期刊　八三—イ五）

聚分韻略　五卷　合一冊　一九〇

虎關師鍊著　嘉元丙午仲春上澣自序　袋綴　改裝後補浦色表紙　用紙裏打　二

五・五糎 一八・五糎　左右雙邊二〇糎 一三糎　有界九行七段配字小雙行　百六丁
題簽左肩後筆「（書名同）全」　柱刻白口「序　平上（下）上声（去声・入声）（丁數）」、「伊澤氏酌源堂圖書記」「森氏開萬冊府之記」「文彦」
識語　透関齋／宗芳
（五山版　全漢字に對し室町時代末期筆音訓書入あり　八三―イ四九）

聚分韻略坤　寫　一冊　一八三

虎關師錬著　徳治丁未季秋晦日一山一寧跋　袋綴　茶色表紙　二〇糎 一五・五糎
四周單邊一七糎 一一・五糎　有界九行二至五段配字小雙行　九十二丁　題簽左肩書名同　内題なし、「中島桃齋」等
（室町時代末期寫　末尾に「分毫字情」を附す　八三―イ五九）

助字詳解　寫　八卷補一卷　九冊　一八三

皆川淇園口授　米谷金城編　自筆　袋綴　薄鼠色（又は青）表紙　二三・五糎 一六糎　四周雙邊（刊）一八・五糎 一二・五糎　十二行罫紙　外題左肩「（書名同）四（―八補）」　柱心「（第一冊のみ丁數）」
箱裏書　歳次壬戌秋八月　巖谷修題簽（印）
（欄外に朱墨細注す　第一冊は文章論、第九冊は助字詳解補　文化十年刊「助字詳解」とその本文を異にす　八三―イ五二）

新增説文韻府羣玉　二十卷　十冊　一八三

陰時夫（元）著　陰中夫（元）注　滕玉霄序　至大庚戌臘姚江村序　趙子昂題　大徳丁未春陰竹埜序　延祐改元甲寅秋陰復春自序　陰勁弦自序　唐袋綴　改裝後補丹表紙　用紙裏打　二七糎 一七糎　四周雙邊二〇・五糎 一三・五糎　有界十一行十八字小雙行　題簽左肩後補「説文韻府上平二（入聲口）」　序・目録題「韻府羣玉」
尾題「韻府羣玉」又は書名同　柱刻黑口「勻玉序　目　一（―二十）（丁數）」、「秋齋」等
刊語（第一冊凡例末雙邊木記）　瑞陽陰君所編韻府羣玉以事繫／韻以韻摘事乃韻書而兼類書也／撿閲便益觀者無不稱善本堂今／將元本重加挍正每字音切之下／續增許氏説文以明之間有事未／備者以補之韻書之編誠爲盡美／矣敬刻梓行嘉與四方學者共之／天順壬午孟冬葉氏南山堂謹白
刊記　（卷一・二十末雙邊木記）天順壬午孟冬／南山書堂新刊
（卷六）書林葉氏南山堂新刊
（卷七雙邊木記）天順壬午年孟冬／葉氏南山堂重刊
（明版　内題の次行に「晩學　陰時夫勁弦編輯／新呉　陰中夫復春編註」とあり第七冊第十三卷初一丁半補寫、第八冊卷初に第七冊第十四卷末三十二至三十六丁の五丁を錯綴し同卷終丁及び第十五卷初一丁半を新增説文韻府羣玉大全之十五にて補寫　又卷十六第四十一丁を右同筆補寫　同二十九蠶以下四丁を別種明版を以て補丁す　八三―イ三）

新增説文韻府羣玉　二十卷　十冊　一八三四

陰時夫（元）著　陰中夫（元）注　滕玉霄序　至大庚戌臘姚江村序　趙子昂題　大徳丁未春陰竹埜序　延祐改元甲寅秋陰復春自序　陰勁弦自序　唐袋綴　改裝後補朽葉色表紙　用紙裏打　二五・五糎 一六糎　四周雙邊二〇糎 一三・五糎　有界十一行十八字小雙行　表紙韻字見出しを墨書せる方紙箋を貼附　序・目録題「韻府羣玉」
尾題「韻府羣玉」又は書名同　柱刻黑口「勻玉序　目　一（―二十）（丁數）」、「常樂」「西莊文庫（小津桂窓筆「月百四十八全十」と墨書せる紙箋に捺印）」「桂窓」
刊語（第一冊凡例末雙邊木記）　瑞陽陰君所編韻府羣玉以事繫／韻以韻摘事乃韻書而兼類書也／撿閲便益觀者無不稱善本堂今／將元本重加挍正每字音切之下／續增許氏説文以明之間有事未／備者以補之韻書之編誠為盡美／矣敬刻梓行嘉與四方學者共之／天順壬午孟冬葉氏南山堂謹白
刊記　（卷一・二十末雙邊木記）天順壬午孟冬／南山書堂新刊
（卷六）書林葉氏南山堂新刊
（卷七雙邊木記）天順壬午年孟冬／葉氏南山堂重刊
（明版　内題の次行に「晩學　陰時夫勁弦編輯／新呉　陰中夫復春編註」とあり
八三―イ三）

新增説文韻府羣玉　二卷　二冊　闕　一八三五

陰時夫（元）著　陰中夫（元）注　唐袋綴　改裝後補紺表紙　二六・五糎 一六・五糎

間紙を挟む　原寸二三糎一五糎　四周單邊二〇・五糎一三・五糎　有界十一行小雙行二十九字　柱刻黑口「勻玉　七(九)(丁數)」
(明版　巻七・九を存す　巻七第二十五丁以下、及び巻九初二十三丁闕丁　八三一イ四七)

新編篇韻貫珠集　三十巻首巻二巻　十二冊　一八二六

清泉眞空(明)著　弘治歲次戊午仲秋南呂劉聰序　唐袋綴　茶色表紙　三六糎二一四糎　四周雙邊二九糎一八・五糎　有界十行十六字小雙行　序題「重刊檢篇韻貫珠集」　總目題書名同　柱刻白口「貫珠集・序・新篇序・篇序・韻一(—十五)　指南(部首)　門法・韻序・篇一(—十五)　(丁數)」、「西莊文庫(小津桂窓筆「月百六十六全十二」と墨書せる紙箋に捺印)」「森氏藏書」
識語　(第十一冊)　万治二季七月七日　鳥神宮寺保秀(墨印)
(明版　第一冊　總目に續いて「支提山比丘大遷主緣麻沙江甫鋟　萬曆旃蒙協洽之歲月中無射徐烱重刊五音篇韻序」、「正德十五年庚辰秋八月望後滕霄重刊改併五音類聚四聲篇海集韻序」、「泰和八年歲在強圉單閼律逸無射昏六日韓道昇重編改併五音篇序」のある「泰和增改併類聚五音篇序目巻第一」、「萬曆己丑重刊改併五音類聚四聲篇海總目録」、「新集背篇列部之字補添印行(大金丙辰竇慶進補添　大明辛卯五月端陽日刊完)」、「辛卯重編增改雜部」末に「崇慶己丑新集雜部至今成化辛卯刪補重編卷」とあるものを所収　第二至六冊の内題「大明萬曆己丑重刊改併五音集韻上平聲(—入聲)巻第一(—十五)」とあり　第二冊内題の次行に「滹陽松水昌黎郡韓道昭改併重編」第六冊末に「大明萬曆甲午春日重刊五音集頌至丙子孟秋吉日完」とあり　第七冊「至元二年歲在丙子良月劉鑑經史正音切韻指南自序)　柱刻に「王朝」の刻工名存)」同指南本文末に「前略己酉年來敝篡成／信官汲祐刊」「正德八年歲次癸酉菊月吉日邨夏玄直指玉鑰匙門法序」、末に「王朝刊刻」「崇慶元年歲在壬申姑洗朔日韓道昇至元庚寅重刊改併五音集韻序」「崇慶元年歲在壬申姑洗朔日韓道昇至元庚寅重刊改併五音集韻目録」を存せる「萬曆巳丑重刊改併五音集韻」題、「至元庚寅重刊改併五音集韻目録」を収む　第八至十二冊の内題「大明萬曆己丑重刊改併五音類聚四聲篇巻第二(—十五)」とありて、第八冊内題の次行に「滹陽松水昌黎郡韓孝彥次男韓道昭改併重編」、第十一冊末に「福建支提山華藏寺末學僧如啓募化建寧府建陽縣」として以下化緣を列し「以上衆信喜捨資財刊刻四聲篇十巻之十二巻壹完上報下略一」とあり　八三一イ三七)

禪語類聚　寫　一冊　一八二七

袋綴　表紙闕　二七糎一九・五糎　四周單邊二四・五糎一六糎　有界十行小雙行九十七丁
(室町時代末期寫　書名は帙題簽岡田眞筆「禪語類聚　室町時代一學僧ノ私聚カ今私ニ上ノ如ク題ス禪苑語類トスヘキカ眞」とあるに從ふ　八三一イ四二)

増修互註禮部韻略　五巻　五冊　一八二八

丁度(宋)著　毛晃(宋)増注　毛居正(宋)校勘重増　紹興三十二年十二月日毛晃擬進増修互註禮部韻略上表　唐袋綴　改裝後補朽葉色表紙　用紙裏打　二七糎一六・五糎　左右雙邊二一糎一三・五糎　有界十一行小雙行　外題左肩黑「毛晃　一(—五)」　柱刻黑口「毛韻(韵)一(—五)　(丁數)」、「西莊文庫(小津桂窓筆「月百四十八全五」と墨書せる紙箋に捺印)」「桂窓」
刊記　(巻一末雙邊木記)　至正乙未仲夏／日新書堂重刊
(元版　内題の次行に「衢州免解進士毛晃增註／男進士　居正挍勘重増」とあり　八三一イ三三)

増修互註禮部韻略　五巻　十冊　一八二九

丁度(宋)著　毛晃(宋)増注　毛居正(宋)校勘重増　紹興三十二年十二月日毛晃擬進増修互註禮部韻略上表　唐袋綴　改裝後補銀切箔散紺表紙　間紙を挟む　二四・五糎一六・五糎　左右雙邊　二一糎一三・五糎　有界十一行小雙行　題簽左肩茶色紙後筆「禮部韻略　二(—三・五)(一・四剝脱)」　柱刻黑口「毛韻(韵)一(—五)(丁數)」、「曼珠圖書之印」「愚齋圖書館藏」等
刊記　(巻一末雙邊木記)　太歲丙午仲夏／秀岩書堂重刊
(明版　内題の次行に「衢州免解進士毛晃增註／男進士　居正挍勘重増」とあり　八三一イ三六)

山梨稲川集　寫　二十二冊　(一八四〇—一八四三)

山梨稲川著　自筆

（ビブリア第十五號所収小川環樹「山梨稲川の説文学の著述」―参照　八三一―イ五）
所収細目次の如し

*文　緯　四巻（第一至四冊）　一八四〇

袋綴　薄茶色表紙　用紙薄様　二六糎一九・五糎　四周單邊二二糎一六糎　有界九行三段配字小雙行　題簽左肩「（書名同）甲（―丁）」各冊右肩に「廿貳番」と記す　柱心「（丁數）」、「観生盧」「湯淺氏圖書記」「三階廼屋藏書之印」「栢園藏印」
（第一冊題簽同目録題共に文緯乙とある乙字の上に甲と書す）（重美）

*文　緯　略　二十七巻（第五至十二冊）　一八四一

壬午歳十月自序　袋綴　毘沙門格子押文青表紙　用紙裏打　二三・五糎一六・五糎　四周雙邊（刊）一八糎一三糎　有界十行三段配字小雙行　題簽左肩雙邊（刊）「（書名同）甲（―壬癸）」　柱心「（丁數）」、「柳陰齋圖書記」「中村藏書」
（第一冊見返中央に「文緯略」右に「文政壬午新纂」左に「華圃精舎」及び朱字印形を書す）

*文　緯　略　二十七巻（第十三至二十冊）　一八四二

壬午歳十月自序　袋綴　茶色表紙　二三・五糎一六糎　四周雙邊一八糎一三糎　有界十行三段配字小雙行　題簽左肩單邊「（書名同）甲（―壬癸）」　柱心「（丁數）」、「笹野氏圖書記」
（第一冊見返中央に「文緯略」右に「文政壬午新纂」左に「華圃精舎（印）」）（重美）

*諧　聲　圖　（第二十至二十二冊）　一八四三

文政癸未六月自序　袋綴　薄卵色表紙　二六・五糎一八・五糎　七行小雙行　題簽左肩單邊「（書名同）自甲至丙（―自丁至壬）」　扉題同上
（第二冊見返中央に「諧聲圖」右に「文政癸未新纂」左に「華圃書樓藏」と書す）

○

字　貫　四十巻　四十冊　一八四四

王錫侯（清）著　劉正豫（清）参閲　乾隆三十九年長至月自序　乾隆四十年歳次乙未三月上巳日自跋　唐袋綴　薄茶色表紙　二四糎一五糎　四周雙邊一八糎一二・五糎　八行二十四字小雙行　外題左肩後筆墨「字貫總目録書（第一冊のみ）」　柱刻「（書名同）自序（凡例・總目・参閲姓氏・跋・檢字總目・檢字法・檢字畫數・辨似）天（―霜）（所収目）（丁數）」、「河東中氏守藏之記」等
刊記　（第一冊見返）乾隆乙未新鐫／吉安府金蘭堂藏板
（第三十七至四十巻は「字貫檢具」　八三一―イ二）

西儒耳目資　四冊　闕　一八四五

金尼閣（Trigault, Nicolas）著　韓雲（明）詮訂　王徵（明）校梓　天啓六年丙寅夏五月癸亥日張問達刻西儒耳目資序　天啓丙寅歳春月之吉王徵序　天啓五年元日韓雲序　張緬芳刻西儒耳目資序　王徵釋疑　天啓丙寅孟春望日自序　唐袋綴　改裝後補薄茶色表紙　間紙を挾む　二七糎一七・五糎　四周雙邊二四糎一四・五糎　有界十二行二十字　題簽左肩後補雙邊墨「（書名同）天（地・玄・黄）」　柱刻「序・目資序・耳目資釋疑・譯引首譜目録・自序・譯引首譜活圖（總局・全局・問答・切法・兌攷・問答・篇海・目録）（丁數）」
刊記　（第一冊目録末木記）天啓丙寅孟春望日／了一道人良甫梓行
（明版　譯引首譜のみ存す　八三一―イ三）

大廣益會玉篇　三十巻　四冊　一八四六

顧野王（梁）著　陳彭年（宋）等重修　序　進玉篇啓　袋綴　濃茶色表紙　二八糎一八・五糎　四周單邊二三糎一六糎　有界八行五段配字小雙行　題簽左肩後筆「（書名同）目録凡三十巻巻從一十マテ（―巻從十一二十マテ）」（第四冊闕）　柱刻「玉序（指南・目）三（―十）（丁數）」
刊記　寛永八年辛未／季秋吉旦新刊
（附訓本　第一冊は總目　八三一―イ一九）

大廣益會玉篇　三十卷　五冊　一八四七

顧野王(梁)著　陳彭年(宋)等重修　序　唐袋綴　改裝後補菊花文臘箋薄紫表紙　用紙裏打　一八五糎一二糎　左右雙邊一五・五糎一〇糎　有界十一行五段配字小雙行　柱刻黑口「玉序(一目)　一(一十)(丁數)」　(元版　總目第二・三丁亂丁、第六丁半丁闕、巻一第十一丁闕、巻七第四丁及第五・六丁半丁闕、巻十第三・四・五・六各半丁・第七丁闕、巻二十五第二・三丁闕　八三一—イ三五)

梵語

梵字伊呂波　寫　一冊　一八四八

袋假綴　改裝共紙包表紙　用紙裏打　一三・五糎二一・五糎　十三行　二十三丁　外題中央書名同(「伊呂波」の三字梵字)　内題なし　奥書　為初心童子注之以抄物一見之次雖注之定猶誤多欤更以不可及外見者也　(室町時代初期寫　八二九・八一—イ)

梵字形音義巻第四　寫　一軸　一八四九

明覺著　豪覺筆　巻子本　改裝後補金銀切箔散茶色雲紙表紙　用紙裏打　二七・五糎一〇米四五糎　天地單邊二二・五糎　一紙五四糎　有界約二十九行約二十字小雙行　奥書　保安三年五月廿七日書寫了　豪覺／一挍了　(朱)　同年六月二日移點了　(全巻朱点を施す　原に「木朝承徳二年歲次戊寅八月十五日庚寅賀州隱者／明覺拾天竺大唐諸家悉曇以立章門撰／新譯古譯普通聲韻而明字音或檢／經論出其音旨則異世人之所知或披梵／文明彼躰例亦非經疏之所載淺識。視之定／致謗毀以示同門莫經外見焉」と奥書あるものの寫　各紙裏繼目に花押あり　松本文三郎著「佛教藝術とその人物」所収「賀州隱者明覺と我邦悉曇の傳來」—参照　八二九・八一—イ三)(重文)

英語

ゑんぎりしことば　二巻　合一冊　一八五〇

清水卯三郎著　まんえむかのへさるのとしうづき自序　袋綴　縹色表紙　一五・五糎一一糎　四周單邊一二糎九・五糎　十二行　五十六丁　題簽左肩雙邊剝脱　柱刻「(丁數)」、「忍頂寺藏書印」　(八三三—イ三)

ドイツ語

袖珎孛語譯嚢　一冊　一八五一

壬申秋九月自題辭　洋綴　茶色布背厚紙表紙一九糎一二糎　四周單邊一四・五糎八・五糎　序四頁本文四百九十九頁　扉題書名同　同"DEUTSCH-JAPANISCHES/TASCHENWORTERBUCH./ZUM GEBRAUCHE/für/SCHULER, KUNSTLER, REISENDE/UND AUSWANDERER."、「宮部壺吉」　刊記(扉)　明治五年新鐫／瓊浦出島齋藏本新塾活版　(扉題下)　ERSTE DRUCK./NAGASAKI:/FUNFTE JAHR MEIDI.　(長崎版　八四三—イ)

オランダ語

〔ハルマ辭書譯稿〕　寫　一軸　一八五二

高野長英譯　自筆　掛軸　五〇糎　原寸二五・五糎三七糎　四周單邊二〇・五糎一三糎　横罫紙十五段　(原袋綴の「g」部一丁を見開に貼附、右下に丁數「十六」とあり、原物の下に「是は／高野長英自筆／ハルマ辭書中の／一葉なり／昭和丙子春陽／七十五翁／曽祢長運(印)」とある一紙を貼附す　八四九・二—イ五)

文學

日本文學

文學者傳記

附属名言篇 寫 一冊 一八五三

高良齋譯著 自筆 袋綴 改裝後補澁刷毛目表紙 原裝共表紙 用紙裏打 二二糎一五糎 七行 三十二丁 題簽左肩呉秀三筆「高良齋 和蘭文法附属名言篇」 原外題中央書名同、「呉氏文庫」「呉氏藏書之印」 （内題「附属名言及性篇」とありて「及性」の二字を消す 右下に呉秀三筆「高淡譯 芳溪臨摹」と書す 八四九・二―イ二）

和語 并 羅甸語集 寫 一冊 一八五四

田中貞純著 大野醇亭增補 文政二己卯七月十四日貞純自序 袋綴 毘沙門格子飛雲浮出薄茶色表紙 二二・五糎一六糎 十行 百二十丁 題簽左肩雙邊（刊）「蘭語呼聚 全」 序題同上 柱心「（イロハ見出・丁數）」 小口書「Saamen Woord Boek.」 （内題の次行に「駿府 董齋田中貞純菅中輯録／大野醇亭增補」とあり 上段に羅甸語伊呂波順片假名書、下段に日本語譯を記す 八四九・二―イ三）

ロシヤ語

ろしやのいろは 一冊 一八五五

マーホフ・イワン（MAXOB, ИВАН）著 袋綴 改裝後補松葉模様萠黄色表紙 用紙裏打 二二糎一五糎 四周單邊一九・五糎一二・五糎 横書九行 十丁（丁附算用數字と併記して二十頁） 刊記 （扉）萬延二年／ハコダテ／千八百六十一子ン （巻末第二十頁）奥州箱舘住／常木重吉工 （八八〇―イ一）

伊波傳毛の記 寫 一冊 一八五六

瀧澤馬琴著 文政二年己卯十二月十二日自序 澁刷毛目布目表紙 二四糎一六・五糎 十行小雙行 三十五丁 外題左肩小津桂窓筆「（書名同）全」 扉題「秘籍／實錄／（書名同）」 （自序に「江戸 无名氏稿」とあり 原に「是編己卯冬十二月十二日起草至十五日三更／今夜／卒業倉卒之際聊亦加挍正焉此其稿本□／唯以擧事實故不得曲筆飾文也自非趙／氏之賢董狐不能免矣宜秘藏者」と奥書あるものの寫 表紙右肩に小津桂窓筆朱書「ト」 九一〇・二八―イ一）

尾崎紅葉書翰集 寫 三通 一軸 一八五七

尾崎紅葉著 春水宛 自筆 巻子本 唐草文鶯茶色綾表紙 見返金砂子散 臺貼二六糎四米二七糎 題簽銀紙無記 識語 （巻末別紙）（巌谷小波筆）ひろひ得て紅葉めつるや掌（印） （廿六日朝・十月十二日・廿二日夜半附 九一〇・二八―イ三）

曲亭馬琴日記 寫 八冊 一八五八

瀧澤馬琴著 自筆 袋大和綴 改裝後補唐草織文鶯色綾表紙 原裝共表紙 用紙裏打 二四・五糎一七糎 約十九行 題簽中央後補「曲亭馬琴自筆日記 文政十年ノ一／二三（―文政十二年の四九十一十二月）」 原外題（第一冊）「雅俗日記 四（右に）文政十丁亥年四月」 （左に）春正月吉日」（第五冊）「己丑日記（右に）文政十二年（左に）春正月吉日」

第四・八冊原裏表紙「神田瀧澤」　内題なし
（原裝一年分一冊を四冊に分冊改裝　第一冊文政十年一至四月、第二冊同四至七月、第三冊同七至十月、第四冊同十至十二月、第五冊文政十二年一至四月、第六冊同四至六月、第七冊同六至九月、第八冊同九至十二月　文政十年閏六月十七日至九月二十三日は宗伯代筆　九二〇・二八―イ一七）

壬申掌記　寫　二卷　二冊　一八五九

大田南畝著　自筆　袋綴　薄縹色表紙　二〇糎一二・五糎　四周單邊一五糎九・五糎　八行罫紙　外題左肩「（書名同）卷上（下）」　内題上卷なし　下卷書名同（卷中を消して卷下とす）　綴目（刻）「杏花園」、「南畝文庫」「大田氏藏書」「高嶋書屋」
奥書　（下卷裏見返）壬申孟夏廿一日より／冬にいたる
（上冊初行「文化九年正月十一日」、下冊「四月中旬」より記事あり　帙裏に「大正乙丑初夏求之　松莚（印）」とあり　九二〇・二八―イ五）

新聞雜誌執筆者一覽　寫　一冊　一八六〇

各自筆　明治三十五年調成　假綴　濃緑表紙　一七糎二三糎　「新聞雜誌文學上執筆者（社員、主ナル寄書家）」と標記し、氏名・別號・生年月日・鄉里・住所若クハ所屬學校・主ナル著作略歷の各欄ある用紙　二十七丁
（巖谷季雄・石橋助三郎・石橋辻五郎・内ケ崎作三郎・江見忠功・尾上八郎・角田勤一郎・香取秀治郎・神谷德太郎・清澤滿之・草村松雄・畔柳都太郎・國府種德・後藤寅之助・齋藤謙藏・佐々政一・阪井辨・塩田力藏・薄田淳介・高山林次郎・田村昌新・鳥谷部銑太郎・長谷川誠也・平尾德五郎・深田康算・前田次郎・松崎市郎・村上俊藏・森田義郎・柳川專之・他に別紙に登張信一郎・佐々木信綱あり　九二〇・二八―イ一九）

後の爲の記　寫　二冊　一八六一

瀧澤馬琴著　天保六年八月朔自序　天保六年といふとしのうるふ七月二十六日自跋　袋綴　薄墨色布目表紙　二六・五糎一八・五糎　序七行本文十行　題簽左肩雙邊（刊）馬琴筆「（書名同）瀧澤家書　上（下）卷」
（上冊表紙右肩に小津桂窓筆朱書「ト」　全卷馬琴筆朱墨校正あり　第一冊見返に馬琴筆「晋上　著作堂拜具／寫本貳卷／桂窓大人」と書せる紙片を貼附　別に馬琴筆「後の爲の記」と題簽したる包紙を附す　又別に馬琴筆六月廿一日附桂窓宛・同別書翰計二通を添附す　第二冊末に七月七夕附「同好知音之益友木村黙老翁手簡」の寫を載す　九二〇・二八―イ九）

叢書・合集

現代文人卷頭原稿集　寫　一軸　一八六二

卷子本　各自筆　朽葉色波文緞子表紙　二八糎一五米八〇糎　各種原稿用紙貼交
題簽後補書名同
（各種原稿の卷頭數頁分を集む　九二〇・八―イ三）　所收次の如し
武者小路實篤「トルストイ（上）」・德田秋聲「會食」・加能作次郎「お千代の話」・馬場孤蝶「世態と文藝の交涉」・菊池幽芳「井の底の人魚（一四）」・中村武羅夫「流れ行く……」・佐藤春夫「車中の美人」・三木露風「星の瞬き」・中川一政「鷹の巢」・食滿南北「オンセンス」・片岡鐵兵「微妙な貸借」・今春聽「京都雜稿」・中河與一「眞情」・武林文子「一九三二年の母」・行友李風「褒を嚥む女」・上司小劍「緑蔭に語る」・谷崎精二「初夏の感想」・阿部知二「プレイ・スクエア」・大佛次郎「仲間同志」・谷讓次「ギャングの効用」・林不忘「口笛を吹く武士」・廣津和郎「五年經つたら」・細田源吉「くうぽん・わいふ」・中村正常「寶石のやうな目」・牧逸馬「牧家の系図」・吉川英治「春日書齋開放」・小泉苳三「旅」・青野季吉「直木三十五論」・村松梢風「名人喜八」・岡田禎子「仲人をした新聞紙」・小川未明「ふるさと、小鳥」・北原白秋「松の内」・岡本綺堂「鼠」・池谷信三郎「親切の功罪」・森曉紅「遺りたがり上戸」・佐々木味津三「武藤太平太」・子母澤寬「弥太郎笠」・土師清二「敵討淺草心中」・長谷川時雨「今日の氣持」・長田幹彦「處女生命線」・窪川いね子「失業と……」・楢崎勤「婚約と拳闘」・森下雨村「幽靈の指紋」・平山蘆江「賣菜的錢」・直木三十五「益滿休之助第十二回」・室生犀星「山鳩と尺八」・本山荻舟「鍋物雜考」・北村小松「商賣第一主義」・矢田津世子「女教師」・瀬戸英一「横戀慕」・三上於菟吉「街の暴風」・大田洋子「侯爵のからだ」・鍋井克之「もてる」・木村毅「オリンピック羅府のメキシコ娘」・田

中貢太郎「怒」・正木不如丘「ゴムの焦げる臭」・竹田敏彦「和製『シラノ』」・サトウハチロー「その女」・長谷川修二「H海岸のヘレン」・久野豊彦「鯱を掃除する男」・邦枝完二「北國五色墨」・龍膽寺雄「踵」・水守亀之助「期節の隨筆」・井伏鱒二「猫柳の花」・平林たい子「信州の女學生」・内田百間「百鬼園小什・ある僧」・宇野浩二「椎の木の家」・長谷川伸「おまん戀供養」・吉田絃二郎「冬來れば」・相馬御風「雪の足跡」

難波詞林　寫　十七冊追加三冊雜記二冊　一八六三

今枝直温編　自筆　元禄十五歳次壬午三月穀旦自序　寶永四歳次丁亥七月十四日小川安貞跋　（詞林）寶永庚寅初夏下旬自跋　（追加）正徳元年歳次辛卯仲冬初旬自跋　（雜記）正徳二のとし月は神無月の仲比今枝直方跋　袋綴　灰汁色無地（又は白茶色唐草模様等取合）表紙　二四糎一八糎　十一行　題簽左肩「（書名同）序跋目錄（首・天・地・風・雲・龍・虎・鳥・蛇・尾）　一（―六）」（追加）「上追加（―下）」（雜記）「雜記波花詞林天（―地）」　内題なし、「寛鼓齋」等

（詩文部十一冊内序跋目録一冊・和歌連歌部六冊・追加部三冊・雜記二冊より成る　雜記は今枝直温著今枝直方編同上筆　九二〇・八―イ五）

和歌

謌枕名寄　寫　三十八巻　十二冊　一八六四

澄月著　袋綴　茶色表紙　二五・五糎一九糎　用紙色替紙　十行　題簽左肩「山城國　一二三四五巻（―以下國名巻數）」、「西莊文庫（小津桂窓筆「花廿五全十二」と墨書せる紙箋に捺印）」

（江戸時代初期寫　第一冊巻初に「乞食活計客澄月撰」とあり　九二一・二―イ一六一）

詠歌大概　寫　一冊　一八六五

袋綴　菖蒲文金襴茶色表紙　見返布目金紙　一六糎二二糎　十四行　十五丁

奥書　冷泉爲元卿宗清直相傳似以實本／寫早

（室町時代末期寫　「山崎住人宗鑑詠歌大概」の古筆極札を附す　九二一・二―イ一七一）

詠百寮和歌　寫　一冊　一八六六

高大夫實無著　自跋　袋假綴　茶色包表紙　二二・五糎一七・五糎　十三行　十五丁　題簽中央「百寮和歌」、「曼珠圖書之印」

（室町時代末期寫　内題の下に「高大夫實無」とあり　九二一・二―イ一六九）

古來風躰抄　寫　二巻　一冊　一八六七

藤原俊成著　綴葉装　金銀波文表紙　見返金紙　用紙鳥の子　二三糎一五糎　約九行　百六十八丁、「西莊文庫（小津桂窓筆「花廿五全一」と黒書せる紙箋に捺印）」

（室町時代末期寫　九二一・二―イ一四九）

古六家集　寫　二冊　一八六八

袋綴　毘沙門格子地金泥下畫緑色表紙　用紙鳥の子　二七・五糎一九糎　九行　外題左肩「（書名同）　上（下）」　序題「（書名同）上」　内題なし、「子孫永保・雲煙家藏書記（藍印）」「西莊文庫（小津桂窓筆「花百五十一全二」と墨書せる紙箋に捺印）」

（江戸時代初期寫　原に「右摸六義之古風編一巻之新／篇欤牡丹花撰定也學者常／可握翫而已／天文元年臘月下浣候／入道前中納言藤在判」と奥書あるものの寫　後京極殿秋篠月清鈔・慈鎮和尚拾玉鈔・俊成卿長秋詠藻・西行法師山家鈔・定家卿拾遺愚草・家隆卿壬生二品鈔を所収　九二一・二―イ一六七）

左千夫の歌　二　寫　一帖　一八六九

島木赤彦著　自筆　折本　改装後補藍鐵色表紙　二六・五糎一九糎　四百字詰松屋製朱罫原稿用紙九枚を見開に貼附　十一折　題簽左肩後補「左千夫の歌島木赤彦自筆草稿」

（巻初に「明治三十三年の部　つづき」とあり　九二一・二―イ一四五）

井蛙抄　寫　六巻　一冊　一八七〇

頓阿著　宋心筆　袋綴　改装後補栗皮色表紙　二七糎二〇・五糎　十六行　六十

二丁　内題なし、「青谿書屋」
奥書　右之本難見分文字等在之老眼といひかれこれあやまり／のミなるへし然共道の志はかりニ書写候也自然見わけ／られん御方は可被入筆者也／大永七年四月廿五日　六十五歳也　宋心（花押）
（原に「□蛙抄都合六巻以頓阿自筆之本令書寫之加數反挍合早／寛正二年六月廿五日甲午／洛陽東山隱士金剛資圓雅」、「此抄者。秘之中秘。深之中深也。爰左近大夫。平常縁／云累代之作者。云當時之數寄。依此道之懇志／不淺多年之芳契甚深。令附与之訖」と奥書あるものの寫　巻一末「常縁在判」、巻五末「常縁在判」とあり　九二・二―一五）

勅撰名所和歌抄出　寫　二巻　二冊　〔八七〕

宗碩著　泉藏坊筆　袋綴　茶色表紙　二五・五糎二〇糎　十行　題簽中央「勅撰名所和歌集」（下冊左肩闕）、「西荘文庫（小津桂窓筆「花廿五全二」と墨書せる紙箋に捺印）」
奥書　任御所望乍老筆如證本書寫畢／河崎村田次郎右衛門尉殿參／天正四年丙子九月廿日　泉藏坊三十書之
（原に「此勅撰名所和哥爲連歌用意宗碩法師抄出之分而／爲上下二冊所謂芳野山詠花龍田川題紅葉之類／其數不可勝計略而任一兩首於詠殊景物等者書／加之凡連哥付合事至續後撰集可用本哥之由／去年重而伺天氣令治定畢於作例者至新續古今／集可引用之間今所載此抄也錯乱漏脱事等猶／可加取捨云々予一覧之次聊録大綱而已／永正丙寅　林鐘上澣　槐陰散人判」と奥書あるものの寫　抄出和歌右肩に出典歌集名を朱書　九二・二―一五）

宜風に与ふる消息案　寫　一軸　〔八八〕

橘千蔭著　高井宜風宛　自筆　巻子本　改装後補納戸色絹表紙　見返金砂子散用紙裏打　二四糎三米九一糎　端書書名同、「芳宜園藏」
（もと二四糎一六・五糎袋綴十枚を現巻子本に改装す　塗抹訂正多し　九二・二―一三）

阜上偶語　寫　一帖　〔八九〕

島木赤彦著　ペン書自筆　折本　改装後補鐵色表紙　二六・五糎一九糎　四百八十字詰松屋製青罫原稿用紙七枚を見開に貼附　八折　題簽左肩後補「（書名同）島木赤彦自筆草稿」
（九二・二―一五七）

僻案抄　寫　一冊　〔八九〇〕

藤原定家著　綴葉装　菱花織文濃縹色表紙　用紙斐紙　二四糎一五・五糎　十行　五十三丁　題簽左肩金銀泥下畫臘箋書名同　内題なし
（鎌倉時代中期寫　原に「徃年治承之比古今後撰兩集受庭訓／之口傳年序已久雖恐忽忘先達古賢／之所注後代之所見猶非無其失恐依耻／管見謬説故不載紙筆今迫耄及之／期傾餘喘之愚至于愚老之没後爲／散遺孤之蒙昧抽寂密之所染筆／也更莫令他見／戸部尚書」と奥書あるものの寫「僻案抄全部一冊／爲家卿筆無疑者也／正德元年仲夏下旬古筆了音（印）／外題／下冷泉大納言持爲卿」「爲家卿筆／僻案抄全部一冊／代金十五枚／正德五年仲夏下旬古筆了音（印）」とある折紙を附す　九二・二―一六五）（重美）

八雲抄　寫　六巻　六冊　〔八九一〕

順徳天皇御撰　自序　袋綴　雲紙表紙　用紙斐紙　二六・五糎二〇糎　約十一行　小雙行　題簽左肩紅紙「（書名同）二（―六）助」（第一冊闕）、「圓融藏」「竪胤之印」「加持井御文庫」
識語　（第一至三冊）校了
（第六冊）校合早
（江戸時代初期寫　九二・二―一三）

八雲抄　寫　六巻　六冊　〔八九二〕

順徳天皇御撰　自序　袋綴　砥粉色表紙　二六糎一九・五糎　十一行　題簽左肩黄紙「八雲抄　第一（―第六）」、「久迩宮文庫」
（室町時代末期寫　九二・二―一四七）

類字名所和歌集　七巻　七冊　一八七

里村昌琢著　元和三暦仲秋下旬自跋　袋綴　改装後補華文摺出蒲小豆色表紙　二七糎二〇・五糎　十一行人名雙行、「三井家」（古活字版　寛永期刊　第三種本　巻初「廿一代集部立次第」一丁整版　内題の下に「廿一代集拔書伊（―惠）行」とあり　九二・二―一五五）

六家集　寫　十四冊　（一八七―一八三）

袋綴　茶褐色表紙　用紙斐紙色替　二五・五糎一九糎　十行、「西荘文庫（小津桂窓筆「花十八全十四」と墨書せる紙箋に捺印）」（江戸時代初期寫　九二・二―一六三）　所収細目次の如し

*秋篠月清集　三巻（第一冊）　一八六

後京極良經著　百二十七丁　外題中央書名同　外題右肩朱押紙「後京極」　内題「式部史生秋篠月清集」（原に「本云是御平生之時所被注置之本也夢彼書／留之粗／一見了御本忩返上之間不見／中書之草字誤無極不暗覺事不／能直付／安貞二年五月二日」（朱書）「承久三年十一月廿六日書写早／權大納言藤原在判」と奥書あるものの寫）

*拾玉集　五巻（第二至六冊）　一八七

慈鎮著　外題中央「（書名同）一（―五）」　外題右肩朱押紙「慈鎮和尚」　内題なし（原に第一冊「祖師大乘院贈一品大王令類聚給以拾玉集／正本遂挍合了／文明三年三月四日記之判尊應／自室町殿所令拜領之一部　五帖也内也／遍照金剛尊應在判」、第二冊「從室町殿恩賜之五冊一部／准三宮御判」、第四冊「依大樹准三后嚴命以祖師贈一品大王／御類集之正本五冊一部書進之時／爲其御報謝所替給之本／一部五帖之内也／延暦寺前住尊應記之」、第五冊「此拾玉集申請竹内門跡御本七冊書写之處／不審繁多仍申出青門御本五冊比挍之処／至四巻之中程其□不足如今以彼御本書加／冊數等改之可爲證本者也」と奥書あるものの寫）

*拾遺愚草　三巻（第七至九冊）　一八〇

藤原定家著　外題中央「（書名同）上（―下）」（版本を以て朱書挍合あり）

*長秋詠藻　三巻（第十冊）　一八一

藤原俊成著　六十四丁　外題中央書名同　外題右肩朱押紙「俊成卿」

*玉吟集　三巻（第十一至十三冊）　一八二

藤原家隆著　外題中央「（書名同）上（―下）」　外題右肩朱押紙「家隆卿」（原に中冊「御本云　鷹司殿御本／書写本頗狼籍也是以東宮御本被写之而若／書写之時誤欤尤可挍證本也　／慶長十一年七月十二日粗見合了不及委細也／此御本上巻ニ百首五つ下巻ニ四季許也／此外恋雜等不見不審／慶長十一七十二同席　也足在判」（朱書）「玉吟集／以御本見合了同不及委細也」、下冊（朱書）「禁御本玉吟集奥書也依繁用墨字了　慶長十一七十二記之也足在判」「寛元三年冬比任彼家草大概注置之此中有不審／叓等又漏脱哥定多欤追有尋出事者重可注／入者也／此集内之私所撰置也本主不部類置之間爲末代／明鏡所書置也／九條前内相府」「以正本書写一挍早自元字無四度斗事在之／建長六年十一月廿三日五十二老比丘眞觀／同月廿六日一見即付薄様早」「本云建長七年正月十一日以眞觀房本書写早已上如本」と奥書あるものの寫　上冊巻初に家隆卿傳及び「禁御本古筆色々帋打布目／家隆卿家集上但御本無目六下略」とあり）

*山家集　三巻（第十四冊）　一八三

西行著　百三十四丁　外題中央書名同　外題右肩朱押紙「西行上人」（原に「以上哥數千五百五十三首／本云　一千五百七十二首云ミ／凡此書本落字僻字太多之亦不審哥／繁多也志可挍證本／今山家集之外又有山家心中抄彼略／抜此集内書出者也下略」と奥書あるものの寫）

和謌初學抄 寫 一冊 一八八四

藤原清輔著　綴葉裝　華龍織文縹色表紙　見返金銀切箔地秋草花畫　用紙斐紙　二五糎一五・五糎　八行　百四十三丁　題簽左肩下畫書名同　見返同畫

（鎌倉時代中期寫　奥に本文に異筆「文永五年菊月日書寫之／以付屬大夫爲相者也／桑門融覺（花押）」とあり「和謌初學抄全壹冊／御子左爲家卿筆／外題　冷泉爲綱卿筆／代外題持明院基輔卿筆／四半本／紙數百四拾三枚内白紙貳枚／本之目百三拾九匁」の極札　又別に古筆琴山の「爲家卿」の極札を貼附す　本文所々出典歌集・地名等を朱書左注す　川瀬一馬著「古辭書の研究」一參照　九二・二―イ一五三）

和謌初學抄 寫 一冊 一八八五

藤原清輔著　綴葉裝　玉取獅子織文薄緑表紙　見返金銀砂横雲模様　用紙斐紙　二二糎一四・五糎　八行　百五十八丁　題簽左肩金砂散丹絹書名同

（鎌倉時代中期寫「これはちかきわたりをしらんれう／なりなに事もくハしくひきも／みすたゝおほゆるハかりをかたは／しつゝかきいてたる也これにて／のこりの事ハをしハかりつへし／嘉應元年七月日依殿下仰抄出之」の跋文を具ふ　原に「右大臣在御判／清輔朝臣依攝政命所抄出也即彼／朝臣自筆本也此事於和哥之道／尤爲要須深秘窓中莫出閫外努／〳〵（花押）」「本云以清輔朝臣自筆本終書功遂／校點早又万葉哥等不審詞／者勘彼集令散蒙而已／建長七年八月三日／朝議大夫源朝臣在判」「又云正嘉元年五月十九日重以正本校合早」と奥書あるものの寫　古筆了音の「二條家爲氏卿筆　表題妙法院堯延御筆」の極札あり　九二・二―イ一五五）

和哥披講之譜 寫 一軸 一八八六

巻子本　改裝後補黄華文縹色絹表紙　見返金銀砂子横雲模様　三八・五糎一米五三糎　内題別紙繼紙本文同筆書名同

（室町時代中期寫　巻初に「和歌披講博士飛鳥井同前冷泉自乙出之」とありて「君か代」の歌を甲乙二體に書す　朱墨譜章を附す　九二・二―イ一四三）

上古及奈良時代和歌

槻廼落葉 日本紀歌之解 寫 三巻 三冊 一八八七

荒木田久老著　自筆　袋綴　布目水色表紙　二六・五糎一八・五糎　八行小雙行

題簽左肩單邊（刊）「槻廼落葉　上（―下）」、「村岡典嗣藏書（紙票）」

奥書　（上冊）寛政十戊午年五月八日考終

（中冊）寛政十一己未年四月晦日於京師旅寓考／畢

（下冊）寛政十一己未年七月於愛宕郡眞葛原／之旅寓考畢　久おい（花押）

（九二・二―イ一五）

日本書紀謠歌 寫 一冊 一八八八

内山眞龍著　自筆　袋綴　菊花文臘箋肉色表紙　用紙裏打　二七糎一九・五糎

九行　四十五丁　題簽左肩「日本紀謠歌」、「倉野藏書」

（九二・二―イ一三）

○

撰集萬葉鈔 寫 三巻 三冊 一八八九

田中道麿著　袋綴　青表紙　二七・五糎一九・五糎　十二行　題簽左肩雙邊（刊）「（書名同）　上（―下）」　黄紙副題簽に抄出歌集名を記す（第一冊）「古今集至新古今」（第二冊）「新勅撰至玉葉集」（第三冊）「續千載至新續古」、「青谿書屋」

（原に「右上中下歌數　五百八十一首内長哥七首旋頭哥五首／天明元年丑四月　田中道麿述」と奥書あるものの寫　上巻内題の下に「田中道麻呂述」とあり　九二・三―イ七）

東語例 寫 一冊 一八九〇

物集高世著　自筆　慶應元年十二月序　袋綴　雲龍押文薄青表紙　二六糎一八・五糎　十行小雙行　五十五丁　題簽左肩闕　見返黄紙「物集高生先生著／東語例／稚廼舍藏」、「桃華盦」、「藤浪氏藏」、「乾々齋書屋（紙票）」

（九二・三―イ七）

万葉考　寫　二卷　二冊　闕　一八九一

賀茂眞淵著　自筆　袋綴　菱花文散納戸色布目表紙　二七・五糎一八・五糎　約八行小雙行　題簽左肩「（書名同）　卷一（二）」　内題「万葉集　卷一（二）之考」

奥書　（第二冊）寶暦十年十二月賀茂眞淵記、万葉集卷二之考終

（卷一・二を存す　白墨塗抹訂補頭注書入附箋等多し　卷一見返に「書写の例」あり「萬葉」第二十號所収中村幸彦「萬葉考自筆の一稿本」、ビブリア第十五號所収千田憲「著者自筆の萬葉考稿本に就いて」―参照　九二・三―イ八五）（重美）

萬葉集　二十卷　十冊　一八九二

袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草押文茶色表紙　二八糎二〇・五糎　四周雙邊二三糎一六・五糎　八行十八字　外題左肩墨「萬葉二三（―十九廿）」　柱刻黒口「萬葉卷一（―廿）（丁數）」、「西莊文庫（小津桂窓筆「花十四全十」と墨書せる紙箋に捺印）」（古活字版　無訓本　寛永期刊　卷四第十九丁至卷末闕丁分を江戸時代中期筆を以て補寫　全歌朱墨書入あり　第一冊見返附箋沖森直三郎筆「萬葉集活版／芦菴旧藏手入本／西莊文庫藏」とあり　九二・三―イ六三）

〔萬葉集春日懐紙〕　寫　一軸　一八九三

中臣祐定筆　掛軸　五二糎　臺貼　原寸二六・五糎三八・五糎

宴詞一首

新年乃始乃波都波流（キトシノハジメノハツハル）能家布敷流由伎能伊夜之家（フルユキノイヤシケ）／餘其騰（コゴト）／右一首守大伴宿弥家持作之／萬葉集卷第廿／寛元二年三月九日書寫之　祐定

箱書（表）（佐佐木信綱筆）春日懐紙祐定筆家持詞

（九二・三―イ六五）

萬葉集考　寫　七卷　七冊　闕　一八九四

狛諸成著　天明五年三月十九日自序（卷七）　袋綴　鼠色檀紙表紙　二七糎一八糎　九行二十字小雙行　題簽中央雲母紙「萬葉考　七（―二十）」　内題「萬葉集卷七（―卷二十）之考」、「雜肋叢書」「新宮城書藏」「平染菴之記」

（江戸時代末期寫　石井垂穗校合本　卷七「天明五年巳九月廿一日中書　諸成大人六十三齢考」、卷九「天明五年五月中書／諸成大人六十三齢考」と原識語あり　卷第七・九・十三・十四・十七・十八・二十以上　計七卷を存す　右肩墨書「垂穗校合本」　九二・三―イ八六）

萬葉集古注遺文　寫　二冊　一八九五

木村正辭著　自筆　慶應元年十二月十一日自序　袋綴　丹表紙　間紙を挟む　二四・五糎一六・五糎　九行　扉題後筆紙箋「（書名同）」、「青谿書屋」（文學博士木村正辭先生編）

（九二・三―イ七五）

萬葉集斷簡　寫　一枚　一八九六

二三・五糎五糎　用紙藍紙

（傳桂本萬葉集切　「在久迩京思留寧樂舊京坂上大嬢大伴宿／祢家持作哥一首／藤原郎女聞之即和歌一首」の三行を存　「源順在久迩京思留寧樂」とある琴山の古筆極札を附す　九二・三―イ八六）

萬葉集地名考　寫　九冊　一八九七

〔墨阪春岑〕著　自筆　袋假綴　砥粉色表紙（第一冊表紙闕）　二七糎二〇糎　約十一行小雙行　外題（第一冊）中央「（書名同）石見國」（第二至九冊）左肩「（書名同）山陽諸國（―西海諸國）」（第五冊闕）　内題なし

識語　（第六冊卷初）合九冊　始執筆安政五年三月九日（頭注書入貼紙等多し　表紙右肩に各國名を記す　九二・三―イ八一）

萬葉集燈卷之七　寫　一冊　一八九八

冨士谷御杖著　自筆　袋綴　鼠色表紙　二三・五糎一六糎　十三行　五十丁　外題左肩書名同　扉題同上

（内題下に「文政二年冬／富士谷御杖　著」、表紙右肩に「本集巻之二其二」とあり「富士谷御杖集」第四巻—参照　九二・三—イ六七）

萬葉集文字訓義辨證　寫　二冊　一八九

木村正辭著　自筆　安政の二とせきさらき六日自序　袋假綴　表紙闕　二五・五糎一七・五糎　約十行小雙行　内題「萬葉集文字辨證上巻（萬葉集訓義辨證下巻）」奥書　（訓義辨證下巻）壬申八月五日

（別に各綴初に「控」「別ニ清書ス」「今一度清書スベシ」等と朱書したる草稿斷片四綴を附す　九二・三—イ八七）

萬葉新採百首解　寫　五巻　二冊　一九〇

賀茂眞淵著　自序　袋綴　縹色布目表紙　二七糎二〇糎　九行　題簽左肩闕、「伴氏家印」「青谿書屋」等

識語　（第一冊）（朱）天保六年四月七日挍合　伴直方

（第二冊）（同）天保六年四月八日挍合早りぬ　伴直方

（上冊末「加茂眞淵上」とある一本により伴直方筆　朱書校合書入　九二・三—イ七三）

萬葉代匠記巻二斷簡　寫　一帖　一九一

契沖著　自筆　折本　改装牡丹唐草織文納戸色表紙　二七・七糎二〇糎　斷簡四葉を見開に貼附　十二行　五折　題簽中央金砂子散「契沖阿闍梨眞筆（書名同）」柱心「万二（丁數）」

（初稿本　一一二番「いにしへにこふる鳥かも」一丁、丁附「萬二　十五」丁、「万二　四十九」丁、及び「万二　五十丁」の四丁を存す　九二・三—イ六九）

萬葉品類鈔　寫　七巻　合一冊　闕　一九二

荒木田嗣興著　自筆　文政丁亥秋自序　袋綴　納戸色布目表紙　二四・五糎一七糎　百五十五丁

（目録に巻十三別記までを記し、本文はその巻七介部までを存　朱白墨書入貼紙訂正多し　内題書名同を抹消し次行の編者名を切抜く　九二・三—イ七九）

類葉抄　寫　十七巻　十三冊　闕　一九三

中御門宣胤著　袋綴　（第一冊）砥粉色　（第二冊以下）納戸色表紙　用紙斐紙　二九・五糎二〇・五糎　十二行小雙行　題簽（第一冊）左肩書名同　外題（第二冊以下）左肩「（書名同）時節二（一器財十八）」、「渡邊千秋藏書」

（江戸時代初期寫　各巻末原に「延徳三年依　勅命／部類之／權大納言藤原宣胤」と奥書あるものの寫　巻十六闕　九二・三—イ八三）

平安時代和歌

聞書集　寫　一冊　一九四

西行著　綴葉裝　改装後補金銀切箔散薄茶色表紙　原裝藍菱文臘箋表紙　見返草花下畫金銀砂野毛散　用紙斐紙　一六糎一四・五糎　八至九行　五十一丁　原外題中央「藤原定家」筆「（書名同）」（西行の人の（此五字別筆）上）扉題書名同　内題なし

（鎌倉時代初期寫　巻初に本文同筆「きゝつけむにしたかひて／かくへし」とあり　淡墨にて加點せるもの所々にあり　箱書「伊達吉村」筆「西行上人聞書（寂蓮表紙法師筆　外題定家卿）」、同裏書「享保二十一年四月（此年五月七日改元元文）於京都求出之早水々家之可爲重寶歟」昭和五年刊竹柏會「扶桑珠寶」—参照　九二・三—イ四九）（重文）

後葉和歌集　寫　十八巻　一冊　闕　一九五

藤原爲經著　自序　綴葉裝　金銀泥下畫茶色表紙　見返金摺箔　四周裁斷　一六糎一四糎　十二行　八十八丁、「青木印（紙票）」

（鎌倉時代初期寫　巻一至十八を存す　數葉の脱亂丁あり　片假名交り「鴨之長明眞跡（後葉集六半本）」の古筆極札を附す「類從第百四十七上下二冊／後葉和歌集（長明本の轉寫なるへし）十八巻已下闕失同し假名にかきゝ下略」との青木信寅筆の紙箋を附す　九二・三—イ四三）

古今集序註　寫　一冊　一九六

靈元天皇御撰　宸筆　袋綴　白表紙　用紙斐紙　二七・五糎二〇・五糎　十一行

七十一丁　外題中央書名同　内題なし
（假名序註　塗抹訂正書入多し　和田英松著「皇室御撰之研究」―参照
九二一・二三―イ一三九）（重美）

古今集爲家抄　寫　十冊　一九〇七

藤原爲家著　袋綴　茶色絹表紙　二三・五糎一六・五糎　九行　題簽左肩金砂子散
後補「古今集　二（―十終）」（第一冊闕）　内題なし、「青谿書屋」
（江戸時代初期寫　原に「此集家ゝ所稱雖説ゝ多且任師説又ノ加了見爲備後學之
證本手自書之ノ近代僻案之輩以書生之失錯稱有ノ職之秘事可謂道之魔姓不可用之
ノ但如此用捨只可隨其身之所好不可ノ存自他之差別志同者可用之ノ嘉禄二年四月
九日　戸部尚書判ノ于時頽齢六十五寧堪右筆哉」と奥書あるものの寫　注記は片
假名交り　九二一・二三―イ一三一）

古今集秘註　寫　二冊　一九〇八

上下冊別筆　（上冊）袋假綴　改裝後補茶色表紙　原表紙闕　用紙裏打　二七・五糎
一九糎　十五行　三十九丁　（下冊）綴葉裝　原表紙闕　二九糎二〇糎　押界九行
二十二丁　内題なし
（鎌倉時代末期寫　片假名交り　上冊巻十一「ヨシノ河イハナミタカクユクミツ
ノハヤクソ人ヲオモヒソメテシ」至十四「アリソウミノハマノマサコトタノメシ
ハワスルヽコトノカスニソアリケル」を存して前後闕、下冊巻初に「古記別紙」
として「古今ニ七十二首秘曲在之藤亜相ノ傳也此歌者七十首ナルカ旋頭ノ歌二首
ヲ貫之カ切テ三十一字ノ歌ニナセリ元ノ旋頭歌ナル時ヲ（ママ）ノ加テ七十二首ト云也
又万葉ノ歌七首葉歌ニ入。テ別紙ト／習所ナリ又岡王木サカリコケカハナクサ三
人叟又トニケ／ツ□ナ　人丸ノ實儀赤人ノ實儀是又七ノ曲ト云所也此外／序詞
少ゝ注之」とありて次に「古今和歌集巻第一春上下」として本文あり　錯簡闕丁
あり　九二一・二三―イ一五三）（重文）

古今集問答　寫　二冊　一九〇九

綴葉裝　褐色染紙共表紙　用紙二枚折　二一・四糎一五・五糎　七行　内題「古今
集序問答（古今集之秘事）」、「青谿書屋」
（江戸時代初期寫　九二一・二三―イ一三五）

古今秘註抄　寫　八冊　一九一〇

藤原定家著　綴葉裝　金泥下畫紺表紙　見返下畫金砂子散　用紙鳥の子　二三・
五糎一七・五糎　十行　題簽左肩金泥雲紙「顯注蜜勘　一（―八終）」、「青谿書屋」
等
（江戸時代初期寫　原に「承久三年三月廿一日雨中注付之八座治老／在判」「承
久三年後十月十二日書写之／藤原在判」「此書送年序令懇望書寫畢／尤當家秘々
口傳也仍不可出／窓外者也／弘安三年八月四日／一挍早／三代撰者末孫和歌末學
慶融　在判」と奥書あるものの寫　九二一・二三―イ一三五）

古今和謌集　寫　二十巻　一冊　一九一一

紀貫之等奉勅撰　假名序　延喜五年歳次乙丑四月十五日貫之等眞名序　心敬筆
綴葉裝　縹色地鳥雲織文表紙　見返唐草模様浮出布目金紙　用紙斐紙　二五・五
糎一九・五糎　十行　九十七丁、「青谿書屋」
奥書　依聊宿願去卯月廿八日白地花洛出倍令／　大神宮參籠就不慮事爲冨士鎌倉
一見得便船／武州品川云所渡侍頓可令歸洛之處不圖依／京兆金吾之間大乱出來
既洛陽悉大破之上者失海／上陸地之便徒令吾妻邊滞留然而聖教抄物／一冊依所
持、時爲羇中老眼八代集抄書／出此等之詠哥雖無是非分別世間諸人是上／存知
哥斗住了上洛之時則可弃破者也／應仁初暦中秋上旬於品川草庵注之釋　心敬
（貞應本　原に「此集家ゝ所稱雖説ゝ多且ハ任師説又ハ加了／見爲備後學之證本
不顧老眼不堪／手自書之／近代僻案之好士等以書生之失錯稱有／識之秘事可謂道
之魔障不可用之／但如此用捨只可隨其身之所好不可存自／他之差別志同者可隨之
／貞應元年九月廿二日　戸部尚書藤」と奥書あるものの寫「十住心院權大僧都（心敬）
今一冊」とある古筆極札を附す　九二一・二三―イ一二三）

古今和歌集　寫　七巻　一冊　闕　一九一二

紀貫之等奉勅撰　綴葉裝　雲龍文茶色金襴表紙　見返銀箔散　用紙斐紙　裏打

一七糎一六糎　十二行　七十九丁　内題なし
奥書（朱）号御本ハ新院御本也　朱筆ハ件御本説也
（墨）假名序ノ句切事并聲哥ノ聲奥眞名序等者以他／本説書寫之
（片假名本　鎌倉時代初期寫　本文同筆朱書校合あり　巻第十四「コヒワヒテウチヌルナカニユキカヨフ／ユメノタヽチハウツヽナラナム」より眞名序「鬼神化人倫□□□草□」迄存して前後闕　本文中所々脱簡あり　九二一・三三—イ一三七）（重美）

古今和哥集上巻　十巻　一冊　闕　一九一三

紀貫之等奉勅撰　延喜五年歳次乙丑四月十五日紀淑望等眞名序　假名序　綴葉裝菊花寶珠唐草等織文薄茶色地金襴表紙　見返金箔　用紙鳥の子　二二・五糎一四糎　八至九行　百三十七丁　題簽左肩金紙後筆「古今和歌集　上」
（鎌倉時代初期寫　「古今集寂蓮法師正筆」の古筆極札を附す　巻一至十を存　西下經一著「古今集の傳本の研究」—參照　九二一・三三—イ一五一）（重美）

古今和哥集聞書　寫　五冊　一九一四

三條西實枝講　袋綴　共表紙　二七・五糎二一糎　約十六行　外題左肩（第一冊）「古今序聞書」（第二至四冊）「（書名同）一巻ヨリ十ノ巻ニイタル（—十七巻ヨリ廿ノ巻ニ至ル）」（第五冊）題簽左肩「古今和哥集眞名序聞書也」
識語（第一冊）（朱）此序之注解於傳授之説如合符節／誠此集之正義宜握翫而已／二條家一流末葉實枝記之
（第三冊巻十三末）（朱）一挍三冊
（第四冊）（朱）傳授之聞書具令讀合了誠如／合符節可謂末代之素暹者乎／亜三台實枝
（巻中三條西實枝筆朱書訂正記事多し　第二冊表紙右本文同筆「元亀三年十二月六日初於／三条大納言殿御宅御講尺」　同内題下「元亀三十二月六日」同巻初十「天正二三月六日／於春日社西屋」、第三冊巻十一初「二月廿一日於多聞城」、第四冊巻十七初「三月朔日於春日社」同巻廿末「天正二／三月七日於春日社西屋終功早」等所々講義の日時場所を記す　九二一・三三—イ一四五）

古今和歌集抄　寫　一冊　一九一五

淨辨著　袋假綴　共包表紙　二五・五糎二〇糎　十六行　五十八丁　外題左肩「故金臂中」
（室町時代末期寫　九二一・三三—イ一一五）

古今和哥集姫小松　寫　十八巻　八冊　一九一六

袋綴　金切箔散砥粉色表紙　用紙斐紙　二七・五糎一九・五糎　十一行　題簽中央金泥下畫雲紙「（書名同）序・春上同下夏（—哀傷雜上同下）・（切紙口傳）」
（江戸時代中期寫　原に切紙口傳奥「應永廿三年丙申三月吉日　本帋廿二帖内傳受早」「右切帋之秘書者奥刕竹貫于而愚於于宿隨身／法印悃望之故令写之早旅行中滿足云〻　此時之／爲秘本之間他見努〻不可叶者也／天正二年臘月廿八日祐友在判」とあるものの寫　切紙口傳文中「眞名序ニ若夫春鶯中略祇に尋れハ／かのと讀眞名序第一の秘事事也といへり／明應三年七月廿五日ニ尋」等の記事あり　九二一・三三—イ一〇七）

古今和歌集兩序　寫　一冊　一九一七

紀貫之等撰　綴葉裝　改裝大和綴　黄地紫藤花織文表紙　見返金泥雲紙　用紙鳥の子　二二・五糎一六糎　七行　二十六丁
（平安時代末期寫　本書を俊成筆とする寛永參年十月八日の極書、「俊成卿古今和歌集眞名序假名序　一冊」との琴山の極札、「右俊成卿眞筆無／疑候尤可有秘藏／者也」の藤谷前中納言の添状を附す　九二一・三三—イ一二七）

後撰集疑問　寫　一冊　一九一八

田中道麿問　本居宣長答　各自筆　袋假綴　共包表紙　一六糎二二・五糎　九丁
外題中央道麿筆書名同
（片假名交り　表紙左肩に「亥六月中旬」と書す　九二一・三三—イ一一七）

後撰集正義　寫　一冊　一九一九

藤原爲家著　袋綴　水色表紙　用紙薄様　二六糎一八・五糎　九行　九十五丁

外題左肩後筆「（書名同）（下に）爲家卿作」、「青木印（紙票）」「桃園文庫（紙票）」
（江戸時代初期寫　原に「本云嘉元二年九月下旬受庭訓早／去乾元々年之比自正月十八日及三／月晦古今後撰之兩集受庭訓／早雖然猶受説／桑門昇蓮在判」、「本云元応元年十月重書早／以古本挍合書入落字早／源円」と奥書あるものの寫　「飛鳥井中將雅直卿筆」との古筆極札を附す　九二・三―イ二）

〔三十六歌仙〕　一軸　一九二〇

巻子本　改裝後補薄納戸色菊花織小文表紙　見返銀紙　用紙雲母具引色替紙　三三・五糎九米　一紙五〇糎　四周單邊二九・五糎二二・五糎　内題なし
（光悦本　一紙に二歌仙を畫き左右に對す　九二・三―イ四七）

詞花和謌集　寫　十巻　一冊　一九二一

藤原顯輔等奉勅撰　綴葉裝　改裝後補鶴七寶織文緑色表紙　見返金泥雲野毛散
天地裁斷　一〇・五糎一三糎　九行　百六丁
（鎌倉時代初期寫　巻末「信解品周流諸國五十余年／といへるこゝろをよめる／神祇伯顯仲」まで存して以下闕　「詞花和哥集小本一冊／（中央所ゝ井奥不足）爲氏卿眞筆也／依再往所望加此一紙訖／正月十一日　冷泉中納言（花押）」　とある極書を附す
松田武夫著「詞花集の研究」―參照　九二・三―イ二九）（重美）

拾遺和謌集　寫　二十巻　二冊　一九二二

綴葉裝　改裝後補亀甲華文紫紺色金襴包表紙　見返毘沙門格子鳳凰丸文金紙　用紙鳥の子雲紙　二五・五糎一六糎　八行
（鎌倉時代末期寫　九二・三―イ）

拾遺和歌集　寫　二十巻　一冊　一九二三

袋綴　崩黄色布目表紙　二七糎二一糎　十五行　百二十三丁　外題中央書名同、「西荘文庫（小津桂窓筆「花十五全」」と墨書せる紙箋に捺印）」
（室町時代末期寫　本文と略々同時代筆の朱書校合書入　九二・三―イ二九）

拾撰集抄　寫　一軸　一九二四

巻子本　山吹色地菊花織文表紙　見返金切箔野毛散　用紙鳥の子　裏打　二三・五糎九米六五糎　一紙四〇・五糎　内題なし
（南北朝時代寫　前半「拾遺抄」、後半「後撰集」と題記して夫々若干歌を注す箱書に「拾撰集抄　一軸／津守國冬筆」とあり　九二・三―イ四八）

新刻古今疑問　寫　一冊　一九二五

田中道麿著　自筆　袋假綴　共包表紙　一五糎二〇・五糎　九丁　外題中央書名同　内題なし
（表紙左下に「道麿」と自署　九二・三―イ三）

新撰和歌集・和泉式部物語　寫　合一冊　一九二六

袋綴　銀泥華文茶色表紙　用紙斐紙　一三・五糎一九・五糎　十二行　百七丁　題簽左肩金泥下畫臘箋「貫之新撰集／和泉式部物語」、「阿波國文庫」

新撰和歌集　四巻
紀貫之著　自序　内題「新撰和哥」
（原に「以三條羽林御本自書写之／序云今之所撰玄之又玄也／最可謂道之至寶者哉／幽齋玄旨判」と奥書あるものの寫）

和泉式部物語
和泉式部著
（原に「此一冊借右中辨兼秀本／從去月十四日染筆今日／終功畢／享禄二年五月朔日／右少將藤言繼草名」「以後三条左大臣實量公自筆之／本一校了」と奥書あるものの寫）
（江戸時代中期寫　九二・三―イ三三）

為信集　寫　一軸　一九二七

藤原爲信著　巻子本　金銀砂子野毛散薄茶色表紙　見返銀切箔散　用紙鳥の子

二二・五糎三米一八糎　一紙四〇糎　約三十行　題簽後補書名同　内題なし、「心月菴什器」

（鎌倉時代初期寫　巻初に「ためのふ」とあり　「うくひすのけふあふさかのせきならていつくよりかハはるのゆくらん」に始まり「くすのはに君をなしてもあきかせニふきかへさせてうらみてしかな」に終る　略々同筆にてイ本校合あり　「爲信集／和歌五十一首者／先祖京極黄門大姉／八條院坊門局之筆／蹟無紛者也／寛文丁未　冷泉爲清（花押）」とある添状を附す　九二・三―イ二三）

鎌倉時代和歌

〔飛鳥井雅有集〕　寫　一冊　一九二八

飛鳥井雅有著　綴葉裝　山吹茶色龍文緞子表紙　見返雲形金銀切箔散　用紙鳥の子　二三・五糎一五・五糎　百三十八丁　九行　内題なし　箱外題後筆「別本隣女和歌集」

（鎌倉時代中期寫　「飛鳥井雅有卿筆　自詠／墨付紙數百三拾五枚／白紙三枚」別紙同筆「寶永四丁亥年九月廿六日」とある古筆極札を附す　ビブリア第十四號所収植谷元「飛鳥井雅有『別本隣女和歌集』について」―參照　九二・三四―六二）

玉吟集　寫　一冊　一九二九

藤原家隆著　綴葉裝　改裝後補菊唐草文茶色金襴表紙　用紙裏打　二五糎一九・五糎　十三行　六十七丁　題簽左肩書名同

奥書　大永二九上旬書寫之

箱書　尊傳親王御筆

（原に「家隆卿家集世無善本令挍合／諸本同異新所編集也重尋證／本委令比挍可矣　詞林樗散」と奥書あるものの寫　巻末に家隆傳を附す　九二・三四―イ四二）

金槐和歌集　三巻　合一冊　一九三〇

源實朝著　袋綴　改裝後補納戸色表紙　二〇・五糎一五・五糎　四周單邊一八糎一三・五糎　十行　五十六丁　題簽左肩雙邊（刊）墨「（書名同）　全」　柱刻「右　上（―下）（丁數）」、「島氏文庫」「紫景文庫」等

刊記　貞享四丁歳仲夏上浣／二條通寺町入／大森太右衛門刊行

識語　（朱）文化八年八月廿九日眞淵挍本或藏せしをかりてうつしぬ　國のり書

（朱書校合記事附箋多し　九二・三四―イ六五）

寂然和歌色紙　寫　一軸　一九三一

寂然詠　傳自筆　掛軸　四五糎一米八糎　臺貼　原寸一三糎一一糎　用紙金銀切箔散鳥の子

（「かめのをのやまのいはねをとめておつるたにのしらたきちよのかすかも」の一首「寂然法師集ニ入」の琴山極札あり　九二・三四―イ五五）

新古今和歌集　二十巻　四冊　一九三二

藤原定家等奉勅撰　乙丑王春三月眞名序　袋綴　改裝後補毘沙門格子地菊花文茶色行成表紙　二八糎一九・五糎　十行約二十五字　題簽左肩後補金砂散「（書名同）上本（上末・下本・下末）」　尾題（第二冊）「（書名同）巻第上終」　（第四冊）同上「巻第下終」　綴目「新古今（巻數）（丁數）」、「西莊文庫（小津桂窓筆「花十五全四」と墨書せる紙箋に捺印）」「青裳文庫」

（古活字版　元和寛永期刊　十行本　九二・三四―イ四三）

新後拾遺和歌集上巻　寫　六巻　一冊　一九三三

藤原爲重等奉勅撰　〔二條良基〕序　袋綴　雲紙表紙　二三糎一八・五糎　九行　百二十一丁　外題左肩「（書名同）上」

奥書　撰者權中納言藤原爲重卿／應永十九年二月廿三日

（巻一至六を存す　表紙右下外題同筆「撰者爲重卿」　九二・三四―イ五九）

新葉和謌集　寫　二十巻　五冊　一九三四

宗良親王撰　正徹等筆　自序　袋綴　改裝雲紙表紙　見返銀切箔散　用紙天地裁斷　裏打　二二糎一六・五糎　八行　外題左肩「（書名同）第一（―第五）」

奥書　（第一冊）正徹書之

（第五冊）此一部者予慥依攀枝於柿本／尋道於山邊不堪于希望勒諸／筆而各一帖書寫之訖／寶徳三年六月　日　正徹書之／主春松麻呂

（「招月菴徹書記前廉之筆」との琴山極札を附す　九二一・二四―イ六三）

新葉集作者部類　寫　一冊　一九二五

榊原忠次著　明暦彊圉作噩仲秋日（中大夫源考功郎中）自跋　袋綴　薄萠黄色表紙　用紙薄様　二七糎一九・五糎　三十丁　外題左肩書名同、「菅氏所藏」　識語　（榊原自跋に附箋）右新葉集墨付二十四枚以作者眞蹟本全課人書寫／一挍乎天保八　年八月十四日　伴信友　（末七丁は別筆補記　九二一・二四―イ四九）

頓覺詠三首和歌懐紙　寫　一軸　一九二六

頓覺詠　傳自筆　掛軸　四五・五糎一米一〇糎　用紙宿紙　臺貼　原寸二七・五糎三五・五糎　外題「頓覺和歌三首」　端書　詠三首和謌　頓覺　（「小倉公雄卿法名頓覺三首和哥さま〴〵に」　との琴山極札及び、「弘化乙巳初春　土井素玄（印）」とある「小倉正二位公雄卿傳」を附す　九二一・二四―イ五一）

藤原定家消息　寫　一軸　一九二七

藤原定家著　大宮殿宛　自筆　掛軸　一米二四糎一米四三糎　原寸三三糎一米二〇糎、「田安府芸堂印」等　宛書　定家（花押）／大宮殿　（「消息夜前之儀有名判三枚續／京極黄門定家卿眞蹟／無疑者也因證之早／文化十四年季冬上旬古筆了意（印）」とある折紙を附す　九二一・二四―イ五三）

源師光百首　寫　一軸　一九二八

源師光著　巻子本　改装後補鳳凰丸織文納戸色緞子表紙　見返金砂子雲紙　用紙裏打　二七・五糎二米五四糎　一紙四七・五糎　三十行　内題なし　（南北朝時代寫　巻初に「師光入道沙弥生蓮」と記す（春）「いつしかと春ハこれよりすきにけりあさつまやまの今朝ハかすめる」に始まり（鳥山家）「ゆふされはまかきのたけのむらすゝめこれをもとりとたのむ成ける」に至る　箱書「爲冬巻物」とあり　九二一・二四―イ四五）

御裳濯和謌集　寫　七巻　二軸　闕　一九二九

寂延法師著　自序　荒木田延明筆　巻子本　改装後補鶯茶色竹筬織文表紙　二一糎　一紙二八糎　十八行　原外題「（書名同）上上（上中）」　内題「（書名同）巻第一（―第七）」　識語　（一紙繼紙）右御裳濯和謌集者寂延法師之所撰／而五禰宜延明神主眞蹟也延明神主／河崎氏之祖先也先君　延貞神主幸／得之于故家惜哉失其冬已下巻然而／使延明神主之手澤宛然在于目子孫／可什襲以珍玩焉姪十禰宜延純神主／傳諸家也今寫一本又藏予家因書／其所自云／元文元年初穐二十一日／從四位上度會常彰書　（片假名交り　もと二一糎一四糎の袋綴を現巻子本に改装　巻一至七「春上中下・夏・秋上中下」を存す　永仁・弘安・正安・乾元等紀年ある伊勢大神宮關係の紙背文書多し　國學院雜誌四十三巻三號所収久曽神昇「御裳濯和歌集の出現」―參照　九二一・二四―イ五七）

室町時代和歌

詠五十首和哥　寫　一軸　一九三〇

宗長作　自筆　自跋　巻子本　改装後補紫緑横縞小織文表紙　見返金砂子散　天地金砂子散臺貼　一九・五糎二米一二糎　一紙一六糎四九糎　奥書　□國古奈といふいて湯にて／湯治一七日五十首うた／つゝり三嶋のおほん神に／法樂申侍り巻頭ハいぬる年の／冬十月廿三日の夜在家の小家／より火出て折ふし西風急して／社頭炎上則さためてつくりあら／ため遷宮あるへき事をいひ／巻軸ハ平氏縄いまいつさかミ武州ニ／いたり興津八十嶋の波まて手内に／おさめ渡海をはけむいよ／〳〵有／威不猛武運長久無爲無事を／五十首の内にかついひつゝ奉納／せしむる所しかならし／于時大永五年五月廿日

識語　宗長作之
（内題次行に「尺宗長」と自署　九二・三五―八三）

詠千首和歌　寫　一冊　一九四一

豊原統秋著　三條西實隆點　各自筆　袋綴　改裝後補澁表紙　用紙鳥の子　裏打
二八糎二二糎　十二行　八十七丁　題簽左肩「獨吟千首和歌」、「曼珠圖書之印」
識語　（三條西實隆筆）いかにそめし心の／花かふく風の／色の千くさ／を見すること／の葉／右千首之和哥珎奇無／雙一覽之僻點胸臆罔／極傍難雖有憚感思不／獲休而已至察之／亜三台拾遺郎（花押）
（内題の下に「統秋」と自署　帙題簽に「明應五年成」とあり　九二・三五―八九）

詠百首和謌　寫　一冊　一九四二

姉小路基綱著　袋綴　澁引表紙　二六糎二〇糎　十行　十六丁　外題左肩「基綱百首」、「曼珠圖書之印」
（江戸時代初期寫　原に「僻案愚點五十六首」「右百首本来於陽明殿下着到和哥也云々／後日百首中詠改廿首今被乞合點於／侍從亜相者也」と奥書あるものの寫　内題の下に「參議基綱」とあり　朱墨の合點あり　九二・三五―八三）

蒲生智閑和歌集　寫　一冊　一九四三

蒲生智閑著　袋綴　栗皮色表紙　二七・五糎一九・五糎　九行　九十四丁　題簽左肩後筆「蒲生和歌集」、「西莊文庫（小津桂窓筆「花十九全二」と墨書せる紙簽に捺印）」
（江戸時代初期寫　九二・三五―八三）

兼載和歌短冊　寫　一軸　一九四四

猪苗代兼載詠　自筆　掛軸　凖貼　二六・五糎一米三八糎　金銀泥下畫雲紙短冊、「西莊小津氏藏畐之記」
庭雪　野分してみたれし秋の花の後／ゆきもふまゝくおしき庭哉　兼載
（「兼載たにさく／正筆御座候」等古筆極札を附す　九二・三五―八五）

松下抄　寫　一冊　一九四五

豊原統秋著　袋綴　縹色表紙　用紙鳥の子　二七・五糎一九糎　九行　百二十五丁　題簽左肩後筆書名同　内題なし、「子孫永保・雲煙家藏書記（藍印）」「西莊文庫（小津桂窓筆「花百五十一全二」と墨書せる紙簽に捺印）」
（江戸時代初期寫　原に「此一冊統秋朝臣所詠余連々合點和哥／抄出之号松下抄云々一覽之次書其／銘早跡可恥之／言の葉にちらてをつもれ都にも／心を山の松のした庵／老比丘逍遙子」「大永第四曆夷則下旬／豊原朝臣統秋在判」と奥書あるものの寫　九二・三五―八三）

招月正徹之詠哥　寫　一冊　闕　一九四六

正徹著　袋綴　雲紙表紙　用紙鳥の子　二〇糎一五・五糎　八行　四十一丁　外題左肩後筆「招月正徹詠歌四帖之内一冊」、「紫景文庫」
（室町時代末期寫　内題の下に「永享五年比」とあり　表紙及び巻初に「山門東塔南谷　淨教房　眞如藏　三百廿四悪」と書す　原に「本云此一帖京都之人所持あるを披見して／招月自筆かくれなき間堅所望あり／て越後國長尾備州傳持給ふを寸／の間借用してうつしとゝめ候訖不／審之所もありといへ共自筆のうへ写／所也永享五稔中の家集と見えたり／今ハ四帖に写也」と奥書あるものの寫　九二・三五―八七）

〔大永二年兩點歌巻〕　寫　一軸　一九四七

竹田定祐等詠　三條西實隆・岩山道堅朱墨點　巻子本　古金襴表紙　見返布目金紙　用紙裏打　二二糎四米二七糎　一紙二七・五糎　内題なし
奥書　大永二年十一月日
（同時代寫　作者竹田定祐・蓮光院昭淳・蜷川親孝等　巻初に「朱点同判詞／遒遙院殿／墨点同判詞道堅」と書す　箱書「岩山道堅筆　巻物」とあり　「岩山尚宗入道道堅云々」の古筆極札を貼附す　九二・三五―八三）

百首和謌　寫　一軸　一九四八

心敬著　自筆　自注　巻子本　改裝後補亀甲華文金襴表紙　見返金銀摺箔紙　用

紙裏打金切箔散　二三・五糎一〇米七〇糎　一紙一五糎　九行　注文朱書　内題書名同、「赤星家藏(紙票)」
奥書　寛正第四暦暮春下旬於紀州／名草郡田井庄宮參籠中／爲備法樂早卒詠之毎首／狂哥左道也
(内題下に「權大僧都心敬」と自署　もと袋綴二三・五糎一五糎十九丁を現巻子本に改装　九二・二五―イ三七)(重美)

江戸時代和歌

海士のさへつり　寫　六冊　一九四九

足代弘訓著　自筆　袋綴　薄縹色布目又は澁刷毛目等表紙　二四糎一六糎(第一冊のみ十行青罫紙)約七行　題簽中央(第一冊)「(書名同)　壹　(左下に)從五位上度會神主弘訓」(第二冊)「(書名同)　貳／抄出濟(左下に)足代式部」外題中央(第三冊)「海士の囀(短歌の部)　三　(右肩に)從文化八年正月至(左下に)度會弘訓」(第四冊)「長歌文章の部(書名同上)　四　(左下に)度會弘訓」(第五冊)「あまのさへつり　五　(右肩に)長哥消息混雜(左肩に)抄出濟(左下に)度會弘訓」(第六冊)別筆左肩「癸卯詠草(右下に)淺沼仁左衛門(中央上に)津川北新助」内題(第一・二・五冊なし)(第六冊)「天保十四年癸卯詠草」、「有馬研究所藏書」
(第一冊巻初頭書「享和三年／余廿歳」本文欄外「文化六年／予廿六歳」等、第二冊巻初「文化七年によめる哥とも」、第五冊同「卅歳」等記す　第六冊扉「長野信濃守後裔／長野見意業善／黒沢才助」、本文中に「此二巻は御祖父正河神主より弘訓に／贈与し給ふもの也孫なる正克神主／哥の道にこゝろさし深くおのれに点削をこひ給ふを／感してふたゝひかへし／贈參らす長くその御家につたへ／給ふへきなり／嘉永五年壬子十二月　足代權大夫弘訓」とあり　九二・二六―イ九三)

永種堂五拾番自歌合　寫　一冊　一九五〇

松永貞徳著　袋綴　改装後補黒表紙　原装共表紙　用紙薄様　二五・五糎一八・五糎　十一行　墨附十八丁　題簽左肩後補「永種堂歌合完」、「善竜寺藏書」「大休(墨印)」
(江戸時代初期寫　原に「寛永元甲子年三陽交泰日」と奥書あるものの寫「天正拾八大閤關東江御出勢之砌若狹少將／道行之詠哥」「寛永廿一年正月吉辰」とある「竹千代様江從長嘯讀上ラルヽ歌」等を附載す　九二・二六―イ九九)

詠百首和歌　寫　一冊　一九五一

中院通勝著　〔自筆〕　改装後補澁引表紙　二七・五糎二〇・五糎　十三行　十六丁　題簽左肩黄紙後筆「住吉玉津嶋法樂素然」、「曼珠圖書之印」
(内題の下に「慶長十年十一月朔日」とありて次行に「沙弥素然」と自署す　九二・二六―イ一二)

擧白集　十巻　六冊　一九五二

木下長嘯子著　公軌・景軌編　慶安貳己丑年三月日山本春正跋　袋綴　改装後補萠黄色表紙　二七糎一八糎　十行　題簽左肩單邊墨後補「(書名同)　一(―十九)」柱刻「擧白一(―十)(丁數)」
刊記　四条立うり中町
(跋文末に「春正(花押)」と自署　九二・二六―イ一一五)

擧白集不審　三冊　一九五三

尋旧坊著　自序　慶安三年二月下旬自奥　毘沙門格子桐花押出紺行成表紙　二七糎一八糎　十行　題簽左肩雙邊「難擧白集　上(―下)」柱刻「擧白不審　上(―下)(丁數)」、「小云泉」等
識語　此難きこえたる所又きこえぬ所ありしるし／を付侍る後の君子猶たゝしたま／ハれといふ事しかり／安永四年末九月廿五日はしめてよむ／小雲泉主人(花押)
(九二・二六―イ一一三)

〔近世和歌短冊帖〕　寫　二帖　一九五四

折本　紫色地花織文表紙　見返金砂子散　三九・五糎二六・五糎　一面短冊三至四枚臺貼
(第一帖　芦菴・嘿犴・遊翁等二百三十八枚、第二帖　村田春海・加藤千蔭・澄

月・上田秋成・香川景樹等百八十枚を収む　九二一・二六—イ一〇五）

〔座右雑記〕　寫　一冊　一九五五

本居宣長著　自筆　袋綴　改装後補布目青表紙　二四糎一六・五糎　約十行　七十丁　内題なし

識語（巻初別補紙）此一冊は先師鈴屋翁の筆にて若くて京に居られし／ほとに其ころのまたさならぬのをも聞もし見もし／せられしまゝにかりそめにうつしとめおかれたるものと／おほしくて表牀なともなくたゝかりにかうよりして／とちありしまてなりさるかりとちなる物を何くれとなく／あるまゝうるまゝにひとつに入おきたる葛籠をこの／ころとりいてゝえうあるとえうなきとを撰分たる中／より見出たるなりいつこよりもとめ置たるなり／つらむさりぬへきすちとも思ひめくらし見れとえおもひ／いてすもしくは曽祖父翁の老のすゑに先師とも／ましはられたれはさて得られたるか翁のさるすちの／ものとひとつになりありたるをそのまゝにつゝらに入れ／おきしにてもあらむかいつれにもあれ先師の筆の跡／なりことにはかしこき　御をはしめ名たかき雲の／上人たちのもあるなれは持いつくへき物とへうし／つけとりつくろひて此こと記しおくものなり／天保十一年三月／殿邨安守

（九二一・二六—イ一〇一）

逍遊軒和歌　寫　一軸　一九五六

松永貞徳著　自筆　自跋　巻子本　改装後補小文鶯色表紙　見返金紙　用紙鳥の子天地金銀切箔野毛散　裏打銀切箔散　二三・五糎四米六五糎　一紙五〇・五糎　内題なし、「伊丹藏書之印」等

識語　此一巻は花咲翁のみつからよミて／ミつからかけるものなりさるをこのぬ／しはなさきのなかれのすへをた／つねて柿木の道の木に／いたらんとし給ふ故にこれをもて／あそへるになむありける抑花咲の哥／ハ商人のよき衣をぬき山人の花の／かけをされるすかたなといふめれと／この哥をいはゝしほまぬはなの匂ひ／ありて秋の月のあかつきの雲に／あはさるかことししかあることハ古人も／その人の哥とミゆるハかり一体よみ／さためたるもありこれかれにわたりて／よめるもありされハいつれの躰も／古今集をいてされハ時にしたかひ／てよめるをいにしへをたつねいまを／しらぬ人の一すしにとかくいふことに／侍るかゝることをいさゝかかきつくへき／よしたひ／〳〵になりぬれハいなふね／のいなひかたくむなくるまのハつかに／承應三年の夜なか月つくる／日しるすものならし／小野山僧槃齋（花押）

箱書　逍遊軒明心居士自賛和歌一軸

（小高敏郎著「松永貞徳の研究」—參照　九二一・二六—イ五五）

萩原元克詠草　寫　一軸　一九五七

萩原元克詠　本居宣長點　各自筆　掛軸　五六・五糎一米二八糎　原寸三二糎四三糎　題簽後補「（書名同）／並状／宣長加筆」

（巻初に「元克上」と自署　別に一八糎四三糎の「上古出土曲玉に關する考」の宛名日附闕書状一文を貼附　九二一・二六—イ二九）

〔馬琴試筆詩歌〕　寫　一軸　一九五八

瀧澤馬琴詠　自筆　掛軸　三三・五糎一米八一糎　原寸三二糎一米八糎　外題小津桂窓筆書名同、「西荘小津藏書之記」

奥書　天保乙未端月之吉試筆於玄同書屋時年六十九　蓑笠漁隱（印）

箱書　（小津桂窓筆）曲亭馬琴翁書　壹幅

（九二一・二六—イ二九）

馬琴先生自咏長歌　寫　一軸　一九五九

瀧澤馬琴詠　自筆　掛軸　四三・五糎一米七五糎　原寸三四・五糎一米二四糎　四周單邊九行墨界を施す

奥書　天保六年乙未歳梢之吉應需　蓑笠漁隱解題咏并書

箱書　（小津桂窓筆）（書名同）　八犬傳九輯中套附言出

（小津桂窓筆の解説別紙一葉を添ふ　九二一・二六—イ二三）

晩花集　寫　二冊　一九六〇

下河邊長流著　契沖編　同序　袋綴　毘沙門格子地押文代赭色表紙　二六・五糎一九糎　十一行　題簽左肩雲母引雙邊（刊）「（書名同）　上（下）」　内題なし、「伴

氏家印」「高崎家（紫印）」「大島氏圖書」
（江戸時代中期寫　第一冊見返紙裏「伴信友手書挍正藏本／下川辺長流家集晩花和歌集／換銀十三匁」とあり　朱書校合多し　九二一・二六―イ一〇九）

晩花和歌集　寫　二冊　一九六一

下河邊長流著　契沖編　同序　袋綴　薄青色布目表紙　二七・五糎一九糎　十一行　題簽左肩茶色紙（第一冊）「（書名同）上」　外題左肩（第二冊）「（書名同）下」　内題なし、「玉松家文庫（墨印）」「篁園文庫」「蓼花書屋」等
識語（見返）昭和貳年朝日新聞社發行佐佐木博士／等の編に成る契沖全集附巻長流全集下巻／に所載晩花和歌集二巻ハこの本をもて底／本とせり　篁園（花押）
（江戸時代中期寫　九二一・二六―イ一〇七）

萍水和歌集　寫　二十巻　二冊　一九六二

下河邊長流編　自序　袋綴　縹色布目表紙　二七糎一八・五糎　十行　題簽左肩「萍水倭歌集　上（下）」、「睦堂」「紫景文庫」
（江戸時代中期寫　九二一・二六―イ一一七）

富士五十首　寫　一軸　一九六三

水無瀬氏成著　自筆　巻子本　濃緑雲織文綾表紙　見返金銀泥雲引　用紙裏打
三三・五糎二米一〇糎　一紙四七糎
（巻首に「氏成」と自署す　九二一・二六―イ一三三）

本末歌　寫　一軸　一九六四

本居宣長詠　傳自筆　掛軸　四一糎一米八一糎　原寸二八糎一米一〇糎　外題後筆「本居翁本末長歌」九行書
（題の下に「本居宣長」と自署　「河上の丹生のそま山」に始る長歌一首、「世の人の本末」に始る反歌一首　九二一・二六―イ一三七）

山田以文詠草　寫　二冊　一九六五

山田以文著　自筆　袋綴　改装後補濃褐色表紙　間紙を挟む　二五糎一七・五糎　題簽左肩雙邊（刊）無記　内題なし　帙題簽書名同、「青谿書屋」
（第二冊巻初に「以文」と自署　添削歌稿を集む　九二一・二六―イ九七）

山梨志賀子詠草　寫　二軸　一九六六

山梨志賀子著　芝山持豊等點評　各自筆　巻子本　改装後補小豆色絹表紙　見返金砂子散　用紙奉書　臺貼　原寸一七糎四二糎　題簽絹後補「（書名同）上（下）」　内題なし
（各紙多く巻初に「志賀上」と自署　「芝山家御月次　志賀女」の端書あるもの、「子五月十二日」と奥書して芝山持豊の加點せる芝山國豊・甘露寺國長・勸修寺仲子・梅子・雪子・八重・志賀等の詠草等あり　九二一・二六―イ一〇三）

現代和歌

伊藤左千夫和歌短册　寫　一軸　一九六七

伊藤左千夫詠　自筆　掛軸　臺貼　二八糎一米五四糎
おほらかにいのちをせねとせくこひの／このくるしさをたふへくおもへや　左千夫
（九二一・二七―イ九）

歌合

謌合　寫　一冊　一九六八

岩山道堅著　逍遙院判詞　明應六の年しはすのはしめの八日凡河内俊恒跋　綴葉裝　雲母花模様布目薄青表紙　一五・五糎一四・五糎　八行　二十八丁　題簽左肩「五十首自謌合（道堅法師判逍遙院）」、「芸叢之印」「豊蔀家庫」
（江戸時代初期寫　原に「右一冊道堅法師自謌合也件本從／親王御方申出書写早彼本／後柏原院勅筆也末遂一挍者也／于時永祿十二曆夏六月上八日／正五位下

行左近衛權少將源通勝／以右之奥書之本書写挍合了／幽齋叟玄旨」と奥書あるものの寫　内題下に「道堅法師哥也」とあり　九二・二九—一七七）

永緣奈良房歌合　寫　一軸　一九六九

源俊頼判　巻子本　改裝後補華唐草文緑金襴表紙　見返金銀泥雲波模様　用紙裏打金銀野毛切箔散　二六・五糎八米五八糎　一紙五一糎　天地單邊二二糎

（二十巻本　平安時代末期寫　大治三年二月歌合　原に「此道被催宿習雖似好於善悪事者／全所不知給也偏依難背作自不顧／胡哢慥所令判申也若不及他見者／幸甚〻〻奴力〻〻／源／俊頼朝臣」とあるものの寫　箱書に「永緣奈良房歌合　俊忠卿筆跡」とあり　九二・二九—一七七）

關白家五十番哥合　寫　一冊　一九七〇

二條爲秀判　二條良基判詞　袋綴　紺表紙　用紙裏打　二二・五糎一八・五糎　十六行　三十三丁

奥書　文明十七年胃維下候寫之

識語　（別紙）右年中行事哥合慈眼院殿下御筆也／予相傳之早／寛永十九年六月廿四日　右大臣（花押）（近衛尚嗣）

（内題の下に「貞治五年十二月」、巻初に「年中行事哥合作者」とあり　九二・二九—一七五）

五十四番詩哥合　寫　一冊　一九七一

冷泉爲經筆　袋綴　網代圓窓模様漉刷毛目表紙　用紙斐紙　二九糎二〇糎　十六行　九丁　外題左肩「詩歌合」、「冷泉府書」等

奥書　延寶己未冬十二月十六日／右中將藤原朝臣

（康永二年成　作者、御・藤原隆職・沙弥眞乗・法印玄惠等　原に「亜合位藤在判」と奥書あるものの寫　九二・二九—一七三）

五十番哥合　寫　一冊　一九七二

袋綴　栗皮色表紙　二五糎一八・五糎　十五行　二十五丁　扉題後筆「五拾番歌合」、「濱和助」

識語　（見返）貞治五年内裏年中行事歌合

（江戸時代初期寫　原に「後光嚴院紀號丙貞治五年午十二月廿日」「本云加披見之次以他本〻〻挍合落字／誤字等少〻改直候早／永正第四暦孟夏上六日／城北蘭雪叟判」と奥書あるものの寫　九二・二九—一七三）

作例初學考追加　寫　一冊　一九七三

靈元天皇御撰　自筆　袋綴　毘沙門格子模様代赭色表紙　用紙斐紙　二八糎一九・五糎　五十四丁　外題左肩「追加」　内題なし

（巻首目録一丁あり　巻初「判者加稱美之詞哥／住吉社哥合　嘉應二年十月九日判者俊成」以下二十二歌合を抜書　九二・二九—一七七）（重美）

左大將家六百番歌合　八巻　七冊　闕　一九七四

藤原俊成判　袋綴　毘沙門格子蓮華文紺行成表紙　二七・五糎一八糎　十二行　約二十六字　題簽左肩「六百番哥合　一（四・六—八）」

（古活字版　寛永期刊　第三種本　巻五闕　巻八尾題の下に刻文花押あり　九二・二九—一三一）

三十番哥合　寫　一軸　一九七五

二條爲兼判　〔伏見院〕宸筆　巻子本　蔓草織文濃緑色表紙　見返金箔地銀泥下畫用紙鳥の子　二九・五糎四米七〇糎　一紙四六糎　内題「哥合當座」

（巻初に「判者隱名／前權中納言藤原朝臣爲兼當座判之」とあり「三十番哥合軸物／初終をくるまのくれかたき／後伏見院宸翰／右宸翰古筆了音／鑒定之通無疑者也／依需謹記之畢／寛政六季甲寅／六月十六日源公風」の鑑定書を附す　作者、女房・中將・新宰相・前大納言教良女・藤大納言典侍・永福門院内侍等　九二・二九—一九）（重美）

三百六十番哥合　寫　五巻目録一巻　六冊　一九七六

庚申涼秋己酉序　藤原伊經筆　綴葉裝　牡丹唐草濃納戸色金襴表紙　見返金銀切

箔散　用紙鳥の子　二四糎一五糎　七行　題簽左肩茶唐草摺文後補墨「三百六十番歌合　第一（―第五・目録）」
奥書（目録末）建永元年丙寅九月十三日辛卯申刻書了／始自同六日迄于十三日八ケ日之間書之了
識語（第一冊末）挍了　光衍
（目録末）挍了　光衍　重比挍了　盛慶
（第一冊末）這三百六十番哥合全部五冊者／中務權少輔伊經朝臣筆跡也注／委畢末巻矣／無品法親王（花押）（尊純）誌之
（正治二年十月一日歌合　作者、後鳥羽院・定家・家隆・顯昭・寂蓮・雅經・有家等三十六人　九二一・二九―イ二九）（重文）

詩歌合　寫一冊　一九七

冷泉爲經筆　袋綴　網代圓窓模様漉刷毛目表紙　用紙薄様　二九糎二〇糎　十三行　十八丁　題簽左肩臘箋紅色紙「（書名同）文明十五年」、「冷泉藏書」
奥書　延寶七年冬十月十一日　右中將藤原朝臣（印）（爲經）
（作者、關白（鷹司政平）・女房（後土御門天皇）・邦高親王等　原に「文明十五年」と奥記あるものの寫　九二一・二九―イ三一）

詩哥合　寫一軸　一九六

〔卜部兼致〕筆　巻子本　金泥下畫朽葉色表紙　見返縹色具引金銀切箔散　用紙裏打　二六糎一五米三〇糎
（室町時代中期寫　作者、關白（鷹司政平）・女房（後土御門天皇）・邦高親王等　六十番巻末に、題の次に左方詩に關白以下、右方和歌に女房以下各二十人をあげ「讀師／左　權大納言高清／右　從一位通秀、講師／左　秀才菅原和長／右　散位源尚氏、判者衆議、文明十五季正月十三日」とあり　表紙左肩に「兼致朝臣御筆」とあり　もと袋綴二五・五糎一九糎三十八枚を現巻子本に改裝　九二一・二九―イ三五）

十二番歌合　寫一冊　一九五

賀茂眞淵判　會主荷田在滿　眞淵歟　同上筆　袋假綴　改裝後補白厚表紙　二三・五糎一六・五糎　四周單邊二〇糎一三・五糎　九行薄緑色罫紙　十丁　外題左肩後筆「加茂翁眞跡十二番歌合」
識語（別紙）この歌合眞淵翁の眞蹟なること／いさゝか疑ひを容るゝ所なし寛保／元年とあるをもて逆算するに翁／四十五歳の筆なる事も明らけし／佐ゞ木信綱ぬしか所藏なるを一日／見あさりてことのよし一言をかき／そへおくになむ／文學博士小杉榲邨（印）
（表紙）（朱）此一巻大嶋君にゆすりまゐらす　信綱
（巻初罫外に本文同筆「寛保元年」本文第一行に「十二番歌合　辛酉八月　判者加茂眞淵　會主荷田在滿」とあり　表紙右下に「竹柏園珍藏」とあり　九二一・二九―イ五）

四十三番歌合褒貶　寫一冊　一九〇

伴林光平評　光平自筆評　袋假綴　共紙包表紙　二四糎一七糎　二十二丁　外題左肩書名同　表紙中央「蒿齋伴林六郎光平評／天保十四年癸卯初夏評出來／春歌合」内題なし、「竹柏園文庫」
奥書　前略卯月三日　河内八尾　光平
（作者、氏憲・守澄等　九二一・二九―五）

舞曲・謡曲

敦盛　寫一冊　一八一

大和綴　紺表紙　見返銀切箔散　用紙鳥の子　一八糎二五・五糎　十二行　三十二丁　一紙兩面書　題簽左肩金泥下畫丹紙書名同　内題なし
（江戸時代初期寫　文中本文右肩にコトバ・クドキ・ツメ等の譜章を挿記す　九二一・六―イ六九）

いつみがじやう　二巻　一冊　一八二

袋綴　改裝後補砥粉色表紙　用紙裏打　二七糎一九糎　四周單邊二一・五糎一六・五糎　十四行　二十丁　挿畫見開八頁分　題簽中央銀泥下畫後補墨書名同　綴

目表「いつミ上(下)(丁數)」、「葵岡」「兎角菴」等
刊記　明暦四年戌九月吉日　山田市郎兵衛開板
識語　(表紙貼紙)明暦四年印本和泉ケ城
(表紙左肩小津桂窓筆朱書「廿二五百八十九」九二・六―ィ八五)

謡本　寫　十冊　一九八三

綴葉裝　金泥下畫紺又は薄縹色表紙　見返金泥横雲　用紙鳥の子雲母引布目紙　二四糎一七・五糎　七行　題簽左肩金砂子雲引「(各曲名)」譜節を附す
奥書　(兼平)右之本は觀世黒雪齋章ノ本を書寫させ清書相極ノ致進上候ノ寛永五極月中旬ノ石田友雪齋安公(花押)ノ金子十郎左衛門殿旨
(各冊略々兼平に同文の奥書ありて、年紀は寛永二仲冬中旬至寛永五極月中旬　九二・六―ィ九三)
所収次の如し

花月	ひかき	源氏供養　やしま
邯鄲	そとは小町	鵜飼　盛久
天鼓	兼平	

謡本　百番　百冊　一九八四

綴葉裝　金泥下畫紺表紙(畫柄内容相當)　見返金砂子横雲　二四糎一七・五糎
用紙雲母引鳥の子　譜節七行　題簽左肩白紙(又は黄紙)「(各曲名)」内題なし
刊語　(各冊)右百番之本者我等直ノ傳石田少左衛門章句付ノ依致板起猶以今清書ノ加奥書早ノ元和六年ノ卯月　日　觀世左近大夫ノ暮閑(刻花押)
(元和卯月本　九二・六―ィ一〇五)
所収次の如し

阿漕	安宅	安達か原　海士
蟻通	井筒	鵜飼　うき舟
右近	善知鳥	鵜の羽　采女
梅かえ	雲林院	江口(ママ)　老松
あふむ小町	をしほ	泊母捨　小原御幸
女良花	杜若	景清　柏崎
春日龍神	兼平	賀茂
通小町	清經	鞍馬天狗
呉服	皇帝	小袖曽我
西行櫻	さねもり	志賀
自然居士	俊寛	すみた川
誓願寺	善界	殺生石
蟬丸	千壽重衡	大會
當麻	高砂	たつた
たまかつら	玉の井	竹生嶋
定家	天鼓	唐船
とをる	木賊	難波
錦木	ぬえ	のゝみや
白樂天	芭蕉	斑女
ひかき	氷室	富士大鼓
藤戸	二人閑	舟弁慶
佛の原	松風村雨	みちもり
三輪	紅葉狩	やしま
山姥	夕顔	ゆや
楊貴妃	夜討曽我	賴政

謡本　寫　百七十二冊　一九八五

袋綴　金泥下畫(畫柄内容相當)紺或は縹色表紙　二〇糎一三・五糎　六行　題簽
中央金泥下畫丹紙「(各曲名)」内題なし　譜節を附す
(室町時代末期寫　原に　あさかほ「シヤウ觀弥二　清龍丸ノ前峯ノ高キニ柏原院此字物ニ註タルヨシ勅定」、鵜飼「此本觀世次郎権守信光同弥次郎長俊ノ并小次郎元賴両三人之本ヲ以テ引合ノ寫置也不可有他見ゝゝ」、うら嶋「本云永正十四年十月吉日觀世弥次郎長俊判」、江口「觀弥次本ニテ写之」、江の嶋「本云天文元壬辰年十月二日伊豆國於熱海ノ湯治之時作之觀世弥二郎長俊」、花月「本云永正十七年二月日觀世弥次郎長俊在判ノ青水弥八殿」「永祿二年二月廿三日之夜写之ノ淵田和泉守虎賴」、籠大鼓「此籠太鼓觀小次　章句写之以朱道堅ト弥次郎長俊傳ノ如ク付之」、かしは

崎「本云観弥次長俊聲之本写之」、かすい「本云此御本以長俊丸本之青表紙被書写之元頼奉／付章句訖恐可為證本者也／天文廿三年二月廿七日　観世小次郎元頼」、感陽宮「観又次」、くらま天狗「本云観　弥次　章句ヲ写也」、かつらぎ天狗「本云観大元忠本ニテ写之／天文五　十二　三日」、車僧「観世次良大夫　本ノ章句ヲ寫也／天文十二　三　十一」、及び源氏供養「此本宗観自筆ヲ以テ写ス／ショウ観四左」、かうま「本云観大元忠章句ヲ写之」、西王母「此本観世弥二郎以正本寫之」、西行さくら「ショウ観弥二　清龍丸」、櫻川「シヤウ観弥次」、太さんふくん「本云観弥次章写之」、竹の雪「以青表紙挍合了」、谷行「天文十五九　正本之寫」、田むら「此本奉公ノ金子殿ノヲ写其後観弥二フシノ／本ニテ直シヲクモノ也」、たんふう「観弥次長俊章句写之」、つな「観世宗顕本ヲ写之」、靄亀「本云金春大夫章句にて直也」、とをる「本云金子入道西照軒昌誉判／観弥次良長俊章之本ヲ以テ直シ置也」、道成寺「観弥次長俊本を写其後又章句ノ本ニテ／挍合シ両様ニフシ付置也」、難波梅「観弥次」、にしき木「観大正ノアル本写之其後以青表紙挍合シテ虎頼付之／天文六九　晦日書之」、鷦「観弥次シヤウヲ写也」、はゑん「本云観世小次良大夫以自筆本写之訖」、白樂天「観弥次」、はんこんかう「本云シヤウ観弥二」、はん女「此本アヲ表紙ノ写ニテ書之／天文十二年二月日」、放生川「本云永正十二年閏貳月十一日／観世彌次良長俊在判」、松山鏡「此本無他出秘本也子細在之云々」、みもすそ「本云弥石源大夫章句写之」、八つるき「本云観弥次長俊章句之本写之」、夜うち曽我「本云光源院殿様之御本元頼章句写之」、宇治頼政「シヤウ観弥二」と奥書あるものの寫

九二・六―イ一〇三）

所収次の如し

あい染川　あこき　あさかほ　愛宕くうや
あたちか原　海士　綾のつゝミ　蟻通
井つゝ　岩舟　いな船　鵜飼
浮舟　右近　歌うら　うねめ
鵜の羽　梅か枝　うら嶋　雲林院
江口　江の嶋　ゑひら　ゑむま
岡崎　大原御幸　女郎花　をしほ
落葉　姨すて　をは捨　杜若
花月　籠大鼓　かし井　かしは崎
春日龍神　かすい　かつらき　かつらき天狗（ママ）
兼平　かよひ小町　かんたん　感陽宮
木そ　清經　祇王　金札
草刈敦盛　くらま天狗　車僧　源氏供養
けんしやう　皇帝　かうま　小かう
こ川寺　小蝶　木幡　さい
西王母　西行さくら　さき　櫻川
さころも　實盛　志賀　師子
七騎落　自然居士　しのふ　しやうき
照君　猩々　しやうそん　しゆてん童子
俊寛　しゆんせい忠度　しら鬚　誓願寺
せうき　關はら　是界　蟬丸
せつたい　殺生石　千手重衡　双帋あらひ
そとは小町　太さんふくん　大會　大社
大木　たえま　高砂　竹の雪
七夕　谷行　玉かつら　玉の井
田むら　丹後物狂　短冊忠度　たんふう
竹生嶋　千引　張良　つち車
つゝミの瀧　つな　經正　靄亀
定家　天鼓　とうゑい　東方さく
東岸居士　とをる　朝長　道成寺
道明寺　鳥をひ　難波梅　にしき木
にはとり龍田　鷦　ね覺　軒端梅
野の宮　野守　はゑん　白樂天
はしとみ　橋弁慶　芭蕉　鉢木
濱川　はんこんかう　はん女　美人草
常陸帯　氷室　百萬　冨士大鼓
藤戸　ふしみ　舟はし　舟弁慶
佛の原　放生川　まひ車　松尾
松むし　松山鏡　道盛　ミつ山
みもすそ　和布刈　望月　紅葉狩
八嶋　山うは　八つるき　行家
弓八幡　楊貴妃　夜うち曽我　養老
よこ山　宇治頼政　りよこう　りんさう

謡本　百番　百冊　一九六

袋綴　紺表紙　二三・五糎一七・五糎　七行　題簽左肩薄黄紙書名同　内題なし
譜節を附す
奥書　（各冊共通）右百番之本者世観左近／大夫入道暮閑章句付以令加／奥書之本寫之畢／寛永六年卯月　日
（寛永卯月本　譜節を朱書せる冊多し　百番書名は別拠元和卯月本に比して彼の「木賊」これになく此の「邯鄲」かれになくその他は同じ　九二・六―一〇七）

謡本　寫　三百五番　三百五冊　附乱曲　名寄　二冊　一九七

綴葉装　縹色表紙　用紙鳥の子　二五糎一八糎　七行　題簽左肩金砂子散「（各曲名）」譜節を附す
（江戸時代初期寫　九二・六―一〇九）
所収次の如し

通小町	女郎花	善知鳥	藤渡	葛城	鞍馬天狗
項羽	舟橋	熊坂	東心坊	安犬	濱雞
俊寛	鉢木	草子洗	浦上	住吉詣	鐘引
哥占	身賣	揺待	弱法師	智入自然居士	馬乞
小原御幸	刈萱	太刀堀	笈扒	盲沙汰	女沙汰
殺生石	黒塚	葵上	道成寺	春榮	小督
鐵輪	舍利	野守	鵺	松虫	錦木
山姥	三山	小鹽	六浦	三井寺	百萬
遊行柳	西行櫻	雲林院	羽衣	角田川	名越
朝顔	杜若	葛城天狗	誓願寺	木賊	高野物狂
佐保山	放生河	鼓瀧	淡路	武文	戀重荷
松尾	呉服	老松	白樂天	龍虎	現在經政
嵐山	養老	張良	鐘馗	空蟬	半蔀
融	海士	當麻	猩々	二人祇王	檜垣
豊干	寒山	枕士童	菊士童	關寺小町	鸚鵡小町
飛雲	松山	昭君	鵜飼	蟬丸	土車
安濃	大會	車僧	是害	船弁慶	紅葉狩
				齋藤五	綾鼓
				卒都婆小町	松浦鏡
				檜塚	求塚
				愛染川	湍衣
				薄	碁
				鞆	朝長
				碇潜	忠度
				愛壽	大佛供養
				小鍛治	紘上
				雞龍田	羅城門
				蟻通	室積
				和布刈	春日龍神
				橋姫	梅香枝
				籠祇王	六代

廣元	關原	大江山	土蜘	大會	大蛇
西寂	粉河寺	大原御幸	土車	大般若	大蛇
横山	鈴木	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
馬乞	磯屋	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
巌洞	内府	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
盛久	蘆刈	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
七騎落	安宅	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
元服曽我	小袖曽我	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
櫻川	柏崎	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
花筐	籠太鼓	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
橘	植田	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
櫻間	承久	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
千引	木幡	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
夕貝	佛原	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
定家	伯母捨	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
斑女	雲雀山	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
砧	正尊	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
反魂香	臥木曽我	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
水無瀬	墨染櫻	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
鞠	露	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
京落葉	陀羅尼落葉	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
知章	維盛	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
滋賀忠則	俊成忠則	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
皇帝	財世太子（ママ）	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
常陸帯	生熱	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
貴舟	調伏曽我	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
厳嶋	信貴山	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
鵜祭	大蛇	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
鳥追船	正祇世守	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇
羊	満仲	大仏供養	土蜘蛛	大佛供養	大蛇

景清　舞車　竹雪　木曽願書
雨月　泣不動　護法　輪蔵
愛宕空也　菅丞相　雷電　石橋
望月　國栖　松風　遊屋
玉葛　浮舟　源氏供養　果月
自然居士　東岸居士　藤永　放下僧
軒端　江口　采女　井筒
芭蕉　野宮　楊貴妃　千寿
芳野静　二人静　須磨源氏　鵜羽
伏見　弓八幡　狹衣　志賀
高砂　芳野　賀茂　竹生嶋
繪馬　巻絹　室君　三輪
龍田　一角仙人　邯鄲　道明寺
東方朔　西王母　江野嶋　眞那いの原
御裳濯　駒方猩々　岩船　右近
氷室　玉井　金札　酒天童子
浦嶋　賀茂物狂　九世戸　太木
關原与一　松山鏡　土蛛　谷行
雪　現在鵺　大社　白髭
源太夫　難波　ね覚　月宮殿
三笑　唐船　天鼓　富士太鼓
清經　經政　生田　頼政
兼平　田村　八嶋　實盛
通盛　篤盛　行家　空腹
呂后　橋弁慶　感陽宮　斷風
岡崎　清重　夜打曽我　禅師曽我
泰山府君　鬘龜　巴　春近
材木惡源太　亂曲　名よせ

謡本　十二番　十二冊　一六八

袋綴　改装後補栗皮色表紙　二五糎一八糎　七行　題簽左肩各冊三番宛曲名を記す　柱刻「（各曲名の一字）（丁數）」（第九冊闕）　内題「（各曲名）」（車屋本　各番末に「沙弥道晰（花押）」の刻文あり　九二・六―イ三）

所収次の如し

第一冊　湯屋　女郎華　二人静　第二冊　海人　鵺　西行櫻
第三冊　相生　呉服　難波梅　第四冊　白樂天　金札　春日龍神
第五冊　うねめ　姨捨　源氏供養　第六冊　龍田　養老　放生川
第七冊　うき舟　小督　芭蕉　第八冊　三輪　かつらき　蟻通
第九冊　羽衣　當麻　自然居士　第十冊　八嶋　田村　真盛
第十一冊　江口　ゆふかほ　楊貴妃　第十二冊　天鼓　昭君　邯鄲

謡本集　寫　百二十番　二十四冊　一六九

道晰筆　綴葉装　各種色替表紙　用紙鳥の子　二五糎一七・五糎　六行　題簽中央金紙各冊五番宛曲名を記す　内題見返に「（各五番宛曲名）」　譜節を附す（車屋本　九二・六―イ三五）（重文）

所収次の如し

第一冊　相生　老松　白樂天　弓八幡　白髪
奥書　右本杉原善尉殿依尊命／節付了他見有憚者歟／文祿五年春中上旬　鳥養沙弥道晰（花押）
第二冊　朝長　屋嶋　田村　實盛　忠度
奥書　依杉原善尉殿依命旨節付了　鳥養沙弥道晰（花押）
第三冊　松風村雨　湯屋　采女　二人閑　芳野閑
奥書　右本杉原善尉殿依御懇意／節付早　為恐々々／文祿五年陽春下旬／沙弥道晰（花押）
第四冊　葵上　檜垣　道成寺　木賊　梅之枝
奥書　依杉原善尉殿依命旨節付了／沙弥道晰（花押）
第五冊　花筐　大原御幸　蟬丸　斑女　小袖曽我
奥書　右本杉原善尉殿依命旨／節付令進覧候者也／文祿五年鶯出名上浣／沙弥道晰（花押）
第六冊　難波梅　放生河　鸚鵡羽　御裳濯　呉服
奥書　右本杉原善尉殿依御懇／望節付了　為恐々々／文祿五年挾鐘上旬　沙弥道晰（花押）

第七冊　頼政　兼平　經正　通盛　清經
奥書　右本杉原善尉殿依尊命節付了／文祿五年仲陽上旬／沙弥道晰（花押）
第八冊　井幹　軒端梅　夕顔　楊貴妃　浮舟
奥書　右本杉原善尉殿依命旨／節付了尤外見有憚者歟／文祿五年暮春下旬
沙弥道晰（花押）
第九冊　東方朔　谷行　佛原　花月　殺生石
奥書　右本杉原善尉殿依御懇／助節付了外見有憚者歟／文祿五年上陽中旬
沙弥道晰（花押）
第十冊　卒都婆小町　關寺小町　四位少將　櫻川　角田川
奥書　右本杉原善尉殿依懇命／節付了為恐々々／文祿五年　大族中浣／鳥養沙弥道晰（花押）
第十一冊　養老　小督　項羽　里塚　皇帝
奥書　右本杉原善尉殿依御所／望節付早／文祿五年　魚上水下旬／鳥養沙弥道晰（花押）
第十二冊　筥崎　知章　野干　景清　鵜祭
奥書　依杉原善尉殿御所望節付早／文祿五年芳春下旬　沙弥道晰（花押）
第十三冊　定家　三井寺　玉鬘　杜若　芭蕉
奥書　右本杉原善尉殿依御懇望／節付早他見為恐々々／文祿五年花春下浣／沙弥道晰（花押）
第十四冊　鵜飼　春日龍神　鵺　紅葉狩　舟弁慶
奥書　右本杉原善尉殿依御所望節／付令進献候者也為恐々々／文祿五年中和上澣／沙弥道晰（花押）
第十五冊　百萬　富士太鼓　籠太鼓　柏崎　女郎花
奥書　右本杉原善尉殿依命旨／節付候了為恐々々／文祿五年衣更着下浣／沙弥道晰（花押）
第十六冊　金札　唐船　咸陽宮　是害　岩舟
奥書　右本杉原善尉殿依命旨／節付報硯左早／文祿五年上月下旬／沙弥道晰（花押）
第十七冊　竹生嶋　六浦　俊寛　露　野守
奥書　右本杉原善尉殿依貴命／節付早勿令出闈外而已／文祿五年沽洗上旬／沙弥道晰（花押）
第十八冊　けむしくやう　のゝミや　ミわ　千しゆ　江くち
奥書　右本杉原善尉殿依御懇命／節付了／文祿五年仲春上浣／沙弥道晰（花押）
第十九冊　姨捨　松虫　小塩　誓願寺　葵
奥書　右本杉原善尉殿依御懇命／節付早勿令出窓外而已／文祿五年初春中浣／鳥養沙弥道晰（花押）
第二十冊　道明寺　融　邯鄲　當麻　蜑
奥書　右本杉原善尉殿依御所望／節付報机右早／文祿五年孟春上旬／鳥養沙弥道晰（花押）
第二十一冊　佐保山　祇王　龍田　蟻通　葛城
奥書　右本杉原善尉殿依命旨節／付候了為恐々々／文祿五年端月下旬　沙弥道晰（花押）
第二十二冊　盛久　東岸居士　安宅　烏頭　蘆苅
奥書　右本杉原善尉殿依尊命／節付報令下早為恐々々／文祿五年　夾鐘上旬／鳥養沙弥道晰（花押）
第二十三冊　錦木　自然居士　藤戸　舟橋　山祖母
奥書　右本杉原善尉殿依御所／望節付早他見為恐々々／文祿五年　花朝上澣／沙弥道晰（花押）
第二十四冊　源大夫　舎利　半蔀夕顔　放家僧　西王母
奥書　右本杉原善尉殿依御／懇意節付早為恐々々／文祿五年季春下浣／鳥養沙弥道晰（花押）

ゑぼし折　寫　一冊　一九〇

袋綴　雲紙表紙　二七糎二一・五糎　十行　三十四丁　内題なし
奥書　元和三年／二月廿四日／中村
（巻初闕「夫とてしゆくに帰られけるその後ゑぼしおりの」以下を存す
九二・六―九五）

宴曲抄　寫　三巻　一冊　一九一

袋綴　漉刷毛目白紙表紙　間紙を挟む　二六糎一八・五糎　十二行　五十丁　外題左肩「宴曲鈔」

（江戸時代中期寫　表紙右肩に小津桂窓筆「二百五」左下に同朱書「ら」　九二一・六―イ九一）

おひさかし　一冊　一九九二

袋綴　改裝後補澁茶色表紙　用紙裏打　二六・五糎一八糎　十行　二十七丁　挿畫（四周單邊一九糎一四糎）九頁分、「兎角菴」

（古活字版　寛永期刊　丹緑本　表紙中央下に小津桂窓筆朱書「三十二　三百六十五」とあり　九二一・六―イ八三）

花傳書　寫　一冊　闕　一九九三

觀世元清著　自跋　袋綴　改裝後補青表紙　用紙裏打　二七・五糎一九・五糎　九行　二十五丁　外題左肩「（書名同）中樂秘本也」　原題簽扉左肩代赭色「花傳書中樂之秘本也」

奥書（卜部兼敬筆）右仰□□令書寫了／元祿九　二月　日

識語　表題奥書等／兼敬卿御筆也加修補訖／嘉永六癸丑歲八月二日／正三位侍從卜部良熙

（八巻本巻一　九二一・六―イ三三）

狂言六義・狂言抜書　寫　三冊　一九九四

綴葉裝　裏葉色表紙　用紙鳥の子　二四・五糎一八糎　（六義）十三行　（抜書）十一行　題簽左肩「狂言六義　上（下）」「狂言抜書」　内題なし

（江戸時代初期寫　和泉流狂言本　譜節朱書、濁點及び「して」「アト」「女」等の詞に「印朱書、六義上巻「餅さけ」至「やるこ」百二十番、同下巻目録「末ひろかり」至「いくる」百一番、但し本文は至百二「祢宜山伏」、抜書目録「餅酒」至「土産山伏」百五十一番、但し本文は至「祢宜山伏」を所収　九二一・六―イ七七）

「きりかねそが」　寫　一軸　一九九五

巻子本　紺表紙　見返金銀砂子散　用紙鳥の子　二五・五糎一一米一五糎　一紙三六糎　挿畫八面　題簽金砂子散「浮世又平筆」　内題なし

（奈良繪巻　江戸時代初期寫　九二一・六―イ七五）

しつか　寫　一冊　一九九六

袋綴　紺表紙　見返濃緑色地金切箔散　用紙鳥の子　三四糎二五糎　十行　四十丁　挿畫十面（十九頁分）　題簽左肩金泥下畫丹紙書名同　内題なし

（奈良繪本　室町時代末期寫　九二一・六―イ七二）

しんきよく　二冊　一九九七

袋綴　青表紙　二七糎一八・五糎　四周單邊二三糎一六糎　十四行　挿畫（上巻）六頁分（下巻）八頁分　題簽左肩雙邊「繪入まつら戀物語　上（下）」　柱刻「しん（又はしんきよく）上（下）（丁數）」、「兎角菴」

刊記　寛文七歲／正月吉日　松會開

（上巻表紙中央下に小津桂窓筆朱書「三十三百六十一」　九二一・六―イ八九）

新曲　寫　一冊　一九九八

袋綴　毘沙門格子牡丹唐草繧色押文表紙　二六・五糎二一糎　十二行　十九丁　外題中央「秦武文」　内題なし

（江戸時代初期寫　九二一・六―イ三五）

新曲　寫　一冊　一九九九

綴葉裝　共表紙　用紙鳥の子　二五・五糎一九糎　八行　三十六丁　内題なし、「業影」

（江戸時代初期寫　九二一・六―イ三七）

つきしま　二巻　一冊　二〇〇〇

袋綴　改裝後補青表紙　用紙裏打　二六糎一七糎　十一行　四十一丁　挿畫（四周單邊一八・五糎一四・五糎）十一頁分　題簽左肩雙邊（刊）後補墨「（書名同）上下」　柱刻「つき嶋　上（下）（丁數）」、「百井文庫」「葵岡」「兎角菴」等

（江戸時代初期刊　果園文庫藏書目録に「明暦版か」とあり　題簽上に小津桂窓筆朱書「廿二五百八十七」　九二・六—イ八七）

融　寫　一軸　二〇〇一

巻子本　紺表紙　用紙鳥の子　一七・五糎五米六七糎　一紙五〇糎　題簽金紙書名同　内題なし

奥書　天文参年六月／八日書之也

（譜節を附す　九二・六—イ七三）

とかし　一冊　二〇〇二

袋綴　菱目繋黒行成表紙　二五・五糎一八糎　十行　二十四丁　挿畫（四周單邊一八・五糎一四糎）七頁分　題簽左肩「と□」　柱刻「とかし（丁數）」、「兎角菴」

（丹緑本　寛永期刊　表紙右肩に小津桂窓筆朱書「す百八十一」九二・六—イ七九）

番外謡本集　寫　百八冊　二〇〇三

（九二・六—イ二二）

所収次の如し

第一輯　袋綴　黄表紙　一七糎一二糎　題簽左肩色紙形　所収書名及び「一」記號を併記　各冊五番綴　九十番十八冊　所収次の如し

第一冊　實方

竹弄（内題下「筭法ㄷ」とあり）

姥櫻（巻末「加藤遠州作／觀世左近章」とあり）

法華會

現在道成寺（内題下「鐘巻ㄷ」とあり）

第二冊　菖蒲　禅師曽我

露の宮　貴布祢

釼龍神

第三冊　雨乞　横山

稲荷（内題下「イニ和泉式部ㄷ　稲荷式卩ㄷ（此下五字朱書）」とあり）

白山

太刀堀葵（「内題下太刀掘ト斗モ」とあり）

第四冊　巴園橘　貞任

戀松原　花丸

彭祖仙人

第五冊　眞名井原　阿具留王

鷹飼　六月秡（内題下「名越ㄷ」とあり）

武文

第六冊　吉備津宮（内題下「盤山ㄷ」とあり）

熊　花孝養（内題下「イニ若紫ㄷ」とあり）

脉論　沼捜

第七冊　馬融　水汲

年原　兼載櫻

成田山（巻末「時中軒述之」とあり）

第八冊　吉野詣　柴田

高野詣　明智討

氏政（内題「北條氏政ㄷ」）

（見返「此五番高麗へ被渡候也因之俗高麗五番ト云ハ此五番ノ㇕也」とあり）

第九冊　嚴嶋　關戸早川

付藻髪

十四經（巻末「此カナ付一流ノ讀方ヲ以附之最其流々ニ依ヘシ／平かなにて書たる所ハ穴所にあらず」とあり）

當願暮頭

第十冊　冨士山　泉岳寺

姥か火　驛路

雪猩々

第十一冊　齋宮　志賀忠度

瓶塚（内題下「竹芝寺ㄷ」とあり）　泣不動

經頼

第十二冊　神草　舟戻

藤　敷地物狂

難波猩々（内題下「泰平猩々ㄷ」とあり）

第十三冊　曉月夜　　蟹か坂
姤の繪馬　　黒谷詣
降魔
第十四冊　近江八景（内題下「八景龍神ヒ」とあり）　　常磐問答
鸚若　　樊噲
直家
第十五冊　鳳來寺（内題下「煙巖山ヒ」とあり）
師盛　　泊瀬寺
二人神子（内題下「内海ヒ」とあり）
因幡猩〻
第十六冊　繪馬　　烏帽子折
朝顔　　温泉
笛の巻（内題下「橋弁慶ノ前」巻末「此ゟ末ハ常の橋弁慶ヲ謠也」とあり）
第十七冊　天目山　　有馬山
濡衣　　真如堂
和泉猩〻（内題下に「七人猩〻ヒ」とあり）
第十八冊　神樂
大參宮（巻末緑筆「時中軒述之自章」とあり）
滿仲　　善導寺
鹽竈

第二輯　緑色具引採紙表紙　一七糎一一糎　題簽色紙形所収書名及び「万」記號を併記　各冊五番綴　百番二十冊　所収次の如し
第一冊　うたゝね小町（内題下「夢見小町ヒ」とあり）　　高安小町
市原小町（内題下「魂祭小町ヒ」とあり）　　繪馬小町
俤小町（内題下「安部野小町ヒ（此六字）」、巻末「鈴木正三作」とあり）
第二冊　富士見小町
雲林院小町（巻末「古津宗印本ニテ写之」とあり）　　花小町
山本小町
清水小町（巻末「此諷大永ノ比細川高國ノ時觀世祐賢作之」とあり）
第三冊　玉嶋川（内題下「玉嶋ヒ」とあり）
杉本楠　　田舍夕顔
汐干　　江嶋龍神
第四冊　浮沓張良　　切兼曽我
相坂（巻末朱書「時中翁節族文句ヒ作之」とあり）　　秋仲
第五冊　三尾（巻末「右三尾謡者雖有古本而前後不分ノ本末相乱故今増減文句改正」とあり）　　教經
うつら　　牛
根元猩〻
第六冊　五臺山　　秦治時（内題下「隠岐ヒ」とあり）
雲林院佐國　　大原詣
玉箒
第七冊　國阿上人　　諸葛孔明・孔明間語
きく　筑紫空也（内題下「虚盲目ヒ」とあり）
三河猩〻
第八冊　羅漢山　　童堂
紫の上　　草津
駒形猩〻
第九冊　名所松嶋　　白井松嶋
早蕨　　柏木
右衛門櫻
第十冊　駒ひき　　竹生嶋經正
まもり　　むかし男
人形文學
第十一冊　法隆寺（内題下「立花傳ヒ／花揃ヒ」とあり）
吉水　　徒然草
兼實　　野口判官
第十二冊　北野詣
門破（内題「朝比奈　門破ヒ」とあり）　　妙顕寺（内題下「法事日蓮ヒ」とあり）
礒崎
一ツ家
第十三冊　公任（内題下「朗詠谷ヒ」巻末「永田由佐作自章」とあり）
福井瀧口（内題下「馬瀧口ヒ」とあり）

燕
籠祇王（内題下朱書「粉川祇王ヒ」とあり）
番豆崎猩々
第十四冊　枕慈童　氏茂
るり君　由良物狂
幽靈童子（内題下「靈童子ヒ」とあり）
第十五冊　參宮　國姓爺（巻末「時中軒改之」とあり）
法事静　鷹（内題下「諏訪性空ヒ」とあり）
陀羅尼伊行
第十六冊　年男　大森楠
篠田森　那須狐
野干
第十七冊　諏訪（内題下「諏訪竜神ヒ」とあり）
秀頼　櫻の前
姥嶽（内題「豐後苧環　姥嶽ヒ」とあり）
豊後大蛇
第十八冊　西川御幸（内題下「三ノ舟ヒ」とあり）
長沼（内題下「別所ヒ」とあり）
書写式部（内題下「和泉式部ヒ」とあり）
野上物狂　靈橋姫
第十九冊　聚樂　柳瀬
御法　冨士淺間
龍口寺
第二十冊　御駒乗　狩場重光
類仙香　池上
入江浦
第三輯　袋綴　各種極彩色花模様表紙　一七糎一二糎　題簽左肩色紙形所収書名及び「竹」記號を併記　各冊五番綴　百番二十冊　所収次の如し
第一冊　泉賢將　鬼同丸
唐橋　高雄
古井
第二冊　那奈草　庵六代
そとは子　ませ菊
長柄（巻末「觀世弥次郎本之写」とあり）
第三冊　朝熊詣　吉野判官（巻末「觀世宗雪本写」とあり）
染衣　牡丹燈籠
蟹蛇
第四冊　宝長良　櫃切曽我
人麿西行　山家翁
裸鬼
第五冊　弘計億計（内題「二帝出世弘計億計ヒ」）　信濃杜若
住蓮坊　水潜
論議狐
第六冊　陶淵明　為朝
螺女　赤壁
久米仙人
第七冊　三笠亀神　次信
むめ寺（内題「木母寺梅寺ヒ」とあり）
横川坊　目蓮
第八冊　補陀洛山　鑢重衛
西方寺　閑居
蛇雉子
第九冊　焼火山（内題下「雲上寺ヒ」とあり）
義經（内題「判官ヒ」とあり）二位尼
五智如來　寺泊
第十冊　御田植　祐氏（内題下「伊東祐氏ヒ」とあり）
阿佛（巻末「觀世宗雪本之寫」とあり）
黒谷　須磨猩々
第十一冊　郭棗駝
花盗人（内題下朱書「花折ヒ」とあり）
寄邊水　血熊川
名立（内題下「親不知ヒ」とあり）　高舘
第十二冊　納涼　望夫山
三河千手

金澤猩〻
第十三冊　天橋龍神　現在長良（内題下「鷲峯張良𠮟」とあり）
くほん　馬頭涙
岩戸猩〻
第十四冊　鴨恵心　滑川
梅若丸　銀杏森
姫路朝比奈
第十五冊　維摩　吉次
花咲（内題下「明心居士𠮟」とあり）
齋藤丸（内題下「幸藤丸𠮟」とあり）
破來頓等
第十六冊　鎌足（内題下「鎌倉山𠮟」とあり）
祇園沙汰　栗栖櫻
仙相撲（内題「佛相模」）　富士天狗
第十七冊　留春
武蔵野（巻末「此諷タカナヲ玄貞直作ノ由ノ武蔵野ト云モ劍術者ノ由」とあり）　西行塚
鬼物狂（内題下「髑髏物狂𠮟」とあり）
鬼獄師
第十八冊　舟魂　兵庫楠
四町　依智（巻末「觀世黒雪本之写」とあり）
祝言猩〻
第十九冊　象　法蔵比丘
鼓望月　時雨物狂
都藍仙
第二十冊　まる子　赤間關
かたみ糸繰　ふち房
遊仙窟（内題「張文成　遊仙窟𠮟」）
第四輯　袋綴　薄蒲色表紙　一九・五糎一四・五糎　五行　題簽中央色紙形所収書名及び「卜」記號を併記　各冊五番綴　九十五番十九冊　所収次の如し
第一冊　さか鉾　義貞（内題下「足羽川𠮟」とあり）
住吉はし姫　比良（内題下「乙若𠮟」とあり）

鱗形
第二冊　花見曽我　臼杵
鴛鴦　鞆源左衛門
牢景清
第三冊　三笠山　一來
蓮姫（内題「忍岡　蓮姫𠮟」）　現在海人
松浦物狂
第四冊　松竜西王母（内題下「聖徳西王母𠮟」）　虎をくり
清時田村　長柄人柱
六代文學
第五冊　許由　世良田
紫野の露　浦ケ部
根元蛙
第六冊　龍神橋立　行家
むさし野の露　祐近更科（内題下「眞光𠮟」とあり）
安祿山
第七冊　七夕　鈴木（内題下朱書「語鈴木𠮟　生捕鈴木𠮟」とあり）　玉川（内題下緑筆「三箱𠮟」とあり）
御房曽我　千曳
第八冊　うの祭　みなと川正成
瀧口よこ笛　小松教訓
飛雲
第九冊　ひえい山
草刈曽我（内題「幽靈曽我草刈曾我𠮟」）　布袋
はつ雪
革袴
第十冊　天橋立　湯淺（内題下「盛近共」とあり）
末の松山（巻末「觀黒雪齋ノ直草写之」とあり）
二荒房　眞鳥
第十一冊　神在月（内題下朱書「神無月𠮟」とあり）　業平
舘尾　髭切
戻橋

第十二冊　蛭子　高野敦盛
ほたる（内題下「淺茅ケ原𠮟」とあり）
そとは流　合浦
第十三冊　龍神浦嶋　先帝（内題下「教經𠮟」とあり）
薄　牢尺八
松山西行
第十四冊　菊水（内題下「菊水士童𠮟云」とあり）
笠置（内題下「藤房𠮟」とあり）星くたり
あたみ　酒徳猩〻
第十五冊　八重櫻（内題下「吉野櫻𠮟エンノ行者𠮟」とあり）
はま川　うつせみ
弓纖物狂　伶倫
第十六冊　鯉魚　楠花やくら
ねさゝ　根元鶉
西の京（巻末「人之依所望自作自声加拍子畢／永田由佐／元祿十四巳年十一月日」とあり）
第十七冊　九日　追鬼時宗
蜉蝣　吉備大臣
第六天
第十八冊　小大進　景利
花鳥風月　兼元
はないくさ
第十九冊　三輪童子（内題「行賀　三輪童子𠮟」）
俊基　光明皇后
劔曽我　再現道成寺（内題下「撞鐘𠮟」とあり）
第五輯　袋綴　各種彩色模様入表紙　一四・五糎二一・五糎　十一行　題簽中央色紙形所収書名及び「松」記号を併記　十番綴　二百番二十冊　所収次の如し
第一冊　小尉　現在實盛
宮城野　花月宴
東山　乙平
春日神子　文僧都
甘糟太郎　陽嘉
第二冊　三井の水　影正
明石の上　玉水（内題下「井手の下帯𠮟」とあり）
相坂物狂（内題下朱書「逢坂盲𠮟」とあり）
牡丹　靈昭女
高野山　狂獅子
虎鰐
第三冊　大内裡　石山義平
鶯宿梅　須磨寺
清水冠者　木魂浮舟
相羽　夢の一字
敵論　明静
第四冊　輝姫（内題下「竹取𠮟」とあり）
義朝　薄雪
勾當内侍　宇治物狂
初花　生捕盛久
高舘弁慶　昔語
智略長良
第五冊　空隠　義經
有子内侍　住吉物狂（内題下「花園少將𠮟」とあり）
金王櫻　生田忠度
多門寺　思ひ出川
唐糸　玉泉坊
第六冊　鹿嶋　近平（内題下緑筆「和泉小次郎𠮟」とあり）
忍摺（内題下「文字摺𠮟」とあり）児か淵（内題下「白菊𠮟」とあり）
北野物狂　行業
武王　草刈行平
愛宕牛若　骸骨
第七冊　藤崎　雪頼朝
槌打砧　文物狂
直江（内題下「五十嵐𠮟」とあり）徳山
後京極　雪（内題下朱書「松の雪𠮟」とあり）
關ケ原（内題下朱書「関ヶ原行者𠮟黒田ヶ淵𠮟」とあり）

火鉢
第八冊　鍔　　幽靈清重
夢想松風　　万葉菊
鎌田　　笛物狂
現在敦盛　　信田
大塔宮（内題下「熊野落𠮟」とあり）
鬻（内題下「七十二候𠮟」とあり）
第九冊　丁固
談天門（内題下朱書「談天門楠𠮟」緑筆「千破屋楠𠮟」とあり）
梅乙女　　人參
梅花　　根元龍田
芳野三位　　徑山寺（巻初紙箋「此徑山寺いまたとくと吟味ノ不仕候へ共先遣之申候ノ一本一度見入候（此行緑書）」とあり）
篁　　堀兼
第十冊　阿古屋の松
材木義平（内題「材木義衡材木源太𠮟」とあり）
定家櫻　　佛
山吹　　夏の雪
現在箙（内題下「梅源太𠮟」とあり）
法印問答　　大森彦七
築嶋
第十一冊　八幡山　　河原太郎
つくもかみ　　姥か池
書寫性空　　立禅寺（巻末に「西望叟歌之」とあり）
介之推　　鸚鵡鳥
戴安道　　鞍馬
第十二冊　和銅　　相模川
臙女
延年那須（内題「那須与市延年那須𠮟」）
足引　　室山
荊軻　　育王山
丁固の松（内題下「多寶寺丁固𠮟」とあり）

地獄廻（内題下「地蔵𠮟」とあり）
第十三冊　熱田龍神　　追善楠
難波梅　　種尾（内題下「兼好塚𠮟」とあり）
飛驒工　　生卒都婆
為家　　筆捨松
北國落（内題下「大津次郎𠮟」）
三歳法師（内題下「大般若ノ影也」とあり）
第十四冊　多門天　　現在干方
雪婦　　榮芳
松浦梅　　泊瀬西行
鴫立澤　　樊天龍神
盲沙汰　　黒川
第十五冊　玉鉾　　十番切
四季　　郭巨
母衣（内題下「那須𠮟」とあり）武俊
氷上　　秀次
松尾山　　瓜盜人（内題下「瓜忍𠮟」とあり）
第十六冊　一夜天神　　龍ケ崎（内題下「渡り藤𠮟」とあり）
倩女　　似せ菊
板敷山　　山鳥
北野（内題下「輪蔵ノ影也」とあり）
龍（内題下「褒姒𠮟」とあり）みそろ池（内題下「六地蔵𠮟」とあり）
猿丸神
第十七冊　水神森（内題下「冨士川𠮟」とあり）
荒次郎　　往生院
鏡か池　　命ミ鳥
小栗　　現在錦木
延喜帝　　呪咀顯光
鬼神往生（内題下「鬼骨寺𠮟」とあり）
第十八冊　一本菊（内題下朱書「菊合𠮟」とあり）
韓信　　時雨
山中常盤　　犬寺

冨樫笈捜　石竹
明星梅　梶井宮
琵琶か池
第十九冊　歸鴈　承久
安達靜　玉取
身賣　空也
婆相天（内題下朱書「二艘舟ヒ」とあり）
星　梅鑑
巖猩々（内題下「駒形猩々ノ中ヲヌキタル物也」とあり）
第二十冊　留林寺　光季
思妻　粟津采女
東海寺　大聖寺
金盟　金剛山
鳶（内題下朱書「鴟ノ岩屋ヒ」とあり）伊豆文學
第六輯　袋綴　青表紙　一四・五糎二一・五糎　十一行　題簽中央色紙形所収書名及び「梅」記號を併記　十番綴　九十番九冊　所収次の如し
第一冊　豊國詣
大坂眞田（内題「秀顯大坂眞田ヒ幸村（此二字朱書）」）
柳　松浦梅
誕生寺　八景金龍山
鬼橋姫（内題下「宇治橋姫ヒ」とあり）　追駈鈴木
友鳥
龍神姥ケ池
第二冊　舞駒　清十郎
難波土産　武蔵鐙
回向院（内題下「外ニ又回向院謡有」とあり）
夏虫　戀ノ火
曽根崎　梅田橋
世話鹿子（内題下「五尺手拭ヒ」とあり）
江戸鹿子（内題下「五尺手拭ヒ」とあり）
第三冊　莨若
曙上松風　嵯峨野草
名古屋（内題「哥舞伎イニ名古屋ヒ（此二行朱書）おくにヒ」）
芳哥舞伎（内題「彦作昔哥妓ヒ」とあり）
夕霧　孫三郎（内題下「織殿ヒ」とあり）
浮ム瀬　兩國はし
水鏡
第四冊　松竹（内題下「劉李皇帝ヒ」とあり）
勝頼　鈴虫
杖銀杏　深見草
仲繩　琴
勸進文學　重蓮（内題下「イニ注蓮坊」とあり）
再現山姥
第五冊　田鶴
紅葉錦織　安齋
金尾　須磨山路
屈原　松嶋俊成
甘樂大夫　哥屏風（内題下「基頼ヒ」とあり）
第六冊　日光山　亂舞猩々
郭公　扇巴（内題「筐巴扇巴」）
箱崎物狂（内題下「後藤船ヒ」とあり）
躾のはし　選擇集
畫圖　國府津（内題下「眞樂寺ヒ勸メ堂ヒ」とあり）
宮戸川龍神（内題下「金龍山ヒ」とあり）
獅子王
第七冊　西宮　金王丸（内題下「内海金王ヒ」とあり）
連理松　雪鬼
樒塚（内題下「飯代ヒ」とあり）横笛
範頼（巻末「此諷板本ニ雖在之文句相違故書写也／但板本可然歟五百番目ノ内ニ有」とあり）　吉野靜前
博多物狂　七夕龍神
第八冊　兼好　中尾
さくら田　霞ケ關
芳茗歌　祐成寺（内題「高塚祐成寺ヒ」）

苦樂丸（内題「晦丸苦樂丸尺」）　如来善光
阿弥陀ケ池　頼方
第九冊　寶永參宮　現在楠
松の雪（内題下「雪ト斗モ　雪影尺」とあり）　池贇
達磨寺　今泉
和哥吹上（内題下「玉津嶋ノ影也　吹上ト斗モ」とあり）　現在鶏飼
呂后　大瓶猩猩（内題下朱書「泰平猩々ハ別也」とあり）
第七輯〔謡本〕十番　一冊　袋綴　濃淡茶色表紙　一四糎二二糎　八行　内題なし　所収次の如し
舎利　白樂天
放下僧　松風
女郎花　熊坂
養老　蟻通
殺生石　經正
識語（見返）享保九甲辰年三月十五日請取
第八輯　下懸外仕舞囃謡大成　刊　一冊　袋綴　茶色表紙　一三・五糎二〇・五糎　十三行　百十一丁　題簽中央雙邊書名同　内題「下懸外囃謡」　柱刻「（所収曲名）（丁數）」
刊記　享保十二丁未年仲穐吉祥日／武陽書林　通本町三町目　西村市郎右衛門／京師書林　新町通大長者町上ル町　谷口七左衛門（刻印）
刊語　此外囃謡者下懸拾遺／大成之章句加秘密之／拍子令版行者也

兵庫筑嶋　寫　一冊　二〇〇四

袋綴　改装後補黒表紙　原装共表紙　用紙裏打　二七糎二〇糎　十行　三十三丁
原外題左肩書名同
奥書　寛永廿仁年きのとの／二月十五日
識語（巻末紙継）此書物先祖臼田弥右衛門久次寛永二拾貳年／乙酉二月十五日書認終給之由寶暦三年／癸酉四月十一日ニ其年ヲかそひ申凡百貳拾壹年／当此弥右衛門義五代先ノ機翁正全居士也

（九二一・六―一九九）

ふしみときは　一冊　二〇〇五

袋綴　毘沙門格子地花唐草模様黒行成表紙　用紙裏打　二三・五糎一七・五糎　十行　二十八丁　挿畫（四周單邊一八糎一四糎）九頁分　題簽左肩雙邊（刊）後補墨「伏見　全」　柱刻「伏見（丁數）」、「兎角菴」
（丹緑本　慶長元和期刊　表紙左下に小津桂窓筆朱書「あ二百九十二」
九二一・六―一八二）

舞の本　寫　二十六番　二十六冊　二〇〇六

笠屋但馬・大頭左兵衛等筆　綴葉装　金泥下畫紺表紙　見返銀切箔散　用紙雲母引鳥の子　三〇糎二一糎　八行約二十字　題簽中央金泥下畫「（各曲名）」　内題なし、「笹野氏圖書記」
（それぞれに「あつもり」「硫黄之嶋笠屋但馬写（此下五字朱書）」「烏帽子折笠屋但馬写（此下五字朱書）」「木曽願書」「清重大頭宗俊写（此下五字朱書）」「小袖乞　大頭写」「四國落」「新曲笠屋但馬写（此下五字朱書）」「たいしよくわむ　大頭左兵尉写也」「つるきさむたん　大頭左兵写」「とかし笠屋但馬写（此下五字朱書）」「はま出笠屋但馬写（此下五字朱書）」「文學笠屋但馬写（此下五字朱書）」「曽我」等と書せる紙袋を巻初に貼附す　譜節朱書　笹野堅著「幸若舞曲集」―参照　九二一・六―二三）
所収次の如し
敦盛　硫黄之嶋　いふき
いるか　馬揃　烏帽子折　笈さかし
大臣　木曽願書　清重　小袖乞
四國落　しつか　新曲　大職冠
高たち　つき嶋　つるき讃談　冨樫
なすの与市　日本記　はま出　文學
山中常盤　夜討曽我

舞の本　寫　四十五番　四十冊　二〇〇七

上山宗久筆　綴葉装　紺表紙　用紙鳥の子　二四糎一七糎　八行　題簽中央金銀

下書丹紙「(各曲名)」内題なし
(各冊に文祿貳年五月八日至同三年八月日の大職冠奥書に日付のみ異る奥書あり
箱に「昭和十六年八月八日笹野堅氏入來、岡山、靡常盤、秀平、外ニ／貝取全部
写取ラレ其後鈴鹿三七氏ニ依囑誤写等數回／ニ亘リ校合、本年七八月ノ頃研究發
表希望ニ付快諾／セリ其際便利堂ニテ撮影セラレタリ／書写年代ノ明證アルモノ
ハ現今此本最古トス／岡山　靡常盤　秀平ハ未發見ノモノナリ／内容ハ舞の本卅
六番、新群書類聚舞曲、其他ノモノ／トモ校合セズ／書写ハ文祿二年五月ニ始リ
仝三年八月ニ終ル一年余ノ／日子ヲ要セリ」の附箋を貼附す　硫黄嶋・木曽願書
・含状・張良・馬そろへ・奈須與一、日本記・濱出・貝取はそれぞれ三曲づつを
各一冊に所収　九二・六―イ二五)
所収次の如し

大職冠	信太	切兼曽我	敦盛
元服曽我	和田酒盛	夜討曽我	新曲
百合若大臣	築島	満仲	景清上
景清下	正尊	鎌田	八嶋
しつか	小袖乞	勸進帳	靡常盤
文覺	山中常盤	をひさかし	秀平
たか舘	烏帽子おり	十番きり	四國落
岡山	清重	腰越	劔讃歎
伏見常盤	硫黄島	木曽願書	含状
張良	馬そろへ	奈須與一	日本記
濱出	貝取	伊吹	笛巻
鞍馬常盤	入鹿		

奥書　(大職冠)文祿貳年五月八日上山余兵衛尉宗久(墨印)

三井寺　寫　一冊　二〇〇六

綴葉裝　金泥下畫紺表紙　見返金泥横雲　用紙鳥の子雲母引布目　七行　十二丁
題簽左肩書名同　譜節を附す
奥書　三濃後無黒雪齋章本を／書写させ清書相極致遣上候／寛永五霜月下旬／石
田友雪齋　安公(花押)／金子十郎左衛門殿
(九二・六―イ三三)

遊音抄　寫　五冊　二〇〇七

綴葉綴　紺表紙　用紙鳥の子　二四糎一八糎　八行　題簽左肩丹紙書名同　朱墨
譜節を附す
(室町時代末期寫　九二・六―イ三七)　所収次の如し

第一冊	高砂	弓八幡	竹生嶋	老松	呉服	鵜羽	賀茂	白樂天	白鬚	難波
第二冊	實盛	清經	忠則	源三位	田村	兼平	道盛	八嶋	朝長	恒政
第三冊	春日龍神	邯鄲	芭蕉	鐘馗	源氏供養	舍利	百萬	野ゝ宮	熊坂	是害
第四冊	松風	千壽	野守	夕顔	葵上	張良	東北	果月	通小町	海士
第五冊	山姥	船弁慶	冨士太鼓	小塩	女郎花	浮舟	蟻通	鉄輪	三輪	鵜飼

識語　(第一冊)清水弥七郎
(第二冊)天文元年三月廿九日　清水弥左衛門(花押)
(第四冊)(朱)重頼(花押)
(第五冊)右之本見苦事驚目候／者也(花押)
主弥左衛門(花押)
箱書(裏)清水氏重頼(花押)
(同表附箋)清水家先祖／重頼 重良之謡本／明治ゟ三百三十五年

ゆりわか大臣上巻　寫　一冊　二〇一〇

袋綴　麻葉押文表紙(表被闕)二八・五糎一九・五糎　四周單邊一九糎一三・五糎
挿畫八頁分
(奈良繪本　江戸時代初期寫　九二・六―イ九七)

謡曲百番　百番　百冊　二〇一一

袋綴　栗皮色表紙　二四糎一八糎　七行　題簽左肩「(各曲名)」内題なし　譜
節を附す
(寛永期刊　九二・六―イ二九)　所収次の如し

阿漕　あさかほ　あたか　あたちか原
あふひのうへ　あま　蟻通　井筒
うかひ　うき舟　うとふ　うねめ
うのは　梅かえ　雲林院　江口
老松　あふむこまち　をはすて　女郎花
杜若　景清　籠太鼓　春日龍神
柏崎　かつらき　兼平　かよひ小町
かんたん　清經　鞍馬てんく　くれは
源氏供養　項羽　皇帝　西行櫻
櫻川　實盛　志賀　自然居士
俊寛　猩々　鐘馗　すみ田川
誓願寺　善界　関寺小町　攝待
殺生石　千手重衡　卒都婆小町　大會
當麻　たかさこ　忠度　龍田
玉かつら　田村　張良　定家
てんこ　東岸居士　道成寺　道明寺
とほる　朝長　なには　にしき木
ぬえ　軒端の梅　野のミや　白樂天
はせを　はしとみ　花かたみ　斑女
百萬　藤戸　冨士太鼓　二人しつか
舟橋　舟弁慶　仏の原　松風村雨
三井寺　みちもり　三輪　紅葉かり
盛久　やたてかも　八嶋　山うは
夕かほ　遊行柳　ゆみやハた　ゆや
楊貴妃　養老　吉野静　頼政

謠曲百番　百番　百冊　二〇二三

綴葉裝　各種雲母引模様色替表紙　用紙具引厚手紙　二四糎一八糎　七行　題簽
左肩黄紙「(各曲名)」　内題なし
(光悦第二種本　九二・六―一三九)
所収次の如し

あふひの上　朝顔　安宅　ありとほし
井筒　鵜飼　うきふね　右近
うとふ　采女　鵺鵺羽　雲林院
江口　老松　鸚鵡小町　をしほ
をは棄　大原御幸　女郎華　杜若
景清　籠太鼓　柏崎　春日龍神
かつらき　かなわ　兼平　通小町
邯鄲　清經　鞍馬天狗　くれは
源氏供養　項羽　皇帝　西行櫻
櫻川　實盛　志賀　自然居士
鍾馗　昭君　猩々　春榮
俊寛　角田川　誓願寺　善界
関寺小町　殺生石　攝待　千手重衡
卒都婆小町　大會　當麻　忠度
龍田　玉かつら　玉の井　丹後物狂
定家　天鼓　東岸居士　道成寺
道明寺　とほる　とくさ　朝長
難波　錦木　鵺　軒端梅
野の宮　白樂天　はせを　華かたみ
斑女　ひかき　氷室　百萬
冨士太鼓　藤戸　二人静　舟橋
舟弁慶　放生川　佛原　松かせ村雨
まつむし　三井寺　通盛　三輪
紅葉狩　盛久　矢卓鴨　山姥
夕かほ　遊行柳　湯谷　頼政

夜討曽我　寫　一冊　二〇二三

袋綴　栗皮色表紙　二四・五糎一九糎　十行　四十三丁　外題左肩後筆書名同
内題なし
(室町時代末期寫　九二・六―一〇二)

夜討曽我　一冊　二〇一四

袋綴　改装後補黒表紙　二四・糎一七・五糎　十行　十八丁　挿畫四頁分　内題なし　柱刻「夜討曽我（丁數）」、「岡田藏書」

（丹緑本　元和期刊　闕丁多し　九二・六―イ二七）

〔和田酒盛〕　寫　一軸　二〇一五

巻子本　表紙闕　一五糎二米六七糎　外題後筆「曽我」　譜節を附す

奥書　善法以聲筆中尾源四郎寫聲／弘治三初冬廿六日書也／宗能（花押）

（九二・六―イ三三）

淨瑠璃

〔あく〕　六段　一冊　二〇一六

袋綴　改装後補丹表紙　用紙裏打　一八・五糎一二・五糎　四周單邊一六・五糎一二糎　十六行　十八丁　挿畫十三頁分　内題なし　柱刻「あく（丁數）」　譜節なし、「楓原家藏」「兎角菴」

（金平本　第一第二丁表　第十九丁以下闕丁　九二・七―イ二五）

石山後日れんけ上人　五段　一冊　二〇一七

袋綴　黒表紙　用紙裏打　二二糎一六糎　四周單邊二〇糎一五糎　十七行　十五丁　挿畫十頁分　題簽左肩雙邊「石山のつぎれんげ上人」（左に）「道行ふし付口傳山本角太夫直之正本」（下段に）「ふ屋町通／八文字屋／八左衛門」　中央薄紅色副題簽雙邊「直之正本／山本相摸掾／藤原吉勝」　柱刻「れんけ（丁數）」、「兎角菴」

刊語　右者太夫ぢきの正本のうつ□也

（山本相模掾正本　内題下に「相模掾正本」とあり　若月保治著「古淨瑠璃の研究」巻二―參照　九二・七―イ九九）

鸚歌か薗　一冊　二〇一八

袋綴　改装後補縹色表紙　一二・五糎一九・五糎　十二行　六十八丁　綴目「いんこ（序）（丁數）」、「梅香堂藏本」「下村」

（竹本義太夫段物集　「式三番　三笠風流」以下二十六番所収　序二丁本文第六十八丁以下闕丁　九二・七―イ八五）

院本註釈　寫　一冊　二〇一九

井上淑蔭著　自筆　袋綴　雲龍押文青表紙　間紙を挟む　一九糎一三糎　四周單邊一四・五糎一〇糎　九行青色薄様罫紙　二十七丁　題簽左肩「（書名同）井上淑蔭稿」　内題なし、「紫景文庫」

（九二・七―イ九三）

烏帽子折　五段　一冊　二〇二〇

近松門左衛門著　袋綴　縹色表紙　二五・五糎二〇糎　八行　五十二丁　題簽中央　麻葉文墨書名同　綴目「ゑ（丁數）」、「水落文庫」「金城門東得窗庵藏」「但州湯嶋中屋甚左衛門（墨印）」

刊語　右之本令吟覧頗句音節墨譜／等不殘毫厘令加筆候可有開／版者也　竹本筑後掾（印）

重而予以著述之本令挍合候／畢全可為正本者歟／近松門左衛門

刊記　大坂高麗橋壹丁目正本屋山本九兵衛版／山本九右衛門版（印）

（竹本筑後掾正本　献上本　九二・七―イ九九）

扇之禮状　寫　一軸　二〇二一

近松門左衛門著　和田忍笑宛　自筆　改装後補草花丸文銀鼠色緞子表紙　見返金紙　用紙裏打　一五・五糎二米九五糎　一紙三六・五糎　内題なし

宛書　六月廿三日　平安堂／信（花押）／和田忍笑様貴殿

識語　（巻末別紙繼）亡父近松平安子之文無紛正筆ヲニ裏書と／有けれは／なき跡にくなりてのこるは人の筆の跡／むかしを今に／思ひ出して／同苗景鯉／誌之

むかしそと／思ひ出すも／作者にて／今見るとき八／世には近まつ／通（花押）
（朝日新聞社版「近松全集」巻九―参照　九二一・七―ィ八五）

大竹集　一冊　二〇三

延寶辛酉夏六月望日自序　袋綴　利久鼠色表紙　二六糎一九・五糎　九行　六十五丁　題簽中央「（書名同）加賀掾直訟付」　内題なし　柱刻「（序）（目録）（各段物別丁數）（通巻丁數）」
刊語　右前ニ之本頗誤依有之／浴（ママ）流之人憾焉於是今／加賀掾直之以正本開合／章節不違於一字一點令／開梓早豈為稽古之一助乎
刊記　延寶九辛酉　林鐘下澣／四條中嶋橋本町つほ屋吉左衛門開板（印）
識語　朝信
（宇治加賀掾段物集　序文末に「加賀掾挍合」と自署　宇治座の紋と「好澄」の壺印を捺す　巻初に目録一丁あり　横山重編「加賀掾段物集」―参照　九二一・七―ィ八七）

奥淨瑠璃集　寫　十一冊　（二〇二三―二〇二三）

袋綴　改装後補白紙表紙　原装共表紙　二六・五至二七・五糎一四・五至一六糎、
「太子山上宮寺」
（九二一・七―ィ三五）　所収細目次の如し

*午王の姫問定　六段（第一冊）　二〇二三

外題左肩後筆書名同　原外題中央「午王問定」十五行
奥書　此本皆ニさま御覧は御無用ニ御座候何と申ニ／にか〳〵敷も悪筆又なん字うそ字又はかき／そこなひ又はよめ□出來千萬ニ写之者也／若亦それても御望ニ候はゝ御覧候而早ニ御返／し被下度奉願候以上也

*ふしみときわ・ゑぼしや源八并源平せいすい記　（第二冊）　二〇二四

外題左肩後筆「ふしみときわ／ゑぼしや源八」　原外題「ふしみときわの本并／源平せいすい記の本有」下に「合而拾弐段」　十六至十八行
奥書　（ふしみときわ）悪筆が書て置そよわろふなよ／手跡を見るな上瑠理を見よ数寄故によるの日間には写取／我れか見てさへわかれさりける　敬白
（源平せいすい記）扨ニおかしく上瑠理ニ本写申候得とも／めつきり〳〵よめ申さぬ事ニ而しよじやう／へんゑきのしやばせかい笑て許氣毒
識語　（ふしみときわ）悪筆もわらいもせしによいけれと／字違あらばなんとせう筆
（「ふしみときわ」は原に「江戸大傳馬町うろこかたや孫兵衛板」と刊記あるものの寫　各冊六段宛）

*阿彌陀胸割　六段（第三冊）　二〇二五

外題左肩後筆書名同　原外題左肩同上　内題なし　十四行
奥書　寛政八年九月中旬
識語　（原表紙右下）かこのむら此主　太藏

*ゆり若大しん　六段（第四冊）　二〇二六

外題左肩後筆「ゆり若大臣鬼たいじ」　原外題左肩「ゆり若大臣鬼たいじの本」十二行
識語　（原表紙右下）此ぬし　吉ケ崎氏

*武道兩面鏡　三段（第五冊）　二〇二七

外題左肩後筆書名同　原外題同上　十四行
奥書　年号　月日　不出来千萬ニ書之者也
識語　（原表紙右下）登米郡嘉賀野桶下村ノ住／圖藏公義名太藏（花押）

*らいがうあとめのろん　六段（第六冊）　二〇二八

外題左肩後筆書名同　原外題同上　十二行
奥書　天明三年八月日是ヲ写者也／それかしはん萬（墨印）

識語（原表紙右下）此ぬしじやうしぢ
（片假名平假名混用）

*ごすいてん　五段（第七冊）　二〇二九

外題左肩後筆「後推天」　原外題同上　尾題「熊野本地終（下に）太夫直正本也」十七行
識語（原表紙右下）右本主登米郡加賀野村桶下屋□／太藏（花押）

*大峯の本地　六段（第八冊）　二〇三〇

外題左肩後筆書名同　十行

*梵天國　六段（第九冊）　二〇三一

外題左肩後筆書名同　原外題同上　内題なし　十四行
奥書　文化五戊辰三月吉日／悪筆さん〴〵見くるしく御ざ候へともふわかれの／処御用捨被成下御覧可被成候
識語　登米郡／加賀野村／桶下屋敷／此主太藏
（別筆）其子伍市郎持用也

*丸山物語　六段（第十冊）　二〇三二

外題左肩後筆書名同　原外題同上　内題なし　十一行
識語　かゝの村持主太藏（花押）

*〔嘉應貳年春之ころ〕　六段（第十一冊）　二〇三三

外題左肩後筆「嘉応二年の春のころ」　外題原表紙見返中央別筆「（書名同）（右中（左下に）中納言友盛に）六條之福正」九行
奥書（原表紙見返右下）悪筆無用書印
（原表紙に「仙臺の淨璃（ママ）聞かん紙子賣　花畝／奥淨瑠（ママ）緒絶の橋や古扇　調和／おく淨るり頻迦のなまり鴈過ぎて　昨今非／みちのくの三絃きけはあふきかな　鋤立」の書入あり）

織田軍記　七巻　合一冊　二〇三四

袋綴　表紙闕　二二糎一五・五糎　四周單邊一六糎一一・五糎　十六行　五十八丁　挿畫三十七頁分　内題「（書名同）巻之二（信長出軍熱田の奇瑞）（—巻之七（信長任官丹州攻戰））」　柱刻「織田壹ノ巻（—七ノ巻）（丁數）」　譜節なし、「西莊文庫（小津桂窓筆「花百四十二全」と墨書せる紙箋に捺印）」「兎角菴」
刊記（各巻末）正徳四年午正月吉旦　西村屋新板
（巻一初及び巻七末闕丁　九二一・七—イ一二三）

音曲大和諜　一冊　二〇三五

序　袋綴　縹色表紙　一三糎一九・五糎　十一行　七十二丁　題簽中央後補墨書名同　目録題同上　内題なし　綴目「（各曲名）（丁數）」、「紫景文庫」
刊語　右數條之篇々節頌／句等雖具於前板而／今也再令琢磨校正／而欲令愚門人勵稽／古之微意在焉而已／加賀掾（印）
刊記　二条通寺町西へ入町北側　正本屋山本九兵衛板（印）
（宇治加賀掾（豊松派）段物集　横山重編「加賀掾段物集」—参照
九二一・七—イ一八三）

柏崎　五段　一冊　二〇三六

袋綴　改裝後補白表紙　用紙裏打　二二糎一六・五糎　四周單邊二〇糎一五糎　十七行　十三丁　挿畫八頁分　題簽左肩後補墨「書名同（竹本義太夫正本）」　柱刻「かしわさき（柏）（丁數）」、「豊芥子藏書屋」等
刊記　京二条通寺町西へ入ル町北側　山本九兵衛板／大坂高麗橋壹丁目出見世　山□板
（竹本義太夫正本　内題下に「竹本義太夫正本」とあり　ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎狂言本・淨瑠璃本について」—参照　九二一・七—イ二〇九）

蒲御曹子東童歌　五段　一冊　二〇三七

袋綴　改裝後補茶色布目表紙　用紙裏打　天地裁斷　二二糎一七糎　四周單邊二

○糎一五糎　十七行　十五丁　挿畫八頁分　題簽左肩青紙無記　柱刻「かは（丁數）」、「兎角竜」

刊記　山本九兵衛板

（竹本義太夫正本　内題下に「竹本義大夫正本」とあり　若月保治著「古淨瑠璃の研究」巻二―參照　九二一・七―イ一〇九）

菊花堂之記　寫　一軸　二〇二八

近松門左衛門著　自筆　巻子本　改裝後補牡丹唐草織文茶色金襴表紙　見返金砂子散　三五糎二米三〇糎　金臺紙貼附　原寸二六糎一米六六糎　題簽金紙無記

奥書　寶永己丑のとし／孟冬十七夜／近松平安子具足居士／信（花押）

（「近松具足子真蹟」と外題のある原表紙を添附　箱書に「近松巣林子具足居士真筆」同裏「菊花堂記書巻物」とあり　朝日新聞社版「近松全集」巻三―參照　九二一・七―イ八三）

義經記三之巻　六段　一冊　二〇二九

袋綴　薄茶色表紙　二二・五糎一六糎　四周單邊一七糎一二糎　十七行　十六丁

挿畫十二頁分　柱刻「義三ノ（丁數）」

刊語　右此本ハ太夫直傳之正本を以／令板行者也

刊記　うろこかたや新板

（九二一・七―イ三三）

きそ物かたり　六段　二冊　二〇三〇

袋綴　改裝後補澁刷毛目表紙　用紙裏打　二三糎一六・五糎　原寸一九糎一三糎

四周單邊一七糎一三糎　十五行　挿畫（上冊）六頁分　（下冊）十頁分　題簽左肩後補雙邊（刊）墨「木曽物語」　柱刻「よしなか（よし）（丁數）」、「川弥（墨印）」「村岡典嗣藏書」

刊記　油丁かぎや七兵衛

（横山重編「古淨瑠璃正本集」第二―參照　九二一・七―イ九二）

九曲　巻　翁竹　一冊　二〇三一

榮竹編　正徳辰の春自序　圓齋跋　袋綴　改裝後補貝盡模様押出辨柄色表紙　二二糎一六糎　八行　四十一枚　題簽中央後補藤井紫影筆「（書名同）翁竹加賀掾」

内題なし、「紫景文庫」

刊記　山本九兵衛刊

（巻末に加賀掾追福の狂歌俳諧を附す　若月保治著「古淨瑠璃の研究」巻三、横山重編「加賀掾段物集」―參照　九二一・七―イ一四三）

公平花だんやぶり　六段　一冊　二〇三一

袋綴　改裝後補黒茶色表紙　二二・五糎一六糎　四周單邊二〇糎一四・五糎　十六行　十八丁　挿畫十二頁分　内題なし　柱刻「くわたん上（下）（丁數）」

奥記　萬治四年辛丑四月吉日

（各段見出に「公平花（くわ）だんやぶり」とあり　第一至三丁闕　九二一・七―イ一六二）

〔熊野權現開帳〕　五段　一冊　二〇三二

袋綴　改裝後補黒表紙　二二糎一六糎　四周單邊二〇糎一五糎　十七行　十四丁

挿畫十一頁分　内題なし　柱刻「かいちやう（丁數）」、「石田文庫」

識語　古裱帋／如斯　文政壬午五載南呂初五／善造主將來之琢書乃／得之焉　西郊田樂藏

（第一至三丁及び第十五以下闕丁　九二一・七―イ一六三）

曲輪太平記　六段　一冊　二〇三四

袋綴　改裝後補黒表紙　一八・五糎一三糎　四周單邊一六糎一二糎　十六行　九丁　挿畫六頁分　題簽左肩墨雙邊後補書名同　柱刻「太平下（丁數）」、「十世一中」「都文庫」「香雅藏」等

刊語　右くるわ太平記は忠臣略太平記／之正本ヲ以写之板行せしむるもの／なり

（九二一・七―イ二〇七）

けいせい鶯宿梅　三段　一冊　二〇四五

袋綴　麻葉押文縹色表紙　二一・五糎一五・五糎　十行　二十九丁　題簽中央闕墨書名同　綴目「鶯（丁數）」、「饗庭文庫」

刊語　右此本は我等持本の通ちがひなく板行致し候／初心稽古のため也さればこと〴〵くかながきにして／[く]ぎりふししやう三味線の[の]りかたほどひやうし／三重をくりのしな〳〵[秘][密]を残さずあらハし候／なをしん〴〵の口傳は筆紙のおよぶへきにあらす／かし[こ]

刊記　正本屋山本九兵衛板

（木屋七太夫正本　内題下に「木屋七大夫直正本」とあり　九二・七―イ一六七）

源海聖人　五段　一冊　二〇四六

袋綴　銀泥下畫薄茶色表紙　二五・五糎一七・五糎　八行　四十四丁　題簽中央雲母紙後補墨書名同　綴目「（丁數）」

刊語　右此本者依小子之懇望附秘蜜／音節自遂挍合令開版者也／橘榮軒（此三字自署）／加賀掾（印）

刊記　二條通寺町西へ入町山本九兵衛刊（印）

（宇治加賀掾正本　献上本　題簽に小津桂窓筆朱書「十」とあり　横山重編「加賀掾段物集」所収信多純一「宇治加賀掾年譜」―参照　九二・七―イ一三七）

源氏供養　五段　一冊　二〇四七

袋綴　麻葉蝴蝶押文縹色表紙　二三糎一六・五糎　八行　三十六丁　題簽中央「（書名同）加賀掾直傳」　内題なし

刊語　右此本依小子之懇望附秘密之音／節自遂挍合令開板者也／加賀掾（印）

刊記　延宝辛酉弥生上旬二条通寺町西へ入町山本九兵衛刊（印）

（宇治加賀掾正本　九二・七―イ一四一）

源氏供養　寫　五段　一冊　二〇四八

綴葉裝　雲母引草花丸文砥粉色表紙　見返金砂子散布目　用紙鳥の子　二三・五糎一七・五糎　五行　九十六丁　題簽中央金砂子散後筆書名同、「藤井氏」

（江戸時代元禄期寫　朱書譜節　九二・七―イ二三）

源平敵討遺恨付頼光北國　五段　一冊　二〇四九

袋綴　改裝後補雲龍文薄朱臘箋表紙　用紙裏打　天地裁斷　二二糎一六糎　四周單邊二〇糎一四・五糎　十六行　十七丁　挿畫十頁分　題簽左肩後補墨「源平敵討之遺恨頼光北國四」　柱刻「かたきうち（丁數）」、「兎角菴」

識語　（紙片貼附）正徳四年／求之／三月十五日

（井上播磨少掾藤原貞則正本　第三丁及び第五段第十九丁以下闕丁　巻末別紙に原題簽を切りとり貼附「敵討のいこん」右に「源平かたきうちふし□き」左に「[天下一播磨少掾藤原　貞則正本」下段に「ふ屋町[通]／せいくわん□／八もんじゃ八左衛[門]」とあり　添附原題簽の左に後筆「天下一播磨少掾藤原貞則正本」、正徳四年云々の紙片左に同上筆「旧本裏表紙ノ奥ニ正徳四年三月十五日求之／持主某トアリ」と解説す　若月保治著「古浄瑠璃の研究」巻一―参照　九二・七―イ一三七）

江州志賀都物語　五段　一冊　二〇五〇

袋綴　改裝後補黄布目表紙　用紙裏打　二二糎一六・五糎　四周單邊二〇糎一五糎　十七行　十三丁　挿畫三頁分　題簽中央後補墨「（書名同）全」　柱刻「しか（丁數）」

（内題下に「大夫正本」とあり　第十一・十五丁第十八丁以下闕丁十六・十七亂丁　ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎狂言本・浄瑠璃本について」―参照　九二・七―イ二三）

國性爺大明丸　一冊　二〇五一

享保元年申の冬春ちかき日近松序　袋綴　紺表紙　一二・五糎一九・五糎　十一行　七十四丁　題簽中央雙邊書名同　目録題同上　内題なし　綴目「大明（丁數）」、「石田文庫」「紫影」

（竹本筑後掾段物集　第七十四丁まで存して以下闕丁　九二・七―イ一八一）

後三年奥州軍記繪盡　一冊　二〇五二

序　袋綴　改裝後補黑表紙　二一・五糎一五・五糎　四周單邊一九・五糎一四・五糎　序十一行　十丁　挿畫十八頁分　題簽中央雙邊書名同　内題なし　柱刻「後三（丁數）」、「沙羅樹園」

識語　（見返）寶暦五年／二月五日之求

（豊竹座操浄瑠璃の繪盡　九二・七―イ二〇五）

子四天王北國大合戰　五段　一冊　二〇五三

袋綴　改裝後補薄朱色菊唐草臘箋表紙　用紙裏打　二二・五糎一七糎　四周單邊一九・五糎一四・五糎　十六行　二十一丁　挿畫十三頁分　題簽左肩後補墨「（書名同）八」　柱刻「ほつこく　上（下）（丁數）」、「兎角菴」

刊記　寛文弐年壬寅三日吉日

（若月保治著「古浄瑠璃の研究」巻一―參照　九二・七―イ九七）

後醍醐天皇　六段　一冊　二〇五四

袋綴　改裝後補薄橙色臘箋表紙　用紙裏打　二二・五糎一六・五糎　本紙四周雙邊一七糎一二糎の匡郭内のみを存す　十六行　二十二丁　挿畫十八頁分　題簽左肩後補墨「（書名同）七」　柱刻「こたいこ（丁數）」、「兎角菴」

（第六段第二十三丁以下闕丁　横山重編「古浄瑠璃正本集」巻二―參照　九二・七―イ二九）

小鳥なよせ　西行江口之遊女　一枚　二〇五五

臺貼　四周單邊裁斷　二一糎三一・五糎　三十五行　上文下圖

（宇治賀太夫正本　題名の左に「宇治賀大夫つれふし」下に雙邊丸枠「正本」と陰刻す　九二・七―イ二〇二）

曆　五段　一冊　二〇五六

井原西鶴著　袋綴　麻葉蝴蝶押文黒表紙　二三糎一六・五糎　八行　四十二丁　題簽中央「（書名同）加賀掾直傳全」　柱刻「（段目）」

奥記　貞享二乙丑歳正月吉日

刊語　右此者依小子之懇望附秘蜜／音節自遂挍合令開版者也／加賀掾（印）

刊記　二條通寺町西へ入町山本九兵衛刊（印）

（宇治加賀掾正本　九二・七―イ六三）

佐野源左衛門　五段　一冊　二〇五七

袋綴　改裝後補淡紅表紙　二三糎一七糎　八行　四十三丁　題簽左肩後補墨「（書名同）全」　綴目「さのゝ（丁數）」、「饗庭文庫」「紫景文庫」

識語　作者近松門左衛門

（若月保治著「古浄瑠璃の研究一巻二―參照　九二・七―イ一七五）

しだの小太郎　六段　一冊　二〇五八

袋綴　改裝後補縹色表紙　用紙裏打　二一・五糎一五・五糎　四周單邊二〇糎一三・五糎　十七行　十三丁　挿畫十頁分　題簽左肩後補墨書名同　柱刻「した（丁數）」

刊語　右者太夫直之正本ニ而令板行所也

刊記　大傳馬三町目鱗形や孫兵衛新板

（九二・七―イ一五七）

紫竹集　六冊　闕　二〇五九

袋綴　縹色表紙　二三糎一六・五糎　六至八行　題簽中央雲母引麻葉等模様紙「（書名同）三（七）　追加八（―十）」（巻六のみ後補墨書名同）　内題なし　綴目「（各曲名頭字）（丁數）」

刊語　（各冊）右此本者依小子之懇望附秘蜜／音節自遂挍合令開版者也／加賀掾（印）

刊記　（各冊）二條通寺町西へ入町山本九兵衛刊（印）

（宇治加賀掾段物集　巻三・六・七追加八至十を存　横山重編「加賀掾段物集」―參照　九二・七―イ七七）

嶋のせんざい女わかのまへ　五段　一冊　二〇六〇

袋綴　改裝後補茶色表紙　二三・五糎一六・五糎　四周單邊二〇糎一四・五糎　十八行　十一丁　挿畫六頁分　外題左肩後補墨書名同　柱刻「しま(し)（丁數）」、「兎角菴」

刊記　延寶四年丙辰七月吉日

（第五・六・八・十一・十二・十四丁計六丁闕　若月保治著「古淨瑠璃の研究」巻二―參照　九二・七―イ一〇三）

嶋のせんざい女わかのまへ　五段　一冊　二〇六一

袋綴　改裝後補卵色蓮華唐草臘箋表紙　用紙裏打　天地裁斷　二二糎一六糎　四周單邊二〇糎一四・五糎　十八行　十七丁　挿畫九頁分　題簽左肩後補墨書名同　柱刻「しま(し)（丁數）」、「兎角菴」

（第十九丁終二行及刊記破闕　九二・七―イ一〇五）

酒顚童子付頼光山入　五段　一冊　二〇六二

袋綴　改裝後補丹表紙　原裝毘沙門格子地唐草模様丹行成表紙　二一・五糎一五・五糎　四周單邊一九糎一四糎　十八行　十八丁　挿畫十六頁分　原題簽左肩雙邊「酒顚童子（しゅてんどうじ）」　左に「三しやの神たくせんㇵらいくわうきしんたいぢ」　上段横書「出羽椽節付」下段「直傳寫／正本屋五兵衛」　柱刻「新酒天（角酒天・角山入）（丁數）」、「このぬしせんくわ(墨印)」「游戲庵」「兎角菴」等

刊記　延寶六年午四月吉日　正本屋五兵衛板

（若月保治著「古淨瑠璃の研究」巻一、横山重編「古淨瑠璃集（出羽掾正本）」―參照　九二・七―イ二五）

十二段付り長生殿四季　五段　一冊　二〇六三

袋綴　改裝後補毘沙門格子唐草文納戸色表紙　用紙裏打　二一・五糎一六糎　四周單邊二〇・五糎一五糎　十七行　十二丁　挿畫五頁分　題簽左肩後補「（書名同）全」　柱刻「十二たん（丁數）」、「（萩原乙彦野印）」

刊記　□本正本屋大坂作本屋八衛新版

（竹本義太夫正本　内題下に「竹本義大夫正本」とあり　丁附「三」より始まる　九二・七―イ二七）

正光上人本地　寫　三段　一冊　二〇六四

袋假綴　共表紙　二五糎一六糎　七行　三十六丁　外題中央書名同　内題なし　識語（見返）元祿七年代ノ五月吉日／田村／河内藤左衛門

（裏表紙）宝永七寅正月吉日／上野國相生領山田郡桐原村／如意満節父祈所

（若月保治著「古淨瑠璃の研究」巻一―參照　九二・七―イ二五）

淨瑠璃加賀羽二重　一冊　二〇六五

西澤与志編　自序　袋綴　縹色雪華文薄卵色表紙　一一糎一六糎　十五行　五十丁　挿畫一頁分　序題書名同　内題なし　柱刻「賀（竹・道行）（丁數）」、「紫影」

刊語　右此本者依為懇／望文句音節等悉／挍合加秘密令開／版者也

刊記　大坂上久寶寺町三丁目正本屋九左衛門板（墨印）

（宇治加賀掾段物集　横山重編「加賀掾段物集」―參照　九二・七―イ八七）

心中戀の中道　一冊　二〇六六

錦文流著　袋綴　改裝後補漉刷毛目表紙　二二糎一六糎　八行　三十三丁　題簽

中央後補墨書名同　柱刻「中道（恋中）（丁數）」、「幸堂私印」「饗庭文庫」

刊語　右之本遂吟覧頌句音節墨／譜等不違毫釐令加筆且以／著述之全本令挍合畢尤可／為正本也／豊竹若太夫（印）／作者錦文流

刊記　大坂上久宝寺町三丁目正本屋　西澤九左衛門版（印）

識語（表紙）宝永七年庚寅三月廿日初日／豊竹座新淨瑠理／作者　紀海音

（豊竹若太夫正本　内題下に「お山人形辰松八郎兵衛」とあり　藤井乙男著「史話俳談」所収「錦文流と心中戀の中道」―參照　九二・七―イ七二）

新十二段　五段　一冊　二〇六七

袋綴　改裝後補毘沙門格子牡丹唐草文丹行成表紙　二一・五糎一六糎　四周單邊

一九糎一四・五糎　十七行　十二丁　挿畫八頁分　題簽左肩雙邊「當流十二段」左に「うしわかあつまみち行しのびのだんふし付」下段「□□／安堂寺町／秋田屋板」　柱刻「十二段（丁數）」、「金城門東得窓庵藏」「臨風文庫」等

刊語　右太夫直之以テ正本ヲ節章改新板ニ出ス者也／辰ノ六月吉日　正本屋□

（若月保治著「古淨瑠璃の研究」巻三—參照　九二・七—イ九七）

菅原親王行狀記　六段　一冊　二〇六八

袋綴　改裝後補龜甲地卷龍押文丹表紙　一八糎一三糎　四周單邊一六・五糎一二糎　十六行　十三枚（丁附一至十九の中　四五・六七八・十一十二・十三十四・十七十八各丁重丁）　挿畫六頁分　方題簽中央黃臘箋紙（蜀山人）筆「元祿旧刊／稗史／すがはらのしん王」　内題なし　柱刻「しんわう（丁數）」、「澁江藏書」「齋藤文庫」「酒竹文庫」「兎角菴」

刊記　通油町　山形屋開板

識語　（見返）外題年鑑ニ／菅原親王行狀記トアリ／寛文初年

（和泉太夫正本　巻初「江戸和泉太夫正本也」とありて和泉の刻壺印あり　若月保治著「古淨瑠璃の研究」巻一—參照　九二・七—イ三一）

せつきやうかるかや　三巻　一冊　二〇六九

袋綴　改裝後補澁刷毛目表紙　用紙裏打　二三糎一六・五糎　原寸一九糎一三糎　四周單邊一六・五糎一一・五糎　十三行　五十丁　挿畫（上巻）五頁分　（中巻）五頁分　（下巻）五頁分　外題左肩後補墨書名同　柱刻「かるかや（中巻第十八至二十一丁「かるかや中」）（丁數）」、「豐芥」「石塚文庫」「百井文庫」「紫景文庫」

刊記（上巻）寛永八年　卯月吉日／しやうるりや喜衞門

（中巻）寛永八年　卯月吉日／しやうるりや喜衞門

（丹緑本　下巻五十一丁以下闕　「稀書複製會」第七期、横山重編「説教節正本集」巻二—參照　九二・七—イ八一）

蟬のぬけがら　三段　一冊　二〇七〇

袋綴　麻葉押文縹色表紙　二一・五糎一六糎　十至十二行　二十五丁　題簽中央剝脱　柱刻「すけ（介六道行）（丁數）」、「紫景文庫」

（都一中正本　「作者佐渡嶋三郎左衞門」とある「助六心中後日」三段十四丁を附す　挿畫二頁分ありて「新上るり助六心中後日」と題せる都大夫一中出語りの圖あり　綴目「新上（中下）（丁數）」「助六心中後日」末尾半丁闕　九二・七—イ四九）

大しよくはん　五段　一冊　二〇七二

山本相模掾正本　袋綴　改裝後補水色表紙　二二糎一七糎　四周單邊一九・五糎一五糎　十七行　十七丁　挿畫九頁分　柱刻「（書名同）（丁數）」

奥記　延寶八庚申年八月吉日太夫直正本

（内題下に「相摸掾直正本」とあり　初丁附三より始る　九二・七—イ六九）

大日本神道秘蜜の巻　付御月日待ゆらい　五段　一冊　二〇七三

袋綴　改裝後補薄茶色布目表紙　用紙裏打　二二糎一七糎　四周單邊一九・五糎一四・五糎　十八行　十七丁　挿畫十一頁分　題簽左肩雙邊「神武天皇（右）（左）上るり」　柱刻「ひみつ（丁數）」、「兎角菴」

刊記　延寶五丁年十二月吉日□もしや八左衞門板

（清水理太夫正本　若月保治著「古淨瑠璃の研究」巻二、横山重編「古淨瑠璃集（播磨掾正本）」—參照　九二・七—イ三三）

大念佛七万日詣　五段　一冊　二〇七四

袋綴　紺表紙　二三糎一六糎　十行　四十三丁　題簽中央後補墨「七萬日廻向大夫正本」　綴目「七万（丁數）」、「藤井氏」

奥記　三月吉祥日

刊語　右此本は我等持本の通ちがひなく板行致し候／初心稽古のため也さればこと〴〵くかながきにして／くぎりふしじやう三味線ののりかたほどひやうし／三重をくりのしな〴〵秘密を殘さずあらはし候／なをじん〴〵の口傳は筆紙のおよぶへきにあらず／かしこ／山本土佐掾（印）

刊記　二條通寺町西へ入北側正本屋山本九兵衞板行（印）

識語　（見返）岡本／有得堂／持本

岡本主／太夫岡本有得齋

（山本土佐掾正本　内題下に「土佐掾正本」とあり　第二十・二十一丁計二丁闕　九二・七―イ一五一）

太平記　三巻　三冊　闕　二〇四

袋綴　薄茶色表紙　二二・五糎一五・五糎　四周單邊一六糎一二糎　十六至十七行　挿畫（各巻）八頁分　題簽左肩剝脱後筆墨「ゑ入太平記七之巻」「追加太平記壹之巻」　内題「太平記六之巻細川四國合戰」「太平記七之巻東西軍記」「追加太平記壱之巻」　柱刻「ほそ（とう・初）」（丁數）」、「元」

刊語　（巻七）此跡ゟ後太平記七巻ニ板行仕候

刊記　（巻六）寶永七年庚寅正月吉日大てんま三丁め本問や喜右衛門板

（巻七）寶永七年庚寅正月吉日大てんま三丁目本問屋喜右衛門板

（追加）正月吉日江戸大傳馬町三丁目本問屋喜右衛門新板

識語　（巻六裏見返）森戸村中嶋／此太平記／伊七が本かへし可被下／候以上

（巻七見返）森戸村中嶋／此太平記／伊七郎が本かへし可被下候／以上／七さつ物

（追加表紙見返）森戸村中嶋伊七特主（ママ）

（各巻六段　巻六・七及び追加巻一を存す　九二・七―イ三七）

竹子集　一冊　二〇五

自序　延寶六年戊午秋八月造化軒跋　袋綴　改装後補毘沙門格子地唐草文黒表紙　二六糎一八糎　四周單邊一九・五糎一四・五糎　十四行　三十七丁　序題書名同　内題なし　柱刻「竹子集序　竹子四き（道行　名所　舞）　竹子集撥（丁數）」

刊記　二條通寺町西（入北）側／山本九兵衛開板

（宇治加賀掾段物集　序末に「加賀掾」（印）と自署す　横山重編「加賀掾段物集」―参照　九二・七―イ二五）

〔竹本義太夫段物集〕　一冊　二〇六

袋綴　改装後補縹色表紙　用紙裏打　二二糎一六糎　八至十一行　五十五丁　題簽左肩後補墨書名同　内題なし

（「けいせい請状」以下「盛久」に至る二十六の段物所収　九二・七―イ一五九）

他力本願記　五段　一冊　二〇七

袋綴　改装後補黒表紙　用紙裏打　天地裁斷　原寸袋綴二一糎一六糎に二一糎一八糎の袋綴臺紙を裏打　四周單邊一九・五糎一五糎　十七行　十七丁　挿畫九頁分　題簽左肩後補墨書名同　柱刻「たりき（丁數）」、「兎角菴」

刊記　卯月口正本口

識語　（表紙裏朱書）延宝ゟ天和年ノ／上るり　百五十年已後／文政子年迄

（〔宇治加賀掾〕正本　若月保治著「古浄瑠璃の研究」巻二―参照　九二・七―イ一〇二）

千尋集　一冊　二〇八

如水序　袋綴　紺表紙　一六糎一一糎　六行　七十二丁　題簽中央後補墨「みち行そろ□」　内題なし　綴目「序（各曲名頭字）（丁數）」、「紫景文庫」

（竹本義太夫段物集　目録の條末に「貞享三寅暦霜月下旬」とあり　若月保治著「古浄瑠璃の研究」巻四―参照　九二・七―イ一七九）

中將姫御本地　六段　一冊　二〇九

袋假綴　改装後補白紙表紙　用紙裏打　二二・五糎一五・五糎　四周單邊一九糎一三糎　十七行　十二丁　挿畫十一頁分

刊語　右者太夫直之正本也

刊記　大傳馬三丁目鱗形屋孫兵衛新板

（毎丁破損甚し　九二・七―イ三三）

朝鮮太平記　七巻　合一冊　二一〇

袋綴　改装後補毘沙門格子文薄卵色表紙　二一・五糎一五・五糎　四周單邊一六糎一二糎　十六行　六十三丁　挿畫（巻一至六）八頁分　（巻七）十頁分　題簽左肩雙邊「ゑ入（書名同）鳴津軍功長崎丸山六（「六」の上に「大全」と墨書）」　柱刻「朝鮮　一（―

七）（丁數）」、「かながきぶんこ」
刊語　右朝鮮太平記者日本の士將大明迄も切靡為／一統之記一字一点無誤全部七冊ニ書板者也（ママ）
（各巻六段本　九二・七―イ三九）

融の大臣　五段　一冊　二〇八一

近松門左衛門著　袋綴　改装後補雲龍文薄朱臙脂表紙　用紙裏打　二二・五糎一七糎　四周單邊二〇糎一五糎　十七行　十四丁　挿畫九頁分　題簽左肩後補墨「融大臣」　柱刻「とをる（丁數）」、「兎角菴」
（内題下に「大夫正本」とあり　第五段第十七丁以下闕丁　九二・七―イ三三）

富松時計草　一冊　二〇八二

自序　袋綴　紺表紙　二二糎一六糎　七行　七十二丁　題簽中央闕　目録題書名同
刊語　右の本は師傳の音節墨譜の古めかしきを／省き新を撰て予が當風の一流としみつから／筆をとりて是を正し開板するものなり／冨松薩摩（印）
刊記　二條通寺町西へ入町山本九兵衛刊（印）
（冨松薩摩段物集　目録題の下に「冨松薩摩」とあり　横山重編「加賀掾段物集」―参照　九二・七―イ三三）

〔巴太皷〕　五段　一冊　二〇八三

袋綴　改装後補茶色布目表紙　用紙裏打　二二糎一七糎　四周單邊一九・五糎一四・五糎　十七行　十六丁　挿畫九頁分　題簽左肩青紙無記　内題なし　柱刻「ともへ（丁數）」、「兎角菴」
刊記　□九兵衛板
（宇治加賀掾正本　巻初に「加賀掾正本」とあり　九二・七―イ二二）

難波重井筒　おやまふさこんや徳兵衛　三段　一冊　二〇八四

近松門左衛門著　袋綴　改装後補黒表紙　天地裁斷　二二・五糎一六糎　四周單邊二〇糎一四・五糎　十二行　九丁　挿畫二頁分　柱刻「重井筒　（丁數）」、「金城門東得窗庵藏」等
刊記　八文字屋八左衛門板
（内題の下に「竹本義太夫節」とあり　歌舞伎狂言本か　ビブリア第十號所収祐田善雄「近松作の歌舞伎狂言本五種・その他」―参照　九二・七―イ六五）

寢物語　五段　一冊　二〇八五

袋綴　麻葉地蝴蝶押文青表紙　二三糎一六糎　八行　四十六丁　綴目「（丁數）」、「紫景文庫」
奥記　貞享四年陽月吉祥日
刊語　右此本者依小子之懇望附秘蜜／音節自遂校合令開版者也／加賀掾（印）
刊記　二條通寺町西へ入町山本九兵衛刊（印）
（宇治加賀掾正本　朱書音節書入あり　横山重編「加賀掾段物集」所収信多純一「宇治加賀掾年譜」―参照　九二・七―イ一七三）

華和讃新羅源氏　一冊　二〇八六

袋綴　改装後補黒表紙　二二糎一五・五糎　四周單邊一九糎一四糎　八丁　柱刻「花　（丁數）」
（豊竹座操浄瑠璃の繪盡　内題下に「全部」とあり　九二・七―イ二〇三）

飛彈内匠水大がらくり　三段　一冊　二〇八七

袋綴　毘沙門格子地菊桔梗文散卵色表紙　用紙裏打　二二糎一六・五糎　四周單邊二〇糎一四・五糎　十七行　十六丁　挿畫十二頁分　題簽左肩雙邊「（書名同）」
右に「ひだのたくみ　水大からくり」左に「付りゆみの四州はから木のすみかね　加賀掾正本」上段に畫ありて「ひだのたくみ／水からくり」下段に「二條通／正本屋／九兵衛」副題簽雙邊中央薄赤色「宇治加太夫／加賀掾／宇治新大夫」
柱刻「ひた水　（丁數）」、「兎角菴」
刊記　□通寺町西へ入北側　正本屋山□
（宇治加賀掾正本　見返上段畫下段役付あり　内題下に「加賀掾正本」とあり
若月保治著「古浄瑠璃の研究」巻三―参照　九二・七―イ二九）

百万遍珠數功徳記　五段　一冊　二〇八八

袋綴　改装後補毘沙門格子紋巻龍押文黄表紙　二二・五糎一六・五糎　八行　四十九丁　題簽中央後補墨「百万遍珠數の功徳記」　綴目「百（丁數）」、「饗庭文庫」等

奥記　貞享三年丙寅三月上旬

刊語　右此本者依小子之懇望附秘蜜／音節自遂挍合令開版者也／加賀掾（印）

刊記　二條通寺町西へ入町山本九兵衛刊（印）

（宇治加賀掾正本　表紙左肩に「四拾冊之内」と墨書せる附箋あり　九二・七―イ二三）

武徳鑑　六段　一冊　二〇八九

袋綴　改装後補黒表紙　原装雲母具引表紙　四周單邊一六・五糎一二糎　十七行　十一丁　挿畫六頁分　原題簽左肩雙邊「八まん太郎」右肩に「太平源氏恋のあみ笠」左肩に「おのへのまへ情の不孝　土佐少掾橘正勝」下に「西（三巴紋）村」

柱刻「武徳（武）（丁數）」、「浮生亭」「永田文庫」「兎角菴」　譜節なし

刊語　右此本者土佐少掾直本を以一字一点誤なくうつし／令開板者也／寶永七庚年正月吉日

（土佐少掾橘正勝正本　若月保治著「古浄瑠璃の研究」巻四―参照　九二・七―イ八九）

〔保元物語七之巻〕　一冊　二〇九〇

袋綴　改装砥粉色表紙　二二糎一五糎　四周單邊一七糎一二糎　十七行　七丁　挿畫七頁分　内題なし　柱刻「保元ノ七（丁數）」

（第一・二・五・九丁及び第十二丁以下闕丁　九二・七―イ三五）

平家物語　二冊　二〇九一

袋綴　（巻二）薄茶色（巻七）改装後補栗皮色表紙　二二糎一五・五糎　四周單邊一六・五糎一二糎　十七行　挿畫（各巻）十頁分　内題「（書名同）二之巻（七之巻）」　柱刻「平家二ノ巻（七巻）（丁數）」、「元」

刊語　（巻七）右此本者太夫直傳之以正本一字／一点無相違写之候て令板行者也

刊記　（各巻）元祿七年／戊正月吉日　大傳馬三町目うろこかたや新板

識語　（巻七）虎常（花押）

（巻二・七を存す　各巻六段　九二・七―イ三三）

煩悩即菩提記　五段　一冊　二〇九二

袋綴　縹色布目表紙　二二・五糎一七糎　八行　四十一丁　題簽中央「紀三井寺加賀掾直傳」　綴目「紀（丁數）」

奥記　貞享五年弥生吉祥日

刊語　右此本者依小子之懇望附秘密／音節自遂挍合令開版者也／加賀掾（印）

刊記　二條通寺町西へ入町山本九兵衛刊（印）

（宇治加賀掾正本　九二・七―イ三九）

〔松本治太夫段物集〕　一冊　二〇九三

袋綴　改装後補萩模様紙表紙　用紙裏打　二二・五糎一六糎　十至十二行　二十三丁　題簽左肩後補墨書名同　内題なし、「紫景文庫」

（「石川五右衛門物語柳のまへ道行」以下十一段所収　見返に藤井紫影筆所収目録あり　九二・七―イ四五）

松浦合戰　六段　一冊　二〇九四

袋綴　改装後補漉刷毛目表紙　用紙裏打　二三糎一六・五糎　原寸一九糎一三糎　四周雙邊一七・五糎一二糎　十四行　十二丁　挿畫七頁分　題簽左肩後補雙邊（刊）墨書名同　柱刻「まつら（丁數）」、「川弥（墨印）」「村岡典嗣蔵書」

刊記　万治三年十月吉日　山本九兵衛板

（若月保治著「古浄瑠璃の研究」巻一―参照　九二・七―イ八九）

都富士　五段　一冊　二〇九五

袋綴　毘沙門格子黒行成表紙　二二・五糎一六糎　四周單邊二〇糎一四・五糎　十七行　十五丁　挿畫八頁分　題簽左肩雙邊書名同　右に「みやこのふじ付りむつ

ごとの山」左に「にほてる姫　竹本義太夫正本」下段に「大坂かうらい橋／壹町目／京正本屋／九兵衛」　副題簽中央雙邊紅紙「竹本義太夫」右に「竹本頼母」左に「竹本内匠」　柱刻「みやこのふし（丁數）」、「兎角菴」

刊記　二條通寺町西へ入北側　山本九兵衛新板

（竹本義太夫正本　内題下に「竹本義大夫正本」とあり　九二・七―イ九二）

吉田兼好物語　五段　一冊　二〇九六

袋綴　改裝後補卵色蓮華唐草臘箋表紙　用紙裏打　天地裁斷　二二・一六糎　四周單邊二〇糎一五糎　十七行　十五丁　挿畫十頁分　題簽左肩後補墨「兼好物語　二」　柱刻「つれ〳〵草（つれ〳〵）（丁數）」、「瀧」「兎角菴」

刊記　□北側　山本九兵衛板

（宇治加賀掾正本　内題下に「加賀掾正本」とあり　横山重編「加賀掾段物集」所収信多純一「宇治加賀掾年譜」―參照　九二・七―イ一〇七）

吉野忠信　五段　一冊　二〇九七

近松門左衛門著　袋綴　改裝後補黄布目表紙　用紙裏打　二二・五糎一七糎　四周單邊二〇糎一五糎　十七行　十五丁　挿畫八頁分　外題左肩墨「（書名同）全」原題簽（扉左肩縁切りとり貼附）雙邊書名同　左に「若むらさき花むらさき道行竹本義太夫正本」　下段「大坂かうらい橋壹丁目京正本屋／九兵衛」　柱刻「吉野　（丁數）」、「このぬしせんくわ（墨印）」

（竹本義太夫正本　内題下に「竹本義大夫正本」とあり　第十七丁闕　裏見返に「座本大和屋甚兵衛」の「八こゑの女やたの鏡」の役者替名附を貼附す　ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎狂言本・淨瑠璃本について」―參照　九二・七―イ三二）

吉野忠信　五段　一冊　二〇九八

近松門左衛門著　袋綴　黒表紙　二二・五糎一六糎　四周單邊二〇糎一五糎　十七行　十五丁　挿畫八頁分　題簽左肩雙邊書名同　左に「若むらさき花むらさき道行　竹本義大夫正本」　下段「直傳寫／正本屋／八兵衛」　柱刻「吉野　（丁數）」、「兎角菴」

刊記　作本屋八兵衛新板

識語　（貼紙）竹本義太夫方ニて／宝永四年正月／廿四日ゟつとむ／吉野忠信

（竹本義太夫正本　内題下に「竹本義大夫正本」とあり　九二・七―イ九三）

四ツ橋供養・「弘法大師誕生記」　合一冊　二〇九九

袋綴　改裝後補縹色表紙　用紙裏打　二二・五糎一六糎　四周單邊一九・五糎一五糎　十七行　二十三丁　挿畫（四ツ橋供養）四頁分　（弘法大師誕生記）八頁分　題簽左肩薄紅紙後補墨「四ツ橋供養　竹本義太夫正本」　（弘法大師誕生記）　内題なし　柱刻「もりや（たんしやうき）（丁數）」

刊記　（四ツ橋供養）口寺町西へ入北側　正本屋山本九兵衛新板

（竹本義太夫正本　「四ツ橋供養」内題の下に「竹本義大夫正本」とあり　第十丁裏より山本相摸掾正本「弘法大師誕生記」ありて闕丁多し　九二・七―イ一五五）

來國久　延命不動　玉寶殿　一冊　二一〇〇

袋綴　改裝後補華文摺出小豆色表紙　用紙裏打　二二・五糎一六・五糎　原寸二一糎一五糎　四周單邊二〇糎一四・五糎　十五行　十丁　挿畫四頁分　題簽中央後補墨「（書名同）（附訓）全」　柱刻「ふとう明王（丁數）」、「（萩原乙彦野印）」

（出羽信濃掾正本　内題の下に「出羽信濃掾直本」とあり　ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎狂言本・淨瑠璃本について」―參照　九二・七―イ三九）

頼光跡目論　三段　一冊　二一〇一

袋綴　麻葉押文縹色表紙　二二糎一六糎　八行　三十三丁　題簽中央後補墨書名同　綴目「あと　（丁數）」、「饗庭文庫」

刊語　右此本者依為懇望文句音節等／悉挍合加秘蜜令開版者也／竹本筑後掾（印）

刊記　大坂高麗橋壹丁目　山本九兵衛板（印）／山本九右衛門板（印）

（竹本筑後掾正本　内題下に「筑後掾正本」とあり　九二・七―イ一四七）

靈山國阿上人　五段　一冊　二一〇二

袋綴　毘沙門格子地唐草文黒行成表紙　用紙裏打　天地裁斷　二一・五糎一六・五

糎　四周單邊二〇糎一五糎　十六行　十九丁　挿畫九頁分　題簽左肩雙邊上段に「東山灵山」と横書　中段に「國阿上人」とありてその右に「こくあしやうにんはぶつのゆらい」同左に「口らくやう物語　宇治賀太夫直口正本」下に「二条通／鶴（鶴丸紋）屋／喜右衛門」副題簽中央薄茶色雙邊「直之正本／天下一加賀掾／宇治好澄」柱刻「灵山（丁數）」、「兎角菴」

刊語　（見返貼付）此本は太夫直の正本也いまほと／余方々きゝかき又は字ちかひ候本に／此方の名をかきにせ本仕候御きんみ／なされ御もとめ可被下候／二条通寺町西へ入ル丁つるや喜右衛門（刻花押）

（宇治加賀掾正本　第廿一丁表後半同裏闕　若月保治著「古浄瑠璃の研究」巻二—参照　九二・七—イ二七）

若衆仙人千歳菊慈童　三段　一冊　三〇三

袋綴　改装後補毘沙門格子巻龍文薄茶色表紙　用紙裏打　二一糎一五・五糎　四周單邊一九・五糎一四糎　十七行　十二丁　挿畫五頁分　副題簽左肩單邊「（書名同）」右に「出羽太夫信濃掾／てづま太夫飛驒掾／岡本利太夫／岡本阿波太夫／岡本金之助」左に「水のうへ大からくり／上かんやう宮の栄花／中くわぜん宮の遊楽／下長らく宮のはん昌／唐にはじまる／まつのくわん／からにはじまる／いご／からにはじまる／きくざけ／御常前正本屋仁兵衛板」上段「長良はんくわいゆうりき」とある圖、「（萩原乙彦罫印）」

（出羽太夫信濃掾正本　内題下に「正本」とあり、第二・三闕丁　見返に第十三丁裏挿畫貼附す　九二・七—イ九五）

和氣清麿　五段　二冊　三〇四

袋綴　改装後補薄朱色菊唐草臘箋表紙　用紙裏打　二二・五糎一七糎　四周單邊二〇糎一五糎　十七行　十四丁　挿畫十頁分　題簽左肩後補墨「和気清麻呂三」柱刻「わけ（丁數）」、「兎角菴」

刊記　山本九兵衛板

（宇治加賀掾正本　内題下に「加賀掾正本」とあり　若月保治著「古浄瑠璃の研究」巻二—参照　九二・七—イ九五）

わだざかもり　六段　一冊　三〇五

袋綴　改装後補唐草文薄萌黄色表紙　用紙裏打　二一・五糎一五糎　四周雙邊一六・五糎一一・五糎　十六行　十四丁　挿畫十頁分　題簽左肩雙邊墨「わだのさかもり　全」柱刻「わた（丁數）」「兎角菴」節譜なし

刊記　寛文四甲辰年正月吉日　山本九兵衛板

識語　大坂道頓堀浄留理芝居／元祖岡本文彌直伊藤出羽掾座狂言本／高麗橋正本屋山本九兵衛板

（表紙附箋）寛文ヨリ嘉永四迄一百九十七年

（若月保治著「古浄瑠璃の研究」巻二、横山重編「古浄瑠璃集（出羽掾正本）」—参照　九二・七—イ三三）

俗曲・俚謡

色里新かれうびん　一冊　三〇六

袋綴　改装後補縹色表紙　一一糎一六糎　十二至十五行　八十二丁　目録題書名同　内題なし　柱刻「か目（丁數）・か（丁數）・や（丁數）・畧や（丁數）」、「平出氏書室記」「元」

刊語　六藝いづれか劣ならん／中にもたしなミ持べ／きは音曲の道なり今此／一冊ハ當流の一曲中にも／おもしろきをあつめふし／章悉改あづさにちりばめ／御ひろう申候もお慰のため欤／時に／はんじやうの難波

刊記　大坂心齋橋南へ四丁目正本屋九左衛門板

（目録題の下に「西沢板」とあり　巻末に「此外前ニよりひろめ置申候」として「一色里なづみ竹一冊／一色里びんか鳥一冊／一音曲色すごもり一冊」とあり　九二・八—イ二）

哥さいもん鼓弓丸　一冊　三〇七

袋綴　改装後補縹色表紙　一一糎一六糎　十五行　四十八丁　題簽左肩石田元季筆書名同　目録題同上　柱刻「（丁數）」、「元」

（「一おそめ久松恋のさいもん」至「廿六からさき心中上下さいもん」所収　目録末に「懐中大字けいこ本」とあり　九二・八―イ九）

〔近世一枚刷歌謡集〕　一冊　二〇八

袋綴　改装後補薄青表紙　間紙を挟む　二四五・糎一七糎　原寸二二至二二・五糎　四周單邊二〇・五至二一糎二八至二九糎　十一丁　挿畫入

（九二・八―イ一九）　所収次の如し

第一枚　うらのさんせよの木もつともぶし　いろざと御ぞんし

第二枚　ゑほうのゑいやこのぶし　うらのさんせよの木　かわり八兵へぶし　福じん

第三枚　りへつの書出シ　なんによのくれない二ッ腹帯上　大坂いく玉三人心中

第四枚　三くだり半兵衛　よめなのおちよ心中花毛氈下　大坂太夫豊竹万太夫ふし

第五枚　雛形こゝりきぶし上

板元　いわ井丁　よし田屋　はくろ丁　中むら屋

第六枚　吉原手染の錦

板元　いわ井丁　よし田屋　ばくろ丁　中むら屋

第七枚　太郎左衛門　ふし　五穀成就在郷太郎左衛門　野まはり　うた

第八枚　色里大一座

第九枚　あれミさしやんせふし／御堀浚御音請　万民の喜悦　保年の壽

第十枚　あれミささんせふし／ふか川におゐて御救の土もち　万歳の樂

板元　［　］屋丁　代場三丁目　田嶋屋喜右衛門（陰刻）

第十一枚　享保十九年甲寅／料理こんだて大小

三味線間之手付新なげぶし　井ニかゝぶし入　付夕霧あいの山　一冊　二〇九

袋綴　改装毘沙門格子地唐草文黒行成表紙　二二糎一六・五糎　四周單邊一九・五糎一四・五糎　九行　十四丁　挿畫六頁分　題簽左肩雙邊「新なげぶし　ふし付　付夕霧　けいこ本かわりしやうが　あいの山色ニ入（下段）八幡町通／正本屋／七郎兵衛」　柱刻「新なけぶし（丁數）」

（九二・八―イ一五）

鄭聲語原　寫　一冊　二一〇

村田了阿著　石橋真國筆　袋綴　青表紙　二六糎一八・五糎　十行小雙行　五十八丁　題簽左肩「（書名同）全」、「櫝本文庫」

奥書　此一巻は友なる諸田氏の人にかりえしとて見せられ／たるかいとをかしうめつらしさにやかてうつしとりつ／天保十五年九月朔　石橋真國五代目

識語　（見返）　松永鐵四郎藏（印）

（原に「鄭聲語原一巻釋了阿師所編輯今借得寫之可謂簸中秘冊矣／天保辛丑閏正月十八日　播磨屋徳五郎／同　廿五日　追考書終」とあるものの寫　九二・八―イ七）

鄭聲語原　寫　一冊　二一一

村田了阿著　袋綴　蓮華押文鼠色表紙　二四・五糎一七・五糎　九行　六十五丁

題簽左肩雙邊「（書名同）　完」　内題なし、「高木藏書」『紫景文庫』

（原に「鄭聲語原一巻釋了阿師所編輯今借得／寫之可謂簸中秘冊矣／天保辛丑閏正月十八日　播磨屋徳五郎」（朱書）「廿五日追考書終」とあるものの寫　北静盧梅塢の補注あり　九二・八―イ三）

松の葉　五巻　五冊　二一二

秀松軒編　元祿十あまり癸の未龍集の涼ミ月自序　袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草濃納戸色行成表紙　二二糎一六糎　四周單邊一九・五糎一四糎　十二行（巻五のみ十行）　題簽中央雙邊「（書名同）　本手粗一」（巻一のみ存）　綴目「序（一―五）（丁數）」

刊記　元祿十六癸未年／六月吉日／京寺町通二条上ル町　井筒屋庄兵衛／万木治兵衛／板行

（巻一見返に松・三味線畫及び歌散し書あり　九二・八―イ七）

○

近代歌謡考説　寫　二冊　二一三

忍頂寺務著　自筆ペン書　昭和二十二年四月日自序　袋綴　黒表紙　二四糎一七

糎　四百字詰原稿用紙　題簽左肩無記　扉題書名同　内題なし
（「書物展望」「陳書」「上方」「書物の趣味」其の他に掲載の論考を集む　巻初に昭和二十二年三月六日附忍頂寺務宛三田村玄龍書簡同封筒を附す　九二・九―イ九）

心中くどき集　寫　五冊　二一四

忍頂寺務編　自筆ペン書　袋綴　改装後補茶色表紙　二二糎一五糎　四周單邊一八・五糎一三糎　十行二十四字詰原稿用紙　扉題「心中くどき　第二輯（一第五輯）」（第一冊なし）、「忍頂寺藏書章」
（凡例の後に第二輯「昭和八年八月」、第三輯「昭和八年十一月」、第四輯「昭和九年十一月」、第五輯「昭和十三年五月」とあり　九二・九―イ七）

〔隆達小歌〕　寫　一軸　二一五

自菴隆達節付　自筆　巻子本　龍門鯉魚織文濃納戸色表紙　見返金箔地銀泥下畫用紙鳥の子金銀泥下畫　裏金銀切箔散横雲　三〇糎七米七〇糎　一紙五一糎　内題なし
奥書　文祿二年九月上旬／自菴／隆達（花押）／江川甚左衛門尉殿
（「堺隆達古哥巻物目出たや」との古筆極札添附　箱書に「古哥巻物　堺隆達」とあり　日本古典文學大系所収「中世近世歌謡集」―参照　九二・九―イ二）

戯曲

新小町榮花車　三番續　一冊　二一六

近松門左衛門著　袋綴　改装後補丹行成表紙　二二・五糎一六糎　四周單邊二〇糎一四・五糎　十五行　十丁　挿畫六頁分　題簽左肩後筆「（書名同）　全」　柱刻「八（陰刻）　いま小町　（丁數）」、「楠果亭所贈笠亭珍藏記」
刊記　八文字屋八左衛門新版
（萬太夫座狂言本　内題の下に「かほ見せ狂言　座者近松門左衛門」とあり　第一丁表上段「坂田藤十郎かほ見せ口上」　中下段役者番附ありて立役坂田藤十郎・立役中村四郎五郎・太夫きりなミ千じゆ・だうけ金子吉左衛門・座本嵐三右衛門等出役　ビブリア第十號所収祐田善雄「近松作の歌舞伎狂言本五種」―参照　九二・六―イ四三）

梅丸大嶋臺　三番續　一冊　二一七

袋綴　改装後補菱文巻龍薄茶色表紙　二一・五糎一六糎　四周單邊二〇・五糎一四・五糎　十五行　八丁　挿畫五頁分　題簽左肩後筆「（書名同）　全」　柱刻「梅丸（丁數）」
（布袋屋座狂言本　最終の半丁は別本の混入　内題下に「付りひなづる源介が一歴すゞめの千石どり（并ニいもとお亀がはたらき万年の御ひいき）」とあり　見返上段に「右は丑の年三ケの津大評判琢敷／替つたしゆこうに作り當月中に出し申候／御もとめなされ御一覧願上候／各ミ様／八文字屋八左衛門」とある「役者胎内捜三巻」の刊行豫告口上書　中下段に役者番付あり　ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎狂言本・淨瑠璃本について」―参照　九二・六―イ三九）

大隈川源左衛門　三番續　一冊　二一八

袋綴　改装後補薄茶色布目表紙　用紙裏打　二二糎一七糎　原寸二一糎一五・五糎　四周單邊二〇糎一五糎　十五行　八丁　挿畫五頁分　題簽左肩單邊「（書名同）（大隈川の三字横書）（右）おほくまがわげんざゑもん（左）熊野のごんげん女人をあわれみ給ふ事　（下段）二條通／正本屋／喜右衛門」　柱刻「おふくま（おふくま川）（丁數）」、「兎角菴」
（萬太夫座狂言本　第九丁以下闕丁　内題の下に「（第一）しうしんのたね　たか身のうへ　（第二）なミだのたね　たか身のうへ　中」とあり　見返「大隈川源左衛門　三番續」として口上及び畫あり　九二・六―イ二七）

鬼若錦の初衣　一冊　二一九

序　袋綴　改装後補網代押文縹色表紙　用紙裏打　二二糎一五・五糎　原寸二一糎一五糎　四周單邊一九糎一三糎　九丁　挿畫十四頁分　題簽中央後補墨「鬼若錦　全」　内題なし　柱刻「鬼（丁數）」
（繪畫本　九二・六―イ三三）

小野小町　三番續　一冊　三三〇

水嶋四郎兵衛著　袋綴　改裝後補黑茶色表紙　用紙裏打　二二糎一六糎　四周單邊一九糎一四・五糎　十六行　九丁　挿畫五頁分　題簽左肩後補墨「（書名同）全」　柱刻「（書名同）（丁數）」、「（萩原乙彦野印）」

（嵐三右衛門座狂言本　内題の下に「作者水嶋四郎兵衛」とあり　見返上段「口三味線の返答舌つゞみ　全部三冊」の豫告　下段役者番附ありて女方玉川半太夫・立役山下又四郎・座本嵐三右衛門等出役　ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎狂言本・淨瑠璃本について」―參照　九二・六―イ九七）

面影砥水鏡　寫　一冊　闕　三三一

津打菅祈著　袋假綴　共表紙　用紙裏打　二四糎一七糎　十一至十二行　四十九丁　外題中央「（書名同）」（右上）刀屋／（左上）打入屋／半七／おはな　（右）富士雪年貢曽我後日／延享三寅年菊陽九日ヨリ（左）第四番目／下ノ巻（左下）（役者名）」　内題なし、「魁書舍」識語（裏表紙）紙員四十八／本主福森／千秋萬歳／作者津打菅祈

（中村座臺帳　表紙左肩に「上々」とあり　役者に菊次良・菊之丞・七三郎・平九郎等出役　九二・六―イ四九）

金岡筆　三番續　一冊　三三二

袋綴　改裝後補薄茶色布目表紙　用紙裏打　二二糎一七糎　四周單邊二〇糎一五糎十六行　十二丁　挿畫八頁分　題簽左肩雙邊「（書名同）（右）かなおかゞふで（左）よこぐもわうじ恋のまき（下段）ふ屋町通／八文字屋／八左衛門」　柱刻「かなおか（丁數）」、「兎角菴」等

刊記　□月吉日　八文字屋八左衛門□

（萬太夫座狂言本　内題の下に「三番續」とあり　見返「金岡筆（付りて）ろひしん王くらい諍のまき　并によこぐも王子恋のまき　都万太夫座」として役者番付あり　片岡仁左衛門・山下半左衛門・大和屋甚兵衛・金澤五平次等出役　古典文庫所収野間光辰編「歌舞伎狂言集」―參照　九二・六―イ二九）

假名草紙國性爺實錄　寫　四冊　三三三

袋綴　毘沙門格子桐唐草押文崩黄色表紙　二四糎一七糎　十二行　題簽中央「（書名同）　口明（二ツ目／三ツ目口）　三ツ目奥　大切）」　内題なし

（嵐吉三良座臺帳　奥附「宝暦十年辰二ノ変リ／大坂道頓堀中芝居／嵐吉三良座」表紙右肩に「（白）」と記せる紙箋を貼附　役者に中村四郎五郎・櫻山四郎三郎・山下又太郎・藤川平九郎・芳澤崎之助等出役　九二・六―イ六二）

假名曽我當蓬萊　寫　五冊　三三四

鶴屋南北等著　袋綴　茶色表紙　二三・五糎一七糎　約十六行　題簽左肩「（書名同）　壹（一伍）」、「澁江氏珍玩」「秋元」等

（市村座臺帳　第五冊奥附に「文政七年甲申正月大吉日／作者／本屋宗七／花笠魯助／竈峯丑左衛門／寺嶋松作／松本幸二／高津連助／濱久次／槇屋章三／三升屋二三治／竈屋南北／千穐万歳大ミ叶」とあり　各冊表遊紙に外題及び役者割を記す　役者に圍十郎・四郎五郎・彦三郎・半四郎・紫若等出役　なほ第一冊表遊紙左肩に「文政七年甲申正月市村座」とあり　九二・六―イ三七）

鎌倉正月買　三番續　一冊　三三五

袋綴　改裝後補菊小文摺出黄表紙　用紙裏打　二二・五糎一六・五糎　原寸二一・五糎　四周單邊一九・五糎一四・五糎　十六行　十丁　挿畫六頁分　題簽左肩後補墨「（書名同）全」　柱刻「正月かい（丁數）」、「（萩原乙彦野印）」

刊記　新板

（嵐三右衛門座狂言本　内題の下に「嵐三右衛門初狂言」とあり　見返二段役者番付ありて立役瀧岡彦右衛門・女方玉川半太夫・座本嵐三右衛門・立役柴崎林左衛門等出役　ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎言本・淨瑠璃本について」―參照　九二・六―イ一〇五）

鎌倉山梶原一生記　一冊　三三六

袋綴　改裝後補薄茶色布目表紙　二一・五糎一五・五糎　四周單邊一九・五糎一四・五糎　十二行　上文下圖　八丁　題簽左肩雙邊後補墨「（書名同）全」　柱刻「かまくら山（丁數）」

識語　（後補扉）享保十三年申十一月十一日／座本　佐野川万菊／名代　蛭子谷吉郎兵衛

／京四条南西
享保十二未年／梶原一生記終／座本佐野川万菊／四条南西 名代早雲長太夫
（早雲座狂言本　ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎狂言本・浄瑠璃本について」—参照　九二三・六—イ一九）

〔狂言古本寄本〕　二冊　二三七

袋綴　改装後補網代押文納戸色表紙　用紙裏打　二二糎一五・五糎　四周單邊一九至二二糎一四至一五糎　挿畫（第一冊）十二頁分　（第二冊）四頁分　題簽（第一冊）左肩（第二冊）中央後補墨「よせ本」「大商都名物　全」、「（萩原乙彦野印）」
第一冊（柱刻「水源氏」とあるもの二丁　同「水□」とある第十一及び十二丁　同「衆□水盃」とある第四及び五丁　同「けいせいはちす川」とある第八及び九丁　同「毘沙門長者」とある第八及び九丁　同「ちとうてんわう」とある第六及び七丁　及び見返に柱刻「いま小町」とある「新小町榮花車」の原見返貼附　上段に「役者二挺三味線　全部三巻／付タリ 祇園座敷評判」下段「好色一代曽我全部八巻／付リ 粋は知る今様姿」の八文字屋八左衛門出板口上を存す）
第二冊（内題「大商都名物 付りていしゆ仕合かほのはじめ 并ニ心よいむこみめのよいよめ」柱刻「都名物」とある第三・四・十二・十三丁、内題「南都十三鐘 三番續大あたり 作者津打治兵衛」柱刻「南都十三かね　大あたり」とある第三及び四丁　柱刻「中將ひめ」とある第五・六丁　柱刻「新大しよくはん一」とある第二丁を存す）
（ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎狂言本・浄瑠璃本について」—参照　九二三・六—イ九）

銀閣寺釿始　寫　四冊　二三八

袋綴　薄鼠色布目表紙　二三・五糎一七糎　十四行　題簽中央「（書名同）」（三段目 七段目／四段目 八段目）　内題なし　上口明 二段目
（嵐吉三郎座臺帳　役者に桐山紋治・中村粂太郎・芳澤崎之助・市野川彦四郎・市川團藏・山下又太郎等出役　表紙右肩「（白）」と記せる紙片を貼附　九二三・六—イ七七）

石川五右衛門忍術事
瀬川采女艶書事　**金門五山桐**　寫　一冊　二三九

袋綴　紺表紙　二三・五糎一六・五糎　十二行　題簽中央「（書名同）」五巻」
（小川吉太郎座臺帳　奥附に「安永七戊年三ノ替新狂言卯月四日より初日にて／近年の大當り藏入万ゞ両座中大出來銀主滿悦／依之令奥書者也千秋万歳樂／大坂道頓堀角ノ芝居 小川吉太郎座」とあり　役者に嵐雛助・尾上菊五郎・小川吉太郎・尾上新七等出役　表紙右肩に「（白）」と記せる紙片を貼附　九二三・六—イ七二）

桑名屋徳藏入舩物語　寫　四冊　二四〇

袋綴　薄茶色表紙　二三・五糎一七糎　十二行　題簽中央「（書名同）」口明（中入 三ノ口 三ノ奥 四ッ目）」　内題なし
（小川吉太郎座臺帳　奥附に「明和八年辛卯二ノ替り／道頓堀中ノ芝居 小川吉太郎座」とあり　役者に中村歌右衛門・三桝大五郎・姉川大吉等出役　九二三・六—イ七三）

北川宗左衛門宿
さゝら三八宿　**契情天羽衣**　寫　四冊　二四一

袋綴　縹色表紙　二三・五糎一七糎　十六行　題簽中央「（書名同）」上口明（二段目 三段目／四段目 五段目）」　内題なし
（中山文七座臺帳　役者に中村歌右衛門・中山新九郎・中山文七・姉川大吉・芳澤崎之助等出役　九二三・六—イ六七）

去年梅
今年櫻　**けいせいあらし山**　寫　四冊　闕　二四二

袋假綴　共表紙　用紙裏打　二四糎一七糎　九至十行　外題中央（第一冊）「（書名同）（右）未之歳二の替三冊め／（左）序中入之壹」（第二冊）「（書名同上）三番續（右）未之歳二の替四冊め／（左）序中入之弐」
（第三冊）「けいせいあらし山（右）元文四己未正月 二之替／（左）中ノ大坂之三段目直」（第四冊）「けいせい嵐山（右）元文四己未ノ正月吉日／（左）中ノ中入三場」　内題なし、「魁書舍」
識語　（第一冊裏表紙）奈良井文輔／紙數五拾三枚
（第二冊 同）奈良井文輔／紙數廿八枚中入都合八拾壹枚二冊／外に浄瑠璃
（第三冊 同）紙數八十五丁
（第四冊 同）千秋萬歳叶未正月吉日
（亀屋座臺帳　第三・四冊表紙左下に「沢村東桃」と署す　役者に十町（廣次）・萬菊・三右衛門・冨十郎等出役　九二三・六—イ三三）

けいせい在原寺　三番續　一冊　二三三

袋綴　改裝後補黑表紙　二一・五糎一六・五糎　四周單邊二一糎一五糎　十五行　十丁　挿畫六頁分　題簽左肩後補「けいせい在原寺／おの〳〵小町八百年忌全」　内題「けいせい在原寺おの〳〵小町八百年忌二の替」　柱刻「八（陰刻）　在原寺（丁數）」、「（萩原乙彦罫印）」

刊記　八文字屋八左衛門板

（蛭子屋座狂言本　見返上段に役者二挺三味線の口上あり　中下段に役者番付あり　立役山下半左衛門・太夫芳澤あやめ・座本大和屋藤吉等出役を記す　九二二・六―イ五五）

契情鸚鵡石　寫　一冊　闕　二三四

袋假綴　共表紙　用紙裏打　二四・五糎一七糎　九至十行　五十丁　外題中央「（書名同）（書名の下に）三はん續（右肩）午の年二の替り（左）序中入之上」　内題なし、「魁書舍」

識語　（裏表紙）八冊之内三／奈良井文輔

（萬太夫座臺帳　表紙左肩に「狐化され／上ミ」とあり　役者に小六・元太郎義左衛門・染右衛門・權藏・十町（廣次）等出役　九二二・六―イ一四五）

戀の山吹　情の白梅　契情華街蛙　寫　五冊　二三五

袋綴　薄朋黃色布目表紙　二三・五糎一七糎　十四行　題簽中央「（書名同）上口明（二ツ目　三ツ目　四ツ目　五ツ目　六ツ目）」　内題なし

（布袋屋座臺帳　役者に染松七三郎・櫻山四郎三郎・中村十藏・今村七三郎・嵐富之助・中村粂太郎等出役　表紙右肩に「（白）」と記せる紙箋を貼附　九二三・六―イ八五）

大門開　花街榮　契情勝尾寺　寫　六冊　二三六

袋綴　薄朋黃色布目表紙　二三・五糎一七糎　十四行　題簽中央「（書名同）上口明（二段目　三段目　四ノ口　四之詰　五段目）」　内題なし

（早雲・布袋屋座臺帳　役者に中村喜津右衛門・櫻山四郎三郎・芳澤崎之助・大谷廣八等出役　表紙右肩に「（白）」と記せる紙箋を貼附　九二三・六―イ八一）

けいせいぐぜいの舟　三番續　一冊　二三七

近松門左衛門著　袋綴　改裝後補黑表紙　用紙裏打　二二糎一六・五糎　四周單邊二〇・五糎一四・五糎　十五行　十二丁　挿畫六頁分　題簽左肩後補墨「（書名同）全」　柱刻「ぐぜいの舟（丁數）」、「（萩原乙彦罫印）」

刊記　八文字屋八左衛門板

（萬太夫座狂言本　内題の下に「はこざき左門（坂田藤十郎）はかた勘介（中村四良五良）大あたり」とあり　見返上段「芝居代一男／付り男役者万年暦」の口上あり　下段「けいせいぐぜいの舟　はこざき左門はかた勘介其身のもしほ草つくしぜんどうじふないたのミやうがう」として役者番付あり　座本坂田藤十郎　立役中村四郎五郎等出役　ビブリア第十號所收祐田善雄「近松作の歌舞伎狂言本五種」―參照　九二二・六―イ四七）

安嶽真平　藻葛半平　傾城廓孝環　寫　四冊　二三八

袋綴　毘沙門格子地桐唐押文崩黃色表紙　二三・五糎一七糎　十二行　題簽中央「（書名同）　口明（中入　三ツ目　四ツ目　大切）」　内題なし

（三桝他人座臺帳　役者に中山新九郎・山中文七・三桝大五郎・山下金作・芳澤あやめ・染川此兵衛等出役　九二二・六―イ七五）

日本五山　傾城建仁寺供養　寫　一冊　闕　二三九

袋假綴　共表紙　用紙裏打　二四糎一六・五糎　九至十行　四十丁　外題中央「（書名同）（左）曽根松之段」　内題なし、「魁書舍」

識語　（裏表紙）御もとし市山助五郎／四十丁

（布袋屋座臺帳　見返役者番付あり　役者に源三郎・小左衛門・吉弥・菊三郎・十郎兵衛・助五郎等出役　九二二・六―イ一四三）

けいせい十三鐘　三番續　一冊　二四〇

榊山勘介著　袋綴　黃表紙　用紙裏打　二一・五糎一五・五糎　四周單邊一九・五

糎一四糎　十二行　七丁　挿畫四頁分　題簽左肩雙邊「(書名同)(十三鐘の三字横書)(右)ぼんがはりかぞへ哥入(左)よミ賣のゑぞうし一さつが八文字の道中(上段)榊山／大あたり(畫)(下段)六角通／柳馬場角／江嶋屋板」副題簽中央薄紅紙「名代亀屋座本榊山四良太郎(右)立役片岡仁左衛門／太夫袖崎わかうら／立役篠塚次郎左衛門(左)親同小四郎／太夫山本かもん／立役村山平十郎」柱刻「けいせい十三かね(けいせい・けい)(丁數)」、「Collection S. Bing(紙票)」「(萩原乙彦罫印)」

刊記　ゑしまや市郎左衛門板

(亀屋座狂言本　内題の下に「大あたり」とあり　見返上段「よミうりかぞゑうた」下段「けいせい十三鐘　三番續」として役者番付ありて同末に「狂言作者榊山勘介」とあり　九二二・六―イ四一)

けいせい竹生嶋　二巻　一冊　闕　二四一

袋綴　黒表紙　二〇糎一六糎　十二行　十丁　挿畫四頁分　柱刻「中竹(丁數)」、「紫景文庫」

刊記　ふ屋町通せいくハんじ下ル町　八文字屋八左衛門新板

(蛭子屋座狂言本　三番續上巻闕　中巻内題の下に「片岡大あたり」とあり　九二二・六―イ三三)

けいせい筑波山　一冊　二四二

袋綴　改裝後補薄茶色布目表紙　二一・五糎一五・五糎　四周單邊二〇糎一四・五糎十二行　上文下圖　八丁　題簽左肩雙邊後補墨「けいせい築波山　全」　柱刻「つくば山(丁數)」

識語　(後補扉)享保十年巳年正月十五日ゟ／座本　瀬川菊之亟／京四條北西角／名代　都万太夫

(萬太夫座狂言本　ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎狂言本・淨瑠璃本について」―参照　九二二・六―イ九三)

待宵千里鐘若狹國鶏娘傾城妻戀櫻　寫　三冊　闕　二四三

袋假綴　共表紙　用紙裏打　二四糎一七糎　約十行　外題中央(第一冊)「(書名同)(右)享保十七壬子歳二之替　上口明(左)上紙數九十一丁　市山助五郎」(第二冊闕)(第三冊)「契情妻戀櫻(右)享保十(左)若狹國七壬子正月二替り　待宵千里鐘鶏娘　四番目　三番續」内題なし、「魁書舎」

奥書　千秋万歳叶

識語　(第二冊裏表紙)之山

(早雲座臺帳　役者に儀左衛門・大吉・友十郎・助五郎・八重桐・宗十郎等出役國語と國文學第二十六巻十號所収中村幸彦「傾城妻恋櫻」―参照　九二二・六―イ三二)

けいせいならみやげ　三番續　一冊　二四四

袋綴　改裝後補紺表紙　用紙裏打　二二糎一六・五糎　四周單邊二〇糎一五糎十五行　十一丁　挿畫六頁分　題簽左肩「(書名同)全」　内題「けいせいならみやげ玉水の里ふたご惣領の事　八めんの大じや水中のはたらき　二の替り大あたり狂言」、「このぬしせんくわ(墨印)」

刊記　□通寺町西へ入北側　正本屋九兵衛新板

(蛭子屋座狂言本　見返に近松門左衛門作「けいせい請狀」の口上　第一丁表に上段口上　同中下段に役者番付あり　役者に立役澤村長十郎・太夫荻野左馬之亟・太夫山本掃部・座本山下半左衛門等出役　九二二・六―イ四九)

けいせい錦産衣　三番續　一冊　二四五

中山金藏著　袋綴　黄表紙　用紙裏打　二一・五糎一五・五糎　四周單邊一九・五糎一五糎　十二行　八丁　挿畫四頁分　題簽左肩雙邊「(書名同)(錦産衣の三字横書)(右)二の替り大あたり小うたいり(左)燒印のあミがさかついたりよその子種(上段)大和山大あたり　おさ川大あたり(畫)(下段)四條通／御旅町／江嶋屋板」副題簽中央薄紅紙「名代早雲　座本大和山甚左衛門(右)立役小佐川十右衛門／太夫そでさきかりう／立役坂東又十郎(左)立役今村七三郎／太夫かづらきつねよ／実悪藤川武左衛門」　柱刻「にしき(丁數)」、「Collection S. Bing(紙票)」「(萩原乙彦罫印)」

(早雲座狂言本　内題の下に「二の替大あたり」とあり　見返柱刻「いもせ」(陰刻)とあり　「各〻様　ゑしまや市郎左衛門」として「中の年大評判　役者我身寶」「好色万石船／付り色施行　全部三巻」「世間子息氣質　全部五巻」「世間娘形氣全部五巻」「宿這入九〻算用　全部六巻」「當世小倉色紙　全部三巻」の近刊豫告口上あり　第一丁表上段「おんりやうもみぢがさ」同下段に役者番付ありて同末に「狂言作者中山金藏」とあり　九二二・六―イ三九)

けいせい八万日　三番續　一冊　二四六

袋綴　黄表紙　一六糎二一糎　四周單邊一四・五糎二〇糎　十四行　上文（五糎）下圖（一〇糎）　十一丁　挿畫六頁分　題簽左肩雙邊「（書名同）（けいせいの四字二行）（右）二のかはり大あたり（左）兩からう理法の國ざかい（下段）ふ屋町／八文字屋／八左衛門」　副題簽中央薄紅紙「座本都万大夫（右より）立役柴崎林左衛門／立役春山源七／若女中田六十良／太夫山本かもん／若女きよ崎半太夫／立役佐渡嶋長五良／立役音羽次郎三郎」　綴目「八万日（丁數）」、「曉雀（藍印）」「紫景文庫」

刊記　八もんじや八左衛門板

識語　（表紙右肩）享保五年

（萬太夫座狂言本　内題の上に「万大夫二の替」下に「大あたり評判人」とあり　見返役者番付あり　九二・六―イ七）

けいせい花筏　三番續　一冊　二四七

袋綴　改裝後補栗皮色表紙　用紙裏打　二二・五糎一六・五糎　原寸二一・五糎　四周單邊二〇・五糎一五糎　十五行　十一丁　挿畫六頁分　題簽中央後補墨「（書名同）全」　柱刻「花いかた（丁數）」、「（萩原乙彦罫印）」

刊記　八文じや八左衛門板

（布袋屋座狂言本　内題の下に「二枚五兩の小わきざし　どんす三本もみ五疋　三番続」とあり　見返上段に「は山岡右衛門哥上るり」同中下段役者番付あり　座本山下半左衛門・立役中村七三郎・大夫花井あづま等出役　ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎狂言本・淨瑠璃本について」―參照　九二・六―イ二）

傾城花城山　寫　四冊　二四八

袋綴　毘沙門格子地桐唐草押文薄朽黄色表紙　二三・五糎一七糎　十二行　題簽中央「（書名同）口明（二ツ目　三ツ目　四ツ目　五ツ目　六ツ目）」　内題なし

（布袋屋座臺帳　役者に櫻山四郎三郎・藤川半三郎・嵐富之助・山下京之助等出役　九二・六―イ五）

けいせい夫立石　三番續　一冊　二四九

袋綴　黄表紙　二一・五糎一六糎　四周單邊二〇糎一四・五糎　十二行　八丁　挿畫四頁分　題簽左肩雙邊「（上段）◎（右）澤村長十郎座（左）二の替大々當り（書名同）（右）京大和屋甚兵衛（左）あげせんのうけ座ニ而おとこ山事こゝ帳あたい壹メ文　（下段）ふ屋町通／八文字屋／八左衛門」　繪題簽中央紅紙内題「けいせい雄床山（おとこやま）　二の替」　柱刻「おとこ山　（丁數）」、「曉雀（緑印）」「紫景文庫」等

刊記　八もんじや八左衛門板

識語　（表紙）正徳六年

（澤村長十郎座狂言本　内題の下に「近年の大あたり　追付上本出し申候」とあり　副題簽は五丁表の挿畫の一部を流用　九二・六―イ三五）

けいせい二見の浦　三番續　一冊　二五〇

袋綴　改裝後補黒表紙　用紙裏打　二一・五糎一六糎　四周單邊二〇・五糎一四・五糎　十五行　十二丁　挿畫六頁分　題簽左肩後補墨「（書名同）全」　柱刻「ふたミ　（丁數）」、「（萩原乙彦罫印）」

刊記　八もじや八左衛門□

（早雲座狂言本　内題の下に「吉岡助六天の河ニ而娘のゆう□須藤伴助宮川ニ而親のかたきうつ」とあり　見返上段「役者口三味線」の口上　同中下段に役者番付あり　立役竹嶋幸左衛門・座本大和屋甚兵衛・大夫水木辰之助等出役　九二・六―イ四五）

永觀堂花紐解けいせい見廻櫻　一冊　二五一

袋綴　改裝後補薄茶色布目表紙　二一・五糎一六・五糎　四周單邊二〇・五糎一四・五糎　上文下圖　十二行　八丁　題簽左肩雙邊墨「けいせい見廻櫻　全」　柱刻「見かへり櫻　（丁數）」

識語　（後補扉）享保十四年酉正月十七日／座本民屋半之助／名代亀谷粂之丞／京四条北東

（亀谷座狂言本　内題の下に「二の替り大當り」とあり　第八至十丁闕丁　ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎狂言本・淨瑠璃本について」―參

照　九二・六―イ三七）

唐様の反古染は一枚摺の俠紙子

契情睦玉川　寫　三冊　二三三

袋綴　紺表紙　二三・五糎一七糎　十六行　題簽中央「（書名同）　上口明二段目（―三段目四段目五段目六段目）」　内題なし

（中村歌右衛門座臺帳　役者に中村歌右衛門・中村吉右衛門・三桝大五郎・中村富十郎・染川此兵衛等出役　表紙右肩に「白」と記せる紙箋を貼附　九二・六―イ六三）

けいせい元女塚　三番續　一冊　二三四

袋綴　改裝後補山吹色布目表紙　用紙裏打　二一・五糎一六糎　四周單邊一九・五糎一四糎　十五行　十丁　挿畫六頁分　題簽左肩後補墨「（書名同）　全」　柱刻「もとめ（丁數）」、「このぬしせんくわ」

刊記　二條通寺町西へ入ル北がわ　正本屋九兵衛新板

（早雲座狂言本　内題の下に「付りけんくわの花をさいたかたなのさや持男并ニむかしは花をさいたときぐしかみゆい女　二の替大あたり」とあり　見返上段に「役者紋屏風（右）宝永三ケ津常芝居のしな定（左）下段に毛のない戌の年の粋評判」とある新板口上書　同中下段に役者番附あり　大坂立役榊山小四郎・立役柴崎林左衛門・座本竹嶋幸左衛門等出役　ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎狂言本・淨瑠璃本について」―参照　九二・六―イ九五）

源八渉平太堤

三十石艠始　寫　五冊　二三五

袋綴　薄茶色布目表紙　二三・五糎一七糎　十六行　題簽中央「（書名同）　上口明（二段目　三口小幕　三段目切　四段目詰）」　内題なし

（中山文七座臺帳　役者に中山文七・中山新九郎・三桝大五郎・中村喜代三郎等出役　表紙右肩に「白」と記せる紙箋を貼附　九二・六―イ七九）

四國邊路　三番續　一冊　二三六

袋綴　改裝後補茶色布目表紙　二二糎一七糎　四周單邊二〇・五糎一五糎　十五行　十三丁　挿畫八頁分　原題簽左肩雙邊「（書名同）（右）しこくへんろ（左）けいせいるんぐわ物語

都万太夫座（下段）ふ屋町通／八文字屋／八左衛門」　柱刻「八（陰刻）　四國（丁數）」、「兎角菴」

刊記　未九月吉日　八文字屋八左衛門□

（萬太夫座狂言本　内題の下に「三番續　一番ニじゆんれいなさけの道づれ　付タリ心のたねを草花に賣」とあり　見返に役者番付並に座本山下半左衛門口上あり　役者にすぎ山勘左衛門・かたをか仁左衛門・山下才三郎等出役　九二・六―イ三）

壬生大念佛後日の狂言

女郎來迎柱　三番續　一冊　二三七

近松門左衛門著　袋綴　改裝後補縹色行成表紙　二一・五糎一六糎　四周單邊二〇糎一四・五糎　十五行　十一丁　挿畫六頁分　題簽左肩後筆「壬生大念佛　後日の狂言女郎來迎柱　全」　柱刻「八（陰刻）　女郎　（丁數）」、「（萩原乙彦野印）」

刊記　八文字屋八左衛門板

（萬太夫座狂言本　内題の下に「近松門左衛門作」とあり　見返上段に「切　古今ぶし小哥」同中下段役者番附ありて立役坂田藤十郎・立役中村四郎五郎・大夫きりなミ千しゆ・座本古今新左衛門等出役　ビブリア第十號所収祐田善雄「近松作の歌舞伎狂言本五種」―参照　九二・六―イ五一）

新造蓬萊山俵藤太二代記　一冊　二三八

袋綴　改裝後補薄茶色布目表紙　二一・五糎一五・五糎　四周單邊一九・五糎一四・五糎　十二行　上文下圖　十三丁　題簽左肩雙邊後補墨「（書名同）　全」　柱刻「ほうらい山　（丁數）」

識語　（後補扉）享保十五年戌正月／座本　嵐小六／名代　大黒屋竹之丞

（第十三終丁裏補紙）　享保十二未年／俵藤太終／座本　瀬川菊之丞（次郎）／四條南東角名代都万太夫

（萬太夫座狂言本　本文前四丁を後補し「享保年中役者名前／一立役三代嵐三右衛門（後初代新平）」以下役者名四十一名を擧ぐ　同奥に「享保年中ヨリ今／文化年中マテ年數／九十年ニ成」とあり　ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎狂言本・淨瑠璃本について」―参照　九二・六―イ三五）

丹波國血汐の水風呂　一冊　二三五八

袋綴　改装後補毘沙門格子押文納戸色表紙　用紙裏打　二二糎一五・五糎　原寸二一糎　四周單邊一八糎一三・五糎　十一行　十丁　挿畫五頁分　題簽中央後補墨「（書名同）全」　柱刻「たんばいはら村　呂（丁數）」、「（萩原乙彦野印）」

（竹嶋幸十郎座狂言本　内題の下に「竹嶋幸十郎座」次行に「妻子にまよふ女盗人」とあり　見返右側に「丹波國いばらむらの沙汰　并ニすけ笠見れば同行四人切大きやうげん　竹嶋幸十郎座大あたり」とあり二段に役者番附あり　立役山下又四郎・座本竹嶋幸十郎・立役竹嶋幸左衛門等出役　ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎狂言本・淨瑠璃本について」―参照　九二二・六―イ一〇一）

大友真鳥二子兼道 鬻渡城女軍　寫　一冊　闕　二三五九

袋假綴　共表紙　用紙裏打　二四糎一七糎　十二至十四行　三十七丁　外題中央「（書名同）（書名の下に）三番續（左下に）上之貳」　内題なし、「魁書舎」

（歌舞伎臺帳　裏表紙に「市山助五郎」とあり　役者に荻野花千代・福田園右衛門・市山半五郎・淺尾重次郎・市山助五郎等出役　袋紙表「百十八號／振分髪愛護梅若／傾城建仁寺供養／鶴渡城女軍」同裏「本主京屋」とあり　九二二・六―イ一三五）

天満屋心中　一冊　二三六〇

袋綴　改装後補毘沙門格子押文緑表紙　用紙裏打　二二・五糎一六・五糎　原寸二一・五糎　四周單邊二〇・五糎一五糎　十六行　十一丁　挿畫五頁分　題簽中央後補墨「天満屋心中　全」　柱刻「天まや　（丁數）」、「このぬしせんくわ（墨印）」

刊記　ふ屋町通せいくはんじ下ル町　八文字屋八左衛門板

（内題の下に「そね崎三年忌評判二枚ゑざうし」　太夫直正本」とあり　見返上段「曽根崎三年忌」右に「そねざきさんねんき二枚ゑざうし」下段　嵐三右衛門・竹本義大夫・岩井半四郎・片岡仁左衛門座の「大坂どうとんぼり」の圖あり　ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎狂言本・淨瑠璃本について」―参照　九二二・六―イ一〇七）

成相觀音縁起　三番續　一冊　二三六一

中山金藏・あだち三郎右衛門著　袋綴　青表紙　用紙裏打　四周裁斷　二一・五糎一六糎　四周單邊二〇糎一五糎　十五行　十丁　挿畫七頁分　題簽左肩後補墨「（書名同）　全」　内題「成相觀音縁起（下に）けいせい玉のうてな」　柱刻「けいせい　（丁數）」

刊記　□□北側　山本九兵衛新版

識語　（見返）享保四□

（蛭子屋座狂言本　見返番附上段左端に「右ハ三ケ津役者評判亥ノ／正月二日ゟ本出シ置候御もとめ／御らん可被下候　以上」とある「役者藝相撲　全部三巻」の口上書及び中下段に番附あり　終に「狂言作者　中山金藏／あだち三郎左衛門」とあり　副題簽右肩單邊薄紅色紙「名代早雲夷屋松太夫（座本）（右に）　立役山下京右衛門／太夫津川半太夫／（左に）太夫山下龜之丞／立役沢村長十郎」は別本の混入　ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎狂言本・淨瑠璃本について」―参照　九二二・六―イ五七）

夫怨名合法辻娘浮名廓木辻 二月堂曉鐘　寫　四冊　二三六二

袋綴　縹色表紙　二三・五糎一七糎　十六行　題簽中央「（書名同）　上口明（二段目三段目）四段目　五段目）」　内題なし

（嵐三右衛門座臺帳　役者に中山新九郎・嵐新平・水木辰之助・三桝大五郎・市川團藏等出役　表紙右肩に「白」と記せる紙簽を貼附　九二二・六―イ八三）

日本阿闍世太子　三番續　一冊　二三六三

津打治兵衛著　袋綴　改装後補薄茶色布目表紙　用紙裏打　二二糎一七糎　原寸二・一五糎一五糎　四周單邊一九・五糎一四糎　十五行　十二丁　挿畫八頁分　題簽左肩水色紙無記　柱刻「阿闍世太子　（丁數）」、「兎角菴」

（岩井半四郎座狂言本　丁附「三」より始まり「十四」丁裏以下闕丁　内題の下に「作者津打治兵衛」とあり　古典文庫所収祐田善雄・鳥越文藏編「上方狂言本一」―参照　九二二・六―イ二三）

東山殿女狩　寫　四冊　二六四

袋綴　毘沙門格子地唐草摺文薄茶色表紙　二三・五糎一七糎　十六行　題簽中央「(書名同)　上口明(中入　三之口　四之詰/四之口　三之詰)」　内題なし

(藤松三十郎座臺帳　役者に中山新九郎・嵐吉三郎・中山來助・淺尾爲十郎・姉川大吉等出役　九二・六―イ六五)

福壽海　三番續　一冊　二六五

近松門左衛門著　袋綴　改裝後補網目摺出黒表紙　用紙裏打　二二糎一六糎　原寸二一・五糎　四周單邊一九・五糎一四・五糎　十五行　八丁　挿畫五頁分　題簽中央後補墨「(書名同)全」　柱刻「ふくしゆ　(丁數)」

刊語　さつと一ふて申上參らせ候　役者評判近年/は多く方〻より出しあまりめつらしくは/なく存參らせ候へ共女のはかなき筆のすさみ/はつかしなから御めにかけまいらせ候辰の年役者/きぬふるひと申新板紙數百枚ほと來春早/〻御意なからくる中各さま御もとめ頼上候　かしく

刊記　板本正本屋喜右衛門新板

(萬太夫座狂言本　内題の下に「松の尾名酒之助は齊命神の子孫　小塩山桑花之助は福德神の子孫かほ見せ狂言三番續」とあり　見返役者番附ありて　大夫岩井左源太・大夫桐浪千壽・座本坂田藤十郎・立役中村四郎五郎等出役　ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎狂言本・淨瑠璃本について」―參照　九二・六―イ一三)

冨貴大王　三番續　一冊　二六六

袋綴　改裝後補栗皮色表紙　用紙裏打　天地裁斷　二三糎一六・五糎　四周單邊一八・五糎一四糎　十五行　十一丁　挿畫六頁分　題簽中央後補墨「(書名同)全」　柱刻「ふつき大わう(ふつき大王　ふつきたいわう)　(丁數)」、「(萩原乙彦野印)」

(早雲座狂言本　内題の下に「ひげだん正左衛門ひとりねの長枕ねこゝろよ□　やえがき八くもの助ふたりねのたから船のり心よ□」とあり　見返に役者番附ありて竹嶋幸左衛門・水木辰之助・大和や甚兵衛等出役　ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎狂言本・淨瑠璃本について」―參照　九二・六―イ八七)

振分髪愛護梅若　寫　一冊　闕　二六七

奥野瑳助著　袋假綴　共表紙　用紙裏打　二四・五糎一七糎　十八行　三十五丁

外題中央「(書名同)　(右)春狂言　(左)第壹ばんめ/三建目/四建目　(下)(役者名二段書)」　内題なし、「魁書舍」

識語　(裏表紙)千禎萬歳三十四葉/安永七戊　作者奥野瑳助/三月吉日　森田座/大叶

(森田座臺帳　役者に　金作・助五郎・津多右衛門・淀五郎・蔦藏等出役　九二・六―イ一四七)

本朝廿四孝　三番續　一冊　二六八

袋綴　改裝後補網目摺出文黒表紙　用紙裏打　二二・五糎一六・五糎　四周單邊二〇・五糎一五糎　十五行　十丁　挿畫六頁分　題簽中央後補墨「(書名同)全」　柱刻「廿四孝(丁數)」、「(萩原乙彦野印)」

刊記　八文字屋八左衛門板

(亀屋座狂言本　内題の下に「あづまかいだうむくひのいきづゑ　でき狂言」とあり　見返上中段に役者番附同下段「山下又四郎口上」ありて　大夫岡田左馬の助・立役多門庄左衛門・座本山下半左衛門・立役山下又四郎等出役　ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎狂言本・淨瑠璃本について」參照　九二・六―イ八九)

松風　寫　一冊　二六九

袋假綴　共表紙　用紙裏打　二四糎一七糎　九至十行　七十八丁　外題中央「(書名同)(左下)市山志殘」　内題なし、「魁書舍」

識語　(裏表紙)皆紙/七十六丁/元文三己歳六月五日ゟ八月朔日迄/大坂芳澤あやめ座

(芳澤あやめ座臺帳　役者に傳五郎・玉かしわ・宗十郎・半四郎・茂平次・花松・助五郎等出役　表紙左肩に「上々」とあり　九二・六―イ三九)

壬生大念佛後日の後日　壬生秋の念佛　三番續　一冊　二七〇

近松門左衛門著　袋綴　改裝後補黒表紙　二二糎一六・五糎　四周單邊二〇・五糎

一五糎　十五行　十一丁　挿畫六頁分　題簽左肩後補「壬生秋の念佛　全」　柱刻「八（陰刻）　秋の念佛　（丁數）」、「（萩原乙彦畔印）」

刊記　八文字屋八左衛門板

（萬太夫座狂言本　見返上段好色一代曽我八巻の口上、中下段役者番付ありて立役坂田藤十郎・立役中村四郎五郎・座本古今新左衛門・太夫桐浪千壽・道化金子吉左衛門等出役　ビブリア第十號所収祐田善雄「近松作の歌舞伎狂言本五種」―参照　九二・六―イ五三）

娘の入墨は印可の媒　父の悲は傳受の科人

昔形吉岡染　寫　四冊　二七

袋綴　菊唐草押文緑表紙　二四糎一七・五糎　十二行　外題中央「昔形吉岡染口明（中入　三ツ目（四ッ目大切））」扉題書名同「シバ」

（中村十藏座臺帳　役者に十藏・七太郎・七五郎・又太郎等出役　九二・六―イ六九）

娘親の敵討　三番續　一冊　二七

袋綴　改裝後補唐草文臘箋緑表紙　用紙裏打　二二・五糎一七糎　四周單邊二〇・五糎一五糎　十五行　十二行　挿畫八頁分　題簽左肩後補墨「むす女親のかたき討　六」　柱刻「かたき打（丁數）」、「兎角菴」

刊記　八文字屋八左□門板

識語　（内題下）本町かミや

（狂言本　内題の下に「三番續上」とあり　九二・六―イ三）

諸艝奥刕黒　寫　一冊　闕　二七

袋假綴　共表紙　用紙裏打　二四糎一六・五糎　十一至十二行　六十九丁　外題右肩「（書名同）（左）第弐番目ノ中入（下）（役者名二段書）」　内題なし、「魁書舍」

識語　（裏表紙）宝歷弐年／申八月八朔／千秋萬歳大叶／主／福森

（中村座臺帳　表紙左肩に「上ミ」とあり　役者に宗十郎・五郎四郎・菊次郎・市松・幸四郎等出役　九二・六―イ四一）

由良千軒蟾兎湊　一冊　闕　二七

袋假綴　共表紙　用紙裏打　二四・五糎一七糎　十三至十四行　八十五丁　外題中央「（書名同）（右）實暦四年戌八月（左）二番目／大詰（下）（役者名二段書）」　内題なし、「魁書舍」

識語　（裏表紙）千穐万歳／叶／紙員八十五丁

（市村座臺帳　役者に幸四郎・菊五郎・八百藏・菊次郎等出役　九二・六―イ二七）

四ッ橋むすめころし　一冊　二七

袋綴　改裝後補毘沙門格子押文緑表紙　用紙裏打　二二糎一六・五糎　四周單邊一九・五糎一四・五糎　十三行　八丁　挿畫四頁分　題簽中央後補墨「（書名同）全」　柱刻「四ツ橋娘ころし（丁數）」、「（萩原乙彦畔印）」

（松本名左衛門座狂言本　内題の下に「松本名左衛門座／みづきやうげん」とあり　ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎狂言本・淨瑠璃について」―参照　九二・六―イ〇九）

代々の御神樂　三番續　一冊　二七

袋綴　改裝後補華文摺出小豆色表紙　用紙裏打　二二・五糎一六糎　原寸二一・五糎　四周單邊二〇・五糎一四・五糎　題簽中央後補墨「（書名同）全」　柱刻「御かくら（丁數）」、「（萩原乙彦畔印）」

刊記　山本九兵衛新板

（布袋屋座狂言本　内題の下に「陰ふみわたるなるこの橋陽こぎ行よとの川舟三番續」とあり　見返役者番附ありて立役染川十郎兵衛・立役竹嶋幸左衛門・立役竹嶋幸十郎・座本村山平右衛門等出役　ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎狂言本・淨瑠璃本について」―参照　九二・六―イ〇三）

和泉　河内

れんりの松　三番續　一冊　二七

袋綴　黒表紙（裏替表紙）　二一・五糎一六糎　用紙裏打　四周單邊二〇糎一五糎　十五行　十一丁　挿畫七頁分　題簽左肩雙邊「（書名同）（右）付リそいねのまくら（左）并ニすみよしへよめ三はんつゞきいりの神村山平右衛門座（下段）二條通／正本屋／九兵衛」　副題簽中央紅紙左下端

「〔市村〕四郎次」を殘し破損　内題「和泉河内連理松　三番續」　柱刻「れんり　（丁數）」

刊記　二條通寺町□□　山本九兵衛新板

（村山座狂言本　第五丁闕白紙にて補ふ　見返役者番附ありて太夫きり浪千壽・立役市村四郎次・立役杉山勘左衛門・座本村山平右衛門等出役　九二・六—イ二五）

六角堂開帳　一冊　三六

袋綴　改裝後補薄茶色布目表紙　二一・五糎一五・五糎　四周單邊一九・五糎　一四・五糎　十二行　上文下圖　八丁　題簽左肩雙邊後補墨「（書名同）全」　柱刻「六かく（丁數）」

識語　（後補扉）享保十三年申正月／座本　佐野川万菊／名代　蛭子谷吉郎兵衛／京四條南西

（夷屋座狂言本　内題の下に「けいせい亥刻鐘（いつつかね）二の替（かはり）　嵐三右衛門大當り」とあり　ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎狂言本・淨瑠璃本について」—參照　九二・六—イ三三）

和歌三神影向松　三番續　一冊　三七

袋綴　改裝後補毘沙門格子摺出納戸色包表紙　用紙裏打　二二糎一七糎　四周單邊二〇糎一五糎　十五行　十丁　挿畫六頁分　題簽左肩後補墨「和歌向松　全」

柱刻「和哥（丁數）」

刊記　八文字屋八左衛門板

（亀屋座狂言本　内題の下に「都はすいなふうを仕出したおやま人形　難波はだてなりを仕立た手づま細工　大あたり」とあり　見返上段に「田村謡の／一切を舞／辰松八郎兵衛／かた手人形／つかふ所」の圖、「酉の年大評判」役者三世相　三巻」「風流曲三味線　六巻」の口上、同中下段に役者番付ありて太夫桐波千壽・太夫瀬川竹之丞・立役竹嶋幸左衛門・座本大和屋甚兵衛等出役　ビブリア第十六號所収祐田善雄「二十數篇の歌舞伎狂言本・淨瑠璃本について」—參照　九二・六—イ二五）

○

夢幻日記　寫　一冊　三八

山田美妙著　自筆　袋綴　改裝後補薄茶色表紙　原裝共表色紙　用紙裏打　二四糎一六糎　約十行　五十四丁　題簽左肩後補「（書名同）山田美妙草稿」　原外題「脚本夢幻日記」

識語　明治二十八年八月「歌舞伎」ニ發表

（九二・七—イ一）

平安朝物語

竹取翁物語　一冊　三八一

袋綴　栗皮色表紙　二六・五糎二〇糎　十行　約十七字　五十一丁　題簽中央書名同　内題なし、「西莊文庫（小津桂窓筆「花廿八全二」と墨書せる紙箋に捺印）」「正枝」

刊語　竹取翁物語秘本申請興行之者也

（古活字版　慶長期刊　第一種本　九二・三—イ五）

竹取物語　寫　二巻　一冊　三八二

袋綴　澁引布目表紙　二七糎一八・五糎　十一行　四十三丁　外題左肩「（書名同）完」　内題「たけとり物語」（同「下」）、「藤敬儀印」「桃園文庫（紙票）」

奥書　以高安氏収藏契沖阿闍梨校本校寫一校早

（江戸時代中期寫　原に「ある古本を以て一校せしめ早ぬ互に見合て好本と／なり侍へし　寶永四年亥八月　隱士　契沖」と奥書あるものの寫　本文同筆の書入朱書校合多し　帙に「田中敬儀手寫書入」とあり　九二・三—イ三）

竹取物語　一冊　三八三

袋綴　丹行成表紙　二八糎一九糎　十一行　約二十字　四十丁　柱刻「（丁數）」

（古活字版　寛永期刊　第四種本　第一丁表及び末尾一丁補寫　九二・三—イ七）

竹取物語　寫一冊　二八四

上原元純筆　綴葉裝　雲鳥織文納戸色表紙　見返金銀切箔散　用紙鳥の子　二一糎一五・五糎　九行　五十六丁　内題なし

識語　借伊賀前司神元純上原手終寫功／自加一校早／天正廿年林鐘下旬記之／也

足子（花押）

文祿五壬七六以松下民日少甫述久本重校正了

（箱書「竹取翁物語上原伊賀守元純筆外題奥書中院殿也足軒」とあり　日本古典文學大系所収　阪倉篤義校註「竹取物語」一參照　九二三・三二―イ九）（重美）

○

伊勢物語　寫一冊　二八五

〔一條兼良〕筆　綴葉裝　改裝後補金泥下畫紺表紙　見返金銀切箔散　原裝共表紙　用紙鳥の子　二四・五糎一七・五糎　十行　七十二丁　題簽中央金泥雲引「いせ物かたり」原表紙左肩原題簽書名同、「桃園文庫（紙票）」

奥書　辭上都平安城之舊居寓南京春／日之里之旅店以閑寂之暇終書寫／之訖雖相顧惡筆頗可備證本／者欤／應仁二年九月日　桃華老人

（武田本　室町時代中期寫　原に「此物語古人之説不同或稱在中將之自筆／或稱伊勢之筆作就彼此有書落事等／上古之人強不可尋其作者只可翫詞／花言葉而已／戸部尚書在判」「以祖父卿眞筆本不違一字書寫／挍合之可備證本矣／藤原爲相在判」と奥書あるものの寫　九二三・三―イ二）

伊勢物語　寫一冊　二八六

綴葉裝　紅梅色綾表紙　二二・五糎一七・五糎　十行　六十七丁、「冷泉府書」「紅梅文庫」「桃園文庫（紙票）」

（室町時代末期寫　朱聲點を施す　「後柏原院勾當内侍」との紙片を附す　九二三・三―イ三）

伊勢物語　寫一冊　二八七

綴葉裝　紺地飛鳥織文表紙　見返薄縹色地銀切箔散　用紙鳥の子　二一糎一五糎　九行　八十九丁　題簽中央金泥下畫書名同、「桃園文庫（紙票）」

（根源第二本　江戸時代中期寫　原に「抑伊勢物語根源古人説ニ不同中略先年所書之本爲人被借失仍爲備證本重所挍合也／戸部尚書在判」、次に「業平朝臣」等勘物以下「一本云合多本所用捨也可備證本近代以狩／使事爲端之本出来末代之人今案也／更不可用之／此物語古人ニ説不同中略戸部尚書在判」と奥書あるものの寫、「天福二年正月廿日己未申剋凌桑門之／盲目連日風雪之中遂此書寫爲／授鍾愛之孫女也／同廿二日挍之」、「以祖父卿眞筆本不違一字書／寫挍合之可備證本矣／藤爲相判」を附記　九二三・三―イ五）

伊勢物語　寫一冊　二八八

綴葉裝　薄紅梅色表紙　用紙鳥の子　二五・五糎一八・五糎　十行　六十四丁　題簽左肩書名同、「紅梅文庫」「桃園文庫（紙票）」

（江戸時代中期寫　九二三・三―イ七）

伊勢物語　寫一冊　二八九

玄津筆　綴葉裝　紫紺地唐草文金襴表紙　見返布目金紙　用紙鳥の子　二五糎一七・五糎　題簽中央金泥下畫書名同　九行　八十八丁

奥書　右書本者爲定家卿自筆　禁裏／御本也隨有縁申出爲處證本不違／一字一點令透寫遂再挍訖雖然魯魚之／誤猶難遁者欤于時長祿第二暦仲／陽初三候記之／

執筆法橋玄津（花押）

識語　享祿四年辛卯於美濃國井口以不／思議之縁求得之處也

（天福本　原に「業平朝臣」等勘物以下「天福二年正月廿日己未申刻凌桑門之盲目／連日風雪之中遂此書寫爲授鍾愛之／孫女也／同廿二日挍了」「此本定家卿之以自筆／寫書挍合之上者尤證本／無疑者也／休止正徹（花押）」と奥書あるものの寫　室町時代末期筆左記の紙片を貼る　即ち「古箱ニ註ヶ／此物語ハ奥書ニ見へたるごとく内裏の御本定家卿自筆の／本にて写と書り殊招月菴清巖正徹の判形有之恐者／天下三本之内也三本と者写本禁裏の御本と牡丹花／肖白之本とさて此本也享祿四年ニ肖白之本と挍合するに毛端之無相違者也云ニ」と　前半の部分に朱聲點を施せり　九二三・三―イ四一）

伊勢物語　寫　一冊　二九

綴葉裝　雲鶴織文濃緑表紙　見返金紙　用紙鳥の子　二四・五糎一六・五糎　九行　八十二丁、「紅梅文庫」「桃園文庫（紙票）」

（室町時代末期寫　第一行右に本文同筆「嘉祥二年正月七日一条禅閤御勘」とあり　本文巻末同「義政」と書す　第一紙表に「足利義政筆」との墨書紙片を貼る　巻末に業平以下行平卿紀有常二條后河原左大臣融の勘物を記す　九二・三・三―イ四三）

伊勢物語　寫　一冊　二九一

〔紹意〕筆　綴葉裝　金銀泥草花模様瓶覗色表紙　見返金銀切箔散　用紙鳥の子　二六糎一八糎　十行　五十四丁　題簽中央金泥雲引紹巴筆書名同　内題なし、「桃園文庫（紙票）」

識語　南都紹意依所望一覧之／次書之／慶長五年孟秋下旬／紹巴（花押）

（「三代實録云」云々の業平傳、次に「京極黄門伊勢物語兩本奥書／一本云／合多本所用捨也可備證本略中戸部尚書判」「一本云／抑伊勢物語根源古人説ミ不同略中先年所書之本爲人被借失仍爲備證本重所校合也／戸部尚書判」との奥書を移寫　箱に押紙「伊勢物語　壹冊／里村紹巴筆」とあり　九二・三・三―イ五一）

伊勢物語　寫　一冊　二九二

傳宗鑑筆　綴葉裝　唐草織文深緑色表紙　用紙鳥の子　二四・五糎一七糎　九行　墨付八十六丁　内題なし

識語　右者山崎住人宗鑑筆蹟分明也／寛永十年六月下旬古筆了佐（花押）（印）（琴山）

（附箋）（池田龜鑑筆）龜鑑云／永山近彰氏藏ノ宗鑑自筆伊勢物語／ト比較スルニ全然同ジ筆蹟ニシテ、多少ノ字配ニ相違アレドモ系統ハ全ク同一ノ／モノナリ、但シ永山氏本ニハ以祖父卿云ミ／ノ爲相ノ跋文ヲ欠ク、業平略歴以下ノ雜／文モ同樣ニ缺ク。宗鑑カ何人カノ依頼ニヨリ／テ書寫セルモノナルベシ、永山氏本ニハ外題／ニ紹巴自筆ニテ伊勢物語トアリ

（室町時代末期寫　原に「抑伊勢物語根源古人説ミ不同略中先年所書之本爲人被借失／仍爲備證本令所校合也／戸部尚書在判」「近代以狩使事爲端之本出來末代之／人今案也更不可用之略中戸部尚書在判」「以祖父卿眞筆本不違一字書寫／校合之可備證本矣／藤爲相」とありて次に業平朝臣以下河原左大臣融の勘文あるものの寫　九二・三・三―イ五三）

伊勢物語　二冊　二九三

袋綴　具引雲母地羊齒葉模様薄卵色表紙　用紙具引色替紙　二七糎一九・五糎　九行　挿畫（四周單邊一九糎一四・五糎）（上冊）二十五頁分　（下冊）二十四頁分

題簽中央雲母雲形模様茶色捻紙書名無記　内題なし

刊語　伊勢物語新刊就餘需勘校抑京極黄／門一本之奥書云此物語之根源古人之説ミ／不同云ミ如今以天福年所被與孫女本正之／然而猶恐有訂校之遺缺也更圖書巻中／之趣分以爲上下是雖不足勸好如人情／聊爲令悦稚童眼目而已／慶長戊申仲夏上浣／也足叟（自署花押）

（光悦本　第一種イ本　九二・三―イ五五）

伊勢物語　寫　一冊　二九四

傳心敬筆　綴葉裝　唐草鶯茶色金襴表紙　見返銀切箔散　二二糎一四糎　十行　墨付五十三丁　内題なし

奥書　此口傳招月菴正徹在判以御本書寫了傳寫之間／口傳假名仕皆失錯多也不可有他見長享弐／年三月日於山門無動寺書之

（承久本　原裝袋綴を毎半丁一頁分に切斷し二頁の裏を貼合して綴葉に改裝　原に「本云承久三年六月二日未時書之昨日申時／書始之」「本云度ミ書寫之本爲人被借失之間更以家／本書高本又書之」と奥書あるものの寫　「連歌師心敬法師伊勢物語　全部一冊（印）」の琴山極札あり　所々朱筆にて簡注を傍書す　別に「覺／一　此心敬法師之伊勢物語ハ／名古屋間宮大隅殿ゟ出候ヲ／代銀弐枚ニ買置申候只今ハ／稀成伊勢物語ニて候間代銀／五枚程も可仕候爲念如此書付置候／正徳弐年辰二月吉日」の紙箋を添ふ　武藏野書院版山田清市著「伊勢物語東常縁本」―参照　九二・三―イ五九）

伊勢物語　寫　一冊　二九五

〔菅原定春〕筆　綴葉裝　元祿格子模様金襴表紙　見返金銀泥切箔散　二二糎一

五・五糎　十行　墨付六十九丁　題簽中央臙箋素珊筆書名同　内題なし
識語　此本家以舊本令書寫畢／則遂一校外題奥書所望／之間染筆所也於菅原定春／者懇志門弟欤／文龜二年霜月日／十餘代末葉素珊（花押）
（武田本　原に「合多本所用捨也可備證本／近代以狩使事爲端之本出來末代／之人今案也更不可用之／此物語古人之説不同或稱在中將自／書或稱伊勢之筆作　就彼此有／書落事等上古之人強不可尋其作者／只可翫詞花言葉而已／戸部尚書在判」と奥書あるものの寫「東下野守常縁末子素珊眞跡（印）」の琴山極札及び「東素珊筆　東野州子代付金三枚斗」との紙箋を添ふ　九二三・三一―イ六）

伊勢物語　寫　一冊　二六

綴葉裝　唐草文緑色金襴表紙　見返金紙　用紙雲母引鳥の子　二五糎一八糎　九行　墨付八十五丁　題簽中央金泥下畫書名同、「東武二合半谷中村石井政康書屋印」「青谿書屋」
識語　此物語環翠老人先年受亡父説畢／而今重可讀合之由有懇望不能固辭／即時對床讀之終一部之功訖于時天文／十三年五月十四日梅雨天／贋比丘仍覺稱名院殿挍了
（室町時代末期寫　原に「抑伊勢物語根源古人説ミ不同中略先年所書之本爲人被借失仍／爲備證本重所挍合也／戸部尚書在判」「近代以狩使事爲端之本出來末代／之人今案也更不可用之／此物語古人之説不同中略戸部尚書在判」「以祖父卿眞筆本不違一字／書寫挍合之可備證本矣／藤爲相」との奥書ありて次に業平朝臣以下の勘物等を記したるものの寫　朱濁點等を打つ　「伊勢物語舟橋少納言宣賢入道環翠軒奥書三條西公條法名仍覺（印）」の古筆牛菴極札を添ふ　所々清原宣賢筆書入あり　九二三・三一―六五）

伊勢物語眞名本　寫　一冊　二九七

磯田玉秋筆　袋綴　緑表紙　二六・五糎一九糎　十行　題簽左肩「眞名伊勢物語全」　内題「伊勢物語」、「磯田藏書」
奥書　天保十一庚子冬於東都客舍寫　磯田玉秋／此伊勢物語真名本者以三羅山之寫本聖堂藏書ノ而雖レ寫レ之誤字將不レ可レ不レ有見乎也
（内題の下に「六條宮御撰」とあり　九二三・三一―イ七）

伊勢物語　寫　一冊　二九八

袋綴　改裝後補七寶文鴛茶色金襴表紙　二八・五糎二〇糎　押界十行　六十七丁　内題なし
奥書　于時永祿五年柔光君薩林鐘中旬寫之早
（九二三・三一―イ七三）

伊勢物語　寫　一冊　二九九

綴葉裝　菊花文黄金襴表紙　見返金紙極彩秋草花畫　用紙鳥の子　一七糎一六糎　九行　九十三丁遊紙五丁　題簽中央後補金箔雲引布目紙書名同
箱書　伊勢物語　爲重□
（南北朝時代寫「伊勢物語二條家爲重卿眞跡伊勢物語六半本外題近衛應山公箱書松花堂」等の了任・牛菴・了音等古筆極札を添ふ　九二三・三一―イ七九）

伊勢物語　寫　一冊　三〇〇

綴葉裝　菱形華文繋織文濃納戸色表紙　見返布目金紙　用紙鳥の子　二六糎一七糎　十行　七十丁　内題なし
（室町時代中期寫　略々同時代筆の朱墨傍注書入多し　箱書「伊勢もの語實相院增運大僧正筆全部」とあり　巻末「一　七本ノ不同ハ一ニハ業平ノ自書／二ニハ伊勢か中書ノ本／三ニハ具平親王ノウラ／書ノ本是ヲヌリ籠ノ本トモ云也／四にハ女部ノ師安か本是ハ事少シテ君臣ノ政道ノ／事ヲ□セリ／五にハ高科ノ二位ノ尼ノ本／六にハ賀茂ノ内侍ノ本是ハ事ヲ／多書リ七にハ長能か本是を狩ノ使ノ本トモ云ヘリ齋官ヘ參ル事ヲ本ニ書ニ依テ／此段ノ初ニノセタル也サレハ狩ノ使ノ本ト云也」等の書入あり　九二三・三一―八三）

伊勢物語　寫　一冊　三〇一

傳心前筆　綴葉裝　菊花葉文茶色金襴表紙　見返銀菊桐文摺箔金銀砂散　用紙鳥の子　一七・五糎一三糎　十行　七十七丁　内題なし
奥書　称名院殿紹巴ヘ被下御自筆之本以紹巴書寫本元右寫以／右本又此本挍之勘物書所遖又奥書之前後等有之／かなの分者悉以如右本直之者也
（原に「又別本奥書巴抑伊勢物語根源古人説ミ不同中略先年所書之本爲人被借失仍爲備／證本

重所挍合也　戸部尚書在判（巳無）」（朱）「私彼本是ヨリ奥無之／又云口ノ朱點聲何モ無之」として以下業平朝臣云々の勘物、「（別本奥）近代以狩使事爲端之本出來末代之人今／案也更不可用之（中略）戸部尚書在判（巳無）」「以祖父卿眞筆本不違一字書寫挍／合之可備證本矣／藤爲相在判（御本云）」「依或人所望馳老筆訖則又挍合／頗可備證本者歟／文明初元林鐘朔日　桃花野人御判（巳無）」「本云申出一條殿御本終書寫之功加／挍勘者也／于時永正八年林鐘朔日／藤資直（後成恩寺殿御自筆）」「（巳無）（前略）天福二年正月廿日　己未　申刻凌桑門／之盲目連日風雪之中遂此書寫／爲授鐘愛之孫女也／同廿二日挍早」「（巳無）以京極黄門眞筆本重遂挍合加／朱點訖可謂證本者歟」（朱）「以件本又讀合之無一字相違永／正第八辛未　林鐘初六（甲申）」と奥書あるものの寫　本文に挍合記事多し　巻初に「連哥師心前筆（伊勢物語）」の古筆極札を貼附　九二三・三―八九）

伊勢物語　寫　一冊　三〇三

三條西實隆筆　綴葉裝　金銀下畫藤色表紙　見返金紙　用紙鳥の子　一八糎一七糎　十行　七十七丁　題簽中央縹色蠟箋書名同　内題なし
奥書　依鳳岡禅師所望／染悪筆者也／槐陰老叟（花押）
（原に「（一本奥書）合多本所用捨也可備證本（中略）戸部尚書判」と奥書あるものの寫　九二三・三―八九）

伊勢物語　寫　一冊　三〇三

中院通勝筆　綴葉裝　網目飛鳥織文焦茶色表紙　見返金銀箔砂散　用紙鳥の子　二三糎一六・五糎　八行　九十一丁　内題なし
奥書　此物かたり幽齋主翁の室家より／書写せしむへきよしを命せらる彼／老人京極の黄門の自筆を所持／せられしを朝夕のまくらことゝせんも／たやすきやうなれはとて手つからみつ／から一字をかへすうつされし本にてこれ／をかきかの正本にしてたひ／＼挍合せ／しめおハりぬまことにつたなき筆の跡／といふとも證本にをきてハおそらくは／たくひ有へかさるにこそ此おもむきをし／るしつくへきよしありしほとに慶／長二のとしきさらきの廿日あまりに／かさねて一筆をのこし侍るになん有ける／也足叟（花押）
（武田本　原に「合多本所用捨也可備證本／近代以狩使事為端之本出来末代／之人今案也更不可用之／此物語古人之説不同或稱在中將之自書／或稱伊勢之筆作就彼此有書落事等／上古之人強不可尋其作者只可翫詞／華言葉而已戸部尚書判」と奥書あるものの寫「中院殿通勝卿（法名也足軒素然伊勢物語全部一冊）（印）」の琴山了祐極札を附す　九二三・三―九三）

伊勢物語　寫　一冊　三〇四

綴葉裝　瑞雲文金襴黄橡色表紙　見返金銀泥下畫　用紙鳳凰等摺書色替具引　一七糎一七糎　九至十行　八十九丁　題簽中央雲紙書名同　内題なし、「青谿書屋」
奥書　此本依氏元懇望以九代襲祖京極黄門自筆眞名／假字一字無相違令書寫了件本落字之書入滅字／行之不同帋数外題等迄為同前於本寸法者注表紙／者也自然正本不出之時者此本尤可為證本而已／天文第十六天孟春下澣日　為和
（天福本　原に「行平卿」云々の勘物以下ありて次に「天福二年正月廿日己未申刻凌桑門／之盲目連日風雪之中遂此書寫為授鍾愛之孫女也／同廿二日挍了」と奥書あるものの寫　九二三・三―九七）

伊勢物語　寫　一冊　三〇五

綴葉裝　雲龍文金襴紺表紙　見返布目金紙　用紙鳥の子　二〇糎一九糎　十行　七十五丁　内題なし
奥書　天正十七年霜月日
（九二三・三―一〇三）

伊勢物語　寫　一冊　三〇六

大和綴　金泥下畫紺表紙　見返金銀切箔散　用紙鳥の子　二九・五糎二二・五糎　十行　七十一丁　題簽中央金泥下畫丹紙書名同　内題なし、「英王堂蔵書」「（英國薩道藏書）」
（武田本　江戸時代初期寫　原に「合多本所用捨也可備證本／近代以狩使事為端之本出来末代之人今／案也更不可用之／此物語古人之説不同（中略）／戸部尚書在判」と奥書あるものの寫　九二三・三―一〇九）

伊勢物語　寫　一冊　三〇七

綴葉裝　卍字格子寶珠織文金襴朱表紙　見返金銀砂切箔散　用紙鳥の子　一七糎一五・五糎　九行　百丁　内題なし

（侍從本　鎌倉時代中期寫　原に「伊勢物語根源古人説〻不同或云在原中將自記也因茲〳有其嫌退比興詞〳或云伊勢筆作也生年十三而書之〳似彼家集之文躰因茲號〳伊勢物語〳此兩説暗難辨〳心中秘蜜身上興言他人〳推而難注以之思之可〳謂其自書欤但萬葉集〳古哥仁和行幸事在此〳中有自書之不重伊〳勢家集其端文躰〳偏以相似是見先達〳之舊記庶幾其躰欤〳兩不知之加之此物語名〳字非彼筆者何稱伊勢〳哉〳或説云爲狩使下向伊勢〳仍有此名〻〻又近代以狩事書此〳草子之冠初為叶其名〳也是伊行宮内權少輔之所為也〳更不可用〳古事只仰而可信分〳別而何為哉以家本令書〳早頗依為證本也但卒〳尓終功定有僻〳侍從在御判」と奥書あるものの寫

勘文・聲點・傍注等朱書　松田武夫著「和歌と新資料」―參照

九二三・三―イ二三）（重美）

伊勢物語　寫　一冊　三〇八

綴葉裝　唐草織文金襴緑色表紙　見返金銀泥下畫横雲　用紙鳥の子雲紙　二二・五糎一四糎　八行　墨付九十五丁　題簽金銀泥横雲布目紙書名同　内題なし

（根源本　鎌倉時代中期寫　原に「抑伊勢物語根源古人説〻不同或云〳在原中將自記之因茲有其嫌退比〳興之詞等又云伊勢筆作也十三而或云生年書之〳似彼家集文躰是故号伊勢物語以〳此兩説察之更無決之心中秘密身〳上興言他人推而難注之以之思之可〳謂其自書欤但疑万葉古風之中多載〳撰集之哥仁和聖日之間粗記臨幸之〳儀此等事者有不審伊勢家集其〳詞文躰偏以同之是又先達舊記庶幾其〳躰欤兩不知之加之此物語名字非彼但萬葉集古哥仁和行幸事在此〳中有自書之不重伊〳勢家集其端文躰〳偏以相似是見先達〳之舊記庶幾其躰欤〳兩不知之加之此物語名〳字非彼筆者何稱伊勢〳哉〳或説云爲狩使下向伊勢〳仍有此名〻〻又近代以狩事書此〳草子之冠初為叶其名〳也是伊行宮内權少輔之所為也〳更不可用〳古事只仰而可信分〳別而何為哉以家本令書〳早頗依為證本也但卒〳尓終功定有僻〳侍從在御判」と奥書あるものの寫

勘文・聲點・傍注等朱書　松田武夫著「和歌と新資料」―參照

九二三・三―イ二三）（重美）

伊勢物語　寫　一冊　三〇九

綴葉裝　網代菊丸織文金襴縹色表紙　見返金銀箔市松模様　用紙鳥の子　二五・五糎一五・五糎　八行　墨付六十四丁　内題なし

（鎌倉時代中期寫　「右墨附六十四枚〳冷泉家祖為相卿真蹟初めと六枚めと〳連哥師弧竹斎宗牧書補たるもの也〳嘉永元戊申冬〳古昔菴好齋〳審定（印）」とある極書を附す

略々同時代筆朱墨書入あり「むかしをとこありけりふかくさにすミけるへをんなをやう〳〵あきかたにやおもひけんかゝる」まで存して以下闕　九二三・三―イ二七）

（重美）

伊勢物語　寫　一冊　三一〇

綴葉裝　巻龍織文黄色表紙　見返金銀砂子　用紙鳥の子　一五・五糎一四・五糎　九行　墨附百丁白紙四丁　題簽中央書名同

（根源本　鎌倉時代末期寫　原に「伊勢物語根源古人説〻不同〳或云在原中將自記之因茲有其〳嫌退比興詞〳或云伊勢筆作也生年十三令書也以彼〳家集之文躰因茲號伊勢物語〳此兩説暗難辨〳心中秘蜜身上興言他人推而注以之〳思之可謂其自書欤但萬葉集古哥仁和行幸事在此中有自書之不審〳伊勢家集其端文躰偏相似〳是見先達舊記庶幾其〳躰欤兩不知之〳加之此物語名字非彼筆者何稱伊勢哉或説云爲狩使下向〳伊勢仍有此名〻〻〳又近代以狩使事云此草子之冠〳初為叶其名也是伊行宮内權少輔〳之所為也更不可用〳古事只仰而可信分別而何為哉〳以家本令書之」

「御本云／文暦二年五月廿六日以入道／中納言自筆本書寫挍了」と奥書あるものの寫　「伊勢物語冷泉黄門爲相卿補書三條西内府實隆公」の牛庵極札を添ふ　本文終より二丁目別筆なり　武藏野書院版山田清市著「伊勢物語東常縁本」—参照　九一三・三一—イ一九）
（重美）

伊勢物語　寫　一冊　三二一

野々口立圃筆　綴葉装　金泥下畫紺表紙　見返櫻花押文布目金紙　用紙鳥の子　一七糎一八・五糎　十行　八十丁　題簽中央金泥下畫丹紙書名同　内題なし
奥書　見し花の物語もや／伊勢櫻／立圃（花押）
（根源本　原に「業平朝臣」云々の勘物ありて次に「抑伊勢物語根源古人説今不同中略先年所書之本本為人／被借失仍為備證本重／所挍合也／戸部尚書判」と奥書あるものの寫　九一三・三一—イ一三）

伊勢物語惟清抄　寫　一冊　三二二

三條西實隆講　清原宣賢聞書　清原宣賢自筆　袋綴　縹色表紙　二七・五糎二一糎　四周單邊二四糎一八糎　十三行　七十四丁　題簽中央丹紙「惟清抄」　内題「伊勢物語」、「船橋藏書」「船橋（陰刻）」
奥書　去大永二年夏五月五日逍遙院（堯空俗内大臣實隆公也）此物語御講／説之時予侍末座聞書之不漏一句不違一辞即御奥書／賜之（別本有之）以其聞書只今書之／天文十七年六月一日終筆　環翠軒宗尤（花押）
（原に「逍遙院御奥書／右加一見老懶僻案之臆説不漏一事載而抄之恰如破竹／如瀉水却雖有耻來者儻同志者須潤色之名曰惟／清抄不可出窓外而已／大永壬午暦重陽前一日／槐陰贋芯堯空誌六十八歳」「權大納言公條卿逍遙院嫡男御奥書　後任右大臣号稱名院／右一冊先考奥書之本不慮紛失今更書之云々此物語／京極黄門奥書先年所書之本為人被借失重書写之／旨被記之了蓋於此抄亦謂之乎／天文第六臘月十八　亜槐都護郎御判」と奥書あるものの寫　内題の下に「以逍遙院御講私抄之　環翠軒宗尤」とあり　片假名交り　九一三・三一—イ七五）

伊勢物語勘物抜書　寫　一冊　三二三

帳綴　大根矢車押文（三條西家紋）鐵色包表紙　原裝共表紙　一六糎二三糎　原外題左肩書名同
（原外題右に同筆「元和元八七此本ハ西室筆□」」とあり　紙背に消息醫書聞書等あり　九一三・三一—イ一〇一）

伊勢物語聞書　寫　一冊　三二四

〔平田愚梅〕筆　大永貳年初陽廿日序　〔大永〕九月日序　綴葉装　紺地古裂表紙　見返布目金紙　二一・五糎一四・五糎　八行　二百九丁　内題なし、「桃園文庫（紙票）」
（室町時代末期寫　奥に「上略一部の傳受実也定家卿（に欤（ママ））／より十六代宗祇聞早／記所十七代源頼勝在名相良木本名／源土岐元時大永二壬午年初陽十六日有間／今城肥前守平能親所授申也粗致志／及心之程雖注候於誤可有多候度々之／以聞書可給挍合者也」とあり　池田龜鑑筆「平田愚梅筆／伊勢物語聞書／（宗祇説カ）但シ肖聞抄トハ異レリ」との附箋あり　「前略一いせ物語平田墨梅筆（ママ）飛鳥井榮雅御門弟下略神田道僖（花押）卯月廿三日／奥野保悟様」の書状一通を添ふ　九一三・三一—イ四九）

伊勢物語聞書　三巻　三冊　三二五

肖柏著　自跋　袋綴　具引地雲母摺下畫薄藤色表紙　用紙具引色替紙　二六糎一九糎　九行約十五字　題簽中央黄紙「肖聞抄　上（下）」（中冊闕）、「三柳居杉浦氏藏書記（紙票）」「殘花書屋」
刊語　右抄者肖柏老人所傳之作也仍号之／肖聞然依　後土門院仰手自書／進之云々尓降世皆弄之猶元凱注左／氏也彼翁者予祖之餘流庶弟也今為／校讎亦有故者乎新刊之時作三策了／慶長己酉季春上浣／也足叟素然（印）（素然の二字自筆自署）
（光悦本　第二種本「伊勢物語肖聞抄　二冊／飛鳥井雅章卿御持本書入自筆／明治四十丁未秋八月末」の紙箋を貼附　上巻初數葉に書入あり　九一三・三一—イ一三）

伊勢物語愚案鈔　寫　二冊　三二六

後陽成院御撰　慶長十二稔小春下澣自跋　袋綴　飛雲模様雲母引布目薄水色表紙　用紙鳥の子　二九糎二一糎　題簽左肩「伊勢物語愚案御鈔乾（坤）」、「青谿書屋」

（江戸時代初期寫　乾巻初に業平圖、坤巻初に極彩女圖あり　九二・三—イ八七）

伊勢物語愚見抄　寫　二巻　二冊　三二七

一條兼良著　甘露寺親長（蓮空）筆　袋綴　澁表紙　二七糎二一糎　十二行　題簽中央「（書名同）巻上（下）」、「東坊城藏書記」「神田家藏」等

奥書（第一冊）以一条相國（前関白冬良公）御本明應三年／七月十九日染筆同廿九日書写之早／蓮空（七十一歳）

同卅日八月一日兩日之間挍合了

（第二冊）明應三年八月二日染筆同九日／終書写之功早　蓮空

（朱書）同十日一挍同加注點　哥ニ付朱丸

（原に「長祿之末年披覽此物語之次粗考古抄之誤聊書／今案之趣件本漸流布世間有傳寫之輩欤爰上都／屢亂之後南京閑居之暇重加挍令非訛無謬仍更染禿／翰別編愚抄專以閑麗翁之詞爲肝要併以定家／卿之勝趣爲指南蓋不失昔物語之本意欲爲大和哥／之助縁也舊爲一巻今分上下若數奇之輩有（筆寫之志以後成愚寺殿）此本可爲正而已／文明六年小春中澣日　沙門御判」と奥書あるものの寫　九二・三—イ〇七）

伊勢物語抄　寫　二冊　三二八

後水尾院御説　道晃親王編　賀茂清茂筆　袋綴　雲母網目模様薄卵色包表紙　用紙薄様　二八糎二〇糎　六行　注行間等細字　題簽左肩具引紙「（書名同）上（下）」　内題なし、「温故齋藏書」「桃園文庫（紙票）」

奥書　此鈔保葉第一之秘藏而生涯不出閫内然今預息／保繁之許借遂摸写忽達宿望訖然則永續先志而／容易不可有外見者也／右京權大夫從四位下賀茂縣主清茂（印）

（原に「此抄以／後水尾院御説　道晃親王御編集云ゝ實希代之重寶也／深秘襞而猥不可出閫外者也／天和元年冬於燈下時ゝ寫之　從五位上賀茂縣主保葉判」と奥書あるものの寫　九二・三—イ四五）

伊勢物語鈔　寫　二冊　三二九

後陽成院御講　西洞院時直聞書　袋綴　澁表紙　二八糎二二糎　十二行　内題なし

識語　這伊勢物語鈔二冊者時直朝臣（于叙平少納言）／寡人可講之由鴻望故依難遁　雖愚鈍／而誦前忘後談畢講席聞書改／作而可管窺云ゝ轉覽之処絶妙也／為後證加　禿毫云尓／慶長廿稔季春中澣　従神武百餘代孫太上天皇（印）（周仁）

箱書　（表）後陽成上皇御講釋聞書　伊勢物語鈔　執筆少納言平時直朝臣　二巻

（裏）後陽成天皇尊號　慶長十六年四月七日也／同天皇御宸翰ニ而下之巻奥ニ抜有之（ママ）并／御印等被遊有之候早／右今度傳來反古都合有之取調／候処其中ヨリ此二巻取出シ候ニ付新ニ外／箱相設候也（中略）／此二巻書永ゝ子孫不可踈略大／節ニ所藏可致者也／維時明治九丙子年第九月四日／従四位平信愛謹誌

（上冊巻初に「慶長十九年四月九日／上皇御講尺聞書　少納言平時直」とあり　九二・三—イ八二）

伊勢物語抄　寫　一冊　三三〇

肖柏著　袋綴　薄藤色表紙　用紙裏打　二七糎二〇・五糎　十四行　題簽左肩後補「（書名同）牡丹花焉」　内題なし、「加持井御文庫」等

識語　這本適借置秘本為／蒼率命兩三輩摸写之／莫許外見矣／享祿元年□秋日（花押）

（原に「本云　右一冊當流明鏡也于時／藤原正能依懇望与之／可秘之／初飛初下羽（花押）」と奥書あるものの寫　第七十五段に「今年文明十二庚子にいたりて」云々の記事あり　九二・三—イ〇五）

伊勢物語肖聞抄　寫　一冊　闕　三三一

袋綴　表紙闕　二二・五糎一七糎　十行　墨付九十六丁　扉中央後筆「伊勢物語解」　内題なし、「上小野三上」「桃園文庫（紙票）」

（室町時代末期寫　六十三段まで存して以下闕　池田龜鑑筆「肖聞抄なり。但し内閣本とも／私藏一本とも異る。／肖聞抄には異本多し」の紙箋を添ふ　九二・三—イ三九）

伊勢物語妙里　寫　一冊　三三二

蝴蝶装　改装後補澁引表紙　用紙雲母引　一五・五糎一三糎　七行　十丁、「青谿書屋」

（鎌倉時代末期寫　妹背陰陽道を以て伊勢物語を論ず　九二三・三―イ九九）

伊勢物語注　寫　一冊　三三三

大中臣重綱筆　綴葉裝　改裝後補薄茶色絹表紙　原裝共表紙　二四・五糎一六糎　七行　九十五丁　原外題左肩「（書名同）焉」　内題なし、「加持井御文庫」等　奥書　重所挍合也／于今明應七年菊月吉日写之早／大中臣朝臣重綱　（原に「抑伊勢物語根源古人説ゝ不同中略先年所書本爲人被借失仍爲備證本」とある根源本を底本とす　所々本文行間に別筆簡注あり　九二三・三―イ六九）

伊勢物語注本　寫　二巻　二冊　三三四

袋綴　雲紙表紙　二八糎二一糎　十一行　題簽中央紅紙「（書名同）上（下）」　内題「伊勢物語」、「青谿書屋」　奥書　（上巻）右此伊勢物語上巻之儀／拾八歳に而書之也／慶長二年二月三日　岩井勢三諏（花押）　（下巻）慶長四年／二月廿五日書之　諏春（花押）　（愚・祇・肖・勢・惟・時等の記號を附して各諸注を合纂す　題簽左下「古注新注」とあり　九二三・三―イ八五）

伊勢物語勅講抄　寫　三冊　三三五

後水尾院御講　袋綴　縹色布目表紙　二七糎一九・五糎　題簽左肩後補「（書名同）上（―下）」　内題なし、「桃園文庫（紙票）」　識語　（上冊見返池田龜鑑筆附箋）龜鑑云／コノ本後水尾院御抄ト云ヘル家藏／ノ一本ト比較スルニ大異アリ、コノ書ハ／群書一覽ニ云ヘル伊勢物語勅講抄／ト同ジモノナルベシ、但シコノ本末尾一葉ヲ欠クハ惜ムベシ。／御抄ニ異本アル欤　（江戸時代中期寫　上冊巻初に「後水尾院帝　御講尺聽書　明暦二年八月廿二日初度同至九月廿九日／御滿座　十二度済下略」、中下冊「後水尾院帝　御講尺」とあり　百二十四段までありて以下闕　上冊見返ニ「群書一覽一三ノ十二伊勢物語勅講抄の條を墨書抄出せる紙片を貼附　九二三・三―イ四七）

伊勢物語童子問　寫　八冊　三三六

荷田春滿著　袋綴　薄茶色表紙　用紙鳥の子　二八・五糎二〇・五糎　十一行　外題中央小津桂窓筆「（書名同）一ノ二（三ノ四・五・六・七ノ八・九ノ十・十一ノ十二・十三ノ十四大尾）」（二・三・五・六・八は紅紙花葉臘箋）、「西莊文庫（小津桂窓筆「花百九全八」と墨書せる紙箋に捺印）」　（江戸時代中期寫　巻初遊紙に本文同筆「童子問十四冊者羽倉齊（ママ）之考案也闕疑抄之遠／誤改而伊勢物語童子問題書写之砌急卒故物語（語の字朱筆後補）／之本文並抄文畧之此書者庫外不出之秘書也」と書す　九二三・三―イ五七）

伊勢物語難儀抄　寫　二巻　一冊　三三七

袋綴　改裝後補朽葉色表紙　原裝共表紙　用紙裏打　二六糎一九糎　十一行　五十丁　外題後筆「（書名同）上下焉」　原外題左肩「（書名同）（下に）哉」、「圓融藏」「盛胤之印」「加持井御文庫」　（室町時代末期寫　九二三・三―イ六七）

闕疑抄　寫　二巻　二冊　三三八

細川玄旨著　文祿五年仲春十五日自跋　袋綴　雲紙表紙　二四・五糎一九・五糎　十二行　外題左肩「（書名同）上（下）」　内題なし　（江戸時代初期寫　本文同筆にて「闕疑抄ノかな付朱引仕候／かな付たる本無御座候故拙者／存より候分又かなたこなた仕／随分如此候／あしき事も御座候へく候／あまりかな多付すごし／申候御心中いかゝと奉存候／されどもかな付仕候からは御／存知の事にも付たるがよく／御座候ハんと奉存こまかに付／進上申上候あやまり御座候而／御がつてんまいらぬ事御座候／へく候重而懸御目候刻可得／御意候以上下略」の折紙一葉を添ふ　原に「此物語の抄出としごろあらましながら花實／のいとまなくてむなしく過侍るにこの比／八條宮講談つかうまつるべきよしかしこき仰／ごとをたび〳〵うけ給侍るによてもとより／の心ざしもしきりにもよほされつゝ三光院／内府そのかミしるよし侍し長岡といふ所／にて御講尺ありし聞書のこりとゞまりし／を見いで侍るそのおりの嚴命に予が／外祖父環翠軒宗尤逍遙院殿へ聽聞せしを惟清抄となづけハべりしすなはち／其おもむきをもて

有餘不足をわきまへ／よと侍しかバをろかなるこゝろにかたの／やうにひきあハせてしるしつけ侍る抑此／講義惠雲院殿大覺寺准后義俊聖護院／准后道增その外宗養紹巴などにいたりて／うけたまハりをよひしをはじめとして愚見／肖聞等の諸抄をあハせ御説の儀にした／がひて是を用捨せしむ下略于時文祿五年仲春十五日に／これををふる者也」と奥書あるものの寫　九二三・三—イ六三）

神風知顯正義集下卷　寫　一冊　三三九

綴葉裝　龜甲花模樣濃綠織文表紙　見返金銀砂子斜界　用紙鳥の子　一五糎一六糎　十行　八十丁

奥書　異義ハ以先達之異説私加之／可秘〻〻穴賢〻〻

（鎌倉時代末期寫　包紙に「神風知顯正義集下／二條爲明卿筆」とあり　松田武夫著「和歌と新資料」所収「神風知顯正義集（重要美術品）解題並に本文」—參照　九二三・三—イ二二）（重美）

勢語句解　寫　三卷　三冊　三四〇

平澤元愷（旭山）著　自筆　袋綴　改裝後補紙粉色表紙　原裝共表紙　二三糎一五・五糎左右雙邊一九糎一二・五糎　九行二十字詰藍罫紙　原外題右肩「（書名同）卷之上（一下）」、「矢野藏書」

奥書　（上卷原表紙見返）兎道　澤元愷考稿

（九二三・三—イ二九）

嬰兒抄　寫　二卷　二冊　三四一

自跋　袋綴　蝴蝶押文模樣白表紙　二五糎一七・五糎　十行　題簽左肩墨流「（書名同）上（下）」内題なし、「青谿書屋」

（江戸時代中期寫　九二三・三—イ九五）

和謌知顯集　寫　五冊　三四二

蝴蝶裝　朽葉色包表紙　一九・五糎一九糎　十一行

識語　芳應（花押）

（室町時代中期寫　内題の下に「大納言源經信」とあり　ビブリア第十二號所収大津有一「和謌知顯集について」—參照　九二三・三—イ七七）

○

大和物語　二卷　二冊　三四三

袋綴　紺表紙　二八・五糎一九・五糎　十二行　約十九字　題簽左肩「やまと物語上（下）」　内題上卷なし、「珍」「桃園文庫（紙票）」

識語　安永四歳次乙未六月四日以縣居本校合畢　魚彦

五年丙申正月十四日於茅生廬校合畢　道麻呂

（朱）此本ハ道麻呂主没後其遺本ともミな／其弟子達次／〳〵伝ハリツルカ吾醫術ノ／學兄ナル堀川主ヨリ今ハ榛木翁ノ門人ナシ／オノレニ預レトアルニ从ヘリオノレヨリ又ツキハト／尋ネ侍ルニソハオノガ心ニマカセヨト／イハレ侍リキ／今年嘉永二年シテ藏本首書ニモイヒツル／コク書入レ又コノ本ニモイサヽカツヾイハマホシキ／コハコノ橘筆ニテカキタリカレマカヒハアラジ／二月廿三日鈴屋門平野廣臣六十六

（古活字版　寬永期刊　第一丁表に道麻呂筆の凡例「○説者ヲシルサヌハ加茂眞淵説　○魚曰或ハ魚彦云トアルハ楫取魚彦説　○石曰トアルハ江戸ニテ石田氏某ノ本ヲカリテソガ中ノ説ヲ記ス　○道曰トハオノレ田中ノ道麻呂思フ所ヲノベ亦聞オキシコアルヲ記ス　○朱モテスルハ多クハ季吟抄ノ説也」とあり　九二三・三—イ五）

大和物語　二卷　二冊　三四四

袋綴　毘沙門格子牡丹唐草模樣丹行成表紙　二七糎一七・五糎　十二行　約十九字　題簽左肩金紙後補墨「やまと物語上」　内題上卷なし　柱刻「上（下）」（丁數）」

（古活字版　寬永期刊　十二行本　九二三・三—イ七）

大和物語　二卷　二冊　三四五

袋綴　改裝後補毘沙門格子牡丹唐草模樣紺行成表紙　二六・五糎一八糎　十二行

約十九字　上巻内題なし
刊記　寛永十六年二月吉辰
（古活字版　寛永十六年刊　イ種　九一三・三三—イ九）

大和物語　二巻　二冊　二三三六

袋綴　改装後補栗皮色表紙　二七糎一九糎　十一行約二十字　内題上巻なし　綴目中央「上(下)　(丁數)」、「安木氏圖書記」
（古活字版　寛永期刊　十一行本ハ種　九一三・三三—イ一三）

大和物語　二巻　二冊　二三三七

袋綴　改装後補薄黄色表紙　二六糎一九糎　十二行約十九字　題簽中央雙邊(刊)墨「(書名同)　上(下)」　内題上巻なし　綴目中央「上(下)　(丁數)」、「豫章館」「英王堂藏書」
（古活字版　元和寛永期刊　十二行本イ種　九一三・三三—イ一五）

大和物語　寫　一冊　二三三八

基綱筆　袋綴　雲紙表紙　二六・五糎二一糎　十一行　九十七丁　題簽中央書名同　内題なし、「御巫書藏」
奥書　基綱寫
（室町時代中期寫　巻中間々本文同筆を以てイ本校異あり　阿部俊子著「校本大和物語とその研究」—参照　九一三・三三—イ一九）

大和物語　寫　一冊　二三三九

袋綴　栗皮色表紙　二七・五糎一九糎　十行　九十九丁　題簽左肩雙邊(刊)書名同　内題なし、「寂淵」
（江戸時代初期寫　行間所々勘物を注記す　巻末に宇多法皇御傳を記す　九一三・三三—イ二一）

大和物語虚静鈔　寫　二巻　八冊　二三四〇

木崎雅興著　安永五のとし中冬下浣自序　袋綴　墨刷毛目薄黄色表紙　二三・五糎一七糎　題簽左肩緑紙「大和物語虚静抄上　一(—上五)下一(—下三)」、「紅梅文庫」等
奥書　(第二冊)正月二日ゟ十五日迄カヽル
(第四冊)庚戌三月廿五日写之
(第六冊)右此一巻丹州江和村初右衛門林龍助筆
(第八冊)寛政二稔庚戌正月至三月寫上之一二三四下之一　九月上旬至下旬／上之五下之二三全備焉原本岡本玄信（小濱瀬木町住醫伯也）所持願慶／寺郁祐老師八十五歳老筆也
（原に「奥書云此一帖以京極黄門自筆之本不違一字誂人／令書之落字等繁多追而猶可加勘校者也／永享三年　権少僧都」と奥書あるものを底本とす　九一三・三三—イ一七）

大和物語抄　六巻　六冊　二三四一

北村季吟著　昭陽大荒落如月日源杏僊序　壬辰十月中旬自跋　袋綴　紺表紙　二六・五糎一九糎　四周單邊二一糎一五糎　十一行　題簽左肩雙邊「(書名同)（賦二比・興・雅・頌三・四・五・六）」(第一冊闕)　綴目中央「巻一(—六)　やまと風(—頌)　(丁數)」、「本間文庫」「稻廼舎藏書」
刊記　承應二癸巳仲夏吉日／大坂心齋橋筋順慶町　柏原屋与左衛門　(刊記入木)
識語　(巻末頭注)文化九年十月上旬泊洒舎／に人ゝ會讀しける時一わ／たり讀わたしつ／文政のふたとせ八月廿日／餘り一日縣居翁の此抄／に書そへられつる事／とも写し終る抄と同し／所もあるハあなかちに／わつらはしく書くはへ／すいさゝか私におもへる事／もありしハ其所ゝにしるし／おきつ／前田夏蔭
(第一冊序末に「文政元季六月朔日講初（白井種喬　今井蔭美　岡井忠告　安藤奈國　行方清昌等來會）」とありて「濱臣云此物語の大むねハ」云々の夏蔭書入あり　巻六末頭注に「寶暦十年七月よりたま／／＼参りて一わたり讀て／同十二月の八日によみ果つ／一月に三度よたひなん／續ける也本の注のあ／しきをはおほくけしつ／そのむしろにさま／＼の／なしことをもいひわたらひなからたま／＼書／たれはそれはたわろき事も多かりなむ　賀茂淵」との夏蔭記入ありて右眞淵本による書入多し　墨書頭注朱書校異す　九一三・三三—イ一一）

○

うつほものかたり　二冊　三四三

袋綴　毘沙門格子地唐草模様縮色行成表紙　二七糎一七糎　十一行　十九字　題簽左肩後補「うつほ物語　上(下)」

（古活字版　寛永期刊　第一種ロ種本　九二三・三四―イ一一）

うつほ物語　二十巻　三十冊　三四三

袋綴　紺表紙　二六・五糎一八・五糎　四周單邊一九・五糎一五・五糎　十一行　挿畫（第一冊）六頁分　（第二冊）二頁分　（第三冊）四頁分　（第四冊）六頁分　（第五冊）五頁分　（第六冊）四頁分　（第七冊）六頁分　（第八冊）五頁分　（第九冊）三頁分　（第十冊）五頁分　（第十一冊）三頁分　（第十二冊）三頁分　（第十三冊）四頁分　（第十四冊）三頁分　（第十五冊）六頁分　（第十六冊）三頁分　（第十七冊）五頁分　（第十八冊）二頁分　（第十九冊）四頁分　（第二十冊）四頁分　（第二十一冊）六頁分　（第二十二冊）三頁分　（第二十三冊）四頁分　（第二十四冊）四頁分　（第二十五冊）四頁分　（第二十六冊）一頁分　（第二十七冊）三頁分　（第二十八冊）四頁分　第二十九冊（三頁分）（第三十冊）五頁分　題簽左肩「（書名同）俊蔭二（今板本古本十六の巻ノ二）（―樓の上・上の上（今板本古本十四の巻ノ三）六の巻）」副題簽後補墨「としかけ上　一上（―樓上下ノ上・廿止）」内題なし　柱刻「俊十六（―樓上四）（丁數）」、「西莊文庫（小津桂窓筆「花廿九全三十」と墨書せる紙箋に捺印）」

刊記　（第二十冊末）補刻文化三年丙寅春三月吉旦／書林　大坂本町四丁目　葛城宜英堂　奈良屋長兵衛板

識語　（第二冊末）右宇都保物語全部借田中道麻呂以二箇正本定巻次第／挍合本以挍合畢／天明四年甲辰三月十三日　本居宣長判／文化八年辛未夏一本寫本青墨挍合畢（此一行青墨）

以先師本居大人之本書入畢／文化十一年甲戌九月十一日　殿村安守（花押）

（原に第十九冊「延寶五丁巳年／初春吉辰開板」と刊記あるものの再刻　識語にいふ諸本によつて青・墨を以て校異を施せり　九二三・三四―イ一五）

うつほ物語　寫　八冊　三四四

袋綴　澁刷毛目表紙　用紙薄様　間紙を挟む　二八糎一九・五糎　九行　内題なし

（新影寫本　初冊見返に「濱臣　春海　山岡明阿弥／右三人の書入有之旧本のうつ／ほ物語也印本与次第相違大ニ／異同有之其余異本数本ニて／再挍す清水濱臣持所之本以／新写と見えたり」とある紙箋を貼附　清水濱臣藏書の印記、所々墨書頭注、朱書傍注まで刻明に移寫せり　校合一本に古活字本多く見ゆ　九二三・三四―イ一七）

うつほ物語　二十巻　三十冊　三四五

袋綴　紺表紙　二五・五糎一七・五糎、「小田氏藏書」「紅梅文庫」等

刊記　（第十九冊末）補刻文化三年丙寅春三月吉旦／書林　大坂本町四丁目　葛城宜英堂　奈良屋長兵衛板

識語　（第三冊末）（朱書）文化七年正月十四日挍讀畢（第四冊末）（本多忠憲朱書）（以下同）文化七きさらき八日挍讀畢（第五冊末）（朱書）文化七二月八日挍讀早（第六冊末）（朱書）文化七やよひ八日挍讀畢（第七冊末）（朱書）文化七三八廿八丁挍讀早／文化七四八廿丁挍讀早（第八冊末）（朱書）文化七四月八日挍讀早（第九冊末）（朱書）文化七四月八日挍讀早（第十冊末）（朱書）文化七のとしさつき八日讀合早（第十一冊末）（朱書）文化七とし五月八日挍正早（第十七冊末）（朱書）十五丁／文化八年正月十四日挍早（第十八冊末）（朱書）文化八未二月八日挍讀畢（第十九冊末）（朱書）文化八閏二月八日從十七葉挍讀早（第二十一冊末）（朱書）文化七年十一月八日三葉挍讀早／同八年閏二月八日十二葉挍讀早／同年三月廿四日廿三葉挍讀早（第二十二冊末）（朱書）文化八三月廿四日三十丁／同　四月八日十丁（第二十三冊末）（朱書）文化八四月八日挍讀早（第二十四冊末）（朱書）文化八四月八日廿二枚挍讀早／同　六月廿六日十三枚

挍讀早
（第二十五冊末）（朱書）文化八稔六月廿六日挍讀早
（第二十六冊末）（朱書）文化八稔六月廿六日八葉挍讀早／同八　七月廿四日卅葉挍讀早
（第二十七冊末）（朱書）文化八稔七月八日挍讀早
（第二十八冊末）（朱書）文化八年八月八日挍讀早
（第二十九冊末）（朱書）文化八稔八月八日三葉讀早／同年九月八日四十六葉挍讀早
（第三十冊末）文化六稔十二月八日發起同八稔辛未十月／八日挍讀畢
（原に第十九冊末「延寶五丁巳年／初春吉辰開板」と刊記あるものの再刻　第四冊「寶曆壬午　六月廿三日以古本三筆之挍正早　浚明（青墨）」、第五冊「右一帖寶曆壬午年月日遺失以古本挍比一遇早　浚明（青墨）」、第九冊「寶曆十三年癸未十月十九日於燈火以古本挍比致／半夜鐘聲之時卒藁早（青墨）」、第十冊「右一帖古本外題云菊の宴五ならひ今本と異也／しはらくしるして再考をまつのみ（青墨）」、第十一冊「寶曆十三年癸未八月廿九日夜燈下比□一過早」、第三十冊「天明元年仲夏旬挍合早／庚月堂藏」「西尾定氏藏本得乞挍合畢」「天明二年壬寅五月十五日藤原忠寄」「又／寬政元年春ヨリ山岡妙阿翁頭書加ヘタル書片山／足水藏スルユヘ乞受同二年庚戌十月書寫畢（以上朱書）」とある識語を移寫　なほ貼紙して「としかけ上下　文化六年十二月八日挍讀終（同朱書）寶曆十四年甲申正月十一日周環挍正以三筆／古本塗抹一過卒藁早／伴宿祢浚明（花押）（同青墨）／俊蔭巻二軸こそのほとより或人のかり貸／置しにこの春二月廿九日といふに麻布の里／より火出來て南の風さへはけしくて／江戸の家居なかはに過てミなやけうせぬ中略明和九年壬辰九月／濱町のやとりに」とあり　三四四に同版　九二三・三四―イ一九）

宇津保物語　寫　二十巻　二十冊　三四六

袋綴　菊文薄茶色表紙　用紙鳥の子　二七・五糎二〇糎　十三行　題簽中央丹紙「一としかけ（一廿樓のうへの下）」内題なし
（毘沙門堂本　江戸時代初期寫　所々本文同筆イ本校合あり　帙題簽に「山科毘沙門堂本　宇津保物語天正頃古寫本」とあり　九二三・三四―イ二）

うつほ物語俊蔭巻　寫　二軸　三四七

巻子本　花葉文金襴檜皮色表紙　見返金紙　用紙金泥下畫　三二糎　一紙四七糎　挿畫（上巻）五面（下巻）四面　内題なし
（奈良繪巻　江戸時代初期寫　「仲忠十二歳になれる」より同巻終まで存す　九二三・三四―イ三）

○

落久保物語　寫　三冊　三四八

袋綴　薄朽葉色表紙　二七・五糎一八糎　十行　題簽左肩雙邊（刊）「落久保（暮）物語　松（竹・梅）」内題なし、「渡邊千秋藏書」
識語　（清水光房筆朱書）右以泊舶舎大人挍本朱書畢　禰古者小倉侯／所藏繪巻物八者村田翁所藏本イ者中村文／子藏本之由也　文政二初秋九日　光房
文政六年癸未臘月廿七日讀畢於學友岡本氏保孝之宅也
（江戸時代中期寫　清水光房筆朱書校合頭注書入あり　各冊巻初頭書に（朱書）「秋成本一ノ上（二ノ上・三）」とあり　第一冊表見返（朱書）「古小笠原近江侯繪巻物八巻村田春海藏イ中村文子藏ア秋成挍合印ウ活字本八本四巻本三巻本六巻本四巻」とあり　九二三・三五―イ三）

○

一葉抄　寫　十冊　三四九

藤原正存著　袋假綴　紙粉色包表紙　二六糎二〇糎　十行　題簽左肩「一葉一（―十）」、「桃園文庫（紙票）」
（室町時代末期寫　第一冊別筆江戸時代末期補寫　原に「右十五冊藤正存以師説宗紙禪師／并諸抄等之編之ヱミ／明應乙卯　孟春仲乙　肖柏」とあるものの寫　「十市兵部少輔遠忠」の紙箋を貼附　九二三・三六―イ二）

雨夜談抄　寫　一冊　三五〇

宗祇著　袋假綴　共表紙　二七糎二一糎　十五行　三十丁　外題左肩書名同　内題なし、「三條西」

（室町時代末期寫　原に「本云文明十七のとしふ月のはしめつかた兒女子の／ために註し侍りさためてひか事おほくはへ／らんかし　宗祇」と奥書あるものの寫
九二・三六—イ二四七）

河海抄　寫　二十卷　十冊　三五一

四辻善成著　自序　袋綴　改裝後補薄卵色地金泥雲引布目雲紙表紙　見返金紙用紙裏打　二六・五糎二一・五糎　十五行　題簽中央「（書名同）」（自第一至二十）

奥書　文明十三年辛丑卯月日書寫終功早

（中書本　内題下に「正六位上物語博士源惟良撰」とあり　「河海抄　全部十冊／右／一條殿兼良公眞筆／無疑者也／外題御同上　寛延二年初冬上旬　古筆了延（印）（琴山）」の古筆折紙一通を添ふ　原に巻十「四辻宮大納言家奉傳誦仍彼一部感得記／法名喜阿散位基重在判　与阿／喜阿／武藏の草のゆかりハ枯にしをもとのねさしや春を待らん／与阿／むさしのゝ草のしけミに紫のおひ行するもたえしとそ思ふ／是以前御系圖略之在別相傳者也」、巻二十「本云四辻宮大納言家申出中書御本永和二年自／孟冬比今永和第五至季春四日書寫一筆記／永和五年三月十四日散位基重在判／數ならて名をさへかくす身なれとも／なかれてしのへ水くきのあと／康暦第二季春後八日重申出御本見合畢讀書雖非器依志切自基重家御（私欤）一本所令／相傳也應永第拾六自仲春比今到孟冬比自書寫一筆記／不可出和箱者也　師阿／さてもそのかひハなくとも名斗ハ世に立出よわかのうらなミ／此一句恥後見心」「文正元年丙戌六月一日　書了」と奥書あるものの寫　九二・三六—イ四三）

河海抄　寫　二十卷　二十冊　三五二

四辻善成著　自序　覆勘自跋　袋綴　毘沙門格子摺出模様水色表紙　二六・五糎一九・五糎　十二行　題簽左肩「（書名同）　壹（—廿止）」、「桃園文庫（紙票）」

（覆勘本　江戸時代中期寫　筆者交筆　各内題の下に「正六位上物語博士源惟良撰」とあり　原に巻十「四辻宮大納言家奉傳誦仍彼一部感得記／散位基重在判　与阿／喜阿／むさしのゝ草のゆかりハ枯にしをもとのねさしや春をまつらん／与阿／むさしのゝ草のしけミに紫のおひゆくするもたへしとそ思ふ／是以前御系圖略之在判相傳者也」、巻十七「本云寛正六二下旬以洞本写之　両本挍合了」「文明四年壬辰三月十五日申下尅立筆翌日／午一點終書功了紙筆其以外可説可恥之／莫許外見」、巻十九「本云寛正六年卯月上旬之侯（ママ）以洞院亞相公數卿家本仰大江／冨元写早同十五日兩本挍合朱点文明四年壬辰三月廿二日／辰下尅立筆未剋終書功早　源朝臣　判」、巻二十「寛正六年孟夏下旬之候（ママ）終一部之寫（ママ）功了洞院大納言公數卿家本并室町殿局本彼是見合了／春本者中書之本洞本者覆勘之本也仍彼是不同／支有之料紙左道右筆比興也堅可禁外見穴賢ゝゝ／文明四年三月廿二日未下尅立筆翌日申尅終書寫之功也一挍畢」と奥書あるものの寫　跋に云「本云此抄一部廿巻手自令挍合加覆勘畢可爲治定之／證本焉」　九二・三六—イ二五）

河海抄　寫　二十卷　二十冊　三五三

四辻善成著　自序　袋綴　水色表紙　二七糎一九糎　十二行　題簽左肩「（書名同）　一（—廿）」、「崎房文庫」「下總崎房秋葉孫兵衛藏書」「秋葉義之記」「桃園文庫（紙票）」

（中書本　江戸時代末期寫　内題次行に「正六位上物語博士源惟良」とあり　原に巻十「四辻宮大納言家奉傳誦仍彼一部感得記／散位基重在判　与阿／壽阿／武藏野の草のゆかりハ枯にしをもとのねさしや春を待らん／与阿／むさし野の草のしけみに紫のおひ行末もたえしとそ思ふ／是以前御系圖略之　在判　相傳云也」、巻二十「四辻宮大納言家申出中書御本永和二季自孟冬／比今永和第五至季春四日　昼写一筆記／永和五年三月十四日　散位基重在判」「數ならて名をさへかゝす身なれともなかれてしのへ水くきの跡／康暦第二季春後八日重申書御本見合畢」「讀昼雖非器依志切自基重家北一本所令相／傳也／應永第十六自仲春比今到孟冬自書写一筆記／不可出和箱者也師阿／さてもそのかひはなくとも名斗は世に立出よわかのうらなみ／此一句恥後見」「申出關白太政大臣　種家殿御本令書写之／件御本以能州守護修理大夫源義総所持之／證本挍合御本也」と奥書あるものの寫　九二・三六—イ一五）

河海抄　寫　二十卷　五冊　三五四

四辻善成著　自序　袋綴　栗皮色表紙　二八糎二二糎　十五行　外題中央朱書「（書名同）」（自一至四（—自十七至二十終））、「桃園文庫（紙票）」

識語　（各冊首並に表紙）　山門東塔南谷　浄教房　眞如藏三百廿九睦

（中書本　江戸時代初期寫　内題次行に「正六位上物語博士源惟良」とあり　原

に巻十「四辻宮大納言家奉傳誦仍彼一卩感得記／（法名喜阿）散位基重（在判）　与阿／喜阿／武藏野の草のゆかりハ枯にしをもとのねさしや春を待らん／与阿／むさしのゝ草のしけミに紫のおひ行末もたえしとそ思ふ／是以前御系圖畧之　在別相傳者也」、巻二十「四辻宮大納言家申出中書御本永和二年自孟冬比／今永和第五至季春四日書寫一筆訖／永和五年三月十四日　散位基重在判／數ならて名をさへかくす身なれともなかれてしのへミつくきの跡／康暦第二季春後八日重申出御本見合乎／讀書雖非器依志切自基重家此一本所令相傳也／應永第拾六自仲春比今到孟冬比自書写一筆訖／不可出和箱者也師阿／さてもそのかひハなくとも名斗ハ世にたちいてよわかの浦なミ／此一句恥後見心」と奥書あるものの寫　九二三・三六―一三五九）

河海抄　寫二卷　一冊　闕　三五五

四辻善成著　自序　袋綴　砥粉色表紙　二六糎二〇・五糎　十五行　七十九丁白紙一丁　題簽中央白地雲母刷唐草模様「（書名同）一之二」、「桃園文庫（紙票）」（中書本　江戸時代初期寫　卷一・二を存す　内題次行に「正六位上物語博士源惟良撰」とあり　九二三・三六―一三六）

河海抄　寫四卷　一冊　闕　三五六

四辻善成著　自序　袋綴　白鼠色表紙　二七・五糎二一糎　十六行小雙行　百十一丁　外題左肩書名同、「玉松家文庫（墨印）」「桃園文庫（紙票）」議語　（紙筆）本書ハ珍本也、桐壺ノ巻末ニ奥書アリ、洞本春本ヲコレニヨリテ知ルノヲ得ベシ。各巻末ニ撰者中書本ヲ以テ一字不違校合セル由ノヲ記ス。コノ奥書ハ注意スベキモノ也。玉松文庫トアリ

（江戸時代初期寫　覆勘本　内題次行に「正六位上物語博士源惟良」とあり　原に巻一「右抄借請洞院亜相（公敎卿）本終写功早此外又以春日局本（將軍家給候）／同加校合ノ洞院本漏脱之分以件本書加之稱或本書入候者即／春日局本也／寛正五年三月十八日（如此）校合早夜前終寫功去十二日立筆者也以朱指ハ洞本也丸長等点ハ春本也（朱書）

以自他本度ミ校合早文明四年壬辰夏之比借請彼本（濃亞相自筆）卒馳短毫早云疎紙之惡／筆旁以後見多其憚早可令清書者也努／＼／于時鳥路含梅雨蟬聲送麥秋候向竹窓之下終出來之功／而已矣／永正九年夏之比以右本一本雖書写後日作者中書本不慮一見相違所ミ繁多之間一向令清書者也／永正十年（癸酉）十月十八日諫議大夫濟繼」、巻二「右以撰者中書本一字不一欠見合改正之者也　一校早」、巻三「右以後中書本校合改正早」、巻四「右以後撰者中書本一字不闕見合改正早　一校早」と奥書あるものの寫　九二三・三六―一三三）

河海抄　寫　二十卷　二十冊　三五七

四辻善成著　自序　袋綴　薄茶色表紙　二五糎一九・五糎　十二行　題簽中央「（書名同）卷第一（―二十）」

奥書　（第一冊）文祿五（丙申）年三月十四日書写功終了校合了

（第二冊）（同年）卯月三日　（第十一冊）（同年）六月三日
（第三冊）（同年）四月九日　（第十二冊）（同年）六月五日
（第四冊）（同年）卯月十七日　（第十三冊）（同年）六月十三日
（第五冊）（同年）四月廿日　（第十四冊）（同年）六月十六日
（第六冊）（同年）五月七日　（第十五冊）（同年）六月十九日
（第七冊）（同年）五月十日　（第十六冊）（同年）七月一日
（第八冊）（同年）五月十三日　（第十七冊）（同年）七月廿四日
（第九冊）（同年）五月十七日　（第十八冊）（同年）七月廿七日
（第十冊）（同年）下旬五月廿七日　（第十九冊）（同年）七月廿九日

（内題下「正六位上物語博士源惟良撰」とあり　九二三・三六―一三七）

河海抄　寫二十卷　二十冊　三五八

四辻善成著　自序　袋綴　改裝後補茶色表紙　二八糎二一・五糎　十行　題簽左肩書名同（第二冊以下闕）、「池田氏藏書」「桃園文庫（紙票）」

（中書本　江戸時代初期寫　内題下「正六位上物語博士源惟良撰」とあり　原に巻十「四辻宮大納言家奉傳誦仍彼一部感得訖／散位基重在判法名喜阿／与阿／喜阿／武藏のゝ草のゆかりハ枯にしをもとのねさしや春を待らん／与阿　武藏のゝ草のしけミに紫のおひ行末もたえしとそおもふ／是以前御系圖略之在別相傳者也」、巻二十「四辻宮大納言家申出中書御本永和二年自／孟冬比今永和第五至季春四日書寫／一筆訖／　永和五年三月十四日　散位基重在判／數ならて名をさへかくす身なれとも／なかれてしのへ水くきのあと康暦第二季春後八日重申出御本見合了讀書雖非器依志切自基重家此一本所／令相傳也應永第十六自仲春比今到孟冬比自書

（ママ）
／鳫一筆訖不可出私箱者也師阿さてもそ／のかひハなくとも名ハかりは世にたちいてよ／わかのうらなみ／此一句恥後見心此物語蜻蛉巻にかへたらハと云詞に古／來抄物無釋儀依將軍家讀進之／時無證哥欤之由申上處一部讀進／申終經一両日古證哥被御覧出処／也若此分不可有子細欤之由被仰下而／御短冊以御自筆遊被下早尤希／代之證哥也依致參上向後此所之引／哥不可過之末代之可爲龜鏡之由直／申上則後御短尺河海抄之彼詞之在所／押付置者也且面目欤」と奥書あるものの寫

九二三・三六―イ三五九）

覺性院抄　寫　二十一冊　闕　三五九

袋綴　改裝後補紅殻色表紙　用紙鳥の子　裏打　二五・五糎二一糎　九行小雙行

内題なし、「桃園文庫（紙票）」

（江戸時代初期寫　第一冊桐壺巻闕　九二三・三六―イ一四五）

覺性院抄　寫　十八冊　闕　三六〇

袋綴　黄茶鼠色布目表紙　用紙鳥の子　二八・五糎二〇・五糎　十一行　外題右肩後筆「覺性院抄　一　桐つほ（―廿三　うき舟）」　内題「源氏物語聞書」

（江戸時代初期寫　巻初桐壺「時代」の條に「寛弘ヨリ文明十年迄四百八十餘年也然者元龜二年マテハ五百七十四歳欤」とあり　第二至五・廿・廿四至廿八計十冊闕　九二三・三六―イ二三三）

覺性院抄　寫　二十五冊　三六一

袋綴　亀甲小文薄緑色表紙　用紙薄様　三〇・五糎二一・五糎　九行　題簽左肩墨流模様「（書名同）一（―廿五）」　内題「源氏物語聞書」

識語　（各冊末）一挍了（又は一挍早）

奥書　右全部廿五冊萬治比一位殿以本寫之重而羽林以本可令挍合也紙付／又云此本内藤下野守以名別物／之俗事有押紙不慥事有

（江戸時代初期寫　巻初桐壺「時代」の條に「寛弘ヨリ文明十年迄四百八十餘年也然者元龜二年マテハ五百七十四歳欤」とあり　九二三・三六―イ二三五）

覺性院抄　寫　一冊　三六二

袋綴　薄青表紙　用紙鳥の子　二五・五糎二一糎　九行　五十丁　題簽左肩「第一きりつほ」　扉題同上　内題「源氏物語聞書」、「九條」

（江戸時代初期寫　巻初桐壺「時代」の條に「寛弘ヨリ文明十年迄四百八十餘年也然者元龜二年マテハ五百七十四歳欤」とあり　九二三・三六―イ三〇三）

覺性院抄　寫　二十五冊　三六三

袋綴　雲紙表紙　用紙鳥の子　二八糎二〇・五糎　十行　外題「覺―」　内題「源氏物語聞書」、「露沾」「臙庫」「子孫永保／雲煙家藏書記（藍印）」「青谿書屋」

（江戸時代初期寫　巻初桐壺「時代」の條に「寛弘ヨリ文明十年迄四百八十餘年也然者元龜二年マテハ五百七十四歳欤」とあり　九二三・三六―イ三六七）

花鳥餘情　寫　三十巻　十五冊　三六四

一條兼良著　自序　文明四季龍集壬辰除月上澣自跋　袋綴　薄縹色表紙　用紙鳥の子　二八・五糎二一・五糎　十一行　外題中央「（書名同）　一二（―廿九卅）」　右肩に所収題名を記す

（室町時代末期寫　跋云「愚應仁之亂初避上都暫寓九條之坊困敦之秋重／赴南京纔卜十弓之地尓來已歷五秋螢空感／双蓬鬢潦倒之餘功夫之晦忘白樂天世俗文／字之過玩紫式部源氏物語之詞篇ニ通至／教之命脉句ニ貫和哥之骨髄於是毎觀覧／知日新月盛及尋繹悟今是昨非遂挹河海／之流盡眞源於心底被促花鳥之使寫餘情於／毫端也耳文明四年龍集壬辰徐月上澣桃／華居士七十一歳誌焉」　九二三・三六―イ六三）

花鳥餘情　寫　三十巻　十冊　三六五

一條兼良著　自序　文明四年竜集壬辰除月上澣自跋　綴葉装　薄紙粉色表紙　用紙鳥の子　一七・五糎一五・五糎　十行　題簽左肩藍色下畫金銀砂散「（書名同）一（―十）」、「紅梅文庫」

（再度本　江戸時代初期寫　原に第一冊「依　勅命馳禿筆加書寫訖／文明十年春老衲覺惠―」（朱書）「應准后嚴命所及愚意／加朱點改僻字了／右相府兼冬」、第二冊（朱書）「右一覧次加點了／御判」、第三冊（朱書）「一見次以朱加點改／誤了／御判」、第四冊（朱書）「挍合之次改誤加點者也／頗僻事而已焉／御判」、第五冊

（朱書）「挍合次粗令一見了／御判」、第六冊「加一見挍合訖／覺」同（朱書）「加一覽了／御判」、第七冊（朱書）「令一覽加僻點了／桃林隱士御判記之」、第八冊（朱書）「挍合之次加僻點了／桃林隱士御判記之」、第九冊（朱書）「挍合次加一見了／右僕射御判」、第十冊（朱書）「右卅巻観覧遂比挍功／所及愚意加朱點而已／天文第十八暦九月仲旬／桃華末士御判頽齢廿一歳記之」と奥書あるものの寫　九一三・三六—イ七五）

花鳥餘情　寫　三十巻　十五冊　二三六六

一條兼良著　自序　文明四年竜集壬辰除月上澣自跋　袋綴　薄紅色表紙　二六・五糎二〇糎　十四行　外題左肩「（書名同）一之二（—廿九之卅）」小口書「河海抄二（—十六）」同右肩所収巻名、「稲屋之印」「桃園文庫（紙票）」「池田氏藏書」

（複合本　江戸時代初期寫　九一三・三六—イ一二七）

花鳥餘情　寫　三十巻　十五冊　二三六七

一條兼良著　邑治知周筆　自序　自跋　袋綴　薄茶色表紙　二三・五糎一七糎　九行　外題左肩「（書名同）第一序桐壺帚木（—第十五大尾浮船手習　蜻蛉夢浮橋）」、「關氏文庫」「河邨藏書」「吉野弘隆藏書」「紅梅文庫」等

奥書　寛政六甲寅二月廿五日／尾州熱田神吏／邑治知周

（九一三・三六—イ二三三）

花鳥餘情　寫　三十巻　十冊　二三六八

一條兼良著　自序　文明四年龍集壬辰除月上澣自跋　袋綴　改装後補緑絹表紙　原装共表紙　（第一・四・八至十冊）二六・五糎　（第二・三・五至七冊）三一糎二一糎　八（又は十二）行　題簽左肩「（書名同）第一（第二冊以下剝脱）」

識語　（各冊巻首）山門東塔南谷　淨教房　眞如藏三百四十二諸

（初度本　室町時代末期寫　原に第三冊巻六葵巻「花鳥餘情源氏物語秘抄後成恩寺准后／兼良—公御法名覺惠—新選編集書也此道之／琢璧末代之明鑑者欤有前后二本文ミ句ミ／小異大同昔年令借用紹永法眼連ミ終書／功件本最前本也近來此邦依兩虎闘戰／予東漂西泊無容膝之處此頃寓居源益盛／甲第以閑暇令披見此抄之處第三巻有不庶／幾之子細重書改之凡於此御抄不可出窓／外最以可秘之ミ／明應七年五月二日記之　儀同三司」と奥書あるものの寫　九一三・三六—イ二三五）

花鳥餘情　寫　三十巻　三十冊　二三六九

一條兼良著　自序　文明四年竜集壬辰除月上澣自跋　袋綴　雲母引巻龍唐草模様薄砥粉色表紙　用紙裏打　見返金銀切箔散布目紙　二九糎二二糎　十一行　題簽左肩「（書名同）第一（—第卅）」

（初度本　室町時代末期寫　交筆寄合書　頭注傍注等書入あり　「花鳥餘情卅冊／内拾四冊兼良公／内四冊公敦公／内拾貳冊實信朝臣／右外題之通／相違無御座候／代金貳拾枚斗ト／可申物ニ御座候則致／返進候以上　六月六日　古筆了仲（印）」の古筆極札及び「花鳥餘情／一　十四冊／一條禅閤兼良公御筆／一　四冊　輪法輪殿公敦公御筆／一　十二冊　三条西殿庶／實信御筆／合三十冊／外題竹中殿季有朝臣／了仲極メ有／付札不殘御本江張付／有之候／宝暦十三未年八月十四日改　大□祐榮」とある「筆者覺書」を附す　古筆了仲の極札によれば、巻一・二・五至十・十五至十八は三条西殿實信朝臣筆、巻三・四・二十九・三十は轉法輪殿公敦公筆、巻十一至十四・十九至二十八は一條殿兼良公筆　ビブリア第十一號所収阿部秋生「傳一條兼良等筆『花鳥餘情』について」—參照

九一三・三六—イ三三九）

花鳥餘情抄出　寫　三十巻　二冊　二三七〇

一條兼良著　自序　文明四年竜集壬辰除月上澣自跋　袋綴　縹色表紙　二七・五糎二〇糎　題簽左肩紅紙「（書名同）上（下）」　内題「花鳥餘情　第一（—三十）抄出　（各巻名）」、「桃園文庫（紙票）」

（室町時代末期寫　九一三・三六—イ一三九）

花鳥餘情註・河海註・裝束抄付隨身方　寫　一冊　二三七一

九條政基筆　九條兼孝書入　袋綴　改装後補砥粉色表紙　原装共表紙　二七糎二〇糎　十二行　四十七丁　題簽中央後補書名同　原外題中央書名同、「九條」

識語　此壱帖者慈眼院前殿下之眞跡也予今度／披見之次兼孝加筆者也天正十二暦八下旬（花押）

（原表紙に紙箋）慈眼院殿下／兼孝公御兩代直筆

（巻末に別紙別筆慶長己酉仲冬良辰の年紀ある「奉幣兩段再拜祝戸次第」の反古一葉を合綴　九二三・三六―イ二八三）

休聞抄　寫　二十巻　二十冊　三七三

里村昌休著　袋綴　縹色表紙　天地裁斷　二五糎二〇・五糎　十行　題簽左肩「源氏抄　桐壺（―蜻蛉　箒木（―手習　夢浮橋）」　内題なし、「海北」「桃園文庫（紙票）」

（江戸時代初期寫　九二三・三六―イ一四三）

休聞抄　寫　十五冊　三七四

里村昌休著　天文十九孟秋上旬自跋　袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草文丹行成表紙　用紙鳥の子　二六・五糎一八・五糎　十行　題簽中央色紙「（所収巻名）」　外題（第一冊）左肩「源氏物語聞書巻一」　内題「源氏物語聞書」、「桃園文庫（紙票）」

（江戸時代初期寫　跋云「右源氏抄者河海廿巻花鳥廿巻弄花七冊／等用捨之篇并宗祇以來至テ宗牧今／案之説悉一所書載之一部連ミ終其／功訖不許外見者也／于時天文十九孟秋上旬／昌休誌之」　九二三・三六―イ一三三）

休聞抄　寫　十五冊　三七五

里村昌休著　天文十九孟秋上旬自跋　袋綴　澁茶色表紙　二七・五糎一九・五糎　九行　題簽中央「休聞　全十五　きりつぼ　はゝきゝ　一（―かけろふ　手習　夢のうきはし　十五）」　内題「源氏物語聞書」、「矢野藏書」

（江戸時代初期寫　小口書「休聞（一―十五）」とあり　九二三・三六―イ一七七）

休聞抄　寫　十六冊　三七六

里村昌休著　天文十九年孟秋上旬自跋　袋綴　改裝後補茶色表紙　原裝澁茶色表紙　二六糎二〇糎　十行　題簽左肩雙邊（刊）「休聞　一（―十六）」　原外題左肩「河海抄」　内題「源氏物語聞書」、「桃園文庫（紙票）」「池田氏藏書」

識語　右河海抄十五冊者／先師松林□之返／物也／天明三年四月　泉元氏

（室町時代末期寫　第一・二冊は「日本政府圖書」と印記あるにものによる新補影寫本　九二三・三六―イ一九）

休聞抄　寫　十五冊　三七七

里村昌休著　天文十九孟秋上旬自跋　袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草文茶色行成表紙　一六・五糎一三糎　十三行　題簽中央雲紙「（所収巻名）（巻數）」　内題「源氏物語聞書」

（江戸時代初期寫　九二三・三六―イ二六九）

源海集　寫　三巻　一冊　三七八

覺惠筆　綴葉裝　青表紙　二三糎一七・五糎　十二行　百六丁、「池田氏藏書」「桃園文庫（紙票）」

奥書　明應十季三月十八日書寫早

實相坊覺惠

識語　（裏見返附箋）覺惠禪師／報恩院關白忠敦の子信昭の弟子／興福寺の別當たり（三寶院門跡傳）

（九二三・三六―イ一五）

源語裝束抄 付肖柏問答抄　寫　一冊　三七九

肖柏問　一條兼良答　〔一條冬良〕編　袋綴　薄水色表紙　二七・五糎二一糎　用紙鳥の子　十一行　三十三丁　外題右肩破損　扉題書名同　内題なし、「桃園文庫（紙票）」

識語　以右大將御本令家僕写之／比校覃再三漏脱之處以／類本可遂再校也（此朱予良豐所持也）

（此二行朱書）／寛文十二季林鐘上旬／特進藤良（花押）

（附箋）（池田亀鑑筆）亀鑑云／本書ニ収メタル肖柏問答抄一名／源氏物語不審条々肖柏尋申故殿／ノ奥書ハ注意スベキモノ也、本書ハ宗祇ノ不審条々ニハアラデ／肖柏ガ兼良ニツキテ問答シタルモノナリ、コノコト弄花抄ノ奥／書ヲ參照スベシ

（原に源氏物語不審条ミ末「文明十二年季春聞訖（本定）一条禪閤／御注了／肖柏（此五字朱書　牡丹花事也）」とあり　巻末「右一冊者後妙花寺殿下芳／翰也可為重寶物也／天文十三暦仲夏上旬／

特進藤御判」と奥書あるものの寫　源氏物語不審条々の内題下に「肖柏尋申故殿」とあり　九二三・三六—イ二八七）

源語秘訣　寫　一冊　三七九

一條兼良著　能圓筆　袋綴　青表紙　用紙鳥の子　二四・五糎二〇糎　十行　二十一丁遊紙二丁「矢野藏書」

奥書　右之壱冊者光源氏物語之秘事／三ケ之大事并十三ヶ條各十七ヶ條之／口傳全部物語講尺成就之刻／傳受之處也／寛永二年八月吉日　北野能圓（花押）／脇坂淡路守殿

（原に「後常恩寺奥書唯傳一子之秘説也堅可禁外見者御判」「光源氏物語秘曲一帖令附屬英因法師／雖爲子孫無其器用者不可傳之者也／延徳二年後八月八日／前大僧正判」と奥書あるものの寫　九二三・三六—イ三三）

源語秘訣　寫　一冊　三八〇

一條兼良著　袋綴　薄藤色表紙　二四・五糎二一糎　十三行　十五丁　外題左肩書名同、「紅梅文庫」

（室町時代末期寫　奥に「唯傳一子之秘説也堅可禁外見者／御判」「光源氏物語秘曲一帖令附屬／英因法師雖爲子孫無其器／用者不可傳之者也／延徳二年後八月八日／前大僧正判」とありて次に「松風の巻かつらの院」及び朱書「次第不同」の條を追加せるものの寫　漢字に朱書附訓す　九二三・三六—イ三〇二）

源語類字　寫　一冊　三八一

袋綴　青色布目表紙　用紙鳥の子　二七・五糎二〇糎　十行　百十四丁　題簽左肩「（書名同）　完」、「花鵑月雪」「靖齋圖書」「桃園文庫（紙票）」

（江戸時代初期寫　九二三・三六—イ一〇七）

源三知抄　寫　二巻　二冊　三八二

寺町三知著　綴葉裝　紺地金泥下畫表紙　見返布目金紙　用紙鳥の子　二三・五糎一六・五糎　九行、「池田氏藏書」「桃園文庫（紙票）」

（江戸時代中期寫　九二三・三六—イ二三）

源氏一部大綱集　寫　一冊　闕　三八三

袋綴　亀甲飛雲織文白茶色金襴表紙　見返金銀切箔散　用紙裏打　一六糎一一糎　八行、「紅梅文庫」

（室町時代末期寫　「五　花宴」まで存して以下闕　九二三・三六—イ一五七）

〔源氏歌〕　寫　一冊　闕　三八四

綴葉裝　波鶴織文藍色表紙　見返布目金紙　一五糎一五・五糎　十一行　六十五丁（遊紙二丁鳥の子後補）　扉題後筆書名同　内題なし、「斑山文庫」

（室町時代末期寫　「十八　むめかえ廿一首」まで存して以下闕　九二三・三六—イ三一七）

源氏大鏡　寫　五冊　闕　三八五

大和綴　金泥下畫紺表紙　見返金銀切箔散　用紙鳥の子　二九・五糎二二・五糎　十行　題簽中央金泥下畫丹紙「大かゝみ　一（—六）」内題なし、「英王堂藏書」「英國薩道藏書」

（江戸時代初期寫　第三冊闕　九二三・三六—イ五三）

源氏貫雲傳　寫　一冊　三八六

祐倫著　自序　綴葉裝　唐草文白茶色金襴表紙　見返金泥下畫茶色紙　用紙布目鳥の子　一八糎一二糎　八行　百四十四丁　題簽中央金紙書名同　内題なし、「景川藏書」「青谿書屋」

奥書　右是者寛文九酉ノ弥生の比ヨリ／和哥の友をもとめて一向に和／謌を讀習はんとする比彼友／ふるほぐの中より求出せる／とて我にかし置ぬミれは／源氏六十四帖ヲ藤原定家卿／和哥に讀給ひて世の人／の為にとて置給ひぬされと／我等事きの無心底者それ／にてもあちハへぬなれハいか／なる人か定家卿の哥のや／ハらげらしくなが〳〵と書／しるせる本にぞありける／若シ向後の此すきの人の／為にはしかるへき物ならしと／しきりにおもひしよりむり／にかなハぬ手跡なからかく／しるし置侍りぬよみあハ／せねば落字もあるへし也／ひ

とつは申の秋より大坂／御番に居住して慰と思ひ／書者也／　林鐘上旬二日

（九二三・三六—イ六七）

源氏聞書　寫　一冊　三八七

一條兼良著　宗長筆　綴葉裝　改裝後補金泥下畫鶯茶色表紙（原表紙闕白紙内表紙を後補）見返金切箔散　一六・五糎　一三糎　九至十行　二十一丁　題簽中央朧筆「（書名同）宗長筆」　外題内表紙中央「源注　宗長　白」　内題なし、「加持井御文庫」「斑山文庫」

識語　（表見返）（高野辰之筆）昭和三年明治節の日之を求む／華頂宮家の拂はせ給ふ／ところにして梶井宮舊／藏本の一也　源註始を缺くといへども宗長か筆に／疑無くして最も愛するに足る　斑山文庫主人識

（朱書）白ハ昭高院道澄僧正の連歌名。聖護院門跡也

（螢巻以前闕）「源氏物語事典」下巻—參照　九二三・三六—イ七三）

源氏聞書　寫　一冊　三八八

袋綴　澁表紙　用紙裏打　二六・五糎　二一糎　十二行　八十三丁　外題中央朱後筆「（書名同）全」　目録題「源氏目録次第」　内題なし、「桃園文庫（紙票）」

識語　寛永九壬申捻極月吉日／淨教房／實俊之

（室町時代末期寫　初葉首に「山門東塔南谷　淨教房　眞如藏」「廿一聽」とあり　帙に「源氏小鏡の一本也」とあり　九二三・三六—イ二九）

源氏口訣　寫　一軸　三八九

一條兼良著　里村紹巴筆　巻子本　改裝後補代赭色綾表紙　見返金紙　用紙裏打　雲母引紙　二四糎四米四七糎　一紙三三・五糎　見返書名同　内題なし

奥書　已上如寫本

于時元龜元年小春廿日從／三条西殿（御名院殿　逍遙院殿御息）口決之分不殘傳授／早其次染惡筆與之者也／心前新寮窓下（花押）（紹巴）

同日午時糺河田中松崎已下越州衆放火／洛中幽栖故終書寫功而已

（原に「後常恩寺奥書　唯傳一子之秘説也堅可禁外見者御判」「光源氏物語秘曲一帖令附屬　英因法師／雖爲子孫無其器用者不可傳之者也／延徳二年後八月八日　前大僧正判」と奥書ありて次に「松風の巻かつらの院」「うつほの物語かつらの巻云」「次第不同」の條を追記せるものの寫　もと袋綴を現巻子本に改裝

九二三・三六—イ五五）

〔源氏系圖〕　寫　一軸　三九〇

巻子本　改裝後補雲龍文藍鼠色金襴表紙　見返金砂子地彩色下畫　用紙鳥の子　二八・五糎　一米七〇糎　一紙五一糎　横墨罫四段　二段書　内題なし

（室町時代中期寫　無名法師・無名女無名尼の項を存す　九二三・三六—イ四七）

源氏講式　寫　一冊　三九一

柳心坊圓空筆　袋綴　紺表紙　用紙鳥の子　二八糎二〇・五糎　四行　十九丁

奥書　元禄十歳丑八月日　柳心坊（印）

識語　（表紙右）習字手本

（九二三・三六—イ三〇五）

源氏小鏡　寫　一冊　闕　三九二

綴葉裝　牡丹唐草織文濃緑表紙　見返金銀切箔散　用紙鳥の子　二三・五糎　一六・五糎　十行　十四丁　内題なし、「桃園文庫（紙票）」

（室町時代末期寫　廿わかな上至廿一かしは木所収　箱書「源氏若菜細川玄旨墨蹟」とあり「細川玄旨わかな上この巻を一冊」との古筆極札及び「二條様御納戸　古筆了意」として「奉拜見候玄旨法印一冊／正筆ニ而御座候則返上仕候以上／六月廿一日下略」とある添状を附す　九二三・三六—イ三七）

源氏小鏡　寫　二巻　二冊　三九三

綴葉裝　落葉色金泥刷毛目表紙　用紙鳥の子　二五糎一八糎　十一行　題簽中央金紙「（書名同）上（下）」　目録題「源氏目録　上巻（下巻）」　内題なし、「桃園文庫（紙票）」

（室町時代末期寫　九二三・三六—イ三七）

源氏小鏡　寫　一冊　三九四

連藏筆　袋綴　改裝後補栗皮色表紙　二一・五糎一六糎　八行　六十二丁　内題なし　見返後筆書名同、「青谿書屋」
奥書　文祿四年乙未二月廿七日連藏書之七十才
（九一三・三六―イ二五三）

源氏小鏡　寫　二卷　二冊　三九五

袋綴　改裝後補毘沙門格子地卷龍繧色金襴表紙　見返金砂切箔散　二五・五糎一八・五糎　九行　内題なし、「桃園文庫（紙票）」
（室町時代中期寫　室町時代末期筆を以て校合を施す所多し　「堺連哥師等惠源氏小鏡上下二冊」との古筆極札を附す　九一三・三六―イ二七二）

源氏小鏡　寫　二卷　二冊　三九六

袋綴　桐唐草織文薄納戸色表紙　見返金銀切箔野毛散　用紙鳥の子　二八・五糎二四・五糎　十二行　題簽中央金砂散「（書名同）　上（下）」　目録題「（書名同）上（下）」　内題なし、「桃園文庫（紙票）」
（江戸時代初期寫　九一三・三六―イ二五五）

源氏小鏡　寫　二卷　二冊　三九七

綴葉裝　縹色表紙　用紙鳥の子　二四糎一六糎　九行　題簽雲紙「（書名同）上（下）」　内題なし、「黒川眞道藏書」
識語　（見返）（朱書）本書は源氏小鏡の眞本なり流布版本は此の本に／少ゝ増補しかつ字句をも改めたるものなり／眞道識
（室町時代中期寫　九一三・三六―イ二九三）

源氏小鏡下卷　一冊　三九八

袋假綴　表紙闕　二六・五糎一九・五糎　十一行　約十九字　三十丁　目録題「宇治十帖」　内題なし　綴目「下（丁數）」、「貞則」
識語　誓學之
（古活字版　元和期刊　宇治十帖を存す　九一三・三六―イ二六三）

源氏湖月抄并今案詞寄文化考　寫　二卷　二冊　三九九

中野貞利著　自筆　自序　袋綴　水色表紙　二四糎一七糎　左右雙邊二〇糎一四糎　十行藍罫紙　題簽左肩「源氏物語詞寄文化考　上（下）」　序題「源氏詞よせ」　下卷内題同上　尾題「源氏詞寄上卷」（下卷なし）、「桃園文庫（紙票）」
（九一三・三六―イ六九）

源氏詞の解　寫　一冊　四〇〇

袋綴　雲母引菊小文白茶色表紙　見返水色紙　用紙鳥の子　二八・五糎二二・五糎　十一行　五十四丁　外題中央書名同　内題なし、「九條」
（江戸時代初期寫　九一三・三六―イ三〇七）

源氏小ふくろ　寫　一冊　四〇一

袋綴　改裝後補澁表紙　一三糎一九・五糎　十一行　百七十六丁　外題左肩後筆書名同　内題なし　柱心（朱書）「（所收卷名）」
識語　（裏表紙）文化三丙寅歳／近藤
（江戸時代中期寫　源氏物語中の歌を抄出しその前後の本文を併せ記す　本文同筆朱書注記多し　九一三・三六―イ三八七）

源氏注　寫　一冊　闕　四〇二

宗長著　昭高院道澄筆　綴葉裝　共表紙　用紙鳥の子　一八糎一三糎　六十丁
外題後筆「（書名同）白（白字のみ道澄筆）」　内題なし
識語　（表紙）白ハ昭高院道澄僧正の連歌名／聖護院門跡、九條植家の男也／斑山識
（巻初より「十七玉かつら」迄を存す　下卷闕　「源氏物語事典」下卷―参照　九一三・三六―イ六五）

源氏抜書　寫　一冊　二三〇三

綴葉裝　改裝後補華鳥等織文薄藤色表紙　見返金銀泥下畫金砂子野毛散　用紙鳥の子　二三・五糎一四糎　七行　二十六丁　題簽左肩「源氏詞哥　清巖作也」内題なし

（室町時代中期寫　源氏各巻歌一首とその詞書の抜書「徹書記源氏抜書一冊」との古筆極札を貼附す　九一三・三六―イ三三三）

けむしのこかゝみ　寫　一冊　二三〇四

傳飛鳥井雅康筆　袋綴　金泥下畫紺表紙　見返布目金紙　用紙裏打　二五・五糎一九・五糎　十二行　四十二丁　題簽中央書名同　内題なし、「水野・篤誠」「鹿文之巣」「翰華」「桃園文庫（紙票）」

識語　（表紙附箋）（池田龜鑑筆）この本諸本に比するに／全く異れり。異本／といふへし。

（「飛鳥井殿二樂軒宋世」との古筆極札を貼附　九一三・三六―イ二七七）

源氏目案　寫　七巻　三冊　二三〇五

袋綴　瓶覗色布目表紙　二七・五糎二〇糎　用紙鳥の子　十行　題簽中央金泥横雲「（書名同）上（―下）いより ちまて 共三（―あより ゑまて）」、「伊勢國伊射和里御民吉葛園竹川政胖圖書」「桃園文庫（紙票）」

（江戸時代初期寫　表紙右肩に朱書「へ」の上に墨書「十五共三」とあり　九一三・三六―イ三四七）

源氏物語　寫　四巻　四冊　闕　二三〇六

紫式部著　袋綴　華文繋織文鶯色表紙　二四糎一六糎　八行　題簽金銀下畫丹紙「うつ蟬（すゑつむ花・もみちの賀・あふひ）」　内題なし、「桃園文庫（紙票）」

（青表紙本　室町時代中期寫　空蟬・末摘花・葵三巻同筆　空蟬・末摘花・紅葉賀・葵の四巻を存す　「（表）常光院堯憲法印　ねられ給 よのなか おもへとも　（裏）源氏物語　うつ蟬 あふひ すゑつむ花　三冊明治卅八―五」、「（表）飛鳥井雅親卿朱雀院の（裏）源氏物語もみちの賀一冊明治卅八―五」とある古筆了仲の極札を附す　九一三・三六―イ六五）

源氏物語　寫　五十四巻　五十四冊　二三〇七

紫式部著　傳周桂筆　綴葉裝　栗皮色表紙　用紙鳥の子　一八糎一六・五糎　九行　題簽中央金銀泥雲紙「（各巻名）」　内題なし

識語　（里村紹巴筆）此源氏物語遂一／覧了／文祿二年三月望法橋紹巴（花押）

（第一冊表紙附箋）源氏五十四帖周桂筆／朱書入奥書紹巴筆

（青表紙本　室町時代末期寫　同時代筆朱書入あり　「連哥師周桂筆源氏物語全部奥書者紹巴」とある古筆極札を附す　九一三・三六―イ八三）

源氏物語　寫　四十巻　四十冊　闕　二三〇八

紫式部著　袋綴　縹色薄雲母引表紙　二六・五糎二〇・五糎　十行　題簽中央「はゝき木（―各巻名）」　内題なし

（青表紙本　室町時代末期寫　交筆　附箋書入多し　桐壺・關屋・若菜上至橋姫計十四巻十四冊闕　九一三・三六―イ八九）

源氏物語　寫　四十八巻　四十八冊　闕　二三〇九

紫式部著　綴葉裝　亀甲牡丹雷文繋茶色臘箋表紙　見返草花等下畫色替紙を交ふ用紙雲母引色替鳥の子　二三糎一八・五糎　十一行　題簽中央金銀泥下畫薄水色紙「（各巻名）」　内題なし、「桃園文庫（紙票）」

奥書　（各冊末）挍合了（又は「挍了」）

（第四十八冊）此一部二宮大宮司元國依懇望／令染惡筆并朱書之事詮非／私覺悟河海花鳥餘情六巻注／哢花等受師説之處注付侍り／狼籍者欤／天正七年七月下澣書早

（青表紙本　空蟬・野分・梅枝・藤裏葉以上計四巻は江戸時代初期別筆補寫　末摘花・藤袴・宿木・東屋・浮舟以上計五巻闕　九一三・三六―イ九一）

源氏物語　寫　五十四巻　五十四冊　二三一〇

紫式部著　綴葉裝　色替表紙　用紙鳥の子　一六・五糎一七・五糎　十行　題簽中央金泥下畫丹紙「はゝき木（―各巻名）」（桐壺巻闕）　内題なし

奥書　（第四十三紅梅巻）寛永廿一八三一挍了（この傍に附箋「三條西家原本にこの項なし（此一行朱書）」）／寛永廿一八三一」）

識語　（第二冊附箋）（赤ペン書）コノ本ニ「イ」「本」トシテ挍合セルモノハ所謂／古本ナルベク、ソノ本文ハ「池田本」ニ大体／一致ス。古本ハ肖柏ノ本ナルベシ、コノ本ニハ「イ」トモ「本」トモ標記セザル挍合アレドイヅレモ古本／ノコトナラン

（第十三冊附箋）昭和十二年六月十四日以三條西家證本一校畢長船清水

（青表紙本　三條西家本　江戸時代初期寫　原に第一桐壺巻「大永五年六月廿七日書寫之／享祿三年六月廿七日讀合入落字等了古本闕故雅康卿筆也卅三枚」、第二箒木巻「大永五年八月二日書寫了／享祿三年六月廿四日以古本讀合了　五十九枚」、第三空蟬巻「大永五年八月七日終日書之／十四枚／挍了」、第四夕顔巻「挍了」、第五若紫巻「六十四枚」、第六末摘花「挍了　四十一枚」、第七花宴巻「本逍遙院筆本肖柏筆／以京極黄門定家卿自筆挍合早」「享祿三年正月十九日書寫之了／奥入以別帋寫之二月廿八日二挍了／桑門堯空七十六歳」、第八紅葉賀巻「挍了卅四枚」、第九葵巻「一挍了」「六十二枚」、第十賢木巻「七十三枚一挍了」、第十一花散里巻「一挍了六枚」、第十二須磨巻「六十一枚」、第十三明石巻「挍了五十六枚」、第十四澪標巻「挍了四十七枚」、第十五蓬生巻「一挍了卅一枚」、第十六關屋巻「一挍了」「七枚」、第十七繪合巻「一挍了廿四枚」、第十八松風巻「挍了廿八枚」、第十九薄雲巻「一挍了四十一枚」、第二十朝顔巻「一挍了私七廿六枚」、第二十一乙女巻「挍了七十枚」、第五十三手習巻「本云以證本書寫之老後之／手習無其益慙愧〻／享祿辛卯 正月廿日／逍遙叟七十七歳／讀合直付了」、第五十四夢浮橋巻「本云 享祿四年正月廿二日終書寫之／功者也／槐陰逍遙叟（花押）／讀合直付了」「御本云 以三條西家傳之證本令謄寫了／慶長十九稔仲春中澣／從神武百餘代孫太上天皇／御在判」と奥書あるものの寫　三條西家本を以て校合せる附箋多し　九三・三六―九三）

源氏物語　寫　五十二巻　四十九冊　闕　三三一

紫式部著　綴葉装　改装後補藍紫雲紙表紙　用紙鳥の子　一六・五糎一五・五糎　十一行　題簽中央後補「きりつほ（―各巻名）」右下に「一（―五十一終）」　原題簽扉中央「（書名及び各巻名）（闕多し）」　内題なし、「桃園文庫（紙票）」

識語　（第一冊桐壺巻）このまきの一の名　つほせんさい／或本分奥端有此名謬説也／一巻之二名也

（第二冊箒木空蟬巻）（略々同時代筆）大納言殿さまも三の道とおほせ事ありし也／此こと葉につきていろ〳〵口傳侍也／かせ吹と人にはいひて戸ハさゝしあけんと君にいひてし物を／このうたをハ大納言殿さまハさして「ふほ」しともと被仰し也

（第八冊葵巻初）（同右）　此のはしめのこと葉に世中かハりてと有ハ御位をすさく院にゆつり／給事也

（第十二冊明石巻）（同右）まくなき蟇又ハ蝉めまし也但黄門御説未勘此定「花」本也

（第二十一冊胡蝶至第二十九冊藤裏葉各巻初）（同右）道就

（第三十四冊夕霧巻）伊行　此哥同時人也不可爲源氏證哥欤／かへるさのみちやはかハるかハらねと／とくるにまとふけさのあハゆき中略今案此巻猶横笛鈴虫之同／秋事欤

（第三十五冊御法巻）交合了

（第四十一冊橋姫巻）このまき一の名うはそく

（青表紙本　鎌倉時代末期寫　賢木・蜻蛉・手習の三巻は略々同時代別筆補寫　花散里・柏木巻闕　奥入の文を多く存す　筆者交筆　九三・三六―一九五）

源氏物語　寫　五十三巻　五十三冊　闕　三三二

紫式部著　雲紙表紙　一五・五糎一五・五糎　九行　題簽中央貝引紙「きりつほ（―各巻名）」　内題なし

識語　（別紙）（池田亀鑑筆）「特、貴（此二字朱書）／河内本源氏物語五十參帖（一帖闕）／河内本源氏物語にして現存する寫本／中東山文庫御藏本高松宮家御／藏本平瀬家藏本等最も整へるものと／稱せらるされとそれ等はなほ異本系／統のもの混入し合計四十冊以上に及ふも／のなし尾州徳川家藏本の如きも補寫／の部分あり純粋河内本はこれまた四十／冊に達せす獨本書は桐壺椎本の二／帖のみ補寫初音一帖缺本にて他は悉く／河内本なりとす現在までに發見せられたる／諸本中五十一帖完備したる河内本は實／に本書を以て唯一のものとなす書寫年／代は永正年間なること確證あり／本書は學界の重寶として貴重す／へき稀有の珍本にしてよろしく校本源／氏物語の底本として學界に弘布す／へきものなり／昭和七年十一月　識之

（河内本　室町時代末期寫　初音巻を闕く　九三・三六―一九七）

源氏物語　寫　四十四卷　四十四冊　闕　三三三

紫式部著　袋綴　縹色表紙　二二糎一八・五糎　十行　題簽中央「きりつほ(—各巻名)」　内題なし、「幾久廼舍」「周芳國都怒郡富田郷石田義知文庫之押手」「桃園文庫(紙票)」

奥書　(各冊)天文十五年(又は歳)書之　主麥生鑑綱

(第四十冊御法卷)天文十五年二月日　主鑑綱

(別本　帚木・末摘花・賢木・螢・若菜上下・總角・宿木・東屋・手習計十卷を闕く　池田龜鑑著「源氏物語大成」—參照　九三・三六—一二七)

源氏物語　寫　五十四卷　五十四冊　三三四

紫式部著　青表紙　二五糎一九糎　十行　題簽中央「(各巻名)　一　(朱書)(—五十四)」　内題なし、「桃園文庫(紙票)」

(青表紙本　室町時代末期寫　交筆　第三空蟬卷は室町時代筆本を以て補寫　表紙附箋(桐壺卷)「飛鳥井殿二樂」・(螢卷)「宗椿」・(柏木卷)「溝材柳江」・(鈴虫卷)「牡丹花弟子」とあり　九三・三六—一三五)

源氏物語　寫　三十三卷　三十三冊　闕　三三五

紫式部著　袋綴　青表紙　二六・五糎二〇・五糎　十行　題簽中央「(各巻名)」　内題なし、「桃園文庫(紙票)」

(青表紙本　室町時代末期寫　第一冊見返附箋に「桐壺、末摘花、賢木、蓬生、繪合、／松風、初音、常夏、御幸、藤袴、／槇柱、梅枝、藤裏葉、若菜下、夕霧、／幻、竹川、橋姫、宿木、蜻蛉、手習、／以上、貳十壹冊缺」とありて同上二十一卷現闕、原に「定家卿奥　此愚本求數多舊手跡之本抽從是用捨短慮／所及雖有琢磨之志及九牛之一毛井蛙之淺才／寧及哉只可招嘲弄纔雖有勘加事又是等／足言未及尋問以前依不慮事此本披露於／華夷遯邇門ニ戸ニ書寫預誹謗雖後悔無／詮徵前事每卷奥所注付僻案切出尋別紙之／間歌等多切失早旁難堪恥辱之外無他向／後可停止他見／非人桑門明静」と奥書あるものの寫　帚木・空蟬・夕顔・玉蔓・柏木・御法・椎本・總角卷末に奥入を記す　九三・三六—一四一)

源氏物語　寫　五十四卷　三十冊　三三六

紫式部著　平賢兼・藤原護道筆　袋綴　改裝後補毘沙門格子花橋織文紫表紙　用紙裏打　二八・五糎二一・五糎　原寸二五糎一九糎　八行　題簽左肩金紙「桐つほ(—各巻名)」　内題「(各巻名)」、「桃園文庫(紙票)」

奥書　(第一冊桐壺)右以正徹自筆青表紙本校合之　證本一校訖句切自元在之／永祿十年六月朔日

加賀守平賢兼(花押)

此一卷以冷泉民部卿入道宗清御奥書御自筆御判　證本／重而令校合加朱書者也自元亀三二朔始之

右以原中最秘鈔類字源語抄千鳥加海殊去永正拾／三年度於防刕山口縣陶安房守弘詮宅所宗碩法師講／尺聞書等自今日讀合之引哥漢語以下書加之而已／元亀第四暦五月朔日始之大庭加賀前司入道宗分(花押)

這一帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説／集以写加之仍至今度遂三校之功者也／于時天正八年龍集庚辰衣更着十八日　任弄叟宗分五十八歳書之(花押)

花鳥兩本再校之

弄花抄説雇他筆書入之亦一校了／天正拾壬午歳正月廿一日　分子

(第二冊帚木)一校了

此校定家のあを表紙の本にてうつしたる本をもて校合し／イ書をつけけちなとし侍り正本たるへくこそ

此一卷於雲刕錯乱之節求出之句切朱書等從元在之而今盤／以冷泉民部卿入道御奥書御自筆御判　證本加一校之處イ書墨滅之／所無相違者也仍右之奥事書永運法師手跡無其隱者乎元亀三二十一

右以原中最秘鈔類字源語抄幷千鳥加海宗祇別註殊宗碩講尺聞書等／讀合之引哥漢語以下書加之而已／句切朱書等當流註／聊無相違者也／朱書筆者永運同跡也(此三行朱書)／

干時元亀第四仲夏初七大庭加賀前司入道宗分(花押)

這一帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説集以写加之仍至此度遂三校之功者也／天正八暦庚辰二月廿四日花鳥兩本再校之任弄齋宗分五十八歳書之(花押)

(同空蟬卷)此一卷以宗清御奥書御自筆御判　證本書写校合畢矣元亀二十三

右以原中最秘鈔類字源語抄千鳥加海殊宗碩講尺聞書等／讀合之引哥漢語以下書加之而已／元亀四年修景初九大庭加賀前司入道宗分(花押)

這一帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説集以写加之／仍至今度遂三校之功者也／于時天正第八暦庚辰二月廿五日　任弄齋桃岳宗分五十八歳書之(花押)／花鳥兩本

再挍之

兩巻弄花抄説書入之亦一挍早／天正拾壬午歳仲春下九　分子

（第三冊夕顔）此一巻以冷泉宗清御奥書（御自筆御判）證本挍合早（元亀三二十八）

右以原中㝡秘鈔類字源語抄千鳥加海殊宗碩講尺聞書等／讀合之引哥漢語以下書加之而已／　元亀第四暦五月十五日　大庭加賀前司入道宗分（花押）

這一帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説集以寫加之仍／至此度遂三挍之功者也／天正八年（庚辰）仲春廿九日　任弄齋宗分五十八歳書之（花押）

花鳥兩本再挍之

弄花抄説書入之亦一挍畢／天正拾壬午歳季春上旬八　分子

（第四冊若紫）此一巻以定家卿奥端共御自筆青表紙御證本假名文字／等不違之書寫挍合早仍朱書分者冷泉宗清入道御／奥書（御自筆御判）本令挍合書加之者也（元亀三三五）

右以原中㝡秘鈔加海千鳥類字源語抄殊宗碩講尺聞書／等令讀合之引哥漢語以下書加而已／元亀四暦五月廿三日大庭加賀前司入道宗分（花押）

這一帖河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説集以寫加之仍至此度／遂三挍之功者也／于時天正八年（庚辰）三月五日　任弄齋宗分五十八歳書之（花押）

弄花鈔説書入之亦一挍早／天正拾壬午歳暮春中二　分子

（第五冊紅葉賀）此末摘花紅葉賀兩巻於雲刕錯亂之節求出之句切朱書／等自元在之而今盤以冷泉民部卿入道宗清御奥書（御自筆御判）／證本加挍合早（元亀三卯十三）

ソハニ書入タル詞多分河内本ト見ヘタリ朱點ノアルハ定家本挍合之分也

右兩巻以原中㝡秘鈔類字源語抄千鳥加海殊宗碩講尺聞書等／讀合之引哥漢語以下書加之者也／元亀四暦林鐘鬼宿日大庭加賀前司入道宗分（花押）

這兩帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説集以寫加之仍至此度遂三挍／之功而已／天正第八（庚辰）三月中旬五　任弄齋宗分五十八歳書之（花押）

兩冊弄花抄説書入之亦一挍了／天正拾壬午歳弥生中四　分子

（第六冊花宴巻）此一巻以冷泉宗清御奥書（御自筆御判）證本令挍合訖（元亀三卯十四）

（同葵巻）此一巻以冷泉民部卿入道宗清御奥書（御自筆御判）證本書写挍合畢（元亀三卯十九）

右花宴葵兩巻事以原中最秘抄類字源語抄千鳥加海殊宗碩講尺／聞書等讀合之引哥漢語已下書加之而已／元亀第四溽暑初七大庭加賀前司入道宗分（花押）

這兩帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説集以写加之仍至今度遂三／挍之功者也／天正八暦（庚辰）三月廿一日　任弄齋桃岳宗分五十八歳書之（花押）

（第七冊賢木巻）此一巻以冷泉民部卿入道宗清御奥書（御自筆御判）證本書／写挍合畢（元亀三卯廿四）

（同花散里巻）此一巻以冷泉宗清御奥書（御自筆御判）證本書写挍合畢（元亀三卯廿五）

右賢木花散里兩巻事以原中㝡秘鈔類字源語抄千鳥／加海殊宗碩講尺聞書等讀合之引哥漢語以下書加之而□／元亀四年六月十二日大庭加賀前司入道宗分（花押）

這兩帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説集以写加之仍到今度遂／三挍之功者也／于時天正第八暦（庚辰）三月盡日（花鳥兩本挍合之）（此七字朱書）　任弄齋宗分五十八歳書之（花押）

兩冊弄花抄之説書入之亦一挍了／天正拾壬午歳姑洗中旬七　分子

（第八冊須磨巻）此一巻以冷泉桑門宗清御奥書（御自筆御判）證本加一挍畢仍／落字并詞多類或書加或減之者也（元亀三卯廿八）

（同明石巻）此一巻以冷泉宗清御奥書（御自筆御判）證本挍合之畢（元亀三五三）

右須摩明石兩巻事新撰菟婆集作者内藤内藏助藤原／護道筆跡也而今盤以原中㝡秘鈔類字源語抄千鳥加海殊／宗碩講尺聞書等讀合之引哥漢語已下書加之而已／元亀四年六月十八日　大庭加賀前司入道宗分（花押）

這兩帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説集以写加之仍到今度／遂三挍之功者也／于時天正第八暦（庚辰）閏三月十一日（花鳥兩本挍合）（此六字朱書）　任弄齋宗分五十八歳書之（花押）

兩冊弄花抄之説書入之亦一挍訖／天正拾壬午歳桃浪廿日　分子

（第九冊澪標巻）右一巻以冷泉民部卿入道宗清御奥書（御自筆御判）證本書写挍合／畢（元亀三五八）

（同蓬生巻）此一巻新撰菟玖婆集作者内藤内藏助護道筆跡也而以冷泉宗清／御奥書（御自筆御判）證本令挍合之訖（元亀三五十三）

右澪標蓬生兩巻事以原中㝡秘鈔類字源語抄千鳥加海／殊宗碩講尺聞書等讀合之引哥漢語以下書加之而已／于時元亀四年晩夏廿六日大庭加賀前司入道宗分（花押）

這兩帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説集以写加之仍到今度／遂三挍功者也／天正第八暦（庚辰）閏三月十八日　任弄齋宗分五十八歳書之（花押）

兩冊弄花抄之説書入之又一挍畢／天正拾壬午歳楡雨下旬貳　分子

（第十冊關屋巻）此一巻以冷泉宗清御奥書（御自筆御判）證本書写挍合了（元亀三五ノ十五）

（同繪合巻）此一巻以冷泉入道宗清御奥書（御自筆御判）證本加挍合了（元亀三五ノ十八）

（同松風巻）此一冊以冷泉民部卿入道宗清御奥書（御自筆御判）證本書／写挍合畢（元亀三五廿）

右關屋繪合松風三巻事以原中㝡秘鈔類字源語抄千鳥／加海殊宗碩講尺聞書等讀合之引哥漢語以下書加之而已／元亀四暦初秋二日大庭加賀前司入道宗分（花押）

這兩三帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説集以写加之仍到今度／遂三挍功者也／

于時天正八年庚辰閏三月廿七日　任弄齋宗分五十八歲書之（花押）
兩三冊弄花抄說書入之亦一挍畢／天正拾壬午歲晩春下旬三　分子
（第十一冊薄雲卷）此一卷冷泉宗清御奧書御自筆御判證本加挍合畢元亀三五廿二
（同樒卷）此一卷以冷泉宗清御奧書御自筆御判證本挍合畢元亀三五廿三
右薄雲樒兩卷事新撰菟玖波集作者內藤內藏助藤原／護道筆跡也而今盤以原中寂秘鈔類字源語抄千鳥加海殊／宗碩講尺聞書等讀合之引哥漢語已下書加之而已／于時元亀四年七月十日　大庭加賀前司入道宗分（花押）
這兩帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸說集以写加之仍到今度遂三挍之／功者也／
天正八年庚辰閏三月晦日　任弄齋宗分五十八歲書之（花押）
兩冊弄花抄說書之亦一挍了／天正拾壬午歲季春下旬五　分子
（第十二冊乙女卷）此一卷於雲劦錯亂之節求出之句切朱書等自元在之／而今盤以冷泉宗清御奧書御自筆御判證本加一挍之以墨書加之分／并朱點ヿ以墨滅之所正本也朱點之墨書者異本也元亀三五廿五
右以原中寂秘抄類字源語抄千鳥加海殊宗碩講尺聞書等／讀合之引哥漢語以下書加之而已句切朱書等當流註聊無相違之（此二行朱書）／元亀四曆七月十七日　大庭加賀前司入道宗分（花押）
這一帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸說集以写加之仍到今度遂三挍之／功者也／
于時天正八年庚辰首夏初五　任弄齋宗分五十八歲書之（花押）
弄花抄之說書入之又一挍了／天正拾壬午歲三月尽日　分子
（第十三冊玉鬘卷）此一卷以冷泉入道宗清御奧書御自筆御判證本書写一挍畢元亀三五廿七
（同初音卷）此一卷新撰菟玖波集作者藤原護道筆跡也而今盤以冷泉宗清／御奧書御自筆御判證本加挍合畢元亀三五廿九
右玉鬘初子両卷事以原中寂秘鈔類字源語抄千鳥加海／殊宗碩講尺聞書等讀合之引哥漢語以下書加之而已／元亀四曆夷則下旬三日　大庭加賀前司入道宗分（花押）
這兩帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸說集以写加之仍到今度遂三挍之功／者也／
于時天正八年庚辰卯月十日　任弄齋桃岳宗分五十八歲書之（花押）
兩冊弄花抄說書入又一挍了／天正拾壬午歲初夏二日　分子
（第十四冊胡蝶卷）此一卷以冷泉民部卿入道宗清御奧書御自筆御判證本書写挍合／畢元亀三六朔
（同螢卷）此一卷以冷泉宗清御奧書御自筆御判證本書写挍合訖元亀三六三
（同常夏卷）此一卷以冷泉宗清御奧書御自筆御判證本書写挍合畢元亀三六四
右胡蝶螢常夏三卷事以原中寂秘鈔類字源語抄千鳥／加海殊宗碩講尺聞書等讀合之引哥漢語以下書加之而已／于時元亀四年七月晦日　大庭加賀前司入道宗分（花押）
這三帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸說集以写加之仍到今度遂三挍之／功者也／
天正第八庚辰清和廿日　任弄齋宗分五十八歲書之（花押）
三冊弄花抄之說書入之亦一挍畢／天正拾壬午歲首夏上三　分子
（第十五冊篝火卷）此一卷以冷泉宗清御奧書御自筆御判證本書写挍合畢元亀三六六
（同野分卷）此一卷以冷泉宗清入道御奧書御自筆御判證本書／写挍合畢元亀三六七
（同御幸卷）此一冊以冷泉宗清御奧書御自筆御判證本書写一／挍畢元亀三六ノ九
（同藤袴卷）此一卷以冷泉宗清御奧書御自筆御判證本書写一挍畢元亀三六十
右從篝火至蘭四帖事以原中寂秘鈔類字源語抄千鳥加海殊／宗碩講尺聞書等讀合之引哥漢語以下書加之而已／于時元亀四年八月八日　大庭加賀前司入道宗分（花押）
這四帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸說集以写加之仍到今度／遂三挍之功者也／
天正八曆庚辰清和下旬五　任弄齋宗分五十八歲書之（花押）
四冊弄花抄之說書入之亦一挍畢／天正拾壬午歲卯月五日　分子
（第十六冊槇柱卷）此一卷以冷泉宗清御奧書御自筆御判證本加挍合畢元亀三六十一
（同梅枝卷）此一卷以冷泉宗清御奧書御自筆御判證本挍合畢元亀三六ノ十三
（同藤裏葉卷）此一卷以冷泉宗清御奧書御自筆御判證本加一挍畢元亀三六十五
右從真木柱至藤裏葉三卷事以原中寂秘鈔類字源語／抄千鳥加海殊宗碩講尺聞書等讀合之引哥漢語以下書加之而已／元亀第四八月十五日　大庭加賀前司入道宗分（花押）
這三帖之事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸說集以写加之仍至／今度遂三挍之功者也／于時天正八曆庚辰端午日　任弄齋宗分五十八歲書之（花押）
三冊弄花抄之說書入之亦一挍了／天正拾壬午歲孟夏七　分子
（第十七冊若菜上卷）二挍畢／又一挍畢（此七字朱書）
此一卷以冷泉宗清御奧書御自筆御判證本加挍合落書等書入之／但朱書句切等自元在之元亀三六廿一
右以源中寂秘鈔類字源語抄千鳥加海并宗碩講尺聞書等／讀合之引哥同漢語書加之而已／元亀四曆□呂廿五日　大庭加賀前司入道宗分（花押）
這一帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸說集以写加之仍／到今度遂三挍之功者也／于時天正八年庚辰五月十四日　任弄齋宗分比丘五十八歲書之（花押）
弄花抄之說書入之亦一挍畢／天正拾壬午歲清和十一日　分子
（第十八冊若菜下卷）此一卷以冷泉宗清御奧書御自筆御判證本書写之／挍合畢元亀三六廿七

右以原中宸秘抄類字源語鈔千鳥加海并宗碩法師講尺聞書等／讀合之引哥同漢語以下書加之而已／于時元亀第四暮秋五日　大庭加賀前司入道宗分（花押）

這一帖之事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説集以写加之仍至／今度遂三挍之功者也／天正八曆上章執除仲夏下旬二日　任弄齋桃岳宗分五十八歲書之（花押）

弄花抄説書入之又一挍了／天正拾壬午歲中呂中旬五　分子

（第十九冊柏木巻）此一帖以冷泉入道宗清御奥書御自筆御判證本書写一挍訖元亀三六廿九

（同横笛巻）此一帖以冷泉民部卿入道宗清御奥書御自筆御判證本書写／挍合畢元亀三七朔

（同鈴虫巻）此一巻於雲芬錯乱之節求出之句切朱書等自元在之而今盤以冷泉／宗清御奥書御自筆御判證本加一挍之餘所以墨滅之不足所同書入之訖／元亀三七二／句切朱書筆者永運法師眞跡也（此二行朱書）

右柏木横笛鈴虫三巻事以原中宸秘鈔類字源語抄千鳥加海／殊宗碩講尺聞書等讀合之引哥漢語以下書加之而已／元亀第四暦菊月三日　大庭加賀前司入道宗分（花押）

這三帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説集以写加之仍至今／度遂三挍之功者也／于時天正八年庚辰梅月下旬六　任弄齋宗分五十八歲書之（花押）

三冊弄花抄説書入之亦一挍了／天正拾壬午歲四月廿六日　分子

（第二十冊夕霧巻）此一巻以冷泉宗清御奥書御自筆御判證本令挍合畢元亀三七五

右一帖事新撰菟玖波集作者内藤内藏助藤原護道筆／跡也而今盤以原中宸秘鈔類字源語抄千鳥加海殊宗碩講／尺聞書等讀合之引哥漢語以下書加之而已／元亀第四暦無射下旬三日　大庭加賀前司入道宗分（花押）

這一軸事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説集以写加之仍至今度遂／三挍之功者也／于時天正八年庚辰五月晦日　任弄齋桃岳宗分五十八歲書之（花押）

弄花抄説書入亦一挍畢／天正拾壬午歲仲夏朔　分子

（第二十一冊御法巻）此一巻以冷泉宗清御奥書御自筆御判證本加書写挍合訖元亀三七六

（同幻巻）此一巻者新撰菟玖波集作者藤原護道筆跡也而今盤以冷泉／宗清御奥書御自筆御判證本加挍合畢元亀三七／七

此一部の挍合けふはまほろしの巻に見なし／侍るも折からことにと覚て巻の詞をかりて手向奉／りし　沙弥宗分上

七夕にけふはかすとや荻の葉の／風の音さへたゝならぬ空

（同匂宮巻）此一巻以冷泉入道宗清御奥書御自筆御判證本書写挍合訖／元亀三七／八

右自御法至匂兵部卿四巻之事以原中宸秘鈔類字源語抄／千鳥加海殊宗碩講尺聞書等讀合之引哥漢語已下書加之而已／元亀四暦九月盡日　大庭加賀前司入道宗分

（花押）

這四帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説集以写加之仍到今度／遂三挍之功者也／于時天正第八庚辰歲六月上旬四日　任弄齋宗分五十八歲書之（花押）

四冊弄花抄之説書入又一挍了／天正拾壬午歲莚賓初八　分子

兩巻弄花抄之説書入之亦一挍畢／天正拾壬午歲季春中旬六　分子

（第二十二冊紅梅巻）此一巻以冷泉宗清御奥書御自筆御判證本挍合畢元亀三七九

（同竹川巻）此一巻以民部卿入道宗清御奥書御自筆御判證本挍合畢元亀三七十二

右紅梅竹川兩巻事以原中宸秘鈔類字源説抄千鳥加海殊宗碩講尺／聞書等讀合之引哥漢語以下書加之而已／于時天正改元初冬上旬六　大庭加賀前司入道宗分（花押）

這兩帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説集以写加之仍至今度遂／三挍之功者也／天正八年庚辰六月九日　任弄齋桃岳宗分五十八歲書之（花押）

兩冊弄花抄説書入亦一挍了／天正拾壬午歲星火十三日　分子

（第二十三冊橋姫巻）此一巻以定家卿青表紙本一挍了

此一帖以冷泉宗清御奥書御自筆御判證本挍合畢元亀四二廿五

（同椎本巻）此一巻以冷泉入道宗清御奥書御自筆御判證本挍合畢元亀四三五

右橋姫椎ヵ本兩巻事以原中宸秘鈔類字源語抄千鳥／加海殊者宗碩講尺聞書等讀合之引哥漢語以下書加之而已／天正元年十月十五日　大庭加賀前司入道宗分（花押）

這兩帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説集以写加之仍至今度遂三／挍之功者也／于時天正第八暦庚辰林鐘十六日　任弄齋宗分五十八歲書之（花押）

兩冊弄花鈔説書入亦一挍畢／天正拾壬午歲薫風廿五　分子

（第二十四冊總角巻）此一巻以冷泉民部卿入道宗清御奥書御自筆御判／證本挍合畢元亀四三十八

右以原中宸秘抄類字源語鈔千鳥加海殊宗碩講尺聞書等讀／合之引哥漢語已下書加之而已／天正元年小春下旬一日　大庭加賀前司入道宗分（花押）

這一帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説集以写加之仍至今度遂／三挍之功者也／于時天正第八暦庚辰六月廿一日　任弄齋宗分五十八歲書之（花押）

弄花抄説書入之又一挍訖／天正拾壬午歲季夏廿日　分子

（第二十五冊早蕨巻）此本可為證本者也　招月叟正徹在判

右以正徹自筆本青表紙本挍合之一字不違書写挍合了

右以冷泉民部卿入道宗清御奥書證本御自筆御判加挍合畢元亀四三廿三

右以原中宸秘鈔類字源語抄千鳥加海殊宗碩講尺聞書等讀／合之引哥漢語以下書加之而已／于時天正元年神無月廿三日　大庭加賀前司入道宗分（花押）

這一帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説集以写加之仍至今度遂／三校之功者也／
天正第八暦庚辰温風下旬二日　任弄齋桃岳宗分五十八歳書之（花押）
弄花抄説書入之亦一校畢／天正拾壬午歳夷則廿三　分子
（第二十六冊宿木巻）此一巻新撰菟玖波集作者内藤内藏助藤原／護道筆跡也而今盤以冷泉民部卿入道宗清御奥書御自筆御判／證本加一校畢元亀四三廿七
右以原中寛秘鈔類字源語抄千鳥加海殊宗碩講尺聞書等／讀合之／引哥漢語以下書加之而已／天正元年仲冬十五日　大庭加賀前司入道宗分（花押）
這一帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説集以写加之仍至今度遂三校之功／者也／
天正第八暦上章執徐季夏下旬八日　任弄齋桃岳宗分五十八歳書之（花押）
弄花抄説書入之又一校了／天正十壬午歳南呂初二　分子
（第二十七冊東屋巻）此本一爲證本者也／招月叟正徹在判
右以正徹自筆本青表紙本校合之書写校／合畢句切自元／永祿十一年正月廿一日　加賀守賢兼（花押）
此一巻以冷泉宗清御奥書（ママ）御自筆御判證本加一校者也元亀四三晦
右以原中寛秘鈔類字源語抄千鳥加海殊宗碩講尺聞書等／讀合之引哥漢語以下書加之而已／天正元歳十一月下旬二日　大庭加賀前司入道宗分（花押）
這一帖事河海抄花鳥餘情一葉抄諸説集以写加之仍至今度／遂三校之功者也／于時第八暦庚辰七夕日　任弄齋宗分五十八歳書之（花押）
弄花抄説書入之亦一校了／天正拾壬午歳仲秋上旬八　分子
（第二十八冊浮舟巻）此一巻以冷泉宗清御自筆御判證本令校合訖元亀四卯九
右以原中寛秘抄類字源語鈔千鳥加海殊宗碩講尺聞書等讀合之／引哥漢語以下書加之而已／天正元年霜月廿九日　大庭加賀前司入道宗分（花押）
這一帖之事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説集以加写之仍至／今度遂三校之功者也／于時天正第八暦庚辰歳早秋十八日　任弄齋宗分五十八歳書之（花押）
弄花抄説書入之亦一校畢／天正拾壬午歳八月十五日　分子
（第二十九冊蜻蛉巻）一校了
此一巻於雲孫錯乱之節求出之句切朱書等自元在之而今盤以／冷泉宗清御奥書御自筆證本加一校之餘取以墨滅之不足／所同書入之訖元亀四卯十二
右以原中寛秘抄類字源語鈔千鳥加海殊宗碩講尺聞書等／讀合之引哥漢語以下書加之而已句切朱書筆當流註聊無相違者也朱書筆者永運法師眞跡也（此二行朱書）／天正元年臘月鬼宿日　大庭加賀前司入道宗分（花押）
這一帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説集以写加之仍至／今度遂三校之功者也／
于時天正第八暦庚辰文月廿五日　任弄齋宗分五十八歳書之（花押）
弄花鈔説書入之又一校了／天正拾壬午歳献裘下旬二　分子
（第三十冊手習巻）此一帖以冷泉民部卿入道宗清御奥書御自筆御判證本書写校合訖／元亀四卯十六
右以原中寛秘鈔類字源語抄千鳥加海殊宗碩法師講尺聞書／等讀合之引哥漢語以下書加之而已／天正元年十二月廿一日　大庭加賀前司入道宗分（花押）
這一帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説集以写加之仍至今／度遂三校之功者也／
于時天正第八暦庚辰南呂上八日　任弄齋桃岳宗分五十八歳書之（花押）
（第三十冊夢浮橋巻）此物語一部拾諸家分散之本帶右御奥書／證本自去年二月朔日至今日元亀四暦卯月／十八日校合成就畢仍以夢浮橋并詞汚楮／尾尓云／色〻の花も／むかしの夢／路とは／青葉の山にむかひてそ／みる／桑門宗分上
右以原中最秘鈔類字源語抄千鳥加海殊去永正十三年／度於防刕山口縣陶安房守弘詮宅所宗碩法師講尺聞書／等自去五月朔日至今日讀合之引哥漢語以下書加之／而已／于時天正元年大呂廿四日終之　大庭加賀前司入道宗分（花押）
這一帖事河海抄花鳥餘情一葉抄之諸説集以写加之仍到今度／遂全部三校之功者也／天正八年庚辰八月十五日　任弄齋桃岳宗分居士五十八歳書之（花押）
兩冊弄花抄説書入亦一校一部成就畢／天正拾壬午歳葉月下旬七　分子六十歳（花押）
（原に第一冊桐壺巻「去正應四年之比此物語一部以家本不違一／字所撰也於此巻者含兄慶雖法眼筆也／可為證本乎／通議大夫藤為相判」「以多本雖校合猶青表紙正本定家卿本也　不審／之處為相卿正應之比以青表紙書写之本出／来之間加一校之處此本一字不違彼校本桐壺／夢浮橋兩帖為相卿自筆奥至判形等／如此則注前之畢于今弥定正本若違此／本者非彼定家本不用之者也」「此一帖七十九歳以盲目染筆者也／長祿三年四月廿五日／休止叟正徹判」と奥書あるものの寫　第三十冊夢浮橋巻「冷泉民部卿爲廣入道御自筆御奥書之右本者依民部少輔多〻良興豊懇望／不顧老筆卒終功訖／于時永正十三年林鐘中澣日／桑門宗清御判」以下校合に使用せる各本の奥書を移寫す　夢浮橋巻に定家本奥書及び若紫巻に定家奥入を移注す　九三・三六―一四七）

源氏物語　寫　五十四巻　五十四冊　三三七

紫式部著　政雄筆　袋綴　茶色表紙　用紙薄様　二七糎二〇糎　十行　題簽中央
金泥下畫水色布目「きりつほ（―各巻名）」　内題なし

奥書　寛文壬子夏閏六月望染毫於東ノ武本荘間暇几下或於播州有ノ馬郡温湯之郷或於我采邑西ノ播神崎郡粟加荘今年延寶乙卯ノ於本荘之家筆功畢矣苟九仞ノ之山千里之歩進則吾往也都若ノ干巻是則換宴安博奕之俗ノ習具翰墨筆法之稽古聊爲ノ閑靖之一慰者也且非當貽厥ノ吾家之幣帚者多孫子以此爲ノ想像之思有親其親而孝敬ノ之志則庶乎禰我志者也竟爲ノ之跋ノ延寶三暦乙卯ノ九月十五日　政雄（花押）

（青表紙本　九二三・三六―七三九）

源氏物語　寫　二巻　二冊　闕　三三八

紫式部著　袋綴　共表紙　二三・五糎一八糎　九行　題簽中央「四　紅葉の賀七」「十二　ゑあハせ十七」　内題なし、「桃園文庫（紙票）」

（河内本　室町時代中期寫　紅葉賀・繪合の兩巻を存す　二書同筆　原に紅葉賀巻「以親行本不違文字筆之挍合之次切句ノ者也　藤原朝臣御判」「本云一見之次注首書之」、繪合巻「本云申出禁裏御本書寫之但此巻ノ相懸行能卿類本假名文字等雖ノ不普通先不懸本加書寫者也ノ博陸老臣御判」と奥書あるものの寫　江戸時代初期筆弄花抄休聞抄紹巴抄等を引きて朱點墨傍注附箋等多し　九二三・三六―七三九）

源氏物語　寫　二巻　一冊　闕　三三九

紫式部著　綴葉裝　黑地飛雲織文表紙　見返毘沙門格子押文金紙　用紙鳥の子　一九糎一九糎　十一行　四十一丁　題簽左肩銀切箔散後筆「山崎宗鑑筆はつねの巻」　内題なし、「桃園文庫（紙票）」

（青表紙本　室町時代末期寫　初音・箒木兩巻を収む　巻初（初音巻）「あま君も／物哀なるけはひにてかゝる」まで存して後闕、箒木巻前闕「（うち拂ふ袖も露けくとこ）夏にあらし吹そふ秋もき／にけりとはかなけにいひなして」至「いとわりなきをおほすにいとむね／いたしおくの中將もいてきて」を存して前後闕「山崎住宗鑑」とある古筆極札を貼附す　九二三・三六―七三五）

源氏物語　寫　五十四巻　五十四冊　三三〇

紫式部著　傳津守國冬等筆　綴葉裝　改裝後補桝目花鳥織文色替表紙　見返金銀切箔散　用紙鳥の子等　一六・五糎一六・五糎　十一行　題簽中央亀甲文薄藍臘箋「きりつぼ一（―夢のうき橋五十四）」　内題なし

識語　（桐壺巻）是見人ゝ南無阿彌陀佛十遍

（榊・榊・乙女・玉蔓・若菜上・柏木・鈴虫・匂兵部卿宮各巻）南無阿弥陀佛十遍

（混合本　鎌倉時代末期至室町時代末期寄合書　各冊に古筆極札を貼附す　別に「源氏物語筆者目録ノ津守國冬　ノ桐壺　箒木　榊ノ榊　乙女　玉蔓ノ若菜上　柏木　鈴虫ノ夕霧　匂宮　竹川ノ春日社家祐範　ノ空蟬　横笛　幻ノ紅梅ノ日比正廣ノ夕貝　花宴　繪合ノ箒火　寄生ノ妙法院殿常胤　ノ若紫ノ飛鳥井頼孝卿　ノ末摘花　關屋　藤裏葉ノ御法　夢浮橋　若菜下ノ柳原殿淳光卿　ノ紅葉賀　野分　早蕨ノ飛鳥井雅綱　ノ葵ノ明石ノ八幡山空雅師　ノ花散里　常夏　梅枝ノ東屋　浮舟　蜻蛉ノ西洞院殿時慶卿　ノ須磨　橋姫ノ鳥居小路經厚卿　ノ冷標　蓬生　松風ノ薄雲ノ徹書記門弟正般　ノ初音　胡蝶　螢ノ和劭釜口榮暁　ノ眞木柱ノ飛鳥井雅教卿　ノ御幸　手習ノ甘露寺殿伊長卿　ノ蘭　椎木ノ和州十市郡遠忠ノ總角」との「源氏物語筆者目録」を附す　東屋巻は原に「あつまやのほとなかるへきちきりゆへノ袖ぬらせとのあまそゝきかな／耕雲山人題」と跋歌あるものの寫　池田龜鑑著「源氏物語大成」―参照　九二三・三六―七三九）

源氏物語　寫　五十四巻　五十四冊　三三一

紫式部著　袋綴　縹色表紙　二四糎一九糎　九行　題簽中央「（各巻名）」　内題なし

奥書　（御幸巻）一校了

（青表紙本　室町時代末期寫　交筆　挍異等書入多し「源氏物語筆者／甘露寺親長卿／（同書人）牡丹花肖柏／（箱ケントン蓋源氏物語ノ四字引出シ何冊ノ印とも）／佐川田喜六昌俊／各眞蹟也／明治十八年八月　榮中（花押）」とある折紙を添ふ　九二三・三六―七三三）

源氏物語　寫　五十四巻　五十四冊　三三二

紫式部著　傳牡丹花肖柏筆　綴葉裝　色替絹表紙　見返布目金砂子散　用紙薄様十行　題簽中央丹紙「（各巻名）」　内題なし、「紅梅文庫」「桃園文庫（紙票）」

（青表紙本　室町時代末期寫　「源氏物語　全部／外題曼珠院良恕親王／牡丹花肖柏眞蹟／無疑者也／天明六年初春上旬　古筆了意（印）」とある折紙を添ふ　池田龜鑑

著「源氏物語大成」—參照 九二三・三六—イ三三五）

源氏物語 寫 五十一卷 五十一冊 闕 二三三

紫式部著 綴葉裝 金銀泥下畫薄青表紙 用紙鳥の子 十行 二三糎一七糎 題簽左肩金銀泥下畫丹水色等色替「（各卷名）」 內題なし、「海北」

（青表紙本 江戶時代初期寫 交筆 桐壺・橅・御幸の三卷闕 所々紹巴抄等を以て別筆傍注を加ふ 九二三・三六—イ三四三）

源氏物語 寫 五十四卷 五十四冊 二三四

紫式部著 綴葉裝 金銀泥各種下畫雲紙表紙 一六糎一二糎 十行 題簽中央色替臘箋「（各卷名）」 內題なし

（河內本 但し蓬生卷・松風卷等青表紙本 室町時代末期寫 「源氏物語全部五拾四」帖者近衛殿政家公花翰」外題中院殿素然墨痕」昭々焉尤席上之珍也」或人請余證其眞是雖」非余之所任而懇情豈」可峻拒乎因記之以應」其需云」萬治四年」夾鐘上旬 畠山牛庵」隨世（印）」「源氏五十四帖」近衛政家御筆」表紙繪土佐光信」外題何茂中院殿筆」添狀牛庵」とある折紙極札を添ふ 九二三・三六—イ三四九）

源氏物語 寫 五十四卷 五十四冊 二三五

紫式部著 朽葉色雲龍華文金襴表紙 見返唐草文押出布目金紙 用紙鳥の子 二二・五糎一六糎 十行 挿畫各卷概ね數頁分 題簽左肩金泥雲紙「（各卷名）」 內題なし

（青表紙本 奈良繪本 江戶時代初期寫 交筆 九二三・三六—イ三六一）

源氏物語 寫 五十四卷 五十四冊 二三六

紫式部著 綴葉裝 紺表紙 用紙鳥の子 二五糎一八糎 十行 題簽左肩金泥下畫「（各卷名）」 內題なし

（青表紙本 江戶時代初期寫 九二三・三六—イ三五五）

源氏物語 寫 五十四卷 五十四冊 二三七

紫式部著 綴葉裝 菊唐草織文茶色金襴表紙 見返銀切箔散 用紙薄樣 二三糎一六糎 十行 題簽中央金泥橫雲丹紙「（各卷名）」 內題なし

（青表紙本 室町時代末期寫 「近衛殿尚通公源氏物語全部」との古筆琴山極札を貼附 九二三・三六—イ三六九）

源氏物語 寫 二卷 一冊 闕 二三八

紫式部著 金銀泥下畫紫表紙 見返金銀切箔散 用紙鳥の子 一六・五糎一六糎 十一行 墨付七十一丁 內題なし、「青木印（紙票）」

識語 （藤原長親筆）ほのかにもミるへき花のあさかほを」いかにへたつるきりのまかきそ」畊雲山人（花押）

（扉見返）（室町時代筆）表紙ニ雲ヲ月出カ、リタル躰アリ下ニ藤ハカマ」ス、キアリ

（櫨卷初右同筆）表帋」アサカホアリ

（別本 耕雲本 鎌倉時代中期寫 薄雲・朝顏の兩卷所收「薄雲御子左亞槐爲氏卿奥和歌一首耕雲軒明魏」との古筆極札あり 箱書に「薄雲」朝顏」本文御子左大納言爲氏卿筆」奥書一首花山院右大將長親卿筆」と朱書 畊雲筆による校合多し 池田龜鑑著「源氏物語大成」—參照 九二三・三六—イ三七五）（重美）

源氏物語 附雲隱六帖 寫 五十四卷附六卷 六十冊 二三九

紫式部著 高坂松陰筆 綴葉裝 菱網目織文緣表紙 見返金銀切箔散 用紙鳥の子 十行 內題なし、「桃園文庫（紙票）」

奥書 （夢浮橋卷）右源氏物語五十四冊」官暇書寫之早」元祿五壬申五月十八日」高坂氏松陰（印）

（原に第六十冊「雲隱六冊光源氏物語全部者也雖然」紫式部准史記評林觀音寶殿奉」納之誠菩薩之秘本當寺重物也」於淺漏之式部心性閑却者也末代之」住寺秘之寶之後住之戒語而已」庚平元戊戌歷正月日 石山寺住持大僧都信舜」「下官有祈願參籠石山寺滿六日曉」有靈夢替祈願給此六冊則於」寶殿讀之光源氏物語之始終全」詳之深哉ミミ妙詞徹骨髓予復」秘之奉納清水寺寶藏者也」元應元年九月二日」正二位權中納言藤原親兼」と奥書あるものの寫 別に第五十四冊末六月七日附宗齋宛高坂伊左衛門書翰一通を添附す 九二三・三六—イ三七七）

源氏物語朝顔巻　寫　一冊　二三二〇

紫式部著　綴葉裝　飛雲鳥織文繧色表紙　見返金銀砂横雲紙　一七糎一五・五糎　十行　三十丁　題簽中央雲母引金泥下書「源氏朝顔巻全」　内題なし、「青木印（紙票）」「桃園文庫（紙票）」

箱書　朝顔巻　一冊全／住吉津守國冬筆／外題薮少將殿

（青表紙本　南北朝時代初期寫　奥に「住吉神主津守國冬（住吉神社文庫）一冊」との古筆極札を貼附す　池田龜鑑著「源氏物語大成」一參照　九二三・三六―イ一三）

源氏物語東屋巻　寫　一冊　二三二一

紫式部著　綴葉裝　雲龍寶珠鳳凰亀甲等織文水色金襴表紙　見返金銀菊小文横雲用紙鳥の子　一七糎一七糎　十行　九十七丁　内題なし、「桃園文庫（紙票）」

（青表紙本　鎌倉時代中期寫　略々同時代朱筆にて傍注する所多し　箱表附箋「二條家□卿」とあり　「二條家爲氏卿あつまや一帖」との古筆琴山極札を附す　九二三・三六―イ一九七）

源氏物語浮舟巻　寫　一冊　二三二二

紫式部著　綴葉裝　共表紙　用紙薄雲母引鳥の子　一七・五糎一七糎　十一行　二十五丁（第九丁白紙）　外題中央後筆「浮舟」　内題なし

識語　（表紙左肩）（外題同筆）爲冬朝臣／黒附廿五枚

（河内本　南北朝時代初期寫　前闕「女もぬきすてさせ給てしかハほそやかなる」以下を存す　九二三・三六―七三）

源氏物語薄雲巻　寫　一冊　二三二三

紫式部著　綴葉裝　金銀砂子横雲雲母引表紙　一六糎一六糎　九行　五十七丁

外題中央「十四　うすくも」　内題なし、「殘花書屋」

奥書　嘉元四年卯月十一日

（別本　「津守國冬（源氏うす雲ノ巻一冊」とある古筆極札を貼附す　九二三・三六―イ一九三）

源氏物語梅枝巻　寫　一軸　二三二四

紫式部著　甘露寺親長筆　巻子本　改裝紺表紙　見返金砂子散　用紙裏打雲母引二一・五糎四米四六糎　一紙二六・五糎　十六行　内題なし、「支艸藏書」

奥書　文明十一年五月六日染筆同十二日終／書寫之功但自八日至十一日懈怠／按察使藤原（花押）

（朱書）翌日加朱點　都護藤原親長

（河内本　巻首　前闕「ふきやよるへきなさけなくとみなうちわらひ給弁少將／かすみたに月と花とをへたてすはねくらのとりも／ほころひなまし」以下を存す　もと二一・五糎一三糎の冊子を現巻子本に改裝　九二三・三六―イ三一）

源氏物語繪合巻　寫　一冊　二三二五

紫式部著　綴葉裝　奈良繪表紙　用紙鳥の子　二五・五糎一七・五糎　九行　墨付二十丁　題簽左肩丹紙「ゑあはせ」　内題なし

識語　筆者／岩藏眞性院宣增中御門一品息

（河内本　室町時代末期寫　原に「なにとかはまことすくなき繪あはせの／そのかちまけをしゐてさためむ／畊雲山人明魏題」と跋歌あるものの寫　箱表書「源氏物語表紙繪／繪合之巻／土佐刑部大輔光信筆」「水萍處藏（紙票）」　同裏書「光信眞筆無疑者也／山名貫義誌（印）」とあり　九二三・三六―イ三三）

源氏物語乙女巻　寫　一冊　二三二六

紫式部著　傳二條院讃岐筆　綴葉裝　改裝後補魚波文薄水色金襴表紙　見返金切箔銀野毛散　用紙鳥の子　一五糎一五糎　十二行　四十八丁　原外題（改裝表紙の見返の内に原表紙を包む）「十六おとめ」　内題なし

（別本　鎌倉時代初期寫　「源三位頼政娘讃岐筆　源氏物語之内乙女の巻一冊」とある古筆極札を添ふ　池田龜鑑著「源氏物語大成」一參照　九二三・三六―イ三九）（重美）

源氏物語蜻蛉巻　寫　一冊　二三二七

紫式部著　綴葉裝　紺表紙　一五糎一五・五糎　十一行　六十六丁　題簽中央金

砂子散無記　内題なし、「桃園文庫(紙票)」
(別本　南北朝時代初期寫　見返に「蜻蛉二條家爲明卿かしこには人〳〵」とある古筆極札を貼附　九三・三六―一八三)

源氏物語柏木巻　寫　一冊　三三六

紫式部著　綴葉裝　金銀泥下畫墨流表紙　見返金銀泥野毛散　用紙雲母引鳥の子　一六・五糎一五・五糎　十一行　墨付五十四丁白紙七丁　外題中央「廿一　かしはき」　内題なし、「交野(紙票)」
(別本　鎌倉時代初期寫　「源三位頼政卿正筆」又「河内守隆親朝臣集二入源氏物語柏木之巻」とある古筆極札を添ふ　九三・三六―一三八九)

源氏物語柏木巻附狹衣巻二殘巻　寫　一軸　三三七

巻子本　改装後補菊唐花草文繧色金襴表紙　見返金銀泥市松模様金切箔野毛散用紙鳥の子　裏打銀砂子散　臺貼　一五糎三米二七糎　一紙約一五・五糎　原寸一五糎二米五〇糎　内題なし
(南北朝時代寫　柏木巻初行「すへりいてゝこしらうによろつにかたらひ」至末行「ゑほしはかりひきいれておきあからむとしたまへといとくるしけなりけふはよろこひとて心」を存す　巻初に「後醍醐天皇すへりいてゝ」とある古筆極札を貼附す　狹衣巻二初行「まとろむことなくこのころもおほしあかし給て」至末行「たゝの人〳〵たにめもくれまとふをましてあけくれなてつくろひたてまつりたるかひありてかはかりたくひあらしと見えさせ給へ」を存す　巻初に「さころも／花山院尹大納言師賢卿筆跡」とある古筆極札を貼附す　九三・三六―一六一)

源氏物語雲隱巻及附巻　寫　二冊　三三八

序　袋綴　金泥横雲下畫茶色表紙　見返金銀泥下畫　用紙薄様　二七・五糎二一糎　十行　題簽(第一冊)左肩金泥下畫「久母賀具禮」(第二冊)中央色紙金泥下畫「雲かくれ／すもり／さくら人／法の師／ひはり子／八はし」　右肩金砂子散後補「久母賀具禮附巻」　内題なし、「不秋草屋」「桃園文庫(紙票)」
識語　(第一冊巻初附箋)　康平元ゟ元應元迄／三百八年／元應元ゟ寛政十迄／四百八十三年／〆七百九十一年

(江戸時代初期寫　原に第一冊「雲隱六冊光源氏物語全部者也雖然紫／式部准史記評林　觀音寶殿奉納之／誠　菩薩之秘本當時重物也於淺漏之／式部心性閑却者也末代之住寺秘之／寶之後住之戒語而已／康平元戊戌曆正月日石山寺住持　大僧都信辨」「下官有祈願參籠石山寺滿六日曉有／靈夢替祈願給此六冊則於寶殿／讀之光源氏物語之始終全詳之深／哉〻〻妙詞微骨髓ゟ復秘之奉納／清水寺寶藏者也／元應元年九月二日／正二位權中納言藤原親兼」と奥書あるものの寫　九三・三六―一七二)

源氏物語末摘花巻　寫　一冊　三三九

紫式部著　傳藤原爲相筆　綴葉裝　雷文花模様金銀襴黒表紙　用紙鳥の子　一六・五糎一五・五糎　十行　墨付四十丁　内題なし
(青表紙本　鎌倉時代中期寫「爲相卿」との古筆琴山極札を貼附す　九三・三六―一三九一)　(重美)

源氏物語鈴虫巻　寫　一軸　三四〇

紫式部著　牡丹唐草織文白茶色表紙　見返金銀泥切箔野毛散金紙　用紙鳥の子　金銀切箔散裏打　三二糎六米七五糎　一紙四四糎　二十二行　題簽金銀切箔散後補「源氏鈴虫巻　俊成卿書」　内題なし
(河内本　鎌倉時代初期寫「中院禅門爲家卿夏ころはちすの」との古筆極札を添ふ　池田龜鑑著「源氏物語大成」―參照　九三・三六―一三九五)　(重美)

源氏物語野分巻　寫　一冊　三四一

紫式部著　綴葉裝　共表紙　用紙鳥の子　一六糎一五・五糎　十行　三十丁　題簽中央後補「野分」　外題左肩後筆「野分」　内題なし
識語　(表紙右肩)(外題同筆)為藤卿
(題簽書名右)墨付三十枚
(扉見返)かゝり火のつき
(裏表紙見返)為藤卿／野分／墨附三十枚
(青表紙本　鎌倉時代末期寫　九三・三六―一六三)

源氏物語野分巻　寫　一冊　二三四四

紫式部著　綴葉装　牡丹花蝶蟬織文黒茶色金襴表紙　見返金砂子野毛散雲紙　用紙鳥の子　一六・五糎一五・五糎　十一行　墨附二十一丁白紙六丁　題簽中央金銀泥下畫「野わき」　内題なし

箱書（裏附箋）享保六辛年五月十二日淨信院樣ゟ被進／御使久野

（青表紙本　鎌倉時代末期寫　「京極黄門定家卿野分巻」との古筆極札及び「源氏物語内野分／一帖／京極黄門定家卿／眞蹟無猶豫者也／金参拾五枚／元祿十年林鐘中旬古筆了仲（印）」とある折紙を附す　九二三・三六―イ三三）

源氏物語花散里巻　寫　一冊　二三四五

紫式部著　綴葉装　共表紙　用紙鳥の子　一九・五糎一四糎　八行　八丁　外題

中央「はなちる里」　内題なし、「賀茂三手文庫」「桃園文庫（紙票）」等

（青表紙本　南北朝時代寫　包紙表に「極札添／為明卿筆　紙數廿五枚／共拾冊改」とありて「為明卿」とある古筆極札貼附　池田龜鑑著「源氏物語大成」―参照　九二三・三六―イ二二）

源氏物語箒木巻　寫　一冊　二三四六

紫式部著　綴葉装　緑唐草華文薄卵色表紙　見返金切箔散　用紙斐紙　一六・五糎一七糎　十行　六十六丁　題簽中央金泥下畫後筆「箒木」　内題なし、「斑山文庫」

識語（扉左肩）白

（見返）昭和三年十一月明治節の日／之を求む梶井宮舊藏本／の一なり／斑山文庫主人識　／白ハ照高院道澄僧正ノ連歌ニ／用ヒタル名道澄ハ聖護院門／跡ニシテ九条稙通ノ男也

（別本　室町時代末期寫　朱點書入あり　九二三・三六―イ二九）

源氏物語箒木巻　寫　一冊　二三四七

紫式部著　綴葉装　菊花文緑色金襴表紙　見返金銀泥雲紙　用紙鳥の子　一七糎一五・五糎　十行　墨付六十六丁　題簽左肩後補金泥下畫「はゝき木」　内題なし

（青表紙本　鎌倉時代中期寫　朱句點を施す　「為家卿箒木一冊」との古筆極札を貼附す　九二三・三六―イ三九三）（重美）

源氏物語藤袴巻　寫　一冊　二三四八

紫式部著　綴葉装　菱花織小文濃緑表紙　見返金銀切箔散横雲紙　用紙雲母引鳥の子　一六・五糎一七糎　十一行　十九丁　題簽中央金銀切箔散無記　内題なし、「桃園文庫（紙票）」

（青表紙本　鎌倉時代中期寫　包紙に「古寫本／藤はかま　胡蝶一冊／慈鎮筆」とあり　池田龜鑑著「源氏物語大成」―参照　九二三・三六―イ七九）

源氏物語槇柱巻　寫　一冊　二三四九

紫式部著　綴葉装　格子小文朽葉色金襴表紙　見返金銀切箔野毛散　用紙鳥の子　一五糎一五・五糎　十一行　四十七丁　扉外題「ふちはかまのならひ／まきはしら」　内題なし

識語（箱裏書）于時天保年中求之／卯之花憂　室谷氏什物

（別本　鎌倉時代寫　九二三・三六―イ一八七）

源氏物語宿木巻殘簡　寫　一冊　二三五〇

紫式部著　綴葉装　唐草文麻地金襴表紙　見返銀紙　一六糎一六糎　十六行　九丁　題簽左肩後補「やとり木西行法師筆」　内題なし

（別本　鎌倉時代初期寫　初行「れなれはこのめしよせたる人」至末行「あつらひけるからにあいなくわつら」を存して前後闕　寄木之端本　「西行法師　正筆／元ハ故了仲元祿比之藏本也」とある「明治十二年／卯三月九日吟味濟」の一札を附す　池田龜鑑著「源氏物語大成」―参照　九二三・三六―イ九五）

源氏物語夕霧巻　寫　一冊　二三五一

紫式部著　綴葉装　改装後補唐草文雲母引薄水色表紙　見返金銀切箔散　用紙鳥

の子　一七・五糎一七糎　十一行　八十四丁　外題左肩後筆「ゆふきり」　内題なし、「加持井御文庫」

識語　（表紙右肩外題同筆）加持井宮御文庫本

（河内本　鎌倉時代末期寫　池田龜鑑著「源氏物語大成」—参照　九二三・三六—イ一八九）

源氏物語蓬生卷　寫　二軸　三三五三

紫式部著　巻子本　改裝後補亀甲花文繋鶯色表紙　見返金銀泥下畫切箔野毛散用紙鳥の子　裏打金銀切箔散　三〇・五糎　一紙四五糎　二十行　題簽金泥下畫雲紙「蓬生　卷上(下)」　内題なし

（河内本　鎌倉時代中期寫　もと冊子を現巻子本に改裝　上下巻異筆「源氏物語享保二酉曆初秋古筆了仲（印）」とある折紙、「為家卿もしほたれヨリしられす迄一紙／為相卿たちわかれヨリ終迄兩筆」等の古筆極札四枚を貼附　九二三・三六—イ三七七）（重美）

源氏物語打聞　寫　三冊　三三五二

北村季吟著　自筆　袋綴　改裝後補（第一・三冊）納戸色（第二冊）鐵色表紙　原裝共表紙　用紙裏打　二六糎一七・五糎　原寸二一・五糎一六糎　約二十二行　題簽左肩後補「（書名同）帚木（北村季吟自筆草稿・若菜・末摘花）」　原外題「さうしうち聞帚木二（さうし□三・さう紙うちきゝ若紫末摘花四）」　内題「（所収巻名）」、「矢野藏書」

奥書　（第一冊）墨付三十八枚裏紙共に

（第二冊）（空蟬）墨付七枚

（夕顔）墨付廿四枚

（箒木・空蟬夕顔・若菜末摘花の三冊五巻分を存す　九二三・三六—イ四五）

源氏物語繪卷　寫　二軸　闕　三三四四

巻子本　紺表紙　用紙薄様　一六糎　一紙四四糎　墨白描（上巻）十九面　（下巻）三十面　内題なし

識語　（別紙）源氏物語繪巻摹本二巻。第一巻は紅葉の／賀の後半より花の宴を經て葵の巻迄を。第二／巻には若菜の下より柏木横笛鈴虫夕霧迄／の五帖を描きて、巻々の歌を皆あげたり。原畫／摹本共に筆者明かならず。摹本は運筆／の軟弱なるよりいへば女性の所為にてそれも画工に／はあらざるへし。ただ此の写の古きと、これによりて／原畫を想見し得るを喜ぶへし。原畫ハ鎌倉の／世の中季よりやゝ後れたる頃に出でたりとおぼし。／考古畫譜に源氏圖巻の数ゝを列ねたれどそれが／うちにも此の繪巻に當つべきものは見えず。／此の繪巻の葵の巻の歌の次序やゝ違へり。古く／かゝる體の源氏物語のありしにや。また写のあや／まりにや。恐らく原畫にかくありしものなるべければ、／ともかうも記しおきて後人の為にす。／昭和四年三月一日　斑山文庫主人／高野辰之／しるす

（室町時代末期寫　繪に各巻所見の和歌を抄出　九二三・三六—イ五三）

源氏物語繪卷　寫　二軸　三三五五

巻子本　唐草織文山吹色表紙　見返銀砂子散　用紙裏打　三八糎　一紙二七糎　題簽無記

（江戸時代中期寫　摹本白描　間々淡彩を施し色取につき注記す　各巻圖一面詞書なし　九二三・三六—イ八一）

源氏物語繪卷　寫　一軸　三三五六

巻子本　亀甲唐草文繋紺金襴表紙　見返金銀砂切箔野毛散　用紙裏打　三〇糎九米一糎　彩色畫（若紫巻）四面　（末摘花）一面　題簽金紙「わかむらさきすゑつむはな」　内題なし

（青表紙本　若紫・末摘花巻各殘闕　鎌倉時代末期寫　「飛鳥井殿雅經卿源氏繪詞夕暮の書」とある古筆極札、別に「鷹司殿基忠公正筆ニ御座候／雅經卿極書御座候へ共全ニ／基忠公と奉存候　了意」とある古筆折紙を添ふ　ビブリア第十四號所収梅津次郎「天理本源氏物語繪巻について」—参照　九二三・三六—イ三五一）（重美）

源氏物語歌集　寫　一冊　三三七七

綴葉裝　二重菱小文綾薄納戸色表紙　見返布目金紙　二四糎一九・五糎　十行

九十一丁　内題なし、「桃園文庫（紙票）」
（室町時代中期寫　帙題簽に「源氏物語歌集古寫」とあり　九三・三六—イ一〇一）

源氏物語聞書　寫　五冊　二三五八

殿村安守著　自筆　袋假綴　共表紙　一七・五糎　一一・五糎　六至九行　外題中央「（書名同）」（第五冊）「光源氏物語聞書」　内題なし、「眞木園圖書記」
奥書　（第二冊裏表紙）寛政七歳七月作／九月吉辰添
（第三冊同）寛政七乙卯年／十月二日
（第四冊同）寛政七乙卯歳／十一月吉日
（第五冊同）寛政七歳／霜月吉日
識語　（箱附箋貼附）眞木園金子元臣大人舊儲／昭和二十一年一月於文行堂假宅／求焉　泉書屋主人陳（印）
（表紙右下に第一冊至第三冊「殿邑安守」、第四冊「鄧乃郵也素文里」、第五冊「登能村周表」と自署す　九三・三六—イ一九一）

源氏物語系圖　寫　一軸　二三五九

巻子本　華丸文繋鶯色金襴表紙　見返布目金紙　用紙雲母引鳥の子銀泥下畫　三〇・五糎一九米八〇糎　一紙四四糎　約十七行　内題なし
識語　（別紙繼紙）禁中様御樂人兩家也／仙丸御經師とも申也／大經師市兵衛（京からす丸四條下ル）寛文五年（合軸に）（上部）禁中様御樂人同仙丸之御經師也／弟子（下部）（二町めにしかわ）極月五日弟子大經師市兵衛作
箱書　源氏物語けいつ　一巻
（九三・三六—イ五七）

源氏物語系圖　寫　一軸　二三六〇

巻子本　改裝後補箔目華文繧色金襴表紙　見返金紙　用紙茶色染紙　裏打　三〇・五糎一四米七〇糎　一紙四五糎　内題なし
（正嘉本　室町時代末期寫　巻初闕　原に「書寫本傳此本以六條三品禪門自書本寫之即以嵯峨禪尼（後成卿女）秘本校之／重以或卿相本（京極入道中納言家本）校之其後所ゝ證本大躰數十巻見合之／加遺漏直訛謬剩一部披覽之次潤色旁足秘藏努勿許外見（和哥作者以朱合點了）」「正嘉二年夏以右證本終書功此後猶以家ゝ證本更遂度ゝ比校取捨潤色／斯内或貴所御本（京極黄門禪定所進也）不慮申出同冬比重見合之件御本雖略本／有被注付之旨以所ゝ相違文字之誤妄閑直付之早旁足指南莫出／因外非證系之人被付朱點／校合御本奥云彼御本被注之人給也／家ゝの本さま／〳〵ニ候これを秘本とすへしと存知候／あなかしこ御帳のほかへいたされ候ましく候在判」と奥書あるものの寫　九三・三六—イ五九）

源氏物語系圖　寫　一帖　二三六一

昭高院道澄筆　折本　緑色唐草文薄卵色表紙　用紙鳥の子　一二・五糎一七糎
二十三折　題簽中央書名同　内題なし、「加持井御文庫」「斑山文庫」
奥書　一校了
（題簽書名下に「白」と自署　原に「光源氏の物語系圖といふ物い／つれの代より出き誰人のしわ／さなりといふ事をしらす（中略）長享二のとし青陽／の三月これをしるしをハりぬ／朱印在之」とあるものの寫　九三・三六—イ五九）

源氏物語系圖　寫　一帖　二三六二

折本　毘沙門格子摺文緑表紙　一九・五糎一七糎　用紙鳥の子　十一行　十九丁
題簽中央書名同　内題なし、「紅梅文庫」
（室町時代末期寫　九三・三六—イ一〇九）

源氏物語系圖　寫　一冊　二三六三

綴葉装　菱花唐草縹色金襴表紙　見返金銀砂散横雲　用紙鳥の子　一四・五糎一九・五糎　十五行　三十八丁白紙二丁　後補包袋題簽金砂子散書名同　内題なし、「桃園文庫（紙票）」
（室町時代末期寫　「後土御門院勾當内侍（源氏系ロ）一冊」との古筆琴山極札を貼附　九三・三六—イ二八九）

源氏物語巨細　寫　一軸　二三六四

巻子本　花葉文鶯色金襴表紙　見返金砂子散　用紙雲母引紙　裏打　二七糎一七

米五〇糎　一紙四六糎　内題なし、「東」「國賢」「桃園文庫（紙票）」
箱書　（表）源氏物語巨細／姉小路基綱卿筆　一巻
（同附箋）文政十三寅年閏三月得ル
（同裏に古筆極書）姉小路權中納言基綱卿眞蹟／新萬玖波集作者細江漁叟ト云法名常心／永正元年閏四月廿三日於飛州薨六十四才
（室町時代末期寫　日本學士院紀要九巻二號所収池田龜鑑「源氏物語古系圖の成立とその本文資料的價値について」—参照　九二三・三六—イ七九）

〔源氏物語古注〕　寫　一冊　二三六五

袋綴　澁色表紙　二六・五糎二一糎　十三行　六十四丁　内題なし
識語　（表紙右下）育幻
（室町時代中期寫　巻末に「大永五年五月吉日」と落書せり　桐壺至藤裏葉巻迄を存す　原中最秘抄・河海抄等を引く　九二三・三六—イ三〇九）

源氏物語四孝注　寫　二冊　二三六六

袋綴　紺表紙　二四糎一八糎　八行　題簽左肩紅紙書名同（上冊闕）　内題なし、「海北」「毛利家（墨印）」「桃園文庫（紙票）」
（江戸時代初期寫　九二三・三六—イ一〇九）

源氏物語釋　寫　五十四巻　五十四冊　二三六七

中院通茂著　袋綴　雲紙表紙　二五・五糎一九糎　十行　題簽左肩「きりつほ子口秋御返」「はゝ木ゝ子之秋御返」「うつせミ墨朱直問時以朱答有与（以下各巻名）」「夢のうき橋卯秋返来」　第一冊右肩後補「源氏物語釈」　内題なし、「桃園文庫（紙票）」
識語　元祿四年三月二日發起丑年（朱書）再挍百日澄（朱書）／再答寅冬
□全部五十四冊重而自身可遂挍合／依延引先如此于時元祿八年季秋也
（九二三・三六—イ一三七）

源氏物語抄　寫　十冊　二三六八

袋綴　紺表紙　一四糎二〇五糎　十一行　題簽中央代赭色「（書名同）一（—十）」　内題「源氏物語抄私」、「宮重」「桃園文庫（紙票）」等
（室町時代末期寫　九二三・三六—イ八五）

〔源氏物語鈔〕　寫　五十一冊　闕　二三六九

袋綴　茶色表紙　二五糎二〇・五糎　九行　題簽左肩「（所収巻名）」　内題なし、「今出河藏書」
（室町時代末期寫　桐壺・箒木・少女・夢浮橋巻計四巻闕　九二三・三六—イ三五五）

源氏物語抄　寫　一冊　二三七〇

綴葉装　菱唐草織文朽葉色表紙　一七・五糎一七糎　用紙鳥の子　八行　墨付四十四丁白紙一丁　扉外題「源氏注」
奥書　永仁七年二月廿七日／以高水本書寫早
（高水本　ビブリア第十一號所収曽澤太吉「高水本源氏物語抄」—参照　九二三・三六—イ三七一）（重文）

源氏物語新釋　寫　五十四巻　五十四冊　二三七一

賀茂眞淵著　竹田通香筆　自跋　藍波文白表紙　二九糎二〇・五糎　八行　題簽左肩金砂子散「源氏物語　眞淵新釋（各巻名）」　内題「（各巻名）」
奥書（第一冊桐壺巻）文政三年庚辰七月十日書畢　竹田通香
（第四十七冊總角巻）よしある源氏の抄物ふるくよりひめ置／給へりしをあげまきやいづら行まぎれ／けむはやく此一巻闕侍りぬこゝにいとも／かしこけれど通香硯の海のこゝろあさく／筆のたちどのつたなきをさいつごろゆた／けくひろき　／御めぐみ蒙ることありて此物がたりを写し／侍るにいまは此巻なくてやはとしばし世の／常の本を写しもて此さうしのついでに／かずまへおくこハ白文などやうにしてやがて／書入すべきりやう也けり此ことをこゝの巻に／あげまきになが き契りをむすびこめてふ／哥のもとの心としあげまきやあげまきや／いづら行まぎれけんいかで其ありし一巻／得てしがな此かけたるを補はむおなじ所に／よりもあはなんとこそ／文政十二のとし己丑二月／竹田通香謹而誌す（印）／書入の全からん後ハ此むすぼゝれたるあげ／まきのことわり書

よいづちも〳〵かなぐり〳すて給へあなかしこ

（第五十三冊手習巻）此手ならひにハすべて新釈といふべき注なし〳たゞしもとハ釈したらむが引直せしはり紙を〳せざりけるにやかな文字のたがひ直せし少し〳ばかりハミゆ、されバまたく湖月抄なれバ、其儘に〳写し侍らんにハ今迄の例にたがふなれバ、くだ〳〵〳しきをのぞき聞えやすきをあげて、まつかき早りぬ、さてこゝに野田諸成てふものゝ、御蔵本〳もて写せし本といふをとり出て手習をミれバ、〳山のはの哥老尼の琴の段のあたりまでにて〳本文をなし、それ迄に新釈とミゆるが処ゝ〳ありて傍注ハ湖月とさのミたがハねど、それ〳も少しづゝの異同あれバ、今〇丸のしるしを〳もて野田の本の注とわかちて、まづ巻の〳なかば迄書入置のミ、猶後に補ふへき〳ものなり〳天保五年甲午六月　竹田通風

（第五十四冊夢浮橋巻）前略今の〳御代にいたりて、ひろき御いつくしみ、ゆたけき御〳まつりごとのいとまに、文このませ給ふあまり、〳百家の書なんどいふハさらなり、からのやまと〳の何くれとすてさせ給ハぬに、いはんや其のみ〳なしおかせ給ひしをや、此物がたりをも今一ト通り〳たゞひあらせまほしく、誰にか仰せてかゝさせ〳給はんと有つるころ、やつかれ通風、いとかしこ〳けれど、草ふす風の御めぐミにむら雀のもり〳はむ粟つぶのかずならぬ身にして、ざえミしかく〳筆のこゝろつたなきをさへかへりミず、此ことを〳のぞミ申て、たはやすく仰ごとかうふり、あら〳たに筆をとりそめしハ、文政の三のとし、さ月に〳なん、仕フまつりのいとま〳〵、此事に身をゆだねん〳とすれど、人の世にある、鬻は江のよしあし〳ながきミじかき、さハりおほかンなるを、只ひとへに〳君が八千代のかげにひかれて、とてもかくても〳とだえなく、おほくのとし月をわたりて、夢の〳うきはしたどりはてぬるハ、天保の五のとし〳なが月になむ〳竹田通風

（第四十七冊總角巻は本文のみ　九二三・三六―イ三六三）

源氏物語新釋總考　寫　一冊　二三七三

賀茂眞淵著　自筆　袋綴　雲母引濃緑表紙　間紙を挟む　二五糎一八・五糎　四周雙邊（刊）二一・五糎一六糎　十三行小雙行　十六丁　題簽左肩後補「眞淵大人著源氏物語」内題なし

識語（裏見返）賀茂眞淵自筆　南天荘秘藏

（巻末に「賀茂眞淵著」と自署　井上通泰著「南天荘墨寶」―参照　九二三・三六―イ三九七）

源氏物語鈴屋翁講説聞書　寫　一冊　二三七三

本居宣長講　袋綴　薄水色絹表紙　見返銀切箔散濃鼠色紙　二七糎二〇糎　十四行　百十三丁　題簽左肩後筆書名同　扉見返「源氏物語（桐壺帚木）鈴屋翁講説聞書」内題なし　柱心「（丁數）」

（江戸時代末期寫　桐壺・帚木の二巻所収　九二三・三六―イ三三）

〔源氏物語須磨巻和歌〕　寫　一軸　二三七四

巻子本　華唐草織文梔子色表紙　見返金紙　用紙雲紙　三二・五糎三米七八糎　一紙五〇糎　内題なし

（室町時代末期寫　一紙に一首散し書　九二三・三六―イ四九）

〔源氏物語注〕　寫　一冊　闕　二三七五

里村紹巴筆　袋綴　改装後補花菱文丹行成表紙　原装共表紙　二六糎二〇糎　十三行　十九丁　内題なし、「紅梅文庫」

（蓬生の巻末・關屋・繪合巻を存して前後闕　原表紙左肩「紹巴筆　墨附十九丁」とあり　九二三・三六―イ九一）

源氏物語提要　寫　十巻　十冊　二三七六

今川範政著　自序　自跋　綴葉装　亀甲繋織文白表紙　用紙鳥の子　二二・五糎一六糎　九行　題簽左肩金銀泥下畫書名同（第二・三・八冊以外闕）内題なし、「桃園文庫（紙票）」

（江戸時代初期寫　跋云「前略終に清書して提要〳愚用集と名付て彼友にあたへ侍りぬ下略」　古筆極札「源氏物語提要白川雅喬王正筆」を貼附　九二三・三六―イ二〇三）

源氏物語提要附系圖　寫　六巻系圖一巻　七冊　二三七七

今川範政著　橋本舎胤・東川容重交筆　永享四年八月十五日自跋　袋綴　毘沙門

格子地草花押出薄藍色表紙　(第四至六冊)藍色表紙　二七糎一八糎　十行　題簽左肩色替紙「(書名同)　壹(一—六)」　(第七冊)「源氏物語系圖」、「橋本潜印(墨印)」「津田」

奥書　(第一至三冊)寛政三辛亥歳仲夏於信州諏方寫之

(第四・五冊)寛政九丁巳年仲春於信州諏方寫之

(第六冊)右源氏物語提要者信州上諏方牛山氏ノ所持之本於以傳寫早ノ于時ノ寛政九丁巳年二月廿八日ノ執筆橋本舎胤(花押)ノ東川容重(花押)

(第七冊系圖)享和貳壬戌歳九月三日ノ橋本舎胤寫之

(九二三・三六—イ二〇五)

源氏物語答問　寫　一冊　三三七

綴葉裝　墨色表紙　一二・五糎一六・五糎　百二十九丁　外題左肩朱書「源氏物語」　扉題左肩「答問源氏物語」、「富永」

(江戸時代末期寫　内題の次行に「桐壺巻不審のこと葉をちゝ〳〵」とありて注を施す　又「源氏不審」とありて難語答問あり　答者に「芳久」「芳云」等ありて源註拾遺・玉小櫛等を引くことあり　九二三・三六—イ二六一)

源氏物語不審抄出　寫　一冊　三三八

飯尾宗祇著　袋綴　砥粉色表紙　二七糎一九・五糎　十一行　六十八丁白紙二丁、「風早文庫」「桃園文庫(紙票)」

(江戸時代初期寫　見返に「宗祇法師抄出」とあり　原に「此一冊宗祇法師抄出之所也命可一覧由ノ其後下向関東於相模國卒去尤可ノ歎而已ノかた見ともその世にいはぬ心まてノふかくかなしき筆の跡かなノ冨小路俊通」と奥書あるものの寫　九二三・三六—イ二八一)

源氏物語無外題　寫　三巻　三冊　三三九

袋綴　濃澁表紙　二三糎一七・五糎　九行　題簽左肩「源氏無外題　上(一—下)」　内題なし、「紅梅文庫」

(室町時代末期寫　九二三・三六—イ三一一)

〔源氏物語夕顔巻抄註〕　寫　一冊　三三六

水野忠央問　山田常典答　各自筆　袋綴　砥粉色布目表紙　用紙薄様　二三糎一六糎　二十二丁　内題「夕顔」

(「文久元年ノ白詠」と題せる水野忠央の歌稿自筆十三丁を附録す　九二三・三六—イ三五五)

源氏類語抄　寫　一冊　三三八

長慶天皇御撰　甘露寺元長筆　袋綴　黒表紙　用紙裏打　二八糎二二糎　九行小雙行　五十一丁　題簽左肩書名同　内題なし、「桃園文庫(紙票)」

奥書　此一冊依持明院前宰相所望凌ノ老眼之不堪令書寫訖ノ大永第四暦五月十二日ノ頽齢六十八歳叟民部卿藤原元長

識語　這抄者源氏一部之ノ大意被載之欤實以前ノ代之亀鏡後世之鴻寶也ノ不可被出紗窓而已ノ享祿第五夏六月　日ノ前左金吾将軍藤(花押)(持明院某春)

(原に「本云右一帖借請中院前内府通秀公本畊雲自筆ノ仰右大弁宰相元長朝臣令書寫之但遅候ノ間使本慥之間奥十二三枚予書了ノ于時文明十八年九日廿二日終功了ノ按察使藤原親長判ノ同九月廿六日一挍了」と奥書あるものの寫　本文巻末「山ミつのその源をきよめてそ千ゝのなかれもにこらさりける」の畊雲山人跋」の跋歌あり　九二三・三六—イ二四三)

源氏或問　寫　三巻　三冊　三三八

鴛河長英著　袋綴　白表紙　二四糎一七糎　約九行小雙行　外題左肩「(書名同)上(一—下)」、「古典菴藏書(緑印)」「桃園文庫(紙票)」

識語　(各冊)本主惠山

(江戸時代中期寫　巻末に「長英庭訓」を附載　九二三・三六—イ一七二)

源氏和秘抄　寫　一冊　三三九

一條兼良著　袋綴　澁茶色表紙　二六糎二〇糎　十八行　三十丁白紙一丁　外題左肩題簽剝落跡に書名同

（室町時代末期寫　朱墨にて花鳥餘情等による書入あり　九二三・三六—イ二九五）

源氏和秘抄　寫　一冊　二三八五

一條兼良著　里村紹巴筆　袋假綴　共表紙　二六糎一九・五糎　十二行　四十五丁、「九條」

（九二三・三六—イ二九七）

源氏和秘抄　寫　一冊　二三八六

一條兼良著　ほうとく元ねん霜月中の五日自跋　袋綴　紺表紙　二七糎二一・五糎　十行小雙行　題簽左肩代赭色「けんしわひしう」

（室町時代末期寫　九二三・三六—イ二九九）

弘安源氏論義　寫　一冊　二三八七

源具顯著　〔弘安三年〕序　袋綴　共表紙　用紙裏打　一五糎二二・五糎　十六行　四十丁　外題中央「源氏論義弘安三具顯朝臣草」　内題なし、「紅梅文庫」

（江戸時代初期寫　原に「延慶四年三月卅日於今出川ノ馳鳥跡了」と奥書あるものの寫　巻末に「都遷次第」三丁を合綴　九二三・三六—イ三一三）

こかゝみ　寫　一冊　闕　二三八八

綴葉裝　雲紙表紙　用紙鳥の子　一五糎一七糎　十一行　四十八丁　題簽中央臘箋下畫書名同　内題なし、「桃園文庫（紙票）」

（室町時代中期寫　「十一　みをつくし」至「廿四　みのり」を存す　九二三・三六—イ九九）

湖月鈔別記　寫　二巻　二冊　二三八九

橘守部著　自筆　天保五とせ十二月自序　袋綴　萠黄色布目表紙　二四糎一七糎　四周單邊二三糎一四糎　頭注欄四糎　十二行　外題左肩「湖月抄別記　巻一（二）　桐壺（帚木）」、「椎本文庫」「矢野藏書」

（内題の下に「即時下稿」とあり　朱墨頭注書入多し　九二三・三六—イ三二）

〔湖月鈔別記殘稿〕　寫　一冊　二三九〇

橘守部著　自筆　袋綴　改裝後補代赭色表紙　用紙裏打　二五糎一七・五糎　約十四行　九丁　内題なし、「椎本文庫」「矢野藏書」等

（「略語の項」・「源氏物語中の倒文一二」・「あへなく」・「さと　さとすみ」考を収む　九二三・三六—イ二四九）

三源一覽　寫　十冊　二三九一

富小路俊通著　自序　袋綴　紺表紙　二八糎二一糎　十一行　題簽中央丹紙「（書名同）　桐壺帚木　空蟬夕顏　一（—東屋蜻蛉浮舟　手習夢浮橋　十）」　内題なし、「桃園文庫（紙票）」等

（江戸時代初期寫　九二三・三六—イ三三）

三源一覽　寫　一冊　闕　二三九二

富小路俊通著　自序　袋綴　栗皮色表紙　二八糎二〇糎　百五丁白紙一丁　十行、「紅梅文庫」

（室町時代末期寫　桐壺至夕顏を存す　九二三・三六—イ二四五）

三帖源氏　寫　三巻　三冊　二三九三

綴葉裝　金泥下畫紺表紙　見返布目金紙　用紙鳥の子　二三・五糎一六・五糎　十行　題簽中央金泥横雲丹紙「（書名同）　上（—下）」　内題なし

（江戸時代初期寫　九二三・三六—イ八五）

紫塵愚抄　寫　四冊　二三九四

〔飯尾宗祇〕著　自序　袋綴　紺表紙　二五・五糎一八糎　八行　題簽左肩「（書名同）　一（—四）」、「萬機普益」「三緣山下知足館主續道藏書」「聽松庵藏本（紙票）」「桃園文庫（紙票）」

（江戸時代初期寫　九二三・三六—イ二一）

四塵愚抄　寫　四冊　二三九五

〔飯尾宗祇〕著　自序　袋綴　雲母刷梅樹文老竹色表紙　金襴背包　見返金銀泥雲形　用紙裏打　二五糎一七糎　十行　題簽中央「紫塵鈔　一（―四）」　扉外題中央「（書名同）　第一（―四）」、「青谿書屋」

（室町時代末期寫　九一三・三六―イ三五）

紫文要領　寫　二卷　二冊　二三九六

本居宣長著　寶曆十三年六月七日（舜菴）自跋　袋綴　紺表紙　二二・五糎一六糎　四周單邊一九糎一三糎　十行代赭色罫紙　題簽左肩雙邊「（書名同）　上（下）」、「伊藤氏藏書記」「紅梅文庫」等

（江戸時代末期寫　九一三・三六―イ三二）

紹巴抄　寫　九冊　闕　二三九七

里村紹巴著　袋綴　縹色表紙　用紙薄樣　一六・五糎一七・五糎　十三行　内題なし、「桃園文庫（紙票）」

識語　（第九冊）右抄努ゝ他見不有者也

（第一冊見返附箋）此源氏物語抄拾冊／淨智樣從大坂御歸國之節被下候／覺之爲記置／延享四年丁卯六月廿四日平松正春

（同池田龜鑑筆）紹巴抄／一本書ハ紹巴抄ノ一本ナリ／本書ハ宗祇ノ聞書、弄花／細流ト関係アルカ、時代ノ條ニ／永祿六年ノ名見ユ（從文明／永祿六年迄九十五年）

（江戸時代初期寫　第五冊玉鬘至槇柱十卷分闕　九一三・三六―イ七七）

紹巴抄　寫　二十卷　二十冊　二三九八

里村紹巴著　袋綴　毘沙門格子地卷龍摺出濃緑表紙　二六糎一九糎　十行　題簽中央雲紙「源語紹巴抄　一（―廿止）」　内題なし、「紅梅文庫」

（江戸時代初期寫　九一三・三六―イ三一）

紹巴抄　二十卷　二十冊　二三九九

里村紹巴著　袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草文縹色行成表紙　二八・五糎一九・五糎　十一行　外題中央朱「源氏紹巴抄　第一（―廿）（各卷名）」　内題「源氏物語抄卷第一（―二十）」　柱刻「一（―二十）（丁數）」、「高木家藏」

識語　（表紙に朱書及び各冊初葉に墨書）山門東塔南谷　淨敎房　眞如藏　二百十八　虛

（覆古活字版　江戸時代初期刊　九一三・三六―イ六七）

稱名院抄　寫　二十卷　二十冊　二四〇〇

三條西公條著　袋綴　薄水色表紙　二三・五糎一七糎　九行　題簽左肩「（書名同）　一（―二十）」　目録題「源氏物語抄　卷第一（―第二十）」　内題「（各卷名）」、「紅梅文庫」

（江戸時代初期寫　原に「此本二十冊者三條西殿右府入道／公條公稱名院殿御講釋本／申出依御懇望奉許可早／天正八年仲夏上旬　平常緣」と奥書あるものの寫　九一三・三六―イ六七）

新編源語類字集　寫　三卷　三冊　二四〇一

袋綴　寶珠繫織文金襴水色表紙　見返金銀泥下畫布目　用紙薄樣　一七・五糎一二・五糎　十一行　題簽中央布目金紙「（書名同）上（下）」、「奥文庫」「紅梅文庫」

（江戸時代中期寫　九一三・三六―イ二〇七）

仙源抄　寫　一冊　二四〇三

長慶天皇御撰　自跋　袋綴　紺表紙　二七糎二〇・五糎　七行小雙行　題簽左肩「源氏いろは別言葉の解」、「桃園文庫（紙票）」

（江戸時代初期寫　奥に「本云應永三年二月十七日　以先皇之御草本／如形遂清書之功了　求法沙門判」とあるものの寫　九一三・三六―イ一〇三）

仙源抄　寫　一冊　二四〇三

長慶天皇御撰　自跋　袋綴　丹表紙　用紙薄樣　間紙を挾む　三〇糎二〇・五糎　十行小雙行　七十六丁　題簽左肩金箔散書名同　内題なし、「下總崎房秋葉孫兵衛藏書」「桃園文庫（紙票）」

奥書　此源氏仙源抄ハ南朝の廷臣花山ノ内府源長親公の述作なり法名明魏號耕雲ノ或人の藏本をもつて寫し侍る事ノしかり　とよかつ
（江戸時代末期寫　九二三・三六—イ一〇五）

仙源抄　寫　一冊　二四〇四

長慶天皇御撰　自跋　耕雲跋　袋綴　薄茶色檀紙表紙　二七・五糎一九・五糎　十一行　八十三丁遊紙二丁　外題左肩「畊雲仙源抄」　尾題書名同　内題なし、「高棠文庫」「桃園文庫（紙票）」等
（江戸時代初期寫　尾題の次に「山ミつのその源をきよめてそ／水のなかれもにこらさりけり／畊雲山人跋」とあり　九二三・三六—イ二九）

淺聞秘抄　寫　二冊　二四〇五

袋綴　瓶覗色金砂子散表紙　二七糎二〇糎　九行　題簽（下冊）左肩「淺聞秘抄末」　扉題（上冊）中央書名同　目録題「淺聞抄」、「紅梅文庫」
（江戸時代初期寫　三帖源氏と内容殆ど同じ　九二三・三六—イ三四二）

玉の小櫛　寫　六巻　六冊　闕　二四〇六

本居宣長著　袋假綴　共包表紙　二八・五糎一九・五糎　十行　外題左肩「玉の小櫛　一（二）」「源氏物語玉の小櫛　三」「玉のをくし　四（五・六之巻）」　柱心（第一・二・六冊）「（丁數）」　（第三至第五冊）「玉のをくし（丁數）」
（江戸時代末期寫　第七巻以下闕　九二三・三六—イ三八）

千鳥抄　寫　一冊　闕　二四〇七

平井相助著　袋綴　紺表紙　二七・五糎一九・五糎　九行　題簽左肩「源氏千鳥」　内題「源氏御談義」、「桃園文庫（紙票）」
（江戸時代初期寫　片假名交り　内題下に「至徳三七廿六」とあり　乙女巻まで存して以下闕　九二三・三六—イ二五）

千鳥抄　寫　一冊　二四〇八

平井相助著　應永廿六年季春下澣自跋　袋綴　雲紙表紙　二七糎二〇糎　十行　九十二丁　外題左肩後筆「源氏□」　内題「源氏御談義」、「峯舟文庫」「小野藏書」
奥書　寛六七廿八
（室町時代中期寫　片假名交り　内題下に「至徳三七廿六」とあり　跋云「昔四辻ノ儀同三司光源氏ノ物語講讀ノ席ヲヒラカレテ／至徳三年ノ秋ヨリ嘉慶二年ノ冬ニ至ルマテ五十四帖ノ／秘義ヲ述サセ給シニ相助コノ末座ニツラナリテ一日トイヘト／モヲコタル叓ナカリキ後ニ又オホツカナキフシ／〳〵ヲ尋タテ／マツリテシルシヲケル雙紙二帖アリ名付テ千鳥トイ／フ卅餘年身ヲハナタスシテ九十一歳ノ齢ニ及ヘリマホロシ／ノ世ノハカナキヲ見ツクシテ夢ノ浮橋カヽルウキ身ヲ／殘セリ一タヒヒラキミテハ懐古ノ涙ヲ數行字ニソヽキ／二タヒオモヒメクラシテハ妄報ニソル今コレヲ近作尊閤ノ／席下ニタテマツリヲキテ世ヲカサネタル覆醬ノ高恩ニ／酬タテマツル略下」　九二三・三六—イ二五一）

箒木別註　寫　一冊　二四〇九

飯尾宗祇著　袋綴　砥粉色表紙　二七・五糎一九・五糎　八行　七十一丁遊紙一丁　題簽左肩「箒□　宗祇作」　内題なし、「風早文庫」「桃園文庫（紙票）」等
（江戸時代初期寫　原に「文明十七の年ふ月の初めつかた兒女子ノのために注し侍りさためてひか事お／ほく侍るらんかし　宗祇判」と奥書あるものの寫　巻末に「條ミ御尋候旅行之事候間本なと／不致所持候間誥にしるし申候不可／有御分承引候也　兼載判／鳥脊巻殿參／一挍早」とある「光源氏物語定家の本河内本の別の事」の一條を附記　九二三・三六—イ二三）

光源氏物語系圖　寫　一軸　二四一〇

昭高院道澄筆　掛軸　五四糎　原寸七八・五糎五一糎　外題後筆「昭高院道澄大僧正御筆源氏物語系圖」
奥書　（別紙）源氏物語系圖稱名院仍覺以眞筆書寫之　道澄
（九二三・三六—イ三五）

萬水一露　寫　三十七冊　二四一一

能登永閑著　袋綴　黒表紙　二九糎二一糎　十行　題簽中央金銀摺模様紙「（所

収巻名)」 内題「源氏物語聞書」
(江戸時代初期寫 總説時代の條に「寛弘より天正三年乙亥まてハ五百七十／二年欤」とあり 九一三・三六―イ三四五)

明星抄 寫 十七冊 二四一三

三條西實枝著 綴葉装 紺表紙 用紙鳥の子雲母引 三一糎二三糎 十三行 題簽後補中央色紙「細流鈔(右肩朱書)(左下朱書)一(―十七)一名明星抄(所収巻名)」 内題なし、「書」「李部大卿忠次・文庫(藍印)」「紅梅文庫」
(榊原侯本 江戸時代初期寫 原に「此一部永正拾年受庭訓早彼聽書／詞。短心不足更非可令外見不能清書送／數年早爲蠹魚之巣爰或人難去／所望候之條如形加清書終一部物不可／差漏(ママ)脱之事繁多欤重而可加潤／色而已于時大永第八仲春十九日」
「此聽書全部先年。等ク令書寫候一本不慮／失火無念重而所望之由懇望之由懇／切候嚴命難黙止候之間卒尓馳禿／筆狼籍至極曽以不可有他見者／也／天文甲午暦千秋佳節終功畢 亞三臺都督藤在判／稱名院公條」「細流抄或本奥書此抄胸臆之愚談公條卿卒尓之聞書也先／羊達能州刺史之聽寄帋懇望不獲止寫／送之處不意之災却無念重而來命之間／終書功云〻 一見外題染老筆穴賢〻〻可被／禁他見而已／天文甲午暦冬至日／八旬老衲在判」と奥書あるものの寫 九一三・三六―イ二五七)

岷江入楚 寫 五十五巻 五十五冊 二四一三

中院通勝著 慶長三のとしみな月の中の九日自序 慶長第三歳在戊戌星夕之日幽齋玄旨跋 袋綴 水色布目表紙 二九・五糎二三糎 十六行 題簽左肩金泥雲形「(書名同) 桐壺一(―夢浮橋五十五)」 内題「源氏私註」、「北畠文庫」「池田氏藏書」「桃園文庫(紙票)」
(江戸時代初期寫 時代の條に「自寛弘元甲辰至永録十三庚午五百十五年也」とありて「天正十八庚寅迄ハ五百七十五年也」と傍書 九一三・三六―イ二五五)

岷江入楚 寫 五十五巻 五十五冊 二四一四

中院通勝著 慶長三年のみな月の中の九日自序 (第五十四冊夢浮橋巻) 慶長第三歳在戊戌星夕之日幽齋玄旨跋 袋綴 栗皮色表紙 二八・五糎二一糎 十六行 題簽中央「(書名同) 三空蟬(―巻名)」(第一・二冊闕) 内題なし、「載陽書屋」
(江戸時代初期寫 時代の條に「自寛弘元甲辰至永祿十三戊午五百五／十五年欤至慶長三丁酉五百八十三年欤」とあり 九一三・三六―イ二六五)

岷江入楚 寫 五十四巻 五十四冊 闕 二四一五

中院通勝著 慶長三のとしみな月の中の九日自序 慶長第三歳在戊戌星之夕日幽齋玄旨跋 袋綴 澁刷毛目表紙 二八糎一九・五糎 十五行 題簽中央藍各種模様「(所収巻名)弌(―五十四終)(朱書)」 内題「(所収巻名)」、「青谿書屋」
識語 此岷江入楚者以中院家御本所挍／考也武者小路三位實岳卿御一覧／之上御家臣中川伊織因吹擧求之永／可爲秘藏者也／寶暦七年丑二月 竹林孝道(花押)
(第一冊表紙附箋) 岷江入楚 五十五巻筥入書入者以竹之内本挍正之
(江戸時代中期寫 時代の條に「至永録十三庚午五百五十五年也」とありて「至慶長三丁酉五百八十三年」と傍書 第五十五冊雲隱巻闕 九一三・三六―イ三二七)

紫のふくさ 寫 五冊 二四一六

袋綴 青布目表紙 二三・五糎一六・五糎 十一行 題簽左肩「(書名同) 青(―黄赤・白・黒)」 内題なし、「紅梅文庫」
(江戸時代中期寫 原に第一冊「此一冊依桂藏主所望以家本加書寫者也／天文十九年六月日 桃華宋央判／同廿七日一挍合」と奥書あるものの寫 九一三・三六―イ二〇一)

孟津抄 寫 三冊 闕 二四一七

九條稙通著 自筆 袋綴 (第一・二冊) 白包表紙 (第三冊) 藤色表紙に白包表紙を覆ふ 二四・五糎一八・五糎 十四行 (第一・二冊は十五行罫紙を交ふ) 題簽中央(第一冊後補)「蓬 生／せきや」(第二冊)「松かせ二十六枚／繪あはせ二十三枚半」 外題左肩(第三冊)「孟津抄 (中央に) 宿木／東屋／浮船／蜻蛉／手習／夢浮橋」、「九條」
識語 (第三冊第二丁裏) 源氏抄共十七冊 「殿御手跡也 即御自抄云〻」／抄第十七早／孟津第十五終 共十五冊也稙通公源氏抄全部御自筆也 此鈔被号孟津者也云〻

（第一・二冊巻末料紙に別筆による細流抄抄録を合綴　九二三・三六―イ三九）

山路の露　寫　一冊　二四八

袋綴　雲紙表紙　用紙薄様　裏打　二六・五糎一〇・五糎　十二行　三十三丁　題簽中央紅紙書名同　内題なし、「桃園文庫（紙票）」

（室町時代中期寫　九二三・三六―イ三九）

林逸抄　寫　十一巻　十一冊　闕　二四九

林宗二著　薄茶色表紙　二六・五糎一九・五糎　十一行　題簽左肩雙邊（刊）後筆「紅葉の賀　全（―夢の浮橋）」　外題中央書名同上　内題「紅葉賀　四（―花宴五）」「榊（―花ちる里）私抄」「早蕨字治四（―蜻蛉字治八）」「手習抄字治九」「源氏林逸抄字治十」　尾題書名同、「紅梅文庫」

（江戸時代初期寫　紅葉賀至須磨・早蕨至手習及び夢の浮橋を存す　九二三・三六―イ八七）

林逸抄　寫　五十四巻　五十四冊　二五〇

林宗二著　綴葉装　金銀泥下畫縹色表紙　見返各種模様臘箋紙　十一行　題簽中央薄茶色紙「（各巻名）」　内題「源氏物語抄第一」「（各巻名）・源氏林逸抄」等又はなし　尾題「（各巻名）私抄（聞書林逸抄）」等

（室町時代末期寫　九二三・三六―イ三三）

林逸抄　寫　四十五冊　二五一

林宗二著　自筆　改装後補薄代赭色表紙　原装共表紙　用紙裏打　二一・五至二八糎一六・五至一八糎　題簽左肩黄紙「（書名同）一（―四十五）」　原外題左肩「桐壺一」「箒木私抄二（―横笛私抄並鈴虫私二冊）」「（書名同）夕霧卅二（―總角字治三）」「早蕨抄字治四（―夢浮橋字治十）」　内題（第一冊）「源氏物語抄　第一」（第二至十冊）「（所収巻名）」（第十・十一冊）「私抄」（第十二至四十三冊）「（所収巻名）」（第四十四冊）「手習抄」（第四十五冊）「源氏林逸抄字治十」、「方生」

奥書　（第四冊夕顔巻）天文十九年庚戌八月十二日抄之於法隆寺脇坊論語講説之／次書之今年大洪水（印）

（第九冊葵巻）天文廿年辛亥七月廿六日於和州室郷抄之　宗二（印）

（第十三冊澪標巻）天文廿一年壬子正月廿七日於和州葛上郡室郷／須磨巻より以下抄之訖（印）

（第四十二冊浮舟巻）弘治第二暦龍集丙辰黄鐘仲四方生齋下抄之　宗二（花押）（印）

（第四十四冊手習巻）夢殿四度ニあけて候　牛年五十九歳

（第四十五冊夢浮橋巻）永祿第三暦竜集己未仲春十日方生齋灯下／抄之畢数ケ年間苦労而已／宗二六十二歳（花押）（印）

（「林逸抄　四十五冊／右順菴申談吟味仕候処ニ／全部相違無御座候両足院／書状も相添上之申候以上／七月六日　西坂槇之助／山下吉左衛門」の別紙一札を附す　九二三・三六―イ三九）

哮花抄　寫　七巻　七冊　二五三

牡丹花肖柏著　三條西實隆補　袋綴　鼠色表紙　（第二冊以下）薄茶色表紙　二三糎一七糎　十行　外題（第一冊）中央朱書「哮花一」　（第二冊以下）左肩墨「哮花第二（―七終）」　内題なし、「桃園文庫（紙票）」

識語　（各表紙巻首、但し第一冊表紙のみ朱書）山門東塔南谷　淨教房　眞如藏　三百廿九睦

（第二冊以下表紙）天海藏

（室町時代末期寫　第五冊紅梅巻末に「私　宰相ハとかくつき〳〵しの詞耕雲外ニハ無之歟／き給へるにて終句後覽記之　永正八五廿一／永正七八月六日終功」、第七冊末に「本云　文明第八仲夏初九入眼早／從同年七月中旬迄十月上旬見合物語早肖柏／同九年二月重加点了私云合直略之／追聞書初聞之後十四年／長享三季春中八於種玉受庵主説合早／文明第九宗祇法師所ニ不審問題後成恩寺禪閤答申柏寫本／一勘トハ文明十二庚子季春肖柏尋申禪閤条ニ以被自筆被注／付勘載合点等也自桐壺至若菜下其外細碎問題等也／私今所写之者件両問答并追而聞書等悉一所載之／重雅（ママ）之不審并重説等雖無益先任本写置之者也／右肖柏老人聞書借請之六月廿七日立筆連ニ忘（ママ）忙／八月十七日終其功七冊調之静加一見可致書殘出也／永正七年記之」とありて次に「女房装束抄」を記し、更に「此抄者六月下旬立筆今日終書功調而爲七冊不可他見云ミ／永正第七八月十七日　御判」と奥書あるもの寫　九二三・三六―イ二九）

弄花抄　寫　十三卷　十三冊　二四三

牡丹花肖柏著　三條西實隆補　袋綴　縹色表紙　二七・五糎一八・五糎　十二行　題簽中央青楓葉散「（書名同）　卷之一（―十三）」　内題なし、「紅梅文庫」

（江戸時代中期寫　原に「此抄去六月下旬立筆今日終書功調而爲七冊不可他見而已／永正第七八月十七日　三條西入道前内大臣／在御判」、「此抄爲愚見卒尓写置之処僧周桂懇望／令書写之更莫許外見而已／永正十六初冬天遊遙子」等奥書あるものの寫　九三・三六―一五五）

弄花抄　寫　五卷　五冊　闕　二四四

牡丹花肖柏著　三條西實隆補　紹巴筆　袋綴　雲母引茶色表紙　二六・五糎二〇・五糎　十一行　副題簽紅紙中央「（所収巻名）」　内題なし、「九條」

奥書　（附箋）（紹巴筆）　此抄以右奥書本写置之者也／外題者逍遙院也五冊宇治二冊／都合七冊之調巻也　予私　正宮商／角徴羽并　文武之色外題色紙／用也於巻名稱名院墨跡也文／□写之書名也　此抄書写慶長二／年者欤

（第二・三・五至七冊を存す　第一冊同時代他筆　但し題簽は紹巴筆　原に第五冊「永正八月六日終功　一挍了」、第七冊「文明第八仲夏初九入眼早／從同年七月中旬送上旬見合物語早／同九年二月重加点了　私云合点略之　肖柏」「追聞云初聞之後十四年／長享三季春中八於種玉受庵主説合点了」「一答トハ文明第九宗祇法師所ニ不審問題後成／恩寺禪閤答也　肖柏寫本答上／一勘トハ文明十二庚子季春肖柏尋申禪閤／条ニ以彼自筆被注付勘載合点等也自桐壺／至若菜下其外細碎問題等也／以上両問答花鳥未遂一覧之前欤仍彼抄／之内不審等在之／私今所写之者件両問答并追而聞書等悉／一所書載之童稚之不審并重説等雖無益／先任本写置者也／右肖柏老人聞書借請之六月廿七日立／筆連ニ忩忙／八月十七日終其功七冊調之静加一見可清／書抄出也／永正七年記之在御判」とありて次に「女房装束抄」を記し、更に「此抄去六月下旬立筆今日終書功調而爲／七冊不可他見而已／三條西入道前内大臣／在御判／永正第七八月十七日」「此抄爲愚見卒尓寫置之處僧周桂懇望／令書寫之更莫許外見而已／永正十六初冬天　遊遙子判」「一校了」と奥書あるものの寫　九三・三六―一三一）

弄花抄　寫　六冊　闕　二四五

牡丹花肖柏著　三條西實隆補　綴葉装　薄縹色表紙　二四糎一六糎　十行　内題なし、「八雲軒」「藤亨」「安元」（以上三印藍印）「青谿書屋」「桃園文庫（紙票）」

（室町時代末期寫　第二冊闕　第四冊末若菜上下の部分闕丁　原に第五冊「私宰相ハとかくつきくしの詞耕雲の本ニハ無之なけき／給へりにて終爲後鑒記之永正八五廿一／永正八月六日終功」、第七冊「本云文明第八仲夏初九入眼畢／從同年七月中旬迄十月上旬見合物語早／肖柏／同九年二月重加点了／私云合点略之」「追聞書　初聞之後十四年／長享三季春中八於種玉受庵主説合点了」「一答トハ文明第九宗祇法師所ニ不審問題　後成恩寺禪閤答也　肖柏寫本／一勘トハ文明十二庚子季春肖柏尋申禪閤条ニ以彼自筆被注付勘載合点等也／自桐壺／至若菜下其外細碎問題等也／以上兩問答花鳥未遂一覧之前欤仍彼抄之内不審等在之／私今所写之者件兩問答并追而聞書等悉一所書載之童稚之／不審并重説等雖無益先任本写並之者也／右肖柏老人聞書借請之六月廿七日立筆／連ニ忩忙八月十七日終其功七冊調之静加一／見可清書抄出也／永正七年記之」とありて次に「女房装束抄」を記し、更に「此抄者六月下旬立筆今日終書功調而／爲七冊不可他見而已／永正第七八月十七日」と奥書あるものの寫　九三・三六―一三五）

弄花抄　寫　六冊　闕　二四六

牡丹花肖柏著　三條西實隆補　袋綴　茶色表紙　二六・五糎二〇・五糎　十二行　題簽左肩青臘箋「（書名同）　三（―七）」（第二冊闕）　内題なし、「青谿書屋」

識語　（第二冊）三井寺　筆者光上院内尊教坊

（第三冊）三井寺　玉生坊筆跡

（第四冊）三寶院内　文慶筆跡

（第五冊）三井寺　五智院筆跡

（第六冊）筆者　三寶院門主大僧正義堯（藤）今

（第七冊）三寶院内　山田宰相長順手跡

（室町時代末期寫　第一冊闕　第五冊末「永正七八月六終功」、第七冊「文明第八仲夏初九入眼畢／從同年七月中旬送上旬見合物語早／同九年二月重加点了　私云合点略之　肖柏」「追聞書　初聞之後十四年／長享三季春中八於種玉受庵主説合点了」

一答トハ文明第九宗祇法師所ニ不審問題後成恩禪閤答也／肖柏写本／一勘トハ文明十二庚子季春肖柏尋申禪閤／条ニ以彼自筆被注付勘哉合点等也自桐壺至若菜下／其外細碎問題等也／以上兩問答花鳥未遂一覧之前欤仍彼抄之内不審等在之／私今所写之者件兩問答并追而聞書等悉一所書載之童／稚之不審并重説等雖無益先任本写置者也／右肖柏老人聞書借請之六月廿七日立筆連ニ忌忙／八月十七日終其功七冊調之静加一見可清書抄出也／永正七年記之在御判」とありて次に「女房装束抄」を記し、更に「此抄者六月下旬立筆今日終書功調而爲七冊不可他／見而已／永正第七八月十七日三條西入道前内大臣　在御判」「此抄爲愚見卒尓写置之處僧周桂懇望令書写之更／莫許外見而已／永正十六初冬天　肖遙子」と奥書あるものの寫　九二三・三六―一三七）

○

狹衣　四巻　八冊　二四二七

袋綴　毘沙門格子菱目繋丹行成表紙　二八・五糎二〇糎　十二行　約二十一字　題簽中央「（書名同）巻第一上（―巻第四下）」、「兎角菴」等　（古活字版　元和中刊　無刊記本イ種　九二三・三七―一五）

狹衣　寫　四巻　四冊　二四二八

綴葉装　金銀泥下畫切箔散表紙　見返極彩下畫金紙　用紙鳥の子　一六糎一五・五糎　十至十六行　内題なし　（寄合書　第一・二・四冊鎌倉時代末期寫　第三冊室町時代中期寫　第一冊「二條家爲氏卿（かたちそ）二條關白康通公書欄」、第二冊「二條家爲定卿物（おもひの）」、第三冊「後土御門院勾當内侍（ミやまの）」、第四冊「大泰顯昭（ひかりうすら）」とある古筆琴山の極札を添ふ　第一冊初二丁及び巻末二十三丁計二十五丁分江戸時代筆補寫　九二三・三七―七）

○

今昔物語　寫　二十八巻　二十七冊　闕　二四二九

傳源隆國著　袋綴　唐草模様摺出褐色表紙　二七・五糎一九糎　十二行二十字　内題「今昔物語集巻第一（―廿八終）」、「西荘文庫（小津桂窓筆「花八十一巻廿七」と墨書せる紙箋に捺印）」「山岡文庫」　（江戸時代末期寫　交筆　片假名交り　所々朱筆にて出典注記　又塙本・印本等を以て異本校合等書入あり　巻十一「弘法大師亘宋傳眞言教歸來語第九」頭注に「美成（山崎）案扇風ノ浦ハ屏風ノ浦ノ寫誤ナルヘシ略下」の書入あり　巻八・十八・二十一の三巻闕　九二三・三八―一）

○

石清水　寫　三巻　三冊　二四三〇

袋綴　紺表紙　二七糎二四・五糎　八行　題簽中央「（書名同）上（―下）」　内題なし、「嚴倉藏書」「羽鳥藏書（藍印）」等　（江戸時代初期寫　九二三・三九―一六）

おちくぼ物語　寫　三巻　三冊　二四三一

森芳材筆　袋綴　澁刷毛目表紙　二八糎一九・五糎　十二行　題簽左肩「（書名同）上（―下）」、「小田氏記」「森氏文庫（緑印）」　奥書　右落窪物語三冊間直光以藏書／寫之／于時寛政十二申年正月日森芳材藏（印）　（本文同筆朱書校合頭注等書入あり　九二三・三九―三）

すみよし　寫　三冊　二四三二

袋綴　紺表紙　用紙間似合　一六・五糎二四糎　十三行　挿畫（上冊）六頁分（中冊）六頁分（下冊）六頁分　題簽中央丹紙「（書名同）上（―下）」　内題なし　（奈良繪本　江戸時代初期寫　九二三・三九―三）

住吉物語　寫　一冊　二四三三

袋綴　黒茶色表紙　二七・五糎二〇・五糎　十二行　五十四丁　内題なし、「紫景文庫」

（室町時代末期寫　九三・三九―イ一七）

住吉物語　寫　一冊　二四二四

綴葉裝　白緞子表紙　用紙間似合紙　二四糎一七糎　十行　六十六丁遊紙三丁
外題中央後筆書名同　内題なし、「光乘坊藏書」「紫景文庫」
識語　萬治參年／八月仲旬／持人主
（江戸時代初期寫　九三・三九―イ九）

住吉物語　寫　一冊　二四二五

袋綴　改裝後補繕濃茶色表紙　見返金銀切箔散　用紙裏打　二二・五糎一六・五糎
十二行　七十九丁遊紙二丁　内題なし、「王皇香案史」
箱書　（箱底に貼紙）住吉ものかたり全部　正慶所持
（裏）古本住吉物語者元平安／池大雅所(ママ)所也則初ニ印在後／浪花三好正慶爲所(ママ)
所則箱／底正慶自筆書在表紙之／切者貳百年以前の女服ノ切／也實傳來之古物也
（室町時代中期寫　九三・三九―三五）

とりかへはや　寫　四卷　四冊　二四二六

袋綴　澁網目表紙　二七糎一九糎　九行　外題中央「（書名同）一（―四尾）」
（江戸時代末期寫　巻初に「宿祢俊明」の序詞あり　頭注傍注を施す　原に「此とりかへはや物語は江戸に侍しをり／山岡明阿の本をかりて人してうつさせし／なりふるきハうせて是ハいまとりかへはや／なりと云説ありいとまなきに句讀を／たにきらす只一わたりみしのミいと／ま見出てこそ　賀茂季鷹判」と奥書ある
ものの寫　九三・三九―イ三）

とりかへはや　寫　四卷　四冊　二四二七

袋綴　縹色表紙　二六糎一七・五糎　十一行　題簽中央青墨「（書名同）夏（秋）」
（第一・四冊闕）、「香木園印」「蓼窠書屋」「殘花書屋」等
識語　（第一冊見返）（戸川濱男筆）香木園印ハ／田中大秀藏書印也
（江戸時代中期寫　九三・三九―イ三七）

とりかへはや物語　寫　三冊　二四二八

藤原磯足筆　袋綴　水色布目表紙　二七・五糎一九糎　十二行　題簽左肩「（書名同）上（―下）」内題なし、「弘道所藏」「元」
奥書　右鈴屋大人の御本もてうつしぬ　藤原磯足
（江戸時代末期寫　原に「右とりかへはやの物語四巻ハ蓬萊氏の本をかりて写し／とり挍合もをへぬ／天明五年乙巳正月十日　本居宣長」と奥書あるものの寫
九三・三九―イ三三）

濱松中納言物語　寫　四卷　四冊　闕　二四二九

袋綴　澁刷毛目表紙　二四糎一七糎　十行　題簽左肩「濱松中納言　一（―四）」
内題（第一冊）「濱松中納言一」
（江戸時代中期寫　小口書「共四濱松物語　春（―冬）」とあり　首巻闕
九三・三九―イ二）

濱松中納言物語　寫　四卷　四冊　闕　二四三〇

百井爲郷筆　袋綴　澁刷毛目布目表紙　二七糎一九・五糎　十一行　題簽左肩雲紙「（書名同）一（―四）」、「百井文庫」「石川書庫」等
奥書　濱松中納言物語四巻本居宣長挍合之／本借來て写之／天保七年七月廿日　百井爲郷
（朱書校合を施す　巻末に無名草紙を引きて勘物記あり　首巻闕　九三・三九―イ三七）

鎌倉時代物語

あさぢか露　寫　一冊　二四三一

綴葉裝　改裝後補竹虎文金襴表紙　見返金泥下畫朱色布目紙　用紙鳥の子　一二・五糎一五糎　八十八丁　内題なし

（鎌倉時代末期寫　末尾闕　「西行法師　春すき夏も　墨付六拾四丁／爲冬朝臣二條家書擬いけのこほりとち　同　弐拾四丁／一冊（印）」の古筆極札を附す　古典文庫所収木村三四吾校「あさちか露」—参照　九二三・四—イ三三）

在明の別　寫　三巻　三冊　二四四三

綴葉裝　水色表紙　用紙薄樣　一六・五糎一七・五糎　十行　外題中央「在明の別乃一（—乃三）」内題なし、「西莊文庫（小津桂窓筆「花百九十七全三」と墨書せる紙簽に捺印）」（江戸時代中期寫　古典文庫所収中村忠行・曽澤太吉共校「有明の別」—参照　九二三・四—イ三五）

宇治大納言物語　寫　一冊　二四四三

袋綴　水色表紙　二九・五糎二一糎　十一行　五十一丁　外題中央書名同　内題なし、「左京□人藏本」「谷森畫賢」（江戸時代末期寫　九二三・四—イ四三）

古今著聞集　寫　二十巻　十冊　二四四四

橘成季著　建長六年應鐘中旬橘南袁序　建長六年十月十七日〔自跋〕　袋綴　薄茶色表紙　二七・五糎二〇糎　十一行　題簽左肩「（書名同）　二二（—十九二十）」、「西莊文庫（小津桂窓筆「花百五十四全十」と墨書せる紙簽に捺印）」「信慶」（江戸時代初期寫　第一冊見返に沖森直三郎筆「古今著聞集十冊／中西信慶所持本」の紙簽を附す　原に第一冊巻二末「此一段以竹園御本追而書加之了定昭僧都／性信法親王上ニ有之」、第十冊巻二十末「曆應二年十月十八日染六旬之老筆終廿帖之／寫功早且爲休當時之徒然且爲備後日才学也／可秘藏云／老桑門在判」と奥書あるものの寫　跋後「もろこしに小叟といふ翁ありけり」以下數篇補遺あり　九二三・四—イ四一）

古事談　寫　六巻　三冊　二四四五

源顯兼著　袋綴　澁刷毛目表紙　二七糎一九・五糎　十一行　題簽左肩茶色紙「（書名同）　一二（—五六）」内題「（書名同）　第一王道后宮（—第六亭宅諸道）」、「西莊文庫（小津桂窓筆「花五十二全三」と墨書せる紙簽に捺印）」（江戸時代初期寫　九二三・四—イ二九）

さよころも　寫　三巻　三冊　二四四六

袋綴　茶色表紙　一九糎一三・五糎　十行　題簽中央「（書名同）　上（—下）」内題なし、「芸叢之印」「元」（江戸時代中期寫　九二三・四—イ三七）

しのひね　寫　二巻　合一冊　二四四七

袋綴　墨流表紙　二六・五糎一九糎　十二行　八十八丁　題簽中央縹色紙書名同内題なし　奥書（朱書）此物語哥不見風葉集而風葉集所載之哥中略／此三首此本になし落たるか／以猪苗代謙宜本令謄寫一校了／寛政三辛亥年冬十月上旬（原に「しのひね二巻上下／平入道謙宜」と奥書あるものの寫　所々朱書入校合あり　表紙右肩小津桂窓筆朱書「二百十八」　左下同「と」　九二三・四—イ三三）

しのひねもの語　寫　二巻　二冊　二四四八

袋綴　代赭色表紙　二七糎一八・五糎　十一行　題簽左肩「（書名同）　下（上冊「しのひねも」以下破損）」　内題なし、「津山文庫」「石・川」　奥書　文政五壬午十一月以等光寺藏本写之（九二三・四—イ三五）

撰集抄　寫　九巻　三冊　二四四九

壽永二年む月の下の弦自跋　袋綴　雲紙表紙　二五・五糎一二糎　十三行　題簽左肩下畫具引紙「（書名同）　上（—下）」　奥書　此三帖之内上中兩巻染愚筆／者也／元和五年己未五月日　忠貞（巻一内題の下に「西行記」とあり　九二三・四—イ三六）

ほうぶつしう　三巻　三冊　二四五〇

平康頼著　袋綴　改装後補栗皮色表紙　二八糎二〇糎　十二行　約二十字　題簽左肩墨「(書名同)上(―下)」柱刻「上(―下)(丁數)」、「西莊文庫(小津桂窓筆「花百十全三」と墨書せる紙箋に捺印)」

(古活字版　元和期刊　第一種イ本　九一三・四―イ二七)

松陰中納言物語　寫　五巻　二冊　二四五一

袋綴　澁刷毛目表紙　二七糎一九糎　九行　外題左肩「(書名同)　一二(三四五)」内題「松蔭中納言　第一(―第五)」、「西莊文庫(小津桂窓筆「花百十全二」と墨書せる紙箋に捺印)」

(江戸時代中期寫　表紙左下に「爲」とあり　原に「建徳二年亥六月南陽伯(ママ)(花押)」「本ニ云左大臣家正本去應永八年辛巳二月／廿八日内裏炎上比(同)時燒失畢故今／徳大寺殿新写尤證本者攷以重／写之畢長正元十二月九日　印(ママ)」と奥書あるものの寫　九一三・四―イ三一)

まつら物かたり　寫　三巻　合一冊　二四五二

袋綴　媚茶色絹表紙　見返金切箔散　二六糎一九糎　百十七丁白紙一丁　九行　題簽中央「(書名同)全」内題なし、「幽遠窟藏」

識語　(巻之中初)(朱書)猪苗代謙宣(ママ)本爲三冊自是中之巻

(江戸時代中期寫　巻之中朱書識語と同筆を以てイ本校合を施す所多し　巻末に「徹書物語」・「風葉集」を引きたる勘物あり　表紙右肩小津桂窓筆朱書「二百十七」左下同「と」　九一三・四―イ二一)

室町時代物語

あかしの物語　寫　一冊　二四五三

袋綴　黄表紙　二四糎一七糎　十行　四十一丁　外題左肩同時代別筆「明石物語」、「照曜山」

識語　(表紙)治部卿御筆　恵焔房

(扉紙表)明石物語　釋氏板橋

(扉紙裏)治部卿明了御筆　智學

(裏見返)恵照

(室町時代末期寫　古典文庫所収市古貞次校「未刊中世物語集」―参照　九一三・五―イ二四九)

あかし物かたり下　一冊　二四五四

袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様黒行成表紙　二五糎一七糎　十行　二十七丁　挿畫(四週單邊一七・五糎一三糎)六頁分　題簽左肩後補「あかし物語下」柱刻「あかし下(丁數)」

(江戸時代初期刊　九一三・五―イ二五一)

秋　月　寫　三巻　三冊　二四五五

袋綴　紺表紙　二四糎一八糎　六行　題簽中央銀泥下畫丹紙「(書名同)上(―下)」内題なし

(江戸時代初期寫　九一三・五―イ四五)

秋月物語　三巻　三冊　二四五六

袋綴　改装後補紅葉流水押文鐵色表紙　二七糎一九糎　四周單邊二〇・五糎一六糎　十二行　挿畫(上巻)六頁分　(中巻)五頁分　(下巻)五頁分　題簽左肩後補墨「(書名同)上(中)」「秋月もの語下」柱刻「秋月　上(―下)(丁數)」、「洒竹文庫」

(江戸時代初期刊　九一三・五―イ二五五)

秋の夜長物語　一冊　二四五七

袋綴　栗皮色表紙　二七糎一七・五糎　四周單邊二一・五糎一六糎　十一行　二十八丁　題簽左肩闕　柱刻「秋の夜(丁數)」

刊記　寛永十九年五月日　安田十兵衛
識語　寛政癸丑仲夏買之書肆尾吉　前野氏秘蔵
戊寅春日加一見畢
（表紙紙箋）蘭化前野良澤翁／書入本
（「蘭化記之」との書入あり　九一三・五―イ三八三）

あしひき　寫　五冊　二四五八

綴葉裝　共表紙　用紙布目鳥の子　一六・五糎一七糎　八行　題簽左肩金泥下畫「（書名同）一（―五）」　内題なし、「紫影」
（江戸時代初期寫　巻中所々白紙あり挿畫用のためか　九一三・五―イ八五）

あしやのさうし等　寫　合一冊　二四五九

袋綴　紺表紙　用紙薄様　二七糎二〇糎　九行　六十三丁　副題簽中央「あしやのさうし／きふねの御ほんち／さいミやうし／百首詠哥」　内題なし
（江戸時代初期寫「あしやのさうし」・「きふねの御ほんち」・「さいミやうし百首詠哥」の三部を合記す　巻末に「ろうやくの事／一正しき十兩」以下「長者教」等を抄寫　表紙右肩に小津桂窓筆朱書「す百七十九」　九一三・五―イ八七）

愛宕地藏之物語　三巻　三冊　二四六〇

袋綴　縹色表紙　二七・五糎一九・五糎　四周單邊二〇・五糎一六糎　十一行　挿畫（上巻）六頁分　（中巻）六頁分　（下巻）八頁分　題簽左肩雙邊「□宕地藏之本地中」（上下闕）　柱刻「あたこ　上（―下）（丁數）」、「南畝文庫」「大田氏藏書」「山本」「兎角菴」
（江戸時代初期刊　中下巻表紙左下に小津桂窓筆朱書「百五十九中（下）ふ」　九一三・五―イ二〇三）

海士物語　寫　二巻　合一冊　二四六一

袋綴　菊唐草押文縹色表紙　二三・五糎一六・五糎　十一行　三十七丁　題簽左肩「（書名同）全」、「元」等
奥書　延寶弐年四月十九日（印）礼栄これを書（刻花押）
（九一三・五―イ二七一）

あめ若みこ忍び物語上　一冊　二四六二

袋綴　改裝後補縹色表紙　一八糎一三・五糎　用紙裏打　四周單邊一六糎一二糎　十五行　九丁　挿畫六頁分　題簽左肩墨「あめ若みこ忍び物語　乾」　柱刻「あめわか上（丁數）」、「齋藤文庫」
（江戸時代初期刊　九一三・五―イ一）

荒五郎發心記　寫　一冊　二四六三

袋綴　砥粉色表紙　二七糎二〇糎　十三行　二十五丁　挿畫六頁分　外題左肩「（書名同）完」　内題なし、「紫景文庫」
（江戸時代初期寫　挿畫は墨白描　九一三・五―イ二三七）

石清水八幡宮御縁記　寫　一冊　二四六四

袋綴　青包表紙　三一糎二一糎　十二行　十一丁　題簽左肩下畫具引紙「□幡宮御縁起上下」
識語　良以
（室町時代末期寫　原に「為レ賁三所之威光一尋取二両巻之縁起則致新圖奉レ納尊前一／早鑒敬祀之志弥垂二感應之睠一矣／永享五年孟夏廿一日／征夷大将軍左大臣右近衛大将　源朝臣」、「右此御縁起者普光院殿御奉納也上巻者妙法院御手跡／下巻者御自筆繪者土佐將監也當宮内殿在之」と奥書あるものの寫　文中所々に「繪有之」とあるも繪は省きて圖せず　九一三・五―イ三一九）

いわや　寫　三巻　三冊　二四六五

綴葉裝　金泥下畫紺表紙　見返銀切箔散　用紙間似合紙　一六糎二三糎　十三行　挿畫（各冊）五頁分　題簽中央丹紙「（書名同）上（下）」（中闕）　内題なし
（奈良繪本　江戸時代初期寫　九一三・五―イ一九七）

いはやものかたり　寫　二巻　二冊　二四六六

袋綴　改裝紺表紙　見返極彩草花畫雲紙　用紙鳥の子　三一・五糎二四・五糎　挿畫(上巻)三十五頁分　(下巻)三十三頁分　題簽左肩剝落(下巻は落ちし場所に「□□やものかたり下」と補筆)　内題なし

(奈良繪本　室町時代末期寫　下巻見返に「南都連歌師紹九いはやの物語下壹冊(印)」との古筆極札を貼附す　九一三・五―イ一四一)

浦島太郎　寫　一冊　二四六七

袋綴　共表紙　二一糎一五・五糎　七又は八行　十七丁(表紙共)　外題左肩書名同　内題なし

(室町時代末期寫　九一三・五―イ二四七)

縁覺上人　一冊　二四六八

袋綴　改裝後補縹色表紙　二六・五糎一九糎　十六行　十丁　挿畫五頁分　柱刻「覺(丁數)」

(江戸時代初期刊　九一三・五―イ一五三)

横座房物語　寫　一冊　二四六九

袋綴　黄表紙　二七・五糎一九・五糎　八行　二十四丁　題簽左肩「横座坊物語」

(江戸時代中期寫　九一三・五―イ三三九)

大江山繪巻模本　寫　五軸　二四七〇

巻子本　改裝後補代赭色表紙　二七・五糎　一紙三九糎　挿畫(一至三巻)各六面(四・五巻)各五面　内題なし

箱書「大江山繪巻」

識語　(各巻見返)浪華吟掌堂所持(印)

(江戸時代末期寫　畫中色取の書込ある所多し　九一三・五―イ二九一)

女郎花物語　寫　一冊　二四七一

袋綴　金砂子雲引黒表紙　二七糎二〇・五糎　九行　四十六丁　内題なし

識語　(見返)(藤井紫影筆)女歌物語假外題

(裏見返)(朱)西谷

(江戸時代初期寫　九一三・五―イ二三三)

花鳥風月　寫　一冊　二四七二

綴葉裝　金切箔散紺表紙　見返金銀切箔散布目紙　用紙表裏色替具引紙　二四・五糎一七糎　九行　二十八丁　題簽左肩金泥下畫書名同　内題なし

(江戸時代初期寫　九一三・五―イ三五一)

花鳥風月物語　寫　一冊　二四七三

袋綴　雲紙表紙　三二糎二五糎　十三行　二十二丁　挿畫十八頁分　題簽中央金紙書名同　内題なし

(奈良繪本　室町時代末期寫　見返に「飛鳥井殿雅俊卿花鳥風月物語」「飛鳥井殿雅俊卿花鳥風月物語詞書一冊　繪　光信筆」の古筆琴山極札を貼附す　九一三・五―イ一四三)

祇園御本地　三巻　三冊　二四七四

袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様黒行成表紙　二五糎一八糎　四周單邊二〇糎一五・五糎　十行　挿畫(第二冊)三十六頁分　(第三冊)三十頁分　題簽左肩雙邊「(書名同)全部」(第二・三冊闕)　柱刻第一冊「き(丁數)」第二・三冊「きをんの御本地　一(―三)(丁數)」、「南畝文庫」「大田藏書」「濱和助」「兎角菴」

識語　(第二冊見返)　此書三巻於浪花賄春ノ堂収得ノ辛酉改元中元前ノ杏花園(印)

(九一三・五―イ一九五)

義經記　八巻　八冊　二四七五

袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様縹色行成表紙　二八糎一八糎　十一行　挿畫(四

周雙邊二〇糎一五・五糎(巻一)十二頁分　(巻二)十二頁分　(巻三)十二頁分　(巻四)十八頁分　(巻五)十四頁分　(巻六)十四頁分　(巻七)十六頁分　(巻八)十頁分　柱刻「義經」(一―八)　(丁數)」

刊記　(雙邊木記)正保丙戌仲春吉旦／寺町誓願寺前西村又左衛門板行

(丹緑本　九二三・五―イ二七)

義經記巻第五　一冊　二四六

袋綴　改裝毘沙門格子牡丹唐草模様紺行成表紙　二八糎一八・五糎　十二行約二十三字　五十七丁　挿畫(四周單邊一九・五糎一四・五糎)七頁分　目録題書名同、「高木家藏」

(古活字版　寛永期刊　丹緑本　九二三・五―イ二五)

義經双紙　寫　八巻　八冊　二四七

袋綴　薄茶色表紙　三二糎二三・五糎　十行　題簽中央「(書名同)　三(―八終)」(他冊闕)　内題なし

(江戸時代初期寫　日本古典文學大系所收岡見正雄校註「義經記」―參照　九二三・五―イ六二)

きふねの本地　三巻　三冊　二四七

袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様縹色行成表紙　二七糎一七・五糎　四周單邊二〇・五糎一五糎　十行　挿畫(各巻)五頁分　題簽左肩「(書名同)　上(―下)」柱刻「きふね　上(―下)(丁數)」、「兎角菴」

(第一冊表紙右肩に小津桂窓朱筆「す百七十八」　九二三・五―イ二〇五)

くち木わり下　寫　一冊　二四七

袋綴　金泥下畫鶯色表紙　見返銀切箔散　用紙間似合紙　一七糎二五糎　十三行　十五丁　挿畫六頁分　題簽中央金泥刷毛目丹紙書名同　内題なし

(奈良繪本　江戸時代初期寫　九二三・五―イ二〇五)

熊野本地　寫　二冊　二四八

袋綴　銀切箔散褐色布表紙　見返金砂子散　用紙鳥の子　一六・五糎二三糎　十二行　挿畫(上冊)九頁分　(下冊)十一頁分　内題なし

(奈良繪本　江戸時代初期寫　九二三・五―イ二九)

くまのゝほんち　三巻　合一冊　二四八

袋綴　改裝縹色表紙　二七・五糎一八糎　四周單邊二一・五糎一六糎　十一行　七十六丁　挿畫(上巻)十九頁分　(中巻)十二頁分　(下巻)二十九頁分　題簽左肩雙邊書名同　内題「くまのゝほんち上(くまのゝほんち中・下)」柱刻「ほんち上(―下)ノ(丁數)」、「兎角菴」

(丹緑本　九二三・五―イ三七)

熊野の本地　寫　二冊　二四八

袋綴　金泥下畫雲紙表紙　見返彩色草花畫　用紙鳥の子　三二糎二五・五糎　挿畫(上巻)十七頁分　(下巻)二十一頁分　題簽左肩剝落　内題なし

(奈良繪本　室町時代末期寫　下巻扉紙裏に「和州十市殿遠忠(熊野ゝ本地の物語上壹冊)」の古筆極札を貼附す　九二三・五―イ四五)

くまのゝほんち　三巻　三冊　二四八

袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様黒行成表紙　二五・五糎一八糎　四周單邊二一・五糎一五・五糎　十一行　挿畫(上巻)十八頁分　(中巻)十二頁分　(下巻)二十七頁分　題簽左肩雙邊「くまのゝ本地　上(―下)」　内題「(書名同)上」、「くまのゝほんし中(下)」　柱刻「ほんち上(―下)(丁數)」、「高木家藏」

(江戸時代初期刊　前掲二四八一・丹緑本の後刷無彩本　九二三・五―イ三五)

解脱上人明恵上人縁起繪巻　寫　一軸　二四八四

巻子本　毘沙門格子華丸文濃納戸色表紙　見返金切箔散　二〇・五糎一〇米二〇

糎　一紙不同　畫十面　題簽金切箔散後補書名同　内題なし
（江戸時代中期寫　畫は淡彩を施す　九二三・五―イ三七九）

小あつもり　寫　一軸　二四八五

尊朝法親王筆　巻子本　菱目巻龍織文緑表紙　見返金泥下畫　用紙金泥下畫鳥の子　裏打　二八糎一七米三〇糎　一紙四〇糎　約十八行　挿畫十四面　内題なし
奥書　依良春所望染陋筆／者也　（花押）親王
識語　（別紙繼）右一巻繪草子言葉書者／青蓮院宮尊朝親王前廉之御眞跡也／殊古筆
御奥書御判形右在之宮分明也／正保元年／極月下旬　了佐（花押）（印）
（奈良繪巻　箱蓋裏「繪土佐左近將監光吉筆／繪巻光吉祖父光信　原本」とあり
九二三・五―イ三五三）

戀つか物語　二巻　二冊　二四八六

袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様繰色行成表紙　二八糎一八・五糎　四周單邊二
一糎一六糎　十一行　挿畫（上巻）五頁分　（下巻）五頁分　柱刻「恋つか上（下）
（丁數）」、「丘氏之記」「こはねもころに　ひめおくふミそ　源資尹」
（江戸時代初期刊　九二三・五―ム三五三）

小おとこ上　寫　一冊　二四八七

袋綴　雲紙表紙　用紙鳥の子　一八・五糎二六糎　十五行　十五丁　挿畫十一頁
分　題簽中央丹紙書名同
（奈良繪本　江戸時代初期寫　九二三・五―イ三九）

小男の草子　寫　一軸　二四八八

巻子本　改裝後補薄茶色絹表紙　見返金切箔散　用紙鳥の子　一六・五糎二米六
一糎　一紙五二糎　挿畫七面　内題なし
奥書　ひろしまニてかきうつす也／慶長十二年ひのとの二月五日
（奈良繪巻　九二三・五―イ二九）

小おとこのそうし　寫　一軸　二四八九

巻子本　花鳥模様媚茶色緞子表紙　見返金銀砂散　用紙鳥の子　裏打　三四糎八
米四六糎　一紙五三糎　挿畫十一面　題簽金紙書名同　内題なし
（奈良繪巻　室町時代末期寫　九二三・五―イ一四九）

小式部　寫　一冊　二四九〇

袋綴　雲母引布目表紙　二四糎一八糎　十行　三十丁　外題中央書名同　内題な
し「紫景文庫」等
（江戸時代中期寫　九二三・五―イ三三）

五地五如來御本地　寫　一冊　二四九一

袋綴　共表紙　二五・五糎一六糎　八行　三十一丁　外題中央「越後國五地如來
木地」
奥書　寛政十三年／酉ノ二月中旬／　白龍山　恵照
（九二三・五―イ三四九）

胡蝶ものかたり　寫　一冊　二四九二

後水尾院御撰　中臣渓岡筆　袋綴　菊唐草織文茶色金襴表紙　用紙薄黄色染紙
二九・五糎二三・五糎　十二行　十二丁　題簽左肩白緞子書名同　内題なし
奥書　謙需亭／中臣渓岡書之
（江戸時代初期寫　巻初に「後水尾院御製」とあり　九二三・五―ム八七）

小伏見物語　寫　三冊　二四九三

袋綴　雲紙表紙　見返金切箔散　用紙鳥の子　一七糎二五糎　十四行　挿畫（上
冊）八頁分　（中冊）九頁分　（下冊）九頁分　題簽左肩金泥下畫「（書名同）上（中）」
「こふしみ物かたり　下」　内題なし
（奈良繪本　室町時代末期寫　九二三・五―イ八三）

小町哥あらそひ　一冊

二四九四

袋綴　改裝後補漉刷毛目布目表紙　二三糎一六・五糎　十行　二十九丁　挿畫（四周單邊一九糎一四糎）六頁分　題簽左肩後補墨「小町物語　全」　内題なし、「交埜藏書」「原宿文庫」「兎角菴」

（萬治三年野田版の後刷　九二三・五―イ二六三）

小町哥あらそひ　二卷　二冊

二四九五

袋綴　紺表紙　二七糎一八・五糎　四周單邊二二糎一六糎　十三行　挿畫（上卷）五頁分（下卷）五頁分　題簽左肩雙邊「繪入小町あらそひ上（下）」　柱刻「小町上（下）（丁數）」、「兎角菴」

刊記　寛文六丙午歴初春吉日　松會開板

（各挿畫に丹・緑の筆彩を施すも後補か　上冊表紙中央下に小津桂窓筆朱書「三十二百六十三」　下卷第十丁ウ闕丁　九二三・五―イ一七七）

小町哥あらそひ　二卷　二冊

二四九六

袋綴　牡丹唐草模様縹色行成表紙　用紙裏打　二四糎一七・五糎　十行　挿畫（四周單邊一九糎一四・五糎）（上冊）三頁分　（下冊）三頁分　題簽左肩（上冊）單邊「（書名同）上」　（下冊）後補墨「（書名同）下」、「紫景文庫」

刊記　于時万治三年庚申吉辰／野田弥兵衛開板

（九二三・五―イ二四三）

小町のさうし　一冊

二四九七

袋綴　改裝後補栗皮色表紙　用紙裏打　二六糎一八・五糎　十行約十七字　二十三丁　挿畫（四周單邊一九・五糎一四糎）七頁分　題簽左肩墨書名同　柱刻「小町（丁數）」、「紫景文庫」

（古活字版　元和期刊　九二三・五―イ三三五）

小町物かたり　一冊

二四九八

袋綴　毘沙門格子地卷龍模様納戸色表紙　一九糎一三・五糎　四周單邊一七糎一二・五糎　十四行　十六丁　挿畫十二頁分　題簽左肩雙邊「新板をのゝ小町ものかたり　全」　柱刻「小町物かたり（丁數）」、「兎角菴」

刊記　鱗形屋板

（江戸時代初期刊　九二三・五―イ一六一）

小町物語下　一冊

二四九九

袋綴　改裝後補毘沙門格子地卷龍模様黄表紙　二三糎一六糎　四周單邊一七・五糎一二・五糎　十四行　八丁（九―十六丁）　挿畫六頁分　内題なし　柱刻「小町物語（小町物かたり）（丁數）」

刊記　鱗形屋板

（江戸時代初期刊　九二三・五―イ三九）

西行　三卷　三冊

二五〇〇

袋綴　改裝後補雲母引毘沙門格子薄紙粉色表紙　間紙を挟む　二五・五糎一八・五糎　四周單邊二二糎一七糎　十五行　挿畫（各卷）四頁分　題簽左肩後補金砂子散墨「（書名同）上（中・下）」　柱刻「西行哥（丁數）」、「阿波國文庫」「不忍文庫」「野中氏圖書」「高木家藏」

刊記　（雙邊木記）松會開板

識語　（第一冊見返）（高木利太筆）本書ノ藏書印「不忍文庫」ハ屋代弘賢ノ印ナリ又阿波國文庫ハ／蜂須賀侯ノ藏書印ナリ（印）／本書ハ西行物語又ハ西行一生涯草紙ト同シ構造ニシテ文句幾／分ノ異同アリ

（九二三・五―イ三九一）

西行　三卷　合一冊

二五〇一

袋綴　濃緑色布目表紙　二六糎一九糎　四周單邊二二糎一七糎　十五行　挿畫（各卷）四頁分　題簽左肩單邊「西行物語中（西行ものかたり下）」（上卷闕）　柱刻「西行哥（丁數）」

刊記　（雙邊木記）　松會開板

（九二三・五―イ二七七）

西行草子　寫　一冊　二五〇三

袋綴　澁市松模様朽葉色表紙　二六糎一九・五糎　十一行　四十九丁　外題左肩書名同　内題なし
識語　本書一異本也
（江戸時代中期寫　九二・五―イ三〇二）

西行法師集歌　寫　一軸　二五〇三

巻子本　改裝後補壽字織文緑表紙　見返金銀紙　用紙鳥の子　裏打　一一・五糎六米八八糎
（南北朝時代寫　もと一一・五糎一一糎の袋綴を現巻子本に改む　箱書に「異本西行物語古寫本」とあり　九二・五―イ二九七）

嵯峨物語　寫　一冊　二五〇四

袋綴　毘沙門格子地草花丸文水色行成表紙　二七・五糎二一糎　十一行　二十四丁　題簽中央金泥雲引紙書名同　内題なし
（江戸時代中期寫　九二・五―イ三三一）

さころも　二巻　合一冊　二五〇五

袋綴　紺表紙　二五糎一八糎　四周單邊一九糎一六糎　十三行　三十一丁　挿畫（上巻）七頁分　（下巻）五頁分　題簽左肩雙邊「狹衣　上下（墨）」　柱刻「さ衣（丁數）」、「若江家印」
刊記　明暦三年正月吉日開板
（丁數は通巻一至三十一終　上巻十七終、下巻三十一終　表紙右肩に小津桂窓筆朱書「す百七十六」　九二・五―イ二五六）

さころも　二巻　合一冊　二五〇六

袋綴　改裝後補紺表紙　用紙裏打　二五糎一八糎　四周單邊一九糎一六糎　十三行　三十一丁　挿畫（上巻）七頁分　（下巻）五頁分　題簽左肩雙邊後補墨「（書名同）全」　柱刻「さ衣（丁數）」、「千里」
刊記　明暦三年正月吉日開板
（九二・五―イ一六七）

さごろも　二巻　二冊　二五〇七

袋綴　縹色表紙　二七糎一八糎　四周單邊二二糎一六糎　十五行　題簽闕　挿畫（上巻）五頁分　（下巻）四頁分　柱刻「さころも　上（下）（丁數）」、「紫景文庫」
刊記　寛文五巳年七月吉日　松會開板
（九二・五―イ三九）

さゝやき竹下　寫　一冊　二五〇八

綴葉裝　改裝金泥下畫紺表紙　見返金銀泥切箔散　用紙鳥の子　二三・五糎一七・五糎　十行　二十四丁　挿畫六頁分　題簽左肩金泥下畫「さゝやき竹」　内題なし
（奈良繪本　江戸時代初期寫　九二・五―イ三五九）

佐藤ふぢわう　一冊　二五〇九

袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様老竹色行成表紙　二六・五糎一八・五糎　四周單邊二二・五糎一六・五糎　十五行　四丁　挿畫三頁分、「久弥藏」
（江戸時代初期刊　九二・五―イ一五五）

さよごろも付ゑんや物語　二巻　二冊　二五一〇

袋綴　毘沙門格子地牡丹丸模様薄卵色表紙　二七糎一八・五糎　四周單邊二二糎一六・五糎　十四行　挿畫（上巻）五頁分　（下巻）六頁分　題簽左肩雙邊（刊）後補藤井紫影筆「さよ衣付えんや物語上」「さよ衣并えんや物語下」　柱刻「ゑんや上（下）」、「竹冷挿架」「紫景文庫」
刊記　□月吉日　杉原太郎兵衛開板
（江戸時代初期刊　九二・五―イ二四一）

さるげんじ　二巻　二冊　二五一一

袋綴　毘沙門格子地巻龍模様薄卵色表紙　二七糎一八・五糎　四周單邊二二糎一六・五糎　十四行　挿畫(上巻)四頁分(下巻)四頁分　題簽左肩後補墨「(書名同)上(下)」　柱刻「さる上(下)(丁數)」、「兎角菴」
刊記　松會開板
(第一冊題簽上に小津桂窓筆朱書「廿二／五百八十六」　九一三・五―イ一七九)

さるげんじ　二巻　二冊　二五一二

袋綴　銀泥下畫紺表紙　二七糎一九糎　四周單邊二二糎一六・五糎　十四行　挿畫(上巻)四頁分(下巻)四頁分　題簽中央後補墨「(書名同)上(下)」　柱刻「さる上(下)(丁數)」
刊記　松會開板
(九一三・五―イ一八三)

さるけんし　寫　一冊　二五一三

〔本英〕筆　袋綴　薄茶色布目表紙　二五・五糎一八糎　十二行　二十二丁　題簽左肩書名同、「齋藤文庫」「饗庭文庫」
(江戸時代末期寫　九一三・五―イ二六五)

四十二の物あらそひ　一冊　二五一四

袋綴　改裝後補縹色表紙　二五糎一七・五糎　十一行約二十字　十二丁　挿畫(四周單邊一八・五糎一四糎)二頁分　柱刻「あらそひ(丁數)」
(丹緑本　江戸時代初期刊　濁點ふり假名付　九一三・五―イ三一五)

釋迦如來御本地　三巻　三冊　二五一五

袋綴　砥粉色表紙　二七糎一八・五糎　四周單邊二〇糎一六糎　十三行　挿畫(上巻)五頁分(中・下巻)四頁分　外題左肩墨「新板釋迦本地上繪入(中同)」「新板しやかの本地下忍入」　柱刻「釋迦本地上(―下)(丁數)」
刊記　寛文二壬寅仲秋上旬／柳馬場二条下町吉野屋権兵衛板
(九一三・五―イ二五七)

しやかのほんぢ中　一冊　二五一六

袋綴　改裝後補朽葉色表紙　用紙裏打　二六糎一七・五糎　十一行約二十字　十七丁　題簽左肩後補墨書名同　柱刻「中(丁數)」
(古活字版　元和期刊　闕損甚し　九一三・五―イ三一一)

〔執金剛緣起繪巻〕　寫　三軸　二五一七

傳土佐光起畫　巻子本　唐草模様薄黄金襴表紙　見返布目金紙　用紙鳥の子　三三・五糎　一紙九五糎　挿畫(巻一)十二面(巻二)七面(巻三)九面　内題なし
奥書　土佐左近将監光起筆(印)
箱書　東大寺盤觴巻　三巻
(奈良繪巻　江戸時代初期寫　箱裏紙箋「東大寺に原本ありと」　九一三・五―イ三四一)

十二段草子　二巻　合一冊　二五一八

袋綴　菱目模様茶色行成表紙　二七糎一九・五糎　十行　七十四丁　挿畫(四周單邊一九・五糎一四・五糎)(上巻)七頁分(下巻)七頁分　内題なし、「兎角菴」
(古活字版　慶長期刊　丹緑本　表紙左下に小津桂窓筆朱書「百六十二ふ」
九一三・五―イ一七一)

十二段さうし　二巻　合一冊　二五一九

袋綴　改裝後補鼠色表紙　二四糎一七・五糎　四周單邊二一糎一六糎　十四行　四十一丁　挿畫十五頁分　題簽左肩後筆、「牛若君奥ゑ下向」　柱刻「上るり　上(―下)(丁數)」
刊記　本や次兵衛板
(江戸時代初期刊　九一三・五―イ二三七)

十二段さうし　三冊　二五二〇

袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様黒行成表紙　二六糎一九糎　四周單邊二一糎一六糎　十四行　挿畫(上巻)五頁分　(中巻)六頁分　(下巻)四頁分　題簽左肩雙邊「繪人　十二たんさうし」(上留りごぜん)　柱刻「上るり　上(—下)　(丁數)」、「臨風文庫」等

識語　(朱)永代節用集に／浄瑠理ハ織田信長公の侍女小野於通／参ゐ矢絅浄瑠理姫のことを十二段に作り／しに始り近松門左衛門が輩出して虚中ニ実／情を盡して(下略)

(本や次兵衛版の後刷　九一三・五—イ三六七)

酒呑童子繪巻　寫　三軸　二五二一

巻子本　青絹表紙　見返金切箔散　用紙和唐紙雲母引　裏打　二七糎　一紙一米二八糎　挿畫(一巻)十六面　(二巻)十一面　(三巻)十九面　題簽金箔散別筆「酒呑童子　一(—三)」　内題なし

(江戸時代中期寫　九一三・五—イ二九三)

しやうるり　寫　二冊　二五二二

袋綴　雲紙表紙　用紙鳥の子　三一・五糎二三糎　十二行　挿畫(上冊)十一頁分(下冊)十頁分　題簽左肩金泥下畫丹紙「(書名同)上(下)巻」　内題なし

(奈良繪本　室町時代末期寫　九一三・五—イ三六三)

すゝかの物かたり　二巻　一冊　二五二三

綴葉裝　紺表紙　用紙鳥の子　二四・五糎一七・五糎　十行　七十丁　題簽中央金泥雲引丹紙書名同

(江戸時代初期寫　もと奈良繪本なりしも畫現闕　九一三・五—イ三二三)

すみそめさくら上　一冊　二五二四

袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様紺行成表紙　十一行　二十一丁　題簽左肩雙邊「(書名同)上」　柱刻「上(丁數)」、「紫景文庫」

(江戸時代初期刊　九一三・五—イ三三一)

曽我物語　十二巻　十二冊　二五二五

袋綴　縹色表紙　二七・五糎二一糎　九行　題簽中央丹紙「(書名同)巻第二(三五—七・九・十一・十二)」(他巻は闕又は後筆)

(室町時代末期寫　九一三・五—イ三五五)

曽我物語　十二巻　十二冊　二五二六

袋綴　栗皮色表紙　二八・五糎二一糎　十二行約二十七字　題簽左肩墨「(書名同)一(—十一)」(巻十二闕)

(古活字版　寛永中刊　十二行本イ種　九一三・五—イ三六五)

曽我物語　十二巻　十二冊　二五二七

袋綴　菱目繋丹行成表紙　二七・五糎一八・五糎　十二行　題簽左肩單邊「(書名同)一(—十二)」　目録題書名同　柱刻「曽我巻一(—巻十二)(丁數)」、「甘露堂藏」

刊記　于時寛永四丁卯年／六月中旬／洛陽三条寺町誓願寺前／安田十兵衛尉　開板

(九一三・五—イ三八九)

大古久まい　寫　二冊　二五二八

綴葉裝　鶴丸亀甲文鼠色金襴表紙　用紙鳥の子　見返金紙　二三・五糎一七糎　十行　挿畫(上冊)六頁分　(下冊)六頁分　題簽左肩金泥下畫「(書名同)上(下冊闕)」　内題なし

(奈良繪本　江戸時代初期寫　九一三・五—イ三七七)

大職冠　寫　一冊　二五二九

袋綴　改裝後補青表紙　用紙裏打　二七・五糎二一糎　十三行　十四丁　挿畫十

四頁分　題簽左肩書名同　内題なし
（奈良繪本　室町時代末期寫　闕丁汚損多し　九二三・五—イ三九）

大職冠　一冊　二五二

袋綴　改裝後補金泥下畫縹色表紙　原裝黑表紙　用紙裏打　二八糎一九・五糎　原寸二四・五糎一七・五糎　十行　四十九丁　挿畫（四周單邊一九糎一四糎）九頁分　題簽左肩押文金紙「さころも」　内題なし　柱刻「（書名同）（丁數）」、「元」等　（丹緑本　二五糎一八糎の原黑表紙一枚を附す　第一・三丁第四十六至四十九丁及び第五十一丁以下闕丁　九二三・五—イ三八）

たまものさうし　二巻　合一冊　二五三

袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模樣縹色表紙　二七・五糎一七糎　四周單邊一九・五糎一四・五糎　十行　四十二丁　挿畫（上巻）五頁分　（下巻）八頁分　題簽左肩書名同　柱刻「玉上（下）（丁數）」、「兎角菴」　刊記　承應二年三月吉辰／西田庄兵衛開板之　（表紙右肩小津桂窓筆朱書「二百廿三」左下同「と」　九二三・五—イ一五七）

彈正物語　寫　一冊　二五三

袋綴　改裝紺表紙　見返黃茶色絹　用紙間似合　一六糎二四・五糎　十二行　三十九丁　題簽中央「（書名同）全」　内題なし　（江戸時代初期寫　もと奈良繪本なりしも畫現闕　九二三・五—イ六九）

塵塚　六巻　六冊　二五三

元祿つちのとのみの歳むつき中の五日序　袋綴　紺表紙　二二糎一六糎　四周單邊一八・五糎一三糎　十一行　挿畫（巻一）七頁分　（巻二）八頁分　（巻三・四）各四頁分　（巻五）五頁分　（巻六）四頁分　題簽左肩「塵塚物語二」「知里塚物語三」「塵津賀物語　四」「地理塚物語　五」「塵つか物かたり　六」　（巻一闕）　目録題「塵塚物語」　柱刻「塵塚物語序・塵塚巻一（—巻六）（丁數）」、「西莊文庫（小津桂窓筆「花三十金六」と墨書せる紙簽に捺印）」「有田藏本（墨印）」「兎角菴」　刊記　元祿二年己巳正月吉旦／京洛八尾庄兵衛板／本文にいはく　天文廿一年十一月日　藤某判」とあり　九二三・五—二〇九）

月日の御本地　二巻　二冊　二五四

袋綴　縹色表紙　用紙裏打　二五糎一七・五糎　一行十　挿畫（四周單邊一九糎一四・五糎）（上巻）四頁分　（下巻）三頁分　題簽左肩「月日之本地　上（つきひのほん地　下）」　柱刻「月日（丁數）」、「兎角菴」　（丹緑本　第一冊表紙中央下小津桂窓筆朱書「三十二／三百六十二」　九二三・五—イ一六七）

つほさか　寫　一冊　二五五

袋綴　金泥下畫紺表紙　見返青紙　用紙間似合　一六・五糎二四糎　十三行　十三丁　挿畫五頁分　題簽中央金泥下畫丹紙書名同　内題なし　（奈良繪本　江戸時代初期寫　九二三・五—イ三三）

つほの石ふみ　寫　二軸　二五六

巻子本　立縞目織文茶色表紙　見返金紙　用紙金泥下畫鳥の子　三二糎　一紙五一糎　挿畫（上巻）十一面　（下巻）九面　題簽金泥雲引紅紙（書名同）上（下）」　（奈良繪巻　江戸時代初期寫　九二三・五—イ二九）

鶴のさうし　二巻　合一冊　二五七

袋綴　改裝後補縹色表紙　用紙裏打　二六糎一七糎　四周單邊二〇・五糎一六糎　十一行　三十三丁　挿畫（上巻）八頁分　（下巻）五頁分　題簽左肩後補銀箔散紙　墨書名同　柱刻「鶴草紙　上（下）（丁數）」、「兎角菴」　刊記　寛文廿年五月吉日／ふ屋仁兵衛　（上巻十七丁までありて上部に「上ノ巻末／落丁ナリ／ア、オシムヘシ」の墨書あり　表紙右肩附箋「寛文二年印本天保三ヤ百七十年ナル」同右小津桂窓筆朱書「す百八十二」　九二三・五—イ二九）

靄の双帋　寫　三巻　三冊　二五二八

綴葉装　金泥下畫金砂子散紺表紙　見返金砂子散　用紙鳥の子　二三糎一七糎　十行　挿畫(各巻)五頁分　題簽左肩金泥下畫「(書名同)　上(つるのさうし中・下)」　内題なし
(奈良繪本　江戸時代初期寫　九一三・五―イ一九九)

〔天神繪巻〕　寫　一軸　二五二九

巻子本　華文青地織文表紙　見返金紙　用紙鳥の子　銀切箔散裏打　三〇糎一三米八〇糎　挿畫十五面　内題なし
(奈良繪巻　室町時代中期寫　九一三・五―イ三六一)

天満宮縁起　二巻　二冊　二五四〇

袋綴　毘沙門格子押文縹色表紙　二六糎一八・五糎　十一行　挿畫(四周單邊一九糎一五糎)(上巻)十三頁分　(下巻)八頁分　題簽左肩雙邊「天神御本地　上(下)」　柱刻「天神上(下)(丁數)」、「兎角菴」
刊記　寛政七卯九月求板／書林
(九一三・五―イ一八五)

ときわ物語　寫　一冊　二五四一

和綴　改装後補紺表紙　用紙間似合紙　一八糎二三・五糎　十六行　三十一丁　挿畫十九頁分　題簽左肩雲母引紙「(書名同)　完」　内題なし
(奈良繪本　江戸時代初期寫　下畫墨白描にて間々金箔を置く　九一三・五―イ二七五)

ねすみのさうし　寫　一軸　二五四二

巻子本　改装後補龍紋模様油色絹表紙　見返雲形金箔散　用紙上下裁斷　裏打　三一・五糎一三米二四糎　原寸二八糎　一紙四六糎　題簽單邊白絹書名同
(奈良繪巻　室町時代末期寫　首尾闕　九一三・五―イ一三三)

鼠の草子　寫　一軸　二五四三

巻子本　改装後補菱花繋模様丹行成表紙　用紙裏打　三三糎八米七二糎　一紙四三糎　箱書「紫影本鼠乃草子」　内題なし
(奈良繪巻　室町時代中期寫　首尾闕　古典文庫所収横山重・太田武夫共校「室町時代物語三」―参照　九一三・五―イ一三五)

念佛草紙　寫　二巻　合一冊　二五四四

袋綴　栗皮色表紙　用紙雲母引　二一・五糎一六糎　七行　八十丁　外題左肩書名同
(室町時代末期寫　九一三・五―イ二九三)

はちかづき　二巻　二冊　二五四五

袋綴　紺表紙　二七・五糎一九糎　四周單邊二一・五糎一六・五糎　十六行　挿畫(上巻)四頁分　(下巻)四頁分　題簽左肩雙邊「繪人はちかつき　上」(下巻闕)　柱刻「はちかつき　上(下)(丁數)」
刊記　寛文六丙午年／二月吉日　山本九左衛門板
(九一三・五―イ二五九)

はちかつき　寫　一冊　二五四六

綴葉装　金泥下畫紺表紙　用紙鳥の子　二四糎一七糎　題簽左肩金泥横雲引布目紙「(書名同)　上(下)」　内題なし、「西莊文庫(小津桂窓筆「花三十全二」と墨書せる紙箋に捺印)」
(江戸時代中期寫　もと奈良繪本なりしも畫現闕　九一三・五―イ二八九)

はちかつぎ　一冊　二五四七

袋綴　改装後補栗皮色表紙　用紙裏打　二五・五糎一七糎　十行　四十丁　挿畫(四周單邊一八・五糎一三・五糎)九頁分　内題なし　柱刻「はち(丁數)」

刊記　本屋弥右衛門
（古活字版　寛永期刊　丹緑本　第一丁補寫　九二三・五—イ二九五）

はちかづきのさうし　二巻　二冊　二五四八

袋綴　縹色布目表紙　二七糎一八・五糎　四周單邊二一・五糎一六・五糎　十四行
挿畫（上巻）三頁分（下巻）三頁分　題簽左肩雙邊「（ふ人）はちかつき　上（下）」　綴目
「はち上（下）（丁數）」、「春方乃印」「兎角菴」
刊記　宝永二年九月吉日／和泉屋茂兵衛板
（九二三・五—イ一八一）

八幡愚童記　寫　二巻　二冊　二五四九

袋綴　青包表紙　三一糎二二糎　十二行　題簽左肩下畫貝引紙後筆「（書名同）上（下）」
識語　良以
（室町時代末期寫　九二三・五—イ三三一）

八幡愚童訓　三巻　三冊　二五五〇

袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様縹色行成表紙　二六・五糎一七・五糎　十一行
挿畫（四周單邊二一・五糎一五・五糎）（上巻）八頁分　（中巻）十二頁分　（下巻）八頁分　題簽左肩雙邊「（書名同）上（—下）」　柱刻「愚童訓上（—下）（丁數）」、「西莊文庫（小津桂窓筆）花百四十一（全三）」と墨書せる紙箋に捺印）」「兎角菴」
刊記　寛文四年甲辰孟春吉日／洛陽松長伊右衛門開板
（九二三・五—イ九一）

八幡大菩薩御縁起　寫　二軸　二五五一

良尊筆　巻子本　銀横雲金切箔散紺表紙　用紙裏打　三〇・五糎　天地單邊二六糎　一紙四九糎　約十六行　挿畫（上巻）七面　（下巻）四面　題簽後補「八幡縁起」、「中坊家藏之印」
奥書　右此御縁起新寫之事前如此之／本雖在之為盗賊令失墜訖其／後連々可新調旨雖存且凡情且／世務被纏亘空年月凡奉貢／皇后大菩薩威光又國土安全万／民快楽宿所奉祈是可也重而／希願預此懇志之得益二世大願令／成就円満玉へ／旨享祿第四暦歳次辛卯林鐘中澣／大和州添上郡御陵／金剛佛子良尊敬白
（奈良繪巻　九二三・五—イ三八一）

花の縁物語　二巻　合一冊　二五五二

袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様縹色行成表紙　二六・五糎一七・五糎　四周單邊
二〇糎一四糎　十行　二十九丁　挿畫六頁分　題簽左肩後筆「花のえん物語」
柱刻「（丁數）」
奥記　寛文六丙午年三月上旬書焉　器之子
（九二三・五—イ二八三）

花の縁物語上　一冊　二五五三

袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様縹色行成表紙　二六・五糎一六・五糎　四周單邊
二〇糎一四糎　十行　十三丁　挿畫三頁分　題簽左肩雙邊書名同　柱刻「（丁數）」
識語　（見返に貼紙）花の縁物語　二冊本也／著者　器の子／刊行寛文六年／鳥邊山物語ヲ女色に直シタルモノナリ
（九二三・五—イ二八二）

はな世の姫　三巻　三冊　二五五四

袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様縹色行成表紙　二六・五糎一八糎　四周雙邊二〇・五糎一五糎　十行　挿畫（上巻）十頁分　（中巻）七頁分　（下巻）八頁分　題簽左肩雙邊「花世の姫さうし上（—下）」　柱刻「（丁數）」、「西莊文庫（小津桂窓筆）「花百五十四（全三）」と墨書せる紙箋に捺印）」「兎角菴」
（江戸時代初期刊　九二三・五—イ二〇一）

はまくり　寫　二冊　二五五五

袋綴　金泥下畫紺表紙　見返毘沙門格子押文銀紙　用紙間似合紙　一五糎二二糎　十三行　挿畫（各冊）五頁分　題簽中央金泥下畫「（書名同）上（下）」　内題なし、

「矢野藏書」
（奈良繪本　江戸時代初期寫　九二三・五—イ二〇七）

判官みやこはなし　五巻　五冊　二五五六

袋綴　縹色表紙　二五糎一八・五糎　四周單邊二一糎一五・五糎　十二行　挿畫（巻一）六頁分　（巻二至巻四）各四頁分　（巻五）五頁分　題簽左肩雙邊「（丞）判官みやこはなし　一（—五）」　柱刻「判官一（—五）（丁數）」、「西荘文庫（小津桂窓筆「花百四十二（全五）」と墨書せる紙片に捺印）」「兎角菴」
刊記　寛文十年庚戌正月吉辰　林市三郎　開板
（九二三・五—イ二〇七）

はんれい　寫　一軸　二五五七

巻子本　薄茶色華葉織文表紙　見返金紙　用紙金泥下畫鳥の子　裏打金切箔散
三三糎一一米四五糎　一紙四四糎　十四行　挿畫七面　題簽金紙書名同
（奈良繪巻　江戸時代初期寫　九二三・五—イ二六五）

火おけのさうし　一冊　二五五八

袋綴　改裝後補毘沙門格子地牡丹唐草模様黑行成表紙　用紙裏打　二四糎一七・五糎　十行　二十六丁　挿畫（四周單邊一九・五糎一四糎）八頁分　題簽左肩墨「火桶のさうし」　柱刻「ひおけ（丁數）」、「兎角菴」
（丹緑本　江戸時代初期刊　表紙右小津桂窓筆朱書「す百七十五」　九二三・五—イ二五）

びしんくらへ上　一冊　二五五九

袋綴　改裝後補紺表紙　間紙を挾む　二五・五糎一七糎　四周單邊二〇糎一五糎
十二行　十五丁　挿畫六頁分　柱刻「ひしんくらへ上（丁數）」
（江戸時代初期刊　九二三・五—イ三五）

ひたか川　寫　一冊　二五六〇

袋綴　雲紙表紙　一七糎二三・五糎　十五行　十八丁　挿畫十九頁分　題簽中央墨流紙後筆書名同　内題なし、「紫景文庫」
（奈良繪本　江戸時代初期寫　九二三・五—イ二三九）

ひともときく　寫　一冊　二五六一

綴葉裝　切紙貼附卵色表紙　見返金紙切紙貼　用紙鳥の子　二九・五糎二一・五糎
十行　四十丁　題簽左肩書名同　尾題「一本菊の物語」　内題なし、「紀氏藏書」
（江戸時代中期寫　表紙右肩小津桂窓筆朱書「す百七十」　九二三・五—イ二六七）

ふしの人穴　寫　一冊　二五六二

袋綴　金泥下畫紺表紙　見返布目銀紙　用紙裏打　九行　四十七丁　題簽左肩金砂子散丹紙書名同　内題なし、「森氏開萬冊府之記」「文彦」
奥書　慶長拾弐年丁未壬四月十三日
識語　（別紙）是書ノ異本人穴冊子トいふべし／今存する万治四年ノ彫本と異なれは也／そも〳〵このさうしハ室町家の頃の／古書ニて武器の名目等の考証に／便あり繪かきひたゝれ霞流しのひたゝれ／等の名印本になし尤珍重すへきの書なり／慶長十二年より今文政戊子年に至て／二百二十有二年前の古寫なり／江戸下谷　柳亭種彦記（花押）
（別紙）（柳亭種彦筆）此書原鳥の子を四ツに折て／大和綴にしたるか糸きれてうち／乱見わけかたかりしを自ららうち／して再全本となしつ後人予か／労を思ひて反古となす事／なかれ／淺草御藏前旅籠町にて得たり／文政紀年の頃なり
（文中種彦筆朱傍點書入多し　九二三・五—イ三五）

ふじの人あな　二巻　合一冊　二五六三

袋綴　改裝後補栗皮色表紙　二五糎一八糎　四周單邊二〇糎一五・五糎　十三行
挿畫十一頁分　題簽左肩雙邊書名同　柱刻「人穴上（下）（丁數）」
刊記　万治四年辛丑孟春上旬　高橋清兵衛板行
（九二三・五—イ二四五）

舟のゐとく　寫　二軸　二五六四

巻子本　鳳凰桐文若草色金襴表紙　見返金紙　用紙金泥下畫鳥の子　裏打金切箔散　三三糎　一紙五〇糎　挿畫(上巻)六面　(下巻)四面　題簽金泥横雲「(書名同)上(下)」
識語　(箱蓋裏に貼紙)寛政十二改之(紋印)
(奈良繪巻　江戸時代初期寫　箱蓋裏に「詞書　飛鳥井雅章卿／土佐光成筆(印)」の古筆極札を貼附す　九二三・五―一二五一)

ぶんしやうのさうし　二巻　二冊　二五六五

袋綴　毘沙門格子地蝴蝶模様繧色行成表紙　二七糎一八糎　四周單邊二二糎一五・五糎　十六行　挿畫(上巻)六頁分　(下巻)六頁分　題簽左肩雙邊「新板ふん正さうし上(下)」、「田氏文庫」
刊記　水田甚左衛門開板
(江戸時代初期刊　九二三・五―一三三)

ぶんしやうのさうし上　一冊　二五六六

袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様紺行成表紙　二六・五糎一八糎　十一行　二十四丁　挿畫(四周單邊一八糎一三・五糎)六頁分　柱刻「ふんしやう一(丁數)」
(丹緑本　江戸時代初期刊　九二三・五―一九)

ふん正物語　寫　三巻　三冊　二五六七

綴葉裝　金泥下畫金砂散紺表紙　見返布目金紙　二三・五糎一七糎　十行　挿畫(各巻)五頁分　題簽左肩金泥下畫「(書名同)上(下)」　内題なし
(奈良繪本　江戸時代初期寫　九二三・五―一九三)

ぶんしやう物語　二巻　二冊　二五六八

袋綴　朽葉色表紙　二二糎一六糎　四周單邊一六・五糎一二糎　十四行　挿畫(上巻)八頁分　(下巻)八頁分　題簽中央雙邊「新板いわゐのさうしふんしやう上(下巻闕)」　柱刻「ふん(丁數)」、「稲垣家」
刊記　山本九左衛門板
(江戸時代初期刊　九二三・五―一二六一)

ぶん太もの語　二巻　合一冊　二五六九

袋綴　改装後補繧色表紙　用紙裏打　一八・五糎一三糎　四周單邊一六糎一二糎　十七行　二十二丁　挿畫(上巻)八頁分　(下巻)六頁分　柱刻「ぶんしやう上(下)(丁數)」、「永田文庫」「兎角菴」
刊記　正徳三年巳正月吉日　西村屋新板
(九二三・五―一五九)

辨慶物語　寫　三冊　二五七〇

綴葉裝　菱花繋紺地金襴表紙　用紙鳥の子　二三・五糎一八糎　十行　挿畫(上巻)三頁分　(中巻)二頁分　(下巻)四頁分　題簽中央後補「(書名同)上(―下)」　見返に本文同筆同上、「藤井文庫」
(奈良繪本　江戸時代初期寫　九二三・五―一三〇三)

〔寶月童子〕　寫　二冊　二五七一

袋綴　金泥下畫紺表紙　見返布目金紙　用紙金泥下畫鳥の子　三〇糎二一・五糎　十行　挿畫(上冊)十頁分　(下冊)十一頁分　題簽中央金泥下畫丹紙「およふのあま上(下)」　内題なし
(奈良繪本　江戸時代初期寫　「およふのあま二冊／繪狩野蛇足軒山雪／詞書並外題八条殿／知仁親王筆各眞蹟／最無疑候也／明治辛亥仲春／古筆／正七位湯淺了雅(印)」とある折紙を添ふ　九二三・五―一三七三)

はうさうひく　寫　二冊　二五七二

袋綴　金泥下畫紺表紙　見返金切箔散　用紙間似合紙　一六・五糎二四糎　十四行　挿畫(上冊)五頁分　(下冊)五頁分　題簽中央金泥下畫丹紙「(書名同)上

（下）」
（奈良繪本　江戸時代初期寫　九二三・五—イ三七）

ほうまん長者　寫　二冊　二五七三

袋綴　金泥下畫紺表紙　見返布目金紙　用紙金泥下畫鳥の子　三〇糎一二・五糎
十行　題簽左肩金泥横雲「（書名同）上（下）」　内題なし、「常山珍藏」等
（江戸時代初期寫　もと奈良繪本なりしも畫現闕　九二三・五—イ三五七）

ほうまん長者上　寫　一冊　二五七四

袋綴　金泥下畫紺表紙　見返銀切箔散　用紙鳥の子　一六糎二五糎　十三行　十七丁白紙二丁　題簽中央金泥下畫丹紙書名同　内題なし、「平出氏書室記」
（江戸時代初期寫　もと奈良繪本なりしも畫現闕　表紙右肩紙簽平出亀壽筆「土百八十七全二冊」「履」　九二三・五—イ三四五）

蓬萊山由來　二巻　二冊　二五七五

袋綴　毘沙門格子蝶鞠唐草模様黒行成表紙　二七糎一八糎　四周單邊一九糎一五糎　十行　挿畫（上巻）六頁分　（下巻）四頁分　題簽左肩雙邊「ほうらいさん由來上」「蓬萊山ゆらい下」　柱刻「ほうらい　上（下）（丁數）」
刊記　寛文二壬辰年初春吉日／度々市兵衛開板
（九二三・五—イ二六三）

ぼろぼろのそうし　一冊　二五七六

袋綴　改裝後補栗皮色表紙　二七・五糎一八糎　十行　四十三丁　外題左肩石田元季筆朱書書名同　内題なし　柱刻「空花（丁數）」、「元」
（江戸時代初期刊　九二三・五—イ三七九）

ほん天こく　寫　一軸　二五七七

巻子本　改裝後補朽葉色織文表紙　見返金紙　用紙鳥の子　裏打雲母引　二四糎七米四三糎　題簽金泥雲引丹紙書名同　内題なし、「二萬堂」「西鶴之印」
（江戸時代初期寫　もと二四糎一五糎の袋綴奈良繪本を現裝に改む　但し挿畫現闕　九二三・五—イ二一）

松ケ枝姫物語　寫　一軸　二五七八

巻子本　梅花刺繍納戸色金襴表紙　見返金紙　用紙金泥下畫鳥の子　三三糎一二米五〇糎　一紙四八糎　挿畫六面　題簽後補書名同　内題なし
（奈良繪巻　江戸時代初期寫　脱漏多し　九二三・五—イ二三）

松風村雨由來　寫　一冊　二五七九

袋假綴　共表紙　二五糎一七糎　十行　二十二丁　外題左肩書名同　内題なし、「平出氏書室記」
奥書　天明七年　三月廿七日写之
（表紙右肩紙簽平出亀壽筆「土百七十九全一冊」「泰」　朱書異本校合多し　九二三・五—イ二六七）

まんちうのさうし　寫　二巻　二冊　二五八〇

袋綴　雲紙表紙　三二糎二二糎　九行　挿畫（上巻）十三頁分　（下巻）十一頁分
題簽左肩下畫丹紙「（書名同）上（下）」　内題なし
（奈良繪本　室町時代末期寫　九二三・五—イ八九）

水鏡附二人比丘尼　一冊　二五八一

袋綴　改裝後補栗皮色表紙　原裝栗皮色表紙　間紙を挟む　二四・五糎一八・五糎
十行　約十七字　二十丁（「水鏡」第六丁裏迄、「二人比丘尼」第六丁裏より）
原題簽左肩丹紙無記、「緑滴書屋」
（古活字版　慶長期刊　第二第八丁一部補寫　奥記に「純一休」とあり　九二三・五—イ三六九）

虫妹背物語　寫　一軸　二五八二

山田藤四郎筆　狩野幽知畫　巻子本　銀泥菊小紋紙粉色表紙　見返金銀切箔散
用紙黄唐紙　二四糎一四米八糎　一紙一米三二糎　内題なし
箱書（表）虫妹背物語御巻物（裏）享保二丁酉歳正月十五日　畫狩野幽知　詞書山田藤四郎
（奈良繪巻　九二三・五―イ三三五）

めのとのさうし　一冊　二五八三

袋綴　改装後補黒表紙　二七・五糎一九糎　十一行約二十一字　三十一丁　柱刻「（丁數）」
（古活字版　寛永期刊　十一行本　九二三・五―イ三一七）

物あらそひ　寫　一冊　二五八四

袋綴　縹色表紙　二四糎一八糎　九行　十八丁　題簽中央布目紙「（書名同）全」
内題なし
奥書　このふみいつれのおゝん時のものとさたかに／しるよしもあらす吾友淵龍大とこの七条道場金玉院／もたりしをうつしとりたるなりけりはしめに／ならの京の御時にや有けんとあれともふみの中に／源氏物語のことのあるからは今の京となりてのもの／と社みゆれ文のつゝけからもむかしのものとは見へす／おもふにちかむかしのものならしかなをしも／今かなをもちひたるにてもさ思はるゝはや／文政元紀戊寅稔長月中旬／益親寫之
（九二三・五―イ三一七）

もみちあはせ　寫　一冊　二五八五

袋綴　雲紙表紙　見返金泥下畫　用紙鳥の子　一七糎二四糎　十五行　二十四丁
題簽中央丹紙書名同　内題なし
（江戸時代初期寫　九二三・五―イ三三三）

やひやうゑねすみ　寫　一冊　二五八六

袋綴　改装後補栗皮色表紙　原装雲紙表紙　一七糎二四糎　十三行　十七丁　挿畫七頁分　題簽中央丹紙「兩人御伽双紙（此二行別筆）やひやうゑねすみ」　内題なし、「紫景文庫」
（奈良繪本　江戸時代初期寫　前闕「さてもやひやうゑ殿ハ此まゝのね／すミになりてもいかゝせんちと人さ／とへいてはやとおほしめしありき給へハ」より存す　九二三・五―イ四七）

行ひら須磨物かたり　寫　一冊　二五八七

袋綴　改装後補濃刷毛目表紙　原装縹色表紙　二六糎二〇糎　十一行　三十丁
原外題左肩「（書名同）全」　内題なし、「阿波國文庫」「不忍文庫」「黒川眞道蔵書」「黒川眞頼蔵書」「筒井文庫（紙票）」
識語　（原見返に貼紙）江戸物語トアレド松風むらさめ恋物語ノ本／也行ひら須磨物語も假題ナルベシ／己丑　池上爲二郎記
（江戸時代中期寫　九二三・五―イ三七）

ゆみつき下　寫　一冊　二五八八

袋綴　金泥下畫紺表紙　見返毘沙門格子押文銀紙　用紙間似合紙　十三行　十七丁　題簽中央金泥雲引丹紙書名同　挿畫五頁分　内題なし、「紫景文庫」
識語　（裏見返）光雲
（奈良繪本　江戸時代初期寫　九二三・五―イ三一九）

百合若物語　寫　一冊　二五八九

袋綴　改装後補毘沙門格子地牡丹唐草模様黒行成表紙　二三・五糎一七・五糎　八行　五十丁　題簽左肩「百合草若大臣」　内題なし
（室町時代末期寫　九二三・五―イ三三）

よこふえたき口　寫　一冊　二五九〇

袋綴　改装後補雲紙表紙　見返金銀切箔散　用紙鳥の子　二五糎一八糎　十一行　十五丁　挿畫（朱四周雙邊二一・五糎一五・五糎）七頁分　内題「（書名同）上下」、「栗田氏珍藏記」

（奈良繪本　江戸時代中期寫　畫致奈良繪本風より浮世繪風に近し
九二三・五―イ三三）

羅生門繪詞　寫　二軸　二五九一

巻子本　薄茶色織文表紙　見返金泥下畫　用紙金泥下畫鳥の子　三三糎　一紙六六・五糎　題簽後補「（書名同）上巻（下巻）」
（江戸時代初期寫　用紙一定紙幅のものの外に長短不定のものを多く交ふ
九二三・五―イ三三）

若衆物語付西明寺殿百首　一冊　二五九二

袋綴　改裝後補毘沙門格子地牡丹唐草模様黒行成表紙　二五糎一七・五糎　十行二十三丁　挿畫（四周單邊一九・五糎一四糎）五頁分　題簽左肩雙邊（刊）後補墨「若衆物語　全」　柱刻「（丁數）」、「兎角菴」
識語　天保十二年□　いし原求
（丹緑本　江戸時代初期刊　表紙中央下小津桂窓筆朱書「三百六十六」三十二
九二三・五―イ一七三）

江戸時代小説

阿奈於加志　寫　二巻　二冊　二五九三

澤田名垂著　三村清三郎筆　自序　文政五年壬午水無月清原氏女跋　袋綴　澁格子引布目表紙　間紙を挟む　二六・五糎一八・五糎　十行　外題左肩「あなおかし上(下)」、「仁知奇観之幅中」「粋橋人」
奥書　この書の著者ノ會津の人にて澤田名垂といふ父は泰藏名英司ノ母は長谷川氏名垂は安永四年四月生る幼名友ノ治また蕃後に新右衛門と称す木隱翁また和氣ノ東躬と号す中略ノ明治壬寅九月於伊勢津城塔世橋南寓居應ノ文行堂主人囑竹清主人宮山喬識
（九二三・六―イ九）

怪世談　寫　八冊　二五九四

荒木田麗女著　安永七戊年ふゆ霜月自序　袋綴　青布目表紙　二三・五糎一七糎　十行　外題左肩「（書名同）一（―八終）」　内題なし、「西莊文庫（小津桂窓筆「花三十全八」と墨書せる紙箋に捺印）」
（巻八末に別紙繼紙別筆「安永甲午夜長月井蛙齋後序」「己午のとし秋　荒木田氏女跋」小津桂窓筆「紫山荒木田氏弄翰目録」及び同上筆「山田の檜垣麗女は本居翁と同し時代の人なりしかと同し翁の／教にしたかはさりしにてその氣性をしるへくはたその文のよにすくれ／たるにてもさこそとおもはるゝなりされとその文のよにすくれたるを／しる人のまれなりしにすきしとし江戸の清水濱臣か山田に／來りし時その遺稿を見出ことのほかめてくつかへりてその中に／藤の嵐をゑりまにきすへきよしわれにもかたりてその書をもちか／へるを見せたりしかほとなくその人は古人となりてそのことはた／さゝりしはをしきことなりわれこの人の（ママ）の文をふかくかんするが／あまり遺稿を心にかけてあなくりもとむれともおほかたその名／はかりにてその書を見す藏書となせるはその中の十か一にも／たらさる中に怪世談はすきしとし山田の杉村光基か藏／本をかりてうつしたりしかるにその後同し人の著述目録／を見るにこの書三十段の目録をしるしたるにそのうつし／たる本ははつかに十二段にて中略こたひ三十段の全本をはからす／も得てその著述目録にあはせみるにその段のつひてもよくあへる／かいとうれしくてもとの本ともあハせみるに本文ハことなることなけれと序文たかひて又跋に著述目録ありされはその三くさを／こゝにしるして異同をみるたよりとせりつら／＼案するにこの／書はしめは十二段なりしをさらに十八段を後につゝりそへて／そのをり序文をかへ跋ははふきたるなるへし多年をへて／かく全書を得たるはいとよろこはしきまゝにそのよしいさゝか／かきつけて西莊文庫にをさむるものなり／天保十二年七月　雜學菴主人」とある一文を附録　九二三・六―イ一五）

戯作者小傳　寫　一冊　二五九五

岩本活東子補訂　安政三年十二月下旬無物老人覺（達摩屋五一）序　袋綴　水色布目表紙　二七糎一八・五糎　九行小雙行　四十八丁　題簽左肩雙邊（刊）「（書名同）完」、「來ミ文庫」「齋藤文庫」

議語　此戯作者小傳は世に稀〳〵なる書なれと予二本を〳〵藏せりなれとも兩種とも〳〵誤字多くしてわつらは〳〵しけれはあちこちをあ〳〵らため或は補ひて此道の〳〵友たる六瓢菴主人へおくる〳〵來ミ（印）
（朱書訂正頭注を施す　巻初に「燕石十種二輯一之巻〳〵戯作者小傳江戸書肆　活東子補訂」とあり　序末に「燕石十種二輯書目」を載す　九二三・六―イ三）

小犬つれ〳〵　一冊　二五九六

（山東京傳著　袋綴　薄青布目表紙　一六糎一一・五糎　四周單邊一一・五糎九糎　六行　三十七丁　挿畫九頁分　題簽中央後補黄紙墨書名同　内題なし　綴目「（丁數）」
（「白鴎老納識〳〵醉齋野老書」とある跋一丁を附す　九二三・六―イ二）

はこやのひめごと　二篇　二冊　二五九七

黒澤翁滿著　自序（初・後篇）　自跋　袋綴　網目押文雲母引雲紙表紙　二五・五糎一八糎　十行　題簽中央薄紅紙「藐姑射秘言　初編（はこやのひめごと　後編）」　初篇見返黄紙「藐姑射秘言」　柱刻「はこや初（後）編　（丁數）」
（九二三・六―イ七）

訪書雜錄　寫　二冊　二五九八

忍頂寺務著　自筆　ペン書（一部毛筆）　袋綴　改裝後補紺表紙　二四・五糎一七糎　四百字詰原稿用紙　外題左肩黒「（書名同）一（―二）」
（「吉原よぶこ鳥の發見」等十七項目を所収　九二三・六―イ九）

名著文庫解題　寫　一冊　二五九九

幸田露伴著　自筆　ペン書　袋綴　改裝後補鐵色表紙　間紙を挟む　二一・五糎一七・五糎　原寸二一・五糎一五・五糎　四周雙邊十一行朱罫原稿用紙　七丁　十三枚　題簽左肩後補墨「七偏人　大岡政談解題　露伴翁自筆草稿」　内題「妙竹林話七偏人」「大岡政談」
奥書（七偏人）大正元年　晩夏〳〵露伴學人識　壬子（朱）

（大岡政談）辛亥秋日　露伴学人識
（各頁「露伴全集第九巻」との印あり　昭和五年岩波版全集本原稿　九二三・六―イ七）

○

異國物語　三巻　三冊　二六〇〇

袋綴　菊唐草文摺出縹色表紙　二六・五糎一八糎　四周雙邊一九・五糎一五糎　十一行　略々各葉挿畫入　題簽左肩雙邊「（書名同）上（―下）」　綴目「上（―下）（丁數）」、「殘花書屋」等
刊記　萬治元戊戌歳九月日〳〵野田庄右衛門
（九二三・六―イ九五）

因果物語　六巻　三冊　二六〇一

鈴木正三著　序　袋綴　縹色表紙　二五糎一八糎　四周單邊二一糎一六糎（第三冊）四周雙邊二〇・五糎一五・五糎　十一行　挿畫（巻一）五頁分　（巻二）三頁分　（巻三）四頁分　（巻四至巻六）各三頁分　題簽左肩雙邊「新板　因入（書名同）一」（第二・三冊缺）　目録題書名同　柱刻「因語巻一（―四）・因果物語巻五（六）　（丁數）」、「石田文庫」「元」
刊記　堀川通錢屋開板
（第三冊裏見返に「京都書林〳〵寺町通松原上ル町西側　菊屋七郎兵衛〳〵板行」とあるを用ふ　内題の下に「正三道人聞書」とあり　九二三・六―イ二）

魚太平記　三巻　三冊　二六〇二

袋綴　改裝後補縹色表紙　間紙を挟む　二六糎一八糎　八行　挿畫（四周單邊二一・五糎一五・五糎）（上巻）五頁分　（中巻）四頁分　（下巻）四頁分　題簽左肩雙邊「海魚太平記繪　上（下）（海河）うを太平記繪　中」　柱刻「（丁數）」、「兎角菴」
（表紙右肩に小津桂窓筆朱書「□二百八十一」　九二三・六―イ五）

うらみのすけ　二巻　一冊　二六〇三

袋綴　栗皮色表紙　用紙裏打　二六糎一七・五糎　十行　約十九字　六十二丁

題簽左肩「（書名同）全（此一字補墨）」綴目「上（下）（丁數）」、「兎角亀」
（古活字版　寛永期刊　表紙右肩に小津桂窓筆「百廿七」同左下朱書「つ」古典文庫所収「近世文藝資料七」横山重・森武之助編「初期假名草子集」―参照
九二三・六一―イ三七）

江都摸様　寫　一冊　二六〇四

袋假綴　共表紙　一五・五糎二二糎　十行　二十丁　外題左肩「（書名同）全」内題なし
識語（裏表紙）反古之中より見出し／しよしするもの也／中野氏
（江戸時代初期寫　九二三・六一―イ一〇五）

大坂物語　寫　一冊　二六〇五

袋綴　改裝後補澁刷毛目表紙　原裝共表紙　用紙裏打　二三・五糎二〇・五糎　十三行　二十五丁　原外題中央「（書名同）上下」内題なし
（江戸時代初期寫　原に「慶長廿年／乙卯五月七日」と奥書あるものの寫
九二三・六一―イ七三）

大坂物語　二巻　合一冊　二六〇六

袋綴　縹色表紙　二六糎一八・五糎　四周雙邊二〇・五糎一六糎　十二行　挿畫（上冊）七頁分　（下冊）五頁分　題簽左肩闕　柱刻「大坂　上（下）（丁數）」、「濃州表佐飯沼氏收藏書」
刊記　慶安己丑下夏
（九二三・六一―イ二五）

女五經　五巻　五冊　二六〇七

袋綴　毘沙門格子卷龍砥粉色表紙　二五・五糎一八・五糎　四周單邊二二糎一五・五糎　十三行　挿畫（卷一）七頁分（卷二）五頁分（卷三）九頁分　（卷四）六頁分　（卷五）七頁分　題簽中央雙邊「新板あかし物かたり□繪口（新板）明石もの語繪入四・新板阿賀志物語繪入五）」（卷二・三闕）　尾題「あかし物語」　柱刻「（書名同）卷ノ一（―五）（丁數）」、「紫景文庫」
刊記　延寶九稔酉九月上澣日／松會三四郎新板
（内題の下に「あかし物語／春秋（詩經上・下・禮記　全）」とあり　九二三・六一―イ二三）

をんな仁義物語　二巻　二冊　二六〇八

袋綴　改裝後補縹色表紙　二六糎一八糎　四周單邊二二・五糎一五・五糎　十四行　挿畫（上冊）六頁分　（下冊）五頁分　尾題「をんなじんぎ物語」　柱刻「しんき上（下）（丁數）」、「照山文庫」「二世釣月軒藏本」等
刊記　松會衛開板
識語（裏見返附箋）此本同板別本ニ万治二年トあり／今慶應三丁卯年迄二百八年之むかしのさまを見るべし
（九二三・六一―イ二七）

海上物語　二巻　二冊　二六〇九

惠中著　袋綴　改裝後補下畫紺表紙　用紙裏打　二六・五糎一七・五糎　九行　挿畫（各卷）十頁分　題簽中央金泥下畫後補藤井紫影筆「（書名同）上（下）」　柱刻「海上（下）（丁數）」、「不羈齋圖書記」「紫景文庫」
刊記　寛文六丙午年弥生上旬／寺町二条上ル町堤六左衛門板行
識語（上冊）永炭道人藏書（印）
（卷末に墨書「寛文壬子黄梅十五寅於鎌倉／長徳山野書此判」とある「相州鎌倉覺恩寺十二神之判」一丁を附録　九二三・六一―イ二七）

海上物語　二巻　二冊　二六一〇

惠中著　袋綴　鶯色表紙　二五糎一七・五糎　九行　挿畫（各卷）十頁分　題簽左肩雙邊「（書名同）上（下）」　柱刻「海上（下）（丁數）」、「藤誠齋」
刊記　寛文六丙午年弥生上旬／山本平左衛門板行
（九二三・六一―イ一七九）

怪談錄前集　五巻　五冊　二六一一

松月堂不角著　自序　袋綴　縹色表紙　二三・五糎一六糎　四周單邊一八糎一三

・五糎　十行　挿畫(巻一)十二頁分(巻二)十頁分(巻三)十頁分(巻四)八頁分(巻五)十頁分　題簽左肩單邊「漢考(書名同)　綸入」(一—五)」　目録題「漢考怪談前集」　内題「怪談一　巻之一前集」「怪談録　巻之二(—五)前集」　柱刻「怪談一(—五)　巻(丁數)」

(九三・六一—イ五)

河海物語　寫　一冊　二六一三

袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草押文紺行成表紙　一五・五糎二三糎　十六行　十五丁　題簽左肩後補書名同　内題なし、「嘉」「福住」「道祐」

奥書　尾張中納言様御醫者／小見山道休□之

(江戸時代初期寫　朱書校合す　九三・六—イ一〇三)

可笑記　五巻　五冊　二六一四

如儡子著　自序　縹色表紙　二八糎一八・五糎　四周單邊二一・五糎一六糎　十二行　題簽左肩雙邊(第四冊のみ存)書名同　外題左肩墨「(書名同)二(—五)」　柱刻「可笑一(—五)(丁數)」、「石田文庫」

奥書　于時寛永十三／孟陽中韓江城之旅泊身筆作之

(九三・六—イ一五)

堅田物語　一冊　二六一五

中村重吉著　袋綴　茶色表紙　二三糎一六糎　七行　十六丁　題簽中央雙邊「江州(書名同)全」　柱刻「堅田(丁數)」

奥書　天和三癸亥年十一月吉日／堅田住　中村氏重吉書之

(九三・六一—イ一四五)

鴨長明寝覺物語　五巻　合一冊　二六一六

自序　袋綴　水色表紙　二三糎一六・五糎　四周單邊一七・五糎一三糎　十行　八十一丁　挿畫(巻一)六頁分(巻二)六頁分(巻三)四頁分(巻四)五頁分(巻五)五頁分　題簽中央「長明寝覺物語」　柱刻「鴨序・一(—五)(丁數)」、「兎角菴」

刊記　嵗貞享二乙丑年中冬吉日／攝州大坂書林／南三郎兵衛／荻野八郎兵衛

(表紙右肩小津桂窓筆朱書「二百廿七」　同左下「と」　九三・六一—イ四七)

枯杭集　六巻　六冊　二六一八

序　袋綴　毘沙門格子牡丹唐草模様黒行成表紙　二七・五糎一八糎　四周單邊二二糎一五・五糎　十行　挿畫(巻一)十頁分　(巻二)十頁分　(巻三)八頁分　(巻四)八頁分　(巻五)十四頁分　(巻六)十頁分　題簽左肩雙邊「(書名同)　一(—六終)」　柱刻「(書名同)　第一(—第六)　(丁數)」、「西莊文庫(小津桂窓筆「花百六十□全六」と墨書せる紙片に捺印)」、「兎角菴」

刊記　寛文八戊申年皐月吉祥／村上三郎兵衛開板

(九三・六一—イ六一)

堪忍記　八巻　合一冊　二六一七

淺井了意著　自序　袋綴　改裝薄茶色表紙　二五・五糎一九糎　四周單邊二二糎一六糎　十三行　挿畫(巻一)六頁分　(巻二)八頁分　(巻三)五頁分　(巻四)七頁分　(巻五)五頁分　(巻六)四頁分　(巻七)五頁分　(巻八)七頁分　題簽左肩雙邊「(書名同)　巻□全(此一字墨)」　柱刻「(書名同)　巻一(—八)　(丁數)」

刊記　書肆美濃屋彦兵衛繍梓

(表紙左肩に小津桂窓筆朱書「廿／五百十六」　九三・六—イ五)

堪忍記　六巻　合三冊　闕　二六一八

淺井了意著　自序　袋綴　毘沙門格子牡丹唐草模様縹色行成表紙　二七糎一八・五糎　四周單邊二二糎一七糎　十三行　挿畫(巻一)六頁分　(巻二)八頁分　(巻三)五頁分　(巻四)七頁分　(巻五)五頁分　(巻六)四頁分　題簽左肩雙邊「(書名同)　巻一(三・五)(第一冊「一」字の上に「壱ノ二」第二冊「三」字の下に「ノ四」第三冊「五」字の下に「ノ六」と墨書)」　柱刻「(書名同)　巻一(—巻六)　(丁數)」

(巻七・八闕　九三・六—イ三七)

堪忍記女鑑　三巻　合一冊　二六一九

〔淺井了意〕著　袋綴　改裝後補紺表紙　二六・五糎一九糎　四周單邊二二糎一

六・五糎　十五行　五十三丁　挿畫（上巻）四頁分（中巻）四頁分（下巻）五頁分　外題左肩小津桂窓筆朱書名同　目録題同上　内題なし　柱刻「忍上（一下）（丁數）」

刊記　寛文十一辛亥歳玄月吉旦／江戸大傳馬三町目鱗形屋板

（外題の上に小津桂窓筆朱書「十九　四百八十九」　九二三・六一―イ四二）

奇異雑談集　六巻　六冊　二六二〇

袋綴　薄紙粉色表紙　二二・五糎一六糎　四周單邊一九・五糎一三・五糎　十一行　挿畫（巻一）六頁分（巻二）五頁分（巻三）三頁分（巻四）三頁分（巻五）三頁分（巻六）三頁分　題簽左肩後補水色紙墨「奇異雑談　一（―六）」　第一冊扉見返薄茶色摺封面「和漢奇異雑談集／洛陽書肆柳枝軒藏板（印）（陰刻）」　柱刻「奇異　巻一（―巻六）（丁數）」、「千葉文庫」

刊記　貞享四年歳在丁卯／孟春穀日／江都富野治左衛門／京上茨木多左衛門／繍梓

（九二三・六一―イ九一）

宜應文物語　一冊　二六二一

袋綴　改装後補紺表紙　用紙裏打　二七・五糎一九糎　十一行　三十四丁　題簽左肩後補薄紅紙墨「（書名同）寛永古板」　目録題書名同　内題なし　柱刻「（丁數）」、「兎角菴」

刊記　上京北野通般舟院東町／井上茂兵衛開板

（九二三・六一―イ四五）

祇園物語　二巻　二冊　二六二二

清水修行著　袋綴　菱目模様丹行成表紙　二七・五糎一九・五糎　十一行　題簽左肩「（書名同）上（下）（丁數）」、「元」　柱刻「祇上（下）（丁數）」、「元」

（天理圖書館藏近世文學未刊本叢書所収「假名草子篇」―參照　九二三・六一―イ一六五）

清水物語　二巻　二冊　二六二三

朝山意林庵著　自序　袋綴　毘沙門格子菱目模様黒行成表紙　二七糎一八糎　十一行　題簽左肩書名同　内題「（書名同）上（清水物語下向）」　柱刻「清水上（下）（丁數）」

刊記　寛永拾五戊寅十月吉日開之

（九二三・六一―イ二九）

清水物語　二巻　二冊　二六二四

朝山意林庵著　自序　袋綴　栗皮色表紙　二七糎一七・五糎　十一行　題簽左肩後補墨「（書名同）上（下）」　内題「（書名同）上　（清水物語下向）」　柱刻「清水上（下）（丁數）」、「元」

刊記　寛永拾五戊寅十月吉日開之

（天理圖書館藏近世文學未刊本叢書所収「假名草子篇」―參照　九二三・六一―イ一七五）

吉利支丹物語　二巻　合一冊　闕　二六二五

袋綴　改装後補毘沙門格子牡丹唐草模様縹色行成表紙　二七・五糎一七糎　八行　五十二丁　題簽左肩闕　目録題書名同　内題なし　柱刻「吉上（下）（丁數）」

刊記　寛永十六己卯稔八月吉祥日

（中巻闕　九二三・六一―二〇七）

悔草　三巻　三冊　二六二六

井上小左衛門著　自序　袋綴　縹色表紙　二七・五糎一八糎　十一行　題簽左肩後補墨「□上」「（書名同）中（下）」　目録題書名同　内題なし　柱刻「（書名同）上（一下）（丁數）」

刊記　正保四歳次丁亥初秋日／柳馬場二条下町　吉野屋開板

識語（第一冊表見返）（朱書）　本書に「延寶八庚申歳二月仲旬松會開板」の江戸あり綸入／にして自己問答と改題せられたり／後悔くやむ等の語をハはぶきたり　昭和十六年一月十一日　菜色子

（九二三・六一―イ一六一）

賢女物語　五巻　五冊　二六二七

滿女著　自序　袋綴　改装後補栗皮色表紙　二五糎一七糎　四周單邊二一糎一五

・五糎　十一行　挿畫(巻一)七頁分　(巻二)六頁分　(巻三)七頁分　(巻四)八頁分　(巻五)八頁分　序題・目録題書名同　柱刻「女孝一(—五)(丁數)」

刊記　寛文九己酉年初夏吉辰／洛陽寺町　秋田屋五郎兵衛板行

(序末に「洛下芳菊軒某母滿書焉」とあり　巻一目録題下に「親孝之部」巻三同「姑孝之部」巻四同「夫節之部」とあり　九三・六—イ一五五)

古老軍物語　六巻　六冊　二六二八

袋綴　毘沙門格子牡丹唐草模様縹色行成表紙　二六糎一八糎　四周單邊二一糎一六・五糎　十一行　挿畫(巻一)八頁分　(巻二)十頁分　(巻三)十二頁分　(巻四)十頁分　(巻五)十四頁分　(巻六)十五頁分　題簽左肩雙邊「古老物語一(—六)」　柱刻「軍物語一(—六)(丁數)」

刊記　萬治第四辛丑　三月吉日／荒木利兵衛開板

識語　(第一冊表見返)　此書全六冊／天保十三寅十二月十九日夕方／松月ゟ買取　三省藏書トス

(九三・六—イ一六三)

七人ひくに　三巻　三冊　二六二九

袋綴　毘沙門格子牡丹唐草模様黒行成表紙　二五・五糎一七糎　十行　挿畫(四周單邊一九糎一五糎)(上冊)十一頁分　(中冊)五頁分　(下冊)十七頁分　題簽左肩「(書名同)上—下」　柱刻「七尼　上(—下)(丁數)」、「紫影」

(九三・六—イ一三三)

諸鳥花見　寫　一冊　二六三〇

袋綴　砥粉色表紙　二四糎一七・五糎　九行　二十六丁　題簽左肩後補「(書名同)單」、「紫景文庫」

識語　延享三丙寅／中夏日

(江戸時代中期寫　九三・六—イ六三)

ちんてき問答　一冊　二六三一

袋綴　改裝後補茶色表紙　二〇・五糎一四糎　十行　四十三丁　柱刻「ちんてき(丁數)」

(江戸時代初期刊　九三・六—イ一五五)

ちんてき問答　一冊　二六三二

袋綴　栗皮色表紙　二七・五糎一九糎　十二行　三十五丁　柱刻「ちんてき(丁數)」

(江戸時代初期刊　九三・六—イ一五五)

心友記　二巻　合一冊　二六三三

袋綴　改裝後補紺表紙　二七・五糎一五・七糎　四周單邊一九糎一五糎　十行　二十五丁　題簽左肩後補石田元季筆「(書名同)上下合」　柱刻「衆道上(下)(丁數)」、「元」

刊記　寛永廿年癸未仲秋吉辰

(九三・六—イ一五五)

水鳥記　三巻　合一冊　二六三四

地黄坊樽次著　自序　袋綴　改裝薄縹色表紙　二六・五糎一八・五糎　四周單邊二二・五糎一六糎　十五行　四十一丁　挿畫(上巻)五頁分　(中巻)三頁分　(下巻)四頁分　題簽左肩雙邊「新板(書名同)下」　柱刻「水上(—下)(丁數)」

刊記　三月吉日(雙邊木記)　松會開板

(表紙左下に小津桂窓筆朱書「二百七十九て」　九三・六—イ四九)

水鳥記　二巻　合一冊　二六三五

地黄坊樽次著　自序　袋綴　改裝後補麻葉模様水色行成表紙　二七糎一九糎　四周單邊二〇・五糎一五・五糎　十行　八十二丁　挿畫(上巻)十一頁分　(下巻)二十二頁分　題簽左肩雙邊「(書名同)上」　柱刻「(書名同)上(下)(丁數)」、「兎角菴」

刊記　寛文七年五月吉日／寺町三条下ル町中村五兵衛

（表紙右肩に小津桂窓筆朱書「三　二百八十三」九一三・六一―イ五一）

杉楊枝　六巻　六冊　二六三六

里木予一著　延寶七の年孟陽仲澣自序　跋　袋綴　砥粉色表紙　二二・五糎一六糎　四周單邊一六・五糎一二糎　十行　挿畫（巻一）五頁分（巻二）五頁分（巻三）七頁分（巻四）七頁分（巻五）六頁分（巻六）五頁分　外題後補墨「（書名同）一（―六）」　柱刻「杉一（―六）（丁數）」

刊記　元祿十四年辛巳五月吉日　江戸日本橋万町万屋清四郎

識語　（第五冊）今井藏書

（九一三・六一―イ一一三）

杉楊枝　六巻　六冊　二六三七

里木予一著　延寶七の年孟陽仲澣自序　跋　袋綴　縹色表紙　二二糎一五・五糎　四周單邊一六・五糎一二糎　十行　挿畫（巻一）五頁分（巻二）五頁分（巻三）七頁分（巻四）七頁分（巻五）六頁分（巻六）五頁分　題簽左肩後補石田元季筆「（書名同）一（―六）」　目録題書名同　柱刻「杉一（―六）（丁數）」

刊記　延宝八年孟春日／江戸通新兩替町三丁目　林文藏板行

（九一三・六一―イ一一五）

續可笑記　五巻　五冊　二六三八

淺井了意著　袋綴　水色表紙　二六糎一八・五糎　四周單邊二二・五糎一六糎　十四行　挿畫（巻一）七頁分（巻二）四頁分（巻三）七頁分（巻四）五頁分（巻五）四頁分　題簽左肩雙邊（刊）後補墨「（書名同）一（―五）（第二冊以下薄紅紙單邊）」

柱刻「浮世　巻一（―五）（丁數）」、「平出氏書室記」「兎角菴」等

刊記　（見返中央）續可笑記全部五冊（左）寶暦七年乙丑春正月発行／攝陽書肆　定榮堂

（第五巻）書肆　定榮堂／大坂　心齋橋南四丁目東側　吉文字屋市兵衛／　同安土町北へ入ル西側　同　源十郎

／江戸　日本橋南三丁目西側　同　治郎兵衛

識語　（第一冊表見返紙箋）此書はむかしのおもしろ／おかしき事を書し本也

（本文末に「元文二年／巳孟春／　心齋橋筋南久宝寺町　丹波屋理兵衛／　道具屋町筋順慶町　田原屋平兵衛／求板」とあるものの求版本　表紙右紙箋貼附「水二共五冊」「比」

九一三・六一―イ五五）

大佛物語　二巻　二冊　二六三九

袋綴　黒表紙　二六・五糎一八糎　四周單邊二一糎一六糎　十行　尾題「大仏物語」　柱刻「大上（下）（丁數）」

刊記　寛永廿一年暮春吉日

（九一三・六一―イ一四七）

大佛物語　二巻　合一冊　二六四〇

袋綴　改裝後補水色布目表紙　二七・五糎一八糎　四周單邊二一・五糎　一五・五糎　十行　五十一丁　題簽左肩後補墨「（書名同）完」　尾題「大仏物語」　柱刻「大上（下）（丁數）」、「元」等

刊記　寛永廿一年暮春吉日

（九一三・六一―イ一四九）

竹齋　二巻　二冊　二六四一

袋綴　栗皮色表紙　二七糎一八・五糎　十一行　挿畫（四周單邊二〇・五糎一六糎）（上冊）十三頁分（下冊）十三頁分　題簽左肩（上冊）後補墨「（書名同）上」（下冊）同雙邊「（書名同）下」　内題なし　柱刻「（書名同）上（下）（丁數）」「紫景文庫」（九一三・六一―イ一六七）

月見の友　二巻追加一巻　三冊　二六四二

元祿午名月の日序　袋綴　縹色表紙　二六・五糎一八・五糎　四周單邊二一糎一五・五糎　十行　題簽左肩藍下畫「（書名同）上（下・追加）」　柱刻「月見の友　序（巻上・下）（丁數）」、「紫景文庫」

（追加巻奥に「于時寛文七夏上旬洛下松雲子了意書」とあり　第一冊序末に「附後に小冊を加是（フレ）ハ松雲子了意の作なり本の題号ハ／あかうそといふ月見の友の御伽に追加する所也」とあり　追加巻裏見返紙箋に野間光辰筆「帝國圖書館本／題

簽『犬つれ〳〵草 月見の友 追加』／追加之奥に左之如き刊記あり／元祿十六癸未年二月吉旦／大坂三休橋筋清水町角 本屋又兵衛」とあり　前二巻所々に藤井乙男筆續清水物語との朱書校合あり　九二三・六—イ二三）

東海道名所記　六巻　六冊　二六四三

淺井了意著　袋綴　改裝後補毘沙門格子牡丹唐草模様標色行成表紙　二六・五糎　一八・五糎　四周雙邊二一糎一六糎　十二行　挿畫（巻一）十三頁分（巻二）十一頁分（巻三）十頁分（巻四）七頁分（巻五）七頁分（巻六）七頁分　題簽左肩雙邊後補墨「東海道名所記一（江戸より大磯まで）（同二小田原より江尻まで）・同三（府中より吉よし田まで）・同四（こゆより庄野まで）・同五（山しなより亀山より山科まで）・同六（京まはり）（宇治まで）」　内題同上　柱刻「道行一（—六）（丁數）」、「濱田藏印」「笹野氏藏」「高木家藏」

（九二三・六—イ五五）

宿直種　三巻　三冊　二六四四

自序　袋綴　標色表紙　二六・五糎一八・五糎　四周單邊二一糎一六糎　十四行　挿畫（上巻）四頁分（中巻）九頁分（下巻）四頁分　題簽左肩後補茶色紙墨「宿直草　一（怪談とのゐくさ　二・三）」　目録題「宿直草」　内題「（書名同）　巻一（宿直草巻二・三）」　柱刻「宿直草　巻一（—三）（丁數）」

（九二三・六—イ五三）

とはすがたり　三巻　合一冊　二六四五

袋綴　改裝後補標色表紙　二七糎一八・五糎　四周單邊二一糎一六・五糎　十五行　四十四丁　挿畫（各巻）各四頁分　目録題「（書名同）　上（—下）」　柱刻「子　上（—下）（丁數）」

（九二三・六—イ四三）

なまさとり　寫　一冊　二六四六

綴葉裝帳綴　共表紙　一四・五糎二二糎　十三行　十二丁白紙一丁　外題左肩書名同　内題なし

（江戸時代初期寫　九二三・六—イ二九）

廿三問答　一冊　二六四七

袋綴　栗皮色表紙　二八・五糎一九糎　十一行約二十一字　四十四丁　題簽左肩後補墨「（書名同）　祐」　柱刻「（丁數）」

（古活字版　寛永期刊　表紙右肩に小津桂窓筆朱書「四　三百廿三」　左下同「月」　九二三・六—イ九三）

仁勢物語　二巻　二冊　二六四八

袋綴　紺表紙　二七・五糎一九・五糎　十二行　挿畫（四周單邊一八・五糎一四・五糎）（上巻）十六頁分　（下巻）十六頁分　題簽左肩雙邊「（書名同）　上（下）」　内題なし　綴目「上（下）ノ（丁數）」、「臙庫」「蘭臺倉」等

（九二三・六—イ七一）

似勢物語　寫　一冊　二六四九

似入齋筆　袋綴　栗皮色包表紙　二二・五糎一六糎　九行　百二十三丁　題簽中央「（書名同）（貞德）」　扉題「（書名同）（松永貞德翁作）」　内題なし　奥書　元祿十六未之秋菊月上三日老のこゝろなくさみに／光陰むなしく暮すも人間に生れたるかひもなき／おもひ出に愚毫染置者欤呵〻□堂似入齋六十四歳

（九二三・六—イ七三）

二人比丘尼　一冊　二六五〇

鈴木正三著　袋綴　砥粉色表紙　二七・五糎一九糎　九行　三十九丁　四周單邊一九糎一六糎　挿畫二十四頁分　題簽左肩雙邊「新刻（書名同）」　柱刻「丘（丁數）」、「兎角巻」　刊記　山本平左衛門

（九二三・六—イ四三）

日本名女物語　五巻　五冊　二六五二

自序　袋綴　毘沙門格子巻龍文朽葉色表紙　二七・五糎一八・五糎　四周單邊二三糎一六糎　十四行　挿畫（巻一）十頁分（巻二）八頁分（巻三）九頁分（巻四）六頁分（巻五）十頁分　題簽左肩雙邊「古今名女くらべ一（一―五）」　序題・目録題「日本名女」　柱刻「名女（女）巻一（一―五）（丁數）」、「西莊文庫（小津桂窓筆「花百四十七全五」と墨書せる紙簽に捺印）」「兎角菴」　刊記（雙邊木記）松會開板　（九二三・六一―イ一五七）

彼岸記　一冊　二六五三

袋綴　毘沙門格子牡丹唐草押文黒表紙　用紙宿紙　一八・五糎一三・五糎　四周雙邊一六・五糎一一・五糎　十二行　十二丁　挿畫六頁分　題簽左肩闕　柱刻「ひかん（ひかんき）（丁數）」　刊記　七月吉日　（九二三・六一―イ一〇二）

ふしんせき　三巻　合一冊　二六五三

袋綴　改裝後補亀甲龍押文丹表紙　二四・五糎一八糎　十二行　七十七丁　副題簽中央臘箋大田南畝筆書名同　柱刻「ふ（巻）　上（一下）（丁數）」、「青山居士千巻文庫」「中靜圖書」「桂林舍」「英國薩道藏書」「英王堂藏書」　刊記　正保二乙酉年卯月吉日　識語（表紙附箋）（桂林舍筆）文政辛巳終冬所購獲九種之一（印）　（巻末朱書右同筆）文政辛巳四年ニ測ル／凡百七十二年也　（同墨書）文政癸未仲秋初五當宿中一過早　（扉）（大田南畝筆）八宗骨董／汁所闕唯／禅味　遠櫻山人　（内題の次行に「三世ものかたり」とあり　九二三・六一―イ三三）

本朝列仙傳　四巻　四冊　二六五四

田中玄順著　〔井原西鶴〕畫　貞享丙寅歳閏三月中澣自序　袋綴　水色表紙　二二糎一六糎　四周單邊一七糎一三・五糎　十行小雙行　挿畫（巻一）四頁分（巻二）十八頁分（巻三）十一頁分（巻四）三頁分　題簽左肩雙邊「（書名同）一（一―四）」　柱刻「仙一（一―四）（丁數）」、「桂氏藏書」「太宰氏改藏」　刊記　貞享三丙寅歳中冬吉辰／江戸青物町／萬屋清兵衛／大坂呉服町心齋橋筋角　池田屋／書林　岡田三郎右衛門板行　（序題次行に「攝州難波城下田中玄順編集」とあり　片假名交り　巻四末に「本朝列仙傳不審問答」十二丁を附録す　九二三・六一―イ一八一）

枕のひゞき　三巻　三冊　二六五五

方山直次著（了夢堂）自序　袋綴　縹色表紙　二二・五糎一六糎　四周單邊一八・五糎一三糎　八行小雙行　挿畫（上冊）一頁分　（中冊）四頁分　（下冊）二頁分　題簽左肩雙邊「（書名同）上（守柱之卷中・下）」　序題「枕のひゞき（守柱）」　目録題「守柱巻之中（下）」　内題（下冊）「守柱巻の下」　柱刻「ひゞき序（上）」「守柱序（中・下）（丁數）」、「兎角菴」　刊記　貞享五戊辰年季春吉旦／華雒書林／八尾市兵衛／松本九右衛門　（表紙右下小津桂窓筆朱書「四十六七百八十四」第三冊本文末に「方山氏眞次／法名妙義院宗閑居士」と記す　九二三・六一―イ一六六）

見ぬ京物語　二巻　合一冊　二六五六

自序　袋綴　毘沙門格子地牡丹唐草模様縹色行成表紙　二七糎一八糎　十一行五十八丁　挿畫（四周單邊）（上巻）八頁分　（下巻）四頁分　題簽左肩雙邊（刊）後筆「（書名同）上下」　柱刻「上（下）（丁數）」、「西莊文庫（小津桂窓筆「花弐百一全二」と墨書せる紙簽に捺印）」「兎角菴」　刊記　萬治二己亥歳九月吉日　識語　延享元年甲子／七月吉日／木戸大治良（花押）　（巻末跋に「大黒のもつつちのえ御鷹のいぬの年／九月の末のけふのなん時／洛陽散人たれそれかし」　九二三・六一―イ三九）

武者物語　三巻　三冊　二六五七

松田秀任著　袋綴　毘沙門格子牡丹唐草模様紺行成表紙　二七・五糎一九糎　四

周單邊二二糎一六糎　十四行　題簽左肩雙邊「繪入（書名同）上（一ロ）」（巻下闕）
柱刻「武者　上（一下）（丁數）」
刊記　于時承應三甲歳八月吉日／　寺町通　荒木利兵衛開板
（内題の下に「松田一樂入道秀任集之」とあり　九三・六一―イ一七）

無常重夢物語　二巻　合一冊　二六五八

〔菱川師宣〕畫　袋綴　改裝後補紙粉色表紙　用紙裏打　天地裁斷　二五・五糎一八糎　四周單邊二一・五糎一六糎　十一行　三十五丁　挿畫（上冊）五頁分（下冊）五頁分　外題左肩石田元季筆書名同　柱刻「無上（下）（丁數）」、「元」
刊語　此物語ハ池田の何がしとかやいひし人旧恩の人江／老の睡りのなぐさミに佛祖師の法語ども乎／あつめ書おくれしものがたりとてある人予にあたへ／侍る中略幸に童女の正道心得のたよりにもならんかと集／者の心も不輕名ケ三成佛得心記ト一童朦のために／令板行者也
刊記　日本橋万町本屋清兵衛板行
（九二三・六一―イ一三九）

無常重夢物語　二巻　二冊　二六五九

〔菱川師宣〕畫　袋綴　縹色表紙　二七糎一九糎　四周單邊二一・五糎一六糎　十一行　挿畫（上冊）五頁分（下冊）五頁分　題簽左肩闕　副題簽中央雙邊「（各冊所収目録）」右下墨書「（書名同）」　柱刻「無上（下）（丁數）」、「野中氏圖書」
刊語　此物語ハ池田の何がしとかやいひし人旧恩の人江／老の睡りのなぐさミに佛祖師の法語ども乎／あつめ書おくれしものがたりとてある人予にあたへ／侍る中略幸に童女の正道心得のたよりにもならんかと集／者の心も不輕名ケ三成佛得心記ト一童朦のために／令板行者也
刊記　日本橋万町本屋清兵衛板行
（九二三・六一―イ一三九）

尤之双紙　二巻　二冊　二六六〇

齋藤徳元著　序　袋綴　改裝後補辨柄色表紙　用紙裏打　二七糎一八・五糎　十一行　目録題「（書名同）　上（下）」　内題なし　柱刻「上（下）（丁數）」、「幡」「元」
刊語　此尤草紙ハ或人つれ〳〵の餘りに硯に／むかひ筆にまかせて書集ける其心／あまれりやたらすや然を忝無品親王／御覧有て事たらさるをくハへよろしきをたすけ腹に味ひて筆の究／とらせ給ふとそ
刊記　寛永甲戌六月吉日書舎中野氏道伴刊行
（九二三・六一―イ八九）

由來明鑑集　五巻　五冊　二六六一

小亀益英著　自跋　袋綴　縹色表紙　二七糎一八糎　四周單邊二一・五糎一六・五糎　十三行　挿畫（巻一）七頁分（巻二）六頁分（巻三）六頁分（巻四）十七頁分（巻五）九頁分　題簽左肩雙邊「（訓漢）繪入　由來物語　一（十五）」　目録題書名同　柱刻「明鑑集　巻一（―五）（丁數）」、「近藤氏圖書印」「慈山」
刊記　岩寛文九年／酉己四月吉日／　室町五条二町下ル堺町　小亀三左衛門益英／　四条寺町　前川茂右衛門／新刊
（刊記の下に「小亀氏市工師益英作」とあり　九三・六一―イ一五七）

理非鏡　三巻　三冊　二六六二

椋梨一雪著　袋綴　毘沙門格子牡丹唐草模様縹色行成表紙　二六・五糎一八・五糎　四周單邊二〇・五糎一五・五糎　十一行　挿畫（各巻）各五頁分　題簽左肩雙邊「理非鑑□（理非かゝみ中）」　第三冊後補墨「（書名同）　巻之下」　目録題書名同　内題なし　柱刻「理非かゝミ　上（―下）ノ（丁數）」、「いせのくにあさけのさとにはのしうち」
刊記　寛文四甲辰年五月吉日刊行
（巻末に「生所日州之住無名漂泊野人／記之」とあり　九二三・六一―イ一五九）

わすれくさのさうし　寫　一冊　二六六三

袋綴　薄紅色表紙　二七糎二一糎　十一行　三十五丁　外題左肩後筆「忘草全」
（江戸時代初期寫　九二三・六一―イ九七）

わらひ草のさうし　寫　一冊　二六六四

袋假綴　共表紙　一五・五糎二三・五糎　十一行　三十五丁　外題左肩書名同　尾

題同上　内題なし
（江戸時代初期寫　九二三・六二―イ一七七）

○

商人軍配團　五巻　五冊　二六六五

江島其磧著　川嶋信清畫　袋綴　砥粉色表紙　二五糎一八糎　四周單邊二〇糎一六糎　十一行　挿畫（巻一）六頁分（巻二）五頁分（巻三至五）各四頁分　題簽左肩雙邊「新板繪入（書名同）一（―四）」（巻五闕）　目録題書名同　内題なし　尾題「世渡軍配團」　柱刻「世渡一之巻（―五之巻）（丁數）」
刊記　千秋万歳樂／大和繪師八まん町通室町西江入町川嶋信清筆／（印）（陰刻）江嶋屋市郎左衛門板
（第一冊表見返「榮花色平家　全部六巻」第二冊同「通俗諸分床軍談　全部六巻・草行今川當世狀　全部十二冊・傾野旅葛籠　全部五巻・流艶白粉　西川祐信筆全部三巻」の豫告
口上あり　九二三・六二―イ三五三）

今源氏うつほ船　五巻　五冊　二六六六

西澤一風著　今月今日自序　袋綴　縹色表紙　二五・五糎一七糎　四周單邊一九・五糎一四・五糎　十一行　挿畫（巻一）七頁分　（巻二至五）各六頁分　題簽左肩雙邊「新板繪入今源氏うつほふね　一（五）」「今源氏空船　二（四）」「今源氏有都保婦寝三」　目録題「今源氏空船一之巻（―五之巻）」「今源氏うつほ船三之巻」　序題「今源氏空船」　内題「（書名同）一之巻」「今源氏空船二之巻（三之巻）」「今源氏うつほぶね四之巻」「今源氏うつほ舟五之巻」　柱刻「今源氏一（―五）（丁數）」、「昌川藏書」
刊記　正月吉日　寺町四条下ル町菊屋長兵衛板行
（九二三・六二―イ二五九）

色里三所世帯　寫　三巻　三冊　二六六七

井原西鶴著　袋綴　澁刷毛目表紙　用紙薄様　二六糎一九糎　五行　外題左肩

「（書名同）　京之部　大坂之部　江戸之部上（中・下）」　目録題書名同　内題なし、「紫影」
（影寫本　原に「貞享五歳戊辰六月上旬」の刊記及び「明治三十一年十一月紅葉山人／所持の寫本を借りて写了す／春城学人しるす」と奥書あるものの寫
九二三・六二―イ九二）

色里三所世帯　寫　三巻　合一冊　二六六八

井原西鶴著　村岡典嗣筆　袋綴　藍縞模様布目表紙　二四・五糎一七糎　十二行　水色罫紙　四十六丁　外題左肩書名同　扉題目録題同上　内題なし
（原に「貞享五歳戊辰六月上旬」の刊記及び「凡そ和漢の小説に猥褻なる事を巧みに記せし／は漢土にて金瓶梅及び煬帝艶史を第一とす／べし本朝にては今昔物語のうちには頗その文／多しその他春畫などは足利の末なる繪巻に／は多かるべしされどこの書の如く思のまゝに記せ／しはまれなり下略明治卅三年一月　学海居士しるす」と奥書あるものの寫　九二三・六二―イ三一五）

色縮緬百人後家　四巻　四冊　闕　二六六九

西澤一風著　今月今日自序　袋帳綴　縹色表紙　一五・五糎一二糎　四周單邊一三糎一九糎　十四行　挿畫（各巻）四頁分　題簽左肩角取雙邊「當世繪入後室色縮緬二之巻（附訓脇書略、以下同）（五之巻）」（巻一）後補墨「（書名同）　一」（巻四闕）尾題「百人後家四之巻（五之巻終）」　綴目「一巻（―五巻）百人後家（丁數）」
刊記　享保三戊戌年正月吉日／洛東三条なわて　いせや左兵衛板
（巻三闕　巻五表見返に「子宝色乘物　全部五冊・艶道色通鑑　全部三冊・全盛女長者　作者其磧全部五冊」の豫告口上を載す　九二三・六二―イ六三）

浮世壹分五厘　五巻　合一冊　二六七〇

八文字自笑著　安らけく／永き五ツのとし／はつはる月自序　袋綴　薄墨色表紙　一二・五糎一九・五糎　四周單邊九糎一四・五糎　十五行　七十七丁　挿畫（各巻）六頁分　題簽左肩雙邊「（書名同）　五」　序題書名同　内題なし　柱刻「壹（―五）（丁數）」、「兎角菴」
刊記　安永五年／申正月吉日／京ふや町せいぐわんじ下町八文字屋八左衛門板

（表紙右肩小津桂窓筆朱書「子」巻末に「八文舎蔵板目録」二葉あり
九三・六二―イ七九）

浮世親仁形氣　五巻　五冊　二六七二

江嶋其磧・八文字自笑著　鶯のはつ子の日両自序　袋帳綴　改装後補紺表紙　原装水色表紙　間紙を挟む　一六糎二二糎　四周角取単辺一三糎一九・五糎　十四行　挿畫（巻一）五頁分　（巻二至五）各四頁分　題簽左肩雙邊「（書名同）二之巻（―四之巻）（附訓脇書略、以下同）（巻一・五墨同上）」　目録題書名同　内題なし　綴目「一之巻（―五之巻）おやぢ（丁數）」、「積丸文庫」「伊達文庫」「好古癖」「壽」等
（九二・六二―イ二八九）

うきよかくれ里　三巻　三冊　闕　二六七三

袋綴　改装砥粉色表紙　二二・五糎一六糎　四周単邊一六糎一二糎　十行　五十二丁　挿畫（巻二）五頁分（巻三）九頁分（巻四）三頁分　題簽左肩闕墨「かくれさと物語　二（三）（かくれ里物語　四大尾）」　目録題「うき世かくれさと（浮世隠さと）」　内題なし　柱刻「かくれノ二（―四）（丁數）」、「田中岡書」
識語　（第一冊表紙附箋）好色大琢書／かくれ里　一之巻絶板
（巻二至四を存す　九二・六二―イ四七）

うき世噺　三巻　合一冊　二六七三

正徳四年／午ノ九月日自序　袋綴　薄水色表紙　一三糎二〇糎　四周角取単邊一・五糎一八糎　十四行　五十七丁　挿畫（上巻）六頁分　（中・下巻）各五頁分　題簽左肩後補墨書名同　目録題「數畳百八十畳／此内五十四帖八小式部が作　上ノ巻（附訓略、以下同）」「金山に蜜夫の蔓／此日に根のある若葉中ノ巻」「鏑羽の矢矧宿／此段ハ二ッ山節の浄るり姫下ノ巻」　内題なし　柱刻「上都（都中・下）（丁數）」、「兎角菴」
刊記　九月吉日　中嶋新板
（表紙左肩小津桂窓筆朱書「子」　序文年紀の右肩に「正徳四年」と墨書
九二・六二―イ八七）

おとぎ人形　六巻　六冊　二六七四

苗村松軒著　増田圓水序　袋綴　薄茶色表紙　二五・五糎一七・五糎　四周単邊二〇糎一四・五糎　十行　挿畫（各巻）四頁分　題簽左肩雙邊「新板おとき人形　二（―五）」（巻一・六闕）　目録題「御伽人形　巻之一（―六）」　内題「（書名同）一之巻（御伽人形　二之巻―六之巻）」　柱刻「おとき人形　一（―六）（丁數）」
刊記　江戸日本橋南壹町目桝屋五郎右衛門／京五条高倉西へ入町林孫兵衛
（九二・六二―イ二五）

女二十四貞　四巻　合一冊　二六七五

序　袋綴　改装後補砥粉色表紙　用紙裏打　二五・五糎一八糎　四周単邊二〇・五糎一五・五糎　十二行　挿畫（巻一）五頁分　（巻二）五頁分（巻三）四頁分（巻四）五頁分　序題・目録題「本朝女二十四貞」　尾題「本朝女二十四貞四前集」　柱刻「日本女中鑑之一（―四）（丁數）」
刊記　正徳三巳年正月吉日　江戸須藤權兵衛／大坂瀬戸物屋傳兵衛／京和泉屋茂兵衛
（刊記の前に「追付出來本朝女二十四貞後集四巻／前後八巻二十四貞也」とあり
九二・六二―イ七二）

寛濶曽我物語　十二巻　十二冊　二六七六

西澤與志著　元祿十四年初春吉祥日自序　袋綴　砥粉色表紙　二六糎一八・五糎　四周単邊二一糎一五・五糎　十二行　挿畫（各巻）七頁分　題簽左肩雙邊「新改繪入（書名同）一（二・四・五・七・八・十・十二）」「新改畫入　くわんくわつそがものがたり」（巻十一・十二）「くわんくわつ曽我物語」（ママ）　柱刻「新曽我物語（巻數）（丁數）」
刊記　元祿十四歳／巳初春吉祥日／大坂南本町弐丁目万屋／仁兵衛板／大坂高麗橋筋西油屋藤七良開板
（序文末に「書林西澤氏／集樂軒」と記す　九二・六二―イ三七）

近代長者鑑　五巻　五冊　二六七七

落月堂操巵著　正徳四甲午稔七夕の夜自序　袋綴　砥粉色表紙　二五糎一七・五糎

四周單邊二〇糎一四・五糎　十一行　挿畫(各巻)各四頁分　題簽左肩剝脱後に墨書「(書名同)二(—五)」　柱刻「巻之一(—巻之五)(丁數)」

刊記　正徳四年甲午菊月吉祥日／書林　京都一條通　茨木屋久兵衛梓行

(第一冊表見返上段に挿畫、下段中央に「近代長者鑑」とありてその左右に各巻目録ありて末行に「全部五巻茨木屋久兵衛板行」とあり　巻五末「世間比事枕全部五冊」の豫告口上あり　九一三・六二—イ二九一)

近代艶隱者　五巻　四冊　二六七八

西鶯軒橋泉著　井原西鶴序　同上畫　袋綴　薄茶色表紙　用紙裏打　二七糎一九糎　四周單邊一九・五糎一六・五糎　十二行　挿畫(巻一)九頁分(巻二至五)各八頁分　題簽中央雙邊「扶桑(書名同)花(鳥・風・月)(此四字補筆墨書)」　目録題「(書名同)巻一・二(—五)(巻二以下破りて各二・三・四・五と補筆墨書)」　内題なし　柱刻「近代一(—五)(丁數)」、「兎角菴」等

刊記　貞享三丙寅歳／孟春良辰／書肆　攝陽順慶町心齋橋筋角　河内屋善兵衛刊

(表紙右肩小津桂窓筆「ツ」　九一三・六二—イ九三)

禁短氣次編　五巻　合一冊　二六七九

八文字自笑著　めでたきはる自序　袋帳綴　薄茶色表紙　一五・五糎二二糎　四周單邊三・五糎一九・五糎　十四行　六十二丁　挿畫(巻二至五)各二頁分　題簽左肩雙邊「(書名同)二之巻」　目録題書名同　内題なし　綴目「禁次偏一之巻(—五之巻)(丁數)」、「兎角菴」

刊記　明和貳年／酉正月吉日／靄鱗堂　江戸大傳馬町三丁目　山野孫兵衛板

(表紙右肩小津桂窓筆朱書「子」　巻一第三至五丁、同第十二・十三丁破損　巻五末「禁短氣三扁　ひらかな繪入　全部五冊」の近刊豫告口上あり　九一三・六二—イ八一)

近年諸國咄大下馬　五巻　合二冊　二六八〇

井原西鶴著　自畫　袋綴　改裝後補紺表紙　用紙裏打　二五・五糎一七・五糎　四周單邊一九糎一四糎　十行　挿畫(巻一)十一頁分(巻二)十頁分(巻三)九頁分(巻四)九頁分(巻五)八頁分　目録題「(書名同)巻二(—巻五)」　内題なし　柱刻「大一(—五)(丁數)」

(巻一序目録各一丁闕、同第十三丁大破、巻五第十六・十七丁闕　九一三・六二—イ四九)

近年諸國咄大下馬　五巻　五冊　二六八一

井原西鶴著　自畫　自序　袋綴　改裝後補毘沙門格子巻龍文鶯色表紙　(巻二)用紙裏打天地裁斷　二五糎一七糎　四周單邊一九糎一四糎　十行　挿畫(巻一)十一頁分(巻二)十頁分(巻三至五)各九頁分　題簽中央雙邊「繪入西靄諸國はなし一(—五)(二—五墨書)」　目録題書名同　内題なし　柱刻「大一(—五)(丁數)」、「能州輪嶋木下與次兵衛」「兎角菴」

刊記　貞享二年丑正月吉日／大坂伏見呉服町眞齋橋筋角　池田屋三良右衛門開板

(巻一・三・四・五と巻二の取合せ本　第一冊表紙「四冊之内／木下氏」とあり　九一三・六二—イ一〇一)

けいせい色三味線　五巻　五冊　二六八二

江島其磧著　自序　袋綴　薄茶色表紙　一二・五糎一八・五糎　四周單邊一一糎一七糎　十五行　挿畫(巻一・二)各十四頁分(巻三)十三頁分(巻四)八頁分(巻五)六頁分　題簽左肩雙邊「(書名同)一之巻(—五之巻)」　序題目録題書名同　内題なし　柱刻「京之巻(大之巻・江之巻・岡之巻・海之巻)色三味線(丁數)」、「廣瀬文庫」

(九一三・六二—イ八九)

けいせい哥三味線　四巻　四冊　闕　二六八三

江島其磧著　享保十七子のとし／花の三月自笑・其磧両序　袋綴　改裝後補薄水色表紙　一三・五糎一八・五糎　四周單邊一一糎一七糎　十四行　挿畫(巻一)六頁分(第二至四)各五頁分　外題左肩墨「(書名同)一(—四)」　目録題書名同　内題なし　柱刻「哥一之巻・二之巻(—四之巻)哥(丁數)」

(巻五闕　巻一末に「加賀お菊風流友三味線全部五巻」　巻四末に「初巻曦太平記全部五巻・後巻楠軍法鎧櫻全部五巻」の刊行豫告口上を載す　九一三・六二—イ二七七)

けいせい折居靄　五巻　合一冊　二六八四

紀海音著　自序　袋綴　改裝黒表紙　一三糎一八・五糎　四周單邊一一糎一七糎

十五行　百二十九丁　挿畫(巻一)六頁分(巻二)五頁分(巻三)四頁分(巻四)五頁分(巻五)六頁分　題簽左肩雙邊「鐘木町女郎名よせ人(書名同)(左)くぜつの指引殘ッて恋の掛乞[三]」　目録題書名同　内題なし　柱刻「一之巻(—五之巻)　おりすへ　序刊記　寺町松原上ル町　中嶋又兵衛板

(巻末に「世間十界圖　全部五巻・色圖一心五開玉　全部三巻・色道旅功者　全部三巻」の刊行豫告口上あり　表紙右肩に小津桂窓筆朱書「子」　九二三・六二—イ七二)

傾城禁短氣　六巻　六冊　二六八五

江島其磧著　寶永八年卯月中旬八文字自笑序　袋帳綴　縹色表紙　一六糎二二糎　四周角取雙邊一三糎一九・五糎　十四行　挿畫(各巻)八頁分　題簽左肩雙邊「色道大全(書名同)　一之巻(—六之巻)(巻一・三・四後補墨)」　目録題書名同　内題なし　綴目「たんき(きんたん)　一(—六)之巻　(丁數)」、「水谷文庫」

「臨風文庫」

(序文に「作者八文字自笑」と記す　九二三・六二—イ一四五)

けいせい盃軍談　五巻　合一冊　二六八六

八文字自笑著　巻飾堂畫　正徳二とせ／櫻さく／月日近松平安序　袋綴　水色表紙　一二・五糎一八・五糎　四周單邊一〇・五糎一六・五糎　十四行　百二十四丁　挿畫(巻一)五頁分　(巻二至四)六頁分　(巻五)四頁分　題簽左肩雙邊薄紅紙書名同　目録題書名同　内題なし　柱刻「さかつき一(—五)　(丁數)」、「兎角菴」

刊記　正徳二壬辰年九月吉日／書林　人見利兵衛／畫師　巻飾堂

(表紙右肩小津桂窓筆朱書「子」　九二三・六二—イ一五五)

傾城錢車　五巻　五冊　二六八七

柳子軒松根著　月日自序　袋綴　薄茶色表紙　一二・五糎一七・五糎　四周單邊一〇・五糎一六・五糎　十五行　挿畫(巻一)六頁分　(巻二至五)各四頁分　題簽左肩雙邊「けいせい錢車一(傾城錢車一)・けいせいせにくるま三・けいせい錢車四契情錢車五)」　目録題「(書名同)一ノ巻(二ノ巻)(けいせい錢車三ノ巻(五ノ巻)・契情錢車四ノ巻)」　内題なし　柱刻「一巻(二巻)巻三(—巻五)　(丁數)」

(九二三・六二—イ一七五)

けいせい卵子酒　五巻　合一冊　二六八八

八文字自笑著　寶永六のとしの秋自序　袋綴　卵色表紙　一二糎一八糎　四周單邊一〇糎一五糎　十五行　百十二丁　挿畫(巻一)六頁分　(巻二)七頁分　(巻三)五頁分　(巻四)六頁分　(巻五)五頁分　外題左肩小津桂窓筆「けいせい玉子酒」　目録題書名同　内題なし　柱刻「一ノ女(又は「一女」)　(二女　江・三女　大・四女・五若)　(丁數)」、「兎角菴」

刊記　享保七年寅ノ正月吉日／八文字屋八左衛門板

(表紙右肩小津桂窓筆朱書「子」　序文及び巻五末に「作者八文字自笑」と記す　九二三・六二—イ七五)

けいせい傳受紙子　五巻　五冊　二六八九

江島其磧著　寶永七ッのとし閏名の月自笑序　袋綴　黒表紙　一二・五糎一八・五糎　四周單邊一一糎一七糎　十二行　挿畫(巻一・二)各九頁分　(巻三)七頁分　(巻四)八頁分　(巻五)十一頁分　題簽左肩雙邊「(書名同)　一ノ巻(—五ノ巻)」　(巻三闕)　目録題書名同　内題なし　柱刻「一之巻(—五之巻)　紙子　(一—五の巻數及び紙子の文字脱せる所多し)　(丁數)」

(序文に「作者八文字自笑」と記す　巻三初七丁及び第四十丁以下闕　九二三・六二—イ七三)

傾城情の手枕　五巻　合一冊　二六九〇

江島其磧著　寛保四つのとし／子ノ初春自序　袋帳綴　改装後補青布目表紙　一六糎二二・五糎　四周角取雙邊一三・五糎二〇糎　十四行　八十九丁　挿畫(各巻)四頁分　題簽左肩後補墨「傾城情手枕　全」　目録題書名同　内題なし　綴目「第一(—五)ノ(丁數)」、「梅園文庫」「羽州神山增戸藏書」「福田文庫」

刊記　江戸書坊　舛屋五郎右衛門／同　信濃屋平左衛門／京書林　川勝五郎右衛門／板元(板元は上記三軒にかかる)　(原本)／寛保四年きのへ子ノ正月新板

識語　(表見返)(朱書)此情ノ手枕ハ正徳二年京寺町菊屋長兵衛／版ニテ野傾旅ツ

ゞらト云本發市有リシヲ／再版ニテ寛保四子年ニ出セシトミユ愚案ルニ／旅ツゝら作者江島市笑ト記シアルハ此作名ノ／其績ガ假ノ戯号ト思ハル委曲ハ予藏本ノ内クダンノ旅つゞらノ序文ヲ見テ考察スヘシ／天保四巳ノ季春　梅園記

（序中に「傾城情手枕と題して下略作者其績」とあり　九二・六二―イ一四三）

傾城難波みやけ　五巻　合一冊　二六九一

袋綴　黄色表紙　一二・五糎一八・五糎　四周單邊一一糎一六・五糎　十五行　百十一丁　挿畫（各巻）四頁分　題簽左肩雙邊「難波みやけ一」　柱刻「難波みやけ一（なにはミやけ二―五）（丁數）」、「兎角菴」

刊記　寶永七庚寅歳／七月吉祥日

（表紙右肩小津桂窓筆朱書「子」　九二・六二―イ七七）

けいせいふたつ盃　一冊　二六九二

世喜著　自序　袋綴　改裝後補水色表紙　一一・五糎一六・五糎　四周單邊九糎一四糎　十一行　四十丁　挿畫六頁分　外題左肩墨「契情雙盃」　柱刻「フ（丁數）」、「紫景文庫」

刊記　名古屋杉之町通り久屋町西へ入ル／板木屋甚七梓行

（序文一丁補寫　巻初に「西小路女郎名よせ」「富士見原女郎名よせ」計三丁を附す　九二・六二―イ二七九）

兼好一代記　五巻　合一冊　二六九三

八文字自笑・江島其磧著　元文二巳の／あらたまの／春の日兩序　袋帳綴　一五・五糎二一・五糎　四周角取雙邊二三糎一九・五糎　十四行　挿畫（各巻）四頁分　題簽左肩雙邊（刊）後補墨「（書名同）一之□」　目録題書名同　内題なし　綴目「一（―五）ノ巻　一代記（丁數）」、「兎角菴」

刊記　元文二年巳ノ正月吉日／ふや町通せいぐわんじ下ル町　八文字屋八左衛門板

（表紙右肩小津桂窓筆朱書「子」　序文末に「作者／自笑（刻印）／其磧（刻印）」と記す　九二・六二―イ二九三）

好色一代男　八巻　八冊　二六九四

井原西鶴著　菱川師宣畫　落月菴西吟跋　袋綴　水色表紙　二三糎一七糎　四周單邊二〇糎一四糎　十三行　挿畫（巻一）八頁分（巻二至七）七頁分（巻八）五頁分　題簽左肩雙邊「世之介好色一代男　一（三・五・七）」「世之介かうしよく一代男　二（四・六・八）」　目録題書名同　内題なし　柱刻「男一（―八）」　又は「男一ノ（同三ノ・同四ノ）」　又は「男三之」　又は「男ノ六」、「兎角菴」

刊記　貞享四丁卯曆九月上旬／大和繪師菱河吉兵衛師宣／日本橋青物町大津や四郎兵衛板行

（表紙右肩小津桂窓筆朱書「ツ」　九二・六二―イ九九）

好色一代男　八巻　八冊　二六九五

井原西鶴著　自畫　落月菴西吟跋　袋綴　毘沙門格子巻龍文砥粉色表紙　用紙裏打　二六糎一八糎　四周單邊二〇糎一六・五糎　十一行　挿畫（巻一至七）各七頁分（巻八）五頁分　題簽中央雙邊「（綴入）好色一代男　一（「一」字後補墨）（―八尾）」

（巻一は他巻のものの巻數を墨消して流用　巻三・四・六は籠字墨書後補）　目録題書名同　内題なし　柱刻「男一（―八）（丁數）」、「建仁群木藏書」「中井文庫」「楓文庫」「兎角菴」「春雪卿堂」等

刊記　天和二壬戌年陽月中旬／大坂思案橋寛濶屋孫兵衛可心板

（九二・六二―イ一五七）

好色うばさくら　五巻　五冊　二六九六

遊色軒著　自序　袋綴　改裝後補澁刷毛目富士墨畫表紙　用紙裏打　天地裁斷　二一・五糎一五・五糎　四周單邊一九糎一三・五糎　十二行　挿畫（巻一）四頁分（巻二・三）各五頁分　（巻四・五）各四頁分　題簽左肩單邊後補墨「（書名同）一（三・四）」「好色姥さくら二（五）」　内題なし　柱刻「一巻・二巻　（又は二）・三之巻・四巻・五　（丁數）」、「兎角菴」

（第一冊目録末「元祿五陽春日／跡より好色小手巻令板行／是則女若兩道諸和氣店おろし／にて御座候／東都之愚民遊色軒」とあり　九二・六二―イ二一）

好色産毛　五巻　合一冊　二六九七

雲風子林鴻著　自序　袋綴　改装後補漉刷毛目表紙（表被闕）　二二糎一六糎　四周單邊一八・五糎一四糎　十二行　六十二丁　挿畫（各巻）四頁分　目録題書名同　柱刻「産毛巻一（―五）（丁數）」、「紫景文庫」　刊記　于時めでたき年の目出たき日／雲風子　下立賣通大宮西江入ル町　和泉屋弘之刊　識語　（表見返）（柳亭種彦筆）林鴻ハ京都ノ俳諧師／俳諧京羽二重　あらむつかし／永代記返答等／ノ著述アリ書画ヲヨクセシ事／花見車　元祿十五年印本　ニ見エタリ此書／自筆自畫ナルベシ　（巻五第一丁闕　評釋江戸文學叢書所収藤井乙男校注「浮世草子篇」―参照　九二三・六二―イ一五七）

好色影法子　四巻　合一冊　二六九八

袋綴　改装後補砥粉色表紙　二二・五糎一六糎　四周單邊一九糎一四糎　十一行　九十四丁　挿畫（巻一）六頁分　（巻二至四）各四頁分　題簽左肩雙邊（刊）後補墨「（書名同）　合巻全」　目録題書名同　内題なし　柱刻「巻一（―四）（丁數）」　刊記　元祿十一戊寅載正月吉日／洛陽押小路冨小路西江入町　吉田三郎兵衛開板　（九二三・六二―イ一五九）

好色五人女　寫　一冊　二六九九

井原西鶴著　尾崎紅葉等筆　袋綴　改装後補鐵色表紙　間紙を挟む　二七糎一九糎　十一行　二十八丁　題簽左肩後補「（書名同）　西鶴文粹　尾崎紅葉幸田露伴各自筆書入」　（第五至第九丁計五丁分は十行二十字詰原橋用紙を交ふ　巻初に幸田露伴筆朱書「西鶴文粹下巻　幸田露伴　尾崎紅葉　同輯／好色五人女（全五巻）／巻一」との附箋を貼附す　明治三十六年刊「西鶴文粹」所収原稿　朱字校正割付を附す　九二三・六二―イ一五九）

好色五人女　五巻　五冊　二七〇〇

井原西鶴著　袋綴　毘沙門格子巻龍模様薄茶色表紙　二五・五糎一八糎　四周單邊一九糎一五糎　十一行　挿畫（巻一・二）各八頁分　（巻三）七頁分　（巻四）十頁分　（巻五）七頁分　題簽左肩闕　目録題書名同　内題なし　柱刻「五人女　巻一（―五）（丁數）」　刊記　貞享三龍集内寅歳仲春上旬日／攝刕　書肆　北御堂前　森田庄太郎板　（九二三・六二―イ二七）

好色三代男　五巻　五冊　二七〇一

袋綴　改装後補毘沙門格子巻龍模様黄表紙　二五・五糎一六糎　四周單邊一九・五糎一四糎　十一行　挿畫（巻一・二）七頁分　（巻三至五）六頁分　題簽中央雙邊後補「（書名同）　綺入一（―五）」　目録題書名同　柱刻「三代巻一（―五）（丁數）」、「阿州麻植宮嶋（墨印）」、「千里（駒圖）」「兎角菴」等　刊記　書林壽詞堂／貞享三歳／孟陽上澣日／皇都三條通　西村市郎右衛門／同八幡町通　坂上勝兵衛／刊行　（九二三・六二―イ二三）

好色十貳人男　六巻　合三冊　二七〇二

舎衣軒明春著　亥ノ孟陽念日自序　袋綴　改装後補茶色布目表紙　用紙裏打　二一糎一六糎　四周單邊一九糎一四糎　九行　挿畫（各巻）四頁分　題簽左肩後補墨「幻化十二生　天（地・人）」　目録題「好色十貳人男巻之一」「好色十二人男巻之二（六）」「好色十二人おとこ巻之三（四）」「好色十貳人おとこ巻之五」　内題なし　柱刻「十二人一（―六）（丁數）」　刊記　元祿八歳亥正月吉辰日／洛陽　井筒屋庄三郎板行　（九二三・六二―イ二五）

好色酒呑童子　五巻　五冊　二七〇三

桃林堂蝶麿著　自序　袋綴　改装後補網目摺出青布目表紙　二三糎一六糎　用紙裏打　天地裁斷　四周單邊一九・五糎一四糎　十行　挿畫（巻一）八頁分　（巻二至五）各六頁分　題簽左肩網目模様後補墨「（書名同）　一（―五止）」　内題なし　柱刻「初巻（巻二―巻五）（丁數）」、「杏子文庫」「齋藤文庫」「福田文庫」

識語　（第一冊見返附箋）琢書好色本（酒呑童子）／菱川師宣畫五巻

刊記　正月吉日／日本橋南見すや／又右衛門板

（巻一第一至五丁計五丁影補寫後補　巻一初總目録末に「元祿　年　初陽吉旦」とあり　九二三・六三―イ一八五）

好色旅日記　五巻　五冊　二七〇四

片岡旨恕著　袋綴　砥粉色表紙（第一冊表被闕）二六糎一七・五糎　四周單邊一九・五糎一四・五糎　十一行　挿畫（巻一）四頁分　（巻二至五）各三頁分　外題左肩後補墨「（書名同）一（五）（巻二至四無記）」　目録題書名同　柱刻「日記一（―五）（丁數）」、「高木家藏（第一・二・四五冊）」「紫景文庫（第三冊）」

刊記　貞享四年丁卯九月十一日／吉野屋次郎兵衛

（巻一・二・四・五と巻三の取合本　九二三・六二―イ一八三）

好色二代男諸艶大鑑　八巻　八冊　二七〇五

井原西鶴著　自畫　袋綴　縹色表紙　二五・五糎一八糎　四周單邊一九・五糎一六・五糎　十二行　挿畫（各巻）十頁分　題簽左肩雙邊「（繪入）好色二代男諸艶大鑑　一（―八）」　目録題書名同　内題なし　柱刻「二代一（―八）（丁數）」、「兎角菴」

刊語　右全部八冊世の慰草を何かなと／尋ねて忍ふ草靡き草共戀草／是を集め令開板者也

刊記　貞享元甲子年／江戸本石町枩間店　參河屋久兵衛板／大坂呉服町眞齋橋筋角／書林池田屋三良右衛門板

（表紙右肩小津桂窓筆朱書「ツ」　九二三・六二―イ一〇三）

好色福徳男巻三　一冊　二七〇六

袋綴　改裝後補栗皮色表紙　四周裁斷　間紙を挟む　二四・五糎一六・五糎　四周單邊一九糎一三・五糎　十一行　十一丁　挿畫四頁分　題簽左肩後補金泥「（書名同）第三之巻」　柱刻「三　（丁數）」

（九二三・六二―イ一三三）

好色松はやし巻一　一冊　二七〇七

桃林堂紫石著　自序　袋綴　紺表紙　二二糎一五・五糎　四周單邊一八・五糎一三・五糎　十行　十四丁　挿畫六頁分　外題左肩後補墨書名同　内題なし　尾題「（書名同）初之終」　柱刻「松林壹（松はやし一）（丁數）」

識語　（表見返）此「好色松囃子」ハ浮世草紙目録中になき／珍書なり／初代鳥居清信畫／元祿十年版好色大富帳（フクロ）桃の林紫石著　鳥居庄兵衛畫　これに同じ

（九二三・六二―イ一三五）

好色万金丹　五巻　五冊　二七〇八

夜食時分著　元祿七年甲戌三月六日自序　袋綴　改裝後補黄表紙　二一・五糎一五・五糎　四周單邊二〇糎一三・五糎　十一行　挿畫（巻一）六頁分（巻二至五）各五頁分　題簽左肩雙邊（刊）後補墨「好色萬金丹　壹（―五）」　柱刻「巻一（―五）（丁數）」、「好文堂」

刊記　元祿十丁丑年五月吉日／書林大坂伊丹屋太郎右衛門

（九二三・六二―イ一二七）

好色万金丹　五巻　五冊　二七〇九

夜食時分著　元祿七年甲戌三月六日自序　袋綴　水色表紙　二二糎一六糎　四周單邊二〇糎一三・五糎　十一行　挿畫（巻一）六頁分（巻二至五）各五頁分　題簽左肩雙邊「（忍入）好色萬金丹二（此二字陰刻）（一四）」（巻五闕）　（題簽下に）「第一（―第五）」と墨書あり　柱刻「巻一（―巻五）（丁數）」、「幸堂私印」「永田文庫」「甘露堂藏」

刊記　元祿七甲戌年七月吉日／江戸日本橋青物町萬屋清兵衛／京御幸町二条下ル町山崎屋市兵衛／大坂備後町五丁目中嶋屋治兵衛／同住久保田喜兵衛

（九二三・六二―イ一八七）

〔好色むらく坊〕　二巻　合一冊　闕　二七一〇

袋綴　改裝後補水色表紙　二二・五糎一六糎　四周單邊二〇糎一四糎　十一行

挿畫(巻二)六頁分(巻四)六頁分　題簽中央後補墨「むらく　菱川師宣画書　合本／二四ノ巻印本」　内題なし　柱刻「むらく二(四)　(丁數)」(巻二・四を存す　九二三・六二―イ三七)

五ケの津餘情男　五巻　五冊　二七二

都の花風著　自序　袋綴　改装後補縹色表紙　二六・五糎一八糎　四周單邊二〇・五糎一五・五糎　十一行　挿畫(巻一至五)各四頁分　題簽左肩雙邊後補墨「(書名同)　一(―五)」　目録題書名同　柱刻「餘情男　一(―五)(丁數)」

刊記　元祿十五壬午歳／三月吉祥日／書林　姉小路通堀川東入町　中川茂兵衛　板行

(九二三・六二―イ八二)

國性爺御前軍談　五巻　五冊　二七三

時にことし今月今日序　袋綴　水色表紙　二六糎一七・五糎　四周單邊一九・五糎一五糎　十一行　挿畫(巻一)八頁分(巻二至五)各六頁分　題簽左肩雙邊「(書名同)　一」「國せんや御前軍談　三」(巻二・四・五闕)　目録題「(書名同)一之巻(二之巻・五之巻)」「國仙野御前軍談三之巻(四之巻)」　内題「(書名同)一之巻(二之巻)」「國仙野御前軍談三之巻(―五之巻)」　柱刻「國せんや一(―五)(丁數)」

刊記　享保元丙申年今月吉日／京寺町四條下ル町　菊屋長兵衛板行

(各目録題内題の下に「近松門左衛門作」、序文末に「作者近松門左衛門／素讀西氏安齋」とあり　九二三・六二―イ三五)

古今武士鑑　五巻　五冊　二七三

椋梨一雪著　自序　袋綴　媚茶色表紙　二六糎一八糎　四周單邊二〇・五糎一五糎　十二行　挿畫(巻一)五頁分(巻二)九頁分(巻三)六頁分(巻四)七頁分(巻五)六頁分　題簽左肩雙邊「諸國敵討日本武士鑑　一(―五)」　目録題「(書名同)　巻第一(―三)」「孝子鑑　巻第四(五)」　内題なし　柱刻「武士一(巻二―三)　孝子巻四(五)　(丁數)」

刊記　元祿九丙子年／三月　吉日／　京御幸町二條上ル丁　淺野久兵衛／　大坂高麗橋壹丁目　同弥兵衛

(第一冊目録題の下に「犬著聞集抜書」とあり　巻末に淺野彌兵衛藏版目録二丁を附す　九二三・六二―イ二五)

古今武士形氣巻三　一冊　二七四

井原西鶴著　袋綴　改装後補黄鼠色表紙　二六糎一八・五糎　四周單邊二〇糎一六糎　十二行　二十四丁　挿畫七頁分　外題左肩石田元季筆「男色大鑑改題　古今武士形氣三」　目録題書名同　内題なし　柱刻「(丁數)」、「元」

(九二三・六二―イ二一)

御前於伽　六巻　六冊　二七五

都の錦著　ミの霜降月十日自序　辛巳仲冬日入江九軒跋　袋綴　薄茶色表紙　二六・五糎一九糎　四周單邊二〇・五糎一五・五糎　十行　挿畫(各巻)四頁分　外題左肩墨書名同　第一冊見返中央「(書名同)　(右)一顧傾男射一　(左)再顧傾三女顔一　(附訓略)」　目録題「(書名同)一(三・四)」「御前おとき　五(六)」　内題なし　柱刻「御前序(目録)一(―六)(丁數)」、「瑠璃山藏書」「元」

刊記　元祿十五壬歳孟春吉日／書藏／　京條五條通　河勝五郎右衛門／　江戸日本橋南壹町目　舛屋五郎右衛門

(巻末に「古今雜談　京江戸大坂　日本大平御覧十二巻・日本三國志八巻」の豫告口上あり　第一冊表紙右下に「瑠璃山／大福寺」とあり　九二三・六二―イ二八)

西海太平記　五巻　合一冊　二七六

八文字自笑著　袋綴　改装後補毘沙門格子地牡丹唐草押文丹行成表紙　用紙裏打　天地裁斷　二三糎一八糎　四周單邊二〇・五糎一五・五糎　十二行　挿畫(各巻)四頁分　外題左肩墨「(書名同)　合」　目録題「(書名同)　一之巻(―五之巻)」　内題なし　柱刻「忠一ノ巻(―五ノ巻)　(丁數)」

刊記　正徳三年巳ノ九月吉日／新板

(九二三・六二―イ五一)

西鶴栄花咄　五巻　五冊　二七七

袋綴　改装後補毘沙門格子唐草模様縹色行成表紙　用紙裏打　天地裁斷　一一糎

一五・五糎　四周單邊一九糎一四糎　十一行　挿畫(巻一)十頁分　(巻二)八頁分(巻三)七頁分　(巻四)七頁分　(巻五)六頁分　題簽左肩雙邊「繪入(書名同)一(―五)」　目録題書名同　内題なし　柱刻「栄花(巻)一(―五)　(丁數)」

刊記　元祿十四年正月吉日／山口屋權兵衛板

(第一冊巻初に本文に無關係の挿畫一丁二頁分あり　九三・六二―イ二七)

西くはく置土産巻四　一冊　二七二八

井原西鶴著　袋綴　代赭色表紙　二六糎一八糎　四周單邊一八・五糎一四・五糎　十一行十七丁　挿畫四頁分　題簽左肩雙邊「繪入西鶴御紀美家計(大全目錄)四」　目録題「(書名同)」　内題なし　柱刻「置土産　四巻(巻四)　(丁數)」

(九三・六二―イ二三)

西鶴織留　六巻　六冊　二七二九

井原西鶴著　北條團水編　元祿其月其日自序　元祿七年／戊卯月上旬團水序

袋綴　縹色表紙　二七糎一八糎　四周單邊二〇糎一五・五糎　十二行　挿畫(巻一)七頁分　(巻二)七頁分　(巻三)六頁分　(巻四)五頁分　(巻五)五頁分　(巻六)五頁分　題簽左肩雙邊「繪入西鶴織留(一)本朝町人かゞみ」「繪入西鶴織留(二)世の人心」「繪入西鶴織留(三)世の人心」「繪入西鶴織留(四)世の人こゝろ」「繪入西鶴おりとめ(五)本朝町人かゞみ」「繪入西鶴おりとめ(六)よの人こゝろ」「繪入西鶴織留(六)世の人心」　目録題(巻一・二)「(書名同)本朝町人鑑」(巻三至六)「(書名同)世の人心」　内題なし　柱刻「世の人心序(一―六)(丁數)」、「香木舍文庫」「千種文庫」「集古清玩(藍印)」等

刊記　元祿七甲戌年／三月吉日／江戸万屋清兵衛／大坂鳫金屋庄兵衛／京上村平左衛門板

(九二・六二―イ五五)

西鶴俗つれ〳〵　五巻　合一冊　二七三〇

井原西鶴著　初春吉辰書林序　正月のはしめ團水序　袋綴　縹色表紙　二二・五糎一五・五糎　四周單邊一八糎一四糎　十一行　八十丁　挿畫(序)二頁分　(巻一)八頁分(巻二)六頁分(巻三)八頁分(巻四)六頁分(巻五)六頁分　題簽左肩雙邊「西鶴□繪入口」　目録題(巻一・二)「書名同」(巻三)「西鶴ぞくつれ〳〵」(巻四・五)「西鶴俗徒然」　内題なし　柱刻「俗つれ〳〵巻一(―五)(丁數)」、「兎角菴」

刊記　京五条通升屋青山為兵衛板行

(表紙中央上小津桂窓筆朱書「ツ」　九三・六二―イ九七)

西鶴傳授車　五巻　合一冊　二七三一

天狗堂轉蓬著　正徳六年申のとし二月中旬自序　袋綴　縹色表紙　二五糎一六・五糎　四周單邊一九糎一三糎　十一行　挿畫(巻一)五頁分　(巻二)六頁分　(巻三至五)各五頁分　題簽左肩單邊「ひらかな繪入(書名同)二」　目録題書名同　柱刻「傳授車巻之壹(―五)　(丁數)」、「兎角菴」

刊記　正徳六申年二月吉辰／洛陽書林／村上宗吉

(表紙右肩小津桂窓筆朱書「ツ」　九三・六二―イ二九)

西鶴名殘の友　五巻　合一冊　二七三二

井原西鶴著　團水序　袋綴　改裝後補雲母花毬模様白表紙　二五糎一七糎　四周單邊一八糎一三・五糎　十一行　六十二丁　挿畫(巻一)四頁分　(巻二至四)各六頁分　(巻五)二頁分　題簽左肩雙邊「繪入西鶴なこりの友(四五終)」　目録題書名同　内題なし　柱刻「友一(―五)　(丁數)」、「兎角菴」「中しまとうふや(墨印)」

刊語　西鶴一生涯のうちあらゆる書をつらね出す／覚書一冊あり終焉まて書もらしたる事／おほしかれこれ二冊を筆藏と自号して／自筆の物あり近日板行のねかひ菴主に／請もの也

刊記　元祿十二己卯歳首夏吉辰　浪花書林　開板

(表紙右肩小津桂窓筆朱書「ツ」　巻初目録題の下に「自筆」とあり　九二・六二―イ九五)

西くハくひかん櫻巻二　一冊　二七三三

井原西鶴著　袋綴　薄水色表紙　二三糎一六糎　四周單邊一九糎一四糎　十五行十三丁　挿畫五頁分　題簽中央雙邊「西ひがんさくらニ」　目録題書名同　内題なし　柱刻「土産巻二　(丁數)」

（九二三・六二―イ二〇三）

小夜衣　五巻　五冊　二七二四

城坤散人茅屋子著　天和參歳／玄孟春の日自序　薄水色表紙　二二・五糎一五・五糎　四周單邊一七・五糎一二・五糎　十行　挿畫（各巻）各四頁分　題簽左肩茶色紙「さよころも　一」「さよ衣　二」「小夜ころも　三」「さよころも　四」「小夜衣　五」　柱刻「さよ　序（一―五）（丁數）」

刊記　江戸神田新革屋町　西村半兵衛／京三條通　西村市郎右衛門

（九二三・六二―イ二七三）

色道大鏡　五巻　合一冊　二七二五

北條團水著　自序　袋綴　改裝繭色表紙　二二・五糎一六糎　四周單邊一九・五糎一四・五糎　十一行　挿畫（巻一・三至五）各四頁分　（巻二）三頁分　題簽左肩雙邊「絵（書名同）　□」　目録題書名同　内題なし　柱刻「大鏡　一（―五・追加）（丁數）」、「紫香藏」「游戲三昧院」等

刊記　貞享四丁卯年十月吉日／山崎屋市兵衛／丸屋半兵衛

（刊記の次に「跡より久世舞乱曲出し申候」とありて柱刻に「大鏡追加」とある四丁を附録す　古典文庫所收吉田幸一校「色道大鏡」―參照　九二三・六二―イ三九）

色道懺悔男　六巻　六冊　二七二六

善教寺猿算著　寶永のほしひのへ／いぬにやどる仲秋日自序　于時月日同先洛下書肆悦昌（二字陰刻）跋　袋綴　改裝後紺表紙　二六糎一七・五糎　四周單邊二〇・五糎一五糎　十二行　挿畫（巻一）六頁分　（巻二）五頁分　（巻三）四頁分　（巻四）四頁分　（巻五）五頁分　（巻六）四頁分　題簽左肩書名同　序題書名同　目録題「色道さんげ男巻之一」「（書名同）巻之二」・「色道懺悔おとこ巻之三（―五）」・「色道さんげおとこ巻之六」　内題「色道さんげ男巻之一」「色道さんけおとこ巻之二（―巻之六）」　柱刻「さんけ一（―六）（丁數）」、「花岡」「黒川眞頼」「黒川眞道藏書」「燮水所持（藍印）」等

刊記　于時寶永四亥歳正月吉日／五條通高倉西へ入町　福森兵左衛門／成出権兵衛／板行

（九二三・六二―イ一五三）

諸遊芥子鹿子　一冊　二七二七

袋綴　改裝後補澁綱目表紙　間紙を挾む　一一糎一六・五糎　四周單邊九糎一四糎　十四行　七十一丁　題簽左肩後補墨「（書名同）一名きぬふるひ」　尾題「きぬふるひ」　柱刻「キ（丁數）」、「此ぬし七米」「七代目扇橋」「福田文庫」「養閒齋藏書記」

（九二三・六二―イ三二）

白闇色挑灯　五巻　合一冊　二七二八

袋綴　澁刷毛目表紙　一二・五糎一八糎　四周單邊一〇・五糎一六糎　十五行　百九丁　挿畫（各巻）各四頁分　題簽左肩雙邊「しらくら色ちようちん（男な百さうそめ）　四」　目録題書名同　内題なし　柱刻「白闇一（―五）（丁數）」、「兎角菴」

刊記　書林／難波　海原亭／江府　月花軒／三条縄手下ル町　花洛　山陽堂

（表紙右肩小津桂窓筆朱書「子」　九二三・六二―イ六九）

新可笑記　二巻　二冊　闕　二七二九

井原西鶴著　袋綴　縹色表紙　二二・五糎一五・五糎　四周單邊一八糎一三・五糎　十一行　挿畫（巻二）九頁分　（巻三）八頁分　題簽左肩闕墨書名同　目録題「（書名同）　巻二（三）」　内題なし　柱刻「新笑二（三）（丁數）」

（巻二・三を存　九二三・六二―イ四三）

新玉くしけ　六巻　六冊　二七三〇

青木鷺水著　自序　袋綴　砥粉色表紙　二五糎一七糎　四周單邊一九糎一四糎　十行　挿畫（巻一）五頁分　（巻二・三）各四頁分　（巻四・五）各五頁分　（巻六）四頁分　題簽左肩雙邊「新玉櫛笥一（二）」「新多麻笥三」「新珠具之笥四」「新玉くしけ五」「新璞靈笥六」　序題「新玉櫛笥」　目録題「新玉櫛笥巻之一」「新笥珠巻之二」「新玉くしけ巻之三」「新多麻篦巻之四」「新たまくしけ巻之五」「新玉櫛笥巻之六」　内題「（書名同）巻之一」「新たまくしけ巻之二」「新玉くしけ巻之三」

「新多摩櫛笥巻之四」「新玉匣巻之五」「新たまくしけ巻之六」　柱刻「新玉一（—六）」

刊記　皆寶永第六竜次己丑歳／仲秋之月既望／雒陽書肆中川茂兵衛西村市良右衛門板行

（九二三・六二—一二五一）

新吉原つれ〳〵草　二巻　二冊　二七三

磯貝捨若著　井原西鶴注　兩者序　袋綴　黒表紙　二六糎一八糎　四周雙邊一九・五糎一六糎　本文九行小十七行　挿畫（各巻）五頁分　題簽左肩雙邊「新板つれ〳〵草　上（下）」　序題書名同　内題なし　柱刻「吉原　巻上（下）（丁數）」、「好文堂」「石塚文庫」等

刊記　元祿二己巳年三月吉日　大坂呉服町深江屋太郎兵衛板

（序文末に「作者　懸河書　磯貝捨若／注　一代男世之助」と記す　九二三・六二—一二四二）

世間子息氣質　五巻　五冊　二七三

江島其磧著　正徳五ッの年の秋自序　袋綴　縹色表紙　二五糎一八・五糎　四周單邊二〇・五糎一六糎　十二行　挿畫（巻一）六頁分　（巻二）五頁分　（巻三至五）各四頁分　題簽左肩雙邊「新板繪入（書名同）一（—五）」　目録題書名同　内題なし　柱刻「世間　一之巻（—五之巻）（丁數）」、「兎角菴」

刊記　ひしや治兵衛板

（九二三・六二—一二八七）

世間娘氣質　六巻　六冊　二七三

江島其磧著　自序　袋綴　鳶茶色表紙　二五・五糎一八・五糎　四周單邊二〇・五糎一六糎　十一行　挿畫（各巻）四頁分　題簽左肩雙邊「新板繪入世間娘容氣　一（—六）（巻一補記巻二闕墨書）」　目録題「（書名同）一之巻」「世間娘容氣二之巻（四之巻・六之巻）」「世間娘形氣三之巻（五之巻）」　内題なし　柱刻「世娘一之巻（—六之巻）（丁數）」、「永田文庫」「兎角菴」等

刊記　谷村清兵衛寺町板

（九二三・六二—一二八三）

世上智恵袋　三巻　三冊　二七四

袋綴　改裝後補青表紙　二二・五糎一九糎　四周單邊二一・五糎一七糎　十四行　挿畫（巻一）六頁分　（巻二）八頁分　（巻三）六頁分　題簽左肩後補墨「（書名同）上（—下）」　内題「（書名同）　巻一（中・下）（丁數）」、「世上知恵ふくろ中（下）」　柱刻「（書名同）巻一（中・下）（丁數）」、「洒汀」

（九二三・六二—一二〇二）

太平色番匠　五巻　合一冊　二七五

袋綴　薄卵色表紙　二二・五糎一七・五糎　四周單邊一〇・五糎一五糎　十五行　九十八丁　挿畫（巻一）六頁分　（巻二）五頁分　（巻三）四頁分　（巻四）四頁分　（巻五）五頁分　題簽左肩雙邊「太平色番匠　一」　目録題書名同　柱刻「色番匠巻一（—巻五）（丁數）」、「兎角菴」

刊記　書林／難波　海原亭／江府　月花軒／三条縄手下ル町花洛　山陽堂

（表紙右肩小津桂窓筆朱書「子」　巻末に「鎌倉比事と申全部六冊」「白闕色挑灯」の刊行豫告口上あり　九二三・六二—六七）

玉くしけ　五巻　合一冊　闕　二七六

林義端著　元祿乙亥の冬霜月日自序　元祿乙亥冬十一月朔旦自跋　袋綴　改裝後補亀甲摺出模様黒表紙　二六・五糎一八糎　四周單邊二一・五糎一五糎　十一行　挿畫（巻一）九頁分　（巻二）八頁分　（巻四）十一頁分　（巻五）七頁分　（巻七）十四頁分　題簽左肩雙邊（刊）雲母引後補墨「（書名同）完」　序題「玉櫛笥」　目録題同上　柱刻「玉くしけ序目　巻一（—巻七）（丁數）」

刊記　京人西村市郎右衛門／林九兵衛／江戸　西村九左衛門／同半兵衛全梓

（巻三・六の両巻を闕く　九二三・六二—一二五五）

玉はゝき　六巻　六冊　二七七

林義端著　元祿九年冬十二月朔旦自序　袋綴　縹色表紙　二五・五糎一八糎　四周單邊一八・五糎一四糎　十一行　挿畫（巻一）七頁分　（巻二）八頁分　（巻三）六

頁分（巻四）五頁分（巻五）五頁分（巻六）五頁分（巻六）七頁分　題簽左肩雙邊「玉箒　二」「たまはゝき　四」「多麻波ゝ幾五」（巻一・三・六闕）　序題目録題「玉箒子」　柱刻「（書名同）　巻一（―六）（丁數）」

刊記　元祿九年冬十二月朔旦／京誓願寺通西洞院西入町　西村九左衛門／同車屋町通夷川角　林久次郎／江戸日本橋南川瀬　山口権兵衛／石町同　梓

（九一三・六二―イ二六九）

丹波太郎物語　三巻　合一冊　二七三八

江島其磧著　正徳五の／としの春自序　袋綴　青表紙　一三糎二〇糎　四周單邊一〇・五糎一六・五糎　十三行　五十四丁　挿畫（巻一）六頁分（巻二）五頁分（巻三）五頁分　題簽中央雙邊紅紙「繪入丹波太良物語　中」　目録題書名同　内題なし　柱刻「丹ノ一（―三）（丁數）」、「兎角菴」

刊記　ゑじまや　市郎左衛門板

（表紙右肩小津桂窓筆朱書「子」　巻一末「和細工枕時計　全部三巻」巻二末「好色風流おはぐろ親　全部三冊」の近刊豫告口上あり　未刊國文資料第一期所收中村幸彦編「八文字屋本集と研究」―参照　九一三・六二―イ六五）

茶契福原雀　三巻　合一冊　二七三九

〔西澤一風〕著　袋綴　黒表紙　一二糎一八糎　四周單邊一〇糎一六糎　十七行　六十丁　挿畫（上・中巻）各二頁分（下巻）四頁分　題簽左肩雙邊「風流（書名同）中（右）ちやけいふくハらすゝめ（左）此巻ニ藪の下ゟ上又ハ北野色の名寄を記ス」　目録題書名同　内題なし　柱刻「上（一・二）（丁數）」、「兎角菴」

（表紙右肩小津桂窓筆朱書「子」　九一三・六二―イ八三）

通俗諸分床軍談　五巻　五冊　二七四〇

江島其磧著　川嶋信清畫　袋綴　水色表紙　二五糎一八糎　四周單邊二一糎一六糎　十一行　挿畫（巻一）六頁分（巻二至五）各四頁分　題簽左肩闕朱書「床軍談一（―五）」　目録題書名同　内題なし　柱刻「諸分　一之巻（―五之巻）（丁數）」、「天幸堂」

刊語　跡五巻追付出来

刊記　京寺町仏光寺下ル　谷村清兵衛板／同八幡町室町西へ入ル　江嶋市郎左衛門板／繪師　川嶋信清（印）（陰刻）

識語　（第一冊表紙）（朱）全五冊／柳亭種彦用捨箱に諸分床／軍談年代ヲ欠ク正徳ノ頃カト言ヘリ

（巻一目録初に「口上／床軍談全部拾巻ニ仕（し）かけ候へ共あまり延引仕候故先五巻ニ仕（し）／立（たて）掛ニ御目ニ申候御覧可被下候後五巻追付出し申候／床軍談後之五巻三野色軍談下略」として豫告口上あり　九一三・六二―イ二六一）

儻偶用心記　五巻　五冊　二七四一

月尋堂著　袋綴　澁刷毛目表紙　一二糎一八糎　四周單邊一〇・五糎一六・五糎　十五行　挿畫（巻一）八頁分（巻二）五頁分（巻三）七頁分（巻四）六頁分（巻五）五頁分　題簽左肩雙邊後補墨「（書名同）　一之巻（右朱書）作者月尋堂全五冊（左同）宝永中版」（巻二・四・五）「（書名同）二（墨）（―四・五）」（巻三闕）　目録題書名同　内題なし　柱刻「用心一（―五）（丁數）」、「永田文庫」「兎角菴」

刊記　丑ノ　六月吉日　京寺町通松原上ル町　菊屋七郎兵衛新板

識語　（巻一表見返）（朱書）　後刷ハ／世間用心記トス

（第一冊巻初二丁闕　巻五末西澤作「傾城伽羅三味線　全部五冊」月尋作「全盛千金松　全部五冊物」伊勢作「全盛隠の岡　全部五冊」の豫告口上あり　九一三・六二―イ九一）

當世御伽曽我　十巻　十冊　二七四二

八文字自笑著　袋綴　茶色表紙　二五糎一八糎　四周單邊二〇・五糎一六・五糎　十二行　挿畫（巻一）六頁分（巻二至五）各五頁分（巻六）六頁分（巻七）五頁分（巻八）四頁分（巻九・十）各五頁分　外題左肩墨「（書名同）一（―五）（當世御伽曽我後風流八・同後風流東鑑九）」　目録題「（書名同）一之巻（―五之巻）」「當世御伽曽我後風流東鑑六之巻（―十之巻）」　内題なし　柱刻「一之巻（―十之巻）　御伽曽我　（丁數）」

刊記　（巻五）　八文字屋　八左衛門板

（巻十）　正徳三年癸巳二月吉日／ふ屋町通せいぐハんじ下ル町　八文字屋八左衛門新板

（巻一表見返「萬色正徳雛形全部五巻　大和繪師西川祐信圖」　巻六同「巳の年大評判役者座振舞」　巻十末「野傾咲分色扨全部五巻」「義經風流鑑全部十巻」「好色名取川西川祐信筆全部三巻」の刊行豫告口上あり　九二三・六二―イ二六三）

當世女容氣　五巻　五冊　二七四三

井原西鶴著　袋綴　改装後補黒表紙　間紙を挟む　二四糎一七糎　四周單邊一九糎一五糎　十一行　挿畫（巻一・二）各八頁分　（巻三）七頁分　（巻四）十頁分　（巻五）七頁分　目録題書名同　内題なし　柱刻「女巻一（―五）（丁數）」「天幸堂」「武藏石濱増戸文庫」「いかほもとゆ仙寓庵（藍印）」「藤」等

刊記　浪華書肆　順慶町壹丁目抱玉軒田原平兵衛梓

（巻末補紙「此書上板の年月詳ならすと雖も貞享三年の梓たる明けし／骨董集浮世袋の條に〔五人娘〕貞享三年板云々として本書と西鶴五人女の同本なることを述べて「于時明治甲申神無月念余日合巻表装して文庫に藏む／浮世亭主人藏」と識せる考證記及び還魂紙料用捨箱を引いて本書の五人女なることの「明治廿五壬辰年五月芝源助街村田ニテ求之／天幸堂亥子」と識せる考證記一丁を附す　九二三・六二―イ二四三）

當世誰か身の上　六巻　合三冊　二七四四

山本斧麿著　（涼花堂）自序　改装後補網代垣押文青表紙　二三糎一七・五糎　四周單邊二〇糎一五糎　十二行　挿畫（巻一）八頁分　（巻二）七頁分　（巻三）四頁分　（巻四）六頁分　（巻五・六）各七頁分　題簽左肩後補墨「教訓誰か身の上　壹貳（―五六）」　目録題書名同　柱刻「當世誰身の上　巻ノ一（―巻ノ六）」

（九二三・六二―イ二六七）

業平赤烏帽子　五巻　五冊　二七四五

桃林堂蝶麿著　自序　砥粉色表紙　天地裁斷　二一・五糎一六糎　四周單邊二〇糎一四糎　十一行　挿畫（各巻）六頁分　題簽左肩雙邊「新板業平赤ゑほし□」（新板）　業平赤烏帽子三・□業平赤えほし四）（第一冊後補墨新板業平赤ゑほし）」（第五冊闕）　内題なし　柱刻「むらく一（―五）　（丁數）」

刊記　正徳六丙申年正月吉日／武州芝神明前　山田屋三四郎版行

（帙裏に「好色赤烏帽子　五巻／桃林堂蝶麿撰／別名『好色むらく坊』／初版ハ元祿八年刊／改題して新板業平赤烏帽子五巻下略」等考證記を添附す　九二三・六二―イ二三九）

男色今鑑　五巻　合一冊　二七四六

自序　袋綴　改装後補白水玉繰色表紙　間紙を挟む　二五糎一七・五糎　四周單邊一九・五糎一四・五糎　十一行　百一丁　挿畫（各巻）四頁分　題簽中央雙邊「風流金魚袋（書名同）□三」　目録題「（書名同）　風流金魚袋第一（―五）巻」　柱刻「（書名同）巻一序（目録）（―巻五）（丁數）」

刊記　寶永八辛卯年正月吉日／菱屋治兵衛梓行

（九二三・六二―イ二四一）

男色大鑑本朝若風俗　八巻　合二冊　二七四七

井原西鶴著　貞享四年竜集丁卯陬日自序　改装黒表紙　二五・五糎一八糎　四周單邊二〇糎一六糎　十二行　挿畫（巻一）六頁分　（巻二）八頁分　（巻三）六頁分　（巻四・五）各七頁分　（巻六・七）各六頁分　（巻八）九頁分　題簽左肩雙邊「本朝若風俗男色大鑑繪入壱（第二冊後補墨同上「貳」）」　目録題書名同　尾題「男色大鑑」　内題なし　柱刻「大一（―八）（丁數）」「兎角菴」

刊記　貞享四丁卯年正月吉日／書林／大坂伏見呉服町淀屋橋筋／深江屋太郎兵衛板／京二条通山崎屋市兵衛／江戸日本橋青物町萬屋清兵衛

（表紙右肩小津桂窓筆朱書「ツ」　九二三・六二―イ一〇五）

男色子鑑　五巻　五冊　二七四八

九思軒鱗長著　袋綴　改装後補毘沙門格子摺文紺表紙　二二糎一八糎　四周單邊一八糎一三糎　用紙裏打　十一行　挿畫（巻一）七頁分　（巻二至四）各四頁分　（巻五）二頁分　柱刻「（書名同）一（―五）　（丁數）」

識語　（第一冊巻初附箋）年號不明／吉田半兵衛筆／琢本男色子鑑摺文　五巻（巻一初五丁分闕　巻五第八丁以下闕　九二三・六二―イ四九）

男色十寸鏡下　一冊　二七四九

三夕軒好若處士著　袋綴　改装後補紺表紙　一五糎一一糎　四周單邊一二糎九・五糎　十行　三十四丁　挿畫七頁分　題簽左肩黄紙後補墨書名同　柱刻「男下目録（男下）（丁數）」

（内題の下に「若衆勧學之巻」とあり　九二三・六二―イ四二）

日本永代藏　六卷　六冊　二七五〇

井原西鶴著　袋綴　縹色表紙　二二・五糎一六糎　四周單邊一八・五糎一四・五糎　十五行　挿畫（巻一・二）各八頁分　（巻三）九頁分　（巻四）八頁分　（巻五）九頁分　（巻六）八頁分　題簽左肩雙邊「（書名同）一（―四）（目録題下の巻數巻五以下不明）」　内題なし　柱刻「江長（大長・西長・東長・近長・京長）（丁數）」

刊記　書林　大坂心齋橋筋　柏原屋佐兵衛

（第五冊本文第一丁闕丁分を補寫挿入して「以上大判本十三行つゝにて三頁」と朱識　同裏表紙見返に貞享五戊辰年正月吉日森田金屋連名版の刊記を補寫して「大判本の奥書」と朱識　九二三・六二―イ一五の後刷　九二三・六二―イ一三）

日本永代藏　六卷　六冊　二七五一

井原西鶴著　袋綴　縹色表紙　二六糎一八・五糎　四周單邊二〇・五糎一六糎　十三行　挿畫（巻一・二）各八頁分　（巻三）九頁分　（巻四）十頁分　（巻五・六）各八頁分　題簽左肩雙邊「（書名同）一（―六）大福新長者教」（巻五闕）　目録題書名同　内題「本朝永代藏巻之一」（巻二以下なし）　柱刻「大福新長者教　巻一（―巻六）（丁數）」、「春風」

刊記　貞享五戊辰年正月吉日／京書林　二条通鉄屋町　金屋長兵衛／大坂　書肆　北御堂前　森田庄太郎

刊板

（第六冊奥に「此跡ヨリ／人ハ一代名ハ末代　仁之部／義之部／礼之部／智之部／信之部／（此二行横書）　甚忍記　板行仕候」と豫告

口上ありて刊記日附の前に「京書林　二条通鉄屋町　金屋長兵衛」とあり　九二三・六二―イ一九七）

日本永代藏巻六　一冊　二七五二

井原西鶴著　袋綴　改装後補縹色表紙　二二糎一六糎　四周單邊一九・五糎一四・五糎　十五行　挿畫八頁分　十五丁　題簽左肩雙邊「日本永代藏」　目録題書名同上　内題なし　柱刻「京長（丁數）」

刊記　貞享五歳辰ノ五月吉日／書林西澤太兵衛重刊

（奥に「此跡ヨリ／人ハ一代名ハ末代　仁義礼智信之部　甚忍記　全部八冊出來武匁　板行仕候」との豫告口上あり　九二三・六二―イ一五）

八棟大嶋臺　六卷　合一冊　二七五三

三先道春著　寶永七庚寅年／五月吉日自序　袋綴　波雲畫文縹色表紙　二六・五糎一七・五糎　四周單邊一七・五糎一三糎　九行　挿畫（巻一）二頁分　（巻二）一頁分　（巻三）二頁分　（巻四）一頁分　（巻五）三頁分　（巻六）三頁分　題簽左肩雙邊「（□入□）」目録題書名同　柱刻「大島臺序（巻ノ一―巻ノ六）（丁數）」、「殘花書屋」

刊記　寶永七庚寅年初夏吉日／書林喜久本氏

（自序に「大職冠之後胤勧學院藏人道廣末流／藤尾谷三先氏道春（みちはる）編集」と署す　九二三・六二―イ一五三）

花の名殘　五卷　五冊　二七五四

自序　袋綴　改装後補縹色表紙　間紙を挟む　二二糎一六糎　四周單邊一七・五糎一二・五糎　十行　挿畫（巻一）五頁分　（巻二至五）各四頁分　題簽中央布目金紙後筆「花のなこり　完」（第二冊以下闕）　柱刻「花名一（―五）（丁數）」、「月洲」「中川家藏書印」

刊記　天和四歳／子正月吉辰日／　江戸神田新革屋町　西村半兵衛／　洛陽錦小路新町西へ入町　永田長兵衛／梓行

（九二三・六二―イ一五一）

風俗傾性野群談　五卷　五冊　二七五五

八文字自笑著　享保二酉ノ春自序　袋綴　改装後補縹色表紙　間紙を挟む　一二・五糎一九糎　四周單邊一〇・五糎一六糎　十四行　挿畫（各巻）各五頁分　題簽左肩雲母引金切箔散後補墨「（書名同）一（―五止）」　柱刻「傾野一（―五）（丁

數)」、「太宰氏改藏」等
(巻四目録半丁分影補寫後補　巻五末に「西川ひな形　全部五巻／付り新風替り工夫模様」豫告口上あり　九一三・六二―イ三七)

風流數目金　五巻　合一冊　二七五六

風音堂著　自序　袋綴　改装後補砥粉色布目表紙　二五糎一六・五糎　四周單邊一九・五糎一五糎　十一行　挿畫(巻一)三頁分　(巻二至五)各四頁分　題簽左肩雙邊(刊)後補墨「(書名同)一名連三味線　一」　序題「風流連三味線」　目録題書名同　内題なし　柱刻「好色數目金一(―五)(丁數)」
刊記　于時元祿十七甲申歳／正月吉辰日／泉品岸和田　本屋六兵衛／京寺町松原　菊屋七郎兵衛／刊板
(九一三・六二―イ一二三)

風流曲三味線　六巻　六冊　二七五七

江島其磧著　袋綴　改装後補毘沙門格子押文黒表紙　用紙裏打　一二・五糎一八・五糎　四周單邊一一糎一七糎　十五行　挿畫(巻一)十三頁分　(巻二)十四頁分　(巻三)十頁分　(巻四)十一頁分　(巻五)十頁分　(巻六)十一頁分　題簽中央後補澁紙「(書名同)　一(―六止)」　目録題書名同　内題なし　柱刻「一之巻(―六之巻)曲三味線(丁數)」、「和露」
刊記　寶永七年閏八月吉日／ふ屋町通せいぐハんじ下ル町　八文字屋　八左衛門板
(奥に「當世御伽曽我(右)(左)并ニ好色一代誑牢人付り風流東鑑　八巻」の豫告口上あり
九一三・六二―イ一五五)

風流源氏物語　六巻　合一冊　二七五八

都の錦著　未の春京も／いなかも餅喰時自序　袋綴　改装後補紺表紙　二七・五糎一九糎　四周單邊二一・五糎一五糎　十行　挿畫(各巻)各五頁分　題簽左肩闕　扉題「風流源氏」　同見返中央「(書名同)(脇書附訓を略す)」　目録題「風流源氏ものかたり一」「風流げんじ物語二」「風流源氏物語三」「風流源氏物かたり四」「風流源氏もの語五」「風流源氏物語六」　内題なし　柱刻「源氏序・目録　一(―六)(丁數)」
刊記　元祿十六癸未年孟春吉日／書房／洛陽五条通　河勝五郎右衛門／東武日本橋南壹丁目　舛屋五郎右衛門／板
(巻末に「空蟬二巻夕顔二巻若紫二巻跡より　板行」豫告口上あり　九一三・六三―イ一二一)

風流日本莊子　五巻　五冊　二七五九

都の錦著　自序　袋綴　縹色表紙　二五糎一七・五糎　四周單邊二一糎一五糎　十行　挿畫(巻一)四頁分　(巻二・三)各五頁分　(巻四)四頁分　(巻五)五頁分　題簽左肩雙邊「新板繪入風流倭莊子　一之巻(―五之巻)(巻五補寫)」　目録題「日本莊子一」「やまとさうし二」「大和莊子三」「やまと莊子四」「日本さうし五」　内題「(書名同)　一(二)」「風流大和さうし　三」「風流やまと莊子　四」「風流大和莊子　五」　柱刻「日本莊子巻一(―巻五)　(丁數)」
(巻五用紙薄様　「京鉄屋町誓願寺下ル町　板元　八文字屋八左衛門」と刊記あるものによる影補寫後補　九一三・六二―イ二四九)

懐硯　三巻　三冊　闕　二七六〇

井原西鶴著　貞享四年花見月初旬自序　袋綴　紺表紙　二五糎一七・五糎　四周單邊一九・五糎一四糎　十二行　挿畫(各巻)各八頁分　題簽左肩雙邊「〔一宿道人〕懐硯一(五)」「□ふところ硯　二」　目録題書名同　内題なし　柱刻「宿　序(目録・一・二・五)　(丁數)」
(巻一・二・五を存す　九一三・六二―イ四七)

文武さゞれ石　五巻　五冊　闕　二七六一

月尋堂著　正徳二ッのとし千代の春／うらゝかなる日(石別子)自序　袋綴　雲引下畫青表紙　二六糎一八糎　四周單邊二〇・五糎一六糎　十一行　挿畫(巻一・二)各四頁分　(巻三)三頁分　(巻四・六)各四頁分　題簽左肩雙邊「文武君か代さゝれ石一(―三)」「文武きみか世さゞれ石四」「文武君か代さゞれ石六」　目録題「(書名同)　巻之一(―巻之四)」「文武硬石巻之六」　内題「(書名同)　巻之一(巻之三・巻之四)」「文武小細石巻二」「文武硬石巻六」　柱刻「文武君か世　巻之一(―巻之六)　(丁數)」、「紫景文庫」

刊記　正徳二年正月吉旦／書林／京大黒屋徳十郎／柏屋勘右衛門／和泉屋茂兵衛／江戸小川彦九郎／大坂須藤権兵衛／瀬戸物屋傳兵衛
（巻五闕　九一三・六二—イ二五五）

本朝櫻陰此事　五巻　五冊　二七六二

井原西鶴著　砥粉色表紙　二六糎一八・五糎　四周單邊二〇糎一五・五糎　十二行　挿畫（巻一）七頁分　（巻二）六頁分　（巻三）八頁分　（巻四）八頁分　（巻五）六頁分　題簽左肩雙邊「繪入本朝櫻陰比支かんにん小判五兩　巻五」（巻一至四は墨書名同）目録題書名同　内題なし　柱刻「櫻陰巻一（—五）（丁數）」、「山（紙票）」
（巻五末刊記の條半丁分闕　九一三・六二—イ二〇九）

本朝二十不孝　五巻　五冊　二七六三

井原西鶴著　貞享二二稔孟陬日自序　袋綴　黒表紙　二六糎一八糎　四周單邊一九糎一五糎　十一行　挿畫（各巻）八頁分　題簽左肩雙邊「繪入（書名同）一（—五）」目録題書名同　内題なし　柱刻「二十不孝一（—五）（丁數）」、「兎角菴」
刊記　貞享三暦／丙寅霜月吉辰／江戸青物町萬谷清兵衛／大坂呉服町八丁目岡田三郎右衛門／同平野町三丁目千種五兵衛板
（巻一第十三丁表半丁、巻二第八丁裏第一行下半行分闕　九一三・六二—イ一〇七）

本朝二十不孝巻五　一冊　二七六四

井原西鶴著　袋綴　黒表紙　二六糎一八糎　四周單邊一九・五糎一五糎　十一行　十七丁　挿畫八頁分　題簽左肩雙邊「□本朝二□五」目録題書名同　内題なし　柱刻「二十不孝　五（丁數）」、「天香園藏（紙票）」
刊記　貞享三暦／丙寅霜月吉辰／江戸青物町萬谷清兵衛／大坂呉服町八丁目岡田三郎右衛門／同平野町三丁目千種五兵衛板
（九一三・六二—イ二〇七）

みやま櫻　寫　一冊　二七六五

袋綴　縹色表紙　一二・五糎一六糎　十行　百七十一丁　題簽左肩「（書名同）完」　内題なし
奥書　金田氏
（江戸時代中期寫　九一三・六二—イ一二九）

役者色仕組　五巻　合一冊　二七六六

八文字自笑・江島其磧著　于時庚子のめでたい／花の盛月兩自序　袋綴　縹色表紙　一三糎一八・五糎　四周單邊一一糎一七糎　一五行　九十三丁　挿畫（巻一至三）各五頁分　（巻四）四頁分　（巻五）五頁分　題簽左肩雙邊「（書名同）一之巻」目録題「（書名同）一之巻（—五之巻）」　内題なし　柱刻「一之巻（—五之巻）色仕組　（丁數）」、「羽州神山増戸藏書」等
（序文に「作者八文字自笑／作者江嶋其磧」と記す　未刊國文資料第一期所収中村幸彦編「八文字屋本集と研究」—參照　九一三・六二—イ四五）

野白内證鑑　五巻　合一冊　二七六七

八文字自笑著　寶永七ッのとしの秋自序　袋綴　淺黄色表紙　一二・五糎一八・五糎　四周單邊一一糎一七糎　十五行　百九十八丁　挿畫（各巻）各十頁分　題簽左肩雙邊「諸色見通野白内證鏡　五之巻（右）色道ひミつ（色）あずさのうらなひ」　目録題書名同　内題なし　柱刻「一之巻（—五之巻）内證　（丁數）」、「兎角菴」
（表紙右肩小津桂窓筆朱書「子」　巻三末「扨皆様江お断申上まする／傾城禁短氣先へ出し申筈ニ評判の本に／書のせ候へ共少シいはく候ゆへ此内證鑑先へ出し申候／此跡へ追付來月中ニちがいなく出し候それゆへ書印候」とあり
九一三・六二—イ七三）

遊色かづら男　一冊　二七六八

袋綴　改裝後補水色表紙　一一糎一六・五糎　四周單邊九・五糎一四糎　十三行　挿畫六頁分　題簽中央後補黄紙墨書名同　目録題書名同　内題なし　柱刻「かつら男（丁數）」
（九一三・六二—イ三九）

友色三點頭　三巻　合一冊　二七九

西川祐信畫　初春吉祥日序　袋綴　紺表紙　一三糎一九・五糎　四周單邊一一・五糎一八糎　十五行　挿畫(上巻)二頁分　題簽左肩雙邊「みうなづき」　序題目録題書名同　柱刻「みうなつき巻之上(―下)　(丁數)」、「雅俗文庫」

刊記　享保六辛丑年／正月吉辰／　花洛大和繪師　西川祐信／　京寺町四条下ル二町目　小川久兵衛板行

識語　(見返)　上中下三冊合綴／安田氏ヨリ贈ラル／惜ムベシ巻中極端畫ノ抜去(上巻第七至十・第十九至二十二丁、中巻第四裏至八丁表・第十四裏至十八丁表、下巻第四至七・第十二至十五丁闕　巻末に「西川祐信圖好色角芽蘆(全部三冊)」の刊行豫告口上あり　九二三・六二―イ二五七)

遊里様太鞁　大坂之巻　一冊　二七〇

袋綴　砥粉色表紙　一二・五糎一八糎　四周單邊一〇・五糎一六糎　十三行　三十丁　挿畫四頁分　題簽左肩雙邊「遊里□」　中央後補墨書名同　目録題書名同　内題なし　柱刻「けいせい様太鞁三　(丁數)」

(九二三・六二―イ二五)

義經風流鑑　五巻　合一冊　二七一

八文字自笑著　正徳五年未ノ卯月吉日自序　袋綴　薄茶色表紙　一三糎一九糎　四周角取單邊一一糎一八糎　十四行　百十五丁　挿畫(巻一至四)各四頁分　(巻五)七頁分　題簽左肩「(書名同)五之巻」　目録題「(書名同)一之巻(―五之巻)」　内題なし　柱刻「義經一之巻(―五之巻)　(丁數)」、「兎角菴」

刊記　明和四丁亥年／正月／板元　大坂心齋橋順慶町角　升屋大藏／賣所　京寺町通押小路下ル　金屋治助／同　江戸　大傳馬町　鱗形屋孫兵衛

(序文に「作者八文字自笑」と記す　表紙右肩小津桂窓筆朱書「子」　刊記の條に「此所ニ御断申上候／一京都八文字屋方ニ而往年ゟ／被賣弘候讀本類此度私方江／悉求板仕候間不相替御求御覧／可被下候且又如先例之來春ゟ／年々新作讀本出し申候間／御求御覧之程奉頼上候已上」とあり　九二三・六二―イ六二)

萬の文反古　五巻　五冊　二七二

井原西鶴著　其月其日自序　袋綴　改装後補縹色表紙　二二糎一五・五糎　四周單邊一八糎一三・五糎　十一行　挿畫(各巻)五頁分　目録題書名同　内題なし　柱刻「萬文(巻二のみ文)　巻一(―五)　(丁數)」

刊記　元祿九年／子ノ正月吉日／　江戸　万屋清兵衛／　大坂　鳫金屋庄兵衛／　京　上村平左衛門　板

(九二三・六二―イ一〇九)

萬の文反古卷五　一冊　二七二

井原西鶴著　袋綴　砥粉色表紙(裏表紙闕)　二二・五糎一五・五糎　四周單邊一八糎一三・五糎　十一行　二十丁　題簽左肩闕　目録題書名同　内題なし　柱刻「文(又は萬文)　巻五　(丁數)」

刊記　元祿九年／子ノ正月吉日／　江戸　万屋清兵衛／　大坂　鳫金屋庄兵衛／　京　上村平左衛門　板

(九二三・六二―イ一〇五)

和漢遊女容氣　五巻　合一冊　二七三

江島其磧著　袋綴　薄縹色表紙　一二・五糎一八糎　四周單邊一一糎一六・五糎　十四行　百三丁　挿畫(巻一・二)各六頁分　(巻三至五)各四頁分　題簽左肩雙邊「一代男(後日)(書名同)三／付り色道極鑑也」　目録題「(書名同)一之巻(―五之巻)」　内題なし　柱刻「錢一之巻(―五之巻)　(丁數)」、「兎角菴」

刊記　京寺町通四条上ル二町目　谷村清兵衛版

(表紙右肩小津桂窓筆朱書「子」　巻末に「　子息氣質追加　世間娘容氣　全部六巻／右の本出し置申候間御求め／御覧可被下候／西川筆の海　全部二巻／右は西川祐信筆力を盡し弥敷風流／繪本出し申候御求め御覧可被下候」の豫告口上あり

九二三・六二―イ六三)

分里艷行脚　五巻　合一冊　二七四

八文字自笑著　正徳六ッの春自序　袋綴　水色表紙　一三糎一八・五糎　四周角

取單邊一一糎一六・五糎　十四行　百三十二丁　挿畫(巻一)七頁分　(巻二至四)各六頁分　(巻五)七頁分　題簽中央雙邊紅紙「(書名同)三ノ巻」　目録題書名同　内題なし　柱刻「序(目)(丁數)(いろは文字、巻五末三丁は「市・仁・參」を使用)」、「兎角菴」

刊記　正徳六年申ノ正月吉日／ふ屋町通せいぐハんじ下ル町　八文字屋八左衛門板

(表紙右肩小津桂窓筆朱書「子」　巻二末「好色和将棊　喜況詰物　全部三巻」　巻三末「役者願紐解　全部三巻」　巻四末「好色二代能　全部三巻」「百人女郎品定」巻五末「野傾咲分色狩五巻」「替女談合柱　全部三巻」「(編)人武徳鎌倉旧記(全部廿五巻)」の豫告口上あり　未刊國文資料第一期所収中村幸彦編「八文字屋本集と研究」―參照　九三・六二―イ五)

和國小性形氣　六巻　合一冊　二七五

九二軒鱗長著　自序　袋綴　改装後補茶色表紙　二二・五糎一六糎　四周單邊一八糎一三・五糎　十一行　九十四丁　挿畫(各巻)四頁分　外題左肩後筆「男色和國小性形氣合本五冊」　序題書名同　目録題「和國屋從容氣巻之一」「和國小性形氣巻之二(四)」「倭國小性かた氣巻之三」「和國こせう容氣巻之五」「倭國小性形氣巻之六」　内題「和國小性かた気巻之一」「(書名同)　巻之二(―巻之六)」　柱刻「小性一(―六)　(丁數)」、「宮島文庫」「羽州神山増戸藏書」「中川氏藏」

刊記　延享三年丙寅正月吉日／京都書林　寺町通佛光寺上ル町　菊屋新兵衛求板

識語(表見返附箋)　當流男色手鑑五冊外題替　和國小性形氣六冊／作ふり中／〳〵おもしろき書なりさて原板は五冊なるを／後に一ノ巻を一冊添六冊となし哥舞妓役者の類ひ／はや人ミ眼のつきて古板なりとしるゝゆゑ繪も／今様にかきあらため和國小性形氣と名つけし本にハ／延享年号あり　(以下朱書)　○以上ハ柳亭種彦か編りし好色書籍目録の一節也／今暫く茲ニ收載して此書の價値を知らんと欲する者の／爲に參考の料に供す

(巻末に「當世數眼鏡　全部五巻」の豫告口上あり　九三・六二―イ三九)

○

青本合巻年表索引　寫　一冊　二七六

藤岡作太郎著　自筆ペン書　洋綴　水色クロス厚表紙　用紙横罫ノート　二一糎一六・五糎　五十七丁　題簽中央墨横書「(書名同)全」　内扉題「(書名同)完」(巻初例言ありて「明治卅八年十月六日　藤岡作太郎」と自署　西洋ノートに下書せしものをカードに切離し五十音順毎頁四段十七行に配列し各表頁に貼附す　九二三・六四―イ二九)

八百十千神乎誓言緣結文定紋一　寫　一冊　二七七

瀧澤馬琴著　自筆　自畫　文政八年乙酉春正月新版自序　袋假綴　共表紙　用紙裏打　一七・五糎一二・五糎　六丁　挿畫各頁　外題中央「(書名同)(右に)乙酉新版全六冊　馬琴作(左に)前編壹之巻西村屋與八版」　内題なし

見返(中央)(書名同)前編(右に)曲亭馬琴戯編　文政癸酉陵冊合刻(左上貼紙)歌川國貞繪畫　西村永壽堂梓

奥書(裏表紙)文政七甲申年／閏八月十四日稿了／著作堂稿本／筆福硯壽／大吉利市

(表に自筆「乙酉新版合巻　馬琴作／八百十千神乎誓言緣結文定紋(傍訓朱書省略)／全六冊稿本　馬喰町二丁目西村屋與八／十月行支　森金次兵衛伊藤與兵衛」、裏に「文政七甲申年／玖月朔全本／六巻脱稿了／神田著作堂」同右上に別筆「十月十五日指出」とある包紙を附す　裏表紙に本屋行事の墨印あり　帙に「西荘文庫本」と墨書す　九二三・六四―イ六九)

おはん長右衛門桂川連理柵　寫　二冊　二七九

柳水亭種清著　自筆　自畫　自序　袋綴　改装後補澁刷毛布目表紙　原裝共表紙　間紙を挟む　二〇糎一四糎　原寸一六糎一二糎　挿畫各頁　原外題左肩(第一冊)「桂川連／理柵上の巻柳水亭綴」(第二冊)「(書名同上)下の巻／種清綴(右に)□(切取)年十二月廿七日稿成」

(内題の下に「柳水亭種清省録」と自署す　九二三・六四―イ五五)

思妻赤繩糸遊巻下　寫　一冊　二八〇

美圖垣笑顔著　自筆　自畫　袋綴　改装後補薄茶色表紙　原裝共表紙　一八・五糎一三糎　間紙を挟む　原寸一七・五糎　十二丁　挿畫各頁　題簽左肩後補下畫紅紙「(書名同)下(右上)草稿」　原外題中央「(書名同)笑顔著畫(右肩)天保十二

丑春開版　巻之下（左下）親父橋角山本榮久堂發行」　見返「思づま／ゑにしの／糸ゆふ／巻の下 笑顔作／畫／天保十二丑の春／よし町角山本榮久堂壽梓」　内題なし、「洒竹文庫」「笹野文庫」

（原裏表紙「福祿壽梓／吉祥如意」とあり　挿畫割付朱書す　奥に「美國垣笑顔作」と自署　九一三・六四―イ五三）

復開櫻接穂初輯之卷　寫　一冊　二六一

鬱齋梅里著　袋綴　改装後補藍小文朱藍縞模様表紙　原装共表紙　用紙薄様　一九・五糎　二三・五糎　四周單邊一七糎　一一・五糎　十一行　十九丁　挿畫八頁分　題簽左肩單邊（刊）後補「復開櫻接穂　初編　梅里畫」　原外題中央「復開櫻接穂　初編（右肩朱書）　板下本」　益田改（左下）六月行事　山口屋藤兵衛　濱田屋德兵衛」　柱心「櫻接穂初（丁數）」

（板下本　本屋行事の墨印あり　内題の次行に「東都　鬱齋梅里画作」と自署す　貼紙訂補多し　九一三・六四―イ四三）

加古川本藏綱目　寫　一冊　二六二

瀧澤馬琴著　自筆　自畫　寛政八丙辰春自序　袋綴　改装後補水色布目表紙　原装共表紙　一七糎　一二・五糎　十丁　挿畫入　原表紙外題中央「（書名同）上中下（右に）丙辰春新鐫　仙鶴堂版（左に）曲亭馬琴作」　序題書名同　内題なし

（原表紙見返に朱書「人物の居所すべてのとり合せハこの下書に／拘らすかつこうよろしくねかひ上候／筆耕落字にごり數篇御挍合／下さるへし」、裏表紙「寛政七乙卯年／九月中旬滿牒／墨附拾五牒／千秋万歳／大こ叶」とあり　奥に「馬琴戯作」「通油町本問屋／仙奎堂」とあり　九一三・六四―イ六七）

關東小六昔舞臺下編上冊　寫　一冊　二六三

柳亭種彦著　自筆　自畫　袋假綴　共表紙　一四・五糎　一一・五糎　十丁　挿畫各頁　外題中央「（書名同）」　表紙右肩「墨附／十葉」　同右下「柳亭種彦作／北尾重まさ画」　同左下「西村屋與八梓」　内題なし、「霞亭珍玩」「呂文」等

（挿畫割付朱書す　奥に「種彦作」と自署　九一三・六四―イ六五）

菊壽童霞盃　寫　四冊　闕　二六四

山東京山著　自筆　自畫　（四編上巻・七編上巻）自序　袋綴　共表紙　間紙を挟む　一七・五糎　一二・五糎　挿畫各頁　題簽左肩紅紙「菊壽童四編盃上（下）」　（右）京山作　（左）山本板　菊壽童七編上（下）巻　（右）山東菴京山作　（左）板元山本屋平吉　（上巻のみ右に「香蝶樓國貞畫」と追記す）」　七編上巻序題書名同、「齋藤文庫」「洒竹文庫」

（四篇上下・七篇上下を存す　各巻末に「京山作／國貞畫」とあり　第四編上巻序文末に「天保七丙申仲冬脱稿同八丁酉秋梓發兌」、第七編上巻序文末に「天保十亥仲春脱稿　初冬上梓　書肆榮久堂發兌」、第四編上巻見返附箋「一　板元樣へ申上候外題出来の節／戸びらハ此方にてしたゝめさし上申候／一　筆耕先生へ申上候一編の／草稿字音ンのかなつかひまても／たゞし候間すべて草稿の如き／かなに御したゝめ願上候　山東庵」第七編上巻見返朱書「一　筆耕先生へ申上候かなづかひ／おをゑえいゐのゐるすべて／下書の如くねがひ上候／一　國貞先生へ申上候やくしやの／やくわりよろしく御見立可被下候」とあり　九一三・六四―イ五九）

草雙紙の包紙　二冊　二六五

水谷不倒編　袋綴　代赭色布目表紙　二四・五糎　一七糎　題簽左肩青紙書名同　内題なし

（山東京傳作「金ゝ先生造化夢」以下草雙紙包紙を貼附す　上冊五十二點、下冊五十點を収む　九一三・六四―イ三五）

皿屋舗浮名染著　寫　六巻　六冊　二六六

瀧澤馬琴著　自筆　自畫　自序　袋假綴　共包表紙　一七糎　一二・五糎　挿畫各頁　外題中央「（書名同）（第二冊のみ「皿屋敷浮名染著」）（左肩）一之巻（―六之巻）（右肩）合巻物全六冊（第二冊のみ「六冊合巻」）（左下）馬琴作／鶴喜版」　第一冊表見返「中央皿屋しき浮名の染着（右肩）曲亭馬琴著　鳥居清峯畫（左下）江戸　仙鶴堂梓」　内題なし、「渡邊千秋藏書」

奥書　（第一冊裏表紙）文化九年壬申／春二月中旬稿／硯壽筆福／大吉利市

（第二冊同）文化九年壬申／二月下旬稿了／大吉利市

（第三・四冊同）文化九年壬申／秋八月二日脱藁（第四冊「秋八月初三日稿」）

／硯壽筆福／大吉利市
（第五・六冊同）文化九年壬申／秋八月四日稿（第六冊「秋八月五日稿了」）／筆福硯壽／大吉利市
（挿畫割付朱書す　序文末に「文化（壬申年二月中旬稿十年癸酉正月發兌」とあり　奥に「馬琴作／清峯畫」「通油丁つる喜板」とあり　又奇應丸神女湯の廣告文を附し「江戸元飯田町四方みそ店向／たきさわ製」とあり　九二三・六四―一六三）

北雪美談 **時代鏡四十九編下卷**　寫　一冊　二七七

柳水亭種清著　自筆　自畫　袋綴　改裝後補茶色表紙　原裝共表紙　用紙裏打　一七糎一二糎　十二丁　挿畫各頁　題簽左肩後補「（書名同）種清稿本」　原外題中央「（書名同）四十九編下卷（右）明治十六年四月稿成　作者種清　畫工吟光（左）板元　山本与市」　内題なし
（奥に「柳水亭種清作」とあり　原裏表紙に「家内安全」とあり　同第四十五編校正刷本一冊を附す　明治十三年十月自序　袋假綴　共表紙　二〇糎一三・五糎　四周單邊一五・五糎一〇・五糎　挿畫各頁　二十丁　外題中央墨書「時代かゝみ四十五編（左下）水子（印）」　内題なし　柱刻「時代四十五（丁數）」　奥に「柳水亭種清綴／國明圖畫」文中朱書校正多し　第二十丁柱刻丁數の下に「芝神明町／若狹屋與市板」とあり　九二三・六四―一五七）

白縫物語　寫　三卷　二冊　二七八

柳亭種彦（二世）著　自筆　自畫　袋綴　改裝後補（第一冊）丹表紙　（第二冊）同藍小紋朱堅縞表紙　原裝共表紙　間紙を挾む　（第一冊）一七・五糎一二・五糎　（第二冊）一六・五糎一二糎　題簽左肩（第一冊）無記　（第二冊）雙邊（刊）黄紙後補墨「白縫物語種彦稿本」　原外題（第一冊）中央「しら縫物語四十四編上（右）子四月行事　角久廣幸（左）柳亭種彦著／惠齋芳幾畫／廣岡屋幸助板」　（第二冊）中央「白縫物語第六十三編上（右）柳亭種彦作／惠齋芳幾畫（左）丸鎖板」「白縫物語　第六十三下（右）柳亭種彦作／惠齋芳幾畫（左）延壽堂梓」　内題なし、「雅樂堂」
識語　（第一冊表見返）　高橋仙果稿本
（第四十四編上・六十三編上・六十三編下を存す　各頁挿畫割付朱筆の記事多し　貼紙訂補　奥に各冊「柳亭種彦作／惠齋芳幾畫」とあり　第一冊に本屋行事の墨印あり　九二三・六四―一四一）

法界坊 野分姫 **隅田川月姿見**　寫　六卷　三冊　二七九

式亭小三馬著　自筆　自畫　天保十三年壬寅孟春自序　袋綴　改裝後補茶色絹表紙　原裝共表紙　用紙裏打　一八・五糎一二・五糎　原寸一七・五糎　挿畫各頁　原外題中央（第一冊）「（書名同）上編（右）式亭小三馬作／香蝶樓國貞畫（左）書舗江戸芳町川岸親父橋角　山本平吉版」　（第二冊）「（書名同）全六冊中編（右）同上（左）江戸書舗　榮久堂壽梓」　（第三冊）「（書名同）全六冊下編（右）小三馬作／國貞畫（左）山本版」　内題なし
（各冊奥に「國貞畫　小三馬作」とあり　第一冊原表紙右肩に「丑新板」と墨書して本屋行事の墨印あり　九二三・六四―一四五）

浪華潟美棹差櫛　寫　一冊　二八〇

寶亭文雪著　自筆　自畫　天保十一庚子年春正月愛亭笑顏序　袋綴　改裝後補砥粉色表紙　原裝共表紙　間紙を挾む　一七糎一二糎　原寸一一・五糎　二十二丁　挿畫各頁　題簽左肩後補「（書名同）（右肩）草稿」　原外題中央「（書名同）全四冊（右肩）天保十二／丑初春（左上）寶亭文雪作　一勇齋國芳画（同下）山本屋平吉梓」　内題なし、「齋藤文庫」「洒竹文庫」
奥書　（裏表紙）　天保十二うし初はる／大吉利市／如意吉祥
（挿畫割付朱書す　奥に「寶齋文雪作／一勇齋國芳畫」とあり　九二三・六四―一五二）

坂東太郎後世譚三輯後編　寫　二冊　闕　二八一

樂亭西馬著　自筆　自畫　袋假綴　共表紙　一七糎一二糎　挿畫各頁　外題（第一冊）中央「（書名同）三輯（右）樂亭西馬作／五雲亭貞秀畫（左）後編壹之卷　藤兵衛板」　（第二冊）左肩「（書名同）三輯後編之三　山口屋藤兵衛板」　内題なし
成（右下）樂亭西馬作／五雲亭貞秀画／山口屋藤兵衛板」
（壹之卷・三之卷を存す　挿畫割付朱書す　第一冊表見返に朱書「此處へ口画貳丁入ル／後篇ハ秋九月頃の／もよう二而御認可被下候」とあり　九二三・六四―一四七）

姫萬兩長者鉢木　寫　六冊　二八二

瀧澤馬琴著　自筆　自畫　文政八年乙酉春正月吉日自序　袋假綴　共表紙　用紙

裏打　一七・五糎一三糎　挿畫各頁　外題中央「（書名同）壹之卷（一六之卷）」（第一冊表紙）（右）「乙酉新版六冊合卷」（第二冊同）「乙酉新版全六冊」（第三冊同）「乙酉春新版合卷全六冊」（第四冊同）「乙酉新版合卷六冊」（第五冊同）「乙酉新版合卷六冊」（第六冊同）「乙酉新版全六冊」（各冊右下）「馬琴作」（左肩）（第一・二冊）「上編」（第三・四冊）「中編」（第五・六冊）「下編」（左下）「森屋版（第二冊のみ森屋次兵衛版）」　内題なし

（巻一表見返）姫まんりやう／長者鉢木上／編、（左下）文政乙酉新刻合冩／曲亭馬琴戯篇歌川／國貞繪畫錦森堂梓

（巻三）（中央）比賣萬南　長者鉢木中編（右肩）馬琴著（右下）文政八稔乙酉孟春新版合卷全編六冊（左肩）國貞画　江戸馬喰町二町目　畫肆森屋次兵衛梓

（巻五）（上段）はちの／木下編／嘗風合卷繪入物之本全六冊（下段）曲亭馬琴著／歌川國貞画／文政第八載／春正月發販／錦森堂綉梓

奥書　（各冊裏表紙）文政甲申年／十月朔日（第二冊前後同文略）「十月五日」第三冊同上「十月十四日」第四冊同上「十月十八日」第五冊同上「十月二十一日」第六冊同上「十一月二十日」）稿了／著作堂稿本／筆福硯壽／大吉利市

（第六冊表見返附箋）（朱書）画工様へ口上／一　雪の段二丁やたい引なるたけハ略し／かきねも上斗ニて下ハ見きり／ひつこう御かゝせ可被下候（下略）

（挿畫割付朱書す　第二・四冊奥「馬琴作」、第六冊奥「馬琴作／前三冊國貞画／後三冊國安画」同左上に家傳神女湯等の廣告文を附す　帙に小津桂窓筆「曲亭馬琴自筆／合卷稿本」とあり　九二三・六四―六一）

北條泰時明斷録第一輯巻之二　寫　一冊　二七九三

松亭金水著　自筆　袋綴　楮竪縞茶色表紙　二三糎一六糎　十行　二十四丁　挿畫（四周單邊一七・五糎・一三・五糎）四頁分　題簽左肩雙邊（刊）後補墨「泰時明斷録　二」　扉題中央「北條泰時明斷録　巻之二　（右下）松亭金水編次」

（内題次行に「東都　松亭金水編次」、表見返に「筆硯萬福／大吉利市」とあり　文中貼紙訂正あり　九二三・六四―イ三九）

萬福長者寶藏入　寫　一冊　二七九四

台西堂主人著　自筆　自畫　教訓亭春水序　袋假綴　共包表紙　用紙裏打　一七糎一二糎　二十一丁　挿畫各頁　題簽中央「（書名同）全四冊（表紙右）日本橋通三丁目／忠助店　板元藤岡屋彦太郎（同左）」國芳画／春水作（春水の二字見せ消ちす）」　内題なし

（巻末に「台西堂主人作／一勇齋國芳畫」とあり　九二三・六四―イ四九）

○

朝夷巡嶋記全傳　寫　四篇二十巻　二十冊　闕　二七九五

瀧澤馬琴著　自筆　自畫　袋假綴　共包表紙　用紙裏打　二四糎一七糎　十一行（各冊に本屋行事の墨印あり　初至四篇を存す　九二三・六五―イ三）

第一篇　五巻　五冊

文化甲戌冬至ノ除夜自序　挿畫（合巻）四十頁分　外題中央「朝夷巡嶋記　壹（一五）」　表紙右「初輯五巻　馬琴著」同左「壹之巻（一五之巻）／貳拾九張（貳拾八張・貳拾四張半・貳拾九張・貳拾五張）　願人若林清兵衛」

奥書　（各冊裏表紙）文化十一年甲戌／夏五月十六日（同上巻二　六月廿九日、巻三　十月六日、巻四　十月二十四日、巻五　十一月十一日）稿了／筆福硯壽／大吉利市

（巻末に「文化十二年乙亥／春正月吉日發販／繡梓書肆／江戸馬喰町三丁目　若林清兵衛／筋違御門外御田平永町山崎平八／大坂心齋橋唐物町南へ入　河内屋太助」の刊記割付及び「編述　曲亭馬琴稿本／淨書　荏土　千形仲道謄寫／出像　一柳齋豊廣畫／剞劂　華洛　井上治兵衛刀」その他文金堂藏梓馬琴著述の廣告等あり）

第二篇　五巻　五冊

文化十三年立冬後ノ一日自序　挿畫（合巻）三十七頁分　外題中央「朝夷巡嶋記第二編」　表紙右「嗣次小說　馬琴著」　同左「第一（二）巻（巻之三・四之巻・巻之五）／貳拾九張（貳拾五張半・二十六張・二十八張半・二十八張半）／若林清兵衛　文金堂」

奥書　（第一至四冊裏表紙）文化十三年丙子／閏八月二十三日（巻二　同上秋閏八月廿九日、巻三　九月七日、巻四　秋九月十九日）稿了／筆福硯（研）壽／大吉利市

（第五冊同）文化十三年丙子／秋九月廿六日稿了／同二十九日序目稿完／筆福硯壽／大吉利市／文金堂梓

（第一冊表紙に「子十月廿二日請取／十一月十一日改濟」とあり　巻末に「文化十四丁丑歳／春王正月／吉日發兌／京師書林　吉野屋仁兵衛／全伏見屋半三郎／江戸書肆　若林清兵衛／全山崎平八／大坂心齋橋筋唐物町　河内屋太助版」及び「編述

曲亭馬琴稿本／淨書　荏土（棚加正よし千形仲道）／出像　一柳齋豊廣畫／棗人一クロキ」、その他文金堂藏梓馬琴著述廣告等あり）

第三篇　五巻　五冊

文政改元立秋前ノ一日自序　挿畫（合巻）三十六頁分　外題中央「朝夷巡嶋記第三篇一（—五）」表紙右「全五巻　馬琴著」同左「第壹巻（—第五巻）／二十九頁（貳拾六頁・二十六頁餘・二十七頁半・二十九頁半）／若林清兵衛」

奥書（各冊裏表紙）文政元年戊寅／六月五日稿了（巻二　同上六月十一日稿了、巻三　六月十六日巳牌稿／方成、巻四　夏六月廿四日稿方／成、巻五　七月三日晡時稿方／成）筆福研（硯）壽／大吉利市　文金堂藏

（巻末に「戊寅秋七月画者傭書卒業同年冬日刻成／文政二年歳次己卯春正月二日製本發販／刊行書肆／江戸馬喰町三町目若林清兵衛／筋違御門外神田平永町山崎平八／大坂心齋橋筋唐物町河内屋太助」及び「編述　曲亭馬琴稿本／出像一柳齋豊廣畫／刊字挍合　平安櫟亭琴魚校訂」、その他文金堂藏梓馬琴著述廣告等あり）

第四篇　五巻　五冊

文政庚辰ノ余月念二日自序　挿畫（合巻）三十六頁分　外題中央「朝夷巡嶋記第四編一（—五）」表紙右「全五冊　馬琴著」同左「第壹巻（—第五巻）／二十九丁（二十七張・二十九丁・二十六張　二十六丁）／若林清兵衛（三至五冊丁數の上に貼紙して「行事山田佐助」とあり）」

奥書（各冊裏表紙）（第一冊）本文文政三年庚辰春三月／五日稿了／文政三年庚辰夏四月／二十二日稿了／筆福硯壽　著作堂稿本　大吉利市　文金堂嗣梓（第二至五冊）文政三年庚辰／春三月十五日（・第三冊、春三月廿四日・第四冊、夏四月六日・第五冊、夏四月十七日）稿了／筆福硯壽／大吉利市／著作堂稿本／文金堂嗣梓

（巻末に「文政四年辛巳春正月吉日發行／刊行書肆／江戸馬喰町三丁目若林清兵衛／筋違御門外神田平永町山崎平八／大坂心齋橋筋唐物町河内屋太助」及び「編述曲亭馬琴稿本／庚辰夏肆月脱稿□書出像隨成／出像　一柳齋豊廣畫／淨書　江戸千形仲道／剞劂　平安　巻三四　井上治兵衛　浪花　巻一二五　山崎庄九郎／刊字校訂　平安櫟亭琴魚」その他馬琴著述廣告等あり　九一三・六五—イ二三）

上田秋成雜集

（九一三・六五—イ二七）　所収細目次の如し　（二七九六—二九一六）

*諸道聽耳世間猿　五巻　五冊　（一）　二七九六

明和三年いぬのとし和譯太郎自序　袋綴　水色表紙　二五・五糎一八糎　四周單邊二〇糎一四・五糎　十一行　挿畫（各巻）四頁分　題簽左肩雙邊「新板繪入諸道聽耳世間狙一（—五）」　目録題書名同　内題なし　柱刻「一（—五）序（目）（丁數）」

刊記　書肆　大坂阿波座おたび町　山田屋嘉右衛門板

（見返中央）諸道聽耳世間狙　全五冊（右）浪速和譯太郎著（左上）當時流行の珎説を／聽あつめ故八文字が文勢に倣ひて怜何可／笑かきたる話本なり　芝翠館藏

*諸道聽耳世間猿　五巻　五冊　（二）　二七九七

嘉永二年酉のとし和譯太郎自序　袋綴　唐草模様摺出青色表紙　二五・五糎一八糎　四周單邊二〇糎一四・五糎　十一行　挿畫（各巻）四頁分　題簽左肩單邊「諸道聽耳世間猿一（—五）」　目録題書名同　内題なし　柱刻「一（—五）序（目）（丁數）」

刊記　大阪書林（横書）／心齋橋筋博労町角　岡田茂兵衛／同南久寶寺町北エ入　前川善兵衛／同北久寶寺町南エ入　中尾新助／同唐物町南エ入　吉岡平助／同備後町角　梅原龜七／同備後町北エ入　森本太助

*桃園雜話　五巻　五冊　（三）　二七九八

嘉永二年酉のとし和譯太郎自序　袋綴　梅花押文水色表紙　二五糎一七・五糎　四周單邊二〇糎一四・五糎　十一行　挿畫（各巻）四頁分　題簽左肩雙邊「（書名同）壹（—五）」　目録題書名同（巻一のみ）　内題なし　柱刻「一（—五）ノ序（丁數）」、「芝川文庫圖書之印」

刊記　天保十己亥年／江戸　淺草茅町二丁目　須原屋伊八／大阪　心齋橋南久寶寺町北へ入　伊丹屋善兵衛

（各巻目録の部を削り第一冊巻初にのみ新刻の目録一丁を附す）

*世間妾形氣　四巻　四冊　（四）　二七九九

明和丙戌の冬和氏譯太郎自序　袋綴　茶色表紙　二三糎一六・五糎　四周單邊二〇糎一五糎　十一行　挿畫（各巻）四頁分　題簽左肩雙邊「（書名同）一（—四）」　目録題同上　内題なし　柱刻「妾　序（一—四）之（丁數）」、「睦蛙亭」

刊記　明和四年亥正月吉辰／書林　京寺町通松原上ル町　菊屋七郎兵衛／大坂心齋橋筋塩町　正本屋清兵衛板

（第一至三冊と第四冊との取合せ本　巻四末に「世間猿後編 諸國廻船便」西行はなし「歌枕染風呂敷」の豫告口上あり）

*世間妾形氣　四巻　合一冊　（五）　二八〇〇

明和丙戌の冬和氏譯太郎自序　袋綴　改裝茶色表紙　二三糎一六・五糎　四周單邊二〇糎一五糎　十一行　挿畫（各巻）四頁分　題簽左肩雙邊「（書名同）　三」目録題書名同　内題なし　柱刻「妾　序（一―四）之（丁數）」

（巻四末に「世間猿後編 諸國廻船便」「西行はなし 歌枕染風呂敷」の豫告口上あり　表紙右肩に小津桂窓筆朱書「子」　刊記闕丁）

*雨月物語　五巻　五冊　（六）　二八〇一

明和戊子晩春剪枝畸人自序　袋綴　毘沙門格子模様緑表紙　二二・五糎一六糎　四周單邊二〇糎一四糎　十二行　挿畫（各巻）四頁分　題簽左肩單邊「雨月もの語　三」「□月もの語□（五）」（巻一・二・四闕）　柱刻「雨月序（一之―五之）（丁數）」、「紫景文庫」

刊記　安永五歳丙申孟夏吉旦／書肆／京都　寺町通五條上ル町 梅村判兵衛／大坂　高麗橋筋壹町目 野村長兵衛

*雨月物語　五巻　合一冊　（七）　二八〇二

明和戊子晩春剪枝畸人自序　袋綴　水色表紙　二三糎一六糎　四周單邊二〇糎一四糎　十二行　挿畫（各巻）各四頁分　題簽左肩單邊黄紙「雨月物かたり　全（「全」字學書）」　柱刻「雨月序（一之―五之）（丁數）」、「平野姓圖書記」

刊記　安永五歳丙申孟夏吉旦／書肆　大坂　心齋橋筋博労町 名倉又兵衛／　高麗橋筋壹町目 野村長兵衛

識語　（表見返）明治參拾五年夏初めつ方／冨士貸本社筒抜爺より讓受

*雨月物語　五巻　五冊　（八）　二八〇三

明和戊子晩春剪枝畸人自序　袋綴　網代垣菊押文水色表紙　二三糎一六糎　四周單邊二〇糎一四糎　十二行　挿畫（各巻）各四頁分　題簽左肩單邊黄紙「□の語　一」「□月もの語　三」「□物かたり　四」「雨月もの語□」（巻二闕）　柱刻「雨月序（一之―五之）（丁數）」、「元」

刊記　安永五歳丙申孟夏吉旦／書肆　大坂　心齋橋博労町 名倉又兵衛／　同町 藤沢重兵衛

*雨月物語　五巻　三冊　（九）　二八〇四

明和戊子晩春剪枝畸人自序　袋綴　澁刷毛目表紙　二五・五糎一七・五糎　四周單邊二〇糎一四糎　十二行　挿畫（各巻）四頁分　題簽左肩單邊「（書名同）　上（―中・下）」　柱刻「雨月序（一之―五之）（丁數）」、「言彦文庫」「山（紙票）」

刊記　發行／書肆／　江戸日本橋南壹丁目 須原屋茂兵衛／　同二丁目 山城屋佐兵衛／　同二丁目 須原屋新兵衛／　同 岡田屋嘉七／　芝神明前 同 和泉屋吉兵衛／　同淺草茅町二丁目 須原屋伊八／　同兩國横山町壹丁目 出雲寺萬治郎／　同下谷御成道 紙屋徳八／　尾州名古屋傳馬町五丁目 菱屋久八／　大坂心齋橋通北久寶寺町 河内屋源七郎板

（第一冊見返藍刷）（中央）（書名同）全部三冊（同右）上田秋成大人編輯　（同左）浪花書肆　文榮堂藏板

（第一冊裏表紙見返に大阪書林河内屋源七郎の口上及び第三冊末に同「軍書小説類藏板目録」等廣告三丁半あり）

*藤簍冊子　六巻　六冊　（一〇）　二八〇五

享和二年の秋生島の叟序　文化紀元三月是の日昇道附言　享和壬戌晩春自序　（第四冊）自序　文化紀元甲子仲冬之吉大田覃後序　袋綴　雲母刷下畫砥粉色表紙二七・五糎一八・五糎　四周單邊二一糎一五糎　十行　題簽中央薄水色「（書名同）壹」「つゝらふみ　貳（參・伍・陸）」「つゝら冊子　肆」　内題「（書名同）弓一題云澡屑」「つゝらふみ二（三・六）」「都圖羅冊子四」「つゝら冊子五」　綴目「一ノ（―六ノ）（丁數）」、「幡」

刊記　（第三冊）文化三年寅穐發行／書林／江戸　須原屋平助／大坂　大野木市兵衛／京　小川五兵衛／菊屋源兵衛

（第六冊）文化丁卯春發行／江戸　須原屋平助／大坂　大野木市兵衛／京都　小川五兵衛／菊屋源兵衛

（巻六末附録に瑚璉尼の「露分衣」・「夏野の露」の二文を収む）

*春雨物かたり　寫　五巻　五軸　闕　（一一）　二八〇六

自筆　（血かたひら）自序　巻子本　改裝後補茶色絹表紙　見返金砂子散　用紙

裏打　二六・五糎（第一巻のみ　天地單邊二二糎）　一紙四一糎　約二十行　題簽
金砂子散後補「血かたひら（天津處女・海賊・目ひとつの神・樊噲）」
（富岡本　序及び第一回「血かたひら」・第二回「天津處女」・第三回「海賊」・第五回「目ひとつの神」・第十回「樊噲上」計五巻を存す　中村幸彦著「校訂春雨物語」—参照）

*春雨物語殘巻　寫　三軸　闕（一二）　二八七

自筆　巻子本　改装後補菊唐草織文濃納戸色表紙　用紙裏打　二六糎　一紙約三九糎　約十七行　題簽後補藤井乙男筆「春雨物語一（一三）歌のほまれ　宮木冢一（宮木冢二・樊噲下其他斷片）」　内題（巻一）「歌のほまれ　附宮木冢」（巻二なし）（巻三）「拾之下」
（松室本　巻三には「樊噲」の他「捨石丸」・「死首のゑかほ」・「妖尼公」・「二世の縁」の斷簡を収む　多くは富岡本の僚巻なるべし）

*春雨物語殘缺　寫　一冊（一三）　二八八

自筆　序　袋綴　改装後補丹表紙　用紙裏打　二七糎一九・五糎　五十七丁　題簽左肩藤井乙男筆書名同　内題なし
識語　（序文の條中村幸彦筆朱書）舊藏羽倉家、後人出刊の意にてもありて／作せし序文歟
（松室本「血かたびら」約十丁、「天津處女」約九丁、「海賊」四丁、「妖尼公」三丁半、同別稿一葉、「目ひとつの神」七丁半、「二世の縁」約二丁、「樊噲」五丁、「楠公雨夜かたり」約三丁半、同別稿二葉、「捨石丸」四丁、「宮木冢」約五丁を存す）

*春雨物かたり　寫　二冊（一四）　二八九

自序　袋綴　金泥下畫澁刷毛目表紙　二七糎一九糎　八行　外題左肩「はるさめものかたり　上（下）」　序題書名同　内題なし、「六有圖書」「西荘文庫（小津桂窓舊藏）」「花三十全二」と墨書せる紙箋に捺印）」
（西荘文庫本　原に「文化五年春三月／瑞龍山下の老隱戲書／于時歳七十五」と奥書あるものの寫　典籍第四冊所収中村幸彦「小津桂窓舊藏春雨物語について」—参照）

*春雨物かたり　寫　一冊　闕（一五）　二九〇

田原春所筆　自序　袋假綴　共表紙　二八糎二〇・五糎　十一行　二十四丁　外題左肩後筆「上田信齋春雨物語　田原春所寫」
識語　並河文庫舊藏
（田原本　江戸時代末期寫　序・「血かたひら」・「天津處女」・「海賊」を存す　漢字に朱書附訓）

*癇癖談　二巻　二冊（一六）　二九一

竹窓書翰序　自序　袋綴　雲母蝶模様黄布目表紙　二二・五糎一六糎　四周單邊一六・五糎一一糎（上部横一線頭注欄あり）　九行　挿畫（上巻）十一頁分　（下巻）九頁分　題簽左肩「くせものかたり　上（下）」　柱刻「（書名同）　上（下）　（丁數）」、「礒園」「仙波藏書」「春城清玩」「元」等
刊記　文政五壬午歳七月／書林／皇都　近江屋治助／東都　前川六左衛門／大坂　河内屋茂兵衛／同平七／今津屋辰三郎

*癖物語　寫　二巻　二冊（一七）　二九二

自序　袋綴　澁刷毛目布目表紙　二六・五糎一九糎　十行　外題左肩「（書名同）乾（坤）」、「永田文庫」
（江戸時代末期寫　序末に「京都みなもと秋成戲に述」とあり　本文「むかし男有けり」より始まる）

*くせ物かたり抄　寫　一冊（一八）　二九三

袋假綴　共表紙　二四糎一七糎　十六行　八丁（表紙共）　表紙中央「久世物かたり（右）　文政五壬辰年／霜月抜書（左）　上田與齋翁作／秋成號無腸（左下）　鳩峰」、「渡邊氏祖先之遺書」
識語　並河文庫舊藏
（内題の下に「秋成翁」とあり）

*茶瘕醉言　寫　一冊（一九）　二八一四

自筆　袋假綴　共表紙　二四・五糎一七糎　九行　五十一丁（表紙共）　外題中央「（書名同）全」　内題なし

（ビブリア第十五號所収中村幸彦「上田秋成の遺書茶瘕醉言」—參照）

*茶瘕醉言　寫　一冊（二〇）　二八一五

袋綴　澁刷毛目表紙　二三・五糎一六・五糖　九行　四十八丁　外題左肩「（書名同）全」、「西莊文庫（小津桂窓筆「花六全一」と墨書せる紙箋に捺印）」

（表紙中央下に小津桂窓筆朱書「三十五　四百五十一」とあり　國語國文第二十三巻第三號所収中村幸彦「茶瘕醉言と膽大小心録」—參照）

*膽大小心録　寫　七軸　闕（二一）　二八一六

自筆　巻子本　改裝後補菊唐草等織文青（又は白茶色等）表紙　用紙裏打　二三・五糎　一紙約二九・五糎　題簽後補藤井乙男・中村幸彦筆書名同　内題後筆（巻三）「（書名同）　撓」（巻四）「たむ大小しむろく　玖尾」（巻五）「（書名同）　陸」

（國語國文第二十三巻第三號所収中村幸彦「茶瘕醉言と膽大小心録」—參照）

*膽大小心録　寫　一冊（二二）　二八一七

自筆　袋綴　改裝後補縹色布目表紙　用紙裏打　二四・五糎一六・五糎　約九行　五丁　題簽左肩後補藤井乙男筆「膽大小心録異本」　内題なし

（國語國文第十三巻第十一號至第十四巻第一號所収藤井乙男「秋成雜俎蟹のはらわた（一）・（二）」—參照）

*膽大小心録　寫　三巻　合一冊（二三）　二八一八

袋綴　改裝後補青布目表紙　二三糎一五・五糎　十二行　八十五丁　外題左肩後筆「（書名同）鹿田本」、「鹿田文庫」「殘花書屋」

識語　（裏見返）重友毅氏校訂／岩波文庫本の／底本となりし物也と鹿田主人／より聞く／昭和十八年二月廿六日／戸川濱男（印）

（鹿田本　江戸時代末期寫　原に「此三まきは翁の羽倉信美家に同居のふし、ものゝは／しに書置しを、今度羽倉信充ぬし、あらたに清かき／して我に見せられしを、そのまゝに写し置もの也／天保二の中秋　茸窓」「此膽大小心録の三まきは上田餘齋秋成鶉屋翁の／随筆也松室ぬしの本をかりてもて写しぬ／天保四の春　松園」と奥書あるものの寫　岩波文庫本—參照）

*膽大小心録　寫　三巻　合一冊（二四）　二八一九

朝川仁平筆　袋綴　毘沙門格子摺出紫色表紙　二三糎一六糎　十一行　八十五丁　外題左肩朱書名同

識語　（小山源次筆）明治三十六年夏大坂鹿田文庫本影寫了　寫者朝川仁平家學僕／狂陶生識

（小山本　原に「此三まきは翁の羽倉信美家に同居のふし、ものゝは／しに書置しを、今度羽倉信充ぬし、あらたに清かき／して我に見せられしを、そのまゝに写し置もの也／天保二の中秋　茸窓」「此膽大小心録の三まきは上田餘齋秋成鶉屋翁の／随筆也松室ぬしの本をかりてもて写しぬ／天保四の春　松園」と奥書あるものの寫　巻初松室家藏本をもつて朱書校合を施せる所あり）

*膽大小心録　寫　一冊（二五）　二八二〇

袋綴　緑表紙　二七糎一九・五糎　十行　五十六丁　題簽左肩銀切箔散書名同、「肅童珍藏」

（江戸時代末期寫　原に「上田秋成餘齋翁者医業而浪華之住人也後路東住歌／讀雅考也此書者橋本氏秘藏也愚借之寫所也／于天保拾一庚子歳暮春日　猪孝之」と奥書あるものの寫　内題の下に「上田秋成著」とす）

*筆のすさひ附膽大小心録　寫　一冊（二六）　二八二一

（膽大小心録）七十六歳餘齋自奥　袋綴　改裝後補青葛葉模様黄表紙　原裝共表紙　二三・五糎一六糎　左右雙邊一九糎一三糎　九行茶色罫紙　三十四丁　題簽左肩後補「筆のすさひ　全上田秋成」　原外題左肩後筆「秋成筆すさひ　附大膽小心録（下に）此本所藏」

書田川宇氣比承借寫也（右下）荷完居藏」　内題なし、「石津氏圖書記」「濱和助」
奥書　孟軻云人之患在好爲人師と此言のよろし／きかも此翁もゝとより口さかなくいひ／さはめく人にあなれと世に何の師／くれの者とてみつからてらひうる／子らにはこゝろもとに佞すといふ／へからくのみ　荷完主人
（江戸時代末期寫「龍門の瀧」等を含む歌文「筆のすさひ」十丁、「膽大小心録」十三丁あり「秋成遺文」所収「麻知文」—參照）

*遠駝延五登　寫　一冊（二七）　二六三

自筆　袋綴　共表紙　二四糎一七糎　九行　五十丁（表紙共）　外題左肩「（書名同）草二」　内題なし
（帙に墨書「秋成遺文所収史論二參看」とあり）

*遠駝延五登　寫　一冊（二八）　二六三

袋綴　澁刷毛目表紙　二三・五糎一六・五糎　十一行　三十二丁　外題左肩小津桂窓筆「をたえこと　全」　扉題「（書名同）　二（右下に）上田餘齋翁著」　内題なし
（表紙左下小津桂窓筆朱書「四百五め」）

*歌聖傳　寫　一冊（二九）　二六四

自序　天明五年秋九月既望自奥　自跋　袋綴　改裝後補砥粉色表紙　用紙薄樣　二四・五糎一七・五糎　十一行小雙行　三十七丁　外題左肩後筆「柿本人麿傳上田秋成筆　完」　内題「傳」、「南天荘」
識語　（表見返）跋文ハ秋成ノ自筆カ全集ニ出セル歌聖傳ニハ跋文無シ／全文自筆ナルモ数部傳ハレリト云フ
（江戸時代末期寫　跋に云「成老て眼のいたきに書清むる事の煩し／さ誰やの人にあとらへて寫さしめしに／いとみたりにミたりて讀うましきふミ／とこそ成にたれさりとて人のいたつ／きをおもへはかい捨かたくてなんさ／しおきぬよみ見ん人能ゝこゝろも／ちひてよ／秋成」）

*安安言　寫　一冊（三〇）　二六五

自筆　大江漁人序　寛政壬子冬十一月自序　袋綴　澁刷毛目表紙　用紙雲母引　二二・五糎一五・五糎　十行　四十丁　題簽中央自筆「安ゝ言」

*金砂　寫　十巻剩言一巻　十一冊（三一）　二六六

自筆　自序　袋綴　薄鼠色（又は薄代赭色）表紙　二二・五糎一六糎　四周單邊一九糎一三糎　八行藍罫紙（第七冊無罫紙）　題簽中央（又は左肩）「（書名同）　一（—十）（金砂剩言）」　綴目（或は柱心）「（丁數）」
奥書　（剩言）　享和甲子春正月辛卯朔壬寅稿漸成／為然當以暗記錯易病眼失筆訛謬脱／語尤夥矣苟得天命再以訂正者也乎／七十一齢阮秋成誌
（「上田秋成全集」—參照）

*土佐日記解　寫　二冊（三二）　二六七

加藤宇萬伎著　上田秋成筆　寛政二年きさらきこれの日秋成序　自序　袋綴　雲母下畫砥粉色表紙　二五糎一九・五糎　十行小雙行　題簽中央青紙「（書名同）上（下）」　内題「土佐日記」
奥書　静舎宇万伎ぬし安永七年みな月十日といふ日都／三条大宮のやとりにてむなしくならせたまひ／ぬことし享和之年と云まて凡二めくりにや／成ぬ覧とおほしいつるまゝにこの日記の解／をなんとう出てたむけくさはかりに書清／めてたいまつるくらき眼を見はたけつゝもの／せしかは心さへ闇路たとるやうにてなん文／字のかたちハさらにもいはしことのこゝろをや／あやまりつらむあなうあなかしこ／　このとし卯月のもちの日ころ筆執はし／めてみなつき九日のひるつかたにうつし／をはんぬ
（各丁裏左下綴目に丁附を記す）

*土佐日記註　寫　一冊（三三）　二六八

加藤宇萬伎著　寛政二年きさらきそれの日秋成序　自序　袋綴　澁刷毛目布目表紙　一三・五糎一六・五糎　十行　百十二丁白紙二丁　外題左肩後筆「土佐日記上（下）」

秋成翁書全」　内題「土佐日記」、「管舎」

（江戸時代末期寫　原に「　静屋字方伎ぬし安永七年六月十日と云日都／三条大宮のやとりにてむなしくならせ給ひてこ／とし享和元年と云まて凡ふためくりにや成ぬらん／とおほし出るまゝにこの日記の解をなんとうてゝ／手向くさハかりに書清めてたいまつるこの文さき／／にも書すさミしかと何にあハたゝしくてやあり／けん筆にあやまちして心もゆかりさしかはこたひ／そこゝろしつめて書改侍りきをち／／ちはし／／に／には言くハへしかさき／／のにハたかへて侍りきさ／れとやミつかれし眼にハ心さへ闇道たとるやうにて／なん字をたかへことあやまちの猶多かりきくたひ／すともなとかよくしてん其所ミにかたハらせしをよ／く見たまひてこゝろまとひなせそと云／ことし卯月の望の日ころ筆とりハしめてみな月／九日のひるつかたに寫しをハんぬ　みなもとの秋なり」と奥書あるものの影寫本　箱附箋沖森直三郎筆「土佐日記註上田秋成書佐々木春夫舊藏」とあり）

*おちくほ物語　寫　六冊（三四）　二六二九

秋成筆　袋綴　雲母引下畫色替（水色又は紙粉色）表紙　二三糎一六糎　十行　題簽左肩雲紙「（書名同）　一（五・六終）」「おちくほ物かたり　二（四）」「おちくほものかたり　三」　内題なし、「富子印」「殘花書屋」等

識語　（第六冊裏見返）（朱書）本書題簽下の印ハ平瀬富子女史の／印にして平瀬文庫本の内和歌國／文に関する物ハ女史の手澤本なりと／聞也

寛政十一年己未仲春日京都額田正三郎外四名／刊行本四巻六冊本には秋成序文／あり本稿本とハ別に讀み易き様／書き改められ居れり／昭和十七年七月五日

戸川濱男記

（表紙右肩に「七品之内」とあり　箱裏書「此書もと大阪の素封家平／瀬氏の所藏たり署名／なけれと秋成翁の筆／たること疑なし／昭和十七年四月／藤井紫影鑑之（印）」とあり）

*花園　寫　一軸（三五）　二六三〇

自筆　巻子本　改装後補牡丹唐草織文深納戸色表紙　二八・五糎三米二〇糎　天地單邊二二糎　一紙三五糎　十七行　題簽後補「（書名同）　愛花人詞」、「小山（紙票）」

奥書　花ありて住やはつきし／すミつきてうつしや／植し山もとの庵／右題上田耕夫東山第

（藤簍冊子巻四　巻末に秋成筆村瀬栲亭の「愛花人詞」を附載す　同上題下に「栲亭源之熙」とありて奥に「剃髪俗士無腸書也」と署す）

*月のまへ　寫　一軸（三六）　二六三一

自筆　巻子本　改装後補毘沙門格子牡丹織文茶色表紙　見返金銀砂子散　用紙裏打雲母引　二二糎四米四四糎　天地（朱）單邊一九・五糎　一紙三四糎　約十六行　題簽後補雲母引紙「歌人上田秋成文書」

奥書　此話服元喬所撰大東世語見徳／行篇余偶讀之思之釋氏出家一／身無住而況是等之玩物何有所／用邪然則徳行過當已因今戯／以設斯言演説之惟恐損害古／人乎寛政十一秋九月廿一日夜於／浪華之客舎書記云（印）

（藤簍冊子巻四）

*露分衣　寫　一軸（三七）　二六三二

瑚璉尼著　秋成筆　東洋等畫　巻子本　鳥の子紙表紙　用紙青黄の色紙を交ふ　二七糎六米五六糎　一紙三八糎　約十五行　挿畫彩色二面　題簽雲紙後補「瑚璉尼嵯峨紀行秋成翁書」　内題なし、「桂香清賞」

奥書　よさい

識語　いにしへ今をかゝみるにさえすゝろきて／ふミに筆にさかしたちたる人の君に／つかへ家を治るにうときか侍れはゆめ／文はよませしとさへいふおろものゝ世に／あるもむへなりけりますら雄たに／あるにをとめはさらなりこの二道を／またくせしは上田の瑚璉尼なりたら／ちねの親につかえては百にひとたひ／もそむけるをきかす翁かこゝろの／まに／／立はしりつゝおのか操さへ／なほ／／しくてありふるとし月に／學ふとなくまた教ふとなけれと／心を慰はかりにてをさ／／人にかたる／事なく物にかいとめたるも／稀ゝなりしかとゝせまりむかし／さか野ゝつゆ分しみちゆきふり／難波の風のつてに吹傳へたり／しをおもひいてゝ翁にミせ侍れは／あな悲しかゝること草いかてそこ／にはちりのこりけんなき人の手向／ならむにはとてとミにかき清め／られしをひと

巻となしことのよし／をあとにしるすとてうたふ／津國の浪速のあまの／かりつるはなミ／＼／ならぬたまも／なりけり／荷田信美

（藤簍冊子附録　箱書「嵯峨道之記　上田秋成自筆　一巻」とあり　表紙に文化十年平安人物誌所載秋成傳記事を朱書す）

*藻屑　寫　二冊（三八）　二六三三

自筆　袋假綴　薄水色共表紙（第二冊闕）　用紙薄水色紙を交ふ　二三糎一七糎　八行　外題右肩書名同　裏綴目下に丁附あり（第一冊）「一至二一」（第二冊）「三五至四五（前後闕丁）」　内題なし

奥書（第一冊）すへてそらにしもおもひ／いつるまゝにかいしるし／たれハよしともあしとも／おもひあかちえらひもの／せしにあらすたゝ物くる／ほしさのあまり也けり

（表紙中央に「久かたの／日のたてぬきに／春秋をあやに／織なす／たく機の／神」と歌一首あり　藤簍冊子巻一・二）

*御嶽さうし　寫　二冊（三九）　二六三四

自筆　袋假綴　表紙闕　二三・五糎一六糎　八行　二十八丁　内題なし、「天香園藏（紙票）」

奥書　此むかしかたりは秋の夜のつれ／＼／言にいにしへ何くれの事ともを／いひなくさむか中によしのゝお／く山のたゝすまひをかたり聞ゆ／とてつゝめき出たるをあるしの／信よしさかしく筆とりてかい／しるされし也三十とせまりの／いにしへ事ハおほろかにこそあれ／されといつはり言して何せん／にたかへるふし／＼ハ垣ねの忘れ／草にかいつみやりてよ／鶉居士

識語（紙箋小山源治筆）御嶽さうし／（ツゝラ文巻四）／寛政十一年秋／六十六歳

（藤簍冊子巻四）

*枕の硯　寫　一冊（四〇）　二六三五

自筆　袋假綴　表紙闕　二四・五糎一七糎　九行　十一丁

識語（紙箋）（小山源治筆）枕の硯年月不詳／六如上人の十春の歌題を／枕草紙めきたる文またハ／歌にとりなされたり／末欠く（印）

つゝら文／巻五（二十三ウ）にこの文／いでたり

（藤簍冊子巻五　末丁裏「雨かはつ／ミな月つこもりかたむら雨一日ふた日降とほりて／秋の初」までを書して以下空白）

*雨かはつ　寫　一冊（四一）　二六三六

自筆　袋假綴　表紙闕　二四・五糎一七糎　十行　五丁　内題なし

識語（紙箋）（小山源治筆）七月十一日なる日／河内（にて）ありける時なり／夏の花を論したる文／雨かはつ／六十五歳（寛政十年五）（印）

つゝら文／巻五ノ三十七ウ

（藤簍冊子巻五　初行「のけちめをいはす。おのがまゝに咲ほこりたる。く」至末行「長き鳥の。さるきさミ／＼の人からなれハ。此」を存して前後闕丁）

*〔藤簍冊子雑抄〕　寫　一冊　闕（四二）　二六三七

袋綴　改装後補海松色表紙　原装共表紙　二八糎二〇糎　十六行　十五丁（原表紙共）　題簽左肩後補書名同　内題なし

（江戸時代末期寫「人ミ野の花つミわきて哥よむなへにかける哥」・「劍の舞」・「月のまへ」・「古戰場」・「江復篇」を存す）

*〔鶉居文稿〕　寫　二冊（四三）　二六三八

荷田信美筆　袋綴　共表紙　二七糎一九・五糎　十二行　外題左肩後筆「（書名同）一（二）」　内題なし、「天香園藏」

識語（第二冊表紙紙箋）（小山源治筆）藤簍冊子附録草稿／露分衣　瑚璉尼作（寛政元年九月／箕面行　經亮秋成　同年同／河東妓館取締の文　秋成同二年／攝津西成郡今宮村／賜勅書の序文　秋成／秋成五十六七才

（第一冊「鶉の屋」・「迦具都遅能阿良岐」・「いははし」、第二冊「露分衣」・「箕面行」・「うかれ鴉」・「攝津西成今宮村賜勅書序文」を所収「秋成遺文」一参照）

*反故集 寫 五綴 一冊（四四） 二八三九

自筆 袋假綴 無表紙 二三糎一七糎 用紙各種 十四丁
識語 （紙箋小山源治筆）「藤簍冊子」「毎月集」／等の草稿／年月混雑

*神代かたり殘稿 寫 三軸（四五） 二八四〇

自筆 巻子本 改裝後補牡丹唐草模様深納戸色表紙 用紙裏打 二六糎 一紙約三八・五糎 約二十二行 題簽後補藤井乙男筆「神代かたり 一（二・文化六年二月）」
内題なし
奥書 文化六季二月是日七十／六齢拭盲眼奉／天覧寛福只恐懼恐敬書
（國語國文第十四巻第一號所収藤井乙男「秋成雜俎 蟹のはらわた(三)」―参照）

*追擬花月令 寫 一軸（四六） 二八四一

自筆 自序 巻子本 改裝後補唐草織文紫鼠色表紙 見返金砂子散 用紙裏打 二六糎七米二五糎 天地單邊二二糎 一紙四四糎 有界二三行 題簽後補「（書名同）秋成稿」
識語 （附箋小山源治筆）追擬花月令／七十二候の花を論する文／文中ことしはかりのよはひの數云／あれは七十二歳の作なるを知りぬ
（「又からきを苦し塩」まで存して以下闕「秋成遺文」―参照）

*つゝら文 寫 一軸（四七） 二八四二

自筆 巻子本 改裝後補菱小文白茶色表紙 見返金砂子散 臺貼 三一糎五米七〇糎 原寸二七糎三米七七糎 一紙四三・五糎 約二十行
（「秋成遺文」―参照）

*自傳 寫 一軸（四八） 二八四三

自筆 巻子本 改裝後補唐草織文紫鼠色表紙 見返金砂子散 二七糎四米五一糎 用紙裏打 天地單邊二二・五糎 一紙四二糎 約三十行 題簽後補「（書名同）秋成稿」 内題なし
（巻初數行闕「秋成遺文」―参照）

*藐姑射山 寫 一軸（四九） 二八四四

自筆 巻子本 改裝後補唐草織文紫鼠色表紙 見返金砂子散 用紙裏打 二六・五糎一米六七糎 一紙三九・五糎 約十七行 題簽後補「（書名同）秋成稿」
奥書 文化建元冬十月事のたよりに／つきてむかしおもひ出て寫侍りぬ／餘齋七十歳書

*初瀬詣 寫 一軸（五〇） 二八四五

自筆 巻子本 改裝後補牡丹唐草織文深納戸色表紙 二四糎二米四〇糎 天地單邊二〇糎 一紙四〇糎 約十九行 題簽後補「（書名同）秋成稿」
奥書 餘齋
（「秋成遺文」―参照）

*「ますらを物語」 寫 一軸（五一） 二八四六

自筆 巻子本 改裝後補唐草織文紫鼠色表紙 見返金砂子散 用紙裏打 二七・五糎六米五八糎 天地單邊二三・五糎 一紙四一糎 約十八行 題簽後補「一乘寺詣之記」 内題なし
奥書 瑞龍山中隱者／七十餘齋書（花押）
識語 （紙箋小山源治筆）文化三年卯月十七日大澤春作に伴はれて／一乘寺村圓光寺の東照宮祭に詣で渡邊／源太にあひ見るの記／七十三歳（此四字朱書）瑞龍山中隱者／七十餘齋の奥書（印）
（巻初に「文化三年卯月十七日けふ」とあり）
（「秋成遺文」―参照）

*田父辭 寫 一軸（五二） 二八四七

自筆 巻子本 改裝後補牡丹唐草織文深納戸色表紙 二四糎二米一八糎 天地單邊二〇糎 一紙三五糎 約十四行 題簽後補「（書名同）秋成稿」

奥書　瑞龍山下無腸隱者／七十四齢書
（「秋成遺文」—参照）

＊天保六章　寫　一軸（五三）　二八四八

自筆　巻子本　改装後補縹目白抜海老茶色表紙　見返金砂子散　用紙裏打　二五・五糎三米八四糎　天地單邊（朱）二一・五糎　一紙四〇・五糎　約十七行　題簽後補黄絹無記
奥書　文化三年の冬しはす三日／雪のあかりをたのみて南／の窓のもとにかいしるしぬ／瑞龍山中隱者月日／の長きと身の閑に／苦しむあまりと云事／をもてミつから二苦翁と／呼于時歳七十三

＊天保歌　寫　一軸（五四）　二八四九

自筆　巻子本　改装後補牡丹唐草織文深納戸色表紙　二五・五糎三米八一糎　天地單邊二一・五糎　一紙四七糎　約十九行　題簽後補「（書名同）小山本」、「小山（紙票）」
奥書　文化三年の冬しはす三日／雪のあかりをたのむ窓の／もとにかいしるしぬ／瑞龍山中隱者／七十三歳書
（「秋成遺文」—参照）

＊天保六章解　寫　一軸（五五）　二八五〇

自筆　巻子本　改装後補牡丹唐草織文深納戸色表紙　二四糎三米一五糎　一紙四〇糎　約二十二行　題簽後補「（書名同）秋成稿小山本」　内題なし
奥書　瑞龍山下／七十餘齋／草
（「秋成遺文」—参照）

＊祭豊太閤詞　寫　一軸（五六）　二八五一

自筆　巻子本　改装後補唐草織文水青表紙　二五糎一米五七糎　原寸二四糎　臺貼　題簽後補藤井乙男筆書名同　内題なし
奥書　阮秋成／謹言
（國語國文第十四巻第一號所収藤井乙男「秋成雜俎　蟹のはらわた（三）」—参照）

＊幽石軒記　寫　一軸（五七）　二八五二

巻子本　改装後補牡丹唐草織文深納戸色表紙　二八糎二米三〇糎　一紙三八糎　約十五行　題簽後補「（書名同）秋成稿寫卷」
（原に「寛政十一年の春二月中の九日／にかいしるしぬ　無腸居士」と奥書あるものの影寫「秋成遺文」—参照）

＊仰觀俯察室記　寫　一軸（五八）　二八五三

自筆　巻子本　改装後補牡丹唐草織文深納戸色表紙　二四糎二米　用紙木葉刷模様下畫　一紙三二糎　約十六行　題簽後補「（書名同）秋成稿」　内題なし
（「秋成遺文」—参照）

＊呑湖堂記　寫　一軸（五九）　二八五四

自筆　巻子本　改装後補牡丹唐草織文深納戸色表紙　二六糎三米一四糎　天地朱界單邊二一・五糎　一紙四〇糎　約二十二行　題簽後補「（書名同）秋成稿小山本」
奥書　瑞龍山中／蚋藏主／七十三齢書
（内題下に「堂在于大津北陸道口」とあり　「秋成遺文」—参照）

＊夏のゝ露　寫　一軸（六〇）　二八五五

瑚璉尼著　秋成筆　閑田庵蒿蹊自筆序　秋成跋　巻子本　表紙闕　用紙色替　二六・五糎四米六二糎　一紙三九糎　約十七行　外題後筆「夏野ゝ露上田秋成筆伴蒿蹊序」
奥書　寛政つちのへむまのとしきさら／きこれの日むかしの人にかは／りて書きよめ侍る／餘齋
（「秋成遺文」—参照）

＊尾張人大館高門へ答ふ　寫　一軸（六一）　二八五六

巻子本　改装後補白茶色布表紙　見返金砂子散　用紙裏打雲母引　二五糎四米一

三糎　一紙一米三二糎　約五十四行　題簽後補金砂子散「（書名同）小山本」内題なし
識語　（表紙紙筴）（小山源治筆）文反古草稿に見ゆる／尾張人大館高門へ答ふニ同文／たゝ巻頭異同あり下略
（原に「文化二年みな月岡崎の竹／間裏にあつさゝけてやとれ（ママ）ほとの／手ならひわさなり所ゝあやまり／つを書きよめむかいたましさに／たゝこのまゝにてなむ／餘齋七十二歳書（花押）」と奥書あるものの影寫「秋成遺文」―參照）

*〔史論〕　寫　一冊　（六二）　二六五七

自筆　袋假綴　表紙闕　二五糎一七・五糎　天地單邊二〇・五糎　九行　三十六丁
柱心「（丁數）」
識語　（表紙紙筴）（小山源治筆）史論／年月未考
日本之古史を論する文／萬葉集を論する文露石藏稿五號／にやゝ同し／浦島の子の論、別の古事記傳を駁すの／條にあり／天智天武間の史を述ふ（印）
（遠駝延五登の異文　第二至六丁を闕く「秋成遺文」―參照）

*〔史論〕　寫　一冊　（六三）　二六五八

自筆　袋假綴　表紙闕　二五糎一七糎　九行　十六丁
識語　（表紙紙筴）（小山源治筆）史論／年月未詳
古事記傳を駁す／日本紀古事記古語拾遺／日本逸史舊事記に／付ての論　和名鈔につゝく／年月不詳（印）
（遠駝延五登の異文　終丁裏第五行「和名鈔と云書ハ天徳」まで存して以下闕）

*七十二候　寫　一冊　（六四）　二六五九

自序　自跋　春洞麥翁筆　袋綴　澁刷毛目表紙　用紙薄樣　二五糎一七糎　十行
四十四丁白紙二丁　外題左肩「（書名同）上田餘齋翁考」
奥書　右本林石刕康朗縣主書寫しぬるをみせらるゝ／をおのれ又寫取て假字違誤寫等可爲斧正／者歟／嘉永三戊年初夏　春洞麥翁居士（花押）
（内題の下に「上田無腸述」とあり　原に「新題各探之作」末に「右七十二候春秋二本者羽倉翁手澤之書／餘齋翁書入有之」「七十二候新題」末に「此一帖なるものハ翁の艸稿なるか故有て白井懶徳ぬしの／ふたとちまてもたるをこひうけてそかまゝに寫したるなり／かたみに異同あるをは朱にてかたハらに書つけぬはた／てにをハのをれあひたるやうにていかにそやと顧るゝ處／〳〵な／きにしもあらねと抜群のをきなの艸嘗者の手のや／うなれハさることにも有なん天罰しか／〳〵の文字をふ／たきて見すらん彼人のとハしらるへきものなりかし／後ミん人おもひはかり給へ／文政二子の年神無月薔薇園主人筆とりてしるす」「此一巻ハ林讃州康滿縣主の家藏也原本假字／違誤寫なと見ゆる所／〳〵もすくなからねと其儘／に寫し置ぬ後日善本を得て對挍せしむへきもの也／嘉永二年酉臘月／峨山青庚林康朗」と奥書あるものの寫　本文末「天罰／七十よさい判」とある跋文の左に「イ本天罰七十二翁拭盲眼書」と書入す「秋成遺文」―參照）

*〔北野加茂に詣づる記〕　寫　一冊　（六五）　二六六〇

自筆　袋假綴　表紙闕　二四・五糎一七糎　四周單邊一八・五糎一四糎　八行藍罫紙　十七丁　内題なし
識語　（表紙紙筴）（小山源治筆）十二月一日北野まゐりのかへさ大雨にて路にまよふ／同廿九日加茂兩社に娘の尼をつれて詣つ／享和元年　六十八歳／此翌年北野社九百年祭なりき（印）
（「秋成遺文」―參照）

*伏見行　寫　一冊　（六六）　二六六一

自筆　袋假綴　共包表紙　二四・五糎一七・五糎　八行　四丁　内題なし
（「秋成遺文」―參照）

*夏山里にあそふ詞　寫　一帖　（六七）　二六六二

羽倉信美筆　旋風葉裝　改裝後補海松色包表紙　原裝共表紙　二七・五糎一七・五糎　八行　六折　題簽左肩後補書名同　原外題左肩書名同　内題なし
（「秋成遺文」に異本）

*十六日朝雨大文字を思ふ　寫　一冊　（六八）　二六六三

二四・五糎三四・五糎　美濃紙　假綴　無表紙　七枚　題「十六日朝／雨の大文字

をおもふ」
（「秋成遺文」—参照）

*落窪物語序　寫　一冊（六九）　二八六四

袋綴　改裝後補海松色表紙　原裝共表紙　二五糎一七糎　八行　八丁　題簽左肩
後補書名同　内題なし
（原に「南禪寺山内何かしの庵のやとりに／てかうかへしるしぬ／難波人ミなもとの秋成」と奥書あるものの寫「秋成遺文」—参照）

*藻　くず　寫　一冊（七〇）　二八六五

自筆　袋綴　改裝後補海松色表紙　二三糎一七糎　四周單邊一八・五糎一四糎
八行藍罫紙　二十丁　題簽左肩後補「藻屑」　目録題書名同　内題なし
（巻初に目録ありて「淺間煙」・「漢委奴國王佩印考」・「河つらの宿」・「讀日本春秋」・「太子庭戸論」・「太子大友論」・「菅相公論」・「代太武禪祝壽畫説」・「與耕夫畫山水説」・「鳴雀園記」・「寛政改元頌」の十一篇を記するも「漢委奴國王佩印考」・「河つらの宿」・「讀日本春秋」・「皇太子大友論」・「寛政改元頌」・「賜本國西成郡今宮莊宜旨并御牒文序」の六篇を存す）

*〔藤簍冊子稿〕　寫　三冊（七一）　二八六六

自筆　袋綴　改裝後補海松色表紙　原裝共表紙　二四糎一六・五糎　十二行　題
簽左肩後補「（書名同）　三（四・五）」　原外題（第一冊）中央「山裏」（第二冊同）
「今宮庄序／九嶷千文序／假山記／介中拙齋追善序／四天王寺別當室行狀記（此一行見せ消）」（第三冊同）「淺間煙／富士山説／金印考／水瀬川記／藐姑射山（此四字見せ消）／迦具土之墓／寛政改元」、「小山」
（原表紙右下に各「局三（—五）」とあり　第二冊外題の「四天王寺別當室行狀記」は本文になし）

*〔秋成文稿〕　寫　一冊（七二）　二八六七

自筆　袋綴　改裝後補海松色表紙　二三糎一六・五糎　約九行　三十八丁　題簽
左肩後補書名同
（「文化元年二月朔雨雪遥思故國歌」・「浄光精舍にてよめる」・「初秋の夜を玩ふ」・「晝隱松年にあたふ」・「秋月十章」・「賀央行」・「十五番歌合」・「白芙容を人のみせしを枕に置ていへる」・「森川世黄の書齋を薫月と名つけられしによみてあたふ」・「大田南畝子を送る」・「八月下旬歸京後淫雨連日復思故國歌」の十一篇を存す）

*餘齋翁草稿一ひらの巻のうつし　寫　一冊（七三）　二八六八

袋綴　改裝後補矢車繋押文辨柄色表紙　二六糎一九糎　十二丁　題簽左肩雙邊
（刊）後補「花月廬藏　上田秋成翁遺稿一巻之寫本　全」　扉題書名同　内題なし、「天香園藏」
所収次の如し
茶の歌
識語　（朱書）　こは花月菴主田中元長かもたる巻物をうつさせたるなり／弘化四年の霜月はかりかの菴に玉池老耕雲子なとゝゆきたるをり／翁とうてゝみせたりしをかりて家にもてかへり玉老をして／かりにかくかきとゝめたるそ
（原に「こは上田餘齋老人の瑞龍山下にすまはれし頃／いかなることか有けん心さむしもといふ哥よミて年ころの／著書論説の草稿とも残なく古井の底に沈／められしを隣のをとこの聞つけてみそかに引上し／中のその一ひらをおのれ故よしありて傳へもたりし／なり一日花月庵を訪ひしに主翁のいへらく（中略）銅駝城西の隱士和田三樹／浪花の御津のむなき谷のかりいほにしるすハ／天保七年霜ふり月九日になん」、「（中略）うら處女君かはしめて諷ふなる／茶の聲いかに聞や／きかすや洛東ゝ端老樵／景樹しるす」とあるものの寫）
漢委奴國王金印之考
（原に「攝津人上田秋成誌」と奥書あるものの寫）

*水やり花　寫　一軸（七四）　二八六九

自筆　巻子本　改裝後補毘沙門格子唐草織文白茶色表紙　見返金砂子散　臺貼
二一・五糎五米一糎　原寸一八・五糎四米二糎　一紙二七糎　十六行　題簽單邊
子後補「間居養高志　退菴題（印）」　内題なし

奥書　休西畸人書于鴨／塘頭寓舍
識語　餘齋秋成老翁紫跡／草稿のまゝ本空藏之（印）
（もと八行藍罫紙冊子本なりしを天地裁斷して現巻子本に改装す　箱表書「上田秋成暴風洪水之記」とあり「秋成遺文」―参照）

*秋の雲稿　寫　一軸（七五）　二八七〇

自筆　巻子本　改装後補唐草織文白鼠色表紙　見返金砂子散　用紙裏打　二五・五糎四米九〇糎　天地單邊二一糎　一紙三九糎　約十九行　題簽後補「（書名同）秋成稿」内題なし
奥書　文化二二年の春の／遊ひ也是たにを／殘りの哥ともハ／きたなきものに／かいやりぬ／七十餘齋／漫書（花押）
（巻首闕）

*毎月集秋冬　寫　一軸（七六）　二八七一

自筆　巻子本　改装後補唐草織文鼠色表紙　見返金砂子散　用紙裏打　二五・五糎七米三八糎　天地單邊二一糎　一紙三九糎　約十九行　題簽後補「（書名同）秋成稿」
奥書　ことし七十四歳老ほけて何をか／いひつことの数もあまれりや足／すやよしや見すへくもあらす／見むと求る人もなけれハ誠に／いたつらことゝは是をこそいふ／へけり／瑞龍山隱／七椀醉言（花押）
（巻首闕）

*〔秋成詠草〕　寫　一軸（七七）　二八七二

自筆　巻子本　改装後補牡丹唐草織文深納戸色表紙　用紙檀紙　一六糎二米二八糎　題簽後補「（書名同）秋成稿小山本」内題なし
奥書　餘齋草
識語　（巻初裏紙箋）（小山源治筆）奥書／餘齋草とのみ／河内國にゆきし歌あり荷田信美の家の會あり／三條殿又世繼氏の名見ゆ／六十五六歳寛政十十一年（印）

*人の白芙容を贈れるを枕に置て玩ふ詞　寫　一軸（七八）　二八七三

自筆　巻子本　改装後補牡丹唐草織文深納戸色表紙　二四・五糎一米九〇糎　用紙松葉模様下畫　一紙三二・五糎　約十五行　題簽後補書名同
奥書　甲子秋八月某日客中臥病／強開盲眼書之乃着萎凋之／一枝七十一歳餘齋
（「秋成遺文餘材録」―参照）

*雜文斷簡　寫　一軸（七九）　二八七四

自筆　巻子本　改装後補菊花唐草織文濃納戸色表紙　用紙裏打　二六糎六米八二糎　題簽後補藤井乙男筆書名同　用紙各種貼繼
（國語國文第十四巻第一號所収藤井乙男「秋成雜俎蟹のはらわた（三）」―参照）

*秋の雲　寫　一冊（八〇）　二八七五

自筆　自序　袋綴　改装後補海松色表紙　原装共表紙　二五糎一七糎　八行　二十四丁　題簽左肩後補書名同　原外題「（書名同）擬曾丹毎月集抜粹九十五首／此題号ハ別に書へし（以上見せ消ち）」内題なし　柱心「（丁數）」
奥書　れいのかこち言ともよむ人目や／いたむ覧哥とてよむハ心やりいはん／とて也わかき人も老ゆきて後／おもひしるべきものぞ／瑞龍山下無腸隱者／七十二二歳書（瑞龍山以下抹消その上に紙箋貼附して）瑞龍山下無腸隱者／七十二二歳併書
（原表紙）（朱書）栲亭子序此外ニ凡／二三枚ノ中ナルヘシ（見せ消ち）
（「上田秋成全集」―参照）

*古寺の秋　寫　一冊（八一）　二八七六

假綴　美濃紙　八枚　二四糎三三糎
奥書　河内の國くさかの郷に在てこれの／月これの日のあしたにかいしるし／ぬ
識語　（紙箋貼附）（小山源治筆）寛政十年眼の病を養ふて／河内日下の里にあり人を會して／此文を作る（参照露石巍稿九号）／思ふに此書風平瀬氏の尼なる人の手なるべし（印）

（「秋成遺文」所収「山霧記」の異文）

*文反古稿　寫　七冊（八二）　二八七七

自筆　袋假綴　表紙闕　二四・五糎一七糎　約九行

*反故詠草　寫　一軸（八三）　二八七八

自筆　巻子本　改裝後補唐草織文白鼠色表紙　見返金砂子散　用紙裏打　二七糎三米六二糎　天地（朱）單邊二二・五糎　一紙四一糎　題簽後補「（書名同）秋成稿」

奥書　享和はしめの年のはつ穐これ／の日書とゝめたれととひよる／人の見のおそれしてつゝら／篚にれいのとりかくしぬ／無腸隱士

（全文を抹消す）

*手ならひ　寫　一軸（八四）　二八七九

自筆　巻子本　改裝後補雲母下畫砥粉色表紙　見返木葉押畫　二七糎五米二糎　用紙裏打具引紙　天地單邊二一・五糎　一紙三八・五糎　約十五行　題簽木葉下畫後補「無腸翁和哥手ならひ」

奥書　文化二年五月某日／餘齋／七十二歳書（花押）

*餘齋四十二首　寫　一軸（八五）　二八八〇

自筆　文化二年冬の初め自序　自跋　巻子本　改裝後補縹色表紙　見返唐草模樣薄青具引紙　二五・五糎四米三糎　一紙三八・五糎　外題藤井乙男筆書名同　内題なし

（序末に「瑞龍山中香火院西福／精舎にやとりしてかいしるす／七十餘齋」奥に「七十二三齡／耄書／法全仁龍二師へも／よろしく申たまへ」とあり）

*先師酬恩歌・兼題夕顔詞・後宴水無月三十章　寫　一軸（八六）　二八八一

自筆　巻子本　改裝後補唐草織文白鼠色表紙　見返金砂子散　用紙裏打　二四糎四米一二糎　天地單邊二〇糎　一紙四〇・五糎　有界二十一行　題簽後補書名同

奥書（後宴水無月三十章）文化三年丙寅夏林鐘某日／瑞龍山中旅客於／鶉無常居書院金成

（巻初に「巻之一」と記せる木葉押畫の原表紙一丁を添ふ　内題「先師酬恩歌」の下に「正忌日六月十日」とあり）

*〔懷舊長歌稿一〕　寫　一軸（八七）　二八八二

自筆　巻子本　改裝後補牡丹唐草織文深納戸色表紙　二五・五糎一米七四糎　天地（朱）單邊二一・五糎　一紙四〇糎　約十九行　題簽後補「（書名同）秋成稿小山本」　内題なし

詞書　思往昔甲寅孟春某日大雪與／二三子乘興出遊于山野茲／歳丙寅仲冬是日雪經歴已／十三秋獨坐有感不止／先生亦以爲同遊之故點此篇／寄之云

識語（巻初裏紙箋）（小山源治筆）甲寅ハ寛政六年秋成翁六十一歳／丙寅ハ文化三年翁七十三歳／七十三歳長哥（此一行朱書）（印）

*〔懷舊長歌稿二〕　寫　一軸（八八）　二八八三

自筆　巻子本　改裝後補牡丹唐草織文深納戸色表紙　二五・五糎二米一九糎　天地（朱）單邊二一・五糎　一紙四七糎　約二十行　題簽後補「（書名同）秋成稿」　内題なし

奥書　于時丙寅冬霜月晦／瑞龍山中無腸隱者／七十三歳書

詞書　思泰甲寅孟春某日大雪／今歳已十三秋獨悲不止因／寄以／先生爲舊遊之遺悶云

識語（巻初裏紙箋）（小山源治筆）別の一巻と同文なれとも／少しくたかへる節あり下略（印）

*水無月三十首　寫　一軸（八九）　二八八四

自筆　巻子本　改裝後補唐草織文白鼠色表紙　見返金砂子散　用紙裏打　二三・五糎六米三四糎　天地單邊一九・五糎　一紙三三・五糎　十三行　題簽後補「（書名同）秋成稿」

（巻末に「秋の雲」斷簡を附す）

＊探題千朗詠集中歌 卅六首　寫　一軸（九〇）　二八五

自筆　巻子本　改装後補唐草織文白鼠色表紙　見返金砂子散　用紙裏打　二五・五糎三米三六糎　天地（朱）單邊二一糎　一紙四〇糎　十五行　題簽後補「（書名同）秋成稿」

＊秋成歌帖　寫　一帖（九一）　二八六

自筆　折本　改装後補毘沙門格子牡丹唐草模様縹色行成表紙　用紙奉書　一九糎六糎　二行　三十四折　内題なし

＊秋成哥反古　寫　一冊（九二）　二八七

自筆　袋綴　改装後補緑表紙　用紙裏打　二五・五糎一八・五糎　原寸二四・五糎八丁　題簽左肩後補藤井乙男筆書名同　内題なし

＊鶉居倭哥集　寫　一冊（九三）　二八八

自筆　袋綴　改装後補澁刷毛目表紙　二三・五糎一六・五糎　九行　三十三丁　外題中央後筆書名同　内題なし

（「天保歌」・「連日不堪苦寒歌」・「贈栲亭源先生歌」・〔栲亭寄詩〕・「大明國師畫像記」・「夜半偶作」等を存す）

＊〔寛政歌會〕　寫　一冊（九四）　二八九

自筆　袋假綴　表紙闕　二二・五糎一六糎　九行　七丁

端書　寛政十年十二月廿八日

識語（紙箋貼附）（小山源治筆）寛政十年十二月十八日歌會／同年十二月廿五日聖廟法樂歌會／同十一年正月御會初歌會／右關係未詳／秋成年六十五六歳（印）

＊忠烈三英義烈三英　寫　一冊（九五）　二九〇

自筆　袋假綴　表紙闕　二四糎一七糎　六行　五丁

＊〔吉野山和歌懐紙〕　寫　一軸（九六）　二九一

自筆　掛軸　四〇糎一米九糎　原寸三一・五糎三一・五糎　外題後筆「上田秋成歌二首」、「天香園藏」

奥書　六十八翁／餘齋試毫

＊茶を翫ふ人に示す　寫　一面（九七）　二九二

自筆　扇面

落欵　秋翁七十一歳書（墨印）

＊大原野歌文　寫　一軸（九八）　二九三

自筆　掛軸　四五糎一米一〇糎　原寸二七・五糎四三糎

奥書　秋翁七十二歳書

＊大明國師像賛　寫　一軸（九九）　二九四

自筆　南岳模畫　掛軸　二七・五糎一米二六糎　原寸一米五糎　外題「大明國師像」　外題下紙箋小山源治筆「南岳摸寫大明國師像／秋成翁讃」、「天香園藏（紙票）」

奥書　誰つまぬ秋の野良なる犬蓼の霜枯て後ハ跡あらんやは／山下病隱二苦翁七十三歳録（花押）

（「秋成遺文」―参照）

＊秋の夜おもひを述る歌　寫　一軸（一〇〇）　二九五

自筆　掛軸　四九糎一米六糎　原寸三一糎四五糎　外題「餘齋長歌秋夜述懐」　外題下紙箋小山源治筆「秋の夜思を述る歌／七十六翁再寫（印）」、「天香園藏（紙票）」

奥書　七十六翁再寫／金成

＊〔高津のあざり〕　寫　一軸（一〇一）　二九六

自筆　掛軸　四三糎一米七糎　原寸二九・五糎四〇・五糎　表上紙箋小山源治筆

「上田秋成歌文／偶感／欵無腸」
奥書　無腸（花押）

*和歌懐紙宮中雪　寫　一軸（一〇二）　二八九七

自筆　掛軸　四四・五糎一米四糎　原寸二七糎四〇糎　外題後筆「無腸□」　紅紙箋「宮中雪」、「天香園藏」
宮中雪
雪ふかきけさの蔀／を上やりてこよひ／かなしき宿直せし／かな／無腸

*〔五首和歌懐紙〕　寫　一軸（一〇三）　二八九八

自筆　掛軸　五四糎一米二糎　用紙染紙　原寸二六・五糎五一・五糎　外題後筆「無腸上田秋成歌　啓雨庵□」、「祇園書畫記」
識語　こは故餘齋老人のをり〳〵ことにほこりかにもわかのにてハ／いはれたりなとかたりも出られし哥ともなるを名をしも／かいおとされしは例のいちはやきはやり心にやとまれかくまれ／翁のみつからの手にはまかひなきものよ／蓮阿（花押）

*吉野山歌文　寫　一軸（一〇四）　二八九九

自筆　掛軸　四三・五糎一米一〇糎　原寸二九糎四二糎

*海老畫賛　寫　一軸（一〇五）　二九〇〇

自筆〔自畫〕　掛軸　五六・五糎二米　原寸四七糎一米二五糎　紙箋小山源治筆「上田秋成畫賛／海老」
いく千代かたつの都につかへ来て齢も長き髭のおきなは／同族無腸公子七十齢書之

*和歌畫賛　寫　一軸（一〇六）　二九〇一

自筆　細合半齋畫　掛軸　四三・五糎一米七糎　團扇形紙箋小山源治筆「細合半齋畫小竹盆栽／秋成賛歌／たか齢ちよかさね云々／小百合之誕生を祝きて／松井氏より贈らる」、「天香園藏（紙票）」
たか齢千代／かさねとや／奉る／岩根の／小さゝ／あかぬ／みとりに／七十餘齋

*茶筌畫賛　寫　一軸（一〇七）　二九〇二

自筆〔自畫〕　掛軸　三七・五糎一米　原寸二七糎三五糎　外題後筆「上田餘齋茶筌畫賛」
くさ木にも／あらぬを／竹のほに／なひき／すゑハみと／りの波も／かけゝり
無腸

*春雉曲　寫　二枚（一〇八）　二九〇三

自筆　琦鳳畫　一米三五糎五七・五糎
（題下に「文化五年以往／非吾意」と書す）

*和歌短冊野月　寫　一軸（一〇九）　二九〇四

自筆　掛軸　二三・五糎一米六五糎　臺貼　外題後筆「短冊　野月」
野月　あゆめ駒西ふく夜風さむくとも
嵯峨野の友の月にまつ覧　（墨印）

*和歌短冊落葉　寫　一軸（一一〇）　二九〇五

自筆　掛軸　二八・五糎一米四九糎　臺貼　紙箋小山源治筆「上田秋成短冊／和歌落葉」
落葉　森深き神のやしろの古すたれ
すけきにとまる風のおち葉ハ　無腸

*無腸居士肖像　寫　一軸（一一一）　二九〇六

土佐秀信畫　慈雲賛　掛軸　絹本　四四糎一米八四糎

慈雲賛　市井之隱家傳良／方奉法之志孫ミ流／芳敢保乃翁筒慈／意無出世千歳無
彊／天明丙午春題之／無腸居士之肖像／百不知童子（印）
箱書　土佐秀信筆　上田秋成翁肖像慈雲大和上賛字　壹軸
（同裏書）「昭和丁卯四月中澣和州郡山永慶寺有古碪慈雲／両大徳遺墨展観之擧
此幅亦列品中之珍也／欵文曰高貴寺務　炎光杜多　水木十五堂識

*上田無腸自畫肖影　寫　一軸（一一二）　二九〇七

自筆〔自畫〕　掛軸　四二糎一米六九糎　外題後筆書名同、「神田家藏」
秋成自筆賛　米ほしや綿ほしや／君ちやとこされこさ／ふく笛にすりおろ／しや
めかよりこぬさきに
蝦夷はやり／うた新章
さつてもふけいき／つらつきた
（畫幅上部に一紙を貼り次の自賛「無腸生于浪花客于京師十六年無父／不知其故
四歳母亦捨有幸上田氏／所養育六歳養母逝性多病時ミ／發驚癎後母依慈愛成長歳
二十七／父逝三十八係回祿失家始于是京擶／之間移居凡十餘處每地在神如／迎如
逐坐活商賈破産一爲醫／憂病不立業其間泊然爲消閑雖／嗜好國詩國文不以爲業
歳伍十七／左眼失明六十五又及右眼僥幸逢神／醫得左明後母給仕五十二年亡妻／
糟糠三十八年噫天何爲／生我也邪／此記者像にそへおき／たまへ」）

*秋成書翰集　寫　十三通　一軸（一一三）　二九〇八

自筆　巻子本　改装後補牡丹唐草織文深納戸色表紙　見返金砂子散　二四糎九米
六六糎　臺貼　用紙各種　題簽金砂子散後補「秋成書翰集」　所収次の如し
一　呉春（呉月渓）宛　　二　十二月十八日附呉春（呉伯）宛
三　十二日附呉春（呉妙手）宛　　四　廿八日附呉春（月渓）宛
五　六月二日附呉春（呉月）宛　　六　呉春（呉賢兄）宛
七　無名氏宛追啓　　八　無名氏宛副啓
九　念一日附　林喜作宛　　十　呉春（呉兄）宛
十一　八月十一日附松本重政宛　　十二　七月十七附日長谷川宛
十三　七月十七日附松本宛
（「秋成遺文」―参照）

*ゆきかひふり　寫　二冊（一一四）　二九〇九

袋綴　改装後補縹色布目表紙に縞模様薄絹を覆ふ　用紙裏打　見返金箔散　二四
糎一七糎　扉題書名同　内題なし
所収次の如し
第一冊
ゆきかひふり　平春海
東歌序　平春海
（原に「享和のはしめの年八月」と奥書あるものの寫）
庭のうめを見る辨・櫻をめつることは　橘枝直
おちくぼ物語序　上田秋成
（原に「南禅寺山内何かしの庵のやとりにてかう／かへしるしぬ／難波人ミ
なもとの秋成」と奥書あるものの寫）
春葉集　春満
第二冊
宇米のこと葉・さくらをめつるふみ　真夫知
蒼生子家集杉のしつえ　加藤千蔭
（原に「寛政七とせにあたるとしのやよひ／にたちばなの千蔭しるす」と奥
書あるものの寫）
消息合しける時千蔭のもとへ衣箱にそへて／つかはしける詞　蒼生子
（原に「蒼生子／亀児のおもとに」と宛書あるものの寫）
歌稿・土左侍從の君の女君より給はりける／紅梅をめつる詞・景雄ぬし扇合し
ける時歌の判のおくにかける／ことは・をちの大とこの一めくりにかなし
める詞
（江戸時代末期寫）

*魏太傅鍾繇千字文　寫　一帖（一一五）　二九一〇

自筆　旋風葉装　改装後補海松色表紙　原装雲母引下畫共表紙　二八糎一八糎
五行　十字　十折　題簽左肩後補書名同、「天香園藏」
（原に「永和八年七月之望／父命書　□之」と奥書あるものの寫）

＊晉侍中王羲書　寫　一帖（一一六）　二九一

自筆　折本　改裝後補海松色包表紙　原裝雲母引下畫共表紙　間紙を挾む　二八糎一八糎　八行　七丁　題簽左肩後補書名同、「天香園藏」

＊寒山詩五言伍十首　寫　一冊（一一七）　二九二

自筆　袋綴　改裝後補海松色表紙　原裝共表紙　二五糎一七糎　七行　十四丁（表紙共）　題簽左肩後補書名同　原外題左肩書名同　内題「寒山詩」

＊三善相公上表意見十二條等　寫　一冊（一一八）　二九三

自筆　袋綴　改裝後補海松色表紙　原裝白表紙　二三・五糎一七糎　四周單邊一八・五糎一四糎　八行藍罫紙　三十三丁　題簽左肩後補書名同

識語　（原表紙紙背）（小山源治筆）秋成自写／三善相公上表意見十二條／革命表／諫右相菅公書／諫左相藤公書／年月未考／井中に投するもの（印）

＊清少納言家集中　寫　一冊（一一九）　二九四

清少納言著　秋成筆　袋綴　改裝後補海松色表紙　原裝共表紙　二五糎一七糎　八行　十三丁　題簽左肩後補書名同　原外題左肩「（書名同）一卷」内題「清少納言家集」

奥書　烏丸大納言光廣卿の御筆ひと巻／ある人の家にをさめたりしをかり／て見侍りき所ミよみうまし事すく／なからす卿のなたらかなる御手に／書すさひしたまひしかは老のしひま／とへるまなこにいかてよミうへきたゝ／そのまゝなる中にしかりとおもふ事／ふたつミつかいあらたむとはなしにな／ん思ふに此君ハむかし今にたくひなき才／ある聞えおはせは哥ハはた千よろつ／の數ならんを此一まきのわつかなるは／もゝかひとつふたつはかりにてそあらめ／とまれかうまれうつしておきぬへし／文化甲子秋七月十日／七十一歳餘齋草

＊鶉　居　帖　寫　四帖（一二〇）　二九五

自筆　折本　牡丹唐草織文納戸色表紙　見返金砂子散　三七糎二四糎　臺貼　題簽中央後補「（書名同）一（一―四）」

（各種詠草文稿等を臺貼）

＊短　冊　帖　寫　一帖（一二一）　二九六

自筆　折本　牡丹唐草織文白茶色表紙　見返金砂子散布目紙　三九糎二一糎　一面二枚　十二折表裏七十枚　題簽中央金砂子散後筆「上田秋成短冊帖」

敵討誰也行燈上卷　寫　二篇　一冊　二九七

瀧澤馬琴著　自筆　自畫　文化丙寅孟春自序　袋綴　改裝後補唐草文摺出丹表紙　原裝共表紙　用紙裏打　一九・五糎一四・五糎　九行　三十三丁（原表紙共）　挿畫（四周單邊一六糎一一糎）二十頁分　原外題中央「（書名同）上卷三十一張發行（同下）（右肩）丙寅全弐冊（左下）馬琴」　扉見返「丙寅發兌全二冊（此七字横書）（書名同）（右肩）曲亭馬琴戲編　一陽齋豐國画　子作／鶴屋金助板」　（左）（下畫發句）」「霞亭文庫」

奥書　（裏見返）文化二乙丑年／六月下浣稿

（扉）（朱書）口上／〇画ハ下書ニ拘らず思召いつばいこれはいちばん／當世風のうがちニ御かき可被下候／〇筆耕の事／眞名假名とも下書の通りべつしてつけがなニ／かなちがひ無之様／〇ゑとえ〇ひトゐトい〇おトを〇じとぢ〇ぢよとじよ〇ハトわ〇ずトづ／などよく〳〵下書御引合せまちがハぬ様ニ御認／この上ノ巻さし繪共ニ而三十一張也半丁も書のばさぬ／やうニ御書可被下候

（内題の下に「馬琴戲述」と自署　挿畫割付朱書す　九二三・六五―五）

今古小説唐錦　四卷　合一冊　二九八

伊丹椿園著　安永八年己亥初秋自題辭　安永九年庚子正月殺旦竹圃跋　袋綴　縹色表紙　二四糎一七・五糎　四周單邊一九・五糎一五糎　十一行　六十二丁　挿畫十六頁分　題簽左肩雙邊（刊）後補墨「今古小說唐錦　全」　柱刻「唐錦　一（一―四）（丁數）」　見返「（右欄に）椿園主人著／（中央に）今古小說唐錦全部四卷／（左欄に）近來梓行の國字小說。多き中にも。類を同して／雅俗ともに。喜ひもてあそふは。英草帋。繁野／話。垣根草。新齋夜語。雨月物語。翁草。なり今此／唐錦を。合して。奇談七部の書と。いはむのミ（附訓省略）／皇都　書林菊英舘識」

刊記　安永九年庚正月／書舗　寺町三条上ル町　菊屋安兵衛

識語　（第一丁表）北越上田小栗山住／井口文右衛門主

（表紙右肩に朱書「椿園校合本」とあり　上欄に朱筆にて椿園自筆校正多し

九二三・六五―イ二五）

〔桂窓馬琴評答集〕　（二九二―二九三）

（小津桂窓筆「八犬傳評并答　七／俠客傳　二／八犬士繪畫　四九」と表書せる畳紙を附す　但し「八犬傳繪畫」はなし）　所収細目次の如し

*稗説虎之巻　寫　一冊　二九九

瀧澤馬琴著　自筆　袋假綴　共表紙　二四・五糎一六・五糎　十行罫紙　十九丁

題簽中央雙邊（刊）書名同　内題なし　柱刻「（丁數墨書）著作堂藏」

奥書　此編婦幼の代筆に任せたれハ必誤字多からん猜覧の上校訂あらハそハ幸なるへし／癸卯夏六月之吉　著作堂老禿／桂屋賢契玉案前

（九二三・六五―イ一五）

*水滸後傳國字評追考　寫　一冊　三〇〇

瀧澤馬琴著　自筆　袋假綴　表紙闕　二五糎一七・五糎　十行柱刻「著作堂藏」

罫紙　四丁

奥書　この宅なほ追て評すべき事くさ〴〵あれども筆硯に／さるいとまを得ざれハこゝに盡さず折もあらバ又しるし／つけんと思ふのミ／辛卯夏六月八日　追記

（九二三・六五―イ一七）

*俠客傳第二集評并答　寫　一冊　三〇一

小津桂窓評　瀧澤馬琴答　袋假綴　表紙闕　二五糎一七・五糎　十行罫紙二十丁補紙九丁　内題「俠客傳第二集愚評」

奥書　此度之俠客傳ハ兼而ハ殊更御急作之趣／にて御思案をめぐらし給ふ御暇もなきなと被仰／聞候へしが一向御急作とハ見えす骨組丈夫ニ實／ふかく愚評及兼申候誠ニ句ゝ金玉ならすと／いふことなき御妙作なり　略下　桂窓／著作堂老先生　九下

（馬琴答書は補紙を附し記す　同末に云「篠齋ぬしの評も着之節熟覧の上三評の甲乙を定め申／度候稗史を綴る事ハさら也よく見ることも亦かたきわさに候へハ／實に知音と存候あなかしこ〳〵／卯月晦日／著作堂／桂窓大雅兄奉復」

九二三・六五―イ一九―一）

*俠客傳四輯評并答　寫　一冊　三〇二

石川畳翠評　瀧澤馬琴答　各自筆　袋假綴　共表紙　二四糎一六・五糎　十行十八丁補紙十一行四丁　外題左肩小津桂窓筆「（書名同）　畳翠」　内題「俠客傳第四集拙評」

奥書　天保六年乙未六月初九夜／二更燈下にしるす／畳翠草稿

いとおこかましきことなから桂窓子か八犬傳九輯之／評ニ習ふて思ふまゝを書留申候下略　畳翠／著作堂老先生呈案下

（馬琴答書は畳翠評書の頭部餘白及び補紙に朱書す　答書末に「ひと夜さ蚊を拂つゝともし火の下にて　著作堂老禿敬識」とあり　九二三・六五―イ一九―二）

*八犬傳九輯評并答　寫　七冊　三〇三

小津桂窓評　瀧澤馬琴答　各自筆　袋假綴　共表紙

（別に馬琴筆第八輯目録を附す　九二三・六五―イ二）

第一冊

二三・五糎一六・五糎　十行罫紙　十六丁補紙三丁　外題左肩「八犬傳九輯　愚評　目九十二同至百三同」　内題「八犬傳九輯　愚評」

奥書　此比甚多用ニ而漸愚評ハ仕見候へ共略評ニ而／意中を不究夫故御覧ニ入候も赤面ニ候へ共／試ニ御めにかけ候御笑覧可被下候急キ認直し候／暇も無之其まゝさし上候故誤字も甚見苦敷且又可有之候／且又文義相分りかね候所又よめかね候處も可有之候／半可然御推覧可被下候／桂窓／著作堂老先生

識語　（表紙右）（馬琴筆朱書）乙未夏五月七日自伊勢松坂友人小津桂窓子／着到七月十四日答當否訖但應于其需已矣多罪／多罪

（馬琴答書は桂窓評書の欄外餘白及び巻末補紙に朱書す）

第二冊
二五糎一七糎　十行柱刻「桂窓」罫紙　七丁補紙十一丁　外題左肩「八犬傳九輯再評并答書／俠客傳四輯評」　内題なし
奥書　右は両書熟讀ニ付ふとおもひよりたる事を／記し付ケ御めニかけ申候也さしてこと／＼しく／申上候程之義ニハ無之候へとも御笑覧被成下／御再答被下候ハヽ本懐之至ニ可奉存候善ニ／御一喫を願候事ニ御座候以上／桂窓／
著作堂尊大人
（補紙第一丁に「八犬傳九輯上帙御再評答論駁論附凡十張」とありて「此書御覧後御不用に候ハヽ御幸便之節御かへし可被下候／一本寫させて御再評とゝも讃州へ遣し黙老人ニも見せたく／又當地畳翠君にも内々御めにかけたく候下略　九月十六日　著作堂／桂窓様」とある口上、「著作堂／桂窓大人」とせる本文、「九月十四日再白　著作堂／桂窓大人梧下」とせる再白、及び「黙老翁八犬傳九輯上帙の内中略評二ケ條／并ニ著作堂答評」以上の寫を附す）

第三冊
各自筆　二五・五糎一七・五糎　十行柱刻「桂窓」罫紙　二十一丁補紙三丁
外題左肩「里見八犬傳九輯中帙愚評／自百四回至百十五回」　内題「八犬傳第九輯中帙愚評」
奥書　犬たてのほにおく露のしら玉に／かけてなか／＼けかす言の葉／桂窓／
著作堂老大人
（馬琴答書は桂窓評書の欄外餘白及巻末補紙に記す　但し欄外は朱書　巻末は「評答餘談」として「丙寅如月二日　著作堂老禿／桂窓大人案前」の日付あり）

第四冊
桂窓筆　二三・五糎一六・五糎　十行罫紙　十四丁　外題左肩「八犬傳九輯下帙上評并答／自百十六回至百廿五回」　内題「八犬傳九輯下帙愚評十三十四ノ巻」
奥書　前略桂窓拝／著作堂老先生
（馬琴答書は桂窓評書の上欄に朱書し末に「五月十八日記」とあり　巻末七丁は「桂窓賢契八犬傳第九輯下帙上評書拙答別箋」とありて終に「丁酉五月十八日　著作堂老禿／桂窓大人玉案前」、同追記には「六月十三日追記」とあり
本書馬琴答書は自筆に非ず）

第五冊
各自筆　二五・五糎一七・五糎　十行柱刻「桂窓」罫紙　二十一丁　外題左肩「八犬傳九輯下帙中之中愚評／自百廿六回至百廿五回／金瓶梅五集上帙下帙」　内題「八犬傳第九輯下帙中之中愚評」「金瓶梅五集略評」
奥書　（八犬傳）細評ハとてもおよひかたしくた／＼しきをおそれて／先は略評の略評也申落せしことハ甚おほ／かるへしはつか十五丁はかりの略評すら尤／文義つたなく猶くた／＼しきハ耳くるしくも／おほさるへけれとその御いとひなく當否を聞せたまハヽ／幸の幸ならんか筆のついでに／あつまりし玉の光ハよにてりて／かくれみのかさかくれさりけり／下の句ハ本文のうちにかくれみのかさかくれなき／とあるをとれるなり／天保九年二月廿四日
桂窓／著作堂老先生几下
（金瓶梅）五帙上下四冊はしめより終まていさゝかもあた／矢なくさて／＼おもしろきこと容易ニ筆ハく／たしかたけれと略評なりともと仰られ候故／誠之略評を御めニかけ候下略／　桂窓／著作堂先生几下
（馬琴答書は桂窓評書欄外餘白及巻末に朱書す　巻末に「戊戌夏六月廿五日著作堂老禿／　桂窓大人玉案前」と日付あり　表紙右下に「桂窓」と自署）

第六冊
二五・五糎一七・五糎　十行柱刻「桂窓」（補紙柱刻なし）罫紙　二十二丁補紙同十丁別に三丁　外題左肩「里見八犬傳第九輯下帙上編之下略評／自百三十六回至百四十五回」　内題「八犬傳第九輯下帙之下上編略評」
奥書　こハ例の略評也申落せし事ハさそおほ／かるへしさるをいとはせたまハす當否を／きかせ給はゝ幸ならんかし／　桂窓／十二月十五日／著作堂老先生玉机下
（馬琴答書は桂窓評書の欄外餘白に朱書す　補紙に「拙答評餘談附録」ありて「著作堂老禿稿／天保十己亥年春正月十三日庚戌晡時戊の日に稿し果けるも亦一奇緣／　桂窓大人金爛帳下」の日付あり　但し本書の馬琴答書は自筆に非ずして代筆に自筆校訂を施せり　別に桂窓自筆「八犬傳九輯下帙之下編愚評再答」を附して「桂窓／二月五日／著作堂大人」とあり）

第七冊
桂窓筆　二三・五糎一六・五糎　十行罫紙　十五丁　外題左肩「八犬傳第九輯下帙中編愚評之下／自百四十六回至百五十二回」　内題「八犬傳第九輯下帙下中編愚評略」
奥書　上の条ゝ早竟略評なり評しおとせし／こともおほかるへくたかへるハもとよりなるへし／さるをすてすして當否を聞せたまはん／ことをまち奉るのみ／十月六日／桂窓／著作堂先生／案下
識語　（馬琴筆）桂君精評至妙至當無不得正鵠也雖彼毛／鶴山亦何加焉賞鑒有餘不敢多辯但於／百五十一回靈芝事猜評未的然猶待再／考而已　著作堂老禿

南總里見八犬傳　百八十回　五十三巻　百六冊

瀧澤馬琴著　袋綴　二三糎一六糎　四周單邊一九糎一四糎　十一行

第初輯（第一至十回）　五巻　五冊

文化十一年甲戌秋九月十九日自序　雪に子犬白抜模様鼠色表紙　挿畫（合巻）三十七頁分　題簽左肩薄蒲色縦縞模様紙「里見八犬傳第初輯　巻一（―五）」　柱刻「八犬傳巻之一（―五）（丁數）山青堂藏」

刊記　文化十一年歳次甲戌／冬十一月吉日發販／刊行書肆／大坂心齋橋筋唐物町南へ入森本太助／江戸馬食町三丁目若林清兵衛／本所松坂町二丁目平林庄五郎／筋違橋御門外神田平永町山崎平八

（巻末に「編述　曲亭馬琴稿本（印）／總巻淨書　千形仲道騰寫／出像　柳川重信畫（印）／繡像剞劂　朝倉伊八郎刊」とあり　他に各種廣告あり）

第二輯（第十一至二十回）　五巻　五冊

文化十三年丙子仲秋閏月望自序　雪白抜模様肌色表紙　挿畫（合巻）三十六頁分　題簽左肩雙邊波模様紅色紙「里見八犬傳第二輯　巻一（―五）」柱刻「八犬傳二輯巻一（―五）（丁數）山青堂藏」

刊記　文化十三年歳次丙子／冬十二月吉日發販／刊行書肆／大坂心齋橋筋唐物町河内屋太助／江戸馬食町三町目若林清兵衛／江戸本所松坂町二町目平林庄五郎／筋違御門外神田平永町山崎平八

（巻末に「編述　著作堂馬琴稿本（印）／總巻淨書　千形仲道騰寫／出像　柳川重信繪畫（印）／繡像棗人　朝倉伊八郎刊」とあり　他に各種廣告あり）

第三輯（第二十一至三十回）　五巻　五冊

文政元年九月盡日自序　子犬雪花模様紺表紙　挿畫（合巻）三十六頁分　題簽左肩單邊唐草模様紅色紙「里見八犬傳第三輯　巻一（―五）」柱刻「八犬傳三輯巻一（―五）（丁數）山青堂藏」

（巻末に「編述　曲亭馬琴稿本（印）／淨書　千形仲道騰寫（印）／出像　柳川重信繪畫（印）／棗人　中村喜作」とあり　他に各種廣告あり）

第四輯（第三十一至四十回）　五巻　五冊

文政三年庚辰冬十月端四自序　鷄齋閑人狂題　梅花模様犬丸紋薄縹色表紙　挿畫（合巻）三十八頁分　題簽左肩單邊唐草模様紅色紙「里見八犬傳第四輯　巻一（―五）」柱刻「八犬傳四輯巻一（―五）（丁數）山青堂藏」

刊記　文政三年庚辰／冬十一月吉日／刊行書肆／大坂心齋橋筋唐物町　河内屋太助／江戸馬喰町三丁目若林清兵衛／仝小傳馬町三丁目丁子屋平兵衛／仝新橋加賀町　美濃屋甚三郎

（巻末に「編述　曲亭馬琴稿本（印）／淨書　千形仲道騰寫／繡像畫工　柳川重信（印）／剞劂　中村喜作刊刻」とあり　他に各種廣告あり）

第五輯（第四十一至五十回）　五巻　五冊

文政五年陽月上澣自序　犬張子紺畫白表紙　挿畫（合巻）三十四頁分　題簽左肩波模様紅色紙「里見八犬傳第五輯　巻一（―五）」柱刻「八犬傳五輯巻一（―六）（丁數）山青堂藏」

刊記　文政六癸未年／春正月發販／筆福硯壽利市三倍／大坂書林心齋橋筋唐物町南へ入河内屋太助／江戸書林馬喰町三町目若林清兵衛／小傳馬町三丁目丁子屋平兵衛／新橋加賀町美濃屋甚三郎

（巻末に「編述　曲亭馬琴稿本（印）／淨書　田中正造／畫工柳川重信溪齋英泉出像／剞劂　中村喜作／校訂　神田菴驥徳」とあり　他に各種廣告あり　第一冊目録の次に「是書毎輯。五本爲一帙以刊行。唯第四輯。／四本爲一帙。是故。今於本輯。増一本。以補／其不足。自是之後。亦當如第三輯已上。（諸點省略）」柱刻は序文目次が「巻一」、巻一本文が「巻二」、巻二は「巻二」、巻三が「巻四」巻四が「巻五」、巻五が「巻六」となり「巻三」はなし）

第六輯（第五十一至六十一回）　五巻　六冊

文政九年菊月中澣自序　七寶引犬橇模様紺表紙　挿畫（合巻）四十頁分　題簽左肩雙邊波模様紅紙「里見八犬傳第六輯　巻一（―五下）」柱刻「八犬傳六輯巻一（―四・巻五上下）（丁數）涌泉堂藏」

刊記　文政十丁亥年春正月吉日發行／大坂書林心齋橋筋唐物町　河内屋太助／江戸書林馬喰町三町目若林清兵衛／江戸書林小傳馬町三丁目　丁子屋平兵衛／江戸書林敷奇屋橋御門通り加賀町　涌泉堂正舗　美濃屋甚三郎

（巻末に「著作堂手稿南總里見八犬傳第六輯書畫劂人目次／畫工自リ巻之一至ル巻ノ四之半ニ但簡端ハ分一筆　柳川重信（印）／自リ巻ノ四ノ末ニ至ル巻ノ五ノ上下ニ并ニ簡端合一筆　溪齋英泉（印）／淨書巻ノ一二五之下谷金川／巻ノ三四五并ニ序文田中正造／剞劂全巻繡像　朝倉伊八郎」、他に各種廣告あり）

第七輯（第六十二至七十三回）　七巻　七冊

文政十年丁亥冬十一月之吉自序　薄縹色表紙　挿畫（合巻）四十四頁分他に一折　題簽左肩雙邊梅花模様紅紙「里見八犬傳第七輯　巻之壹（―七）」柱刻「八犬傳

七輯巻一(—七)(丁數)涌泉堂藏」
刊記　(巻四)文政十一年戊子春三月吉日發行／大坂書林心齋橋筋唐物町南江入　河内屋太助／江戸書林數寄屋橋御門通り加賀町美濃屋甚三郎梓
(巻七)文政十三年庚寅正月吉日發行／江戸小傳馬町三丁目書林　丁子屋平兵衛／江戸數寄屋橋御門通り加賀町書林　美濃屋甚三郎梓
(第一冊見返藍刷「八犬傳第七輯」等あり　巻末に「著作堂手稿里見八犬傳第七輯書者筆工目次／出像巻ノ一二三四并ニ巻ノ五圖牛圖　溪齋英泉(印)／出像巻ノ五六七并ニ簡端有像一頁　柳川重宣(印)／淨書巻ノ一二四五六巻ノ三巻ノ七　筑波仙橘谷金川」とあり　他に各種廣告あり　巻四末にも略々同文のものあり)
第八輯上帙(第七十四至八十二回)　五巻　五冊
天保三年如月望自序　犬の伊勢參宮畫繰色表紙　挿畫(合巻)三十二頁分　題簽左肩雙邊網目櫻花散紅紙「里見八犬傳第八輯　巻一(—五)」　柱刻「八犬傳八輯巻一(—四下)(丁數)　文溪堂藏」
刊記　天保三年歳次壬辰夏五月吉日發行／江戸書行／京橋水谷町　美濃屋甚三郎／本所松坂町二町目平林庄五郎／小傳馬町三町目丁子屋平兵衛板
(第一冊見返高麗犬像ありて「八犬傳第八輯」等あり　五巻五冊なれど巻四・五の柱刻は「巻四上」・「巻四下」とあり　巻四下末に「著作堂手集八犬傳第八輯上帙五弓書者筆工劒人目次／出像畫工　柳川重信(印)／總巻淨書　谷金川／刻劒／第一巻　淺倉伊八／第二巻　横田守／第三巻　櫻木藤吉／第四巻　上原喜知／第四巻下　横田守」とあり　他に各種廣告あり)
第八輯下帙(第八十三至九十一回)　五巻　五冊
天保三年壬辰夏五月中浣自序　犬の伊勢參宮畫緑色表紙　挿畫(合巻)三十頁分　題簽左肩雙邊網目櫻花散赤代赭色紙「里見八犬傳第八輯　巻六(—十)」　柱刻「八犬傳八輯巻五(—八下)(丁數)　文溪堂藏」
刊記　(巻九)印行書肆／江戸　丁子屋平兵衛／大坂　河内屋長兵衛／大坂　河内屋茂兵衛
(巻十)天保四年癸巳春正月吉日發行／書行／大坂心齋橋筋博労町　河内屋長兵衛／同所同町河内屋茂兵衛／江戸本所松阪町二町目平林庄五郎／小傳馬町三町目　丁子屋平兵衛板
(第一冊見返犬繪ありて「新奇八犬八行傳曲亭精著二四篇」等あり　五巻五冊なれども柱刻は巻六至八が「巻五—七」、巻九・十が「巻八上—八下」巻八下末に「著作堂手集南總里見八犬傳第八輯下帙畫者筆工劒人目次／出像畫工　柳川重信(印)／做書／五六七ノ上　谷金川／五ノ附錄八ノ下　墨田仙橘／刻劒／第五巻　淺倉伊八／第六巻　横田守／第七巻　櫻木藤吉／第八巻上　原喜知／第八巻下　田中三八」とあり　他に各種廣告あり)
第九輯上帙(第九十二至百三回)　六巻　六冊　(第一至六巻)
天保五年長月之吉自序　雪山犬紋散灰緑色表紙　挿畫(合巻)四十二頁分　題簽左肩雙邊木葉模様紅紙「里見八犬傳第九輯　巻弐(—六)」　柱刻「八犬傳九輯巻一(—六)(丁數)　文溪堂藏」
刊記　天保六年乙未春正月黄道大吉發販／書行／大阪／心齋橋筋博労町　河内屋長兵衛／同所河内屋茂兵衛／江戸　小傳馬町三町目丁子屋平兵衛板
(第一冊見返犬蒐ありて「八犬傳第九輯」等あり　又八犬傳の大廣告札一葉を添ふ　巻六末に「曲亭翁手集八犬傳第九輯上函画工筆畊劒人目次／出像畫工二世柳川重信(印)／總巻淨書　谷金川／刻劒／第一巻　朝倉伊八／第二巻　横田守　第三巻　櫻木藤吉／第四巻　横田守／第五巻　櫻木藤吉／第六巻　横田守」とあり　他に各種廣告あり)
第九輯中帙(第百四至百十五回)　六巻　七冊　(第七至十二巻)
天保六年といふとしのはつきとをまりふつか附言　琴籟題　雪山子犬畫散紺表紙　挿畫(合巻)四十三頁分　題簽左肩雙邊笹葉模様赤代赭色紙「里見八犬傳第九輯　巻七(—十一・十二ノ上・十二ノ下)」　柱刻「八犬傳九輯巻七(—十二ノ下)(丁數)　文溪堂藏」
刊記　天保七年丙申春正月吉日令辰發行／書行／大阪　心齋橋筋博労町　河内屋長兵衛／同所河内屋茂兵衛／江戸　小傳馬町三町目丁子屋平兵衛板
(第一冊見返犬色刷繪ありて「八犬傳第九輯中套七弓」等あり　巻之十二下末に「曲亭編述八犬傳第九輯中帙七弓畫工筆畊劒人目次／出像畫工　柳川重信(印)／筆工／總巻　谷金川／第百八回第百十二回　千形道友／刻劒／巻七九十一　横田守／巻八十二上　櫻木藤吉／巻十　高木翫樫」とあり　他に各種廣告あり　巻九末に薬廣告あり)
第九輯下帙之上(第百十六至百廿五回)　五巻　五冊　(第十三至十八巻)
天保七年丙申秋九月下澣立冬後の一日附言　雪山犬畫散鶯茶色表紙　挿畫(合巻)三十二頁分　題簽左肩雙邊紅紙「里見八犬傳第九輯　巻十三ノ(—十八)」　柱刻「八犬傳九輯巻十三之十四(—十八)(丁數)　文溪堂藏」
刊記　天保八年丁酉年春正月吉日令辰發行／書行／大阪　心齋橋筋博労町　河内屋長兵衛／同所河内屋茂兵衛／江戸　小傳馬町三町目丁子屋平兵衛板

（第一冊見返狗寶色刷繪ありて「曲亭公編次八犬傳第九輯」等あり　巻十八末に「曲亭翁編演里見八犬傳第九輯下帙上画工筆工劒人目次／出像畫工　柳川重信（印）／淨書筆工　谷金川／剞劂／十三四之巻十七之巻　横田守／十五之巻十八之巻　櫻木藤吉／十六之巻並ニ補遺　鳥山某」とあり　他にも各種廣告あり　巻十六末にも各種廣告あり　巻初に馬琴筆正月廿四日附「八犬傳九輯下帙之上五冊校合正誤表」を附す）

第九輯下帙之中（第百二十六至百三十五回）　五巻　五冊　（第十九至廿三巻）

丁酉の秋八月念六日自序　雪山子犬畫散上海老茶色下青表紙　挿畫（合巻）三十六頁分　題簽左肩雙邊花葉唐草赤代赭色紙「里見八犬傳第九輯　巻十九（—廿三）」　柱刻「八犬傳九輯巻十九（—二十三）（丁數）文溪堂藏」

刊記　天保九年戊戌春正月吉日發行／書行／大阪心齋橋筋博労町　河内屋長兵衛／同所河内屋茂兵衛／江戸小傳馬町三町目丁子屋平兵衛板

（第一冊見返犬紐印色刷繪ありて「八犬傳第九輯下帙之中」等あり　巻二十三末に「曲亭翁演里見八犬傳第九輯下帙ノ中画工筆畊剞目次／出像畫工　柳川重信（印）／淨書筆工　谷金川／彫工／巻十九廿一横田守／巻二十　廿三　森田某／巻二十二　櫻木藤吉」とあり　他に各種廣告あり　巻二十二末に各種廣告あり）

第九輯下帙之下上（第百三十六回至百四十五回）　五巻　五冊（第廿四至廿八巻）

戊戌端月自引　黙老題詩　小津久足序歌　篠齋序歌　雪山子犬畫上青中飴色下海松藍色表紙　挿畫（合巻）三十二頁分　題簽左肩雙邊赤代赭色紙「里見八犬傳第九輯　巻廿四（—廿八）」　柱刻「八犬傳九輯巻二十四（—二十八）（丁數）文溪堂藏」

刊記　天保十年己亥春正月吉日發行／書行／京都　大文字屋得五郎／大阪　河内屋長兵衛／大阪　河内屋茂兵衛／大阪　河内屋太助／江戸小傳馬町三丁目　丁字屋平兵衛板

（第一冊見返壺犬色刷繪ありて「八犬傳第九輯下帙之下上編」等あり　巻二十八末に「曲亭翁精編里見八犬傳第九輯下帙之下甲號五巻工匠目次／出像畫工　柳川重信（印）／淨書筆工　溪齋英泉（印）／筆工淨書　巻廿四廿五廿六二頁　谷金川　巻廿四廿五廿六一頁　巻廿六二頁　巻廿七廿八　巻二十七／二十八下　白馬臺音成／剞劂／巻廿四　鏤廉吉／巻廿五　森田甲／巻廿六　横田守／巻廿七　森田甲／巻廿八　常磐園」とあり　他に各種廣告あり巻二十七末に各種廣告あり）

第九輯下帙下中編（第百四十六至百五十三回）　四巻　五冊　（第廿九至卅一上下・卅二巻）

天保十年花月念八自序　子犬松竹梅鶴亀畫散焦茶色表紙　挿畫（合巻）三十二頁分　題簽左肩雙邊紋所模様紅紙「里見八犬傳第九輯　巻廿九（—卅二）」　柱刻「八犬傳九輯巻二十九（—三十二）（丁數）文溪堂藏」

刊記　天保十一庚子年春正月吉日發行／書行／京都　大文字屋得五郎／大阪　河内屋茂兵衛／同　河内屋太助／江戸小傳馬町三町目丁子屋平兵衛板

（第一冊見返古鈴色刷繪ありて「八犬傳第九輯下帙下中編」等あり　巻三十二末に「八犬傳第九輯下帙下中編乙號上分巻五冊書画剞劂目次／出像　柳川重信畫（印）／補助畫巻之三十一末ヨリ　歌川貞秀／淨書　谷金川／彫工／巻之二十九　澤金次郎／巻之三十　朝倉伊八／巻之三十一上　常磐園／巻之三十一下　鏤近吉／巻之三十二　澤金次郎」とあり　他に各種廣告あり　巻之三十一下に本屋廣告あり）

第九輯下帙下中之貳（第百五十四至百六十一回）　三巻　五冊（第三十三・三十四上下・三十五上下巻）

己亥の秋柴月自序　自評餘論　子犬松竹梅鶴亀畫散薄緑色表紙　挿畫（合巻）二十八頁分　題簽左肩雙邊紋所模様赤代赭色紙「里見八犬傳第九輯　巻三十三（—三十五下）」　柱刻「八犬傳九輯巻三十三（—三十五）（丁數）文溪堂藏」

刊記　天保十一庚子年春正月吉日發行／發販書行／京都三條通東洞院東へ入　大文字屋得五郎／大阪心齋橋筋博労町河内屋茂兵衛／大阪心齋橋筋唐物町南へ入　河内屋太助／江戸小傳馬町三町目丁子屋平兵衛板

（第一冊見返犬鬼色刷繪ありて「第九輯下帙下中之貳」等あり　巻三十五末に「南總里見八犬傳第九輯下帙下乙號中畫工筆耕彫匠名號目次／出像畫工　玉蘭齋貞秀（印）／淨書筆工　谷金川／彫工／巻三十三　澤金次郎／巻三十四　常盤園／三十四下　澤金次郎／巻三十五　常盤園／三十五下　澤金次郎」とあり他に各種廣告あり　巻三十四下末に本屋廣告あり）

第九輯下帙下編之上（第百六十二至百六十六回）　五巻　五冊（第三十六至四十巻）

天保十一年肆月小滿後五日自序　山形模様子犬畫曲亭庵印刷込模様上青下海松色表紙　挿畫（合巻）三十四頁分　題簽左肩雙邊曲亭庵印模様朱紙「里見八犬傳第九輯　巻三十六（—四十）」　柱刻「八犬傳九輯巻三十六（—四十）（丁數）文溪堂藏」

刊記　天保十二年辛丑春正月吉日發行／發販書行／京都蛸薬師東洞院西へ入　大文字屋仙藏／大阪心齋橋筋博労町河内屋茂兵衛／大阪心齋橋筋唐物町南へ入　河内屋太助／江

戸小傳馬町三丁目丁子屋平兵衛板

（第一冊見返犬急須色刷繪ありて「八犬傳第九輯下帙下編之上」等あり　巻四十末に「南總里八犬傳第九輯下帙下編之上画工筆畊劂人目次／出像　畫工柳川重信（印）／補助畫工　溪齋英泉（印）／總巻淨書　谷金川／剞劂／三十六之巻　澤金次郎／三十七之巻　常盤園／三十八之巻　高谷熊五郎／三十九之巻　仝／四十之巻　澤金次郎」とあり　他に各種廣告あり　巻三十八末に本屋廣告あり）

第九輯下帙下編之中下（第百六十七至百七十六回）　五巻　五冊（第四十一至四十五巻）

天保十一年陽月自序　鶴亀松竹梅畫海松色表紙　挿畫（合巻）三十六頁分　題簽左肩雙邊曲亭庵印模様赤代赭色紙「里見八犬傳第九輯　巻四十一（―四十五）」

柱刻「八犬傳九輯巻四十一（―四十五）（丁數）文溪堂藏」

刊記　天保十二年辛丑春正月吉日發行／發販書行／京都河内屋藤四郎／同　大文字屋仙藏／大阪河内屋太助／同河内屋直助／同河内屋茂兵衛／江戸小傳馬町三町目丁子屋平兵衛板

（第一冊見返犬印色刷繪ありて「八犬傳第九輯下帙下套中下」等あり　巻四十五末に「八犬傳第九輯下帙下編之中書画刊刻工匠目次／出像畫工　柳川重信（印）／淨書筆工　谷金川／剞劂／巻之四十一　高谷熊五郎／巻之四十二　仝／巻之四十三　澤金次郎／巻之四十四　仝／巻之四十五　高谷熊五郎」とあり　他に各種廣告あり）

第九輯結局上編（第百七十七至百七十九下回）　四巻　五冊（第四十六・四十七上下至四十九巻）

天保十二年辛丑秋長月之吉自序　七寶紺畫白表紙　挿畫（合巻）二十六頁分　題簽左肩雙邊曲亭庵印模様代赭色紙「里見八犬傳九輯　四十六（―四十九）」　柱刻「八犬傳九輯巻四十六（―四十九）（丁數）文溪堂藏」

刊記　天保十三年壬寅春正月吉日／大阪心齋橋筋博労町河内屋茂兵衛／江戸小傳馬町三丁目丁子屋平兵衛板

（第一冊見返梅花等色刷繪ありて「八犬傳結句編」等とあり）

第九輯結局下編（第百八十上下・勝中・勝下・回外剰筆）　四巻　五冊（第五十至五十二・五十三上下巻）

紋所散上紺下白表紙　挿畫（合巻）二十六頁分　題簽左肩雙邊曲亭庵印模様赤代赭色紙「里見八犬傳九輯五十（―五十三ノ下）」　柱刻「八犬傳九輯巻五十（―五十三）（丁數）文溪堂藏」

刊記　時天保十三年壬寅春正月吉日先刊所成五冊發行／同年春三月吉日後刊五冊追販全書無闕遺焉／發販書行／京都河内屋藤四郎／同地大文字屋仙藏／大阪河内屋太助／同地河内屋直助／同地河内屋茂兵衛／江戸小傳馬町三丁目丁子屋平兵衛板

（第一冊見返犬猿色刷繪ありて「八犬傳結句下編」等あり　巻末に「南總里見八犬傳第九輯巻之四十六至五十三下書画彫工目次／出像畫工／柳川重信（印）／溪齋英泉（印）／淨書筆工／巻四十六巻五十巻五十二　谷金川／巻四十巻四七上下十八龜井金水／巻四十九巻五十三巻五十一上下　對二樓音成／剞劂人／巻四十六　高谷熊五郎／巻四十七上下　澤金次郎／巻四十八　高谷熊五郎／巻四十九　澤金次郎／巻五十　高谷熊五郎／巻五十一　澤金次郎／巻五十二　同シ右ニ／巻五十三上　米藏幸太郎／巻五十三下　高谷熊五郎」とあり　他に各種廣告あり）

（里見八犬傳包袋集を附録す）

（九一三・六五―イ二九）

南總里見八犬傳第九輯巻之四十　寫　一冊　二九二五

瀧澤馬琴著　自筆　自畫　袋綴　共表紙　二五糎一七糎　四周單邊一九糎一三糎　十二行代赭色罫紙　六行　六十五丁　挿畫貼附六頁分　外題中央「（書名同）四拾之巻（右）全五冊曲亭主人編　九ノ八（左上）□之下／下帙／乙號下／画工重信（左下）稿本六十五丁／板下寫本二十八丁／丁子屋平兵衛板」

奥書（裏表紙）　天保十一庚子年／夏四月二十二日稿了／著作堂手集／筆福硯壽／大吉利市

（挿畫割付朱書す　巻末に「南總里見八犬傳第九輯下帙下編之上画工筆畊劂人目次出像　畫工　柳川重信／補助畫工　溪齋英泉／總巻淨書　谷　金川／剞劂／三十六之巻　澤金次郎／三十七之巻　常盤園／三十八之巻　高谷熊五郎／三十九之巻　仝／四十之巻　澤金次郎」「曲亭翁精編本房藏板畧目　江戸書林文溪堂」とある廣告文及び「天保十二年辛丑春正月吉日發行／發販／書行／京都三條通東洞院東へ入大文字屋得五郎／大阪心齋橋筋博労町河内屋茂兵衛／大阪心齋橋筋唐物町南へ入河内屋太助／江戸小傳馬町三町目丁子屋平兵衛板」との刊記を記す

箱書表に「曲亭馬琴編　南總里見八犬傳第九輯三冊稿本」同裏に「文化庚午首夏朔　鵬齋龜田興撰」とある「瀧澤馬琴筆塚碑陰記」を記す　九一三・六五―イ二一）

本朝水滸傳を讀む并に批評　寫　一冊　二九二六

木村黙老著　瀧澤馬琴加評　袋綴　砥粉色表紙　二四・五糎一七・五糎　九行　三十八丁　外題左肩小津桂窓筆「本朝水滸傳評　全」

（通巻馬琴評を頭記す　黙老評巻末に「天保四癸巳仲夏日／黙老謹て訂正を請ふ」とありて次に瀧澤馬琴追記二丁半あり　その奥に「癸巳夏五月念八著作堂／老禿戯に追記し早」と署す　表紙右肩に小津桂窓筆朱書「へ」　九二三・六五―イ一三）

○

東作全書　寫　二冊　二九二七

平秩東作著　自筆　袋綴　藤鼠色表紙　間紙を挾む　二三糎一六・五糎　十行

題簽左肩大田南畝筆「（書名同）巻一（二）」、「南畝文庫」「石塚文庫」「豊芥」「高嶋書屋」「笹野文庫」

（九二三・六六―イ五）　所収次の如し

第一冊

怪談老の杖　四巻一冊

寶暦丙戌（甲戌（ママ））の春　紫桃軒主人序

識語　（大田南畝筆）（朱）亡友東蒙子所草怪談老杖數巻／僅在四巻流覧一過宛如逢亡友而／語三十年前事也／文化乙亥孟秋念七清晨杏花園叟／時歳六十七（印）

文政己卯水無月廿日病餘流覧／時年七十一　蜀山人

東蒙生平下筆不能休是其／稿本也　蜀又誌（印）

（序題下に平原子編輯とあり）

第二冊

芻蕘閑言　二巻

二十七丁

識語　芻蕘（ママ）閑言一名二樵閑話一とせ日本橋の／東四日市の書攤に自筆の本ありしか價ならすして／かハず此書も末闕たるなるへし明和年中／御藏法問といふ事ありて善兵衛といへるもの／その講頭にて本所出山寺とかいふ寺に講を／結びし事ありし時東作子その門にいりて／其事を訴へ褒美の銀給ハりし事あり／乙亥仲秋　蜀山人

五常名義考

八行　八丁　内題「五常名義」次行に「宗専著」とあり

奥書　天明八申年極月十五日　宗専

音無の瀧

九行　十丁　外題書名同　左下に「嘉穂菴」

識語（外題右肩）（大田南畝筆）丑閏五月廿五日寫

商人論語帳

左右雙邊一九糎一三糎　九行罫紙　七丁　内題次行に「平秩子演義」とあり

巡察要領集

四周單邊一七・五糎一三糎　七丁　内題次行に「山鹿素行子輯／立松東蒙子補」とあり

商家童問抄

十三行　三丁

法のつと巻

左右雙邊一九糎一三糎　九行罫紙　十二丁

奥書　右莊之助ノ相續アマリ貴ク落涙ニ及ヒ候間暇／アル時シルシ置候／天明丁未季冬　宗専

法の家つと

九行　九丁　内題次行に「宗専」とあり

（第一丁に大田南畝筆所収目次あり）

○

烏鵲物語初編　寫　三巻　一冊　二九二八

小池天狗著　天保辛丑三月自序　袋綴　水色表紙　用紙薄様　間紙を挾む　一八・五糎一二・五糎　四周單邊（刊）一四・五糎一〇糎　八行　五十六丁　挿畫貼附（上巻）八頁分　（中・下巻）各四頁分　題簽左肩後補「烏鵲物語草稿」　柱心「かさゝき物上序（上・下）（丁數）」

（板下本　内題の次行に「今様落咄之作者　小池天狗著」とあり　貼紙訂正多し

九一三・六八—イ三）

三芳野奇聞 **小夜姫物語卷之二** 寫 一冊 二九二九

爲永春水著 自筆 自畫 袋綴 改裝後補辨柄色表紙 原裝共表紙 間紙を挾む 七行 十八丁 挿畫六頁分 題簽左肩無記原外題中央「三芳野奇聞二（右）爲永春水草稿（印）（左）河越書林連慶堂所藏」

（内題の次行に「河肥於茶店 江戸教訓亭春水著／（印）」とあり

九一三・六八—イ九）

春色籬迺梅 寫 三卷 三冊 闕 二九三〇

爲永春水著 自筆 袋假綴 共包表紙 一七・五糎一二・五糎 八行 外題中央（第一冊）「籬の梅四編全三冊（右）狂訓亭作國直畫 行事加賀屋源助（左）序口画墨附六十丁 五丁入 願人丁子屋平兵衛」（第二・三冊）「まがきの梅 部分四編ノ中（下） 十一（十二）之巻」扉題（第一冊）「まがきの梅 部分四編ノ上 十之巻」内題（第一冊）「籬梅拾遺春色湊の花一之巻」の上に貼紙して「（書名同）巻之十」（第二冊）巻初内題の部分を切取つて「（書名同）巻之十一」とある一丁を別に追加（第三冊）「春告鳥拾遺卷 春色園の梅」とありて「園の梅」に貼紙して「辰巳梅巻之二」更に貼紙して「（書名同）巻之十二」尾題（第一冊）「春色湊の花一之巻了」とありて半丁追加して「（書名同）巻之十了」（第二冊）「春色籬の梅巻十一了」（第三冊）「春色辰巳の蝶卷の（ママ）」

（第四編巻十至十二を存す 挿畫の部は白紙のまゝとす 内題の次行に「東都狂訓亭主人著」とあり 奥に「日本第一の御化粧の水 花橘」の廣告ありて「寶弘所 小傳馬三町丁 書物問屋 目丁子屋平兵衛」とあり 貼紙訂正多し 國語國文第二十五巻第六號所収中村幸彦「春水の手法」—參照 九一三・六八—イ七）

おさん茂平 **花名所懐中暦二編** 寫 三卷 合一冊 二九三一

爲永春水著 自筆 自畫 天保六未林鐘自序 袋綴 改裝後補茶色表紙 原裝共表紙 一六・五糎一二糎 八行 六十四丁 挿畫（上巻）十一頁分（中巻）五頁分（下巻）四頁分 題簽中央後補書名同 原外題中央「おさん茂平 懐中ごよミ 二編 六十口丁（右）狂訓亭主人作溪齋英泉畫（左下）大嶋屋／傳右衛門」

奥書 （上巻）狂訓亭 爲永春水（花押）

（中巻）清元延津賀挍正（花押）

（挿畫割付朱書す 内題の次行に（第一冊）「江戸 狂訓亭主人著（のふつか）」とあり 中巻末に「清元延津賀挍正」とありて更に「梅暦の發端 春色茗の花 精工佳紙 全本六冊中略 春水著英泉画／販元文永堂主人謹白」の豫告口上あり 貼紙訂正多し 國語國文第二十五巻第六號所収中村幸彦「春水の手法」—參照 九一三・六八—イ五）

○

〔伊勢參宮道中記〕 寫 一冊 二九三二

隨鷗山人著 自筆 豊明山人等畫 申季／やよひ日自序 袋綴 共表紙 用紙裏打 二五・五糎一九・五糎 四周單邊二一・五糎一六糎 九行 五十丁 挿畫淡彩 四十九頁分 内題なし

奥書 此外狂言數多有之候へ共余ハ／後編に出す／申季／孟春／照月菴藏

（九一三・六九—イ七）

伊勢參宮 **柄杓振戯初篇** 寫 一冊 二九三三

東郊主人著 自筆 自畫 文政五年午仲冬自序 袋綴 栗皮色表紙 一九・五糎一三・五糎 四周單邊一六糎一〇・五糎 八行小雙行 三十一丁 挿畫九頁分 題簽左肩「伊勢記行參宮柄杓振戯初篇 全」見返中央「鬢屋彌三八 桐屋傳輔 伊勢參宮柄杓振戯」

（内題の次行に「東郊主人著」と自署す 九一三・六九—イ五）

堀の内詣 寫 二冊 二九三四

紅葉川折靄著 自筆 自畫 己酉はる梅亭香の人序 不計半時齋序 嘉永にねん／とりのはるの日春亭梅昇跋 袋綴 黒布目表紙 一九・五糎一三・五糎 八行小雙行 挿畫（四周單邊一五糎一一糎）（上巻）八頁分（下巻）七頁分 題簽左肩後補「堀のうち詣上（下）」見返「堀迺内／もふて／上冊」「堀のうち／詣卷の下冊／（梅の一筆書ありて）春子畫」、「てんきんもちほん」

（内題の次行に「紅葉川折蠶誌」とあり　九二三・六九―イ三）

元無草　一冊　二九三五

深井志道軒著　袋綴　改装後補丹表紙　用紙裏打　二四糎一六・五糎　七行　六丁　扉題後補墨（原題簽影寫）「元無艸」、「幸堂私印」「若樹文庫」
（奥に「延享戊辰稔　一無堂志道艸挍」とあり　九二三・六九―イ）

現代小説

アグニの神　寫　一冊　二九三六

芥川龍之介著　自筆ペン書　袋綴　改装後補鐵色表紙　用紙裏打　二八糎一九糎　原寸二五糎　十行二十字詰「松屋製」原稿用紙　二十四丁　題簽左肩金砂子散「（書名同）芥川龍之介草稿」内題「ヴアルナの神」とあるを朱抹し書名同とする
（赤い鳥大正十年一月號原稿　九二三・七―イ三）

永日小品火事　寫　一軸　二九三七

夏目漱石著　自筆ペン書　掛軸　四四糎一米七四糎　十行十九字詰「漱石山房」原稿用紙八頁分を貼附　額字別筆墨「漱石遺稿」
（九二三・七―イ三九）

艶魔傳　寫　一冊　二九三八

幸田露伴著　自筆　袋綴　改装後補淺黄色表紙　二三・五糎一六糎　十行二十字詰「金清堂製」原稿用紙　六十丁　題簽左肩〔幸田成友〕筆書名同、「幸田成友」
（内題に始め「新さぎ娘」とあるを朱抹し「風流魔」と朱書し更に之を消して「艶魔傳上篇」と墨書す　又始め「蝸牛露伴著」とあるを消して「奈落安著（三次ヒ）」とす　昭和二十五年岩波版露伴全集第二巻―参照　九二三・七―イ七）

女　寫　一冊　二九三九

鈴木三重吉著　自筆　袋綴　改装後補黒緑色表紙　用紙裏打　二八・五糎一九・五糎　原寸二五糎　十行二十字詰「松屋製」原稿用紙　六十三丁　題簽左肩金砂散「（書名同）鈴木三重吉草稿」
（ホトトギス臨時増刊明治四十四年四月號原稿　朱墨訂正書入多し　九二三・七―イ二七）

温飛卿　寫　一冊　二九四〇

幸田露伴著　自筆　袋綴　改装後補鐵色表紙　用紙裏打　二七糎一八・五糎　十二行十七字二百字詰「春陽堂發行」原稿用紙　五丁　題簽左肩「（書名同）幸田露伴翁自筆草稿」
（昭和五年岩波版露伴全集第九巻所収原稿　九二三・七―イ四五）

蝸牛庵聯話　寫　九冊　二九四一

幸田露伴著　自筆　鉛筆書　改装後補假綴白紙表紙　二五糎三四糎　約十八行百六十一丁　各冊外題「餅」「茶舞義經」「山伏」「檄」「金光明最勝王經」「飯」「飯續・芭蕉・利休」「張俊供進御筵食單」「同續」内題各同
（中央公論昭和十三年以降十六年原稿「餅」・「茶舞義經」・「山伏」・「檄」・「金光明最勝王經」・「飯」・「飯續」・「芭蕉」・「利休」・「張俊供進御筵食單・同續」を存　九二三・七―イ六三）

藥草取　寫　一軸　二九四二

泉鏡花著　自筆　改装後補茶色布表紙　二八・五糎一八米六六糎　一紙二二糎三三糎　題簽「（書名同）泉鏡花原稿」
（二六新聞明治三十六年五月原稿　もと半紙十行書袋綴本を現巻子本に改装　九二三・七―イ三五）

紅黄録　寫　一冊　二九四三

伊藤左千夫著　自筆　袋綴　改装後補鐵色表紙　間紙を挟む　二五糎一七・五糎

原寸二二・五糎　九行二十四字詰原稿用紙　二十四丁　題簽左肩金泥散「（書名同）伊藤左千夫草稿」

（ホトトギス明治四十一年十月號原稿　九三・七—イ二九）

三四郎　寫　四冊　二九四四

夏目漱石著　自筆ペン書　袋綴　改裝後補茶色表紙　二五・五糎一七・五糎　十行十九字詰「漱石山房」原稿用紙　題簽左肩單邊小宮豊隆筆「漱石先生自筆稿本三四郎　一（—四）」「寺崎藏書」

識語　（第一冊見返）漱石全集第四巻ノ校正ニ際シテ鈴木／周太郎氏所藏ノ先生自筆原稿三／四郎ヲ借覽スルコトヲ得テ便宜ヲ／得ルコト尠ナカラズ感謝ノ寸志ヲ表／セムガ為メ悪筆ヲ耻ヂズ需ニ應／ジテ敢テ題簽ヲ穢ス／大正七年三月二十八日　小宮豊隆

（九三・七—イ五九）

辭世詩歌　寫　一冊　二九四五

幸田露伴著　自筆　袋綴　改裝後補鐵色表紙　用紙裏打　二八・五糎二〇糎　十行二十字詰原稿用紙　題簽左肩「辭世詩歌集題言幸田露伴自筆稿」内題「古今辭世詩歌集に題す」とありて「古今」「集に題す」を朱抹す

（巻末に「大正四年初秋（朱書訂正して乙卯初秋）幸田露伴」とあり　昭和五年岩波版露伴全集第九巻原稿　九三・七—イ五一）

逍遙著作解題　寫　一冊　二九四六

坪内逍遙著　自筆　袋綴　改裝後補鐵色表紙　間紙を挟む　二八糎一七糎　原寸二三糎　十行二十字詰柱刻「逍遙用紙」原稿用紙　四十五丁　題簽左肩「（書名同）」内題なし

（九三・七—イ五五）

新生　寫　二篇　十二冊　二九四七

島崎藤村著　自筆ペン書　和綴　改裝後補漉刷毛目布目表紙　二六糎三六糎　十行二十字詰代赭色原稿用紙　題簽左肩後補薄茶色絹無記、「山本藏書」

（巻初に左の書翰一通を附す　「拜呈東朝社御在勤中は何角御世話様ニ／相成御禮申上候御退社の折は御手紙頂き／早速御挨拶をと思ひながら「新生」執筆中／のいそかしさにまぎれ今日まで御無沙汰まことに／申譯無之候御蔭にて小生もどうにかかうにか／二ケ年に亘る長物語を書き終りこれも貴兄／の御厚意と勵ましとによることゝ存居候／何卒記念のためにこの二巻之原稿御藏め／置被下度候／猶前篇第一頁分御紛失之由につき只今／別に書き改め御送申上候／連日の秋雨其後御健康は奈何にや御伺ひ／かたゞゝ右御禮まで草々／十一月十七日／島崎生／山本松之助樣」　内題の次行に前後篇共「島崎藤村」と自署　前篇巻初に「大正七年四月起稿／島崎藤村」、後篇巻初に「大正八年十月完結／島崎藤村」とあり　全用紙下四段空白とす

（九三・七—イ六三）

醉興記　寫　一冊　二九四八

幸田露伴著　自筆　袋假綴　改裝後補丹表紙　二四糎一六・五糎　十行二十字詰「自笑堂等製」原稿用紙　五十二丁　題簽左肩雙邊幸田成友筆「家兄草稾醉興記」

（昭和二十六年岩波版露伴全集第十四巻—參照　九三・七—イ六九）

生産力及生産者　寫　一冊　二九四九

幸田露伴著　自筆　袋綴　改裝後補鐵色表紙　二九・五糎二〇・五糎　十行二十七字詰「實業之世界」原稿用紙　十一丁　題簽左肩金砂子散「（書名同）露伴翁草稿」内題書名同（承前）

（實業之世界大正三年二月下旬・同三月上旬・同四月上旬號原稿　袋綴の臺紙兩面に原稿用紙を貼る　九三・七—イ四九）

漱石作品集　五冊　（二九五〇—二九五四）

夏目漱石著　袋綴

（朝日新聞社内版　九三・七—イ七七）　所収細目次の如し

*坑　夫　（第一冊）　二九五〇

改裝後補網目摺文縹色表紙　二三・五糎一六糎　四隅圓一六・五糎一二糎　十七

行二段　二百廿九頁

*夢十夜　（第二冊）　二九五一

改装後補瑞鳥唐草摺文緑表紙　用紙和漉紙　二三・五糎一六糎　十八行二段　二十六頁

*それから　（第三冊）　二九五二

六月二十七日自序　改装後補輪繋摺文縹色表紙　用紙和漉紙　一七・五糎一四・五糎　二十行二段　二百六十五頁　題簽左肩雙邊（刊）後補墨「（書名同）完」

識語　（扉見返ペン書）大内兄より受く／昭和十九年六月十九日

*門　（第四冊）　二九五三

改装後補輪繋摺文縹色表紙　一七糎一四・五糎　十九行二段　二百十七頁　題簽左肩雙邊（刊）無記

識語　（扉見返ペン書）大内兄より受く／昭和十九年六月十九日

*心　（第五冊）　二九五四

改装後補墨下畫白絹表紙　二四糎一六糎　四周單邊二三糎一一糎　二十行三段　百六十三頁　題簽左肩後補墨絹「こゝろ漱石著」

大導寺信輔の青年時代　寫　一冊　二九五五

芥川龍之介著　自筆ペン書　大和綴　改装後補唐草模様青朽葉色布表紙　用紙裏打　二五糎一八・五糎　十行二十字詰原稿用紙　六十八丁　題簽左肩無記

（中央公論大正十四年一月號原稿　和綴臺紙表片面にのみ原稿用紙を貼る　九二三・七―イ三七）

たからの藏　寫　一冊　二九五六

幸田露伴著　自筆　廿五年夏六月自序　袋綴　改装後補丹表紙　二三・五糎一六糎　十行二十字詰「金田製」原稿用紙　八十五丁　挿畫小林永興畫（刊）六頁分　題簽左肩雙邊（刊）幸田成友筆「家兄草稾寶の藏」

（昭和二十四年岩波版露伴全集第十一巻―參照　九二三・七―イ六七）

小さき者へ　寫　一冊　二九五七

有島武郎著　自筆ペン書　袋綴　改装後補鶯茶色緞子表紙　用紙裏打　二八糎一九糎　十行二十字詰「喜多川製」原稿用紙　二十六丁　題簽左肩「有島武郎小さき者へ草稿」

（新潮大正七年一月號原稿　巻末に「一九一七、十二、八」と脱稿月日を記す　九二三・七―イ一九）

お伽諷刺智慧ぶくろ　寫　二冊　二九五八

山田美妙著　自筆　袋綴　改装後補鐵色表紙　二三・五糎一六糎　十行　題簽左肩金砂散（第一冊）「（書名同）山田美妙著」（第二冊）「乞食博士山田美妙著」

（第一冊内題の次行に「智恵娘　美妙」とあるを赤インキで消し「我儘王」と朱書　第二冊には「乞食博士　美妙」とあり　九二三・七―イ一五）

杜子春　寫　一冊　二九五九

芥川龍之介著　自筆ペン書　袋綴　改装後補牡丹唐草模様裏葉色緞子表紙　用紙裏打　二八糎一九糎　原寸二五糎　十行二十字詰「松屋製」原稿用紙　二十七丁　題簽左肩金砂子散「（書名同）芥川龍之介作」

（赤い鳥大正九年七月號原稿　九二三・七―イ三五）

南地心中　寫　一冊　二九六〇

泉鏡花著　自筆　袋綴　改装後補白厚紙表紙　二五糎一七糎　十行　百十八丁　外題左肩後筆「鏡花先生よりいたゞく／南地心中原稿」

（新小説明治四十五年一月原稿　九二三・七―イ七）

日蓮上人　寫　一冊　二九六一

幸田露伴著　自筆ペン書　袋綴　改裝後補鐵色表紙　二八・五糎二〇糎　十二行二十五字詰原稿用紙　二丁　題簽左肩「(書名同)　幸田露伴自筆草稿」(巻末に「(戊午)」とあり　昭和五年岩波版露伴全集第十一巻所収原稿　九二三・七―イ五三)

日蓮上人　寫　一冊　二九六二

幸田露伴著　自筆　袋綴　改裝後補丹表紙　二四・五糎一六・五糎　十行二十字詰「池之端紙儀製」原稿用紙　六十丁　題簽左肩(刊)雙邊幸田成友筆「家兒草稿　日蓮上人」(「第十八佐渡」の後半まで存して以下闕　昭和二十四年岩波版露伴全集第十一巻―参照　九二三・七―イ六五)

風船旅行　寫　一冊　二九六三

幸田露伴著　自筆　袋綴　改裝後補黄布表紙　二四・五糎一九糎　九至十行　九丁　題簽左肩雙邊(刊)後筆「幸田博士原稿風船旅行九葉」、「研堂」(小國民明治二十七年三月上旬號原稿　九二三・七―イ四七)

不言不語　寫　二軸　二九六四

尾崎紅葉著　自筆　巻子本　改裝後補薄卵色絹表紙　二四・五糎　(上巻)無罫半紙　(下巻)十行二十字詰原稿用紙を臺貼　題簽金泥布「(書名同)　上(下)」　議語　(上巻見返)(巌谷小波筆)　不言不語に／題す　／夕時雨／黙して／君を／偲び／けり　(印)　(下巻同)(江見水蔭筆)紅葉君の／不言不語の／原稿を見て／冬枯れて／庚申塚の／目立けり／水蔭　(拇印)　(讀賣新聞明治廿八年一月一日至同三月十二日連載原稿　上巻巻首に讀賣新聞第一回分切抜を貼りそれに自筆朱書校正を施す　第一回分原稿闕　九二三・七―イ四二)

ふたおもて　寫　七冊　二九六五

田口掬汀著　自筆ペン書　假綴　改裝後補白厚紙表紙　二三糎一五・五糎　十行二十字詰原稿用紙　外題中央「(書名同)　一(―七)」　内題「亂れ染」を朱にて消し書名同　(大阪朝日新聞大正三至四年連載原稿　九二三・七―イ四三)

二日ものがたり　寫　二軸　二九六六

幸田露伴著　自筆　巻子本　改裝後補菊花押模様卵色表紙　二五糎　(上巻)紅梅色二十行罫紙　(下巻)黒十行二十字詰原稿用紙を臺貼　題簽「二日ものがたり　露伴翁自筆草稿」　内題「(書名同)／此一日」「二日もの語／彼一日」　(第一巻巻初に「文藝倶樂部第四巻第二編」、第二巻巻初に「文藝倶樂部第七巻第一號」と朱書別筆書入あり　昭和二十六年岩波版露伴全集第五巻―参照　九二三・七―イ九)

佛蘭西だより　寫　一冊　闕　二九六七

島崎藤村著　自筆ペン書　袋綴　改裝後補鼠色堅横縞目表紙　一七・五糎二〇糎　十行二十字詰原稿用紙　四十八丁　「山本藏書」　(東京朝日新聞大正二年八月二十七日至十月二十日原稿　佛蘭西通信第一回至十一回を存す　但し第八回通信「祭の日一」闕　九二三・七―イ六一)

平凡　寫　一冊　二九六八

二葉亭四迷著　自筆　袋綴　改裝後補鶯茶色緞子表紙　用紙裏打　二五糎一六・五糎　十行二十字詰原稿用紙五行書　八丁　題簽左肩「平凡　長谷川二葉亭」　内題なし　(東京朝日新聞明治四十年十月三十日より連載原稿第二回分を存す　但し巻初第一葉闕　九二三・七―イ三)

水籠　寫　一冊　二九六九

伊藤左千夫著　袋綴　改裝後補鐵色表紙　間紙を挟む　二四糎一七・五糎　原寸　二一糎　九行二十四字詰原稿用紙　十一丁　題簽左肩金砂子散「(書名同)　伊藤左千夫草稿」

（ホトトギス明治四十年十一月號原稿　九二・七―イ三）

道草　寫一冊　二九七

夏目漱石著　自筆ペン書　改裝後補濃茶色布表紙　用紙裏打　二九・五糎二二糎　十行十九字詰「漱石山房」原稿用紙　七十七丁

（書き損じの反故原稿　九二・七―イ五七）

虫のはなし・コケコッコー　寫合一冊　二九七一

島崎藤村著　自筆ペン書　袋綴　改裝後補深縹色表紙　用紙裏打　二九・五糎二〇糎　十行二十字詰原稿用紙　十一丁　題簽左肩「蟲の話　コケコッコー　島崎藤村作」

（「虫のはなし」は赤い鳥第十一巻第二號原稿、「コケコッコー」は同上第四巻第一號原稿　九二・七―イ三三）

〔山田美妙稿本〕　寫一冊　二九七二

山田美妙著　自筆　袋綴　改裝後補薄茶色表紙　二四・五糎一七糎　七行　八丁

題簽左肩無記　内題なし

（巻末に「結末未了稿」とあり　九二・七―イ一七）

雪の夜物語　寫一冊　二九七三

幸田露伴著　自筆　袋綴　改裝後補鐵色表紙　間紙を挟む　二五糎一七糎　原寸二三・五糎　十行紅梅色罫紙　二十六丁　題簽左肩「（書名同）　幸田露伴自筆草稿」

内題「雪の夜」とあるを消して右に書名同に訂正

（太陽明治三十一年一月號「夜の雪」原稿　九二・七―イ二）

輪廻　寫一冊　闕　二九七四

森田草平著　自筆ペン書　改裝後補薄茶色表紙　二四・五糎一七糎　十行二十字詰「相馬屋製」原稿用紙　二十三丁　題簽左肩墨「森田草平原稿／輪廻」

（女性大正十四年二月號掲載分原稿　九二・七―イ三）

枕草子　寫七巻二冊　二九七五

清少納言著　袋綴　紺表紙　二六糎一九・五糎　十四行　題簽左肩後補「（書名同）　清少納言」

天（地）」、「阿波國文庫」「不忍文庫」「黒川眞頼藏書」「黒川眞道藏書」「黒川眞前藏書」

（七巻本　江戸時代初期寫　内題の下に「清少納言」とあり　表紙右肩に「物語」の印、後筆朱書「古寫本／從一至三（從四至七）」、題簽右肩朱書「七巻本」とあり　九一四・三―イ三）

枕草子巻下　寫一冊　二九七六

清少納言著　袋綴　薄水色表紙　二六糎二〇・五糎　十二行　六十一丁　題簽左肩後補雲紙「清少納言枕艸紙　闕本」　内題なし

（三巻本　室町時代末期寫　原に「本云　往事所持之荒本紛失年久更借出兩之本令書／留之依無證本不散不審但管見之所及勘合／舊記等注付時代年月等是亦謬案欤／安貞二年三月　耄及愚翁在判」「古哥本文等雖尋勘時代久隔和哥等多以不尋／得纔見事等在別紙」「自文安四年冬比仰面ㇾ令書寫之同五年中夏／事終校合再移朱點了／秀隆兵衛督大德書之」「文明乙未之仲夏廣橋亜槐送寶相院准后本下／之本未兩冊見閑日余書寫所希也嚴命弗獲點／馳禿毫彼舊本不。及切句此新寫讀而欲容易故此之／挍之次加朱點畢／正二位行權大納言藤原朝臣教秀」「右本切句勘文爲證本之由見于奥書矣家傳之／本紛失仍拭老眼染禿筆令書寫始後日比者乎／正三位清原朝臣枝賢（法名道白）」と奥書あるものの寫　九一四・三―イ五）

○

土左日記　寫一冊　二九七七

紀貫之著　袋綴　薄紙粉色表紙　二二・五糎一六糎　四周雙邊一八・五糎一二糎　十行小雙行藍罫紙　五十丁　題簽左肩書名同　柱刻「元木氏」、「桃園文庫（紙票）」

奥書　此一冊者荻軒老人の挍合せる本をもて写しとゝめぬる／つゐてに妙壽院抄拾穗抄世間板行之素本の三部にて／挍合之見得るにまかすのミ寛政あらたなる夏の比より／折〳〵ことに筆をとり同又の初はる十日あまり四日と／いふあしたはかりになりぬ（下略）

（頭注を施す　朱書校合書入多し　九一四・三―イ）

土佐日記　寫　一冊　二九七

紀貫之著　袋綴　改装後補青布目表紙　原装共表紙　二四糎一七・五糎　十二行　二十五丁　題簽左肩後補「土左日記　桃園文庫本」　原外題左肩「（書名同）全」

内題なし、「桃園文庫（紙票）」

（江戸時代中期寫　朱書校合注記を施す　九一四・三―イ七）

土佐日記　一冊　二九七九

紀貫之著　袋綴　菊小文摺出紺表紙　二七・五糎一九糎　四周單邊二一・五糎一六糎　十行　三十丁　内題なし　柱刻「土佐（丁數）」、「桃園文庫（紙票）」

刊記　萬治三庚子（寺町通圓福寺前町）初春吉祥日／秋田屋平左衛門板行

識語（裏見返紙褁）　明和八年卯神無月廿五日草字了　魚彦　／安永五年申正月廿一日魚彦本モテ注昼入スル也　道麿　／同三月十九日道守之本モテ注解昼入鮎滿　／同七月廿五日鮎滿本モテ注昼同道守之本モテ挍（同字以下八字見せ消）　王左年／同八月廿五日王社年（此三字見せ消）早稻本モテ注昼入同九月四日道守之本モテ王社年同校

（朱墨校合書入多し　九一四・三―イ九）

土佐日記　寫　一冊　二八〇

紀貫之著　袋綴　白表紙　二六糎一九・五糎　十二行　十八丁　外題左肩書名同

内題なし、「桃園文庫（紙票）」

奥書　（裏見返）（朱書）　此本妙壽院本也（北村季吟抄参照）　中略／明治三十三季四月九日寫早

（片假名交り　原に「土左日記以貫之自筆本（故將軍御物希代之寶貴也今度密々自小河御所申出之）／依或人數奇深切所望書之古代假字猶蝌蚪未愚／臨寫有魚魯乎後見輩密ゝ而已／明應壬子仲秋候　亞槐藤臣判」と奥書あるものの寫　九一四・三―イ一一）

土佐日記　寫　一冊　二八一

紀貫之著　袋假綴　白表紙　用紙薄樣　二〇糎一五・五糎　十行　二十八丁（表紙共）　外題左肩後筆「土左日記古文　大國館（印）」　柱心「（丁數）」、「桃園文庫（紙票）」

（江戸時代中期寫　九一四・三―イ一七）

土佐日記　寫　一冊　二八二

紀貫之著　袋綴　改装後補雲母引白表紙　一四糎二〇糎　十二行　三十九丁　外題左肩後筆書名同　内題なし、「桃園文庫（紙票）」

（江戸時代初期寫　片假名交り　第一丁闕　原に「土左日記以貫之自筆本故／將軍御物希代之靈寶也今度／密ゝ自小川御所申出之」「依或人數寄深切所望書之／古代假名字猶蝌蚪未愚／覧寫有魚魯乎／後見輩／密之而已／明應壬子仲秋候　亞槐藤臣判」次に「延長八年云ゝ」の勘物ありて「右妙壽院以自筆本一字／不違朱句切假名一字不違書寫早」と奥書あるものの寫　巻末に「夕顔巻」「源氏物語因縁」を附録す　池田龜鑑著「古典の批判的處置に關する研究第一部」―參照　九一四・三―イ九）

土佐日記　寫　一冊　二八二

紀貫之著　袋綴　澁刷毛目表紙　二六・五糎二〇糎　十三行　十八丁　題簽左肩後補「日記おとこもすと云ふ日記」　内題なし、「桃園文庫（紙票）」

奥書　文久二季　十二月朔日寫畢る／主人　川崎氏（花押）

（九一四・三―イ二）

土佐日記　寫　一冊　二八四

紀貫之著　袋綴　砥粉色表紙　二四糎一六・五糎　十三行頭注細字二十六行　三十丁　題簽左肩藍墨流「（書名同）全」、「桃園文庫（紙票）」

（江戸時代中期寫　原に「京極黄門奥書／文暦二年乙未五月十三日乙巳老病中雖二眼如レ盲不レ慮之／外見紀氏自筆本蓮花院宝藏本料紙白紙不レ打無レ墺高一／尺一寸三分計廣一尺七寸二分計紙也廿六枚無レ軸表／紙續白紙一枚端聊折返不立竹無レ軸有外題土左日記貫之筆／其書様和歌非列行定行書之聊有闕字歌下無闕／字而書後詞不堪感興自書寫之昨今二ヶ日終功桑門明静紀氏延長八年任土左守在國載五年六年／之由承平四甲午五乙未歴三百一年紙不朽損其字又／鮮明也　不讀得所々多只任本書也有朱印」と奥書あるものの寫　頭注多し　九二四・三―イ二五）

土佐日記　寫　一冊　二九八五

紀貫之著　袋綴　澁刷毛目表紙　二三・五糎　七糎　九行頭注細字　四十丁　外題左肩書名同　内題なし、「村瀬藏書」「桃園文庫（紙票）」

奥書　嘉永三庚戌年きさらき六十翁貢茶園

（原に「京極黄門奥書／文暦二年乙未五月十三日乙巳老病中雖二眼如レ盲／不慮之外見二紀氏自筆本一蓮花院寶藏ノ本／料紙白紙不レ打無レ墺高一尺一寸三分計廣一尺七寸／計紙也廿六枚無レ軸表紙續二白紙一枚端聊折返不レ立竹無レ軸／有二外題一土左日記貫之筆其書様和哥非二列行一定行書之聊有二闕字一哥下無二闕字一而書二後詞一不レ堪二感興一自書二寫之一昨今二ヶ日終レ功　桑門明静／紀氏／延長八年任二土左守一在國載二五年六年之由一／承平四甲午五乙未歴二三百一年一紙不レ朽一損其／字又鮮明也／不二讀得一所ニ多只任二本書一也有朱印」と奥書あるものの寫　九二四・三―イ二七）

土佐日記參釋　寫　一冊　二九八六

藤原顯道筆　袋假綴　共包表紙　二五糎一七・五糎　十行　十四丁　外題中央「土佐日記參釋抄　秘」、「桃園文庫（紙票）」

奥書　明治三十五年十月二日冷泉家の本をかり得て／うつし畢尤短文の所は直ニ本年に書入／「」（朱書）の印は本文をあく○（朱書）に一二三の番を附したるは註／釋にて一日毎に一二三のしるしあり是ハ本文ニ／ひき合はすの便りにかくなむ　藤顯道

（内題の下に「本文ノ挍合ハ考證本拠ル但尽クハ擧ケズ分／註旁註頭註ヲ參釋トス」とあり　九二四・三―イ三）

土佐日記抄　二巻　合一冊　二九八七

北村季吟著　万治四年二月十六日自跋　袋綴　紺表紙　二六糎一八・五糎　四周單邊二一糎一五・五糎　十一行　八十七丁　題簽左肩書名同　柱刻「土左　上（下）（丁數）」、「香雪氏印」「桃園文庫（紙票）」等

刊記　寛文元年八月吉日／御書物屋　出雲寺和泉掾

識語　以万治三庚子春所梓本一挍了　享和二壬戌仲秋二日　濱直

文化二乙丑冬十月晦再挍　註縣居翁及諸賢説／聊附僻案了

（朱書校合書入多し　巻初に「○此しるしあるハ皆縣居の説也余ハ皆をしるせり」とあり　九二四・三―イ一五）

土佐日記註　寫　二冊　二九八八

加藤宇萬伎著　自序　袋綴　水色布目表紙　二六糎一八糎　九行小雙行　外題左肩後筆「土佐日記　壹（貳）」　内題「土左日記」、「桃園文庫（紙票）」

（江戸時代末期寫　「師説」「大人云」等朱書頭注書入多し　原に「明和五のとしふミ月廿日に書はてぬ／このふミの注かゝむと三とせ四とせのさき／おもひたちけるにいとゝりミたりし事／とも打つゝきてえなんそのことにお／よはさりけるをことしミやこに來て／大城守るいとま西の小屋にしてふて／をおこしやかておハりぬなをかうかへ／あきらめつへし　ふちはらの宇萬伎」と奥書あるものの寫　九二四・三―イ三三）

○

和泉式部物語　寫　一冊　二九八九

和泉式部著　袋綴　樹花模様薄鼠色表紙　用紙鳥の子　二六・五糎二一・五糎　八行　八十四丁　題簽中央後筆書名同　内題なし、「日野庫」「黒川眞道藏書」「小田」等

識語　（朱書）以扶桑拾葉集本加一挍了／明治十四年五月十二日夜　小田清雄

（表紙朱書）小田清雄書入校

（寛元本　江戸時代初期寫、原に「書本云存生之時不見此草子没後所見及也／老病之後狂事欤以養子之禅尼令／書云文章詞躰不尋常雖恥披露／暫不破却／前戸部以自筆如此所被書也／寛元第四五月十二依大理典侍御命書寫了」と奥書あるもの

の寫　小田清雄筆朱校合書入　青山學院女子短期大學紀要第二輯所収川瀬一馬「和泉式部日記は藤原俊成の作」・川瀬一馬著講談社國文註釋叢書所収「和泉式部日記」—參照　九二四・三四—イ三）

○

更級日記標注　寫　一冊　二九二〇

小山田與清著　自筆　袋綴　改裝後補松竹梅押文繧色表紙　原裝共表紙　間紙を挾む　二四糎一五・五糎　八行　四十丁　題簽左肩紅紙後補（刊）「小山田與清遺稿（自筆本）更科日記標註」　原外題後筆「更級日記標注（故翁自筆ノ稿）（此六字朱書）　与清稿本」、「荒川信賢」（朱墨書入多し　内題次行に「高田與清撰」と自署　九二四・三六—イ一）

○

方丈記　寫　一冊　二九二一

鴨長明著　建暦二年彌生晦日自奥　綴葉裝　金泥櫻小文散墨流表紙　用紙具引色替紙　二三糎一七・五糎　十一行　二十二丁　題簽左肩闕　内題なし（江戸時代初期寫　九二四・四一—イ三）

方丈記　寫　一冊　二九二二

鴨長明著　建暦二年彌生晦日自奥　綴葉裝　千鳥織文藍納戸色表紙　見返金銀切箔散　用紙鳥の子　二四糎一七糎　八行　二十八丁白紙二丁　内題「鴨長明方丈記」（室町時代末期寫　「鴨長明方丈記」／近衛殿龍山様」との古筆琴山極札を貼附す　九二四・四一—イ五）

方丈記　一冊　二九二三

鴨長明著　建暦二年彌生晦日自奥　綴葉裝　雲母引菱目垣華文薄水色表紙　見返紅葉流雲母模様　用紙各種雲母模様入具引紙　二六糎一八糎　九行　三十丁　外題左肩後筆「長明方丈記」　内題なし（光悦本　第一種本　九二四・四一—イ七）

○

十六夜日記　寫　一冊　二九二四

阿佛尼著　袋綴　紺表紙　二四糎一七糎　十行　三十七丁白紙一丁　題簽左肩菊唐草雲母模様後筆書名同　内題なし、「殘花書屋」識語（見返紙筆）　平瀬本（子種文庫藏墨附三十七丁）（江戸時代初期寫　原に「本云／永仁六年三月一日書之」と奥書あるものの寫　九二四・四四—イ五）

○

つれ〳〵　寫　二冊　二九二五

卜部兼好著　綴葉裝　金切箔散金泥下畫紺表紙　見返金紙　用紙具引紙　二四・五糎一七糎　九行　題簽左肩金泥下畫「（書名同）上（下）」　内題なし（江戸時代初期寫　箱書「一　徒然草　本文光悦書／外題爲和卿書」とあり　九二四・五—イ七）

つれ〳〵くさ　寫　二冊　二九二六

卜部兼好著　長清院松巖筆　袋綴　菊丸唐草模様薄水色表紙　用紙薄様　二三糎一七糎　九行　題簽左肩金泥下畫丹紙「（書名同）上（下）」　内題なし、「松壽館圖書記」「西荘文庫（小津桂窓筆「花三十一ヲニ」と墨書せる紙箋に捺印）」奥書　于時寛文四甲辰年仲秋　長清院　五十三才書之（以下「長清院」右側別筆）船橋殿國賢卿男／秀賢卿息女　松巖

識語　相庵所持（朱）寛文四甲辰年至天保二辛卯年百六十八年／源壽綱所持（朱書入多し　九二四・五—イ九）

徒然草上卷　一冊　闕　二九七

卜部兼好著　袋綴　毘沙門格子牡丹唐草模様緑紺行成表紙　用紙雲母刷下畫　二七糎二〇・五糎　十行　九十五丁　題簽左肩雙邊(刊)藍麻葉模様後補墨「つれ〳〵文章　上」　内題なし

(光悦本　第二種本　巻初扉紙裏墨「貳冊之内」とあり　朱青墨書入多し

九一四・五―イ一一)

○

磯つたひ　寫　一冊　二九八

只野眞葛女著　〔瀧澤馬琴〕筆　文政はしめのとし葉月五十六才自奥　袋綴　水色布目表紙　用紙裏打　二六糎一八・五糎　十一行　十四丁　題簽左肩瀧澤馬琴筆書名同　内題なし

(原に「是書仙臺工藤氏眞葛老媼所著其女弟栲尼謄寫／以視余因請留之于架上文政三年孟春　江戸瀧澤解」と奥書あるものの寫　巻末「わにのあけつらひ」二丁を附録す　題簽左肩小津桂窓筆朱書「二百三十一」　九一四・六―イ四三)

乙夜隨筆　寫　一冊　二九九

靈元天皇御撰　宸筆　袋綴　薄茶色表紙　用紙薄様　一九・五糎一四糎　八行八十五丁　外題左肩自筆書名同　内題なし

箱書　(表)靈元天皇宸翰　乙夜隨筆

(同裏)(右同筆)大正七年十月譲／佐佐木博士　大口鯛二(印)

(佐佐木信綱編複製本―参照　九一四・六―イ五一)(重美)

學鵜漫筆卷八　寫　一冊　三〇〇

本間游清述　横山由清筆　袋綴　改装後補澁刷毛目表紙　用紙裏打　二四・五糎一六・五糎　十行　四十三丁　外題左肩清野謙次筆「學鵜漫筆横山由清自筆寫本」尾題「塵褻　八巻終」、「月の屋」「清野文庫(紙票)」

奥書　弘化四年五月十九日書寫終業／横山由清(印)

(内題の次行に「九江陳人游清述」とあり　九一四・六―イ五五)

詞林意行集　六巻　八冊　三〇〇一

宮川一翠子編　元祿己巳仲秋桂盈後二日恭齋序　元祿二年重陽日自序　袋綴　茶色表紙　二一・五糎一六糎　九行　題簽左肩雙邊「(書名同)一(―六末)」　柱刻(巻一)「意行集後序・詞林序(目録)　都のつと」　(巻二以下)「詞林巻二(―巻六)(丁數)」、「水音舎(墨印)」「高木家藏」

刊記　元祿三年庚午初春涓吉／書林／錢屋七郎兵衛／山形三郎右衛門／梓行

(九一四・六―イ四五)

壬戌羈旅漫録　二巻　合一冊　三〇〇二

瀧澤馬琴著　自筆　自畫　自序　澁刷毛目表紙　二三・五糎一六・五糎　九行小雙行　題簽左肩單邊小津桂窓筆「享和壬戌著作堂羈旅漫録　全」　目録題「著作堂羈旅漫録」、「曲亭文庫(紙票)」「西荘文庫(小津桂窓筆「花百七全二」と墨書せる紙箋に捺印)」

奥書　(本文末)享和二壬戌年八日廿四日筆／同十一月朔日挍合早／曲亭瀧澤解

戲記

(扉見)(返朱書)再考標書するものハ△印○印をあハして／よみつぐべし

(巻末附録)享和二壬戌年十一月□一日／著作堂馬琴再識

かうやうにたハけき物を書とむる事／比是としわかきときのあやまち／にしてさらに〳〵きのふの非を／しるに足れり引さき捨んとおもひつゝ／又おもふやう人孰か生れなからにして／賢なるへきこをしもしはし／殘しとゝめてみつからの誡とせば亦復／わかきもの共のあやまちをふたゝび／せしとおもふよすかにやなりぬらん／此一書をもて余か行ざまの／可否を論するものは余をしる／ものにあらすあなかしこ／壬申春日　曲亭主人書

(表紙右肩に小津桂窓筆「百五十一」左下に同朱書「ね」　九一四・六―イ三九)

東行話説　寫　一冊　三〇〇三

土御門泰邦著　小林歌城自筆評　袋綴　青布目表紙　二七・五糎一九糎　十行

七十四丁　白紙三丁　外題左肩「（書名同）　全」　内題「寶歷十年庚戌正月／（書名同）」「歌城」「布治波良乃毛等袁宇多岐尓乎佐牟留布美良乃之留志（墨印）」「紫景文庫」等

識語　（小林歌城筆朱書）　天保癸卯淡暑新秋月出夜静微風時到／独坐蕭然挑燈讀此是吾得意之書也因而／漫録批語以資観者一笑　歌城（印）

（同藍書）邦公の此日記書れたるハ宝暦庚戌の年なれハ嘉永四年よりハ八／十餘年のむかし也當時ハ鬼外京傳の徒もあらすたゝ西鶴自笑か輩／の戯作のミにて他にかゝる骨稽を云人なしさるを繙紳家ニして下／さまの事までもよくしりて洒落ちらかされたるこれ一九か膝栗毛の嚆／矢と云へしされと今よりハ物事野暮なる世なれハ口拍手よく穴を穿／て他の耳目を驚かすニ到らす今ニくらへてハ口不調ニ見ゆる處多かれと／そハ此公の意匠の不足ニハあらす見ん事其意すへし此頃秋暑に苦し／ミてましめなる書ハよミかたきに折よく一本を得たれハ挍合すとて序ニ／傍ニムタ書をなしつる也なほ誤とおほしき處ニありもし後日／善本を得ハ亦復改正すへし／嘉永四年七月　歌城居士

（扉）（紙袋別筆）東行話説者上土御門治部卿安部泰邦卿／関東下行日記之戯作也小林歌城以朱／藍二墨戯加批評是即自筆家藏之書／也奇珎

（同別筆）泰福末子陰陽頭正二位天文博士／天明四年五月九日薨七十四

（同歌城筆）處ゝ墨ニて傍書ナセルハ友人三千丈也

（内題の下に歌城筆朱書「土御門治部卿泰邦卿作」とあり　朱藍墨書入多し、表紙右肩朱書「歌城先生批評自筆」とあり　原に「右東行之説話者則作者以恩借眞蹟而寫之／寶歷十一巳正月　巖　景雲」「此一巻以東武芝宮街保正何某之秘冊寫之畢／明和二酉六月　王喜舍」「右土御門殿安部泰邦東行説話借鈔于平賀鳩溪家／時安永七年暮春廿三日　南畝書」「請得桂川國瑞藏書傭寫以爲家珎／文化改元初秋中三日　諏訪源頼篤」と奥書あるものの寫　九二四・六―イ六）

兎園小説　本集十二巻七冊　外集二巻一冊　別集三巻三冊　拾遺二巻二冊　餘録二巻一冊　計十四冊　三〇〇函

瀧澤馬琴編　自筆（間々出會者自筆稿をそのまま綴込む）　袋綴　澁刷毛目表紙　二三・五糎一七糎　十行小雙行　題簽左肩雙邊（刊）自筆「（書名同）　壹弐（三之四・五之六・七之八・九之十・十一・十二　外集上下・十三）」「兎園別集　上十四（中十五・下十六）」「兎園小説拾遺　十七（十八）」「兎園小説餘録　十九廿」（別集三冊のみ別に雙邊（刊）副題簽ありて所収目次を書す）　目録題「（書名同）第一集（―第十二集）」「兎園外集第一（第二）」「兎園別集上巻（―下巻）」「兎園小説拾遺第一（第二）」「兎園小説餘録第一巻」（第二巻目録なし）、「瀧澤文庫」「西荘文庫（小津桂窓筆百十三（全十四）」と墨書せる紙箋に捺印）」

奥書　（第一冊）予か藏弃せるこの壹弐の合巻一冊いぬる壬辰の冬十二月より／こゝとし癸巳の春夏の間にや紛失したりさりとは思ひかけすしてふ月なか／はに所要ありてとりいたさんとしつる折あらすなりしに心つきて家の内いへハ／さらにもなほあちこちとあさりしかとも終に是あることなし予ハ書を愛／すること大かたならねは貸進の折なとにはそを必しるしつけて等閑に／せさりしに此ひとまきのうせたるハあやしきまてにおもふものからせんすへも／なかりしをいぬるとし黙老翁にこの書をかしてかしこにて寫しとゝめられし／かはそを又こゝへ借りよして謄寫すること四日はかりやゝ足らさるを／補ひ得たり時に／天保四年秋七月二十八日　著作堂主人識

再云　この一二の巻のうせし／を甲午の春／ゆくりなく見いた／したれと前木ハ／寫し宜しからさるも／これハこれをもて／正本とすこの書／知音の友一両／人の外ハ見ることを／ゆるさすまいて／謄寫をゆる／せしハ二友／のミなりき

（第一冊本集總目録の條に「第一集　文政八年乙酉春正月／十四日於海棠庵發會、第二集　乙酉春二月八日／於海棠庵集會、第三集　乙酉春三月朔／於著作堂集會、第四集　乙酉夏四月朔／於海棠庵集會、第五集　乙酉夏五月朔／於好問堂集會、第六集　乙酉夏六月十三日／於輪池堂集會、第七集　乙酉秋七月朔／於文宝堂集會、第八集　乙酉秋八月朔／於海棠庵集會、第九集　乙酉秋九月／於乾齋集會、第十集　乙酉冬十月朔／於輪池堂集會、第十一集　乙酉冬十月廿三日／於海棠庵集會、第十二集　乙酉冬十二月朔／於著作堂集會」とありて各集巻頭の目録末に略々同文あり　箱書に表「曲亭馬琴秘本／兎園小説全拾四冊」と書し「西荘小津圖書之記（紙票）」の印記を貼附す　同裏に「三重縣飯南郡／松江村／西荘文庫／小津氏藏（印）」とあり　九二四・六―イ四一）

中川の記　寫　一軸　三〇〇函

下河邊長流著　自筆　巻子本　唐草模様織文納戸色表紙　見返唐草文布目金紙　用紙鳥の子　裏打金銀切箔散　二九糎一米四〇糎　内題なし、「西荘小津氏藏冨之

記（箱紙票）」
奥書　寛文四年八月廿日　長流子
（下河邊長流全集下巻―参照　九一四・六―イ五九）

筆のまゝ　寫　十三冊　二〇〇六

伴直方編　自筆　袋綴　澁刷毛目青墨流等各種表紙　二三至二四糎一五至一六・五糎　約十一行　題簽左肩各色紙書名同　外題左肩書名同（第一・九冊闕）　内題なし、「清野文庫（紙票）」
識語　（帙裏）（清野謙次筆）　國學者歌人たる伴直方自筆、文政十三年の比
（諸家の歌稿歌集隨筆を抜抄　九一四・六―イ五三）

松平康定主の萬葉集八重疊の序　寫　一軸　二〇〇七

本居宣長著　自筆　巻子本　改装後補牡丹橘花紋紅金襴表紙　見返金紙　金砂子散臺紙に貼附　一八・五糎八五糎　原寸一五・五糎五六・五糎　題簽後補金紙「鈴屋翁墨蹟」、「[illegible]園文庫（紙票）」
奥書　寛政の八とせといふ年の八月の末／いせ人　本居宣長
（九一四・六―イ四九）

眞淵家集　（二〇〇八―二〇一〇）

（九一四・六―イ五七）
所収細目次の如し

*眞淵家集　寫（第一冊）　二〇〇八

賀茂眞淵著　自筆　袋綴　澁刷毛目表紙　二四・五糎一七糎　九行罫紙　二十二丁　題簽左肩青紙「（書名同）」中央墨書「眞淵文案初に雜誌あり」　同右「五」　見返青紙箋「眞淵雜録（「雜録」二字を見せ消してその左右に）（右）「文稿」と書きて見せ消す（左）文案」　内題なし　柱刻「倉　生白堂」、「眞淵（緑印）」
（下）衣服　家居　車馬　人名（せ消す）（此八字見）
（國語と國文學第二十三巻第八號所収佐佐木信綱「眞淵家集の第五巻」―参照）

*鎌倉右大臣集をよみていへる　寫（第二冊）　二〇〇九

賀茂眞淵著　自筆　袋綴　黄茶色表紙　間紙を挟む　二三・五糎一七糎　十行罫紙　五丁　外題左肩書名同　内題「鎌倉右大臣集をよみて加茂眞淵のいへる」、「滋岡庫」

*金槐和歌集　三巻（第三冊）　二〇一〇

源實朝著　袋綴　青表紙　二二・五糎一六糎　四周單邊一八糎一四糎　十一行　五十六丁　題簽左肩單邊「鎌倉右大臣家集全（上とあるを消して墨書）」　春夏（此四字墨書し）　秋冬（て更に朱抹消）
柱刻「右上（―下）（丁數）」、「弄華園藏」
刊記　貞享四丁卯歳仲夏上浣／北村四郎兵衛板行
識語　（朱）右ハ加茂のうしの考也狛の諸成ぬしのもたまへるをかいくハへ／天明むつのとしふみ月もちの日ニ／なんまさやす
（同）文化七年四月廿四日挍正／おなしとしの秋の末にふたゝひ考／歌城
安政六年霜日もちの日挍讀一過／弄花園
（巻初に「宝暦五のとしやよひ加茂眞淵しるしぬ」として三葉の記事あり　朱書校合頭注を施す）

「大和山城行記」　寫　一軸　二〇一一

樂祐志吹著　自筆　巻子本　菊花唐草模様茶色金襴表紙　見返金切箔散　二八・五糎九米六糎　一紙三七糎　約十五行　内題なし、「江北舎」
奥書　元祿九丙子歳季冬日書之早　樂祐志吹法師（花押）
（九一四・六―イ四七）

○

風盡し・恐れ入谷　寫　一帖　二〇一三

尾崎紅葉著　自筆　折本　改装花散唐草織文木賊色布表紙　二七・五糎一九糎
原寸二四・五糎一六・五糎の十行二十字詰青磁色原稿用紙を表裏に臺貼　七折　題

簽中央金砂子散後補無記　内題なし、「十千萬堂」「紅葉散人」「五車書」等識語　（扉紙墨）二編共紅葉遺文集に掲けあり／恐れ入谷　五六頁／風尽し　七一頁
（九一四・七―イ七）

青年の讀物　寫　一軸　三〇一三

幸田露伴著　自筆　巻子本　改裝後補桔梗唐草織文鼠色表紙　臺貼　三〇糎二米七〇糎　一紙原寸二五糎三四糎　十行二十四字詰「青年界」緑色原稿用紙　題簽後補金砂子散「（書名同）幸田露伴翁草稿」
奥書　（朱書）加筆差出候御落手／被下度候／小笠原君　幸田
（内題の次行に「幸田露伴君」とあり　朱書訂補す　巻初に金港堂青年界係宛「明治三十六年十月廿日午后一時」附高濱清の封筒を貼附す　九一四・七―イ二）

象　寫　一冊　三〇一四

寺田寅彦著　自筆　ペン書　袋綴　改裝後補茶色表紙　間紙を挟む　二六糎一八糎　十二行二十五字詰「松屋製」青色原稿用紙　六丁　題簽左肩茶色紙無記
（内題の下に「吉村冬彦」と自署　巻末に「一二、一二、二〇」と成稿日を記す　女性改造大正十三年二月號「ストーブ雜話」中「解かれた象」として所載の原稿
九一四・七―イ九）

當流人名辭書　寫　一冊　三〇一五

幸田露伴著　自筆　袋綴　改裝後補青布目表紙　二三・五糎一六糎　四周單邊一九・五糎一三糎　十行二十字詰原稿用紙　十五丁　題簽左肩雙邊（刊）後補「露伴原稿　人名辭書　拾五張」　内題なし
奥書　報知は安全に予が手許に到達せんため／春（安全至春十五字見せ消す）本誌發行所春陽堂
内神谷鶴伴宛に／差出し玉ハんことを望む。六月十日露伴識
（新小説明治三十三年七月號原稿　巻初一丁闕〔三助〕の條より「おかめ」を存す　九一四・七―イ五）

菜の花　寫　一冊　三〇一六

長塚節著　自筆　袋綴　後補白厚紙包表紙　二五糎一七糎　十一行　十九丁
（内題の次行に「節」と自署　ホトトギス明治四十二年八月號原稿
九一四・七―イ五）

賤せ孝行を褒賞した話　寫　一冊　三〇一七

南方熊楠著　自筆　袋綴　改裝後補鐵色表紙　間紙を挟む　二五糎一七糎　二十行二十四字詰原稿用紙　二十一丁　題簽左肩金砂子散後補「（書名同）南方翁草稿」
（内題の右に「『旅と傳説』雜誌原稿」下に「和歌山縣田辺町中屋敷町三六／南方熊楠」と自署す　旅と傳説昭和十三年五月號原稿　九一四・七―イ三）

書翰文

芥川龍之介書翰集　寫　八通　三軸　三〇一八

芥川龍之介著　江口渙宛　自筆　巻子本　改裝後補鶯茶色絹表紙　見返白灰色紙臺貼　二五糎　題簽金砂子散「芥川龍之介書翰　一（二・三）」
（九一六―イ七）所収次の如し
第一巻　二通
大正六年一月二日
（封筒表書「下谷尾谷中清水／町一　江口渙樣」同裏書「田端四三五／芥川龍之介／一月二日」）
大正六年三月九日
（封筒表書同上　同裏書「鎌倉海岸通野間方／芥川龍之介／三月八日」）
第二巻　三通
大正六年六月十日
（封筒表書同上　同裏書「かまくら（以下同上）／六月十日」）
大正六年六月十六日
（封筒表書「東京市下谷尾谷／中清水町一江口樣方／江口渙佐藤春夫樣」同裏書「六月十六日／芥川龍之介」）
大正六年七月廿五日
（封筒表書「下谷尾谷中清／水町一／江口渙君」同表書「田端四三五／芥川龍

之介／七月廿五日」）
第三卷　三通
大正八年四月十五日
（封筒表書「下谷尾谷中清水町／一番地／江口渙君」同裏書「田端四三五／芥川龍之介／四月十五日」）
大正八年六月卅日
（封筒表書「東京市下谷尾／谷中清水町一／江口渙樣」同裏書「七月一日／芥川龍之介」（切手消印「8.7.3」）
大正九年一月十九日
（封筒表書「下谷尾上野／櫻木町十七／江口渙樣」同裏書「田端四三五／芥川龍之介／一月十九日」）

國木田獨歩書翰　寫　一通　一軸　三〇一六

國木田獨歩著　中桐確太郎宛　自筆　卷子本　改裝後補唐草模樣納戸色布表紙　見返金砂子散　用紙紅紙　臺貼　二三・五糎二米八七糎　原寸一七糎一米六五糎
題簽後補金砂子散「國木田獨歩書翰」
宛書　八月三日　國木田生／中桐確堂兄尊下
（卷首に明治廿六年八月三日消印封筒貼附す　封筒表書「福嶌縣福嶋町字杉妻／中桐確太郎樣／御親展」同裏書「東京麹町區五番町／十八番地　堀方／國木田哲夫／八月三日」　九二六―一三）

山東京傳書翰集　寫　七通　一軸　三〇一〇

山東京傳著　自筆　卷子本　改裝後補唐草模樣海松茶色表紙　見返金砂子散　臺貼　二四糎五米五三糎　原寸一六糎三米九五糎　題簽後補「山東京傳書翰　自筆七　文化五　戊辰年　通一卷」「龜澤文庫」
（九二六―二五）　所收次の如し
一　日附なし　（卷初に「伏答　京傳」とありて別筆朱書「文化戊辰仲夏二十九日之返簡」とあり）
二　閏六月十九日附　（卷初に「伏答　京傳」とあり）
三　五月廿九日附斷簡
四　六月八日附　（卷初に「伏答　田藏」とあり）
五　七月五日附　（卷初に「恭答　京傳」とあり）
六　七月廿六日附（卷初に「恭答　京傳」とあり）
七　九月十八日附（卷初に「恭答／黃昏頃ニテ／亂書失敬御恕免／被遊可被下候／田臧」とあり）

逍遙先生書翰集　寫　四通　一軸　三〇一一

坪内逍遙著　水谷不倒宛　自筆　卷子本　改裝後補花鳥織文薄水色表紙　見返金紙　臺貼　二二糎五米六五糎　原寸一八・五糎　題簽金切箔散書名同
（九二六―一九）
所收の如し
一　明治三十六年　二月廿八日（不倒筆裏書）明治卅六年二月廿八日／大阪東區大川町／大阪每日新聞社ニテ拙者宛
二　明治三十八年七月三十日　（不倒筆裏書）三十八年七月三十日（以上朱書）
　大阪市西區靱上通丁廿四宛
三　明治三十八年八月廿五日　（不倒筆裏書）明治三十八年八月廿五日　大阪靱上通宛
四　明治三十八年十月八日　（不倒筆裏書朱書）三十八年十月八日

高野辰之書翰集　寫　三十通　三〇一三

高野辰之著　忍頂寺務宛　自筆　封書
（發信所「東京代々木中山谷一六七」宛所「神戸市上筒井通七ノ九〇」　九二六―一七）
所收次の如し
一　大正十五年二月二十八日　二　昭和三年四月十六日
三　昭和三年四月二十三日　四　昭和三年四月二十七日
五　昭和三年五月十二日　六　昭和三年五月十八日
七　昭和三年五月三十一日　八　昭和三年六月二十六日
九　昭和三年七月十五日　十　昭和三年八月二十八日
十一　昭和三年九月十七日　十二　昭和三年十一月九日
十三　昭和三年十一月十三日　十四　昭和三年十一月十八日

十五　昭和四年六月二十五日　十六　昭和四年六月三十日
十七　昭和四年八月十六日　十八　昭和四年八月十九日
十九　昭和四年八月三十一日　廿十　昭和四年九月十日
廿一　昭和五年二月二十三日　廿二　昭和五年五月二十三日
廿三　昭和六年二月二十二日　廿四　昭和六年二月二十七日
廿五　昭和六年九月十三日　廿六　昭和七年五月十九日
廿七　昭和七年九月十二日　廿八　昭和七年九月十七日
廿九　昭和七年九月二十三日　三十　昭和七年十二月二十一日

徳冨蘆花書翰集　寫　十三通　一軸　三〇三

徳冨蘆花著　福永一良宛　自筆　巻子本　改裝後補唐草模様織文白茶色表紙　見返金砂子散　臺貼　二六・五糎一五米二五糎　用紙各種　題簽金紙無記
（各封筒十三通を併せ貼附す　發信所「東京府北多摩郡千歳村粕谷」宛所「東京市外大井町五〇八三」　九六―イ三）所収次の如し

一　大正十二年正月十三日朝　二　同年正月廿一日朝
三　同年三月廿二日前十時　四　同年四月廿四日午后四時
五　同年五月十二日后五時　六　同年五月十八日午后三時
七　同年八月七日后五時十分　八　同年八月十四日后五時
九　同年八月廿五日后四時　十　同年九月廿日朝
十一　同年九月廿四日朝　十二　同年九月廿七日朝九時半
十三　同年十二月三日

夏目漱石書翰　寫　一通　一軸　三〇四

夏目漱石著　正岡子規宛　自筆　巻子本　改裝後補代赭色龍畫黄表紙　二九・五糎四米四〇糎　原寸二四・五糎三三糎の半紙十枚を臺貼　題簽後補金砂子散「夏目漱石自筆書簡　正岡子規宛極長文」
宛書　十一月七日／金之助拜／常規殿
（巻首に明治二十四年十一月七日消印封筒を貼附す　封筒表書「本郷眞砂町／常磐會寄宿にて／正岡常規殿御親披」同裏書「十一月七日／夏目金之助」　昭和三十二年岩波新書版漱石全集十參照　九六―イ三）

三田村鳶魚書翰集　寫　四十通　三〇五

三田村鳶魚著　忍頂寺務宛　自筆　封書
（發信所「東京市中野區文園町二六」宛先一至十七「神戸市上筒井通七ノ九十」十八至廿四「牛込市谷本村町三十五」廿十五以降「神戸市灘區篠原南町三ノ四七五」　九六―イ五）所収次の如し

一　大正十四年一月二十一日　二　大正十四年一月二十七日
三　昭和三年三月十一日　四　昭和三年四月二十二日
五　昭和三年五月十日　六　昭和三年五月二十四日
七　昭和三年五月二十九日
八　昭和三年五月三十日（同五月二十九日附鳶魚宛湯淺竹山人狀を同封）
九　昭和四年九月二十七日　十　昭和三年十一月七日
十一　昭和五年二月二十三日　十二　昭和五年五月二十二日
十三　昭和六年三月十八日　十四　昭和六年八月二日
十五　昭和六年八月十二日　十六　昭和六年八月十八日
十七　昭和七年九月八日　十八　昭和十年七月十七日
十九　昭和十一年三月七日（Mr. Parlott 宛英文タイプ狀を同封）
二十　昭和十一年三月十七日
廿一　昭和十一年九月五日（九月四日附三田村宛澤田次夫狀を同封）
廿二　昭和十二年一月三十一日　廿三　昭和十二年二月十四日
廿四　昭和十二年三月十二日　廿五　昭和十二年七月十二日
廿六　昭和十二年七月十八日　廿七　昭和十二年八月一日
廿八　昭和十四年一月二十二日　廿九　昭和十四年一月二十六日
三十　昭和十四年三月十二日　卅一　昭和十四年三月十六日
卅二　昭和十四年四月十三日　卅三　昭和十四年四月十五日
卅四　昭和十四年四月二十九日　卅五　昭和十四年六月六日
卅六　昭和十四年六月二十日　卅七　昭和十四年六月二十一日
卅八　昭和十四年六月二十九日　卅九　昭和十四年七月四日
四十　昭和十四年九月十四日

童樂詩集　寫　一冊　三〇二六

一枝堂主人著　竹亭主人挍閲　旹天寶改元晩冬日烏有翁序　元文辛酉旹正月元日田友秀序　袋綴　丹表紙　二四糎一五糎　十行小雙行　十三丁　外題左肩書名同、「南畝文庫」「石塚文庫」「豊芥」「森氏」

奥書　寛保三癸亥年七月中旬書寫／山歸久

（原に「元文己未冬十二月壬辰於燈下書寫卒業／源友秀」と奥書あるものの寫表紙右に「蜀山人及豊芥子舊藏本」とあり　内題の下に「赤云詩通計六十首」次行に「一枝堂主人撰／竹亭主人挍閲」とあり　九一七・一―イ一）

武城絃歌集　寫　一冊　三〇二七

三宅順節編　延寶戊午七月數炊菴子挹序　袋假綴　共包表紙　用紙裏打　二八・五糎二〇糎　八行二段十四字　五十九丁

（内題の下に「禾水空稿」とあり　九一七・一―イ三）

○

詠百首狂謌　寫　一冊　三〇二八

〔松永貞徳〕著　袋綴　毘沙門格子牡丹唐草模様黄行成表紙　用紙薄様　二五糎一七糎　九行　十九丁白紙一丁　題簽左肩金泥下畫雲紙「百首狂哥　延陀王丸」

識語（裏見返朱書）一挍早

（表紙右肩に小津桂窓筆朱書「す百六十四」　帙に「加藤盤齋筆歟雄長老作詠百首狂哥ニ見ユル／モノ多シ」とあり　九一七・二―イ一三）

詠百首狂哥　二巻　一冊　三〇二九

雄長老著　袋綴　改裝後補栗皮色表紙　二〇糎一八・五糎　八至十行　五十二丁

柱刻「下（丁數）」

（内題の下に「雄長老作　也足軒點」とあり　巻末「柱刻下一（―二十七）」は「新撰狂哥集下巻」　九一七・二―イ四七）

大團　寫　六冊　三〇三〇

月洞軒著　自筆　袋假綴　紅葉下畫（澁刷毛目）表紙　用紙色替紙　一五・五糎一七・五糎　九至十三行　題簽中央雲紙「（書名同）一（三―六）」（巻二闕）内題なし

（九一七・二―イ二七）

狂歌烟艸百首　一冊　三〇三一

橘薫著　文政庚辰孟秋杏園序　自序　弘化三年三月三河屋弥平次跋　袋綴　砥粉色表紙　二六糎一七・五糎　四周單邊二〇糎一四糎　二段十二行　三十八丁　挿畫入　題簽左肩雙邊「烟草百首　全」　柱刻「烟百序（跋）（丁數）」、「小汀文庫」

刊記（木記朱書）三河屋／藏版記

（上段に「煙草諸國名産」を記す　内題次行に「橘薫述」とあり　九一七・二―イ九）

狂哥たび枕　二巻　二冊　三〇三二

菱川師宣畫　袋綴　砥粉色表紙　用紙裏打　二七糎一八・五糎　四周單邊二〇・五糎一六・五糎　十六字　挿畫（上巻）八頁分（下巻）九頁分　題簽中央雙邊「信武きやう哥旅枕　東海道繪入上（信武狂哥たびまくら　京都名所繪入下）」　柱刻「道記　上（下）（丁數）」、「地藏講中流通物（墨印）」「兎角菴」

刊語　中比狂詠すきし人あり世に流布してもてはやす／諸國哥枕の執行にとて江城の邊を立出九重の雲／路にのほり給ふ比こゝかしこの名所旧跡一見して哥よミ／給ふを草紙にして狂哥旅枕と題す見る人ねふりをさ／ます是を二冊にして世くなくさミにもと令板行者也

刊記　天和貳年戌初秋上旬　繪師　菱河吉兵衛／　江戸おやぢ橋本問屋　酒田屋開板

（上冊表紙右肩に小津桂窓筆朱書「二　二百廿六」　九一七・二―イ四九）

孝雄狂歌集　寫　一冊　三〇三三

孝雄著　袋綴　紺表紙　二八糎二〇糎　九行　五十八丁　題簽左肩墨流「自筆孝雄狂歌集　全」　内題なし

識語　寛政二年／甲正月吉日／二條川東／新丸太町／孫橋上ル丁東かわ／伊豫屋庄五郎

（江戸時代初期寫　表紙中央下小津桂窓筆朱書「三十一三百四十五」　九一七・二―イ三）

古今狂哥仙　二巻　二冊　三〇三四

愛香軒哦鼻子著　自序　袋綴　紺表紙　用紙裏打　二六・五糎一八糎　四周單邊　二〇・五糎一六糎　挿畫(各巻)十八頁分　題簽中央雙邊「繪入（書名同）左（右）」　内題なし

刊記　延寶七己未歳夏至吉辰日／川勝又兵衛嘉珍開板

識語　（各見返）流霞軒／一好（印）

（上巻表紙中央下に小津桂窓筆朱書「三十一三百四十六」　九一七・二―イ三九）

三十二番職人歌合繪巻　寫　一軸　三〇三五

序　巻子本　菱形繋菊花唐草織文納戸色金襴表紙　見返金紙　用紙鳥の子　三一糎二一米一二糎　彩色畫三十三面　内題なし

（模本　江戸時代初期寫　箱紙箋貼附して「画土佐光信筆書／甘露寺元長卿／職人盡／巻物二」裏書「職人盡畫土佐尽甘露寺亞相元長卿」とあり　九一七・二―二六）

新撰狂哥集　二巻　合一冊　三〇三六

雄長老著　袋綴　栗皮色表紙　二〇糎一八・五糎　八行　八十一丁　柱刻「上（下）（丁數）」、「紫景文庫」

識語　（裏見返）玄慴（墨印）

（巻末に「詠百首狂哥　雄長老作　也足軒點」二十四丁を附録す　九一七・二―イ三三）

百首狂哥　一冊　三〇三七

松永貞徳著　袋綴　牡丹唐草薄茶色行成表紙　一三・五糎二〇糎　四周單邊一二糎一九糎　十二行　十三丁　題簽左肩單邊「□百首狂哥□」　柱刻「狂哥（丁數）」、「坂東藏書」

奥書　寛永十三丙子年九月吉辰詠之

識語　（表紙右朱）（第一丁表墨書同文）山門東塔南谷　淨教房／眞如藏二百廿四悪

（九一七・二―イ二）

卜艮狂哥集　二巻　二冊　三〇三八

半井卜養著　〔菱川師宣〕畫　序　袋綴　改装後補唐草摺文小豆色表紙　間紙を挟む　天地裁斷　二二糎一五・五糎　四周單邊一七・五糎一三糎　十四行　挿畫(上巻)十二頁分　(下巻)十頁分　題簽左肩後補墨黄紙「卜養狂歌集菱川師宣畫　上(下)」　柱刻「養（下）（丁數）」、「木氏家藏」「北田紫水藏圖書之記」等

刊語　此卜養狂哥集　世間にまれなりしを／尋もとめて二冊としそれに繪を書加／令板行者也

識語　（第一冊見返）（朱書）卜養半井氏泉州堺の人なり中略此書繪入のと然らさるとの二通ある由／又卜養狂歌拾遺集といふものあるよし也／洒竹記

（九一七・二―イ一）

卜艮狂哥集　二巻　合一冊　三〇三九

半井卜養著　〔菱川師宣〕畫　序　袋綴　縹色表紙　用紙裏打　二二・五糎一六糎　四周單邊一七・五糎一三糎　十四行　挿畫(上巻)十二頁分　(下巻)十頁分　題簽中央雙邊「あ入卜養狂哥集　上（上字を胡粉で消す）」　柱刻「養（下）（丁數）」、「兎角菴」

刊語　此卜養狂哥集世間にまれなりしを／尋もとめて二冊としそれに繪を書加／令板行者也

刊記　うろこがたや　新板

（表紙左下に小津桂窓筆朱書「百三十四　け」　九一七・二―イ九）

卜養狂哥集　二巻　合一冊　三〇四〇

半井卜養著　〔菱川師宣〕畫　袋綴　改装後補毘沙門格子牡丹唐草模様縹色)行成

表紙　二七糎一九糎　四周單邊二二糎一六・五糎　十五行　挿畫(上巻)十五頁分(下巻)六頁分　三十六丁　柱刻「ほく上(下)(丁數)」、「玖侶社記」
(九一七・二―一三七)

繪本狂歌山滿多山　三巻　三冊　三〇四一

大原亭主人著　葛飾北齋畫　便々館湖鯉魚序　自跋　袋綴　花文波縞模様押文青表紙　二六糎一七糎　四周單邊二〇糎一五糎　挿畫毎頁　題簽左肩雙邊「画本狂歌山滿多山　上(中)(画本狂歌やま滿多山　下)」　第一冊見返題中央「(書名同)(右)便々大原館先生閒亭主人撰(左)北齋画　耕書堂梓」　内題なし　綴目「(丁數)」、「幸尾文庫」「兎角菴」等
(九一七・二―一四二)

六樹園飯盛の傳　寫　九巻　合一冊　闕　三〇四二

野崎左文(蟹廼屋主人)著　自筆ペン書　袋綴　彩雲模様表紙　二五糎一七糎　十行二十字詰十二行二十五字詰(又は十一行二十四字詰等)「相馬屋製」原稿用紙　八十五丁　題簽中央雙邊後筆「蟹廼屋左文自筆原稿」／(野崎城雄)／六樹園飯盛／(石川雅望)／攝津大椽／(二見金助)／千秋堂愛竹／(小本村司)」　内題「六樹園飯盛翁の家譜　六樹園飯盛の傳一(―十)」、「玖侶社記」
(巻八闕　巻末に「故攝津大椽の狂歌」三丁半、「千秋堂愛竹翁」四丁を附録す　各内題の下に「蟹廼屋主(老)人」とあり　九一七・二―一三五)

笑話・謎

あたことたんきりくつはなし　三巻　三冊　三〇四三

朝露軒露休著　自序　袋綴　縹色布目表紙　一五・五糎一一糎　四周單邊一二・五糎九・五糎　九行　挿畫(各巻)四頁分　題簽左肩雙邊「口かるあたことたんき上(下)」　「口かるあた云たん義中」　序題「あたことりくつはなし」　目録題書名同　内題上巻なし　(中巻)「あたことりくつはなし中」　(下巻)「あたことたんぎ」　柱刻「談き上(―下)(丁數)」、「平出氏書室記」

刊記　元祿十二天卯中春／吉田六兵衛板
識語　(平出龍壽筆)　天保十二年辛丑冬十一月五日一讀了　今古園主人
(第一冊表紙右肩紙箋「水二十三共三冊」　九一七・五―一三一)

輕口扇の的　五巻　合一冊　三〇四四

寶暦壬午の春並木正三序　袋綴　改装後補水色表紙　二三糎一五・五糎　四周單邊一六・五糎一三糎　九行　三十二丁　挿畫(合巻)九頁分　内題「(書名同)初巻(二巻・三巻・五巻)(かる口扇の的四巻)」　柱刻「一(―五)(丁數)」
(九一七・五―一五七)

輕口大矢數　四巻　四冊　闕　三〇四五

袋綴　砥粉色表紙　二一・五糎一五・五糎　四周單邊一五・五糎一三糎　九行　挿畫(巻二至四)各三頁分　(巻五)四頁分　題簽左肩雙邊「輕口大やかす四・輕口大矢數五)」(巻三闕)　柱刻「二(―五)(丁數)」
(巻一闕　九一七・五―一四七)

輕口臍おとり　五巻　五冊　三〇四六

都亦平著　袋綴　砥粉色表紙　二二糎一五・五糎　四周單邊一八・五糎一三・五糎　十行　挿畫(巻一・三)各二頁分　(巻二・四至五)各一頁分　題簽左肩雙邊「(さしなし)あひ香流口臍踊(かる口へそおとり一・かる口へそおとり・二(三)・かる口へそ踊四・かる口臍おとり五)」　内題「(書名同)　巻之壹(巻之四)」「輕口へそおとり巻の二(巻三・巻五)」　柱刻「へそおとり　一(輕口一)・おと二・へそおとり(おと)三・輕四・へそおとり(おと又は口)五　(丁數)」
刊記　享保十巳正月日／選者都亦平／江戸日本橋須原屋茂兵衛／川勝五良右衛門板
(九一七・五―一四三)

輕口星鐵炮　五巻　五冊　三〇四七

袋綴　改装後補毘沙門格子牡丹唐草模様青表紙　二二糎一五・五糎　四周單邊一

七・五糎一三・五糎　十行　挿畫(巻一・二)各三頁分　(巻三至五)各二頁分　柱刻「ほし一(—五)(丁數)」、「中村文庫」
刊記　正徳四年／三月吉日／万屋庄兵衛
(九一七・五—イ四一)

かるロもみぢ傘　一冊　三〇四八

袋綴　毘沙門格子菊花模様黒行成表紙　用紙裏打　一九糎一三・五糎　四周單邊　一六糎一二糎　十二行　十一丁　挿畫五頁分　題簽左肩雙邊「新板(書名同)(右)(左)」
どうけうき世はなし　きけんなをしてけらく／わらひ　(下)　横山竹　大」　目録題「もみち傘」　内題なし
(元祿期刊　九一七・五—イ三九)

きのふハけふの物語　二巻　二冊　三〇四九

袋綴　改裝後補黒茶色(下冊砥粉色布目)表紙　(上冊)二〇糎一四糎　(下冊)一八・五糎一三・五糎　四周單邊(上冊)一六糎一二糎　十八行　題簽左肩後補墨(下冊)「(書名同)下」　柱刻(上冊)「上(丁數)」　柱心(下冊)「下ノ(丁數)」、(上冊)「野邨」(下冊)「千葉文庫」「蔦直屋記」
識語　(下冊裏見返)(朱書)文政十二うしとし三月高屋種彦本／をもて書寫了
(下冊紙箋)我自刊我本巻末ニ刊半ニシテ文政うしどし／三月高屋種彦校ト奥書セシ写本ヲ得タリ／依テ後半ハソレニテ補正スト云トアリ此書ト／同一本ニアラザル乎
(下冊は影寫本　九一七・五—イ三五)

きのふハけふの物語　二巻　二冊　三〇五〇

袋綴　改裝後補栗皮色表紙　(上巻)二〇・五糎一四糎　(下巻)一九・五糎一三・五糎　四周單邊(上巻)一六・五糎一三糎　(下巻)一七糎一二糎　九行　外題左肩後筆「(書名同)乾(坤)」　柱刻「上(下)(丁數)」、「青谿書屋」
刊語　此はなしのほんハせけんにおほく候へ／とも事之外あやまり御座候ゆへに／今又あらためて令開板者也
刊記　正保四年丁亥仲春吉辰
(取合せ本　九一七・五—イ四九)

きのふハけふの物語　二巻　二冊　三〇五一

袋綴　改裝後補毘沙門格子唐草模様縹色行成表紙　用紙裏打　二〇糎一四・五糎　八行
(古典文庫所収吉田幸一校「きのふはけふの物語」—參照　九一七・五—イ五一)

古今秀句落し噺　寫　一冊　三〇五二

一筆庵英壽著　自筆　自畫　袋綴　共包表紙　一七糎一二・五糎　九行　十五丁　挿畫八頁分　外題中央「名吟句落噺」とある上に貼紙して書名同　(右朱書)「天保十四年卯閏九月十六日　板本出来」(左下)「南傳馬町壹丁め／太右衛門店／願人　本屋又助」　内題「名吟句落噺」とありて紙箋貼附「(書名同)」　尾題「名吟句落噺」、「影眞堂鵜飼玉川」
識語　(裏表紙)鵜飼
(九一七・五—イ五三)

正直咄大鑑　五巻　五冊　三〇五三

石川流舟著　菱川師宣畫　自序　自跋　袋綴　改裝後補水色表紙　二二・五糎一五・五糎　四周單邊一六・五糎一二糎　十二行　挿畫(各巻)四頁分　序題「しやうぢき咄」　目録題「勝詞記咄大鏡目録青」「正志記咄大鑑目録赤」「笑事記咄大鑑目録黄」「性次記咄大鑑目録白」「盛紫記咄大鑑目録黒(傍訓省略)」　内題なし　柱刻「は　青(赤・黄・白・墨)(丁數)」
刊記　維叱貞享四歳次丁卯皐月吉辰／日本橋南へ二丁川瀬石丁　中村喜兵衛　緑梓
(刊記の丁に「作者石川流舟／日本繪師菱川師宣」とあり　九一七・五—イ三三)

當世口まね笑　四巻　四冊　闕　三〇五四

一笑軒著　延寶九年辛酉三月上旬自序　袋綴　黒紫表紙　二二・五糎一五・五糎　四周單邊一八糎一三・五糎　八行　挿畫(巻一)四頁分(巻二)三頁分(巻三)三頁分(巻四)二頁分　題簽左肩雙邊薄紅紙「新せん咄揃(新撰・しんせん)(書名同)一(—四)」目録題書名同　柱刻「笑一(—四)(丁數)」

（巻五闕　九一七・五―イ四五）

咄おだまき　二冊　闕　三〇三五

序　袋綴　砥粉色表紙　二一糎一六・五糎　四周單邊一七糎一二・五糎　九行　挿畫（巻一）二頁分（巻五）二頁分　題簽中央雙邊「繪入（書名同）一（五）」　柱刻「おたまき一（五）（丁數）」
刊記　元祿八年乙亥正月吉辰　書肆近藤孫左衛門梓
識語（第一冊巻初）本員四冊　本主私部北田氏
（巻一・五を存す　九一七・五―イ六一）

豊年春ふく藏主　五巻　合一冊　三〇三六

序　袋綴　改裝砥粉色表紙　二一糎一五糎　四周單邊一七糎一三・五糎　十行　挿畫（巻一）四頁分（巻二至四）三頁分（巻五）二頁分　内題なし　柱刻「序巻一目録　巻之一（―五）（丁數）」、「一桂堂ながさか本」「竹澤氏藏書印」等
刊記　京寺町　松原上ル町　菱屋治兵衛板行
（元祿期刊　九一七・五―イ三七）

○

なそたて　寫　一冊　三〇三七

後奈良天皇御撰　宸筆　綴葉裝　牡丹織文薄鶯色金襴表紙　見返扉見開金泥瑞鳥華文下畫　一二・五糎八・五糎　用紙鳥の子　八行　二十六丁　題簽扉見返（金泥菊花押文緑布地に金砂子散紙貼附せる上に更に貼附銀切箔散）書名同　内題なし
奥書　永正十三年正月廿日　（花押）
（「後奈良院（なそたて）奥御判形」一冊」とある古筆琴山極札を添ふ　別に「永正ハ後柏原天皇ノ御治世ニシテ／御奈良天皇ハ次の天皇ニマシマセハ／未タ御登極前ニ御認メナリシモノナリ」との附箋あり　「列聖全集（皇室御撰）解題」、「新校群書類從」第二十二巻―参照　九一七・七―イ一）（重美）

雜文學

〔興畫合〕　寫　十冊　三〇三八

袋綴　改裝後補澁刷毛目布目表紙　一五・五糎二三糎　原寸一三糎一八・五糎　彩色畫　臺貼　内題なし、「斗々屋亀齋」
第一・二冊　甲子積陽望日應六花園大君之嘱／代評修紫樓後種彦序同評點
第三冊　序題「狂画角力川之巻」　乙丑弥生の節皎々舎梅蛙序　同評點
第四冊　序題「川中嶋古戦場地名尽興画合」　慶應辰秋八朔假名垣魯文序　同評點
第五冊　慶應戊辰年／夏六月　田卜吟造入道麥阿弥序　同評點（巻初に引札一枚を貼附す）
第六冊　序題「寶合興画盡評」　慶應四海波／龍宮の辰歳　假名垣魯文序　同跋　同評點
第七冊　序題「象題將棊盤上見立畫合」　慶應四ツのとし辰の卯日□の日狂言堂如皐序　同評點　（巻初に引札一枚を貼附す）
第八冊　明治三午の年／祝月十七日　春のや幾久序　同評點
第九冊　序題「追善興畫合」　明治八乙亥年四月下旬／魚川岸の地紙序　同評點（巻初に引札一枚を貼附す）
第十冊　東紫仙田卜序　同評點　奥に「右愚評田卜（印）」とあり
（九二八―イ一）

遊戲三昧　寫　一冊　三〇三九

大田南畝編　各自筆等　袋綴　改裝後補茶色揉紙表紙　原裝水色表紙　用紙裏打二三・五糎一六・五糎　各種用紙　七十七丁　原題簽左肩大田南畝筆書名同　目録題「（書名同）巻之壹」　内題なし、「南畝文庫」「大田氏藏書」「高嶋書屋」
所収次の如し
一　あひるのまへ
　酒上熟寢著
　奥書　右は酒上ノ熟寢がかける所也

（四方赤良著「家鴨（アヒル）ノ前死時傷作歌」一丁を附す）

二　飛花落葉跋
万象亭著　自筆
奥書　天明二年／四方に花咲ころ／　風來山人遺第　下界隱士天竺老人述（印）

三　七夕狂哥（并）序
元木阿弥社中詠　元木阿弥筆

四　としの市の記
酒上不埒著　自筆
奥書　酒上不埒（印）
（外題「淺草市記」を見せ消ちにして「としの市の記」とす　表紙に不埒筆「天明二年壬寅臘月十七日／夜會耕書堂宿／北尾重政　安田梅順／北尾政演　同政美／藤田金六／遂文樓七人　菅江　田阿　唐來參和／政美　政演梅順／恋川はる町／外耕書堂／木阿弥」とあり）

五　屁放大神大御傳
竹杖爲輕著　自筆
奥書　森羅（以下切取）
（外題右に「底倉居鋪宮」左に「竹杖翁爲輕　誌（印）」とあり）

六　三保の松
四方山人著　自筆
奥書　十五年前反古堆／一章一涙尽餘哀／夜來殘夢青燈／下髣髴音容去／不回／寛政己未孟秋十日／邊以再　誌

七　てまりうた　京都 大坂
識語　右手まりうた盆踊うたとも京師三条／田宮虎橘菴より所傳也　蜀山人

八　饗應石吸物
皿山律師著　自筆
識語　（巻初南畝筆）此浄るりハ浪花にありし時唐物町木の本や／何かしの方に茶によばれし時主人の丁寧を／笑ひて同伴の常元寺（さぬきや町 浄土眞宗）皿山（サヤマ）人の戯れに／つくりしあだ口也
（題下に「沫山の客ハ梶原源太景季　背山の主ハ郷七兵衛景清」とあり）
松本系譜
鈴木政房著　南畝筆

奥書　右鈴木政房新右衛門記之

十　鳥居清信役者画考
鈴木政房著　南畝筆
奥書　己未四月望

十一　勢州川崎音頭
瀬名亀文著　南畝筆
奥書　右松下清九郎文通の写也

十二　八百屋おしち
瀬名亀文著　南畝筆
奥書　右瀬名亀文翁隨筆ニミゆ

十三　画巻詞書職人盡
南畝筆
奥書　文化ときこゆる年のはしめ／やよひの此／杏花園書
（題下に「鍬形紹眞蕙齋画也」とあり　末に「白川侯より來」とある書翰一通添附す）

十四　十二支の詞
南畝筆
奥書　これハ田安君御痘瘡の時住吉内記十二支の巻物を紅（ベニ）にて書て奉りし／時繪詞也

十五　淺草市人會集
六樹園著　自筆

十六　柳をよめるされ歌のはしかき
六樹園著　自筆

十七　春雨よをめるあされ哥のはしかき
六樹園著　自筆

十八　扇折風六十賀
六樹園著　自筆

十九　守信亭をこたる會集　詠梅狂哥并序
六樹園筆
作者をほめたほめ言葉
南畝著
奥書　千龜萬亀大叶（どさくさ）　連中

（外題に「大晦日曽我清書（右）おほミそかのかきだし（左）第六たんめ大詰／飯田茂内　立ながらほめ申候」とあり）
識語　按するに本書ハ巻頭に巻の壹とあれバ四五巻に及びしなるべし巻中七夕狂／歌木阿弥社中とあれど之レハ木阿弥自筆ならん次に鳥居清信役者画考／朱書の文ハ焉馬の筆跡の様見受らる又画巻詞書の末に張込書面／白川侯となれバ白□樂翁公の自筆ならん　昭和十卯　松莚（印）
（巻初に南畝筆目録一丁あり　目録中「梅かえ　宿屋飯盛」「車長持　山東京傳」とありてこれを見せ消ちにす　九八―イ三）

中國文學

魁本大字諸儒箋解古文眞寶前集　十卷　合一冊　三〇六〇

黄堅(元)編　林以正(元)校　袋綴　改裝後補黑表紙　二五・五糎一五・五糎　左右雙邊一七・五糎一一・五糎　有界十一行二十一字小雙行　題簽後補墨「古文眞寶前集」　目録・尾題「諸儒註解古文眞寶前集」　柱刻黑口「文上一(―五)　文前六(―十)　(丁數)」
（五山版　序及び目録の前半を闕く　巻之十初匡廓に「石見」と陰刻あり　九三〇・八―イ三）

魁本大字諸儒箋解古文眞寶後集　十卷　二冊　三〇六一

黄堅(元)編　林以正(元)校　袋綴　改裝後補水色表紙　用紙裏打　二五・五糎一六・五糎　左右雙邊一七・五糎一一糎　有界十一行二十一字小雙行　目録題「諸儒箋解古文眞寶後集」　柱刻黑口「文後一(―十)　(丁數)」、「冷泉府書」等
（五山版　室町時代末期筆朱墨諸點を施す　九三〇・八―イ二）

魁本大字諸儒箋解古文眞寶後集　十卷　二冊　三〇六二

黄堅(元)編　林以正(元)校　至正丙午孟夏鄭本序　袋綴　改裝後補栗皮色表紙　二八糎二〇・五糎　左右雙邊二一糎一五糎　有界十一行二十一字小雙行　序題「古文眞寶」　目録題「諸儒箋解古文眞寶後集」　柱刻黑口「古文序目・古文後一(―十)　(丁數)」、「殘花書屋」等
（五山版　室町時代末期筆朱墨書入あり　九三〇・八―イ七）

文館詞林殘卷　寫　一枚　三〇六三

許世宗(唐)等奉勅撰　用紙黄麻紙　臺貼　三五糎六三・五糎　原寸二七・五糎五七糎　有界二六糎　二十四行十二字
識語　（小短冊貼附）文館詞林斷簡考巻尾日校書殿寫弘仁十四年歳次癸卯二月錄冷然院書／（平安時代初期寫　初行「苗裔也夫其構峯外區方慈嶺」至末行「駿譽猶淩寒之幹負嚴霜而表」二十四行を存す　九三〇・八―イ五）

○

晦庵先生朱文公文集　二卷　二冊　闕　三〇六四

朱熹(宋)著　唐蝴蝶裝　改裝後補紺表紙　用紙裏打　三五糎二二糎　有界十九行十九字小雙行　柱刻白口「晦菴文集七十一(七十四)　(丁數)　(刻工名)」
（宋版　刻工名―劉[崇]　范□　陳生　陳明　傳[芳]　余秀　蔡子　葉定　葉雲　俞壬　□明　梁吉　劉昭　秦昌　曹鼎　[黄]劭　夏義　呉暘　呉志　呉春　呉茂　張允　王政　王定　詹大全等　闕畫―慎　敦等　巻七十一・七十四を存す　九三〇・八一―イ二）

新刊五百家註音辯唐柳先生文集　四十五卷首一卷　十四冊　三〇六五

柳宗元(宋)著　魏仲擧(宋)編　袋綴　改裝後補丹表紙　用紙裏打　二九糎二〇・五糎　原寸二七・五糎　左右雙邊二〇・五糎一七糎　有界十行十八字小雙行二十三字　外題左肩後筆「柳柳州集　序傳目錄（一之三―四十四之五葉）（右肩に各冊所収目次を記す）」　柱刻黑口「柳文一(―四十五)　(丁數)」、「阿波國文庫」「不忍文庫」
刊語（巻四十五末木記）祖在唐山福州境界／福建行省興化路莆田／縣仁德里臺諫坊住人／俞良甫久住　／日本京城阜近幾年勞／鹿至今喜成矣／歳次丁卯仲秋印題

識語（巻末十行罫紙一丁貼附）右五百家註柳文卅五巻頃購得納不忍文庫／跋所謂丁卯後小松院嘉慶元年矣何以知／之隅東先生曰嘗於或家見俞良甫所刻／柳文其本邊準之上層有古人之肉書巻／末題應永之號焉據之推考此刻先應永／必矣應永以前歳次丁卯乃嘉慶元年也／俞良甫嘉元人之避亂而歸化於我邦者乎／桂山先生曰勞鹿之鹿通力見醫書矣寛政／八年仲秋日源弘賢識

四庫全書簡明目録云五百家註音辨柳／先生文集二十一巻外集二巻新編外集一巻／附録八巻宋魏仲擧編所引訓釋柳文諸家／以書稱者有集註補註音釋解義以人稱者有／孫氏童氏張氏韓氏而外片言數字所引／寥ゝ蓋論韓文者本多論柳文者本少其慮／題五百家者姑以配韓文云爾弘賢曰韓文乃／有五百家註同人所集也余亦藏之柳文巻／數。多寡不同將可疑十一年弘賢又題（與余藏者）

後數年見俞良甫所刻傳法正宗記題跋云福建道興化路莆田縣／仁徳里住人俞良甫於日本嵯峨寓居憑自己財物置板流行歳次／甲子孟夏四月日謹題甲子先柳文四年乃至徳改元之歳矣據是／則柳文跋所謂京城皐近者爲嵯峨亦明矣

（五山版　室町時代中期筆朱墨書入多し　九三〇・八一―イ三）

白氏文集巻第三　寫　一軸　三〇六六

白居易（唐）著　朝譽筆　巻子本　改装後補緑瑞雲織文巻龍繡文布表紙　見返薄紅紙　三一・五糎　一一米五二糎　一紙四八糎　天地單邊二六・五糎　有界十七行十四字小雙行　内題「文集巻第三」

奥書　永仁元年癸巳八月十七日於鎌倉金剛壽福寺書了　朝譽六十五

（略々同時代朱墨諸點を施す　内題の下に「太原白居易」とあり　九三〇・八一―イ一）

豫章黄先生文集　十六巻外集六巻　二十二冊　闕　三〇六七

黄庭堅（宋）著　唐袋綴　改装後補金切箔散白表紙　間紙を挟む　二七・五糎一八・五糎　左右雙邊一九・五糎一三・五糎　有界九行十八字　柱刻「（上象鼻に字數）黄二（一―一九）後黄一（一―六）（丁數）（刻工名）」、「虞山毛晉」「敝樵楊敦厚重威章」「汪士鐘藏」「汪振勳印」「雙鑑樓攷藏宋本」等

識語　（外集巻六末）　此家豫章外集六巻得諸書船友邵姓云自江陰／楊文定公家収來巻端有楊敦厚圖章即文定孫／也裝潢精雅亦以其爲宋刻故珍之然六巻後有缺／葉謬以巻十四末葉綴之因後有山房李彤跋取閲／者偶不経意即信爲完璧者然其實補綴之痕不可／没也宋陳振孫書録解題豫章外集十四巻按今明／刻猶如是所存詩六行確在巻十四末惟李彤跋明／刻無之然翁覃溪云外集末有李彤跋其在十四巻／末宜矣至六巻末所缺就明刻者以宋板十八行十八字／計之連煞尾一行適得一葉當以素紙存其面目可尓／又翁云豫章外集其作詩年月往ゝ在内集前今人／稱外集爲後集失之殊不知宋刻板心有後黄一後黄／二云ゝ則外集之稱爲後集特以所刻之先後言之耳／世人不見宋刻妄論短長亦奚爲邪余舊藏豫章／文集三十巻本僅有一巻至十四巻十七巻十八巻十九巻／俱屬宋刻今又得此行欵悉同當是聯屬者何意／兩美之適合也毛氏云在ゝ處ゝ有神物護持其信／然欤且延令書目載有黄山谷集三十巻後集六／巻宋板合諸此本巻數却同或即滄葦所藏亦／未可知書之以誌舊物源流固各有其本尓時／嘉慶三年歳在戊午秋七月棘人黄丕烈識

（宋版　巻二至十四・十七至十九・外集巻一至六を存す　巻四第四・巻第六第二・巻九第一・十八至二十四・巻十第一至三・巻十九第三十一・外集巻六第四十丁闕　刻工名―皐 仁 宣 王 彦 余 達 文 雲 久 忠 僅 唐用 唐時 劉僅 劉彦 余彦 余京 陳久 彭立 彭新 彭達 莊文 楊才 施光 黄正 陳範 金宣 鄧明 伍三 吳恭 王彦 王禮 王忠 王明 嚴潤田庚 鄧七 劉□ □蔡 □山 □安 □良 彭世寧 王官慶 上官慶 劉升之等　別に「宜雨文庫藏黄山谷集」寫一冊を附す　九三〇・八一―イ九）（重文）

龍雲先生文集　三十二巻附録一巻　四冊　三〇六八

劉弇（宋）著　弘治乙丑夏四月之吉劉璋序　嘉泰四年六月日周必大序　唐袋綴　改装後補深縹色表紙　二五・五糎一六糎　四周雙邊一九・五糎一三・五糎　有界十行十九字小雙行　柱刻黒口「（書名同又は龍雲文集）（巻數）（丁數）」、「汪士鐘藏（陰刻）」「盛昱之印（陰刻）」「藤氏炳卿（陰刻）」等

（明版　巻一至六・二十至二十六丁清時代補寫　九三〇・八一―イ三）

劉夢得文集　三十巻外集十巻　十二冊　三〇六九

劉禹錫（唐）著　袋綴　改装後補丹表紙　用紙裏打　天地裁斷　二九糎二一・五糎　左右雙邊二五・五糎一八・五糎　有界十行十八字　外題左肩墨「劉夢得文集（外集）（巻數）」　柱刻黒口「劉夢得（巻數）（丁數）（刻工名）」、「天山（爵形）」

（宋版　刻工名―王權 王榮 王民 王祥 王道 王堪 王信 王性 王□ 王

吟　王元　平升　千止　張千　張安　□章　單隆　單逵　家宗　揚中　辰定　呈下　夏用　品奇　任顯等　闕畫—構　購　覯　溝　彀等　董授經(清)複製本—參照　九二〇・八一—イ五)(國寶)

○

帳中香　二十卷首一卷　二十一冊　二〇七〇

黃庭堅(宋)著　漆桶萬里注　延亥小春江介周鏡序　鐵船跋　明應八年己未夏五如意珠日自跋　袋綴　改裝後補毘沙門格子桐花唐草模様押文紺表紙　二七糎一九・五糎　四周單邊二二糎一六・五糎　九行十八字小雙行　柱刻黑口「帳中香　叙之上(一—五下)　一之上(一—二十之下)　(丁數)」、「滋照禪院」「西莊文庫(小津桂窓筆「月十全廿二」と墨書せる紙箋に捺印)」「桂窓」

(古活字版　元和期刊　各巻末に「梅花無盡藏漆桶萬里編」とあり　九三一—イ七)

帳中香　寫　二十卷首一卷　二十一冊　二〇七一

黃庭堅(宋)著　漆桶萬里注　延亥小春江介周鏡序　明應八年己未夏五如意珠日自跋　袋綴　改裝後補茶色表紙　二九・五糎二一・五糎　九行十七字小雙行　題簽左肩後補「(書名同)　首　一(一—廿)」、「阿波國文庫」「不忍文庫」「大槻文庫」(第十四・十五冊)「旡礙菴」「桑畝文庫」等

識語　(第一冊題簽)　壬寅六月通冊補理成／大槻修題　(印)(如電)

(室町時代末期寫　交筆　巻一末に「梅花無盡藏漆桶萬里編」とあり　朱墨書入あり　九三一—イ九)

白雲集　四卷　一冊　二〇七二

英實存(元)著　至元壬辰菊節巎巎獻翁序　趙子昂序　胡長孺序　袋綴　改裝後補茶色表紙　用紙裏打　二二糎一五糎　四周雙邊一七・五糎一二糎　十行二十字　外題左肩「(書名同)　全」　序題「白雲詩集」「白雲詩集」　尾題「白雲詩集」　柱刻「白雲集　巻一(一—四)　(丁數)」、「伊達伯觀瀾閣圖書印」等

(五山版　内題下に「錢唐釋　英實存」とあり　九三一—イ二)

○

聯新事備詩學大成　二十七卷　八冊　闕　二〇七三

林楨(元)著　至正己丑首夏朱文震序　袋綴　改裝後補押文格子丹表紙　用紙裏打　(第三・八冊のみ)　四周雙邊二〇糎一二・五糎　有界十三行小雙行　外題左肩後筆「(書名同)　一—四(五—九)」「增廣事聯詩學　十—十二(一—二十二—廿四)」　「新篇增類吟料詩學集成二十八(一冊)」　内題(第三冊)「增廣事聯詩學大成」　(第八冊)(墨)同上　尾題(第八冊)「新篇類增吟料詩學集成」　柱刻白口「詩學一(一—二十)　(丁數)　(第三冊のみ「詩學大成」とあり)」、「石經樓記」

(五山版　原に巻一末に「至正乙未孟春翠巖精舍新刊」とある刊記を移刻す　巻二十五至二十七闕　取合せ本　第三冊巻十至十二・第八冊巻二十八至卅は元版、巻一本文第一丁綴目に「善祥」、巻二十末丁裏に陰刻逆文字「石見」とあり　巻一の綱目・目録を闕く　九三一・〇七—イ五)

聯新事備詩學大成　二十卷　四冊　闕　二〇七四

林楨(元)著　至正己丑首夏朱文震序　袋綴　改裝後補薄紅表紙　二五・五糎一六糎　四周雙邊二〇糎一二・五糎　有界十三行小雙行　外題左肩後筆「(書名同)　卷一(一—十六卷)廿(一—五)」　綱目題「詩學大成」　目録題書名同　柱刻白口「綱目・序・詩目・詩學一(一—二十)　(丁數)」、「澁谷藏書記」等

識語　(巻十末)　宗悦

(五山版　原に綱目末に「至正乙未孟春翠巖精舍新刊」、目録末に雙邊木記刊語「舊刊詩學如大成繁而且冗叢珠珍／珠囊等編簡而又略蓋兩病焉本堂／是編則去諸家之疵而集諸家之粹／於叙事故事總名之以事類摭唐宋／名賢佳句而削去重復采皇元羣英／警聯而增廣新奇視前刊實爲明備／敬用鋟梓以廣其傳收書君子幸鑒／至正乙未孟春翠巖精舍謹誌」、巻一末に「至正乙未孟春翠巖精舍新刊」とある刊記を移刻す　第一冊巻一至五、第二冊巻六至十、第三冊巻十一至十五、第四冊巻十六至二十を収め巻二十一至三十闕　巻一本文第一丁表綴目に「善祥」、巻二十末丁裏に「石見」の逆文字陰刻あり　九三一・〇七—イ七)

○

觀海先生集　寫　十二巻續一巻　五冊　三〇七五

松崎觀海著　熊阪臺洲編　編者自筆　明和壬辰秋九月望熊阪邦序　袋綴　改裝後補亀甲紋繋巻龍摺出藍納戸色表紙　二六・五糎一八・五糎　序のみ四周單邊有界六行本文十行二十字　題簽左肩後補「(書名同)　序目一二(—十一十二續集尾)」　内題(第一冊)「觀海集巻之一」とあるを朱訂して「(書名同)巻之一」(第二冊以下)「觀海集巻之二(—十二)」「觀海先生續集」、「半澤文庫」「曳尾堂圖書印」

奥書　(第三冊巻六末)右第六巻起自己亥十月廿六日至十一月十四日訓點畢／熊阪宇右衛門訓點

(第三冊巻七末)右第七巻起自己亥十一月十五日至是月捻六日暮訓點訖／世事掣肘不敢爲嬾爲惰云　熊阪宇右衛門訓點

(第一冊内題の次行に「門人　東奥　熊阪邦(此七字朱書)輯／龜山松崎惟時君脩著／友人東都(此四字朱書)」とあり／第二冊以下同「龜山松崎惟時君脩著」とあり　續集内題の次行に「門人　東奥　熊阪邦子彦輯／友人東都／田　明子亮／谷友信文卿／校」とあり　九三・一—イ一三)

韓館唱和　寫　一軸　三〇七六

拜崎琴臺(恭忠)・朴敬行(朝鮮)・李命啓(同上)・李鳳煥(同上)唱和　各自筆　延享戊辰之夏六月成島錦江引　屋代龍岡題字　以上各自筆　巻子本　菊小紋紫金襴表紙　見返薄青緞子　三一・五糎九米五五糎　天地金砂子散紙に臺貼　題簽無記、「宮崎文庫」

端書　延享五年戊辰夏六月十日造韓館筆語

(九三・一—イ三一)

〔寄題蒹葭堂新築〕　寫　四軸　三〇七七

各自筆　巻子本　深納戸色絹(第四巻水玉巻龍茶色)表紙　三四・五糎(第四巻二八・五糎)　臺貼

(九三・一—イ二九)

所収次の如し

第一巻

南堂雍首座(押紙「南堂雍首座天龍寺」)　應道
金龍道人(押紙「源宗院京都岡崎」)　宮田　明(押紙「宮田宇右衛門」)
芝　君貞(押紙「芝瑞藏淡州」)　西河　篇(押紙「西河彌六尾州」)
直　隻箭　埜田　好古
脉　祖溪　三宅　恭(押紙「三宅敬治江州大月人」)
宮　逸翮　應壽
鈴木　衆(押紙「鈴木玄學江戸」)　松岡　典(押紙「松岡定庵京都人」)
滕　國記　衍意
松　明之　室　香亭
平　九齡(押紙「大畠官兵衛赤石」)　岸　信之(押紙「岸忠次郎大坂」
副　孟羲　牧　大用
鳥　宗成(押紙「鳥山宇内大坂人」)　支明(押紙「正教寺肥後」)
(表紙紙箋「詩」とあり)

第二巻

宮田　明(押紙「宮田宇右衛門」)　田中嘯皐(押紙「田中七郎右衛門大坂」)
陽山　松田正楨
關鋒　大潮(押紙「大湖(ママ)禅師」)
淨善無染(押紙「釋無染」)　大神景貫(押紙「山井内匠權助」)
祇園尚濂(押紙「祇園孫三郎」)　良野芸之(押紙「良野平助」)
林義卿(押紙「林周助」)　篠　武欽(押紙「篠參彌」)
芥川　煥(押紙「芥川陽軒」)　龍　公美(押紙「龍野右門」)
武田　大　陶山　兎(押紙「陶山尚善」)
(表紙黄紙箋「詩」とあり)

第三巻

片山　猷(押紙「片山忠藏越後」)　合離(細合半齋)
佐　詢信　仁朝
高　孟彪　源　之熙
智解　淺埜　潛

第四巻

源　定淳　川　義豹
紫海拙菴　柳　奉璋
菅原善繼　江西

雨森正弘　南洲
頑菴璞性　滕　駿甫
平　九齡　原　昌克
河合　修　左　恭寬
高應　淨躍
滕　國紀　島田　裕
種濟　菅井維忠
藤島仲和　吹田定孝
增田周明　祖洲環空
忍空　蒲叔
吉蘭　藤　孔嘉
有忍　松　洪猷
克□堂主人　一如

禁裡御會詩 元亨元年　寫　一軸　三〇六

卷子本　菱形織紋繫納戸色表紙　見返金銀切箔散　二八糎四米九〇糎　一紙四一糎　二十二行約十四字　卷初裏外題「禁裡御會　元亨元十廿六」　内題なし、「九條」（同時代寫「元亨元年十月廿六日／讀師春宮大夫／講師季房／題者」及び「元亨元年重陽／講師顯盛／讀師春宮權大夫（權□）／題者日野前大納言」とあるものを収む　巻末に漢連句一巻を附載　紙背消息文　九三・一―イ三元）

嚶園文稿　寫　五巻　五冊　三〇七

岡井嚶州著　岡井鄰編　川名孟綽校　袋綴　青表紙　二六・五糎一七・五糎　四周雙邊二〇・五糎一三糎　九行十八字罫紙　題簽左肩「嚶州園文稿　詩（文）共五一（―五）」　目録題「嚶州園文集」　柱刻「嚶園文稿　卷之一（―三）（丁數）（卷丁數は墨第四・五卷なし）」、「岡井氏世家記」（稿本　内題次行に「嚶州　岡井孝先仲錫著／男鄰　伯和編／門人　川名孟綽仲裕校」とあり　九三・二―イ七）　三〇八

棧雲峽雨詩草上　寫　一冊　三〇九

竹添光鴻著　蔡爾康（清）評　各自筆　袋綴　改裝後補澁刷毛目布目表紙　原裝共表紙　三二糎一四糎　四周單邊六行二十五字詰代赭色罫紙　三十丁（原表紙共）　題簽左肩後補「棧雲峽雨詩艸手稿　竹添井ゟ屆上手書　蔡爾康批評」　原外題左肩「（書名同）　上（中央に）鄙斧　日本竹添光鴻　拜」　内題「棧雲稿　吾衆四載集　未定草」　柱刻「助爾添修五鳳樓」、「島田翰讀書記」（九三・一―イ七）

詩家推敲卷上　寫　一冊　三一〇

大典禪師著　自筆　自序　袋假綴　共表紙　二四糎一七・五糎　左右雙邊二〇・五糎一三・五糎　十行罫紙　三十六丁　外題中央別筆「詩家推敲草本（左に）大典禪師自筆」　序題書名同　柱刻「（丁數）（寫）脩竹堂」、「西莊文庫（小津桂窓筆「月百十二全ニ」と墨書せる紙箋に捺印）」「桂窓」（草稿　九三・一―イ三五）

蕉堅稿　二冊　三一一

中津絶海著　慧鏡編　永樂元年倉龍癸未十一月既望道衍序　永樂元年癸未臘月如蘭跋　袋綴　改裝後補黑表紙　二四・五糎一七・五糎　間紙を挟む　左右雙邊二一糎一四糎　有界十行二十字　題簽左肩黃紙「（書名同）　一（二）」　柱刻黑口「詩序（蕉等）（丁數）」、「積翠軒文庫」　識語　付與等麟教子／匡叟（五山版　九三・一―イ三）

小浦東遊集附續集　寫　一冊　三一二

横川景三著　看々道人筆　應仁二年龍集戊子仲夏望日臥雲山人跋　袋綴　濃澁引表紙　二七糎二〇糎　十三行　百四丁　外題左肩「東遊集」、「東（墨印）」、「高木家藏」

奥書　小補東遊集序共七十二張借長嶋之僧本寫之／字ミ恐有刀刁之錯雖然案春秋夏五之評不／及改之冀轉覽之士正之／大永七年丁亥仲秋下澣書于／妙喜兎園矣　看ミ道人

（續集）小補東遊續集三十六張自承隆借之寫焉蓋天章老禪之／筆跡也想續集未盡卷乎呼兎馬之渡河也何時而徹厥底／思之／大永七年歲舍丁亥仲秋晦看ミ道人書于妙喜兎園焉（印）
（九三・一―ィ二七）

貞和集　寫　二冊　三〇八四

袋綴　鶯色表紙　二五糎一七・五糎　十二行二十三四字　外題左肩金泥「（書名同）　乾（坤）」　内題なし、「三井家聽氷閣」「宗屋」等
奥書　（兩冊）以仁峰和尚直筆之本寫之朱亦同
（江戸時代初期寫　九三・一―ィ九）

東海波臣集・同自注　寫　二冊　三〇八五

遠山景晉著　自筆　袋綴　（第一冊集）金箔散薄紫臘箋　（第二冊自注）紙粉色表紙　二三・五糎一七糎　（集）四周雙邊十行十四字藍罫紙（自注）左右雙邊九行代赭色罫紙　外題（自注）左肩後筆「東海波臣集自注」　内題なし
（注冊扉見返に「寛政十一己未　松前蝦夷　西城屋從直曹／文化二乙丑　長崎監察官／文化二三乙丑丙寅　松夷　同／文化四丁卯　同　同／文化六八己巳辛未對馬　同／文化九十十一十二壬申癸酉申戌乙亥　長崎　尹／文政元二戊寅己卯日光　將作大匠」とあり　各表紙右肩に「遠山景晉草稿」とあり　九三・一―ィ三五）

稲川詩草初編　七卷　五冊　三〇八六

山梨稲川著　山梨文行編　鹽谷定邁訂　戸塚維春校　文政辛巳陽月松崎復序　辛巳秋渡邊璣附言　袋綴　茶色表紙　二五糎一六糎　四周單邊一九糎一三糎　有界九行十九字　題簽左肩單邊書名同　見返題中央「（書名同）（左欄に）採撰亭活字板」　柱刻「稲川詩草初編　卷之一（―七）（丁數）」、「柳陰齋圖書記」
刊記　文政四辛巳年初冬／駿府　江川町／書林　採撰亭　鐵屋十兵衛　活版／剞劂　并書　玄玄亭　嶽下　李蹊
箱書　稲川詩草五冊係于柳齋戸塚翁／舊藏其藏印可以證也今歸葵／園笹野君ミ造匣藏焉使餘題其／盍因記其由云／大正十三年三月中浣　棠園鹽裕（印）
（木活字版　内題の次行に「駿河　稲川居士山梨治憲玄度著／男　文行玄昱輯／鹽谷定邁伯景訂／戸塚維春輔校」とあり　九三・一―ィ一五）

〔日課一百首〕　寫　一冊　三〇八七

后版著　春澤・策彦評點　永祿八稔乙丑鞠月廿有一日策彦周良序　袋綴　青表紙　三〇・五糎一三糎　四周單邊一三糎一九糎　九行十八字小雙行　内題なし、「吉田家藏書印」
（室町時代末期寫　原に「右日課一百首之題詠畢矣一夏中／永祿八年乙丑七月廿五日於北野殿前誌焉」と奥書あるものの寫　「第一丑四月十五日」至「第一百七月廿五日」とあり　卷初に「墨　春澤和尚點／朱　策彦和尚點（此一行朱書）」とあり　九三・一―ィ三）

日本詩紀　寫　五十卷　十冊　三〇八八

市河寬齋著　自筆　袋綴　薄青布目表紙　二三糎一六・五糎　左右雙邊一八糎一三糎　十一（又は九）行二十字小雙行罫紙（卷第九・二十三至四十八・五十無罫）　題簽左肩雙邊（刊）「（書名同）　卷一之四甲（―卷卅九之五十癸）」　扉題「（書名同）　卷一之三（―卷四十九之五十）　首集一二（―丁集十四十五）」
（第一冊内題次行に「上毛　河世寧彙編／男三亥再校／江戸若林友堯增訂」とあり　他筆を交へし卷あり　九三・一―ィ九）

凌雲集　寫　一冊　三〇八九

小野岑守等奉勅撰　小野岑守序　袋綴　水色表紙　用紙鳥の子　二七糎二〇糎　十行十九字　二十七丁白紙二丁　外題左肩書名同、「李部大卿忠次・文庫」「紅梅文庫」
（榊原侯本　江戸時代初期寫　九三・一―ィ二）

○

王狀元集百家註分類東坡先生詩　寫　二十五卷　五冊　三〇九〇

蘇軾（宋）著　王十朋（宋）纂集　劉辰翁（元）批點　改裝後補茶色表紙　用紙裏打

二七・五糎一九・五糎　十五行約二十二字小雙行　題簽左肩後補「蘇翰林詩自一至五（一自廿一至廿五終）」　副題簽中央（第一至四冊）「（各卷目次）」　内題（卷之一）書名同（卷二至卷廿五）「東坡先生詩　卷之一（一卷之廿五）」、「狼安（墨印）」「積翠軒文庫」

識語　（帙）（石井積翠軒筆）蘇翰林詩　五冊　大德寺塔頭瑞源院ノ舊藏ノ寺傳ニ云ク此舊鈔本江月宗玩和尚ノ手澤本ナリト蓋シ瑞源院ハ江月ノ創興之寺ナリ手澤ノ眞僞ハ摸索不ノ者ナリト雖室町期ノ舊鈔本トシテ珍重ノスベシ　積翠居士

（室町時代中期寫　内題次行に「庐陵須溪劉辰翁批點」とあり　朱墨書入あり　九三・二―一九）

王狀元集百家註分類東坡先生詩　二十一卷　二十三冊　闕

三〇九一

蘇軾（宋）著　王十朋（宋）纂集　趙堯卿序　王十朋序　百家註分類東坡先生詩姓氏　東坡紀年録　唐袋綴　改裝後補紺色表紙　間紙を挾む　二七・五糎一六・五糎　左右雙邊一九糎一二・五糎　有界十一行十九字　題簽左肩墨「蘇端明序（目録―二十一）」　外題（第三冊）左肩朱「東坡集一」　内題（卷二至四・九・十二・十三・十五至二十一）「王狀元集諸家注（又は註）分類東坡先生詩」　柱刻線黑口（又は白口）「（上象鼻に字數を刻せる葉あり）　寺序（寺・年巳・皮寺等）（卷數）（丁數）」　耳格あり、「弐春文庫」「皎亭改藏」等

刊記　（姓氏末雙邊木記）建安黃及甫ノ刻梓于家塾

識語　（卷七・十七末）寛政己未季冬慎齋邨瀨僊閱訖

（宋版　卷二十二以下闕　闕畫―慎　九三・二―一二）

王狀元集百家註分類東坡先生詩　四卷　二冊　闕

三〇九二

蘇軾（宋）著　王十朋（宋）注　劉辰翁（元）批點　袋綴　改裝後補薄卵色表紙　二四糎一四・五糎　左右雙邊一八・五糎一二・五糎　有界十一行十九字小雙行　外題左肩後筆「東坡先生詩（三四）」　柱刻黑口（白口を交ふ）「詩一（―四）（丁數）」、「帥鵝堂人」「錦齋藏書」等

（五山版　室町時代中期筆朱墨書入多し　卷一至四を存す　九三・二―一五）

王狀元集百家註分類東坡先生詩卷十二　一冊

三〇九三

蘇軾（宋）著　王十朋（宋）注　劉辰翁（元）批點　袋綴　改裝後補淡朱表紙　二七糎一七糎　左右雙邊二〇糎一二・五糎　有界十一行　十九字小雙行　柱刻黑口（白口を交ふ）「詩十二（丁數）」、「澁谷藏書記」

（五山版　表紙裏打紙に仝秀詩稿等を用ふ　九三・二―一五）

曉風集　寫　八卷　七冊　闕

三〇九四

漆桶萬里著　袋綴　改裝後補青表紙　二六糎二〇・五糎　九行十四字小雙行　插畫（四周單邊二一・五糎一六・五糎）（第一冊）九頁分　（第二冊）四頁分　（第三冊）七頁分（第四冊）一頁分　題簽左肩後補「（書名同）一（―八終）」（第五冊闕）　内題「曉風上之一（上之二）」「曉風集上之三（―上之第八）」、「白川書館」等

識語　大閣大相國將征大明時將兵屯肥之前州名護屋／愚亦有命屈從矣淹留累年矣官暇之日／有人貴予請講唐賢三体惟時泉南之／兀齋宗旦公持曉風集來于營中而扣予旅／襴下而示之不捨一字而謄写之矣勤哉／因本万里所抄講之矣旋洛之後資此集／來而索題一語於後弗獲止謾乱道云／文祿三甲午春三月吉辰／前住東福後住南禪唯杏叟永哲誌之（印）

（仝文朱點を施す　各卷末に「梅花無尽藏漆桶萬里撰」とあり　九三・二―一三）

〔古詩集殘簡〕　寫　一軸

三〇九五

掛軸　原寸二六・五糎三七糎　天地單邊二一・五糎　有界十九半行　尾題「詩集卷第二」、「法隆寺」

奥書　天平十三年辛巳七月五日夕陽書寫了

（「五言春日侍宴望海應　詔吏部尚書駙馬都尉安德郡／國公臣師道上」「五言早秋侍宴應　詔中書令駙馬都尉安德郡開國公臣楊師／道上」の二詩を収む　裏文書に承和六年四月二十日紀伊國司宛太政官符及び民部省宛太政官符二通の寫しあり　九三・二―一六三）

山谷黃先生大全詩註　三卷　一冊　闕

三〇九六

黃庭堅（宋）著　任淵（宋）編　許尹序　袋綴　改裝後補栗皮色表紙　用紙裏打　二

五・五糎 一六糎 原寸二四・五糎 左右雙邊一九・五糎 一三糎 有界十一行二十字小雙行 序題「豫章後山詩解」 柱刻黑口「山谷寺 一(一—三)(丁數)」、「種德堂記」

(五山版 巻一至三を存す 巻初に「政和辛卯重陽日書」とある室町時代末期筆「黃陳詩集注序」一丁補寫附綴 巻一第十三丁表綴目下に「宗陳」、同十四丁表「宗(陰刻)」、巻三第十丁裏「伯」等とあり 室町時代中期筆朱墨書入多し 九三・二—イ四九)

山谷黃先生大全詩註　四卷 二冊 闕　三〇九七

黃庭堅(宋)著 任淵(宋)編 袋綴 改裝後補毘沙門格子唐草模樣黑行成表紙 二五・五糎 一八・五糎 左右雙邊一九・五糎 一三糎 有界十一行二十字小雙行 題簽左肩後補墨紅紙「山谷老人詩 十二之十三(十九之廿)」 柱刻黑口「山谷寺(卷數)(丁數)」 內題書名同(註字或は注に作る)、「山徑書堂(墨印)」

(五山版 巻十一・十二及巻十九・二十を存す 巻十二末二丁室町時代末期筆補寫 巻十二第九至十五丁裏綴目下「宗(陰刻)」とあり 室町時代中期筆朱墨書入多し 九三・二—イ五一)

山谷詩抄　寫 二十卷 五冊　三〇九八

〔一韓智翃〕著 袋綴 栗皮色表紙 二六糎二〇・五糎 十六行 題簽左肩「山谷鈔一(—五)」 尾題「山谷抄」 各巻首尾柱心「註文一巻終(二之終—十九之終)假名抄一ノ終(二ノ初—二十ノ初 二十巻終)」

奥書 (終丁柱心)慶安三年八月日書寫終

(江戶時代初期寫 片假名交り 九三・二—イ三)

集千家註批點杜工部詩集　二十卷 九冊　三〇九九

杜甫(唐)著 高楚芳(元)編 劉辰翁(元)評 唐袋綴 改裝後補毘沙門格子地牡丹唐草模樣朽葉色行成表紙 二六糎一四・五糎 四周(又は左右)雙邊一九・五糎一二糎 有界十二三行二十二三字小雙行 題簽左肩後筆「杜詩集註一之三(—十九之二十)」 柱刻小黑口「杜(又は詩・杜詩等)(卷數)(丁數)」、「米澤藏書」

(元版 內題次行「須溪先生劉會孟評點」とあり 九三・二—イ三五)

集千家註批點杜工部詩集　二十卷文集二卷 十二冊　三一〇〇

杜甫(唐)著 高楚芳(元)編 劉辰翁(元)評 大德癸卯冬劉尚友序 袋綴 改裝後補(第一・二冊)朱(第三冊以下)網目模樣丹表紙 二七糎一七糎 左右雙邊二一糎一三・五糎 有界十四行二十五字小雙行 題簽左肩後補室町時代筆「批點杜詩」(第二冊闕・第三冊以下無記) 柱刻黑口「杜詩序(目・附錄) 一(—二十) 杜詩集(年譜)」

(五山版 原に目錄末雙邊木記「雲衢會文堂／戊申孟冬刊」とある刊記を移刻す 第十二冊は杜工部文集二卷及び同年譜を收む 內題次行「須溪先生劉會孟評點」とあり 九三・二—イ四五)

集千家分註類杜工部詩　二十五卷 十三冊　三一〇一

杜甫(唐)著 徐居仁(宋)編 黃鶴(宋)補註 袋綴 改裝後補紙粉色表紙 二五糎一六糎 四周單邊(第一冊のみ左右雙邊)一九糎一三糎 有界十二行二十字小雙行二十六字 題簽左肩後補「杜詩分類口(自一至二—自廿四至廿五大尾)」 柱刻黑口「杜詩註序(姓氏・年譜・目錄・卷錄) 卷一(—卷二十五)(丁數)」、「日知館圖書」「佐竹圖書」「積翠軒文庫」

刊記 (卷二十五末)永和大歲柔兆執徐肅霜／京洛大藏坊法印觀喜重刊

(五山版 原に卷二十五末「皇慶壬子余志安刊于勤有書堂記」、第一冊目錄末同文、第一冊序末雙邊木記「建安余氏／勤有堂刊」同丁柱刻「皇慶癸丑五月日」門類末鐘鼎印中「皇慶壬子・勤有堂」とあるを移刻す 又同上卷門類初に「孟榮妙刀」とあり刻工名に 孟榮 彦明 長行 孟才等見ゆ 內題次行「東萊 徐居仁編次／臨川 黃鶴補註」とあり 箱裏書に「永和大歲／京都五山刊行本／明治四十年ヲ去ル事五百有餘年／佐竹家」とあり 九三・二—イ四一)

新刊錦繡段　一冊　三一〇二

天隱龍澤著 袋綴 改裝後補雲母海松模樣紙粉色表紙 二七糎二〇・五糎 左右雙邊二五糎一六糎 有界八行十七字 四十五丁 柱刻黑口「錦繡段 (丁數)」、「三柳居杉浦氏藏書記(紙票)」

(勅版 第一至四十五丁まで存して他闕 同時代筆書入句讀訓點を施す

九二一・二―イ二九）

新鍥龍頭註釋旁訓千家詩選　四巻　二帖　三一〇三

謝疊山・朱鼎臣（宋）著　唐折本　改装後補龍瑞雲等織文紺表紙　用紙裏打　二三・五糎一三・五糎　四周單邊二〇・五糎一二糎　上欄挿畫（六糎）及び増和韻詩（八行）　下文（一五糎）十四字注抵一格雙行二十六字　挿畫（各巻）一頁分　題簽左肩黄紙無記　内題（巻四）「龍頭註釋千家詩選旁訓」　尾題（巻二上欄）「傍訓千家詩」（巻四上欄）「増補千家詩」　柱刻「一（―四）（丁數）」、「江都蘇氏鑒藏書画記」「結城氏文庫記」等

（明版　内題の次に巻一「宋名賢　謝畳山　註／書林　梓」、巻二「古臨　朱鼎臣□」、巻三「撫臨司徒　朱鼎臣輯」、巻四「書林　刊」とあり　九二一・二―イ五九）

新編翰林珠玉　六巻　合一冊　三一〇四

邵菴虞集（元）著　袋綴　改装後補丹表紙　二一・五糎一三・五糎　左右雙邊一七糎一〇糎　有界十一行二十字　百二十丁　外題左肩「邵菴虞集　翰林珠玉　完」　柱刻黒口「珠玉一（―六）（丁數）」、「雲紙原本」「□闇書屋天下原本（紙票）」等

刊記　貞治癸卯孟春　命工刊行

識語　（巻初）瑞雲菴書庫

（五山版　表紙右肩に墨書「尾」とあり　内題次行に「邵菴虞集伯生父全集」とあり　小口書「虞伯生詩集　完」とあり　目録末雙邊木記「[illegible]（ママ）書堂／鼎新紙梓」とある刊記を移刻す　九二一・二―イ三三）

誠齋集　寫　一冊　三一〇五

楊萬里（宋）著　袋綴　代赭色表紙　二六糎一八・五糎　十三行　十五丁　題簽左肩「誠齋集抜尤」

（室町時代中期寫　九二一・二―イ一七）

雪峯空和尚外集　二冊　三一〇六

東山雪峯（宋）著　袋綴　改装後補縹色表紙　二五糎一六・五糎　左右雙邊一八糎一二糎　有界十行二十字　柱刻白口（第八十一至八十四丁黒口）「東（丁數）」

識語　（第二冊巻初）東奥會津住侶　範室用之

（同巻末）範室私用之

玄良

（五山版　巻初に「庚寅仲秋日　黄龍雪村叟覺性書」とある「雪峰空和尚外集序」の寫一丁を附綴す　序題下に「範室叟誌之」とあり　九二一・二―イ三五）

雪峯空和尚外集　一冊　三一〇七

東山雪峯（宋）著　淳熙戊戌歳臘月旦恵然跋　丁亥七月梵僊跋　袋綴　改装後補毘沙門格子牡丹唐草模様丹行成表紙　用紙裏打　二五・五糎一六・五糎　左右雙邊一八糎一二糎　有界十行二十字　九十一丁　外題左肩後筆「東山外集全　自笑家藏」　柱刻白口（第七十九丁のみ上黒口第八十二丁以下下黒口）「東（跋）（丁數）」、「鹿王藏書」「青谿書屋」

識語　（扉）全冊　自笑家什／此壹策東山古調和尚所持之一本也／迁化之後爲遺物九岩和尚持來而／被恵予於是乎補蠹新表紙目爲／家藏者也

（見返附箋）大徳寺清巌諱宗渭自称自笑子／寛文元十一月寂

（五山版　室町時代筆朱墨書入多し　九二一・二―イ三七）

雪峯空和尚外集　一冊　三一〇八

東山雪峯（宋）著　淳熙戊戌歳臘月旦恵然跋　丁亥七月梵僊跋　袋綴　改装後補網目模様丹表紙　二三・五糎一五・五糎　左右雙邊一八糎一二糎　有界十行二十字　九十一丁　外題左肩富岡鐵齋筆「雪峰和尚集（右下に）畫禅龕」　柱刻白口（第四十五至四十八丁・第五十五五十六丁・第六十一丁以下下黒口）「東（跋）（丁數）」、「鐵齋藏書」

識語　（裏表紙見返鐵齋筆）梵竹僊自書跋文尤可注意歟／淳熙戊戌者南宋五年／也我安元二年也

（五山版　表紙見返に鐵齋筆書入あり　九二一・二―イ三九）

全室外集　九巻　合一冊　三一〇九

宗泐季潭（明）著　徐一夔（明）序　袋綴　改装後補薄茶色表紙　用紙裏打　二六糎

一六・五糎　原寸二五糎　四周雙邊一七・五糎一二糎　有界十二行二十一字　八十八丁　外題左肩後筆「全室集完」　序題「全室集」　柱刻「全室集一(—九)(丁數)」、「北固山記字堂西源禅院」「多福文庫」等
(五山版　九三・二—イ五七)

澹居稾　一冊　三一〇

至仁行中(元)著　琮延玉(元)編　至正廿四年冬十二月克新序　袋綴　改裝後補砥粉色表紙　二二糎一六糎　左右雙邊一八糎一二糎　有界十行二十字　五十二丁　題簽左肩雙邊後補墨「(書名同)全」　柱刻黑口「澹居序(澹居詩・澹居稾文・澹居稾・澹居)(丁數)」、「護國山僧」等
識語　(表見返)澹居子　行中至仁禅師也仁嗣原叟行端ニ嗣藏叟珍(或作元)／々嗣妙法善ニ嗣佛照光ニ嗣大惠
(巻末)承應第三ノ暦五月吉日
(五山版　内題次行に「熙怡道人番易釋至仁行中／前饒州路惣管府判管皇甫琮延玉編」とあり　九三・二—イ四七)

長恨歌・琵琶行　一冊　三一一

白居易(唐)著　袋綴　改裝後補薄紫表紙　二九・五糎二一糎　四周雙邊二五糎一六・五糎　有界八行十七字　十三丁　外題左肩後筆書名同　内題なし　柱刻「長恨歌(琵琶行)(丁數)」、「弘前醫官澁江氏藏書記」「藕潢精舍」
識語　(箱裏書)本冊は林復齋の手澤なり往年故第三高等／學校教授林森太郎先生之を京都若林春和／堂より之を購ひ得て一家の重寶とせられし天下／の孤本たり昭和四年冬拙輯勅板集影ニこれが／一部を影印し更ニ昭和五年京都影木刊行會／より貴重圖書の一として其全部を玻璃版ニ附し／て後昆ニ殘す事となれり林先生没後轉じて／神谷家之家寶の一となる余叢日解説を試／ミたるの縁を以つて需めらるゝまゝにその来由／を記すことかくのごとし／昭和十九年天長節之早朝／鈴鹿三七
(勅版　陳鴻著「長恨歌傳」を附す　鈴鹿三七編「勅板集影」—参照
九三・二—イ六五)

唐詩選　寫　七卷　三冊　三一二

李攀龍(明)編　袋綴　改裝後補栗皮色表紙　用紙裏打　二一・五糎一四・五糎　原寸一九糎　十行十五字、「義藏之印」「福山(墨印)」「正福(墨印)」
識語　甲陽下山人散人福峰之發的／南松院什昼者也
(江戸時代初期寫　同筆にて全文に朱墨諸點及び細注書入を施す　九三・二—イ三一)

八代詩乘　四十五卷附録二卷　三十一冊　三一三

梅鼎祚(明)編　起欽(明)裁正　萬曆丙午春二月朔自序(六朝詩乘)　唐袋綴　薄砥粉色表紙　間紙を挟む　二四・五糎一六糎　左右雙邊一八・五糎一三糎　有界十行二十字小雙行　目録題書名同(六朝詩乘上・下)　内題「漢魏詩乘巻第一(—二十末巻)・呉詩附」「晉詩乘巻第一(—六)」「宋詩乘巻第一(—四)」「齊詩乘巻第一(—二)」「梁詩乘巻第一(—六)」「陳詩乘巻第一(—二)」「北朝詩乘巻第一(—二)」「隋詩乘巻第一(—三)」「六朝詩乘末巻」　柱刻「八代詩乘　總目全」「漢魏詩乘漢(魏)目(漢巻一—巻十・魏巻一—巻十・末巻・呉詩)」「六朝詩乘序(總録目録上下・晉・齊・梁・陳・隋)(巻數)」「六朝詩乘北巻一魏(巻二齊・巻三周隋巻一—三・末巻)(各巻丁數)」、「蔡齋監定」「宛平王氏家藏」
刊語　(六朝詩乘目録下末)是輯大較以拓於文選約於詩紀昭明而後若增／若廣若外編人各有見予不能盡同也選惟張載／四愁學步平子遺此一篇樂府如郊廟燕射之類／選僅延年登歌三篇事有統屬析則非宜辭多相／仍麗而不典且繁難勝載今並從刪凡茲義例悉／秉府君惟是鼎祚文慙旁豹識淺醯雞既愧小序／卜商之言良負高齋學士之托爾刻成志于蟫隱／居
刊記　萬曆丙午春崇國郡雕
(明版　九三・二—イ三)

分類補註李太白詩　二十五卷　十四冊　闕　三一四

李太白(唐)著　楊齊賢(宋)集注　蕭士贇(元)補注　唐袋綴　改裝後補毘沙門格子地牡丹唐草模様茶色行成表紙　二五・五糎一六・五糎　四周雙邊一九・五糎一二・五糎　有界十二行二十字小雙行二十六字　題簽左肩江戸時代初期筆「李太白詩目録(一—二十五止)」　柱刻細黑口「李詩註目録(巻一—巻二十五)(但し巻初巻末

の葉には第二十・二十一卷を除き柱刻の文字なし）（丁數）」、「米澤藏書」「松迺舍文庫」「三井家鑒藏」等

刊記　（目録末丁雙邊木記）建安余氏／勤有堂刊

（巻末）至大庚戌余志安刊于勤有書堂

（元版　卷一第一・三丁、卷三、卷七第二十丁以下闕　卷一第二十四丁・卷二十五第七至十丁室町時代筆補寫　九三・三―イ六）

○

江湖風月全集　一冊　三二五

松坡（宋）編　袋綴　改裝後補縹色包表紙　用紙裏打　三〇糎二二・五糎　原寸二八・五糎　左右雙邊一九糎一二・五糎　有界八行十七字　四十九丁（別に補紙十三丁）外題左肩後筆「松坡」尾題「江湖風月集」柱刻黑口「江湖（丁數）」、「釋氏子建」

識語　（第二丁表）島田翰彦楨市珠藏明治庚子翰年廿二　（五山版　室町時代筆朱墨書入多し　各所補紙注記多し　巻末に墨書「新編江湖集跋　劉奭子書」「新編江湖集後跋　戊子夏千峯如琬」及び「清拙和尚後跋」一丁を附綴す　九三・三―イ三）

重刊貞和類聚祖苑聯芳集　十卷　五冊　三二六

義堂周信編　嘉慶二年戊辰三月十四日自跋　袋綴　改裝後補栗皮色表紙　二七糎　一八・五糎　左右雙邊二〇・五糎一四・五糎　有界十二行二十三字　外題左肩後補墨「聯芳集」柱刻黑口「貞（一―十跋）（丁數）」、「至　居（墨印）」「積翠軒文庫」

識語　（各巻初内題下）天春之

（五山版　室町時代筆朱墨書入多し　九三・三―イ七）

諸家集註唐詩三體家法　三卷　三冊　三二七

周弼伯弼（宋）編　圓至天隱（元）註　裴庚季昌（元）增註　至大二年重陽日裴庚季昌序　虞叟方回序　至大二年九月日裴瘦次咨　袋綴　改裝後補丹表紙　二七・五糎　一九糎　左右雙邊二一糎一五糎　有界十行二十二字小雙行　綱目題「唐三體詩註」　諸例題書名同　内題「增註唐賢絶句三體詩法卷之一（唐賢七言律詩三體家法卷之二・增註唐詩五言律句三體家法卷之三）」　柱刻黑口「初序（序・圖・諸例・年・名目等）　一（―三）（丁數）」、「黃龍窟藏（墨印）」「石井氏藏書記」「積翠軒文庫」

（五山版　箱書に「明應槧本三體詩」とあり　九三・三―イ一）

中州集　十卷中州樂府一卷　十一冊　三二八

元好問（金）編　十月二十有二日自引　四月望日張德輝序　袋綴　毘沙門格子花模様朱臘箋表紙　用紙裏打　二四糎一五糎　左右雙邊一九・五糎一二・五糎　有界十五行二十八字　題簽左肩後補墨「（書名同）　總目（一―十）」　目録題「乙卯新刊中州集」　内題「中州甲（―癸）集第一（―第十）」「中州樂府」　柱刻黑口「中州一（―十）・中州樂（詞等）（丁數）」

箱書　（表）全拾壹冊／金詩中州集／崇蘭館藏

（同裏紙箋）中州集　乙卯新刻金章宗明昌六年／序文　壬辰　金世宗大定十二年／己酉　同上大定廿九年／明昌六年乙卯ハ／宋寧宗慶元ニ年／本朝後鳥羽天皇建久六年ニ當／今明治十一年〇六百八十四年ニナル

（五山版　卷一第二十一・二十二丁闕　九三・三―イ五）

○

遺山樂府　三卷　三冊　三二九

元好問（金）著　十月五日自序　弘治紀元之五年壬子重易後一日李宗準跋　朝鮮袋綴　改裝後補毘沙門格子牡丹唐草模様黃行成表紙　用紙裏打　二〇・五糎一五・五糎　原寸一九・五糎　四周雙邊一五・五糎一二糎　有界十行十七字　外題左肩後筆「（書名同）　上（―下）」　柱刻黑口「遺山上（―下・跋）（丁數）」、「納堂」「大慈館」「江戸下谷金楊壽永寺藏書不許賣買」等

（朝鮮版　跋に云「前略於是就舊本考校殘文誤／字謄寫淨本遂嘱晉州慶牧／使粧繡梓下略」　九三・七―イ二）

白雪齋選訂樂府吳騷合編　四卷　八冊　三一〇

張楚叔・張旭初(明)編　唐袋綴　改裝後補縹色表紙　間紙を挾む　二八糎一八・五糎　原寸二五糎　四周單邊二〇糎一四糎　有界九行二十字小雙行　挿畫(卷一)八頁分　(卷二)八頁分　(卷三)十二頁分　(卷四)十二頁分　柱刻「吳騷合編　仙呂卷一(—北商調卷四)　(丁數)」

見返　(四周單邊)(中央)樂府吳騷／(右欄)吳閶次先生論定／(左欄)吳郡綠蔭堂梓／(欄上橫書)盛明雜劇

(明版　各卷內題の次に「虎林／騷隱居士　選訂／半嶺道人　刪訂」とあり　卷初に「衡曲塵譚」・「魏良輔曲律」を附す　本文に評點を附す　九三・七—イ三)

○

新鐫六院女史清流北調詞曲　四卷　四冊　三一一

李雲翔(明)編　天啓內寅歲孟冬月望後自序　雁應石附言凡例及び徵文啓　唐袋綴　改裝後補紺布表紙　用紙白棉紙　間紙を挾む　三〇・五糎一八糎　原寸二六糎　四周單邊二一糎一三糎　八行十八字　挿畫(第一冊)二十頁分　柱刻「北調詞曲(「名姬圖像・徵文啓」　卷一のみ)一(—四卷)　(丁數)　龍光堂藏板」　欄上に評語　本文に評點、「長興山莊藏書印」「小汀文庫」

扉表　(四周單邊)(中央)北調詞曲／(右上)評定全像六院女史清流／(左下)龍光堂雁雲衙梓行

(明版　卷一內題次行に「明／廣陵　爲霖子著品／春殺　方圖甫　批閱」とあり　卷二に詩姬總評、卷三に琴姬總評、卷四に謳姬總評あり　九三・八—イ)

○

歌譯西廂記　寫　二冊　三一二

鹽谷溫著　自筆　昭和戊戌正月自序　和綴　紺布表紙　三一糎二三糎　四周雙邊　二五糎一七糎　十四行三十二字詰「弘道館」原稿用紙　寫眞(上冊)十一葉　(下冊)十四葉　題簽左肩「對譯西廂記　上(下)　節山」　扉題「(書名同)　擬定本」

奥書　八月廿五日天晴氣熱凉風時至脫肌／拭汗揮禿筆正手寫了勞甚快甚／節山七十記

(昭和三十三年養德社刊「歌譯西廂記」原稿　九三—イ一五)

漢元帝孤鴈漢宮秋　一冊　三一三

馬致遠(元)著　唐袋綴　改裝後補金切箔散紺表紙　間紙を挾む　二七糎一六糎　左右雙邊一九・五糎一三糎　有界九行二十字小雙行　十九丁　挿畫四頁分　柱刻「漢宮秋　(丁數)　顧曲齋藏板」

(明版　九三—イ三)

還魂記　二卷　四冊　三一四

湯顯祖(明)著　臧懋循(明)訂　萬曆戊子秋清遠道人序　還魂記色目　唐袋綴　改裝後補深縹色表紙　間紙を挾む　二六糎一六・五糎　左右雙邊一九糎一三糎　有界九行十九字　挿畫(卷初)三十五頁分　柱刻「還魂記　卷上(下)　(丁數)」　欄上に頭注

(明版　序第一丁表・下卷第七十五丁闕、下卷第七十四丁破損　九三—イ四一)

看西廂　寫　六冊　三一五

高國珍(清)著　自筆　乾隆十九年菊月自序　乾隆十九年菊月又自序　唐袋綴　紅色綾表紙　二七・五糎一七糎　四周雙邊(刊)二〇・五糎一四・五糎　八行二十字小雙行

(九三—イ三五)　所收次の如し

看西廂支文節解　(第一冊)

乾隆十九年菊月自序　四十一丁　題簽左肩白紙書名同　柱心「看西廂總叙(讀西廂辨—西廂記支分節解)　(丁數)」

(卷初に「讀西廂辨」一丁・「勸讀西廂文」二丁・「勸細讀西廂文」一丁・讀西廂條例」一丁・「西廂搉録」三丁を附す　內題次行に「山東濟南府齊河縣高國珍註解」とあり)

看西廂句解（第一冊・第二冊）
乾隆十九年自序　九十三丁　題簽左肩白絹書名同　柱心「（書名同）　驚艷（一驚夢）　（丁數）」
（内題次行に「山東濟南府齊河縣高國珍註釋」とあり）
蛇足西廂　二巻（第三・四冊）
乾隆十九年菊月自序　乾隆歳次乙亥暑月初旬又自序　西廂記人物總論　題簽左肩白絹「看西廂蛇足　上（下）巻」　柱心「看西廂記（看西廂蛇足）　人物總論（一驚夢）（丁數）」
（内題次行に「山東濟南府齊河縣高國珍忝註」とあり）
看西廂文評　（第五冊）
乾隆十九年菊月自序　百二十三丁　題簽左肩白絹書名同　柱心「（書名同）　總批（一驚夢）　（丁數）」
（内題次行に「山東濟南府齊河縣高國珍評」とあり）
看西廂碎評（第六冊）
乾隆十九年菊月自序　百十丁　題簽左肩　白絹書名同　内題なし　柱心「（書名同）　驚艷（一驚夢）　（丁數）」
（巻頭に「西廂記題目總名／山東濟南府齊河縣高國珍評」とあり）

元曲選　十集一百巻　八十二冊　三二六

臧懋循（明）編校　萬曆庚寅蒙單閼之歳春上巳日自序　唐岱綴　改装後補深縹色表紙　間紙を挟む　二五糎一五・五糎　左右雙邊二〇・五糎一二・五糎　有界九行二十字小雙行　挿畫（第一至三冊）計二百二十三頁分　序題書名同　目録題書名同　内題「（各曲名）」　柱刻「（書名同）　漢宮秋（一馮玉蘭）　圖（雜劇等）　（丁數）」（九三＋四三）　所収次の如し
甲集上（第四至七冊）
破幽夢孤鴈漢宮秋雜劇　馬致遠（元）著
李太白匹配金錢記雜劇　喬　吉（元）著
包待制陳州糶米雜劇
玉清菴錯送鴛鴦被雜劇
隨何賺風魔蒯通雜劇
甲集下（第七至十一冊）
温太眞玉鏡臺雜劇　關漢卿（元）著
楊氏女殺狗勸夫雜劇　蕭德祥（元）著
相國寺公孫合汗衫雜劇　張國賓（元）著
錢大尹智寵謝天香雜劇　關漢卿（元）著
爭報恩三虎下山雜劇
乙集上（第十二至十五冊）
張天師斷風花雪月雜劇　吳昌齡（元）著
趙盼兒風月救風塵雜劇　關漢卿（元）著
東堂老勸破家子弟雜劇　秦簡夫（元）著
同樂院燕青博魚雜劇　李文蔚（元）著
臨江驛瀟湘秋夜雨雜劇　楊顯之（元）著
乙集下（第十五至十九冊）
李亞仙花酒曲江池雜劇　石君寶（元）著
楚昭公疎者下船雜劇　鄭廷玉（元）著
㶷居士誤放來生債雜劇
薛仁貴榮歸故里雜劇　張國賓（元）著
曲江池雜劇（第二十三至二十六丁を存して前後闕）
裴少俊墻頭馬上雜劇　白　朴（元）著
丙集上（第十九至二十三冊）
唐明皇秋夜梧桐雨雜劇　白　朴（元）著
散家財天賜老生兒雜劇　武漢臣（元）著
硃砂擔滴水浮漚記雜劇
便宜行事虎頭牌雜劇　李直夫（元）著
包龍圖智賺合同文字雜劇
丙集下（第二十四至二十八冊）
凍蘇秦衣錦還鄉雜劇
翠紅鄉兒女兩團圓雜劇　楊文奎（元）著
李素蘭風月玉壺春雜劇　武漢臣（元）著
呂洞賓度鐵拐李嶽雜劇　岳伯川（元）著
小尉遲將鬪將認父歸朝雜劇一卷
丁集上（第二十九至三十三冊）
陶學士醉寫風光好雜劇　戴善夫（元）著

魯大夫秋胡戲妻雜劇　石君寶(元)著
神奴兒大閙開封府雜劇
半夜雷轟薦福碑雜劇　馬致遠(元)著
謝金吾詐拆清風府雜劇
丁集下（第三十四至三十八冊）
呂洞賓三醉岳陽樓雜劇　馬致遠(元)著
包待制三勘蝴蝶夢雜劇　關漢卿(元)著
說鳥諸伍員吹簫雜劇　李壽卿(元)著
河南府張鼎勘頭巾雜劇　孫仲章(元)著
黑旋風雙獻功雜劇　高文秀(元)著
戊集上（第三十九至四十二冊）
迷青瑣倩女離魂雜劇　鄭光祖(元)著
西華山陳摶高臥雜劇　馬致遠(元)著
㓗涓夜走馬陵道雜劇
救孝子賢母不認屍雜劇　王仲文(元)著
邯鄲道省悟黃粱夢雜劇　馬致遠(元)著
戊集下（第四十二至四十五冊）
杜牧之詩酒揚州夢雜劇　喬　吉(元)著
醉思鄉王粲登樓雜劇　鄭光祖(元)著
吳天塔孟良盜骨雜劇　朱　凱(元)著
包待制智斬魯齋郎雜劇　關漢卿(元)著
朱太守風雪漁樵記雜劇
己集上（第四十六至五十冊）
江州司馬青衫淚雜劇　馬致遠(元)著
四丞相高會麗春堂雜劇　王實甫(元)著
孟德耀舉齊案眉雜劇
包龍圖智勘後庭花雜劇　鄭庭玉(元)著
死生交范張雞黍雜劇　宮天挺(元)著
己集下（第五十至五十三冊）
玉簫女兩世姻緣雜劇　喬　吉(元)著
宜秋山趙禮讓肥雜劇　秦簡夫(元)著
鄭孔目風雪酷寒亭雜劇　楊顯之(元)著
桃花女破法嫁周公雜劇　王　曄(元)著
陳季卿悞上竹葉舟雜劇　范　康(元)著
庚集上（第五十四至五十七冊）
布袋和尚忍字記雜劇　鄭庭玉(元)著
謝金蓮詩酒紅梨花雜劇　張壽卿(元)著
鐵拐李度金童玉女雜劇　賈仲名(明)著
包待制智賺灰闌記雜劇　李行道(元)著
崔府君斷寃家債主雜劇
庚集下（第五十八至六十一冊）
㑇梅香騙翰林風月雜劇　鄭光祖(元)著
尉遲恭單鞭奪槊雜劇　尚仲賢(元)著
呂洞賓三度城南柳雜劇　谷子敬(明)著
須賈大夫誶范叔雜劇　高文秀(元)著
李雲英風送梧桐葉雜劇
辛集上（第六十一至六十四冊）
花間四友東坡夢雜劇　吳昌齡(元)著
杜蕊娘智賞金線池雜劇　關漢卿(元)著
王月英元夜留鞋記雜劇　曾瑞卿(元)著
漢高皇濯足氣英布雜劇　尚仲賢(元)著
兩軍師隔江鬬智雜劇
辛集下（第六十五至六十八冊）
馬丹陽度脫劉行首雜劇　楊景賢(元)著
月明和尚度柳翠雜劇　李壽卿(元)著
劉晨阮肇悞入桃源雜劇　王子一(明)著
張孔目智勘魔合羅雜劇　孟漢卿(元)著
玎玎璫璫盆兒鬼雜劇
壬集上（第六十九至七十一冊）
荊楚臣重對玉梳記雜劇　賈仲名(明)著
逞風流王煥百花亭雜劇
秦脩然竹塢聽琴雜劇　石子章(元)著
金水橋陳琳抱粧盒雜劇　孟漢卿(元)著
趙氏孤兒大報讐雜劇　紀君祥(元)著

壬集下（第七十二至七十五冊）
感天動地竇娥冤雜劇　關漢卿（元）著
梁山伯李達負荊雜劇　康進之（元）著
蕭淑蘭情寄菩薩蠻雜劇　賈仲名（明）著
錦雲堂暗定連環計雜劇
羅李郎大鬧相國寺雜劇　張國寶（元）著
癸集上（第七十六至七十九冊）
看錢奴買冤家債主雜劇　鄭廷玉（元）著
都孔目風雨還牢末雜劇　李致遠（元）著
洞庭湖柳毅傳書雜劇　尚仲賢（元）著
風雨像生貨郎旦雜劇
望江亭中秋切鱠雜劇　關漢卿（元）著
癸集下（第七十九至八十二冊）
馬丹陽三度任風子雜劇　馬致遠（元）著
薩眞人夜斷碧桃花雜劇
沙門島張生煮海雜劇　李好古（元）著
包待制智賺生金閣雜劇　武漢臣（元）著
馮玉蘭夜月泣江舟雜劇
（明版　序文第一丁、第十四冊第三十四丁、第十八冊第三十五丁、第三十二冊第三十六丁、第四十二冊第二十四丁、第五十二冊第五十六丁、第五十八冊第五十五丁、第七十八冊第三至五丁、第八十二冊第三十九丁計十一丁補寫　欄上に墨書頭注本文に評點等あり）

元本出相北西廂記　二卷釋義一卷會眞記一卷　四冊　三二七

王實甫・關漢卿（元）著　王世貞・李贄（明）評　（會眞記）元稹（唐）著　唐袋綴　薄茶色表紙　間紙を挾む　二七・五糎一五・五糎　四周單邊二〇糎一三・五糎　有界十行二十二字小雙行抵一格　挿畫（上卷）二十一頁分　（下卷）二十頁分　外題左肩鹽谷温筆「新校北西廂記　卷一（一—四）（右肩に）元本出相北西記　（中央に）上卷上（自第一齣至第五齣）（一下卷（自第十一齣釋義至第二十齣會眞記）」　目録題書名同　内題なし　柱刻「卷上（下）・釋義・釋義北）　（丁數）」　欄上に評語　本文に評點
（明版　卷初に「新校北西廂記考」あり　九三一—一三五）

四聲猿　一冊　三二八

徐渭（明）著　袁宏道（明）評點　傑瑞先（明）引　唐袋綴　薄茶色表紙　二六・五糎一六糎　四周單邊二一糎一四糎　有界九行二十字　九十丁　挿畫八頁分　内題「徐文長四聲猿」　柱刻「徐文長文集　（傳・四聲猿引・四聲猿）（丁數）」、「枕山書房」「槐南詩料」「森寶書」等
（明版　巻初に陶望齡及び袁宏道著徐渭傳あり　「玉樓春色」　畫中に「古歙汪修畫」とあり　九三一—一三）

重刊五色潮泉挿科増入詩詞北曲勾欄荔鏡記戲文　二冊　三二九

唐袋綴　改裝後補丹表紙　用紙裏打　二三糎一五・五糎　四周單邊二一糎一二・五糎　上欄（三糎）有界十四行五字　中欄（五・五糎）各頁挿畫あり　下欄（一二・五糎）有界十一行十六字小雙行　題簽左肩墨「班曲荔鏡戲文　上（下）」　柱刻「荔鏡記（上冊の第五・六・三十一・三十二丁にのみ刻）（丁數）」、「千葉文庫」「小汀氏藏書」等
刊語　重刊荔鏡記戲文（計有二百五葉）／因前本荔枝記字多差／訛曲文減少今將潮泉／二部增入顏臣勾欄詩／詞北曲校正重刊以便／騷人墨客閑中一覽名／曰荔鏡記買者須認本／堂余氏新安云耳／嘉靖丙寅年
（明版　神田博士還曆記念書誌學論集所収呉守禮「現存最早的閩南語文獻　荔鏡記戲　文研究序説」—参照　九三一—一五）

重校北西廂記　二卷附録一卷　二冊　三三〇

王實甫・關漢卿（元）著　李贄（明）評　總評　唐袋綴　薄茶色表紙　用紙裏打　二三糎一四糎　四周雙邊二〇糎一二糎　本文（一八糎）有界十行二十六字小雙行　眉欄（二糎）評語　挿畫（上卷）十七頁分　（下卷）二十頁分　外題左肩後筆「李評西廂記　上（下）」　尾題（下卷）「西廂記」　柱刻「西廂記附録（西廂記）　上（下）（丁數）」
見返　李卓吾先生／批評西廂記／（中央下に）三槐堂藏板
識語　（第一冊裏見返）元人之戲曲傳記中。西廂并。琵琶／之二編者千古之奇作。

萬世戲曲之／長興。生從幼傳奇好。長而小說／家御身仕思所卷尾ニ記／湖上漁父

（第二冊裏表紙）湖上擁書樓唐本小說藏書生／吳湘生　湖蝶生　認藏之

（明版　九三—イ三）

嘯餘譜　十卷　十冊　三三

程明善（明）編　馬鳴霆序　萬曆己未仲夏之吉自序　唐袋綴　白茶色表紙　二六・五糎一七糎　四周單邊二〇・五糎一四・五糎　有界九行二十字小雙行　序題書名同　凡例題書名同　內題なし　柱刻「（上象鼻に）（書名同）卷一（—十）（內容見出）（丁數）」

（明版　九三—イ三九）

新校注古本西廂記　五卷　六冊　闕　三三

王實甫・關漢卿（元）著　王驥德（明）校注　萬曆甲寅春日伯良（王驥德）自序　唐袋綴　改裝後補紺表紙　間紙を挾む　二九・五糎一九糎　原寸二六糎　四周單邊二一糎一三・五糎　有界十行二十字小雙行　挿畫（第一冊）計四十四頁分　柱刻「校注古本西廂記　卷一（—五）（丁數）　香雪居」　欄上に評語　本文に評點、「河東伯子」等

（明版　卷六闕　內題の次に「元大都王實甫編／明會稽方諸生校注／明／山陰徐渭附解／吳江詞隱生評／古齊謝伯美／山陰朱朝鼎同校」とあり　第一冊卷末に「永興祭迦陵寫」とあり　民國十八年北平富晉書社東來閣書店影印本—參照

九三—イ二九）

新刻出像點板時尚崑腔雜曲醉怡情　八卷　八冊　三三

菰蘆釣叟（清）編　序　唐袋綴　改裝後補白茶色表紙　間紙を挾む　二七糎一七糎　原寸二四糎　四周單邊二一糎一三糎　十行二十五字小雙行　挿畫（第一冊）八頁分　序題「醉怡情雜劇」　目録題「新刻出像點板時尚崑腔雜出醉怡情」　柱刻白口「（曲名見出）（丁數）　卷一（—八）」

見返　（四周單邊）　（中央）醉怡情／（右欄）新訂繡像崑腔雜曲／（左欄）從來才子胸襟。常寓意于傀儡。文人筆墨。尤精工於艷製。但繁／詞雜以遍閱。而窺豹不妨一斑。本坊特嚴加刪訂。取其詞調清／新刻畫最工者。以登梨棗。使演習者。揣摩曲至旁觀者。間觀起／舞。識字內之奇觀。詞壇之勝覽也。識珍者之。／古吳致和堂梓

（清版　九三—イ九）

西廂記　五卷附會眞記一卷元人增對奕一卷　四冊　三三四

王實甫・關漢卿（元）著　（會眞記）元稹（唐）著　凌蒙初（明）校注　即空觀凡例　唐袋綴　薄茶色表紙　二六糎一七糎　左右雙邊二〇糎一四糎　八行十八字　挿畫（第一冊）二十頁分　題簽左肩黃絹朱字「西廂」　柱刻「（書名同）一（—五）（丁數）　西廂附（會眞記）（丁數）」　欄上に評語　行間に批點・校注（朱刻）

（明版　朱墨套印本　各卷末に解證を附す　原刻の朱句點を施す　「老夫人閑春院」畫に「新安黃一彬刻」、「張君瑞慶團圓」畫に「吳門王文界寫」とあり

九三—イ二）

西廂記　五卷附會眞記一卷元人增對奕一卷　十二冊　三三五

王實甫・關漢卿（元）著　（會眞記）元稹（唐）著　凌蒙初（明）校注　即空觀凡例　唐袋綴　改裝後補金切箔散紺表紙　用紙白棉紙　間紙を挾む　二九・五糎一八・五糎原寸二六糎　左右雙邊二〇糎一四糎　八行十八字　挿畫（第一冊）二十頁分　柱刻「（書名同）一（—五）　會眞記（西廂附）（丁數）」　欄上に評語　本文に批點・校注（朱刻）

（明版　朱墨套印本　各卷末に解證を附す　原刻の朱句點を施す　「老夫人閑春院」畫に「新安黃一彬刻」、「張君瑞慶團圓」畫に「吳門王文界寫」とあり

九三—イ二）

盛明雜劇　二集三十種　十二冊　三三六

沈泰（明）等編　己巳秋日袁晉序　唐袋綴　改裝後補深縹色表紙　間紙を挾む　二九・五糎一七・五糎　原寸二六・五糎　左右雙邊二〇糎一三・五糎　有界九行二十字　挿畫（第一冊）六十頁分　內題（第十二冊）「十種曲」　柱刻「（上部に）風月牡丹仙（—相思譜等曲名）（丁數）」　欄上に眉評　本文に評點

（明版　第五冊「丹桂鈿合」・第十二冊「逍遙遊」・「相思譜」影寫　別に「盛明雜劇二集」四丁を鉛筆にて影寫し附す　九三—イ四五）

所収次の如し

第二冊
風月牡丹仙　朱有燉(明)著　沈泰・徐士俊(明)評
香囊怨　朱有燉(明)著　沈泰・徐士俊(明)評

第三冊
武陵春　許潮(明)著　沈士俊(明)評　黃嘉惠・程羽文(明)閱
蘭亭會　楊慎(明)著　沈泰(明)評　朱燁・黃之堯(明)閱
寫風情　許潮(明)著　黃嘉惠(明)評　沈士俊・王象坤(明)閱
午日吟　許潮(明)著　黃嘉惠(明)評　沈一驄・黃士佳(明)閱

第四冊
南樓月　許潮(明)著　朱燁(明)評　卓人月・張鵬擧(明)閱
赤壁遊　許潮(明)著　黃嘉惠(明)評　汪楷・牛斗星(明)閱
龍山宴　許潮(明)著　黃嘉惠(明)評　王元功・錢肇科(明)閱
同甲會　許潮(明)著　沈士俊(明)評　沈士伸・黃之禧(明)閱
易水寒　葉憲祖(明)著　王璣(明)評　朱燦・葉蔚(明)閱

第五冊
夭桃紈扇　葉憲祖(明)著　沈泰(明)評　葉體仁・沈維垣(明)閱
碧蓮繡符　葉憲祖(明)著　張佩玉(明)評　葉澐・陳新(明)閱
丹桂鈿合　葉憲祖(明)著　黃之堯(明)評　黃之城・姚士望(明)閱

第六冊
素梅玉蟾　葉憲祖(明)著　沈泰(明)評　汪楷・姚文謨(明)閱
有情癡　徐陽輝(明)著　沈泰(明)評　張亦臨・陳雲瑞(明)閱

第七冊
脫囊穎　徐陽輝(明)著　汪楷(明)評　黃之珪・汪爾瑚(明)閱
曲江春　王九思(明)著　沈士伸(明)評　童漸逵・朱燜(明)閱

第八冊
魚兒佛　湛然(明)著　寓山居士(明)重編　袁晃公(明)批點
沈林宗(明)參評
雙鶯傳　袁于令(明)著　武功山人(明)評

第九冊
不伏老　馮惟敏(明)著　栩菴居士(明)評　丁必成・馮士熬(明)閱
虬髯翁　淩濛初(明)著　汪楷(明)評　沈維垣・穆四維(明)閱

第十冊
英雄成敗　孟稱舜(明)著　汪楷(明)評　沈時佑・曹兆龍(明)閱
紅蓮債　陳太乙(明)著　如道人(明)評

第十一冊
絡冰絲　徐士俊(明)著　沈泰(明)評　周朗・徐翊(明)閱
錯轉輪　祁元孺(明)著　醉鶴居士(明)評
蕉鹿夢　車柅齋(明)著　林宗氏(明)評

第十二冊
櫻桃園　王澹翁(明)著　如道人(明)評
逍遙遊　王雲來(明)著　黃嘉惠(明)評　陳節・王光陛(明)閱
相思譜　吳中情奴(明)著　巫山散人(明)評

墳詞 蝴蝶夢　寫一冊　三二七

嵐翠子譯　自序　袋綴　薄柿色表紙　二四糎一七糎　十二行　五十四丁　挿畫十頁分　題簽左肩雙邊(刊)黃紙「(書名同)　全」　内題なし「紫景文庫」等
(古典劇大系第十六巻所収青木正兒校訂「胡蝶夢」及び石崎又造著「近世日本に於ける支那俗語文學史」(一)参照　九三(一)—(七))

琵琶記　四巻附録一巻　四冊　三二八

高明(元)著　淩蒙初(明)校　即空觀主人凡例　三珠生跋　唐袋綴　改裝後補紺布表紙　用紙白棉紙　間紙を挟む　二九・五糎一九糎　原寸二六糎　四周單邊二〇糎一四糎　八行十八字小雙行　挿畫十八頁分　柱刻「(上部に)(書名同)　巻一(—四・附録・序等)　(丁數)」　欄上に評語(朱刻)　本文に評點(朱墨印)　四聲校字(朱刻)等、「張侍宸印」「鶴墀」「石氏家藏(此二字陰刻)」等
(明版　朱墨套印本　巻末に「弘治戊午菊花新時白雲散仙書於雙桂堂」の「重訂容嗤琵琶記序」を附す　九三(一)—(七))

琵琶記　三巻釋義一巻　六冊　三二九

高明(元)著　唐袋綴　深縹色表紙　間紙を挟む　二五・五糎一七糎　四周單邊二

一糎 一三・五糎 有界十行二十二字小雙行 挿畫(上巻)二十六頁分 (中巻)三十頁分(下巻)二十六頁分 目録題「元本出相南琵琶記」 尾題(釋義)「新鐫伯喈釋義大全」 柱刻「巻上(一下・釋義)(丁數)」 欄上に頭注
(明版 序文、巻上第二十三・三十一丁、巻中第三十三丁、巻下第十二丁、釋義第十丁闕序文は白紙のまゝにて三丁、本文計五丁分は寫眞にて補ふ 九三—イ九)

李雲英風送梧桐葉 一冊 三四〇

喬夢符(元)著 唐袋綴 改裝後補金切箔散紺表紙 二七糎一六糎 間紙を挟む 左右雙邊二〇糎一三糎 有界九行二十字小雙行 十八丁 挿畫四頁分 柱刻「梧桐葉(丁數) 顧曲齋藏板」
(明版 九三—イ三)

李卓吾批評合像北西廂記 二巻附録一巻 蒲東珠玉集一巻 四冊 三四一

王實甫・關漢卿(元)著 張楷(明)著(蒲東珠玉詩集) 李贄(明)評 重校北西廂記總評 唐袋綴 改裝後補 白茶色表紙 間紙を挟む 二七・五糎一六糎 原寸二四・五糎 四周雙邊二二糎一二糎 本文(一八・五糎)有界十行二十七字小雙行 眉欄(二・五糎)評語 挿畫(上巻)十二頁分 (下巻)十二頁分 (附録)一頁分 外題左肩「鹽谷温筆」重校北西廂記巻一(—四)(右肩に)総説(自第一齣至第十齣 自第十一齣至第二十齣 附録)」 内題(上巻)書名同 (下巻)「新刻李卓吾批評釋義合像北西廂記」 (第四冊附録)「李卓吾先生批評蒲東珠玉詩集」 目録題「重校北廂記」 尾題(上巻)「李先生批評西廂記」 (下巻)「重刻北廂記」 (附録)「李卓吾批評西廂記附録」 柱刻「西廂記(北西廂・西牌附録・蒲東詩) 上(下)巻 (丁數)」
刊記 (蓮牌木記) 皇明萬曆新歳/書林游敬泉梓
(明版 墨書批點書入あり 九三—イ二七)

臨川玉茗堂批評西樓記 二巻 四冊 三四二

袁于令(明)著 湯顯祖(明)評 唐袋綴 改裝後補白茶色表紙 間紙を挟む 二六・五糎一六・五糎 四周單邊二一・五糎一三・五糎 有界十行二十一字 挿畫(上巻巻初に)四頁分 柱刻「西樓記 巻上開宗(—巻下會玉)(丁數)」 欄上に眉評 本文に評點
(明版 巻下第五十五ウ至五十八丁補寫 内題次行に「幔亭儒史編次」とあり 朱墨を以て眉評・旁評・評點等書入あり 九三—イ三七)

六十種曲 百二十冊 三四三

毛晉(明)編 登高日閲世道人演劇首套弁語(第一套) 唐袋綴 白茶色表紙 二五・五糎一五・五糎 左右雙邊一九・五糎一二糎 有界九行十九字 外題(第一冊)左肩墨書名同 目録題書名同 内題「(各曲名)」 柱刻「(書名同)總目(丁數) 汲古閣」「(各曲名)(巻數)(丁數)」、「宜松館藏書(陰刻)」
見返 (第一冊)(四周單邊)(中央)六十種曲/(右欄)汲古閣訂正/(左欄)本衙藏板
(四周單邊)(右欄)繡刻演劇十本/(左欄)第一套/雙珠 尋親 東郭 金雀/焚香 荆釵 霞箋 精忠/浣紗 琵琶
(第二十四冊寅集)(四周單邊)(右欄)繡刻演劇十本/(左欄)第二套/西廂 南/幽閨 明珠 玉簪 紅拂/環魂 紫釵 邯鄲 南柯 西廂北/實獲齋藏板
(第四十三冊辰集)(四周單邊)(右欄)繡刻演劇十本/(左欄)第三套/春蕪 朱玉琴心相如玉鏡灩蝶懐香韓壽/綵毫李白運籌陶侃戀錦杜羔玉合韓翃/金蓮蘇軾四喜宋郊
(第六十二冊午集)(四周單邊)(右欄)繡刻演劇十本/(左欄)第四套/三元 投梭 鳴鳳 飛丸/紅梨 八義 西樓 牡丹/繡襦 青衫
(第八十一冊申集)(四周單邊)(右欄)繡刻演劇十本/(左欄)第五套/錦箋 蕉帕 紫簫 水滸/玉玦 灌園 種玉 雙烈/獅吼 義俠
(第九十九冊戌集)(四周單邊)(右欄)繡刻演劇十本/(左欄)第六套/千金 殺狗 玉環 龍膏/贈書 雲花 白兎 香囊/四賢 節俠
(明版 汲古閣本 第三十二冊還魂記第十三・十四丁補寫 九三—イ四九)
所収次の如し
子集(第一至十二冊)
雙珠記 二巻 沈 鯨(明)著 尋親記 二巻
東郭記 二巻 孫仁孺(明)著 金雀記 二巻
焚香記 二巻 王玉峯(明)著
丑集(第十三至二十三冊)
荆釵記 二巻 寧獻王朱權(明)著 霞箋記 二巻

精忠記 二卷 姚茂良(明)著
琵琶記 二卷 高 明(明)著
寅集(第二十四至三十冊)
西廂記 二卷 李日華(明)著
明珠記 二卷 陸 采(明)著
紅拂記 二卷 張鳳翼(明)著
卯集(第三十二至四十二冊)
還魂記 二卷 湯顯祖(明)著
邯鄲記 二卷 湯顯祖(明)著
西廂記 二卷 王實甫(元)著
辰集(第四十三至五十二冊)
春蕪記 二卷 汪 錂(明)著
玉鏡臺記二卷 朱 鼎(明)著
綵毫記 二卷 屠 隆(明)著
巳集(第五十三至六十一冊)
運 甓 記 二卷
玉合記 二卷 梅鼎祚(明)著
四喜記 二卷 謝 讜(明)著
午集(第六十二至七十一冊)
三元記 二卷 沈受先(明)著
鳴鳳記 二卷 王世貞(明)著
紅梨記 二卷 徐復祚(明)著
未集(第七十二至八十冊)
八義記 二卷 徐 元(明)著
還魂記 二卷 湯顯祖(明)著 碩園(明)刪定
繡襦記 二卷 徐 霖(明)著
申集(第八十一至九十冊)
錦箋記 二卷 周履靖(明)著
紫簫記 二卷 湯顯祖(明)著
玉玦記 二卷 鄭若庸(明)著
酉集(第九十一至九十八冊)
灌園記 二卷 張鳳翼(明)著

浣紗記 二卷 梁辰魚(明)著
幽閨記 二卷 施 惠(元)著
玉簪記 二卷 高 濂(明)著
紫釵記 二卷 湯顯祖(明)著
南柯記 二卷 湯顯祖(明)著
琴心記 二卷 孫 柚(明)著
懷香記 二卷 陸 采(明)著
鸞鎞記 二卷 葉憲祖(明)著
金蓮記 二卷 陳汝元(明)著
投梭記 二卷 徐復祚(明)著
飛丸記 二卷
西樓記 二卷 袁于令(明)著
青衫記 二卷 顧大典(明)著
蕉帕記 二卷 單 本(明)著
水滸記 二卷 許自昌(明)著
種玉記 二卷 汪廷訥(明)著

雙烈記 二卷 張四維(明)著
義俠記 二卷 沈 璟(明)著
戌集(第九十九至百八冊)
千金記 二卷 沈 采(明)著
殺狗記 二卷 徐 畷(明)著馮夢龍(明)訂定
玉環記 二卷 龍膏記 二卷 楊 珽(明)著
贈書記 二卷
亥集(第百九至百二十冊)
曇花記 二卷 屠 隆(明)著 白兎記 二卷
香囊記 二卷 邵 璨(明)著 四賢記 二卷
節俠記 二卷

獅吼記 二卷 汪廷訥(明)著

六十種曲 百二十冊 三一四四

毛晋(明)編 唐袋綴 幹色表紙 二四糎一五・五糎 左右雙邊一九・五糎一二糎有界九行十九字 内題「(各曲名)」 柱刻「(各曲名)(卷數)(丁數)」
見返 (第二十一冊寅集)(四周單邊)(右欄)繡刻演劇十本/(左欄)第二套/西廂南 幽閨 明珠 玉簪 紅拂/還魂 紫釵 邯鄲 南柯 西廂北/實獲齋藏板
(第四十一冊辰集)(四周單邊)(右欄)繡刻演劇十本/(左欄)第三套/春蕪 朱玉琴心相如玉鏡溫嶠懷香韓壽/綵毫 李白運甓 陶侃鸞鎞 杜羔玉合韓翊/金蓮 蘇軾四喜 宋郊 (第六十一冊 午集)(四周單邊)(右欄)繡刻演劇十本 (左欄)第四套/三元投梭 鳴鳳 飛丸/紅梨 八義 西樓 牡丹/繡儒 青衫
(第八十一冊申集)(四周單邊)(右欄)繡刻演劇十本/(左欄)第五套/錦箋 蕉帕 紫簫 水滸/玉玦 灌園 種玉 雙烈/獅吼 義俠
(第百一冊戌集)(四周單邊)(右欄)繡刻演劇十本/(左欄)第六套/千金 殺狗 玉環 龍膏/贈書 曇花 白兎 香囊/四賢 節俠
(明版 汲古閣刊 内容細目 三一四三に同 九三一—イ五一)

○

開元天寶遺事 寫 二卷 一冊 三一四五

王仁裕(五代)著 自序 袋綴 代赭色表紙 二六・五糎二二糎 十五行二十二至

二十六字　二十丁　題簽左肩書名同
（室町時代中期寫　帙に「吉田家舊藏本」とあり　九三—イ三）

警世通言　二十四巻　十二冊　三四六

馮夢龍（明）著　天啓甲子臘月無礙居士序　唐袋綴　改裝後補金砂子散紺表紙　間紙を挟む　二七糎一六糎　原寸二三・五糎　四周單邊二〇糎一三糎　十行二十字挿畫（各巻）二頁分　目録題書名同　内題なし　柱刻「警世通言　巻一（—二十四）（丁數）」　欄上に評語　本文に評點
見返　（右欄）警世通言／（左欄）自昔博洽鴻儒兼採稗官野史而通俗演義一種尤／便於下里之耳目奈射利者嗤取淫詞大傷雅道本／坊恥之茲刻出自平平閣主人手授非警世勸俗之／語不敢濫入庶幾木鐸老人之遺意或亦士君子所／不棄也　蘐林衍慶堂謹識
（明版　序文第五・六丁、巻十七第二十三丁補寫　目録題次行に「可一居士評／墨浪主人較」とあり　九三—イ七）

刻按鑑通俗演義列國前編十二朝　四巻　二冊　三四七

餘象斗（明）著　崇禎二年夏五月日序　求亂仙降書弁附録　唐袋綴　改裝後補雲形模様薄納戸色表紙　二四・五糎一四糎　四周單邊一九・五糎一一糎　上圖（六・五糎）下文（一三糎）　有界九行十七字小雙行　挿畫（巻一）十八頁分　（巻二）二十頁分　（巻三）十四頁分　（巻四）十二頁分　内題（巻三）「刻按鑑通俗演義列國前編十二朝傳」　柱刻「十二朝列國前編（巻數）　（丁數）」、「芸叢之印」「櫻谷文庫」等刊記　（内題次行）　閩雙峰堂　西一　三台舘　梓行
（明版　九三—イ三）

三遂平妖傳國字評　寫　一冊　三四八

瀧澤馬琴著　袋綴　薄茶色表紙　二六糎一八糎　十一行　四十四丁　外題左肩小津桂窓筆「（書名同）稿本　全弖」　内題「三遂平妖傳」、「西荘文庫（小津桂窓筆「花百一全二」と墨書せる紙箋に捺印）」
（内題次行に「東原羅貫中編次／錢塘王慎修校梓」とある明版二十回本をテキストとす　巻末に「或問再評」「李魚羹姓名追評」あり、原に「天保四年夏肆月十八日曲亭蟲史稿」と奥書あるものの寫　ビブリア第七・九號所収木村三四吾「西荘文庫の馬琴書翰」—参照　九三—イ三五）

鐘伯敬先生批評三國志　二十巻　二十冊　三四九

羅本（明）著　鍾惺（明）評　陳仁錫（明）校　唐袋綴　改袋後補澁刷目表紙　用紙裏打　二五糎一四糎　四周單邊一九・五糎一二糎　十二行二十六字　題簽左肩單邊（刊）墨「三國志　一（—二十）（第一冊のみ書名下に「鐘伯敬評　陳仁錫閱」と記す）」　柱刻「批評三國志　巻之一（—二十）（丁數）」　欄上に頭注、「函碕文庫」
（明版　内題次行に「景陵鐘惺伯敬父批評／長洲陳仁錫明父較閱」とあり　九三—イ六九）

新鍥増補全相燕居筆記　七巻　二冊　闕　三五〇

林近陽（明）著　唐袋綴　改裝後補濃紺絹表紙　用紙裏打　二三糎一四・五糎　四周雙邊一八・五糎一一糎　上段（八・五糎）有界十六行十五字　下段（一〇糎）有界十二行十六字　挿畫（各巻上段）十五個　題簽金紙墨「燕居筆記　中（下）」　柱刻「増補全相燕居筆記　判類四巻（—雜居記十巻）（丁數）」
刊記（内題下）萃慶堂　餘泗泉　梓行
識語　此燕居筆記全上中下三冪揃拾巻（但六巻之未不足觀／慶長元丁酉八月日／城和泉安衣惠之／默軒室懶齋（花押）　可考）
（明版　巻一至三闕　内題下行に「閩芝士　林近陽　増補／萃慶堂　餘泗泉梓行」とあり　九三—イ四三）

新刻繡像批評金瓶梅　二十巻　一百回　十二冊　三五一

笑笑生（明）著　美珠客序　唐袋綴　改裝後補白茶色表紙　二六糎一六・五糎　四周單邊二〇・五糎一四糎　十行二十二字　挿畫（第一冊）九十頁分　序題「金瓶梅」　柱刻「金瓶梅　第一（—一百）回　（丁數）」　欄上に眉評　本文に旁評・評點、「中川氏藏」等
（明版　挿畫十頁分闕　第二十九回「潘金蓮蘭湯邀午戰」畫及び第九十七回「假

弟妹暗續鸞膠」畫を補寫　天理大學學報第十五輯所収鳥居久靖「金瓶梅版本考」
—參照　九三三—イ七九）

新刻出像官板大字西遊記　二十巻　一百回　二十冊　三一五二

呉承恩(明)著　華陽洞天主人(明)校　壬辰夏端四日陳元之序　改裝後補毘沙門格子白茶色表紙　二五・五糎一六糎　四周單邊二〇・五糎一三・五糎　有界十二行二十四字　挿畫(巻一)十六頁分（巻二・三・六至十四・十六至十八・二十)各二十頁分（巻四・五・十五・十九)各十八頁分　外題左肩墨「刊西遊記(西遊記)一(—二十終)」内題(巻十二至十六・二十)「新刻官板大字出像西遊記」　尾題(巻一・[六]・七)「出像官板大字西遊記」（巻二・四・十三)「出像西遊記」（巻八)「刻出像西遊記」柱刻「出像西遊記(西遊記)巻之一（丁數)」、「平等心王院」
見返　(四周單邊)刻官板全／像西遊記／（書名の間に）金陵唐氏世德堂校梓
刊記　(各巻第三行)金陵世德堂梓行
（巻九・十・十九・二十）金陵榮壽堂梓行
（巻十六）書林熊雲濱重鍥
識語　(第二冊)（見返）平等心王院藏［槇尾山西明］
（裏見返）槇尾山／西明寺藏／［槇西］
（第九冊裏遊紙）平等心王院（花押）
（第十冊見返）平等心王院
（明版　巻二第二十五・三十九・四十丁、巻三第二十一・六十四丁ウ、巻十五第六十九丁ウ、巻十六第三十一丁、巻十八第六十一丁ウ、巻十九第四十四・五十九・六十丁、巻二十第六十二丁闕　各巻書名に續いて「某字巻之幾」とあれど巻之三「天字」、巻之四「心字」、巻之十四「意字」の各二字を闕く　挿畫は見開二面にて一圖とし、上部に畫題を附す　補刻あり　表紙右肩に「文」と朱書　ビブリア第十二號所収鳥居久靖「天理圖書館藏新刻出像官板大字西遊記覺え書」、同第十三號「新刻出像官板大字西遊記覺え書補訂」—參照　九三三—イ三）

新刻全像三寶太監西洋記通俗演義　二十巻　一百回　二十冊　三一五三

羅懋登(明)著　萬曆丁酉歳菊秋之吉自序　唐袋綴　改裝後補黒表紙　間紙を挾む二五・五糎一七糎　四周雙邊二一糎一三・五糎　有界十二行二十五字　挿畫(各巻)各二十頁分（巻九のみ二十二頁分）　柱刻「出像西洋記　巻之一(—二十)（丁數)」
（明版　序文第一丁闕　目録四丁補寫　内題次行に「二南里人編次／三山道人繡梓」とあり　九三三—イ六七）

新刻全像達磨出身傳燈傳　四巻　一冊　三一五四

朱開泰(明)著　唐袋綴　改裝後補鳶茶色表紙　二三・五糎一四糎　四周雙邊二〇糎一一・五糎　上圖(七糎)下文(一三糎)有界十行十七字　七十九丁　外題中央墨「達磨出身傳」　内題(巻一・三)書名同　(巻二)「新鍥全像達摩出身傳燈傳」（巻四)「新刻達摩傳燈傳」　尾題(巻二)「新鍥全像達摩傳」（巻三)「新刻達摩傳」（巻四)「新刻達摩出身傳」　柱刻「達摩全(祖)傳　乙(—四)巻」「愚齋圖書館藏」
刊記　(巻一内題次行)書林　麗泉　楊氏梓行
（巻二・三内題次行）書林清白堂　楊麗泉　梓行
（明版　巻三内題次行に「逸士　朱開泰　修選」とあり　巻一第二十二丁闕巻二第五丁裏、巻第三第五・六丁破損　九三三—イ八一）

新鋟全像大字通俗演義三國志傳　九巻　四冊　闕　三一五五

歳在屠維季冬朔日李祥序　全漢總歌　新鐫全像三國志傳君臣姓氏附録　唐袋綴　毘沙門格子地花模様柿色臘箋表紙　二五糎一五・五糎　四周單邊二〇糎一二・五糎　上圖(五糎一一糎)下文十五行二十五字(左右各一行は三十三字)　題簽左肩後補雙邊(刊)墨「三國志傳　喬(飛・戻・淵)」見返「(上欄横書)喬山堂／(中央に)鐫圖像／三國志／(書名の間に)劉龍田梓」　柱刻「出像三國志傳　巻之一(—廿)（丁數)」　各圖欄上に説明を横書
刊記　(内題次行)書林　喬山堂　梓行
（巻二十末）(雙邊木記)閩書林劉龍田梓行
（明版　巻一至六・十八至二十を存す　九三三—イ六五）

新鐫朱蘭嶼先生批評三教開迷歸正演義　二十卷一百回　十冊　三一五六

潘鏡若(明)著　朱之蕃(明)評　朱之蕃序　自序　顧起鶴引　跋　唐袋綴　改裝後補布目薄緑色表紙　二六・五糎一六・五糎　四周單邊(又は四周雙邊・左右雙邊等)二〇・五糎一三糎　本文(一九糎)十一行二十二字　眉欄(一・五糎)評語　外題左肩後筆「三教開迷」　尾題(巻一)「三教演義」(巻二)「三教開迷演義」(巻七・九・十四至十七・十九・二十)「三教開迷歸正演義」(巻八)「新刻陳眉公批評三教開迷歸正演義」　柱刻「開迷歸正演義　巻一(—二十)(丁數)」　本文に評點、「橋本藏書」

刊記　(第一冊本文第四行)　白門萬卷樓梓行

(明版　第一冊表紙右肩に「共十本」と墨書　巻一内題次行に「九華潘鏡若編次／蘭嶼朱之蕃評訂／白門萬卷樓梓行」とあり　ビブリア第十六號所収　澤田瑞穂「三教思想と平話小説」—參照　九三—イ三)

新鐫全像通俗演義隋煬帝艷史　八卷　四十回　十二冊　三一五七

齊東野人(明)著　不經先生批評　崇禎辛未歲清和月野史主人序　咲癡子序　崇禎辛未朱明既望委蛇居士題辭　隋艷史爵里姓氏　唐袋綴　黄茶色表紙　二四・五糎一六糎　四周單邊二〇糎一三糎　九行二十字　挿畫(第一・二冊)計八十頁分(各畫に題辭を附す)　序題「艷史」　目録題「隋煬帝艷史」　柱刻「艷史一(—四十)回　(丁數)」　本文に傍評・批點

(明版　巻一至七各巻末に總評あり　青墨にて句讀點、朱にて四聲を施す　内題次行に「齊東野人編演／不經先生批評」とあり　九三—イ五)

新鐫批評出相韓湘子　三十回　六冊　三一五八

楊爾曾(明)著　天啓癸亥季夏朔日煙霞外史序　唐袋綴　白茶色表紙　二四・五糎一五・五糎　左右雙邊一九・五糎一三糎　有界十行二十二字　挿畫(第一冊)三十二頁分　見返「韓湘子全傳／(右欄に)新鐫繡像／(左欄に)金陵九如堂藏板」　柱刻「韓湘子　第一(—三十)回　(丁數)」

(明版　内題次行に「錢塘　雉衡山人　編次／武林　泰和仙客　評閲」とあり　九三—イ三)

新鐫批評人中畫　寫　十五卷　五冊　三一五九

琉球袋綴　共表紙　二三・五糎一三・五糎　八行二十字　外題左肩「人中畫　風流配(—裏徹骨)」、「西田鐫印」

識語　(表紙右下)　梁依範

(清時代末期寫　琉球寫本　各表紙左下に「共五本」とあり　後筆にて頭注・傍注を施す　別に外題「人中畫　李天造　狹路逢」、右下に「梁兆麟」、左下に「共五本」とある巻七に當る別筆寫本一冊を附す　九三—イ五)

新鐫陳眉公先生批評春秋列國志傳圖　十一卷　二冊　闕　三一六〇

唐袋綴　改裝後補茶色表紙　二五・五糎一六・五糎　四周雙邊二三糎一四糎　外題左肩墨「列國志傳圖　上(下)」　内題なし　柱刻「批評列國志傳　二(—十二)」　巻像(丁數)」、「宇津岡氏圖書之印」

(明版　各巻の畫圖を集めたるものにして、巻一闕、巻七第一丁闕　巻二「武王分土封諸侯」畫に「李青宇鐫」、十二「秦王計併六國」畫に「劉鐫」とあり　薄井君入營記念會編「明清挿圖本圖録」—參照　九三—イ五)

新編醉翁談錄　二卷　二冊　三一六一

羅燁(宋)著　唐袋綴　改裝後補花模様雁箋朱表紙　二四・五糎一四・五糎　左右雙邊一四糎九・五糎　有界十一行二十字　内題「(書名同)　巻之一(—二)」　(下に)「甲(—癸)集(陰刻)」　尾題「(書名同)甲(—乙)集　巻之一(—二)」(丙以下は内題と同)　柱刻黒口「炎甲(乙—癸)(巻數)(丁數)」、「伊達伯觀瀾閣圖書印」

(宋版　闕畫—構　覯　溝等　昭和十五年文求堂刊影印本—參照　七三—イ七)

(重文)

水滸後傳　十卷　四十回　十冊　三一六二

陳忱(明)著　蔡界(清)評　乾隆三十五年歲次庚寅評者序及讀法　唐袋綴　白茶色

表紙　二二・五糎一五・五糎　左右(四周)雙邊等一九糎一二糎　九行二十五字小雙行　外題左肩瀧澤馬琴筆「(書名同)第一回至第四回(一第卅七回至第四十回)　一(—十止)」　柱刻「(書名同)卷一第一回(—卷十第四十回)(丁數)」　本文に評點

見返　(黄紙四周雙邊)(中央)重訂水滸／後傳／(右欄)秣陵蔡元放批評

識語　(卷首末)(瀧澤馬琴筆朱書)著作堂主人云、原本八卷、蔡昇釐爲十卷明萬曆戊申秋抄、鴈宕山樵自序、／并古宋遺民僞序有之、蔡昇重刻時、削去舊序二編、而附載自／己序文、是故使原本開鐫歳月、泯滅不傳、此可憾也／、又按、原本毎卷、録署古宋遺民著、鴈宕山樵如左蔡昇以二名爲一人、／所云古宋遺民者僞稱也、然那山樵、明萬曆中人、去宋不近也、昇叨合之以／爲一名、豈有是理、可笑、

(卷一末)(右同筆朱書)是書爲筆工劂人謬是故不可得而讀者多有因以殿村安守／所藏原本先校讐第一卷纔施雌黄了如餘卷異日得閒亦當／校訂焉時文政十三年陽月之吉著作堂主人燈下識

(卷二末)(右同筆朱書)以明萬曆板原本校讐且施點裁畢／時天保二年春三月二十三日也著作堂主人

(卷三末)(右同筆朱書)辛卯春三月念五以明版原／本校訂畢　著作堂主人

(卷四末)(右同筆朱書)以明萬歴板原本校訂畢時辛卯春三月念七著作堂主人識

(卷五末)(右同筆朱書)以明萬曆板原本校讐且施点裁畢／天保二年辛卯春三月二十八日著作堂主人燈下識

(卷六末)(右同筆朱書)以明萬曆板原本校讐且施點裁畢時／天保二年辛卯春三月小盡著作堂主人燈下識

(卷七末)(右同筆朱書)以明板原本校訂且點裁畢時辛卯夏肆月初／二日也著作堂主人

(卷八末)(右同筆朱書)以明板原本校訂且點裁肆時辛卯夏肆月初三著作堂主人燈下識

(卷九末)(右同筆朱書)以明板原本校訂且點裁畢天保辛卯初夏五日著作堂主人識

(卷十末)(右同筆朱書)以明板原本校訂時天保二年辛卯夏四月六日卒業著作堂主人

(帙)此水滸後傳壹帙十卷はもと瀧澤／馬琴翁の藏本なり流傳年を經て／明治十五年九月十一日おのれ購ひ得て文庫／に収る事とは成ぬ其價金十圓なり実に／驚くべきの高價なれど該書の價金三圓／馬琴翁の挍合及藏書なりしを金七圓／とわたくしにふミ分て買求めぬ嗚呼おのれも／一個の曲亭贔負なる哉／壬午意想の九月中の四日の夜樓上の燈下に記す　西田傳(印)

(清版　各巻内題の次に「古宋遺民鴈宕山樵編輯／金陵惑客野雲主人評定」とあり　瀧澤馬琴朱筆にて頭注、本文校合句讀點を施す　帙題簽「後五才子書　全」副題簽瀧澤馬琴筆「水滸／後傳(馬琴藏書印)」、右肩に「イ」と記せる紙箋を貼附　巻首に「金陵惑客野雲主人外書」として「讀法」六丁あり　九二三—イ五二)

西湖佳話古今遺蹟　十六巻首一巻　八冊　三一六三

墨浪子(清)著　康熙歳在昭陽赤奮若孟春陬月望日自序　扶揺子序　唐袋綴　唐草模様薄朽葉色臘箋表紙　二三糎一四糎　四周單邊一八糎一一・五糎　有界九行二十字　挿畫(五色套印)(第一冊)十二頁分(各畫に題辭あり)　外題後筆「西湖佳話　一(—八止)」　柱刻「西湖佳景全圖(各景名)(上象鼻に)西湖佳話　巻一(—十六)(丁數)」、「木氏書印」「葵葭藏書」「勝安芳」「石川氏藏書記」

(清版　各冊末尾に「文化庚午」の朱印を捺す　九二三—イ二九)

醒世恒言　四十巻　十六冊　三一六四

馮夢龍(明)著　可一居士評　天啓丁卯中秋可一居士序　唐袋綴　薄茶色表紙　二三糎一五糎　四周單邊一八・五糎一三糎　十二行二十二字　目録題書名同　内題なし　柱刻「(書名同)　巻一(—四十)(丁數)」

見返(黄紙四周雙邊)醒世恒言／本坊重價購求古今通俗演義一百二十種初刻／爲喩世明言二刻爲警世通言海内均奉爲鄴架／珍玩矣茲三刻爲醒世恒言種種典寔事事奇觀／總取木鐸醒世之意翆前刻共成完璧云／萩林衍慶堂謹識

(明版　目録次行に「可一居士評／墨浪主人較」とあり　九二三—イ五七)

剪燈新話句解　二巻　二冊　三一六五

瞿佑(明)著　尹春年(滄洲)(朝鮮)訂正　林芑(垂胡子)(朝鮮)集釋　朝鮮袋綴　改裝後補砥粉色表紙　二八糎一九・五糎　四周單邊二二糎一七糎　有界十一行二十字小雙行　外題左肩墨「剪燈新話　上(下)」　柱刻白口「上(下)(丁數)」、「積翠軒文庫」

（朝鮮版　内題の次に「山陽瞿佑宗吉著／滄洲　訂正（ママ）／垂胡子　集釋」とあり　九二三—イ四五）

剪燈新話句解　二巻　二冊　三一六六

瞿佑（明）著　尹春年（滄洲）（朝鮮）訂正　林芑（垂胡子）（朝鮮）集釋　朝鮮袋綴　金茶色毘沙門格子摺出表紙　二八糎一九・五糎　四周單邊二三糎一六糎　有界十一行二十字小雙行　題簽後補墨左肩「剪燈新話　上」（下冊闕）　柱刻白口「剪燈上（下）（丁數）」

識語　（朱書）大正癸丑穀雨節　青山觀

（朝鮮版　内題の次に「山陽瞿佑宗吉著／滄洲　訂立（ママ）／垂胡子　集釋」とあり　九二三—イ七三）

剪燈餘話　四巻續集一巻　二冊　三一六七

李昌祺（明）著　劉敬（明）訂　張光啓（明）校刊　何景春（明）同校綉行　永樂庚子春閏正月下澣曽哲棨序　永樂十八年春正月既望王英序　永樂十八年正月朔吉羅汝敬後序　宣德癸丑七月朔旦劉敬序　張光啓序　劉敬跋　唐袋綴　改裝後補鬱金色表紙　二二糎一五糎　四周單邊一八糎一二糎　有界十二行二十二字　（續集）二十三字　外題（下冊）左肩墨「（書名同）三五」　内題（續集）「剪燈餘話續集巻之五」　尾題（巻一）「新刊剪燈餘話」（巻三・四）「新編剪燈餘話」（續集）「新刊剪燈餘話續集」　柱刻黑口「餘話一（—四巻・餘話續五・南陵胡氏家□）（丁數）」、「西莊文庫（小津桂窓筆「月十三全二」と墨書せる紙箋に捺印）」「桂窓」

刊記　（續集巻尾木記）正統壬戌黄氏／集義精舍新刊

（明版　各巻末に刊記文を削りたると思はるる木記を存す　九二三—イ二二）

剪燈餘話巻之一　一冊　三一六八

李昌祺（明）著　劉敬（明）訂定　張光啓（明）校刊　何景春（明）同校綉行　永樂庚子春閏正月下瀚曽棨序　永樂十八年春正月既望王英序　永樂十八年正月朔吉羅汝敬後序　宣德癸丑七月朔劉敬後序　張光啓後序　袋綴　改裝後補海老茶色表紙　二九糎二一糎　四周雙邊二二・五糎一六・五糎　十三行二十字小雙行　三十三丁　題簽左肩後補墨「新編剪燈餘話巻一」　序題・目録題「新編剪燈餘話」　柱刻「餘話序（一巻）（丁數）」、「森氏」「石原文庫」「山岡文庫」

（古活字版　寛永期刊　九二三—イ四七）

通俗好逑傳　寫　二巻　一冊　三一六九

萩原廣道譯　自筆　蒜園主人自序　袋假綴　共表紙　二五糎一七糎　四周單邊一八・五糎一三糎　十一行　六十一丁　外題左肩「飜譯好逑傳草稿一二」　内題「飜譯好（通俗（此二字朱書））逑傳」、「椿山

（内題次行に「明／名教中人編次／游方外客批評／大日本　蒜園主人俗譯（飜（此字朱書））」とあり朱書訂補を施す　九二三—イ一五）

東西兩晉演義　西晉四巻　東晉八巻　紀元傳一巻　十二冊　三一七〇

序　唐袋綴　改裝後補紺表紙　二四糎一五・五糎　四周單邊二〇・五糎一四糎　有界十二行二十四字　眉欄（二・五糎）注釋あり　挿畫（西晉巻一）十二頁分（同巻二）十二頁分（同巻三）十四頁分（同巻四）十六頁分（東晉巻一）十四頁分（同巻二）十六頁分（同巻三）十六頁分（同巻四）十八頁分（同巻五）十六頁分（同巻六）十六頁分（同巻七）十四頁分（同巻八）十四頁分　序題「東西両晉演義」　内題「新鍥重訂出像註釋通俗演義西（東）晉志傳題評巻之一（西晉は—四、東晉は—八）」　柱刻「東西晉志傳・西（東）晉志傳（巻數）（丁數）」

見返　（中央）東西晉演義／（右欄）秣陵陳氏尺蠖齋評／（左欄）帯月樓梓

刊記　繡谷　周氏大業堂　校梓

（明版　内題次行に「秣陵　陳氏尺蠖齋　評釋／繡谷　周氏大業堂　校梓」とあり　東晉志傳巻第一の挿畫「鄧伯道棄子留姪」に「王少淮寫像」とあり　九二三—イ五九）

拍案驚奇　三十六巻　八冊　三一七一

凌濛初（明）著　自序　唐袋綴　改裝後補金砂子散深縹色表紙　間紙を挾む　二三・五糎一七糎　四周單邊二〇・五糎一三糎　十二行二十五字　柱刻「（書名同）

巻一（一三十六）（丁數）」
見返　（四周雙邊）（中央）拍按驚奇／（右欄）姑蘇原本／（左欄）松鶴齋藏版
（清版　九三一—イ七）

李卓吾先生批評三國志　百二十回　二十册　三七三

羅本（明）著　李贄（明）批評　李贄自序　三國志宗寮姓氏　唐岱綴　薄茶色表紙　二五糎一七糎　四周單邊二〇糎一三・五糎　十行二十二字　挿畫（毎回）二頁分計百二十丁　序題「三國志演義」　柱刻「三國志　第一（—一百二十）回（丁數）」、「北村文庫」
（明版　毎回末に總評、又行間に傍評あり　九三三—イ六一）

○

聖宋千家名賢表啓翰墨大全　十七巻　三册　闕　三七三

慶元庚申孟冬之月呉奐然序　唐袋綴　改裝後補茜色表紙　二五・五糎一六・五糎　左右雙邊一九・五糎一二・五糎　十四行二十三字（大字二行分）　題簽左肩後補墨「（宋板）翰墨大全　一二（—十八之廿六）」　柱刻白口（綠黑口の葉あり）「大全序・大全目一（—二十六）（丁數）（上象鼻に字數を刻せる葉あり）」　耳格あり、「惟肖（墨印）」「渓迷堂」「不忍文庫」「阿波國文庫」
刊語　（序文末雙邊木記）嘗謂名實貴相副徒矜其名而／亡其實者世之所忌也書肆前／後所刊例於帙首鋪叙賢哲之／名張大経史之目姑欲眩人耳／目以爲華飾之具今思無補一／切撤而去之君子開巻幸毋以／鳥有先生爲誚識者可不審諸
識語　（巻初）双桂常住（印）
（宋版　巻一至八・十八至二十六を存す　闕畫—慎　敦等　表紙右肩紙箋「文集五」とあり　九三四—イ二）

○

江吏部集　三巻　三册　三七四

大江匡衡著　序　袋綴　茶色表紙　二三糎一六・五糎　六行十三字小雙行　題簽左肩「（書名同）下」（上・中冊闕）、「豊浦學校」「漢學所印」
（江戸時代中期寫　九三四・一—イ七）

惺窩先生文集　寫　五巻首一巻　六册　三七五

藤原惺窩著　冷泉爲經編　同自筆　慶安四歴辛卯九月十二日御製序　袋綴　砥粉色表紙　用紙鳥の子　二八・五糎一九糎　八行十六字　題簽左肩「（書名同）巻首（一—五）」
（草稿　訂正書入多し　内題次行に「從四位上行右近衛權中藤（原）爲將經編／參議從三位兼行右近衛權中將源光國校」とあり　九三四・一—イ九）

草廬襍談　寫　一帖　三七六

青木昆陽著　自筆　元文三年秋九月自序　折本　改裝後補小紋更紗表紙　用紙裏打　二一糎一二糎　天地雙邊一六・五糎一〇糎　八行罫紙　十五折　題簽左肩金單邊絹呉秀三筆「青木昆陽草廬雜談抄」、「呉氏文庫」
（草稿　もと袋綴を現折本に改裝　九三四・一—イ二）

梅溪游記　寫　一帖　三七七

齋藤謙（拙堂）著　小竹・花亭・山陽評　各自筆　梅蕨市川長晝　日野資愛自筆題詩　野村敬齋自筆題辭　山陽外史跋　文政庚寅四月宮埼憲跋　市川長自筆跋　折本　雲母薄鼠色表紙　用紙裏打　二七糎一四糎　四周（藍）單邊一八糎一一・五糎　八行十八字小雙行　二十五折　彩色地圖二頁分　彩色挿畫十四頁分　題簽左肩黄紙「梅溪遊記　全」、「上野藏書」
奥書　文政十三年庚寅二月津藩齋藤謙記
（奥に「梅溪十律」を附載　上部欄外に花亭・小竹・山陽の評言を注し本文に花亭朱・山陽青の圈點を施す　日野資愛題詩の次に「遊梅溪之五月餘如京師持此／冊奉似日野亞相公公覩而嘉之／題此詩還賜焉乃置於巻首以／代序文云／齋藤謙識」とあり　小竹頭書に云「梅溪之勝因此記而顯焉（中略）乃呼酒倚／窓翻此巻而數回讀之姑／慰吾恨也　壬辰二月十二日小竹散人弼書」　九三四・一—イ五）

遍照發揮性靈集卷第五　寫　一冊　三六

空海著　蝴蝶裝　茶色表紙　二六糎一五・五糎　押界二一・五糎一三糎　七行　約十八字　十二丁　外題左肩書名同
奥書　建久五年二月十八日沙門聖賢之
（表紙右）二本之内／建久五年／賢祐
（略々本文同時代筆朱墨諸點あり　九二四・一―イ一九）

本朝文粹卷第十三　寫　一軸　闕　三七

藤原明衡編　巻子本　改裝後補具引茶色表紙　見返銀砂子散　用紙裏打　三〇・五糎五米四二糎　原寸二九糎　天地單邊二五・五糎　一紙四九糎　有界約二十二行　約十九字　題簽後補黄臘箋紙無記　内題なし
（鎌倉時代寫　初行「願文上／神祠修善／賽菅丞相厄願文」至末行「朱雀院平賊後被修法會願文　後江相公」を存す　本文同筆墨諸點を施す　紙背に鎌倉時代筆「付眞言宗取葬所事」あり　九二四・一―イ一三）（重美）

○

燕庭叢稿　寫　一冊　三八〇

劉喜海（清）著　唐袋綴　茶色表紙　二六糎一八糎　左右雙邊一六・五糎一二糎　九行十八字小雙行紫色罫紙　七十七丁　内題なし　綴目（刊）「望漢廬仿汪容甫初刊述學本製箋」
（巻末「龍門訪古記」の末に「道光庚子四月東武劉喜海燕庭」とあり　小口書「全（書名同）」　九二四・二―イ一九）

五百家註音辯昌黎先生文集　四十巻　十五冊　三八一

韓愈（宋）著　魏仲擧（宋）編　袋綴　栗皮色表紙　二九糎二一糎　四周雙邊二二・五糎一六・五糎　九行十七字小雙行　題簽左肩後筆「昌黎文集　一（一冊三之六）」　皆（第十五冊闕　第一冊のみ「都十五冊」とあり）」　柱刻「韓文一（―四十）（丁數）」、「圓融藏」「盛胤之印」
（古活字版　元和寛永期刊　九二四・二―イ二五）

眞文忠公續文章正宗　二十二冊　三八二

朝鮮袋綴　毘沙門格子牡丹唐草模様黄茶色表紙　二六糎一九糎　四周雙邊二二糎一五糎　有界十二行二十字小雙行、「碩水藏書」「岡本藏書記」「閻魔庵圖書部」等
宋之部　二十巻　十一冊（第一至十一冊）
眞德秀（宋）編　嘉靖二十有一年夏五月朔日胡松序　咸淳丙寅正月上日金華倪跋　梁椅跋　鄭圭跋　外題左肩墨「西山續正宗一（―十九之廿終）　一（―十一終）」　柱刻黒口「續文章正宗一（―二十）（丁數）」　綴目（裏上部）「宋」
元明之部　四十巻　十一冊（第十二至二十二冊）
鄭柏（明）編　正稔（明）校　自序　外題左肩墨「續西山正宗一之三（一冊七之四十終）」　柱刻黒口「續文章正宗一（―四壹（―拾壹冊）」　内題「續眞文忠公文章正宗」
十）（丁數）」　綴目（裏上部）「元明」
識語（第十二冊見返附箋）文章正宗續十一冊／續文章正宗十一冊／此ハ諸家ノ書目ニ見當ラズ或ハ支那／ニハ亡佚セシモノカ
（朝鮮銅活字版　九二四・二―イ二）

復初齋文集　寫　四卷　合一冊　三八三

翁方綱（清）著　唐袋綴　改裝後補茶色表紙　原裝白表紙　三〇・五糎一八・五糎　左右雙邊二二糎一四・五糎　十行小雙行二十字詰紅罫紙　百四十一丁　原外題右肩「（書名同）　巻一（―三）」　柱心「（書名同）（下に各文見出しを小記す）」
奥書　（各巻表紙）（巻第一）底本一本　新抄二十八頁／壬戌七月廿五日對起此巻／十八首
（巻第二）底本一本　新抄二十六頁／壬戌七月廿六日對此巻／廿首
（巻第三）底本一本　新抄三十四頁／壬戌七月廿六日對此巻／廿六首
（巻第四）　巻四末寫完（ヒヒヒ）　卅九頁／壬戌七月廿七日對此後皆於底本記之／廿四首　又抄桂作一首　每冊末後
（帙題簽に「覃溪手訂本」とあり　九二四・二―イ五）

文選　六十巻首一巻　三十一冊　三一八四

蕭統(梁)編　李善・呂廷濟・劉良・張銑・李周翰・呂向(唐)注　陳仁子挍補顯慶三年九月十七日李善上文選注表　開元六年九月十日五臣進集注文選表　自序　袋綴　毘沙門格子牡丹唐草模様丹行成表紙　三一・五糎二二・五糎　四周單邊二三・五糎一七糎　十行二十二字小雙行　目録題「増補六臣註文選」　柱刻黑口「文選目録(一―六十)(丁數)」、「青谿書屋」

刊記　寛永二乙丑孟夏上旬日　板行畢

(古活字版　原に「右文選板歳久漫滅殆甚紹興二十八年冬十月／直閣趙公來鎮是邦下車之初以儒雅飾吏事首加／修正字畫爲之一新俾學者開巻免魯魚三豕之訛／且欲垂斯文於無窮云右迪功郎明州司法參軍兼／監廬欽謹書」とある刊語及び「慶長丁未沽洗上旬八蓂　板行畢」とある刊記を移刻す　九二四・二―イ三)

文選　六十巻首一巻　三十一冊　三一八五

蕭統(梁)編　李善・呂廷濟・劉良・張銑・李周翰・呂向(唐)注　陳仁子挍補顯慶三年九月十七日李善上文選注表　開元六年九月十日五臣進集注文選表　自序　袋綴　栗皮色表紙　二八・五糎二〇糎　四周雙邊二五糎一六・五糎　有界十行二十二字小雙行　題簽左肩後補墨單邊青紙「文選六臣註　目録(一之五十九　二―之六十)」　目録題「増補六臣註文選」　柱刻黑口「文選目録(一―六十)(丁數)」

刊記　慶長丁未沽洗上旬八蓂　板行畢

(古活字版　直江版　原に「右文選板歳久漫滅殆甚紹興二十八年冬十月／直閣趙公來鎮是邦下車之初以儒雅飾吏事首加／修正字畫爲之一新俾學者開巻免魯魚三豕之訛／且欲垂斯文於無窮云右迪功郎明州司法參軍兼／監廬欽謹書」とある刊語を移刻　巻三至四及び巻十三至十四の二冊は整版本を以て補冊　第三十冊末に「宋太祖諱匡胤　太宗匡義更名光義又更炅　眞宗諱元侃更恒　仁宗諱禎　英宗諱曙　神宗諱頊　／哲宗諱煦　徽宗諱佶　欽宗諱桓　高宗諱構　／此書以宋刊本字刻之故右等諱字時々畫不全」と墨書入あり　九二四・二―イ五)

文選巻第二十殘巻　寫　一軸　三一八六

蕭統(梁)編　呂廷濟・劉良・張銑・呂向・李周翰(唐)注　巻子本　深緑地唐草織文金襴表紙　見返銀切箔散　二六・五糎一二米九七糎　天地單邊二二糎　一紙五七糎　有界二十四行十五字小雙行

(平安時代中期寫　五臣注　略々同時代筆墨諸點あり　巻首破損ありて初行「玉人李斯之意而後楚王胡亥之聽無」より巻末に至る　末一紙破損甚し　紙背に平安時代筆具平親王撰「弘決外典鈔巻第一」あり　東方文化第三巻第二號所収饒宗頤「日本古鈔文選五臣注殘巻」―参照　九二四・二―イ一三)(重文)

文選集註殘巻　寫　一軸　三一八七

蕭統(梁)編　李善・呂廷濟・劉良・張銑・呂向・李周翰・陸善經(唐)等注　巻子本　改裝後補栗皮色表紙　見返金切箔散　三三糎一米六一糎　臺貼　原寸二八・五糎　天地單邊二二糎　(巻六十一)七〇糎　存二十五行十一字小雙行　(巻二十六)三五糎　存十三行十字小雙行　内題「文選巻第六十一」、「金澤文庫(朱墨兩印)」

(平安時代中期寫　巻六十一初行「空惟蘭逕少行迹玉臺生網絲」至末行「殯宮己肅清松栢轉蕭瑟」、巻二十六初行「觀海齊量登嶽均厚」至末行「内暮帷幄外曜臺階」を存す　巻六十一内題の下切除す　「京都帝國大學文學部景印舊鈔本第九集」―参照　九二四・二―イ九)(重美)

文選集註巻第百十六殘巻　寫　一軸　三一八八

蕭統(梁)編　李善・呂廷濟・劉良・張銑・呂向・李周翰・陸善經(唐)等注　巻子本　改裝後補金銀切箔散朽葉色表紙　見返布目間似合紙　用紙裏打　三〇・五糎一〇米一四糎　天地單邊二一・五糎　一紙五五・五糎　有界二十行十一字小雙行　題簽金切箔散薄鼠色紙無記　内題「文選巻第百十六　梁昭明太子撰　集注」、「傳經盧圖書記」「養安院藏書」

(金澤文庫本　平安時代中期寫　巻初より「褚淵碑文一首並序」の「泰始之初入爲侍中曽不移朔遷吏部尚書是時天歩初夷王途尚阻」までを存す　「京都帝國大學文學部景印舊鈔本第八集」―参照　九二四・二―イ一一)(重文)

老學庵筆記　寫　十巻　四冊　三一八九

陸游(宋)著　袋綴　網目模様小豆色表紙　二六・五糎一八糎　九行二十字　題簽

左肩雙邊「(書名同)　一二天(―八九十久止)」、「瀧澤文庫」「福岡書庫(第四冊巻八至十この印なし)」「西莊文庫(小津桂窓筆「月十三全四」と墨書せる紙箋に捺印)」「桂窓」

識語　(巻一)(瀧澤馬琴筆朱書)文政丁亥仲春草堂偶得連日之閒因加点／以畀兒輩　六十一翁鸞齋解

(巻二)(右同筆朱書)丁亥春二月中旬披閲之間傍訓加点以使兒輩／讀之鸞齋老人

(巻四)(右同筆朱書)文政丁亥仲春加訓点　鸞齋老人

(巻五)(右同筆朱書)文政十年春二月披閲之際加訓点以使讀於／兒輩毎巻往〻有不易讀者無傳寫之誤耶／異日索唐山刻本當比校焉　鸞齋老人解

(巻七)(右同筆朱書)丁亥如月十六日加訓点　鸞齋老人

(巻八)(右同筆墨書)此巻以輪池堂寫本謄寫乃補予所藏缺本以為／全璧時文政乙酉春二月上澣瀧澤解瑣吉再識

(右同筆朱書)丁亥春二月披閲之間施傍訓且加點了／鸞齋老人解再識

(巻九)(右同筆墨書)此巻以輪池堂寫本補予所藏缺本以爲全璧時／文政乙酉年春二月十二日庚午瀧澤解識

(右同筆朱書)丁亥春二月中旬披閲之際施傍訓且加点了／鸞齋老人解再識

(巻十)(右同筆墨書)老學菴筆記十巻其自第八巻而下以輪池堂寫／本謄録之乃補予所藏缺本以爲全璧原本字之／可疑者多有然今不以意改之異日俟善本又當／校訂焉耳／文政八年乙酉春二月十三日卒業　瀧澤解識

(右同筆朱書)丁亥春二月披閲之際施旁訓且加點以便兒曹／本月十日剏發研至是全集方卒業時二十日未／牌前五刻也訓点恐有舛誤矣老眼懶於再讀姑以藏／于架上　六十一翁解再識

(巻十末湖南毛晋有跋本　巻八至十計三巻瀧澤馬琴筆　九二四・二―イ七)

ドイツ文學

フアウスト譯稿等　寫　二十七冊　(三一九〇―三一九七)

森鷗外譯著(第一至十四冊)自筆　洋綴　改裝後補厚紙表紙　用紙西洋紙　二八糎四一・五糎　鉛筆書　(第十五至二十七冊)他筆清書自筆校訂　袋綴　改裝後補茶色表紙　二六・五糎一九糎　四周雙邊二四糎一六・五糎　約十二行

(第十五至二十七冊に就て「鷗外君毎ニ文稿を捨つフアウスト／の飜譯ニ著手されたる頃請／ふニ其稿ハ我か文庫ニ藏せん／事を以てす即ち業成りて後／ち十三巻となして贈られたる／もの此書なり表題と巻中／の朱書とは君か手書なり／大正二年冬　鶴所」とある紙箋を附す)

(九四二―イ一)

所収細目次の如し

*フアウスト譯稿　六冊　(第一至六冊)　三一九〇

題簽中央後補墨「(書名同)　第一部第一(二冊)　(第二部第一(―四)冊)」

*フアウスト考　二冊　(第七・八冊)　三一九一

題簽中央後補墨「(書名同)　第一(二)冊」

*フアウスト作者傳　三冊(第九至十一冊)　三一九二

題簽中央後補墨「(書名同)　第一(―三)冊」

*謎　二冊(第十二・十三冊)　三一九三

題簽中央後補墨「(書名同)譯稿第一(二)冊」　ペン書

*鷗外書翰稿　十六枚　一冊(第十四冊)　三一九四

題簽中央後補墨書名同

明治四年三月五日　福原文藝委員長宛

大正二年一月廿三日　若槻藏相宛

三月三十一日　堀江虎之介宛

大正二年四月十日　富山房宛

大正二年五月六日　藤嶋武二宛

大正二年五月二十六日　横山大觀宛

五月廿八日　誠文堂宛

明治四十五年六月七日　木堂恒次郎宛

大正二年六月十四日　報文社宛

明治四十五年七月八日　平佐男爵夫人宛

大正三年九月廿五日　農商務省臨時博覽會事務員宛　十月廿日　穗積重成宛
大正二年五月三十日　坪内雄藏宛　月日　青山胤通宛
明治四十四年五月　宛名闕　履歷書原稿殘簡　一枚

*フアウスト譯稿　六冊（第十五至二十冊）　三一九五

題簽左肩自筆「フアウスト　第一部上(下)　同　第二部一(一四)　一(一六)」
内題なし

*フアウスト考　三冊（第二十一至二十三冊）　三一九六

題簽左肩自筆「フアウスト考上(一下)　七(一九)」　内題書名同

*フアウスト作者傳　四冊（第二十四至二十七冊）　三一九七

題簽左肩自筆「フアウスト作者傳一(一四)下(一三止)」　内題書名同

ギリシヤ文學

伊曽保物語　寫　三卷　合一冊　三一九八

袋綴　雲紙表紙　二四・五糎一六・五糎　十行　百一丁　題簽左肩澁刷毛目紙
「(書名同)　完」、「三叉松平所藏」
(江戸時代末期寫　九九二―イ七)

伊曽保物語　三卷　三冊　三一九九

袋綴　改裝後補栗皮色表紙　二七・五糎一九・五糎　十二行約二十一字　外題左肩墨書名同　柱刻「イソホ上(一下)(丁數)」、「西莊文庫(小津桂窓筆「花五十三全三」と墨書せる紙箋に捺印)」「兎角菴」
識語　(各卷末)　胤春
(古活字版　元和期刊　第一種本　九九二―イ九)

伊曽保物語　三卷　三冊　三二〇〇

袋綴　改裝後補栗皮色表紙　二六・五糎一七・五糎　十二行二十一字　題簽左肩墨「(書名同)　上(一下)」　柱刻「上(一下)　一(丁數)」
刊記　寛永十六年卯月吉辰
識語　(各卷末)　享保十七壬子年五月十一日　關川平四郎
(古活字版　寛永十六年刊ロ種本　九九二―イ三)

伊曽保物語　三卷　三冊　三二〇一

袋綴　鳳凰唐草模様押紋縹色表紙　二八・五糎一九糎　十二行約二十二字　題簽左肩後補墨「(書名同)　中(下)」(上卷闕)　綴目「上(一下)(丁數)」
識語(第一冊見返)　壹部三冊　福井佐平義眞氏ゟ／渡邊鶴堂求
(各冊末)　三乃うち(三之内)　福佐
(古活字版　寛永期刊　九九二―イ三)

索引

（表音的假名遣五十音順、追番號上のⅠ・Ⅱは稀書目録第一・二輯所収を示す）

ア

愛花人詞……二八三〇
愛香軒哦鼻子……三〇三四
會澤正志齋……四三〇
藹山……一〇六三
安威攝津守守佐……一〇二四
愛染・北斗等御修法記……一五五三
愛猫ノ説（〇八一ｲ九）……Ⅱ二九
青木昆陽……三一七六
青木茂房……四二八
青木夙夜……一六三七
青木四郎兵衛重澄……一三四七
青木敦書……一三七三
青木行方……一〇七七
青木鶖水……二七三〇
青つゝら（九二一・二六ｲ四五）……Ⅱ六四二
〔青葉の笛物語〕（九一三・五ｲ三三）……Ⅰ五五一
青本合卷年表索引（九二三・六四ｲ二九）……二七七七
青柳勝次……四三三
亜槐集（九二一・二五ｲ三）……Ⅱ六三三
赤蝦夷風説考（〇八一ｲ五）……Ⅰ一三
赤坂文庫書目土代稿本（〇一七ｲ一）……Ⅱ三
あかしの三郎（九二三・五ｲ四七）……Ⅱ七八六
あかしの物語（九二三・五ｲ二四九）……二四五三
あかし物かたり下（九二三・五ｲ二五一）……二四五四
あかし物語……二六〇七
赤染衛門集（〇八一ｲ一五）……Ⅱ四九
赤松祐以……八七一
秋篠月清鈔……一八六八
秋篠月清集（九二一・二ｲ一六三）……一八七八
秋　月（九二三・五ｲ四五）……二四五五
秋月物語（九二三・五ｲ二五五）……二四五六
秋成哥反古（九二三・六五ｲ一七）……二八八七
〔秋成詠草〕（九二三・六五ｲ一七）……二八七三
秋成歌帖（九二三・六五ｲ二七）……二八八六
秋成書翰集（九二三・六五ｲ二七）……二九〇八
〔秋成文稿〕（九二三・六五ｲ一七）……二八六七
秋の雲（九二三・六五ｲ一七）……二八七五
秋の雲稿（九二三・六五ｲ二七）……二八七〇
秋の夜おもひを述る歌（九二三・六五ｲ二七）……二八五五
秋夜長物語（九二三・五ｲ九五）……Ⅱ七八七
秋夜長物語古活字版（九二三・五ｲ一三）……Ⅱ七八八
秋夜長物語（〇八一ｲ二一）……一六八
秋の夜長物語（九二三・五ｲ三八三）……二四五七
章　政……一〇六三
秋元小丘……二三五九
秋山玉山……四七〇
商人軍配團（九二三・六二ｲ二五三）……二六六五
〔あく〕金平本（九二一・七ｲ一一五）……二〇一六
悪癖並楹梓篇（四九〇ｲ四一）……一六一七
芥川煥……四七〇、三〇七七
芥川龍之介……二九二五、二九五五、二九五九、三〇一八
芥川龍之介書翰集（九二六ｲ一七）……三〇一八
アグニの神（九二三・七ｲ三三）……二九三六
明鴉墨繪補禮十二編（九二三・六四ｲ二五）……Ⅱ八四八
淺井貞牛……一九三
淺井了意……二四一、二六一七ー九、二六三八、二六四二ー三
朝　風……四三三
あさがほのつゆ（九二三・五ｲ一二五）……Ⅱ七八九
あさがほのつゆ下（九二三・五ｲ六七）……Ⅱ七九〇
朝川鼎……一〇六三
朝川仁平……二八一九
淺草市人會集……三〇五九
あさちか露（九二三・四ｲ三三）……二四四一
朝忠集（〇八一ｲ一五）……Ⅱ五〇
淺埜潛……三〇七七
淺井道有……一〇六三
淺野（彈正少弼）長吉……一〇一五、一〇二四
淺野梅堂（親明）……三六四、一〇六三
〔淺間山噴火被害狀況〕（〇八一ｲ五）……Ⅰ一五七
淺見絅齋……一一〇六
朝山意林庵……二六三三ー四
蘆伊賀……一六八
足利學校遺蹟考餘錄　鷄肋集（三七〇ｲ一一）……二六三一
足利季世記　檜原侯本（三一〇・五ｲ三五）……一〇一〇
足利尊氏……五六七
足利義榮……二三五〇
蘆田金五郎……一〇六三
蘆田寛……一〇六三
あしひき（九二三・五ｲ八五）……二四五八
あしやのさうし等（九二三・五ｲ八七）……二四五九
足代弘訓（權太夫）……一〇六三、一九四九
足代弘訓著書目錄（〇八一ｲ一三）……Ⅱ四四
蘆分船（二九一・四ｲ三九）……Ⅱ三三四
〔飛鳥井蹴鞠道別家願書〕（七八三ｲ一三）……一七六七
飛鳥井雅章……二七六七、二五六四
飛鳥井雅敦……九八〇
飛鳥井雅有……一九二八
〔飛鳥井雅有集〕（九二一・二四ｲ六）……一九二八
飛鳥井雅有日記（九二四・四ｲ一）……Ⅱ八五七
飛鳥井雅親……三八、二三〇六
飛鳥井雅經……二三五六
飛鳥井雅俊……二四七三
飛鳥井雅直……一九一九
飛鳥井雅教……八二七
飛鳥井雅康（宋世・二樂）……一七六八ー九、二三〇四、二三一四
東歌序……二九〇九
吾妻鏡（〇八一ｲ二）……九二
吾妻鏡（二一〇・四ｲ五三）……九九〇
東錦繪（七二一ｲ九）……Ⅱ四二四
東鳧小僧の眞貌稿本（九二三・六四ｲ一一）……Ⅰ六〇〇
〔吾妻里〕（三八七ｲ五九）……二七六
東の春（三八・二ｲ三三）……二三五
安曇篠之進……四五三
阿曽豐元……一〇一五
安藝眞平藩島半平傾城廓苧環三桝他人座臺帳（九二二・六ｲ七五）……二三八
愛宕地藏之物語（九二三・五ｲ二〇三）……二四六〇

あたことたんきりくつはなし（九一七・五―イ三一）……三〇四三
愛宕山惣繪圖……一一八一
あだち三郎右衛門……二一六一
足立正聲……四一八
あた物語奈良繪本（九一三・六一―イ二三）……Ⅱ八二八
敦　盛（九一一・六―イ一七）……Ⅰ四九七
敦　盛（九一一・六―イ六九）……一九八一
篤好随筆（〇九一―イ一三）……Ⅱ八六
篤好文詞（九一一・二―イ一二九）……Ⅱ四七一
阿度留布保流都方前……七七三、七七八
阿奈於加志（九一三・六―イ九）……二五九三
穴太乙麻呂……六六〇―二
穴太記榊原侯本（二一〇・五―イ一三）……一〇一一
姉小路基綱……一九四二、二三六四
阿毗達磨倶舎論巻第廿（一八三―イ一六三）……五六五
阿毗達磨順正理論巻第四十二（一八三―イ一〇一）……五六六
阿毗達磨大毘婆沙論巻第七十六（一八三―イ二一五）……五六七
阿毗達磨發智論巻第九金版（一八三―イ二七五）……五六八
あひるなへ（〇八一―イ一九）……三四〇
あひるのまへ……三〇五九
阿佛假名諷誦（九一四・四―イ三）……Ⅱ八五八
阿佛尼……一二六三、二九九四
安倍小水麻呂……六一五
安部治左衛門……一〇二四
阿部龍平……八二四
阿部櫟齋……一一四八
天草の四郎（九一一・七―イ二九）……Ⅰ四九八
海人手古良集（〇八一―イ一五）……Ⅱ五一
あまのかるも（九一三・四―イ五）……Ⅱ七七七
海士のさへつり（九一一・二六―イ九三）……一九四九
海士の囀序詞（九一一・二七―イ五）……Ⅱ六八五
天野信景……四〇三
あま物語奈良繪本（九一三・五―イ二九）……Ⅰ五五〇
海士物語（九一三・五―イ二七一）……二四六一
雨やとり（九一三・五―イ七七）……Ⅱ七九一
雨夜三盃機嫌（七七一―イ五）……Ⅱ四四五
阿彌陀經講演（〇八一―イ一九）……三一七
阿彌陀瀧遊覧記行（二九一・三―イ七）……Ⅱ三三〇
阿彌陀胸割（九一一・七―イ七）……Ⅰ四九九
阿彌陀胸割（九一一・七―イ一三五）……二〇二五
雨かはつ（九一三・六五―イ二七）……二八三六
雨森太郎兵衛……一〇六三
雨森正弘……三〇七七
あめ若みこ忍び物語上（九一三・五―イ一）……二四六二
文氏墓誌考實……一〇七〇
鮎貝房之進……一八二〇
荒井勘之丞……一一六七
新井君美（白石）……四一〇、四五〇、八一四―五、八一七、一〇六二、一〇九三、一一〇六、一三六九、一五〇七、一七八二
新井白石書翰（二八一―イ一一）……一〇六二
新井白石書翰（二八九―イ一一一）……一〇九三
新井義質……四七〇
〔荒木田氏系圖〕（〇八一―イ五）……Ⅰ五六
荒木田定時……五三〇
荒木田未爵……一九九
荒木田忠仲……五二九―三〇
荒木田嗣興……一九〇二
荒木田延明……一九三九
荒木田久老（宇治五十槻）四二三、一一一四、一八八七
荒木田盛直……五二九
荒木田麗女……四二三、二五九四
荒五郎發心記（九一三・五―イ二三七）……二四六三
嵐吉三良座……二一二三、二一二八
嵐小六……二一五七
嵐三右衛門……二一一六、二一二〇、二一二五、二一六〇
嵐百人髮（七七一―イ一）……Ⅱ四四六
嵐無常物語（九一三・六二―イ九）……Ⅱ八三六
嵐山甫庵……一六三三
在明の別（九一三・四―イ三五）……二四四二
有島武郎……二九五七
有馬温湯記……一三〇
有馬（中務大輔）忠頼……一〇二四
有馬頼篁算書集（四一九―イ一）……Ⅱ四〇二―一一
安房観世音巡拜記（〇八一―イ一九）……三二五
淡嶋五兵衛……一〇一五
安波禮辨紫文譯解（〇八一―イ一）……Ⅰ一七〇
安永五年當社迁宮次第（〇八一―イ五）……Ⅰ三一
〔安永四年大和巡り〕（〇八一―イ五）……Ⅰ三九
安　國（明）……四七
按針之術（四四〇―イ一七）……一五〇九
安政四・五・六詠草（〇八一―イ二九）……三八二
鞍裝古實（三九九・六―イ七）……一三四八
安藤爲章……一〇九四
安藤爲實……一〇九四
〔安藤爲實爲章一家書翰帖〕（二八一―イ二五）……一〇九四
安藤東野……四七〇
安貝那漂流人物器械之圖（二九〇・九九―イ五）……一一二〇
安　連……八六一

イ

飯田武郷……八〇二
爲井童草（七五二―イ一）……一七二三
家之無類作集（七一五―イ一）……一六六八
家之無類作集（七一五―イ五）……一六六九
猪飼敬所（彦博）……二三〇、一〇六三
醫學源流……一六二八
畏寒具汚帳（七二一―イ一五）……Ⅱ四二五
怡顔齋東遊日件記（四六〇―イ三）……一五六二
醫經大義……一六〇〇
いくとくるとのことはのさた（八一二―イ一）……Ⅱ四五九
伊句麻結萬（和蘭）……一六三九
池田（喜兵衛）正村……一〇一五
池田光政……一〇六三
いけにえ物語（九一三・五―イ六三）……Ⅱ七九三
〔池坊專好立花譜〕（七九三―イ一）……一七七七
伊香物語（九一三・五―イ八一）……Ⅱ七九二
〔異國人物圖説〕奈良繪本（四六八―イ三）……一五六五
〔異國人物圖説〕奈良繪本（四六八―イ五）……一五六六
異國物語（九一三・六一―イ九五）……二六〇〇
渭　臏（宋）……六七〇
十六夜日記（九一四・四四―イ一）……Ⅱ八六〇
十六夜日記（九一四・四四―イ三）……Ⅱ八六一
十六夜日記（九一四・四四―イ五）……二九九四
伊澤信厚……三九
石井垂穂……一八九四
石川鴻齋……二五四
石川鴻齋評山中人饒舌（〇八一―イ一九）……二五四
石川五右衛門忍術事　瀬川采女鑒書事　金門五山桐（九一二・六―イ七一）……二一二九

石川三吾……一〇九五
石川丈山……一一〇六
石川曇翠……二九三三
石川年足卿墓誌考證……一〇四〇
石川流舟……三〇五三
石川流宣……一二三四、一三七八、一三九六
醫事雜記(四九〇―ィ一七)……一六〇〇
石島正猗……四七〇
石田(木工頭)正澄……一〇二四
石田(治部少輔)三成……一〇一四
石田友雪齋安公……一九八三、二〇〇八
石橋眞國……二一一〇
石橋山七騎落(九二一・七―ィ二三)……Ⅰ五〇三
石八介……一〇一五
石山後日れんけ上人(九二一・七―ィ九九)……二〇一七
石山寺入相鐘(九二三・六一―ィ六九)……Ⅰ五六九
異稱錦繡段(九二一―ィ五)……Ⅱ八九三
醫書大全(四九〇―五)……一六二八
伊期忽爾陣倔氏 昆斯涌律苦氏 内外科學窮理說(四九〇―ィ四一)……一六〇五
泉圓長歌稿本(九二一・二六一―ィ六三)……Ⅱ六四四
和泉嘉右衛門……二三一三
いつみがじやう(九二一・六一―ィ八五)……一九八二
和泉和暦……四三三
泉鏡花……二九四三、二九六〇
和泉河内 れんりの松(九二三・六一―ィ二五)……二一七七
和泉式部……一九二六、二九八九
和泉式部家集(九二一・二三一―ィ七九)……Ⅱ五六一
和泉式部日記(九二一・二三一―ィ一)……Ⅱ五五六
和泉式部物語(九二一・二三一―ィ三三)……一九二六
和泉式部物語寛元本(九二一・二三一―ィ三)……二九八九
和泉太夫……二〇六八
和泉眞國……四三三
出雲國三十三所之觀音之哥(〇八一―ィ二)……一三八
出雲國順禮札所……一三八
出雲國名所圖會(二九一・五一―ィ五)……Ⅱ三四七
いせをのあま(二九一・四一―ィ二五)……Ⅱ三三五
〔伊勢音頭集〕(九二一・九一―ィ一)……Ⅰ五三八
〔伊勢音頭集〕(九二一・九一―ィ三)……Ⅰ五三九
伊勢考古録(二二四・八一―ィ一)……Ⅱ三五〇
伊勢講非參宮儀式(一七一・二一―ィ五)……五一九
伊勢曆万治二・三・四年(四四五―ィ二七)……一五三〇
伊勢雜志(〇八一―ィ一九)……三三一
〔伊勢參宮道中記〕(九二三・六九―ィ七)……二九三三
伊勢參宮 柄杓振戲初篇(九二三・六九―ィ五)……二九三三
伊勢參宮名所圖會(二九一・四一―ィ六三)……一一五七
〔伊勢神宮行事繪巻草稿〕(一七四―ィ三)……Ⅰ二三三
伊勢人物いろは分(〇八一―ィ一九)……二六九
伊勢人物志志餘(〇八一―ィ一九)……二七〇
伊勢太神宮參詣記(一七一・二一―ィ三)……五二〇
伊勢たより(〇八一―ィ一九)……三四八
伊勢貞丈……一三三二、一三三五、一三五五、一六六五
〔伊勢内宮修造勸進帳〕(一七四―ィ七)……五二七
伊勢物語(〇八一―ィ五)……Ⅰ七〇
伊勢物語(九二三・三一―ィ九)……Ⅱ七三七
伊勢物語(九二三・三一―ィ一五)……Ⅱ七三八
伊勢物語(九二三・三一―ィ一七)……Ⅱ七三九
伊勢物語(九二三・三一―ィ一九)……Ⅱ七四〇
伊勢物語(九二三・三一―ィ二三)……Ⅱ七四一
伊勢物語(九二三・三一―ィ二五)……Ⅱ七四二
伊勢物語(九二三・三一―ィ二七)……Ⅱ七四三
伊勢物語嵯峨本(九二三・三一―ィ二七)……Ⅱ七四四
伊勢物語嵯峨本(九二三・三一―ィ一七)……Ⅱ七四五
伊勢物語嵯峨本(九二三・三一―ィ一三)……Ⅱ七四六
伊勢物語眞名本(九二三・三一―ィ一五)……Ⅱ七四七
伊勢物語武田本(九二三・三一―ィ一六)……二一九五
伊勢物語光悦本(九二三・三一―ィ五五)……二一九三
伊勢物語承久本(九二三・三一―ィ五九)……二一九四
伊勢物語武田本(九二三・三一―ィ六一)……二一九五
伊勢物語(九二三・三一―ィ六五)……二一九六
伊勢物語眞名本(九二三・三一―ィ七一)……二一九七
伊勢物語(九二三・三一―ィ七三)……二一九八
伊勢物語(九二三・三一―ィ七七)……二一九九
伊勢物語(九二三・三一―ィ八三)……二二〇〇
伊勢物語(九二三・三一―ィ八九)……二二〇一
伊勢物語(九二三・三一―ィ九一)……二二〇二
伊勢物語(九二三・三一―ィ九三)……二二〇三
伊勢物語天福本(九二三・三一―ィ九七)……二二〇四
伊勢物語武田本(九二三・三一―ィ一〇三)……二二〇五
伊勢物語武田本(九二三・三一―ィ一〇九)……二二〇六
伊勢物語侍從本(九二三・三一―ィ一一三)……二二〇七
伊勢物語根源本(九二三・三一―ィ一一五)……二二〇八
伊勢物語(九二三・三一―ィ一一七)……二二〇九
伊勢物語根源本(九二三・三一―ィ一一九)……二二一〇
伊勢物語根源本(九二三・三一―ィ一二三)……二二一一
伊勢物語惟清抄(九二三・三一―ィ一七五)……二二一二
伊勢物語勘物抜書(九二三・三一―ィ一〇一)……二二一三
伊勢物語聞書(〇八一―ィ二一)……七四
伊勢物語嵯峨本(九二三・三一―ィ一三)……Ⅱ七四六
伊勢物語聞書(九二三・三一―ィ一四)……二二一四
伊勢物語眞名本(九二三・三一―ィ一三)……Ⅱ七四七
伊勢物語武田本(九二三・三一―ィ二三)……二二一五
伊勢物語愚案鈔(九二三・三一―ィ二七)……二二一六
伊勢物語愚見抄(九二三・三一―ィ二九)……二二一七
伊勢物語雜說(九二三・三一―ィ三一)……Ⅱ七四八
伊勢物語抄(九二三・三一―ィ三三)……二二一八
伊勢物語鈔(九二三・三一―ィ三五)……二二一九
伊勢物語抄(九二三・三一―ィ三七)……二二二〇
伊勢物語肖聞抄(九二三・三一―ィ三九)……二二二一
伊勢物語肖聞抄光悦本(九二三・三一―ィ四一)……二二二二
伊勢物語妙里(九二三・三一―ィ四九)……二二二三
伊勢物語注(九二三・三一―ィ六九)……二二二四
伊勢物語注纂(九二三・三一―ィ八五)……二二二五
伊勢物語勅講抄(九二三・三一―ィ一)……Ⅱ七四九
伊勢物語勅講抄(九二三・三一―ィ四七)……二二二五
伊勢物語童子問(九二三・三一―ィ五七)……二二二六
〔伊勢物語頭書抄〕(九二三・三一―ィ二一)……Ⅱ七五〇
伊勢物語難儀抄(九二三・三一―ィ六七)……二二三七
伊勢屋忠兵衛……一七五六
いそうら……二二八七
磯貝捨若……二七三一
磯崎物語奈良繪本(九二三・五一―ィ一五)……Ⅰ五五六
磯田玉秋……二二九七
磯足集稿本(九二一・二六一―ィ四七)……Ⅱ六四五
磯つたひ(九二四・六一―ィ四三)……二九八八
磯部武者五郎……二一三
伊曽保物語(九二一―ィ一)……Ⅰ六五〇
伊曽保物語(九二一―ィ五)……Ⅱ九一七
伊曽保物語(九二一―ィ七)……Ⅱ九一八
伊曽保物語(九二一―ィ九)……Ⅱ九一九
伊曽保物語(九二二―ィ一)……Ⅱ九二〇
伊曽保物語古活字版(九二二―ィ一一)……Ⅱ九二二

伊曽保物語古活字版(九九二ーイ一五)……Ⅱ九二三
伊曽保物語(〇八一ーイ二一)……五五
伊曽保物語(九九二ーイ一七)……三一九八
伊曽保物語古活字版(九九二ーイ一九)……三一九九
伊曽保物語古活字版(九九二ーイ二一)……三二〇〇
伊曽保物語古活字版(九九二ーイ二三)……三二〇一
伊裟菩喩言(九九二ーイ三)……Ⅱ九一六
磯山玄文……一一〇六
板倉安世……四七〇
板倉右近……一〇二四
伊丹椿園……二九一八
爲斷泥禹須宗書三教傳(一九〇・四ーイ一一)……七六七
一雨餘稿(〇八一ーイ一九)……二四八
市川圓應……二二三
市河寛齋……三〇八八
市川長(梅顚)……三一七七
市川白猿……四〇四
市川彦太夫……一三四二
市川安兵衛……一三四六
一　行(唐)……六一七・六一九ー二〇
市嶋謙吉(春城)……二三三
一條兼良……
……一二一、八九七、九一五、九二一ー二、二一八五、二二一七、
二二六四ー七〇、二二七八ー八〇、二二八七、二二八九、二三八四ー六
一乘寺詣之記……二八四六
一條輝實(藤原)……八七六
一條冬良……二二七八
一日千首詠草(九二一・二六ーイ五七)……Ⅱ六四六
一　如……三〇七七
市介正次……一〇一五
一萬箱王(九二一・六ーイ四三)……Ⅱ七〇五
市村座……二一七四
一葉儀測術(四四〇ーイ一三)……一四八六
一葉抄(九二三・三六ーイ二四一)……二二四九
乙淵謾言(〇九一ーイ五三)……三九四
逸　翮……三〇七七
〔一韓智翩〕……三〇八八
一休宗純……二五八一
一休宗純水鏡(〇八一ーイ二一)……一三四
いつくしまのゑんぎ(九二三・五ーイ九)……Ⅰ五五七
巖嶋姫瀧(九二三・六ーイ九)……Ⅰ五三一
一　渓……七九
一切經音義巻第九(一八三ーイ一四一)……五六九
一切經音義巻第十八(一八三ーイ一四七)……五七〇
一切如來心秘密全身舎利寶篋印陀
羅尼經宋版(一八三ーイ一八一)……五七一
一枝堂主人……三〇二六
一笑軒……三〇五四
五瀬柬(〇八一ーイ一九)……三四九
稜威雄詰(〇八一ーイ三)……Ⅰ二〇一
稜威言別(記記歌解)草稿(〇八一ーイ三)……Ⅰ一九七
稜威道別(〇八一ーイ三)……Ⅰ一九三
〔稜威道別異本〕(〇八一ーイ三)……Ⅰ一九四
巖原集……二四九
一筆庵英壽……三〇五二
一兵卒從軍記(〇八一ーイ一九)……二七一
伊藤氏老母追善謌序(〇八一ーイ五)……Ⅰ三六
伊藤源七……一六二四
伊藤五藏……一〇六三
伊藤才藏……一〇六三
伊藤左千夫……一九六七、二九四三、二九六九
伊藤左千夫和歌短冊(九二一・二七ーイ九)……一九六七
伊藤(権左門尉)重信……一六六九
伊藤仁齋(源左維禎)……四七一、一〇六二ー三、一一〇六
伊藤仁齋書翰(二八一ーイ一一)……一〇六二
伊藤宣齋(元熙)……一〇六三
伊藤惣治……一〇六三
伊藤出羽掾座……二一〇五
伊藤東涯(長胤元藏)……一〇六三
伊藤篤太郎……一六〇九
伊藤伯亨……四七〇
伊藤(清左衛門尉)政忠……一三四五
糸割符銀方銀借用文書(二一〇・〇八ーイ一)
……Ⅱ二〇四
威奈大村墓誌銅器來由私記……一〇七〇
稲掛重太……四二三
稲掛の君の御返事に更に答へまゐ
らす書(〇八一ーイ一)……Ⅰ一九〇
稲掛のぬしへまゐらする書(〇八一ーイ一)
……Ⅰ一八八
稲妻の巻(九二一・二七ーイ七)……Ⅱ六八六
稲富一夢……一三四〇
稲葉藏人道通……一〇二四
稲葉彦兵衛……一〇六四
稲兵庫……一〇一五
猪苗代兼載……一九四四
猪苗代謙宜……二四四七、二四五二
犬追物日記(三九九・四ーイ五)……一三三一
いぬまくら(〇八一ーイ二一)……一七〇
犬枕並狂歌古活字版(九二三・六一ーイ三五)……Ⅰ五六八
異年號萃(〇八一ーイ一九)……二二四
井上剛介……一〇六三
井上小左衛門……二六二六
井上甚助……一〇六三
井上茶全堂新七……一七二三
井上淑蔭……五二三、二〇一九
井上瑞枝……一二六一ノ二
惟　白(宋)……七五七
猪場毅……一二九一
井原西鶴……二〇五六、二六五四、二六六七
ー八、二六七八、二六八〇ー一、二六九四ー五、二六九九ー七〇〇、二七〇
五、二七一四、二七一八ー二〇、二七二三ー三、二七二九、二七三一、二七
四三、二七四七、二七五〇ー二、二七六〇、二七六二ー四、二七七二ー三
醫範(纂正)滲胞編(四九〇ーイ四一)……一六一九
衣服體裁考稿本(三八一ーイ一)……Ⅱ三八〇
以文會筆記(〇九一ーイ六九)……三九五
今井廉……一一一七
今井昌吉……一〇六三
今泉雄作……六九九、一〇七〇
今枝直温……一八六三
今枝直方……一八六三
今川狀(〇八一ーイ五)……Ⅰ一一五
今川心性……一〇〇二
今川範政……二三七六ー七
今川了俊……一〇〇四
今源氏うつほ船(九二三・六二ーイ二五九)……二六六六
新小町榮花車萬太夫座狂言本(九二三・六ーイ四三)
……二一一六
新小町榮花車……二一二七
今立彌三郎……一〇六三
今宮惣繪圖……一一八一
今樣集(九二一・五六ーイ一)……Ⅱ七〇四
忌詞内外七言事(一七四ーイ一)……Ⅰ二三三
入鹿大臣(九二三・六ーイ七)……Ⅰ五三〇
色川三中……一五七四
色里三所世帯(九二三・六二ーイ一九一)……二六六七
色里三所世帯(九二三・六二ーイ二一五)……二六六八
色里新かれうびん(九二一・八ーイ一一)……二一〇六

色縮緬百人後家(九一三・六二―イ一六一)……Ⅰ五八四
色縮緬百人後家(九一三・六二―イ一六三)……二六六九
意路葉うたのしめし(九一一・二五―イ一三)Ⅱ六三四
伊呂波字類抄十巻本(〇三一―イ五)……Ⅰ八
伊呂波字類抄(〇三一―イ一七)……Ⅱ七
以呂波物語(九一一・七―イ六一)……Ⅱ七二四
岩井清次……一七七四
岩井播摩掾久次……一七七四
岩木繪つくし(七二一―イ三五)……一六八二
石清水(九一三・三九―イ二九)……二四三〇
石清水八幡宮御縁起(九一三・五―イ三一九)……二四六四
石清水八幡宮總繪圖……一一八四
不言不語(九一三・七―イ四一)……二九六一
岩瀬乙淵……三九四
伊波傳毛の記(九一〇・二八―イ一一)……一八五六
石見偉人傳(二八一・五―イ一)……Ⅱ二六六
石見國名跡考(二九一・五―イ三)……Ⅱ三四八
石和見聞志(一七五―イ三)……Ⅱ一四二
岩本活東子……二五九五
いわや奈良繪本(九一三・五―イ一九七)……二四六五
岩山道堅……一九四七
いはやものかたり奈良繪本(九一三・五―イ一四一)……二四六六
因果物語(九一三・六一―イ一一一)……二六〇一
印　教……八三七
韻　鏡(八二一―イ一三)……一八二一
韻　鏡(八二一―イ一五)……一八二二
韵　鏡(八二一―イ一七)……一八二三
韻鏡紀聞(八二一―イ七)……Ⅰ四四七
鸚歌か薗(九一一・七―イ一八五)……二〇一八
陰時夫(元)……一八二四、一八三三―四
尹春年(朝鮮)……三一六五―六
印章雜記(〇八一―イ一九)……二九六
印　誓……八二九
印　談(〇八一―イ一九)……二三五
陰中夫(元)……一八二四、一八三三―五
印度之阿蘭陀商館屬官名簿(二三四―イ一)……一〇六〇
印度備要經驗方(四九〇―イ四一)……一六一一
韻府羣玉元版(九二一・〇七―イ一)……Ⅱ八九五
韻府羣玉五山版(八二一―イ三一)……一八二四
(新増説文)韻府羣玉明版(八二一―イ二三)……一八三三
(新増説文)韻府羣玉明版(八二一―イ四三)……一八三四
(新増説文)韻府羣玉明版(八二一―イ四七)……一八三五
韻府羣玉巻之十一五山版(八二一―イ四五)……一八二五
齋部(宿禰)廣成……八六七―八
院本註釋(九一一・七―イ一九三)……二〇一九

ウ

ウエイマン抄書(四九〇―イ四一)……一六一八
上田秋成雜集(九一三・六五―イ二七)……二七九六―二九一六
上田正元……一一〇六
上田無腸自畫肖影(九一三・六五―イ二七)……二九〇七
〔上田百樹答書〕(〇八一―イ五)……Ⅰ一〇八
上野雄治郎……一〇六三
上原元純……二一八四
右衛門督寄進狀(二一〇・四―イ一七)……Ⅱ二三四
上山宗久……二〇〇七
魚澄葆光……一二七一
魚太平記(九一三・六一―イ五九)……二六〇二
浮世壹分五厘(九一三・六二―イ七九)……二六七〇
于洪階(明)……一四一五
浮世榮華一代男(九一三・六二―イ一六九)……Ⅰ五九八
浮世親仁形氣(九一三・六二―イ二八九)……二六七一
うきよかくれ里(九一三・六二―イ一四七)……二六七二
浮世の旅六十路之記(〇八一―イ一九)……二二六
うき世噺(九一三・六二―イ八七)……二六七三
雨月物語(九一三・六五―イ二七)……二八〇一
雨月物語(九一三・六五―イ二七)……二八〇二
雨月物語(九一三・六五―イ二七)……二八〇三
雨月物語(九一三・六五―イ二七)……二八〇四
迂　齋……一〇六三
宇佐八幡縁起(一七五―イ二三)……五三二
宇佐八幡遷宮記(一七五―イ二五)……五三三
宇佐美士廸……四七〇
宇治加賀掾……二〇二二、二〇三五、二〇四六―七、二〇五六、二〇五九、二〇六五、二〇七五、二〇七七、二〇八三、二〇八五、二〇八七―八、二〇九二、二〇九六、二一〇二、二一〇四
宇治賀太夫……二〇五五
宇氏雜俎(四九〇―イ四一)……一六一〇
宇治大納言物語(九一三・四―イ四三)……二四四三
碓井小三郎……一一七九、一五七六、一七一〇
臼田彌右衛門久次……二〇〇四
太秦昌但……一七三二
太秦昌名……一七三二
鶉居帖(九一三・六五―イ二七)……二九一五
〔鶉居文稿〕(九一三・六五―イ二七)……二八三八
鶉居倭哥集(九一三・六五―イ二七)……二八八八
謌　合(九一一・二九―イ二七)……一九六八
謠　抄古活字版(九一一・六―イ六五)……Ⅱ七〇六
右大臣師輔集(〇八一―イ一五)……Ⅱ五二
〔謠はやし小鼓附〕(七七四―イ三)……一七五九
謠　本古活字版(九一一・六―イ五五)……Ⅱ七〇七
謠　本(九一一・六―イ九三)……一九八三
謠　本元和卯月本(九一一・六―イ一〇五)……一九八四
謠　本(九一一・六―イ一〇三)……一九八五
謠　本寛永卯月本(九一一・六―イ一〇七)……一九八六
謠　本(九一一・六―イ一〇九)……一九八七
謠　本車屋本(九一一・六―イ一二三)……一九八八
謠本集車屋本(九一一・六―イ一二五)……一九八九
哥覺書(〇八一―イ二一)……一七六
宇田川榛齋……一六〇一―一九
宇田川榛齋同榕庵醫書譯稿集(四九〇―イ四一)……一六〇一―一九
宇田川榕庵……一五九七、一六〇一―一九
羽澤稿(〇八一―イ一九)……一九六
哥さいもん鼓弓丸(九一一・八―イ九)……二一〇七
假寢梦(〇九一―イ二七)……三九六
謌枕名寄(九一一・二―イ一二七)……Ⅱ四七二
謌枕名寄(九一一・二―イ一六一)……一八六四
歌讀大事(九一一・二―イ一七)……Ⅱ四七三
うちでの小つち(九一三・六一―イ二五)……Ⅱ八二九
内山隆佐……一〇九五
内山隆佐翁略傳附詩文抄……一〇九五
内山隆佐日記・同意見書・同文書(二八九―イ三三)……一〇九五
内山眞龍……四二二、一八八八
鞚田鈍太郎末孫白面書生……一二九二
尉遲恭軍鞭奪棚雜劇……三一二六
うつほ(〇八一―イ二一)……七五
うつほ物語(九一三・三四―イ一)……Ⅰ五三六
うつぼ物語(九一三・三四―イ三)……Ⅰ五三七
うつぼ物語奈良繪本(九一三・三四―イ五)……Ⅱ七五三
うつほものかたり古活字版(九一三・三四―イ一一)……二二四二
うつほ物語(九一三・三四―イ一五)……二二四三
うつほ物語(九一三・三四―イ一七)……二二四四
うつほ物語(九一三・三四―イ一九)……二二四五
宇津保物語毘沙門堂本(九一三・三四―イ二一)……二二四六

宇津保物語巻次考(九一三・三四―イ九)……Ⅱ七五四
宇津保物語考(九一三・三四―イ七)……Ⅱ七五五
うつほ物語俊蔭巻奈良繪巻(九一三・三四―イ一三)……二二四七
うつぼ物語目安(〇八一―イ一五)……Ⅱ五三
宇野之鑑……四七〇
宇野之鼎……四七〇
羽兵義廣……一〇一五
馬　書(三九九・六―イ三)……一三四九
海主伊布賀……八四九
海首揖賀……八四九
鄔　明(明)……一四二六、一四四六
梅櫻草の庵の花すまひ(〇八一―イ一)……Ⅰ一七四
梅田雲濱・頼三樹三郎山根文之允宛書簡(二八九―イ二三)……Ⅱ二八〇
梅津のなみ(七二一―イ五一)……一七〇三
宇米のこと葉・さくらをめつるふみ　二九〇九
梅宮惣繪圖……一一八一
梅丸大嶋臺(九一二・六―イ一二九)……三一一七
雨夜談抄(九一三・三六―イ二四七)……三三五〇
烏有山人……一一九六
浦嶋太郎(〇八一―イ二一)……一八三
浦島太郎(九一三・五―イ二四七)……二四六七
浦　野……一一〇八
卜部懐賢……八八〇―一
卜部兼敦……五四七、八六八、九一四、九一六
卜部兼有……四九七
卜部兼敬……一九九三
卜部兼直……八六八
卜部兼倶……一五〇、五二五、八一八、八六八、八七九、八八二、八九六、九一五、九二五、九二七、九三一、一二一九
卜部兼豊……八六八、九一五
卜部兼名……八六八、九一六
卜部兼永……八七一―二、八八一、八八八、九三〇、一二五二
卜部兼夏……八六八、九一五
卜部兼熈……八六八、九一四、九一五―六
卜部兼見……五二六、九一二、九三六
卜部兼右……八九、四三六、四五五、四六一―二、四九一、四九七、五〇〇、四九九、五二一、五二五、八八四、八九二―三、八九七―八、九〇一、九一〇、九一八、九二〇、九三二、九四〇、一〇七六
卜部兼滿……一五〇、八六八
卜部兼致……八六八、八八三、八九五、八九九、九一〇、九一九、九一五、一九七八
卜部兼從……八七〇
卜部兼好……二九九五―七
卜部慈遍……八九三―四
盂蘭盆經疏新記(一八三―イ一三七)……五七二
うらみのすけ古活字版(九一三・六一―イ三七)……二六〇三
有利物安壽嘉賀和(〇八一―イ一九)……二二五
うりわたす一つきうまいの事……八二九
雲水堂……一五八四
雲中語(九一三・七―イ三)……Ⅱ八五二
於雲澤蒙求聞書(二八二・二―イ九)……Ⅱ二六七
雲洞亮徹……四七〇
雲風子林鴻……二六九七
運甓記……三一四三
雲　鳳……一〇六三

エ

永縁奈良房歌合(九一一・二九―イ三七)……一九六九
詠歌大概(九一一・二―イ一七一)……一八六五
榮花物語(二一〇・三―イ七九)……九四二
榮花物語古活字版(二一〇・三―イ一一一)……九四三
榮花物語系圖(二一〇・三―イ一五)……Ⅱ二二八
〔永久元年諸記〕(二一〇・三―イ一三)……九四四
裔琴圖式(七六一―イ五一)……一七二七
永言格(九一一・二―イ一)……Ⅰ四六五
永源寂室……七一五
永源寂室和尚語録五山版(一八八・七―イ四一)　七一五
詠江都詩(〇八一―イ一九)……二七六
詠五十首和哥(九一一・二五―イ二三)……一九四〇
永日小品火事(九一三・七―イ三九)……二九三七
英實存(元)……三〇七二
永種堂五拾番自歌合(九一一・二六―イ九九)……一九五〇
永　清……一六二二
榮　善……六九三
詠千首和歌(九一一・二五―イ二九)……一九四一
榮　增……一〇二一
脉祖渓……三〇七七
榮　竹……二〇四一
詠百首狂哥(〇八一―イ二一)……一五三
詠百首狂謌(九一七・二―イ一三)……三〇二八
詠百首狂哥(九一七・二―イ四七)……三〇二九
詠百首狂哥……三〇三六
詠百首和謌(九一一・二五―イ三三)……一九四二
詠百首和歌(九一一・二六―イ一一一)……一九五一
詠百寮和歌(九一一・二―イ一六九)……一八六六
英譯古事記序説辨明(二一〇・一―イ六七)……Ⅱ二〇七
英雄成敗……三一三六
永樂大典(〇三二―イ二三)……Ⅰ二二四
永樂大典(〇三二―イ二三)……四四
ゑ入江戸大繪圖(二九一・一―イ四一)……一一三五
繪入大畫圖元祿二年(三八七―イ四三)……一二七八
惠　岳……一八一一
慧　燾……三〇八二
會賀(臣)眞綱……八四七
慧洪覺範(宋)……七三九―四〇
易水寒……三一三六
驛路鈴考(六八七―イ一)……一六六五
驛路鈴草稿(九一四・六―イ一)……Ⅰ六二〇
江口渙……三〇一八
江坂孫三郎……二一九
江島其磧……一七五七―八、二六六五、二六七一、二六八二―三、二六八五、二六八九―九〇、二六九三、二七三二―三、二七三八、二七四〇、二七五七、二七六六、二七七四
蝦夷沿革考(二一七―イ三)……一〇三九
蝦夷海陸路程全圖……一一九四
蝦夷奇觀附録……一一九四
蝦夷紀行(二九一・七―イ五)……Ⅱ三五一
蝦夷國風圖画(三八〇・二―イ一)……Ⅱ三七九
ゑそことはの事(〇八一―イ二一)……九九
蝦夷巡歴圖巻(二九一・七―イ一五)……一一九一
蝦夷圖説(二九一・七―イ二一)……一一九二
蝦夷島奇觀(二九一・七―イ一一)……一一九三
蝦夷島奇觀(二九一・七―イ一三)……一一九四
蝦夷道中記(二九一・七―イ三)……Ⅱ三五二
蝦夷話(〇八一―イ五)……Ⅰ一一二
越後國魚沼郡浦佐組　浦佐村年中行事(〇八一―イ一九)……二一九
越前報書・越前芳書(〇八一―イ一九)……三四五
惠　中……二六〇九―一〇
閲庫餘録(〇八一―イ一九)……二五五
悦目抄(九一一・二―イ八一)……Ⅱ四七四
悦目抄(九一一・二―イ一一九)……Ⅱ四七五
江戸字集覽(〇八一―イ一九)……二六四
江戸鹿の子(二九一・一―イ五五)……一一三七
江戸近郊名勝志(二九一・一―イ三三)……一一三八
〔江戸四座役者評判記〕(七七一―イ二七)……一七四二
江戸城古寫圖(三九九―イ一一)……一三一三

江戸推艸（四四〇―イ一一）……一四〇五
江戸圖鑑綱目（二九一・一―イ一）……Ⅱ三一七
江戸すゝめ（九一七・五―イ七）……Ⅰ六二九
江戸雀（二九一・一―イ五一）……一一三九
江戸圖正大全（二九一・一―イ三五）……一一四〇
〔江戸長崎道中繪巻〕（二九一・〇六―イ一三）……一一二七
江戸男色細見（三八七―イ二九）……一二七七
江戸の菓子屋（〇八一―イ一九）……二三七
江戸百首（〇八一―イ二二）……一〇七
江戸名所記（二九一・一―イ五七）……一一四一
（補増）江戸名所はなし（二九一・一―イ四九）……一一四二
江都摸様（九一三・六一―イ一〇五）……二六〇四
慧　然（宋）……七四四―五、七四九
榎並福介……一〇一五
榎本武揚……一〇六三
海老畫賛（九一三・六五―イ二七）……二九〇〇
蛭子谷吉郎兵衛……二二二六、二二七八
箙　書（三九九・四―イ一九）……一三三二
ゑぼし折（九一一・六―イ九五）……一九九〇
烏帽子折献上本（九一一・七―イ一九九）……二〇二〇
ゑぼしや源八（九一一・七―イ一三五）……二〇二四
繪本漢楚軍談草稿（九一三・六五―イ九）……Ⅰ六一五
繪本狂歌山滿多山（九一七・二―イ四一）……三〇四一
繪本慶元浪速軍記（九一三・六六―イ一）……Ⅱ八四九
繪本慶元難波軍記（九一三・六六―イ三）……Ⅱ八五〇
画本豊臣勲功記（九一三・六五―イ三）……Ⅱ八五一
繪本見立假譬盡（九一七・二―イ五）……Ⅱ八八八
江間氏親……一二二九―三〇
画巻詞書……三〇五九
繪馬屋額輔（四世）……三二四
江村傳左衛門……一〇六三
衍　意……三〇七七
燕貽堂……七八七
圓音房……一七八六
袁于令（明）……三二三六、三二四二―三
縁覺上人（九一三・五―イ一五三）……二四六八
延喜式（三二八・一―イ一九）……一二一六
延喜式（三二八・一―イ九）……一二一七
延喜式巻第八（一七三―イ五）……五二四
延喜式巻十二（三二八・一―イ一一）……一二一八
延喜式神名帳（〇八一―イ二二）……一五〇
延喜式神名帳（三二八・一―イ一七）……一二一九
延喜式神名帳（三二八・一―イ一三）……一二二〇
延喜式神名帳（三二八・一―イ二二）……一二二一
猿牛舎蘭蹊……二二六
延喜聖帝（〇八一―イ二二）……一一二
遠鏡説（四四〇―イ九）……一四二八
宴曲抄（九一一・六―イ九一）……一九九一
（新鍥増補全相）燕居筆記明版（九二三―イ四三）……三一五〇
ゑんぎりしことば（八三三―イ一）……Ⅱ四六五
ゑんぎりしことば（八三三―イ三）……一八五〇
偃渓廣聞（宋）……七一六
偃渓廣聞禅師語録上五山版（一八八・七―イ九七）……七一六
圓　月……七六五
袁宏道（明）……三一二八
圓至天隠（元）……三一一七
圓珠庵雜記（〇九一―イ五）……Ⅱ八七
延壽撮要古活字版（四九九―イ一）……Ⅱ四一八
遠西奇器圖説（四四〇―イ一一）……一三八一
遠西武器圖略（三九五―イ一）……Ⅰ四一三
遠西武器圖略（三九五―イ一）……Ⅰ四一四
圓　存……六七三
圓　知……八二〇
燕庭叢稿（九二四・二―イ一九）……三一八〇
遠嶋百首和歌（〇八一―イ二二）……一一〇
遠鳧公（明）……三一三六
艶魔傳（九一三・七―イ七一）……二九三八
圓滿寺……八九六
（八百十千神平誓言）縁結文定紋一（九一三・六四―イ六九）……二七七八
ゑんや物語（九一三・五―イ二四一）……二五一〇
圓　祐……六七三

オ

尾池左膳……一〇六三
笈さかし（九一一・六―イ四九）……Ⅱ七〇八
おひさかし古活字丹緑本（九一一・六―イ八三）……一九九二
おひつきの考（〇八一―イ五）……Ⅰ一一九
老のたのしひ省録（〇九一―イ五一）……四〇四
老のなくさ（〇八一―イ五）……Ⅰ二〇
應庵和尚語録五山版（一八八・七―イ一二五）……七一七
王　褥（明）……一五二九
汪　橒（明）……三一三六
櫻雲記（〇八一―イ一五）……Ⅱ五四
櫻雲記（二一〇・四―イ一五）……Ⅱ二三五
王雲來（明）……三一三六
應永記楠原侯本（二一〇・五―イ二一）……一〇一二
〔王應麟〕（宋）……三一一、一四五一、一四五四
王應遴（明）……一四二六
おふおほす考（〇八一―イ九）……Ⅱ三〇
鷗外書翰稿（九四二―イ一）……三一九四
王　璣（明）……三一三六
應　其……一〇一八、一〇二四
扇折風六十賀……三〇五九
王驥德（明）……三一三二
扇　流（〇八一―イ二二）……一八二
扇之禮狀（九一一・七―イ八五）……二〇二一
鷗客老……一〇六三
王九思（明）……三一三六
王玉峯（明）……三一四三
王　珪……四七〇
王月英元夜留鞋記雜劇……三一二六
王元貞（明）……四九二
凹巷詩（〇八一―イ一九）……三六一
王鴻緒（清）……一四〇七
鶯谷集（〇八一―イ一九）……二四九
鷺齋梅里……二七八一
王子一（明）……三一二六
王嗣虞（明）……七九七―八
王實甫（元）……三一二六―七、三一三〇、三一三二、三一三四―五、三一四一、三一四三
王錫侯（清）……一八四四
應　壽……三〇七七
王　秋（明）……一六四一
奥州後三年記（二一〇・三六―イ一）……Ⅰ三二一
奥州はなし・いそつたひ（〇九一―イ一九）……Ⅱ八八
王十朋（宋）……三〇九〇―三
王　肅（魏）……四六五
王狀元集百家註分類東坡先生詩（九二一・二―イ一九）……三〇九〇
王狀元集百家註分類東坡先生詩宋版（九二一・二―イ二七）……三〇九一
王狀元集百家註分類東坡先生詩五山版（九二一・二―イ五三）……三〇九二
王狀元集百家註分類東坡先生詩巻十二五山版（九二一・二―イ五五）……三〇九三

往生至要抄(一八八・三一イ九)……Ⅱ一七五
王汝淳(明)……七八四、七八六、七九七一八
王仁裕(五代)……三一四五
歐西紀行卷三(二九〇・九八一イ一)……Ⅱ三〇九
王世貞(明)……三一七、三一四三
横　川……四三六
横川景三……三〇八三
横川行珙(宋)……七一八一九
横川行珙禪師語錄元版(一八八・七一イ一一七)……七一八
横川行珙禪師語錄五山版(一八八・七一イ六九)　七一九
鶯　邨……一〇六三
王代記(〇八一一三)……一六〇
王大猷(明)……一六四一
王大成(明)……一六四一
王濟翁(明)……三一三六
王仲文(元)……三一三六
王　徵(明)……二三八一二、一八四五
汪廷訥(明)……三一四三
應　道……三〇七七
櫻桃園……三一三六
應仁別記楠原侯本(三一〇・五一イ三)……一〇一三
王　弼(魏)……四三四、四三七
汪資寶(金萊)……二八九
應編曆(四四〇一イ三)……一五〇三
翁方綱(清)……三一八三
近江國愛智郡司解(三一〇・〇八一イ五三)……八二六
王猛祿(南都)……二八九
王　曄(元)……三一三六
歐陽修(宋)……一〇五五、一五二四一五五
汪　鋐(明)……三一四三
大商都名物……三一三七
大井茂作……二四二
大石(内藏介)良雄……一〇六三
大内承祐……四七〇
大　圃(九一七・二一イ二七)……三〇三〇
大江資衡……三三三
大畫圖元祿二年(三八七一イ四三)(入繪)……二七八
大江戸圖(二九一・一一イ四七)……二一四三
大江廣漢……四七〇
大江廣氏(良暢)……四七〇
大江廣元……九九一
大江廣元消息(三一〇・四一イ五一)……九九一
大江匡衡……三一七四
大江匡房……二三九一四〇
大江山繪卷模本(九二三・五一イ二九一)……二四七〇
大　鏡(三一〇・三一イ八三)……九四五五
大　鏡(三一〇・三一イ八七)……九四九六
大鏡卷上千葉本(三一〇・三一イ一一五)……九四七七
大鏡卷中建久本(三一〇・三一イ一〇九)……九四九八
大鏡殘葉(三一〇・三一イ九一)……九四九九
大神景光……一七三四
大神景貫……三〇七七
大川義浚……四七〇
大久保秀興……一一七一
太窪天民……一〇六三
大隈川源左衛門萬太夫座狂言本(九二三・六一イ二七)……二一一八
大倉好齋……四三三
大藏法印……一〇一五五
大坂大繪圖(三九一・四一イ五三)……一一五八
(明和新訂)大坂大繪圖(一九一・四一イ五一)……一一五九
大坂物語(〇八一一イ二一)……九五五
大坂物語(九一三・六一イ一三五)……二六〇五
大坂物語(九一三・六一イ一三五)……二六〇六
大澤左衛門尉……一一〇三
大嶋以貞……一六六八
大少記(一七〇一イ一)……Ⅱ一一九
大高源吾……四三一
大矢重以……一七八〇一
大矢透……一〇六三
大山巖……一〇六三
大山崎離宮八幡惣繪圖……一一八一
大山藤右衛門……三一九
岡井嚇州……三〇七九
岡井孝先……四七〇
岡井鄰……三〇七九
御神樂(〇八一一イ五)……Ⅰ一〇七
御神樂由來(一七六一イ一五)……Ⅱ四四〇
御蔭參雜綴(一七四一イ一七)……Ⅱ一二七
御蔭參話の種(九一七・二一イ四五)……Ⅰ六二五
御蔭參四日の旅(九一七・二一イ四三)……Ⅰ六二六
御蔭參四日之旅(一七四一イ一五)……五二八
岡研海……一五六四
岡維良……四七〇
小笠原……一〇六三
小笠原島紀事(三一一・一一イ一)……一〇三三
小笠原島紀事稿料……一〇三三
小笠原島風土略記……一〇三三
〔小笠原流禮儀書〕(三二六・六一イ一)……Ⅰ二九七
岡田一學助……一三三四
岡田(衛士)助方……一九六
岡田宣汎……四七〇
岡田村男(紫阿彌紫男)……三三四
をかの舍歌集(〇八一一イ五)……Ⅰ二七
岡不崩……六九七、一〇九五
岡部翁十七會忌歌會歌題(〇八一一イ五)……Ⅰ一五六
岡部元忠……一〇六三
大　宮……一九二七
大目録下(三九九・二一イ三三)……一三三五
大門開花衛榮契情勝尾寺(九一二・六一イ八一)……二一二六
大矢重以……四三一
大矢透……一七八〇一
大山巖……一〇六三
大山崎離宮八幡惣繪圖……一一八一
大山藤右衛門……三一九
岡井嚇州……三〇七九
岡井孝先……四七〇
岡井鄰……三〇七九
御神樂(〇八一一イ五)……Ⅰ一〇七
御神樂由來(一七六一イ一五)……Ⅱ四四〇
御蔭參雜綴(一七四一イ一七)……Ⅱ一二七
御蔭參話の種(九一七・二一イ四五)……Ⅰ六二五
御蔭參四日の旅(九一七・二一イ四三)……Ⅰ六二六
御蔭參四日之旅(一七四一イ一五)……五二八
岡研海……一五六四
岡維良……四七〇
小笠原……一〇六三
小笠原島紀事(三一一・一一イ一)……一〇三三
小笠原島紀事稿料……一〇三三
小笠原島風土略記……一〇三三
〔小笠原流禮儀書〕(三二六・六一イ一)……Ⅰ二九七
岡田一學助……一三三四
岡田(衛士)助方……一九六
岡田宣汎……四七〇
岡田村男(紫阿彌紫男)……三三四
をかの舍歌集(〇八一一イ五)……Ⅰ二七
岡不崩……六九七、一〇九五
岡部翁十七會忌歌會歌題(〇八一一イ五)……Ⅰ一五六
岡部元忠……一〇六三
大平宛書簡(〇八一一イ一)……Ⅰ一九三
大平筆枝折(〇八一一イ一)……Ⅰ一九一
大峯の本地(九一一・七一イ一三五)……二〇三〇

岡部養竹……一〇六三
小川榮一……一五九五
小川吉太郎座……二二九―三〇
荻生徂徠(惣右衛門物茂卿)
……四七〇、一〇六三、一一〇六、一二五九
荻原嚴雄……六九八、一五七〇
隱岐百首……一一〇
奥淨瑠璃集(九一一・七―イ一三五)……二〇二三―三三
奥田松柏軒……一六五八
奥野瑳助……二一六七
奥野清順……一〇六三
奥野彌兵衛……一三四三
奥村愼猷……一六五〇
奥村政信……一六八三、一六八五
奥村政信遊女の像(七三一―イ二三)……一六八三
小倉山莊色紙和歌(九一一・二―イ一四一)……Ⅱ四七六
小倉百首嶺のもみち葉總釋(九一一・二―イ五五)
……Ⅱ四七七
おくり奈良繪本(九一三・五―イ一七)……Ⅰ五六二
おぐりの判官(九一一・七―イ四一)……Ⅰ五一六
おぐりの判官(九一一・七―イ四五)……Ⅰ五一七
おぐり判官(九一一・七―イ二七)……Ⅰ五一五
忍坂和麿……八五〇
尾崎紅葉……一八五七、二六九九、二九六四、三〇一二
尾崎紅葉書翰集(九一〇・二八―イ一三)……一八五七
小篠大記……四二三
小山内薫日記(九一〇・二八―イ五)……Ⅱ四六八
おさん茂平 花名所懷中暦二編(九一三・六八―イ五)
……二九三一
鴛河長英……二三八三
白粉手鑑(五九五―イ一)……Ⅱ四二〇
尾關與六……一〇一五
小瀨甫庵……九三、一〇一七
恐れ入谷(九一四・七―イ七)……三〇一二
遠駝延五登(九一三・六五―イ二七)……二八二三
遠駝延五登(九一三・六五―イ二七)……二八二三
織田軍記(九一一・七―イ一一三)……二〇三四
小田清雄……二九八九
小田の中道(〇八一―イ二九)……三八八
織田有樂齋……一〇二四
おちくほ奈良繪本(九一三・五―イ一一七)……Ⅱ七九四
落久保物語(九一三・三五―イ三)……二三四八
おちくほ物語(九一三・三九―イ三一)……二四三一
おちくほ物語(九一三・六五―イ二七)……二八二九
落窪物語序(九一三・六五―イ二七)……二八六四
おちくほ物語序……二九〇九
おちくほ物語抄(〇八一―イ二一)……一八六
越智高崧……一六四七
遠近道印……一一五一
お千代半兵衛 針供養御事始(九一三・六四―イ三三)……Ⅰ六〇二
お千代舟(〇八一―イ一九)……二三四
小槻伊治……一二二九―三〇
小槻孝亮……一〇二六
小槻孝亮日次記(二一〇・六―イ二三)……一〇二六
小槻晴富……八一二
小津桂窓(久足與右衛門)……五二、一一〇九、
一一六七、一六八四、一八六一、二五九四、二九一九、二九二一、二九二三
夫惡名合法辻娘浮名廓木辻 二月堂曉鐘嵐三右衛門座臺帳
(九一二・六―イ八三)……二一六二
乙夜隨筆(九一四・六―イ五一)……二九九九
御伽草紙(九一三・五―イ九九)……Ⅱ七九五
おとぎ人形(九一三・六二―イ一一五)……二六七四
御伽百物語(九一三・六二―イ二三三)……Ⅰ五九〇
お伽諷刺 智慧ぶくろ(九一三・七―イ一五)……二九五八
音太部乙嶋……八五〇
音無の瀧……二九二七
おとり(〇八一―イ二一)……一〇一
鬼一ほうけん(九一三・五―イ七一)……Ⅱ七九六
鬼村是齋……四三五
鬼若錦の初衣繪盡本(九一二・六―イ一二一)……二一一九
小野伯……八二七
小野恵畝……一六四五
小野寺謙……一一九四
小野小町嵐三右衛門座狂言本(九一二・六―イ九七)
……二一二〇
をのゝ小町ものかたり……二四九八
小野岑守……三〇八九
小野幽軒……四一六
小野蘭山……一六四五―六
大原野歌文(九一三・六五―イ二七)……二八九三
おはん長右衛門 桂川連理柵(九一三・六四―イ五五)……二七七九
御文(一八八・六―イ一三)……Ⅱ一八五
御文(一八八・六―イ一五)……Ⅱ一八六
御文實如證判本(一八八・六―イ七)……Ⅱ一八七
御文證如證判本(一八八・六―イ九)……Ⅱ一八八
御文證如證判本(一八八・六―イ一一)……Ⅱ一八九
お路……一一〇九
女郎花及蘭考(〇八一―イ九)……Ⅱ三一
女郎花物語(〇八一―イ二一)……五七
女郎花物語(九一三・五―イ二三三)……二四七一
尾見正數……四七〇
御目附方年中行事(三二八・二―イ一三)……一二二六
思草考(九一一・二二―イ五九)……Ⅱ五四五
思妻赤縄糸遊巻下(九一三・六四―イ五三)……二七八〇
於茂秘傳草(〇八一―イ二九)……三八二
思ひのまに〳〵(〇八一―イ五)……Ⅰ三〇
おもひのまゝの日記(〇八一―イ五)……Ⅰ九〇
面影砥水鏡中村座臺帳(九一二・六―イ一四九)……二一二一
おもかけ物語(九一三・五―イ一〇三)……Ⅱ七九七
小山田與清……二九九〇
御湯殿上日記(二一〇・六―イ三五)……一〇一四
およふのあま……二五七一
おらしよの飜譯きりしたん版(一九八・二―イ一七)
……Ⅱ一九四
〔和蘭醫方譯篇〕(四九〇―イ四一)……一六〇八
和蘭貨幣考……一三七三
和蘭考成萬國地理全圖照寫(二九〇・九一―イ七)
……一一一八
和蘭國語考(四四〇―イ一一)……一三七二
和蘭櫻木一角説……一三七三
〔和蘭雜考〕(四四〇―イ一一)……一三七三
和蘭字記……一三七三
阿蘭陀地球説(四四〇―イ一一)……一三七四
和蘭天地球圖銅版(四四六―イ一)……Ⅰ四二〇
和蘭文字萬國地名考(四四〇―イ一一)……一三七五
和蘭譯文畧艸稿(四四〇―イ一一)……一三七一
和蘭暦解(四四〇―イ一一)……一三七七
おろかおひ(三六八―イ一)……Ⅱ三七六
尾張人物小傳稿(〇八一―イ一九)……二六七
尾張人大館高門へ答ふ(九一三・六五―イ二七)
……二八五六
尾張名所記(二九一・三―イ九)……一一五五
〔御謠狂言衆交名〕(二一〇・五―イ七)……一〇二四
音樂根源鈔金澤文庫本(七六一―イ四一)……一七二八
音曲大和諜(九一一・七―イ一八三)……二〇三五
温清軒……一一四〇、一一五〇
温琮(清)……一三九三、一四九九
温太眞玉鏡臺雜劇……三一二六

女(九一三・七―イ二七)……二九三九
女五經(九一三・六一―イ一三一)……二六〇七
女實語教・女童子教(七二八―イ一九)……Ⅱ四二八
女諸禮集(一五八―イ一)……五〇八
をんな仁義物語(九一三・六一―イ一二七)……二六〇八
女二十四貞(九一三・六二―イ二七一)……二六七五
温飛卿(九一三・七―イ四五)……二九四〇

カ

何　晏(魏)……四六一―二
晦庵先生朱文公文集宋版(九二〇・八一―イ一一)……三〇六四
海　雲……四七〇
海江田信義……一〇六三
晦翁悟明(宋)……七六六
懷往事談(二八九―イ七三)……一〇九六
晦巖智照(宋)……七四七―八
外患通論(二一〇・〇四―イ一)……Ⅱ二〇二
外患備豫録(二一〇・六―イ三三)……Ⅰ三三七
外　記(二一〇・三―イ一三)……九四四
〔懷舊長歌稿一〕(九一三・六五―イ二七)……二八八二
〔懷舊長歌稿二〕(九一三・六五―イ二七)……二八八三
晦休録(二八九―イ八三)……一〇九七
〔社説〕海軍省所管軍艦製造費の事〕(二一〇・七一―イ一)……一〇三一
開元釋教録巻第十九(一八三―イ二四一)……五七三
開元天寶遺事(九二三―イ三三)……三一四五
懷香記……三一四三
開國の滴續篇(二一〇・六―イ三)……Ⅰ三三〇
海國兵談(三九一・一―イ一)……Ⅰ四一二
海國兵談(三九一・一―イ三)……Ⅱ三九二
廻鶻文書……一〇五〇
會山和歌集(九一一・二六―イ二五)……Ⅱ六四七
解屍編(四九一―イ三)……一六三七
艾儒略……七八二、七九〇、一三八四、一四一五
界紙樣(〇八一―イ一九)……三七八
海上物語(九一三・六一―イ一八一)……Ⅰ五七二
海上物語(九一三・六一―イ一七一)……二六〇九
海上物語(九一三・六一―イ一七九)……二六一〇
解　縉(明)……四四
懷　信(唐)……六九一
會眞記(九二二―イ二五)……三一二七
會眞記(九二二―イ一一)……三一三四
會眞記(九二二―イ三一)……三一三五
改正神代紀異同平均(二一〇・一―イ四七)……Ⅱ二〇八
諧聲圖(八二一―イ五)……Ⅰ四五一
諧聲圖(八二一―イ五)……一八四三
改正大内裏圖(二八八・一―イ三)……Ⅰ三四二
怪世談(九一三・六―イ一五)……二五九四
改正大和國名所圖繪巻之一(二九一・四―イ二三)……Ⅱ三四四
解裝録(九二四・一―イ一)……Ⅱ九一二
怪談老の杖……二九二七
怪談録前集(九一三・六一―イ五)……二六一一
可一居士……三一六四
懷中京江戸大坂名所案内(二九一・〇六―イ一一)……一一二八
懷中節用集(〇三一―イ三九)……一七
貝原東軒……一一〇六
貝原篤信……一一〇六
外蕃通書(三一六―イ一)……一二一一
懷風藻(九二一・一―イ一)……Ⅱ八九六
懷風藻(九二一・一―イ三)……Ⅱ八九七
開物全書(四九〇―イ四一)……一六一七
解紛記古活字版(三九九・二―イ三)……Ⅱ三九八
華夷變態(二二〇―イ一)……一〇四一
海防彙議(二一〇・六―イ九)……Ⅰ三二九
開方簡法(四四〇―イ九)……一四一九
開法要旨(四一九―イ一)……Ⅱ四〇二
魁本大字諸儒箋解古文眞寶前集五山版(九二〇・八―イ一三)……三〇六〇
魁本大字諸儒箋解古文眞寶後集(九二〇・八―イ三)……Ⅰ六四四
魁本大字諸儒箋解古文眞寶後集五山版(九二〇・八―イ一一)……三〇六一
魁本大字諸儒箋解古文眞寶後集五山版(九二〇・八―イ七)……三〇六二
艾約瑟廸謹氏(英)……五五九
海　録(〇九一―イ一五)……Ⅱ八九
華　陰……一〇六三
嘉永年間日記(二一〇・六―イ一三)……Ⅱ二四三
復開櫻接穗初輯之巻板下本(九一三・六四―イ四三)……二七八一
〔嘉應貳年春之ころ〕(九一一・七―イ一三五)……二〇二三
加　賀……八二七
歌會次第(九一一・二―イ二三)……Ⅱ四七八
河海抄(九一三・三六―イ二三)……Ⅱ七五六
河海抄中書本(九一三・三六―イ四三)……二二五一
河海抄覆勘本(九一三・三六―イ一二五)……二二五二
河海抄中書本(九一三・三六―イ一七五)……二二五三
河海抄中書本(九一三・三六―イ二五九)……二二五四
河海抄中書本(九一三・三六―イ二六一)……二二五五
河海抄覆勘本(九一三・三六―イ三三三)……二二五六
河海抄(九一三・三六―イ三五七)……二二五七
河海抄中書本(九一三・三六―イ三五九)……二二五八
河海註(九一三・三六―イ二八三)……二二七一
花街漫録正誤(〇九一―イ四一)……三九七
花街漫録正誤(三八七―イ二三)……一二七九
花街漫録正誤附考……一二七九
河海物語(九一三・六一―イ一〇三)……二六一二
下學邇言巻三(一二一・六―イ五)……四三〇
下學集(〇三一―イ二五)……Ⅱ八
下學集(〇三一―イ三七)……一八
下學集(〇三一―イ四三)……一九
下學集(〇三一―イ五七)……二〇
下學集(〇三一―イ五九)……二一
下學集(〇三一―イ六一)……二二
下學集(〇三一―イ六三)……二三
下學集(〇三一―イ六五)……二四
下學集(〇三一―イ六七)……二五
下學集(〇三一―イ六九)……二六
下學集(〇八一―イ二一)……六四
下學集之抜書(〇八一―イ二一)……一四一
下學集巻上(〇三一―イ四七)……二七
加賀丸……八六三
鏡鞍鐙圖(三九九・六―イ九)……一三五五
加々見山故郷錦稿本(九一三・六四―イ三)……Ⅰ六〇五
加々民部……八二七
加川元厚……四七〇
香川春邨……一〇六三
香川太冲……四七〇
過眼録(〇九一―イ四一)……三九七
花橘堂……一五八四
杜　若光悦本(九一一・六―イ一)……Ⅰ四八七
蝸牛庵聯話(九一三・七―イ六三)……二九四一
歌經標式(九一一・二―イ三七)……Ⅱ四七九
可恐録(一九八・二―イ一三)……Ⅰ二八八
恪……一〇六三
學鵜漫筆巻八(九一四・六―イ五五)……三〇〇〇

覺　惠……二二七七
學官話（八一九・六一イ一）……一八一七
郝　敬（明）……三九三
覺　弘……八二九
瞿式穀（明）……一四一五
樂　書元版（七六一イ一三）……Ⅱ四四一
郭　象（晉）……四九五
覺性院眞淳……九七〇
覺性院抄（九一三・三六一イ一四五）……二二五九
覺性院抄（九一三・三六一イ二一三）……二二六〇
覺性院抄（九一三・三六一イ二一五）……二二六一
覺性院抄（九一三・三六一イ三〇三）……二二六二
覺性院抄（九一三・三六一イ三六七）……二二六三
樂所系圖（七六一イ四九）……一七二九
格致艸（四四〇一イ一五）……一四五六
格致豫論古活字版（四九〇一イ七）……一六二〇
確　堂……一〇六三
嶽伯川（元）……三一二六
覺　峰……一〇三五
覺　明……五一三一五
香山連久須麻呂……八五〇
覺　祐……八四六
神樂歌（七六一イ四五）……一七三〇
神樂歌入文卷二（〇八一イ三）……Ⅰ二〇二
神樂考證（七六一イ七）……Ⅰ四三四
神樂催馬樂（九一一・五一イ一五）……Ⅱ六九四
神樂催馬樂註秘抄（九一一・五一イ七）……Ⅱ六九五
學曆小辯（四四〇一イ九）……一四一六
家計夢物語（三八七一イ九一）……一二八〇
家計夢物語卷一（三八七一イ八九）……一二八一
賀家假名曆吉凶附（四四〇一イ一三）……一四六二
懸汐手引草（六六九一イ一）……一六六四
景　軌……一九五二
〔雅言考草稿本〕（〇八一イ三）……Ⅰ二〇六
加減乘除門（四一九一イ一）……Ⅱ四〇三
雅言成法（八一一イ三）……Ⅰ四三七
加古川本藏綱目（九一三・六四一イ六七）……二七八二
烏鵲物語初編版下本（九一三・六八一イ三）……二九二八
笠屋但馬……二〇〇六
花山院師賢……二三三九
〔鍛冶系圖〕（三九九・二一イ二九）……一三一五
鍛冶圖之本（三九九・二一イ一三）……一三一六
〔歌詞展開表其一〕（〇八一イ一）……Ⅰ一八〇
〔歌詞展開表其二〕（〇八一イ一）……Ⅰ一八一
梶野良材……二一二
鹿嶋大宮司……八二七
鹿嶋中務……八二七
鹿嶋文書（二一〇・〇八一イ九）……八二七
鍛冶名字考（三九九・二一イ二五）……一三一七
梶山升二郎……三五〇
可笑記（九一三・六一一イ九）……Ⅰ五七三
可笑記（九一三・六一一イ一五一）……二六一三
柏　崎光悅本（九一一・六一イ三）……Ⅰ四八八
柏　崎竹本義太夫正本（九一一・七一イ二〇九）……二〇三六
柏原大嶋……八三〇
柏　屋……四二三
梶原善太夫……八二四
春日行幸記（二八八・一二一イ一）……一〇八六
春日權現驗記（一七五一イ一）……Ⅱ一四〇
春日權現構式（一七五一イ一三）……五三四
春日社延享造營記（一七五一イ一九）……五三五
春日潛菴……四三三
春日潛庵岡本隆藏宛尺牘（二八九一イ二九）……Ⅱ二八一
春日若宮神主祐範……九八〇
香月牛山……一〇六三
香月春岑……六七四
歌聖傳（九一三・六五一イ二七）……二八二四
風盡し（九一四・七一イ七）……三〇一二
歌仙家集類語（九一一・二一イ六五）……Ⅱ四八〇
霞箋記……三一四三
歌仙集補（〇八一イ一五）……Ⅱ五五
價錢帳（〇八一イ一九）……三六〇
雅俗半古談（〇八一イ一九）……二九七
雅俗明治年表・再補（〇八一イ一九）……三二四
嘉泰普燈録五山版（一八八・七一イ三九）……七二〇
片岡旨恕……二七〇四
片岡仁左衛門……二一六〇
敵討誰也行燈上卷（九一三・六五一イ五）……二九一七
片桐市正……一〇二四
堅田物語（九一三・六一一イ一四五）……二六一四
〔刀鍛冶之書〕（三九九・二一イ三三）……一三一八
荷田春滿……一二一四、二二二六、二九〇九
荷田在滿……一九七九
荷田信美……二八三二、二八三八、二八六二
片山猷……三〇七七
片山正璠……四七〇
方山眞次（了夢堂）……二六五五
賈仲名（明）……三一二六
花鳥争奇（七二一イ三七）……一六八四
花鳥日記（二八九一イ五五）……Ⅱ二八二
花鳥風月（九一一・二六一イ二一）……Ⅱ六四九
花鳥風月（九一三・五一イ一二七）……Ⅱ七九八
花鳥風月（九一三・五一イ三五一）……二四七二
花鳥風月物語奈良繪本（九一三・五一イ一四三）……二四七三
花鳥餘情（九一三・三六一イ六三）……二二六四
花鳥餘情再度本（九一三・三六一イ七五）……二二六五
花鳥餘情複合本（九一三・三六一イ一二七）……二二六六
花鳥餘情（九一三・三六一イ二二三）……二二六七
花鳥餘情初度本（九一三・三六一イ二二五）……二二六八
花鳥餘情初度本（九一三・三六一イ三三九）……二二六九
花鳥餘情抄出（九一三・三六一イ一三九）……二二七〇
花鳥餘情註河海註襲束抄附隨身方（九一三・三六一イ二八三）……二二七一
花鳥曆（〇八一イ一九）……二九二
勝海舟……一〇六三、一六五四
割圜八線互求法（四四〇一イ一一）……一三八八
戛玉韻（〇八一イ一九）……三五四
枯杌集（九一三・六一一イ六一）……二六一六
葛飾北齋……三〇四一
勝　茂……八二七
活　所（那波）……一〇六三
葛仲穆（元）……一六二七
活法曆（四四〇一イ一三）……一五〇五
かつら一葉（九一一・二六一イ七七）……Ⅱ六五一
桂川連理柵（九一三・六四一イ五五）……二七七九
桂勘兵衛……一〇一五
葛城物語（九一三・六一一イ一三）……Ⅱ八三〇
桂の落葉（九一一・二六一イ五一）……Ⅱ六五〇
桂民部入道快友……一〇二四
花　亭……三一七七
花傳書古活字版（七七四一イ一）……一七六〇
花傳書（九一一・六一イ一三一）……一九九三
家傳通外方上卷（四九〇一イ三七）……一六二一
加藤宇萬伎……二八二七一八、二九八八
加藤枝直（橘）……四二三、九五八
歌道解醒（九一一・二一イ一〇一）……Ⅱ四八一
歌堂醉語（〇九一イ七）……Ⅱ九〇

加藤(橘)千蔭……四三二―三、一一〇八、一〇六三、一八七二、二九〇九
加藤磐齋……一九五六、三〇二八
歌道非唯抄附開國論(九一一・二―イ一〇七)……Ⅱ四八二
歌道類語(九一一・二―イ一一五)……Ⅱ四八三
楫取魚彦……二三三三
香取秀眞……三五二
金岡筆萬太夫座狂言本(九一二・六―イ二九)……二一二三
金風長井……二一七
假名具注曆永正二年……一七二九
假名源流考(八一一―イ九)……一七八〇
假字考證(八一一―イ五)……Ⅱ四五八
假名曆文永九年(四四五―イ四一)……一五三一
假名曆元弘三年(四四五―イ一一)……一五三二
假名曆永正十八年(四四五―イ二五)……一五三三
假名曆天正十七年(四四五―イ四五)……一五三四
假名曆慶長十七年(四四五―イ一五)……一五三五
假名曆寛永五・六年(四四五―イ一七)……一五三六
假名曆慶安二年承應二年(四四五―イ二三)……一五三七
假名曆延寶六年(四四五―イ五三)……一五三八
〔假名遣手控〕(〇八一―イ一)……Ⅰ一八四
哥難春藝二記(二九一・一―イ二三)……Ⅱ三一八
假名草紙國性爺實録嵐吉三良座臺帳(九一二・六―イ六一)……二一二三
假名曽我當蓬萊市村座臺帳(九一二・六―イ三七)……二一二四
假名の研究(八一一―イ七)……一七八一
假名法華經巻第三(一八三―イ二〇七)……五七四
金山讀雪……四七〇
河南府張鼎勘頭巾雜劇……三一二六
金子十郎左衛門……一九八三、二〇〇八
兼益記……九三三
賀のうた十二月繪題(〇八一―イ五)……Ⅰ一〇五
鹿の子はなし(九一七・五―イ二一)……Ⅰ六三〇
狩野亨吉……二五九
狩野亨吉博士藏春書目……一九七
狩野蛇足軒山雪……二五七一
狩野直喜……四六〇
狩野幽知……二五八二
蒲御曹子東童歌(九一一・七―イ一〇九)……二〇三七
伽跋摩(劉宋)……六三三
何賓巌(明)……一二〇九
歌　舞(九一一・五―イ三)……Ⅱ六九六
鎌倉右大臣集をよみていへる(九一四・六―イ五七)……三〇〇九
鎌倉正月買嵐三右衛門座狂言本(九一二・六―イ一〇五)……二一二五
鎌倉山梶原一生記早雲座狂言本(九一二・六―イ一一九)……二一二六
かまた(九一一・六―イ四七)……Ⅱ七〇九
上賀茂社惣繪圖……一一八一
神久壽加護(〇九一―イ二三)……三九八
神谷永平……八七三
神代かたり殘稿(九一三・六五―イ二七)……二八四〇
神代直語(〇八一―イ三)……Ⅰ一九五
神代直語(〇八一―イ三)……Ⅰ一九六
亀井昭陽……四三九
亀田興……一〇六三
亀田窮樂齋……一七一一
亀田鵬齋……二九二五
亀屋粂之丞……二一五一、二一七九
亀屋粂之丞座……二一三二、二一六八
假面寫(七七四―イ七)……一七六一
蒲生君平……四一一
蒲生智閑……一九四三
蒲生智閑和歌集(九一一・二五―イ三一)……一九四三
賀茂在方……四九九、一四六一
賀茂在弘……一一〇三
加茂在岑……一五四四
賀茂翁家集(九一一・二六―イ一)……Ⅰ四八二
賀茂清茂……二三一八
賀茂清爲……一二二〇
鴨祐之……五四三
鴨長明……一九〇五、二九九一―三
鴨長明寝覺物語(九一三・六一―イ四七)……二六一五
賀茂某私領田賣券(二一〇・〇八―イ五)……Ⅱ二〇五
賀茂之本地(九一三・五―イ一〇一)……Ⅱ七九九
賀茂眞淵……四二二、九三九、一〇九八、一八九一、一九〇〇、一九七九、二三七一―二、二九〇九、三〇〇八―九
賀茂眞淵書翰(一二一・三―イ一)……Ⅱ九七
賀茂眞淵本居宣長宛消息(二八九―イ一〇五)……一〇九八
加茂のみあれ考(一七五―イ一一)……Ⅱ一四一
賀茂保憲女集(〇八一―イ一五)……Ⅱ五六
花問四友東坡夢雜劇……三一二六
歌譯西廂記(九三三―イ一五)……三一二三
茅五隆……四二二
華陽洞天主人(明)……三一五二
花洛細見圖(二九一・四―イ三五)……Ⅱ三三六
我樂多堂主人(成島柳北)……一六七九
璣訓蒙鑑草(七七九―イ一)……Ⅱ四五〇
烏丸豊光……一一〇三
烏丸光廣……一八七、九七〇
唐津名勝詩(二九一・六―イ一三)……一一八五
唐錦八寫繪(〇八一―イ一五)……Ⅱ五七
唐櫃目録(一八三―イ一九七)……五七八
喝蘭新譯地球全圖(二九〇・九―イ七)……Ⅰ三四九
唐樣の反古染は一枚摺の俠紙子契情睦玉川中村歌右衛門座臺帳(九一二・六―イ六三)……二一五二
狩衣抄(〇八一―イ五)……Ⅰ一三四
狩谷棭齋……四二、二〇八、五七八、一〇七〇、一二一七、一二四一、一五八八―九
家隆卿集(九一一・二四―イ三一)……Ⅱ六一三
かるかや(九一一・七―イ三七)……Ⅰ五〇四
かるかや道心(九一一・七―イ一一)……Ⅰ五〇五
輕口大かさり(九一七・五―イ九)……Ⅰ六三二
輕口扇の的(九一七・五―イ五七)……三〇四四
輕口大矢數(九一七・五―イ四七)……三〇四五
輕口露かはなし(九一七・五―イ一五)……Ⅰ六三三
かるくちばなし(九一七・五―イ一九)……Ⅰ六三一
輕口臍おとり(九一七・五―イ四三)……三〇四六
輕口星鉄炮(九一七・五―イ四一)……三〇四七
かる口もみぢ傘(九一七・五―イ三九)……三〇四八
遐齡方(四九〇―イ二一)……一六二二
河合修……三〇七七
川喜田久太夫……三二五
河北景楨……二四三
河口信任……一六三七
河毛(備後守)重成……七九
川路(少將)……一〇六三
川嶋信清……二六六五、二七四〇
川瀬一馬……六三九
河田小龍……一一八六
川田甕江……一〇六三
河内守隆親……二三三八
河内國大税負死亡人帳(二一〇・〇八―イ五五)……八二八
川名孟綽……三〇七九
河西介次郎……八二九

河西弘(笛州)……二四六
川村純義……一〇六三
川面三亟……一〇一五
瓦　圖 竝瓦經瓦硯等(四六九―イ六三)……一五七一
頑菴璞性……三〇七七
觀　意……五一二
眼醫秘笈(四九七―イ三)……一六四七
韓　雲(明)……一八四五
寛永行幸記 古活字版(三二八・八―イ一)……Ⅰ三九八
寛永行幸記 古活字版(三二八・八―イ五)……Ⅱ三七二
寛永三行幸之次第(〇八一―イ二一)……一四五
寛永漂民記(二九〇・九九―イ一)……Ⅱ三一〇
灌園記……三一四三
観海先生集(九二一・一―イ一三)……三〇七五
寛濶曽我物語(九一三・六二―イ二三七)……二六七六
關漢卿(元)……三一二六―七、三一三〇、三一三二、三一三四―五、三一四一
閑々子……二七一
韓館唱和(九二一・一―イ三一)……三〇七六
看々道人……三〇八三
歡喜母講式……一五四〇
観經正宗分散善揩義揩定記 附観經正宗分定善義揩定記六 古活字版(一八三―イ六九)……Ⅱ一四九
韓　珏……三六一
雁魚 森柴文(〇八一―イ一九)……三四七
寛啓寺申上書……八二七
關　月……一一五七
管絃音義(七六一―イ四三)……一七三一
漢元帝孤鴈漢宮秋 明版(九二二―イ二一)……三一二三
漢高皇濯足氣英布雜劇……三一二六
元興寺三論供家近江國愛智庄文書……八五二
甘公石申(漢)……一四六三
韓康伯(晉)……四三七
圜悟克勤(宋)……七五五
観古雜帖(四六九―イ六一)……一五六九
観古圖録(四六九―イ三)……一五七〇
還魂記 明版(九二二―イ四一)……三一二四
還魂記……三一四三
浣紗記……三一四三
寒山詩五言伍十首(九一三・六五―イ二七)……二九一二
顔師古(唐)……一〇五二
莞尓草(〇八一―イ二一)……一五九
勧修寺經成……一一〇三
勧修寺政顕……一一〇三
勧修寺教秀……一一〇三
(新鐫批評出相)韓湘子 明版(九二三―イ六三)……三一五八
鑒賞秘寶(七九一―イ三)……一七七五
巻飾堂……二六八六
官職秘抄(三二八・四―イ三)……一二三六
官職便覽(三二八・四―イ七)……一二三五
官　信……七〇九
觀心玄枢(一八三―イ七一)……Ⅱ一五〇
勸進能興行式叓繪巻(七七四―イ九)……一七六二
〔寛政歌會〕(九一三・六五―イ二七)……二八八九
〔寛政元年京都紀行〕(〇八一―イ五)……Ⅰ四二
〔寛政二年新内裏遷幸行列〕(〇八一―イ五)……Ⅰ九五
〔寛政二年仙洞新殿御幸行列〕(〇八一―イ五)……Ⅰ九七
〔寛政二年新嘗祭新内裏遷幸行列〕(〇八一―イ五)……Ⅰ九四
〔寛政二年日記断片〕(〇八一―イ五)……Ⅰ四三
寛政三亥年新嘗祭次第(〇八一―イ五)……Ⅰ一三五
〔寛政三年大殿祭次第〕(〇八一―イ五)……Ⅰ一三六
〔寛政三年新嘗祭中院行幸行列〕(〇八一―イ五)……Ⅰ九八
〔寛政四年三月神祭日記〕(〇八一―イ五)……Ⅰ四四
〔寛政十年伊勢日記〕(〇八一―イ五)……Ⅰ四五
看西廂(九二二―イ三五)……三一二五
看西廂句解……三一二五
看西廂碎評……三一二五
看西廂支文節解……三一二五
看西廂文評……三一二五
観世勝右衛門元信……一七六三
観世小次郎信光……一七六三
觀世金剛寶生今春 近代四座能役者目録(七七四―イ一五)……一七六三
観世左近太夫暮閑……一九八四、一九八六
観世元清……一七六〇、一九九三
看錢奴買寃家債主雜劇……三一二六
閑窓瑣談前篇(〇九一―イ三七)……三九九
菅太中……一〇六三
邯鄲記……三一四三
邯鄲道省悟黄粱夢雜劇……三一二六
〔寛治康和日記抄出〕(二一〇・三―イ九九)……九五〇
願　忠……八六一
鑵中音(一八六―イ二五)……六八九
關訂書(四四〇―イ一三)……一四七八
鑑定筆記(七〇〇―イ三)……Ⅱ四二二
感天動地竇娥寃雜劇……三一二六
關東御成敗式條(三二八・二―イ一)……Ⅰ三九五
關東御成敗式目(三二八・二―イ一九)……一二二七
關東小六昔舞臺下編上冊(九一三・六四―イ六五)……二七八三
漢土藏書印譜(〇八一―イ一九)……二六二
堪忍記(九一三・六一―イ五三)……二六一七
堪忍記(九一三・六一―イ一三七)……二六一八
堪忍記女鑑(九一三・六一―イ四一)……二六一九
寛之助……一〇六三
關白家五十番哥合(九一一・二九―イ二五)……一九七〇
官板 實測日本地圖(二九一・〇一―イ九)……Ⅰ三五七
冠服抄(一二五・八―イ一)……四八〇
冠服徴(一二五・八―イ一)……四七九
漢武帝内伝・飛燕外傳・附雜事秘辛(九二三―イ一九)……Ⅱ九〇四
簡平儀説(一九八・二―イ五)……七九六
簡平儀論(四四〇―イ九)……一四二二
神戸良政……七六七
關　鋒……三〇七七
含苞録(〇八一―イ一九)……三三七
看聞日記(二一〇・五二―イ一)……Ⅰ三二六
漢委奴國王金印之考……二八六八
韓　愈(宋)……三一八一
圜容較義(四四〇―イ一一)……一三九〇
雁來魚往(〇八一―イ一九)……三一〇
閑樂筆記(〇九一―イ四七)……四〇〇
観　瀾……一〇六二
管蠡抄(〇八一―イ二一)……一二四
管蠡鈔(一二二―イ三)……四三一
管蠡抄巻下(一二二―イ一)……四三二
甘露寺親長(蓮空)……二二一七、二三三四
甘露寺房長……一一〇三
甘露寺元長……二三八二
官　話(八一九・六―イ三)……一八一三
官話問答便語(八一九・六―イ一)……一八一八

奇異怪談抄(九二三ーイ五三)……Ⅰ六四八
奇異雜談集(九一三・六一ーイ九一)……二六二〇
紀伊國根來寺聖天院傳法灌頂雜記
(一八八・四ーイ一三)……Ⅱ一七九
淇園文集(九二四・一ーイ五)……Ⅱ九一三
きおひさくら(七二一ーイ二五)……一六八五
宜應文物語(九一三・六一ーイ四五)……二六二一
儀　遠……六二四
祇園尚濂……三〇七七
祇園惣繪圖……一一八一
祇園御本地(九一三・五ーイ一九五)……二四七四
祇園物語(九一三・六一ーイ一六五)……二六二三
祇園與一……四二三
喜　海……七一三
癸亥年三月京師道場落書(〇八一ーイ二九)……三八九
幾何原本(一九八・二ーイ五)……七九三
希果東崗……五五八
幾何要法(四四〇ーイ九)……一四一五
きゝ書(〇八一ーイ五)……Ⅰ一三
聞書集(九一一・二三ーイ一四九)……一九〇四
紀記歌集(〇八一ーイ一五)……Ⅱ五八
紀記萬葉歌撰部類稿(九一一・二三ーイ四七)Ⅱ五四六
義俠記……三一四三
起　欽(明)……三一一三
菊庵清泰……四七〇
菊花堂之記(九一一・七ーイ八三)……二〇三八
菊壽童霞盃(九一三・六四ーイ五九)……二七八四
菊地左太夫……一〇六三
〔菊之名之考〕(〇八一ーイ三)……Ⅰ二一九
聞まゝの記・同續(〇八一ーイ二三)……五二
菊屋兵部……四二三
紀君祥(元)……三一二六
義經記丹緑本(九一三・五ーイ二七七)……二四七五
義經記三之巻(九一一・七ーイ二三三)……二〇三九
義經記巻第五古活字丹緑本(九一三・五ーイ三九五)
……二四七六
義經双紙(九一三・五ーイ六一)……二四七七
祁元孺(明)……三一三六
希　杲……七四二
儀顧堂續跋(〇一七ーイ一三)……四
疑　齋(二一〇・一ーイ一五三)……八六六
疑齋辨(二一〇・一ーイ一五三)……八六六
木崎雅興……二二四〇
蚪貝考(〇八一ーイ九)……Ⅱ三二
耆　山……四七〇
己巳紀遊(二九一・四ーイ一一)……Ⅰ三七三
岸信之……三〇七七
貴志文庫集古圖録(四六九ーイ三七)……一五七二
貴志孫太夫……一五七二
岸本由豆流藏書目録(〇一七ーイ一一)……五
魏　収(北齊)……一五二二
宜秋山趙禮讓肥雜劇……三一二六
貴州苗寨圖(二九二・二ーイ二三)……一二〇一
紀州蜜柑組由來(〇八一ーイ一九)……二四七
宜穐門院……八三五
魏　書明版(四四〇ーイ一七)……一五二二
義　淨(唐)……五五三、六八五
戯場年表(七七一ーイ一一)……一七四三
奉寄進護摩堂御影供方料田事……八二九
〔寄進狀田券等法隆寺関係文書〕(二一〇・〇八ーイ七九)
……八二九
〔忌辰手帳〕(〇八一ーイ一九)……三七二
記瑞異事(〇八一ーイ一九)……二四三
木瀬太郎太夫重正……一七七四
木曽通道行(〇八一ーイ二一)……一五五
儀賊眞書鼠の足跡稿本初編(九一三・六四ーイ一三)
……Ⅰ六〇一
きそ物かたり(九一一・七ーイ一九一)……二〇四〇
〔寄題蒹葭堂新築〕(九二一・一ーイ二九)……三〇七七
魏太傅鍾繇千字文(九一三・六五ーイ二七)……二九一〇
北石見……一一〇六
北尾重政……一二九五
北川久兵衛尉正次……一三二六
北川宗左衛門宿さゝら三八宿契情天羽衣中山文七座臺帳
(九一三・六ーイ六七)……二一三一
北河原半也……八二七
北小路俊光……一一〇六
北野加茂に詣づる記(九一三・六五ーイ二七)……二八六〇
北野神社惣繪圖……一一八一
北の丸銀子寄進狀……八二七
北畠親房……五一七、八〇〇ー一一、八九二、一三二四
〔北向雲竹〕……七一三
北村伊兵衛篤所……一〇六
北村季吟……二二四一、二三五三、二九八七
喜多村節信……三九七、一二七九
宜　竹……九二五
吉　藏(隋)……六四六
紀中地名古事抄類聚上(二一〇・一ーイ一七)Ⅰ二九四
魏仲擧(宋)……三〇六五、三一八一
魏徵長(唐)……一五二三
亀兆傳……八九八
吉　蘭……三〇七七
吉川惟足……九一四
吉佐老人……二三七
記傳慨言(〇八一ーイ三)……Ⅰ二一〇
記傳慨言(〇八一ーイ三)……Ⅰ二一一
木　戸……一〇六三
虚堂和尚語録五山版(一八八・七ーイ九五)……七二二
義堂周信……三一一六
虚堂智愚(宋)……七二二
きぬふるひ……二七二七
甲子待鼠の本説稿本(九一三・六四ーイ九)……Ⅰ六〇八
きのふはけふの物語(九一七・五ーイ一七)……Ⅰ六三五
昨日は今日の物語古活字版(九一七・五ーイ二九)
……Ⅱ八九〇
きのふハけふの物語(九一七・五ーイ三五)……三〇四九
きのふハけふの物語(九一七・五ーイ四九)……三〇五〇
きのふハけふの物語(九一七・五ーイ五一)……三〇五一
紀海音……二六八四
木下大膳大夫……一〇一八
木下長嘯子……一〇四、一五六、一九五二
木下政右衛門……一〇二四
紀貫之……一九一一ー三、一九一七、一九二六、二九七七ー八五
木原楯臣……一五六九
記　猫(〇八一ーイ一九)……三四二
黄表紙外題索引(九一三・六四ーイ一九)……Ⅰ六〇六
貴布禰惣繪圖……一一八一
きふねの御ほんち……二四五九
きふねの本地(九一三・五ーイ五一)……Ⅱ八〇〇
きふねの本地(九一三・五ーイ二〇五)……二四七八
義　豹……三〇七七
歸　峯……一〇六三
琦　鳳……二九〇三
紀三井寺……二〇九二
公　軌……一九五二
木村伊祐……一一七一

木村喜之……一六五五
木村蒹葭堂……一〇七〇、一六五六、一七一六
木村仙秀……三三五
木村正辭……二三四六、一八九五、一八九九
木村正辭雜稿(〇八一ィ九)……Ⅱ二九ー三八
木村黙老……五三、二〇九、一〇九、一八六一、二九二六
木村黙老翁手簡……一八六一
既母白麻呂受奉寫經文書……八五〇
疑　問(〇八一ィ五)……Ⅰ一〇九
客參録(〇八一ィ一九)……二〇三
客中狂詩(〇八一ィ一九)……二八九
客豊圖志(二九一・六ィ一九)……一一八六
木屋七太夫……二〇四五
木屋庄左衛門……一三二九
きやとへかとる上巻きりしたん版(一九二ィ一九)……七六八
伽羅包下巻(三八七ィ七七)……一二八二
求阿弥陀佛……六七七
舊繪臺灣圖(二九一・八ィ一)……Ⅱ三五三
求艾録(〇八一ィ一九)……三三七
九歸增損法(四一九ィ一)……Ⅱ四〇四
鳩　居……一一一六
九曲卷(易竹)(九二・七ィ一四三)……二〇四一
救孝子賢母不認屍雜劇……三二六
九思軒鱗長……二七四八、二七七六
九州軍記(九二一・七ィ三三)……Ⅰ五一三
〔九州陣道の記〕(二九一・〇八ィ一三)……Ⅱ三一三
〔九州地圖〕(〇八一ィ五)……Ⅰ一五
虬髯翁……三一三六
宮天挺(元)……三一二六
杞憂道人(鵜飼徹定)……五六〇
休明光記(三一〇・六ィ五)……Ⅰ三三一
休聞抄(九一三・三六ィ一四三)……三三七二
休聞抄(九一三・三六ィ一五三)……三三七三
休聞抄(九一三・三六ィ一七七)……三三七四
休聞抄(九一三・三六ィ一九九)……三三七五
休聞抄(九一三・三六ィ二六九)……三三七六
究理諸毒考(四九四ィ七)……一六三九
曉蘭抄(〇九一ィ二九)……四〇一
教王護國寺惣繪圖……一一八一
饗應石吸物……三〇五九
(新撰増補)京大繪圖(二九一・四ィ九五)……一一六〇
(新撰増補)京大繪圖(二九一・四ィ一〇一)……一一六一
(新撰増補)京大繪圖(二九一・四ィ一八五)……一一六二
(増補再板)京大繪圖(二九一・四ィ一八三)……一一六三
京坂役者評判色三味線(七七一ィ一七)……一七五一
狂歌阿春香美楚(〇八一ィ一九)……二七五
〔興畫合〕(九一八ィ一)……三〇五八
狂歌烟艸百首(九一七・二ィ九)……三〇三一
俠客傳第二集評并答(九一三・六五ィ一九)……二九二二
俠客傳四輯評并答(九一三・六五ィ一九)……二九二三
鯨陽窩皓……一三六三
狂歌しるへ石(〇八一ィ一九)……二七三
今日歌即考隨筆(〇八一ィ一九)……三三一
狂哥たび枕(九一七・二ィ四九)……三〇三三
恭　寛……三〇七七
仰觀俯察室記(九一三・六五ィ二七)……二八五三
行基菩薩御遺骨出現記(一八八・一ィ一一)……六五五
喬　吉(元)……三一三六
〔狂言古本寄本〕(九一三・六ィ九一)……三一二七
狂言抜書(九一一・六ィ七七)……一九五四
狂言六義・狂言抜書(九一一・六ィ七七)……一九九四
行幸和歌(〇八一ィ一三)……一六六
陜山手簡(〇九一ィ五一)……四〇四
教時諍(一八八・三ィ一三)……Ⅱ一七六
曉翠樓謙々園……一〇六三
曲江春……三一三六
曲江池雜劇……三一三六
玉簫女兩世姻緣雜劇……三一三六
極數變形草(四一九ィ一)……Ⅱ四〇五
玉清卷錯送鴛鴦被雜劇……三一三六
玉屑集(〇一一ィ三)……Ⅰ二
玉簪記……三一四三
玉仲和尚入寺錢納下帳(三一〇・五ィ三)……Ⅱ三四一
曲亭翁家系稿本(〇八一ィ一九)……二六五
曲亭馬琴日記(九一〇・二八ィ一七)……一八五八
きよくばろん(九一一・七ィ五一)……Ⅰ五一一
玉門寺隱居……三〇五
玉葉和歌集(九一一・四ィ一九)……Ⅱ六一四
曲林集(七六一ィ一一)……Ⅰ四三五
魚山叢芥集(一八六ィ五)……Ⅱ一七〇
清　重(古活字版)(九一一・六ィ一五)……Ⅰ四八九
許自昌(明)……三一四三
魚兒佛……三一三六
清　島……四三三
虛　舟……四七〇
許世宗(唐)……三〇六三
御製逍遙詠(九二一・二ィ一)……Ⅰ六四六
許多虛妄言語帖(四〇九ィ七)……一三五八
許　潮(明)……三一三六
魚日津梁……四六三
清野謙次……一〇五七、一五四四、一五八〇
舉白集(九一一・三六ィ一五)……一九五三
舉白集不審(九一一・三六ィ一三)……一九五三
〔清原業賢〕……九〇九、九三四
玉吟集(九二一・二四ィ四一)……一九二九
玉合記……三一四三
玉玦記……三一四三
曲江春……三一三六
曲江池雜劇……三一三六
玉簫女兩世姻緣雜劇……三一三六
極數變形草(四一九ィ一)……Ⅱ四〇五
玉清卷錯送鴛鴦被雜劇……三一三六
玉屑集(〇一一ィ三)……Ⅰ二
玉簪記……三一四三
玉仲和尚入寺錢納下帳(三一〇・五ィ三)……Ⅱ三四一
曲亭翁家系稿本(〇八一ィ一九)……二六五
曲亭馬琴日記(九一〇・二八ィ一七)……一八五八
きよくばろん(九二一・七ィ五一)……Ⅰ五一一
玉門寺隱居……三〇五
玉葉和歌集(九一一・四ィ一九)……Ⅱ六一四
曲林集(七六一ィ一一)……Ⅰ四三五
魚山叢芥集(一八六ィ五)……Ⅱ一七〇
清　重(古活字版)(九一一・六ィ一五)……Ⅰ四八九
許自昌(明)……三一四三
魚兒佛……三一三六
清　島……四三三
虛　舟……四七〇
許世宗(唐)……三〇六三
御製逍遙詠(九二一・二ィ一)……Ⅰ六四六
許多虛妄言語帖(四〇九ィ七)……一三五八
許　潮(明)……三一三六
魚日津梁……四六三
清野謙次……一〇五七、一五四四、一五八〇
舉白集(九一一・三六ィ一五)……一九五三
舉白集不審(九一一・三六ィ一三)……一九五三
〔清原業賢〕……九〇九、九三四

清原賢好……八〇〇
清原國賢（青松軒）……四九三、八〇〇、八〇四、九〇三
清原枝賢……四五四―五、四五九
清原宣賢……八九、四三四、四三六、四五四、四五四、四五九、四六一、四六四、四九九、五四五、八八二、八八四、八九六、九二三―三、九二五、九二八―九、九三三―四、一二三三、一八二一、二三一二
清原宗賢……四五四
魚腹鴉足（〇八一ィ一九）……三三九
清正追遠祭讃詞（一八九―一五）……Ⅱ二八四
清水修行……二六二三
清水寺物繪圖……一八一
清水物語（九二三・六一ィ一九）……二六二三
清水物語（九二三・六一ィ一七五）……二六二四
清水物語……二六四二
九天應元雷聲普化天尊説玉樞寶經（一三六ィ三）……四八八
儀禮注疏明版（一三二・四ィ一）……四四五
〔きりかねそが〕奈良繪巻（九二一・六ィ一七五）一九九五
鬼理志端破却論傳巻下（一九〇・四ィ一五）Ⅰ二七三
吉利支丹物語（九二三・六一ィ一〇七）……二六二五
契利斯督記（一九八・二ィ一）……Ⅰ二八六
魏了翁（宋）……四四四
羈旅漫録（九二四・六ィ三九）……三〇〇三
記録之覺（〇八一ィ五）……Ⅰ二四〇
記録之覺（〇八一ィ五）……Ⅰ二四一
記録之覺（〇八一ィ五）……Ⅰ二四二
錦雲堂暗定連環計雜劇……三一三六
金槐和歌集（九二一・二四ィ六五）……一九三〇
金槐和歌集（九二四・六ィ五七）……三〇一〇
銀閣寺飯始嵐吉三良座臺帳（九二三・六ィ七七）三一二八
謹解申進所寫疏用紙事（三一〇・〇八ィ一七）……八三〇
謹解申賣買家地立券文事……八二九
〔金銀箔御觸寫〕……一七一六
〔金銀箔細工方〕……一七二五
〔金銀箔由來〕……一七二四
金句集（一五四・一ィ一）……五〇五
今古沿革參考圖集（四六九ィ三三）……一九七三
今古小説唐錦（九二三・六五ィ二五）……二九一八
金　史明版（四四〇ィ一七）……一五二八
金　砂（九二三・六五ィ二七）……二八二六
金雀記……三一四三
錦綉段抄（九二一・二ィ三）……Ⅰ六四七
近將法（〇八一ィ二）……一七三
錦所雜記（三一〇・〇七ィ一三）……八二一
琴心記……三一四三
金水橋陳琳抱粧盒雜劇……三一三六
〔近世一枚刷歌謡集〕（九二一・八ィ一九）……二一〇八
近世蝦夷人物誌（二六一・七ィ一）……Ⅰ三三六
近世華押譜（〇八一ィ一九）……三八〇
近世畸人傳拾遺草稿（二八一ィ一）……Ⅰ三三五
近世紀聞（三一〇・六ィ七）……Ⅱ二四四
近世諸家書翰集（二六一ィ一三）……一〇六三
近世日本名士尺牘輯覽（九一六ィ一）……Ⅰ六二
近世物之本江戸作者部類……一一〇九
〔近世和歌短冊帖〕（九二一・二六ィ一〇五）……一九五四
錦箋記……三一四三
金瘡壹部抄（四九〇ィ一七）……二六二三
金瘡醫方（四九〇ィ三九）……一六二四
銀臺犬追物之記（三九九・四ィ七）……一三三三
近代歌謡考説（九二一・九ィ九）……二一一三
近代四座能役者目録（七四ィ一五）……一七六三
琴臺手簡（〇八一ィ一九）……二四二
近代宣命抜粋（〇八一ィ一五）……Ⅰ二三三
近代長者鑑（九二一・六二ィ二九一）……Ⅱ二五二
近代艷隱者（九二三・六二ィ九三）……二六七七
禁短氣次編（九二三・六二ィ八一）……二六七八
禁中行事記聞（二八八・一ィ三五）……二六七九
禁中年中行支略（三二八・七ィ一一）……一〇七七
筠亭主人……二五八〇
近代艷隱者（九二三・六二ィ九三）……二七七
禁短氣次編（九二三・六二ィ八一）……二六七八
禁中行事記聞（二八八・一ィ三五）……二六七九
〔金銀箔細工方〕……一七二五
〔金銀箔由來〕……一七二四
金句集（一五四・一ィ一）……五〇五
今古沿革參考圖集（四六九ィ三三）……一九七三
今古小説唐錦（九二三・六五ィ二五）……二九一八
金　史明版（四四〇ィ一七）……一五二八
金　砂（九二三・六五ィ二七）……二八二六
金雀記……三一四三
錦綉段抄（九二一・二ィ三）……Ⅰ六四七
近將法（〇八一ィ二）……一七三
錦所雜記（三一〇・〇七ィ一三）……八二一
琴心記……三一四三
金水橋陳琳抱粧盒雜劇……三一三六
〔近世一枚刷歌謡集〕（九二一・八ィ一九）……二一〇八
近世蝦夷人物誌（二六一・七ィ一）……Ⅰ三三六
近世華押譜（〇八一ィ一九）……三八〇
近世畸人傳拾遺草稿（二八一ィ一）……Ⅰ三三五
近世紀聞（三一〇・六ィ七）……Ⅱ二四四
近世諸家書翰集（二六一ィ一三）……一〇六三
近世日本名士尺牘輯覽（九一六ィ一）……Ⅰ六二
近世物之本江戸作者部類……一一〇九
〔近世和歌短冊帖〕（九二一・二六ィ一〇五）……一九五四
錦箋記……三一四三
金瘡壹部抄（四九〇ィ一七）……二六二三
金瘡醫方（四九〇ィ三九）……一六二四
銀臺犬追物之記（三九九・四ィ七）……一三三三
近代歌謡考説（九二一・九ィ九）……二一一三
近代四座能役者目録（七四ィ一五）……一七六三
琴臺手簡（〇八一ィ一九）……二四二
近代宣命抜粋（〇八一ィ一五）……Ⅰ二三三
近代長者鑑（九二一・六二ィ二九一）……Ⅱ二五二
近代艷隱者（九二三・六二ィ九三）……二六七七
禁短氣次編（九二三・六二ィ八一）……二六七八
禁中行事記聞（二八八・一ィ三五）……二六七九
禁中年中行支略（三二八・七ィ一一）……一〇七七
筠亭主人……二五八〇
金銀箔細工方〕……一七二五
〔金銀箔由來〕……一七二四
金句集（一五四・一ィ一）……五〇五
今古沿革參考圖集（四六九ィ三三）……一九七三
今古小説唐錦（九二三・六五ィ二五）……二九一八
金　史明版（四四〇ィ一七）……一五二八
金　砂（九二三・六五ィ二七）……二八二六
金雀記……三一四三
錦綉段抄（九二一・二ィ三）……Ⅰ六四七
近將法（〇八一ィ二）……一七三
錦所雜記（三一〇・〇七ィ一三）……八二一
琴心記……三一四三
金水橋陳琳抱粧盒雜劇……三一三六
〔近世一枚刷歌謡集〕（九二一・八ィ一九）……二一〇八
近世蝦夷人物誌（二六一・七ィ一）……Ⅰ三三六
近世華押譜（〇八一ィ一九）……三八〇
近世畸人傳拾遺草稿（二八一ィ一）……Ⅰ三三五
近世紀聞（三一〇・六ィ七）……Ⅱ二四四
近世諸家書翰集（二六一ィ一三）……一〇六三
近世日本名士尺牘輯覽（九一六ィ一）……Ⅰ六二
近世物之本江戸作者部類……一一〇九
近世和歌短冊帖

藥草取(九一三・七ーイ五五)……二九四二
曲舞集(九一一・六ーイ六三)……Ⅱ七一〇
癇癖談(九一三・六五ーイ二七)……二八一一
癖物語(九一三・六五ーイ二七)……二八一二
くせ物かたり抄(九一三・六五ーイ二七)……二八一三
示愚息乘因及同志學者教誡條章
(七二八ーイ一七)……Ⅱ四三二
朽木植綱……一一〇〇
くちきさくら(九一三・五ーイ五三)……Ⅱ八〇一
朽木龍橋(昌綱)……一六八一
くち木わり下奈良繪本(九一三・五ーイ三〇五)……二四七九
愚癡中將(〇八一ーイ二一)……一五八
具注曆元亨三年(二一〇・三ーイ九九)……九五〇
具注曆寛正五年……一〇〇三
具注曆文明十九年……一〇〇七
具注曆應德二年(四四五ーイ九)……一五三九
具注曆承安三年(四四五ーイ三九)……一五四〇
具注曆承久三年(四四五ーイ四七)……一五四一
具注曆寛元四年(四四五ーイ三三)……一五四二
具注曆建治元年(四四五ーイ四三)……一五四三
具注曆正安二年(四四五ーイ三一)……一五四四
具注曆元亨三年(四四五ーイ四九)……一五四五
具注曆貞和三年(四四五ーイ二一)……一五四六
具注曆康安二年(四四五ーイ五七)……一五四七
具注曆應永三年(四四五ーイ二九)……一五四八
具注曆應永十年(四四五ーイ三七)……一五四九
具注曆應永十三年(四四五ーイ一三)……一五五〇
具注曆文明十九年(四四五ーイ五五)……一五五一
具注曆永祿五年(四四五ーイ三五)……一五五二
具注曆文祿元年(四四五ーイ五一)……一五五三
懼　堂……一〇六三
工藤勝九郎……一六七〇
國木田獨歩……三〇一九
國木田獨歩書翰(九一六ーイ二三)……三〇一九
國　足……六六七ー八
弘福寺大和國衙宛牒並國判(一八八・四ーイ一七)
……Ⅱ一八〇
熊谷玄隨……一五六二
熊谷直好大人詠草(九一一・二六ーイ九)……Ⅱ六五四
熊谷直好家集(九一一・二六ーイ六五)……Ⅱ六五五
熊阪臺洲……三〇七五
熊澤蕃山……一〇六四、一一〇六
熊澤蕃山書翰(二八一ーイ一九)……一〇六四
熊　志(四九四ーイ九)……一六四〇
〔熊野権現開帳〕(九一一・七ーイ一六三)……二〇四三
熊野之御本地(九一一・七ーイ五五)……Ⅰ五一〇
熊野の本地奈良繪本(九一三・五ーイ三七)……Ⅰ五六〇
熊野本地……二〇二九
熊野本地奈良繪本(九一三・五ーイ三九)……二四八〇
くまのゝほんち丹綠本(九一三・五ーイ一三七)　二四八一
熊野の本地奈良繪本(九一三・五ーイ一四五)……二四八二
くまのゝほんち(九一三・五ーイ三三五)……二四八三
熊野別當堀内家文書　朝鮮古帖(二一〇・五ーイ三七)……一〇一五
鳩摩羅什(後秦)　六〇一ー五、六四七ー八、六五二、六五四ー九
久米田軍記……一〇一〇
雲井の春(七八三ーイ五)……Ⅱ四五一
蛛のいかき(〇八一ーイ一五)……Ⅱ五九
雲妙間雨夜月巻二草稿(九一三・六五ーイ七)
……Ⅰ六一六
愚問賢注(〇八一ーイ二一)……九六
悔　草(九一三・六一ーイ一六一)……二六二六
瞿　佑(明)……三一六五ー六
孔穎達(唐)……四四一、四四三
〔鞍鐙考證雜集〕(三九九・六ーイ九)……一三五〇ー五
鞍鐙圖(三九九・六ーイ九)……一三五三
倉橋木工大夫……一三四五
〔鞍馬寺勸進文〕(一八八・三ーイ一一)……Ⅱ一七七
鞍馬寺惣繪圖……一八一
〔栗田家由緒書〕(〇八一ーイ五)……Ⅰ一四五
栗田土滿……四二二ー三
栗田土滿詠草(〇八一ーイ五)……Ⅰ三四
栗田土滿雜集(〇八一ーイ五)……Ⅰ一三ー一六八
栗田土滿雜集(〇八一ーイ五)……Ⅱ二六ー七
栗田土滿書簡集(〇八一ーイ五)……Ⅰ一六四
栗田土滿來簡集(〇八一ーイ五)……Ⅰ一六五
栗田寛……六九八、八〇二、一一九六
〔栗原研究所報告書〕(二九六・二ーイ一)……Ⅱ三六一
栗原信充……
……六九九、一二六五、一三四八、一三五〇ー二、一三五四、一七三九
栗本丹洲……一五八三
佝僂篇(四九〇ーイ四一)……一六一二
曲輪太平記(九一一・七ーイ二〇七)……二〇四四
黒川春村……一一五六
黒川眞頼……一六六六
黒坂命墳墓考(四六九ーイ二九)……一五七四
黒澤翁滿……二五九七
黒田甲斐守……一〇一五、一〇二四
黒田清綱……一〇九九
黒田清綱日記(二八九ーイ七五)……一〇九九
黒田如水……一〇一五
黒田道宅……三四五
桑名屋徳藏入船物語小川吉太郎座臺帳
(九一二・六ーイ七三)……二一三〇
桑原角右衛門尉……一六六八
桑本正固……一一〇六
桑山小藤太一晴……一〇一五、一〇二四
勲位考(三二八・四ーイ一)……一二三七
群礦一塊(七一八ーイ一)……一六七九
君　山……一〇六三
君臣圖録古活字版(二八二・二ーイ一一)……一〇七一
群書治要古活字版(三二九・二ーイ一)……Ⅰ三九九
群書摘要抄……四二七
軍書目録(二一〇・五ーイ四一)……一〇一六
群書類從二百五十(〇八一ーイ一五)……Ⅱ六〇
群書類從二百七十八(〇八一ーイ一五)……Ⅱ六一
群書類從三百五十(〇八一ーイ一五)……Ⅱ六二
軍政集(〇八一ーイ二一)……一一八
郡名考(二九一・〇三ーイ五)……Ⅰ三六二
軍略秘書(三九九ーイ九)……Ⅱ三九三
軍林兵人寶鑑(〇八一ーイ二一)……一一七
軍林寶鑑……一一七

ケ

慶　陰……六四九
形影夜話(四九〇ーイ一)……Ⅰ四二五
桂翁芳信(〇八一ーイ一九)……三五一
景教流行中國碑頌并序(一九八・二ーイ五)……七八三
啓　元……一〇六三
契　嵩(宋)……五四八、七五〇
荆釵記……三一四三
(重刊)經史證類大全本草明版(四九四ーイ一九)
……一六四一
(重修政和)經史證類備用本草明版
(四九四ーイ五)……一六四二
邢　璹(魏)……四三七
荆州大堤石磵岩全圖(二九二・二ーイ一三)……Ⅱ三五七
敬　所……二三五
恵　沼(唐)……五九〇

恵　照……二四九一
慧　祥(唐)……六四五
景　淨……七八三
繼　乘……八五三
奎章閣志(〇一六ーイ一)……Ⅱ一
恵　仁……四七〇
慶　信……八三六
慶信田地處分狀(二一〇・〇八ーイ六三)……八三六
馨　助……一〇六三
契情天羽衣中山文七座臺帳(九一二・六ーイ六七)
……二一三一
けいせい嵐山亀屋座臺帳(九一二・六ーイ一三三)
……二一三二
けいせい在原寺蛭子屋座狂言本(九一二・六ーイ五五)
……二一三三
けいせい色三味線(九一三・六二ーイ八九)……二六八二
けいせい哥三味線(九一三・六二ーイ二七七)……二六八三
けいせい鶯宿梅(九一一・七ーイ一六七)……二〇四五
契情鸚鵡石萬太夫座臺帳(九一二・六ーイ一四五)　二一三四
けいせい折居鶴(九一三・六二ーイ七一)……二六八四
契情華街蛙布袋屋座臺帳(九一二・六ーイ八五)……二一三五
けいせい柏の大黒天(九一二・六ーイ三)……Ⅰ五三三
契情勝尾寺早雲布袋屋座臺帳(九一二・六ーイ八一)
……二一三六
傾城禁短氣(九一三・六二ーイ一四五)……二六八五
けいせいぐぜいの舟萬太夫座狂言本
(九一二・六ーイ四七)……二一三七
傾城廓孛環三桝他人座臺帳(九一二・六ーイ七五)
……二一三八
(日本五山)傾城建仁寺供養布袋屋座臺帳
(九一二・六ーイ一四三)……二一三九
けいせい盃軍談(九一三・六二ーイ五九)……二六八六
けいせい十三鐘亀屋座狂言本(九一二・六ーイ四一)
……二一四〇
けいせい新あさまのだけ(九一二・六ーイ一一)
……Ⅰ五三四
傾城錢車(九一三・六二ーイ一七五)……二六八七
けいせい卵子酒(九一三・六二ーイ七五)……二六八八
けいせい竹生嶋(九一二・六ーイ一)……Ⅰ五三二
けいせい竹生嶋蛭子屋座狂言本(九一二・六ーイ三三)
……二一四一
警世通言明版(九二三ーイ七一)……三一四六
けいせい筑波山萬太夫座狂言本(九一二・六ーイ九三)
……二一四二
傾城妻恋櫻早雲座臺帳(九一二・六ーイ一三一)……二一四三
けいせい傳受紙子(九一三・六二ーイ一七三)……二六八九
傾城情の手枕(九一三・六二ーイ一四三)……二六九〇
傾城難波みやけ(九一三・六二ーイ七七)……二六九一
けいせいならみやげ蛭子屋座狂言本
(九一二・六ーイ四九)……二一四四
けいせい錦産衣早雲座狂言本(九一二・六ーイ三九)
……二一四五
けいせいはちす川……二一二七
けいせい八万日萬太夫座狂言本(九一二・六ーイ一七)
……二一四六
けいせい花筏布袋屋梅之亟座狂言本
(九一二・六ーイ一一一)……二一四七
傾城花城山布袋屋座臺帳(九一二・六ーイ五九)……二一四八
契情風流杉盃(九一三・六二ーイ一七一)……Ⅰ五八五
けいせい夫立石澤村長十郎座狂言本
(九一二・六ーイ三五)……二一四九
けいせいふたつ盃(九一三・六二ーイ二七九)……二六九二
けいせい二見の浦早雲座狂言本(九一二・六ーイ四五)
……二一五〇
けいせい見廻櫻亀谷座狂言本(九一二・六ーイ三七)
……二一五一
契情睦玉川中村歌右衛門座臺帳(九一二・六ーイ六三)
……二一五二
けいせい元女塚早雲座狂言本(九一二・六ーイ九五)
……二一五三
傾性野群談(九一三・六二ーイ三七)……二七五五
〔桂窓馬琴評答集〕……二九一九ー二二
荊楚臣重對玉梳記雜劇……三一二六
慶　尊……一〇七九
契　沖……一九〇一、一九六〇ー一、二一八二
契沖石橋新右衛門宛書簡(二八九ーイ四七)
……Ⅱ二八五
契沖自詠自註歌(九一一・二六ーイ三三)……Ⅱ六五六
經　朝……六五四
慶長見聞集(二一〇・六ーイ一七)……一〇二七
慶長年間江戸圖説(二九一・一ーイ一五)……Ⅱ三一九
景徳傳燈録五山版(一八八・七ーイ一七)……七二四
景徳傳燈録五山版(一八八・七ーイ五五)……七二五
藝備街道瀧見笠(二九一・五ーイ一)……Ⅱ三四九
瓊浦通(二九一・六ーイ五)……Ⅰ三八四
桂萬榮(元)……六〇
景龍三年張君義告身敦煌出土本
(三二九・二ーイ一五)……一二六一
慧立本(唐)……五六三
桂林集(九一一・二六ーイ八一)……Ⅱ六五七
外宮儀式帳(〇八一ーイ五)……Ⅰ五四
外宮儀式帳私考(一七四ーイ一九)……Ⅱ一三八
外宮北御門歌合(九一一・二九ーイ一一)……Ⅱ六八八
外宮子良館祭奠式(〇八一ーイ五)……Ⅰ五五
外宮子良館祭奠式(一七四ーイ二一)……Ⅱ一三九
華嚴一乘教分記春日版(一八八・二ーイ九)……七〇〇
華嚴經殘卷(一八三ーイ一四九)……五七五
華嚴十重唯識瑺鑑記卷第七(一八八・二ーイ一一)
……七〇一
華嚴法界圖(一八八・二ーイ五)……Ⅱ一七二
戯作者小傳(九一三・六ーイ一三)……二五九五
解脱上人明恵上人縁起繪卷
(九一三・五ーイ三七九)……二四八四
闕疑抄(九一三・三二ーイ六三)……二二二八
月食國字解(四四〇ーイ一一)……一四〇四
月食説……一四九七
月尋堂……二七四一、二七六一
月清集……六七
月洞軒……三〇三〇
月堂見聞集(二一〇・六ーイ二五)……一〇二八
月明和尚度柳翠雜劇……三一二六
闕里誌(二九二・二ーイ一)……Ⅰ三九一
月離表(四四〇ーイ九)……一四三四
月離暦指(四四〇ーイ九)……一四二四
月離暦指(四四〇ーイ一七)……一五一二
蹴鞠條々大概(七八三ーイ九)……一七六八
蹴鞠條々大概(七八三ーイ一一)……一七六九
〔蹴鞠秘傳〕(七八三ーイ一)……Ⅱ四五二
蹴鞠略記(七八三ーイ七)……Ⅱ四五三
けらわらひ(九一七・五ーイ三)……Ⅰ六三四
謙……一〇六三
幻雲壽桂……一六二八
元　裔……四七〇
源　永……一〇一五
諺　苑(三八九ーイ一)……Ⅰ四一一
嵊園文稿(九二一・一ーイ七)……三〇七九
玄　應(唐)……五六九ー七〇
〔蒹葭堂献本始末〕(〇一九ーイ一九)……八

源海集(九一三・三六ーイ一一五)……二三七七
源概抄(九一三・三六ーイ一五)……Ⅱ七五七
源海聖人献上本(九一一・七ーイ一三七)……二〇四六
建久皇太神宮年中行事(一七四ーイ二五)……五二九
建久二年御修法記(一八八・四ーイ五)……Ⅰ二六五
建久二年南都御順禮記……六七七
元曲選明版(九三二ーイ四三)……三一二六
謙々舎……一〇六三
元々集(二一〇・一ーイ一三)……Ⅰ二九二
元元集(一七一ーイ一一)……五一七
兼好一代記(九一三・六三ーイ二九三)……二六九三
元好問(金)……三一八一九
源語歌註(九一三・三六ーイ七)……Ⅰ五三八
源語装束抄付肖柏問答抄(九一三・三六ーイ四〇一)
……Ⅰ五三九
源語装束抄付肖柏問答抄(九一三・三六ーイ二八七)……二三七八
源語秘訣(九一三・三六ーイ二三三)……二三七九
源語秘訣(九一三・三六ーノ三〇一)……二三八〇
源語類字(九一三・三六ーイ一〇七)……二三八一
〔けんさい物かたり〕(九一三・六一ーイ六七) Ⅰ五七四
兼載和歌短冊(九一一・二五ーイ二五)……一九四四
遺山樂府朝鮮版(九三二・七ーイ一)……三二一九
源三知抄(九一三・三六ーイ一一三)……二三八二
源三位頼政……二三四三
弦　史(三九九・四ーイ三)……Ⅱ四〇〇
元　史明版(四四〇ーイ一七)……一五二九
源氏一部大綱集(九一三・三六ーイ一五七)……二三八三
源氏大鏡(九一三・三六ーノ三五三)……二三八五
源氏貫雲傳(九一三・三六ーイ一六七)……二三八六
源氏闘書(九一三・三六ーイ二七三)……二三八七
源氏闘書(九一三・三六ーイ二七九)……二三八八
源氏口訣(九一三・三六ーイ五五)……二三八九
源氏供養(九二一・七ーイ一四一)……二〇四七
源氏供養(九二一・七ーイ三二一)……二〇四八
源氏供養双紙(〇八一ーイ二一)……一四〇
源氏供養表白……一七七
源氏系圖(〇八一ーイ二一)……一四九
〔源氏系圖〕(九一三・三六ーイ四七)……二三九〇
源氏講式(九一三・三六ーノ三〇五)……二三九一
〔源氏古鏡〕(九一三・三六ーイ二七)……Ⅱ七五八
源氏小鏡……二三八八
源氏小鏡(九一三・三六ーイ二二七)……二三九二
源氏小鏡(九一三・三六ーイ二三七)……二三九三
源氏小鏡(九一三・三六ーイ二五三)……二三九四
源氏小鏡(九一三・三六ーイ二七一)……二三九五
源氏小鏡(九一三・三六ーイ二八五)……二三九六
源氏小鏡(九一三・三六ーイ二九三)……二三九七
源氏小鏡下巻古活字版(九一三・三六ーイ二六三) 二三九八
源氏湖月抄并今案詞寄文化考
(九一三・三六ーイ六九)……二三九九
源氏詞の解(九一三・三六ーノ三〇七)……二四〇〇
源氏小ふくろ(九一三・三六ーノ三八七)……二四〇一
元史四十八正方案考(四四〇ーイ一三)……一四七九
源氏十二だん(九二一・七ーイ一五)……Ⅰ五〇〇
源氏注(九一三・三六ーイ一六五)……二四〇二
源氏名前……一七七
源氏抜書(九一三・三六ーノ三三三)……二四〇三
〔源氏歌〕(九一三・三六ーイ二一七)……二三八四
源氏のおこり(〇八一ーイ二一)……一〇九
けむしのこかゝみ(九一三・三六ーイ二七七)……二四〇四
源氏目案(九一三・三六ーイ三四七)……二四〇五
源氏物語古活字版(九一三・三六ーイ一)……Ⅰ五四〇
源氏物語(九一三・三六ーイ二一)……Ⅱ七五九
源氏物語(九一三・三六ーイ三七)……Ⅱ七六〇
源氏物語古活字版(九一三・三六ーイ一九)……Ⅱ七六一
源氏物語青表紙本(九一三・三六ーイ六五)……二四〇六
源氏物語青表紙本(九一三・三六ーイ八三)……二四〇七
源氏物語青表紙本(九一三・三六ーイ八九)……二四〇八
源氏物語青表紙本(九一三・三六ーイ九一)……二四〇九
源氏物語青表紙本(九一三・三六ーイ九三)……二四一〇
源氏物語青表紙本(九一三・三六ーイ九五)……二四一一
源氏物語河内本(九一三・三六ーイ九七)……二四一二
源氏物語別本(九一三・三六ーイ一一七)……二四一三
源氏物語青表紙本(九一三・三六ーイ一三五)……二四一四
源氏物語青表紙本(九一三・三六ーイ一四一)……二四一五
源氏物語(九一三・三六ーイ一四七)……二四一六
源氏物語青表紙本(九一三・三六ーイ二一九)……二四一七
源氏物語河内本(九一三・三六ーイ二二九)……二四一八
源氏物語青表紙本(九一三・三六ーイ二七五)……二四一九
源氏物語混合本(九一三・三六ーイ三三九)……二四二〇
源氏物語青表紙本(九一三・三六ーイ三三一)……二四二一
源氏物語青表紙本(九一三・三六ーイ三三五)……二四二二
源氏物語青表紙本(九一三・三六ーイ三四三)……二四二三
源氏物語河内本(九一三・三六ーイ三四九)……二四二四
源氏物語奈良繪本(九一三・三六ーイ三六一)……二四二五
源氏物語青表紙本(九一三・三六ーイ三六五)……二四二六
源氏物語青表紙本(九一三・三六ーイ三六九)……二四二七
源氏物語別本耕雲本(九一三・三六ーイ三七五)……二四二八
源氏物語朝顔巻青表紙本(九一三・三六ーイ一七三)
……二四三〇
源氏物語東屋巻青表紙本(九一三・三六ーイ一九七)
……二四三一
源氏物語浮舟巻河内本(九一三・三六ーイ七三) 二四三二
源氏物語薄雲巻別本(九一三・三六ーイ一九三)……二四三三
源氏物語梅枝巻河内本(九一三・三六ーイ五一) 二四三四
源氏物語繪合巻河内本(九一三・三六ーイ三七三) 二四三五
源氏物語乙女巻別本(九一三・三六ーイ三七九)……二四三六
源氏物語蜻蛉巻別本(九一三・三六ーイ一八三)……二四三七
源氏物語柏木巻別本(九一三・三六ーイ三八九)……二四三八
源氏物語柏木巻・狭衣巻二殘巻
(九一三・三六ーイ六一)……二四三九
源氏物語雲隠巻及附巻(九一三・三六ーイ七一)……二四四〇
源氏物語附雲隠六帖(九一三・三六ーイ三三七)……二四二九
源氏物語末摘花巻青表紙本(九一三・三六ーイ三九一)
……二四四一
源氏物語鈴虫巻河内本(九一三・三六ーイ三九五)
……二四四二
源氏物語須磨巻(九一三・三六ーイ三一)……Ⅱ七六二
源氏物語常夏巻(九一三・三六ーイ三三)……Ⅱ七六三
源氏物語野分巻青表紙本(九一三・三六ーイ一六三)
……二四四三
源氏物語野分巻青表紙本(九一三・三六ーイ三三一)
……二四四四
源氏物語花散里巻青表紙本(九一三・三六ーイ一八一)
……二四四五
源氏物語帚木巻別本(九一三・三六ーイ一六九)……二四四六
源氏物語帚木巻青表紙本(九一三・三六ーイ三九三)
……二四四七
源氏物語藤袴巻青表紙本(九一三・三六ーイ一七九)
……二四四八
源氏物語槇柱巻別本(九一三・三六ーイ一八七)……二四四九
源氏物語宿木巻殘簡別本(九一三・三六ーイ一九五)
……二四五〇
源氏物語夕霧巻河内本(九一三・三六ーイ一八九) 二四五一
源氏物語蓬生巻河内本(九一三・三六ーイ三七七) 二四五二
源氏物語打聞(九一三・三六ーイ四五)……二四五三
源氏物語繪巻(九一三・三六ーイ五三)……二四五四
源氏物語繪巻(九一三・三六ーイ八一)……二四五五

源氏物語繪巻青表紙本(九一三・三六ーイ三五一) 二三五六
源氏物語歌集(九一三・三六ーイ一〇一) ……二三五七
源氏物語聞書(九一三・三六ーイ一九一) ……二三五八
源氏物語系圖(九一三・三六ーイ五七) ……二三五九
源氏物語系圖正嘉本(九一三・三六ーイ五九) ……二三六〇
源氏物語系圖(九一三・三六ーイ一五九) ……二三六一
源氏物語系圖(九一三・三六ーイ二〇九) ……二三六二
源氏物語系圖(九一三・三六ーイ二八九) ……二三六三
源氏物語巨細(九一三・三六ーイ七九) ……二三六四
〔源氏物語古注〕(九一三・三六ーイ三〇九) ……二三六五
源氏物語四孝注(九一三・三六ーイ一〇九) ……二三六六
源氏物語釋(九一三・三六ーイ一三七) ……二三六七
源氏物語抄(九一三・三六ーイ八五) ……二三六八
〔源氏物語鈔〕(九一三・三六ーイ三五五) ……二三六九
源氏物語抄高水本(九一三・三六ーイ三七一) ……二三七〇
源氏物語新釋(九一三・三六ーイ三六三) ……二三七一
源氏物語新釋總考(九一三・三六ーイ三九七) ……二三七二
源氏物語鈴屋翁講説聞書(九一三・三六ーイ三八三) ……二三七三
〔源氏物語須磨巻和歌〕(九一三・三六ーイ四九) ……二三七四
〔源氏物語注〕(九一三・三六ーイ二九一) ……二三七五
源氏物語提要(九一三・三六ーイ二〇三) ……二三七六
源氏物語提要附系圖(九一三・三六ーイ二〇五) 二三七七
源氏物語答問(九一三・三六ーイ一六一) ……二三七八
源氏物語花の宴(九一三・三六ーイ四一) ……Ⅱ七六四
源氏物語不審抄出(九一三・三六ーイ二八一) ……二三七九
源氏物語無外題(九一三・三六ーイ三一一) ……二三八〇
〔源氏物語夕顔巻抄注〕(九一三・三六ーイ三八五) ……二三八一
源氏物語類語(〇八一ーイ一三) ……Ⅱ四五
玄　奘(唐) ……五六五ー八、五八六ー九、六〇七ー一五、六三三、六六〇ー八
玄　仍 ……一〇二四
玄　昭 ……八六三
元　照(宋) ……五七二、六八七
顯　昭 ……二四二八
顯昭陳狀(九一一・二ーイ一一三) ……Ⅱ四八七
賢女物語(九一三・六一ーイ一五五) ……二六二七
源順集(〇八一ーイ一五) ……Ⅱ八三
源氏類語抄(九一三・三六ーイ二四三) ……二三八二
源氏或問(九一三・三六ーイ一七一) ……二三八三
源氏和秘抄(九一三・三六ーイ二九五) ……二三八四
源氏和秘抄(九一三・三六ーイ二九七) ……二三八五
源氏和秘抄(九一三・三六ーイ二九九) ……二三八六
元　稹(唐) ……三一二七、三一三四ー五
玄　津 ……二一九八
元人増對奕 ……三一三四
元人増對奕 ……三一三五
兼　暹 ……七二五
彦　悰(唐) ……五六三、五八五
現存卅六人詩歌(〇八一ーイ一五) ……Ⅱ六三
現代文人巻頭原稿集(九一〇・八ーイ三) ……一八六二
玄智集作之醫書(〇八一ーイ二一) ……七九ー八四
源注拾遺(九一三・三六ーイ二五) ……Ⅱ七六五
幻中類林第五(九一三・三六ーイ三九) ……Ⅱ七六六
玄　澄 ……六九二
顯朝卿記 ……八三四
玄陳發句稿 ……一〇六三
〔元和棊譜〕(七九五ーイ五) ……一七七八
元和二・三年伊勢暦(四四五ーイ三) ……Ⅰ四一七
建仁寺領薮地借請家別檢地帳 ……一二八九
源八渉平太堤三十石艪始中山文七座臺帳(九一二・六ーイ七九) ……二一五四
玄風慶會録(一二六ーイ五) ……四八九
見聞雜記(〇九一ーイ六七) ……四〇二
源平敵討遺恨付頼光北國(九一一・七ーイ一二七) ……二〇四九
源平盛衰紀古活字版(二一〇・三ーイ三) ……Ⅰ三一七
源平盛衰記(〇八一ーイ二一) ……九一
源平盛衰記(九一一・七ーイ一三五) ……二〇二四
源平之系圖(〇八一ーイ二一) ……一一四
元本出相北西廂記明版(九二二ーイ二五) ……三一二七
建武式目(〇八一ーイ二一) ……一二六
元明悟心 ……二四八
源　與 ……一〇一五
建來記(二一〇・四ーイ四九) ……九九二
〔乾隆帝征苗戰圖〕銅版(七三二ーイ七) ……一七一七
建禮門院右京大夫集(九一一・二三ーイ六九) Ⅱ五六三
元祿版役者評判記九種(七七一ーイ一七) ……一七四四ー五二

コ

こあつもり(九一一・七ーイ四七) ……Ⅰ五〇六
小あつもり奈良繪巻(九一三・五ーイ三五三) ……二四八五
戀歌集(〇九一ーイ五一) ……四〇四
小池天狗 ……二九二八
戀つか物語(九一三・五ーイ二五三) ……二四八六
小出播磨守 ……一〇二四
五井藤九郎純眞 ……一〇六三
小犬つれ〴〵(九一三・六ーイ一一) ……二五九六
戀の山吹情の白梅契情華街蛙布袋屋座臺帳(九一二・六ーイ八五) ……二一三五
五緯表(四四〇ーイ九) ……一四四二
五緯表(四四〇ーイ一七) ……一五一六
五緯表抄(四四〇ーイ一一) ……一三九七
五緯表説(四四〇ーイ九) ……一四四一
戀娘昔八丈稿本(九一三・六四ーイ五) ……Ⅰ六〇七
五緯暦指(四四〇ーイ九) ……一四四〇
五緯暦指(四四〇ーイ一七) ……一五一五
古印譜(〇九一ーイ五一) ……四〇四
衡 ……一〇六三
弘安源氏論義(九一三・三六ーイ三一三) ……二三八七
孔安國(漢) ……四四一、四五一ー七、八五〇
廣　韻元版(八二一ーイ三) ……Ⅰ四四八
廣　韻元版(八二一ーイ一一) ……一八二六
廣　韻元版(八二一ーイ一九) ……一八二七
畊雲山人 ……二三三八、二三八二、二四〇四
耕雲抄(九一一・二ーイ四七) ……Ⅱ四八八
光　榮 ……七九九
行　宴 ……六五三
高　應 ……三〇七七
香翁華翰(〇八一ーイ一九) ……三五二
廣應官話(八一九・六ーイ一) ……一八一五
孔　嘉 ……三〇七七
豪　覺 ……一八四九
黄　鶴(宋) ……三一〇一
黄嘉恵(明) ……三一三六
黄河山川道圖(二九二・二ーイ七) ……Ⅱ三五八
皇嘉門院御處分狀並後白河法皇勅報(二一〇・〇八ーイ七七) ……八三四
皇嘉門院御莊園目錄 ……八三四
皇嘉門院假名狀 ……八三四
皇嘉門院筆假名所領狀 ……八三四
皇　侃(梁) ……四六〇
江　記 ……九五〇
行客袖珍(二九一・〇八ーイ九) ……Ⅱ三一四
行宮圖説(六二九ーイ五) ……一六六三
孝經樓紺珠記(一二五・八ーイ一) ……四七八

孝經樓詩(〇八一ィ一九)……二七八
孝經樓集(〇八一ィ一九)……二七九
孝經首解(一三三・九一ィ三)……四五〇
黄玉耳(清)……一四七八
江家次第(一三八・六一ィ七)……一三九九
黄　堅(元)……三〇〇一二
黄宏憲(明)……一四四三
黄公紹(元)……一八二八
黄光昇(明)……一〇四九
廣弘明集天滝版(一八四ィ三)……六六九
紅黄錄(九一三・七一ィ二九)……二九四三
孝古畫帖(四六九一ィ一一)……一五七五
皇國醫道沿革考(四九〇一ィ三)……Ⅱ四一三
高國珍(清)……三一三五
考古圖集(四六九一ィ三五)……一五七六
江湖風月全集五山版(九三一・三一ィ三)……三一一五
古右近……一〇一五
〔光嚴院三十六番歌合〕(九二一・二九一ィ一三)……Ⅱ六八九
香西成……一〇六三
黄之凭(明)……三一三六
孔子家語古活字版(一二四・一一ィ三)……四六五
公私古印譜初集(七一七一ィ九)……一六七一
江次第卷十四(三三八・六一ィ九)……一二四〇
孔子通紀古活字版(一二四・一一ィ一)……Ⅱ二三
江州志賀都物語(九二一・七一ィ二三)……二〇五〇
江州司馬青衫泪雜劇……三一二六
更順房……四九八
向上釰鎚(〇八一ィ二一)……七三
好色一代男(九一三・六二ィ二五)……Ⅱ八三七
好色一代男江戸版(九一三・六二ィ二九)……Ⅱ八三八
好色一代男江戸版(九一三・六二ィ九九)……二六九四
好色一代男(九一三・六二ィ一五七)……二六五五
好色一代女(九一三・六二ィ二三)……Ⅱ八三九
好色うばさくら(九一三・六二ィ二一)……二六六六
好色産毛(九一三・六二ィ五七)……二六七七
好色影做子(九一三・六二ィ一五九)……二六八八
好色河念佛(九一三・六二ィ一六七)……Ⅰ五六七
交食國字解(四五〇ィ一一)……一四〇三
好色五人女(九一三・六二ィ一九)……二六九九
好色五人女(九一三・六二ィ二七)……二七〇〇
好色三代男(九一三・六二ィ一三)……Ⅱ八四〇
好色三代男(九一三・六二ィ一三)……二七〇一
交食算法拾遺(四五〇ィ一一)……一四〇四
好色十武人男(九一三・六二ィ一五)……二七〇二
好色酒呑童子(九一三・六二ィ八五)……二七〇三
耕織圖(六一〇ィ一)……Ⅰ四一七
好色大神樂(九一三・六二ィ一)……Ⅰ五六八
好色辰日記(九一三・六二ィ一三)……二七〇四
好色二代男諸艷大鑑(九一三・六二ィ一〇三)……二七〇五
好色橋辨慶(九一一・七一ィ一三)……Ⅰ五〇九
交食表(四五〇ィ九)……一四一九
交食表抄(四五〇ィ一一)……一三九五
好色福德男卷三(九一三・六二ィ一三三)……二七〇六
好色松はやし卷一(九一三・六二ィ一三五)……二七〇七
好色万金丹(九一三・六二ィ一三七)……二七〇八
好色万金丹(九一三・六二ィ一八七)……二七〇九
〔好色むらく坊〕(九一三・六二ィ一三七)……二七一〇
交食蒙求(四五〇ィ九)……一四一七
交食蒙求下卷(四五〇ィ一七)……一五一四
交食歷指(四五〇ィ九)……一四一五
〔庚申畫像〕(三八三ィ一一)……二六六
庚申畫像(三八三ィ三)……二六七
〔庚申畫像〕(三八三ィ五)……二六八
康進之(元)……三一二六
皇清職貢圖(二九〇・九ィ三)……Ⅰ三五〇
かうしん之本地(九一三・五ィ三)……Ⅰ五五九
紅塵陌人(里雀)……二七五五
〔高津のあざり〕(九一三・六五ィ二七)……二八九六
江　西……三〇七七
行　西……六四三
恒星經緯圖說(四五〇ィ九)……一四三六
恒星經緯表(四五〇ィ九)……一四三六
恒星經緯表抄(四五〇ィ一一)……一三九六
恒星出没表(四五〇ィ一一)……一三九九
恒星出没表(四五〇ィ九)……一四三七
行成抄……一五四三・四
考聲徹(八三ィ五)……Ⅰ四五三
校正法曹至要鈔草稿(三八・一ィ三)……Ⅱ三六五
恒星歷指(四五〇ィ九)……一四三六
耕　石……一〇五三
黄石公三畧(〇八一ィ二一)……一〇一一
黄赤道距度表(四五〇ィ九)……一四三五
幸前覺……八二九
幸前楢千代……八二九
藥箋譜(〇八一ィ九)……三七九
寇宗奭(宋)……一六四三
高楚芳(元)……三一〇〇
黄素妙論(四九一ィ三)……一六五〇
皇太神宮年中行事(一七四ィ三三)……五三〇
高大夫實無……一八六六
〔後宇多院院宣〕(三一〇・四ィ三七)……九九三
幸田露伴……一六
五七、二五九九、二九三八、二九四〇一、二九四五、二九四八
一九、三五九六、二九六一三、二九六六、二九七三、三〇一三、三〇一五
皇朝古印譜(七一七ィ七)……一六七三
香　亭……三〇七七
黄庭堅(宋)……三〇六七、三〇七〇一、三〇九六ィ七
黄帝内經素問註證發微古活字版(四九〇ィ二九)……一六二五
昊天塔孟良盜骨雜劇……三一二六
弘傳畧頌抄(一八八・四ィ一五)……Ⅱ一八一
黄道恒星經緯表(四四〇ィ一一)……一三九八
勾當内侍(後土御門院)……二三六三、二四一八
篁墩消息(〇八一ィ九)……二四四
香囊怨……三一二六
香囊記……三一四三
行嚢抄(二九一・〇六ィ三)……一一二九
行嚢抄(二九一・〇六ィ七)……一一三〇
香　坡(橋本)……一〇六三
洪　範(明)……三一四三
后　版……三〇八七
坑　夫(九一三・七ィ七)……二九五〇
公武御觸書寫水谷川家本(三八ィ七)……一一三
〔興福寺衆中集會引附〕(一八五ィ一七)……六七三
興福寺僧印教處分狀(三一〇・〇八ィ三五)……八三七
興福寺法勝寺領香御薗論爭文書……九九三
紅拂記……三一四三
江府日景(四四〇ィ一一)……一四〇八
高芙蓉……一六七三
高芙蓉篆印譜(七一七ィ七)……一六七三
高文秀(元)……三一二六
黄文昌……七四四一五
杲　寶……六九五
弘法緣起……一一六
高峰顯日……七五六
弘法大師之御木地(九二一・七ィ一)……Ⅰ五〇七
〔弘法大師誕生記〕竹本義太夫正本

（九二一・七―八一五五）……二〇九九
光　睦（宋）……七三二
高　明（元）……三三八、三四三
光明皇后……五八一、五八三、五九五、六四八
皇明詔制明版（三三三―八九）……Ⅱ二五四
紅毛緯度日暦（四四〇―八一一）……一三七九
紅毛文字覺書（〇八一―五）……Ⅰ二一六
高野山勸發信心集（一八八・四―八三）……七〇四
高野大師行狀圖畫（〇八一―二三）……二一六
高野大師行狀圖（一八八・四―三五）……七〇六
高野山通念集（二九一・四―二九）……Ⅱ三二九
高野山秘記（一八八・四―三三）……七〇五
洪　獻……三〇七
孝　雄……三〇三
孝雄狂歌集（九一七・二―二三）……三〇三
交友論（一九九・二―五）……七八五
行　譽……一〇〇五
紅葉山人日記（八二〇・二八―三）……Ⅱ四六九
後葉和歌集（九二一・三三―一四三）……一九〇五
高翼之……四七〇
合　離……三〇七
紅梨記……三四三
江吏部集（九二四・一―七）……三七四
高良齋……一六三八、一八五三
高　濂（明）……三四三
紅蓮債……三二六
香爐口傳事（〇八一―一九）……二〇八
鴻臚集（九二一・二六―一四一）……Ⅱ六五八
〔幸若舞曲三種〕（九二一・六―二二）……Ⅰ四九一
古芸餘香（〇二一―一）……Ⅰ一
呉越西關磚塔藏經……五七一
午王の姫問定（九二一・七―一三五）……二〇三三
小おとこ上奈良繪本（九二三・五―一三〇九）……二四八七
小男の草子奈良繪卷（九二三・五―一二九）……二四八八
小おとこのそうし奈良繪卷（九二三・五―一四九）……二四八九
古織傳（〇八一―二一）……六一
古音譜（八二一―五）……Ⅰ四四九
古音律呂三類（八二一―五）……Ⅰ四五三
呉懷古（明）……一三八一―二
古鏡彩説（三九九・七―一）……一三五七
こかゝみ（九二三・三八―一九九）……二三八八
呉學儼（明）……一二〇六
古學要（一二一・六―一）……Ⅱ一〇一
古瓦古土器拓本帖（四六九―一九）……一五七七
古瓦集（四六九―一五三）……一五七八
古瓦收爐（四六九―一七七）……一五七九
古歌抄（九二一・二―一三）……Ⅱ四八九
五ケの津餘情男（九二三・六二―八一）……二七二一
古瓦譜（二一〇・〇七―一）……Ⅱ二〇三
古瓦譜（二一〇・〇七―一一）……八三三
古瓦譜附録（四六九―一七）……一五八〇
小亀益英……二六六一
古賀彌助……一〇六三
古歌類聚（〇八一―一五）……Ⅱ六四
古歌圓悟（宋）……七三六―九
枯崖和尚漫錄五山版（一八八・七―三七）……七二六
枯崖和尚漫錄五山版（一八八・七―六）……七二七
枯崖和尚漫錄五山版（一八八・七―六三）……七二八
枯崖和尚漫錄五山版（一八八・七―六五）……七二九
後漢書古活字版（三三一―一三）……Ⅰ三三三
後漢書宋版（三三一―一三）……Ⅱ二五五
後漢書明版（三三一―一五）……Ⅱ二五六
後漢書卷第三十三宋版（三三一―一四三）……一〇四二
虎關師錬……一八三〇―一
〔古器圖説〕（〇八一―五）……Ⅰ一三
古記抜粹（〇九一―九）……Ⅱ九一
〔古器物圖〕（四六九―一九）……一五八一
古織傳（〇八一―二一）……六一
古音譜（八二一―五）……Ⅰ四四九
古音律呂三類（八二一―五）……Ⅰ四五三
呉懷古（明）……一三八一―二
古鏡彩説（三九九・七―一）……一三五七
こかゝみ（九二三・三八―一九九）……二三八八
呉學儼（明）……一二〇六
古學要（一二一・六―一）……Ⅱ一〇一
古瓦古土器拓本帖（四六九―一九）……一五七七
古瓦集（四六九―一五三）……一五七八
古瓦收爐（四六九―一七七）……一五七九
古歌抄（九二一・二―一三）……Ⅱ四八九
五ケの津餘情男（九二三・六二―八一）……二七二一
古瓦譜（二一〇・〇七―一）……Ⅱ二〇三
古瓦譜（二一〇・〇七―一一）……八三三
古瓦譜附録（四六九―一七）……一五八〇
小亀益英……二六六一
古賀彌助……一〇六三
古歌類聚（〇八一―一五）……Ⅱ六四
古歌圓悟（宋）……七三六―九
枯崖和尚漫錄五山版（一八八・七―三七）……七二六
枯崖和尚漫錄五山版（一八八・七―六）……七二七
枯崖和尚漫錄五山版（一八八・七―六三）……七二八
枯崖和尚漫錄五山版（一八八・七―六五）……七二九
後漢書古活字版（三三一―一三）……Ⅰ三三三
後漢書宋版（三三一―一三）……Ⅱ二五五
後漢書明版（三三一―一五）……Ⅱ二五六
後漢書卷第三十三宋版（三三一―一四三）……一〇四二
古今集序註（九二一・三三―一七七）……Ⅱ五六五
古今集序註（九二一・三三―一三九）……一九〇六
古今集為家抄（九二一・三三―一三三）……一九〇七
古今集秘註（九二一・三三―一五三）……一九〇八
古今集問答（九二一・三三―一三五）……一九〇九
古今清濁聲句訓説等聞書（九二一・三三―一〇一）……Ⅱ五六七
故金臂中……一九一五
古今秘註抄（九二一・三三―一三五）……一九一〇
古今問答（九二一・三三―一三）……Ⅱ五六八
古今和醫保命歌括（〇八一―一三）……七九
古今和歌集（九二一・三三―一三三）……Ⅱ五六九
古今和歌集（九二一・三三―一三五）……Ⅱ五七〇
古今和歌集（九二一・三三―一四九）……Ⅱ五七一
古今和歌集（九二一・三三―一四九五）……Ⅱ五七三
古今和歌集（九二一・三三―一〇三）……Ⅱ五七四
古今和歌集（九二一・三三―一〇九）……Ⅱ五七四
古今和歌集嘉祿本（九二一・三三―一九三）……Ⅱ五七五
古今和歌集清輔本（九二一・三三―一三）……Ⅱ五七六
古今和歌集真應本（九二一・三三―一五）……Ⅱ五七七
古今和謌集（九二一・三三―一一三）……一九一一
古今和歌集片假名本（九二一・三三―一三七）……一九一三
古今和哥集上卷（九二一・三三―一五一）……一九一三
古今和歌集聞書（九二一・三三―一三）……Ⅱ五七八
古今和歌集聞書（九二一・三三―一四五）……一九一四
古今和歌集抄（九二一・三三―一一五）……一九一五
〔古今和歌集註〕（〇八一―三）……Ⅱ一九
古今和歌集注（九二一・三三―一九）……Ⅱ五七九
古今和謌集註（九二一・三三―四一）……Ⅱ五八〇
古今和歌集註（九二一・三三―八五）……Ⅱ五八一
古今和歌集春の歌の下（〇八一―五）……Ⅰ六七
古今和哥集姫小松（九二一・三三―一〇七）……一九一六
古今和歌集兩序（九二一・三三―一三七）……一九一七
古今和歌集論選（九二一・三三―一六一）……Ⅱ五八二
國阿上人……二〇三
刻按鑑通俗演義列國前編十二朝明版（九三三―三七）……三四七
斛庵公……一三三七
谷應泰（清）……一三九三
〔國學雜記〕（〇八一―五）……Ⅰ一五一
〔國學者書簡集〕（二八一―三）……Ⅱ二六五
〔國學者書翰集〕（二三一―九）……四三三
國學の説（〇八一―五）……Ⅱ六五
國　紀……三〇七

國牛十圖(四八一ィ七)……一五九八
國號考料(二九一・〇三一ィ三)……Ⅰ三六三
國史擧要(三一〇ィ三三)……Ⅱ一九六
谷子敬(明)……三二三六
國史實錄(三一〇ィ一一)……Ⅱ一九五
國字諺語分類(三八九ィ三)……Ⅱ三九一
國籍類書(〇八一ィ三)……五三一八九
國籍類書目錄(〇八一ィ三)……一八九
黑旋風雙獻功雜劇……三二三六
國性爺御前軍談(九一三・六二ィ二六五)……二七二三
國性爺大明丸(九一一・七一ィ八一)……二〇五一
黑甜鄉話(〇八一ィ九)……二八一
國風集(九一四ィ一)……Ⅱ八五四
國分寺考(一八五ィ一五)……六七四
玉篇上卷(八三一ィ五一)……一七八三
玉篇上卷(八三一ィ五三)……一七八四
玉篇略(八三一ィ三三)……一七八五
玉篇略(八三一ィ六五)……一七八六
刻本續日本後紀復舊(〇八一ィ九)……Ⅱ三三
〔古訓古事記序草稿〕(〇八一ィ一)……Ⅰ一八三
故藝叢語(〇八一ィ九)……二八二
故藝叢語(〇八一ィ九)……二八三
コケコツコー(九一三・七一ィ三三)……二九七一
湖月抄(九一三・三六一ィ二九)……Ⅱ七六七
湖月鈔別記(九一三・三六一ィ三三)……二三八九
〔湖月鈔別記殘稿〕(九一三・三六一ィ二四九)……二三九〇
古言拾葉(八二一ィ七)……Ⅱ四六〇
胡獻忠(明)……一四七三
胡　宏(宋)……一〇四七
胡公擧(明)……七三六
賈公彥(唐)……四四五
五湖釣翁……九六

古刻留眞(〇二一ィ七)……一
古語拾遺(〇八一ィ一五)……Ⅱ六六
古語拾遺(〇八一ィ一九)……八六七
古語拾遺嘉祿本(三一〇・一一ィ一九五)……八六八
古語拾遺曆仁本(三一〇・一一ィ一七五)……八六九
胡互說(〇八一ィ九)……Ⅱ三四
心(九一三・七一ィ七七)……二九五四
心のよるかた(九二一・二一ィ五七)……Ⅱ四九〇
古今韻會擧要首卷五山版(八三一ィ三三)……一八二八
古今綸暦集(四四五ィ七)……一五五四
古今鍛冶代目錄(三九九・二一ィ二七)……一三一九
古今刀脇差銘心敷寫(三九九・二一ィ九)……三三〇
古今狂哥仙(九一七・二一ィ三九)……三〇三四
古今交食考(四四〇ィ九)……一四二六
古今秀句落し噺(九一七・五一ィ五三)……三〇五三
古今拾的診候脉訣和歌(〇八一ィ二一)……八三
古今新左衛門……三五六、三一七〇
古今著聞集(九一三・四一ィ四一)……二四四四
古今武士鑑(九一三・六二一ィ二五)……二七一三
古今武士形氣卷三(九一三・六二一ィ二一)……二七一四
古今名女くらへ……二六五一
古今文樣類集(七三七ィ一)……一七一〇
古今歷代十八史略元版(三三一ィ九)……Ⅱ二五七
御在洛中日記(二八八・一五一ィ五)……一〇八八
〔御在洛中日記〕(二八八・一五一ィ七)……一〇八九
後嵯峨上皇院宣(三一〇・四一ィ二)……Ⅱ三三七
小崎觀海……二九六
五雜俎抜萃(〇八一ィ五)……Ⅰ一一
午　三……三九六
胡三省(元)……一〇四六
後三年奥州軍記繪盡(九二一・七一ィ二〇五)……二〇五三
古事記(三一〇・一ィ三九)……Ⅰ二九五
古事記(三一〇・一ィ七)……Ⅰ二九六

古事記八雲軒本(三一〇・一ィ八九)……Ⅱ三〇九
古事記(三一〇・一ィ七七)……Ⅱ三一〇
古事記神樂岡本(三一〇・一ィ四五)……八六九
古事記兼從本(三一〇・一ィ六三)……八七〇
古事記(三一〇・一ィ一五五)……八七一
古事記九條家本(三一〇・一ィ一八五)……八七二
古事記上卷伊勢本(三一〇・一ィ一九九)……八七三
古事記上卷道果本(三一〇・一ィ一五九)……八七四
古事記上卷抄(三一〇・一ィ二〇一)……八七五
古事記歌(〇八一ィ五)……Ⅰ六三
古事記姓名索引(三一〇・一ィ三九)……八七六
古事記傳(三一〇・一ィ六一)……Ⅱ三一二
古事記傳(三一〇・一ィ七五)……Ⅱ三一三
古事記傳考異(〇八一ィ三)……Ⅰ二〇八
古事記傳考異(〇八一ィ三)……Ⅰ二〇九
古事記傳三之卷(〇八一ィ一)……Ⅰ一六
〔古事記傳抜書〕(〇八一ィ五)……Ⅰ七五
〔古事記傳版下書反古〕(〇八一ィ五)……Ⅰ七七
古事記傳卷之六(三一〇・一ィ九七)……八七七
古事記傳畧(三一〇・一ィ九)……Ⅰ二六
(神典)古事記燈(三一〇・一ィ二一)……八八五
古事記燈意富牟泥(三一〇・一ィ一八七)……八八六
古事記燈黄泉之件其三(三一〇・一ィ六五)Ⅱ三一
古事記之歌附古事記之歌繰分
(九二一・二一ィ七)……Ⅱ五三九
乞食博士……二九五八
小式部(九二三・五一ィ三三)……二四九〇
〔古事記夜都米佐須の歌の辨〕(〇八一ィ三)
……Ⅰ三八
古事記謠註(九二一・三一ィ一)……Ⅱ五四〇
古事記畧解(三一〇・一ィ三二)……Ⅰ二九七
故事雜說鈔(〇三一ィ七一)……二六

〔古詩集殘簡〕(九三一・二一ィ六三)……三〇九五
古事談(九一三・四一ィ二九)……二四四五
午日吟……三一三六
子四天王北國大合戰(九二一・七一ィ九七)……二〇五三
越部禪尼消息(九二一・二一ィ二一)……Ⅱ四九一
小嶋彌三右衛門……五一九
〔古寫經集〕(一八三一ィ三三)……五七七
古寫經斷簡……八五〇
五十四番歌合(〇八一ィ五)……Ⅰ一三四
五十四番詩哥合(九二一・二九一ィ三三)……九七一
五十番哥合(九二一・二九一ィ三三)……九七二
〔五十番歌合判詞〕(〇八一ィ五)……Ⅰ一四七
〔五首和歌懷紙〕(九二三・六五一ィ二七)……二八九八
呉　春……二九〇八
御　書(一八八・八一ィ三)……Ⅱ一九三
呉承恩(明)……三一五三
五常名義考……二九二七
呉昌齡(元)……三二六
古書の包紙考(九二三・六四一ィ三七)……Ⅰ三
後白川院宸筆假名狀……八三四
五事略(三一〇・〇一ィ一)……八三七
古事類苑目錄編次愚案(〇三一ィ一九)……Ⅱ九
小四郎……一〇八三
悟　心……四一三
ござ いいてん(九二一・七一ィ三五)……二〇二九
小杉榲邨……六九八、一九二
御成敗式條(三二六・二一ィ一五)……一三八
御成敗式目(三二六・二一ィ五)……一三九
御成敗式目(三二六・二一ィ七)……一三〇
御成敗式目(三二六・二一ィ二)……一三一
御成敗式目註(三二六・二一ィ一一)……一三二
小關三英……一三六〇

古聲譜(八二一ー イ五)……Ⅰ四五〇
故攝津大椽の狂歌……三〇四二
御前於伽(九一三・六二ー イ二八一)……二七一五
後撰集疑問(九一一・二三ー イ一一七)……一九一八
後撰集正義(九一一・二三ー イ一一一)……一九一九
後撰集燈(九一一・二三ー イ八九)……Ⅰ四八〇
古泉摹狀(七一八ー イ三)……一六八〇
後撰倭謌集(九一一・二三ー イ五)……Ⅱ五八三
後撰和歌集(九一一・二三ー イ九)……Ⅱ五八四
後撰和歌集天福本(九一一・二三ー イ七)……Ⅱ五八五
〔こそぐり草下〕(三八七ー イ五五)……一二八三
咕喞咕喞話(〇八一ー イ一九)……三六二
小袖のすがたみ(七二一ー イ二一)……一六八六
去年梅 今年櫻 けいせいあらし山(九一二・六ー イ一三三)……二一三二
古尊宿語錄宋版(一八四ー イ九)……六七〇
古代遺什(四六九ー イ二五)……一五八三
胡大慶(明)……一六四二
五大虛空藏御修法雜問答……一五四五
後醍醐天皇……一二五一、一二五三
後醍醐天皇(九一一・七ー イ一二九)……二〇五四
五代史記明版(四四〇ー イ一七)……一五二五
五代集謌枕下(九一一・二ー イ一九)……Ⅱ四九二
五代集類題(九一一・二三ー イ二三)……Ⅱ五八六
顧大典(明)……三一四三
古代土中土器圖(四六九ー イ二一)……一五八四
古代の髪の考(〇八一ー イ三)……Ⅰ二三一
後太平記四十八卷目 津國女夫池(九一二・六ー イ一三)……Ⅱ七三四
五太力菩薩手鏡(三八七ー イ八七)……一二八四
小武友梅……一〇六三
兒玉玄番助經平……一七七一
五地五如來御本地(九一三・五ー イ三四九)……二四九一
呉中情奴(明)……三一三六
(塡詞)蝴蝶夢(九二二ー イ七)……三一三七
胡てふもの語(九一三・五ー イ六五)……Ⅱ八〇二
胡蝶ものかたり(九一三・五ー イ三八七)……二四九二
小鼓之大事(〇八一ー イ二一)……一八八
胡庭鉉(元)……七二一
小寺玉晁……一七五六、一七六三、一七六五
小寺武兵衛……一〇六三
御殿の記(〇九一ー イ五一)……四〇四
梧　堂……一〇六三
後藤吉右門尉……一六六九
後藤家彫物代ゝ見分之叓(七一五ー イ三)……一六七〇
後藤象二郎……一〇六三
後藤椿庵……一六二六
後藤光信……一六七〇
言　靈(八一三ー イ一一)……Ⅰ四四〇
呉　訥(明)……一二一二
後鳥羽院……一一〇
小鳥なよせ西行江口之遊女(九一一・七ー イ二〇一)……二〇五五
諺の通(三八九ー イ五)……一三一一
後奈良天皇……一四三、三〇五七
小西(攝津守)行長……一〇一五
近衛尚通……二三二七
近衛信尹……九八〇
近衛龍山……九七〇
此度肥前長崎客兩人被參候ニ付手
　續書一件之扣(二一〇・〇八ー イ三)……Ⅱ二〇六
後婆通志與(一九一ー イ七)……Ⅰ二七六
御八講中御進物帳(一八六ー イ一五)……六七九
小花作之助……一〇三三
小林一茶……五一三
小林歌城……三〇〇三
小林九良兵衛尉……一三四五
小林源左衛門尉……一三一八
小林百枝……一一五三
五百家註音辯昌黎先生文集古活字版
　(九二四・二ー イ二五)……三一八一
古風抄(九一一・二一ー イ一一)……Ⅱ五四一
後伏見院……一九一五
小伏見物語奈良繪本(九一三・五ー イ八三)……二四九三
古佛經跋尾(一八三ー イ一九七)……五七八
古物寫生帖(四六九ー イ一三)……一五八五
古文孝經(一二二・九ー イ五)……四五一
古文孝經(一二二・九ー イ七)……四五二
古文孝經(一二二・九ー イ九)……四五三
古文孝經(一二二・九ー イ一一)……四五四
古文孝經(一二二・九ー イ一三)……四五五
古文孝經勅版(一二二・九ー イ一五)……四五六
古文孝經斷簡(一二二・九ー イ一七)……四五七
古文孝經序斷簡……八五〇
古文後集諸體附唐詩選(七二八ー イ二一)……一七一一
(魁本大字詩儒箋解)古文眞寶前集五山版
　(九二〇・八ー イ一三)……三〇六〇
(魁本大字詩儒箋解)古文眞寶後集五山版
　(九二〇・八ー イ一一)……三〇六一
(魁本大字詩儒箋解)古文眞寶後集五山版
　(九二〇・八ー イ七)……三〇六二
護　法(唐)……五八七ー九
小法師丸……八六三
御房丸……八六三
古鉾圖(四六九ー イ四三)……一五八六
小堀遠州……九八三、一一〇〇
小堀遠州書翰集(二八九ー イ一〇九)……一一〇〇
古本神樂歌(九一一・五ー イ一)……Ⅰ四八三
古本神樂催馬樂譜(九一一・五ー イ一三)……Ⅱ六九七
古本催馬樂(〇八一ー イ五)……Ⅱ二六
小町哥あらそひ(九一三・五ー イ一六三)……二四九四
小町哥あらそひ(九一三・五ー イ一七七)……二四九五
小町哥あらそひ(九一三・五ー イ二四三)……二四九六
小町少將道行(九一一・七ー イ六七)……Ⅱ七二五
小町のさうし古活字版(九一三・五ー イ二三五)……二四九七
小町物かたり(九一三・五ー イ一六一)……二四九八
小町物語下(九一三・五ー イ二一九)……二四九九
狛諸成……一八九四
駒　宮……一〇六三
古萬葉集木活字版(九一一・二三ー イ三)……Ⅰ四六七
後水尾院……二二一八、二二二五、二四九二
後水尾院御集(九一一・二六ー イ三)……Ⅰ四八一
小宮山綏介……二一五
小見山道休……二六一二
こもちやまうば(九一一・七ー イ二五)……Ⅰ五〇八
顧野王(梁)……一八四六ー七
後陽成院……二二一六、二二一九
曆(四四五ー イ五)……Ⅰ四一八
曆(九一一・七ー イ六三)……二〇五六
曆　集(四四五ー イ六五)……一五五五
古來風躰抄(九一一・二ー イ一四九)……一八六七
固穪乙……七八一
語　例略語附(八一三ー イ九)……Ⅰ四三八
古鈴圖(四六九ー イ二三)……一五八七
古鈴圖巻(四六九ー イ二七)……一五八八
瑚璉尼……二八三二、二八五五
古老軍物語(九一三・六一ー イ一六三)……二六二八
古老口實傳(一七四ー イ五)……Ⅰ二三四
菰蘆釣叟(清)……三一三三
古六家集(九一一・二ー イ一六七)……一八六八

渾蓋通憲圖説明版(四四一イ一)……Ⅱ四一二
渾蓋通憲圖説(一九八・二イ五)……七九二
渾蓋通憲圖説(四四〇イ一一)……一三八五
金光明最勝王經……五九四、一五五二
金剛界傳法灌頂作法(〇八一イ一九)……二五一
金剛經四句偈……一三四
金剛山内院略緣起……一五五一
金剛山表訓寺……七四一
金剛智(唐)……五八〇
金剛頂一切如來眞實攝大乘現證大
　教王經卷第三根來版(一八三イ三一)……Ⅰ二五〇
金剛頂一切如來眞實攝大乘現證大
　教王經第三(一八三イ一〇五)……五七九
金剛峯樓閣一切瑜伽瑜祇經(一八三イ二〇五)
……五八〇
今昔物語(九一三・三八イ一)……二四二九
嚴　助……一五三三
嚴眞律師灌頂記……一五四二
勤　操……八六一
こんちりさんのりやく(一九一イ一)……Ⅰ二七七
こんてむつすむん地きりしたん版(一九四イ一)
……七八〇
渾天儀説(四四〇イ九)……一四四六
近藤清春……一七五四
近藤守重……一一九九、一二一一
〔金春流謠本内外二百番〕(九一一・六イ二三)
……Ⅰ四九〇
今春八郎太夫……三九〇
嚴融謹解申私領畠地紛失狀立新券文事
……八二九
坤輿全圖(二九〇・九一イ九)……一一一九

サ

西園寺公衡……一七七二
西園寺家鷹百首(〇八一イ二一)……一五七
西園寺鷹百首(〇八一イ二一)……一八五
西海太平記(九一三・六二イ五一)……二七一六
西海道名所圖會二編(二九一・五イ一一)……一一八四
西鶴栄花咄(九一三・六二イ一一七)……二七一七
西鶴置土産(九一三・六二イ二一)……Ⅱ八四一
西くはく置土産卷四(九一三・六二イ二一三)二七一八
西鶴織留(九一三・六二イ五)……Ⅰ五九二
西鶴織留(九一三・六二イ五五)……二七一九
西鶴諸國咄……二六八〇
西鶴諸國咄……二六八一
西鶴俗つれ〳〵(九一三・六二イ九七)……二七二〇
西鶴傳授車(九一三・六二イ一一九)……二七二一
西鶴名殘の友(九一三・六二イ九五)……二七二二
西くハくひかん櫻卷二(九一三・六二イ二〇三)
……二七二三
西　行……一八八三、一九〇四、二三五〇
西　行(九一三・五イ三九一)……二五〇〇
西　行(九一三・五イ三九七)……二五〇一
西行草子(九一三・五イ三〇一)……二五〇二
在京中記事(二八九イ九一)……一一〇一
西行法師集(九一一・二三イ六三)……Ⅱ五八七
西行法師集歌(九一三・五イ二九七)……二五〇三
西吟(落月庵)……二六九四一五
罪　言(三七〇イ一)……Ⅱ三七七
細　香……一〇六三
蔡　皋(清)……三一六二
綵毫記……三一四三
西郊記殘簡(二一〇・四イ三五)……九九四
西郷吉兵衛……一〇六三
西郷南州與大山綱良尺牘(二八九イ三一)
……Ⅱ二八六
西光了澄……四七〇
再刻とが除き規則(一九五イ一)……Ⅰ二八五
祭事記(一七六イ七)……五四三
歳旺記(三八四イ二一)……一二六九
蔡爾康(清)……三〇八〇
歳事志(三八四イ一三)……一二七〇
歳周考(四四〇イ一三)……一四九一
税所篤……一〇六三
最勝王經音義(一八三イ七七)……Ⅱ一五一
截積傳(四一九イ一)……Ⅱ四〇六
齋田善吾……一五九〇
最　澄……七〇三
催嗹録(〇八一イ一九)……三三〇
齋藤監物……一〇六三
齋藤正謙(拙堂)……二五五、三一八二
齋藤徳元……二六六〇
齋藤豊啓……一三五七
齋藤黙仙……四〇九
西念(先右馬允入道)……八四一
西念米寄進狀(二一〇・〇八イ五一)……八四一
催馬樂入綾卷四(〇八一イ三)……Ⅰ二〇三
崔府君斷寃家債主雜劇……三一二六
採訪南島語彙稿……一八一四
西明寺製作書(〇八一イ二一)……一〇六
西明寺鷹百首(〇八一イ二一)……一八五
西明寺殿百首(〇八一イ二一)……一五七
西明寺殿百首(〇八一イ二一)……一六一
西明寺殿百首丹緑本(九一三・五イ一七三)……二五九二
さいミやうし百首詠哥……二四五九
〔齊明紀童謡秘説〕(九一一・二一イ九)……Ⅱ五四二
(新刻出像官板大字)西遊記明版(九二三イ三一)
……三一五二
齋來書目(〇一九イ二一)……九
采覧異言(四四〇イ一七)……一五〇七
材林和歌抄(九一一・二イ二七)……Ⅱ四九三
西鷺軒橋泉……二六七八
佐伯献書總目(〇一九イ二五)……一〇
佐枝種重……一三三九
酒井一之尉……一三四五
酒井右衛門尉政忠……一三四二
酒井十之丞……一〇六三
坂井與三右衛門……一〇一五
榊原式部大輔康政……一〇二四
榊原忠次……一九三五
榊山勘介……二一四〇
榊山四良太郎……二一四〇
坂口五峰……三九
嵯峨小稿(九二一・一イ五)……Ⅱ八九八
坂田藤十郎……二一三七、二一六五
坂田諸遠……一〇三三
坂内山雲子(直頼)……一二七五
嶬峨法輪寺惣繪圖……一一八一
相模伊豆武藏秩父根邊常陸一覧地取(二一一イ一)……一〇三二
さかみ川(九一三・五イ一二一)……Ⅱ八〇三
嵯峨道之記……二八三二
相模屋太兵衛……一一二四
坂本秋卿……四二二
嵯峨物語(九一三・五イ三三一)……二五〇四
佐川田喜六昌俊……二三二一
鷺箱極秘抄(九一一・二イ一五)……Ⅱ四九四
咲分五人媳(九一三・六二イ二三五)……Ⅰ五九九

策庵昌叱……一〇二四
策　彦……三〇八七
作者をほめたほめ言葉……三〇五九
策傳和尚送答控(九二一・二六ー七九)……Ⅱ六五九
錯轉輪……三一三六
佐久間修理……一〇六三
佐久間象山尺牘(二六九ー三)……Ⅰ三四八
佐久間義和……一九〇、四七〇
佐久間義方……一九〇
櫻池浦預申下作分職事……八二九
さくらの中將(九二三・五ー一〇七)……Ⅱ八〇四
佐倉理清軒……一六二四
作例初學考追加(九二一・二九ー一七)……一九七三
酒上熟寢……三〇五九
酒上不埒……三〇五九
酒之古名區志考(〇八一ー五)……Ⅰ二二
さころも(九二三・五ー一六五)……三五〇五
さころも(九二三・五ー一六七)……三五〇六
さごろも(九二三・五ー二三九)……三五〇七
狹　衣古活字版(九二三・三七ー五)……二四二七
狹　衣(九二三・三七ー七)……二四二八
狹衣卷二殘卷(九二三・三六ー六一)……二三三九
狹衣物語(九二三・三七ー一)……Ⅱ七七〇
狹衣物語(九二三・三七ー三)……Ⅱ七七一
佐佐木弘綱手録本集(〇八一ー一三)……Ⅱ四四一八
さゝめこと(〇八一ー二二)……七一
さゝやき竹下奈良繪本(九二三・五ー三七五)……三五〇八
茶山・山陽・星巖・竹外與・江馬
　春齡・細香尺牘(三六九ー二)……Ⅱ二八三
座敷の粧ひ(三六七ー九)……二二八五
佐治地藏坊……一〇二四
坐禪記……二三四
左大將家六百番歌合古活字版(九二一・二九ー三二)……一九七四
左千夫の歌(九二一・二ー一四五)……一八六九
雜　記(〇八一ー五)……Ⅰ三八
雜疑問(一三一・四ー一三)……四二五
さつきの日記(〇八一ー五)……Ⅰ四七
殺狗記……三一四三
薩眞人夜斷碧桃花雜劇……三一三六
雜々文書……八五三
雜草集(〇八一ー二一)……五六
雜文斷簡(九二三・六五ー二七)……二八七四
察病指南古活字版(四九三ー三)……一六三八
雜　録(四九〇ー一三)……六二六
佐藤四郎右衛門……一四〇
砂糖製作記(五七四ー一)……一六五五
佐藤直方……一一〇六
佐藤春夫……三〇一八
佐藤ふぢわう(九二三・五ー一五五)……二五〇九
里木予一……二六三六ー七
佐渡嶋三郎左衛門……二〇七〇
里見安房守義康……一〇二四
里見八犬傳包袋集……二九二四
里村昌休……三七二ー六
里村昌琢……二八七七
里村紹巴……三六八、三七〇七、三七五、三八五、三九七ー九、四四四
左　内(橋本)……一〇八三
佐野川万菊……三二六、三一七八
佐野源左衛門(九二一・七ー一七五)……二〇五七
三味線間之手付新なげぶし(九二一・八ー一九)……二一〇九
五月雨日記(七九二ー一)……一七六六
亮ゝ草紙(九一四・六ー一七)……Ⅱ八六八
〔座右雜記〕(九二一・六ー一〇一)……一九五五
さよ衣(九二三・四ー一九)……Ⅱ七七八
さよころも(九二三・四ー三七)……二四四六
小夜衣(九二三・六二ー七三)……二七二四
さよころも付あんや物語(九二三・五ー二四一)……二五一〇
(三芳野奇聞)小夜姫物語卷之二(九二三・六八ー九)……二九二九
更級日記標注(九一四・三六ー一)……二九九〇
皿屋舖浮名染著(九二三・六四ー六三)……二七八六
皿山律師……三〇五九
さるげんじ(九二三・五ー二一)……Ⅰ五六三
さるげんじ(九二三・五ー一七九)……二五二
さるげんじ(九二三・五ー一八三)……二五二三
さるけんし(九二三・五ー二六五)……二五三三
猿丸太夫集(〇八一ー一五)……Ⅱ六七
琅　録(二五五・八ー一)……四七五五
澤田名垂……二五九三
山菴雜録古活字版(一八八・七ー一五)……七二〇
三緣隨聞記(〇八一ー九)……三四
棧雲峽雨詩草上(九二二・一ー一七)……三〇六〇
山海異形奈良繪本(四六〇ー一)……一五六三
山家記(〇八一ー三)……一〇四
散家財天賜老生兒雜劇……三二六
山家集(九二一・三ー二七)……Ⅱ五八
山家集(九二一・三ー六五)……Ⅱ五九
山家集(九二一・三ー一一)……Ⅱ五九〇
山家集(〇八一ー一一)……六七
山家集(九二一・二ー六三)……一八三
山家鈔……一八六八
(新鐫朱蘭嶼先生批評)三教開迷歸正演義
　明版(九三二ー三三)……三一五六
參宮記(〇八一ー九)……二一三
三源一覽(九二三・三六ー一三三)……二三九一
三源一覽(九二三・三六ー二四五)……二三九二
三元記……三一四三
三航蝦夷日誌(二九一・七ー九)……一二九五
三教指歸(一六〇・四ー九)……五〇九
三教指歸(一六〇・四ー一一)……五一〇
三教指歸(一六〇・四ー一三)……五一一
三教指歸卷上(一六〇・四ー一)……Ⅱ二八
三教指歸卷下(一六〇・四ー五)……五一二
三教指歸注(一六〇・四ー一五)……五一三
三教指歸注(一六〇・四ー三)……五一四
三教指歸注卷下(一六〇・四ー七)……五一五
三五記(九二一・二ー四九)……Ⅱ四九五
山谷演語之詩抄(〇八一ー二一)……九八
山谷黃先生大全詩註五山版(九二二・二ー四九)……三〇九六
山谷黃先生大全詩註五山版(九二二・二ー五一)……三〇九七
(鐘伯敬先生批評)三國志明版(九三三ー六九)……三四九
(李卓吾先生批評)三國志明版(九三三ー六一)……三七二
三國史記朝鮮活字版(三九ー五)……Ⅱ三五二
山谷詩抄(九二一・二ー二)……三〇九八
(新鐫全像大全通俗演義)三國志傳明版
　(九三三ー六五)……三一五五
三國通覽(〇八一ー五)……Ⅰ二四
三國通覽圖說(三九一ー三)……Ⅰ三五三
山谷之詩……九八
三國舞臺鏡(七七一ー七)……一七四四
三國佛法傳通緣起古活字版(一八八ー三)……Ⅰ三五九

三才發秘（四四〇―イ一三）……一四九九
三才發秘抄（四四〇―イ一一）……一三九三
三字經同略解（〇八一―イ一九）……三一一
三十石艫始中山文七座臺帳（九二一・六―イ七九）二一五四
三尺求圖數求路程求山高遠法（四一九―イ三）……一三六三
三獸演談（四八一―イ一）……Ⅰ四二三
纂集玉篇偏傍形似釋疑文字（〇八一―イ五）……Ⅰ一二五
三十二相人形筒堅書（三九九・五―イ五）……一三四〇
三十二番職人歌合繪巻（九一七・二―イ二九）三〇三五
三十番哥合（九二一・二九―イ一九）……一九七五
三十番神縁起注（一七二―イ三）……五三三
〔三十六歌仙〕光悦本（九二一・三三―イ一四七）…一九二〇
三十六歌仙歌（〇八一―イ三）……Ⅱ二一〇
三十六人謌合（九二一・二九―イ七）……Ⅱ六九〇
三種攷（八一〇―イ一）……Ⅱ四五七
三種神器傳（一七九―イ一）……五四七
三條公氏……九九四
三條公忠……一二四五
三帖源氏（九二三・三六―イ八五）……三三九三
三條實冬……一二四五
さんせう太夫（九二一・七―イ三九）……Ⅰ五一八
三條西公條……一七二三、二四〇〇
三條西實枝……一九一四、二四二二
三條西實隆（逍遙院）一〇八七、一二四五、一七二九、一九四一、一九四七、一九六八、二三〇三、二三一〇、二三二三、二四三一六
三條西實信……二三六九
二四郎（九二三・七―イ五九）……二九四四
三遂平妖傳明版（九二三―イ五）……Ⅱ九〇五
三遂平妖傳國字評（九二三―イ三五）……三一四八
三遂平妖傳評附題跋（九二三―イ三）……Ⅱ九〇六
纂圖互註老子道德經元版（一二六―イ一）…Ⅱ一二四
纂圖互註南華眞經元版（一二六―イ一）……Ⅱ一二三
纂圖增新纂書類要事林廣記明版（〇三三―イ一五）……四五
纂圖附音增廣古注千字文古活字版（八二一―イ二五）……一八二九
三夕軒好若處士……二七四九
山草堂集明版（〇八二―イ五）……三九三三
三浪一覽（二九一・一―イ六三）……一一四四
三代集類題（九二一・三三―イ二五）……Ⅱ五九一
三躰絶句詩（〇八一―イ二）……一六二
三大道辨（〇八一―イ三）……Ⅰ二一三
三大道辨（〇八一―イ三）……Ⅰ二一四
三體和歌（九二一・二―イ三五）……Ⅱ四九六
山茶やぶれ笠（三八七―イ五）……Ⅱ三八三
讃嘲記時之大鞁（三八七―イ九）……Ⅱ三八四
山東京傳……二七八四
山東京傳書翰集（九二六―イ二五）……三〇二〇
山東京山……二七八四
三百箇條（七九一―イ）……Ⅱ四五五五
三百箇私解（一二五・八―イ）……四八五五
三百六十番哥合（九二一・二九―イ二九）……一九七六
三部經音義（八三一―イ七五）……Ⅱ一五二
三墳書（四四〇―イ三）……一四六六
參聞録（〇八一―イ九）……三二二
三寶類字集卷上高山寺本（八三一―イ七三）…一七八七
三寶類聚名義抄運歩院本（八三一―イ六）…一七八八
〔散木集註〕（九二一・二三―イ九九）……Ⅱ五九二
三昧田御領百姓繼松丸謹重弁申狀寫（一一〇・〇八―イ三三）……八四二
山陽翁奉萱尊手簡（二八九―イ六三）……Ⅱ二八七
三　略（〇八一―イ二一）……一二九
山陵考略（二八八・一―イ一九）……Ⅱ二七〇
山陵叢書（二八八・一―イ一一）……Ⅱ二七一
山陵叢書（二八八・一―イ一一）……Ⅱ二七二～三
纂和抄（二一〇・一―イ二七）……八七九
シ
自庵宗是……一〇二四
自菴隆達……二一二五
椎尾弁匡……三一六
詩歌合（九二一・二九―イ三）……九七七
詩哥合（九二一・二九―イ三五）……一九七八
詞花和歌集（九二一・三三―イ一〇五）……Ⅱ五九三
詞花和歌集（九二一・三三―イ二九）……一九二一
シーボルト……一五九七
シーボルト直傳方治療方寫取同治療日誌（四九七―イ一）……一六四八
仕入帳（〇八一―イ九）……一九一
市隱月令（三八四―イ五）……Ⅱ三八一
慈　雲……二九〇六
慈　圓（慈鎭）……七九九、八七九、三三四八
柿園太郎百首（九二一・二六―イ七一）……Ⅱ六四八
地黄坊樗次……二六三四―五
塩尻抜萃編（〇九一―三一）……四〇三
塩谷温……三一三三
塩谷甲藏……一〇六三
塩谷定邦……三〇八六
慈恩會問答講草（二九―イ一）……Ⅱ一二五
紫海拙菴……三〇七七
四岳考……一四六九
（聯新事備）詩學大成五山版（九二一・〇七―イ五）……三〇七三
（聯新事備）詩學大成五山版（九二一・〇七―イ七）……三〇七四
紫家七論（〇八一―イ五）……Ⅰ七一
詩家推敲巻上（九二一・一―イ二五）……三〇八一
鹿田松雲堂……二〇四
鹿都部眞顔……四一〇
鹿の巻筆（九一七・五―イ二五）……Ⅰ六三九
似我蜂物語（九二三・六一―イ八七）……Ⅰ五七〇
似我与左衛門國廣……一七六三
志賀理齋……四一四
自寛……四二三
字貫（八三一―イ二）……一八四四
雌鑑抄（三九一―イ）……Ⅱ三九四
史記古活字版（二三二―イ一）……Ⅱ二五八
史記古活字版（二三二―イ七）……Ⅱ二五九
史記元版（二三二―イ四一）……一〇四三
史記明版（四四〇―イ七）……一五八
四喜記……三一四三
史記抄（二三一―三五）……一〇四四
四季戀雜百首詠草抜萃（九二一・二六―イ九一）……Ⅱ六六〇
式亭小三馬……二七八九
色道大鏡（九二一・六二―三九）……二七二五
色道懺悔男（九二三・六二―イ三五）……二七二六
色道胸三要（九二三・六二―イ七）……Ⅱ八四三
詩　經……一〇五一
字　鏡（八三一―七）……Ⅰ四五七
字鏡集（八三一―五）……Ⅰ四五八
詩虚字（二三五・八―イ一）……四七六
獅吼記……三一四三
しくれのさうし（九二三・五―イ三）……Ⅱ八〇五
施　恵（元）……三一四三
重岡保宴……一三四九

重勝……二八
慈慶……八五七
茂子……四三三
〔繁子道行振の歌〕(〇八一ｲ一五)……Ⅰ八九
茂韶(蜂須賀)……一〇六三
滋野井公澄日記(三一〇・六ｰｲ一五)……Ⅱ二四五
重久篤通……四〇二
四賢記……三一四三
至元新刊全相三分事略元版(九三三ｰｲ七)……Ⅱ九〇七
四こくおち(九二一・六ｰｲ六七)……Ⅱ七二一
四國邊路萬太夫座狂言本(九二二・六ｰｲ三一)……二一五五
自己門答(九三三・六一ｰｲ八三)……Ⅰ五七一
紫釵記……三一四三
事纂(〇三一ｰｲ九)……Ⅰ九
自譜哥(〇八一ｰｲ二)……一六四
資治通鑑宋版(三三三ｰｲ五七)……一〇四五
資治通鑑巻第三十三元版(三三三ｰｲ三九)……一〇四六
慈寂(元)……七五一
四十五番歌合(〇八一ｰｲ五)……Ⅰ二三三
四十三番歌合褒貶(九二一・二九ｰｲ五)……一九八〇
時習新知抄(一三三・七ｰｲ一)……Ⅱ一三三
四十二の物あらそひ丹緑本(九三三・五ｰｲ三五)……二五一四
私淑暦(四四〇ｰｲ一三)……一五〇〇
自受法楽(〇八一ｰｲ一九)……三五六
紫簫記……三一四三
四丞相高麗春堂雑劇……三一三六
四書今閒版(一三三ｰｲ一)……Ⅱ一一〇
字書總目三十六(〇八一ｰｲ二一)……一一三
四條家記録(三一〇・〇八一ｰｲ六九)……八四三
四條隆謌……八四三ｰ四
四條隆謌日記(三一〇・〇八ｰｲ七一)……八四四
四書集註(一三三ｰ三)……Ⅱ一一一
四書集註大全(一三三ｰｲ五)……Ⅱ一一三
四書章句集註鈔説木活字版(一三三ｰｲ七)……四五八
紫塵愚抄(九一三・三六ｰｲ三)……Ⅰ五四四
紫塵愚抄(九一三・三六ｰｲ一一)……二三九四
四塵愚抄(九一三・三六ｰｲ三五)……二三九五
四神考……一四六九
至仁行中(元)……三一一〇
しつか奈良繪本(九二一・六ｰｲ七一)……一九九六
四聲猿明版(九三三ｰｲ三)……二一三八
施政卿(宋)……一六三八
死生交范張雞黍雑劇……三一三六
辭世詩歌(九一三・七ｰｲ五一)……二九四五
師説自見集(九一三・三六ｰｲ一一)……Ⅰ五四五
師説撰歌和歌集(九二一・二ｰｲ一〇三)……Ⅱ四九七
四節八座抄(三三八・七ｰｲ一)……Ⅱ三七一
子璞……一〇六三
(新編排韻増廣事類)氏族大全明版(二八二・二ｰｲ一七)……一〇七三
(新編排韻増廣事類)氏族大全五山版(二八二・二ｰｲ一九)……一〇七三
(新編排韻増廣事類)氏族大全五山版(二八二・二ｰｲ二三)……一〇七四
慈尊院傳受口記(一八八・四ｰｲ一九)……Ⅱ一八三
し だ(九一一・六ｰｲ一九)……Ⅰ四五五
し た(九一一・六ｰｲ三九)……Ⅱ七一三
(北雪美談)時代鏡四十九編下巻(九二三・六四ｰｲ五七)……二七八七
四體千字文書法(七八ｰｲ一三)……Ⅱ四二九
舌長鐙(三九九・六ｰｲ九)……一三五三
したの小太郎(九二一・七ｰｲ四三)……Ⅰ五三〇
しだの小太郎(九二一・七ｰｲ一五七)……三〇五八
嗣端(宋)……七三三
紫竹集(九二一・七ｰｲ一七七)……二〇五九
紫竹初心集(七六一ｰｲ二一)……Ⅱ四三九
七十二候(九二三・六五ｰｲ二七)……二六五九
七種圖考(三一〇・〇七ｰｲ一五)……八三三
七 書(三九九ｰｲ五)……Ⅱ三九五
七政蒙求(四四〇ｰｲ九)……一四三一
七島日記(二九一・一ｰｲ一九)……Ⅱ三三〇
七人ひくに(九二三・六一ｰｲ二三)……二六二九
七之介……一二〇六
十訓抄(九二三・四ｰｲ一二)……Ⅱ七七九
〔執金剛縁起繪巻〕奈良繪巻(九二三・五ｰｲ三四)……三五一七
實叉難陀(唐)……六二一ｰ二
實 秀……八五三
十誦律第四誦巻第八(八三ｰｲ一八三)……五八一
實乘坊……四三五
實相院増運……三三〇〇
實相坊……七一四
實 朝……五四〇
漆桶萬里……三〇七〇ｰ一、三〇九四
耳底記(九二一・二ｰｲ四三)……Ⅱ四九八
四諦論巻第二宋版(八三ｰｲ一七)……Ⅰ二五三
自 傳(九二三・六五ｰｲ二七)……二六四三
字典浪記(八三三ｰｲ三)……Ⅰ四六〇
志道軒像(二六九ｰｲ七一)……一二〇三
使徒行傳(一九三・六ｰｲ五)……七七三
蔀關牛……一二三〇
〔支那官職名考證〕(三五・八ｰｲ一)……四八六
似入齋……二六四九
篠崎小竹……一〇、一六、二五四、一〇六五、三一七七
篠崎小竹・篠崎竹陰・新宮瓶城書翰(二八一ｰ五)……一〇六五
篠崎竹陰……一〇六五
信太之森(〇八一ｰｲ二九)……三六六
不忍遺稿(〇九一ｰｲ五一)……四〇四
しのひね(九二三・四ｰｲ三三)……二四四七
しのひねもの語(九三三・四ｰｲ二五)……二四四八
篠武欽……三〇七七
斯 波……一〇六三
芝一居 一代男 役者万年暦(七七一ｰｲ一七)……一七四六
芝居番付集(七七一ｰｲ一九)……一七五三
芝君貞……三〇七七
司馬光(宋)……一〇四五ｰ六
司馬江漢……一二八、一四四九、一五〇、一五六〇、一七一九
司馬遷(漢)……一〇四三、一五一八
司馬貞(唐)……一〇四三、一五一六
芝山持豊……一九六八
指微韻鑑……一八二一ｰ二
澁江長伯……一七三七
澁川春海……一一〇六、一四五九ｰ六〇
四部書目(〇一九ｰｲ一七)……一一
四部録古活字版(一八八・七ｰｲ一)……Ⅰ二六九
紫文譯解(〇八一ｰｲ一)……Ⅰ一七〇
紫文要領(九二三・六ｰｲ三一)……二三九六
四分律藏巻第十八宋版(八三ｰｲ九三)……五八二
四分律藏巻第四十六(八三ｰｲ一七九)……五八三
島木赤彦……二六九九、一八七三
島崎藤村……二九四七、二九六七、二七七一
島田翰(彦楨)……四
嶋田次兵衛利正……八二七
島田裕……三〇七七
嶋のせんざい女わかのまへ(九二一・七ｰｲ一〇三)

……二〇六〇
嶋のせんざい女わかのまへ（九二一・七ーイ一〇五）
……二〇六一
嶋原軍記二（九二一・七ーイ四九）……Ⅰ五二一
島原大和こよみ（三八七ーイ六七）……Ⅰ四〇六
嶋平右衛門尉……一〇二四
嶋兵四郎……八二七
島　村……一〇六三
清水卯三郎……一八五〇
清水震斎……四〇五
清水濱臣……四二三、一一四五、二二四四
清水光房……二二四八
清水光房雜稿（〇八一ーイ一一）……Ⅱ三九ー四三
清水屋好古……一五七一
清水弥左衛門……二〇〇九
清水弥七郎……二〇〇九
清水理太夫……二〇七二
師　明（宋）……六七〇
志　明（金）……七三七
慈明四家録元版（一八八・七ーイ一一九）……七三一
下懸外仕舞囃謠大成……二〇〇三
下鴨河合惣繪圖……一一八一
下河邊長流……一九六〇ー二、三〇〇五
下郷寛……六
舎衣軒明昏……二七〇二
謝　寅（蕪村）……一〇六三
釋迦出世本懷傳記（九二三・五ーイ七）……Ⅰ五六五
釋迦如來御本地（九二三・五ーイ二五七）……二五一五
釋迦如來念誦之次第（一八八・四ーイ三九）……七〇七
しやかの御本地（九二一・七ーイ五三）……Ⅰ五一九
しやかの御ほんぢ（九二三・五ーイ一一九）……Ⅱ八〇六
しやかの本地奈良繪本（九二三・五ーイ二三）……Ⅰ五六四
しやかのほんぢ中古活字版（九二三・五ーイ三一一）
……二五一六
寫經所食口帳斷簡（二二〇・〇八ーイ二三）……八四五
謝金吾詐折清風府雜劇……三一二六
謝金蓮詩酒紅梨花雜劇……三一二六
寂延法師……一九三九
釋教正謬木活字版（一八〇・四ーイ一）……五五九
釋教正謬初破木活字版（一八〇・四ーイ三）……五六〇
釋氏源流朝鮮版（一八二ーイ五）……五六一
寂照寺月仙……一〇六三
釋氏要覧古活字版（一八〇・三ーイ三）……五五六
釋氏要覧五山版（一八〇・三ーイ七）……五五七
若　水……四七〇
笏大意（三二八・六ーイ一一）……一二四一
釋日本紀（二二〇・一ーイ一一九）……八八〇
釋日本紀（二二〇・一ーイ二三一）……八八一
寂　然……一九三一
寂然和歌色紙（九二一・二四ーイ五五）……一九三一
尺八之賦……一三四
尺八之名物（〇八一ーイ二一）……一六五
釋摩訶衍論高野版（一八三ーイ一）……Ⅰ二五六
釋門自鏡録古活字版（一八八ーイ一一）……六九一
寂蓮集（〇八一ーイ一五）……Ⅱ六八
寂蓮法師……一九〇四、一九一三
車柳齋（明）……三一三六
謝疊山（宋）……三一〇三
沙石愚考（四五六ーイ一）……一五六一
沙石集古活字版（九二三・四ーイ一）……Ⅰ五四九
沙石集古活字版（九二三・四ーイ一七）……Ⅱ七八〇
謝　讜（明）……三一四三
闍那崛多（隋）……六二八、六三八
寫風情……三一三六
射方目録（三九九・四ーイ一一）……一三三四
しやミゆうあ……八二九
沙門島張生煮海雜劇……三一二六
社例傳記秘説……八二七
壽阿彌手翰（〇八一ーイ一九）……二三九
朱　煒（明）……三一三六
自　游……一〇六三
拾遺愚草（九二一・二四ーイ七）……Ⅱ六一五
拾遺愚草（九二一・二四ーイ九）……Ⅱ六一六
拾遺愚草（九二一・二四ーイ一）……Ⅱ六一七
拾遺愚草（九二一・二四ーイ一一）……Ⅱ六一八
拾遺愚草……一八六八
拾遺愚草（九二一・二ーイ一六三）……一八八〇
拾遺愚草員外（九二一・二四ーイ三七）……Ⅱ六一九
拾遺愚草抄出聞書（九二一・二四ーイ一七）……Ⅱ六二〇
周　日（明）……一〇四九
拾遺集……六七
拾遺集不審附拾遺愚草不審（九二一・二三ーイ四五）
……Ⅱ五九四
拾遺抄（九二一・二三ーイ四三）……Ⅱ五九五
拾遺和歌集（九二一・二三ーイ五七）……Ⅱ五九六
拾遺和謌集（九二一・二三ーイ一）……一九二二
拾遺和歌集（九二一・二三ーイ一九）……一九二三
拾遺和歌集註（九二一・二三ーイ七五）……Ⅱ五九七
拾遺和歌集標註（九二一・二三ーイ六七）……Ⅱ五九八
周　易（一二三・一ーイ三）……Ⅱ一〇四
周　易（一二三・一ーイ九）……Ⅱ一〇五
周易古活字伏見版（一二三・一ーイ一）……Ⅱ一〇六
周易抄（一二三・一ーイ一三）……四三四
周易抄（一二三・一ーイ一五）……四三五
周易抄（一二三・一ーイ一七）……四三六
周易義傳合訂（一二三・一ーイ一一）……四三三
周易傳義古活字版（一二三・一ーイ七）……Ⅱ一〇七
周易圖略（一二三・一ーイ一七）……四三六
周易注古活字版（一二三・一ーイ五）……四三七
周易略例（一二三・一ーイ一三）……四三四
周易命期略秘傳（一二三・一ーイ一七）……四三六
拾芥延壽要護集（〇八一ーイ二一）……八二
重刊経史證類大全本草明版（四九四ーイ一九）一六四一
重刊五色潮泉挿科増入詩詞北曲勾
欄荔鏡記戯文明版（九二三ーイ五）……三一二九
重刊貞和類聚祖苑聯芳集五山版
（九二一・三ーイ七）……三一一六
拾璣算法（四一九ーイ一）……Ⅱ四〇七
十牛圖（四八八ーイ九）……一五九九
衆經目録宋版（一八三ーイ二〇一）……五八四
拾玉集……六七
拾玉集（九二一・二ーイ一六三）……一八七九
拾玉鈔……一八六八
秀　恵……六〇七
周　桂……二三〇七
衆　賢……五六六
周憲王朱有燉（明）……三一三六
集古印存（〇八一ーイ一九）……二九八
集古印譜（七一七ーイ一三）……一六七四
集古印譜（七一七ーイ一五）……一六七五
周　興……六八九
周　煌（清）……一一八九
周興嗣（梁）……一八二九
重校北西廂記明版（九二三ーイ三三）……三一三〇
重刻畸人十篇（一九八・二ーイ五）……七八四
重刻皇王大紀明版（二二三ーイ三一）……一〇四七
重刻天文秘畧（四四〇ーイ一三）……一四七三
重刻二十五言（一九八・二ーイ五）……七八六

集古圖卷三(四六九ーイ三九)……一五八九
重修人天眼目五山版(一八八・七ーイ三五)……七四七
重修人天眼目上五山版(一八八・七ーイ一〇一)…七四八
重修神皇正統記(二一〇ーイ三一)……八〇二
重修政和經史證類備用本草明版(四九四ーイ三)
……Ⅱ四一六
重修政和經史證類備用本草明版(四九四ーイ五)
……一六四二
繡襦記……三一四三
周子愚(明)……七九四、一五一三
集沙門不應拝俗等事卷第一金版
(一八三ーイ二七七)……五八五
十住心論高野版(一八八・四ーイ三)……Ⅰ二六四
周　書宋版(二二二ーイ七)……Ⅱ二六〇
秀松軒……二一一二
十如是義私記・自行略記古活字版
(一八八・三ーイ七)……Ⅱ一七八
集神州三寶感通録(一八〇ーイ九)……五四九
習是齋……七八八
集千家註批點杜工部詩文集元版
(九二一・二ーイ九)……Ⅱ八九九
集千家註批點杜工部詩集元版(九二一・二ーイ二五)
……三〇九九
集千家註批點杜工部詩集五山版
(九二一・二ーイ四五)……三一〇〇
集千家註分類杜工部詩集五山版
(九二一・二ーイ四一)……三一〇一
修禪寺相傳私注古活字版(一八八・三ーイ一)…七〇三
拾撰集抄(九一一・二三ーイ一四一)……一九二四
重撰倭漢皇統編年合運圖古活字版
(二一〇・〇三ーイ一)……八二〇
袖中抄(九一一・二ーイ一三七)……Ⅱ四九九
袖中抄卷第一(九一一・二ーイ三三)……Ⅱ五〇〇
袖珎孛語譯囊(八四三ーイ一)……一八五一
重訂解體新書銅版全圖(四九一ーイ一)……Ⅰ四二六
周　超……四九七
收得書物(〇八一ーイ一九)……三〇二
收得泉目(〇八一ーイ一九)……三四三
收得目(〇八一ーイ一九)……三〇三
修南院……八五八
十二月歌(九一一・二六ーイ二九)……Ⅱ六六一
十二支の詞……三〇五九
〔十二段草子〕(九一三・五ーイ一三)……Ⅰ五五八
十二段さうし(九一一・七ーイ七九)……Ⅱ七二六
十二段草子古活字版(九一三・五ーイ一七一)……二五一八
十二段さうし(九一三・五ーイ二二七)……二五一九
十二段さうし(九一三・五ーイ三六七)……二五二〇
十二段付リ長生殿四季(九一一・七ーイ二一七)　二〇六三
十二朝(軍談)書抜(〇八一ーイ五)……Ⅰ一一七
十二番歌合(九一一・二九ーイ一五)……一九七九
倻梅香騙翰林風月雜劇……三一二六
周髀算經(四四〇ーイ一三)……一四六七
周弼伯弓(宋)……三一一七
聚分韻略五山版(八二一ーイ四九)……一八三〇
聚分韻略坤(八二一ーイ二九)……一八三一
重編詳備砕金宋版(〇三二ーイ一七)……四六
衆芳園草木画譜……一七〇六
衆芳園草木畫譜(七二一ーイ五一)……一七〇七
修明暦法(四四〇ーイ一一)……一三九二
重　祐……一〇一五
周履靖(明)……三一四三
四叉録稿(〇八一ーイ一九)……三一八
十六日朝雨大文字を思ふ(九一三・六五ーイ二七)
……二八六三
朱　凱(元)……三一二六
朱開泰(明)……三一五四
朱　皡(明)……一四一七、一四一九ー二〇、
一四二三ー三、一四二五、一四三八、一四四〇、一四四三ー四、一四四六
須賈大夫諱范叔雜劇……三一二六
朱果漫筆(〇八一ーイ一九)……三六五
壽　閑……一一〇六ー七
朱　熹(宋)……四三三、四三八、四五九、三〇六四
種玉記……三一四三
蕭子顯(梁)……一五二一
蕭士贇(元)……三一一四
蕭　統(梁)……三一八四ー八
宿曜算法……一四八〇
朱權(寧献王)(明)……三一四三
朱國幹(明)……一二〇六
朱國達(明)……一二〇六
朱國禎(明)……一六四五
守護地頭考(三二八・二ーイ三)……Ⅱ三六七
種　濟……三〇七七
朱載堉(明)……一四八九
硃砂擔滴水浮漚記雜劇……三一二六
朱之蕃(明)……三一五六
朱紹本(明)……一二〇六
授時暦一秒減譯……一四九二
授時暦經解抜萃(四四〇ーイ一三)……一四九五
授時暦秘決(四四〇ーイ一三)……一四八一
朱　申(元)……四四六
朱震亨(元)……一六二〇
守信亭をこたる會集詠梅狂哥并序……三〇五九
朱申禮記句解輯本四庫館本(一二二・四ーイ三)　四四六
銖積寸累(〇八一ーイ一九)……三六八
守　詮(宋)……七一七
朱太守風雪漁樵記雜劇……三一二六
守　懌……五七二
守　端〔宋〕……七二一
出版の舊例(〇八一ーイ一九)……二一五
朱　鼎(明)……三一四三
朱鼎臣(宋)……三一〇三
朱廷樞(明)……
……一四一四、一四二六、一四三七、一四三九、一四四二、一五一六
酒呑童子繪巻(九一三・五ーイ二九三)……二五二一
酒顚童子付頼光山入(九一一・七ーイ一二五)…二〇六二
首藤子高……四七〇
種痘傳法(四九三ーイ一)……Ⅱ四一五
朱文公勸學文……四三二
入木筆家相傳(七二八ーイ二三)……一七一二
授菩薩戒儀(一八六ーイ二七)……六八〇
壽命院立安……六三
聚樂物語(九一三・六一ーイ一五)……Ⅱ八三一
守　倫……六三〇
春屋妙葩……七五二ー三
春海實記(四四〇ーイ一三)……一四八四
準回兩部平定得勝圖銅版(七三二ーイ一五)…一七一八
春　嶽……一〇六三
春　耕……一一一六
巡察要領集……二九二七
春　識……七一一
春秋經傳集解五山版(一二二・五ーイ一)……四四九
(新鐫陳眉公先生批評)春秋列國志傳圖
(九二三ーイ五五)……三一六〇
春　樵(梅辻)……一〇六三
珣照聖人……六五四
春色籬廼梅(九一三・六八ーイ七)……二九三〇
春曙堂松月……一一五二

詢　信……三〇七七
春　翠……一〇六三
春　水……八五七
春水子……一四八四
舜　清……八二九
（豊）俊泰……四七〇
春　澤……三〇八七
春雉曲（九三・六五ｲ二七）……二九〇三
春洞麥翁……二八五九
順徳天皇……一八七五―六
春蕪記……三二四三
駿　甫……三〇七
〔俊明・枝直文集〕（〇八一ｲ五）……Ⅰ八六
春　瑜……八七三
春葉集……二九〇九
純陽呂眞人文集明版（一二六ｲ九）……四九〇
恕庵先生東遊日件記（四六〇ｲ三）……一五六二
徐　渭（明）……三二八
邵菴虞集（元）……三一〇四
紹　意……二九一
性　均……七一五
小尉遅鬪將認父歸朝雜劇……三二六
淨　運……一六三〇
淨運參聞録（〇八一ｲ一九）……三一三
貞永式目抄下古活字版（三六八・二ｲ九）……一二三三
貞永式目追加（三六八・二ｲ一七）……一二三四
證　円……五一〇
淨　圓……一三七―三
松煙餘香（〇八一ｲ一九）……三六九
章惶太子（唐）……一〇四二
仍　覺……二一九六
松下抄（九二一・二五ｲ三五）……一九四五
正月揃（九二三・六二ｲ三五）……Ⅰ五九五
商家童問抄……二九二七
貞觀政要古活字版（二三二ｲ二五）……Ⅱ二六一
貞觀政要巻第七（二三二ｲ四五）……一〇四八
傷寒論直格元版（四九〇ｲ九）……一六二七
蕭　吉（隋）……五〇〇
承久記（〇八一ｲ二一）……五四四
承久記繪原侯本（二一〇・四ｲ二七）……九九五
承久記（二一〇・四ｲ四三）……九九六
貞享三年御八講宸記（八六ｲ七）……六八一
上京日記（九二四・六ｲ九）……Ⅱ八六九
貞享曆法通書（四四〇ｲ一三）……一四六〇
上宮聖徳法王帝説（二八八・一ｲ二）……一〇七八
勝軍地藏軍記……一〇一〇
祥刑要覽（三三ｲ一）……Ⅰ三九四
祥刑要覽古活字版（三三ｲ三）……二二三
招月正徹之詠哥（九二一・二五ｲ二七）……一九四六
松月堂不角……二六二一
鄭　玄（漢）……四四二、四四五、四四八
淨　源（宋）……六二五
正眼菴……七五五
蕉堅藁五山版（九二一・一ｲ三三）……三〇八二
松源崇岳（宋）……七三二三
松源崇岳禪師語録五山版（一八八・七ｲ八一）　七三二
松源崇岳禪師語録下巻五山版（一八八・七ｲ裏九）……七三三
焦　竑（明）……四九二
性　光……一一〇三
常光院堯憲……三三〇六
昭高院道澄……三〇一、三四九、三六一、四〇一、四一〇
照高院御門跡御殿惣繪圖……一二八一
照高院宮通勝親王……九八〇
正光上人本地（九二一・七ｲ一六五）……二〇六四
昌　克……三〇七七
相國寺公孫介汗衫雜劇……三一六
上古史綱要（〇八一ｲ九）……Ⅱ三五
上古男女髻辨、國歌八論、國つち考、國歌剩言（〇八一ｲ五）……Ⅰ七八
上古の髪の考（〇八一ｲ三）……Ⅰ三一〇
城坤散人茅屋子……二七二四
聖財集（八八一ｲ九）……六九二
招差三要（四一九ｲ一）……Ⅱ四〇八
招差三要（四一九ｲ一）……Ⅱ四〇九
邵　㮚（明）……三一四三
正直咄大鑑（九二七・五ｲ一二）……Ⅰ六四〇
正直咄大鑑（九二七・五ｲ三三）……三〇五三
小自鳴鐘時刻考（四四〇ｲ一二）……一三七八
蕭淑蘭情寄菩薩蠻雜劇……三二六
定　舜……八二九
笑笑生（明）……三五一
尚書考巻十（一三三・二ｲ五）……四三九
尚書抄（一三三・二ｲ三）……四四〇
尚書注疏金版（一三三・二ｲ七）……四四一
定　眞……七〇九
昌　信……一三三三
聳翠文集（〇八一ｲ二五）……一九〇
鍾　惺（明）……三一四九
淨　善（宋）……七四一
定善房……六一三
淨善無染……三〇七七
正倉院御物目録明治十五年改（七〇九ｲ三）……一六六六
〔正倉院寶物圖〕（一八八・一ｲ五）……六九六
〔上奏文案文〕（二八九ｲ一九）……Ⅱ二八八
消　息山科顯言卿以下（二六一ｲ二二）……一一〇三
消息合しける時千蔭のもとへ衣箱にそへてつかはしける詞……二九〇九
装束方聞書（〇八一ｲ一九）……二三三三
装束抄附圖身方（九二三・三六ｲ二八三）……二三七一
消息文例下巻（九二六ｲ一三）……Ⅱ八四
昭代叢書丙集……一六四五
昭代典則明版（二三一ｲ六五）……一〇四九
小竹先生書翰集（二九九ｲ五九）……Ⅱ二八九
勝地徒跣（〇八一ｲ三）……Ⅰ二一
尚仲賢（元）……三二六
掌中源氏物語年立（〇八一ｲ一五）……Ⅱ六九
常仲明（元）……一六二七
松亭金水……二七九三
正　徹……一九三四、一九四六
常徳院殿集（八二一・二五ｲ一五）……Ⅱ六三五
正徳五年維摩會探題之記（八五ｲ一）　六七五
蕭徳祥（元）……三二六
聖徳太子……二三三
聖徳太子憲法（〇八一ｲ二）……二三五
聖徳太子憲法（三三八・一ｲ一五）……二三三
聖徳太子憲法抄（三三八・一ｲ七）……二三三
聖徳太子御傳記（九二一・七ｲ七五）……Ⅱ七二七
聖徳太子傳（二八八・一ｲ一三）……Ⅱ二七四
聖徳太子傳（二八八・一ｲ三三）……一〇七九
聖徳太子傳（二八八・一ｲ三三）……一〇八〇
聖徳太子傳記（二八八・一ｲ三五）……一〇八一
聖徳太子傳略抄（二八八・一ｲ三七）……一〇八二
聖徳太子傳曆（二八八・一ｲ五）……Ⅰ三四三
しやうとく太子の本地（九二三・五ｲ五）　Ⅰ五六六
淨土宗名目古活字版（一八八・六ｲ三）……Ⅰ二六六
小納言正五位下威奈卿墓誌銘并序……一〇七〇

上入久徳……一〇二四
商人論語帳……二九二七
松　坡(宋)……三一一五
蕉帕記……三一四三
鐘伯敬先生批評三國志明版(九二三―イ六九)
……三一四九
紹巴抄(九一三・三六―イ七七)……二三九七
紹巴抄(九一三・三六―イ二二一)……二三九八
紹巴抄(九一三・三六―イ二六七)……二三九九
(重編)詳備碎金宋版(〇三三―イ一七)……四六
章炳文(宋)……一三〇九
浄　辨……一九一五
正法眼藏(一八八・七―イ二三)……七三四
小補東遊集附續集(九二一・一―イ二七)……三〇八三
稱名院抄(九一三・三六―イ六七)……二四〇〇
聲明集(一八六―イ一)……Ⅰ二五七
聲明集高野版(一八六―イ三)……Ⅰ二五八
將門記略榊原侯本(二一〇・三―イ五三)……九五一
浄　躍……三〇七七
成唯識論春日版(一八三―イ一一)……Ⅰ二五五
成唯識論春日版(一八三―イ八九)……五八六
成唯識論殘闕春日版(一八三―イ一三九)……五八七
成唯識論巻第四春日版(一八三―イ一二五)……五八八
成唯識論巻第九春日版(一八三―イ一五五)……五八九
成唯識論了義燈巻第二春日版(一八三―イ二四三)
……五九〇
逍遊軒和歌(九二一・二六―イ九五)……一九五六
逍遙先生書翰集(九一六―イ一九)……三〇二一
逍遙著作解題(九一三・七―イ二五)……二九四六
逍遙遊……三一三六
嘯餘譜明版(九二三―イ三九)……三一三一
少林寺和尚和歌集(九二一・二六―イ七三)……Ⅱ六六二
しやうるり奈良繪本(九一三・五―イ三六三)……二五三二
浄瑠璃加賀羽二重(九二一・七―イ一八七)……二〇六五
生　蓮……一九三八
青蓮院尊純法親王……八一〇
青蓮院宮尊朝……九八〇
蕉鹿夢……三一三六
松樓私語(〇八一―イ一九)……三二七
昭和忌辰録(〇八一―イ一九)……三二三
諸家字號(〇八一―イ一九)……二六六
諸家詠草(〇八一―イ五)……Ⅰ一六七
初學記明版(〇三三―イ九)……四七
初學記明版(〇三三―イ一三)……四八
諸角蹈轍術(四一九―イ一)……Ⅱ四一〇
諸家集註唐詩三體家法五山版(九二一・三―イ一)
……三一一七
諸家書簡集(〇八一―イ五)……Ⅰ一六六
書画叢(一二五・八―イ一)……四七四
〔書家大略〕(〇八一―イ五)……Ⅰ一一八
諸葛深(宋)……一〇五八
諸家傳近代次第榊原侯本(二八一―イ一五)……一〇六六
書家傳稾(〇八一―イ一九)……二六三
〔書翰索引〕(〇八一―イ一九)……三七〇
徐　畯(明)……三一四三
諸經要集巻第三(一八三―イ一七五)……五九一
諸經要集巻第六(一八三―イ一三五)……五九二
諸經要集巻第七(一八三―イ二六一)……五九三
徐居仁(宋)……三一〇一
職原鈔(三二八・一―イ五)……Ⅱ三六六
職原抄勅版(三二八・一―イ一)……一二二四
職原抄支流略書(〇八一―イ五)……Ⅰ五九
職原抜尽(〇八一―イ二一)……一一一
〔蜀山雜稿〕(〇九一―イ一七)……Ⅱ九二
續日本紀(二一〇・二―イ三)……九四〇
續日本紀(二一〇・二―イ五)……九四一
續日本紀稱呼之事(〇八一―イ一三)……Ⅱ四六
續日本紀宣命・日本逸史抜書(〇八一―イ五)
……Ⅰ八〇
植物圖(四七〇―イ一)……一五九七
職方外紀(一九八・二―イ五)……七九〇
職方外記(四四〇―イ一一)……一三八四
女訓集(〇八一―イ二一)……一三七
諸篇評判金の楫(七七一―イ二一)……一七五四
諸偈類要五山版(一八〇・三―イ五)……五五八
徐　堅(唐)……四七一八
徐　元(明)……三一四三
徐　瑚(清)……一三六四
徐光啓(明)……七八九
七九一、七九三、七九六、一三八〇、一三八七―八、一四一二―四七
諸國色里案内巻中(三八七―イ五三)……一二八六
〔諸國鍛冶銘秘傳〕(三九九・二―イ三五)……一三二一
諸國刀哥目録(三九九・二―イ三一)……一三三二
〔諸國腰物銘之事〕(三九九・二―イ一五)……一三三三
〔諸國刀劔銘集〕(三九九・二―イ七)……一三二四
諸國板行帖(七三一―イ一)……一七一六
諸國風俗問狀附答書(三七〇―イ三)……Ⅱ三七八
諸國文通所幷名氏覺(〇八一―イ五)……Ⅰ二三
〔諸國文通所幷名氏覺〕(〇八一―イ五)……Ⅰ二四
諸國落首咄(九一三・六二―イ二七)……Ⅰ五九六
如　齋……一〇二四
所作人由來人倫訓蒙圖彙(〇三一―イ二七)……二九
書札禮事(〇八一―イ二一)……一四六
書札禮事(三二八・六―イ一五)……一二四二
四餘算法(四四〇―イ一三)……一四八〇
徐子光(宋)……一〇七六
徐士俊(明)……三一三六
助字詳解(八二一―イ三五)……一八三二
諸子天文(四四〇―イ一三)……一四九四
諸儒註解古文眞寶前集古活字版……Ⅰ六四五
書籍目録(〇一九―イ七)……Ⅱ六
如　珠(宋)……七一六
諸宗鐵槌論(一八八―イ一三)……Ⅰ二六〇
諸宗評判記(一八八―イ一)……Ⅰ二六一
初心導書(九二一・二―イ九五)……Ⅱ五〇一
諸神本懐集(一八八・六―イ五)……Ⅱ一九〇
諸尊法傳受日記第四(一八八・四―イ一一)……Ⅱ一八三
初潭集明版(一五四―イ五)……Ⅱ一二六
徐　智(明)……四九二
恕中無慍(明)……七三〇
諸鳥花見(九一三・六一―イ六三)……二六三〇
續紀宣命疑條(二一〇・二―イ一一)……九三九
續紀宣命辞不審(二一〇・二―イ一一)……九三九
續紀目安(〇八一―イ一五)……Ⅱ七〇
諸道聴耳世間猿(九一三・六五―イ二七)……二七九六
諸道聴耳世間猿(九一三・六五―イ二七)……二七九七
徐道玄(元)……四九一
如道人(明)……三一三六
徐道齡(元)……四九一
徐復祚(明)……三一四三
諸方晝夜晨昏論及其分表(四四〇―イ九)……一四三〇
諸品積呪經(一八三―イ四五)……Ⅰ二五四
徐無黨(宋)……一五二五
諸遊芥子鹿子(九一三・六二―イ一三一)……二七二七
徐陽輝(明)……三一三六
女用訓蒙圖彙(五九〇―イ一)……一六五八
如儡子……二六一三
徐　霖(明)……三一四三

女郎來迎柱(九二二・六ー五)……二二五六
白石平馬……一三一〇
兒雷也豪傑譚稿本第十編(九二三・六四ー七)……Ⅰ六〇四
白川雅喬……二三七六
白闇色挑灯(九一三・六二ー六九)……二七二八
白縫物語(九一三・六四ー四一)……二七八八
滋蘭堂……一七一三
芝蘭堂新元會圖(四〇九ー一一)……一三五九
使琉球記(二一六・九ー三)……Ⅱ二五一
使琉球記(二一六・九ー五)……一〇三八
詞林意行集(九一四・六ー四五)……三〇〇一
(纂圖增新群書類要)事林廣記明版(〇三一ー一五)……四五
詞林采葉抄(九一一・二三ー五三)……Ⅱ五四七
詞林采葉抄(九一一・二三ー五五)……Ⅱ五四八
詞林采葉抄(九一一・二三ー五七)……Ⅱ五四九
史林拾葉抄(〇八一ー一九)……二五六
編林寶訓五山版(一八八・七ー九九)……七三五
時令記(四四〇ー三)……一四七〇
士　朗(井上)……一〇六三
〔史論〕(九一三・六五ー二七)……二八五七
〔史論〕(九一三・六五ー三七)……二八五八
尋　阿……五八〇
神異例(〇八一ー三)……Ⅰ二〇〇
神　吽……五三八
新吉原細見花車(三八七ー三九)……一三〇四
新可笑記(九一三・六二ー三)……Ⅰ五九三
新可笑記(九一三・六二ー四三)……二七三九
新刊吾妻鏡(〇八一ー二一)……九三
新刊錦繡段勅版(九二一・二ー二九)……三一〇三
新刊五百家註音辯唐柳先生文集五山版(九二〇・八一ー三)……三〇六五
秦簡夫(元)……三一二六
新刊明解音釋校正書言故事大全明版(〇三一ー三)……Ⅱ一六
神祇講式(一七六ー三)……Ⅱ一四六
神祇講之式(一七六ー一)……Ⅱ一四七
神祇服忌令(四七ー五)……四九九
尋旧坊……一九五三
心經後論(一二四・七ー三)……四六六
心經附註朝鮮版(一二四・七ー三)……四六六
新きよく(九一一・六ー五一)……Ⅱ七一三
しんきよく(九一一・六ー八九)……一九九七
新　曲(九一一・六ー一五)……一九八
新　曲(九一一・六ー一二七)……一九九
〔神鏡事〕(一七ー一ー三)……Ⅰ三三〇
新彊征戰銅版圖(七三一ー一)……Ⅱ四三八
心　空……六四三ー四
神宮社家神事……八九六
新宮瓶城……一〇六五
心　敬……七、一九一、一九四八、二一九四
心　慶……五六七
眞　惠……七〇五
眞　慶……八二九
沈　鯨(明)……二四三
沈　璟(明)……二四三
新鍥増補全相燕居筆記明版(九二三ー四三)二五〇
神系圖(三〇ー一ー一四五)……九二八
眞敬法親王日記(二八八・五ー三)……六八ー一四、一〇九〇
〔眞敬法親王日記〕(二八八・五ー三)……一〇九〇
新鍥龍頭註釋旁訓千家詩選明版(九二一・二ー一五九)……三一〇三
眞　賢……六七六
信　堅……七一四
神号荷田家古傳(二一〇・一ー一三九)……二一三四
新校注古本西廂記明版(九二三ー二九)……二一三六
新古今和歌集(九一一・二四ー三)……Ⅱ六二一
新古今和歌集隣舩本(九一一・二四ー二一)……Ⅱ六二三
新古今和歌集烏丸本(九一一・二四ー五)……Ⅱ六二三
新古今和歌集古活字版(九一一・二四ー四三)……一九二三
新古今和歌集聞書(九二一・二四ー二九)……Ⅱ六二五
新古今和歌集聞書(九二一・二四ー三九)……Ⅱ六二六
新古今集竟宴懐紙模本(九二一・二四ー一三)……Ⅱ六二四
〔新古今集抜書〕(〇八一ー五)……Ⅰ一四八
新刻古今疑問(〇八一ー五)……Ⅰ八一
新刻古今疑問(九二一・三ー一三)……一九二五
新刻繡像批評金瓶梅明版(九二三ー七九)……三二五一
新刻出像官板大字西遊記明版(九二三ー三一)……三二五三
新刻出像點板時尚晁腔雜曲醉怡情清版(九二三ー八)……三二三三
新刻新吉原細見之圖萬治版復刻文化頃刊……二三〇三
新刻全像三寶太監西洋記通俗演義明版(九二三ー一)……Ⅱ九〇八
新刻全像三寶太監西洋記通俗演義明版(九二三ー六七)……三二五三
新刻全像達磨出身傳燈傳明版(九二三ー八一)……三二五四
新刻役者綱目(七七一ー七)……Ⅱ四四七
神護慶雲神幸記……八二七
新後拾遺和歌集上巻(九二一・二四ー五九)……一九二三
新　齋……一二一六
沈　采(明)……三一四三
震齋學目(〇九一ー五五)……四〇五五
新三十六人歌合(九二一・二四ー五)……Ⅱ六二七
沈士俊(明)……二一三四
沈士伸(明)……二一三六
晉侍中王羲書(九二三・六五ー二七)……二九一一
信　實……五五四
心中くどき集(九二一・九ー七)……二一一四
心中戀の中道(九二一・七ー七一)……二〇六六
沈從先(明)……二一三五
秦脩然竹塢聽琴雜劇……二一二六
慎修堂……七九九
新十二段(九二一・七ー一九七)……二〇六七
沈受先(明)……二一四三
仁壽年(隋)……五八四四
心中八嶋(九二一・六ー五)……Ⅰ五三五
壬戌驛旅漫録(九二四・六ー三五)……三〇〇三
晉　書明版(四四〇ー一七)……二五一九
神書秘註抄……八七九
神書漫録(二一〇・一ー八七)……Ⅱ二一五
神書聞牒(二一〇・一ー一〇三)……八八二
尋親記……二一四三
壬申掌記(九一〇・六ー一五)……一八五九
新鍥全像大字通俗演義三國志傳明版(九二三ー六五)……三一五五
神人名彙(二一〇・二ー一)……Ⅱ三七
信　性……八五一
新　生(九二二・七ー七三)……二九四七
新製諸器圖説(四四〇ー一一)……二六二
神筮大支書(一七六ー五)……五四四
新製靈臺儀象志(四四〇ー七)……二六四四
神蹟考(〇八一ー三)……Ⅰ三三三
心　前……三一〇一
神宣解(一七一・二ー一)……Ⅱ一二五

新撰樂道類集大全(七六一ーイ四七)……一七三二
新撰狂歌集(九一七・二ーイ三二)……Ⅰ六二八
新撰狂哥集(九一七・二ーイ三三)……三〇三六
新撰狂哥集下巻……三〇二九
新撰古鑄百印(〇八一ーイ一九)……三八一
新撰古鑄百印稿本(〇八一ーイ一九)……三〇八
新撰三國運數符合圖(二一〇・〇三ーイ五)……八一八
新撰字鏡(八三三ーイ九)……Ⅰ四五九
新鐫朱蘭嵎先生批評三教開迷歸正演義
明版(九二三ーイ二三)……三一五六
新撰姓氏録(二八八・二ーイ一)……Ⅱ二七七
新撰髓腦(九一一・二ーイ五九)……Ⅱ五〇二
新鐫全像通俗演義隋煬帝艷史明版
(九二三ーイ七五)……三一五七
新撰錢譜(七一八ーイ五)……一六八一
新撰增補京大繪圖(二九一・四ーイ九五)……一一六〇
新撰增補京大繪圖(二九一・四ーイ八一)……一一六一
新撰增補京大繪圖(二九一・四ーイ八五)……一一六二
新鐫總界全圖并日本邊界圖(二九〇・九一ーイ五)
……Ⅱ三〇七
新鐫陳眉公先生批評春秋列國志傳圖明版
(九三三ーイ五五)……三一六〇
新撰菟玖波集(〇八一ーイ二一)……五九
新撰抜粹證類本草和歌坤(〇八一ーイ二一)……八一
新鐫批評出相韓湘子明版(九二三ーイ六三)……三一五八
新鐫批評人中畫(九二三ーイ二五)……三一五九
新撰萬葉集(九一一・二三ーイ五九)……Ⅱ五九九
新撰都案内者(二九一・四ーイ四七)……一一七五
新鐫六院女史清流北調詞曲明版
(九二一・八ーイ一)……三一二一
新撰六帖索引(〇八一ーイ一五)……Ⅱ七一
新撰六帖類字(九一一・二四ーイ二五)……Ⅱ六二八
新撰和歌集(九一一・二三ーイ一三三)……一九二六
清奏疏(四四〇ーイ九)……一四一三
新増説文韻府羣玉明版(八二一ーイ二三)……一八三三
新増説文韻府羣玉明版(八二一ーイ四三)……一八三四
新増説文韻府羣玉明版(八二一ーイ四七)……一八三五
新續古今和歌集上(九一一・二五ーイ一九)……Ⅱ六三六
新造蓬萊山俵藤太二代記萬太夫座狂言本
(九一二・六ーイ一二五)……二一五七
沈　泰(明)……三一三六
〔神代紀葦牙校正刷〕(〇八一ーイ五)……Ⅰ二九
〔神代紀葦牙稿本〕(〇八一ーイ五)……Ⅰ二八
〔神代紀葦牙稿本〕(〇八一ーイ五)……Ⅰ五二
〔神代紀葦牙資料〕(〇八一ーイ五)……Ⅰ五一
神代聞書(二一〇・一ーイ一二七)……八八三
神代聞書纂和抄……八七九
〔神代紀心覺〕(〇八一ーイ三)……Ⅰ二一六
〔神代紀索引〕(〇八一ーイ三)……Ⅰ二一七
神代紀秘解(二一〇・一ーイ六五)……Ⅱ二一四
神代系圖(二一〇・一ーイ一四七)……九二九
神代系圖(二一〇・一ーイ一三一)……九三三
神體考(一七二ーイ一)……五二三
神代石類古物圖巻(四六九ーイ四一)……一五九〇
神代巻古今顯要鈔(〇八一ーイ三)……Ⅰ二一五
神代巻注書(二一〇・一ーイ二三三)……Ⅰ二九三
神代巻付紙之分(二一〇・一ーイ二一九)……八八四
新玉くしけ(九一三・六二ーイ二五一)……二七三〇
人中畫(九二三ーイ二五)……三一五九
辛丑日録(〇八一ーイ一九)……二四一
辛丑日録(二八九ーイ七九)……一一〇四
仁　朝……三〇七七
信長記古活字版(二一〇・五ーイ一)……Ⅰ三二五
信長記(〇八一ーイ二一)……八五
信長記(〇八一ーイ二一)……九三
信長記古活字版(二一〇・五ーイ九)……一〇一七
新訂萬國全圖(二一〇・九一ーイ三)……Ⅱ三〇八
塵滴問答(〇八一ーイ二一)……一三一
ちんてき問答(九一三・六一ーイ一三三)……二六三一
ちんてき問答(九一三・六一ーイ一三五)……二六三三
神典古事記燈(二一〇・一ーイ一一一)……八八五
臣　道(一二一・四ーイ一七)……四二六
〔神道灌頂印信〕(一七一・一ーイ五)……Ⅰ二二九
新唐書附釋音宋版(二三二ーイ二三)……Ⅱ二六二
神道大意(二一〇・一ーイ一四五)……九二八
神道大意(二一〇・一ーイ一四七)……九二九
神道問答抄(一七一・三ーイ一)……五二一
眞徳秀(宋)……四六六、三一八二
しんとく丸(九一一・七ーイ五七)……Ⅰ五二三
新なげぶし(九一一・八ーイ一五)……二一〇九
神皇正統記(二一〇ーイ一)……Ⅰ二八九
神皇正統記(二一〇ーイ一七)……Ⅱ一九七
神皇正統記(二一〇ーイ一三)……八〇〇
神皇正統記(二一〇ーイ二九)……八〇一
神皇正統記(二一〇ーイ三一)……八〇二
神皇正統記(二一〇ーイ三三)……八〇三
神皇正統記(二一〇ーイ三七)……八〇四
神皇正統記(二一〇ーイ三九)……八〇五
神皇正統記(二一〇ーイ四一)……八〇六
神皇正統記(二一〇ーイ四五)……八〇七
神皇正統記(二一〇ーイ四七)……八〇八
神皇正統記(二一〇ーイ四九)……八〇九
神皇正統記(二一〇ーイ五一)……八一〇
神皇正統記諏訪本(二一〇ーイ五三)……八一一
神皇正統記追加……八一二
神皇正統録(二一〇ーイ三)……Ⅰ二九〇
神皇正統録(二一〇ーイ四三)……八一三
神奴児大鬧開封府雜劇……三一二六
〔神拝行事〕(〇八一ーイ五)……Ⅰ三二
〔神拝行事〕(〇八一ーイ五)……Ⅰ三三
新板女諸礼集(一五八ーイ一)……五〇八
信範記……一五四六
新板増補書籍目録作者付大意(〇一九ーイ九)……一二
新板日本國大繪圖(二九一・〇一ーイ一九)……一一二三
新板役者三鉄輪(七七一ーイ一七)……一七四八
震筆御八講之記(一八六ーイ二三)……六八二
神風知顯正義集下巻(九一三・三二ーイ一一一)……二二二九
神佛影守目録(一六五ーイ一)……Ⅰ二二七
新聞雜誌執筆者一覧(九一〇・二八ーイ一九)……一八六〇
眞文忠公續文章正宗朝鮮銅活字版
(九二四・二ーイ二一)……三一八二
新編江戸名所圖誌(二九一・一ーイ一一)……Ⅱ三三一
新編翰林珠玉五山版(九二一・二ーイ三三)……三一〇四
新編訓點畧玉篇巻第二(八一三ーイ五五)……一七八九
新編源語類字集(九一三・三六ーイ二〇七)……二四〇一
新編校正大易象数流演占訣(一四七ーイ三)……四九七
新編古今事文類聚古活字版(〇三二ーイ五)……Ⅱ一五
新編相模風土記巻三十二……三三二
新編眞田三代記稿本初二三編
(九一三・六四ーイ一五)……Ⅰ六一一
新編醉翁談録宋版(九二三ーイ二七)……三一六一
新編排韻増廣事類氏族大全明版
(二八二・二ーイ一七)……一〇七二
新編排韻増廣事類氏族大全五山版
(二八二・二ーイ一九)……一〇三七
新編排韻増廣事類氏族大全五山版
(二八二・二ーイ二一)……一〇七四
新編評註通玄先生張果星宗大全明版

（四四〇―イ一九）……一三六五
新編佛法大明元版（一八八・七―イ一三）……七三六
新編篇韻貫珠集明版（八三一―イ二七）……一八三六
新編武藏風土記稿本（二九一・一―イ九）…Ⅱ三三三
新編名方類證醫書大全（四九〇―五）……一六一八
新補彙語朝鮮活字版（〇三二―イ一）……Ⅱ一七
親朋字號（〇八一―一九）……三六四
新法表異（四四〇―イ一一）……一三九四
神保源右衛門……一〇二四
神明憑談（九二一・二―イ九）……Ⅱ四八四
神武天皇（九二一・七―イ二三）……二〇三一
じんむてんわう御月日待ゆらい……二〇三一
〔神武聖天皇荒陵圖話稿〕（二八八・一―イ七）
……Ⅰ三四〇
神武聖天皇荒陵圖話稿（二八八・一―イ三九）
……Ⅰ三四一
信明集（〇八一―イ一五）……Ⅱ七一
神名帳……一五〇
慎　蒙（明）……二〇九
沈　約（梁）……一五二〇
〔新譯聖書〕（一九三―イ一）……Ⅰ二八二
新譯帝田内外治療書（四九〇―イ四一）……一六〇四
心友記（九二三・六一―六五）……二六三三
新葉集伊勢祠官作者略傳（〇八一―イ一三）
……Ⅱ四七
新葉集作者部類（九二一・二四―四九）……一九三五
新葉和謌集（九二一・二四―イ六三）……一九三四
〔新吉原細見圖〕（三八七―四一）……二八七
〔新吉原細見之圖〕（三八七―イ六）……二八八
新吉原つねづね草（九二三・六二―イ八九）…Ⅰ五九四
新吉原つれ〳〵草（九二三・六二―イ二四一）…二七三
新暦曉或（四四〇―イ一一）……一三九一
人倫訓蒙圖彙（〇三一―イ二七）……二九
沈林宗（明）……三二六
人類學史摘要（四六八―イ一）……一五六七
塵露集……六九三
新和歌集（九二一・二四―イ三三）……Ⅱ六二九

ス

（新刻出像板時尚崑腔雜曲）醉怡情清版
（九三二―イ九）……三二三
水雲子……一六九
水雲堂孤松子……一六六
隨鷗山人……二九三
（新編）醉翁談録宋版（九三一―イ二七）……三六一
醉鶴居士（明）……三二六
隨何賺風魔蒯通雜劇……三二六
醉興記（九二三・七―イ六九）……二九四八
翠紅鄉兒女兩團圓雜劇……三二六
水滸記……三二四三
水滸後傳清版（九三一―イ五一）……三二六二
水滸後傳國字評追考（九三三・六五―イ一七）…二九三〇
水虎散人……一二七七
水産博覽會第一區第一類出品審査
報告及稿本（六六五―イ一）……Ⅰ四三八
隨自意院……四七〇
醉思鄉王粲登樓雜劇……三二六
隋　書明版（四四〇―イ一七）……一五三三
吹噓餘錄銀山銅山之圖（五五〇―イ一）……一六五四
瑞仙桃源……一〇四四
吹田定孝……三〇七七
水鳥記（九二三・六二―イ四九）……二六三四
水鳥記（九二三・六二―イ五一）……二六三五
翠箔志（三八七―イ八三）……一三八九
隨　筆（〇九一―イ七三）……四〇六
雛筆雛小判・拉扱抄（〇八一―イ一九）……二九一
隨聞積草（〇九二―イ四九）……四〇七
（新鐫全像通俗演義）隋煬帝艷史明版
（九三二―イ七五）……三二五七
睡餘墨戲帖（七三一―三）……Ⅱ四三六
睡餘謾錄（〇九一―イ六一）……二〇七〇
崇　岳（宋）……七六三
翁蕘閑言……二九二七
崇禎儀象目次考（四四〇―イ一一）……一三六六
崇禎類書（四四〇―イ一一）……一三六六―四一一
崇禎類書目錄（四四〇―イ一一）……四一一
崇禎曆書（四四〇―イ九）……一四一二―四七
崇禎曆書曆引（四四〇―イ九）……一四一四
崇道精舍……一〇四三
季　鷹……四三三
清田君錦……四七〇
菅井維忠……三〇七七
菅道伯……四七〇
菅の根・續菅の根（九二三・六―イ一）……Ⅱ八二五
菅野眞道……九四〇―一
菅原和長……一〇八七
〔菅原定春〕
菅原親王行狀記（九二一・七―イ三三）……二〇六八
菅原善繼……二〇七七
〔菅原信幸著述序草稿〕（〇八一―イ五）…Ⅰ一五三
〔菅原信幸母八十賀歌〕（〇八一―イ五）……Ⅰ七九
杉越入道……一〇一五
杉社總兵衛元緣……一〇一四
杉田玄白……一三六一―二
杉田良庵玄与……九七三
杉田廉卿……一三六一
杉傳三……一〇一五
數奇之書（〇八一―イ二一）……一八一
杉原善尉……一九八九
杉楊枝（九二三・六二―イ一三）……二六三六
杉楊枝（九二三・六二―イ一五）……二六三七
資房抄……一五四三―四
祐麻呂……一〇六三
助六心中後日……二〇七〇
すゝか物かたり（九二三・五―イ三三）……五三三
鈴木愛之助道次……一三四四
鈴木朗……四三三
鈴木近江守……八二七
鈴木衆……三〇七七
鈴木正三……二六〇一、二六五〇
鈴木武平……一三〇七
鈴木政房……三〇五九
鈴木松之助……一一一五
鈴木三重吉……二九三九
〔鈴屋翁七周忌追善和歌〕（〇八一―イ五）…Ⅰ一五八
鈴屋翁抜書（一二一・四―イ一九）……四二七
鈴屋歌集壹之卷（九二一・二六―イ一九）……Ⅱ六六三
鈴屋哥集卷二（〇八一―イ一）……Ⅰ一七五
鈴の屋集近調の部はし書ある哥とも
（〇八一―五）……Ⅰ七六
鈴屋餘韻（一二一―七）……四三三
巢鴨茂翁志（〇八一―イ九）……三三八
須永盧山……一三六二
須原屋新兵衛……一〇六三
私布欽傑兒治法總説（四九〇―イ四一）……一六〇二
私布欽傑兒治法總説（四九〇―イ四一）……一六〇三
斯邁爾斯……五〇二
墨江昭猷……四七〇

〔墨坂春岑〕……一八九七
すみそめさくら上（九二三・五―イ三一）……二五三〇
（法界坊 野分姫）隅田川月姿見（九二三・六四―イ四五）……二七八九
すみよし奈良繪本（九二三・三九―イ三）……二四三三
住吉玉津嶋法樂素然……一九五一
住吉物語古活字版（九二三・三九―五）……Ⅰ五四六
住吉物語（〇八一―イ二）……二一〇
住吉物語（九二三、三九―イ一七）……二四三三
住吉物語（九二三・三九―イ一九）……二四三四
住吉物語（九二三・三九―イ三五）……二四三五
須美禮草卷之五（〇八一―イ二九）……三八五
須美麗草（二八九―イ九五）……二一〇五
〔相撲行司繪卷〕（七八九―イ一）……一七四四
陶山尚善……三〇七七
駿河大納言……一〇二四
〔駿河國蜂ケ谷村若宮八幡宮棟札書〕（〇八一―イ五）……Ⅰ一三九
寸鐵錄（二五・三―イ一）……四六九

セ

井蛙抄（九二一・二―イ五）……一八七〇
靜　逸……二一六
栖雲洞雜話抄（〇八一―イ一九）……一九八
聲　淵……六八九
生花打出乃小槌（〇八一―イ一九）……二九三
西夏回鶻文書斷簡（三三―イ六三）……一〇五〇
正學經註（二三五・八―イ一）……四八四
星學綱目（四四〇―イ三）……一四七一
西學凡（一九八・二―イ五）……七八二
惺窩先生文集（九二四・一―イ九）……三一七五
西華山陳摶高臥雜劇……三一二六
〔西夏文經斷簡〕（一八三―イ二七九）……五九四
西夏文刊經……五五〇
西夏文書斷簡……五五〇
星　巖……二〇六三
世　喜……二六九二
星　經（四四〇―イ三）……一四六三
聖教初學要理（一九一―イ五）……Ⅰ二七九
聖教初學要理（一九一―イ三）……Ⅰ二八〇
聖教初學要理（一九一―イ一二）……Ⅰ二八一
聖教初學要理（一九一―イ一三）……七六九
聖教初學要理（一九一―イ一五）……七七〇
聖教要理問答（一九一―イ一七）……七七一
生機論（四六二―イ一）……一五六四
清香書譜……一七〇六
西湖佳話古今遺跡清版（九二三―イ二九）……二二六三
勢語句解（九二三・三二―イ二九）……三三三〇
勢國見聞集（一九一・四―イ七五）……一一六七
西湖二集附西湖秋色明版（九二三―イ九）……Ⅱ九〇九
齊　鼐（清）……一一九〇
醒　齋……一〇六三
誠齋集（九二一・二―イ七）……三一〇五
聖差言行傳（一九三・六―イ七）……七七四
正　山……四七〇
青衫記……三一四三
青山瓔語（〇八一―イ一九）……三三八
西山善峯寺惣繪圖……一一八一
生産力及生産者（九二三・七―イ四九）……二九四九
青山浪語（〇八一―イ一九）……三三九
井子圭……一二八五
靖社原從功臣錄券朝鮮活字版（三一九―七）……Ⅱ三五三
勢州川崎音頭……三〇五九
西儒耳目資明版（八三三―イ三）……一八四五
清少納言……六二、二九一四、二九七五―六
清少納言家集中（九二三・六五―イ二七）……二九一四
清少納言枕双紙（〇八一―イ二）……六二
姓氏錄目錄（〇八一―イ五）……Ⅰ二〇
清愼公集（〇八一―一五）……Ⅱ七四
醒睡笑（九一七・五―イ三）……Ⅰ六三七
醒睡笑（九一七・五―イ五九）……Ⅰ六三八
聖　西……八四〇
醒世恒言明版（九二三―五七）……三一六四
世說啓微圓光寺活字版（二八三・二―イ三）……Ⅰ三三七
西說篡成輿地指掌（二九〇・九―イ一）……二一一七
清泉真空（明）……一八三六
星占說……一四九七
（新校注古本）西廂記明版（九二三―イ二九）……三三三
西廂記明版朱墨套印本（九三三―一）……三三四
西廂記明版朱墨套印本（九三三―イ三）……三三五
西廂記支文節解……三三五
聖宋千家名賢表啓翰墨大全宋版（九二四―イ）……三一七三
青葱堂冬圃……一九五
姓族志（二八八・二―イ三）……Ⅱ二七八
是　一……五五一
精忠記……三四三
正　稱（明）……三八三
聖堂書籍目錄附聖堂祭器目錄（〇一七―五）……Ⅱ四
聖堂之繪圖（二五一―一）……四六七
聖堂之繪圖（二五一―三）……四六八
齊東野人（明）……三五七
青年の讀物（九一四・七―一一）……三〇一三
誠之進……一〇六三
西番譯語（八九一―イ）……Ⅱ四六三
聖廟法樂百首（九二一・二五―イ九）……Ⅱ六三七
製品圖彙（八〇三―一）……一六五九
清風淡吉……一〇六三
正紛十二經脉俞穴鍼灸的法之和歌集（〇八一―三）……八四四
正紛俞穴鍼灸的法……八四四
聖摩利天總持……五九四
盛明雜劇明版（九二三―四五）……三一六六
星名考（四四〇―イ三）……一四六四
靜　祐……六八八
政　雄……三二七
西遊之記（二九一・〇八―イ三）……一二三三
世雄房自性……八六
西洋學家譯述目錄（〇一九―三）……Ⅰ七
（新刻全像三寶太監）西洋記通俗演義明版（九二三―六七）……三一五三
西洋定芝居の始（七四〇―イ三）……一七四〇
青陽石廳礎稿本（九二三・六四―イ二）……Ⅰ六一〇
西洋節用論（一五〇・四―一）……五〇一
西洋測畧（四四〇―イ七）……二五一三
西洋品行論（一五四―イ七）……五〇三
西洋品行論十一編（一五四―イ三）……Ⅱ二七
性欲雜說（四九二―イ）……Ⅱ四一四
正　禮……一三六八
西曆曲考（四四〇―イ二）……一四一〇
西曆目錄（四四〇―イ九）……一四二一
（臨川玉茗堂批評）西樓記明版（九三三―イ三七）……三一四三
清和隨筆（二五一・八―イ）……四七三
瀨川菊之丞……二五七
碩　園（明）……三一四三

碩果室印談(〇八一ィ一九)……二四六
石君寶(元)……三一三六
赤縣太古傳(二三二ィ二九)……Ⅱ二六三
關孝和……一四七六ー七、一四八〇
關克明……一六九六
石　齋……一三一五
石子章(元)……三一三六
石室遺珠(二三三ィ四七)……一〇五一
赤心録(一三一ィ一)……Ⅱ九四
隻　箭……三〇七七
關祖衡……一一三六
石鏃録(四六九ィ六七)……一五九一
關藤藤陰……八一六
尺牘偉觀(二八一ィ三三)……一一〇六
關根只誠……一〇三三、一七四三
關根正直……一七四一
積年考(四四〇ィ一三)……一四九〇
赤壁遊……三一三六
世間妄形氣(九一三・六五ィ二七)……二七九九
世間妄形氣(九一三・六五ィ二七)……二八〇〇
世間子息氣質(九一三・六二ィ二八七)……二七三三
世間娘氣質(九一三・六二ィ二八三)……二七三三
世間胸算用(九一三・六二ィ三二)……Ⅱ八四三
世間胸算用(九一三・六二ィ三三)……Ⅱ八四四
施氏尉繚子解義巻第二十六(三九二ィ一)……一三二二
施子美(金)……二一七
世上智恵袋(九一三・六二ィ二〇一)……二七三四
世　親……五六五
世俗字類抄(八三一ィ七)……Ⅰ四四二
世尊寺伊行……一七三七
節翁・又七與義方尺牘(二八九ィ二七)……Ⅱ二九〇
せつきやうかるかや丹緑本(九二一・七ィ八一)……二〇六九
節俠記……三一四三
拙耕子尺牘(〇八一ィ一九)……三三三
雪　江……一〇六三
雪江崇永……七三一ー三
積古齋鐘鼎彝器欵識(〇九一ィ五一)……四〇四
節齋與鐵兜尺牘(二八九ィ三五)……Ⅱ二九一
播州有馬温湯記(〇八一ィ三)……一三〇
薛仁貴榮歸故里雜劇……三一三六
説鱈諸伍員吹簫雜劇……三一三六
雪　爪……一〇六三
雪窻重顯(宋)……七五五
雪　亭……一〇六三
節　堂……三一三四
雪峯空和尚外集五山版(九二一・二ィ三五)……三一〇
雪峯空和尚外集五山版(九二一・二ィ三七)……三一〇七
雪峯空和尚外集五山版(九二一・二ィ三九)……三一〇八
説妙法決定業障経(一八三ィ二〇九)……五九五
説文解字注附六書音均表(八三一ィ九)……Ⅱ四六三
〔節用殘簡〕(〇三一ィ四五)……三〇
節用集饅頭屋本(〇三一ィ三)……Ⅰ一〇
節用集易林本(〇三一ィ一)……Ⅰ一一
節用集草書本(〇三一ィ一三)……Ⅱ一〇
節用集饅頭屋本(〇三一ィ三三)……三一
節用集易林本(〇三一ィ三五)……三一
節用集易林本(〇三一ィ五三)……三三
節用集(〇三一ィ五五)……三四
節用集易林本(〇三一ィ七五)……三五
節用集枳園本(〇三一ィ七九)……三六
節用集巻下(〇三一ィ四一)……三七
〔瀬戸内海圖〕(〇八一ィ五五)……Ⅰ一六
瀬名亀文……三〇五九
蟬のぬけがら(九二一・七ィ一四九)……二〇七〇
施藥院法印全宗……一〇三四
全阿彌……八二七
禪苑瑤林注(一八八・七ィ二五)……七三七
善　開(宋)……七三一ー三
前漢書古活字版(二三三ィ一)……Ⅰ三三四
前漢書巻第九十九下宋版(二三三ィ五三)……一〇五三
千貫屋市大夫……一五三〇
箋　弄……一六四五
善敎寺猿算……二七二六
千金記……三一四三
千金方第一巻(四九〇ィ二一)……一六二九
遷宮能理登許登(〇八一ィ五)……Ⅰ三一
千家清主……四三三
淺間宮和歌(九二一・二五ィ一七)……Ⅱ六二八
仙源抄(九二三・三六ィ一〇三)……二四〇二
仙源抄(九二三・三六ィ一〇五)……二四〇三
仙源抄(九二三・三六ィ一二九)……二四〇四
善光寺堂供養(九二一・七ィ五九)……Ⅰ五二七
禪語類聚(八三一ィ四一)……一八三七
千載和歌集(九二一・三ィ一二九)……Ⅱ六〇〇
千載和歌集下(九二一・三ィ一九一)……Ⅱ六〇一
先三礼如来唄……一五五〇
禪　尓……七〇〇
剪枝畸人……二八〇一ー四
先師酬恩歌・兼題夕顔詞・後宴水無月三十章(九二三・六五ィ二七)……二八八一
全室外集五山版(九二一・二ィ五七)……三一〇九
千字文……一〇五一
(纂圖附音增廣古注)千字文古活字版(八三一ィ二五)……一八三九
千字文爲童解(〇八一ィ一九)……三三四
撰集佳句部類巻第廿九(九二一・二ィ九九)……Ⅱ五〇三
撰集宮公歌鈔(九二一・三ィ一八七)……Ⅱ六〇三
撰集作者考上(〇八一ィ一)……Ⅰ一三
撰集抄(九二三・四ィ三九)……二四四九
千秋堂愛竹翁……二〇四二
撰集萬葉鈔(九二一・三ィ一七一)……一八八九
錢・俶(宋)……五七一
詵振筆記(二二〇・六ィ二九)……一〇二九
泉藏坊……八七一
錢大尹智寵謝天香雜劇……三二六
先代舊事本紀(二二〇・一ィ一五)……Ⅰ三一六
先代舊事本紀(二二〇・一ィ一五九)……八八六
先代舊事本紀(二二〇・一ィ二六一)……八八七
先代舊事本紀(二二〇・一ィ一七三)……八八八
先代舊事本紀(二二〇・一ィ一九九)……八八九
先代舊事本紀本活字版(二二〇・一ィ二一五)……八九〇
先代舊事本紀本活字版(二二〇・一ィ一七九)……八九一
仙臺實測志(四四〇ィ一一)……一四〇九
善　忠……七二五
先哲叢談……一〇六九
剪燈新話句解朝鮮版(九三三ィ四五)……三一六五
剪燈新話句解朝鮮版(九三三ィ七三)……三一六六
剪燈餘話刊版(九三三ィ二三)……三一六七
剪燈餘話卷之一古活字版(九三三ィ四七)……三一六八
禪尼慈妙田地處分狀(二二〇・四ィ一九)……Ⅱ三一八
淺浮鈔(三八・六ィ一五)……二四三三
淺間秘抄(九二三・三六ィ三四一)……二四〇五
善無畏(唐)……六一七
宣命曆(四四五ィ一五九)……一五五六
禪門寶藏録朝鮮版(一八八・七ィ一〇九)……七三八

泉涌寺惣繪圖……一一八一
鐫李卓吾批點殘唐五代史演義傳（九二三―イ一三）……Ⅱ九一〇
専　隆……一一五五
善隣國寶記（二一〇―イ一九）……Ⅱ一九八
禪林僧寶傳五山版（一八八・七―イ一二三）……七三九
禪林僧寶傳五山版（一八八・七―イ八九）……七四〇
禪林寶訓朝鮮版（一八八・七―イ一一三）……七四一
禪林類聚五山版（一八八・七―イ五）……Ⅰ二七〇
禪林類聚古活字版（一八八・七―イ三）……Ⅰ二七一
禪林類聚五山版（一八八・七―イ八三）……七四二

ソ

象（九一四・七―イ九）……三〇一四
棕　隠……一〇六三
琮延玉（元）……三一一〇
宗　應……六一九
雙鶯傳……三一三六
増　賀……六八〇
宗　會（宋）……七六三
造菓子圖（〇八一―イ五）……Ⅰ一三三
僧伽提婆（東晉）……六二九
宗　鑑……二一九二、二三一九
増刊下學集（〇三一―イ四九）……三八
宗　祁（宋）……一〇五五、一五二四
宗祇（飯尾）……五九、二三五〇、二三七九、二三九四―五、二四〇九
宗源行支秘抄（一七六―イ一一）……五四五
宋元零葉舊刊書影（〇一一―イ五）……二
宗　光……七五八
曹孝忠（明）……一六四二
總國郡鄉考料（二九一・〇三―イ七）……Ⅰ三六四
總國郡鄉名字類聚（二九一・〇三―イ一）……Ⅰ三六五
惣國風土記播磨國……一一七四
宗　齋……二三二九
箏催馬樂譜（七六一―イ五）……Ⅰ四三六
宋槧拾葉（〇一一―イ九）……三
象　志（四八八―イ五）……Ⅰ四二四
宋　史明版（四四〇―イ一七）……一五二六
莊子音義宋版（一二六・四―イ一）……四九三
莊子鷹齋口義五山版（一二六・四―イ七）……四九四
莊子摘腴・列子抜萃・荀子摘萃・老子・雜抄（〇八一―イ一）……Ⅰ一七一
相思譜……三一三六
雙珠記……三一四三
増修互註禮部韻略元版（八二一―イ二二）……一八三八
増修互註禮部韻略明版（八二一―イ三九）……一八三九
増集續傳燈録（一八八・七―イ二一）……七四三
總十郎……四二三
宗　俊……一六五三
宗　恕（伊藤）……一〇六三
宋　書明版（四四〇―イ一七）……一五二〇
贈書記……三一四三
藏書印譜前後（〇八一―イ一九）……二五八
藏書印譜第三集稿本（〇八一―イ一九）……二六〇
藏書印譜第四集稿本（〇八一―イ一九）……二六一
總常日記（二九一・一―イ三一）……一一四五
喪書記（〇八一―イ一九）……二四五
宋　心……一八七〇
搜神秘覽宋版（三八八―イ三）……一三〇九
曽瑞卿（元）……三一二六
宗　静……一〇一五
宗　碩……一八七一
漱石遺墨（九一〇・二八―イ一）……Ⅱ四七〇
漱石作品集社内版（九一三・七―イ七七）……二九五〇―四
宗　専……二九二七
莊田允益……四七〇
惣近秀定……八二七
走注痛篇（四九〇―イ四一）……一六一二
宗　長……一九四〇、二三八七、二三〇二
宗對馬守義成……一〇二四
増入名儒講義續資治通鑑宋季朝事實元版（二三一―イ五九）……一〇五三
宗　任……七二五
宗　能……二〇一五
象のみつき（四八八―イ三）……Ⅰ四二三
宋　發（明）……一四四二
〔箏琵琶譜〕（七六一―イ一七）……Ⅱ四四二
宗　分……二三一六
争報恩三虎下山雜劇……三一二六
宗淵季潭（明）……三一〇九
臧懋循（明）……三一二四、三一二六
増補入名松の落葉（九一一・八―イ五）……Ⅱ七二九
増補江戸大繪圖（二九一・一―イ四五）……一一三六
増補江戸道中記（二九一・〇六―イ九）……一一三一
増補江戸名所はなし（二九一・一―イ四九）……一一四二
増補月離表（四四〇―イ一一）……一四〇一
増補再板京大繪圖（二九一・四―イ八三）……一一六三
増補難波すゝめ跡追（二九一・四―イ六九）……一一七〇
宗　密（唐）……五七二
葬巻記（〇八一―イ五）……Ⅰ一三〇
遭厄日本紀事（二九一・〇八―イ二三）……Ⅰ三七一
雙鯉随流（〇八一―イ一九）……三四四
双林寺長喜庵月峯……一一一六
雙烈記……三一四三
宋　濂（明）……一五二九
藏　六……一〇六三
草廬襍談（九二四・一―イ一一）……三一七六
曽我物語（九一三・五―イ八九）……Ⅱ八〇七
曽我物語（九一三・五―イ三五五）……二五二五
曽我物語古活字版（九一三・五―イ三六五）……二五二六
曽我物語（九一三・五―イ三八九）……二五二七
續一切經音義高麗版（一八三―イ六七）……Ⅱ一五三
測圓海鏡細草（四四〇―イ一七）……一五一〇
續開古尊宿語要宋版（一八四―イ九）……六七〇
續可笑記（九一三・六一―イ五五）……二六三八
息距編（一九八・二―イ一五）……Ⅰ二八七
續後歌林良材集（九一一・二―イ九三）……Ⅱ五〇四
〔俗語考浄書本〕（〇八一―イ三）……Ⅰ二〇五
〔俗語考草稿本〕（〇八一―イ三）……Ⅰ二〇四
續高僧傳巻第十一（一八二―イ一）……五六二
續古書價の研究（〇一九―イ一五）……一三
測算艸（四四〇―イ一三）……一四九三
續詞花和歌集（九一一・二三―イ四七）……Ⅱ六〇三
（増入名儒講義）續資治通鑑宋季朝事實元版（二三一―イ五九）……一〇五三
續書画時代一覧索引（〇八一―イ一九）……三六七
測食上巻（四四〇―イ一七）……一五一三
續神皇正統記（二一〇―イ三五）……八一二
續眞文忠公文章正宗……三一八二
續草徑集（九一一・二六―イ六一）……Ⅱ六六四
續藏書印譜（〇八一―イ一九）……二五九
續添鴻寶秘要抄巻第一（四九〇―イ三三）……一六三〇
測天約説（四四〇―イ九）……一四四三
〔續難語考殘簡〕（〇八一―イ三）……Ⅰ二二二
續流観百圖巻之五（七〇九―イ七）……一六六七
續琉球國志略（二九一・六―イ一一）……一一九〇
測量全義（四四〇―イ九）……一四四七
測量全義（四四〇―イ一七）……一五一七

測量法義(四四〇―イ一二)……一三八七
續類要句(九二一・二―イ六九)……Ⅱ五〇五
楚　辭朝鮮版(九二一―イ)……Ⅱ八九三
祖　琇(宋)……五五三
祖洲環空……三〇七七
楚昭公疎者下船雜劇……三二三六
蘇　軾(宋)……三〇九〇―三
素性集(〇八一―イ一五)……Ⅱ七三
祖心晦堂(宋)……五五一
袖の言の葉(〇八一―イ五)……Ⅰ一一〇
其紫鄙面影稿本(九二三・六四―イ三)……Ⅰ六一二
素梅玉蟾……三二三六
素問識(四九〇―イ九)……一六三一
徂徠先生明律國字解稟本跋……一三五九
それから(九二三・七―イ七)……二九五三
尊映法親王……一〇九一
〔尊映法親王日記〕(二八八・一五―イ九)……一〇九一
尊圓法親王……二三六
尊應法親王……一〇九二
〔尊應法親王日記〕(二八八・一五―イ一)……一〇九二
尊鴛白文(八一九・六―イ一)……一八一九
孫思邈(唐)……一六二九
存　弁……七四九
尊賞親王……五三五
尊昭法親王……六七五
尊常法親王……一〇八九
孫仁孺(明)……三二四三
孫仲章(元)……三二三六
尊朝法親王……二四八五
孫無忌(唐)……一五二三
孫　柚(明)……三二四三
孫有本(清)……三二六四
村幹夢談(〇九一―イ七)……四〇九

タ

他阿彌陀佛……八二七
大安寺緣起(一八五―イ九)……六七六
太陰二三均數總數加減表(四四〇―イ一)　一四〇〇
〔大永二年両點歌巻〕(九二一・二五―イ三)……一九四七
(新編校正)大易象数流演口訣(一四七―イ三)……四九七
大慧禪師法語宋版(一八八・七―イ七)……Ⅰ二六八
大慧宋果(宋)……七二四、七四四―六
大慧普覺禪師書朝鮮版(一八八・七―イ一〇七)……七四四
大慧普覺禪師書五山版(一八八・七―イ一二五)……七四五
大慧普覺禪師普説巻第二五山版
(一八八・七―イ九三)……七四六
探題于朗詠集中歌卅六首(九二三・六五―イ二七)
……二六八五
大學章句(一二三・一―イ)……Ⅱ一一三
大學問古活字版(一二五・四―イ)……Ⅰ三三五
大頭左兵衛……二〇〇六
大儀殿庭裝束圖・同禮服冠圖(三三八・六―イ九)
……Ⅱ三六八
大經師市兵衛……三三五九
體源抄(七六一―イ二五)……一七三三
大原亭主人……三〇四一
大廣益會玉篇(八三一―イ)……Ⅰ四五四
大廣益會玉篇(八三一―イ一五)……Ⅰ四五五
大廣益會玉篇(八三一―イ一七)……Ⅰ四五六
大廣益會玉篇(八三一―イ一九)……一八四六
大廣益會玉篇元版(八三一―イ二五)……一八四七
太閤記第四　明智合戰(九二一・七―イ三一)……Ⅰ五三三
太公尚書……一二三
大古久まい奈良繪本(九二三・五―イ三七)……二五二六
大黒屋竹之丞……三二五七
第五試・生石灰之解凝力(四九〇―イ四一)……一六一三
大薩遮尼乾子所説經巻第三(一八三―イ四五)
……五九六
太史升菴文集巻第七十四(四四〇―イ三)……一四七三
太子傳(二八八・一―イ二七)……一〇八三
大舍上人……二一一六
大集經月藏分巻第七(一八三―イ一五九)……五九七
大　淳……四七〇
大嘗會次第記(〇八一―イ五)……Ⅰ六〇
大嘗會悠紀主基二國繇詞(三三八・八―イ三)
……Ⅱ三七三
太上説北斗元靈本命延生妙經(一三六―イ七)
……四九一
大乘大方等日藏經巻第十(一八三―イ三七)　五九八
大正年表(〇八一―イ九)……三三一
大乘本生心地觀經(一八三―イ三三)……五九九
大正名家忌辰録(〇八一―イ九)……三三三
大乘理趣六波羅蜜多經巻第十(一八三―イ三五)
……六〇〇
大小曆……一五五四
大職冠奈良繪本(九二一・六―イ一三)……Ⅰ四九二
大職冠(九二一・六―四一)……Ⅱ七二四
大職冠(九二一・六―イ一五)……Ⅱ七三三
大職冠奈良繪本(九二三・五―イ三五九)……二五二九
大職冠丹緑本(九二三・五―イ三六五)……二五三〇
大しよくはん(九二一・七―イ一六九)……二〇七一
退私録(〇九一―イ三九)……四一〇
大清一統志巻第百八十一　清内府鈔本
(二九二・二―イ五)……二〇〇三
大清通禮巻之三十四　清内府鈔本(三三九・二―イ三)
……二五六
大清穆宗毅皇帝實録　清内府鈔本(二三二―イ五)
……一〇五四
大盡三ツ盃(七七一―イ三五)……一七五五
代繪録(〇九一―イ四三)……四一一
帶圖回鶻文刊經……五五〇
大成御江戸之圖(二九一・一―イ三九)……二四六
大成經鵰鶚傳(二一〇・一―イ二五)……八九〇
大成經鵰鶚傳(二一〇・一―イ七九)……八九一
泰西水法(一九八・二―イ五)……七九一
泰西水法(四四〇―二)……二三八〇
台西堂主人……二七九四
泰西輿地圖説(一九三―イ)……Ⅰ三九二
大莊嚴經論宋版(八三一―二)……Ⅰ二四八
大　測(四四〇―イ九)……二四四四
戴善夫(元)……三二三六
代々集巻頭哥……一七七
代々申状案(一七五―イ二九)……五三六
大内裡之圖(二八八・一―イ九)……Ⅰ三九
大智度論巻第五十三(一八三―イ二六三)……六〇一
大智度論巻第五十五殘簡(一八三―イ二七)　六〇三
大智度論巻第六十九(一八三―イ一〇九)……六〇三
大智度論巻第九十六(一八三―イ三)……六〇四
大智度論第九十七(一八三―イ三九)……六〇五
大　潮……八九〇―一、三〇七七
大典禪師……三〇八一
體道極曜俗解(天經或問要論)(四四〇―イ三)
……一四七五
大導寺信輔の青年時代(九二三・七―イ三七)
……二九五五
大唐大慈恩寺三藏法師傳(八二一―七)……五六三
大唐西域求法高僧傳(八〇・六―イ)……五五三
大德澄堂……一五九一

大納言經信卿集(〇八一ーイ一五)……Ⅱ七五
第二相國寺御八講記録(一八六ーイ二一)……六八三
大日本國古來人口考(三三三ーイ一)……一二六一ノ二
大日本神道秘蜜の巻付御月日待ゆらい
(九一一・七ーイ一二三)……二〇七二
大日本圖鑑(二九一・〇一ーイ一三)……Ⅰ三五六
大日本惣圖(二九一・〇一ーイ五)……Ⅰ三五五
大念佛七万日詣(九一一・七ーイ一五一)……二〇七三
大般若經音義(一八三ーイ二八一)……六〇六
大般若經略……一五三二
大般若波羅蜜多經(一八三ーイ三七)……Ⅰ二三八
大般若波羅蜜多經(一八三ーイ四一)……Ⅰ二三九
大般若波羅蜜多經春日版(一八三ーイ二五)Ⅰ二四〇
大般若波羅蜜多經春日版(一八三ーイ二九)Ⅰ二四一
大般若波羅蜜多經巻第二百七(一八三ーイ四九)
……Ⅱ一五四
大般若波羅蜜多經巻第三百四(一八三ーイ一三)
……Ⅰ二四二
大般若波羅蜜多經第三百九十九
(一八三ーイ五七)……Ⅱ一五五
大般若波羅蜜多經巻第五百一十一
(一八三ーイ六三)……Ⅱ一五六
大般若波羅蜜多經(一八三ーイ二三一)……六〇七
大般若波羅蜜多經巻第三(一八三ーイ一五七)六〇八
大般若波羅蜜多經巻第二百二十九
(一八三ーイ二五九)……六〇九
大般若波羅蜜多經巻第二百五十五
(一八三ーイ一八九)……六一〇
大般若波羅蜜多經巻第三百七十二
(一八三ーイ二五一)……六一一
大般若波羅蜜多經巻第四百八十三
(一八三ーイ一〇三)……六一二
大般若波羅蜜多經巻第五百廿八
(一八三ーイ一九一)……六一三
大般若波羅蜜多經巻第五百四十九
(一八三ーイ一二一)……六一四
大般若波羅蜜多經巻第五百九十三
(一八三ーイ二四九)……六一五
大般涅槃經(一八三ーイ四三)……Ⅰ二三七
大般涅槃經巻第三十九天海版(一八三ーイ九一)
……六一六
大毗盧遮那經巻第七(一八三ーイ二三七)……六一七
大毗盧遮那經供養次第法疏高野版
(一八三ーイ九九)……六一八
大毗盧遮那成佛經疏附大毗盧遮那
經供養次第法疏(一八三ーイ三五)……Ⅰ二三六
大毗盧遮那成佛經疏巻第一高野版
(一八三ーイ九七)……六一九
大毗盧遮那成佛經疏巻第十八(一八三ーイ二一九)
……六二〇
大佛殿御算用事(二一〇・五ーイ三九)……一〇一八
大佛殿惣繪圖……一一八一
大佛供養物語(九一三・五ーイ七五)……Ⅱ八〇八
大佛木食應其……一〇二四
大佛物語(九一三・六一ーイ一四七)……二六三九
大佛物語(九一三・六一ーイ一四九)……二六四〇
太平色番匠(九一三・六二ーイ六七)……二七三五
太平記古活字版(二一〇・四ーイ五)……Ⅰ三三二
太平記巻一(二一〇・四ーイ一一)……Ⅱ二四〇
太平記(〇八一ーイ二一)……九〇
太平記古活字版(二一〇・四ーイ二三)……九九七
太平記(二一〇・四ーイ二九)……九九八
太平記(二一〇・四ーイ三一)……九九九
太平記(九一一・七ーイ二二七)……二〇七四
太平記音義(〇八一ーイ二一)……八七
太平記聞書(二一〇・四ーイ五七)……一〇〇〇
太平記鈔下巻(〇八一ーイ二一)……八六
太平記抜書きりしたん版(二一〇・四ーイ三)…Ⅰ三三三
〔太平記抜書〕(二一〇・四ーイ一三)……Ⅱ二三九
太平記抜書きりしたん版(二一〇・四ーイ四七)…一〇〇一
太平記のおこり(〇八一ーイ二一)……八八
太平記秘傳理盡抄(二一〇・四ーイ四一)……一〇〇二
太平京鑑(二八一ーイ七)……一〇六七
太平廣記明版(〇三二ーイ七)……Ⅱ一八
太平廣記明木活字版(〇三二ーイ一一)……四九
大方廣佛華嚴經(一八三ーイ三九)……Ⅰ二四四
大方廣佛華嚴經巻第十六(一八三ーイ三三)
……Ⅰ二四五
大方廣佛華嚴經宋版(一八三ーイ一九三)……六二一
大方廣佛花嚴經巻第七(一八三ーイ二五三)…六二二
大方廣佛華嚴經巻第十三(一八三ーイ二一一)六二三
大方廣佛華嚴經巻第十八(一八三ーイ一一一)六二四
大方廣佛花嚴經隨疏演義鈔(一八八・二ーイ七)
……七〇二
大方廣佛華嚴經疏巻第一百一十五宋版
(一八三ーイ一九五)……六二五
大方廣佛華嚴經入法界品第卅九之廿一
(一八三ーイ九)……Ⅰ二四三
大方廣佛華嚴經寶王如來性起品……一五三二
大法師覺祐請狀(二一〇・〇八ーイ三七)……八四六
大寶積經巻第一百七宋版((一八三ーイ一九)
……Ⅰ二四七
大方等大集經巻第六宋版(一八三ーイ二七一)…六二六
大方等大集經巻第十九(一八三ーイ二二九)…六二七
大方等大集經月藏分中諸阿修羅詣
佛諸品第三敦煌經(一八三ーイ一五)……Ⅰ二四六
大方等大集經賢護菩薩所問經巻第二
(一八三ーイ一一三)……六二八
大明九邊萬國人跡路程全圖(二九二・二ーイ一九)
……一二〇四
大明國師像賛(九一三・六五ーイ二七)……二八九四
〔大明國圖〕(二九二・二ーイ二九)……一二〇五
大明地理之圖(二九二・二ーイ一一)……Ⅱ三五九
待問雜記(〇八一ーイ三)……Ⅱ二一
大　用……三〇七七
大樂金剛不空眞實三摩耶經……一五三二
たいらのうちの女……八六四
平　金……一二九三
平重繼……一三三四
平重盛切(諫)父浄海事(〇八一ーイ一)…Ⅰ一七二
平賢兼……二三一六
平忠教……一三五
平忠盛集(〇八一ーイ一五)……Ⅱ七六
平信範……九八三
平基親……一二三六
平康頼……五三、二四五〇
大龢室叢書(〇八一ーイ一九)……一九二一二五六
〔臺湾圖〕(二九一・八ーイ三)……Ⅱ三五四
高井宜風……一八七二
高井蘭山……一五七九
高雄聖人御房……七一二
高尾又兵衛尉……一〇二四
鷹聞書少々(七八七ーイ七)……一七七〇
高國記……一〇一〇
高倉永宣……九七〇
高倉常永……一一〇三
高倉永藤……一一〇三
高坂伊左衛門……二三二九

高坂松陰……二三二九
高崎正風日記(二六九ー一三)……Ⅱ二九二
高崎先生詠草(九二ー二七ー三)……Ⅱ六八七
隆　貞……一〇二四
高階忠晴……一〇七
高階經徳……一〇七七
高嶋眞……二二〇
〔多賀城碑〕(〇八一ー五)……Ⅰ二二九
たかたち(九二一・六ー三五)……Ⅱ七一五
高田彦作……二三三
高千穂日記(九二四・六ー一二)……Ⅱ八七〇
鷹司基忠……二三五六
高　次……二三三五
高野惟馨……四七〇
鷹の書(〇八一ー二二)……一〇三
鷹　書(七八七ー三)……一七七一
高野辰之……四一九、一七四四ー五二、二三五四、三〇二三
高野辰之書翰集(九二六ー七)……三〇二三
高野長英……二三五八、一八五三
高野弘子……一七四三
隆信之哥(〇八一ー三)……一五二
高橋業盛……六六五
高橋山城守鎮次……一〇二四
鷹百首註(七七ー五)……一七七二
多賀谷醉雪……四〇八
高屏風くだ物かたり(九二三・六一ー二七)　Ⅱ八三二
たからの藏(九二三・七ー六七)……二九五六
たから箱(九二三・六一ー八五)……Ⅰ五七八
多紀元胤……二六三四
多紀元堅……一六二九、一六三一
瀧澤馬琴……五二、四〇三、一〇一六、一一〇九、一一四四、一二九七、一五九四、一八五六、一八五八、一八六一、一九五八ー九、二七六、二七八三、二七八六、二七九二、二七九五、二九一七、二九一九ー二六、二九九、三〇〇三、三〇〇四、三一四八、三一六二、三一八九
瀧澤馬琴筆塚碑陰記……二九五五
瀧長愷……四七〇
たきつけくさ(三八七ー二五)……二九〇
瀧のいと(〇八一ー五)……Ⅰ一九
瀧本房……一一〇七
瀧本房書翰(二八九ー一七)……一一〇七
擇　賢(宋)……七二五、一五一三
卓爾康(明)……七九四
田口掬汀……二九五五
竹嶋幸左衛門……二一五三
竹嶋幸十郎……二一五八
武居拙藏……一〇六三
竹添光鴻……三〇八〇
武田耕雲齋日記(二六九ー一一)……Ⅱ二九三
竹田春庵……一一〇六
武田大……三〇七七
竹田定祐……一九四七
武田典厩公御首骨之考(四六八ー九)……二五六八
武田彦九郎正生……一〇六三
竹田通香……二三七一
竹田通風……二三七一
竹千代様江從長嘯讀上ラルゝ歌……一九五〇
竹杖爲輕……三〇五九
武綱さいご(九二一・七ー七七)……Ⅱ七二八
竹取翁物語古活字版(九二三・三一ー五)……二二八一
竹取物語奈良繪本(九二三・三一ー一)……Ⅱ七二六
竹取物語(九二三・三一ー三)……二二八二
竹取物語古活字版(九二三・三一ー七)……二二八三
竹取物語(九二三・三一ー九)……二二八四
竹中左京……二三二九
竹子集(九二一・七ー一二五)……二〇七五
武光平大夫……一三二四
竹村九兵衛……一一〇六
〔竹村茂雄父六十賀歌集〕(〇八一ー五)　Ⅰ一一七
竹本義太夫……二〇六三
竹本義太夫……七、二〇六三、二〇七八、二〇八四、二〇九五、二〇九七ー九、二一〇
〔竹本義太夫段物集〕(九二一・七ー一五九)……二〇七六
竹本内匠……二〇九五
竹本頼母……二〇九五
竹本筑後掾……二〇二〇、二一〇一
竹屋源七郎如安……一三二一
太宰紀……一四八二
太宰純(彌右衛門)……四七〇、一〇六三
太宰彌五右衛門……一一〇六
田阪子恭……四七〇
田嶋石經記(二一〇・〇七ー九)……八二四
太政官符　寶龜三年神祇官宛(二一〇・〇八ー二一)……八四七
鶴渡城女軍歌舞伎臺帳(九二二・六ー一三五)……二一五九
蛇足西廂……三一二五
多田南嶺……二三三
忠教百首(〇八一ー二二)……一二五
只野真葛……二九九八
忠　通(盖)……四七〇
多々良保佑(多植茂蕃)……一三六六ー一四、一一、一四五ー一五〇六
橘　薫……三〇三一
橘爲仲集(九二一・三ー七七)……Ⅱ六〇四
橘千蔭書翰集(二八九ー一〇一)……一一〇八
橘成季……二四四四
橘南谿……四一七
立花三河入道賢賀……二一八四
橘守部……一三三九
橘守部稿本集(〇八一ー一三)……Ⅰ一九三ー三三
橘守部稿本集(〇八一ー一三)……Ⅱ一九一五
立原甚五郎……二四四、一二一三、一二一五
立原任……一〇六三
館柳湾……三九
辰巳番唐船持渡商賣書物目録并大意書(〇一九ー一七)……一四
脫　脫(二九)……一五二六ー八
脫囊穎……三一二六
辰日略次第(三八六ー六ー一五)……Ⅱ三六九
辰松八郎兵衛……二〇六六、二一七九
伊達家系圖(〇八一ー二一)……一七八
田中金銀軒……一九二一
田中慶太郎……一ー二、九一一
田中玄順……二六四四
田中七三郎……四一三
田中嘯皐……三〇七七
田中貞純……一八五四四
田中桐江……四七〇
田中文内……五一六
田中萬宗……二三四
田中道麿……四三一五、一八九、一九一八、一九二五、二三三三
たなばた(九二三・五ー一一)……Ⅱ八〇九
七夕狂哥并序……三〇五九
七夕考(三八四ー七)……二一七一
七夕之器考(三八四ー三)……Ⅱ三八二
田邊與兵衛……一〇六三
谷垣守……一一〇六
谷川ことすか(士清)……四二三
與谷川淡齋書(〇八一ー一)……Ⅰ一八五
谷　口……一〇六三
谷左兵衛門……一〇六三

谷重遠……一一三四
谷甚右衛門……一一〇六
谷秦山……一一〇六
谷丹三郎……一一〇六
谷鉄臣……一〇六三
たにのむもれ木(九一四・六ノ三)……Ⅱ八七
谷文晁……一六九六
谷眞潮……一一〇六
谷麓谷……三六一
種くばり(三八七ノ九三)……一二九一
種瀬作右衛門長房(鈍句齋藥の菊道)五三八
田能村竹田……三三六、二五四
煙草記(〇九一ノ二一)……四一三
蛇尾馬頭……三三六
玉川の水(二九一・二一ノ二五)……Ⅱ三三四
玉木葦齋……一一〇六
玉くしげ(〇八一ノ五)……Ⅰ七四
玉くしけ(九二三・六二ノ六五)……二七三六
玉造小町子壯衰書一首幷序附新猿樂記
(九二四・一ノ三)……Ⅱ九一四
玉の小櫛(九二三・三六ノ三八)……二四〇六
玉はゝき(九二三・六二ノ二六九)……二七三七
玉鉾百首解(〇八一ノ五)……Ⅱ三七
たまものさうし(九二三・五ノ一五七)……二五三一
玉屋本日本書紀……九〇三
蒼生子……四三三、一九〇九
蒼生子家集杉のしつえ……二九〇九
民屋半之助……二二五一
たむらのさうし古活字版(九二三・五ノ一〇九)
……Ⅱ八一〇
たむらのさうし(九二三・五ノ一三)……Ⅱ八一一
爲永春水……三九九、二九二九ノ二一
爲信集(九二一・三ノ二三)……一九二七
陀羅尼(一八三ノ四七)……Ⅰ二四九
他力本願記(九二一・七ノ一〇一)……二〇七七
(新刻全像)達磨出身傳燈傳明版
(九三三ノ八一)……三五四
田原春所……二八一〇
たわら藤太物語(九二三・五ノ四一)……Ⅱ八二
談　愷(明)……四九
丹鶴類書(〇三一ノ二一)……Ⅱ一一
探蝦録(二九一・七ノ一)……Ⅰ三六九
澹居稾五山版(九二一・二ノ四七)……三一〇
丹桂鈿合……三一三六
短冊帖(九二三・六五ノ二七)……二九一六
短冊の緣(九二三・六ノ五)……Ⅱ八二六
短冊巻(三九九・六ノ一)……Ⅰ四一六
丹劦加佐郡岡田ノ内西方寺村御検地帳
(六二ノ一)……一六六〇
談洲樓焉馬……三三一
彈正物語(九二三・五ノ二六九)……二五三
湛　然(明)……三一二六
團扇畫様集(七二一ノ七)……一六六七
膽大小心録(九二三・六五ノ二七)……二八一六
膽大小心録異本(九二三・六五ノ二七)……二八一七
膽大小心録廃田本(九二三・六五ノ二七)……二八一八
膽大小心録小山本(九二三・六五ノ二七)……二八一九
膽大小心録(九二三・六五ノ二七)……二八二〇
膽大小心録(九二三・六五ノ二七)……二八二一
談天氏……三三六七
丹波元簡……一六〇〇、一六三
丹波修治……一六五九
丹波太郎物語(九二三・六二ノ六五)……二七二八
丹波國血汐の水風呂(九二三・六ノ一〇一)……二二五八
單　本(明)……三一四三
丹陽房……一〇一四
チ
千　秋……四三一三
小さき者へ(九二三・七ノ一九)……二九五七
千五百森傳説(〇八一ノ一)……Ⅰ一七六
(お伽)諷刺智慧ぶくろ(九二三・七ノ一五)……二九五八
知恩院御門跡御殿物繪圖……一二八一
知恩院惣繪圖……一二八一
知　頗(隋)……六四七
知　解……三〇七七
近松茂矩……一三二九
近松門左衛門……
……二〇一〇ノ一、一〇三八、一〇八一、一〇八四、一〇九七ノ八、一
一六、一三七、一三五六、一三七〇、二六八六、二七一二
地球全圖略説(四四七ノ一)……Ⅰ四三
地毬全圖略説(四四七ノ三)……一五六〇
智　境(元)……七四二
竹苑黄花(一八八・一ノ一七)……Ⅱ二七五
竹　齋(九二三・六一ノ二一)……Ⅱ八三三
竹　齋(九二三・六一ノ一六七)……二六四一
竹齋東下(〇八一ノ二一)……六九
逐日功課自實簿(二八九ノ一七)……Ⅱ二九四
竹清居金石冊(〇八一ノ一九)……三〇六
竹清吟藁(〇八一ノ一九)……二八六
竹清唫藥(〇八一ノ一九)……三七一
竹清雜稿(〇八一ノ一九)……二八七
竹清雜録(〇八一ノ一九)……二八八
竹清雜録(〇八一ノ一九)……三七五
竹清饒舌(〇八一ノ一九)……三七四
竹清饒舌・同續(〇八一ノ一九)……二九四
竹清饒舌別録(〇八一ノ一九)……二九五
竹清書畫家什目(〇八一ノ一九)……三〇五
竹清叢書(〇八一ノ一九)……一九一ノ二八一
竹清叢書目録(〇八一ノ一九)……三七七
竹清藏書目録(〇八一ノ一九)……三〇一
竹清藏牘目(〇八一ノ一九)……三〇四
〔竹清日記昭和十一年〕(〇八一ノ一九)……三七三
竹雪道人……一九七
竹亭主人……三〇二六
竹隄莊遺文(〇八一ノ一九)……二八〇
竹田集(〇八一ノ一九)……二三六
智　儼(唐)……五九五、六二四
地獄變圖……五五〇
地誌書目(二九一ノ五)……Ⅰ三五二
千島異聞(二九一・七ノ三三)……一一九六
智　昇(唐)……五七三
地圖綜要明版(二九二・二ノ二一)……二〇六
地圖略説(四四〇ノ一一)……一三七六
ちそくゐん……八二七
知足齋藏書目録(〇一七ノ七)……六
チッソット氏肺癆衛(四九〇ノ四一)……一六〇六
ちとうてんわう……二一二七
千歳座劇評(七七〇ノ一)……七四一
千鳥抄(九二三・三六ノ一五一)……二四〇七
千鳥抄(九二三・三六ノ二五一)……二四〇八
千葉権介安胤……八二七
千葉歳胤……一五〇五
茅原茅窓……一二七〇
千尋集(九二一・七ノ一七九)……二〇七八
西藏蒙古對譯經(一八三ノ八三)……Ⅱ一五七
茶を翫ぶ人に示す(九二三・六五ノ一七七)……二八九二

茶瘕醉言(九一三・六五―イ二七)……二八一四
茶瘕醉言(九一三・六五―イ二七)……二八一五
茶契福原雀(九一三・六二―イ八三)……二七三九
茶筌畫賛(九一三・六五―イ二七)……二九〇二
茶の歌……二八六八
中阿含經巻第二十三宋版(一八三―イ二七三)……六二九
忠　安……一〇一五
籌海重編明版(二九二・二―イ九)……一二〇七
忠義水滸全書明版(九二三―イ一一)……Ⅱ九一一
中京人物志(〇八一―イ一九)……二六八
忠三郎……一一〇九
中　算……六五三
籌　算(四四〇―イ九)……一四一七
中州樂府……三一一八
中州集五山版(九二一・三―イ五)……三一一八
中將ひめ……二一二七
中將姫御本地(九一一・七―イ二三三)……二〇七九
鑄人書(四〇九―イ五)……一三六〇
中津絶海……三〇八二
忠　尊……五一四
注大家龍笛要録譜(七六一―イ三五)……一七三四
忠　貞……二四四九
中峯明本(元)……七五一
註妙法蓮華經巻第七(一八三―イ二五七)……六三〇
冲　黙……四七〇
晝夜用心記(九一三・六二―イ二三三)……Ⅰ五八二
中右記(二一〇・三―イ一三)……九四四
中右記水谷川家本(二一〇・三―イ四五)……九五二
中右記部類第五九條家本(二一〇・三―イ一〇三)……九五三
中右記部類第九九條家本(二一〇・三―イ一一三)……九五四
中右記部類第廿九條家本(二一〇・三―イ一〇一)……九五五
中右記部類第廿八九條家本(二一〇・三―イ一一七)……九五六
中庸章句(一三三・二―イ一)……四五九
忠烈三英義烈三英(九一三・六五―イ二七)……二八九〇
張雲翼(宋)(〇三三―イ一七)……四六
張　楷(明)……三一四一
長歌言葉珠衣(九一一・二―イ四一)……Ⅱ五〇六
張果星宗大全明版(四四〇―イ一九)……一三六五
長歌撰格(九一一・二―イ一二五)……Ⅱ五〇七
長歌撰格稿本上(〇八一―イ三)……Ⅱ二三
澄　観(唐)……六二五、七〇二
張旭初(明)……三一二〇
趙君卿(漢)……一四六七
長慶天皇……二三八二、二四〇二―四
澄　月……四二三、一八六四
張孔目智勘魔合羅雜劇……三一二六
張國賓(元)……三一二六
徴古雜抄(四六九―イ七五)……一五九二
徴古類要第四輯(二一〇・〇七―イ七)……八二五
長恨哥(〇八一―イ二一)……一四四
長恨哥(〇八一―イ二一)……一六三
長恨歌傳……三一一一
〔長恨歌幷琵琶行抄〕(九二一・二―イ七)……Ⅱ九〇〇
長恨歌琵琶行勅版(九二一・二―イ六五)……三一一一
張四維(明)……三一四三
趙氏孤兒大報讐雜劇……三一二六
長者教(一五四―イ一)……五〇三
長壽院内府九十賀和歌(九一一・二五―イ一)Ⅱ六三九
張守節(唐)……一〇四三、一五一八
長秋詠藻……六七
長秋詠藻……一八六八
長秋詠藻(九一一・二―イ一六三)……一八八一
長　乘……一一〇一
張　燮(明)……一五〇八
長松院御辭世……一五一
長松院殿眞諦紹聖大姉之御辭世(〇八一―イ二一)……一五一
張城人物志……二六八
長清院松嚴……二九九六
張　銑(唐)……三一八四―八
〔朝鮮古地圖〕(二九一・九―イ一)……Ⅱ三五五
朝鮮司瞻寺奴婢牒(二一九―イ九)……一〇四〇
朝鮮史略(二一九―イ三)……Ⅰ三三二
朝鮮人來朝圖(二一〇・六―イ一九)……Ⅱ二四六
朝鮮太平記(九一一・七―イ二二九)……二〇八〇
朝鮮地圖(二九一・九―イ五)……Ⅰ三九〇
朝鮮八道地輿圖(二九一・九―イ三)……一二〇〇
張楚叔(明)……三一二〇
張大千……五五〇、五九四、一〇五〇
帳中香古活字版(九二一―イ七)……三〇七〇
帳中香(九二一―イ九)……三〇七一
張　潮(清)……一六四五
張天師斷風花雪月雜劇……三一二六
聽傳書(〇八一―イ二一)……一〇五
兆殿司……一六九三
朝堂院圖(五二一―イ一)……一六五二
趙陶齋……二五二、三三六、四一三
張道緒(明)……四三三
張佩玉(明)……三一三六
趙盼兒風月救風塵雜劇……三一二六
姚文燮(清)……一四五三
張鳳翼(明)……三一四三
姚茂良(明)……三一四三
朝　譽……三〇六六
重隆記(二一〇・三―イ一三)……九四四
張麟之(宋)……一八二一―三
重黎考……一四六九
長祿記榊原侯本(二一〇・五―イ一五)……一〇一九
長録記新本榊原侯本(二一〇・五―イ三五)……一〇二〇
朝露軒露休……三〇四三
直情集(〇八一―イ一九)……二三〇
勅撰名所和歌抄出(九一一・二―イ一五一)……一八七一
塵　塚(九一三・五―イ二〇九)……二五三三
智　朗(元)……七三六
陳于階(明)……一四一五
陳應登(明)……一四一五
陳蓋謨(明)……一四三八
陳季卿悞上竹葉舟雜劇……三一二六
陳元靚(宋)……四五
陳　鴻……三一一一
椿　山……一〇六三
鎮州臨濟慧照禅師語録五山版(一八八・七―イ四三)……七四九
陳昌賢(清)……一三九三、一四九九
陳汝元(明)……三一四三
陳士蘭(明)……一四一四、一四三七、一五一一
陳　忱(明)……三一六二
陳仁子……三一八四―五
陳晉錫……一三九三、一四九九
陳仁錫(明)……三一四九
陳宗泗(清)……一三九三、一四九九
陳太乙(明)……三一三六
陳廷樞……一五一一
陳　燮(清)……一三九三、一四九九
陳彭年(宋)……一八二六―七、一八四六―七

ツ

追擬花月令(九一三・六五―イ二七)……二八四一
追夢圖録(〇八一―イ一九)……三〇七
通　雅(四四〇―イ一五)……一四五三
通證座右(〇八一―イ五)……Ⅰ一七
通俗演義三國志傳明版(九二三―イ六五)……三一五五
通俗好逑傳(九二三―イ一五)……三一六九
通俗諸分床軍談(九一三・六二―イ二六一)……二七四〇
津打菅祈……二一二一
津打治兵衛……二一二七、二一六三
痛風篇(四九〇―イ四一)……一六一二
通用古方詩括(四九〇―イ三五)……一六三三
通率表(四四〇―イ九)……一四二〇
月瀬紀行(〇八一―イ二九)……三八四
つきしま(九一一・六―イ八七)……二〇〇〇
月次のあそび(七二一―イ四一)……一六八八
槻の落葉續日本後紀歌考(九一一・二三―イ一七)……Ⅱ六〇五
槻廼落葉日本紀歌之解(九一一・二一―イ一五)……一八八七
月の雫(〇八一―イ一五)……Ⅱ七七
月のまへ(九一三・六五―イ二七)……二八三一
月舍雜筆(〇八一―イ一五)……Ⅱ七八
月日の御本地丹緑本(九一三・五―イ一八七)……二五三四
月見の友(九一三・六一―イ一二一)……二六四二
柘植清左衛門尉宗勝……一三四六
津坂孝綽(東陽)……二三一
津田正道……一〇六三
津田泰之……四七〇
土御門泰邦……三〇〇三
土御門保光……一〇〇七
土屋七郎……一〇六三
都通物語(九一三・六―イ三)……Ⅱ八二七
堤中納言物語(九一三・三九―イ七)……Ⅱ七七二
堤中納言物語(九一三・三九―イ九)……Ⅱ七七三
堤俊詮……一五六八
堤利信……一一五四
九曲折考(〇八一―イ一一)……Ⅱ三九
藤簍冊子(九一三・六五―イ二七)……二八〇五
つゝら文(九一三・六五―イ二七)……二八四二
〔藤簍冊子稿〕(九一三・六五―イ二七)……二八六六
〔藤簍冊子雜抄〕(九一三・六五―イ二七)……二八三七
通　典宋版(三二九・二―イ一三)……一二五七
津　戸……二一四
常木重吉……一八五五
經衡集(〇八一―イ一五)……Ⅱ七九
經　雅……四二二
津國女夫池(九一二・六―イ一三)……Ⅱ七三四
坪井正五郎……一五六七
壺井長員……一三七三
坪内逍遙……二九四六、三〇二一
坪内逍遙翁書翰(二八九―イ四九)……Ⅱ二九五
つほさか奈良繪本(九一三・五―イ三四三)……二五三五
つぼのいしぶみ(〇八一―イ五)……Ⅰ一二八
つほの石ふみ奈良繪卷(九一三・五―イ二九九)……二五三六
津守國冬……一九二四、二三二〇、二三三〇、二三三三
露分衣(九一三・六五―イ二七)……二八三二
毅(井上)……一〇六三
貫之集(九一一・二三―イ七三)……Ⅱ六〇六
敦賀屋久兵衛……七六七
鶴　女……八三八
鶴のさうし(九一三・五―イ一六九)……二五三七
鶴の双帋奈良繪本(九一三・五―イ一九九)……二五三八
鶴見彌介……八二七
鶴屋南北……二一二四
つれ〳〵(九一四・五―イ七)……二九九五
つれづれお伽草(九一七・五―イ五)……Ⅰ六四三
徒然草古活字版(九一四・五―イ三)……Ⅱ八六二
徒然草古活字烏丸本(九一四・五―イ一)……Ⅱ八六三
つれ〳〵草嵯峨本(九一四・五―イ五)……Ⅱ八六四
つれ〳〵草……二〇九六
つれ〳〵くさ(九一四・五―イ九)……二九九六
徒然草上巻光悦本(九一四・五―イ一一)……二九九七
つれ〳〵の抄(〇八一―イ二一)……六三

テ

程　頤(宋)……四三三、四三八
丁雲鵬(明)……一七一三
鄭懷魁(明)……七九二、一三八五
定家家隆謌合(九一一・二九―イ一)……Ⅱ六九一
帝鑑圖説古活字版(二八二・二―イ一)……Ⅰ三三八
庭訓往來(九一六―イ一一)……Ⅱ八八五
庭訓往來鈔(九一六―イ一五)……Ⅱ八八六
庭訓私記(九一六―イ九)……Ⅱ八八七
定慶聖人……六五四
鄭光祖(元)……三一二六
程篁墩(明)……四六六
鄭孔目風雪酷寒亭雜劇……三一二六
定濟僧正灌頂資日記……一五四九
定朔用行差術解……一四九二
帝謚考校正刷本(二八八・一―イ三三)……一〇八四
程氏墨苑明版(七二九―イ五)……一七一三
程氏墨苑明版(七二九―イ七)……一七一四
貞　錫(清)……六三二
鄭若曾(明)……一二〇七
鄭若庸(明)……三一四三
定　秀……一五四五
程朱異同(一二五・八―イ一)……四七七
程朱二先生周易傳義元版(一二三・一―イ一九)……四三八
定　淳……三〇七七
定　眞……七一二
貞信公御記抄(二一〇・〇八―イ七七)……八三一
鄭聲語原(九一一・八―イ七)……二一一〇
鄭聲語原(九一一・八―イ一三)……二一一一
訂正増譯采覧異言巻之一(二九〇・九―イ五)……Ⅱ三〇六
貞即記(二一〇・四―イ五五)……一〇〇三
程太約(明)……一七一三―四
鄭廷玉(元)……三一二六
程廷瑞(明)……一四三九―四〇
玎玎璫璫盆兒鬼雜劇……三一二六
帝典考(四四〇―イ一三)……一四六九
丁　度(宋)……一八三八―九
丁野南洋……二二〇
鄭　柏(明)……三一八七
逞風流王煥百花亭雜劇……三一二六
程明善(明)……三一三一
貞和集(九二一・一―イ一九)……三〇八四
(重刊)貞和類聚祖苑聯芳集五山版(九二一・三―イ七)……三一一六
出來齋京土産(二九一・四―イ五七)……一一六八
笛　浦……一〇六三
てくるまのもと(九一四・六―イ二一)……Ⅱ八七二
出嶋阿蘭陀屋舗景(二九一・六―イ二一)……一一八七
鐵拐李度金童玉女雜劇……三一二六
徹書記……二三〇三
鉄炮焦玉拵之口傳(三九九・五―イ一一)……一三四一
〔鉄炮傳書〕(三九九・五―イ七)……一三四二

鐵炮之聞書(〇八一―イ二)……一六九
〔鐵炮之事〕(三九九・五―イ一七)……一二四四
鐵炮之空(三九九・五―イ一三)……一二四三
〔鎮炮秘書〕(三九九・五―イ一五)……一二四五
〔鉄炮秘傳書〕(三九九・五―イ九)……一二四六
手ならひ(九一三・六五―イ一七)……二六七九
てにをは紐鏡(〇八一―イ)……Ⅰ一七八
てまりうた……三〇五九
寺澤志摩守……一〇一四
寺田寅彦……三〇一四
寺々五人組判形帳(一八〇・三一―イ一)……Ⅱ一四八
寺町三知……三六八三
儻偶用心記(九一三・六二―イ九一)……二七四一
出羽信濃掾……二一〇〇、二一〇三
出羽掾……二〇六三
天隱龍澤……三一〇二
天學初函明版(一八八・二一―イ五)……七八二―九八
田家集(九一一・二六―イ四九)……Ⅱ六六五
天漢經緯表(四四〇―イ九)……一四三八
傳簡集(二八一―イ九)……一〇六八
天狗内裏(九一三・五一―イ七九)……Ⅱ八一三
天狗堂轉蓬……二七二一
天經示蒙(四四〇―イ一一)……一三六七
天元玉曆祥異賦(四四〇―イ一)……一四四八
奠香師爰録(〇八一―イ九)……三六六
傳三郎……八二七
田佐六……一〇一五
堰蝴蝶夢(九三一―イ七)……三一三七
天　壽……四七〇
天主實義(一九八・二一―イ五)……七八七
天　頑(高麗)……七三八
天正拾八大閤關東江御出勢之砌若
狹少將道行之詠哥……一九五〇
天象列次分野之圖明版(四四六―イ三)……一五九八
〔天神繪巻〕奈良繪巻(九一三・五一―三六一)……二五三九
天神由來奈良繪本(九一三・五一―イ九三)……Ⅱ八一四
天　臺……四七〇
天台法華宗牛頭法門要纂古活字版
(一八八・三一―イ)……七〇三
天地初發之圖附經緯略弁歌之五級
(一三一・六一―イ三)……Ⅱ一〇三
天地理談(四四〇―イ三)……一四四九
天地理談(四四〇―イ五)……一四五〇
天地麗氣記(一七一・一一―イ九)……Ⅰ三三一
天地麗氣記(一七一・一一―イ一一)……五一八
轉々雜集(四六九―イ五一)……一五九三
傳　登……六四四
點取和歌類聚(九一一・二九―イ三)……Ⅱ六九二
天和改正服假令鈔(〇八一―イ五)……Ⅰ一二六
天　年……四七〇
天王寺彼岸中日(九一一・七一―イ九)……Ⅰ五二四
田必大(明)……三九三
天平六年以來關白詔勅書水谷川家本
(二一〇・〇八―イ三)……八四八
天平十五年大和國弘福寺田數帳
(二一〇・〇八―イ五)……八四九
天平餘光(二一〇・〇八―イ九)……八五〇
田父辭(九一三・五五―イ七)……二八四七
傳法灌頂口傳(一八八・四一―イ七)……Ⅱ一八四
〔傳法灌頂作法〕(〇八一―イ一九)……二五〇
傳法正宗記五山版(一八八・七―イ二七)……七五〇
轉蓬通報(〇八一―イ九)……三四六
轉法輪法次第(一八八・四一―イ三七)……七〇八
天保歌(九一三・六五―イ七)……二八四九
天保六章(九一三・六五―イ二七)……二八四八
天保六章解(九一三・六五―イ一七)……二八五〇
天問略(一九八・二一―イ五)……七九五
轉用字訓例(〇八一―イ九)……Ⅱ三六
傳來聞書(〇八一―イ五)……Ⅰ一〇四
天龍開山夢聰正覺心宗普濟國師年譜
五山版(一八八・七一―イ七九)……七五二
天龍開山夢窓正覺心宗普濟國師年譜
五山版(一八八・七一―イ七)……七五三
天路歷程(諺文)(九三一―イ)……Ⅰ六四九
篆論語(〇八一―イ九)……二一六
天文密奏(三三八・六一―三一)……一二四四
天文要録目録序第一(四四〇―イ三)……一四八三
天問略(一九八・二一―イ五)……七九五
轉用字訓例(〇八一―イ九)……Ⅱ三六
傳來聞書(〇八一―イ五)……Ⅰ一〇四
天龍開山夢聰正覺心宗普濟國師年譜
五山版(一八八・七一―イ七九)……七五二
天龍開山夢窓正覺心宗普濟國師年譜
五山版(一八八・七一―イ七)……七五三
天路歷程(諺文)(九三一―イ)……Ⅰ六四九
篆論語(〇八一―イ九)……二一六

ト

杜圀成(宋)……四九七
戸板善太郎……一四九七
刀ひの湯けふり(〇八一―イ九)……三三三
棠陰秘事加抄(三三九・二一―イ七)……Ⅱ三七四
棠陰比事(〇八一―イ二)……六〇
東雲亭照千賀……三六八
桃園雜話(九一三・六五―イ二七)……二七六八
道　果……八七四
東　雅(八二一―イ三)……一七八二
東海道敵討(九一三・六二―イ三二)……Ⅰ五七七
東海道各驛狂歌(九一七・二一―イ三)……Ⅱ八八九
東海道五十三次鋼版(七三二―イ五)……一七一九
東海道旅文車巻一(一九一・一一―イ五三)……一一五三
名勝奇談東海道分間繪圖(二九一・〇九―イ一)……Ⅰ三五四
東海道名所記(九一三・六一―イ七五)……二六四三
東海波臣集・同自註(九二一・一一―イ三五)……二〇八五
東郭記……三一四三
陶學士醉寫風光好雜劇……三一三六
導歌辭世龍集(〇八一―イ二)……一四八

桃花女破法嫁周公雜劇(九二三―イ四三)……三二六
陶九成(元)……一〇五六
鄧玉函……一三八一、一四二三、一四三五、一四四三―五
等　恵……二二九六
滕敬中……四七〇
東家秘傳(一七一―イ五)……Ⅱ一三〇
東家秘傳(二一〇・一―イ二五)……八九二
當家着用装束以上事(三二八・六―イ七)……Ⅱ三七〇
唐　謙(明)……一三六五
道　堅……一九六八
道　原(宋)……七二四―五
桃源集(三八七―イ九五)……Ⅰ四〇七
桃源集(三八七―イ一三)……Ⅱ三八五
桃源集(三八七―イ九七)……一二九二
湯顯祖(明)……三一二四、三一四二―三
鄧元錫(明)……一四七〇、一四七四
東　岡……一四七九
同甲會……三一三六
滕康桓……四七〇
東郊主人……二九三三
道晃親王……二二一八
東行話説(九一四・六―イ六一)……三〇〇三
騰　鵠……四七〇
東國式内大社拜神帳(〇八一―イ五)……Ⅰ八八
東語例(九一一・二三―イ七七)……一八九〇
東西洋考(四四〇―イ一七)……一五〇八
陶齋先生日記(〇九一―イ二五)……四一三
東齋隨筆(〇八一―イ二一)……一二一
陶齋隨筆(〇八一―イ一九)……二五二
陶齋漫筆(〇八一―イ一九)……三三六
東西兩晉演義明版(九二三―イ五九)……三一七〇
投梭記……三一四三
東作狂歌集(〇八一―イ一九)……三二七
東作全書(九一三・六六―イ五)……二九二七
東山雪峯(宋)……三一〇六―八
湯山遊觀路程記(二九一・四―イ三一)……Ⅱ三四〇
等持院殿御昇進次第……一〇〇五
東寺記(二一〇・五―イ二七)……一〇二一
等持寺御八講聽聞集附安樂光院公
家御願(一八六―イ一九)……六八四
唐詩選(九二一・二―イ三一)……三一一三
東寺惣繪圖……一一八一
東寺拜堂記(一八八・四―イ二七)……七〇九
湯若望……一三八六、一三九一、一三九四―七、一三九九、一四一四、一四二三―六、一四二八―九、一四三二―四、一四三六―七、一四三九―四〇、一四四二―三、一四四六、一五一一、一五一三、一五一五―六
唐　書明版(四四〇―イ一七)……一五二四
唐書卷第九十五元版(二二二―イ三七)……一〇五五
道　祥……八七三
鄧　鐘(明)……一二〇七
東條琴臺……二四二
東照宮參詣記(〇八一―イ二一)……一八七
筒簫書……一六五
堂上地下雪月花歌合(〇八一―イ五)……Ⅰ一〇三
唐愼微(宋)……一六四一―二
刀水雙鯉(〇八一―イ一九)……三五五
桃　青……一〇六三
道　誠(宋)……五五六―七
當世御伽曽我(九一三・六二―イ二六三)……二七四二
當世女容氣(九一三・六二―イ二四三)……二七四三
當世口まね笑(九一七・五―イ四五)……三〇五四
當世誰か身の上(九一三・六二―イ二六七)……二七四四
當世はなしの本(九一七・五―イ一)……Ⅰ六四二
稲川詩草木活字版(九二一・一―イ一五)……三〇八六
道　晰(鳥養)……一九八八―九
凍蘇秦衣錦還郷雜劇……三一二六
湯磧雁影(〇八一―イ一九)……三四一
道　宣(唐)……五四九、五六二、五九一―三、六四一、六六九
道　先(宋)……七四六
堂前隱宅記文政元寅年記(〇八一―イ一九)……二二八
(辰壹番)唐船持渡商賣書物目録并大意書(〇一九―イ二七)
……一四
唐船來朝圖(二九一・六―イ九)……Ⅰ三八八
陶宗儀(明)……一四六六
藤　岱……四二三
東大寺御受戒次第……一〇二一
東大寺御物寫(一八八・一―イ七)……六九七
東大寺正倉成巻文書(一八八・一―イ一三)……六九八
東大寺新造屋藏軸文書寫……八五二
東大寺大佛殿造立勸進帳(一八八・二―イ一)
……Ⅱ一七三
東大寺大佛殿御常燈料所田畠等記録
(二一〇・〇八―イ一五)……八五一
東大寺八幡宮祭禮棟別人別錢支
(一七五―イ一五)……五三七
東大寺八幡新造屋古文書(二一〇・〇八―イ七)
……八五二
東大寺要録……六七七
唐太宗文皇帝……一五一九
十市遠忠……二四八二
道　澄……六二三
洞庭湖柳毅傳書雜劇……三一二六
東堂老勸破家子弟雜劇……三一二六
東都古跡集(二九一・一―イ五九)……一一四七
唐年代記歷代……一〇二
東藩文献志稿(二八九―イ四三)……Ⅱ二九六
當風花のおもかけ(七二一―イ一九)……一六八九
東福寺塔頭南明院惣繪圖……一一八一
同文算指前編(一九八・二―イ五)……七九七
同文算指通編(一九八・二―イ五)……七九八
東　峰……一〇六三
洞房語園(三八七―イ八五)……Ⅰ四〇三
東方朔置文年代記(〇八一―イ二一)……一二三
唐明皇秋夜梧桐雨雜劇……三一二六
童蒙訓(八一三―イ三一)……一七九〇
遠山景晉……三〇八五
東遊記(二九一・一―イ一三)……Ⅱ三二五
東遊記(二九一・七―イ一七)……一一九七
東遊記(二九一・七―イ一九)……一一九八
東遊草(二九一・〇八―イ一九)……一一三四
東遊日記(二九一・〇八―イ一一)……Ⅱ三一五
棠陽病隱(〇八一―イ一九)……二二〇
當用新撰往來(〇八一―イ三)……Ⅱ二三
同樂院燕青博魚雜劇……三一二六
童樂詩集(九一七・一―イ一)……三〇二六
當流小栗判官(九一一・七―イ二一)……Ⅰ五二五
當流十二段……二〇六七
當流人名辭書(九一四・七―イ一五)……三〇一五
當流咄初笑(九一七・五―イ一三)……Ⅰ六四一
桃林堂紫石……二七〇七
桃林堂蝶麿……二七〇三、二七四五
融(九一一・六―イ七三)……二〇〇一
融の大臣(九一一・七―イ一二一)……二〇八一
東蓮光院坊舍寄進状(二一〇・〇八―イ六一)……八五三
登蓮法師集(〇八一―イ一五)……Ⅱ八〇
燈籠圖繪(六二九―イ一)……一六六一
兎園小説(九一四・六―イ四一)……三〇〇四
富　樫(九一一・六―イ九)……Ⅰ四九三

とかし丹緑本(九一一・六一ィ七九)……二〇〇二
ときはのうは(〇八一ィ二一)……二一七
ときわ物語奈良繪本(九一三・五一ィ二七五)……二五四一
徳川家康……一〇一四
徳川十五代傳記稿本前後編(九一三・六四一ィ七)……Ⅰ六一三
徳川將軍家五十御賀和歌(〇八一ィ五)Ⅰ一六一
徳川齊昭……三九〇、一〇六三
〔徳川理財會要稿本〕(三三〇・二一ィ一)……Ⅱ三七五
徳　諫……七三七
徳重吉左衛門尉……一三四四
特種好色本目録並ニ解題(〇八一ィ一九)……一九七
禿氏祐祥……五七六
徳春院……一〇二四
讀史餘論(三一〇ィ七)……八一四
讀史餘論草稿殘簡(三一〇ィ二五)……八一五
徳富蘇峰……四六三
徳富蘆花……三〇三三
徳富蘆花書翰集(九一六ィ三)……三〇三三
徳播寶幢……二四八
徳　溥(宋)……七六五
徳山五兵衛入道……一〇三四
獨　雄……四七〇
杜工部草堂詩箋朝鮮版(九二一・二ィ五)……Ⅱ九〇一
都孔目風雨還牢末雜劇……三一三六
土佐少掾橘正勝……二〇八九
土左日記(九一四・三一ィ一)……二九七七
土佐日記(九一四・三一ィ七)……二九七八
土佐日記(九一四・三一ィ九)……二九七九
土佐日記(九一四・三一ィ一一)……二九八〇
土佐日記(九一四・三一ィ一七)……二九八一
土佐日記(九一四・三一ィ一九)……二九八二
土佐日記(九一四・三一ィ二一)……二九八三
土佐日記(九一四・三一ィ二五)……二九八四
土佐日記(九一四・三一ィ二七)……二九八五
土佐日記(九一四・三一ィ二九)……二九八六
土佐日記(九一四・三一ィ三一)……二九八七
土佐日記註(九一三・六五ィ二七)……二九八八
土佐日記註(九一四・三一ィ三三)……二九八八
土佐秀信……二九〇六
土佐光起……二五一七
土佐光吉……二四八五
土佐光成……二五六四
土佐光信……二三三四、二三三五
利　秋(桐野)……一〇六三
年越の旅(〇八一ィ九)……三一六
杜子春(九一三・七一ィ三五)……二九五九
年足卿墓誌……一〇七〇
杜氏通典明版(三三九・二一ィ九)……一三五八
としの市の記……三〇五九
年野周平……一一一三
利　通……一〇六三
俊賴口傳(九一一・二一ィ七一)……Ⅱ五〇八
年　老(敏郎)……三四八一九
土星立成(四四〇ィ一一)……一四〇六
杜棗娘智賞金線池雜劇(九三一ィ四三)……三一三六
戸塚維春……二〇八六
舎人親王……九〇〇一七
宿直種(九一三・六一ィ五三)……二六四四
殿郇安守(篠齋)……一一〇九、一九五五、三一四四、三三五八
鳥羽覺融……五三四
飛梅申詞……四一九
杜　甫(唐)……三〇九一三一〇一
杜牧之詩酒揚州夢雜劇……三一三六
度量考(二〇九ィ一)……Ⅱ四二一
とはすがたり(九一三・六一ィ一四三)……二六四五
頓　阿……九六、八七〇
墨　塙……二一三三
墨花記……三一四三
頓　覺……一九三六
頓覺詠三首和歌懷紙(九一一・四一ィ五一)……一九三六
墨　香……四七〇
〔敦煌遺片〕(一八〇ィ一)……五五〇
呑湖堂記(九一三・六五ィ二七)……二六五四
曇摩伽陀耶舎(蕭齊)……六五一
曇無讖(北凉)……六一六、六二六一七
曇無密多(劉宋)……六三六

ナ

内外故實(三三八・六一ィ二九)……二四五
内科選要(四九〇ィ四一)……一六〇九
内宮儀式帳(〇八一ィ五)……Ⅰ五三
内宮外宮辨略解(〇八一ィ一九)……一九九
内侍所渡御行列(〇八一ィ五)……Ⅰ九六
内大臣家光公爲將軍宣下拜賀御參
　内供奉行列之次第(三一〇・六一ィ二七)……一〇三〇
内典塵露章(一八八ィ五)……六九三
内藤甫尺……一五六一
苗村松軒……二六七四
直毘靈(一三一・四一ィ一)……Ⅱ九八
直毘靈(〇八一ィ二九)……三九一
直靈考(一七一ィ三)……Ⅱ一三三
永井荷風……一二九一
永井喜太郎……一〇六三
永井三左衛門……一〇六三
鳥山宗成……三〇七

中井善太積善……一〇六三
中井竹山……一〇六三
中雅樂佐信吉……八二七
中江藤樹……一一〇六
中江篤介……四九六
中江平八……一〇六三
長岡監物……一〇六三
中川經雅……四二三
中川の記(九一四・六ーイ五九)……三〇〇五
中川徳基……一六七六
中川徳基來翰集(七一七ーイ一)……一六七六
中桐確太郎……三〇一九
仲子由基……四七〇
永阪潜(或齋)……二八一ー五
永阪先生論語講義覺書(〇八一ーイ一九)……二八四
長崎大地圖(二九一・六ーイ七)……Ⅰ三八五
長崎港唐人屋舗並市中風俗圖
(二九一・六ーイ一五)……Ⅱ三五〇
長崎土産(三八七ーイ一)……Ⅰ四〇四
長崎蟲眼鏡(二九一・六ーイ三)……Ⅰ三八六
長澤純平……一〇六二
中島健藏……二四五
中島考昌(櫻齋)……一一五二
長瀬眞幸……四二二、一三三五
長束大藏少輔……一〇二四
長束大藏大輔正家……一〇一八、一〇二四
長塚節……三〇一六
中臣渓岡……二四九二
中臣祐明……五三六
中臣祐賢……五三六
中臣祐定……一八九三
中臣祐春……五三六、一〇八六
中臣祐房……五三六
〔中臣祓氣吹抄抜書〕(〇八一ーイ五)……Ⅰ八三
中臣祓抄(一七三ーイ三)……五二五
中臣祓正義直授(一七三ーイ七)……五二六
中臣時風(馱栗連)……八二七
中臣壽詞附御元服祝詞・倭語釋傳正義略
(〇八一ーイ五)……Ⅰ六二
なかなかの友(〇九一ーイ六五)……四一四
中西信慶……四二
中根元圭……一四九四
中根靱負……一〇六三
中院禅門爲家……二三四二
中院通勝(也足叟素然)
……六三、一一〇三、一九五一、二一九三、二二〇三、二四一三ー五
中院通茂……一〇六四、二三六七
中院通秀……一一〇三
中野貞利……二二九九
中野道伴……五五七
中林六庵玄智……七九ー八四
中原職忠……一二三五
中原師象……一二四八
中原師守……一〇〇三
中原師世……一一〇三
中御門宣胤……一二三九、一九〇三
中御門宗忠……九五二
中村敬宇……五〇一ー二
中村座……二一七三
中村重吉……二六一四
中村惕齋……四五八
中村彌左右衛門……一三一六
中山美石(彌助)……四二二
中山金藏……二一四五、二一六一
中山定親……一一〇三
中山繁樹……九〇二
永山道修……一六四六
中山慶親……九八〇
半井卜養……三〇三八ー四〇
名倉又次郎……一〇六三
なけきの下露(一二一・四ーイ一五)……四二八
謎……三一九三
なそたて(九一七・七ーイ一)……三〇五七
謎の本(〇八一ーイ二一)……一四三
なしこ草・辨なしこ草・辨々なしこ草
(九一一・二ーイ七三)……Ⅱ五〇九
夏野の草(九一四・六ーイ三一)……Ⅱ八七三
夏のゝ露(九一三・六五ーイ二七)……二八五五
夏目漱石……
……二九三七・二九四四、二九五〇ー五四、二九七〇、三〇二四
夏目漱石書翰(九一六ーイ二一)……三〇二四
夏山里にあそふ詞(九一三・六五ーイ二七)……二八六二
七篠艮平(三村清三郎)……三六二
難波重井筒(九一一・七ーイ六五)……二〇八四
浪華潟美棹差櫛(九一三・六四ーイ五一)……二七九〇
難波津宮并大郡小郡考(二二四・三ーイ一)……一〇三五
難波詞林(九一〇・八ーイ五)……一八六三
難波雀(二九一・四ーイ四三)……一一六九
(補增)難波すゝめ跡追(二九一・四ーイ六九)……一一七〇
難波鶴跡追(二九一・四ーイ三三)……Ⅱ三四一
浪花鉦(三八七ーイ六五)……Ⅰ四〇五
浪花仁和歌考(〇八一ーイ一九)……二〇四
浪花遊所之賦・古今浮連歌序(三八七ーイ一五)
……Ⅱ三八六
菜の花(九一四・七ーイ五)……三〇一六
名乘字(〇八一ーイ二一)……一四七
魚　彦……四二三
鍋嶋助右衛門……一〇一五
鍋島直與……一七〇〇
鍋嶋(加賀守)直茂……一〇一五
鍋島主水……一三二一
那波列翁傳初篇(二八九ーイ一)……Ⅰ三四五
那波列翁傳初篇木活字版(二八九ーイ四一)……Ⅰ三四六
なまさとり(九一三・六一ーイ一二九)……二六四六
並河五一郎……一一〇六
並木正三……三〇四四
浪の音つれ(二九三ーイ三)……一二一〇
並山日記(二九一・三ーイ一一)……一一五六
奈良暦(四四五ーイ六一)……Ⅰ四一九
奈良暦慶安五年明暦二年(四四五ーイ一九)……一五五七
楢葉和歌集(九一一・二四ーイ二七)……Ⅱ六三〇
奈良名所八重櫻(二九一・四ーイ七)……Ⅰ三七九
奈良名所八重櫻(二九一・四ーイ八七)……一一七一
成相觀音縁起(九一二・六ーイ五七)……二一六一
成氏沙汰……一〇二三
成氏之御事……一〇二三
業平赤烏帽子(九一三・六二ーイ二一九)……二七四五
成島錦江……三〇七六
成島司直……一二二五
成島鳳卿……四七〇
那連提耶舎(高齊)……五九七ー八
那波道圓……四〇ー二
名和肥後刑部左衛門……一〇〇二
南　海……一〇六三
南　凱……四七〇
南　涯……一〇六三
南海寄歸内法傳(一八六ーイ三一)……六八五
南懐仁……一一一九、一三六四

南柯記……三一四三
南　岳……二八九四
南華眞經朝鮮版(一二六・四ーイ五)……四九五
南河成案(二九二・二ーイ二七)……一二〇八
南河成案續編……一二〇八
難擧白集……一九五三
南　洲……三〇七七
南條帯刀則勝……八二七
男色今鑑(九一三・六二ーイ一四一)……二七四六
男色哥書羽織(九一三・六二ーイ七)……Ⅰ五八九
男色大鑑……二七一四
男色大鑑本朝若風俗(九一三・六二ーイ一〇五)……二七四七
男色子鑑(九一三・六二ーイ一四九)……二七四八
男色十寸鑑下(九一三・六二ーイ四一)……二七四九
南嶼行記(二九一・一ーイ六一)……一一四八
南齊書明版(四四〇ーイ一七)……一五二一
南禅寺東照宮并御社繪圖……一一八一
南總里見八犬傳(九一三・六五ーイ二九)……二九二四
南總里見八犬傳第九輯巻之四十
(九一三・六五ーイ一一)……二九二五
南村輟耕録明版(二二二ーイ四九)……一〇五六
難太平記榊原侯本(二一〇・四ーイ二五)……一〇〇四
南地心中(九一三・七ーイ七)……二九六〇
南朝公卿補任僞撰考(〇八一ーイ一三)……Ⅱ四八
南嶋志(四四〇ーイ一一)……一三六九
南堂雍首座……三〇七七
南都十三鐘……二一二七
南都名所集(二九一・四ーイ五)……Ⅰ三七八
南都名所道筋記(二九一・四ーイ三)……Ⅰ三七六
南都名所道筋記(二九一・四ーイ九三)……Ⅰ三七七
難波大幹……一六四〇
南部大膳大夫信直……一〇二四
南畝集……二四九
南浦文集古活字版(〇八一ーイ七)……Ⅱ二八
南里有隣……九三八
南樓月……三一三六

二

ニウウェンホイス氏幾那説(四九〇ーイ四一)
……一六〇六
仁衛門……九六四
二月堂暁鐘嵐三右衛門座臺帳(九一二・六ーイ八三)
……二一六二
二休咄(九一七・五ーイ二七)……Ⅰ六三六
西安齋……二七一二
西岩倉金藏寺惣繪圖……一一八一
西川祐信……二七六九
西河篇(彌六)……三〇七七
錦文流……二〇六六
西澤一風……二六六六、二六六九、二七三九
西澤與志……二〇六五、二六七六
西田七兵衛尉……一六六九
西田直養……二〇〇
西洞院時直……二二一九
西野宣明……一一二一
廿一代集巻頭(〇八一ーイ二一)……一八〇
二十一代集後談(九一一・二ーイ一〇五)……Ⅱ五一〇
廿三問答古活字版(九一三・六一ーイ九三)……二六四七
二條院讃岐……二三三六
二條太皇大后宮大貳集(九一一・二三ーイ五一)
……Ⅱ六〇七
二條爲明……二三四五
二條爲家……一八七四、一八八四、二二〇八、二三四七、二三五二
二條爲氏……一八八五、一九二一、二三三一、二四二八
二條爲兼……一九七五
二條爲定……二四二八
二條爲重……一九三三、二一九九
二條爲秀……一九七〇
二條爲藤……二三四三
二條爲冬……一九三八
二條良基……五四六、一二二三、一九七〇
〔二條良基春日社願文章案〕(一七六ーイ九)　五四六
二しんかうぢざうのほんぢ(九一一・七ーイ九)
……Ⅰ五一四
贋せ孝行を褒賞した話(九一四・七ーイ一三)
……三〇一七
仁勢物語(九一三・六一ーイ七一)……二六四八
似勢物語(九一三・六一ーイ一七三)……二六四九
二躰節用集(〇三一ーイ一一)……Ⅱ一二
仁田四郎(九一三・五ーイ九七)……Ⅱ八一五
日域本紀(一七一・一ーイ一)……Ⅰ二三八
日王丸……八六四
日　柔……一八〇六
二中暦(〇三一ーイ二三)……Ⅱ一三
日蓮上人(九一三・七ーイ五三)……二九六一
日蓮上人(九一三・七ーイ六五)……二九六二
日蓮聖人註畫讃古活字版(一八八・八ーイ一)　Ⅱ一九三
〔日課一百首〕(九二一・一ーイ二三)……三〇八七
日晷圖法(四四〇ーイ九)……一四二三
日光山修善雜記下(一八六ーイ一七)……六八六
日食説……一四九七
日新書堂……一〇七二
日中行事(三二八・七ーイ九)……一二五一
日中星鳥考……一四六九
日躔晷指(四四〇ーイ九)……一四三二
日躔表(四四〇ーイ九)……一四三三
蜷川式胤……一五七三
蜷川親孝……一九四七
蜷川親元……一〇二二
蜷川親元記(二一〇・五ーイ三一)……一〇二二
二人比丘尼古活字版(九一三・五ーイ三六九)……二五八一
二人比丘尼(九一三・六一ーイ四三)……二六五〇
二兵衛……一一〇六
日本阿闍世太子(九一二・六ーイ二一)……二一六三
日本異國往來記(二一〇ーイ五)……Ⅰ二九一
日本永代藏(九一三・六二ーイ一九三)……二七五〇
日本永代藏(九一三・六二ーイ一九七)……二七五一
日本永代藏巻六(九一三・六二ーイ一九五)……二七五二
日本往生極樂記(一八二ーイ三)……五六四
日本海山潮陸圖(二九一・〇一ーイ七)……Ⅰ三五九
日本外史稿本(二一〇ーイ五五)……八一六
日本外史俚諺抄(二一〇ーイ一五)……Ⅱ一九九
日本紀聞書(二一〇・一ーイ一五七)……八九五
日本紀聞書抜書……八九六
日本紀聞書抜書并神宮社家神事
(二一〇・一ーイ一四一)……八九六
日本紀纂疏補遺(二一〇・一ーイ一七一)……八九七
日本紀私記(二一〇・一ーイ五七)……Ⅱ二六
日本紀神系圖(二一〇・一ーイ一二九)……八九八
日本紀神代巻折紙(二一〇・一ーイ五一)……Ⅱ二八
日本紀神代口訣(二一〇・一ーイ五三)……Ⅱ二七
日本紀神代巻鈔(二一〇・一ーイ八一)……Ⅱ二九
日本紀神代巻秘抄榊原侯本(二一〇・一ーイ一三)
……九三三
日本記素戔嗚尊(九一二・六ーイ一九)……Ⅱ七三五
日本紀傍訓部類(二一〇・一ーイ八五)……Ⅱ二二〇
日本紀類聚解謡歌註(九一一・二一ーイ三)……Ⅱ五四三
日本紀和注(二一〇・一ーイ二三三)……八九九

日本後紀天文本(二二〇・三ーイ一九) ……Ⅱ二二九
日本行記(二九一・〇八ーイ五) ……Ⅰ三六八
日本行記(二九一・〇八ーイ三) ……Ⅰ三六九
日本國見在書目録(〇一九ーイ一一) ……一五
日本五山傾城建仁寺供養布袋屋座臺帳
(九二二・六ーイ一四三) ……二二三九
(新板)日本國大繪圖(二九一・〇一ーイ一九) ……一二三
日本山海圖道大全(二九一・〇一ーイ二一) ……一二四
日本三代實録水谷川家本(二二〇・三ーイ四九) …九五七
日本詩紀(九二一・一ーイ九) ……三〇八八
日本支那朝鮮蝦夷世界全圖(二九〇・九一ーイ一)
……Ⅰ三五一
日本儒林談(二八一ーイ一七) ……一〇六九
日本書紀(二二〇・一ーイ二七) ……Ⅰ二九九
日本書紀(二二〇・一ーイ三七) ……Ⅰ三〇〇
日本書紀(二二〇・一ーイ二九) ……Ⅰ三〇一
日本書紀(二二〇・一ーイ三五) ……Ⅰ三〇二
日本書紀(二二〇・一ーイ三三) ……Ⅰ三〇三
日本書紀(二二〇・一ーイ一一) ……Ⅰ三〇四
日本書紀古活字版(二二〇・一ーイ二〇九) ……Ⅰ三〇五
日本書紀古活字版(二二〇・一ーイ三) ……Ⅰ三〇六
日本書紀(二二〇・一ーイ二〇七) ……Ⅰ三〇七
日本書紀(二二〇・一ーイ九一) ……Ⅱ二二一
日本書紀古活字版(二二〇・一ーイ二一) ……九〇〇
日本書紀(二二〇・一ーイ一一七) ……九〇一
日本書紀玉屋本(二二〇・一ーイ一二五) ……九〇二
日本書紀神代巻勅版(二二〇・一ーイ一) ……Ⅰ三〇八
日本書紀神代巻(二二〇・一ーイ二一一) ……Ⅰ三〇九
日本書紀神代巻古活字版(二二〇・一ーイ二一三)
……Ⅰ三一〇
日本書紀巻第一宥日本(二二〇・一ーイ七九) Ⅱ二二三
日本書紀巻第二卜部本(二二〇・一ーイ七一) Ⅱ二二四
日本書紀巻第二岡本本(二二〇・一ーイ七三) Ⅱ二二五
日本書紀神代巻(二二〇・一ーイ四一) ……九〇三
日本書紀神代巻(二二〇・一ーイ四三) ……九〇四
日本書紀神代巻(二二〇・一ーイ一〇一) ……九〇五
日本書紀神代巻(二二〇・一ーイ一〇七) ……九〇六
日本書紀神代巻(二二〇・一ーイ一六三) ……九〇七
日本書紀神代巻(二二〇・一ーイ一六五) ……九〇八
日本書紀神代巻榊原侯本
(二二〇・一ーイ一八一) ……九〇九
日本書紀神代巻(二二〇・一ーイ一八三) ……九一〇
日本書紀神代巻乾元本(二二〇・一ーイ二一七) …九一一
日本書紀神代巻上(二二〇・一ーイ一九七) ……九一二
日本書紀神代巻殘闕(二二〇・一ーイ一九三) …九一三
日本書紀巻第二古活字版(二二〇・一ーイ九三) …九一四
日本書紀巻第十一(二二〇・一ーイ二〇三) ……九一五
日本書紀巻第廿一(二二〇・一ーイ九五) ……九一六
日本書紀巻第廿四嘉暦本(二二〇・一ーイ一一三) 九一七
日本書紀聞書(二二〇・一ーイ一八九) ……九一八
日本書紀聞書巻(二二〇・一ーイ二〇五) ……九一九
日本書紀歌口解(九一一・二一ーイ五) ……Ⅱ五四四
日本書紀訓考第六巻(二二〇・一ーイ二三) …Ⅰ三一一
日本書紀見聞第三(二二〇・一ーイ二二七) ……九二〇
日本書紀纂疏(二二〇・一ーイ九) ……Ⅰ三一三
日本書紀纂疏(二二〇・一ーイ二一五) ……Ⅰ三一四
日本書紀纂疏(二二〇・一ーイ四九) ……Ⅱ二二三
日本書紀纂疏(二二〇・一ーイ一〇九) ……九二一
日本書紀纂疏(二二〇・一ーイ一七七) ……九二二
日本書紀抄(二二〇・一ーイ一五一) ……九二三
日本書紀小汀鈔(二二〇・一ーイ一三九) ……九二四
日本書紀神代聞書(二二〇・一ーイ一六九) ……九二五
日本書紀神代上巻神号傳 ……九二四
日本書紀神代巻科解(二二〇・一ーイ一三一) …九二六
日本書紀神代巻抄(〇八一ーイ二一) ……八九
〔日本書紀神代巻抄〕(二二〇・一ーイ一四三) …九二七
日本書紀神代巻抄(二二〇・一ーイ一四五) ……九二八
日本書紀神代巻抄(二二〇・一ーイ一四七) ……九二九
日本書紀神代巻抄(二二〇・一ーイ一六七) ……九三〇
〔日本書紀神代巻抄〕(二二〇・一ーイ一九一) …九三一
日本書紀神代巻抜肝抄(二二〇・一ーイ一三五) 九三二
日本書紀神代巻秘抄榊原侯本(二二〇・一ーイ一二一)
……九三三
日本書紀神代巻風俗鈔(二二〇・一ーイ一二三) 九三五
日本書紀神代秘抄(二二〇・一ーイ一〇五) ……九三四
日本書紀撰定之事(二二〇・一ーイ二五) ……Ⅰ三一五
日本書紀所々抜書(二二〇・一ーイ一三三) ……九三六
日本書紀謡歌(九一一・二一ーイ一三) ……一八八八
日本書紀類聚解(二二〇・一ーイ一五) ……Ⅰ三一二
日本圖鑑綱目(二九一・〇一ーイ一) ……Ⅰ三六一
日本全圖(二九一・〇一ーイ三) ……Ⅰ三六〇
〔日本全圖〕(二九一・〇一ーイ二三) ……一一二五
日本の年中行事(〇八一ーイ一九) ……二五七
日本武士鑑 ……二七一三
日本分域指掌圖(二九一・〇一ーイ一一) ……一一二六
日本分形圖(二九一・〇一ーイ一五) ……Ⅰ三五八
日本名女物語(九一三・六一ーイ五七) ……二六五一
日本文徳天皇實録(二二〇・三ーイ一七) ……九五八
日本文徳天皇實録(二二〇・三ーイ四七) ……九五九
〔日本靈異記抜書〕(〇八一ーイ五) ……Ⅰ九三
乳巌治驗録(四九八ーイ一) ……一六四九
女歌仙新抄(七二一ーイ四三) ……一六九〇
庭のうめを見る辨 ……二九〇九
任　淵(宋) ……三〇九六ー七
忍　空 ……三〇七七
人間不礼考(七二一ーイ二七) ……一六九一
忍頂寺仁三郎 ……一〇六五
忍頂寺務 ……二一一三ー四、二五九八、三〇二二、三〇二五
忍頂寺彌太郎 ……一〇六五
仁和寺惣繪圖 ……一一八一

ヌ

野鴈集(九一一・二六ーイ一七) ……Ⅱ六六六
貫名海屋 ……一〇六三
貫井銀滋園 ……二二三
貫井銀次郎 ……三四六
奴婢籍帳附属文書 ……八五二
沼田頼輔 ……二五六
ぬれほとけ(三八七ーイ二七) ……一二九三

ネ

寧夏省黒城發見西夏經并元時代古文書
(二二二ーイ六一) ……一〇五七
奉願口上書(〇八一ーイ五) ……Ⅰ一四三
奉願口上之覺(〇八一ーイ五) ……Ⅰ一四四
根岸志(〇八一ーイ一九) ……二〇五
根岸武香 ……八二五
ねすみのさうし奈良繪巻(九一三・五ーイ一三三)
……二五四二
鼠の草紙奈良繪巻(九一三・五ーイ一三五) ……二五四三
熱河十六景全圖銅版(七三二ーイ九) ……一七二〇
〔根津流犬之傳書〕(七八七ーイ一) ……一七七三
ね物がたり(三八七ーイ一一) ……Ⅱ三八七
寝物語(九一一・七ーイ一七三) ……二〇八五
〔年次未詳上洛日記〕(〇八一ーイ五) ……Ⅰ四九
〔年次未詳日記〕(〇八一ーイ五) ……Ⅰ五〇
年中行事(三二八・七ーイ五) ……一二五二
年中行事(三二八・七ーイ七) ……一二五三

年中行事（三八四ｲ一七）……一二七二
年中行事（三八四ｲ一九）……一二七三
年中行事諺合……一九七〇
年中行事抄（三八四ｲ一一）……一二七四
年中行事秘抄（三八四・七ｲ三）……一二七四
年中例宣命（二一〇・〇八ｲ一一）……八五四
年代記（〇八一ｲ二一）……八五
年代記（二一〇・〇三ｲ三）……八一九
念佛草紙（九一三・五ｲ三九三）……一二五四

ノ

能　圓……一三七九
能　鑑（一七四ｲ五）……一七六四
能狂言書上（一七四ｲ一三）……一七六五
〔能作法條々〕（一七四ｲ一一）……一七六六
能　寂……五八六
濃劭釜谷之眞圖稿本（二九一・三ｲ一）……Ⅱ三三一
能満寺至峯……一〇一五
野加伊之牛（一五四ｲ九）……五〇四
野上九一郎……四三三
野崎左文（蟹廼屋主人）……三〇四三
埜田好古……三〇七七
野田福嶋合戰記……一〇一〇
後　鑑（〇八一ｲ二一）……一七一
後の爲の記（九一〇・二八ｲ九）……一八六一
能登永閑……二四一一
野中完一……一五八三、一五八五
〔野中兼山書帖〕（一七八ｲ一五）……Ⅱ四三〇
野中の清水……一五七四
野々口立圃……三一〇
野宮宰相問答（〇八一ｲ五）……Ⅰ五八
宜風に与ふる消息案（九二一・二一ｲ一七三）……一八七三
信實朝臣事跡考（〇八一ｲ一一）……Ⅱ四〇
野村公臺……四七〇
野村玄道……一一七四
野村望東尼尺牘（二八九ｲ三五）……Ⅱ二九八
祝詞考（一七三ｲ一）……Ⅱ一三六
〔祝詞集〕（〇八一ｲ五）……Ⅰ三三
〔祝詞集〕（〇八一ｲ五）……Ⅰ九一
〔祝詞集〕（〇八一ｲ五）……Ⅰ一三七
宣長翁殘芳（〇八一ｲ一）……Ⅰ一六九一九二
法の家つと……二九二七
乃理のしを利（一八七ｲ三）……六九〇
法のつと巻……二九二七
典　春……一一〇六
則　安……八二七
野呂天然……一六三五

八

裴　駰（宋）……一〇四三、一五一八
梅園雜話（〇八一ｲ一五）……四一五
梅花屋藏書目（〇一九ｲ二三）……一六
梅渓游記（九二四・一ｲ一五）……三一七
拜崎恭忠……三〇七六
梅　所……一〇六三
裴少俊墻頭馬上雜劇……三一六
梅松論（二一〇・四ｲ三九）……一〇〇五
稗説虎之巻（九一三・六五ｲ一五）……二九一九
梅鼎祚（明）……三一三、三一四三
梅天漫筆（一三五・八ｲ一）……四七三
〔ばうちぎもの授けやう〕きりしたん版（一九一ｲ二一）……七七三
馬　蘊（明）……一六二五
袴屋新兵衛……一〇六三
萩野由之……一三五九
萩原廣道……三一六九
萩原元克……四三三、一九五七
萩原元克詠草（九一一・二六ｲ一二九）……一九五七
祝詞考（一七三ｲ一）……Ⅱ一三六
萩屋入道善虎……一〇一五
破吉利支丹（一九〇・四ｲ七）……Ⅰ二七四
〔馬琴試筆詩歌〕（九一一・二六ｲ一一九）……一九五八
馬琴等書翰集（二八九ｲ九九）……一一〇九
馬琴先生自咏長歌（九一一・二六ｲ一三一）……一九五九
拍案驚奇 清版（九三三ｲ七七）……三一七一
白　隠……三三九
白雲集五山版（九二一ｲ一一）……三〇七三
白居易（唐）……五〇、五一、三〇六六、三一一
薄　珏（明）……四二五、一四四一
白玉蟾（宋）……四八八
白砂人（〇八一ｲ二一）……一三八
白山曆解（四四〇ｲ一三）……一五〇三
白氏文集巻第三（九三〇・八一ｲ一）……三〇六六
帛尸梨蜜多羅（東晉）……六三五
白氏六帖事類集宋版（〇三三ｲ一九）……五〇
白氏六帖事類集宋版（〇三三ｲ二一）……五一
柏舟宗趙……四三六
白姓官話（八一九・六ｲ一）……一八一六
白雪齋選訂樂府吳騷合編明版（九二一・七ｲ三）……三一〇
白兎記……三一四三
白　朴（元）……三一三六
白樂天光悦本（九二一・六ｲ五）……Ⅰ四八六
白樂天勸學文……四三三
馬　蒔（明）……一六二五
端田長右衛門……一三四
羽柴紀伊守……一〇三四
羽柴岐阜宰相……八五六
羽柴左近親成……一〇三四
羽柴三左衛門輝政……一〇三四
羽柴筑前守利家……一〇三四
羽柴丹後少将……八五六
羽柴兵庫……一〇一五
羽柴美作守秀成……一〇三四
はしへんけい（九一三・五ｲ五五）……Ⅱ八一六
橋本（中臺）稲彦……四三三
橋本舍胤……三三七七
橋本直香……三〇一、三三七
橋本肥後守經亮……四三三一三
筥根七湯圖繪（二九一・一ｲ二九）……一一四九
筵姑射山（九一三・六五ｲ一七）……二八四四
蓮田正實……一〇六三
長谷川雪貞……一一九三
長谷川雪旦……一〇三三
長谷川（刑部法印）宗仁……一〇三四
長谷川忠右衛門尉……一三六、一三三、一三五
長谷場慶純……一三三七
長谷部寛麻呂……八五〇
初瀬詣（九二三・六五ｲ一七）……二八四五
馬宗素（元）……一六三七
秦檜丸……一一九三四
畠山記……一〇一〇
畠山作鞍考（三九九・六ｲ九）……一三五〇
秦信慶……九三五
秦宗巴……一七〇
ハタン延寶書（二九〇・九九ｲ三）……Ⅱ三一一
馬端臨（元）……一四五五
馬丹陽三度任風子雜劇……三一三六
馬丹陽度脫劉行首雜劇……三一三六

馬致遠(元)……三二三、三二六
はちかづき(九一三・五―イ二五九)……二五四五
はちかつき(九一三・五―イ二八九)……二五四六
はちかつぎ古活字丹緑本(九一三・五―イ二九五)……二五四七
はちかづきのさうし(九一三・五―イ一八一)……二五四八
八義記……三一四三
八十年經歴の學書(〇八一―イ一九)……二三三
八條院坊門局……一九二七
八条宮知仁親王……二五七一
八代詩乘明版(九二一・二―イ一三)……三一一三
八代集抄(九二一・二―イ七)……Ⅱ五一一
八幡宇佐宮御託宣集(一七五―イ二七)……五三八
八幡宮御縁起(九一三・五―イ二五)……Ⅰ五五二
八幡宮寺年中讃記(一七五―イ三五)……五四〇
八幡愚童記(九一三・五―イ三二)……二五四九
八幡愚童訓(一七五―イ一七)……五四一
八幡愚童訓(九一三・五―イ一九一)……二五五〇
八幡御劔袋更替使并一社奉幣記(一七五―イ三一)……五三九
八幡大菩薩御縁起奈良繪卷(九一三・五―イ三八一)……二五五一
八まん太郎……二〇八九
八幡本縁……五三八
八幡本地奈良繪本(九一三・五―イ三五)……Ⅰ五五三
八まんの本地奈良繪本(九一三・五―イ三一)……Ⅰ五五四
八棟大嶋臺(九一三・六二―イ五三)……二七五三
八文字自笑……二六七〇―一、二六七九、二六八六、二六八八―九、二六九三、二七一六、二七四二、二七五五、二七六六―七、二七七一、二七七五
蜂屋定章(淡山尚絅)……一四九二
馬仲虎(宋)……一〇五九
八犬傳九輯評并答(九一三・六五―イ二一)……二九二三
八線表(四四〇―イ九)……一四四五
八線表筭法解義(四四〇―イ一一)……一三八九
バッタック字の書(八二九―イ三)……Ⅱ四六四
服部采女正春……一〇二四
服部大方(宜)……一〇六一
服部南郭(子遷小右衛門)……四七〇、一〇六三
破提宇子(一九〇・四―イ三)……Ⅰ二七二
鳩谷孔平……二一四
鳩谷手牘(〇八一―イ一九)……二一四
華岡隨賢……一六四九
花笒箐(〇八一―イ三)……Ⅱ二四
はなさく松(二一〇・四―イ四五)……一〇〇六
咄おだまき(九一七・五―イ六一)……三〇五五
華すまひ(三八七―イ二一)……一二九五
花　園(九一三・六五―イ二七)……二八三〇
はなのかゝみ(七二一―イ五一)……一七〇五
花の名殘(九一三・六二―イ一五一)……二七五四
(おさん茂平)花名所懐中暦二編(九一三・六八―イ五)……二九三一
花の縁物語(九一三・五―イ二八三)……二五五二
花の縁物語上(九一三・五―イ二八一)……二五五三
英一埃……一七六一
はな世の姫(九一三・五―イ二〇一)……二五五四
花世の姫さうし(九一三・五―イ六九)……Ⅱ八一七
華和讃新羅源氏(九一一・七―イ二〇三)……二〇八六
塙保己一……一〇〇六
羽田文庫文書(〇一六―イ三)……Ⅱ二
箒木別註(九一三・三六―イ一二一)……二四〇九
波夫理和射之考(三八六―イ一)……Ⅰ四〇二
はまくり奈良繪本(九一三・五―イ三〇七)……二五五五
濱松中納言物語(九一三・三九―イ一一)……Ⅱ七七五
濱松中納言物語(九一三・三九―イ二一)……二四三九
濱松中納言物語(九一三・三九―イ二七)……二四四〇
早　雲……二一四五
早雲座……二六一
早雲長太夫……二二六
林永喜……一一〇六
林義卿……三〇七七
林義端……二七三六―七
林春齋……一一〇六
林次郎兵衛尉總重……一三四四
林道春……九二、一三〇、一一〇六
林信篤……一〇四一、一一〇六
林若樹……三二六、一一四八
破幽夢孤鴈漢宮秋雜劇……三二六
原新助……一一一五
原念齋……一〇六九
馬蘭亭……二五三
播磨少掾藤原貞則……二〇四九
播摩田沽却水田事……八二九
播摩田沽却水田新立券文事……八二九
播磨直丹波賣……六〇一
播磨國極樂寺瓦經拓(一八三―イ一九九)……六三一
播磨國圖(二九一・四―イ七七)……一一七二
針間國造廣麻呂……六〇四
播磨國風土記三條西家本(二九一・四―イ九一)……一一七三
播磨國風土記(二九一・四―イ五五)……一一七四
春雨をよめるあされ哥のはしかき……三〇五九
春雨物かたり富岡本(九一三・六五―イ二七)……二八〇六
春雨物かたり西莊文庫本(九一三・六五―イ二七)……二八〇九
春雨物かたり田原本(九一三・六五―イ二七)……二八一〇
春雨物語殘卷松室本(九一三・六五―イ二七)……二八〇七
春雨物語殘缺松室本(九一三・六五―イ二七)……二八〇八
〔ハルマ辭書譯稿〕(八四九・二―イ五)……一八五二
萬庵原資……四七〇
伴鷗齋長珊……八二七
范　曄(劉宋)……一〇四二
番外謠本集(九一一・六―イ一一一)……二〇〇三
判　鑒(七一七―イ三)……一六七七
晩花集(九一一・二六―イ一〇九)……一九六〇
晩花和歌集(九一一・二六―イ一〇七)……一九六一
判官みやこはなし(九一三・五―イ二〇七)……二五五六
潘鏡若(明)……三一五六
坂外記……一〇六三
范憲斗(清)……一四七八
班　固(漢)……一〇五二
范　康(元)……三一二六
伴蒿蹊……二一〇、二八五五
蕃國治方類聚(四九〇―イ二五)……一六三三
萬國地理圖説(四四〇―イ一一)……一三六八
坂十佛……五二〇
〔番神繪卷〕(三九九・四―イ一)……Ⅰ四一五
晩進魯笔閑窓瑣談前篇(〇九一―イ三七)……三九九
萬代和歌集(九一一・二―イ一一)……Ⅱ五一九
繁竹集(〇八一―イ一九)……二九〇
坂東太郎後世譚三輯後編(九一三・六四―イ四七)……二七九一
伴直方……一九〇〇、三〇〇六
般　若(唐)……五九九、六〇〇
般若波羅蜜多心經注(一八三―イ二九三)……六三二
伴信友……七、三九二、四三二、五二九、一九六〇
伴信友稿(〇八一―イ一七)……三九二
半夜雷轟薦福碑雜劇……三一二六
はんれい奈良繪卷(九一三・五―イ二八五)……二五五七

ピイトルハンゲーマン……一〇六〇
非唯漫録(九一一・二ーイ一二一)……Ⅱ五一四
比叡山惣繪圖……一一八一
比叡山東塔惣繪圖……一一八一
比叡山横川惣繪圖……一一八一
日吉山王惣繪圖……一一八一
火おけのさうし丹緑本(九一三・五ーイ一七五)……二五五八
皮革手鑑(五八四ーイ一)……一六五六
東川容重……二三七七
東山殿女狩藤松三十郎座臺帳(九一二・六ーイ六五)……二一六四
東山流挿花歌の巻(〇八一ーイ一九)……二四〇
飛花落葉跋……三〇五九
光源氏物語系圖(九一三・三六ーイ三二五)……二四一〇
光源氏物語不載系圖無向後人(九一三・三六ーイ三五)……Ⅱ七六八
彼岸記(九一三・六一ーイ一〇一)……二六五二
飛丸記……三一四三
日暮しの草帋(〇八一ーイ一九)……二二〇
斐庚季昌(元)……三一一七
〔肥後國岩戸山出土品圖〕(〇八一ーイ五)……Ⅰ一六〇
菱川師宣……四六七ー八、一一三三、一一三九、一一七一、一六八二、一六八六ー九二、一六九四、一七〇九、二六五八ー九、二六九四、三〇三三、三〇三八ー四〇、三〇五三
〔土滿祖父五十年祭祝詞〕(〇八一ーイ五)……Ⅰ一六二
〔土滿母十三年祭祝詞〕(〇八一ーイ五)……Ⅰ二六
〔土滿母歌集序〕(〇八一ーイ五)……Ⅰ一五〇
土滿文反古(〇八一ーイ五)……Ⅰ一六八
(伊勢參宮)柄杓振戯初篇(九一三・六九ーイ五)……二九三三
費錫章(清)……一一九〇
毘沙門長者……二一二七
尾州昔咄第三巻(〇八一ーイ一九)……二〇六
美人繪盡(七二一ーイ二九)……一六九二
びしんくらへ上(九一三・五ーイ二二五)……二五五九
美人草(三九九・四ーイ一五)……一三三六
備前國神名帳(一七五ーイ二一)……五四二
ひたか川奈良繪本(九一三・五ーイ一三九)……二五六〇
飛彈内匠水大がらくり宇治加賀掾正本(九一一・七ーイ一一九)……二〇八七
左尊く右卑しの説(三二八・六ーイ二三)……一二四六
〔篳篥古樂譜〕(七六一ーイ三三)……一七三五
匹下有餘(一八八・七ーイ三一)……七五四
必心琢磨流繪之巻(三九九・一ーイ一)……一三一四
筆　道(七二八ーイ九)……Ⅱ四三一
畢方濟……七八九
ひてひら入(九一三・五ーイ五七)……Ⅱ八一八
秀　吉……一〇二四
秘　傳(三九九・二ーイ一七)……一三二六
秘傳書(三八七ーイ七三)……一二九四
秘傳抄(三九九・二ーイ一一)……一三二七
尾藤了佐……一〇六三
尾藤肇……一七〇〇
尾藤士魏……四七〇
一柳越智千古家集(九一一・二六ーイ五三)……Ⅱ六六七
一柳監物之政……一〇二四
一柳春門……四二三
人の白芙容を贈れるを枕に置て玩ふ詞(九一三・六五ーイ二七)……二八七三
人見竹洞……一〇六二
人見竹洞書翰(二八一ーイ一一)……一〇六二
人見宗次(熊介)……一三五六
人見流抜覺集上巻(三九九ーイ七)……Ⅱ三九六
人見流抜覺上巻(三九九・六ーイ五)……一三五六
一目千本(三八七ーイ二一)……一二九五
一目玉鉾(二九一・〇六ーイ一)……Ⅰ三六六
一もときく(九一三・五ーイ一〇五)……Ⅱ八一九
ひともときく(九一三・五ーイ二八七)……二五六一
毗尼摩得勒伽巻第四(一八三ーイ二二三)……六三三
日下開山名人そろへ(九一三・六四ーイ二七)……Ⅰ六〇三
秘本玉くしげ(一二一・四ーイ三)……Ⅱ九九
秘密宗教相鈔(一八八・四ーイ二一)……七一〇
秘密漫荼羅教付法傳高野版(一八八・四ーイ三一)……七一一
姫島日記(九一四・六ーイ二五)……Ⅱ八七四
姫萬兩長者鉢木(九一三・六四ーイ六一)……二七九二
百科略説序言……一三六〇
百　官付唐名(三二八・四ーイ五)……一二三八
百首狂哥(九一七・二ーイ二一)……三〇三七
百首和謌(九一一・二五ーイ三七)……一九四八
〔百首和歌集〕(九一一・二四ーイ三五)……Ⅱ六三一
百二十詠詩註(九二一ーイ三)……Ⅱ八九四
百人一首考(九一一・二ーイ一三九)……Ⅱ五一三
百人一首古説(〇八一ーイ五)……Ⅰ六八
〔百人一首作者略傳〕(〇八一ーイ五)……Ⅰ一八
百人一首燈草稿(九一一・二ーイ一三五)……Ⅱ五一二
百人一首之抄(〇八一ーイ二一)……一三三
百八町記(九一三・六一ーイ七)……Ⅰ五六七
百番謌合(九一一・二九ーイ九)……Ⅱ六九三
百番謠(〇八一ーイ二一)……一〇八
百万遍珠数功徳記宇治加賀掾正本(九一一・七ーイ一五三)……二〇八八
百萬塔陀羅尼附百萬塔攷(一八三ーイ八一)……Ⅱ一五八
日向かけきよ(九一一・七ーイ三五)……Ⅰ五〇二
日向三哲……一〇六三
馮惟敏(明)……三一三六
尾陽戯場事始(七七一ーイ二三)……一七五六
馮玉蘭夜月泣江舟雜劇……三一二六
兵庫筑嶋(九一一・六ーイ九九)……二〇〇四
萍水和歌集(九一一・二六ーイ一一七)……一九六二
兵　助……一〇六三
病窓囈語(〇八一ーイ一九)……三五八
標題徐狀元補注蒙求古活字版(二八二・二ーイ七)……Ⅱ二六八
標題徐狀元補注蒙求巻上(二八二・二ーイ一三)……一〇七六
表度説(一九八・二ーイ五)……七九四
馮夢龍(明)……三一四三、三一四六、三一六四
病藥論(〇八一ーイ二一)……一七九
皕宋樓藏書源流攷(〇一七ーイ一三)……四
平井勝左衛門休與……三三
平井相助……二四〇七ー八
平岡孫右衛門……一〇一五
〔平尾八幡再建補助願〕(〇八一ーイ五)……Ⅰ一五五
平賀元義……五四二
平澤元愷(旭山)……二四一、一一〇四、二二三〇
平田篤胤……四二三
平田大人竝門人著述書入費目録(〇八一ーイ五)……Ⅰ一五九
〔平田愚梅〕……二二一四
平野惣繪圖……一一八一
平野よみかへりの草紙(九一三・五ーイ二七)……Ⅰ五五五
比例規解(四四〇ーイ九)……一四一八
廣島趨會記(二一〇・七ーイ一)……Ⅱ二四九
廣瀬旭荘……一〇六三

廣瀬蒙齋……一六九六
廣庭中務少輔……八二七
廣橋兼綱……九九二
〔廣幡八幡宮右鳥居奉獻祝詞〕(〇八一ィ五)……Ⅰ二五
琵琶記明版朱墨套印本(九三三ィ一七)……三三八
琵琶記明版(九三三ィ一九)……三三九
琵琶記……三三三
枇杷園漫筆(〇九一ィ六三)……四一六
貧道集(九二一・三三ィ七二)……Ⅱ六〇八

フ

ファウスト考(九四三ィ一)……三九一
ファウスト考(九四三ィ一)……三九六
ファウスト作者傳(九四三ィ一)……三九二
ファウスト作者傳(九四三ィ一)……三九七
ファウスト譯稿自筆本(九四三ィ一)……三九〇
ファウスト譯稿淸書本(九四三ィ一)……三九五
ファウスト譯稿等(九四三ィ一)……三九〇七
風雨像生貨郎旦雜劇……三二六
風音堂……二七五六
富貴大王早雲座狂言本(九二二・六ィ八七)……二六六
風月宗知……八〇九
風月牡丹仙……三三六
風　鞍(七六一ィ九)……Ⅰ四三三
風廔隨筆(〇八一ィ九)……三三五
風廔續筆(〇八一ィ九)……三三五
風船旅行(九二三・七ィ四七)……二九六三
楓窓隨抄(四九〇ィ一五)……一六三四
風俗畫帳(七三一ィ一)……Ⅱ四二七
風俗傾性野群談(九二三・六二ィ三七)……二七五五
風葉和歌集(九二一・二ィ二三)……Ⅱ五一五
風流今平家(九二三・六二ィ一一)……Ⅰ五八三
風流數目金(九二三・六二ィ二三三)……二七五六
風流曲三味線(九二三・六二ィ一五五)……二七七七
風流源氏物語(九二三・六二ィ二一)……二七五八
風流連三味線……二七五六
風流日本莊子(九二三・六二ィ二四九)……二七五九
附音增廣古註家求(二八二・二ィ一五)……一〇七五
深井志道軒……二〇一三、二九五五
深尾四郎右衛門尉眞繼……一三五七
深川親和……一〇八三
不可思議(新羅)……六一八
深屋次左衛門好忠……一三四四
武漢臣(元)……三二六
不　休……四九一
不經先生……三五七
〔芙蓉館帖〕(一三五・七ィ一)……四七〇
不　空(唐)……五七一、五七九
不空羂索抄(一八八・四ィ二九)……七一二
福澤諭吉……一〇三一、一〇八三
福島正則……一〇一五
福嶋弥右衛門……一〇一五
福壽海萬太夫座狂言本(九二二・六ィ一一三)……二一六五
復初齋文集(九二四・二ィ一五)……三八三
福地源一郎……一〇九六
福永一良……三〇一三
福原左近……一〇六三
福原(右馬之介)長成……一〇一四
福原(式部少輔)廣俊……一〇一四
武家義理物語(九二三・六二ィ一九)……Ⅱ八四五
武家諸禮集古活字版(三三八・六ィ三)……Ⅰ三九六
武家裝束着用圖(三八一ィ七)……二一六四
武功山人(明)……三三六
武江新古原町圖(二八七ィ四七)……一二九六
浮山此藏軒物理小識(四四〇ィ一五)……Ⅰ四五三
藤　井……八二九
藤井宗右衛門……一一〇六
藤井高尚……四三三
藤井貞幹古瓦譜探求記……一五八〇
藤井長門守……四三三
藤井安政……一五五七
藤岡作太郎……二七七七
藤垣内……四三三
藤川貞……二八
富士五十首(九二一・二六ィ一三三)……一九六三
藤島仲和……三〇七七
藤孝公年譜(二八九ィ四五)……Ⅱ二九九
藤田東湖尺牘(二八九ィ三九)……Ⅱ三〇〇
藤田東湖書翰集(二八九ィ七)……Ⅰ三四四
富士谷御杖……八七八、八八五、一八九八
藤田友間筆道傳書(七二八ィ一七)……Ⅱ四三三一五
藤田理兵衛……一二七
ふしの人穴(九二三・五ィ一二五)……二五六三
ふじの人あな(九二三・五ィ二四五)……二五六三
伏見行(九二三・六五ィ二七)……二八六一
伏見常盤泰良繪本(九二一・六ィ一一)……Ⅰ四八五
〔伏見ときは〕古活字丹緑本(九二一・六ィ二七)……Ⅱ七一六
ふしみときは丹緑本(九二一・六ィ八一)……二〇〇五
ふしみときわ(九二一・七ィ一五)……二〇一四
藤本箕山……一三三四
藤森社惣繪圖……二一八一
藤森天山……一〇六三
附釋音尚書註疏宋版(一三三・二ィ一)……Ⅱ一〇八
富士山の本地(九二三・五ィ四三)……Ⅱ八一〇
不秋艸稿(〇八一ィ一九)……三六三
不秋草堂日歷(〇八一ィ一九)……三三八
阜上偶語(九二一・二ィ一五七)……一八七三
武城絃歌集(九二七・一ィ三)……三〇二七
普照智訥(朝鮮)……七六〇
藤原明衡……三一七九
藤原嶺道……二九八六
藤原氏女……八六三
藤原顯輔……一九二一
藤原家隆……一九二九
藤原磯足……二四二六
藤原以文……一〇一〇
藤原清輔……一八四一五
藤原公任……七三
藤原伊經……一九七六
藤原定成……一七二三
藤原重通……八二
藤原俊成……一八六七、一八八一、一九一七、一九七四、二三四二
藤原眞瑤……一二三
藤原佐世……一五
藤原惺窩……四六三、四六九、三七五
藤原能季・藤原基通宛申文案(一七五ィ七)……Ⅱ二四
藤原忠平……一五〇、五四、八三、一二六ィ二
藤原爲家……一九〇七、一九一九、二三五二
藤原爲重……一九三
藤原爲信……一九二七
藤原纖縄……九四〇一
藤原定家……九八三、一〇〇八ィ九、一三四四、一八七四、一八〇一、一九〇四、一九〇九、一九三二、一九三七、二三四四
藤原定家消息(九二一・二四ィ五三)……一九三七
藤原貞幹……八三一三、一二一三、

一三三四、一三四三、一五八〇、一五八九、一五九八、一六五二、一六七一 …… 一六七八
藤原時平 …… 九五七
藤原直次 …… 一三一六、一三三三、一三三五
藤原勝據 …… 八〇三
藤原正存 …… 三三四九
藤原通憲 …… 九八七
藤原元長 …… 三三八二
藤原基經 …… 九五八―九
藤原百川 …… 八四七
藤原護道 …… 三三一六
藤原師輔 …… 八三三
ふしんせき（九一三・六一ィ三）…… 二六五三
布施正世 …… 三三五
扶桑皇典（一三一・七一ィ一）…… Ⅱ一〇三
扶桑略記 金勝院本（三一〇ィ三一）…… Ⅱ二〇〇
附屬名言篇（八四九・二一ィ一）…… 一八五三
不退轉法輪經品第三卷之二（一八三ィ三三）…… 六三四
ふたおもて（九一三・七一ィ四三）…… 二九六五
二時百首（九一一・二六一ィ八九）…… Ⅱ六六八
二葉亭四迷 …… 二九六八
佛果圓悟禪師碧巖錄殘卷五山版（一八八・七一ィ三）…… 七五五
佛家詩語 …… 四七六
二日ものがたり（九一三・七一ィ九）…… 二九六六
［佛教講話聞書］（〇八一ィ九）…… 三七六
佛國禪師語錄五山版（一八八・七一ィ五三）…… 七五六
佛國禪師文殊指南圖讃殘卷宋版（一八八・七一ィ二九）…… 七五七
弗若多羅（後秦）…… 五六一
佛制比丘六物圖（一八六ィ九）…… 六八七
佛說一切如來眞實攝大乘現證三昧大教王經卷十四（一八三ィ六一）…… Ⅱ一五九
佛說延命地藏菩薩經私解（〇八一ィ一九）…… 三三三
佛說灌頂三歸五戒帶佩護身呪經第三（一八三ィ二七）…… 六三五
佛說觀普賢菩薩行法經（一八三ィ二九）…… 六三六
佛說衆許摩訶帝經卷第十三宋版（一八三ィ八五）…… Ⅱ一六〇
佛說天皇梵摩經卷第七（一八三ィ一〇七）…… 六三七
佛說佛母出生三法藏般若波羅蜜多經卷第二十一宋版（一八三ィ五九）…… Ⅱ一六一
佛足石歌（〇八一ィ五）…… Ⅰ六四
佛足石之記（一七一・一ィ七）…… Ⅱ一三四
佛祖正法直傳五山版（一八八・七ィ八五）…… 七五八
佛陀跋陀羅（東晉）…… 六三二―四
佛陀耶舍（後秦）…… 五八一―三
佛本行集經卷第四十六（一八三ィ一六一）…… 六三八
筆情進抄錄（〇八一ィ九）…… 二〇一
筆のすさひ（九一三・六五ィ二七）…… 二八三一
筆のまゝ（九一四・六ィ五三）…… 三〇〇六
武道一覽（九一三・六二ィ二四七）…… Ⅰ五八一
武道傳來記（九一三・六二ィ二四五）…… Ⅰ五八〇
武道傳來記（九一三・六二ィ二七）…… Ⅱ八四六
武道兩面鏡（九一一・七ィ一五五）…… 二〇二七
武德鑑 土佐少掾橘正勝正本（九二一・七ィ八九）…… 三〇八九
懷硯（九一三・六二ィ四七）…… 二七六〇
府内源左衛門 …… 一一〇六
舟岡記 …… 一〇一〇
舟のめとく 奈良繪卷（九一三・五ィ一五一）…… 二五六四
不伏老 …… 三一三六
負文龜奏議（〇八一ィ五）…… Ⅰ一〇六
夫木和歌抄（九一一・二一ィ九）…… Ⅱ五一六
文禰麻呂忌寸骨龍圖說（四六九ィ一）…… 一五九四
文反古稿（九一三・六五ィ二七）…… 二八七七
麓之塵抄（〇八一ィ一九）…… 二〇七
佛蘭西だより（九一三・七ィ六一）…… 二九六七
冨柳軒有心 …… 一〇一五
武陵春 …… 三一三六
振分髮愛護梅若 森田座臺帳（九一二・六ィ一四七）…… 三一六七
古郷歸江戸咄 …… 一四四二
［古田織部］ …… 六二
古寺の秋（九一三・六五ィ二七）…… 二八七六
古矢兵四郎 …… 一一三三
鋪練吉瘍醫方（四九〇ィ三）…… 一六三五
文　緯（八三一ィ五）…… 一八四〇
文　一（谷）…… 一〇六三
文緯略（八三一ィ五）…… 一八四一
文緯略（八三一ィ五）…… 一八四二
文會堂 …… 一〇七〇
［文化二年上洛日記］（〇八一ィ五）…… Ⅰ四六
文化二年乙丑上京一件（〇八一ィ五）…… Ⅰ四八
文館詞林殘卷（九二〇・八ィ五）…… 三〇六三
紛寄論（三九九・二ィ五）…… 一三三八
分間江戸大繪圖（二九一・一ィ三七）…… 一五〇
分間江戸圖（二九一・一ィ四三）…… 一五一
文獻通考（四四〇ィ一五）…… 一四五五
焚香記 …… 三一四三
豐後風土記（二九一・六ィ一三）…… 一一八八
文事記珠（一三五・八ィ一）…… 四七三
文事證（一三五・八ィ一）…… 四八一
文事正誤（一三五・八ィ一）…… 四八二
［文事隨筆］（一三五・八ィ一）…… 四八七
文事探源（一三五・八ィ一）…… 四八三
文　樵 …… 一一五三
ぶんしやうのさうし（九一三・五ィ一三三）…… 二五五五
ぶんしやうのさうし 上丹緑本（九一三・五ィ一九）…… 二五六六
ふん正物語 奈良繪本（九一三・五ィ一九三）…… 二五六七
ぶんしやう物語（九一三・五ィ二六一）…… 二五六八
文　秀（明）…… 七四三
文四郎 …… 一〇六三
聞人詮（明）…… 四四五
文　栖（元）…… 七五九
ぶん太もの語（九一三・五ィ一五九）…… 二五六九
文　晁 …… 一〇六三
分道江戸大繪圖（二九一・一ィ六五）…… Ⅰ三七三
文武さゞれ石（九一三・六二ィ二五）…… 二七六一
分物古帳（一八六ィ二九）…… 六八八
文　甫 …… 四七七
［文房集寶］（七三九ィ三）…… 一七一五
文明の庫紙の卷（五八五ィ一）…… 一六五七
文林綺語抄（九一〇・一ィ一）…… Ⅱ四六七
文林摘葉集（九一四・六ィ一七）…… Ⅱ八七五
分類補註李太白詩元版（九二一・二ィ六一）…… 三一一四

へ

［平安韻字集］（八三一ィ六七）…… 一七九一
平安朝摺經帖（一八三ィ二六七）…… 六三九
平家高野卷（三一〇・三ィ八五）…… 九六〇
平家物語（三一〇・三ィ一五）…… Ⅱ三一〇
平家物語（三一〇・三ィ一七）…… Ⅱ三一一
平家物語節附本（七六一ィ一九）…… Ⅱ四四三

平家物語(〇八一ー イ二一) ……七六
平家物語八坂本(二一〇・三ー イ二一) ……九六一
平家物語古活字版(二一〇・三ー イ二三) ……九六二
平家物語百二十句本(二一〇・三ー イ二五) ……九六三
平家物語古活字版(二一〇・三ー イ二七) ……九六四
平家物語(二一〇・三ー イ二九) ……九六五
平家物語(二一〇・三ー イ三一) ……九六六
平家物語下村本(二一〇・三ー イ三三) ……九六七
平家物語(二一〇・三ー イ三五) ……九六八
平家物語(二一〇・三ー イ三七) ……九六九
平家物語八坂本(二一〇・三ー イ三九) ……九七〇
平家物語古活字版(二一〇・三ー イ四一) ……九七一
平家物語(二一〇・三ー イ五一) ……九七二
平家物語(二一〇・三ー イ五九) ……九七三
平家物語百二十句本(二一〇・三ー イ六一) ……九七四
平家物語(二一〇・三ー イ六三) ……九七五
平家物語長門本(二一〇・三ー イ六五) ……九七六
平家物語長門本(二一〇・三ー イ六七) ……九七七
平家物語(二一〇・三ー イ六九) ……九七八
平家物語(二一〇・三ー イ七一) ……九七九
平家物語八坂本(二一〇・三ー イ七三) ……九八〇
平家物語(二一〇・三ー イ七五) ……九八一
平家物語(二一〇・三ー イ七七) ……九八二
平家物語(九一一・七ー イ二三一) ……二〇九一
平家物語一之巻(九一一・七ー イ一七) ……Ⅰ五〇一
平家物語巻五(二一〇・三ー イ九) ……Ⅱ二三三
平家物語第十二東寺執行本(二一〇・三ー イ一一)
……Ⅱ二三二
平家物語章節前田流(七六一ー イ二七) ……一七三六
丙午雑纂(〇九一ー イ一一) ……Ⅱ九三
平兒代答(三八八ー イ一) ……一三一〇
平治物語(二一〇・三ー イ一) ……Ⅰ三一九
平治物語(〇八一ー イ二一) ……七八
平　璋 ……一三八九
平石如砥(元) ……七五九
平石如砥禅師語録五山版(一八八・七ー イ七七) 七五九
平他字類抄(八二一ー イ一) ……Ⅰ四四六
平定伊犁銅版畫(七三二ー イ一七) ……Ⅰ四三一
〔平定回疆得勝圖〕銅版(七三二ー イ一一) ……一七二一
〔平定回疆得勝圖〕銅版(七三二ー イ一三) ……一七二二
平定兩金川銅版畫(七三二ー イ三) ……Ⅰ四三二
幣馬幣牛之事 ……八二七
兵範記斷簡仁安二年(二一〇・三ー イ一〇五) ……九八三
平〻凡〻四十印(〇八一ー イ一九) ……三〇九
兵法雄鑑(三九九ー イ三) ……Ⅱ三九七
平　凡(九一三・七ー イ二一) ……二九六八
平妖傳 ……三一四八
幣里神官慎終記(〇八一ー イ五) ……Ⅰ六一
僻案愚點二百三十首(九一一・二五ー イ一一) Ⅱ六四〇
僻案抄(九一一・二ー イ一六五) ……一八七四
日置流弓假目録(〇八一ー イ五) ……Ⅰ一六三
碧蓮繡符 ……三一三六
平群郡坂門郷沽却田地新券文事 ……八二九
歇斯的爾内科書(四九〇ー イ四一) ……一六〇七
へだてぬ中の日記(二八九ー イ九) ……Ⅱ三〇一
平秩東作 ……一一九七ー八、二九二七
屁放大神大御傳 ……三〇五九
ペルリ日本航海日誌(二九一・〇八ー イ一) ……Ⅰ三七〇
辨學遺牘(一九八・二ー イ五) ……七八八
便宜行事虎頭牌雜劇 ……三一二六
辨疑書目録(〇一九ー イ一) ……Ⅰ四
辨疑書目録(〇一九ー イ一三) ……Ⅰ五
辨慶物語(〇八一ー イ二一) ……七〇
辨慶物語奈良繪本(九一三・五ー イ三〇三) ……二五七〇
遍照發揮性靈集巻第五(九二四・一ー イ一九) 三一七八
辨正萬川集海(三九九・五ー イ一) ……一三四七
邊要分界圖考(二九一・七ー イ七) ……一一九九

ホ

保安二年官物返抄案(二一〇・〇八ー イ七三) ……八五五
穗井田忠友(靱負) ……六九八、八五二、一〇七〇、一六七二
方以智(明) ……一四五二ー三
方圓奇巧(四一九ー イ一) ……Ⅱ四一一
蓬園常信 ……三二四
峰翁祖一 ……七五八
法界坊野分姫隅田川月姿見(九一三・六四ー イ四五) ……二七八九
法　惠 ……六七一
〔寶月童子〕奈良繪本(九一三・五ー イ三七三) ……二五七一
法　顯(晉) ……五五四ー五
法顯傳(一八〇・二八ー イ三) ……五五四
法顯傳殘巻(一八〇・二八ー イ五) ……五五五
龐涓夜走馬陵道雜劇 ……三一二六
法　語(〇八一ー イ二一) ……一一五
法光參聞録(〇八一ー イ一九) ……三一六
望江亭中秋切鱠雜劇 ……三一二六
方　谷 ……一〇六三
方谷先生遺墨(二八九ー イ五) ……Ⅰ三四七
豊國大明神臨時御祭禮記録(二一〇・五ー イ五)
……Ⅱ二四二
龐居士誤放來生債雜劇 ……三一二六
奉使日本紀行(二九一・〇八ー イ七) ……Ⅰ三六七
某社惣繪圖 ……一一八一
防州日記(九一四・六ー イ一九) ……Ⅱ八七六
法集別行録節要并入私記朝鮮版
(一八八・七ー イ一〇五) ……七六〇
奉　璋 ……三〇七七
方丈記(九一四・四一ー イ一) ……Ⅱ八五九
方丈記(九一四・四一ー イ三) ……二九九一
方丈記(九一四・四一ー イ五) ……二九九二
方丈記光悅本(九一四・四一ー イ七) ……二九九三
北條重時 ……五〇七
寶生太夫 ……一七六二
北條團水 ……二七一九、二七二五
北條時房 ……一三二七ー三一
北條泰時 ……一二三四
北條泰時明斷録第一輯巻之二
(九一三・六四ー イ三九) ……二七九三
訪書雜録(九一三・六ー イ一九) ……二五九八
彭氏禮記纂圖註義輯本四庫館本(一二二・四ー イ五)
……四四七
庖人集要宜禁本草之歌(〇八一ー イ二一) ……八〇
方星圖解(四四六ー イ五) ……一五五九
法　藏(唐) ……七〇〇
蓬聰愚藻集(九一一・二六ー イ一三) ……Ⅱ六六九
はうさうひく奈良繪本(九一三・五ー イ三三七) ……二五七二
〔豊藏坊狂歌巻〕(九一七・二ー イ一七) ……Ⅰ六二三
豊藏坊信海狂歌集(九一七・二ー イ三五) ……Ⅰ六二四
祭豊太閤詞(九一三・六五ー イ二七) ……二八五一
豊太閤高麗陣之軍令狀(二一〇・〇八ー イ四七) 八五六
彭大翮(明) ……三九三
包待制三勘蝴蝶夢雜劇 ……三一二六
包待制智賺生金閣雜劇 ……三一二六
包待制智賺灰蘭記雜劇 ……三一二六
包待制智斬魯齋郎雜劇 ……三一二六
包待制陳州糶米雜劇 ……三一二六
寶亭文雪 ……二七九〇
法然上人之文(〇八一ー イ二一) ……一四二
豊年春ふく藏主(九一七・五ー イ三七) ……三〇五六

ほうぶつしう古活字版(九一三・四一イ二七)……二四五〇
寶物集(〇八一イ二一)……五三
ほうまん長者(九一三・五一イ三五七)……二五七三
ほうまん長者上(九一三・五一イ三四五)……二五七四
豊明山人……二九三二
法門名義集殘經(一八三一イ一二七)……六四〇
方藥録藥劑編(四九〇一イ四一)……一六一四
芳陽華藻(〇八一イ一九)……三五〇
蓬萊雅樂……四二二一三
ほうらい山(九一三・五一イ九一)……Ⅱ八二一
蓬萊山由來(九一三・五一イ二六三)……二五七五
保暦間記(〇八一イ二一)……六六
保暦間記榊原侯本(二一〇・三一イ五五)……九八五
保暦間記(二一〇・三一イ八九)……九八六
法隆寺政所充行狀(二一〇・〇八一イ二九)……八五七
法隆寺関係文書(二一〇・〇八一イ七九)……八二九
法隆寺幸前沽却水田新立券文事……八二九
法隆寺金堂壁畫複製(七二二一イ一)……Ⅰ四三〇
法隆寺寶物考證(一八八・一一イ九)……六九九
法隆寺文書……一五四七
包龍圖智勘後庭花雜劇……三一二六
包龍圖智賺合同文字雜劇……三一二六
簠簋内傳金鳥玉菟集(一四七一イ一)……四九八
朴敬行(朝鮮)……三〇七六
北槎聞略(二九三・八一イ一)……Ⅰ三九三
北山先生詩文集(〇八一イ一九)……二七九
北　史元版(二二二一イ二七)……Ⅱ二六四
(元本出相)北西廂記明版(九二二一イ二五)……三一二七
(重校)北西廂記明版(九二二一イ三三)……三一三〇
(李卓吾批評合像)北西廂記明版(九二二一イ二七)……三一四一
北雪美談時代鏡四十九編下巻(九一三・六四一イ五七)……二七八七
北窓瑣談(〇九一イ三五)……四一七
北地一見記(〇八一イ一九)……三五九
(新鐫六院女史清流)北調詞曲明版(九二一・八一イ一)……三一二一
北狄事略(二一〇・六一イ一)……Ⅰ三二八
北邊髓腦(九一一・二一イ八五)……Ⅱ五一七
卜養狂歌集(九一七・二一イ七)……Ⅰ六二三
卜狼狂哥集(九一七・二一イ一一)……三〇三八
卜狼狂哥集(九一七・二一イ一九)……三〇三九
卜養狂哥集(九一七・二一イ三七)……三〇四〇
〔北里五街圖〕(三八七一イ七九)……一二九七
墨浪子(清)……三一六三
保元物語(二一〇・三一イ一)……Ⅰ三一八
保元物語(〇八一イ二一)……七七
保元物語(二一〇・三一イ八一)……九八四
〔保元物語七之巻〕(九一一・七一イ二三五)……二〇九〇
反故詠草(九一三・六五一イ二七)……二八七八
反故集(九一三・六五一イ二七)……二八三九
保科氏之女紀行(九一四・六一イ一三)……Ⅱ八七七
星野文良……一六九七
蒲　叔……三〇七七
細合半齋……一〇六三、二九〇一
細井廣澤(玉川老人)二二七、四七〇、一〇六三、一一〇六
細川玄旨(幽齋)……一五四、二二二八、二二九二
細川重賢(源)……四七〇
細川忠興……一一〇一一
細川忠興書翰(二八九一イ八九)……一一一〇
細川忠興書翰(二八九一イ一一五)……一一一一
細川幽齋道行(〇八一イ二一)……一五四
細修理亮康重……三一二一
細修理亮康見……八二七
細田榮之……一六九五
菩提達摩四行論朝鮮版(一八八・七一イ一一一)……七六一
布袋屋梅之亟座……二一七六
布袋屋座……二一三九
牡丹花肖柏……六七、二二一五、二二二〇、二二七八、二三二一二、二四二一六
法華義疏巻第八(一八三一イ二一三)……六四六
法華經音義(一八三一イ二九一)……六四一
法華經音義(一八三一イ一八五)……六四二
法華經音訓(一八三一イ二八三)……六四三
法華經音訓(一八三一イ二八九)……六四四
法華經傳(一八三一イ二八五)……六四五
法花山寺縁起(一八五一イ三)……Ⅱ一六九
法華疏私記古活字叡山版(一八三一イ五五)……Ⅱ一六二
堀田又右衛門之親……一三二四
北峯逸人……三九七
布袋和尚忍字記雜劇……三一二六
補傳詩(〇八一イ一九)……二七七
歩天書(四四〇一イ一三)……一四六五
蒲東珠玉集明版(九二二一イ二七)……三一四一
穗向屋文集(九一四・六一イ二九)……Ⅱ八七八
堀雅樂助直知……一〇二四
堀内(安房守)氏善……一〇一五
堀尾忠晴……一五一
堀　河丹緑本(九一一・六一イ五九)……Ⅱ七一七
堀川院艶書合(〇八一イ二一)……一七七
堀川次郎百首(九一一・二三一イ五五)……Ⅱ六〇九
堀河夜討(九一一・六一イ三七)……Ⅱ七一八
堀小次良氏……一〇一五
堀左右衛門督秀政……一〇二四
堀次右衛門……一〇二四
堀禎助……一〇六三
堀の内詣(九一三・六九一イ三)……二九三四
堀又七郎……一三三六
蒲朗加兒都内科書(四九〇一イ四一)……一六〇三
ぼろぼろのそうし(九一三・五一イ二七九)……二五七六
保羅寄羅馬人書(一九三・七一イ一)……七七九
本阿彌行狀記(二八九一イ八五)……Ⅰ四二九
本因坊算砂……一七七九
〔本　英〕……二五一三
本　光(宋)……七一八一九
梵綱經古迹記科春日版(一八三一イ七三)……Ⅱ一六三
梵綱經菩薩心地品戒本春日版(一八三一イ一一九)……六四七
梵字伊呂波(八二九・八一一イ一)……一八四八
梵竺僊……七四六
梵字形音義巻第四(八二九・八一一イ三)……一八四九
梵　舜……四五二、五二二、五二四、八〇六、八八〇、八八四、八九四、九二一、九三一、九四一、一二一六、一二二一
本　草……一〇五一
本草衍義元版(四九四一イ一五)……一六四三
本多佐五左衛門……一〇六三
本多修理……一〇六三
本多忠統……四七〇
本多忠憲……四〇〇、一三五三、一六六五
本多男爵……一〇六三
本田親雄……一〇六三
本多信利……一三五七
本朝永代藏……二七五一
本朝櫻陰比事(九一三・六二一イ一五)……Ⅱ八四七
本朝櫻陰比事(九一三・六二一イ二〇九)……二七六二
本朝事始(〇八一イ五)……Ⅰ五七
本朝古今銘盡古活字版(三九九・二一イ一)……Ⅱ三九九
本朝寺社物語(一六五一イ三)……五一六

本朝書籍目録(〇九一ィ五)……Ⅰ六
本朝水滸傳を讀む幷に批評(九二三・六五ィ一三)……二九三六
本朝世紀殘簡(二一〇・三ィ一〇七)……九八七
本朝廿四孝龜屋座狂言本(九二二・六ィ八九)……二一六八
本朝二十不孝(九二三・六二ィ一〇七)……二七六三
本朝二十不孝卷五(九二三・六二ィ二〇七)……二七六四
本朝筆道入學初門總論筆道志學齊策章(七八一ィ一七)……Ⅱ四三三
本朝文粹卷第十三(九二四・一ィ一三)……三一七九
本朝法家文書目録(三八ィ三)……Ⅱ三六三
本朝宮雀……五一六
本朝列仙傳(九二三・六一ィ八一)……二六五四
梵天國(九二一・七ィ二五)……二〇三一
ほん天こく(九二三・五ィ二一)……二五七七
本道樂拔刷集(〇八一ィ一九)……三〇〇
本之覺(〇八一ィ一九)……二九九
煩惱即菩提記字治加賀掾正本(九二一・七ィ一三九)……二〇九二
本間游清……三〇〇〇
飜譯名義集古活字版(一八〇・三ィ一)……Ⅰ二三五

マ

毎月集(九二三・六五ィ二七)……二八七一
毎月抄(九二一・二ィ八七)……Ⅱ五一八
萬葉園藏書記(〇一七ィ七)……六
舞の本(九二一・六ィ三一)……Ⅱ七一九
舞の本(九二一・六ィ三三)……Ⅱ七二〇
舞の本(九二一・六ィ一三)……二〇〇六
舞の本(九二一・六ィ二五)……二〇〇七
舞番日記(七六一ィ三三)……Ⅱ四四四
前田見了……二一〇六
前田德善院玄以民部法印……二〇三四
前田夏蔭……三七一、二四五七
前野良澤……Ⅰ七三
摩訶般若波羅蜜初品小品經卷第一(一八三ィ一八七)……六四八
眞壁道俊……八二七
摩訶吠室羅末那野提婆喝囉闍陁羅尼儀軌(一八三ィ六五)……Ⅱ一六四
蒔繪師源三郎……二九
槇島昭武……一七四四
牧善太夫(左馬亮)……二一〇一
蒔田廣定……二三三六
枕辭略注卷中(八五ィ一)……八一一
枕草子古活字版(九一四・三一ィ一)……Ⅰ六一九
枕草子七卷本(九一四・三一ィ三)……二九七五
枕草子卷下三卷本(九一四・三一ィ五)……二九七六
枕の硯(九二三・六五ィ二七)……二八三五
枕のひゞき(九二三・六一ィ一八九)……二六五五
まくりでまふりで考(〇八一ィ一一)……Ⅱ四一
孫七郎……一〇六三
まことぐさ(八八ィ一)……八一三
正岡子規……三〇三四
雅兼卿記(二一〇・三ィ一三)……九四四
まさきのかつら(〇八一ィ一九)……一九五
政　卿……一〇一五
正　直……一〇六三
匡衡集(〇八一ィ一五)……Ⅱ八一
匡房抄……一五四三ィ四
正　義(松方)……一〇六三
まさりくさ(三八七ィ一七)……Ⅱ三八八
増　鏡古活字版(二一〇・四ィ一)……Ⅰ三三四
増子淑明……一九八
増田周明……三〇七七
増田(右衛門尉)長晟……一〇一八、一〇二四
ますらを物語(九二三・六五ィ一)……Ⅰ六一七
「ますらを物語」(九二三・六五ィ二七)……二六四六
又五郎……八二七
町田億右衛門……一三二四
松浦靜山……七〇〇
松浦竹四郎……一一九五
松岡玄達……Ⅱ七三〇
松岡典……二一、二一〇六、五六二
松岡辰方……三〇七七
松ケ枝姫物語奈良繪卷(九二三・五ィ一三)……二五七八
松陰中納言物語(九二三・四ィ一五)……Ⅱ七八一
松陰中納言物語(九二三・四ィ三一)……二四五一
松　風芳澤あやめ座褒帳(九二一・六ィ一三九)……二六九
松風むらさめ(九二三・五ィ二五)……Ⅱ八三三
松風村雨由來(九二三・五ィ二六七)……二五七九
松川半山……二一八四
眞繼石京……一一〇六
松崎觀海……四五〇、三〇七五
松崎慊堂……一〇六三
松澤老泉……三三八
松主馬……一〇六三
松平冠山……一四四四
松平定信……一三三三、一六六一ィ一〇八
松平(甲斐)守輝勝……一〇一四四
松平備後……一〇六三
松平康定主の萬葉集八重疊の序(九二四・六ィ四九)……三〇〇七
松平慶永……一〇六三
松田秀任……二五五七
松田正楨……三〇七七
松永貞德……一五三、一五九、一九五〇、一九五六、三〇二八、三〇三七
松永久秀……八五八
松永久秀書狀(三一〇・〇八ィ四五)……八五八
松波茂興……一一四七
松波茂芳……一二六四四
松の落葉(九二一・八ィ五)……Ⅱ七二九
松の葉(九二一・八ィ三)……Ⅱ七三〇
松の葉(九二一・八ィ一七)……二一一三
(貞操美談)松廼花稿本五編(九二三・六八ィ一)……Ⅰ六一八
松舍來書(〇八一ィ一九)……二一八
末法燈明記古活字版(一八八・三ィ三)……Ⅰ二六二
松前ノ言……九九
松村市左衛門尉……一六六九
松村元綱……一三七四
松室仲算事(九二三・四ィ七)……Ⅱ七八四
松本系譜……三〇五九
「松本治太夫段物集」(九二一・七ィ一四五)……三〇九三
松本名左衛門座……二一七五
待宵千里鐘若狹國鎭娘傾城妻戀櫻早雲座褒帳(九二二・八ィ一三一)……二一四三
松浦合戰(九二一・七ィ一八九)……三〇九四
まつらのみや(九二三・四ィ一三)……Ⅱ七八二
松浦法印……一〇一五
松浦物語(九二三・四ィ三)……Ⅱ七八三
まつら物かたり(九二三・四ィ二一)……二四五二
松若丸……八五九
松若丸料田寄進狀(三一〇・〇八ィ五七)……八五九
萬里小路惟房……一三五四
萬里小路時房……一〇一三
萬里小路宣房……九九三

的聞書(三九九・四ー一三)……一三三七
まとのとも(七〇〇ー一)……Ⅱ四一三
窓　雪(〇九一ー四五)……四一八
曲直瀬道三……一六三、一六五〇
眞淵(岡部衛士)……四一三
眞淵歌集(九二一・二六ー二七)……Ⅱ六七〇
眞淵家集(九二四・六ー五七)……三〇〇八ー一〇
眞淵家集(九二四・六ー五七)……三〇〇八
まほき……四一三
滿舞ここ前集(〇八一ー一九)……一九四
守　柱……二六五五
鞠　哥(〇八一ー二)……一二九
鞠之事(七三ー三)……Ⅱ四五四
マルシカルル氏婦人小兒(四九〇ー四一)……一六〇六
丸山作樂……八〇二
圓山四條岸画系(〇八一ー一九)……二七二
丸山物語(九二一・七ー一三五)……二〇三一
漫吟集(九二一・二六ー三七)……Ⅱ六七一
万象亭……三〇五九
まんちうのさうし奈良繪本(九二三・五ー一八九)……二五八〇
萬壽盛典初集(二八四ー一)……Ⅰ四〇一
滿　女……二六二七
萬水一路(九二三・二六ー二四五)……二四一一
漫酔集(九二一・二六ー七)……Ⅱ六七二
曼陀羅供雜記……一五三三
曼陀羅講傳耳底記(〇八一ー一九)……三一五
萬福長者寶藏入(九二三・六四ー四九)……二七九四
万葉考(九二一・二三ー八五)……一八九一
萬葉考別記(九二一・二三ー三一)……Ⅱ五五〇
萬葉集古活字版(九二一・二三ー二九)……Ⅰ四六八
萬葉集(九二一・二三ー三三)……Ⅱ五五一
萬葉集(九二一・二三ー二九)……Ⅱ五五二
萬葉集古活字附訓本(九二一・二三ー三五)……Ⅱ五五三
萬葉集(九二一・二三ー三七)……Ⅱ五五四
萬葉集古活字版(九二一・二三ー六三)……一八九二
〔萬葉集春日懐紙〕(九二一・二三ー六五)……一八九三
〔萬葉集佳調〕(〇八一ー五)……Ⅰ六五
萬葉集金澤文庫本斷卷(九二一・二三ー三)……Ⅱ五五五
萬葉集歌林類聚(九二一・二三ー四一)……Ⅱ五五六
萬葉集句分(九二一・二三ー三)……Ⅰ四七〇
萬葉集考(九二一・二三ー八九)……一八九四
萬葉集古注遺文(九二一・二三ー七五)……一八九五
萬葉集採葉(九二一・二三ー一七)……Ⅰ四七二
萬葉集作主履歷(九二一・二三ー七)……Ⅰ四七四
萬葉集作主履歷(九二一・二三ー九一)……Ⅰ四七五
萬葉集詞解(九二一・二三ー五)……Ⅰ四七三
萬葉集斷簡(九二一・二三ー六一)……一八九六
萬葉集地名考(九二一・二三ー八一)……一八九七
萬葉集註疏(九二一・二三ー四三)……Ⅱ五五七
萬葉集證卷之七(九二一・二三ー六七)……一八九八
以萬葉集之倭哥詠之分(九二一・二六ー三三)……Ⅱ六七三
萬葉集檜嬬手(〇八一ー三)……Ⅰ一八八
萬葉集檜嬬手別記(〇八一ー三)……Ⅰ一九九
萬葉集品物解(九二一・三一ー五一)……Ⅱ五五八
萬葉集分類(九二一・三一ー二七)……Ⅰ四六九
萬葉集文字訓義辨證(九二一・三一ー八七)……一八九九
萬葉集問目(〇八一ー二一)……Ⅰ四七一
萬葉集類詞抄(九二一・三一ー一九)……Ⅰ四七六
萬葉類葉集(九二一・三一ー三九)……Ⅱ五五九
萬葉新採百首解(九二一・三一ー七三)……一九〇〇
萬葉代匠記初稿本(九二一・三一ー一五)……Ⅰ四六六
萬葉代匠記卷二斷簡(九二一・三一ー六九)……一九〇一
萬葉答問録(九二一・三一ー二五)……Ⅰ四七七
萬葉品類鈔(九二一・三一ー七九)……一九〇三
萬葉和歌集(九二一・三一ー一一)……Ⅰ四七八
萬葉和歌集校異(九二一・三一ー九)……Ⅰ四七九

ミ

三井寺(九二一・六ー一三一)……二〇〇八
三浦安定……一一三
三浦安定書翰(二八九ー一一九)……一一三
三浦浄心……一〇三七
三浦長門守……八二七
三保の松……三〇五九
みかまろ……四三一
〔三河國圖〕(〇八一ー五)……Ⅰ一四
三河物語(二一〇・六ー一一)……Ⅱ四七
御前張(〇八一ー二一)……一六七
三先道春……二七五三
みしま奈良繪本(九二三・五ー一五九)……Ⅱ八三三
水　鏡(〇八一ー二一)……一三四
水　鏡(二一〇・一ー一五五)……九三七
水鏡附　二人比丘尼古活字版(九二三・五ー一三六九)……二五八一
美圖垣笑顔……二七八〇
水　籠(九二三・七ー一三一)……二九六九
水嶋四郎兵衛……二一三〇
水谷不倒……一三、一〇三、二七八五、三〇三一
水野忠央……三三八一
水本僧正……一一〇三
水やり花(九二三・六五ー二七)……二八六九
溝口直候……一六四六
御嶽さうし(九二三・六五ー二七)……二八三四
みたまのふゆ(二一〇・一ー八三)……Ⅱ三三六
三田村鳶魚(玄龍)……二一三、三〇二五
三田村鳶魚書翰集(九二六ー一五)……三〇二五
道　草(九二三・七ー一五七)……二九七〇
道　足……四三一
三千とせ(七二一ー一五一)……一七〇四
道之霜(〇八一ー一九)……三三三
道之霜(〇八一ー一九)……三五七
道万呂随筆に對ていふ(〇八一ー一五)……Ⅰ八二
三井高蔭……二三五
密教禀承三國抄(一八三ー二四七)……六四九
密菴咸傑(宋)……七六二
密菴禪師語録五山版(一八八・七ー一七五)……七六二
密　暦(四四〇ー一三)……一五〇四
御手の糸下(九二一・四ー一五)……Ⅱ三四二
御堂關白記複製本(二一〇・三五ー一)……Ⅰ三三〇
御堂關白集(〇八一ー一五)……Ⅱ八二
皆川淇園……一八三一
皆川志摩守……八二七
皆川文藏……一〇三三
水無瀬氏成……一九六三
水無月三十首(九二三・六五ー二七)……二八八四
水足博泉……四七〇
水足安方……四七〇
南方熊楠……三〇一七
南方徑方……四〇七
〔南支那圖〕(二九二・二ー三)……Ⅱ三六〇
源顕兼……二四四五
源資朝……一九三〇、三〇一〇
源　順……四〇ー三
源稷卿……四七〇
源乘富……四七〇

源乘佑……四七〇
源隆國……二四二九
源忠躬……四七〇
源定賢……四七〇
源俊忠……一九六九
源具顯……二三八七
源俊頼……一九六九
源師光……一九三八
源師光百首(九二一・二四一イ四五)……一九三八
源頼順……四七〇
源良弼……一四七五
壬二集……六七
見ぬ京物語(九一三・六一一イ三九)……二六五六
美努船長……八二八
箕浦右源次……一一〇六
美濃部吉右衛門……一〇六三
美濃有孔石器拓本帖(四六九一イ七)……一五九五
壬生秋の念佛萬太夫座狂言本(九一二・六一イ五三)……二一七〇
壬生院……一〇一四
壬生大念佛後日の狂言 女郎來迎柱(九一二・六一イ五一)……二一五六
壬生大念佛後日の後日 壬生秋の念佛萬太夫座狂言本(九一二・六一イ五三)……二一七〇
壬生二品鈔……一八六八
壬生基修……一〇六三
三村僩……三五四、三五九、三六四
三村清三郎……一九一一三八一、一六七六、二五九三
御裳濯和謌集(九一一・二四一イ五七)……一九三九
宮川一翠子……三〇〇一
貘庵旅日記(二九一・〇八一イ一七)……Ⅱ三一六
三宅恭……三〇七七
三宅順節……三〇二七
三宅世一郎……一〇六三
(新撰)都案内者(二九一・四一イ四七)……一一七五
都一中……二〇七〇
都すゞめ(二九一・四一イ九七)……一一七六
都すゝめ案内者(二九一・四一イ六五)……一一七七
都の錦……二七一五、二七五八一九
都の花風……二七一一
都冨士(九一一・七一イ九一)……二〇九五
都亦平……三〇四六
都萬太夫……二一二三、二一四六、二一五七
都萬太夫座……二一三四、二一四二、二一六五
宮田明……三〇七七
宮地助三郎……一〇六三
宮良當壯……一八一四
宮原良碩……一六四八
宮部善右衛門……一〇一五
宮部兵部少輔長熙……一〇二四
みやま櫻(九一三・六二一イ一二九)……二七六五
宮増彌十郎……一八八
宮増彌六親次……一八八
明惠上人傳(一八八・四一イ二五)……七一三
妙　環……七五六
妙喜庵……七四四
妙　源(宋)……七二三
明　俊……八六一
明星抄榊原侯本(九一三・三六一イ二五七)……二四一二
明忍房劔阿……一七二八、一七三一
妙　葩……五四八、七一七、七二三、七六三
妙法院宮常胤……九八〇
妙法蓮華經(一八三一イ二七)……Ⅰ二五一
妙法蓮華經(一八三一イ一三三)……六五二
妙法蓮華經安樂行品第十三(一八三一イ五三)……Ⅱ一六五
妙法蓮華經勸持品第十三斷簡(一八三一イ七)……Ⅰ二五二
妙法蓮華經釋文(一八三一イ二八七)……六五三
妙法蓮華經玄賛(一八三一イ五一)……Ⅱ一六六
妙法蓮華經巻第四(一八三一イ二六九)……六五四
妙法蓮華經巻第四春日版(一八三一イ一四三)……六五五
妙法蓮華經巻第五(一八三一イ一五一)……六五六
妙法蓮華經巻第六宋版(一八三一イ二五五)……六五七
妙法蓮華經巻第八春日版(一八三一イ一二三)……六五八
三好記……一〇一〇
三善茂淳……一〇七七
三善相公上表意見十二條等(九一三・六五一イ二七)……二九一三
三芳野奇聞 小夜姫物語巻之二(九一三・六八一イ九)……二九二九
岷江入楚(九一三・三六一イ一七)……Ⅱ七六九
岷江入楚(九一三・三六一イ二五五)……二四一三
岷江入楚(九一三・三六一イ二六五)……二四一四
岷江入楚(九一三・三六一イ三二七)……二四一五
〔明史藁抄〕(四四〇一イ一一)……一四〇七
明題疏(四四〇一イ九)……一四一二
民選議院假規則(三一三・二一イ一)……Ⅱ三六二
民部卿法印……一〇一八
民部省圖帳(〇八一一イ五)……Ⅰ八七
明律國字解(三二九・二一イ一一)……一二五九
明律國字解巻一……一二五九

ム

無畏三藏受戒懺悔文及禅門要法(一八六一イ二七)……六八〇
緑逸樓集(二八八・一一イ一一)……Ⅱ二七二
向岡間話(二九一・一一イ二七)……Ⅱ三二六
向井元仲……一四
昔形吉岡染中村十藏座臺帳(九一二・六一イ六九)……二一七一
麥生鑑綱……二三一三
〔麥搗うた〕(〇八一一イ五)……Ⅰ八四
無垢淨光經六度陀羅尼百萬塔經(一八三一イ二〇三)……六五〇
椋梨一雪……二六六二、二七一三
旡礙菴叢書(二八一・〇二一イ一)……一〇七〇
夢幻日記(九一二・七一イ一)……二一八〇
武藏野觀花記(九一四・六一イ三七)……Ⅱ八七九
武藏野役者談合衝(七七一一イ一七)……一七四七
武藏三芳野名勝圖會(二九一・一一イ三)……一一五二
虫妹背物語奈良繪卷(九一三・五一イ三二五)……二五八二
蟲のはなし(九一三・七一イ二三)……二九七一
武者物語(九一三・六一一イ一一七)……二六五七
無　住……六九二
無準師範(宋)……七六三
旡準師範禅師語録五山版(一八八・七一イ八七)……七六三
無常重夢物語(九一三・六一一イ一三九)……二六五八
無常重夢物語(九一三・六一一イ一四一)……二六五九
結び松(九一一・二一イ六一)……Ⅱ五二〇
娘親の敵討(九一二・六一イ二三)……二一七二
娘の入墨は印可の媒父の痣は傳受の科人 昔形吉岡染中村十藏座臺帳(九一二・六一イ六九)……二一七一
夢醒眞論(一九〇・四一イ九)……Ⅰ二七五
夢窓國師詠草(九一一・二五一イ一五)……Ⅱ六四一
夢中問答集中(一八八・七一イ一一)……Ⅱ一九一
夢中問答跋五山版(一八八・七一イ六七)……七六四
無腸居士之肖像(九一三・六五一イ二七)……二九〇六
陸奥紀行(二九一・二一イ一)……一一五四

陸奥話記(楠原侯本)(二一〇・三一ィ五七)……九八八
六人部是香……八五二
六人部是香家集(九二一・二六一ィ一五)……Ⅱ六七四
無二集(二一〇一ィ九)……Ⅱ二〇一
宗　氏……一〇一五
宗　城……一〇六三
宗　忠……一〇一五
宗近善右衛門……一〇二四
宗良親王……一九三四
夢　梅……一七九五
無佛齋手簡集(二六九一ィ六九)……一一一三
無妙抄(九二三・三六一ィ五)……Ⅰ五四二
無名抄(九二一・二一ィ八九)……Ⅱ五二一
無名抄(九二一・二一ィ二三)……Ⅱ五二三
村岡典嗣……二六六八
村上友之丞……一一〇六
村越久四郎……一三五六
紫式部……三〇六一三八、三四一一五二
紫式部集(九二一・三三一ィ八三)……Ⅱ六一〇
紫式部和歌集・和泉式部和歌集(九二一・三三一ィ八一)……Ⅱ六一一
むらさき日記(九一四・三一ィ一)……Ⅱ八五五
紫の一もと(二九一・一一ィ五)……Ⅱ三三七
むらさきの一もと(二九一・一一ィ七)……Ⅱ三三八
むらさきのひともと(二九一・一一ィ二一)……Ⅱ三三九
紫のふくさ(九二三・三六一ィ二〇一)……二四一六
村さめ(九二一・二一ィ一〇九)……Ⅱ五一三
村雨日記(九一四・七一ィ一)……Ⅱ八八二
邑治知周……三三六七
村瀬栲亭(源之熙)……二六三〇、三〇七七
村田君の御もとにまゐらする返事(〇八一一ィ)……Ⅰ一八九
村田次九兵衛……四三三
村田傳藏……四三三
村田(平四郎)春海……四三三、二九〇九
村田巳三郎……一〇六三
村田了阿……三一一〇一
村山平右衛門……三一七六一七
村山平右衛門座……三一七七
無量義經德行品第一(一八三一ィ一三一)……六五一
室鳩巢先生書翰(二六九一ィ五一)……Ⅱ三〇三
室新助……一〇六三

メ

明暗對話(〇八一一ィ三一)……一〇〇
明　覺……一八四九
名家尋紙帳(七二九一ィ一)……Ⅱ四三七
銘肝腑集鈔(〇九一一ィ七五)……四一九
名吟句落噺……三〇五三
明月記(二一〇・四一一ィ三)……一〇〇八
明月記(二一〇・四一一ィ一)……一〇〇九
鳴弦墓目考(三九九・四一ィ二一)……一三三五
明　之……三〇七七
明治以前刊行古泉書目(〇八一一ィ一九)……三三三
名士自筆稿(〇九一一ィ三)……四一〇
明珠記……三一四三
名勝園亭圖說(六二九一ィ三)……一六六二
名勝奇談東海道旅文車巻一(二九一・一一ィ五三)……一一五三
名所盡源氏付合……四一九
名女情比(九一三・六一ィ七九)……Ⅰ五七五
名所都鳥(聚類)(二九一・四一ィ四五)……一一九八
明治流俗年表稿(〇八一一ィ一九)……三三〇
名臣言行録(二八二・二一ィ五)……Ⅱ二六九
冥福會要五山版(一八〇一ィ七)……五五一
迷青珊倩女離魂雜劇……三一二六
名著文庫解題(九一三・六一ィ一七)……二五九九
銘　盡(三九九・二一ィ一九)……一三二九
名物考(四九〇一ィ四一)……一六〇九
鳴鳳記……三一四三
名例律(三八一一)……Ⅱ三四四
「明和七年雜記」(〇八一一ィ五)……Ⅰ三七
明和新訂大坂大繪圖(二九一・四一ィ五一)……一一五九
めのとのさうし古活字版(九一三・五一ィ三一七)……二五八三
めのとのふみ古活字版(三七六一ィ一)……二三六三

モ

茂庵玄智……七九、八一
孟　一(鵜)……四七〇
孟　榮……七五九
孟漢卿(元)……三一二六
孟　義……三〇七七
(附音增廣古註)蒙求(二八二・二一ィ一五)……一〇七五
(標題徐狀元增注)蒙求巻上(二八二・二一ィ一三)……一〇七六
毛　亨(漢)……四四三
毛居正(宋)……一八三八一九
蒙古諸軍記辨疑(〇八一一ィ三)……Ⅱ二五
毛　晃(宋)……一八三八一九
不申共御推……三〇六
蒙山和尚六道普說朝鮮版(一八四一ィ一)……六七一
孟　子(一三三・四一ィ一)……Ⅱ一一〇
毛　詩古活字版(一三三・三一ィ三)……四四二
孟子攷(〇八一一ィ九)……Ⅱ三七
孟子抄(一三三・四一ィ三)……四六四
毛詩正義殘簡(一三三・三一ィ七)……四四三
毛詩要義宋版(一三三・三一ィ五)……四四四
孟稱舜(明)……三一三六
毛　晉(明)……一四六七、三一四三一四
孟津抄(九二三・三六一ィ九)……Ⅰ五四一
孟津抄(九二三・三六一ィ三九)……二四一七
孟德耀擧案齋眉雜劇……三一二六
孟　彪……三〇七七
毛利梅園……四一五
毛利民部太輔友重……一〇二四
藻　屑(九二三・六五一ィ二七)……二八三三
藻くず(九二三・六五一ィ二七)……二八六五
木道圖解(五二一ィ三)……一六五三
もくれんのさうし(九二三・五一ィ一一)……Ⅰ五六一
黙老手簡抄(〇八一一ィ九)……三〇九
もしほ(〇八一一ィ二一)……一二三
文字鏡(〇八一一ィ二一)……六八
茂睡眞跡三十首并七首(九二一・二六一ィ八三)……Ⅱ六七五
物集高世……一八九〇
持氏滅亡記并成氏沙汰楠原侯本(一三〇・五一ィ一七)……一〇一三
持氏滅亡之事……一〇一三
望月三英……一九二
望月老人隨筆(〇八一一ィ九)……一九二
持　豊……四二三
物初大觀(宋)……七六五
物初大觀禪師語録五山版(一八八・七一ィ五九)……七六五
尤之双紙(九一三・六一ィ七七)……Ⅰ五七七
尤草紙(九一三・六一ィ二九)……Ⅱ八三四
尤之双紙(九一三・六一ィ八九)……二六六〇
本居一門筆跡(一三一ィ三)……Ⅱ九五
本居大人遺墨展觀録草稿(一三一・四一ィ五)

……Ⅱ一〇〇
本居翁日記(一二一・四ー イ七)……四二九
本居太平……四三二ー三
〔本居太平宛書簡二通〕(〇八一ー イ一)……Ⅰ一八七
本居太平書翰(二八九ー イ五三)……Ⅱ三〇三
〔本居家譜〕(〇八一ー イ一)……Ⅰ一八六
本居春庭……四二三
本居先生著述目録(〇八一ー イ五)……Ⅰ一五二
本居宣長(春庵)……四〇、三九一、四三二ー七、四二九、八一七、八六六、八七七、九三九、一〇九八、一一一四、一九一八、一九五五、一九五七、一九六四、二三七三、二三九六、二四〇六、三〇〇七
本居宣長書翰(二八九ー イ一三)……一一一四
本居兩大人門人姓名録(一二一ー イ五)……Ⅱ九六
本木良永……一三七四
本嶋知辰……一〇二八
本末歌(九一一・二六ー イ一二七)……一九六四
基　綱……二三三八
元無草(九一三・六九ー イ一)……二九三五
元木阿彌……三〇五九
不求橋梨本隱家勸進百首(九一一・二六ー イ五五)……Ⅱ六七六
戻駕籠故郷錦繪(九一三・六四ー イ三一)……Ⅰ六〇九
物あらそひ(九一三・五ー イ二一七)……二五八四
もみ子家集(九一一・二六ー イ四三)……Ⅱ六七七
もみちあはせ(九一三・五ー イ二七三)……二五八五
紅葉川折鶴……二九三四
百井爲卿……二四四〇
盲文畵話(三八〇・二一ー イ三)……Ⅰ四〇〇
守井攀……一〇六五
森鷗外……一〇八四、一七四〇、三一九〇ー七
森岡五郎助……一三二六
森川竹窓……一〇三六
森枳園傳(〇八一ー イ一九)……二一七
森田座……二一六七
森田草平……二九七四
森田良見……八五二
守　信……一〇一五
護　久……一〇六三
守　昌……一三三〇
森約之……五七八
森芳材……二四三一
森立之(枳園)……三六、一九二
茂　林……一〇六三
諸鞚奥劦黑中村座臺帳(九一二・六ー イ一四一)……二一七三
門(九一三・七ー イ七七)……二九五三
もんがく(九一三・六一ー イ一)……Ⅰ五七六
文珠像(七二一ー イ四九)……一六九三
紋　盡(〇八一ー イ二一)……一二三
文　選古活字版(九二四・二ー イ三)……三一八四
文　選古活字版(九二四・二ー イ五)……三一八五
文選六臣註直江版(九二四・二ー イ一)……Ⅱ九一五
文選第二十殘巻(九二四・二ー イ一三)……三一八六
文選集註殘巻金澤文庫本(九二四・二ー イ九)……三一八七
文選集註巻第百十六殘巻(九二四・二ー イ一一)……三一八八
問答のことば(〇八一ー イ五)……Ⅰ一四九

ヤ

野翁物語抄(〇八一ー イ一九)……一九三
八百屋おしち……三〇五九
八百十千神平誓言縁結文定紋一(九一三・六九ー イ六九)……二七七八
夜鶴聽訓抄……五〇七
夜鶴庭訓抄(七二八ー イ一一)……Ⅱ四三六
夜鶴庭訓抄(七六一ー イ二九)……一七三七
約翰傳福音書(一九三・六ー イ九)……七七五
約翰福音之傳(一九三・六ー イ三)……Ⅰ二八四
藥鏡之基礎(四九〇ー イ四一)……一六〇九
譯　鍵(八四九ー イ五)……Ⅰ四六一
藥師寺擦銘釋……一〇七〇
藥師通夜物語(九一三・六一ー イ一一)……Ⅰ五七九
藥師通夜物語(九一三・六一ー イ一七)……Ⅱ八三五
〔役者一挺鼓〕(七七一ー イ一七)……一七五〇
役者色仕組(九一三・六二ー イ四五)……二七六六
役者口三味線(七七一ー イ一七)……一七四五
役者三鉄輪(七七一ー イ一七)……一七四八
役者二挺三味線(七七一ー イ九)……Ⅱ四四八
役者二挺三味線(七七一ー イ一七)……一七四九
役者美男盡(七七一ー イ一三)……一七五八
〔役者評判記〕(七七一ー イ一七)……一七五二
(元祿版)役者評判記九種(七七一ー イ一七)　一七四四ー五二
役者万年暦(七七一ー イ一七)……一七四六
役者三津物(七七一ー イ一五)……一七五七
役者我身寶(七七一ー イ三)……Ⅱ四四九
藥種抄上石山寺本(四九四ー イ一七)……一六四四
八雲抄(九一一・二ー イ三)……一八七五
八雲抄(九一一・二ー イ一四七)……一八七六
八雲のしをり(九一一・二ー イ一一七)……Ⅱ五二四
八雲御抄巻第六古活字版(九一一・二ー イ八三)……Ⅱ五二五
野傾旅つゞら……二六九〇
野荒問答(〇八一ー イ五)……Ⅰ一二三
八こゑの女やたの鏡……二〇九七
矢可沙汰之次第(三九九・四ー イ九)……一三三八
夜食時分……二七〇八ー九
屋代弘賢……四〇四、一〇七〇、一七八八、一七九三、三〇六五
屋代弘賢書翰(二八九ー イ六一)……Ⅱ三〇四
安井衛門作……一〇六三
安岡文龍……一六一一
康定詠草(九一一・二六ー イ一一)……Ⅱ六七八
靖(野村)……一〇六三
安島帯刀……一〇六三
安田善次郎……二一八
安田文庫噺本解題(〇八一ー イ一九)……二一一
安田雷州……一七一九
安安言(九一三・六五ー イ二七)……二八二五
保光卿記(二一〇・四ー イ三三)……一〇〇七
やすらひ花の歌(〇八一ー イ五)……Ⅰ八五
夜船閑話(〇八一ー イ一九)……二二九
也足軒……三〇二九、三〇三六
夜測時法(四四〇ー イ九)……一四三九
矢鏃銘鑑(三九九・四ー イ一七)……一三三九
柳をよめるされ歌のはしかき……三〇五九
柳澤傳内……一三二五
柳原安子詠草(九一一・二六ー イ五九)……Ⅱ六七九
梁田蛻翁……一〇六三
野白内證鑑(九一三・六二ー イ七三)……二七六七
やひやうゑねすみ奈良繪本(九一三・五ー イ一四七)……二五八六
八重山語彙(八一九・六ー イ七)……一八一四
山岡市兵衛……五一九
山岡浚明……二二四六
山岡銕太郎……一〇六三
山縣有朋……一〇六三
山形縣史料採訪日記(二二二・九ー イ一)……一〇三四
山縣孝孺……四七〇
山縣正矩……一三三九
山川穐之介……一〇六三
山河長太夫……一三四三

山口福太郎……一六七六
山崎武陵……一二五
山崎美成……一五九三
山路垣中……一四〇二
山路主住……一四〇一
山　下……一〇六三
山下半左衛門……二四四、二四七、二五五、二六八
山科顯言……一一〇三
山科三位内雑掌状寫……八二七
山科教興……一一〇三
山路の露（九三・三六ウ―三九）……二四八
山路之徽……一三六八、一三七〇、一四〇一、一四〇五
山城四季物語（三八四ウ―九）……一三七五
山城玉井御庄水論解（二一〇・〇八ウ―四一）……八六〇
山城州大繪圖（二九一・四ウ―九九）……Ⅰ三八二
山城國地誌（二九一・四ウ―四一）……一一七九
山城大和見聞隨筆（〇八一ウ―九）……二一二
山　田……一〇六三
山田市郎兵衛……一二
野馬臺之起……一三八
山田以文……一九六五
山田以文詠草（九一一・二六ウ―九七）……一九六五
山田儘齋……一〇三九
山田常典……一三八一
山田藤四郎……二五八二
山田直路……一三五七
八俣部重種……一七三〇
山田美妙……二八〇、二九五八、二九七三
〔山田美妙稿本〕（九三・七ウ―一七）……二九七三
山田安五郎……一〇六三
山寺老先生……一〇六三
大和繪つくし（七三一ウ三三）……一六九四
大和寺集記（一八五ウ―七）……六七七
大和日記（二二四・七ウ―一）……一〇三六
大和國河原寺牒（二一〇・〇八ウ―二七）……八六一
大和國城上郡東田地沽券（二一〇・〇八ウ―四九）……八六二
大和國中獨案内（二九一・四ウ―五九）……一一八〇
大和國大繪圖（二九一・四ウ―七九）……Ⅰ三八三
大和國地圖（二九一・四ウ―一三）……Ⅱ三四三
大和國平群郡東郷寄進状（二一〇・〇八ウ―四三）……八六三
大和國平群郡東郷水田賣渡状（二一〇・〇八ウ―三五）……八六四
倭姫命世記（一七四ウ―九）……五三一
大和名所鑑（二九一・〇六ウ―五）……一一三三
大和物語（九一三・三ウ―一）……Ⅱ七五一
大和物語（九一三・三ウ―三）……Ⅱ七五二
大和物語（〇八一ウ―二一）……九七
大和物語古活字版（九一三・三ウ―五）……二三三三
大和物語古活字版（九一三・三ウ―七）……二三三四
大和物語古活字版（九一三・三ウ―九）……二三三五
大和物語古活字版（九一三・三ウ―一三）……二三三六
大和物語古活字版（九一三・三ウ―一五）……二三三七
大和物語（九一三・三ウ―一九）……二三三八
大和物語（九一三・三ウ―二一）……二三三九
大和物語虚静鈔（九一三・三ウ―一七）……二三四〇
大和物語抄（九一三・三ウ―一一）……二三四一
大和屋甚兵衛……三五〇、三一七九
大和屋藤吉……二一三三
〔大和山城行記〕（九一四・六ウ―四七）……三〇一一
大和山甚左衛門……二一四五
山梨志賀子詠草（九一一・二六ウ―一〇三）……一九六六
山梨稲川……一〇九七、一八四〇―一八四三、三〇八六
山梨稲川集（八二一ウ五）……一八四〇―一八四三
山梨稲川先生手稿音學五種（八二一ウ五）……Ⅰ四四九―四五三
山梨文行……三〇八六
山中共古（笑）……三五一六、一五九六、一六七六
山中共古摺本集（四六九ウ―五九）……一五九六
山中作右衛門……一〇二四
山中山城守長俊……一〇二四
〔山中山城守文書〕（二一〇・五ウ―七）……一〇二五
山根子濯……四七〇
山内（土佐守）一豊……一〇二四
山内天眞……一一五六
山内容堂（九十九保外史）……一〇六三
也末能狭知（八二一ウ―二六ウ―三九）……Ⅱ六六〇
椎園類語（八一三ウ―一九）……Ⅱ四六一
山邊の虫（九一四・六ウ―三三）……Ⅱ八八〇
山本岩之助光信……一〇一五
山本斧麿……二七四四
山本格安……一四六四
山本況三郎……一六八四
山本渓山……一六八四
山本相模掾……二〇七、二〇七一
山本新介……一〇一五
山本泰順……一八六一
山本土佐掾……二〇七三
山本廣滿……九二四
山本北山……二七八―二八〇、四七二―四八七
〔山本北山雑稿集〕（二二五・八ウ―一）……四七二―四八七
山本北山（繪本狂歌）満多山（九一七・二ウ四一）……三〇四一
山脇尚徳……四七〇
耶律楚材（元）……四八九
湯淺元禎（新兵衛）……四七〇、一一〇六
唯心上人……五四〇
ゆいせき諍（九二一・七ウ五）……Ⅰ五二六
由井善兵衛（演貞）……一二九一
維摩會表白（八八一ウ七）……六九四
維摩詰經卷下敦煌出土本（一三八ウ―一七七）……六五九
由願文稿（四九ウ―三一）……一六三六
遊音抄（九二一・六ウ―一二七）……二〇〇九
游戯三味（九一八ウ三）……三〇五九
結城戰場物語（榊原侯本）（二一〇・五ウ―一九）……一〇二五
幽閨記……三一四三
祐　亨……一〇六三
熊三抜……七九一、七九四、七九六、一二八〇
湧鐘小品（四九四ウ―一三）……一六四五
有情癡……三三六
遊色かづら男（九一三・六二ウ―三九）……二七六八
遊色軒……二六九六
友色三點頭（九一三・六二ウ―二五七）……二七六九
有所樂志異（〇八一ウ―九）……三三九
祐　成……六七八
幽石軒記（九一三・六五ウ―二七）……二八五三
友禅ひいながた（五八六ウ―一）……Ⅱ四一九
熊宗立（明）……一六二八
熊　忠（元）……一八二八
雄長老……三〇七九、三〇三六
有　忍……三〇七七
有文錦考（三六一ウ五）……二三五五
夕のおひ風（てにをは紐鏡稿本）（〇八一ウ一）……Ⅰ二七七
游名山一覧記明版（二九二・二一ウ一七）……二二〇九

遊里様太鞁大坂之巻(九一三・六二ーイ一二五)……二七七〇
祐　隆……九六〇
祐　倫……二二八六
俞　樾……四
瑜伽師地論附大唐三藏聖教序(一八三ーイ八七)……Ⅱ一六七
瑜伽師地論巻第三(一八三ーイ一一五)……六六〇
瑜伽師地論巻第七(一八三ーイ一六五)……六六一
瑜伽師地論巻第八(一八三ーイ二六五)……六六二
瑜伽師地論巻第廿二(一八三ーイ一六七)……六六三
瑜伽師地論巻第二十九(一八三ーイ一六九)……六六四
瑜伽師地論巻第三十七(一八三ーイ一七一)……六六五
瑜伽師地論巻第三十八(一八三ーイ二三五)……六六六
瑜伽師地論巻第四十二(一八三ーイ一七三)……六六七
瑜伽師地論巻第八十五(一八三ーイ五)……六六八
ゆきかひ(九一一・二六ーイ六九)……Ⅱ六八一
ゆきかひふり(九一三・六五ーイ二七)……二九〇九
雪の夜物語(九一三・七ーイ一一)……二九七三
行ひら須磨物かたり(九一三・五ーイ三二七)……二五八七
雪見婦女群遊圖巻(七二一ーイ四七)……一六九五
行方不明(九一三・七ーイ一)……Ⅱ八五三
ゆく雁(九一一・二六ーイ六七)……Ⅱ六八二
湯津瓜櫛(二一〇・一ーイ一四九)……九三八
ゆつりは(〇八一ーイ二一)……一七五
ゆみつき下奈良繪本(九一三・五ーイ二二九)……二五八八
夢あわせ(九一一・六ーイ四五)……Ⅱ七三一
夢かぞへ(九一四・六ーイ七)……Ⅱ八八一
夢十夜(九一三・七ーイ七七)……二九五一
ゆめのたゝち(二九一ーイ九)……一一二三
夢物語(〇八一ーイ二一)……一三六
由來明鑑集(九一三・六一ーイ一五七)……二六六一
由來物語(九一三・六一ーイ一五七)……二六六一
由良千軒蟾兎湊市村座臺帳(九一二・六ーイ一三七)……二一七四
俞良甫……七五〇
ゆり若大しん(九一一・七ーイ一三五)……二〇二六
ゆりわか大臣上巻奈良繪本(九一一・六ーイ九七)……二〇一〇
百合若物語(九一三・五ーイ二三一)……二五八九

ヨ

葉一元(明)……七九七ー八
葉益蕃(明)……一四一五
洋學指針(八四九ーイ一)……Ⅰ四六二
永觀堂花紐解 けいせい見廻櫻龜谷座狂言本(九一二・六ーイ一二七)……二一五一
謠曲要石(〇八一ーイ二九)……三九〇
謠曲秘傳抄(九一一・六ーイ二九)……Ⅱ七三三
〔謠曲百番〕(九一一・六ーイ二五)……Ⅰ四九六
謠曲百番(九一一・六ーイ一一九)……二〇一一
謠曲百番光悅第二種本(九一一・六ーイ一二九)……二〇一二
謠曲別集百番(九一一・六ーイ五七)……Ⅱ七三二
楊景賢(元)……三一二六
楊顯之(元)……三一二六
葉憲祖(明)……三一三六、三一四三
陽　山……三〇七七
楊之華(明)……一四三七
嬰兒抄(〇八一ーイ二一)……六五
嬰兒抄(九一三・三二ーイ九五)……二三三一
楊氏女殺狗勸夫雜劇……三一二六
楊爾曾(明)……三一五八
要集染汗意事(一八八・一ーイ一)……Ⅱ一七一
養生問對上(四九九ーイ五)……一六五一
擁書城花月社會(〇九一ーイ三三)……四二一
陽舜祖秀……四七〇
楊　愼(明)……一四七二
楊齋賢(宋)……三一一四
楊　珽(明)……三一四三
楊廷筠(明)……七九〇、一三八四
夜討曾我(九一一・六ーイ一〇一)……二〇一三
夜討曾我丹緑本(九一一・六ーイ一一七)……二〇一四
夭桃紈扇……三一三六
楊文奎(元)……三一二六
陽瑪諾……七九五
楊萬里……三一〇五
楊有仁(明)……一四七二
楊　鑨(明)……四八
餘延年千秋……三三五
浴恩園画記(七二一ーイ五一)……一六九六ー一七〇八
浴恩園假名之記(七二一ーイ五一)……一六九八
浴恩園眞景(七二一ーイ五一)……一六九七
浴恩園勝地名題詩歌(七二一ーイ五一)……一七〇八
浴恩園序並詩歌(七二一ーイ五一)……一七〇〇
浴恩園中詩歌碑(七二一ーイ五一)……一七〇二
浴恩園圖記(七二一ーイ五一)……一六九六
浴恩園亭榭之御題詠(七二一ーイ五一)……一六九九
浴恩園文庫書籍目録(〇一七ーイ三)……Ⅱ五
浴恩園扁額帖(七二一ーイ五一)……一七〇一
浴呂記行(二九一・三ーイ三)……Ⅱ三三二
横井千磨……四二三
横井平四郎……一〇六三
横尾卯之助……二五八
横尾勇之助……二五八ー九
横座坊物語(九一三・五ーイ三二九)……二四六九
よこふえたき口奈良繪本(九一三・五ーイ三三三)……二五九〇
横山陝山……四〇四
横山由清……一三六二、三〇〇〇
横山由清雜稿(〇八一ーイ一五)……Ⅱ四九ー八四
餘齋翁草稿一ひらの巻のうつし(九一三・六五ーイ二七)……二八六八
餘齋四十二首(九一三・六五ーイ二七)……二八八〇
義秋公方記……一〇一〇
義氏将軍繼圖(〇八一ーイ二一)……一七四
吉崎織……一六六四
慶滋保胤……五六四
吉田兼好物語(九一一・七ーイ一〇七)……二〇九六
吉田篁墩(坦藏)……二四四、一一一五
吉田篁墩書翰集(二八九ーイ六七)……一一一五
吉田如見……一三六三
吉田宗怡……一六三六
吉田宗源殿繪圖……一一八一
吉田邨恂……一三六三
〔吉田半兵衛〕……五一九、一六五八
(大物船矢倉 吉野花矢倉)義經千本櫻稿本前後編(九一三・六四ーイ一)……Ⅰ六一四
義經風流鑑(九一三・六二ーイ六一)……二七七一
吉永覺右門尉秀之……一三一八
良野芸之……三〇七七
吉野紀行(〇八一ーイ二九)……三九一
吉野三藏……一〇六三
吉野拾遺(九一三・四ーイ九)……Ⅱ七八五
吉野忠信(九一一・七ーイ九三)……二〇九七
吉野忠信(九一一・七ーイ二一一)……二〇九八
吉野山歌文(九一三・六五ーイ二七)……二八九九
〔吉野山和歌懷紙〕(九一三・六五ーイ二七)……二八九一
吉益休安……一六二三
吉益小傳次……一六二三

義　政……八二七
豫章記榊原侯本(二一五―イ一)……一〇三七
豫章黄先生文集宋版(九二〇・八一―イ九)……三〇六七
余象斗(明)……三一四七
吉原あくた川名寄(三八七―イ六三)……Ⅰ四〇八
〔吉原歌仙〕(七三八―イ五七)……Ⅰ四〇九
吉原草摺引……一三〇七
吉原買もの調(三八七―イ七五)……一二九八
〔吉原細見圖〕享保四年(三八七―イ三一)……一二九九
〔吉原細見圖〕享保四年(三八七―イ三三)……一三〇〇
芳原細見圖(三八七―イ三七)……一三〇一
芳原細見圖(三八七―イ三五)……一三〇二
〔吉原細見圖〕享保十年(三八七―イ四五)……一三〇三
(新改)吉原細見花車(三八七―イ三九)……一三〇四
吉原三茶三幅一對(三八七―イ四九)……一三〇五
吉原酒てんとうじ(三八七―イ六九)……Ⅰ四一〇
吉原天秤(三八七―イ七)……Ⅱ三八九
吉原はやり小哥そうまくり(九一一・八―イ一)……Ⅱ七三一
吉原大豆俵評判(三八七―イ五一)……一三〇六
吉原水鏡(三八七―イ七一)……一三〇七
吉原よぶこ鳥(三八七―イ三)……Ⅱ三九〇
依田學海……一七四一
依田六七郎……一〇六三
(西説)(箕成)輿地指掌(二九〇・九―イ一)……一一一七
四ツ橋供養竹本義太夫正本(九一一・七―イ一五五)……二〇九九
四ツ橋むすめころし(九一二・六―イ一〇九)……二一七五
四辻善成……二三五一―八
米大夫……四七〇
米谷金城……一八三二
世の晝狐下巻(三八七―イ八一)……一三〇八
呼名考(〇八一―イ九)……Ⅱ三八
四万六千人……一二九八
代々の御神樂(九一二・六―イ一〇三)……二一七六
〔萬積方圖記〕(三二八・六―イ二七)……一二四七
萬の文反古(九一三・六二―イ一〇九)……二七七二
萬の文反古巻五(九一三・六二―イ二〇五)……二七七三
よはのねざめ(九一三・三九―イ一三)……Ⅱ七七六

ラ

雷庵正受(宋)……七二〇
頼覺田地沽却狀(二一〇・〇八―イ五九)……八六五
禮　記古活字版(一二二・四―イ七)……四四八
頼久太郎……一〇六三
頼杏坪尺牘(二八九―イ六五)……Ⅱ三〇五
來國久延命不動　出羽信濃掾正本　玉寶殿(九一一・七―イ二九)……二一〇〇
頼家歴代書翰(二八九―イ九七)……一一一六
らいがうあとめのろん(九一一・七―イ一三五)……二〇二八
頼光跡目論竹本筑後掾正本(九一一・七―イ一四七)……二一〇一
頼嚴房宥勝……五一一
頼　淳……一〇二四
頼春水……一〇六三、一一一六
頼　襄(山陽)……八一六、一一一六、三一七七
來知徳(明)……四三三
雷斧僧正……三一五
禮部則例清内府鈔本(三二九・二―イ五)……一二六〇
頼又次郎……一〇六三
頼三樹三郎……一〇六三、一一一六
羅　燁(宋)……三一六一
羅雅谷……一三九五―七、一三九九、一四一四、一四一七―八、一四二四―六、一四二九、一四三二―四、一四三七、一四三九―四〇、一四四二、一四四四、一四四六―七、一五一一―二、一五一五―七
洛下三野人……一三〇八
落月堂操巵……二六七七
樂乘(新宮)……一〇一五
洛中洛外御修復所寺社繪圖(二九一・四―イ八九)……一一八一
樂亭西馬……二七九一
絡氷絲……三一三六
樂祐志吹……三〇一一
落葉集斷簡きりしたん版(八一三―イ六九)……一七九二
洛陽東五條松豊八幡宮草創記(一七五―イ五)……Ⅱ一四五
洛陽名所集(二九一・四―イ一七)……Ⅱ三四五
洛陽名所集(二九一・四―イ六一)……一一八二
羅　什(後秦)……五八一
羅生門繪詞(九一三・五―イ二三)……二五九一
羅懋登(明)……三一五三
羅　本(明)……三一四九、三一七二
羅李郎大鬧相國寺雜劇……三一二六
蘭學事始(四〇九―イ三)……一三六一
蘭學緒言(四四〇―イ一一)……一三七〇
鸞　甄(周)……一四六七
蘭　香(四〇九―イ一)……Ⅱ四〇一
〔蘭語譯撰〕(八四九―イ九)……Ⅰ四六三
蘭山問目留簿(四九四―イ一一)……一六四六
蘭奢薫(一八八・二―イ三)……Ⅱ一七四
嵐翠子……三一三七
蘭亭會……三一三六
蘭東事始(四〇九―イ九)……一三六二
乱舞藻志保艸(七六一―イ三一)……一七三八
鸞鎞記……三一四三
蘭芳蕙香(〇八一―イ一九)……三五三
蘭和辭彙(八四九―イ七)……Ⅰ四六四

リ

李亜仙花酒曲江池雜劇……三一二六
鯉　隠……一〇六三
李雲英風送梧桐葉明版(九二二―イ二三)……三一四〇
李雲英風送梧桐葉雜劇……三一二六
李雲翔(明)……三一二一
理　覺……七〇二
理學沿革史(一三二―イ一)……四九六
李　翰(唐)……一〇七五―六
陸位崇(明)……一三六五
六經天文編(四四〇―イ一五)……一四五一
陸繼美(明)……一三六五
陸　采(明)……三一四三
陸心源(清)……四
陸善經(唐)……三一八七―八
陸翀之(明)……一〇四九
陸徳明(唐)……四九三、四九五
陸　游(宋)……三一八九
李　滉(朝鮮)……四六六
李好古(元)……三一二六
李行道(元)……三一二六
李　贄(明)……三一二七、三一三〇、三一四一、三一七二
李師政(唐)……六四〇
李日華(明)……三一四三
李次彪(明)……一四一四、一四三九―四〇、一五一一
李之藻(明)……七九一―二、七九七―八、一三八〇、一三八五、一三九〇
李周翰(唐)……三一八四―八八
李壽卿(元)……三一二六
李淳風(唐)……一四六七

李昌祺(明)……三一六七-八
〔リス氏病理説〕(四九〇-イ四一)……一六一五
李　籍(宋)……一四六七
李　善(唐)……三一八四-五、三一八七-八
李宗瀚(清)……六三二
李素蘭風月玉壺春雜劇……三一二六
李太白(唐)……三一一四
(分類補註)李太白詩元版(九二一・二-イ六一)……三一一四
李太白匹配金錢記雜劇……三一二六
李卓吾先生批點西廂記眞本明版(九二二-イ三)……Ⅱ九〇三
李卓吾先生批評三國志明版(九二三-イ六一)……三一七二
李卓吾批評合像北西廂記明版(九二二-イ二七)……三一四一
李致遠(元)……三一二六
李直夫(元)……三一二六
立身大福帳(九一三・六二-イ二二九)……Ⅰ五九一
律曆融通(四四〇-イ一三)……一四八九
律呂集義(七六一-イ三九)……一七三九
律呂通考(四四〇-イ一三)……一四八二
李鼎元(清)……一〇三八
李天經(明)……一四一二-四七
李攀龍(明)……三一一二
理非鏡(九一三・六一-イ一五九)……二六六二
李釜源(明)……一二〇六
李文蔚(元)……三一二六
俚文借字考(八一九・八-イ一)……一八二〇
理編十種序(四四〇-イ一一)……一三八三
李　昉(宋)……四九
李　鳳(唐)……一四八三
李鳳煥(朝鮮)……三〇七六
利瑪竇……七八四-七、七九三、七九七-八、一三八七、一三九〇
李命啓(朝鮮)……三〇七六
李　冶(元)……一五一〇
略韻・新式部類抄(〇八一-イ二一)……九四
略字譜・同補(〇八一-イ一九)……三三一
略祓次第覺(〇八一-イ五)……Ⅰ一三八
劉禹錫(唐)……三〇六九
龍雲先生文集明版(九二〇・八一-イ一三)……三〇六八
劉蘊德(清)……一三六四
劉　弇(宋)……三〇六八
琉歌百控(九一九・六-イ一)……Ⅱ八九一
龍華民……一四一四、一四二五-六、一四三五、一四三七、一四三九-四〇、一四四二-六、一五一一、一五一五-六
流　支(元魏)……五九六
劉喜海(清)……三一八〇
龍吉郎次……一〇一五
琉球官話五種(八一九・六-イ一)……一八一五-九
〔琉球官話集〕(八一九・六-イ五)……Ⅰ四四五
琉球國志略(二九一・六-イ一)……Ⅰ三八七
琉球國志略(二九一・六-イ一一)……一一八九
琉球志……一三六九
錙　洪(元)……一六二七
劉　敬(明)……三一六七-八
龍　玄……八八〇
立　軒……一〇六三
劉献廷(明)……一四四一
隆　古……一〇六三
龍膏記……三一四三
龍公美……三〇七七
龍山宴……三一三六
柳子軒松根……二六八七
龍　樹……六〇一-五
劉辰翁(元)……三〇九〇、三〇九二-三、三〇九九、三一〇〇
劉晨阮肇悞入桃源雜劇……三一二六
柳心坊圓空……二二九一
柳水亭種清……二七七九、二七八七
劉正豫(清)……一八四四
柳宗元(宋)……三〇六五
龍草蘆……一〇六三
流俗年表(〇八一-イ一九)……三一九
柳村筆記(〇八一-イ一九)……二〇〇
〔隆達小歌〕(九一一・九-イ一一)……二一一五
隆達小歌集(九一一・九-イ五)……Ⅱ七三二
柳亭家集(九一七・二-イ一五)……Ⅰ六二七
柳亭種彦……一〇二七、一二九八、一三一一、二五六二、二七八三
柳亭種彦(二世)……二七八八
隆興釋教編年通論五山版(一八〇-イ五)……五五二
劉夢得文集宋版(九二〇・八一-イ五)……三〇六九
劉　良(唐)……三一八四-八八
亮阿闍利兼意……一六四四
靈安寺御靈大明神略縁起私記(一八五-イ五)……六七八
諒闇部類(二八八・一二-イ三)……一〇八七
良　以……五四一
凌雲集榊原侯本(九二一・一-イ一一)……三〇八九
兩界讃(一八六-イ二五)……六八九
了　願……四七〇
了觀房……八六三
兩軍師隔江鬪智雜劇……三一二六
凉月遺草(九一一・二六-イ三五)……Ⅱ六八三
梁山伯李逵負荊雜劇……三一二六
遼　史明版(四四〇-イ一七)……一五二七
良　春……六四一
良　信……六九四
李陽仁(明)……一二五八
梁辰魚(明)……三一四三
梁塵愚案鈔(九一一・五-イ五)……Ⅱ六九八
梁塵秘抄口傳集(九一一・五-イ一一)……Ⅱ六九九
梁塵秘抄巻第二(九一一・五-イ九)……Ⅱ七〇〇
凉　仙……六九〇
靈山國阿上人(九一一・七-イ一一七)……二一〇二
凉仙詩草(〇八一-イ一九)……三六一
良　尊……二五五一
陵地私考(二八八・一-イ一五)……Ⅱ二七六
令集解考(三二八-イ九)……一二一四
〔陵圖〕(二八八・一-イ一一)……Ⅱ二七三
陵墓再撿圖説(〇八一-イ二九)……三八七
凌濛初(明)……三一三四-六、三一三八、三一七一
呂嵓賓(唐)……四九〇
呂　向(唐)……三一八四-八
旅宿問答(一八四-イ七)……六七二
呂洞賓三醉嶽陽樓雜劇……三一二六
呂洞賓三度城南柳雜劇……三一二六
呂洞賓度鐵拐李嶽雜劇……三一二六
林以正(元)……三〇六〇-二
林逸抄(九一三・三六-イ八七)……二四一九
林逸抄(九一三・三六-イ一三三)……二四二〇
林逸抄(九一三・三六-イ三九九)……二四二一
林園月令(〇三一-イ七七)……三九
林　芑(朝鮮)……三一六五-六
林希逸(宋)……四九四-五
林近陽(明)……三一五〇
臨江驛瀟湘秋夜雨雜劇……三一二六
臨濟慧昭(唐)……七四九
臨終之次第(一八八・四-イ一)……七一四

隣女和歌集……一九二六
臨川玉茗堂批評西樓記明版(九三一ィ三七)……三一四二
林宋氏(明)……三一三六
林宗二……二四一九一二一
林　楨(元)……三〇七三一四
輪　廻(九二三・七一ィ一三)……二九七四
林葉和謌集(九二一・三三ィ三一)……Ⅱ六二一

ル

類　句(九二一・二一ィ一三)……Ⅱ五二六
類語品彙(〇八一ィ三)……Ⅰ二〇七
類字萬葉集(九二一・三三ィ四五)……Ⅱ五六〇
類字名所和歌集古活字版(九二一・二一ィ一五九)……一八七七
類聚歌苑巻第十三(〇八一ィ一五)……Ⅱ八四四
類聚三代格水谷川家本(三八一ィ五)……一二一五
類聚日本後記水谷川家本(二一〇・三一ィ四三)……九八九
類聚名義抄(八二一ィ五)……Ⅰ四四一
類聚名義抄西念寺本(八一三ィ五九)……一九三三
類聚名所都鳥(二九一・四一ィ四五)……一一七八
類聚要句(九二一・二一ィ六七)……Ⅱ五二七
類題六帖(九二一・二一ィ二二)……Ⅱ五二六
類葉抄(九二一・三三ィ八三)……一九〇三
路加傳福音書(九三・六一ィ一)……Ⅰ二八三
路加傳福音書(九三・六一ィ二一)……七七六
路加傳福音書(九三・六一ィ一三)……七七七
路加傳福音書(一九三・六一ィ一五)……七七八

レ

(重刊五色潮泉揷科増入詞北曲勾欄)荔鏡記戯文明版(九三一ィ五)……三一二九
靈元天皇……六八一二、八五四、一〇八五、一二五五、一九〇六、一九三、二九九九
靈元天皇御記水谷川家本(二八八・一一ィ二九)……一〇八五五
〔靈元天皇御記〕(三三八・八一ィ七)……二三五五
靈言蠡勺(一九八・二一ィ五)……七八九
令狐慈減……六三七
令狐善歡……六五九
嶺松院會和歌序(〇八一ィ一)……Ⅰ一七三
冷泉爲相……三〇九一〇、三三四一、三三五三
〔冷泉爲相卿百首和歌〕(九二一・二四ィ三三)……Ⅱ六三二
冷泉爲恭……八四九、一七一五
冷泉爲經……一九〇五、一九七一、一九七七、三一七五
冷泉爲冬……三三三
冷泉爲滿……一〇二四
(增修互註)禮部韻略元版(八二一ィ二)……一八三八
(増修互註)禮部韻略明版(八二一ィ六九)……一八三九
禮服制(三三八・六一ィ三五)……二二四九
禮服着用記(三三八・六一ィ三三)……二二四八
曆　引(四四〇一ィ一七)……一五一一
曆考雜集(四四〇一ィ三)……一四八八
曆　指(四四〇一ィ九)……一四二四
曆　指(四四〇一ィ九)……一四三五
曆　指(四四〇一ィ一七)……一五一三
歷史類聚(四四〇一ィ一七)……一五〇七一二九
曆數考(四四〇一ィ一三)……一四七四
歷代外印鑄造私考(七一七一ィ五)……一六七八
歷代帝王紹運圖五山版(二三三一ィ三三)……一〇五八
歷代帝王編年互見之圖(二三三一ィ三二)……一〇五九
歷法差訣(四四〇一ィ三)……一四九二
曆法西傳(四四〇一ィ一一)……一三八六
曆林問答集(一四七一ィ五)……四九九
曆林問答集(四四〇一ィ一三)……一四六一
列傳体小説史……三一〇三
蓮　慶……七一〇
蓮華王院繪圖……一二八一
蓮光院昭淳……一九四七
聯新事備詩學大成五山版(九二一・〇七一ィ五)……三〇七三
聯新事備詩學大成五山版(九二一・〇七一ィ七)……三〇七四
連　藏……三三九四
聯燈會要五山版(一八八・七一ィ一〇三)……七六六
蓮忍上人……五四〇
れんりの松(九二二・六一ィ二五)……二一七七

ロ

〔朗詠今樣譜〕(〇八一ィ五)……Ⅰ九二
朗　海……六七六
老學庵筆記(九二四・二一ィ七)……三一八九
弄花山人……二一四九
弄花抄(九一三・三六ィ一三)……Ⅰ五四三
哢花抄(九一三・三六ィ一九)……二四三三
弄花抄(九一三・三六ィ一五五)……二四三三
弄花抄(九一三・三六ィ三一一)……二四二四
弄花抄(九一三・三六ィ三一五)……二四二五
弄花抄(九一三・三六ィ三一七)……二四二六
老後女訓集(〇八一ィ二一)……一一九
老子經古活字版(一二六・一ィ一)……Ⅰ三一六
老子翼明版(一二六・一ィ三)……四九二
牢人狀(一五四・三ィ一)……五〇六
蘆橘堂庸春……二一七四
六角堂開帳(九二二・六ィ一三三)……三一七六
六家集(九二一・二ィ一六三)……一八七一八三
六家集抄(〇八一ィ二一)……六七
六家類句和歌(九二一・二一ィ三九)……Ⅱ五二九
蘆谷初集(〇八一ィ一九)……三六一
六十種曲明版(九三一ィ四九)……三一四三
六十種曲明版(九三一ィ五一)……三一四四
六字呪王經明版(八三一ィ七八)……Ⅱ一六八
六十日記(九二四・七一ィ三)……Ⅱ八三
六樹園……四〇六、三〇五九
六樹園飯盛の傳(九一七・二一ィ二五)……三〇四一
六道輪廻圖……五五〇
六波羅相模守教子息□□狀……五〇七
六波羅殿御家訓(一五四・三一ィ三)……五〇七
玫瑰花冠記録(一九一ィ九)……Ⅰ二七八
魯西亞志略(三八一ィ)……一〇六一
魯西亞船渡來之節書狀之寫(二一〇・六一ィ二)……Ⅱ二四八
ろしやのいろは(八〇一ィ)……八五五
ろせき……三三五
魯大夫秋胡戲妻雜劇……三二六
呂廷濟(唐)……三八四一八
論堯舜既没邪説暴行又作(二五五・七一ィ三)……四七一
論　語(一三三・三一ィ九)……Ⅱ一一四
論　語(一三三・三一ィ三)……Ⅱ一一五
論　語正平無跋本(一三三・三一ィ一一)……Ⅱ一一六
論　語天文版(一三三・三一ィ七)……Ⅱ一一七
論　語要法寺版(一三三・三一ィ一)……Ⅱ一一八
論　語……一〇五一
論語義疏(一三三・三一ィ一七)……四六〇
論語集解(一三三・三一ィ一三)……四六一
論語集解(一三三・三一ィ一五)……四六二
論語抄(一三三・三一ィ一五)……Ⅱ一一九
論語鈔(一三三・三一ィ一九)……四六三

ワ

和英商賈對話集初編(八三七—イ一)……Ⅱ四六六
和歌會式(〇八一—イ五)……Ⅰ六六
和歌會式(〇九一—イ五一)……四〇四
和歌懷紙宮中雪(九一三・六五—イ二七)……二八九七
和歌會次第(九一一・二—イ二九)……Ⅱ五三〇
和歌書樣・和歌會次第(九一一・二—イ二五)……Ⅱ五三一
和歌畫賛(九一三・六七—イ二七)……二九〇一
若樹文庫本の覺書(〇八一—イ一九)……二七一
わかくさ奈良繪本(九一三・五—イ四九)……Ⅱ八二四
和歌口傳(九一一・二—イ七七)……Ⅱ五三二
倭謌五十人一首・同追加(九一一・二六—イ八七)……Ⅱ六八四
若駒考(〇八一—イ一一)……Ⅱ四二
和歌座右(九一一・二—イ四五)……Ⅱ五三三
若狹前宰相息女離別三物(〇八一—イ二一)……一五六
若狹國傳記(二九一・三—イ五)……Ⅱ三三三
和歌三式(九一一・二—イ五一)……Ⅱ五三四
和歌三身大事(九一一・二—イ七五)……Ⅱ五三五
和歌三神影向松(九一二・六—イ一一五)……二一七九
和謌色葉集(九一一・二—イ六三)……Ⅱ五三六
若衆仙人千歲菊慈童出羽信濃掾正本(九一一・七—イ一九五)……二一〇三
若衆物語付西明寺殿百首丹緑本(九一三・五—イ一七三)……二五九二
和謌初學抄(九一一・二—イ一五三)……一八八四
和謌初學抄(九一一・二—イ一五五)……一八八五
〔和歌選集計畫書〕(〇八一—イ五)……Ⅰ一四六
和歌大綱附連歌沙汰聞書(九一一・二—イ五三)……Ⅱ五三七
和歌題林抄(九一一・二—イ一三三)……Ⅱ五三八
和歌短冊落葉(九一三・六五—イ二七)……二九〇五
和歌短冊野月(九一三・六五—イ二七)……二九〇四
和謌知顯集(九一三・三二—イ七七)……二三三二
若林新七……一一〇六
和哥披講之譜(九一一・二—イ一四三)……一八八六
和歌無底抄考(〇八一—イ一一)……Ⅱ四三
和漢音釋書言字考(八一三—イ二九)……一七九四
和漢書籍目録(〇一七—イ九)……七
和漢遊女容氣(九一三・六二—イ六三)……二七七四
和漢朗詠集(九一一・五五—イ一)……Ⅰ四八四
和漢朗詠集(九一一・五五—イ三)……Ⅱ七〇一
和漢朗詠集(九一一・五五—イ五)……Ⅱ七〇二
和漢朗詠集(九一一・五五—イ七)……Ⅱ七〇三
倭漢朗詠集(〇八一—イ二一)……七三
脇坂淡路守……二二七九
脇坂(中務少輔)安治……一〇二四
篗繐輪(〇八一—イ五)……Ⅰ六九
或齋先生詩經講義筆記(〇八一—イ一九)……二八五
(音字)和訓類林(〇三一—イ七)……Ⅰ一二
分里艶行脚(九一三・六二—イ八五)……二七七五
和氣西正家……一〇一五
和氣清麿宇治加賀掾正本(九一一・七—イ九五)……二一〇四
分部盛之……三五一
和國小性形氣(九一三・六二—イ一三九)……二七七六
和國諸職ゑほんかゝみ(七二一—イ三九)……一七〇九
和國筆道三秘略鈔(七二八—イ一七)……Ⅱ四三四
和國筆道十二字略鈔(七二八—イ一七)……Ⅱ四三五
倭玉篇(八一三—イ一)……Ⅰ四四三
倭玉篇(八一三—イ三)……Ⅰ四四四
和玉篇(八一三—イ一五)……一七九五
和玉篇(八一三—イ二一)……一七九六
倭玉篇(八一三—イ二三)……一七九七
倭玉篇(八一三—イ二七)……一七九八
和玉篇(八一三—イ三五)……一七九九
倭玉篇(八一三—イ三七)……一八〇〇
倭玉篇古活字版(八一三—イ三九)……一八〇一
倭玉篇(八一三—イ四一)……一八〇二
倭玉篇(八一三—イ四三)……一八〇三
倭玉篇(八一三—イ四五)……一八〇四
倭玉篇(八一三—イ四七)……一八〇五
和玉篇(八一三—イ六三)……一八〇六
和玉篇(八一三—イ七一)……一八〇七
倭玉篇上巻(八一三—イ四九)……一八〇九
和玉篇巻下古活字版(八一三—イ二五)……一八〇八
和玉篇巻下古活字版(八一三—イ五七)……一八一〇
和國名所鑑……一一三二
和語并羅甸語集(八四九・二—イ三)……一八五四
和州舊跡幽考(二九一・四—イ一〇一)……Ⅰ三八一
和州寺社記(二九一・四—イ九)……Ⅰ三八〇
和州南都之圖(二九一・四—イ一)……Ⅱ三四六
和州吉野郡繪圖(二九一・四—イ四九)……一一八三
わすれくさのさうし(九一三・六一—イ九七)……二六六三
〔和田酒盛〕(九一一・六—イ一三三)……二〇一五
わだざかもり(九一一・七—イ一三三)……二一〇五
渡邊海旭……三一七
渡邊勝一郎……一〇一五
渡邊長藏……一〇六三、一一〇六
渡邊刀水……三五五
渡邊登……二〇二
渡邊孫左吉久……一〇一五
渡邊友節……一一〇六
和田忍笑……二〇二一
度會常辰……一六二一
和朝古今鍛冶之次第同名乘之支(三九九・二—イ二一)……一三三〇
窊篤爾藥性論標目(四九〇—イ四一)……一六一六
和名集并異名製劑記古活字版(四九四—イ一)……Ⅱ四一七
和名抄考證鞍馬具(三九九・六—イ九)……一三五四
和名類聚鈔(〇三一—イ一五)……Ⅱ一四
倭名類聚鈔古活字版(〇三一—イ二九)……四〇
倭名類聚鈔古活字版(〇三一—イ三一)……四一
倭名類聚鈔古活字版(〇三一—イ五一)……四二
和名類聚抄高山寺本(〇三一—イ八一)……四三
和譯太郎……二七九六—八〇〇
わらひ草のさうし(九一三・六一—イ一七七)……二六六四

○

Adam……七八三
Aleni, Giulio……七八二、七九〇、一四一五
Aliamet, J.……一七一八
Attiret, J. D.……一七一八
Bettelheim, B. J.……七七三—七、七七九
Castiglione, G.……一七一八
Choffard, P. P.……一七一八
Cochin, C. N.……一七一八
Damascenus, J.……一七一八
Diaz, Emmanuel (Jeune)……七九五
Edkins, Joseph……五五九
Fouillée, A. J. E.……四九六
Jacobus, Rho……一三九五—七、一三九九、一四一四、一四一七—八、一四二四—六、一四二九、一四三二—四、一四三七、一四三九—四〇、一四四二、一四四四、一四四六—七、一五一一—二、一五一六—七

Launay, N. de ·····一七一八
Le Bas, J. P. ·····一七一八
Longobardi, Nicolo ·····一四一四、
一四二五-六、一四三五、一四三七、一四三九-四〇、一四四二-六、
一五一一、一五一五-六
Makhov, Ivan ·····一八五五
Masquelier, L. J.·····一七一八
Mounicou, Pierre ·····七七一
Petitjean, Bernard-Thadée ·····七六九-七〇
Prévost, B. L. ·····一七一八
Ricci, Matteo ·····
····· 七八四-七、七九三、七九七-八、一三八七、一三九〇
Saint-Aubin, A. de·····一七一八
Sambiaso, Francesco ·····七八九
Sickelparth, I. ·····一七一八
Smiles, Samuel ·····五〇一-二
Schall von Bell, J. Adam·····
····· 一三八六、一三九一、一三九四-七、一三九九、一
四一四、一四二三-六、一四二八-九、一四三二-四、一四三六-七、一四
三九-四〇、一四四二-三、一四四六、一五一一、一五一三、一五一五-六
Sprengel, Kurt P. J. ·····一六〇一
Terrenz, Jean ·····
····· 一三八一、一四二二、一四三五、一四四三-五
Trigault, Nicolas·····一八四五
Ursis, Sabbathino de ·····
·····七九一、七九四、七九六、一三八〇
Verbiest, P. Ferdinand ·····一一一九、一三四六
Weinmann, J. W. ·····一六一八
ᄒᆞᆫᄀᆞᆯᄅᆞᆷᄒᆞ(九三三-六一) ·····一六四九

昭和三十五年十月　十　日印刷
昭和三十五年十月十八日發行

編輯者　奈良縣天理市
天理圖書館
右代表者　富永牧太

印刷者　奈良縣天理市
天理時報社
右代表者　今西國三郎

發行所　奈良縣天理市
天理大學出版部
右代表者　今西國三郎

天理圖書館叢書

第 1 輯	天理教書目誌	第 1 編	絕版
第 2 輯	Catalogue of Special Books on Christian Missions.		絕版
第 3 輯	蔵書分類目録	第 1 編	
第 4 輯	加波伊文庫著者名目録		
第 5 輯	蔵書分類目録	第 5 編	
第 6 輯	蔵書分類目録	第 2 編	
第 7 輯	蔵書分類目録	第 3 編	
第 8 輯	蔵書分類目録	第 4 編	
第 9 輯	天理教書目誌	第 2 編	
第 10 輯	蔵書分類目録	第 6 編	
第 11 輯	蔵書分類目録	増加第 1 編	
第 12 輯	稀書目録	和漢書之部第1	
第 13 輯	稀書目録	洋書之部第1	
第 14 輯	仁齋書誌略	古義堂文庫書誌第1	
第 15 輯	稀書目録	和漢書之部第2	
第 16 輯	稀書目録	洋書之部第2	
第 17 輯	綿屋文庫 連歌俳諧書目録		
第 18 輯	逐次刊行書目録	第 2 版	
第 19 輯	中文地志目録		
第 20 輯	Catalogue of Special Books on Christian Missions. Vol. II.		
第 21 輯	古義堂文庫目録		
第 22 輯	稀書目録	洋書之部第3	
第 23 輯	天理教圖書目録		
第 24 輯	アフリカ文庫目録		
第 25 輯	**稀書目録**	**和漢書之部第3**	

善本寫真集

1	日本近世名家自筆集
2	きりしたん版
3	古俳書（一）
4	西洋古版日本地圖集
5	開館廿五周年記念 稀覯本集
6	滿文書籍集
7	近代作家原稿集
8	小泉八雲集
9	日本史籍
10	泰西日本記集
11	お伽草子
12	獨逸文人自筆集
13	古俳書（二）
14	百科事典
15	**開館卅周年記念 善本聚英**